国立研究開発法人

国立成育医療研究センター

年報・業績集

第 17 号（平成 30 年度）

National Center for Child Health and Development

2018

目 次

1. 巻頭言 1

2. 沿革・概要・組織・行事 2

組織図 ..... 別添

3. 活動状況 7

3-1 研究所 7
3-1-1 研究所概要 7
3-1-2 小児血液・腫瘍研究部 8
造血腫瘍発生研究室
分子病理研究室
腫瘍病態研究室
3-1-3 分子内分泌研究部 9
基礎内分泌研究室
臨床内分泌研究室
3-1-4 免疫アレルギー・感染研究部 11
3-1-5 成育遺伝研究部 16
3-1-6 ゲノム医療研究部 18
3-1-7 システム発生・再生医学研究部 19
3-1-8 薬剤治療研究部 21
分子薬理研究室
実験薬理研究室
3-1-9 周産期病態研究部 23
3-1-10 社会医学研究部 28
3-1-11 政策科学研究部 30
3-1-12 医療機器研究開発部 33
3-1-13 エコチル調査研究部 35
3-1-14 実験動物管理室 37
3-1-15 ラジオアイソトープ管理室/移植免疫研究室 39
3-1-16 マススクリーニング研究室 42
3-1-17 小児慢性特定疾病情報室 44
3-1-18 高度先進医療研究室 45
3-1-19 視覚科学研究室 48
3-1-20 再生医療センター 50
3-1-21 バイオバンク 56
3-1-22 好酸球性消化管疾患研究室 57

3－2 臨床研究センター 60
3-2-1 臨床研究センター概要 60
3-2-2 企画運営部 61
3-2-2-1 企画運営室
3-2-2-2 臨床研究管理室
3-2-2-3 知財・産学連携室
3-2-3 開発推進部 63
3-2-3-1 臨床試験推進室
3-2-3-2 薬事・国際連携室
3-2-3-3 ネットワーク推進室
3-2-3-4 製剤開発室

3-2-4 データ管理部.....66
3-2-4-1 生物統計室
3-2-4-2 データ管理室
3-2-4-3 データ科学室
3-2-4-4 疾患登録管理室
3-2-5 臨床研究教育部.....69
3-2-5-1 臨床研究教育室
3-2-5-2 生命倫理研究室

3-3 病院.....71
3-3-1 病院概要.....71
3-3-2 総合診療部.....74
3-3-2-1 総合診療科
3-3-2-2 救急診療科
3-3-2-3 在宅診療科
3-3-2-4 緩和ケア科
3-3-3 器官病態系内科部.....80
3-3-3-1 消化器科
3-3-3-2 循環器科
3-3-3-3 呼吸器科
3-3-3-4 神経内科
3-3-3-5 腎臓・リウマチ・膠原病科
3-3-4 生体防御系内科部.....91
3-3-4-1 免疫科
3-3-4-2 内分泌代謝科
3-3-4-3 感染症科
3-3-4-4 遺伝診療科
3-3-5 アレルギーセンター.....99
3-3-5-1 総合アレルギー科
3-3-5-2 消化管アレルギー科
3-3-5-3 皮膚アレルギー科
3-3-6 小児がんセンター.....104
3-3-6-1 血液腫瘍科
3-3-6-2 脳神経腫瘍科
3-3-6-3 移植・細胞治療科
3-3-6-4 腫瘍外科
3-3-6-5 血液内科
3-3-6-6 がん緩和ケア科
3-3-6-7 長期フォローアップ科
3-2-6-8 小児がん免疫診断科
3-2-6-9 小児がんデータ管理科
3-3-7 臓器・運動器病態外科部.....114
3-3-7-1 外科
3-3-7-2 脳神経外科
3-3-7-3 心臓血管外科
3-3-7-4 整形外科
3-3-7-5 泌尿器科
3-3-7-6 リハビリテーション科
3-3-7-7 発達評価支援室
3-3-8 感覚器・形態外科部.....129
3-3-8-1 形成外科

3-3-8-2 耳鼻咽喉科
3-3-8-3 眼科
3-3-8-4 皮膚科
3-3-8-5 歯科
3-3-9 こころの診療部.....139
3-3-9-1 乳幼児メンタルヘルス診療科
3-3-9-2 児童・思春期メンタルヘルス科
3-3-9-3 児童・思春期リエゾン診療科
3-3-9-4 臨床心理.....147
3-3-10 手術・集中治療部.....149
3-3-10-1 集中治療科
3-3-10-2 手術室
3-3-10-3 麻酔科 疼痛管理科
3-3-10-4 成人麻酔科
3-3-10-5 医療工学室
3-3-11 周産期・母性診療センター.....157
3-3-11-1 産科
3-3-11-2 胎児診療科
3-3-11-3 妊娠免疫科
3-3-11-4 不育診療科
3-3-11-5 新生児科
3-3-11-6 産科麻酔科
3-3-11-7 母性内科
3-3-11-8 不妊診療科
3-3-12 臓器移植センター.....173
3-3-12-1 肝臓移植科
3-3-12-2 腎臓移植科
3-3-12-3 小腸移植科
3-3-12-4 移植外科
3-3-12-5 移植病理科
3-3-12-6 移植支援室
3-3-13 放射線診療部.....176
3-3-13-1 放射線診断科
3-3-13-2 放射線治療科
3-3-13-3 診療放射線技師
3-3-14 臨床検査部.....182
3-3-14-1 生理検査室
3-3-14-2 検体検査室(院内ラボ)
3-3-14-3 高度先進検査室
3-3-14-4 細菌検査室
3-3-14-5 輸血細胞療法室
3-3-14-6 採血室
3-3-15 病理診断部.....189
3-3-16 高度感染症診断部.....191
3-3-17 発達評価センター.....192
3-3-18 医療連携・患者支援センター.....193
3-3-18-1 医療連携開発室
3-3-18-2 医療連携室
3-3-18-3 在宅医療支援室
3-3-18-4 患者相談
3-3-18-5 ベッドコントロール室

3-3-19 教育研修センター....196
3-3-20 感染制御部....198
3-3-21 栄養管理部....200
3-3-22 医療安全管理部....202
3-3-23 災害対策室....204
3-3-24 子ども生活安全対策室....205
3-3-25 診療情報管理室....207
3-3-26 薬剤部....209
3-3-28 もみじの家....212
3-3-29 チャイルド・ライフ・サービス室....214

3-4 情報管理部....216

3-5 事務部門....218
3-5-1 総務部....218
3-5-2 人事部....219
3-5-3 企画経営部....220
3-5-3-1 企画経営課
3-5-3-2 研究医療課
3-5-4 財務経理部....228
3-5-5 図書館....231
3-5-6 ボランテイア....232

3-6 監査室....234

3-7 各種委員会....別添

3-8 各種事業....235
3-8-1 子どもの心の診療ネットワーク事業....235
3-8-2 小児がん拠点病院・小児がん中央機関事業....238
3-8-3 妊娠と薬情報センター事業....241
3-8-4 小児と薬情報収集ネットワーク整備事業....243
3-8-5 小児慢性特定疾病情報センター....245

4. 研究業績(発表論文・著書・学会発表等)....248

4-0 理事長 248

4-1 研究所....249

4-1-1 研究所長....249
副研究所長
研究所長補佐
4-1-2 小児血液・腫瘍研究部....255
4-1-3 分子内分泌研究部 (基礎内分泌研究室・臨床内分泌研究室)....262
4-1-4 免疫アレルギー・感染研究部....267
4-1-5 成育遺伝研究部....272
4-1-6 ゲノム医療研究部....275
4-1-7 システム発生・再生医学研究部....278
4-1-8 薬剤治療研究部(分子薬理研究室、実験薬理研究室)....280
4-1-9 周産期病態研究部....282
4-1-10 社会医学研究部....287

4-1-11 政策科学研究部 292
4-1-13 エコチル調査研究部 297
4-1-14 実験動物管理室 306
4-1-15 ラジオアイソトープ管理室/移植免疫研究室 307
4-1-16 マススクリーニング研究室 310
4-1-17 小児慢性特定疾病情報室 312
4-1-18 高度先進医療研究室 314
4-1-19 視覚科学研究室 316
4-1-20 再生医療センター（細胞医療研究部・生殖医療研究部） 319
4-1-22 好酸球性消化管疾患研究室 323

4-2 臨床研究センター 325
4-2-1 企画運営部 325
4-2-1-1 企画運営室
4-2-2 開発推進部 326
4-2-2-1 臨床試験推進室
4-2-2-2 薬事・国際連携室
4-2-2-3 ネットワーク推進室
4-2-2-4 製剤開発室
4-2-3 データ管理部 330
4-2-3-1 生物統計室
4-2-3-2 データ科学室
4-2-3-3 疾患登録管理室 330
4-2-4 臨床研究教育部 330
4-2-4-1 臨床研究教育室 330
4-2-4-2 生命倫理研究室 331

4-3 病院 333
4-3-1 病院長 333
4-3-2 総合診療部 業績 334
4-3-3 器官病態系内科部 343
消化器科 343
循環器科 348
呼吸器科 351
神経内科 353
腎臓・リウマチ・膠原病科 358
4-3-4 生体防御系内科部 366
免疫科 366
内分泌代謝科 368
感染症科 373
遺伝診療科 378
4-3-5 アレルギーセンター 382
総合アレルギー科 382
4-3-6 小児がんセンター 395
4-3-7 臓器・運動器病態外科部 414
外科 414
脳神経外科 418
心臓血管外科 419
整形外科 420
泌尿器科 424
リハビリテーション科 425

4-3-8 感覚器形態外科部.....427
形成外科.....427
耳鼻科.....429
眼科.....432
皮膚科.....435
歯科.....439
4-3-9 こころの診療部.....441
乳幼児メンタルヘルス診療科.....444
児童・思春期メンタルヘルス科.....446
児童・思春期リエゾン診療科.....449
こころの診療部　心理療法士.....452
4-3-10 手術・集中治療部.....453
4-3-11 周産期・母性診療センター.....462
産科・胎児診療科・妊娠免疫科・不育診療科.....462
産科麻酔科.....469
産科・胎児診療科・妊娠免疫科・不育診療科.....471
新生児科.....479
産科麻酔科.....485
母性内科.....486
4-3-12 臓器移植センター　移植外科.....493
4-3-13 放射線診療部（部・室）.....498
4-3-14 臨床検査部.....503
臨床検査技師.....503
4-3-15 病理診断科（病理診断部）.....504
4-3-16 高度感染症診断部.....509
4-3-18 医療連携・患者支援センター.....511
4-3-19 教育研修センター.....512
4-3-20 感染制御部.....521
4-3-21 栄養管理部.....523
4-3-22 医療安全対策室.....524
4-3-26 薬剤部.....525
4-3-27 看護部.....530

4-8 各種事業.....535
妊娠と薬情報センター事業.....535
小児と薬情報収集ネットワーク整備事業.....539

1. 巻頭言

平成 30 年度の国立研究開発法人国立成育医療研究センター年報・業績集を上梓いたします。本年の年報・業績集は当センターが研究法人化した 4 年目の活動結果です。

世界の医学研究は極めて速い速度で進歩しています。しかしながら、人口減少、財政逼迫、研究という仕事の魅力の相対的低下などが重なって、わが国から世界に発信する医学論文が減少していることが重大な問題と認識されています。これまで医学研究の中心であった医学系大学への国からの予算配分の減少や医師の研究時間確保の困難さなどにより、大学医学部や医系大学で研究を推進することが以前よりも困難な状況になっています。一方、国立研究開発法人においても国からの運営費の減少傾向は大学と状況は同じでした。しかしながら、厚生労働省の格別の配慮により、最近数年間ではありますが運営費の減少傾向にほぼ歯止めがかかった状況になっています。その中において、当センターからの研究業績が低下することはなく、質・数の面でも毎年着実に増加しています。これは当センター職員の努力の結果であることは間違いありませんが、研究を支援するセンター内でのシステムが以前よりも整備されてきたことも一因と考えます。

最近の業績の中で特筆すべき点は、小児アレルギーを中心とする優れた臨床研究が行われ、New England Journal of Medicine などの国際的一流紙に掲載される論文が散見されるようになってきたことです。この様な質の高い研究成果は結果としてこれまで不確かだった臨床的課題を明らかにし、世界の小児・周産期の医療や保健に大きな影響を与えています。さらに、当センターが小児がん臨床中核施設として指定されてからの小児がん患者の入院数の著増に伴い、基礎・臨床の両面での研究活動が活発化しています。優れた臨床研究には様々なタイプがありますが、学会が中心となって作成する診断・治療ガイドラインに採択されたり、国が作る診療・治療指針に採択されるものが当センターから成果として多数輩出されている現在の状況は極めて望ましいと考えます。

職員の皆様はこれからも診療・研究・人事育成に御尽力戴き、わが国だけでなく世界の小児・周産期の医療を改革してゆきましょう。職員の皆様の今後のますますの御活躍を期待しています。

2019 年 3 月

国立研究開発法人国立成育医療研究センター理事長
五十嵐　隆

２　沿革・概要・組織・行事

2 沿革・概要・組織・行事

〔名　称〕　国立研究開発法人国立成育医療研究センター

急速に少子高齢化が進む中、次代を担う世代の健全な育成が急務となっている。

このような社会的要請を受け、国立大蔵病院と国立小児病院が統合し、5番目のナショナルセンターとして国立成育医療センターが平成14年3月1日に開設され、平成22年4月1日に独立行政法人国立成育医療研究センターと改組した。平成22年4月1日には臨床研究センターも開棟した。平成27年4月1日からは国立研究開発法人国立成育医療研究センターとなり、新たなスタートを切った。さらに平成28年4月25日もみじの家を開設し、医療的ケアが必要な子どもを対象とした短期入所事業を開始した。

当センターの使命は、高度専門医療センターとして病院と研究所、臨床研究センターの連携により、成育医療（小児医療、母性・父性医療及び関連・境界領域を包括する医療）及びその基盤研究を推進していくことである。

〔経　緯〕

昭和61年　1月　国立病院・療養所の再編成・合理化の基本方針に基づく全体計画の中で国立大蔵病院と国立小児病院の統合計画を公表
平成　6年　7月　国立成育医療センター（仮称）整備基本計画検討会の設置
平成　7年　4月　国立成育医療センター（仮称）設置準備室開設
平成　7年　5月　国立成育医療センター（仮称）整備基本計画検討会　最終報告
平成　9年　1月　国立成育医療センター（仮称）整備基本計画公表
平成　9年　3月　国立成育医療センター（仮称）整備工事着工
平成13年11月　国立成育医療センター（仮称）整備工事（病院棟）竣工
平成14年　3月　国立成育医療センター開設
平成16年　8月　国立成育医療センター研究棟　竣工
平成16年10月　国立成育医療センター研究棟　移転開設
平成22年　3月　臨床研究センター棟竣工
平成22年　4月　独立行政法人国立成育医療研究センターへ改組
平成23年　4月　11病棟西（周産期病棟）30床増床（合計490床となる）
平成24年　8月　東京都から「総合周産期母子医療センター」に指定
平成25年　2月　厚生労働省から「小児がん拠点病院」に指定
平成25年　4月　厚生労働省の「臨床研究中核病院整備事業」に選定
平成25年　5月　厚生労働省医政局の「小児等在宅医療連携拠点事業評価実施機関」となる
平成25年10月　東京都から「東京都災害拠点連携病院」に指定
平成25年10月　教育研修棟竣工
平成26年　2月　厚生労働省から「小児がん中央機関」に指定
平成26年　5月　病院機能評価認定
平成26年　5月　みんなの「家」（現もみじの家）事業準備・運営委員会の設置
平成27年　4月　国立研究開発法人国立成育医療研究センターに移行
平成27年　5月　もみじの家　着工
平成28年　1月　もみじの家　竣工
平成28年　4月　もみじの家　開設
平成30年　7月　高規格救急車運用開始

平成30年　8月　東京都から「地域医療支援病院」に指定

概　要

国立研究開発法人国立成育医療研究センターは、病院、研究所、臨床研究センターを有し、病院内に東京都立光明特別支援学校そよ風分教室が併設されている。また、医療的ケアが必要な子どもたちを対象とした短期入所施設もみじの家を開設した。

所在地及び交通機関

東京都世田谷区大蔵二丁目10番1号
首都高速道路及び東名高速道路の「用賀インターチェンジ」より、環状八号線を経て　5分。
小田急線成城学園前駅からバスで約10分。

環　境　　世田谷の西南に位置し、近く多摩川を境に神奈川県川崎市に接している。周辺には大学、高校、世田谷美術館、都立砧公園、区立総合運動場、厚生年金スポーツセンター等があり、緑も多く恵まれた環境にある。

研究所概要

特　色　　11部7室に加え、再生医療センター、バイオバンクを開設し、受精からヒトとして成長する過程で生じる疾患の成立機序の解明とのその予防、診断・治療法の開発を行っている。

小児血液・腫瘍研究部：白血病やEwing肉腫など小児腫瘍の発症機構解明と、新規診断法や治療法の開発を行なう。

分子内分泌研究部：性分化疾患、性成熟疾患、成長障害、先天奇形症候群などの疾患について、発症機序の解明および分子遺伝学的知見に基づいた新規診断法・治療法の開発を行う。

免疫アレルギー研究部：喘息、アトピー性皮膚炎など小児のアレルギー疾患、免疫異常症の病態解明と新たな治療法の開発を行う。

成育遺伝研究部：「遺伝性疾患」について、その原因遺伝子の解明および診断法の確立を図る。また、これらの疾患に対する遺伝子治療の開発を行う。

ゲノム医療研究部：2015年4月新設の研究部で、最先端の遺伝子解析機器と手法を駆使して、未だ解明されていない様々な希少難病の原因関連遺伝子を明らかにし、その研究成果の臨床応用を行う。さらには、種々の成育疾患の発症に関与する遺伝要因をもとに、未来の予測医療・予防医療につなげていくことにも取り組む。

システム発生・再生医学研究部：
新規研究システムの構築に基づいた発生、再生医学研究により、胎児および小児の疾患の原因と病態の解明を行う。

薬剤治療研究部：ゲノム情報に基づいた成育医療における創薬の研究を行い、オーダーメイド医療の確立を目指す。また、胎児および小児における薬剤の生体内動態を明らかにする。

周産期病態研究部：妊娠中の胎児発育と母体との関係や出生した新生児の生理学的発達および異常発生機序を解明し、ハイリスク妊娠の新規治療法開発、胎児発育不全の防止法開発を行う。

社会医学研究部：成育医療における、疾病構造の調査・研究を行う。また、心身ともに健全な成長を助けるための「こころのケア」に関する調査・分析を行い、実践部門への提言を行う。

政策科学研究部：全国の成育医療関連施設と連携し、成育医療に関する情報収集および分析を行い、成育医療・保健のあり方を提言する。

医療機器開発部：妊娠早期に先天性疾患と診断された胎児に対して、出産前または出産後の早期に治療を行うための新しい医療機器の研究開発に取り組む。主に診断

や治療に携わる医師や看護師の“新しい目”、“新しい手”、“新しい手術ナビゲーション”の実用化を進めていく。

エコチル調査研究部：日本全国 15 か所で行われている 10 万人の母子を対象とする出生コホート調査、子どもの健康と環境に関する調査（エコチル調査）に対して医学的側面から調査の立案・規格・実施をサポートしている。

共同研究管理室：病院部門や民間等他の研究機関との共同研究の調整を行い、プロジェクト研究の推進を図る。

RI管理室：RIを用いた研究の管理・調整および研究者の健康管理を行う。

実験動物管理室：動物実験が科学的に、かつ、動物の愛護と福祉に則って実施されるよう教育し、管理を行います。また、発生工学的手法の提供により研究を支援する。

マススクリーニング研究室：新生児マススクリーニング（NBS）が日本のどの地域でも一定の水準を保って行われるよう、スクリーニング指定検査機関の検査精度の保証及び日本全体の NBS システムの維持向上を目的とした、精度管理の実務を担当するとともに、NBS の情報管理、新規対象疾患に関わる研究や研修、人材育成を行っている。

高度先進医療研究室：胎児・小児期ウイルス感染症および川崎病の克服を目指して先端的研究を行うとともに、その成果を診断と治療に応用しています。様々な血液疾患の原因となる EB ウイルスを主な研究対象とし、疾患モデルの作成を通じて新しい治療法の開発に貢献している。また、成育医療に関連する多くのウイルスの迅速診断を行うとともに、先端医療の実施と技術開発を目指している。そして、難治性 EB ウイルス関連疾患の他には川崎病発症モデルマウスの作製を通して、病態発現のメカニズムの解明を目指している。

視覚科学研究室：当センター病院の眼科は、難治性の眼疾患が全国から集中して紹介されて高度医療を行っている。この病院の臨床と研究所の基礎研究を融合して、眼の難治性疾患の研究を行っている。難治性疾患の遺伝子を解析し、病態の分子メカニズムを解明して、新しい診断法や治療法の開発を行うことを目的とする。

小児慢性特定疾病情報室：小児慢性特定疾患の申請時に提出された臨床情報を集約し疾病研究が行われている。当研究室では小児慢性特定疾病対策に関わる厚生労働省事業や疫学研究棟を行い、母子保健行政に関わる施策を支えるための活動を行っている。

好酸球性消化管疾患研究室：平成 30 年 9 月 1 日に新設された研究室部門である。好酸球性消化管疾患の疾患概念構築、診断検査法開発、治療法開発、発症原因の特定目指した研究を行っている。

再生医療センター：胚性幹（ES）細胞、人工多能性幹（iPS）細胞や体性幹細胞などの様々な細胞を用いた再生医療に関する研究を行っている。人のからだは事故や病気で機能を失うことがある。臓器が一旦機能を失うと、その機能を回復させることは大変難しくなる。「再生医療」とは、他人の臓器そのものを移植するのではなく、細胞の移植を行うことにより、臓器の機能を補い、臓器を再生させることを目指した治療法である。再生医療について、幹細胞、ES 細胞、iPS 細胞を対象とし、その有効性、安全性の様々な観点から検証し、臨床応用の実現に向けた取り組みを行っている。

バイオバンク：当センターでは、胎児から小児、そして妊婦、母親に関係する疾患（成育疾患）について、疾患克服のための研究を下支えする仕組みとして、「バイオバンク」を設立した。バイオバンクには貴重な試料を系統的に保管し、研究者が有効利用できるようにする。このバイオバンク事業は、他の国立高度専門医療研究センター（ナショナルセンター）と緊密なネットワークを構築して運営される。

建 物　　建築面積　4，245㎡
　　延床面積　16，446㎡

臨床研究センター

・臨床研究センター：研究所、病院との密接な連携のもとに、研究成果の臨床応用、高度先駆的医療ならびに治験・臨床研究の推進を図る。

建　物　　建築面積　　709．67㎡
延床面積　1，186．38㎡

病院概要

病床数　　入院病床　490床
外来定数　900人

病棟数　　母性病棟（LDR含む）3棟　小児病棟6棟　思春期病棟　1棟
成人病棟　3棟　新生児集中治療病棟（NICU）1棟　集中治療病棟（ICU）1棟　もみじの家　1棟

標榜科目　　内科、精神科、神経科、呼吸器科、消化器科、循環器科、アレルギー科、
リウマチ科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、歯科、麻酔科

特　色　　国立成育医療センターでは、小児から思春期、母性・父性にわたるリプロダクション・サイクルを対象とした総合的・継続的医療を行う。
病院では、従来の細分化された医療の反省として、さまざまな病状や訴えをもつ患者様に対して、関連する診療科の多職種がチームをつくり、１人の患者様をトータルにみることを基本としている。次の8つの診療部と3つのセンター、臨床検査部、病理診断部、の体制によりチーム医療を行っているのが大きな特徴である。
また、病院は24時間365日開かれ、成育医療の救急病院としての役割を果たしている。明るく、開放的で、アメニティに配慮した病院でもある。
平成27年度は「みんなの家」の開設にむけて、「みんなの家」事業部も立ち上げて準備を進めている。
さらにセンターの使命として医療の人材育成のために教育・研修部をもうけ、若手医療人の人材育成に努めている。また先進医療の情報発信も行い日本の医療の均てん化に努めているものである。

・総合診療部：救急を含む外来診療の総合窓口として、成育医療のプライマリ・ケアのモデルを模索し、専門診療科とともに入院患者の全人的医療を目指す。
・器官病態系内科診療部：循環器科、腎臓・リウマチ・膠原病科、神経内科、肝臓内科、消化器科、呼吸器科、遺伝診療科からなる。各臓器疾患、染色体異常・先天異常を対象として、高度専門診療を行う。他施設では困難とされる医療も提供する。
・生体防御系内科診療部：器官病態系内科部とともに、小児の内科系の専門診療部門を形成し、主に全身の病気を扱っている。生体防御系内科部には、免疫科、内分泌代謝科、アレルギー科、腫瘍科、血液内科、感染症科の 6 診療科が属している。
・小児がんセンター：わが国における小児がん診療のモデルとなるべく、全ての小児がん患者に対して世界標準かつ優しく温かい医療を提供するとともに、臨床研究の推進、新規治療の開発、長期フォローアップ体制の確立などを通じて、わが国の小児がん診療をリードすることを目標とする。
・臓器・運動器病態外科診療部：小児外科・心臓血管外科・泌尿器科という内臓器を扱う診療科と脳神経外科・整形外科・リハビリテーション科という神経・運動器を扱う診療科により構成され、これらの領域の外科的治療を中心に診療を行う
・感覚器・形態外科診療部：形成外科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、歯科により構成されている。各分野における高度の専門的な治療と同時に、部内および院内の他の診療科とチーム医療を活発に行っている。
・こころの診療部：小児期、思春期、母性および父性のメンタルヘルスについての相談を成育医療の場で受け、治療を行う。院内診療部門や地域における関係機関と連携し治療効果をあげる。

・手術・集中治療部：手術・検査のための麻酔、手術室の管理及び集中治療病棟（ICU）入院患者の診療を担当する。また、医療機器に依存している高度在宅医療患者の管理を行う。
・周産期母性診療センター：正常及びハイリスク妊婦の妊娠分娩管理と胎児・新生児の診療を担当。不妊症・不育症の治療、病的新生児の新生児集中治療病棟（NICU）における診療を行う。一方母性については、合併症を持つ女性の妊娠前から産後にかけての内科的管理、不妊症の診療、小児・思春期から生殖年齢までを対象とした婦人科疾患の診療を行う。また、女性が抱える“ こころ ”と“ からだ ”の悩みを気軽に相談できる『女性総合外来』を平成15年7月から開設。
・臓器移植センター：小児末期臓器不全に対して、生体臓器移植及び脳死臓器移植医療を行う。
・放射線診療部：エックス線、MRI、超音波などの画像診断を統括し撮影と読影を行う。また、核医学検査、腫瘍性疾患患者の放射線治療を行う。
・臨床検査部：病理検査、検体検査、生理機能検査及び輸血・組織適合に関する検査業務を行う。また、高度先進検査室において、日常の検査では行い得ない研究的な検査を行う。

・病理診断部：免疫組織化学検査、電子顕微鏡検査、遺伝子検査などの特殊検査を駆使した精度の高い組織診断、細胞診断、病理解剖診断を行う。病理セカンドオピニオン外来、病理外来では、病理医が直接病理診断について詳細な説明を行う。
・高度感染症診断部：胎児・小児期ウイルス感染症の克服を目指して先端的検査・解析を行うとともに、その成果を診断と治療に応用する。
・感染制御部：医療従事者、事務ボランティア等院内すべての職員等と連携し患者を医療関連感染症から守るべく活動している。感染防御対策室と抗微生物薬適正使用推進室で組織体制が構築されている。
・医療連携・患者支援センター：医療連携開発室、医療連携室、患者相談窓口からなる組織として 2011 年 5 月にスタートした。2013 年 7 月からは、新たに在宅医療支援室が加わり、現在は 4 部門となり、事務職、MSW（MedicalSocial Worker）、PT（理学療法士）、看護師、医師で構成している。
・妊娠と薬情報センター：平成 30 年 11 月 1 日に組織化された部門である。海外の先天異常ネットワークと連携し薬剤の妊娠や胎児に与える影響に関する研究報告を収集評価し、妊娠中や妊娠を希望する女性に対して薬物治療に関する情報提供を行っている。
・教育研修部：教育・研修は当センターの使命の一つであり，成育医療に係わる医療者の教育と人材育成を行っている。教育体制の整備，研究所との協力，論文塾，海外との交流などが発展中である。

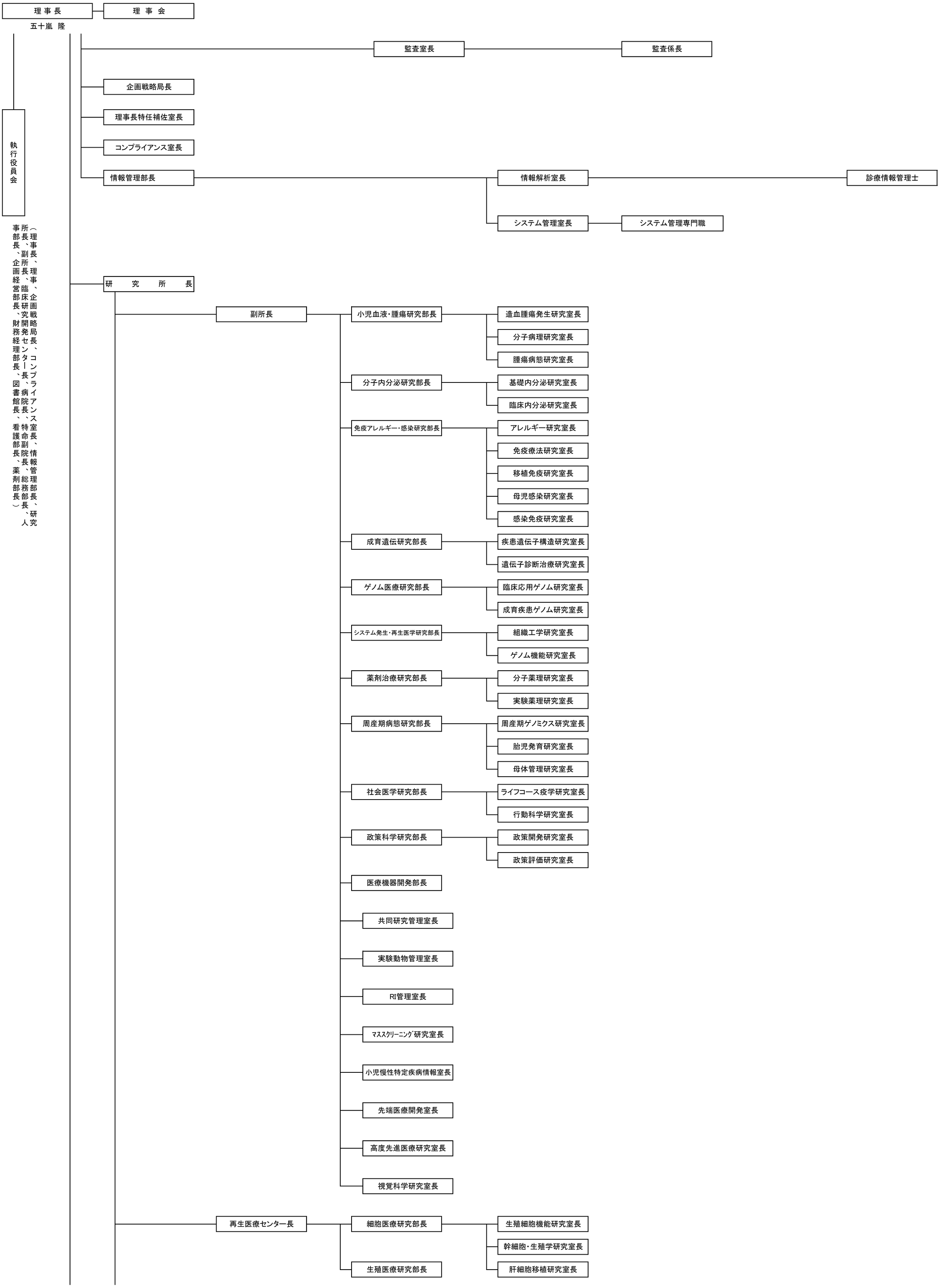
敷 地　　74，844．2㎡（研究所含む）
建 物　　建築面積　20，748．53㎡
　　延床面積　104，498．25㎡

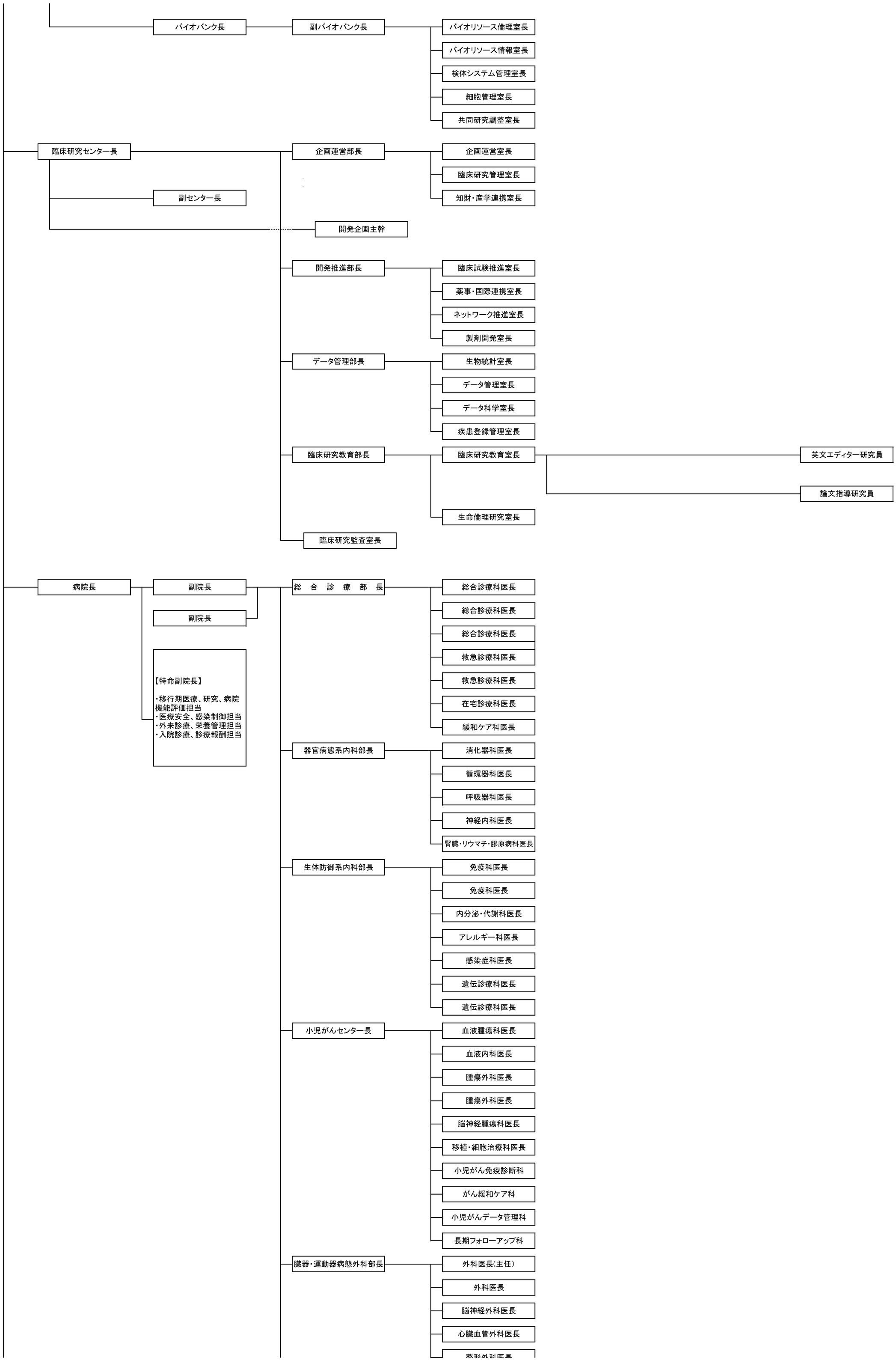
特別支援学校概要

東京都立光明特別支援学校そよ風分教室として病院管理棟5階フロアに開校されている。小学部、中学部、高等部があり、そよ風分教室には医療的ケアを必要とする児童、生徒が在籍している。

平成30年4月1日現在

国立研究開発法人　国立成育医療研究センター組織図




バイオバンク長
副バイオバンク長
バイオリソース倫理室長
バイオリソース情報室長
検体システム管理室長
細胞管理室長
共同研究調整室長
臨床研究センター長
企画運営部長
企画運営室長
臨床研究管理室長
知財・産学連携室長
副センター長
開発企画主幹
開発推進部長
臨床試験推進室長
薬事・国際連携室長
ネットワーク推進室長
製剤開発室長
データ管理部長
生物統計室長
データ管理室長
データ科学室長
疾患登録管理室長
臨床研究教育部長
臨床研究教育室長
英文エディター研究員
論文指導研究員
生命倫理研究室長
臨床研究監査室長
病院長
副院長
副院長
【特命副院長】
・移行期医療、研究、病院機能評価担当
・医療安全、感染制御担当
・外来診療、栄養管理担当
・入院診療、診療報酬担当
総　合　診　療　部　長
総合診療科医長
総合診療科医長
総合診療科医長
救急診療科医長
救急診療科医長
在宅診療科医長
緩和ケア科医長
器官病態系内科部長
消化器科医長
循環器科医長
呼吸器科医長
神経内科医長
腎臓・リウマチ・膠原病科医長
生体防御系内科部長
免疫科医長
免疫科医長
内分泌・代謝科医長
アレルギー科医長
感染症科医長
遺伝診療科医長
遺伝診療科医長
小児がんセンター長
血液腫瘍科医長
血液内科医長
腫瘍外科医長
腫瘍外科医長
脳神経腫瘍科医長
移植・細胞治療科医長
小児がん免疫診断科
がん緩和ケア科
小児がんデータ管理科
長期フォローアップ科
臓器・運動器病態外科部長
外科医長(主任)
外科医長
脳神経外科医長
心臓血管外科医長
整形外科医長

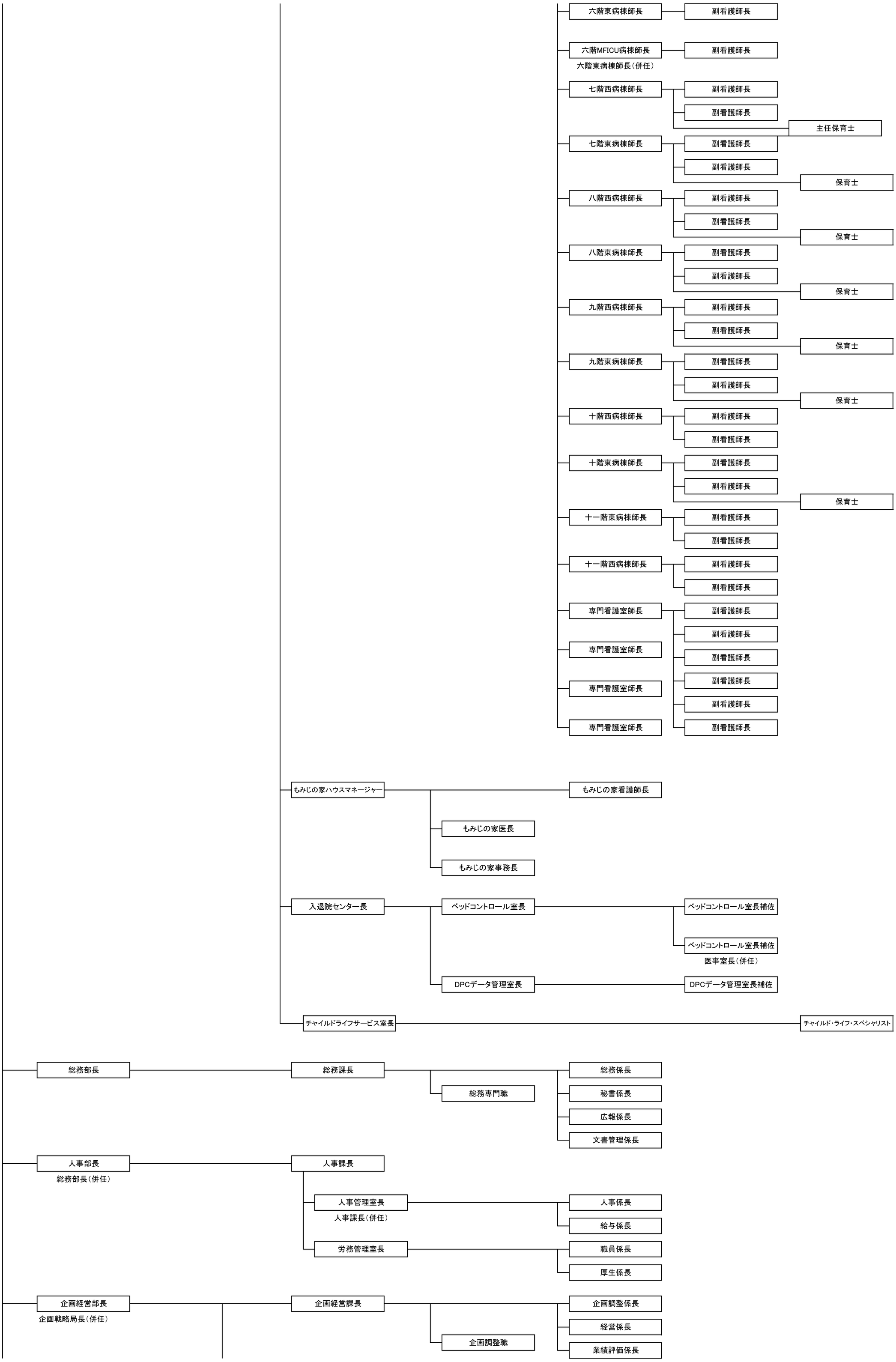
- 整形外科医長
- 泌尿器科医長
- リハビリテーション科医長
  - 理学療法士長
    - 運動療法主任
    - 理学療法士
    - マッサージ師
  - 作業療法士長
    - 作業療法士
  - 言語聴覚士長
    - 言語聴覚士
- 感覚器・形態外科部長
  - 形成外科医長
  - 耳鼻咽喉科医長
  - 眼科医長
    - 視能訓練士
  - 皮膚科医長
  - 歯科医長
- こころの診療部長
  - 乳幼児メンタルヘルス診療科医長
  - 児童・思春期メンタルヘルス診療科医長
  - 児童・思春期リエゾン診療科医長
    - 心理療法士長
      - 心理療法士
- 手術・集中治療部長
  - 集中治療科医長
  - 集中治療科医長
  - 手術室医長
  - 麻酔科医長
  - 疼痛管理科医長
  - 成人麻酔科医長
  - 医療工学室長
    - 臨床工学技師長
      - 主任臨床工学技士
        - 臨床工学技士
- 周産期・母性診療センター長
  - 主任副周産期・母性診療センター長
  - 副周産期・母性診療センター長
  - 副周産期・母性診療センター長
  - 産科医長
  - 産科医長
  - 産科医長
  - 胎児診療科医長
  - 妊娠免疫科医長
  - 不育診療科医長
  - 新生児科医長
  - 新生児科医長
  - 産科麻酔科医長
  - 母性内科医長
  - 母性内科医長
  - 母性内科医長
  - 不妊診療科医長
    - 胚培養士
- 臓器移植センター長
  - 臓器移植副センター長
  - 肝臓移植科医長
  - 腎臓移植科医長
  - 小腸移植科医長
  - 移植外科医長
  - 移植外科医長
  - 移植病理科医長
  - 移植支援室長
- 放射線診療部長
  - 放射線診断科医長
  - 放射線診断科医長
  - 放射線治療科医長
  - 放射線治療科医長
  - 診療放射線技師長
    - 副診療放射線技師長
      - 撮影主任
      - RI検査主任
      - 透視主任
      - 特殊撮影主任
      - 照射主任
- 臨床検査部長
  - 生理検査室長
    - 生理検査主任
  - 検体検査室長
    - 医化学主任
  - 高度先進検査室長
  - 細菌検査室長
    - 微生物検査主任
  - 輸血細胞療法室長
    - 輸血検査主任

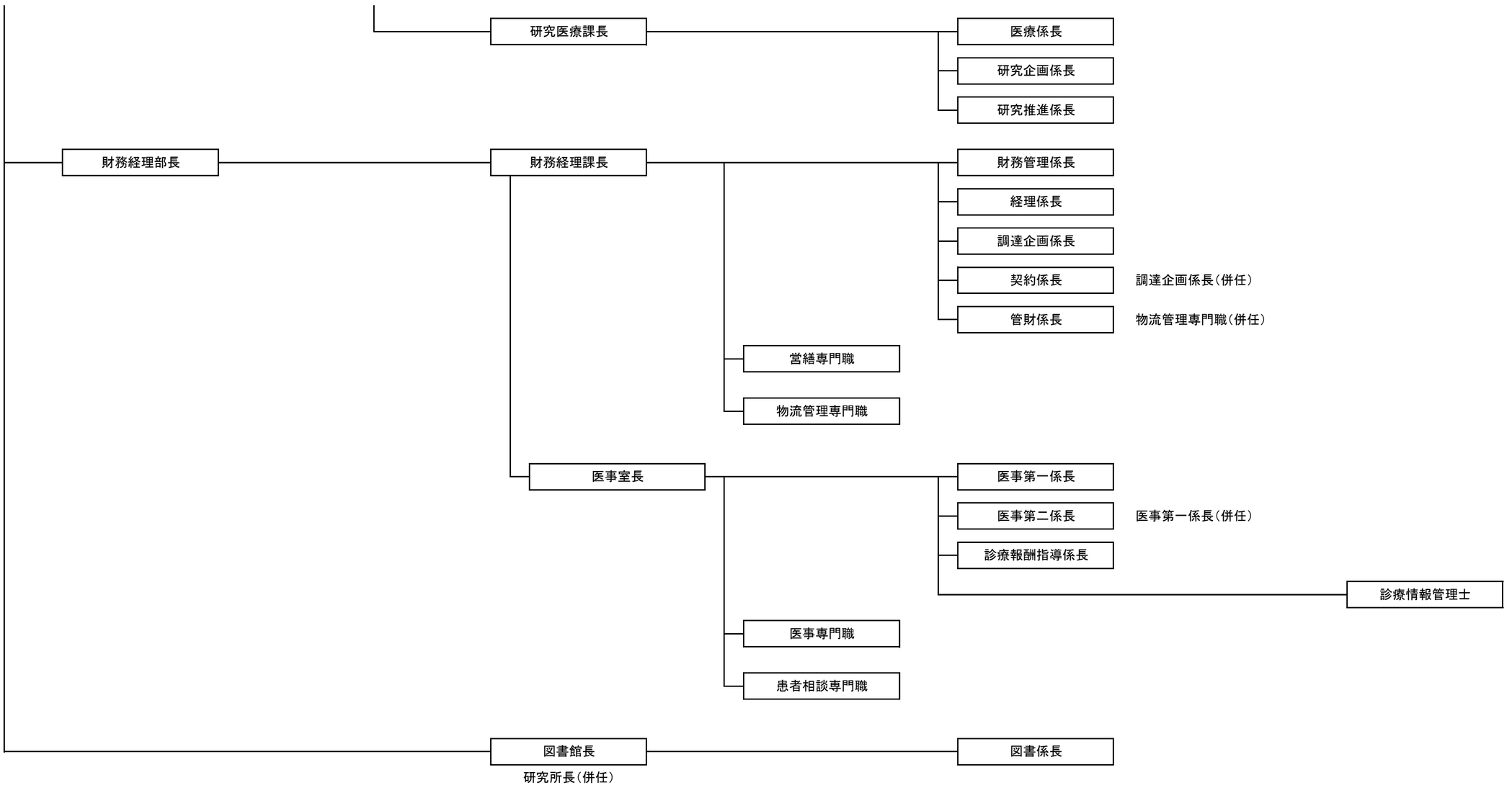
- 臨床検査技師長
  - 副臨床検査技師長
    - 主任臨床検査技師
  - 副臨床検査技師長
- 病理診断部長
  - 病理診断科医長
    - 病理検査主任
- 高度感染症診断部長
- 発達評価センター長
  - 理学療法士
  - 作業療法士
  - 言語聴覚士
  - 心理士
  - 看護師
  - ケースワーカー
- 医療連携・患者支援センター長
  - 医療連携開発室長
  - 医療連携室長
  - 在宅医療支援室長
  - 患者相談専門職
  - 災害対策室長
- 教育研修部長
  - 教育研修室長
- 感染防御対策室長
- 栄養管理部長
  - 栄養管理室長
    - 副栄養管理室長
      - 栄養係長
        - 主任栄養士
- 医療安全管理室長
  - 医療安全管理者
- 子どもの生活安全対策室長
  - 副子どもの生活安全対策室長
  - 副子どもの生活安全対策室長
- 診療録管理室長
  - 診療録管理室長補佐
    - 診療情報管理士
- 薬剤部長
  - 副薬剤部長
  - 副薬剤部長
  - 副薬剤部長
    - 調剤主任
    - 治験主任
    - 無菌製剤主任
    - 薬務主任
    - 薬歴管理主任
  - 医薬品情報管理室長
    - 医薬品情報管理主任
- 看護部長
  - 看護部長室付
  - 副看護部長
    - 外来師長
      - 副看護師長
      - 副看護師長
    - 救急センター師長
      - 副看護師長
      - 副看護師長
    - 中央材料室師長
    - 手術室師長
      - 副看護師長
      - 副看護師長
    - 四階NICU病棟師長
      - 副看護師長
      - 副看護師長
    - 四階GCU病棟師長
      - 副看護師長

      四階NICU病棟師長（併任）
    - 四階ICU病棟師長
      - 副看護師長
      - 副看護師長
    - 四階東病棟師長
      - 副看護師長

      四階ICU病棟師長（併任）
    - 六階西病棟師長
      - 副看護師長
      - 副看護師長
    - 六階GCU病棟師長
      - 副看護師長

      六階西病棟師長（併任）
  - 副看護部長
  - 副看護部長
  - 副看護部長


六階東病棟師長
副看護師長
六階MFICU病棟師長
副看護師長
六階東病棟師長（併任）
七階西病棟師長
副看護師長
副看護師長
主任保育士
七階東病棟師長
副看護師長
副看護師長
保育士
八階西病棟師長
副看護師長
副看護師長
保育士
八階東病棟師長
副看護師長
副看護師長
保育士
九階西病棟師長
副看護師長
副看護師長
保育士
九階東病棟師長
副看護師長
副看護師長
保育士
十階西病棟師長
副看護師長
副看護師長
十階東病棟師長
副看護師長
副看護師長
保育士
十一階東病棟師長
副看護師長
副看護師長
十一階西病棟師長
副看護師長
副看護師長
専門看護室師長
副看護師長
副看護師長
専門看護室師長
副看護師長
副看護師長
専門看護室師長
副看護師長
副看護師長
専門看護室師長
副看護師長
もみじの家ハウスマネージャー
もみじの家看護師長
もみじの家医長
もみじの家事務長
入退院センター長
ベッドコントロール室長
ベッドコントロール室長補佐
ベッドコントロール室長補佐
医事室長（併任）
DPCデータ管理室長
DPCデータ管理室長補佐
チャイルドライフサービス室長
チャイルド・ライフ・スペシャリスト
総務部長
総務課長
総務係長
総務専門職
秘書係長
広報係長
文書管理係長
人事部長
総務部長（併任）
人事課長
人事管理室長
人事課長（併任）
人事係長
給与係長
労務管理室長
職員係長
厚生係長
企画経営部長
企画戦略局長（併任）
企画経営課長
企画調整係長
経営係長
企画調整職
業績評価係長


研究医療課長
医療係長
研究企画係長
研究推進係長
財務経理部長
財務経理課長
財務管理係長
経理係長
調達企画係長
契約係長
調達企画係長（併任）
管財係長
物流管理専門職（併任）
営繕専門職
物流管理専門職
医事室長
医事第一係長
医事第二係長
医事第一係長（併任）
診療報酬指導係長
診療情報管理士
医事専門職
患者相談専門職
図書館長
図書係長
研究所長（併任）

3　活動状況

研　究　所

3 活動状況

3-1-1 研究所概要

研究所長： 松原 洋一

1. 研究所ミッション

国立成育医研究センターは、「受精・妊娠に始まって、胎児期、新生児期、小児期、思春期を経て次世代を育成する成人期へと至る、リプロダクションによってつながれたライフサイクルに生じる疾患（成育疾患）に対する研究と医療を推進する」ことを目的に、国立成育医療センターとして平成 14 年 3 月に設立された。その後、平成 22 年 4 月 1 日より独立行政法人国立成育医療研究センターとして発足し、平成 27 年度 4 月 1 日より、国立研究開発法人国立成育医療研究センターとして再発足することになった。当センターの目的は組織形態が変わっても変わることはなく、この目的を達成するために、病院と研究所が密に連携して疾病に悩む方々や家族に対し、安全性と有効性を充分に検証しつつ高度先駆的医療の開発と提供を行ってきている。同時に小児救急医療、周産期医療を含めた成育医療全般に関して、チーム医療、包括的医療に配慮したモデルを確立し、これらを全国的に展開してきた。この中で研究所は成育医療に関連する疾患の原因の解明と治療法の開発、さらには早期発見・予防法の開発を目標に研究を進めていく。具体的には受精に始まる発生、分化の過程、身体及び臓器の発育と発達、精神及び社会性の発達等の機序を解明し、これらの過程の異常から生じる不妊、不育、先天異常、成長・発達障害等の問題を研究面から解決していくことを使命と考えている。

2. 組織・人事

＜退職者＞
政策科学研部長（森 臨太郎）
同部政策評価研究室長（蓋 若挨）
共同研究管理室長 （田所 恵子）→ 後補充なし
基礎内分泌研究室長（勝又 規行）
マススクリーニング研究室長（原田 正平）
＜新規採用者＞
マススクリーニング研究室長（但馬 剛）
基礎内分泌研究室長（鳴海 覚志）
胎児発育研究室長 （河合 智子）
好酸球性消化管疾患研究室長 （野村伊知郎）
アレルギー研究室長（森田 英明）

3. 研究業績

厚生労働省で 2010 年より実施されている独立行政法人通則法（平成 11 年法律第 103 号）第 35 条の 8 の規定に基づき準用する第 31 条第1項の規定に基づく国立研究開発法人国立成育医療研究センターの年度計画の評価委員会において使用が義務づけられている Web of Science データベースをもちいて検索した、2009 年より 2017 年までの英文業績数（学会抄録と訂正文を除く）の推移は、2009 年の 161 本から 2010 年 190 本、2011 年 212 本、2012 年 222 本、2013 年 257 本、2014 年 305 本、2015 年 336 本、2016 年 355 本、2017 年 360 本、2018 年 364 本であり、毎年論文発表数が増加している。なお、研究所と病院の共同研究成果が大半を占めるようになっていることもあり、研究所単独の論文数として切り分けて検索することはできないが、被引用回数上位の論文のほとんどは研究所所属著者によるものであった。2018 年に発表された論文の中で特記すべき成果としては、喘息治療薬として使用されている抗 IgE 抗体のアレルギー疾患発症予防に対する効果を、マウスモデルを用いて検討した結果、妊娠中マウスに抗 IgE 抗体を投与することで、胎盤移行の結果、仔の IgE 抗体の生産が乳児期の間抑制されることの発見などがあげられる。一番アレルギー疾患の発症リスクの高い時期は生後 4,5 ヶ月であることから、将来的な臨床応用によって、アレルギー疾患患者が減少する可能性が示唆される。この発見は、2018 年 11 月、Journal of Allergy and Clinical Immunology（インパクトファクター14）にオンラインで発表され、朝日新聞（朝刊一面）など主なメディアで報道された。

3-1-2　　小児血液・腫瘍研究部
造血腫瘍発生研究室
分子病理研究室
腫瘍病態研究室

小児血液・腫瘍研究部では、小児腫瘍の分子特性解明と、新規診断・治療法開発を目的とした研究をおこなっている。血液腫瘍や固形腫瘍を主な研究対象とし、ゲノム構造異常とこれによって誘導される発現遺伝子、蛋白等の異常について臨床検体を用いて解析して、臨床情報との相関解析や、細胞培養系を用いた基礎実験での機能の検証により、各異常が腫瘍細胞の発生や生物学的特性において果たす役割について明らかにするとともに、その成果を新たな診断法や治療法の開発に応用することを目指している。

前年度に報告した *ZNF384* 融合遺伝子の主要なタイプについて、定量 PCR による検出系を確立し、臨床検査への導入を進めている。

急性前骨髄性白血病（APL)においてレチノイン酸受容体α　遺伝子（*RARA*)と *Promyelocytic Leukemia* 遺伝子（*PML*）の融合遺伝子 *PML-RARA* は特徴的な遺伝子異常であり、その発症に関与している。しかし、一部の APL では同融合遺伝子が陰性であることからその遺伝子異常について全ゲノム解析等で検討した結果、レチノイン酸受容体β遺伝子(*RARB*)と *Transducin β-Like 1X-Linked Receptor 1* 遺伝子の新規遺伝子異常 *TBL1XR1-RARB* を同定し、APL の亜群を形成することを示し、新たな疾患分類として確立した。さらに機能解析を行い、*TBL1XR1-RARB* 蛋白のホモ2量体はレチノイン酸受容体経路の転写活性を dominant-negative 効果により減弱させ、*PML-RARA* と同様の機序で APL の発症や病態形成に関与していることを明らかにした。以上の成果は Cancer Research 誌に掲載された（原著論文 16)。

小児の腫瘍疾患の発症や臨床経過には、腫瘍細胞において獲得された体細胞変異だけでなく、正常細胞が持つ生殖細胞系列の遺伝子情報が関与しているため、治療の最適化を行うためには、生殖細胞系列のゲノム情報と臨床経過の関係を把握することが有用であることから、その解析を行っている（原著論文 3,4)。小児急性リンパ性白血病の治療に用いる薬剤の有害事象に関連する遺伝的多型の意義を報告し、多型の機能解析を行っている。維持療法で用いるチオプリン製剤の感受性に関与する *NUDT15* 遺伝子の多型については、複数の多型のアレルを正確にタイピングする方法を開発し、Leukemia 誌に報告し（原著論文 20)、国際的なガイドラインの作成にも参画した（原著論文 10)。

当部は、2015 年に小児腎明細胞肉腫（clear cell sarcoma of the kidney, CCSK）に特徴的な遺伝子異常として、*BCL6 Corepressor*（*BCOR*)遺伝子の遺伝子縦列重複（internal tandem duplication, ITD）を世界で始めて同定した。CCSK の BCOR-ITD については、腫瘍組織からの検出方法に加えて血漿由来の遊離 DNA（cfDNA）から検出する方法を確立し、実際に手術前に CCSK の診断を確定することが可能であることを示し、Genes Chromosomes and Cancer 誌に報告した（原著論文 17)。

当部は、国内の小児がん治療の統一プラットフォームである日本小児がん研究グループ（JCCG）の中央診断施設および検体保存センターとしての役割を担い、JCCG 血液腫瘍分科会（日本小児白血病リンパ腫研究グループ、JPLSG）の細胞マーカー中央診断と、JCCG 固形腫瘍分科会（小児固形がん臨床試験共同機構）と日本病理学会 小児腫瘍組織分類委員会が主導する遺伝子中央診断の一部（病理診断部の共同研究）を担当し、固形腫瘍と血液腫瘍を含む JCCG 全体の検体保存センターとして試料の保存と管理を行っている。血液腫瘍の細胞マーカー中央診断については、2017 年 3 月に三重大学が撤退し、担当者であった出口隆生医師が 4 月 1 日付で当センターの小児がんセンター小児がん免疫診断科医長に着任したことから、当部と小児がん免疫診断科が共同して、国内の参加全施設を担当することとなった。この結果、2018 年は、急性リンパ芽球性白血病（ALL）454、急性骨髄性白血病（AML）164 例、リンパ腫（疑い例を含む）86 例を含む新規発症例 901 例の他、再発症例 75 例、微小残存病変（MRD）のべ 269 例等の解析を行い、余剰試料を保存した。細胞マーカー中央診断の結果や、保存検体は、国内外での様々な共同研究に発展しており、白血病の分子特性に関する多くの成果が挙がっている（原著論文 1,2,5,6,9,11-13,18,19)。また蓄積された診断情報をもとに、現在、国内の小児白血病リンパ腫の発症実態解明に関する解析に着手している。

3-1-3 分子内分泌研究部
基礎内分泌研究室
臨床内分泌研究室

【ミッション・目標】

当研究部のミッションは、成育期における成長障害、内分泌疾患、先天奇形の発症機序を解明し、より良い診断法の確立および新規治療法の開発を行うことである。このために単一遺伝子疾患、ゲノム構造異常症、インプリンティング・エピジェネティック疾患、および、多因子疾患の観点から、臨床検体の分子遺伝学的解析および臨床的解析を行っている。さらに、ヒトの情報をもとに、モデル動物や培養細胞を用いた解析を実施し、分子レベルでの疾患成立機序を目指している。

【研究体制】

部　　長：深見真紀
室　　長：鳴海覚志（基礎内分泌研究室）
室　　長：鏡雅代（臨床内分泌研究室）
特任研究員：福井由宇子
上級研究員：勝又規行、松原圭子、宮戸真美
大学院生：服部淳（東北大学）、井上毅信（東京大学）、牛嶋規久美（久留米大学）、岩橋めぐみ（東京慈恵会医科大学）、川嶋明香（東北大学）、中尾佳奈子（東北大学）、吉田朋子（東北大学）、大串健一郎（聖マリアンナ医科大学）、原香織（慶應義塾大学）
共同研究員：五十嵐麻希、秋葉和壽、浅田礼光、木下貴裕、奥野美佐子、齋藤和毅、品川隆、島彦仁、中村明枝、山澤一樹
技　　師：鈴木江莉奈、神野智子、丹治玉江、三代川温子、宮迫さおり、須恵香里、植田亜季
事　　務：五十嵐暁子、千葉聡子、秋山真由子
客員部長：緒方勤（浜松医科大学教授）

【共同研究体制】

国内外の多数の医療施設や研究会と連携し、研究を推進している。

【代表的研究成果】

［単一遺伝子疾患研究］

1. STX2 がヒト生殖機能障害原因遺伝子であることを明らかとした。STX2 機能喪失変異は、常染色体劣性遺伝病として無精子症を招くと推測される。
2. 多数の MIRAGE 症候群疑い症例の SAMD9 遺伝子解析、分子機能解析を行った。米国でモノソミー7白血病を伴う原因不明の難病として報告されていた患者1名が MIRAGE 症候群であったことを共同研究でつき止めた。また、生後に獲得された変異により臨床症状が変化したと考えられる患者 2 例の分子遺伝学的変化について詳細な解析を行い、報告した。
3. 著明な胎児甲状腺腫を認めた先天性甲状腺機能低下症患者1名において DUOXA2 遺伝子変異を同定した。胎児甲状腺腫例で遺伝子変異が検出される例は極めてまれであり、その詳細な臨床情報を論文報告した。
4. 子宮内発育遅延を伴う性分化疾患患者 49 名で SAMD9 遺伝子変異を検索し、1名で変異を同定した。

［インプリンティング疾患研究］

1. 20 番染色体母性片親性ダイソミー（UPD(20)mat)を 5 症例同定し、その臨床的特徴、特に内分泌学的特徴を明らかとした。
2. 7 番染色体父性片親性ダイソミーが過成長の原因であることを世界で初めて明らかにした。これにより新たなインプリンティング疾患の疾患概念を確立した。
3. 15 番染色体インプリンティング領域の微小欠失をもつ Prader-Willi 症候群、Angelman 症候群および保因者のメチル化解析から、15 番染色体インプリンティング領域の DNA メチル化制御機構を明らかとした。

4. 16番染色体母性片親性ダイソミーを有する患者がSilver-Russell症候群表現型を呈することを明らかとした。
5. 甲状腺形成異常は家族例が少ないことから、インプリンティング異常が関与するとの仮説が提唱されていた。この仮説を検証するため、甲状腺形成異常患者 10 名で包括的なメチル化異常の検索を行ったが、患者群に特徴的なメチル化異常パターンは見いだされなかった。このことから、甲状腺形成異常の発症には、環境要因か効果が弱く明確なメンデル遺伝を示さない遺伝要因が関与すると推測された。

［ゲノム疾患研究］
1. 体細胞におけるモザイクＹ染色体喪失にＹ染色体特異的パリンドローム構造を介した２動原体染色体形成が関与する可能性を見出した。この２動原体染色体形成に起因する早期モザイクＹ染色体喪失は、遺伝的男性における外性器男性化不全の原因となることが明らかとなった。

［多因子疾患研究］
1. モデルマウスの解析に基づき、骨形成におけるポリコーム遺伝子 *Cbx2* の役割を明らかとした。Cbx2 が骨細胞と脂肪細胞系列の分化を制御していることが見いだされた。
2. 次世代シークエンサーを用いた変異スクリーニングによって、*CD101* と *PTPN2* がヒトの新規1型糖尿病感受性遺伝子であることを見出した
3. ヒト女性において近年見いだされた非古典的男性ホルモン(11-oxygenated C19 steroids) が産生されていることを明らかとし、この男性ホルモンの過剰産生が多嚢胞性卵巣症候群患者における男性化の一因になっていることを見出した。

【医療・社会への貢献】
1. AMED 研究班として、日本人性分化疾患、性成熟疾患の効率的遺伝子診断システムを構築し、多数の患者の診断を行った。この情報は性分化疾患診断の手引きに活用された。
2. AMED研究班として、インプリンティング疾患およびMIRAGE症候群の病態解明と診断法の開発を推進した。
3. インプリンティング異常症・関連疾患の遺伝子解析を全国医師に提供した。また、疑い症例のコンサルテーションを積極的に受け入れた。遺伝子診断確定例の患者登録および臨床情報と患者由来試料（DNA、皮膚線維芽細胞など）の収集、保管を行った。

3-1-4 免疫アレルギー・感染研究部

【ミッション・目標】

乳幼児期は、病原・非病原微生物の侵入や、食物の摂取、物理的・精神的ストレスへの暴露など種々の成育環境に適応しながら、生体調節システムとしての免疫系が確立される重要な時期である。われわれは環境適応のために働く免疫系ロバストネスの機序および、その破綻によって生じる障害の機序を明らかにすることで、喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患、川崎病などの免疫異常疾患に対する有効な予防制御方法を発見・開発することを最終的な目標として研究を行っている。

先進工業諸国においては前世紀後半から急激な感染症の減少等、衛生環境の改善に反比例してアレルギー疾患・免疫異常疾患が急増している。我が国の乳幼児は人類史上最も衛生的な環境下において、様々な環境汚染物質、アレルゲン・抗原と接触していくことによりこれらの疾患を発症する。アレルギー研究室では、アレルギー疾患・免疫異常疾患の発症機序、増悪機序を網羅的な分子解析手法を用いて探索し、臨床部門との共同研究によりそれらの分子群の医学的・生物学的意義を検証し、予防法、治療法を開発する事を大きな目標としている。

免疫療法研究室は、川崎病の病態解明および新規診断・治療法の開発を目標としている。川崎病は乳幼児期に後発する原因不明の血管炎症候群であり、現在も患者数が増え続けている。標準治療として使われるIVIG製剤の冠動脈炎症に対する抗炎症メカニズムの解明を切り口に、特にIVIG不応重症川崎病に対する新規治療薬およびバイオマーカーの開発を目指した研究に取り組んでいる。

母児感染研究室は、サイトメガロウイル(CMV)や風疹ウイルス(Rubella virus, RV)による先天性ウイルス感染症および慢性活動性EBV感染症などのEBV関連疾患を主な研究対象疾患とし、発症メカニズム解明と新規診断・治療法開発を進めている。

感染免疫研究室では、病院感染症科や多くの病院、研究機関と連携して、分子生物学的診断法の臨床への応用と、治療にむけた病態解明を進めている。

【研究プロジェクト】

1. 小児の難治性免疫アレルギー疾患に対する有効な予防・制御療法の開発
2. オミックス情報に基づく免疫アレルギー疾患解析研究
3. IgE非依存性の食物誘発性消化管アレルギーの疫学調査及び病態解析
4. 先天性ウイルス感染症の感染モデル確立と発症メカニズムに関する研究
5. IVIG不応川崎病の病態メカニズムの解明および新規治療薬開発を目指した研究

【研究体制】(平成30年4月1日現在)

部　　長:松本健治(免疫アレルギー・感染研究部長)
室　　長:中村浩幸(母児感染研究室長)、松田明生(免疫療法研究室長)
特任研究員:藤原成悦
研究員(旧流動):杉江真以子、廖華南
研究員(非常勤):岡田直子、五十嵐ありさ、二村恭子
大学院生:溜雅人(東京慈恵会医科大学小児科大学院)、外山扇雅(東京医科歯科大学大学院)、折茂圭介(東京女子医科大学大学院)、井上隆志(東京慈恵会医科大学小児科大学院)、齋藤杏子(福井大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学大学院)
共同研究員:斎藤博久(研究所副所長)、中江進(東京大学医科学研究所 フロンティア研究拠点併

任)、本村健一郎、原真理子(自治医科大学耳鼻咽喉科)、折原芳波(早稲田大学高等研究所)、鈴木啓子(戸田中央総合病院)、新江賢(杏林大学保健学部免疫学)、海野浩寿(東京慈恵会医科大学小児科)、竹田知広(関西医療大学保健医療学部)、鈴川真穂(東京病院呼吸器内科医長)、山口宗太(東邦大学大橋病院耳鼻咽喉科)、石川良子(昭和大学医学部小児科)、木村廣光、中島敏治(横浜薬科大学准教授)、山田絢子(日本ハム中央研究所)

学生:飯泉直也、渡邉拓実(以上 2 名、東京バイオテクノロジー専門学校インターンシップ生)
研究補助員:相田奈緒、島本芳子、白川千賀、武田和江、藤原雅子、山田倫子
事務:宇佐美千尋、笹川継子、吉川朋子

【共同研究体制】

1. 小児の難治性免疫アレルギー疾患に対する有効な予防・制御療法の開発
国立成育医療研究センター病院:総合診療部(阪井裕一部長、益田博司医員)、感染症科(宮入烈医長)、循環器科(小野博医長)、腎臓リウマチ膠原病科(石倉健司医長)、国立成育医療研究センター研究所:周産期研究部(秦健一郎部長、中林一彦室長)、成育社会医学研究部(森崎菜穂室長)、国立成育医療研究センター病院内科系診療部アレルギー科(大矢幸弘医長、成田雅美医員、福家辰樹医員)、同周産期・母性診療センター(左合治彦副院長、佐々木愛子医員)、同研究所小児血液・腫瘍研究部(清河信敬部長)、同研究所システム発生・再生医学研究部(高田修治部長)、同再生医療センター生殖・細胞医療研究部(梅澤明弘副所長)東京慈恵会医科大学小児科学講座(勝沼俊雄准教授、堀向健太助教)、東京医科歯科大学国際健康推進医学分野(藤原武男教授)、高知大学医学部小児思春期医学教室(脇口宏学長、藤枝幹也教授)、同大学医学部免疫学教室(宇高恵子教授)、アレルギー児を支える全国ネット・アラジーポット(栗山真理子幹事)、鶴見大学付属病院眼科(藤島浩教授)、青葉こどもクリニック(倉光誠院長)、松田小児科医院(松田健太郎院長)、徳島大学疾患酵素学研究センター(木戸博センター長、亀村典生助教)

2. オミックス情報に基づく免疫アレルギー疾患解析研究
東京大学医科学研究所・フロンティア研究拠点(中江進特任准教授、東京大学より国立成育医療センター併任辞令)、理化学研究所 ゲノム医科学研究センター 疾患関連遺伝子研究グループ呼吸器疾患研究チーム(玉利真由美チームリーダー)、理化学研究所 統合生命医科学研究センター創薬抗体基盤ユニット(竹森利忠基盤ユニットリーダー)、千葉大学大学院医学研究院疾患生命医学・バイオメディカル研究センター(幡野雅彦教授)、日本大学医学部先端研究センター(岡山吉道准教授)、国立東京病院(大田健院長、鈴川真穂呼吸器内科医長)、帝京大学呼吸器・アレルギー内科(山口正雄教授)、昭和大学呼吸器・アレルギー内科(相良博典教授)、岐阜薬科大学(永井博弌学長、田中宏幸准教授)、獨協医科大学リウマチ・膠原病内科(有馬雅史准教授)、米国 Northwestern 大学医学部(Robert P. Schleimer 教授、加藤厚准教授、Bruce S. Bochner 教授)、藤田学園保健衛生大学皮膚科学講座(松永佳世子教授、矢上晶子教授)、順天堂大学医学部アトピー疾患研究センター(奥村康教授)、同耳鼻咽喉科学講座(浅香大也講師)、東邦大学医療センター大橋病院耳鼻咽喉科(吉川衛教授)、慶應義塾大学医学部眼科学教室(坪田一男教授、深川和己医員)、同病理学教室(金井弥栄教授)、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科軟骨再生学(関矢一郎准教授、大関信武研究員)、同大学院医歯学総合研究科免疫アレルギー学分野(烏山一教授)、日本メナード化粧品(株)総合研究所(長谷川靖司研究員、長谷部祐一研究員)、くろさか小児科アレルギー科(黒坂文武院長)、筑波大学遺伝医学教室(野口恵美子教授)、La Jolla Institute for Allergy and Immunology(川上敏明教授、川上裕子教授)、東京理科大学基礎工学部生物工学科(西山千春教授)、国立がん研究センター基盤的臨床開発研究コアセンター(吉田輝彦センター長)、同ゲノム生物学研究分野(河野隆志研究分野長)、同創薬臨床研究分野(尾野雅哉

ユニット長)、同遺伝医学研究分野(坂本裕美ユニット長)、国立長寿医療研究センターメディカルゲノムセンター(新飯田俊平センター長)、国立精神・神経医療研究センタートランスレーショナル・メディカルセンター(後藤雄一副センター長)、国立国際医療研究センター研究所代謝疾患研究部(安田和基部長)、国立医薬品食品衛生研究所医薬安全化学部(斎藤嘉朗部長、齊藤公亮主任研究官)、慶應義塾大学 先端生命科学研究所(曽我朋義教授、平山明由特任助教)

3. IgE 非依存性の食物誘発性消化管アレルギーの病態解析
群馬県立小児医療センター アレルギー感染免疫・呼吸器科(山田佳之部長)、島根大学消化器肝臓内科(木下芳一教授)

4. 先天性ウイルス感染症の感染モデル確立と発症メカニズムに関する研究
国立成育医療研究センター耳鼻咽喉科(守本倫子医長)、同感染症科(宮入烈医長、枝吉美奈研究員)、再生医療センター(阿久津英憲部長)、同研究所周産期病態研究部(秦健一郎部長、河合智子室長、中林一彦室長)、新潟大学医学部小児科(齋藤昭彦教授)

5. EBV 関連疾患の発症メカニズムおよび新規診断・治療法開発に関する研究
国立成育医療研究センター教育研修部(石黒精部長)、東京医科歯科大学血液内科(新井文子講師)、同小児科(森尾友宏教授)、九州大学医学部小児科(大賀正一教授)、日本大学医学部血液膠原病内科(武井正美教授)、大阪府立母子保健総合医療センター血液・腫瘍科(澤田明久副部長)、東北大学災害科学国際研究所(児玉栄一教授)
6. IVIG 不応川崎病の病態メカニズムの解明および新規治療薬開発を目指した研究
国立成育医療研究センター教育研修部(石黒精部長)、同総合診療部(益田博司医員)、同循環器科(小野博部長)同臨床開発センター企画運営部(小林徹部長)、同研究所高度先進医療研究室(今留謙一室長、松田剛研究員、阿部淳研究員、川野布由子研究員、石川百合子研究員)、国立感染症研究所感染病理部(徳永研三主任研究官)、東京都健康長寿医療センター研究所老年病態研究チーム血管医学研究(豊田雅士研究副部長)、一般社団法人日本血液製剤機構研究開発本部中央研究所蛋白化学研究室(村上弘次室長、宇野修正室長補佐、仲野篤史室長補佐、松嶋夢叶室員、内田博司室員)

【研究の概要】

<u>免疫療法研究室</u>
[これまでの研究成果]
川崎病は乳幼児期に好発する血管炎症候群であるが、未だその原因が特定されておらず病態形成機序も不明な点が多い。1990 年代に川崎病に対する免疫グロブリン大量静注療法(IVIG)が開発され、後遺症である冠動脈瘤形成患者数が激減した。一方、本邦における患者数は年間 1 万 5 千人を超えており、約 20%の患者が初回 IVIG 治療に不応で心後遺症合併リスクも高い。また本邦における小児期発症後天性心疾患の最大の原因が川崎病による心後遺症合併であり、これをゼロにすることが社会および臨床現場における最大のニーズである。そのためには、IVIG 不応患者に対するエビデンスに基づいた新規治療法の開発が必要であると考え、IVIG 製剤の冠動脈炎症反応に対する抗炎症分子メカニズムの一端を世界に先駆けて明らかにした(Matsuda A., et al. Eur J Immunol. 2012)。

[本期間の研究成果]
1. 2018 年度には、日本医療研究開発機構(AMED)の創薬基盤推進研究事業の研究費を獲得し、さらに 2018 年 4 月に、一般社団法人日本血液製剤機構と共同研究契約を締結した。本期間中には、

特に先行研究内容（Matsuda A., et al. Eur J Immunol.2012）をさらに発展させ、冠動脈血管内皮細胞における IVIG 製剤の抗炎症機序および IVIG 不応メカニズムの一部を明らかにした。これらの研究成果内容に基づき、特許申請の準備を開始した。また、明らかにした IVIG 不応メカニズムに基づいて、IVIG 不応川崎病患者に対する新規創薬ターゲットのスクリーニングを開始した。スクリーニングに用いる化合物ライブラリーは、AMED の創薬等先端技術支援基盤プラットフォーム（BINDS）の支援のもと、東北大学化合物ライブラリーの提供を受けた。

アレルギー研究室

[これまでの研究成果]

小児期のアレルギー疾患の発症は、遺伝的要因と環境要因の相互作用によって制御されることが明らかとなっている。一旦発症したアレルギー疾患を完全に治すことができる治療は存在しないため、アレルギー疾患の発症を抑制する方法の開発が求められている。アレルギー研究室では、詳細な炎症惹起機構及び制御機構を明らかにし、アレルギー疾患発症予防法/治療法の開発に取り組んでいる。更に、アレルギー疾患発症予防法の確立を目的に、国立成育医療センター・アレルギー科と共同研究を行い、介入研究を行っている。

アレルギー発症に関与するメカニズム解析の一環として、これまで IL-1 ファミリーサイトカインである IL-33 によるアレルギー性炎症惹起機構、および組織の線維化に関与するペリオスチンによる炎症惹起機構に着目して研究を行ってきた。

1. IL-33 によるアレルギー性炎症惹起機構
   これまで IL-33 が組織構成細胞から産生されること、マスト細胞や好塩基球、マクロファージ等の自然免疫系の細胞を介して、アレルギー性炎症を惹起することをヒト気道組織構成細胞やマウス喘息モデルを用いて明らかにしてきた。（Takeda et al. J Allergy Clin Immunol. 2016; 138(5): 1395, Oboki K. Proc Natl Acad Sci U S A. 2010; 107(43): 18581, Yagami A. J Immunol.2010; 185(10): 5743, Ohno T. PLoS One. 2011; 6(4): e18404, Morita H. Allergol Int. 2012; 61(2): 265, Nakanishi W. PLoS One.2013; 8(10)e78099）更に、IgE と抗原複合体による高親和性 IgE 受容体の架橋を介して活性化され、様々なアレルギー炎症誘導因子を放出することで、アレルギー性炎症の主要なエフェクター細胞であると考えられてきたマスト細胞が、IL-33 によって活性化されると、IL-2 の産生を介して制御性 T 細胞を増幅することで、アレルギー性気道炎症を抑制することを明らかにしてきた。（Morita et al. Immunity. 2015; 43(1): 175）
2. アレルギー疾患発症予防法の確立
   新生児期から毎日保湿剤を塗布し続けることにより、アトピー性皮膚炎の発症リスクが3割以上低下することを明らかにしてきた（Horimukai K. J Allergy Clin Immunol.2014; 134(4): 824）。更に、離乳期早期に鶏卵を摂取させることで、鶏卵による食物アレルギーを 8 割予防できることを明らかにした。（Natsume O et al. Lancet; 389(10066): 276）
3. その他
   医薬基盤研研究「多層的疾患オミックス解析基づく創薬標的の網羅的探索を目指した研究」の一環としてアレルギー疾患の疾患解析拠点およびトランスクリプトーム領域の解析拠点として研究を行っている。さらに、Birth Cohort Study として、理研オープンラボ、および成育母子コホート研究などに、積極的に参画している。

[本期間の研究成果]

1. アレルギー炎症誘導機構の解明
   アレルギー疾患の発症に関わると考えられている上皮細胞由来サイトカインである IL-33 がマスト細胞にケモカイン受容体である CCR7 を特異的に発現誘導することを見いだした。この機序は慢性炎症局所での三次リンパ組織の形成に関与する可能性が示唆された（Emi-Sugie M. J Allergy Clin Immunol. 2018 Oct;142(4):1341-1344.）。
2. アレルギー疾患発症予防法の確立

アレルギー疾患の大半は乳幼児期にアトピー性皮膚炎/湿疹発症し、各種抗原に対する IgE 抗体の獲得が全ての引き金となって、最初に食物アレルギー、その後幼児期以降に気管支喘息、花粉症を発症する自然史をとることが知られている。故に発症予防には、乳児期に起こる様々な抗原に対する感作(IgE 抗体産生)を予防することが重要である。1966 年に IgE 抗体を発見したことで有名な故・石坂公成博士らとの共同研究で、妊娠マウスに抗 IgE 抗体を投与すると、生まれてきた仔マウスで長期間 IgE 抗体を作らなくなることを明らかにした。(Morita H. et al J Allergy Clin Immunol. 2018 in press)重症喘息等に保険適応されている抗 IgE 抗体(オマリズブ)は、すでに米国において妊婦への安全性が確認されており、現実的な根本的アレルギー疾患発症予防になる可能性がある。

本研究成果は、朝日新聞に 1 面で取り上げられた他、新聞各紙(日本経済新聞、読売新聞、山形新聞、The Japan Times)で紹介されるなど、注目を集めている。

3. 新しい自然リンパ球サブセットの発見

2009 年に新規に定義された免疫細胞である自然リンパ球は、ヘルパーT 細胞と同様に転写因子及び産生するサイトカインによって、複数のサブセットに分けられることが明らかとなっている。一方で、T 細胞における制御性 T 細胞に相当する、炎症を制御するサブセットの存在については未だ不明な点が多い。我々は、自然リンパ球のうち炎症制御に寄与する制御性リンパ球が、レチノイン酸によって誘導されること、更に健常の組織では存在せず、炎症によって誘導されることを明らかにした。(Morita et al. J Allergy Clin Immunol. 2018. Accepted.)

4. アレルギー疾患の発症に関与する乳児期特異的な免疫応答の検討

近年の研究から、食物アレルギーの発症には乳児期における経皮膚的な抗原の感作が重要である可能性が示唆されいる。そこで、経皮膚的に抗原を感作することで食物アレルギーを発症する動物モデルの確立及び最適化を行なった。その結果、新生児期と比較して乳児期以降、年齢と共に IgE 抗体の産生量、食物負荷による症状の重症度は増加すること、更にこの年齢による変化は、皮膚由来の IL-33 が関与している可能性があることを明らかにした。(Tamari M et al. Allergol Int. 2018; 67(3): 380-387)

移植免疫研究室

梨井 康 室長が兼任しているRI管理室の項を参照のこと

母児感染研究室

1. 先天性ウイルス感染症の感染モデル確立と発症メカニズムに関する研究

1) ウイルス感染モデルを用いた神経障害発症メカニズムに関する研究

CMV による SLITRK6 発現抑制と神経・感覚器障害との関連を明らかにする目的で、SLITRK6 欠失変異体や SLITRK6 発現抑制系を神経系細胞に導入し、神経機能や CMV 生活環における SLITRK6 の関与について解析を進めた。また、CMV による神経病原性に関与する新規細胞因子の同定を目的とした探索研究を開始し、これまでに複数の候補因子を見出した。

2. EBV 関連疾患の発症メカニズムおよび新規診断・治療法開発に関する研究

日本大学医学部との共同研究では、ヒト化マウスにおける EBV による破骨細胞誘導メカニズムに関する研究を行った。

感染免疫研究室

宮入 烈 室長が兼任している病院 生態防御系内科部感染症科の項を参照のこと

3-1-5 成育遺伝研究部

1. 原発性免疫不全症に対する遺伝子・細胞治療法の確立

1）Wiskott- Aldrich 症候群に対する遺伝子治療臨床研究の実施

Wiskott-Aldrich 症候群（WAS）は、易感染性、血小板減少、湿疹を 3 主徴とし、その他に自己免疫疾患や悪性疾患も合併する X 連鎖形式の原発性免疫不全症である。HLA 一致ドナーが不在の場合や、5 歳以上の患者では造血幹細胞移植の成績が低下することから、このような患者を対象に、欧州を中心にレンチウイルスベクターによる造血幹細胞遺伝子治療が実施され、高い有効性と安全性を認めている。我々は、イタリアの Aiuti 博士（TIGET: The San Raffaele Telethon Institute for Gene Therapy）との国際共同治験として、日本における遺伝子治療医師主導治験の準備を開始し、GlaxoSmithKline（GSK）社との契約の締結の下、ウイルスベクター、治験概要書（IB）、治験薬概要書（IMPD）及びプロトコルを入手した。国内での遺伝子導入施設として、タカラバイオ社にて臍帯血または骨髄由来の造血幹細胞を用いた Dry Run を実施し、これらのデータをもとに、PMDA との対面助言を複数回行い、平成 29 年 10 月に当センターIRB にて臨床プロトコルの承認、同年 11 月に治験計画届の提出を行った。平成 30 年度 1 月より、当センター病院の複数の部署の協力の下、遺伝子治療の実施体制を構築し、開始に向けた調整を行った。その後、同疾患への遺伝子治療事業が GSK 社から Orchard therapeutics 社へ移譲されたことや、細胞調整方法の変更などを受け、現在当センターと Orchard therapeutics 社との契約締結および治験の変更届の準備を鋭意すすめている。

2）ゲノム編集を用いた原発性免疫不全症への遺伝子治療法の基礎的研究

一部の原発性免疫不全症では、原因となる遺伝子の発現が、免疫細胞の分化の過程で変化したり、また病原体の侵入による活性化の際にのみ発現したりするなど、複雑な調節を受けている。従来のウイルスベクターによる染色体付加型遺伝子治療では、ベクターに搭載する外因性プロモーターにより治療遺伝子の恒常的発現がなされるが、上述のような生理的発現が求められる疾患では遺伝子の恒常的発現が、リンパ腫などの悪性疾患を引き起こすことが報告されている。ゲノム編集技術は、遺伝子の変異部位を直接修復すること可能であり、修復後の遺伝子の発現は内因性の制御配列（プロモーター領域）によることから、完全な生理的発現パターンとなる。X 連鎖高 IgM 症候群（CD40L 欠損症）は、T 細胞上の CD40L の欠損により、B 細胞における免疫グロブリンのクラススイッチが阻害される疾患である。CD40L が活性化 T’細胞上でのみ発現することや、マウスにおける強発現ではリンパ腫を発症することから、やはり生理的発現が重要である。I 型高 IgE 症候群（STAT3 異常症）では、片アリルの STAT3 変異による dominant negative 形式で発症する疾患である。STAT3 が転写因子であることから、生理的発現が重要であり、また変異アリルの存在により発症することことから、付加型遺伝子治療では対応できず、ゲノム編集による直接修復が必要となる。当研究部では、これらの 2 疾患に対して、東京大学（濡木理博士）との共同研究の下、ゲノム編集による遺伝子治療の開発を開始した。患者細胞を用いた有効性やオフターゲット効果の評価、実際の治験実施に向けた非臨床試験の実施などを計画している。

3）遺伝子治療におけるレギュレーション（カルタヘナ法）に関する研究

欧米とは異なり日本における遺伝子組換えウイルスベクターの使用には、カルタヘナ法の第一種使用規定の下、適切な患者管理が必要である。特に、ウイルスベクターの種類や投与方法によって、遺伝子導入した患者体内（体液中）におけるウイルスの残存や排出も異なることから、適切な患者管理のための指針の作成は急務である。本研究では、レンチウイルスベクターによる ex vivo 遺伝子治療において、遺伝子導入された細胞におけるウイルスの残存に関する評価や、アデノ随伴ウイルスベクターなどによる in vivo 遺伝子治療における患者の血液、唾液、尿などに存在するウイルスの高感度検出系の確立を行い、これらの結果を基に、組換えウイルスの第一種使用における適切な患者管理の指針の作製を進めている。

2. 原発性免疫不全症の新生児スクリーニング法の確立・実施

重症複合免疫不全症（severe combined immunodeficiency: SCID）は、T細胞の欠損を病態の中心とする疾患であり、重度の易感染性からその救命には出生後早期（3か月未満）の造血幹細胞移植が必須である。胸腺におけるT細胞の新生の際には、環状DNAであるTREC（T cell receptor excision circles）が産生され、新生児のろ紙血においてTREC値を測定することでSCIDスクリーニングが可能である。

1）SCIDスクリーニングの実施と拡大

当研究部では、平成27年度より当センターにて出生し、同意を得られた新生児を対象に、SCIDスクリーニングを実施しており、平成30年までに約1000検体の測定を実施している。当初は、独自のプライマー、プローブを用いたリアルタイムPCR法により実施していたが、平成29年からはPerkinElmer社よるTR-FRET法によるTREC測定システム（ARVO-Enlite）による測定に切り替え実施している。また、平成31年より一般社団法人CReARIDによるライソゾーム病を中心とするオプショナルスクリーニングに、新たにSCIDスクリーニングを加えるべく準備を行っている。同意を得た新生児ろ紙1000検体を用いて、測定方法と測定値の検証を実施し、現在、平成31年4月より関東4県（東京、埼玉、千葉、神奈川）の契約病院において開始する予定となっている。

2）SCID スクリーニングキットの開発

一方で、機器の普及の点を考慮すると、リアルタイム PCR 法の利点も大きく、上述のような精度管理されたキットを製品化することで、リアルタイム PCR 法によるスクリーニング普及の可能性は高いと考えられる。現在関連企業（積水メディカル）との共同開発としてリアルタイム PCR 法による TREC 測定キットの開発を行っており、平成 31 年度の販売を予定している。

3-1-6 ゲノム医療研究部

ゲノム医療研究部では、成育疾患にも多く見られる遺伝性疾患の遺伝的背景を明らかにし、個人の遺伝情報の総体たるゲノム情報に基づいた最適な医療の提供の実現に資する研究・開発を行っている。DNA シーケンサー等を用いたゲノム解析を基盤とし、希少・難治性疾患を中心とした遺伝性疾患について、その病因・病態の解明といった基礎的研究から診断・治療・予防薬や方法の開発といった臨床応用的研究まで、実験的手法と計算的手法の両面から取り組んでいる。中心となる DNA シーケンサーについては、現在の主流である読み取り精度重視のショートリード型と近年急速に浸透しつつある読み取り長重視のロングリード型とを活用し、両者の特徴を組み合わせ、これまでは解明が困難であったゲノム構造多型の検出を進めている。

基礎的研究としては、未診断疾患イニシアチブの下、原因不明のため診断のつかない未診断疾患の患者およびその父母をはじめとした家系について、全エクソーム解析や全ゲノム解析、トランスクリプトーム解析を実施し、遺伝的な病因の同定やモデル生物を用いた病態の解明を行っている。本年は 700 名を超える全エクソーム解析を実施した。また、100 名を超えるパネル解析を実施した。全エクソーム解析に関して、2018 年 7 月現在、累計 3,805 名を解析し、33.53%については疾患の原因候補遺伝子を同定している。絞り込めなかったものについても、全ゲノム解析やトランスクリプトーム解析、モデル生物による病態解析等を追加実施し、研究を進めている。

臨床応用を目指した研究としては、血液・唾液等の検体を迅速に診断可能なシステムの方法論の開発やそのキット化、遺伝子全長の網羅的解析を効率的に実施可能なシステムの構築等を行っている。また、琉球大学医学部において開発された遺伝性疾患に関する総合データベースである UR-DBMS (University of the Ryukyus-Database for Malformation Syndromes と、独自に開発した人工知能システムとを連携させ、より幅広い情報やより正確な診断を提供できるようなシステムの構築も行っている。

遺伝子関連疾患は、メンデル遺伝カタログ（OMIM）の登録項目だけでも約 8,500 あり、また、希少疾患が多数を占め、その診断は困難なことも少なくない。特に、初診で診断することは難しく、また、診断の検討もつかない、といった状況も多々見受けられる。これら遺伝性疾患に関して、琉球大学名誉教授の成富研二博士は、OMIM 等を基にデータベース（UR-DBMS）を構築し、公開している。本データベースを十分活用するには遺伝に関する専門的知識を必要とする。一方、近年、ビッグデータを利用した様々な解析、深層学習を行える人工知能（AI）が医療にも活用されるようになり、がんの診断支援などで注目されている。我々は、両者を組み合わせることで、より汎用性や精度の高い診断補助システムの構築が可能と考えており、自然言語処理、深層学習を得意とする IBM の AI を用いて遺伝子関連疾患診断支援システムの構築と試用を行っている。プロトタイプとして症状入力を中心としたシステムを以下のように、設計した。1）自然言語処理による症状抽出、2）症状からの候補疾患の合致スコアとヒートマップによる視覚的表示、3）他情報付等加（疾患鑑別、確認用）。また、指定難病、小児慢性特定疾病の表示、リンクも搭載した。構築後、指定難病である ATR-X 症候群, Marfan 症候群、Kabuki make-up 症候群、結節性硬化症、Rett 症候群など 15 疾患、31 症例について、遺伝子解析にて確定診断が行われた実際の症例に基づく症状を入力し、検討を行ってみたところ、約 70%において該当疾患が示された。さらなるデータの蓄積、アルゴリズムの改良などを行っている。

基礎的研究と臨床応用的研究の橋渡し的な研究にも取り組んでいる。ゲノム情報に基づいて遺伝性疾患の遺伝的原因や発症機序を明らかにし、それにより薬効が高く副作用の少ない薬物を効率的に探索・設計する手法であるゲノム創薬に関する研究を行っている。ゲノム創薬により、遺伝性疾患について病因・病態の解明から診断・治療・予防薬や方法の開発までが滑らかに接続され、個人に最適化された、また時間的金銭的なコストを抑えた医療の実現が期待される。

3-1-7 システム発生・再生医学研究部

1.概要

1.1 研究プロジェクト

分子生物学・遺伝学的手法とバイオインフォマティクスなどのポストゲノムシークエンスアプローチを駆使した研究を推進し、生殖腺の形成や機能維持の分子メカニズム、その破綻が原因となる不妊症や性分化疾患の病態の研究を進めている。また、迅速かつ高精度に多様な変異アレルを作製する技術の確立を目指した遺伝子改変マウス作製法の開発も行っている。

1.2 研究体制

部長:高田修治

室長:岡村浩司(組織工学研究室 平成 24 年 8 月～)

研究員:原聡史(平成 26 年 4 月～)、寺尾美穂(平成 28 年 9 月～)

共同研究員:18 名

[共同研究体制]

国立成育医療研究センター研究所各研究部・病院、東邦大学、北里大学、東京農業大学、横浜市立大学、京都府立医科大学、九州大学、慶應義塾大学、広島大学、国立医薬品食品衛生研究所、昭和大学、、東京医科歯科大学、東京都立小児総合医療センター、東京農業大学、浜松医科大学、北海道大学、順天堂大学、東京大学、宮崎大学、理化学研究所、㈱ニッポンジーン、ケンブリッジ大学(英国)、ロシア連邦 Endocrinology Research Centre

2.研究内容

2.1 マウス生殖腺における WISH 発現データベースの構築

個体発生は、遺伝子が時間空間特異的に精緻に発現制御されることで進行する。この遺伝子発現の制御と各々の組織分化における遺伝子ネットワークを解明するため、Whole-mount in situ hybridisation を用いた発現解析システムを構築してきた。このシステムを用いて胎生期の性分化初期における遺伝子ネットワークの解明を目指すべく、マウスの胎生 13.5 日の生殖腺で雌雄に発現の差のある遺伝子を同定することにより胎児の性分化に関与する遺伝子の同定を行った。これまでに今まで性分化への関与が未知であった雌雄で発現に差のある遺伝子を多数同定した。雌雄で発現に差のある遺伝子は性分化疾患の原因となりうるため、性分化疾患の観点からも解析を進めている。そのため、雌で発現レベルの高い遺伝子に着目し、ゲノム編集技術により複数のノックアウトマウスの作製を行った。

2.2 ゲノムインプリンティングを受ける遺伝子の発現制御の解析

ゲノムインプリンティング(GI)を受ける遺伝子が正常に発現することが胎児の発育に必要不可欠である。GI を受ける遺伝子の発現調節機構の解明を目指し、マウス 12 番染色体/ヒト 14 番染色体上の GI の制御に最も重要であるゲノムの配列(IG-DMR)のノックアウトマウスを作製することによって行った。その結果、母方アレルでは機能せず、父方アレルのエピゲノム状態を規定する配列が同定された。その配列の胎仔の発生と胎盤形成に於ける影響を解明した。

2.3 疾患の原因となる可能性のある組織特異的マイクロ RNA の同定と機能解析

マイクロ RNA は、疾患への関与も報告され、治療のための標的分子としても注目されている。我々は次世代シークエンサーによるマイクロ RNA 発現プロファイルを元に、組織特異的マイクロ RNA の同定を行い、生殖腺特異的マイクロ RNA を複数同定した。これらのマイクロ RNA が性分化疾患や不妊、胚発生に関与している可能性が考えられるため、ノックアウトマウスを作製することにより、機能の解析を行った。その結果、ノックアウトすることで生殖腺の機能に影響を及ぼすマイクロ RNA の同定に成功した。

2.4 転写因子 SOX9 の発現調節機構の解析

転写因子 SOX9 をコードする遺伝子もしくは近傍の変異や転位は、手足が短く屈曲し全く石灰化しないなどの特徴を持ち、核型が XY の症例の約 2/3 で雌型の生殖腺が見られるヒト先天性骨奇形症候群 Campomelic dysplasia を引き起こす原因である。すなわち、SOX9 は軟骨、精巣の組織形成に重要である。我々は Campomelic dysplasia の病態解明や確定診断法の開発を目指し、Sox9 エンハンサーを同定を目指した。そのため、XY 核型の性分化症例で共通して見つかっている配列を基に、その中の責任配列をマウスをモデルに同定することを試みた。その結果、711 塩基長のエンハンサーが同定され、ゲノム編集によりノックアウトすることで、XY で雌になったことから、この 711 塩基が責任配列であることが明らかとなった。

2.5 ゲノム編集技術のモデルマウス作製への応用

当研究部ではTALENおよびCRISPR/Cas9によるゲノム編集技術を導入し、迅速かつ簡便に疾患モデルマウスを作製する系を確立した。TALENやCRISPR/Cas9の設計・合成からマウス受精卵への導入、マウスの解析まで一貫して研究部内で行うため、短時間、低コストにモデルマウスを用いた解析が行えるようになっている。この技術の応用法を開発し、多様なアレルの作製が可能となった。また、広範囲に及ぶ疾患の原因配列から、マウスをモデルに迅速に責任配列を同定する技術なども開発した。これらの技術は他の研究部にも提供している。

2.6 データ解析パイプラインの構築

次世代シークエンサーから得られる塩基配列データを処理する独自ソフトウェアの開発や、パイプラインソフトウェアの構築を行い、エクソーム解析、全ゲノム解析をはじめとして、遺伝子発現、DNA メチル化、RNA メチル化、ヒストン修飾、高次クロマチン構造解析等を行うことができる体制を整えた。その他、コピー数異常や染色体転座などの解析依頼にも対応を行なっている。本センターが希少・未診断疾患イニシアチブ IRUD の拠点に選定されて以来、ソフトウェアだけでなく、大規模計算機クラスタ、光ファイバによる専用高速ネットワーク、分散共有ファイルシステムによるデータストレージ、磁気テープを利用したデータバックアップ体制といったハードウェアの整備も行い、国内屈指の情報通信サービスを提供するに至った。

2.7 ディープラーニングの活用

2018 年に本センターが AI ホスピタル事業に採択され、これまでの経験、そして蓄積してきたデータを周産期および小児医療に活用するため、最新 GPU を搭載したテクニカルサーバを導入した。本研究部はこの運用を任されており、研究所および病院の多くの部署と連携し、ディープラーニングを利用した新しい解析システムの構築を進めている。

3-1-8 薬剤治療研究部

分子薬理研究室
実験薬理研究室

1.研究プロジェクト
1.1 手術摘出検体を利用した創薬研究および細胞治療法の開発
1.2 創薬研究に活用可能なヒト肝細胞・培養系の開発
1.3 培養細胞を用いた薬効・安全性評価系構築のためのガイダンスの作成
1.4 神経変性・発達障害関連因子の探索及び薬物療法の開発

2. 研究概要

小児では遺伝性疾患を含む原因不明の難治性疾患が多く、原因の解明とともに治療法の開発が求められている。薬剤治療研究部では、成育医療におけるこれら難治性小児疾患の病因解明、治療法の開発や薬物療法に関する科学的根拠・情報を提供し、新たな薬物療法を開発することを目標としている。これらの目標を達成するために、治療法の確立していない疾患の薬物標的因子の探索ならびに機能解析、ホルモン受容体の機能解明、さらに新規治療法の開発を行い成育医療における薬物療法の確立を目指している。

3. 研究内容

3.1 手術摘出検体を利用した創薬研究および細胞治療法の開発

国立成育医療研究センターでは、帝王切開、臓器移植をはじめとして多くの手術が行われている。薬剤治療研究部では成育医療にける細胞製剤の開発として、これまで生体肝移植時ドナー余剰肝より単離・保存した肝細胞を肝細胞移植治療の細胞供給元として利用するための細胞分離・保存工程の確立および品質評価を行い、病院臓器移植センターならびに研究所再生医療センターと連携し「重症高アンモニア血症を生じる先天代謝異常症に対する肝細胞移植治療に関する臨床研究」として、肝細胞移植治療を2例実施してきた。近年、再生医療の発展により、さまざまな症例に対して、手術摘出検体から分離された細胞を再生医療等製品あるいは細胞製剤の原材料として利用することが検討されている。例えば、移植片対宿主病に対して、間葉系幹細胞の免疫抑制効果が期待され、骨髄由来間葉系幹細胞がヒト体性幹細胞加工製品として製品化されている。しかし、骨髄を大量に得ることは難しく、骨髄に比べ採取が容易な羊膜由来間葉系幹細胞が注目されている。このほかにも、スポーツ障害に対する手術の際に切除される膝滑膜、多指症の手術の際に切除される多指部位、抜歯時の歯より得られる歯髄細胞などが、再生医療等製品の原材料として期待されている。薬剤治療研究部では、手術摘出検体のアカデミアによる研究利用や企業による製品開発のために、手術摘出検体および単離細胞の提供を行ってきた。これは成育医療における細胞製剤の開発を原料供給の観点で下支えするものであり、成育医療における細胞製剤の開発において重要である。今後もさらに多くの手術摘出検体を研究機関等へ提供し、成育医療における細胞製剤の開発の裾野を広げ、さらにその拡大につなげていく。

3.2 創薬研究に活用可能なヒト肝細胞・培養系の開発

肝薬物代謝や薬物肝毒性を評価するために、高い肝機能を有するヒト肝細胞を用いた *in vitro* 試験法の開発は、国内外においてニーズの高い研究対象となっている。薬剤治療研究部では肝細胞初代培養系において高い肝機能を維持するため、これまでに、国立成育医療研究センターで実施される生体肝移植手術の際に摘出された肝組織より肝細胞を単離し、培養法の検討を行ってきた。特に、新規の三次元培養法により、ヒト初代肝細胞ならびにヒト肝細胞株の肝細胞特異的機能を向上させることに成功した。これら成果を発展させ、ヒト肝細胞株に DNA メチル化阻害剤を添加することにより、肝機能を亢進させることにも成功した。

3.3 培養細胞を用いた薬効・安全性評価系構築のためのガイダンスの作成

近年、国内外において薬剤候補物質の薬効・安全性評価系へのヒト iPS 細胞由来神経細胞、肝細胞、心筋細胞等を用いた応用の期待が高まっている。一方で、創薬研究の推進のために、研究者が効率よく分化細胞を活用できるよう取り扱い等に関する適切なノウハウや情報の提供が急務である。培養細胞を用いた薬効・安全性評価系構築のための基本原則・留意点を作成することを目標として、専門家なら

びに AMED、厚生労働省、経済産業省からのオブザーバー委員により構成されるワーキンググループを設置し意見交換を行った。当該ワーキンググループにおいて、細胞培養を用いた研究開発成果の適切性・再現性の担保には細胞培養に関する基本的概念の共有が必要であるとの見解で一致し、基礎研究、開発研究、応用研究を行う上で、細胞培養を用いる際に共通に重要だと考えられる基本的な考え方を広く国内の研究者へ周知するために、「細胞培養における基本原則の提案」として、また細胞培養を行う上で基本的な手技となる細胞の観察に関して「培養細胞の観察の基本原則の提案」として、さらに創薬・毒性評価の基本となる手技として「ヒト多能性幹細胞培養の留意点」をとりまとめ、日本組織培養学会誌で報告した。論文公開後は、日本組織培養学会、日本動物実験代替法学会のホームページより閲覧できるようにし、また関連学会のホームページにもリンクの設定をお願いし、広く研究者へ閲覧される環境を整えた。

3.4 神経変性・発達障害関連因子の探索及び薬物療法の開発

成育医療における難治性疾患等に対する薬物療法の開発として、早期ライフステージ、特に乳幼児・児童期の精神・神経発達障害に対する薬物標的分子の探索・機能解析、薬物療法の開発を行っている。虐待や劣悪な養育環境により、「安全基地」であるはずの母親や養育者との愛着形成に重篤な障害、すなわち愛着障害を持つ乳幼児が存在し、これら子どもたちに対する支援・介入は現在、精神保健の重要な国際的課題となっている。また、特に発達期にある子どもは長期の療養により、抑うつや不安などの精神機能や発達への負荷、入院や療養という非日常的体験や社会的刺激の少なさなどが要因となるソーシャルスキルの問題、養育者や同胞への心理的負担など、多岐にわたる心理社会的影響を受けやすい。幼少期の養育環境が成人期以降の健康状態に影響を及ぼし得ることは容易に想像され、特に幼少期に受ける過度な肉体的・精神的ストレスは成人期以降の精神発達等に重大な影響を及ぼし、コミュニケーション障害等を引き起こす。また、遺伝的特性が精神・神経発達障害発症のリスクとなり、環境要因と遺伝的要因が重なることにより、精神・神経発達障害が惹起されると考えられる。薬剤治療研究部ではこころの診療部と連携して、リエゾン医療における子どもと家族の癒し効果を生物学的に検証している。また、神奈川県の児童相談所の協力の下、被虐待児・非虐待児およびその親のホルモン動態の解析を行っている。さらに、遺伝子欠損マウス等の実験動物を用いて、社会性行動の評価およびその発現機構について研究を進めている。今後も引き続きこれら研究を推進・発展させ、早期ライフステージに起こる精神・神経発達障害、特に対人コミュニケーションや愛着形成の不全を引き起こす機構を明らかにすることにより、診断バイオマーカーの同定、薬物標的分子の探索・機能解析および薬物療法の開発を行い、薬剤治療研究の観点から健全な次世代を育成するための研究を推進していく。

また、ソニーのエンターテイメントロボット aibo による介在療法が慢性疾患を有する小児に与える癒し効果の検証のため、株式会社ソニー、成育医療研究センター病院こころの診療部との共同研究により、「ソニーのエンターテイメントロボット aibo による介在療法が慢性疾患を有する小児に与える癒し効果の検証～小児のコンサルテーション・リエゾン活動における新たな介入として～」を開始し、エンターテイメントロボットによる介入が神経ペプチドや各種サイトカイン等の変動を引き起こすか解析を行っている。

3-1-9 周産期病態研究部

ミッション・目標

周産期の異常は、母子双方に対して緊急かつ集学的な医療介入と、多くの医療資源投入を必要とする。また近年、胎児期の環境が胎児期のみならず出生後も長期にわたり児の遺伝子発現等に影響を及ぼし、その結果、成人後の生活習慣病等の発症リスクを上昇させる可能性が指摘されている。このように、周産期の異常の病因病態解明と適切な管理法の開発は、成育医療上の重要な課題であるが、周産期異常の分子メカニズムは未解明な点が多く、早期の診断や根治的な治療法が確立された疾患は少ない。当研究部は、胎児と胎児付属物の発生・分化異常とそれに伴う周産期病態を、従来の分子生物学的手法に加えてゲノム解析・エピゲノム解析の観点からも解析し、ポストゲノムシークエンス技術を駆使した、新たな周産期医療に資する診断治療技術を開発することを目標とする。

上記目標を達成するために、大きくは二つのアプローチに分けて研究に臨んでいる。第一に、ヒト生殖・発生異常、妊娠合併症の症例から得られた生体試料を用い、特に分子生物学的・遺伝学的解析に重点を置いて解析している。流早産、胎児発育異常、妊娠高血圧症候群等の未知の病因病態を解明し、診断治療技術への貢献を目指す。第二に、これらのヒト症例で得られた知見を発展させ、培養細胞や実験動物も利用し、発生異常の分子メカニズム解明、特にエピゲノム異常を生じる機序の解明を行っている。

以上の二つの中核となるプロジェクトに加え、マイクロアレイ技術や次世代型シークエンサーなどを積極的に応用し、先進的なヒト異常妊娠の診断法開発を行う。共通機器として導入された次世代シークエンサーの運用を中心に、ゲノム解析とエピゲノム解析体制を構築し、IRUD をはじめとするセンター内外の研究者の解析支援と診断支援を行っている。

これらの研究は、我々の研究部が直接の目標とする周産期医療の発展のみならず、出生後の長期的な児の発育発達研究や、がんの発症機序や再生医療における品質評価など、広く成育医療に貢献する知見を提供できると期待される。

研究体制

部　　長: 秦　健一郎

室　　長: 中林　一彦(周産期ゲノミクス研究室)

河合　智子(胎児発育研究室)

併任　山口　晃史(母体管理研究室)

研究員　: 冨川順子、田山千春

共同研究員: 久須美真紀(山王病院産婦人科医員)、右田王介(聖マリアンナ医科大学小児科講師)、瓜生英尚、大西英理子、緒方広子、岸本洋子、谷口公介、坂本美佳、松原圭子、小出馨子、小島一晃、嘉村浩美、高山有香、石渡啓介、川崎範子

大学院生　: 春日義史、加藤紀子、佐藤泰輔、漆山大知、鹿島晃平、高橋健、堀あすか、伊東紀子、菊池弘輝、木下史織、竹間恒祐

活動状況

当研究部は、周産期における様々な疾患を、配偶子形成や胎児・胎盤の発生分化および母体環境の観点から、分子生物学的あるいは分子遺伝学的に解析し、病態解明や診断治療応用に資する研究成果を発信することを目指している。また、センター共通機器として導入された次世代シークエンサーの運用を行い、IRUD をはじめとするセンター内あるいは外部の成育疾患研究者のシークエンサー利用および解析をサポートすると共に、培った技術を基に下記の我々の独自研究にも積極的に利用している。

1 周産期関連疾患の病因・病態解明

1.1 早産・胎児発育遅延のエピゲノム解析

1.2 周産期未診断症例の病因同定及び新たな遺伝学的診断手法開発

2 周産期の疾患にかかわるエピゲノム制御機構の解明
2.1 DNA メチル化制御機構の解明
2.2 胎盤における転写後修飾の生理的意義の解明

1. 周産期関連疾患の病因・病態解明

異常妊娠の分子遺伝学的な特徴を解析し、病因・病態の解明を目指す。以下にその背景と仮説、目的の詳細を記す。

DNA やヒストンのメチル化は、DNA の配列変化を伴わずに遺伝子機能を変化させ、その変化は細胞分裂を経て娘細胞に伝達され得る。このような後天的修飾（主に化学的な修飾）による遺伝子機能変化は、遺伝子配列を介さない遺伝情報の伝達であり、従来の遺伝学（ジェネティクス）では説明が困難である為、“エピ”ジェネティクスの概念が必要となる。近年特に、エピジェネティックな遺伝子制御の乱れと、疾患との関連が注目を集めている。我々が焦点を当てて解析を行っている DNA メチル化による遺伝子発現制御は、その生理的機能の理解が比較的進んでいる代表的なエピジェネティックな現象の一つであり、ヒトの発生と生存に必須の機構である。DNA メチル化の異常（エピジェネティックな異常）が起こると、遺伝子発現異常が起こり、疾患が発症することが知られているが、前述のようにこれらの疾患では遺伝子配列に変異が存在しないため、従来の遺伝学的解析では病因病態を解明する事が困難であった。DNA メチル化による遺伝子発現制御の代表例として、ゲノムインプリンティングが挙げられる。ゲノムインプリンティングとは、二つある対立遺伝子の親の由来が区別され、常に片親由来の遺伝子のみが発現する現象である。このような振る舞いをする遺伝子は、全遺伝子の数パーセント（数百個）存在すると推測されている。インプリンティングの破綻は、発がんを含む様々な疾患と関連する事が知られているが、特に胎児や胎盤の発生発育異常と関連することが示されている。例えば、先天奇形症候群として知られるインプリンティング異常症は、子宮内胎児発育遅延あるいはその逆に胎児の過成長が主症状として観察される。また、ゲノムインプリンティングやその他のエピジェネティックな遺伝子制御機構に異常を来たしたモデルマウスは、胎仔の発育異常のみならず、胎盤の発生異常により流死産、妊娠高血圧症候群様の症状を呈する。これらの知見は、DNA メチル化を介したゲノムインプリンティング現象が、胎児と胎盤の正常な発生や発育に極めて関連深い生理機構であることを示している。しかし、異常妊娠症例のエピゲノム異常は、ヒトでは系統的に検証されるに至っていない。

一方で、子宮内胎児発育遅延は様々な母体因子及び胎児胎盤因子によって引き起こされ得ると考えられているが、およそ半数の症例は成因不明で、明らかな基礎疾患や染色体構造異常を認めないとされている。また、流産のおよそ半数は、染色体構造異常が同定されず、核型正常と診断されているが、これらの成因不明の異常妊娠症例には、前述のエピゲノム異常に加え、分染法や FISH 法などの従来の染色体検査では同定されなかった未知の染色体微細構造異常（ゲノム異常）が含まれていると仮説を立て、以下の解析を行っている。

1.1 早産・胎児発育遅延症例のエピゲノム解析

母子共に明らかな基礎疾患や合併症・形態異常を有しない胎児発育遅延症例を中心に、成育医療研究センター周産期センターをはじめ、冒頭に示した全国の施設のご協力を仰ぎ、胎児胎盤の発育異常を来たした症例の胎盤組織片・臍帯血・父末梢血・母末梢血の収集と解析を進めている。
エピゲノム解析においては解析目的・規模に応じて複数の網羅的定量的 DNA メチル化解析技術を使い分けている。具体的には、1) 独自に解析領域を設定した定量的 COBRA (combined bisulfite restriction analysis), 2) 遺伝子プロモーター領域を中心とした約 45 万か所の DNA メチル化状態を定量するアレイ法、上記にさらにエンハンサー領域を加えた約 85 万か所の DNA メチル化状態を定量するアレイ法、3) バイサルファイト変換後のゲノム DNA を次世代シークエンサー解析に供する方法（RRBS 法、PBAT 法、WGBS 法）、を運用中である。

早産あるいは発育遅延症例の検体のエピゲノム解析を、東京大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター（高橋尚人教授、鹿島晃平医師）との共同研究により進めた。DOHaD 学説の視点から出生時のエピゲノムがその後に及ぼす影響を解明する目的で、早産児が妊娠 37～40 週にあたる時点の生後の末梢血のエピゲノムを、出生時の臍帯血のエピゲノム、あるいは、妊娠 37～40 週で出生した正期産児の臍帯血のエピゲノムと比較解析を行った。エピゲノム解析は、Infinium HumanMethylation450 BeadChip を用い、ゲノム網羅的 DNA メチル化解析を施行した。解析にあたり、1.臍帯血は妊娠週数の違いにより血球分画が大きく変化すること、2.臍帯血と出生後の末梢血を比較しても優位に存在する血

球が異なること、3.DNA メチル化パターンは血球分画ごとに特異的であること、の 3 点から、血球分画gに特異的なメチル化値を示すプローブ群を同定した reference data を指標に、それぞれの血液検体中の血球の分画の割合をメチル化値より推定した。次に、血球分画のなかで分散拡大要因の高い多重共線性の可能性が疑われる血球分画は除き、早産並びに発育遅延が血球エピゲノムに及ぼす影響を明らかにする回帰モデルにおいて検体間の血球分画の差を補正した。その結果、出生週数に伴って変化する DNA メチル化変化には、メチル化を獲得する領域とメチル化を消失する領域が存在することを明らかにした。個人内の出生時と出生後の血液の DNA メチル化割合の比較により、出生環境に影響され遺残する DNA メチル化変化をそれぞれ検出することに成功した。NIH Roadmap epigenome reference data より、これらのメチル化変化が認められる領域のクロマチン状態を推測したところ、出生週数に伴って DNA メチル化を獲得し出生後も出生週数による DNA メチル化の違いが遺残する、すなわち早産の影響が遺残するゲノム領域に polycomb 修飾を受ける領域が集合していることを認めた。また、出生週数に伴って DNA メチル化を消失する領域にエンハンサー領域が多く含まれ、同じ修正週数サンプルで比較すると、早産症例ほど低 DNA メチル化傾向を示した。すなわち、早産時の妊娠週数が若いほど、その後の DNA メチル化獲得が順当に進まない可能性が示唆された。今回確立した解析手法は、後述の妊娠糖尿病罹患の母から出生した児の臍帯血のエピゲノム解析にも応用しており、今後も血液検体を用いたメチル化解析の研究に広く汎用することができる。

以上は出生後の変化についての解析であったが、並行して子宮内環境が胎児に与える影響についても他の検体を用いて解析を進めた。具体的には、「妊娠中体重増加量が妊婦の栄養状態や子宮内環境を反映している」と仮定し、妊婦の体重変化と出生児臍帯血のエピゲノム変化との相関を検討した。合併症を伴わない妊娠週数 37 週以降の正期産 60 例の臍帯血を解析した。上記 60 例を、日本産科婦人科学会の示す妊婦推奨体重増加量に基づき、7 kg−12 kg の体重増加を適正群、7kg 未満を不足群、12kg より多い増加を超過群とした。臍帯血 DNA は、Infinium HumanMethylation EPIC BeadChip を用い、約 85 万か所の DNA メチル化状態をゲノム網羅的に解析した。母体体重の増加量を連続変数とし、母体体重増加量と関連して変化する臍帯血 DNA メチル化部位を、回帰モデルを用いて同定した。この際、上記で述べた血球分画の補正も同様に行った。その結果、適正群(n = 29)、不足群(n = 22)、超過群(n = 9)の三群すべてを対象にすると、母体体重と有意に相関する臍帯血 DNA メチル化変化は認められなかったが、適正群と不足群だけを対象に解析すると、5 箇所関連して変化する部位を認めた。一方、適正群と超過群を対象に同様の解析を行っても体重増加の連続変数と関連して変化する部位はなかった。すなわち、妊娠母体のやせと肥満の胎児エピゲノムへの影響は背景メカニズムが異なっていると推測された。前述の NIH Roadmap のクロマチン状態の参照データと照合した結果、これらの部位の中には、エンハンサー領域、かつ、既報で在胎週数と関連してメチル化値が消失すると報告されている部位が含まれていた。すなわち、在胎週数、出生体重は適正であっても妊娠中の母体体重増加が十分でないと、幼若なエピゲノムが遺残している（分化が遅延している）可能性が示唆された（投稿中）。

1.2 周産期未診断症例の病因同定及び新たな遺伝学的診断手法開発

周産期の異常の一部には遺伝因子が関わっていると考えられているが、そもそも診断や病因の同定に至っていないものが多い。すでに様々な分野でアレイ解析や次世代シーケンサーが新たな臨床的な検査に応用されつつある。我々は未診断の周産期異常の病因同定と新たな診断手法の開発の開発を検討めざし遺伝手学的手法による解析を実施し成果を得ている。

周産期異常として特に流産、死産を繰り返す家系あるいは原因不明の胎児異常の遺伝因子について NGS 解析を実施しその病因を検討している。具定例として、反復する流産のある家系では親にもごく軽症の同じ遺伝子型をもつ常染色体優性疾患があり、死亡した胎児はその重症例であったと推定された。この症例解析から、同じ遺伝子型の同一遺伝疾患であっても重症度が変化する場合があり、流産・死産胎児には、遺伝性疾患の最重症例が存在することが示唆される。多くの遺伝性疾患では治療法の開発が不十分である。このような周産期異常の解析により重症となった流産・死産胎児と軽症である親の違いを解明することは、理解、新規治療法の開発あるいは重症化予防への重要な知見となりうる。

あるいは周産期の病態には母体、胎児に加え、胎盤のもつ遺伝的背景が影響している可能性がある。胎盤組織はそもそも母体と胎児に由来する組織が混合して生成されているが、とくに絨毛組織は通常の生体とは生育環境条件が大幅に異なり、様々なゲノム変化が許容されモザイクとして存在していると考えられている。母体血を解析ターゲットとする母体血中遊離核酸を用いた NIPT の手法は、胎盤の遺伝学的状況を検討するものであることが明らかになっている。我々は、母体血中の遊離核酸をつかった

検討では染色体異常が疑われたものの、胎児の染色体異常はないと考えらえた例を詳細に検討したこうした例では、胎盤のモザイク状態が胎児の成長に影響を与えていた可能性がある。NGS は、対象となる核酸について定量性をもって解析できる特質をもち、このような混合したゲノムを定量的に検討可能であるため、母体血中遊離核酸を用いた胎児（胎盤）ゲノムに含まれる異常の検出および評価に有用である。これらの原理を応用し、現在、胎児 Rh D 血液型を例にとり遺伝学的解析手法を検討した。Rh D 因子を失う RHD 遺伝子の異常には欠失、点変異、組換えの多様な遺伝子型が知られており、さらに 90%を超える相同性をもつ RHCE 遺伝子が存在するため解析に困難がある。我々は、相同遺伝子や遺伝子変異に伴う変化を遺伝子マーカーとして検出し、その定量性を応用することで、混合した状態のまま遺伝子型を効率よくその遺伝子型を推測する手法を開発した。これらの検討手法を応用することで、未診断の周産期異常のさらなる解明が可能となる。

2. 周産期の疾患にかかわるエピゲノム制御機構の解明

正常な胎児と胎盤の発生分化には、正常なゲノム DNA メチル化パターンが必須である。メチル化パターンの形成機構や維持機構の詳細が明らかになれば、異常妊娠で見出されたエピゲノム異常の原因や発症時期（散発性・親世代の胎児期・親世代の配偶子形成過程・受精後・分化後、等々）を推測する事が可能となる。これらの知見は、分子診断や遺伝カウンセリングへの直接の貢献が期待できる。また、分子生物学的な解析と知見が乏しい胎盤に着目し、未知の胎盤特異的発生分化制御機構を解明し、周産期異常の新たな診断分子マーカーの開発を目指す。

2.1 DNA メチル化制御機構の解明

細胞分化に重要な遺伝子を適時適所で発現する過程に、DNA あるいは DNA を取り巻くタンパク質の化学修飾の変化を介したエピジェネティック制御は、重要な役割を果たしている。この制御の上位機構が解明されれば、様々な疾患の病態解明や幹細胞の特性解明のブレイクスルーとなり、新たな治療法の確立、あるいは周産期領域にとどまらず再生医療やがんの研究にも重要な知見をもたらす。エピジェネティック制御異常との因果関係が証明されている例として、ゲノムインプリンティング異常症とインプリンティング領域の DNA メチル化異常が知られている。このような特殊な DNA メチル化を受ける領域が数十カ所知られているが、これらがどのような機構で系統的に認識されて特異的な DNA メチル化を受ける（あるいは維持される）のかは不明な点が多い。通常確定診断では、各疾患の責任領域しか検査されないが、仮に上位機構に異常があれば、複数の領域（疾患とは直接関係ない領域）にも DNA メチル化異常が生じているはずである。そこで以前より、従来法ですでに診断がついている症例を中心に、責任領域として知られている領域以外の DNA メチル化異常もスクリーニングすることを進めてきた。その中で、狙い通り複数個所で DNA メチル化異常を示す症例が補足され（分子内分泌研究部　鏡室長との共同研究）、これらの症例のエクソーム解析を行った。その結果、エピゲノム関連因子（ヒストン修飾酵素遺伝子）に、これまでに報告のないミスセンス変異を同定しシステム発生・再生医学研究部(高田修治部長)との共同研究でゲノム編集技術により患者と同じ変異を有するモデルマウスを作製した。このマウスは、患者と同様発育不全等の表現型が認められたことより、同変異は病因変異と考えられる。本症例は、ヒストン修飾異常と二次的な DNA メチル化異常が病態の本質であり、現在詳細な分子病態解析を進めている。

2.2 胎盤における転写後修飾の生理的意義の解明(H30)

マウスをモデルとして用い、初期胚発生における経時的クロマチン修飾プロファイルを取得し、胎盤発生分化におけるエピジェネティック変化の筋道となる重要部位を選出する。周産期疾患の診断に有用なバイオマーカー探索を目的とする。

ES 細胞と TS（Trophoblast Stem）細胞を用い、胚体組織と胚体外組織の分化最初期時のクロマチン構造を、Chromosome Conformation Capture (3C) 解析法、さらに Hi-C 解析法（染色体間または同一染色体内における相互作用領域をゲノムワイドに検出する方法）、4C-seq 法（Hi-C ライブラリーの一部を特定のゲノム領域配列プライマーとアダプター配列で増幅しサブライブラリー化することで、特定部位（アンカー）と相互作用する領域を網羅的に同定する方法）を用いて解析を進めている。胎盤初期発生分化のマスター制御転写因子のひとつである TEAD4 遺伝子のプロモータ領域を対象とした解析により同一染色体上あるいは異なる染色体上に位置するエンハンサーの同定に成功した（投稿中）。

LGA (large for gestational age) 児の胎盤で強発現している FTO（Fat mass and obesity-associated）

遺伝子は、ゲノム疫学研究により肥満との関連が知られておいたが、その機能は mRNA の脱メチル化（m6A 修飾の脱メチル化）酵素であることが最近報告された。そこで、ヒト胎盤を対象としたエピトランスクリプトーム解析（m6A 修飾を受けた mRNA の網羅的定量的同定）により m6A 修飾プロファイルを取得した。その結果、m6A 修飾量と mRNA 発現量は相関していないことを認めた。さらに、5’UTR (untranslated region) の m6A 修飾に、SGA (small for gestational age)児の胎盤と AGA (adequate for gestational age) 児の胎盤で差が認められた。また、LGA 児の胎盤では、m6A 修飾が最も多い終始コドン近傍の mRNA m6A 修飾が AGA 児の胎盤に比べて減少していた。終始コドン近傍に m6A 修飾を受ける mRNA は転写関連遺伝子に有意に高頻度に認められ、この結果は胎盤以外の臓器で報告されている結果と一致していた。すなわち、胎盤で発現している遺伝子の一部は、転写後修飾によって発現量を厳密に管理されていることを示唆している。例えば SGA 児の胎盤で m6A 修飾が多く認められた SMPD1 (Sphingomyelin Phosphodiesterase 1) 遺伝子は、酸化ストレス応答に関連しており、妊娠高血圧症との関連が示唆される。絨毛癌由来細胞を TGFb で刺激すると SMPD1 タンパク質発現量を上昇させることが知られているが、mRNA レベルは変化せずに 5’UTR m6A が有意に増加することを独自に確認した。これらの結果は、従来のトランスクリプトーム解析では気づかれなかった関連因子を、エピトランスクリプトーム解析で推定できる可能性を示唆しており、胎盤にかかわらず広く病態解析に応用できる知見である（投稿中）。

3-1-10 社会医学研究部

【ミッション】

社会医学研究部は、複数の疫学研究手法を用いて、胎児期から幼少期の環境が小児及び成人期の健康に与える影響を調べています。主に、小児期や子育て家庭における各種疾患や社会的困難の原因を追究し、研究から得られた成果から、安心して妊娠・出産・育児できる環境を社会に提案することを目標としています。

当研究部の構成員は疫学、統計学、社会学、遺伝学、精神保健、栄養学、小児科学、周産期医学、子どもの認知・行動および社会情緒発達等の幅広い専門知識を有しています。このため、全国の大規模な統計情報や医学情報データベース等を活用した研究から、地域レベルでのリクルート・試料採取を行うフィールドワークや記述的な研究まで、多岐にわたる研究手法を用いています。

また、2016 年より 6NC プロジェクトとしての電子的臨床研究基盤整備事業を、研究所・臨床研究センター・病院・情報管理部の施設横断型組織として運営しております。

疫学研究とは、様々なコラボレーションを通して、より質の高いそして代表性の高い研究を遂行していけるものだと、私たちは信じています。

【研究体制】

部長: 浦山ケビン
室長: 加藤承彦(行動科学研究室)
室長: 森崎菜穂(ライフコース疫学研究室)
研究員:三瓶舞紀子、半谷まゆみ、田中久子、Aurelie Piedvache、
共同研究員:小川浩平、鈴木朋、本多由紀子、谷友香子、雨宮愛理、小林実夏、可知悠子、大久保祐輔、安達絵美、安藤恵美子、原田正平、伊藤淳、藤原武男、大西香世、谷川朋幸、市瀬雄一、青木康太朗、山岡祐衣、関口倫子、阿部惠理、
研究補助員:鮎川洋子、小林しのぶ、明田美和子、小林早苗
研究補助者:中野弘美、三浦智子

【主な研究内容とその概要】

◆小児がんに関する研究

私たちは、小児がん発症に関する遺伝要因および環境要因を含む様々な側面に関して、いくつかの疫学研究を実施しています。また、小児がんサバイバーにおける、晩期合併症とQuality of life に関する調査も実施しています。具体的には、下記のような研究を実施しています。

東京小児がん研究グループ(TCCSG)と協力して、小児 ALL 患者の疾患発症リスクや臨床経過に関連する遺伝子多型を同定するために、生殖細胞系列の DNA の全ゲノム領域の SNP をタイピングしゲノムワイド関連研究(GWAS)を行っています。

母親の妊娠中に胎児がおかれる子宮内の環境、そして出生後の幼少期の環境が、将来、小児血液がんの発症にどのような影響を与えうるかについて、妊娠中や出産後の母親と子どもの生活環境と、母親と子どものが持つ遺伝素因の両方を調べることにより明らかにしています。父母児の生殖細胞系列の DNA を同時に解析することで、母体と子どもの環境要因と遺伝素因がどのように相互作用し小児血液がんの発症に関与しているのかを調べています。

治療を終了した患児を長期追跡する研究「小児血液・腫瘍疾患の長期フォローアップを目的としたコホート(NCCHD Lifetime Cohort)」において研究デザインの考案、データマネジメントを担当しています。小児がん経験者を対象に継続的な情報・試料収集を行い、複数の次元にわたる情報を包括的に解析する技術を用いることで、小児がん経験者の晩期合併症を予測するモデルの開発を目指しています。

◆小児の栄養状態に関する研究

DOHaD 仮説の検証を主たる目的としている成育母子コホートの研究チームの一員として、妊娠時や幼少期の食生活・食習慣及び食への意識が児の成長発達および内分泌代謝機能に与える影響を調べています。(東京大学との共同研究)

また、東京都世田谷区において、肥満児に対する社会的認知理論に基づく父親に重点を置いた家族介入プログラム(非対面版)の有効性評価:無作為化比較試験を実施し、同区の小児生活習慣病予防検診に関するデータ解析も行っています。

さらに環境庁によって行われているエコチル調査データを活用して、妊娠中の生活習慣および栄養が、児の成長発達および内分泌代謝機能に与える影響を調べています。(九州大学との共同研究)

◆大規模データベースを用いた研究

診療報酬(DPC)データベースを用いて、成育領域における各種疾患に対して、重症化や再入院のリスクや、医療経済に与える影響の検討、さらには入院患者のトレンド解析や異なる治療法による治療効果および入院費用を比較する研究を行っています。(東京大学との共同研究)

また、レセプト情報 (NDB)を用いて、抗生剤の使用の現状を調べています(当センター感染症科との共同研究)

また、人口動態統計個票データを用いて、日本における妊産婦死亡数の産出および死因に関する研究や、各種疾病(18 trisomy, 21 trisomy, 脳性麻痺)を持つ児の死亡年齢、死因および生前に受けた治療に関する分析、在胎 22-24 週での出生に対する蘇生提供に関する研究、低出生体重児増加が小児期・成人期の長期予後に与えている影響の解析、を行っています(東京大学法学部、他 9 カ国の疫学研究者との共同研究)

◆社会環境が母子の健康に与える影響

自治体内の小中学生及びその家族を対象として、生活習慣、世帯環境、健康状態を把握し、社会経済的に不利な立場にある世帯や子どもへの効果的な政策や支援の評価と検討を行っています。(東京都足立区および東京医科歯科大学との共同研究)

厚生労働省の 21 世紀出生児及び成年者縦断調査等の全国データを用いて、日本の成育環境の問題点を検証し、産み育てやすい環境を整えるための研究を行っています。

厚生労働省による市町村における母子保健対策に関する調査データを活用して、どのような市区町村の事業が、子どものけがや親の子育て困難感や乳幼児の正常な発達・虐待予防に関連があるのかを検討しています。(山梨大学および東京大学との共同研究)

3-1-11 政策科学研究部

【ミッション・目標】

当研究部のミッションは、成育医療および保健に関連する情報を収集し分析することで、健全な次世代育成に資する政策提言・情報発信・研究活動を行うことである。根拠に基づく政策の枠組みが変化する中、それに合わせるように、研究の方向性として、以下の四つの柱を立てて研究している。

第一の柱:成育医療・保健の政策に関する理論的研究

成育医療や保健分野の特徴を踏まえつつ、医療や保健政策の在り方やアウトカム評価、適切な政策選択、政策の意思決定など、理論的研究を行っている。

第二の柱:系統的レビュー(コクランレビュー)をはじめとする統合的研究の推進

成育医療やより広く健全な次世代育成のための科学的根拠に関して、最新の検索技術を行う網羅的に検索し、根拠の質を系統的に分析し、統合的な分析手法(メタ解析)を行うことで、根拠に基づく政策のための根幹部分を示し、費用対効果分析をはじめとする医療技術評価、客観的総意形成法を行うことで、政策や診療に直結する研究を行い、市民向け、研究者向けの情報発信を行っている。

第三の柱:成育医療・保健に係るデータベースの構築と利活用

小児の慢性疾患に関する小児慢性特定疾患治療研究事業データベースや周産期医療に関するデータベース、さらには政府統計なども含め、成育医療・保健に関連したデータベースを構築し、データベース間の連結や、必要に応じて政策に資する一次データの収集を疫学研究フィールドで行い、高度な統計分析を行うことで、現状把握や新たな治療法や政策への端緒、あるいは政策の評価につながる研究を行っている。

第四の柱:成育医療・保健の介入研究を含めた政策評価

政策介入の代表的研究デザインであるクラスターランダム化比較試験などを用いて、成育医療や保健に関する介入の評価を行っている。また、当研究部は、国立成育医療研究センター病院や東京大学をはじめ、国内外から多数の医師・研究者が当研究部の共同研究員として研究を行っている。

【国際共同研究パートナー】

コクラン共同計画、世界保健機関、バングラデッシュ国際下痢性疾病研究所、国際協力機構、ロンドン大学教育学研究所、カナダ新生児ネットワーク、モンゴル国立母子保健センター、モンゴル体育大学、モンゴル国保健省、アブジャ医学教育大学、アンゴラ保健省

【国内共同研究パートナー】

日本小児科学会、神奈川県横浜市、東京都世田谷区、東京大学、京都大学、東京女子医科大学、筑波大学、NPO 法人コクランジャパン

【研究プロジェクトの概要】

1)コクラン共同計画・NPO 法人コクランジャパンとの連携

NPO 法人コクランジャパンなどと連携し、コクランレビューの作成法に関するワークショップを開催して国内外の研究者がコクランレビューを作成するための支援を行いつつ、研究部から成育医療に関する最新の科学的根拠をコクランレビューの形でまとめ、世界に発信している。

2)全国周産期医療施設データベースと国際連携

日本未熟児新生児学会と連携し、全国新生児医療施設の極低出生体重児の疾病登録に関して、診療の質向上に関連したデータ分析と、クラスターランダム化比較試験に貢献している。また、本データベースの日本代表として、10の先進国の同様の疾病登録と連携して国際共同研究を行っている。

3)妊産婦とそのパートナーのメンタルヘルスに関する研究

世田谷区や愛知県の分娩施設において、妊産婦とそのパートナーの妊娠期から産褥期におけるメンタルヘルスの縦断調査や予防介入を目的とした無作為化比較試験を行っている。また、「イクメンブーム」の変遷に関して、社会学的な分析も進めている。

4)小児・思春期における健康課題の抽出や科学的根拠の整理に関する研究

わが国における子どもの身体的・精神的・社会的(biopsychosocial)な健康課題を抽出することを目的に、その疫学的特徴を年齢別に把握するとともに、各健康課題に応じた保健指導や予防的介入方法に関する科学的根拠をまとめている。

5)世界保健機関・周産期ガイドライン作成(G.R.E.A.T Project)、世界周産期調査

世界保健機関による周産期医療分野のガイドライン作成に貢献している。また、世界29か国で同時に行う、周産期医療の横断調査の日本担当として、調査に協力し、全体の分析も行っている。

6）費用対効果分析と根拠に基づく医療政策に関する理論的及び実証的研究
　医療的介入に関する費用対効果分析を行うと同時に、診療ガイドラインや医療政策における費用対効果分析の役割、さらに根拠に基づく医療の新しい枠組みに関して理論的研究を行っている。またロンドン大学教育学研究所と理論的研究の系統的レビューに関する共同研究を行っている。
7）子どもの健康と福祉に関する総合評価に関する研究
　健常児や障がいを持つ子どもたち、さらに慢性疾患に罹患している子どもたちの総合的な健康や福祉に関する指標や評価法の開発を行っている。
8）モンゴル国における運動介入と脳機能の関連に関する介入研究
　モンゴル体育大学、筑波大学と共同で、ウランバートル市の一つの地区にあるすべての公立小学校を対象に、高強度インターバルトレーニング理論による短時間の運動を定期的に実施することによる、脳機能や学力、心身の健康状態への影響についてクラスターランダム化比較試験を実施している。
9）バングラデッシュ国地域および施設連携介入による母児の健康改善に関する研究
　JICA およびバングラデッシュ国際下痢性疾病研究所（ICDDR,B）と連携して、バングラデッシュ国における地域介入と施設マネージメント能力強化の連携による母児の健康改善に関する研究を行っている。また、日本学術振興会の助成を受けて、母子手帳利用強化と母児の健康改善に関する研究も実施している。
10）ナイジェリアにおける妊婦の栄養状態と体重増加や母児の健康に関する研究
　妊娠糖尿病が妊娠中の体重増加や母児の出生時のアウトカムに及ぼす影響について、ナイジェリアのアブジャ医科大学と共同で、妊婦を追跡する縦断研究を実施している。
11）遠隔医療相談の利用実態および有効性に関する研究
　遠隔医療相談サービス「小児科オンライン」について、その利用者の実態把握を目的とした利用者のアンケートのデータ解析を行うとともに、遠隔医療相談の有効性について、横浜市栄区にて無作為化比較試験を実施している。
12）アンゴラにおける母子健康手帳の有効性に関する介入研究
　JICA の母子保健プロジェクトの一環として、アンゴラ国保健省とともに、母子健康手帳の導入・配布が継続的な母子保健サービスや母子の健康状態に与える効果について、クラスター無作為化比較試験による評価を計画・実施している。
13）子どもにおける Well-being や DALY（障害調整生命年）の開発に関する研究
　子どもにおける各疾患の Disability weight と NDB データを用いた有病率をもとにした DALY の算出、および、小児における QOL の評価指標である CHU-9D の日本語版の開発に取り組んでいる。低出生体重による成人期生活習慣病も含めた中長期的な疾病負担に関する推計を行っている。
14）保育の質・安全に関する研究
　保育の質・安全の向上を目指し、保育者数や保育室の広さといった設置基準の各要因と、事故の発生や子どもの育ちとの関連について研究を行っている。保育施設の事故統計・事故事例データベースの分析や、保育者・看護職を対象としたヒアリングや調査を計画・実施している。
15）妊産婦死亡の実態把握に関する研究
　人口動態調査のリンケージを用いて、分娩から一年以内の女性の死亡に関する統計を作成し、死因の解析を行い予防可能な妊産婦死亡の検討を行っている。

【研究体制】
部　　長：森臨太郎（～平成 30 年 11 月 25 日）
室　　長：竹原健二、蓋若琰（～平成 30 年 12 月 31 日）
上級研究員：盛一享徳
研 究 員：山本依志子、西田俊彦（～平成 30 年 5 月）、宮崎セリーヌ（～平成 30 年 7 月）、Chibueze Chioma Ezinne（～平成 30 年 6 月）、Olukunmi Balogun、川﨑麻紀、須藤茉衣子、辻麻里子、蓋若琰（平成 31 年 1 月～）
共同研究員：諏訪敏幸、橋本直也、柳川侑子、鈴木博道、森桂、山本周平、豊島義博、芹澤優子、澤田樹美、友カロリネ香織、安藤友久、MO XIUTING、片岡智恵美、瀬川道和子、久貝太麻衣、茂木成美（～平成 31 年 2 月）、田中俊之、青木藍、岡田理子、佐伯雅代（平成 30 年 10 月～）、藤牧須美枝、Tippawan Liabsuetrakul（平成 30 年 5 月～）、新村美知（平成 30 年 8 月～）、山路野百合（平成 31 年 3 月～）、

研究補助: 明田美和子(～平成 31 年 2 月)、茂木成美(平成 31 年 2 月～)、小坂菜美、
事務補助:渡邊康子(平成 30 年 10 月～)、竹中京姫(～平成 30 年 8 月)、清水友里加(～平成 30 年 11 月)、保田桂、清水桃子(平成 30 年 11 月～)、加藤直美(平成 31 年 2 月～)

3-1-12 医療機器研究開発部

1. 概要

ヒトに最適な新しい医療環境を提供するための医療ヘルスケア産業が重視され、大企業でも医療ヘルスケアに関連する開発・製造が注目され、研究・開発・製造・販売へ至るスピードが増してきている。しかし日本では日本における医療機器類の75パーセントが輸入であり「医療産業インフラ」と「医療ヘルスケア産業に関わる人的資源」が薄い。これは多くの製造販売業が研究・開発でのリスクを避け、研究・開発を行わず、輸入に頼る産業構造であったためである。これからは日本での研究・開発・製造を行い「aporia：難問」を克服する日本の医療機器をめざさなければならない。そのため医療ヘルスケア環境を俯瞰した視点で見ることができる「統合知による機器開発」という考えを持つ必要があり、戦略的に自ら統合的に企画し、研究・開発でき未来を提言できる人材育成が必要だと考える。国際的競争力のある医療機器を生み出すにはいままでにない全く新しい医療装置や医療用ロボット、未来型救急車そして高機能医療行為の可能なドクターカー（救急車ではなく高機能救急医療モビリティ）や医療行為が可能なヘリコプター型モビリティまで拡げ、人工関節や人工臓器など人体へ積極的に関わることも必要である。将来的には人体にインプラントされる咀嚼する顎関節ロボット、また映画「ミクロの決死圏」のような人体の中で活躍するナノ・サイズの医療ロボットなどの開発も検討、日本オリジナルの医療機器を研究・開発をしなくてはならない。

2. 対外活動

2.1 九州先端リハビリテーション・ケアクラスタ推進機構での記念講演

2018 年 2 月 16 日に開催された九州先端リハビリテーション・ケアクラスタ推進機構での講演において、心療的や精神的なことにかぎらず、新しいアプローチとして、具体的に「睡眠」と「プロダクト」の関係、睡眠への物理的環境として研究開発したプロトタイプを例にスピーチを行なった。

2.2 台湾・台北における「5% Design Action Up」におけるスピーチ

2018 年 4 月 20-23 日の日程で台北にて開催された台湾政府主催「5% Design Action Up」において、地域包括ケア、新しい病院の役目、広域医療産業群(ABMG)の構築についてスピーチを行なった。

2.3 日本デザイン学会におけるオーガナイズドセッション

2018 年 6 月 22 日―24 日の日程で大阪にて開催された第 65 回日本デザイン学会にてオーガナイズドセッションを行なった。

その中でこれからのリモートサージェリ、その実践形態の構成、高度なコンピュータの利用および AI の治療での利用について検討・研究の概要について議論した。

2.3 日本病院学会における講演

2018 年 6 月 29 日に金沢にて開催された第 68 回日本病院学会にてこれからの地域包括ケア、その実践形態の構成、スーパーコンピュータの利用およびAIの病院での利用について検討・研究の概要について新しい思考基盤を提供した。

2.4 日本ヘルスケア・ダイバシティ学会での講演

2018 年 7 月 27-29 日に大分にて開催された第 2 回日本ヘルスケア・ダイバーシティ学会において、医療機器の研究開発の概念と,モノ作りとしての「思考」と「創造」について、また新しい医療機器を創り出すプロセスについて講演した。

2.5 シンガポール大学での小児用医療機器、小児用喉頭鏡についてのプレゼンテーション

2018 年 9 月 3 日シンガポール大学・大学病院にて小児用医療機器についての研究会議

2.6 マラヤ大学での小児用医療機器、小児用喉頭鏡についてのプレゼンテーション

2018 年 9 月 4 日マレーシア、マラヤ大学・病院にて小児用医療機器についての研究会議

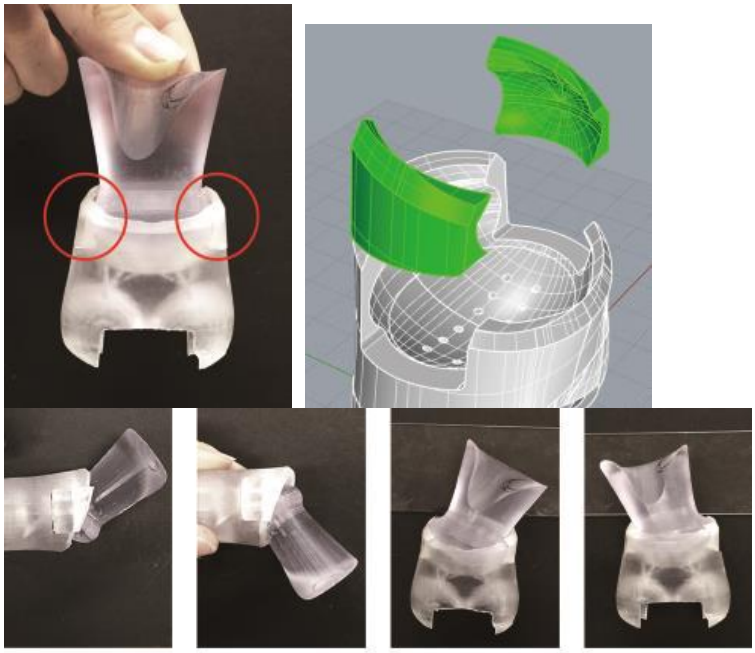
2.7 IDA：International Design Association2018 にて講演

2018 年 12 月 22-25 日上海で開催された IDA2018 で医療機器の開発事例を発表した。

3. 研究活動

3.1 橈骨手根関節部の軸中心を持たない構造

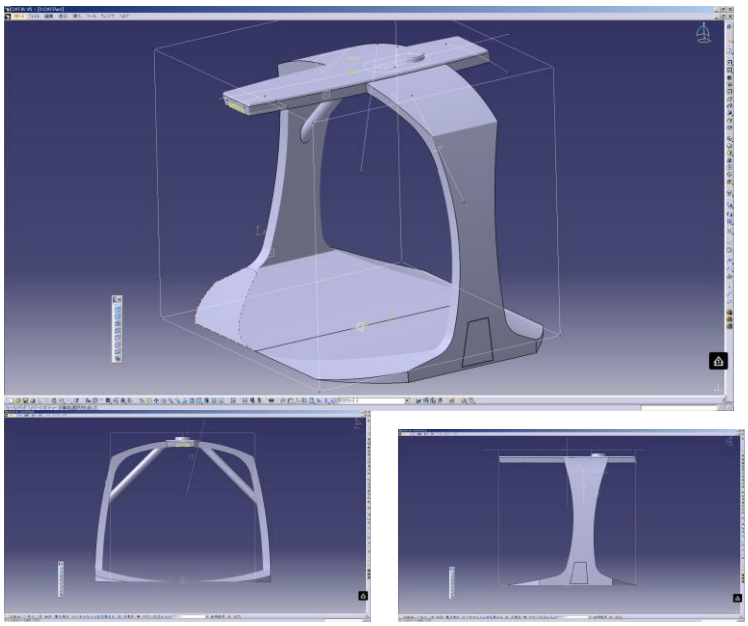
手首の橈骨手根関節部の軸中心を持たない構造を研究開発し、スムーズな手首の回転を行なう義手、ロボットハンドの開発を進める。



背屈　　掌屈　　橈屈　　尺屈

3.2 小児頭部固定用位置決めデバイスの開発

小児頭部固定用位置決めデバイスの初期プロトタイプ



3-1-13 エコチル調査研究部

Ⅰ.概要

平成 23 年に環境省の事業として、環境中の物質がこどもの成長や健康にもたらす影響を明らかにするための調査「エコチル調査」がスタートした。国立研究開発法人国立環境研究所（以下、コアセンターとする）が事業の集約的管理を行い、事業を医学的側面から支援する機関として当センター内にメディカルサポートセンターが設置された。エコチル調査では、10 万人を対象に主に質問票でデータを収集する「全体調査」に加え、全体調査の対象者の中からランダムに抽出した 5000 人を対象に、小児診察、血液検査、家庭訪問等によって、質問票のみでは得られないより詳しいデータを収集する「詳細調査」を実施する。当センターでは、各専門分野のプロジェクトを組織し、調査対象とすべきアウトカムやその測定手法の選定・評価を進めている。また、事業内から寄せられる医学的な質問等に対しアドバイスを行っている。

Ⅱ.組織

メディカルサポートセンター長：大矢 幸弘
同特任部長：山本 貴和子
同副特任部長：目澤 秀俊
ワーキンググループ及びプロジェクトリーダー：
（ワーキンググループ）
質問票作成：大矢 幸弘
医学的検査：山本 貴和子
（プロジェクト）
精神神経発達：小枝 達也
内分泌：深見 真紀
アレルギー：松本 健治
小児生活調査：大矢 幸弘
遺伝子解析検討：秦 健一郎
二次調査検討：目澤 秀俊
アドバイザリーボード：斎藤 博久，奥山 眞紀子，石黒 精，左合 治彦，橋本 圭司，原田 正平
医師研究員：山本 貴和子，目澤 秀俊，石塚 一枝，齋藤 麻耶子，佐藤 未織
博士研究員：佐々木 八十子，西里 美菜保，小西 瑞穂，羊 利敏

Ⅲ.活動状況：平成 30 年（平成 30 年 1 月 1 日～平成 30 年 12 月 31 日）

ワーキンググループの運営・会議開催

以下2つのワーキンググループをメディカルサポートセンターの中核組織として設置し、臨床医学の専門的立場から起案・検討を行った。

1） 医学的検査ワーキンググループ
6歳詳細調査の医学的検査・精神神経発達検査の実施にむけて、調査実施施設向けの研修会の準備を行った。また、8歳パイロット調査の調査項目や実施手順を決定するための予備研究を実施した。

2） 質問票作成ワーキンググループ
各専門プロジェクトおよびコアセンターから起案された質問項目をとりまとめ、全体調査の9歳、小学3年生、パイロット調査の10歳、11歳、小学5年生の質問票の素案を作成した。

プロジェクトの運営・会議開催

医学的検査及び質問票作成ワーキンググループの成果が着実に進展することを目指して、以下6つの専門分野プロジェクトを設置し、質問票調査項目や医学的検査における測定項目・測定方法を検討した。必要に応じて予備研究（妥当性検証等）を実施した。また、調査の企画立案を目的とした勉強会を開催し、外部専門家の助言をうけながら検討を進めた。

1） 精神神経発達分野プロジェクト
2） 内分泌分野プロジェクト
3） アレルギー分野プロジェクト
4） 二次調査検討プロジェクト
5） 小児生活調査プロジェクト（小児食事調査票開発プロジェクトから名称変更）
6） 遺伝子解析検討プロジェクト

アウトカム測定に関するフォローアップ計画の立案

国内外で実施・企画されている出生コホート研究についての調査を実施した。国際学会や現場訪問などの交流を通してエコチル調査の広報活動を行うとともに最新の情報収集を行い、国際連携が可能となる調査を実現すべく、長期的な視点に立ったアウトカム測定項目について検討を行った。また、調査で得られたデータを活用し成果発表を行った。

各種資料の作成支援及びユニットセンターとの連携支援

コアセンターにおいて作成する資料に対し医学的観点から助言を行い支援するとともに、資料成などを行った。また、コアセンターと協力し、調査計画の立案や調査の実施に関するユニットセンターとの連携がより潤滑になるよう適宜会議や研修を開催するとともに、医学的指導の役割を担った。

各種委員会等への出席

コアセンターや環境省等が主催する、エコチル調査に係る各種委員会等へ出席し、臨床医学の専門的立場からコアセンターを支援した。

アウトカム関連データのクリーニング作業

コアセンターの指示のもと、アウトカム関連データ（既知の交絡因子を含む）のクリーニング対象項目や修正手順を決定し、データ固定作業をサポートした。

3-1-14 実験動物管理室

1.概要

実験動物管理室は、動物実験において感染症が発生しない衛生的な飼育管理を実施指導し、動物福祉に配慮した飼育、実験環境を提供する。また、実験動物委員会を通じて適正な動物実験や法規についての最新情報の入手に努め、実験動物講習会やホームページなどを通して情報提供する。研究支援としては、遺伝子改変動物の作製支援、胚保存や動物の清浄化を積極的に推進する。また、研究面では遺伝子改変マウスを利用し、胎児の初期発生を検討している。

2. 業務活動

2.1 講習会の実施

毎月 1 回、新規利用者に対して利用者講習会を実施している。動物愛護法と実験動物の飼養と管理に関する基準の概要を説明し、動物愛護の精神を持って実験が遂行されるよう指導している。

また、動物施設は共同利用施設であり、その使用ルールが定められており、その実際の手順も説明している。平成 30 年は 40 名の新規受講者に対して講習を行った。

2.2 動物実験計画申請書の審査

研究所内で行われる動物実験はすべて動物実験計画書を提出しなくてはならない。実験動物委員会は動物実験計画書の内容、使用頭数など動物福祉に沿った実験であるかどうかを適正に審議し承認するか検討している。平成 30 年は 56 件の継続申請と 3 件の新規申請があった。

2.3 微生物モニタリング

ブリーダー以外の外部機関からの動物の導入は、受精卵もしくは凍結精子で個体復元を行っての導入を行なっている。平成 30 年 5 月に A4 室、IVC で未同定原虫が見つかり現在経過観察中である。

2.4 遺伝子改変動物の作製支援と胚保存

平成 30 年はトランスジェニック動物の作製支援(1 件)、受精卵精子凍結(29 件)、個体復元(4 件)などの研究支援を行った

2.6 動物慰霊祭と実験動物利用者再教育

平成 30 年 12 月 13 日に研究所2階セミナー室で実験動物慰霊祭が行なわれた。また、実験動物の再教育も行なわれた。

再教育の内容

平成30年再教育(平成30年12月13日11時～11時30分)

出席者123名

1、3R の確認と動物実験の重要性(松原所長)

2、カズオ・イシグロと動物実験(斎藤所長補佐)

3、実験者による動物実験への影響と麻酔薬の進歩(津村室長)

3. 研究活動

3.1 膜蛋白 CD98 の解析

CD98 の生理機構についてはアミノ酸のトランスポーター、リンパ球の活性化因子、細胞融合制御因子、接着因子との関連性などが報告されている。それらの機能をさらに解析するために CD98 のノックアウトマウスを作製したが、胎生致死であったため詳細な働きは不明であった。また、受精や胎盤においても、細胞融合は重要なイベントでありそれに CD98 が関与しているという報告もある。それらを解析するため、コンディショナルノックアウトマウスを作製し検討した。その結果、マクロファージの細胞融合に重要な働きをすることを示した。また、破骨細胞の分化にも CD98 分子が関係している結果を得え、論文発表した。さらに、CD98 関連分子(Slc7a5,Slc1a5)のノックアウトマウスも作製した。Slc1a5 欠損マウス骨髄細胞から破骨細胞への分化は抑制されており、細胞内へのグルタミンの流入が重要であることが示された。

3.2 網膜色素変性マウスのゲノム編集治療

CBA/J マウスは遺伝的に網膜色素変性症を発生する。原因遺伝子は Pde6b(ホスホジエステラーゼ 6B)の1塩基置換により発症すると報告されている。CRISPR/Cas9 により、この変異を正常にもどし、実

験動物としての CBA/J マウスの再評価を行った。CBA/J は CRISPR/Cas9 によって正常遺伝子を導入する事により桿体細胞が認められ視力の回復が期待された。断崖試験を実施したが、網膜組織が正常にも拘らず網膜変性を持ったマウスとその行動は同じであった。今後、断崖試験がマウスの成長と経験によってどう変化するかを検討予定である。

動物実験施設飼育準備前室

胚移植室

3-1-15 ラジオアイソトープ管理室/移植免疫研究室

【ミッション・目標】

研究活動においては、種々の臓器移植、自己免疫疾患、慢性炎症モデル、あるいは *in vitro* の評価系を用いて、免疫寛容の誘導・維持に関与する分子・細胞の機序の解明を行っている。また、制御性 T 細胞、iPS 細胞由来制御性樹状細胞(DC)、ミエロイド由来抑制細胞(MDSC)、間葉系幹細胞を用いた免疫制御細胞療法(Cell Based Therapy)を確立するための基礎研究を行っている。さらに、新規免疫抑制剤、新規臓器保存法の開発を数社のベンチャー企業と精力的に行っている。近い将来これらの成果を移植医療・再生医療へ応用することを通じて、移植後患者の QOL の向上、医療費の削減に繋げていきたい。

一方、業務活動は、ラジオアイソトープ施設の整備維持と安全運営、変更・許可等の届け出・申請、ラジオアイソトープ使用者の健康管理、安全使用の指導及び知識の周知教育、放射線ラジオアイソトープ関連の情報提供や研究活動の支援など、研究所内でのラジオアイソトープ使用に関する支援・管理である。

【業務活動】

1) 原子力規制委員会へ申請書・届出・報告

前年度の報告書「平成 30 年度放射線管理状況報告書」を作成し、原子力規制委員会宛に提出した。

2)RI 使用施設の点検および維持活動

RI 廃水貯留槽の清掃と点検の実施、RI 関係施設の自主点検(2 回/年)、RI 廃棄物引き取り依頼と日本アイソトープ協会への引渡し(毎年 1 月、7 月頃実施)などの作業を実施した。

この他、放射性化合物の受注受入登録(毎週)、施設の汚染検査と除染清掃(毎週)、廃棄物の整理と排気排水の状況管理(毎週)、個人線量計(ガラスバッジ)による被爆状況の把握(月 1 回)、自動現像機、超純水作成装置、CO_2 インキュベータ、入退室管理システムの保守管理、RI の使用者への最適環境の整備などを行い、RI の安全な管理に努めた。

また放射線安全管理委員会を年に 2 回開催した。委員長、放射性取扱主任者(又は代理者)、放射線施設責任者、施設管理責任者、健康管理医ならびに RI 事務担当者が共同して、放射性同位元素の安全管理に関する年間業務の確認、個人線量計の適正な利用法の推進、新規 RI 利用登録講習会の開催方法の検討、管理区域入退室システムの保守管理等の検討を行い、法令遵守と安全管理に一層努めることを申合わせた。

3) RI 登録者講習会

新規登録講習会(計 6 時間)を年 4 回(1 月、4 月、6 月、10 月もしくは 11 月)実施した。講習内容は放射線・放射性同位元素概論、放射線防御の基礎、取扱の基本、施設の基準、法令、施設の説明であった。

また、継続登録者講習会(計 2 時間)を 2 回行った。あわせて過去 1 年間の RI 管理の報告およびその他の気づいた点の注意事項伝達も行った。平成 29 年の講習内容は「原子力防災と緊急モニタリング」、平成 30 年は「予防規程の改定について」の講習を行った。

4) 健康診断・血液検査

新規登録者は新規登録講習会を受講後、最初に管理区域へ立ち入る前に実施した。また利用登録中の業務従事者については、特殊健康診断、職員健康診断の年 2 回健診を実施している。

これらの管理業務には、RI 管理室事務補助員として小越千草、(株)千代田テクノルより業務派遣(関軒昌幸、5 回／月)が参加した。また、放射線安全管理においては、放射線施設責任者である斎藤博久(H30.4 以降梅澤明弘)、健康管理医として松本健治、放射線主任代理者として絵野沢伸、管理区域担当者として田所恵子、また施設管理責任者として菊地晃に御協力を頂いている。

【研究活動】

当研究室では、基礎研究は臨床研究につなげるトランスレーションリサーチであることを常に念頭に置き、基礎研究の成果を近い将来に「移植医療」・「再生医療」の臨床応用へと推進できるような研究を行っている。この二年間は主に下記のテーマで国立成育医療研究センター内外および海外の研究グループ、企業と連携体制を取り、研究を進めていた。

【研究体制】

室　　長: 梨井 康 (李 小康)
研 究 員: 西尾佳明、闕 偉涛(H30.8.1～)
学術振興会特別研究員:劉 馳、胡 鑫
共同研究員:藤野真之、平野 啓、宇戸啓一、田口 慧、西尾佳明、蔡 松潔、李 少偉、趙 静、佐藤裕子、馬 快、佐々木恭子、王 佩佩、笛木芽衣、王 志丹、新保和也、王 晶、松田佳子、森田美和

【研究の概要】
1)iPS 細胞由来のミエロイド由来抑制細胞(MDSC)による免疫反応制御方法の開発
臓器・細胞移植、自己免疫疾患における免疫制御は、これら疾患において非常に重要であるが、既存の免疫制御方法は、副作用等の問題が有り、新たな免疫制御方法の開発が望まれている。我々はMDSC を用いた新たな免疫制御方法の構築を検討している。その一環として、iPS 細胞から分化誘導しMDSC(iPS-MDSC)の免疫制御への応用を検討した。iPS 細胞を用いることにより、均質な骨髄由来免疫細胞を大量にストックすれば、患者に負担をかけること無く必要に応じて免疫制御細胞の使用が可能である。
本研究は、OP9 細胞との 7 日間の共培養の後、3 日間 GM-CSF を添加して更に培養した後、肝星細胞との共培養に切り替え 5 日間培養することにより、iPS-MDSC を作製した。iPS-MDSC は、骨髄由来のMDSC と同様の表面抗原発現パターンを示した。また、LPS 添加によっても MHC-II の発現上昇は見られなかった。混合リンパ球培養による *in vitro* における T 細胞活性化の検討では、CD4T,CD8T 双方に対して、活性化能を持たず、また、DC による T 細胞活性化能の阻害する効果を示すことが確認された。iPS-MDSC は混合リンパ球培養において産生される IFN-γの分泌も抑制した。iPS-MDSC は LPS 添加により iNOS を高産生し、iNOS 阻害剤の添加により iPS-MDSC の T 細胞活性化能は抑制されたことから、iPS-MDSC による免疫制御機構には、iNOS が関与していることが示唆された。膝窩リンパ節測定法をもちいて iPS-MDSC の免疫制御能をマウス生体にて検証した結果、iPS-MDSC の同時投与は、生体においても T 細胞の活性化を抑制することが明らかになった。マウス自己免疫肝炎モデルをもちいて、iPS-MDSC の肝炎抑制効果を検討した結果、iPS-MDSC の投与は、血中 ALT の低下、肝臓への CD8T 細胞浸潤低下を示した。
これらの結果により、iPS-MDSC は生体内外において免疫制御効果を示したことから、自己免疫疾患および移植医療における拒絶反応抑制への臨床応用が期待される。今後臨床応用を見据えて、大動物における検討を行う予定である。

2) 脂肪肝虚血再灌流障害の制御に関する研究
成育医療において、小児肝移植は、肝不全に対する究極の治療方法である。肝移植において生ずる虚血再灌流障害は、移植後の臓器の品質および機能、すなわち手術後の患者予後の向上にとって重要である。移植される肝臓が脂肪肝である場合、脂肪性肝炎を併発している確率が非常に高い。この様な脂肪肝は正常な肝臓に比して虚血再灌流障害に対しより脆弱である。従って、脂肪肝における虚血再灌流障害の抑制は、小児生体肝移植にとりより重要である。
本研究は、チオニン・コリン欠乏症を 3 週間与えることにより、マウスは脂肪肝に陥る。脂肪肝マウスに対し、15 分の虚血および、3 時間の再灌流を行った。虚血再灌流障害により、血中 AST および ALT の有意な上昇および、肝臓におけるアポトーシス細胞、マクロファージ浸潤、4-HNE 産生細胞の増加を伴う肝障害が確認された。一方、カロテノイドの一種であるアスタキサンチンを虚血再灌流の 48、24 時間、

40 分前に投与したマウスでは、上記肝障害が有意に抑制されていた。また、肝臓における炎症性サイトカインである IL-6、iNOS、OPN の虚血再灌流障害に伴う発現上昇も抑制された。一方、アスタキサンチン投与により、細胞保護効果が知られている HIF-1α および HO-1 の発現上昇が確認された。虚血再灌流障害には肝臓のマクロファージの関与が知られている。従って、脂肪肝より分離した肝臓マクロファージを虚血再灌流障害の *in vitro* モデルである低酸素再酸素化実験に供した所、炎症促進性分子である、活性酸素、TNF-α、 IL-1β の有意な上昇が確認された。一方、アスタキサンチンの添加はこれらの炎症促進性分子の発現を有意に抑制した。一方、細胞保護分子である HIF-1α および HO-1 の有意な発現上昇が見られた。また、HO-1 の発現に関与している Nrf2、p-Akt、p-mTOR の発現上昇および MAPK 経路の活性も観察された。さらに、肝臓マクロファージの低酸素再酸素化は、アポトーシス促進性分子である Bax, 活性化 caspase-3、-9 の発現上昇と、抗アポトーシス分子である Bcl-2 の発現低下を引き起こしたが、アスタキサンチンの投与は、これら分子の発現変化を有意に抑制した。

これらの結果から、脂肪肝における虚血再灌流障害をアスタキサンチンは有意に抑制すること、その抑制は肝臓のマクロファージにおける炎症抑制が関与し、炎症抑制には細胞保護分子である HO-1 の発現が関与していることが、明らかになった。同様に、我々は水素水の投与による脂肪肝の虚血再灌流障害抑制についても同様の抑制効果を明らかにしていた。今後、アスタキサンチンおよび水素水の小児生体肝移植への臨床応用に向けて大動物を用いた検討を行う予定である。

3-1-16 マススクリーニング研究室

【主な研究成果】

1. 新生児マススクリーニング(NBS)対象疾患の確定検査の整備拡充と提供・重症度評価

主要な脂肪酸代謝異常症 3 疾患の確定検査提供を継続し、MCAD 欠損症 6 例、VLCAD 欠損症 13 例、CPT2 欠損症 6 例を新たに診断した。

2. CPT2 欠損症スクリーニング全国実施の実現

平成 29 年 7 月に発出された厚生労働省母子保健課長通知に基づき、平成 30 年 4 月より CPT2 欠損症 NBS が全自治体で開始された。これに合わせて、担当医療者向けの手引き資料「CPT2 欠損症の診療に関わっておられる方へ－危険な急性発症を防ぐために」を作成し、全国の主な小児医療機関 161 施設に配布するとともに、当研究室ウェブサイト(http://nrichd.ncchd.go.jp/massscreening/original/reference.html)に PDF 版を掲載した。

3. コバラミン代謝異常症の前向きスクリーニング試験研究

平成 29 年に取り組んだ、スクリーニング指標と二次検査に関する後方視的検討の結果に基づき、広島県内出生児を対象とするスクリーニングの前向き試験研究を計画した。すなわち、現行指標 C3 and C3/C2 高値に加えて、メチオニン低値、C3/メチオニン高値を指標とし、いずれか1項目以上に陽性所見を認めた場合は、二次検査としてメチルマロン酸(MMA)・総ホモシステイン(tHcy)を測定する。MMA・tHcy の一方または両方が基準値を上回った場合は、医療機関での精査対象とする。

この試験研究計画について、平成 30 年 6 月に当センターの倫理審査で承認を受けた後、11 月に広島県・広島市の承認が得られた。

4. NBS 検査の精度管理向上

全国各自治体でのタンデムマス法の導入決定を受けて、NBS 検査の外部精度管理方式の見直しが必要となり、当研究室と日本マススクリーニング学会・NPO 法人タンデムマス・スクリーニング普及協会の三者で構成する「精度管理合同委員会」が設置された。従来は旧 6 疾患(フェニルケトン尿症・メープルシロップ尿症・ホモシスチン尿症・ガラクトース血症・先天性甲状腺機能低下症・先天性副腎皮質過形成)について、各自治体の検査機関へ試験用検体を毎月送付し、受付から結果報告までの一連の業務全体の精確さを評価する「技能試験(proficiency testing: PT)」を行ってきた。タンデムマス法では対象疾患が大幅に増え、かつ微量物質の精密分析が求められるため、これを評価する年 1 回の「精度試験(quality control: QC)」を平成 26 年度から開始し、PT は年 3 回とする方式に変更された。

PT は「対象疾患の軽度陽性者を模した検体を送付して、受付から結果報告までの一連の業務全体の精確さを評価する」ことを目的としており、任意の 9 疾患分の異常検体と正常検体から成る 10 検体を 1 組として、各検査機関での平常業務と同じ手順で作業して、結果を報告させる。

QC では、各対象疾患の指標となるアミノ酸・アシルカルニチンを 3 段階の濃度(Low, Middle, High)で添加した濾紙血検体および無添加(Base)検体の 4 枚を 1 組として、10 業務日連続で二重測定した結果を報告させる。良好な分析精度の基準を「Low, Middle, High」 濃度で変動係数(CV)≦10%」に設定していた。

平成 30 年度には、精度管理のさらなる改善を目標として、試験方式の変更を行った。PT では、各検査機関に全対象疾患を網羅する 17 種類の検体を郵送し、従来と同様の陽性判定結果に加えて、各検体(献血由来血液)に含まれている正常レベルの各指標物質についても、全測定値(＝シングルアッセイデータ)の報告を求めることとした。シングルアッセイデータは、各指標項目について 13～15 検体(指標項目により異なる)での測定値の CV を算出して、今後の精度管理指標としての有効性を検討する。

QC については、10 日間の二重測定データを収集する方式で評価できるのは主に日間変動であり、日内変動は評価が困難なため、「5 回測定×5 日間」へ改めるとともに、 データ収集・解析用サーバーシステムにも改良を加え、利便性向上とともに、日本マススクリーニング学会技術部会で運用している「内部精度管理支援ウェブシステム」との連携性を持たせて、データ収集・解析の効率化を実現した。

5. 糖原病 1a 型に対するアンチセンス療法

第一三共株式会社との共同研究として、臨床試験に向けた unmet needs と評価指標などについて検討・協議する会合を開催するとともに、国外へ特許を出願した(PCT・台湾)。

【その他の研究プロジェクト】

6. 母子健康手帳便色カード測色と品質精度管理検討、便色調判定系の確立

7. 重症複合免疫不全症のスクリーニング指標 TREC のジョイント部分を含む配列の LC/MS による定量系開発

8. 定量 NMR を用いたマススクリーニング測定対象化合物の SI トレーサビリティー系開発

9. 質量分析装置を用いたアデノシンデアミナーゼ欠損症診断・フォローアップ

3-1-17 小児慢性特定疾病情報室

【目標】

小児慢性特定疾病とは、国が医療費等の支援を行うべきと定めている子どもの慢性疾病であり、2018年現在約 800 の疾病が対象となっています。小児慢性特定疾病対策はこれらの疾病を抱える子どもたちへの支援施策であり、申請の際に臨床情報を記載した医師の診断書である医療意見書が提出され、これらの臨床情報を集約して疾病研究が行われています。当研究室は、小児慢性特定疾病対策に関わる厚生労働省委託事業や疫学研究等を行い、成育母子保健行政や疾病対策行政に関わる施策を支えるための活動を行っています。

【研究体制】

室長 1 名，研究員 3 名，研究補助員 2 名，事務補助員 2 名、その他厚生労働省、日本小児科学会をはじめとする各専門学会、厚生労働省研究班等と連携して成育・母子保健政策に係る事業・研究に携わっています。

【主な研究内容とその概要】

1）小児慢性特定疾病医療意見書登録センター

全国の自治体に提出された医療意見書を電子化し、疾病研究利用が可能なようにデータベース化を行っています。年間 10 万件以上の登録についての電子化作業を行っています。

2）小児慢性特定疾病登録データベースの管理・運用

継続的なデータ登録及び保持が出来るよう、疾病登録データベースの管理運用を行っています。

3）「小児慢性特定疾病情報センター」ポータルウェブサイトの管理・運用

小児慢性特定疾病に関する情報を一元化し、国民へ周知・啓発することを目的としたインターネットのポータルウェブサイトの管理・運用を行っています。本ウェブサイトには全ての対象疾病に関する診断の手引きや疾患概要が整備されているとともに、疾病別の医療意見書を作成して配布する役割も担っています。

4）中央コンサルテーション

全国の自治体で小児慢性特定疾病対策の申請に関する審査が行われますが、その際に生じる医学的な問合せ事項についての取りまとめを行っています。

5）小児慢性特定疾病指定医研修用 e-learning サイトの管理・運用

小児慢性特定疾病指定医のための研修用ウェブサイトの管理・運用や研修用資料等の作成を行っています。

6）小児慢性特定疾病児童等支援者養成

小児慢性特定疾病を抱えた子どもたちの成人移行を支援するためのコーディネータの育成のための研修会や資料の作成等を行っています。

7）母子保健行政に関係する政策研究

厚生労働省研究班等と協力して、小児慢性特定疾病をはじめ母子保健行政に関わる政策的研究を行っています。

8）医療費助成制度に関する研究

子どもに関する医療費助成制度について、とくに地域間格差に関する研究を行っています。

9）早産・低出生体重児の支援に関する研究

早産児、とくに極低出生体重児の育児支援に関し、周産期医療を行っている医療機関と共同で研究を行っています。

3-1-18 高度先進医療研究室

【研究の概要】

高度先進医療研究室は、胎児・小児期感染症の病態と発症機構を疾患モデル実験系を用いて解明し、その成果を診断・治療法の開発に応用することを目標とする。主な研究対象は EB ウイルス(EBV)、川崎病である。加えて移植後日和見感染症関連ウイルス(12 種類:HSV-2, HSV-2, CMV, EBV, VZV, HHV-6, HHV-7, HHV-8, ADV, PVB19, JCV, BKV)も臨床研究として解析し移植治療実施患者に対するウイルス日和見感染症に対する新規診断法の開発を進めている。成育医療において EBV をはじめとした上記ウイルスは日和見感染症の原因ウイルスとして重要である。当センターをはじめとして小児の移植治療が盛んに行われるようになり、日和見感染症対策は重要課題となっている。また、我が国では EBV 初感染年齢が上昇しつつあり、移植後リンパ増殖性疾患(PTLD)の発症率の増加と重篤化が懸念されている。これらの EBV は、一生の間には大多数の人が感染する遍在ウイルスであるため、医療の発展や生活習慣の変化にもとづくこのような感染症像の変化は社会的にも大きな影響を与えると考えられ、政策医療のレベルでも積極的な対応が必要と考えられる。一方、川崎病は 5 歳未満の乳幼児に好発する原因不明の発熱性疾患である。1967 年に日本で初めて報告され発症頻度も世界で最も高い。川崎病発症原因因子の特定は未だにされていないため、成育医療センターで基礎研究を進めることは使命と言える。

EBV は、PTLD だけでなく慢性活動性 EBV 感染症(CAEBV)や EBV 関連血球貪食リンパ組織球症(EBV-HLH)などの難治性疾患の原因ウイルスである。また、バーキットリンパ腫などの悪性リンパ腫の原因ウイルスであるが未だに抗ウイルス薬などなく、治療法さえ確定していないのが現状である。そこで当研究室では難治性 EBV 関連疾患について、ヒト化マウスを用いた感染モデルマウスを作製し発症機構解明と治療薬開発を進め、さらに実際の EBV 関連疾患患者におけるウイルス動態の解析と診断・治療に対する支援を行っている。

川崎病に関しては難治性川崎病の診断と治療のバイオマーカーの開発を目指している。難治性川崎病を早期に診断するためのバイオマーカーを同定し、その簡便な測定法を開発することが求められている。また、川崎病の病態のひとつである血管炎発症モデルマウスをヒト化マウスを用いて作製し、血管炎発症メカニズムの解明を進めている。

【研究成果】

1) EBV 関連 T/NK 細胞リンパ増殖性疾患モデルマウスを応用した新規治療薬(S-FMAU)の開発

<u>新規治療薬 S-FMAU の非臨床 POC 収得</u>

新規治療薬候補のヌクレオシドアナログ S-FMAU(EBV-TK により特異的にリン酸化され細胞毒性を発揮する薬剤)を CAEBV の NK タイプのモデルマウスを 60 匹作製した。CAEBV モデルマウス作製は、CAEBV 患者末梢血単核細胞を移植し、末梢血 EBV DNA 量が約 10^3 – 10^4 copies/ μ g DNA に達した時点で薬剤投与を開始した。

a)大容量投与による副作用の効果検討

PMDA からの指摘により副作用の検討を行うため、大容量投与実験を実施した。S-FMAU 投与は 5 日間連続、200mg/kg/day という大容量投薬による副作用検討を行うため 10 匹のモデルマウスに投与した。結果、副作用はなく 80 mg/kg/day、連続5日間投与群と比較して末梢血中の EBV-DNA 量の減少がより示され、治療効果の増加が得られた。本薬剤の dose-dependent な効果が得られた。しかし当初の目的である副作用は見られなかったため、400mg/kg/day, 5 日間連続投与の実施の必要性が示された。

b) S-FMAU 投与期間と投与方法の検討(生存曲線検討)

他の抗がん剤同様2クール投与による効果増強についての検討を行い、1 クール実施と2クール実施で効果の上乗せがあるかを、薬剤濃度を振って検討した。S-FMAU を①80 mg/kg/day②40 mg/kg/day③20 mg/kg/day 、1 日 1 回、5日間連続投与を行い、投与開始から1ヶ月経過後に同様の投与量を2クール目として実施し、治療効果の検討を行った。1 クール目として 80mg/kg/day、40mg/kg/day、20mg/kg/day をそれぞれ 5 日連続投与し、投与開始から 30 日後に 2 クール目として同様の投与を5日連続投与し効果評価を患者モデルマウスで行う。それぞれ10匹ずつ、コントロール群は PBS 投与し計 40 匹のモデルで評価をした。2クール実施他マウス群の方が 20%程度の生存延長が示され、複数クール投与による効果上昇の可能性が示された。

c)S-FMAU による炎症性サイトカイン・ケモカイン産生抑制の検討

昨年の NK タイプモデルに引き続き CD8 タイプ患者モデルでの薬剤投与における炎症性サイトカイン・ケモ下院産生抑制効果の検討を行った。CD8 患者モデルマウス(80 mg/kg/day 投与 10 頭、PBS 投与 10 頭) に 5 日間連続で 1 日 1 回 80 mg/kg/day 投与し、投与後毎週一回採血し血漿成分を分離し、投与後4週間経過時点で安楽死させ、炎症性サイトカイン・ケモカイン測定を Luminex による網羅的解析を行い、S-FMAU による炎症性サイトカイン・ケモカイン産生抑制効果について検討した。結果、IFN-γ, RANTES, TNF-α, IL-6, IL-10, IL-8 などが PBS 群と比較して S-FMAU 投与群では 1/100 - 1/1000 に抑制されていた。NK タイプモデルよりも 10 倍以上の抑制効果が示された。この結果から血球貪食性リンパ組織球症(EBV-HLH)へのサイトカインストーム抑制効果も期待できる結果を得た。CAEBV 患者においては炎症性サイトカイン・ケモカイン産生異常による cytokine-storm が病態悪化の原因にもなっているため、サイトカイン産生抑制による病態改善にも有効であることが示されたことで、その有用性が示唆された。EBV-DNA 量減少と同様に重要な効果と言える。
今後は残りのタイプである γ δ -T 細胞タイプ、CD4 タイプで検討するとともに、それぞれのタイプにおいて頭数を増やし、投与量を検討して再現性を見るとともに、より詳細なサイトカイン産生抑制効果の検討を進めていく。

2) ヒト化マウスを用いた川崎病病態発現モデルの作製と血管炎発症原因因子の探索
ヒト化マウスを作製し、*C.albicans* NBRC 1385 の培養上清から可溶性多糖画分(*C.albicans* water soluble fraction: CAWS)を回収し、マウスへ腹腔内投与することで大動脈起始部および冠状動脈に血管炎を誘導し、炎症に伴うサイトカイン・ケモカインの検討や血管炎に伴い変動する血球に対し、機能阻害や細胞消滅による血管炎縮小効果の検討を通し、治療標的分子(細胞)の研究を進めている。本年は血管炎発症モデルの完成後、実際の患者において高産生されることがわかっている IL-6 に対し、抗ヒト IL-6 レセプターモノクローナル抗体(トシリズマブ)を血管炎発症モデルマウスに対し 12mg/kg/day、1回マウス尾静脈投与し非投与群(10 匹)と投与群(10 匹)において血管炎レベルの比較検討を行なった。抗ヒト IL-6 レセプターモノクローナル抗体(トシリズマブ)投与マウスにおける心臓冠動脈における血管炎レベルは非投与群マウスと比較して炎症程度は 1/10 程度縮小していた。この結果より、川崎病心血管炎形成に IL-6 の影響が示された。今後は炎症縮機序の解明を進める。

3)急性および慢性 EBV 関連疾患における自然リンパ球 MAIT 細胞の果たす役割解明研究

Mucosal-Associated Invariant T (MAIT) 細胞は自然免疫型 T 細胞であり、抗原(微生物由来 Vitamin B 代謝物)や IL-18 刺激によって炎症性 cytokine(IFN-γ、IL-17、TNF-α)、Granzyme などを発現する。これまで様々な疾患において MAIT 細胞が protection あるいは pathogenesis に働くことが報告されているが、EBV 関連疾患における関与は不明である。

本年は、EBV 関連疾患における MAIT 細胞の役割を調べるために、EBV 関連疾患患者の血中 cytokine 濃度、さらに in vitro で EBV 存在下での健常人 MAIT 細胞の phenotype を調べた。その結果、MAIT 細胞は患者の血中で活性化しており、その活性化レベルは疾病重症度に相関することがわかった。また、MAIT 細胞の活性化は血中 IL-18 濃度に相関すること、in vitro で EBV+IL-18 存在下で MAIT 細胞が IFN-γ 発現すること、IL-18 産生細胞は単球系細胞であることを明らかにした。これらのことから EBV 感染下で MAIT 細胞は、単球系細胞由来の IL-18 刺激を受けて活性化・IFN-γ 産生することで、EBV 関連疾患の pathogenesis に寄与する可能性が示唆された。

4)移植後日和見感染症関連ウイルスの病態解析と新規診断法の開発研究

病院 高度感染症診断部と連携し、移植後日和見感染症関連ウイルス(12 種類:HSV-1, HSV-2, CMV, EBV, VZV, HHV-6, HHV-7, HHV-8, ADV, PVB19, JCV, BKV)の迅速診断を実施し、病態予測因子の探索や病態発現解析を行っている。そして、診断ガイドラインの作成、新規診断法の開発、新規バイオマーカーの開発を進めている。上記の日和見 DNA ウイルスだけであるが移植ドナーが HCV, HTLV, HBV 陽性である場合がある。その場合、移植後レシピエントにおいて RNA ウイルスの定量モニタリングも重要になる。しかし、RNA ウイルスと DNA ウイルスの両方を同日解析することは、工程が 2 倍になり検体量によっては迅速診断に値しない結果になる可能性もある。PCR と RT-PCR を別々に行うと 2 倍の時間と手間を要するため、同時測定法の開発は重要である。本年は RNA ウイルスと DNA ウイルスの両方を同時に実施できる解析系の開発を進めた。RNA も最終的には PCR により検出するが、RT-PCR 用の試薬や反応条件は RT-PCR に特化しているため同時測定は容易ではない。GeneWorld 社のプレミクス以外の RT-PCR 用プレミクスも多数試したが、良好な RT-PCR の結果を得られる反応条件では DNA ウイルスの検出が不十分なケースが多く、唯一 GeneWord 社のプレミクスが使用可能だった。今後はメーカーと共同で試薬の微調整を行い、感度や安定性の向上を目指す予定である。

3-1-19 視覚科学研究室

【ミッション・目標】

当センター病院の眼科は、難治性の眼疾患が全国から集中して紹介されて高度医療を行っており、その症例数が随一である。この病院の臨床と研究所の基礎研究を融合して、眼の難治性疾患の研究を行っている。難治性疾患の遺伝子を解析し、病態の分子メカニズムを解明して、新しい診断法や治療法の開発を行うことを目的としている。

【研究プロジェクト】

1. 臨床研究
2. 眼の発生と先天異常の病理
3. 眼先天異常の分子遺伝学、視覚形成の分子細胞生物学
4. 遺伝子・細胞治療
5. 再生医学
6. 視神経と脳の科学

【研究の概要】

1. 臨床研究

さまざまな小児眼底疾患の病態を解明し、疫学調査を行い、疾患分類や診断基準作成を行った。白内障や緑内障の手術、重症網膜剥離、未熟児網膜症、家族性滲出性硝子体網膜症、先天異常に関する研究を行った。ことに重症未熟児網膜症に対する早期硝子体手術は、小児の失明を回避する画期的な治療法として、国内外の学会やマスコミでも高く評価されている。現在は光干渉断層計やERGで眼底疾患の詳細な構造と機能の検討を行って、多くの成果を出している。

2. 眼の発生と先天異常の病理

病理組織化学や超微細形態の検討によって、正常発生や先天異常の発生機転に関して多くの発表を行った。角膜内皮が神経堤由来であること、硝子体の産生での硝子体動脈と網膜 Muller 細胞の関与、第一次硝子体過形成遺残の血管増殖機転が大きな成果である。

3. 眼先天異常の分子遺伝学、眼の形態形成の分子細胞生物学

さまざまな眼先天異常で、原因遺伝子を明らかにした。Pax6 の変異で黄斑低形成や視神経形成異常が、Eyes absent の変異で前眼部形成異常や先天白内障が起こることを、世界に先駆けて発見し、その機能解析によって疾患の発生機転を明らかにした。

形態形成遺伝子の機能解析と動物実験によって、眼の形態形成と視覚成立のメカニズムを解明した。黄斑の形成が Pax6 の isoform によって運命決定されること、顔の位置を決定するシグナル伝達物質が黄斑を位置づけ、さらに視線や視野までも決めることを示した。その後、形態形成遺伝子が時と場所を変え、isoform を使い分けて、複雑な眼の発生分化を担う仕組みを明らかにした。

4. 遺伝子・細胞治療

先天ムコ多糖症の角膜混濁治療、後発白内障の予防、緑内障の治療を動物実験で証明した。

5. 再生医学

角膜内皮細胞の株化・網膜視細胞や網膜全層の形成、強膜シートの作製に成功した。

ヒトおよびマウスの iPS 細胞・ES 細胞から、機能する軸索をもつ網膜神経節細胞の作製に世界で初めて成功した。殊にこれまでの動物細胞の実験とは異なり、ヒト細胞を用いる網膜神経節細胞の培養実験系を確立したことによって、視神経疾患の研究の可能性は大きく広がった。

6. 現在進めている視神経と脳科学の研究

1)ヒトおよびマウスの iPS 細胞・ES 細胞由来の網膜神経節細胞を用いて、①疾患細胞モデルを作製して疾患発生機転と病態の分子メカニズムの解明、②神経保護薬と神経再生薬の創薬、③視神経移植の再生医療、④視神経発生に関わる遺伝子や視神経軸索伸長の経路ガイダンスの分子メカニズムの解明等の基礎研究を行っている。

2)新規の網膜・視神経疾患を発見し、原因遺伝子を同定した。その遺伝子改変マウスを作製し、ヒトと同じ病像を示すことを確認した。この遺伝子の機能は未知であるが、脳と眼だけでなく、細胞の生命維

持に役割を果たしていることが示唆されており、その解明に力を注いでいる。

【研究スタッフ】
東　範行
仁科幸子
横井　匡
吉田朋世
田中　慎
田中　卓
松坂恵美子
佐井田友起

3-1-20 再生医療センター

【ミッション・目標】

当研究部では、受精からヒトとして成長する過程で生じる疾患の成立機序の解明とその予防、診断・治療法の開発をめざした研究を行っている。卵、精子、幹細胞を主な研究対象としており、さらに、生殖腺、胎盤、心臓、神経系、骨、軟骨、脂肪組織を研究対象に加え、幹細胞の機能を調節する分子機構の解明と臨床応用をめざした一連の研究を展開している。これらの基盤的研究をさらに臨床研究に進展させることにより、生殖医療ならびに再生医療に貢献することが当研究部の使命である。

1.「いのちの萌芽(受精)」のエビデンスに基づいた考え方の提示

受精は、精子の卵細胞膜への接着、融合、多精拒否、さらに卵活性化からなる一連の現象である。本研究ではその分子メカニズムの解明に挑戦するため、素過程に関わる因子群を明らかにし、その挙動の可視化、制御するための薬剤を開発することにより、受精にともなう細胞膜の再構成、オルガネラの再配置が、時間的・空間的にどのように達成されるのかを解析してきた。この研究から、不妊治療への道が開かれるとともに、受精にも着床・出産に関して新しい概念を提案することができると考えている。

2. ヒト胚性幹細胞の樹立

国立成育医療研究センターでは、ヒト ES 細胞に関する医学研究が、生命倫理及び医の倫理に基づき、また「ヒト ES 細胞の樹立に関する指針」(平成 26 年 11 月 25 日改正文部科学省・厚生労働省告示第二号)と「ヒト ES 細胞の分配及び使用に関する指針」(平成 26 年 11 月 25 日改正文部科学省告示第百七十四号)に基づき、適正に行なわれるよう、ヒト ES 細胞研究倫理審査委員会(以下「倫理審査委員会」)を設置し、ヒト ES 細胞樹立研究、使用研究及び細胞の分配に関してそれぞれ規定を定めている。現在、小児難治疾患克服に向けて、ヒト ES 細胞を用いた研究を進めている。今後も国の指針を遵守し我々の研究がヒト生命の萌芽の滅失の上に成り立っていることを常に認識し厳粛にヒト ES 細胞研究を行っていく。

3. 再生医療・細胞治療

ヒト組織幹細胞を生体外で培養し、増殖させることに成功しており，幹細胞の分離・同定を行っている。細胞の生体外における培養技術とそれによる細胞数の確保とそれに続く分離技術は、再現性の高い生物実験系に基づいた細胞の基盤解明によってのみ可能となるものである。

4. 成育バイオリソースの構築

国立成育医療研究センターでは、病院内の整形外科、産婦人科、眼科、形成外科と研究所の連携により、骨髄、臍帯血、胎盤、子宮内膜を細胞供給源として研究を遂行している。臨床研究を前提とした ad hoc 委員会を設立し、臨床試験研究への具体的なロードマップの作製、医療に提供できる新たなヒト細胞の分離・培養法の開発、ヒト血清ならびにヒト液性因子のみからなる培養法の開発を行っている。

【研究プロジェクト】

1. 受精の膜融合を制御する分子メカニズムの解明と不妊治療への応用

受精は 2 つの生殖細胞、すなわち精子と卵子が“細胞融合”することよって新しいゲノムの組み合わせを持った次世代が誕生する最初の過程である。そのため、受精メカニズムの破綻は単なる細胞の機能不全を超えて、生物種の存続にかかわる問題になってしまう。一方、受精の基礎研究には長い歴史があるにもかかわらず、連続した複雑な過程を経ることからいまだに全容解明には至っていない。特に、精子と卵子の接着から膜融合に至る過程については、今まで考えられていた概念が完全に否定されてしまったため、卵子の細胞膜に存在すると仮定される精子レセプターも不明のままである。受精のメカニズムを解明することは、ひとの「いのち」について考えるきっかけとなる。また、受精は、2 つの細胞間で起こるシンプルな細胞融合であるため、他の細胞融合(筋線維の形成、骨形成、感染症など)の分子メカニズムを解明するためのモデル系にもなりうる。

最近の成果から精子は子宮内の免疫系からの攻撃にさらされ、精漿タンパク質によって精子が保護されていることが明らかとなった。新規の免疫抑制剤の開発という観点からも有用な研究である。

[研究体制]

部長　梅澤明弘
室長　宮戸健二
宮本義孝、康宇鎮、河野菜摘子、中村彰宏、城口正明、鈴木実希、杉山和毅、祝井麻希
［共同研究体制］
大阪大学　微生物病研究所（膜融合の分子メカニズムに関する研究）
千葉大学　医学部（受精における生殖細胞の形態学的研究）
明治大学　農学部（精漿タンパク質による精子防御に関する研究）
筑波大学　理学部（精子運動能の調節機構に関する研究）

2. 卵の老化と胚発生メカニズムの解明→生殖の営みへの理解

生物には寿命がある。哺乳動物は、その寿命内でも次世代へつなぐ生殖期間は限られている。現在わが国は、出生率（合計特殊出生率）が1.5を下回り、「超少子化国家」と位置づけられている。一方で、不妊症治療特に生殖補助医療（ART）享受による出生児数は総出生児数の 5%を超え着実に増加している。一方女性の就業意欲と労働力率は上昇し、この社会・経済の変化は晩婚化などのライフスタイルの変化を来している昨今、加齢による生殖機能の不可逆的低下に早急に対応する必要が出てきた。その原因の一端に加齢による卵子の質の低下と強く関連していることが示唆されている。女性は限られた生殖期間があり、つまり“生殖寿命”は卵細胞が加齢することでもある。これらの事象を分子レベルで解明することは、これまで対象が卵子という微量のサンプルのため基礎研究システムを構築することが大きな問題であったが、我々は実験動物マウスを用いES 細胞と連関させて解析する新規的なアプローチをこの分野に持ち込み有用な知見を得てきている。近年、米国 NIH では、卵子の質と出生児の健康に関する大規模臨床研究と基礎研究プロジェクトが進行している。本領域は、国際的にも重要課題とされている。
［研究体制］
部長　梅澤明弘
室長　阿久津英憲
小野寺成実、町田正和、伊藤愛主、中村茜里、平岩幹、鶴田覚、土田奈々枝、川又颯生、高橋千波
［共同研究体制］
慶應義塾大学　医学部産婦人科学教室（卵子の老化に関わる因子の同定）

3. ES 細胞に関わる技術の確立と機能解析

ヒト ES 細胞は、体を構成するすべての細胞へと分化できる多能性を保持し、増殖し続けることができる極めてユニークな細胞であり、細胞移植の有用なソースとして再生医療への応用が期待されている。しかしながら、ヒトES 細胞の樹立及び培養維持には異種由来の物質を含むため、安全な次世代医療としてのヒト ES 細胞には異種由来物質を排除した完全ヒト型培養システムの構築が不可欠である。平成22 年度に、ヒトES 細胞樹立に成功し臨床応用に向け研究を着実に進めている。ヒトES 細胞樹立研究では、「胚の滅失」が不可欠な行為であるため、常に生命の萌芽について深く認識し慎重に研究を遂行していく。

胚以外の細胞よりヒトES 細胞と類似の性質をもつ人工多分化能性（iPS）細胞が樹立されることが報告され、世界的にも生命科学領域のブレイクスルーとして大きな注目を集めている。ヒト多能性幹細胞の再生医療や創薬への応用を目指し、ヒトiPS 細胞の基盤研究を推進する。
［研究体制］
部長　梅澤明弘
室長　阿久津英憲
室長　宮戸健二
菅原亨、油谷理恵、井上麻由、町田正和、宮島星子、原まり子、天ケ瀬凛、齋藤佳代子
［共同研究体制］Harvard University, Harvard Stem Cell Institute（ES 細胞の樹立に関わる技術）

4. ヒト幹細胞を用いた再生医療の前臨床研究

現在、ヒト幹細胞を用いた心不全に対する細胞治療が臨床で始動している。我々の研究室では、心筋再生の研究として、骨髄細胞に比べ心筋に高率に分化するヒト幹細胞を有し、共培養系を用いることで、生理的に機能する心筋をin vitro で誘導させる技術を有する。本研究は、細胞治療に用いる細胞源

となる組織の選択、細胞の調整という臨床に即した課題と、心筋分化のメカニズムに迫るものであり、基礎・臨床を包括するまさにトランスレーショナルリサーチといえる。今後も大きな資源が投入されるであろう再生医療分野において、我が国の知的財産を確立する上でも重要な役割を果たす可能性を有する。
[研究体制]
部長　梅澤明弘
Palaksha Kanive Javaregowda、岡田潔、亀田裕子、鈴木絵李加、原まり子、日野美奈、前田紗由美、吉田洋子、豊田雅士、井上桃子、長谷川瑛洋、髙橋有希子、増田千晶、久保絢暉、河野裕子、藤本善子、宮田梢子、作紀昂、大橋里奈、小木戸維吹、山本崇晃、秋山彩瑛子、常石瑠莉、高島凪紗、金光大貴、金子和香那、土屋風渡
[共同研究体制]
国立循環器病センター(心筋分化に関わる液性因子の同定)
東京女子医科大学　産婦人科学教室(臍帯血・胎盤由来細胞を用いた骨格筋分化)
慶應義塾大学　医学部　呼吸循環器内科学教室(ヒト幹細胞の心筋組織への分化と細胞移植法)
京都大学　再生医科学研究所(胚性幹細胞と体性幹細胞の融合研究)
東京大学大学院　工学研究科(生分解性ポリマーの提供)

5. 成育疾患(特に先天性代謝異常症)に対する幹細胞治療
国立成育医療研究センターでは、ライソゾーム病を含む先天性代謝異常症およびその他の成育疾患の治療のために全国各地より患者を受け入れている。ムコ多糖症(mucopolysaccharidosis: MPS)は、ムコ多糖を分解するライソゾーム酵素の先天的欠損により、全身にグリコサミノグリカンが蓄積し、ガルゴイ様顔貌、骨変形、肝脾腫、呼吸障害、心臓弁膜症、角膜混濁、難聴、精神運動発達遅滞などの多彩な症状を呈する遺伝性疾患である。欠損している酵素によりⅠ型から Ⅶ 型の病型に分類される。症状は進行性で、早いもので 10 歳頃までに死亡する予後不良な疾患である。治療法として骨髄移植、酵素補充療法があるが、骨髄移植では重篤な副作用(GVHD や生着不全に伴う重症感染症)が問題となる。酵素補充療法は効果が一過性であるため頻回投与せざるを得ず、莫大な費用がかかり、定期的な通院を一生涯続ける必要がある上、角膜や脳や軟骨などのように血流を介する方法では到達できない場所がある。そのため、安全で有効な新規治療法の開発が急務である。我々の研究室では Ⅶ 型の酵素であるβグルクロニダーゼが欠損しているマウス(MPS-Ⅶ 型マウス)を有しており、幹細胞移植を用いた治療法の開発研究を行っている。また特に、今年度より獣皮様母斑、先天性角膜混濁、筋ジストロフィーを対象とした臨床研究体制構築に向けた取り組みを行っている。
[研究体制]
部長　梅澤明弘
油谷理恵、荒川美和、伊藤愛主、井上麻由、遠藤太賀彦、大倉隆司、

6. 成育バイオリソースーヒト臍帯血・子宮内膜・月経血・胎盤・軟骨・骨髄ーの単離技術の開発、多分化能の同定
ヒト由来組織(成育バイオリソース:月経血、臍帯血、末梢血、胎盤、子宮内膜、指、眼球、軟骨等)のヒト間葉系細胞についての維持管理・品質管理・保存に関する技術革新を行う。我々の樹立した細胞株を日本国内の公的細胞バンク(独立行政法人　医薬基盤研究所・独立行政法人　理化学研究所)に登録し、他の研究施設より要請があった場合に高い安全性を有し、標準化された培養システムによって増殖する間葉系細胞を提供できる体制を構築する。また、バンク化された細胞自身が多分化能を保持しており、細胞の遺伝子発現データベース・分化形質・ゲノム情報を伴った提供システム構築ならびに技術革新は、再生医療、がん、循環器疾病への基盤資源となり、科学立国を目指す社会への貢献度は極めて高い。
[研究体制]
部長　梅澤明弘
室長　阿久津英憲
原まり子、一ノ瀬実、遠藤太賀彦、伊藤愛主、鈴木絵李加、齋藤佳代子、前田紗由美、荒川美和、那須道世、巽国子、豊田雅士、
[共同研究体制]
国立成育医療研究センター　周産期診療部(臍帯血・胎盤・子宮内膜に関する研究)

国立成育医療研究センター　整形外科　（多指症に由来する細胞の樹立に関する研究）
国立がん研究センター研究所　（幹細胞の寿命延長に関する研究）
東京医科大学病理学教室　（細胞培養法における液性因子の有効性に関する研究）
国立研究開発法人産業技術総合研究所　（cGMP に準拠した細胞培養法に関する研究）
慶應義塾大学　医学部　形成外科学教室（ヒト幹細胞と皮膚毛髪にかかる前臨床研究）
国立精神・神経医療研究センター（骨格筋に関する情報提供）

7. 安全で高品質な細胞提供技術の開発

再生医療に関連する法律（「医薬品医療機器法（平成 26 年 11 月）」、「再生医療安全性確保法（平成 26 年 11 月）」が施行され、再生医療を取り巻く法体系が整備された。細胞移植が具体的な治療法として確立されつつあるが、実験的な治療が日常的な治療法の選択肢となるためには、治療に用いる細胞に関して再現性を保証するための基準がぜひとも必要である。現在、ヒト細胞の明確なバリデーション方法は、国内外で模索されており、一定のコンセンサスは得られていない。細胞自体を生体内マイクロデバイスとして利用する新たな治療戦略を現実するために必要なステップとして、1)細胞の分離培養技術の確立、2)細胞のカタログ化、3)細胞品質管理の標準化がある。世界に向けて有用なヒト幹細胞を発信してゆくことは重要である。国立成育医療研究センター研究所の施設に有する機関内細胞プロセッシング・ファシリティーにおいて、日本国内の研究施設より要請があった場合に高い安全性を有し、標準化された培養システムによって増殖する間葉系細胞を提供する。間葉系細胞を用いた細胞治療に関する倫理性および安全性の due process を提示することになり、この提示された過程に従い、提供医療施設を増やしていくことになる。現在の間葉系細胞培養に使用されている条件は、ウシ血清、ウシ胎児血清、ならびに動物細胞、大腸菌等で作製されたヒト増殖因子が利用されており、外来種由来感染源の混入は否定できない。このため治療法としての安全性、有効性の基準の確立は急務である。

［研究体制］
部長　梅澤明弘
室長　阿久津英憲
遠藤太賀彦、町田正和、川崎友之、宮島星子
［共同研究体制］
国立成育医療研究センター　研究所免疫・アレルギー研究部（DNA マイクロアレイ解析とバイオインフォマティクス研究）
国立成育医療研究センター　研究所小児血液・腫瘍研究部（幹細胞に対するモノクローナル抗体樹立・解析）

【研究の概要】

1. 受精・細胞融合に関わるエキソソームの発見から機能解明、更に不妊治療への応用

従来の研究から、CD9 欠損卵ではほとんど受精が起こらず、多数の精子が透明帯と卵細胞膜のすき間に溜まった状態になることが観察され、透明帯を人為的に除去した CD9 欠損卵に精子を加えると、精子は卵細胞膜には結合するが、融合はきわめて稀にしか起こらないことを明らかにしてきた。CD9 は卵細胞膜の表面で精子側の因子との相互作用に何らかの役割を担っており、膜融合過程のいずれかのステップに必須であると考えられる。そこで更なる解析を行った結果、CD9 を含む膜構造体（マイクロエクソソーム、microexosome と命名）が卵から放出され、この膜構造体が精子の融合活性を制御することを明らかにした（PNAS, 2008）。

本年度は CD9 の機能解析を更に進めた結果、卵から放出されるマイクロエクソソームに含まれる脂質に配偶子を融合を直接誘導する活性があることを明らかにした。また、子宮内膜上皮からもマイクロエクソソームが放出され、こちらは血管新生因子 VEGF の子宮内腔への放出に関わっていることを明らかにした（Scientific Reports, 2014）。

更に、精液タンパク質 SVS2 の解析から、子宮内には精子膜を障害する因子が含まれ、SVS2 は障害因子から精子を保護する作用があることを発見した（PNAS, 2014）。

2. 卵の老化と胚発生メカニズムの解明と生殖医療への応用

初期胚の網羅的遺伝子発現解析より初期胚発生に特異的に係わる新規遺伝子群と個体の加齢にともなって卵子で大きく変動する遺伝子群を同定してきた。今年度は、それら重要な遺伝子群の in

silico から in vitro 及び in vivo 解析に発展させ、機能解析を行ってきた結果、特定の初期胚特異的遺伝子がその後の胚発生にも重要な機能をもつことなど新たな重要な知見を獲得してきた。更に研究を展開することで謎が多い初期胚発生に関わる分子メカニズム解明に新たな光を当てることができ、原因不明の機能性不妊の一端を明らかにする可能性がある

加齢と卵子の質低下との関連は指摘されてきたが、本質的なメカニズムは不明であった。我々は、これまでの加齢卵子の網羅的遺伝子発現解析データや加齢実験動物マウスを用いた加齢卵子由来 ES 細胞解析システムを構築し、加齢卵子の機能低下について分子レベルでの解析を行える系として有用である成果を得てきた。卵子の成熟に必要な分子機序の一つである、刷り込み型 X 染色体不活化のキーとなる分子機序として X 染色体不活化制御に関わる Xist 遺伝子プロモーター領域のヒストンタンパク質の特定の化学修飾（H3K9me3）が機能することを初めて見いだした（Fukuda, et al. *Nature Communications* 2014, Fukuda, et al. *Plos Genetics* 2016）。英国 Society for Reproduction and Fertility (SRF)から国立成育医療研究センター研究所で行った研究成果が第 1 回 SRF-Reproduction Prize を受賞した。

3. ES 細胞の樹立に関わる技術の確立と機能解析

ヒト ES 細胞樹立が円滑に遂行されるため、胚提供機関の追加申請等に関して関係諸機関と連携をとりつつ遂行している。このヒト ES 細胞樹立研究が最大限有効に行われるように基礎研究を進めている他に、ヒト ES 細胞に関する培養技術や知見を海外の先端の研究所といち早く共有できるようにハーバード大学幹細胞研究所と共同研究を含めた人的交流を積極的に行っている。現在までに合計 7 株の樹立に成功し、文部科学大臣にヒト ES 細胞樹立報告を行った（Akutsu, et al. *Regenerative Therapy* 2015）。特に SEES4-7 は、動物由来産物を全く使用しない環境で樹立された国内初のヒト ES 細胞株である。ヒト ES 細胞の造腫瘍性解析と評価手法を国際専門誌に報告した（Akutsu, et al *Regenerative Therapy* 2016）。ヒト iPS 細胞に関しては、その樹立方法や特性解析を進めている。また、ヒト iPS 細胞の長期培養過程におけるエピジェネティック解析をゲノムワイドに行った成果を国際専門誌に報告した。その結果は国内外から注目され、ヒト iPS 細胞研究の推進に貢献している。ヒト ES 細胞から蠕動様運動も有する小腸オルガノイド作製に世界で初めて成功し国際誌（Uchida, et al. *JCI Insight* 2017）へ報告し、国内外から注目された。

4. ヒト幹細胞を用いた再生医療の前臨床研究

子宮内膜及び胎盤由来細胞を用いた骨格筋分化の研究において筋ジストロフィーモデル動物への移植を行った結果、ヒト細胞が筋束の出現を確認した。筋ジストロフィーは進行性の筋力低下と筋萎縮を伴う筋繊維の変成・壊死・再生を主な病理像とする遺伝子性疾患の総称である。その中でジストロフィンの欠損による Duchenne 型筋ジストロフィーは最も高頻度に発生し、かつ最も重症な進行性筋疾患である。近年、組織幹細胞を用いた障害組織に対する再生医療が注目されており、筋ジストロフィーにおいても例外ではない。細胞源としては、筋芽細胞、骨髄細胞などがあげられ、筋再生の供給源として期待されている。我々は、手術検体から分離した子宮内膜細胞が骨格筋に分化可能であるという作業仮説をたて、筋ジストロフィーのモデル（mdx/scid マウス）に対しそれらの細胞が筋変成を修復することを明らかにした。本年度は、手術検体から分離した胎盤由来細胞を用いて骨格筋への分化を検討した。方法としては、正常正期産の胎盤を 7 部位（羊膜中胚葉，羊膜上皮，絨毛膜，絨毛板，絨毛，脱落膜，臍帯）に分離の上、組織を間葉系幹細胞増殖培地にて培養し、胎盤由来細胞の骨格筋への分化を In vitro と In vivo で検討した。In vitro の場合は、免疫染色法で Skeletal myosin heavy chain (MY32)の発現を測定した。In vivo 場合は、胎盤由来細胞の mdx モデルマウス筋修復への寄与をヒト・ジストロフィンの発現を用いて測定した。治療モデルとしての科学性、倫理性の確保するために、臨床応用を想定した安全性の確認を行った。フローサイトメトリーの解析により CD13, CD29, CD44, CD55, CD59, CD73, CD90, CD105, CD166 陽性で、CD14, CD34, CD45 陰性であることを確認した。次に、in vitro の検討では、5-azacytidine (5mM)で 24 時間前処理した胎盤由来細胞の Skeletal myosin heavy chain 発現を確認した。また、胎盤とマウス骨格筋芽細胞 C2C12 との融合率を検討したところ、高率な融合能を胎盤由来細胞は示した。さらに、胎盤由来細胞の骨格筋細胞への分化を確認するため mdx/scid マウスを用いた移植細胞の骨格筋再生能を検討した。その結果、マウス骨格筋中にヒト・ジストロフィンの発現を確認した。胎盤は部位によって骨格筋への分化能に相違があることが判明し、特に胚外中胚葉である羊膜中胚葉、絨毛、絨毛膜、絨毛板には間葉系幹細胞が多く含まれることを明らかにし、国際専門誌に報告

した。

5. 成育疾患（特に先天性代謝異常症）に対する幹細胞治療法

先天代謝異常を対象として骨髄間葉系細胞を含めた体性幹細胞を利用した細胞治療法の確立に向けた基盤研究を行う。さらに、これらの幹細胞を臨床応用するための安全かつ効果的な培養システムの確立をめざす。ムコ多糖 VII 型モデルマウスを用いた細胞治療法の安全性と治療効果を検討した。新規のヒト細胞供給源となるヒト細胞培養システムとして、月経血、臍帯血より間葉系細胞の培養を開始しており、それらが複数の分化形質を示すことを明らかにした。また、胎児期における細胞移植法についても検討を行い、妊娠マウスを用いて、胎児期の免疫寛容を利用したドナー細胞の種類による治療効果の違いについて検討を開始した。 先天性感染症の病態機序を研究するヒト iPS 細胞を用いた系を構築した（Nakamura, et al. *Herpesviridae* 2013）。羊水由来 iPS 細胞による脊髄髄膜瘤の細胞治療モデルを国際専門誌へ報告し（Kajiwara, et al. *Stem Cell Reports* 2017）、国内外から注目された。また、ES 細胞を用いた臨床応用について、治験を開始した。

6. 成育バイオリソースーヒト臍帯血・子宮内膜・月経血・胎盤・軟骨・骨髄・眼球由来幹細胞ーの単離技術の開発、多分化能の同定

2014 年も継続して細胞寄託を行った。また、成育バイオリソースが将来の再生医療ツールとして有用な性質を持つことを国際専門誌、国際学会に報告し、国内・外のメディアにも取り上げられてきた。成育バイオリソースの有用性について社会に示すことができた。

具体的には爪母、靭帯、表皮、真皮、皮下脂肪、皮質骨、海面骨、硝子軟骨、骨膜、骨髄、肋軟骨、肋軟骨膜、耳介軟骨、耳介皮下脂肪、網膜、強膜、虹彩、角膜、子宮内膜、子宮筋、臍帯、臍帯動脈、臍帯静脈、臍帯血、胎盤、羊膜、絨毛膜板、絨毛、脱落膜に由来する細胞を樹立した。

7. 安全で高品質な細胞提供技術の開発

前年度までに、CPF（セル・プロセッシング・ファシリティ）を使用したヒト幹細胞の培養ならびに臨床研究への供給を課題として、研究部横断的な推進体制を構築した。手順書の整備を完了し、前実験として全ての手順の確認を行い、詳細に検討を行った。昭和大学との共同研究による臨床研究を順調に開始した。

3-1-21 バイオバンク

【概要】

国立研究開発法人国立成育医療研究センターを含む国立高度専門医療研究センター（ナショナルセンター）は、国民の健康に重大な影響のある様々な病気を解明し克服することを使命としている。各々のナショナルセンターが、病気に関する最高レベルの医療を国民に提供できるように日夜努めるとともに、特に診断・治療に苦慮する疾患を対象として、新しい診断・治療・予防技術の開発に積極的に取り組んでいる。しかし、このような医学の進歩に向けた取り組みには、検査に使われた後の余剰な血液、体液や組織等を有効に活用した研究が不可欠である。これまでの医学の進歩も、疾患に苦しむ方々から同様に検査や治療の過程で発生する余剰な生体試料を利用して行われた研究成果に依るところが大きい。最新の解析技術を用い、多くの患者さんにご協力いただいた生体試料を解析することで、これからも新たな医学の発展が生み出されていく事に疑念の余地はない。そしてこれらの研究成果は、現在病気に悩まされている人々だけでなく、将来世代（子供、孫の世代）の人々を病気から救うことができる可能性を秘めている。このような「新たな医療の創造」に向けて歩みを進めるべく、6 つのナショナルセンターが協力し、血液・組織等の保管、研究のための手続きを共通の体制で運用できるよう、「ナショナルセンター・バイオバンクネットワーク　プロジェクト」を推進している。

【目的】

比較的多数が罹患する可能性のある疾患（common disease：がん、心血管病等の生活習慣病、認知症など）の成因・病態は極めて複雑であり、その解明・克服のためには多面的かつ統合的な研究アプローチが必要とされる。一方で、難病（その多くは rare disease：稀少疾患）の有効な治療法開発にも、実態調査・基盤研究から臨床への展開研究が必要である。従来から、ヒトの生体由来試料 － バイオリソース － が研究目的で収集保管され、それを活用することで最先端研究を推進しようという動きは見られた。特に近年、ゲノム医学・再生医療分野の技術革新が進むにつれて、バイオリソースのバンク化の重要性が認識され、各国が精力的に「バイオバンク」構築に取り組んでいる。我が国は、“iPS 細胞などの細胞株の加工技術”及び“高度な医療体制の充実に伴う高精度な医療情報”において、先進諸国の中でも優位性を保っている。しかし、これらの高度な医療の普及に伴い蓄積される膨大な生体試料や医療情報も、適切に整理・保管されていなければ、有効活用されずに死蔵されてしまう。残念ながら我が国は、「バイオバンク」のような体制の構築に関しては十分といえない状況であり、先端技術を医療に応用して社会に還元していくためにもこれらの整備が喫緊の課題である。6 つのナショナルセンターは、主要な疾患を網羅し、国民の健康を守るために疾患の解明と治療法の開発を目指す医療研究機関であり、これらが率先して共同のバイオバンク構築に取り組み、ナショナルセンター内あるいは外部研究機関との共同研究等を積極的に推進し、バイオリソースを産学官連携して活用できるような仕組み作りを目指す。

【進捗状況】

ナショナルセンターバイオバンクネットワークプロジェクトのホームページが公開され、進捗状況が逐一報告されるようになった（https://ncbiobank.org）。当センター内のバイオバンク（成育バイオバンク）は、当センターに期待されている試料収集に最適化した運用プロトコルを定め、当センター倫理委員会の承認を受け（受付番号 630）、2014 年度中期から新規検体の収集を進め、登録者数 1,519、総検体数 2,936、DNA1371、血清 881、組織 717 を収集した（2018 年 12 月末時点）。NCBN カタログデータベースへの情報更新も順次行われ、登録者数 1,519 となった(2018 年 12 月末時点)。なお、外部からの問い合わせは 61 件あり、そのうち 35 件は企業から、残り 26 件は大学・研究機関からの問い合わせであった。現在これらの問い合わせへ対応検討中である。

バイオバンク長　松原洋一（併任）、副バイオバンク長　秦健一郎（併任）、バイオリソース倫理室長　奥山虎之（併任）、バイオリソース情報室長　野口貴史（併任）、検体システム管理室長　松本健治（併任）、細胞管理室長　小野寺雅史（併任）、共同研究調整室長　瀧本哲也（併任）、事務局　川村和世・長谷川冬雪

3-1-22　好酸球性消化管疾患研究室

好酸球性消化管疾患研究室は、平成 30 年(2018 年)10 月 1 日に発足しているが、ここでは平成 30 年、免疫アレルギー・感染研究部在籍中の成果を含めて報告する。

【ミッション・目標】
現在、好酸球性消化管疾患 (EGID) は、世界中で報告が増加しつつあるが、その診断治療法は未開発の状態にあり、病因病態も不明である。この診断法、治療法の開発、病因、病態の解明を行うことを目標とする。

好酸球性消化管疾患 (EGID)は、新生児-乳児消化管アレルギーと、幼児～成人の好酸球性胃腸炎(EGE) /食道炎 (EoE)に分類される。世界的には数十万～百万人程度の患者が存在すると概算される。我が国は EGID の増加に早くから直面しており、重症患者も多い。このため、EGID 患者を救うための有効な手段を世界に先駆けて開発し、貢献すべきであると考える。

【研究プロジェクト】
1. 診断法開発
2. 治療法開発
3. 好酸球性胃腸炎(EGE)、サブグループ探索
4. 好酸球性消化管疾患、エビデンスに基づいた診断基準作成、重症度スコア作成
5. 消化管、各部位における免疫学的役割の解明を行う
6. 抗原を認識する免疫細胞の特定を行う
7. 胎内感作のメカニズム解明
8. 発症リスク因子の同定

【研究体制】(平成 30 年 10 月 1 日現在)
室長:野村伊知郎(病院アレルギーセンター医員併任)
共同研究員: 鈴木啓子、永嶋早織、山本真由

【共同研究体制】
免疫アレルギー・感染研究部(松本健治部長、森田英明室長)、アレルギーセンター(大矢幸弘センター長、福家辰樹医員、宮地裕美子医員、ほか)、同消化器科(新井勝大診療部長、清水泰岳医員、竹内一朗医員)、周産期・母性診療センター(左合治彦センター長、伊藤裕司副センター長)、同病理診断部(義岡孝子部長)、放射線診療部(野坂俊介統括部長、堤義之診療部長)、群馬県立小児医療センター アレルギー感染免疫・呼吸器科(山田佳之部長)、島根大学第二内科(木下芳一教授、石村典久講師)、順天堂大学小児科(大塚宜一客員准教授、工藤孝広准教授)、福岡大学筑紫病院内視鏡部(八尾建史教授)

【研究の概要】
[これまでの研究成果]
好酸球性消化管疾患は、IgE を介すること無く、食物の摂取などによって主として消化管に症状を呈する厚労省指定難病である。新生児-乳児消化管アレルギー、好酸球性胃腸炎、好酸球性食道炎に大きく分類される。

新生児-乳児消化管アレルギーの報告は西暦 2000 年ころから急激に増加し、現在毎年 2000 名の新生児、乳児患者が新たに発生していると推定されている。重症者では腸閉塞、消化管穿孔、栄養吸収障害による脳発達障害、死亡例などが報告されているが、通常の IgE 依存性アレルギーと異なり、IgE が

診断に役立たないため、早期診断は困難を極めることが多い。

国立成育医療研究センター研究所免疫アレルギー・感染研究部および、アレルギー科においては、この疾患に早くから注目し、2007 年にオンライン患者医療情報データベースを整備して全国からの症例の集積を行い(厚労科学研究費)、乳幼児期の消化管アレルギーには 4 つの異なる病型が存在することを報告した(J Allergy Clin Immunol 2011)。全国で間違いない診療が行えるよう、診断治療指針を一般公開した(http://nrichd.ncchd.go.jp/imal/FPIES/icho/pdf/fpies.pdf)。2015 年からは厚労省研究班として MINDS 準拠ガイドラインの作成を主導した。最新の国際診断治療指針作成にも参画した(International Consensus Guidelines, J Allergy Clin Immunol 2017, 139, 1111-1126)。

実臨床ではこれまでに 500 名以上の患者の診療を行い、全国から患者診療についての相談を受け、最重症症例を成育医療研究センターに集約して入院治療を行う体制を整えてきた。現在も常時 5-10 名の重症患者の入院治療を行っている。

消化管アレルギーの年長児、成人型ともいえる好酸球性胃腸炎については、島根大学第二内科など、消化器内科と連携しながら、新たな治療法開発(多種食物除去とその後の原因食物同定、厚労科学研究費)を成育医療センター病棟にて、栄養科など多業種の協力のもと開発中である。

末梢血を用いた早期診断マーカーの探索を行い、最も臨床診断の困難な好酸球性胃腸炎で血清中の IL-33 と TSLP が高値となることを見いだした(J Allergy Clin Immunol 2016)。また、病態解析として、患者末梢血単核細胞を in vitro で抗原刺激した際の免疫応答を検討し(J Allergy Clin Immunol 2013, J Allergy Clin Immunol 2017)、消化器科新井部長と共に生検組織を採取して網羅的な遺伝子発現解析を行い(Allergol Int. 2015, J Allergy Clin Immunol 2017, J Allergy Clin Immunol Pract 2017)、それらの成果を報告してきた。

消化管アレルギーの診断治療方法の開発や病態解析は、成育医療研究センターの中長期計画の一つとして明記されており、今後も成育の研究所と病院の連携した取り組みが必要である。

[本期間の研究成果]

1. 消化管アレルギー、Minds 準拠診療ガイドラインの完成公開
2. Minds 準拠のガイドラインを作成すべく、好酸球性消化管疾患 Minds 準拠診療ガイドライン委員会(野村伊知郎;統括委員長)を発足させ、消化管アレルギーに関する内外の論文のシステマティックレビューを行い、ガイドラインを完成、公開した(2018 年 5 月)
   https://www.egid.jp/index/guideline。
3. 治療法開発、好酸球性胃腸炎、多種食物除去治療の症例集積研究
4. 各種治療によっても症状改善が得られなかった患者 12 名を受け入れ(病院アレルギーセンター)、多種食物除去治療を行い、ほぼ全例で、多種食物除去期間中の症状寛解、検査値正常化を見た。
5. 年長児～思春期の好酸球性胃腸炎においても、乳児と同様のサイトカイン、ケモカインの上昇を認めた。本結果は、米国アレルギー学会(AAAAI2018)において発表され、米国患者団体 APFED から best oral abstract award on EGIDs を授与された。論文投稿準備中である。
6. 新生児-乳児消化管アレルギー、全国調査の集計と解析
7. 全国調査の結果、罹患率を算出するとともに、症状から分かれた 4 つのクラスターごとの頻度とそれぞれの原因食物抗原の差を明らかにした。論文を投稿準備中である。
8. 早期発症新生児-乳児消化管アレルギーの、臍帯血解析
9. 新生児-乳児消化管アレルギーの出生時の臍帯血解析を行い、matched-control としてセンター出生の児を選んで比較を行った。論文投稿中である。
10. 好酸球性胃腸炎、食道炎の全国調査の集計と解析
11. 全国調査を行い、集計結果から、発症年齢、自然歴、持続期間など、実態を明らかにした。論文を投稿準備中である。

臨床研究センター

3－2　臨床研究センター

3-2-1 臨床研究センター概要

理念　国立成育医療研究センターの理念の下、成育医療にかかる新しい医療の研究・開発及び既存医療の最適化を推進することにより、次世代の健康と幸せに貢献します。

組織　2016 年度末に組織変更を実施し、集約化・所掌整理を実施（4 部、15 室（主幹含む））

特色　2013 年度に採択された厚生労働省革新的医療技術創出拠点プロジェクト事業が終了。組織再編を行い、当該プロジェクトで構築した臨床研究・治験実施体制の維持・発展を進め、ナショナルセンターとして日本の成育医療の臨床研究・試験（治験を含む）推進の中心となるべく努めている。

企画運営部：企画運営室、臨床研究管理室、知財・産学連携室からなる。臨床研究及び治験に関する管理及び支援、他の医療機関、研究機関の支援、特許取得支援、知財管理、企業連携支援を行う。

開発推進部：臨床試験推進室、薬事・国際連携室、ネットワーク推進室、製剤開発室からなる。臨床研究・治験の支援・調整、小児治験ネットワークの運営・管理・中央審査委員会事務局、規制当局対応、国際連携、小児用製剤開発を行う。

データ管理部：生物統計室、データ管理室、データ科学室、疾患登録管理室からなる。臨床研究・治験のデータ管理、プロトコル作成支援、小児と薬情報収集ネットワークの整備・情報の評価、疾患レジストリの構築・利用可能性の検討を行う。

臨床研究教育部：臨床研究教育室、生命倫理研究室からなる。臨床研究に関する教育プログラムの企画運営、臨床倫理・研究倫理に関する研究・支援を行う。

3-2-2　　企画運営部

企画運営部は、2017 年 3 月に行われた臨床研究センターの組織改編に伴い新たに設置され、旧臨床研究開発センターにおける開発企画部の機能を継承している。企画運営部長の下、企画運営室、臨床研究管理室、知財・産学連携室が活動を行っている。

3-2-2-1 企画運営室

企画運営室は医師主導治験を含む臨床試験の企画・計画・実施に係る作業、臨床研究センター全体の運営に係る業務、他施設を含む臨床研究教育を実施した。

1. シーズ管理及び研究支援体制管理等
   A) シーズ管理
      SharePoint 上で共有する開発工程表に基づいてシーズ支援に関連する情報の一元管理を行い、実務担当者が一堂に集まって情報共有をするための開発戦略会議を主催した。
   B) 研究支援体制管理
      臨床研究センターが支援している案件を一覧にまとめ、臨床研究センター内で共有し、リソース管理と研究支援のための管理体制を整えた。
2. 臨床研究推進本部会議・推進委員会事務局
   臨床研究の推進と充実を目的に開催する臨床研究推進本部会議ならびに推進委員会において会議の開催準備、議事録作成等の事務局業務を行った。
3. 臨床研究センター内の標準業務手順書管理体制の整備
   臨床研究センター内の臨床研究に関する標準業務手順書の管理体制を見直し、整えた。
4. 成育内外で実施する臨床研究の支援
   成育内外の臨床研究相談を複数担当し、臨床研究計画立案・開発戦略、規制対応等の相談に対応した。また、Birthday 事業（AMED）に関連した 50 件の臨床研究計画へのアドバイス、プロジェクトマネジメント支援等を行った。臨床研究の効率的な運用及び on-the-job Training を目的に臨床研究のプロジェクトマネジメントに関する手順書を作成した。
5. 臨床研究法に対応した研究体制の整備
   2018 年 4 月に施行となった臨床研究法に準じた研究体制を整えるため、教育や手順書テンプレート作成等を行った。また、臨床研究法に準じた研究審査体制を整えるため、規程や手順書の作成等を行った。
6. 臨床研究教育
   成育内外で開催されるセミナーや e-Learning 等の企画や講義に関して、臨床研究教育室と協力しながら進めた。

3-2-2-2　臨床研究管理室

臨床研究管理室では、国の定める研究倫理指針に従い、当センターで臨床研究が実施できるよう、臨床研究に携わる者を対象にした倫理講習会を実施している。倫理審査委員会への申請には、講習会の受講が必須であり、研究医療課と連携し、受講者記録を管理している。
また、臨床研究法の施行に伴い、厚生労働省から臨床研究審査委員会の認定を受け、特定臨床研究の審査を始めた。平成 30 年度は 14 件(新規1件、移行審査 13 件)の審査を行った。

3-2-2-3 知財・産学連携室

知財・産学連携室は、国が進める知的財産の保護と活用の基本的方針を推進するために設置されたものであり、産業技術力強化法の理念に則り、知財の適切な管理と研究開発成果の産業への移転促進の業務を担っている。職務発明審査委員会、共同研究審査委員会ならびにそれら委員会の事務局を担う研究医療課と密な連携をとりながら活動を進めている。

2018年度も引き続き、1)研究活動や診療活動の中からの知的財産になりうる成果の掘り起し、2)職務発明申請ならびに特許出願手続きの支援、3)出願中の特許の管理、4)共同研究の相談・契約交渉等、これまでの活動を継続実施した。本年度の実績としては、職務発明の認定９件、特許の取得６件、共同研究契約締結 34 件、発明を受ける権利の譲渡1件であった。

職務発明の目利き役として平成 23 年度から導入している顧問弁理士制度は本年度も引き続き活用しており、職務発明委員会へのオブザーバーとしての参加や外国出願方法の相談など、適宜、助言を求め、無駄のない知財管理に努めている。また、弁理士の同席のもと、薬事・国際連携室と協力し、開発初期の段階で知財と開発戦略の相談を同時に実施する機会の提供を開始した。

3-2-3 開発推進部

臨床試験推進室、薬事・国際連携室、ネットワーク推進室、製剤開発室が活動を行っている。

3-2-3-1 臨床試験推進室

臨床試験推進室は、本邦初の成育領域を専門とする治験管理室として、1992 年 3 月に発足し、2010 年 4 月の独立法人化に伴い、名称変更された。当センター内の治験・臨床試験支援、国内の成育領域における治験・臨床試験の推進、治験の啓発を目的に活動している。

1)治験・臨床試験の実施支援・推進

当センター内の企業治験(製造販後臨床試験を含む)、医師主導治験に対して、臨床研究コーディネーター(CRC)による実施支援を行い、医師・関連部門と活発に打ち合わせて、治験がGCP省令等の規制に沿って適切に実施されるよう管理している。CRC が全被験者に対する治験実施支援を行う体制をとっている。治験患者専用夜間休日緊急連絡窓口を設け、夜間・休日や緊急時にも迅速に対応できるようにしている。また、小児科領域における医師主導治験に積極的に取り組み、企画運営部、データ管理部と連携して、計画段階から、実施、終了、薬事承認申請まで段階に応じた支援を行っている。

2018 年は、企業治験 38 件(2017 年 40 件)の実施支援と管理を行った。内訳は小児がんセンター7 件、循環器科 7 件、消化器科 5 件、内分泌・代謝科 5 件、血液内科 4 件、遺伝診療科 2 件、腎臓リウマチ膠原病科 2 件、不育診療科 2 件、アレルギーセンター1 件、眼科 1 件、皮膚科 1 件、免疫科 1 件であった。そのうち国際共同治験は 19 件(循環器科 6 件、血液内科 4 件、小児がんセンター3 件、内分泌・代謝科 3 件、消化器科 2 件、眼科 1 件)であった。医師主導治験は 14 件(2017 年 9 件) で、内訳は小児がんセンター5 件、免疫科 2 件、こころの診療部 1 件、臨床検査部 1 件、移植外科 1 件、産科 1 件、集中治療科 1 件、消化器科 1 件、総合診療科 1 件であった。当センター内の臨床試験については、CRC による実施支援を 9 件(先進医療 B の 2 件を含む)行った。

さらに医師主導治験の治験調整事務局業務 2 件、計画書作成支援 5 件、説明同意文書作成支援 2 件、モニタリング業務 1 件を行った。

2)治験啓発活動・情報発信

患者とその保護者の方や職員に向けた治験啓発活動として、看護の日イベントに治験ブースを出展した。

3)研修見学受入

2018 年は、小児治験の実施状況などを見学の目的として、1 施設より 2 名を受け入れた。

4)研究活動

日本医療研究開発機構研究費、臨床研究・治験推進研究事業:小児難治性頻回再発型・ステロイド依存性ネフローゼ症候群を対象としたリツキシマブ治療併用下でのミコフェノール酸モフェチルの多施設共同二重盲検プラセボ対照ランダム化比較試験(主任研究者:飯島一誠、分担研究者:佐古まゆみ)

3-2-3-2 薬事・国際連携室

薬事・国際連携室は 2017 年 3 月 1 日の臨床研究センター組織改変により新たに発足した部署である。

＜開発薬事＞

蓄積された成育領域における開発薬事のノウハウを、臨床研究センターの関連部署と連携して提供している。臨床研究センターが支援しているすべての臨床開発についてアドバイスを行うのみならず、知財・産学連携室と連携して、成育発の研究シーズの早期実用化に向けてのアドバイスも行っている。昨年度までは、顧問弁理士と知財・産学連携室で行っていた研究者に対する職務発明についての相談に、2018 年度からは薬事・国際連携室も同席することとし、開発初期の段階から、将来的な臨床応用の可能性を視野に、研究内容・方針についてのアドバイスを行うよう体制を整備した。さらに、外部企業やアカデミアからの開発薬事についてのコンサルテーションに対しても、積極的にアドバイスを行っている。

＜国際連携＞

成育領域疾患の多くは希少疾病であり、またその治療開発のノウハウも限られていることから、国際的にノウハウを共有し知恵を出し合って開発を進めていかねばならない。症例数が少ないことからしばし

ば国際共同開発も必要となる。国際連携を進めるために、AMED 研究も活用して、主に以下を進めている。

日本医療研究開発機構研究費「小児医薬品の実用化に資するレギュラトリーサイエンス研究事業」(2016 年度～2018 年度、研究代表者：中村秀文)を活用した活動として、1)、2)：

1) 新生児国際コンソーシアムへの日本からの参画

International Neonatal Consortium (INC)は、新生児疾患の診断基準・評価指標の標準化など、新生児治療開発推進のための多角的な課題に取り組む国際的なコンソーシアムである。杏林大学の楠田聡客員教授とともに中村室長がこのコンソーシアムの調整委員会に参加しており、その調整の元で日本の多くの新生児科医が、さまざまなワーキンググループ活動に参加して、日本からの意見提案を行っている。

2) 小児剤形検討のための国内連携体制の構築

欧州では小児剤形検討の国際的コンソーシアム European Paediatric Formulation Initiative (EuPFI)が活発な活動を行っており、小児に適した剤形、添加物の安全性、薬剤部における剤形変更の標準化などに取り組んでいる。このカウンターパートとして、我が国での検討と海外への情報発信を進める国内連携体制の構築を、薬剤部・製剤開発室や関連学会と連携して進めている。

3) 日本小児科学会「小児医薬品開発ネットワーク」事務局としての活動

日本医療研究開発機構研究費「小児領域における新薬開発推進のための医薬品選定等に関する研究」(2017 年度～2019 年度)研究分担者として、ネットワーク推進室、臨床試験推進室と連携して、日本小児科学会を窓口とし治験をオールジャパン体制で支援する「小児医薬品開発ネットワーク」の事務局活動を行っている。このネットワークの取り組みについて国内外へ情報発信するとともに、欧米で設立中のネットワークの事務局とも、将来的な連携を念頭に情報共有を進めている。

事務局として2018 年 6 月 30 日に開催した日本小児科学会研究班主催の「小児医薬品評価・小児薬理国際シンポジウム」には、海外からも 8 名の演者が参加し、これら 1)～3)の活動内容を含む、小児医薬品評価・小児薬理のトピックについて対外的に紹介した。

3-2-3-3 ネットワーク推進室

ネットワーク推進室は、従前の臨床研究ネットワーク推進室から2017 年 3 月 1 日の臨床研究センター組織改変により新たに発足した部署である。ネットワーク推進室の活動としては、従前の臨床研究ネットワーク推進室の活動を継承し、日本小児総合医療施設協議会(Japanese Association of Children's Hospitals and Related Institutions：JACHRI)加盟施設を中心に設置された小児治験ネットワークの中央事務局機能を担う部門となっている。当室は、この小児治験ネットワークの取り組みを通して、小児領域における医薬品・医療機器の開発促進や小児 CRC の育成並びに施設間の情報共有活動など小児医療の向上を目的に活動している。

[小児治験ネットワーク]

小児医薬品開発(治験)を促進するためには、小児医療施設での治験実施体制整備を進めていく必要がある。しかし、小児領域では治験(開発)数が少ないため、小児医療施設での治験実施体制は盤石と言い難い状況である。このため、小児医療施設による強固な「ネットワーク」を形成し、ネットワークを通して治験実施体制の整備、情報共有、研修活動などを実施していくことが重要となる。

小児領域に特化した国内初の「小児治験ネットワーク」は 2010 年に設立され、2018 年末で 41 施設(前年：38 施設)が加盟し連携強化に努めている。小児治験ネットワークを介した治験受託実績としては、2018 年度において、治験の一括審査を担う小児治験ネットワーク中央治験審査委員会(いわゆる中央 IRB)を 12 回開催(1 回/月開催)し、製薬企業主導治験 39 件(前年度：27 件)(新規課題：11 件、継続課題：28 件)の審査を終了している。当室は、これら治験の治験事務局並びに中央 IRB 事務局としても活動している。

これら取り組みにより、今まで治験実績のない施設においても小児治験を実施できる環境を整えることができた。また、製薬企業(治験依頼者)からの依頼に応じる治験実施可能性調査(症例数調査も含める)は、2018年度に 18 件(前年度：10 件)を受託し小児治験促進のための活動を展開している。また、治験業務の効率化を目的とした「オンデマンド方式」(事前に治験実施に係る準備を完了させておいて、候補症例が現れた際に、直近の中央 IRB で新規審査(施設追加の審査)を行う形態)の導入に向けた

検討を開始し2017年4月より導入している。一方、小児CRCの教育・養成を目的として2017年4月には、小児治験ネットワークの下部組織として「小児CRC部会」（部会員数：98名（前年度：72名））を設立し、小児CRCの育成、施設間の情報共有活動をしている。この小児CRC部会での企画・運営にて引き続き、「第3回小児CRC教育・研修会」を2018年7月に開催（49名参加）するなど人材育成活動も実施している。なお、本研修会は、小児治験ネットワーク加盟施設以外からの受講も可能とし、かつ日本臨床薬理学会の認定研修会として認められている。

今後は、小児治験ネットワークで培った人的・機能的なノウハウを活用して治験以外の臨床研究の支援活動なども展開し、小児臨床開発のOne Stop Serviceを実現していきたいと考えている。

＊小児治験ネットワークホームページ＜https://pctn-portal.ctdms.ncchd.go.jp/＞

3-2-3-4 製剤開発室

日本では小児用製剤の開発が進まない、薬が服用できず困っているなどの問題が起きている。2017年3月より臨床薬理研究室から製剤開発室に組織改変し、このような小児用製剤不足の現状を改善するために、より良い小児用製剤を研究し、開発推進することを目的として活動している。

GMP対応の小児用製剤製造施設及び分析室を設け、臨床現場で必要とされている小児用製剤の開発を目的とし、処方設計や剤型の検討などの基礎的段階から着手するとともに、小児科学会及び各分科会において小児用製剤のニーズを把握・評価することにより、必要とされている小児用製剤の開発の可能性について大学や企業と共同研究を行うなど産学連携を推進している。

2018年における契約等の実績は以下の通りです。

・共同研究契約　　3件
・製剤開発相談件数　19件

3-2-4 データ管理部

データ管理室、データ科学室、生物統計室、疾患登録管理室が活動を行っている。

3-2-4-1 生物統計室

成育医療研究センターは 2013 年度に臨床研究中核病院整備事業対象として選定され、2014 年度に臨床研究開発センター、2017 年度に臨床研究センターが組織された。その中で、生物統計室は医師主導治験の計画支援、臨床研究の計画支援および統計解析、そして臨床研究教育を担当している。医師主導治験を目指した研究では、コンセプト立案時から会議に参加し、綿密な研究計画を立てることに寄与している。臨床研究相談室にあった相談に対応し、研究計画書作成から論文作成まで幅広く対応している。臨床研究教育室が主催する臨床研究基礎セミナーで生物統計学の教育を担当し、くわえて統計ソフトハンズオンセミナーを開催して臨床研究を計画して解析するときに必要な知識の浸透をはかった。

生物統計室で臨床研究の計画時支援を行っているものは治験を含めて合計 20 件以上に及ぶ。研究終了時のデータ解析や論文作成支援を行っているものは毎月 10 件程度あり、臨床研究を始めるところから終えるところまでの支援を幅広く行ってきた。平成 30 年度で生物統計室が支援し受理された臨床研究論文は 4 本であった。

当センターがナショナルセンターであることを考えると、対外的な研究支援も広く行うことも必要である。平成 30 年度は以下学会の学術集会にて統計相談を受け付けた（日本小児科学会、日本小児腎臓病学会、日本小児循環器学会、日本周産期・新生児医学会）。

3-2-4-2 データ管理室

データ管理室では、臨床研究データの品質を高めるため、実施計画の段階から医師や関係部署と打合せを活発に行っている。2018 年末時点の人員は、兼任の室長（医師）1 名、専任のデータマネージャー6 名である。

2018 年は、実施中の臨床研究支援として医師主導治験 4 件・臨床研究 3 件の進捗管理及びデータマネジメント業務、臨床研究 1 件の登録割付業務を行うとともに、医師主導治験 1 件の EDC 構築、特定臨床研究 1 件、臨床研究 3 件、レジストリ 1 件の試験開始支援業務（CRF 作成支援、データマネジメントツールの作成等）、医師主導治験 2 件の症例検討会用資料作成及びデータ固定業務を実施した。

また、標準業務手順書をはじめとするデータ管理室の業務手順を見直し、データマネジメント計画書等のテンプレート化を行った。

3-2-4-3 データ科学室

1）概要

データ科学室は、小児と薬情報収集ネットワーク整備事業をはじめとした医療情報の戦略的な活用を担う部門として、2015 年 2 月に設置された。小児治験ネットワークの人的・機能的インフラを活用して整備された小児医療情報収集システムを用いて、小児に医薬品の処方実態（投与量、投与方法）および副作用等の情報を自動的に収集し、分析・評価する体制（システム）を整備している。このシステムで得られた情報を活用して、小児領域における医薬品の安全対策の向上、小児医薬品の開発促進を目指している。

2）小児医療情報収集システム

成育医療研究センターでは、厚生労働省からの補助事業である小児と薬情報収集ネットワーク整備事業により、全国の小児医療機関等から小児における副作用情報や投与量情報などを一元的に収集し、分析・評価する体制（システム）の整備を進めている。

小児治験ネットワークの人的・機能的インフラを活用して整備された小児医療情報収集システムでは、全国の小児医療施設と診療所からのデータが、ネットワークを通じて情報収集用のデータベースに収集される。電子カルテシステムからは、医療情報として「検査」「病名」「処方」「注射」データを収集し、不足する患者情報には問診システムからの「問診」データによって補完している。問診システムは、患者・家族自身に情報を入力いただくことで、本人同意を得るツールとしても活用している。

2018 年度時点で 11 施設・34 診療所が参画しており、医療情報が約 36 万人分、問診情報が約 3 万人分蓄積されているが、副作用の発現確率を考慮して統計学的に有効な評価結果を得るため、最終的には薬剤の副作用を評価するに十分な数の施設・診療所の参画が目標となる。

3)データ収集・評価システム

小児医療情報収集システムで収集されているデータの利活用の一環として、収集されたデータを用いて解析を行い、薬剤と副作用の関係性を評価し、フィードバックしていく仕組みの整備を進めている。この解析を行うには、病名、使用薬剤、副作用発現状況を示す症状・所見・検査値のデータが一通り必要ですが、現在収集されているデータで評価が可能である。データ科学室では、収集されたデータから解析の目的に応じてデータを検索し、解析対象データを汎用的なXML形式で抽出し、解析に適した形式にデータを変換して解析用データセットを準備し、目的とする解析を実施し、解析結果をレポートとして出力する、という一連の流れを自動化する、データ収集・評価システムの開発を進めている。

このようなデータ収集・評価を薬剤ごとに個別に実施するには多大なコストがかかることに加え、介入方法の新規導入や変更によるリスクも伴います。低コスト・低リスクかつ多目的に利用できるデータを多施設から収集することができるという点で、全国の小児医療施設と診療所が参画する小児医療情報収集システムは、極めて重要な社会基盤であると考えている。

3-2-4-4 疾患登録管理室

疾患登録管理室では、レジストリデータと病院業務データを活用した疾病登録管理手法の開発・支援、および、これらのデータを用いた医療の質の評価手法の開発を行っている。
2018 年度においては、成育ポピュレーションサイエンスネットワークにおいて利用するデータ集積システムとして米国 Vanderbilt 大学が開発した REDcap(Research Electronic Data CAPture)の試験導入・検証を行い、レジストリデータを収集するための基盤整備（サーバ構築、運用保守等）を行った。他施設共同研究等においてデータを前向きに収集する際に、そのデータの収集・管理は非常に重要であるが、REDcap は IT 専門家でなくとも比較的的容易に収集することを可能システムである。一定の教育を受けることで、データ収集用の帳票作成、データベースの構築・管理ができるようになる点に特徴があり、アカデミアにおいてよく利用されている臨床研究支援システムの一つである。

3-2-5 臨床研究教育部

臨床研究教育部長の下、臨床研究教育室、生命倫理研究室が活動を行っている。

3-2-5-1 臨床研究教育室

臨床研究教育室は、我が国の成育医療における臨床研究の発展を目的に、臨床研究に関する教育プログラムを企画・運営している。当センターの臨床研究教育は、臨床研究関連のセミナーやワークショップ、臨床研究相談室、英語論文校正の 3 つで構成されている。

2018 年度には、臨床研究の基本を学ぶ機会を提供する臨床研究教育セミナーを全 12 回実施するとともに、過去のセミナー動画や資料をアーカイブ化し、オンラインで視聴・参照出来るようにした。演習や臨床研究の実施を通して臨床研究の技術を身に付ける「臨床研究ハンズオントレーニング・ワークショップ」については、4 コース行った。特に、今年度より開始した「実践的臨床研究トレーニングアドバンスコース」は、臨床研究を主導する人材の育成を目的とした 1.5 年間のコースで、8 名の受講者がそれぞれの研究テーマにもとづき、セミナー参加と個別指導を通して、研究計画の策定を行った。また、小児・周産期領域の学会と連携して、臨床試験の研究計画をブラッシュアップするワークショップを実施した。加えて、専門家を招聘して行う臨床研究開発セミナーを 5 回実施し、のべ 338 名が受講した。これらのセミナーやワークショップについては、センター外の機関からも参加できるよう、関連学会、小児医療施設、大学、その他医療機関や研究機関に開催を案内し、のべ 137 名の外部受講者があった。更には、臨床研究および治験の活性化とそれを支援する人材の育成を目的として、全国の小児・周産期医療施設等において臨床試験コーディネーター、データマネジャー、生物統計家などの臨床研究を支援する業務を行っている職員を当センターにて受け入れる、オンザジョブトレーニングの制度を設置している。

当センターの臨床研究の専門家が、臨床研究の各段階で生じる様々な相談に対応する臨床研究相談・支援窓口には、センター内外より計 181 件の依頼があり、相談内容に応じて、研究計画作成支援、統計解析支援などの支援を行った。加えて、関連する領域の学会等において教育講演を行うとともに、臨床研究についての相談が可能なブースを出展し、成育医療分野での臨床研究の活性化を目指している。

また当部門では、当センターで生み出される優れた研究の成果を正確に素早く世界に発信すべく、英文校正者が英語論文の校正にあたっている。学術論文や学会発表資料など、合計 210 件の英文校正依頼を受け、校正および修正助言などの支援を行った。うち学術論文に関しては、順次学術誌にアクセプト・出版されている。

3-2-5-2 生命倫理研究室

【ミッション・目標】

生命倫理研究室では、成育医療領域における臨床倫理および研究倫理に関する諸課題について学問的に取り組むと共に、倫理的問題についての臨床倫理コンサルテーションを行っている。特に成育医療領域では、その対象が自らの医療に関して自己決定することのできない子ども（未成年者）であることから、つねに「代行判断（代諾）」の倫理的妥当性の問題や子どもの権利擁護の問題等に特別な配慮が必要となる。

また、上記に加え、研究プロトコル作成時の研究者等への研究倫理に関するコンサルテーションも実施している。さらに、研究者、CRC をはじめとする研究支援者、倫理委員会委員および事務局等に対する倫理研修等を通して、成育医療研究の倫理的基盤の構築にも貢献している。

また、当センターで取り組まれている先端医療技術等に関連した生命倫理にかかる政策等の検討、小児患者の権利擁護の観点から小児慢性疾病対策のあり方、自立支援、移行支援等に関する政策検討、さらに小児の慢性疾患患者の生活実態調査（well-being 向上のための調査研究）等も実施し、小児である患者ならびに被験者の権利擁護、QOL 向上の観点を踏まえた成育医療・保健政策の立案に資するエビデンスの構築に取り組んでいる。

【研究プロジェクト・概要】

1） 臨床倫理コンサルテーション（院内臨床倫理検討会）

成育医療領域における臨床倫理に関する諸課題について学問的に取り組むと共に、倫理的問題についての臨床倫理コンサルテーションを実施している。

2） 研究倫理コンサルテーション
成育医療領域における研究倫理に関する諸課題について学問的に取り組むと共に、研究プロトコル作成時の研究者等への研究倫理に関するコンサルテーションを実施している。

3） 慢性疾患を有する子どもの健康と福祉に関する研究
慢性疾患や障がいをもつ子どもたちの総合的な健康や福祉に関する指標や評価法の開発を行うと共に、それらの評価指標を用いて、慢性疾患を有する子どもたちの well-being 向上のための生活実態調査等を進め、養育・療育における子どもたちの権利擁護の観点を踏まえた自立支援・移行支援等の政策提案を行っている。

4）先端医療技術等に関連した生命倫理にかかる政策の検討
再生医療、iPS 細胞研究、細胞治療等先端医療技術等に関連した生命倫理にかかる政策等の検討を進めている。

［社会貢献］
厚生労働省先進医療技術審査部会 構成員
厚生労働省厚生科学審議会再生医療等評価部会 委員
厚生労働省厚生科学審議会臨床研究部会 委員
厚生労働省再生医療等提供状況管理委託事業評価委員会 委員
日本医療研究開発機構再生医療臨床研究促進基盤整備事業課題評価委員会 委員
日本医療研究開発機構 iPS 細胞等臨床研究推進モデル事業課題評価委員会 委員
日本医療研究開発機構ゲノム医療実現推進プラットフォーム事業 先導的ELSI研究プログラム 課題評価委員会 委員
日本医療研究開発機構成育疾患克服等総合研究事業評価委員会 委員
日本小児科学会小児慢性疾病患者の移行支援ワーキンググループ 委員
日本循環器学会倫理委員会研究倫理審査部会 委員
日本循環器学会利益相反委員会 委員
日本頭蓋顎顔面外科学会倫理・利益相反委員会 委員
ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング J-TEC 倫理委員会 委員
日本骨髄バンク倫理委員会 副委員長
日本骨髄バンク遺伝学的情報開示に関する審査会議 委員
国立医薬品食品衛生研究所利益相反委員会 委員
日本小児がん研究グループ（JCCG）監査委員会 委員
日本小児がん研究グループ（JCCG）プロトコルレビュー委員会 委員
医薬品医療機器総合機構再生医療等製品患者登録システムに関する検討会 委員
日本保健情報コンソシウム再生医療倫理委員会 委員
日本保健情報コンソシウム特定認定再生医療等委員会 委員
国立成育医療研究センター臨床研究相談員
国立成育医療研究センター認定再生医療等委員会 委員
日本小児総合医療施設協議会（JACHRI）小児治験ネットワーク中央治験審査委員会 委員
九州大学病院心臓移植術後検討会 委員
東京大学大学院薬学系研究科・薬学部ヒトを対象とする研究倫理審査委員会 副委員長
大阪大学第二特定認定再生医療等委員会 委員
大阪大学大学院医学系研究科ヒト ES 細胞倫理審査委員会 委員
東京医科歯科大学特定認定再生医療等委員会 委員
東京女子医科大学病院認定再生医療等委員会 委員

病　　院

3-3　病院

3-3-1 病院概要

理念　「研究所と一体となって、健全な次世代を育成するための、診療と研究を推進する」

病床数　入院病床　490 床（うち小児系 354 床）

病棟数　産科病棟（LDR 含む）3 棟　小児入院医療管理料1算定病棟8 棟（含無菌治療室4部屋）
AYA・成人病棟 1 棟（7:1 入院基本料算定）、もみじの家
新生児集中治療室（NICU 加算ベッド 21 床）、 小児集中治療室（PICU 加算ベッド 20 床）、GCU 加算ベッド数 40 床、MFICU 加算ベッド6床

特　色　小児、新生児、産科、周産期、母性医療の国立高度専門医療センターであり、国内最大規模の専門病院として、専門領域のリーダー的役割を果たしている。世界的にもハイレベルな医療を提供する病院と知られている。最も大きな特徴は、上空連絡路で繋がっている研究所と密な連携をとって、高度・先進医療を開発・提供していることである。多職種の専門家がチームをつくり、様々な病状や訴えをもつ患者を包括的に診療するとともに、各専門診療科独自の特徴を生かした希少・難病疾患の診療を基本としている。診療部・センターは 14 の部門に分かれ、高度かつ先進的な医療を行っている。救急外来は 24 時間 365 日オープンしており、小児救命救急の最後の砦の役目を果たしている。全国の大学病院、小児病院からの紹介患者が多く、約2日に 1 人は直接搬送入院を受け入れており、名実共に、日本の小児・周産期領域の日本のセンター的役割を担っている。特に、今年度には、高規格大型救急車を導入し、お迎え搬送から集中治療が開始できるようにした。最近は、諸外国からの紹介患者が増加している。明るく開放的で、ホスピタルアートに配慮した病院でもある。

・総合診療部：総合診療科、救急診療科、在宅診療科からなる。小児医療のゲートキーパー機能、複数の疾病をもつ子ども達の総合医療、集学的医療のコンダクター的機能を実践する。

・器官病態系内科部：消化器科、循環器科、呼吸器科、神経内科、腎臓・リウマチ・膠原病科がそれぞれの専門的、先進的診療を担当する。

・生体防御系内科部：免疫科、内分泌・代謝科、感染症科、遺伝診療科がそれぞれの専門的・先進的診療を担当する。

・臓器・運動器病態外科部：外科、脳神経外科、心臓血管外科、整形外科、泌尿器科、リハビリテーション科がそれぞれの専門的・先進的診療を担当する。

・感覚器・形態外科部：形成外科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、歯科がそれぞれの専門的・先進的診療を担当する。

・こころの診療部：乳幼児メンタルヘルス診療科、児童・思春期メンタルヘルス診療科、児童・思春期リエゾン診療科からなる。小児がんを中心に重症慢性疾患患者の増加によってコンサルテーション・リエゾン機能も有する。

・手術・集中治療部：集中治療科、手術室、麻酔科が麻酔、手術室管理、集中治療を行う。

・周産期・母性診療センター：産科、胎児診療科、不育診療科、産科麻酔科が正常

及びハイリスク妊婦の妊娠分娩管理と胎児診療を、新生児科が新生児集中治療を行う。母性内科、不妊診療科、婦人科、妊娠免疫科が、女性を対象に、主にリプロダクションに関連した医療（産科以外）を行う。

・臓器移植センター：小児の脳死移植を含めて臓器移植を行なっている。移植外科にて肝臓移植を、泌尿器科にて腎臓移植を行なっている。2018 年4月から保険診療となった小腸移植を開始している。

・小児がんセンター：血液腫瘍科、血液内科、固形腫瘍科、脳神経腫瘍科、移植・細胞治療科からなり、全ての小児期悪性腫瘍への対応が可能である。小児がん病棟を2病棟有して、1病棟に2つの無菌治療室を持っている。無菌治療室では先天性免疫不全患者の骨髄移植も行なっている。小児がん拠点病院であると同時に、国立がん研究センターとともに小児がん中央機関として日本の小児がん医療の中心を担っている。

・アレルギーセンター：2018 年より、アレルギー対策基本法で当センターは中心拠点病院にしてされたこともあり、生体防御系内科部から独立した。総合アレルギー科、皮膚アレルギー科、消化管アレルギー科からなる。

・放射線診療部：放射線診断科はエックス線、CT、MRI、超音波などの画像診断及び核医学検査を総括し診断を行う。また、脳血管、腹部疾患を中心にカテーテル治療も行なっている。放射線治療科は腫瘍性疾患患者の放射線治療を行う。

・臨床検査部：検体検査、生理機能検査及び輸血・組織適合性、及び細菌に関する検査業務を行う。また、高度先進検査室において、日常の検査では行い得ない研究的な検査を行う。

・病理診断部：院内及び全国の小児周産期疾患の病理診断、コンサルテーションを行う。また、小児がんの中央病理診断施設として活動する。

・感染制御部；感染症科スタッフ（感染制御認定医師）と感染管理認定看護師を中心に、ICT(infection control team)活動の司令部としての役目を果たしている。また、抗微生物薬の使用量を把握し院内での適正使用を推進している。

・高度感染症診断部：ウイルスの迅速診断、特に小児の移植後の日和見感染症関連ウイルス(HSV-1,HSV-2, VZV, CMV, HHV-6, HHV-7, BK virus, etc)の早期同定、慢性活動性 EBV 感染症、EBV 関連血球貪食性リンパ組織球症の検査・解析を行う。

・医療連携・患者支援センター：他の医療施設等との患者の円滑な受入れと紹介、外国人患者受入れ、セカンドオピニオン外来、在宅医療への移行支援、種々の患者相談を行う。

・教育研修センター：成育医療に係わる医療者の教育と人材育成を行っている。教育体制の整備、研究所との協力、論文塾、海外との交流などが発展中である。

・栄養管理部：食事やミルク等を入院患者へ提供するとともに、栄養食事指導（相談）や栄養サポートチーム活動を通して栄養管理を行う。

・薬剤部：小児や妊産婦に対し専門的な調剤、製剤、服薬指導等を行い、感染管理や栄養サポート等の医療チームにも参加し、これらの情報を全国の医療施設、行政

に発信している。

・看護部：22 看護単位（15 病棟、手術室、外来、救急センター、専門看護室）を有する。様々な発達段階、様々な健康問題を持つ患者・家族に総合的・継続的な看護を提供し、チーム医療の一翼を担う。命をはぐくみ、子どもと家族の未来を支える看護をめざしている。

・診療情報管理室：新たに診療情報管理士からなる専門部署を設置した。DPC 関係、診療録監査など多くの診療情報管理を担当する。また、医師事務作業補助者の管理運営も担当している。

・チャイルド・ライフ・サービス室：米国 Child Life Council の認定を受けたチャイルドライフスペシャリスト(CLS)3人が医療チームの一員として心理社会的支援を入院患者に行なっている。

・もみじの家：11 床の医療型短期入所施設を、主に医療的ケア児とその家族をサポートする目的で開設した。現在は小児緩和ケアも行っている。なお、この施設は100%民間からの寄付で設立された。

敷 地　　80，080㎡（研究所を含む）

建 物　　建築面積 18，699㎡、延床面積 99，341㎡

3-3-2 総合診療部

総合診療部全体の活動状況をを 3 年に 1 度、記載させていただく。

2002年に5番目のナショナルセンターとなった国立成育医療センターは、専門診療科とともに総合診療部を配置した。両者が車の両輪のように診療を推進し、特殊な病態を持った子どもたちのケアだけではなく、子どもの問題全般にかかわり、社会の将来を担う者すべてに開かれた医療を行うためであった。

開院時、総合診療部は小児期診療科、思春期診療科、成人期診療科という年齢別の構成に救急診療科を加えた4科体制でスタートした。翌2003年に高山ジョン一郎が初代の部長に就任し、日本の小児科卒後教育を牽引した。2008年、阪井裕一が2代目の部長となり、総合診療部は「教育第一」を掲げ、レジデントを総合診療部ではなく病院全体の小児科レジデントと位置づけ、卒後教育はさらに充実した。

2010年に石黒精が教育研修部長併任で総合診療部に赴任し、2015年7月、窪田が3代目の部長（現、統括部長）として赴任すると同時に、石黒部長は教育研修部長（現、教育研修センターセンター長）専任となった。これにより、卒後教育に関しては教育研修部が中心となって行い、総合診療部は「車の両輪のように」診療を支えるという当初の方向性に立ち返った。

2016年に総合診療部は組織改編を行い、2017年に余谷暢之を緩和ケア科医長（現、診療部長）として迎え、正式に総合診療科、救急診療科、在宅診療科、緩和ケア科の4科体制となった。これにより総合診療部が行うべき医療が明確になった。

現在、総合診療部は、「Until Every Child Has a Smile」というビジョンをかかげ、「どのような状況にいる子どもであっても、笑顔でいられる」ために、子どもたちやそのご家族と向き合い、寄り添い、共に考え、子どもたちの笑顔のために真摯な態度で小児医療に取り組んでいくことを目指している。

ミッションとして、診療においては、「急性期入院の診断、治療の充実（川崎病を含む）」「Children with medical complexity（医療的ケア児）の栄養、呼吸管理を含む包括的診療」「児童虐待への対応」「健やかな子どもの生活と育ちのサポート（発達、育児、傷害予防、成人移行支援への取り組み）」「ホスピタリストとしての小児在宅医療」「小児の緩和ケア」を挙げた。教育、研究においては、「小児科レジデントを含む若手医師への教育」「臨床研究の推進」「国内外の学会への参加と英文誌への投稿」を挙げた。最後に情報発信においては、「地域連携、他の小児病院との連携の推進」「医療以外の福祉、教育分野との連携」を挙げた。

私たちは、以上のビジョンとミッションのもと、新しい 4 科体制で、時には様々な困難を伴う診療に取り組んでいる。

3-3-2-1 総合診療科

子どもは、ひとりひとりがオンリーワン。総合診療科では，すべての子どものよりよい健康と発育を目標に，総合診療部の中核として，入院病棟・外来の両方で多くの子どもたちに幅広いケアを提供しています。

① 入院ケア
総合診療科では24時間・365日いつでも子どもたちに必要なケアが提供できる医療チーム体制をつくり，医療ケアを提供しています。

【急性期疾患】
2018年、総合診療科では2,445人の子どもたちの入院治療を行いました（表1）。入院治療を疾患別にみると、気管支喘息発作が358人と最多でした。2番目に多いのが川崎病の入院で、199人の治療を行いました。最近では他施設からの難治症例も積極的に受入れ、日本の川崎病治療に貢献をしています。3番目がRSウイルス感染に伴う下気道感染症での入院で、合計187人の子どもたちが入院治療を必要としました。低出生体重児や、心疾患をもつ子どもたちがRSウイルス感染に罹患すると重症化しやすく、時にPICUでの人工呼吸管理が必要となります。RSウイルスは寒くなる晩秋から冬季に流行することが多かったのですが、最近は夏季にもRSウイルスの流行が発生しています。今後も感染流行の動向には注意が必要です。

【NICUからの継続治療】
生後すぐから集中的な医療ケアを必要とする赤ちゃんはNICUに入院します。NICUに入院したあと，体調が安定して退院ができる赤ちゃんもいますが，引き続き多くの医療ケアが必要となる赤ちゃんもいます。総合診療科では継続ケアが必要な赤ちゃんのケアをNICUから引継いで担当し，安心して自宅に帰ることができるようにご家族に医療ケアプランを提供しています。
2018年、総合診療科ではNICUを卒業した継続ケアが必要な24人の子どもたちを病棟で受入れ、担当しました。心疾患や神経疾患など生まれ持った病気は多様ですが，ひとりひとりに合わせた医療ケアを提供しています。

② 総合診療科外来
総合診療科外来では院内外から多くの初診患者をご紹介いただいております。紹介患者さんの内訳では、乳幼児では、体重増不良症、言語や運動発達の遅れなどのご紹介が多く、学童期、思春期では慢性頭痛、起立性調節障害、夜尿症などのご紹介が多かったです。

また総合診療科外来では，日常的に医療ケア（人工呼吸管理や経管栄養など）を必要とする多くの子どもたちのフォローアップを行っています。院内の専門診療科や，院外のクリニック，訪問看護ステーション，療育施設や教育機関など関係機関と連携をしながら，よりよい子どもたちの成長と発達を目標に，必要な医療ケアを提供し続けています。

③ 医学教育
当院では小児科専門医を目指す多くのレジデント（専門研修医）が子どもたちひとりひとりにより良い医療ケアが提供できるよう日夜研修を行っています。総合診療科は教育研修センターと連携し，当院の小児科専門研修の中核を担っています。

（表1）2018年の総合診療科入院患者の内訳

	疾患名	入院患者数（人）
1	気管支喘息発作	358
2	川崎病	199
3	RSウイルス気管支炎・細気管支炎・肺炎	187
4	尿路感染症	161
5	細菌性肺炎	131

6	ウイルス性気管支炎・細気管支炎・肺炎	126
7	係留脊髄	90
8	熱性けいれん	73
9	ウイルス性胃腸炎	41
10	誤嚥性肺炎	38
	その他	
	合計	2,445

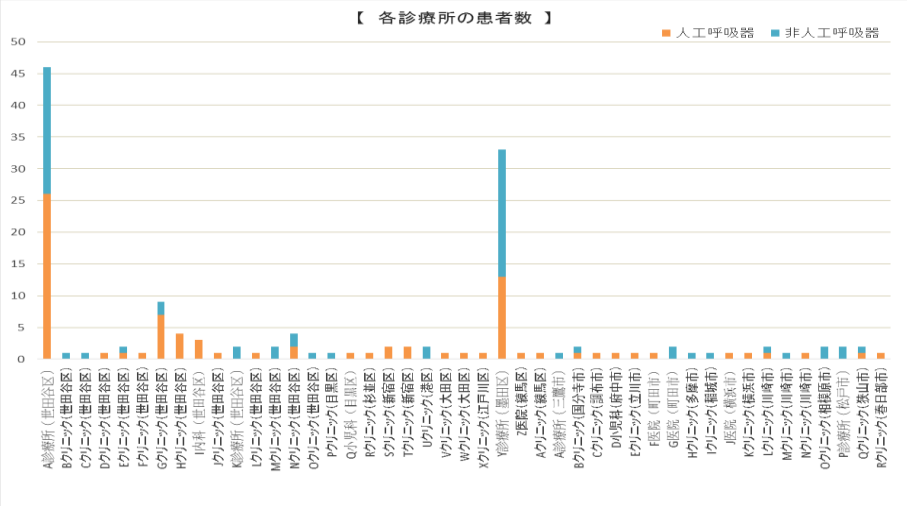
3-3-2-2 救急診療科

「救急診療が必要なお子さんをいつでも診療します。」をモットーに診療をしています。 小児科専門医および救急専門医である救急専属医師が 24 時間常駐し，重症度を問わず，内科系・外科系疾患も問わずに診療をすることを心掛け 2018 年は 27,933 人の診療を致しました。 救急車受入台数は，3108 台(応需率 97.5%)でした。直接来院される地域のお子様や救急搬送のほかに，他の医院・病院からの紹介・転院搬送受け入れは 3359 件，近隣地域だけではなく青森から沖縄まで国内各地からの転院搬送がありました。 重症な状態のお子さんの「当センター小児専門搬送チーム」による病院間緊急搬送は 24 時間 365 日起動可能な体制で活動しており 72 件でした。 救急外来からの入院は、2,985 人，うち，重症例 398 人は PICU に入室しました。診療の一環として，子どもさんの生活の安全や，より良い医療を目指して「異物・中毒に関する健康被害調査」「けがの予防」など調査を実施し、学会報告や論文として公表しました。
この他に研修会として7月に医師を対象とした「救急・集中治療 成育研修セミナー」2 日間，9 月には「救急の日」にちなんで，地域の子ども達，保護者の方，および保育師さん方を対象に「心肺蘇生講習会、けがの予防について」，10 月には地域の保健師，保育士さんを対象に「子どもの事故予防」，11 月に世田谷区小児科医会の先生方と実習を含む蘇生講習会を開催しました。人材育成面では、救急診療科フェロー4名が各々のキャリアに応じたプログラムにより研修しました。研修後は，当科の常勤医師や国内各地で小児救急医療のリーダーとして活躍します。

3-3-2-3 在宅診療科

成人期移行も見据えて、地域の在宅医に小児患者も診てもらえるよう活動を行っている。在宅医を希望する患者・家族の希望を聞いたうえで、在宅医を紹介している。平成 30(2018)年 12 月 31 日までの実績を下記に示す。

成育の患者さんを診ていただいている在宅医(45 診療所、患者 150 名)



講習会

成育・心身障害児総合センター合同講習会

1. 第 1 回 成育・心身障害児総合センター合同講習会. 国立成育医療研究センター. 2017.9.9
2. 第 2 回 成育・心身障害児総合センター合同講習会.心身障害児総合センター. 2018.1.6
3. 第 3 回 成育・心身障害児総合センター合同講習会.国立成育医療研究センター. 2018.6.16

世田谷小児在宅勉強会

国立成育医療研究センター.2018.7.4, 2018.10.31

小児在宅医療技術講習会

国立成育医療研究センター.2018.8.19, 2018.11.24

平成 30 年度小児在宅医療に関する人材養成事業 講習会.医師会館. 2019.1.27

小児在宅医療勉強会

三重大学小児トータルケアセンターの活動～小児がん診療拠点病院、小児在宅医療、地域連携、そして災害時対策～.国立成育医療研究センター. 2019.3.7

3-3-2-4 緩和ケア科

【診療】

生命の危機に直面する疾患を持つ患者と家族の苦痛の緩和と療養生活の質の向上をはかる緩和ケアの診療体制を確立するために 2016 年 10 月総合診療部に緩和ケア科が設立され、2017 年 4 月から活動を開始している。診療部長 1 名（小児がんセンターがん緩和ケア科診療部長と併任）の体制で、年間 101 件の病棟コンサルテーションと緩和ケア外来を行っている。対象の約半数は小児がん患者で「こどもサポートチーム」と協働して、看護師、MSW、CLS など多職種でチームをつくり緩和ケアの提供を行っている。また PICU や NICU、神経科など様々な診療科の医師、看護師から依頼を受けて、診断時から多面的かつ包括的なアセスメントに基づき患者の身体的精神的苦痛の緩和と患者・家族のクオリティー・オブ・ライフ（QOL）の向上を目指した緩和医療を提供している。また、2018 年 9 月よりもみじの家において専門的緩和ケアを受けながら最期の時間を過ごすための病床運用を開始し、最期までその子らしく生き抜くことを支える医療の提供を目指し実践している。

【臨床研究】

成人を対象とした緩和ケア分野と比較して、全世界的に見て小児緩和ケアの研究体制は未成熟である。我々は現在、小児がん患者・家族と医療従事者の終末期における話し合いの現状や小児緩和ケア提供体制の現状について本邦初の全国調査を実施し、結果を英文雑誌に報告するなど、日本の緩和ケアの提供体制についての実態調査を実施している。また今後継続的に緩和ケアの質が評価できるための評価尺度の開発を行っている。今後全国の小児がん拠点病院や日本小児総合医療施設協議会を通じて多施設共同研究の体制を確立し、世界に向けて発信できる日本の小児緩和ケアの研究体制の整備に努める。

【将来展望】

がん・非がん問わず、「生命の危機に直面する疾患をもつこどもと家族」に対する緩和ケア体制の充実、地域コンサルテーション体制の確立、小児科サブスペシャリティとしての緩和ケア研修体制の確立、小児緩和ケアにおける研究体制の整備を図っていく。

3-3-3 器官病態系内科部

3-3-3-1 消化器科

1. 診療活動

小児の消化器疾患、栄養管理のスペシャリストとして、質の高い医療の提供に尽力している。

1-1. 炎症性腸疾患の診断・治療

小児の患者数も増えてきている潰瘍性大腸炎・クローン病といった炎症性腸疾患の診療と研究に力を入れており、2006 年以降、250 名以上の炎症性腸疾患患者の診断・治療を行ってきた。
特に乳幼児期に発症した患者や難治性患者については、全国から紹介や相談を受け、診断と治療のみならず、適切な栄養管理とチーム医療の実践による患者 QOL の向上、そして予後の改善まで考慮しての診療をすすめている。

1-2. 便秘症・過敏性腸症候群

便秘症や過敏性腸症候群といった機能性の腸疾患に関しても、患者の QOL 改善を目指して、積極的な器質的疾患の除外と、薬剤療法を提供している。

1-3. その他の消化管疾患・栄養疾患

消化管の内視鏡検査数は年間 600 件以上と、国内の小児施設としては屈指の件数である。新生児から成人までの、小腸カプセル内視鏡含む診断的な内視鏡のみならず、ダブルバルーン小腸内視鏡や食道静脈瘤の治療、消化管出血の内視鏡的診断と治療も行っている。また、アレルギーセンターとの協力のもと、好酸球性胃腸炎の診断治療にも積極的に取り組んでいる。

2018 年 1 月～12 月　内視鏡件数:621 件

上部消化管内視鏡	: 230 件	食道静脈瘤結紮術	: 10 件
下部消化管内視鏡	: 231 件	食道静脈瘤硬化療法	: 1 件
小腸カプセル内視鏡	: 89 件	内視鏡的止血術	: 4 件
ポリペクトミー	: 5 件	小腸内視鏡	: 48 件
結腸狭窄部拡張術	: 1 件	直腸内視鏡	: 1 件
バルーン内視鏡(経肛門法):1 件			

2. 研究活動

消化器科では、小児の消化器・栄養分野の臨床研究を幅広く実施している。
以下に、平成 30 年に行われていた研究を示す。

<u>成育医療研究開発費</u>

① 「小児期発症炎症性腸疾患の病態把握、診断基準確立および将来的な治療研究基盤確立のための研究」(主任研究者:新井勝大)

<u>厚生労働科学研究費補助金</u>

① 厚生労働省科学研究費補助金(難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業))「好酸球性消化管疾患、重症持続型の根本治療、多種食物同時除去療法の診療体制構築に関する研究」(分担研究者:新井勝大)
② 厚生労働省科学研究費補助金(難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業))「小児期から移行期・成人期を包括する希少難治性慢性消化器疾患の医療政策に関する研究」(分担研究者:新井勝大)

<u>国立研究開発法人日本医療研究開発機構研究費</u>

① 臨床研究・治験推進研究事業「小児低亜鉛血症に対する酢酸亜鉛顆粒剤の有効性・安全性の評価のための医師主導治験」(主任研究者:新井勝大)

② 臨床ゲノム情報統合データベース整備事業「真に個別患者の診療に役立ち領域横断的に高い拡張性を有する変異・多型情報データベースの創成」（分担研究者：新井勝大）
③ 難治性疾患実用化研究事業「慢性肉芽腫症腸炎に対する小児用サリドマイド製剤の実用化に関する研究」（分担研究者：新井勝大）

倫理委員会承認研究課題

① 「超早期発症型炎症性腸疾患患者の内視鏡所見ならびに腸管病理所見の探索的検討」（研究責任者：新井勝大）
② 「家族性地中海熱遺伝子関連腸炎の診断法確立」（研究責任者：新井勝大）
③ 「小児炎症性腸疾患における血清亜鉛およびセレン値の臨床的有用性に関する研究」（研究責任者：新井勝大）
④ 「本邦の炎症性腸疾患患者における Epstein-Barr virus(EBV)感染状況に関する多施設共同研究」（研究責任者：清水泰岳）
⑤ 「炎症性腸疾患を有する小児における便中カルプロテクチンの臨床的有用性の検討」（研究責任者：清水泰岳）
⑥ 「小児におけるカプセル内視鏡挿入補助器具の有効性および安全性に関する後方視的研究」（共同研究者：清水泰岳）
⑦ 「超早期発症炎症性腸疾患におけるインフリキシマブの有効性と安全性の検討」（研究責任者：竹内一朗）

3-3-3-2 循環器科

特色

循環器科は以下の疾患に対し、他科と協力し診療を行っている。

・先天性心疾患
・新生児心疾患
・胎児先天性心疾患
・心筋疾患(小児重症心不全、急性心筋炎、心筋症)
・肺高血圧症
・不整脈
・川崎病
・マルファン症候群や、ムコ多糖症などの全身疾患や遺伝性疾患に伴う心疾患
・成人先天性心疾患

・先天性心疾患、新生児心疾患の診療:心臓血管外科、新生児科、集中治療科、麻酔科と協力し、評価、術中・術後管理、外来診察を行っている。毎朝心臓血管外科との合同回診、水曜午後の循環器カンファレンスを中心に患者さんごとに治療方針を決定している。
・胎児心臓病:胎児診療科と連携して、胎児先天性心疾患の診断を行っている。胎児心臓病治療も開始てきる。
・心筋疾患の診療:小児重症心不全の管理治療を行っている。心筋疾患に対し、心臓 MRI、心筋生検を積極的に施行し、診断、予後評価を行っている。乳児例に対し心臓移植を避けるべく、肺動脈絞扼術を施行し、補助人工心臓(Excor®)を装着することなく管理できている。小児補助人工心臓 (Excor®)の認定施設である。小児心臓移植施設の認定を申請している。急性心筋炎は早期に ECMO を導入する方針で集中治療科、心臓外科と共同で治療を行い良好な成績が得られた。
・肺高血圧症の診療:特発性肺高血圧症はもちろん、当院の特徴でもある、他領域に関連した、特に肝疾患に伴う門脈肺高血圧症の症例が多く、移植外科、肝臓内科と協力し、診療を行った。
・不整脈の診療:薬物療法、カテーテルアブレーションを行っている。
・川崎病:特に冠動脈病変を合併した症例の管理を中心に行っている、総合診療部に協力し、川崎病外来も一部担当している。乳幼児から積極的に心臓 MRI による心血管病変。特に冠動脈評価を施行している。心臓カテーテル検査による侵襲的な検査を避けるべく、低侵襲なツールによる評価を心がけている。
・全身疾患に伴う心疾患の診療:ムコ多糖症は、当院のライソソームセンターからの紹介で、その弁膜症や心筋疾患の管理を行っている。マルファン症候群などの結合組織性疾患は、病変が多臓器に渡るため、眼科、整形外科や遺伝診療科などと協力して診療を行っている。
・成人先天性心疾患の診療:主に小児期に当院で手術した症例は心臓外科と、妊娠出産前後の管理を産科、母性内科と協力して行っている。病院の方針でもある、成人診療科、具体的には循環器内科への移行を積極的に行った。心肺機能検査、心臓 MRI なども施行し、その管理、予後評価に役立てている。

体制

常勤医:6 名(内兼任 2 名) フェロー:3 名

診療活動

外来診療
・月から金 午後、初診および再診

診療実績	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年
入院患者数	397	360	316	328
心臓カテーテル検査(評価)	120	97	97	94

カテーテルインターベンション	75	69	63	48
内　心房中隔欠損(Amplatzer)	12	12	10	7
内　動脈管開存(Amplatzer)	1	2	2	0
内　Hybrid 治療	1	0	0	0
カテーテルアブレーション	0	2	1	1
心内膜心筋生検	5	1	5	9
心臓 MRI	46	43	50	49
心臓核医学	17	21	23	10
心エコー	8168	8505	8317	6599
胎児心エコー	39	62	56	60
ホルター心電図	432	383	390	276
運動負荷心電図	79	68	91	91

入院患者数はやや増加、心臓カテーテル検査、インターベンション数はやや減少した。その他の検査数の変動は小さく、ほぼ 2017 年と同等であった。

研究活動

・胎児心臓カテーテル治療を胎児診療科と協力し、いつでも開始できる体制を整えた。(成育医療開発研究費)
・川崎病ボードで、研究所・総合診療部・腎臓リウマチ膠原病科・研修教育センターなどと協力して、川崎病の疫学、遺伝子特性、治療法の確立に協力している。(成育医療開発研究費など)
・日本小児循環器学会および関連学会と協力し、さまざまなデータベース作成に協力している。
・多施設共同研究として単心室循環・成人移行期支援事業・成人ファロー四徴・アイゼンメンジャー症候群などの研究に参加している。(厚生労働科学研究費・日本医療研究開発機構研究費・成育医療開発研究費)
・エコーによる複雑心奇形の血流解析(文部科学省科学研究費)
・肺高血圧症治療薬・抗凝固薬・抗不整脈薬・小児心不全治療薬に対する治験に参加している。

学会認定

・日本小児循環器学会専門医修練施設
・日本小児循環器学会専門医 5 名(内兼任 2 名)

教育・講演など

・当センターレジデントおよび東京医大レジデントの受け入れ。
・近隣の医学生やレジデントの見学の受け入れ。
・ヨーロッパ小児循環器学会との交換留学生の受け入れ。
・患者家族会での講演など。

3-3-3-3 呼吸器科

1.特色

1.1 小児呼吸器専門の診療科

1.2 豊富な臨床経験

1.3 小児気管支内視鏡検査

国内では数少ない小児の呼吸器専門診療科として、質の高い医療の提供を目標としている。小児慢性特定疾病に含まれるような希少疾患の臨床経験、気道病変に対する内視鏡検査実施件数は国内屈指である。これらの診療経験を生かして他院からの診療相談やセカンドオピニオンに対しても積極的に取り組んでいる。

2.診療活動、研究活動

2.1 総括

科内の事情のため紹介初診患者の受け入れを止めざるを得なかった。その影響もあり、外来受診者数(延べ 1679 人)、初診患者数(28 人)，入院数(延べ 22 人)はいずれも減少したが、内視鏡検査症例数(132 例)はほぼ例年通りであった。

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
外来受診者(延べ)	2476	2187	2142	1679
内初診患者	142	95	114	28
入院患者(延べ)	73	59	38	22
内視鏡検査症例数	147	159	107	132
上気道	69	46	54	48
気管支	84	114	71	106

2.2 外来

通常枠は月曜午前，水曜午前，金曜午前・午後で継続している。それ以外の曜日や時間帯でも，他科受診のためなどで患者の希望がある場合には、臨時枠で適宜対応を行った。

新患患者は 28 名と少なかったが、長引く咳嗽と喘鳴でその大半を占めた。咳の原因は感染後咳嗽(遷延性気管支炎)が、喘鳴では喉頭軟化症が目立った。

2.3 入院

入院患者数は減少したが、気道狭窄、先天性嚢胞性肺疾患、間質性肺炎や肺ヘモジデローシスの基礎疾患をもつ患者の短期の検査入院と、気道感染による入院が目立った。症例の重症度は今まで通り高く、難治性疾患のため長期入院を要した症例や繰り返し入院加療を必要とした症例もあった。

A. 急性疾患

1. 感染症

気管支炎，細気管支炎，肺炎

2. 非感染症

気道異物(本年は疑い例 1 例のみ)

B. 慢性・遷延性疾患

1. 上気道疾患

上気道狭窄(喉頭軟化症，声門下狭窄など)

嚥下機能異常(吸引性肺炎を含む)

2.下気道疾患

気管狭窄(血管輪を含む)，気管軟化症

慢性気管支炎(中葉症候群)，気管支喘息

先天亜嚢胞性肺疾患(気管支閉鎖、肺分画症，CCAM など)

3.その他

特発性間質性肺疾患(間質性肺炎、肺胞蛋白症)，肺ヘモジデローシス

2.4 内視鏡検査

原則として火曜日の午前・午後か木曜日の午前に行った。本年の検査実施症例数は 132 例、うち喉頭ファイバースコピー48 件，気管支ファイバースコピー106 件(上気道・気管支を同時に行った症例あり)

であった。当科の特徴である、乳幼児での非挿管管理下気管支内視鏡検査は 4 例実施した。すべての検査において重篤な合併症は 1 件も認めなかった。

＜内視鏡検査実施実績　平成 30 年＞

・延べ症例数　132 例　（気管支鏡　106 件、喉頭鏡　48 件、同時に実施した重複例あり）

・実施場所　手術室 32 例、NICU18 例、ICU23 例、それ以外（内視鏡検査室。病棟、外来処置室）59 例

・気管支異物対応　2 例（内摘出術 1 例）

・心臓血管外科による血管吊り上げ術補助（気管狭窄に対する）　2 例

・気管支造影　1 例

・肺胞洗浄液採取（感染源の特定のため）　5 例

・非挿管管理下気管支鏡　4 例

2.5 カンファレンス

開院以来，科内だけのものは木曜午前 10 時半から，科外を含めたものは木曜に放射線科の協力を得て継続している。当科だけではなく、東京都立小児総合医療センター，慶応大学などの他施設からのものも含めて症例検討を中心として行い，卒後 10 年以内の若手医師による抄読会も併せて行った。希望者には内容をメールで配信した。

他院からのメールやデジタル画像データ郵送による症例相談は本年度も多かった。科内での検討に加えて、木曜日の定例カンファレンスでも検討を行い回答した。

2.6 研究活動

・特発性間質性肺炎または肺ヘモジデローシスに対するヒドロキシクロロキン治療～要件を満たす症例について～（倫理委員会受付番号 1514）

平成 29 年 7 月末からの臨床研究を継続した。参加症例は 13 例（特発性間質性肺炎 11 例、肺ヘモジデローシス 2 例）であった。使用全例において網膜症を含む眼科領域の副作用は認めなかった。

・肺胞蛋白症に対する全肺洗浄の際のフォガティースルールーメンカテーテルの使用（倫理委員会受付番号 1718）

肺胞蛋白症に対する根本的治療は確立したものはないが、呼吸状態増悪時には生理食塩水を使用した全肺洗浄が有効であることが知られている。しかしながら、乳幼児に使用できる気管支ブロッカーセットが発売中止となったため、代替資材としてフォガティースルールーメンカテーテルを使用して全配線口を行う臨床研究を行った。内科的治療に抵抗性の肺胞蛋白症患者で本邦による全肺洗浄を 3 回行い、気管支ブロッカー使用時と同様に安全かつ有効に実施することができた。

3-3-3-4 神経内科

1. 診療内容

1.1 対象とする疾患

スタッフ2名、フェロー6名（うち「もみじの家」兼任1名、ライソゾームセンター兼任1名）で外来、入院、他科からのオンコール業務をこなしている（表1）。

小児神経領域の全ての疾患に専門的に対応：多数の小児期発症てんかん症候群の診断・治療、脳性麻痺とその合併症治療、先天異常（結節性硬化症など）、先天代謝異常（ミトコンドリア異常症、ライソゾーム病、有機酸代謝異常症など）、神経筋疾患（ギランーバレー症候群などの末梢神経疾患、筋ジストロフィなどの筋疾患、重症筋無力症）、多発性硬化症、ナルコレプシー、レット症候群、各種運動異常症(movement disorder)、各種脊髄小脳変性症，睡眠障害、ADHD,ASD など小児神経領域の全てを網羅している。以上の神経筋疾患の一般診療と共に、小児救急疾患である急性脳炎・脳症、髄膜炎なども、各科と協力して診療に従事した。特に急性脳炎・脳症に関しては救急診療部、集中治療部、放射線科、検査部生理部門との協力で診断・治療の標準化を模索している。

外科的適応のあるてんかんにおいては、脳神経外科と協力してんかん外科治療（脳梁離断術、焦点切除術、VNS）のための診断および術前検査などを行なった。また脳神経外科の行う下肢痙縮に対する選択的後根切除術を補完する治療として頚部、上肢の痙縮に対するBotox療法、および抗痙縮剤としてのバクロフェンのポンプ持続注入療法も全国に先駆けて行っている。これらは痙縮の包括的治療としてさらに体系化していく必要がある。

救急診療科を受診したけいれん重積、脳炎、脳症など神経疾患が疑われる際には常に迅速に対応、初期から診断、治療に関わっている。ICU 入院患者についても脳炎、脳症、脳外科、移植外科などの術前術後に神経学的異常が疑われる場合、診断、評価、治療を行っている。NICU では神経発達のフォローアップの必要な児に退院前から関わっている。

	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年
入院患者数	233	198	208	256
外来患者数（再診）	7869	7821	7957	7969 （うち 20 才以上は 1093）
外来患者数（初診）	310	324	324	319

表1 2015～2018年の入院・外来患者数

1.2 診断・検査・治療の概要

診断に際して発達歴、病歴、家族歴聴取が重要であることはいうまでもない。その上で神経学的診察をポイントを外さず入念に行う。神経症候学は先人がCTやMRIのない時代から築き上げたものであり、できるだけ先入見なく記述すべきである。

診断に必要な検査として、頭部画像検査（核磁気共鳴画像、CT スキャン）、脳血流シンチグラム、神経電気生理検査（脳波、ポリグラフ、各種誘発電位、末梢神経伝導速度、事象関連電位）などを、外来または入院にて施行した。新たに磁気刺激装置、NIRS による中枢神経系の病態、特に不随意運動、てんかんでの検索を開始した。また、筋ジストロフィー、先天性ミオパチー、筋炎などの筋疾患などについては筋生検を施行し、遺伝性神経疾患については他施設との協力のもと遺伝子検査にて診断を行った。またいわゆる運動異常症(movement disorders)の臨床診断を系統的に行うプロトコールを準備し、同症でのセカンドオピニオン外来設置を月に1回行っている。遺伝科との協力により稀少神経疾患の網羅的遺伝子解析を行い新たに診断が確定し、予後の推定、合併症の早期把握、一部は治療へとつながっていった。古典的な症候学、神経画像、遺伝子検査を総合して診断の絞り込みを行っている。以下にこの4年間の神経生理学的検査の数を示す。

	2015 年	2016 年	2017 年	2018年
脳波	1461	1257	1347	1250

長時間脳波ビデオ同時記録検査	59	70	137	123
聴性脳幹反応(ABR)	329	301	283	266
体性感覚誘発電位(SEP)	188	179	200	171
視覚誘発電位(VEP)	18	28	34	26
神経伝導検査	81	75	76	78
表面筋電図	2	2	5	4
針筋電図	3	1	0	1
磁気刺激検査(TMS)	8	4	3	2
F 波	36	36	38	47
反復筋電図	4	7	6	3

表2　2015～2018年における神経生理学的検査数の推移

1.3　もみじの家運営参画

2016 年4月からの運営を開始し、開設当初に利用の条件としていた「世田谷在住」や「成育での受診」「年間3回20日間」などの条件を撤廃して利用しやすくした結果、登録者は、ほぼ毎月20人以上のペースで増え続けている。自宅で行ってる医療的ケアをそのまま引き継ぎ実践することで、家族に安心感を与え、満足度を上げることができている。豊かな遊びや学びのある、子どもにとって楽しく、子どもと家族が自宅のようにリラックスし安心して過ごすことができる、“もうひとつの家、サードプレイス”のような存在をめざしている。図1に利用者数等を示す。今年はさらに増加している。また、緩和ケア病棟としての機能も持てるような体制の構築が模索されている。

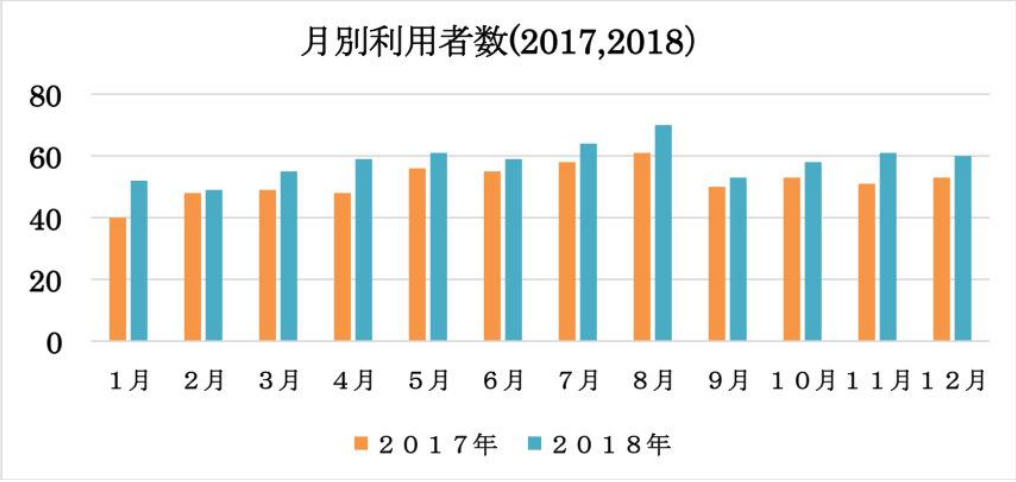


図1　2017、2018年のもみじの家利用者数の推移

2. **共同研究**

他施設との共同研究としては以下のようなものがあり現在進行中であり一部は学会、論文発表を行った。

1. コケイン症候群などの診断、DNA 不安定性と神経疾患の関連に関して長崎大学、名古屋大学と共同研究
2. 脳炎・脳症における熱不安定性遺伝子多型と血中 ATP の解析　徳島大学疾患酵素学研究センターとの共同研究
3. 脳炎・脳症における疾患感受性遺伝子の検索を東京大学発達医科学との共同研究
4. 小児免疫性神経疾患研究会設立による多発性硬化症、ADEM、OMAS などの病態解析

5. てんかん症候群の遺伝子解析　昭和大学、横浜市立大学との共同研究
6. 稀少神経難病の網羅的遺伝子解析を遺伝科と共同研究
7. 免疫介在性神経疾患のバイオマーカーに関して成育遺伝研究部と共同研究
8. 各種運動異常症の髄液バイオマーカーに関して岡山大学と共同研究
9. コケイン症候群の成長発達標準値に関して Strasbourg University と共同研究

3. 班会議

新たに以下の班研究に参画し臨床研究を行っている。

1. 平成30年度厚生労働科学研究委託費（難治性疾患政策研究事業）「先天性および若年性の視覚聴覚二重障害に対する一体的診療体制に関する研究」に共同研究者として久保田が参加し、コケイン症候群、ミトコンドリア病などの臨床経過解析を行っている。
2. 成育医療における出生母子ゲノムコホート研究による長期追跡データの構築と病態解明に関する研究　「母子コホート研究による成育疾患等の病態解明に関する研究」の班員として心身の発達に関わる神経機構を解明するため睡眠覚醒リズム、ロコモーション、視覚的共同注意の獲得の観察、図形描写、アイトラッキング課題を継続して行っている。
3. 平成30年度厚生労働科学研究費「遺伝性白質疾患の診断・治療・研究システムの構築」の分担研究者としてカナバン病の診断基準策定、MCT8 欠損症の全国実態調査を行っている。
4. 平成30年度成育委託研究「次世代シーケンサーを用いた小児遺伝性疾患の診断システムの開発」において稀少神経難病の遺伝子変異解析を行い従来の方法では診断が確定できなかった疾患の診断を行い、予後推定、治療方針確定を行っている。
5. 平成30年度厚生労働科学研究委託費（難治性疾患政策研究事業）「発汗異常を伴う稀少難治性疾患の治療指針作成、疫学調査の研究」の協力研究者として久保田が参加し、無痛無汗症のケアガイドライン作成を行った。
6. 平成30年度厚生労働科学研究費腸管出血性大腸菌感染症に続発する溶血性尿毒症症候群の発症・予後規定因子の検討を医療提供体制の構築のための研究における「腸管出血性大腸菌感染症に伴う脳症発症例の臨床的・画像的特徴を検討する症例集積研究」に共同研究者として久保田が参加した。

4.そのほかの院内外の活動

4.1 院外活動

患者支援活動への関与：結節性硬化症、無痛無汗症、ミトコンドリア脳筋症、SSPE、コケイン症候群、MCT8 異常症の患者会および当科受診中の難治性神経疾患患者の会があり定期的なシンポジウム、会合やキャンプを開くなどの活動を行っている。この中から貴重なデータをもとにケアガイドライン等が報告されている。特に無痛無汗症のケアガイドラインが改訂され、診断・治療に繁用されている。コケイン症候群に関しては「コケイン症候群研究会」ホームページ　http://www.cockayneresearchcare.jp/　を運営し最新の情報を発信している。本邦における同症候群の実態調査や欧米との臨床プロファイルが異なる可能性があり、さらに研究が進められている。

3-3-3-5 腎臓・リウマチ・膠原病科

1.当科の概要

最先端の小児腎疾患医療の提供とともに，都内でも数か所しかない小児リウマチ性疾患専門施設として，当科がこの分野で果たすべき役割は極めて大きい．

診療構成員（平成 30 年 1 月 1 日～平成 30 年 12 月 31 日の間に在籍した者）
医長：石倉健司
医員：亀井宏一，小椋雅夫
フェロー：佐藤舞，西健太郎，奥津美夏，石和翔，金森透

2.診療

1）腎臓部門

当科は，小児期から思春期・成人期に至るまでのすべての腎疾患を診療している．なかでも以下の腎疾患に関して，豊富な臨床経験と研究実績があり，最新の研究成果や知見に基づいた診療を目標としている．主な診療内容は以下のとおりである．

- 学校検尿等で発見された血尿・蛋白尿の管理・治療
- IgA 腎症，紫斑病性腎炎などの慢性腎炎および遺伝性腎疾患（アルポート症候群，家族性血尿，先天性ネフローゼ症候群，先天性腎尿路奇形など）の診断・治療
- 難治性ネフローゼ症候群の診断・先進的治療（リツキシマブ治療を含む）
- 急性腎不全への血液透析，炎症性腸疾患への白血球吸着療法
- 慢性腎不全に対する腹膜透析，血液透析，腎移植

当院は難治性小児腎疾患，とくに難治性ネフローゼの患者を多く診療しており，日本全国の大学病院を含む，他施設からの難治患者の紹介も多い．特に，多数の免疫抑制剤を使用してもステロイド薬から離脱できない，あるいは既存の治療で寛解しないステロイド抵抗性ネフローゼ症候群の重症例・難治例が主である．当科ではこのような患者に，リツキシマブ(抗 CD20 モノクローナル抗体)療法を行うなど，世界でも最先端の治療を提供してきた．当科はリツキシマブを積極的に導入し，世界でも有数の使用経験を持つ施設である．このリツキシマブ療法については，当科が患者登録の中心となり，医師主導型臨床治験を完了し，厚労省より保険承認された．

また，慢性腎不全の診療として血液透析，腹膜透析，腎移植を行っている．血液浄化療法については，外来透析室での慢性血液透析，炎症性腸疾患に対する白血球吸着療法，ネフローゼや移植腎に対する血漿交換などを行っている．小児の慢性血液透析の患者は大変に少なく，その総数は透析学会の全国統計調査でも20名以下である．しかし，当科では乳幼児を含め慢性血液透析を行っており極めて高度かつ専門的な医療を行っている．また，腹膜透析患者は，平成 30 年 12 月末で，計 20 名おり，全国で最も小児腹膜透析患者数が多い施設の一つである．腎移植は，年間 5 例行った．また，腎生検は 50 名（1 月－12 月）に行い，腎炎やネフローゼ症候群の組織診断を数多く行っている．

2)リウマチ・膠原病部門

小児リウマチ性疾患の全てを対象として診療を行っている。主な疾患としては、若年性特発性関節炎，全身性エリテマトーデス，若年性皮膚筋炎，ANCA 抗体関連疾患，高安動脈炎，線維筋痛症，自己炎症性症候群等があり，エビデンスに基づいた最新の治療を行っている．難治性の小児リウマチ性疾患の治療には，ステロイド薬を減量するために，積極的に免疫抑制薬や生物学的製剤を導入し，後遺症のない治療を目指している．日本小児リウマチ学会から小児リウマチ中核施設に認定され、リウマチ疾患については紹介患者が増加してきている．

3.臨床研究・治験

当科は，ネフローゼ症候群，慢性腎臓病，尿路感染症の臨床試験等の多くの多施設共同臨床試験に参加し，これらの疾患の治療エビデンスや治療ガイドラインの作成に貢献してきた．そのなかで，石倉は「頻回再発型小児ネフローゼ症候群を対象としたタクロリムス治療とシクロスポリン治療の多施設共同

非盲検ランダム化比較試験（JSKDC06）」という多施設共同臨床試験の研究責任者も務めている．また石倉は日本小児 CKD 研究グループの研究代表者として，2010 年から小児慢性腎臓病（小児 CKD）の前向きコホート研究を行っている．

4. 教育，研修

当科は全国から広くフェローを受け入れており，とくに小児腎臓医の少ない地域からは優先的に採用してい

上記のフェローが当科で研修を行った．患者の診療のみでなく，国内外の学会や研究会での発表，雑誌総説などの原稿の執筆，英語論文の作成を義務としている．

以下に，当科の定期カンファレンスについて記す．

1）病棟カンファレンス

毎週火曜日に病棟患者のカンファレンスを行っている．そのほかに患者別の個別ケースカンファレンスを関係各科の医師，看護師などを交え，非定期的に行っている．

2）病理カンファレンス

毎月1回病理診断科医師とともに，腎生検標本のカンファレンスを開催．

3）腹膜透析患者カンファレンス

毎月1回，腹膜透析患者のカンファレンスを看護師とともに開催．

4） 他職種カンファレンス

毎月1回，腎臓科病棟患者の問題点について病棟看護師とともに開催．

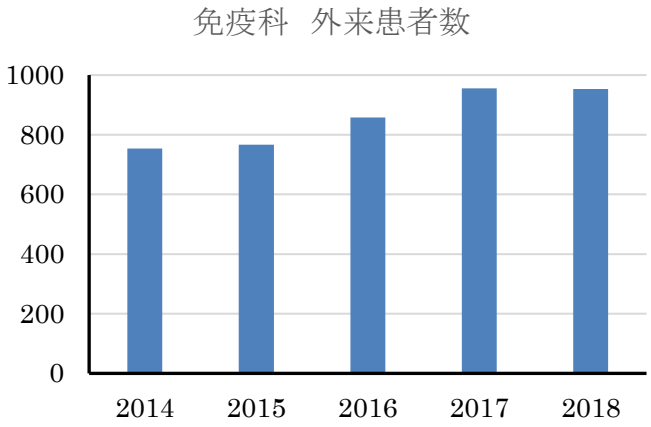
3-3-4 生体防御系内科部

3-3-4-1 免疫科

免疫の異常がおこるとで、「発熱を繰り返す」ことがあります。その中には、「感染症に罹りやすい」あるいは「なかなか感染症が治らない」といった免疫の機能が低下するような病気と、免疫を十分に調節できず発熱や発疹などをきたす病気（自己炎症性疾患、自己免疫疾患、PFAPA 症候群など）があります。原発性免疫不全症や自己炎症性疾患などの免疫の異常症は、診断や治療に苦慮することが多いため、免疫科ではフローサイトメトリ解析やサイトカイン測定などの技術を日常診療へ取り入れ、専門的な診療を行っています。

（1）外来診療

外来診療は、月曜日の午前、水曜日の午前／午後、金曜日の午後に行っており、平成 30 年（2018 年）の外来受診者は 953 名でした。

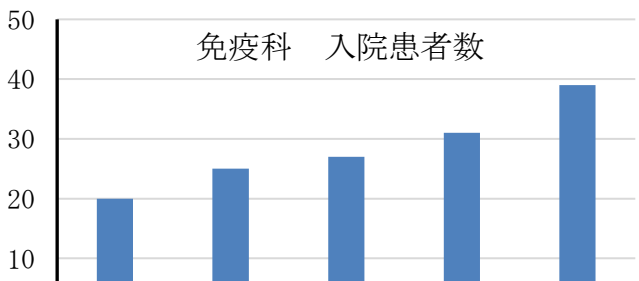


平成 30 年（2018 年）に、免疫科で診療した主な疾患を下記に示します。

慢性肉芽腫症	無γグロブリン血症
ADA 欠損症	重症好中球減少症
高 IgE 症候群	X 連鎖リンパ増殖症候群
慢性皮膚粘膜カンジダ症	Ataxia-Telangiectasia
X 連鎖重症複合免疫不全症	分類不能型免疫不全症
メンデル遺伝型マイコバクテリア易感染症	Wiskott-Aldrich 症候群
一過性好中球減少症	乳児一過性低 γ グロブリン血症
クリオピリン関連周期性症候群	家族性地中海熱
若年性特発性関節炎	全身性エリテマトーデス
若年性皮膚筋炎	PFAPA 症候群

（2）入院診療

平成 30 年（2018 年）の入院患者数は 39 名でした。



平成 30 年(2018 年)に免疫科で入院加療を行った疾患を下記に示します。

慢性肉芽腫症	ADA 欠損症
高 IgE 症候群	若年性特発性関節炎
X 連鎖リンパ増殖症候群	Wiskott-Aldrich 症候群
若年性皮膚筋炎	家族性地中海熱

(3)臨床研究

原発性免疫不全症や自己炎症性疾患(PFAPA 症候群含む)など、いわゆる「難病」と呼ばれる病気の診断と治療技術の発展に貢献するため、臨床研究や臨床試験(医師主導治験)に取り組んでいます。本研究は、それぞれ倫理審査委員会や治験審査委員会の承認を得て、関係部門と連携し実施します。

＜臨床試験＞

慢性肉芽腫症関連腸炎に対するサリドマイド医師主導治療

臨床研究開発センターや薬剤部と共同で、慢性肉芽腫症の患者さんで腸炎を発症した方を対象とした FPF300-OD の医師主導治験を 2017 年 9 月から開始しました。

ウイスコットオルドリッチ症候群の遺伝子治療臨床試験

本疾患に対する遺伝子治療を行うために、病院、研究所、臨床研究センターと連携し、治験を実施する体制を構築しました。

＜臨床研究＞

原発性免疫不全症の診断と病態解析および遺伝子解析

フローサイトメトリを用いて、約 300 検体を解析しました。このうち、他科および院外施設からの診断依頼として、約 100 検体の解析をおこないました。

新生児の原発性免疫不全症スクリーニング

当センターで出生した新生児を対象に、新生児免疫不全マススクリーニング検査を実施しました。

網羅的病原体ゲノム DNA 解析

菌血症や敗血症の早期診断と治療を目的として、血液の中に含まれる病原体をゲノム解析で同定する技術の臨床応用の可能性について検討しています。

3-3-4-2 内分泌代謝科

1.概要

内分泌・代謝科は、小児・思春期、および小児期に発症し成人に達した内分泌・代謝疾患を対象として診療しています。

内分泌代謝科の特徴をまとめると、以下の項目が挙げられます。

1) 対象疾患としてすべての内分泌疾患を網羅しており、患者数は 6300 名。
2) 様々な地域連携・稀少疾患診療の拠点病院としてネットワーク形成
3) 国際的なリーディングホスピタルとして、全国および海外からもフェローを受け入れ、海外からの患者紹介にも対応。海外への情報発信
4) 研究所と連携した基礎と臨床が癒合したトランスレーショナルリサーチ、コホート研究の推進
5) 稀少疾患のトランジション症例(思春期～成人)の診療。

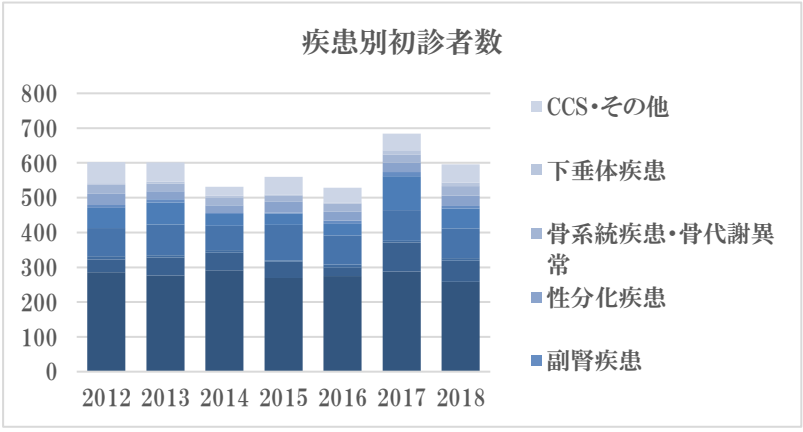
2.診療・研究活動

診療の目標

診療のモットーは、最新の情報やテクノロジーを用いた確実な診断、エビデンスに基づいた最適な治療を提供することです。同時に、最新の診断法と治療法を開発するため、臨床試験を積極的に行っています。最大の目標は、疾患の治療だけでなく、患者さんそしてご家族の生活の質向上です。

診療内容

内分泌代謝科の担当している分野は、こどもの成長、性分化と性成熟、下垂体、副腎、甲状腺疾患、糖尿病や高脂血症など、内分泌・代謝に関わるほぼすべての分野を新生児期から成人に至るまで診療しています。また、稀な先天代謝異常症の診療も行っています。年別新患数と疾患内訳、年間延べ患者数の推移を示します。



当科の主な診療を紹介します。

1)**成長障害**: 成長障害の病因を突き止め、最適な治療を考えていきます。 成長ホルモン治療患者数は 450 名。新しく開発された長時間作動型成長ホルモンの治験、成長ホルモン以外の薬剤を用いた成長障害に対する治療を行っています。

2)**性分化疾患・性成熟異常症**:性分化疾患(男性、女性への分化)は国内の診療中核施設となっており、全国からの診療相談、診察依頼を受けています。小児泌尿器科、遺伝診療科、分子内分泌研究部(研究所)、新生児科などとのチーム医療体制が整っています。また、思春期発来の異常(思春期早発症、性腺機能低下症)の確実な診断と最適な治療を行っています。

3)小児がん経験者・脳腫瘍などの内分泌晩期合併症の診断と治療:小児がん経験者(CCS)について、当院独自の複数科共同フォローアップ体制の一翼を担い、診療、後方視的検討を行っています。

4)小児糖尿病・生活習慣病の診療:1型糖尿病は、2012~2018 年に 45 名の初発患者の診療を行いました。ライフスタイルに合った治療展開(CSII・SAP の促進と新規インスリン製剤の導入)を進めました。現在約 130 名の 1 型糖尿病患者の 35%が CSII を行っています。年少児が多いのも当科の特徴です。

生活習慣病の早期発見、早期効果的治療の取り組みとして学校検診(生活習慣病検診)との連携の確立と、フォローアップ体制構築(世田谷区医師会との連携)を行っています。

5)ライフサイクルに沿った成育医療の実践:疾患をもった母体(特に甲状腺・副腎・下垂体疾患)と胎児・新生児の診断と治療

6)代謝性疾患の臨床研究:低血糖症の診断と治療:小児低血糖症におけるジアゾキサイド治療、本邦

初のオクトレオチド LAR による治療の確立、先天性代謝疾患の生体肝移植・肝細胞移植を含めた治療体制の確立、ES・iPS 細胞由来肝組織の臨床応用プロジェクトに参加

外来診療

内分泌疾患の診療の基本は外来診療です。病診連携を進め、成長障害、思春期早発症、性腺機能低下症など様々な疾患で、診療所での治療をアドバイスする体制をとり、患者家族の利便性向上に務めています。糖尿病や成長ホルモン治療など在宅自己注射を行っている患者さんを、看護師が手厚くサポートし、糖尿病外来では糖尿病療養指導士5名、栄養士、薬剤師と共に診療を行っています。

病棟診療

入院患者数は一日平均約 9 名、診断確定のための精査入院、副腎疾患・代謝性疾患や1型糖尿病の初発患者などが入院診療対象です。この他、腫瘍科・脳外科患者の内分泌管理を行っています。

3. 研究活動

成育母子コホート研究を中心となって遂行しています。新たな治療法の開発にも積極的に参加しています。

2018 年施行の臨床試験：成長ホルモン分泌不全性低身長症の長時間作動性成長ホルモン治療、小児 2 型糖尿病の SGLT2 阻害薬治療、その他市販後調査研究。

基礎研究は、併設の研究所と連携して、主として成長障害、性分化・副腎疾患、その他症候群の分子生物学的病因の解明と疾患成立機序の検討を行っています。

4.教育・研修

(1) カンファランス

世田谷 ENDO フォーラム、成育母子コホート市民公開講座、性分化疾患 Web カンファランス、こども病院内分泌代謝ネットワーク を主催。

(2) 研修

国内外からの研修生の受け入れ：全国からフェロー、臨床研究員が集まっています。希望者は全員受け入れています。海外からの留学生（ミャンマー、インドネシア、タイ、フィリピン、韓国、台湾）も受け入れ、特にアジアでの内分泌疾患診療向上に努め、国際協力をはかっています。

(3) 社会的活動

各種内分泌関連患者会のサポート、世田谷区生活習慣病健診、学校検尿、新生児マススクリーニングの精密検査施設。

3-3-4-3　感染症科

臨床面での活動

コンサルテーション業務：感染症科では感染症が疑われる個々の患者について、主治医から相談（コンサルト）をうけ、その診断、治療に関して主治医と協力して診療にあたっている。そのコンサルト件数は年々上昇しており、2018 年は一年間で約 900 件のコンサルトがあった。コンサルテーション内容としては、原因不明の疾患の解明、複雑な感染症の診断や治療方針の決定、基礎疾患のある患者において感染症の合併が疑われるときの対応などである。

感染症科外来では繰り返す発熱患者の診療、予防接種副反応への相談、先天性感染症のフォローを行っている。また予防接種センターで基礎疾患のある患者に対するワクチン接種を実施している。

教育面での活動

感染症学会専門医・小児感染症専門医を育成する 3 年間のフェローシッププログラムを行っている。2 名のスタッフが 3 名のフェローに対して感染症診療教育を行っている。また、定期的に院内からのローテーターを受け入れ、その指導にも力をいれている。特に総合診療部からのコンサルト症例に関しては、担当のレジデントに対して感染症診療の原則を指導しながら診療にあたっている。

具体的な教育活動としては、院内では週 1 回の抄読会、月 1 回の総合診療部レクチャー、不定期に集中治療部や救急診療部でのレクチャーなどを行っている。また週 1 回、東京都立小児総合医療センター、長野県立こども病院、神奈川県立こども医療センターとオンラインでの合同症例検討会を行い、活発に議論している。さらに、小児感染症の症例検討会である、東京小児臨床感染症勉強会を年 2 回開催し、院外から多数の参加者を得ている。日本小児感染症学会では、毎年学術集会の際に行われる日本小児感染症学会教育セミナーBasic Course の講師、同学会の主催する小児感染症育成フォーラムの運営委員、感染症学会のサマースクールに講師として参加している。

その他、希望者には院外研修も奨励しており、過去には東京都立小児総合医療センター、国立国際医療研究センター、米国病院疫学学会のトレーニングコースなどでの短期～中期研修を行っている。また 2012 年度からは IDSA（米国感染症学会）の感染症科研修医試験の受験を義務付けている。

院内の総合診療部に対する教育活動は高く評価されており、スタッフ、フェロー共に 2010-2017 年にかけて Distinguished Teaching Award を受賞している。

病院関連感染対策

病院の Infection Control Team（ICT）の主要メンバーとしての仕事を積極的に行い、病院関連感染症の予防、病院関連感染サーベイランスのシステムを各科と共に行った。また、病院関連感染の予防に重要な手洗い、各種感染予防対策の啓発活動を行った。これらの活動は、看護部、細菌検査室、薬剤部、救急室など他部門との連携で支えられている。

抗菌薬の管理プログラム（Antimicrobial Stewardship Program: ASP)の実施

2009 年から始めた当院の ASP の活動は定着し、抗菌薬使用に関する担当医師への直接介入、抗菌薬のデエスカレーションの促進、適切な投与量の調整、適切な静注抗菌薬から経口抗菌薬への変更などを感染症コンサルテーションを通じて行った。また、抗菌薬の許可制は、継続して行われており、抗 MRSA 薬、カルバペネム系薬剤がその対象となっている。カルバペネム系抗菌薬の使用量の減少と緑膿菌のカルバペネム系抗菌薬に対する感受性の改善が確認されている。また、経口抗菌薬についても許可制を導入し一層の適正使用に貢献している。

研究面での活動

小児感染症領域におけるエビデンスを創出するために、基礎疾患のある患者さんにおける予防接種の有用性や安全性を評価する研究、肝臓移植後の患者さんにおける感染症に関する研究などの活動を行い、着実に成果をあげ医療の最前線に還元している。日常で遭遇する症例から得られるリサーチクエスチョンを元にした臨床研究や症例報告を積極的に行い、国内、国外を問わず多くの学会発表や論文執筆を奨励している。2018 年は国内学会で 15 件（日本小児科学会、日本小児感染症学会、日本環境感染学会、日本感染症学会など）、国際学会で 11（米国小児科学会、米国感染症学会、等）の発表を行った。論文としても、査読のある国内誌 2、英文雑誌 17 の発表を行っている。長期的なテーマとしては、

固形臓器移植後の感染症や予防接種、抗微生物薬適正使用などに関する研究を行っている。

病原体の迅速診断

2010年4月より、専任の医師、技術師を雇用し、PCRによる病院内の感染症の迅速診断を開始した。その検体は、血液、髄液、呼吸器サンプルなど幅は広く、検出できる病原体の数も 40 を超える。この検査は患者の診療に役立つもので、患者の予後、死亡率の改善に貢献できた症例が多数ある。検体数は徐々に増加し、月約 150 件以上の検体項目の検査を実施している。検体採取から診断までの時間は数時間であり、確定診断をつけることにより病原体に特異的な治療が可能となり、また不必要な検査や治療を避けることが可能となっている。従来法では診断が困難であった感染症の臨床的な特徴の解明につながっており、研究所と病院が一体となってより良い小児医療の実現に向け、まい進している。

具体的なプロジェクトとして、ウイルス感染症の診断による院内感染対策応用や乳児のヒトパレコウイルス感染症症例の診断を行い患者への診療に還元するとともに、疫学的な報告も行っている。

国内の小児感染症領域における指導的役割

小児感染症領域において指導的な役割を担い、小児科学会の予防接種・感染症対策委員会、及びインフルエンザワーキンググループの一員として定期的に活動している。

3-3-4-4 遺伝診療科

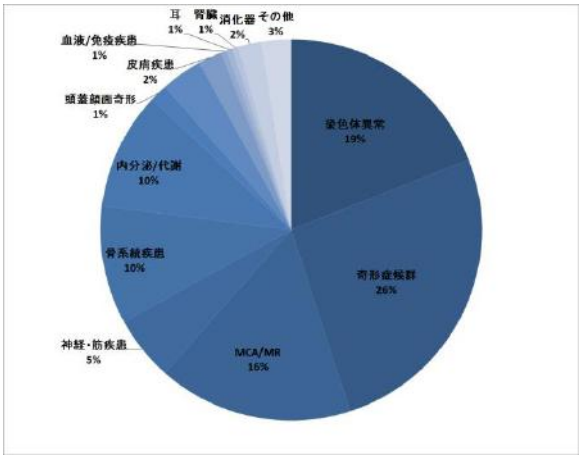
遺伝診療科では、成育医療のなかに新しい遺伝子診断・治療技術を適切かつ効果的に導入するために診療・研究活動を行っている。本年度は、以下に示す様々な活動を行った。

1.遺伝学的検査の統括・管理

先天異常や遺伝性疾患患者の診療において遺伝学的検査は有用であり、日本医学会の「医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」(日本医学会　2011.2)等を遵守して実施している。

2.小児先天異常症の包括的診療

さまざまな先天異常を有する患児の診療を行っている。2018 年度、新規の受診患者数は 200 名(遺伝カウンセリング除く)であり、前年度同様に、染色体異常症、奇形症候群が約 45%を、診断不明症例(MCA/MR)は、約 16%である。診断不明症例に対して、積極的に次世代シーケンサー等を用いて、既知遺伝子および候補遺伝子の網羅的変異解析を実施して、先天異常・多発奇形症候群の確定診断率が向上した。また、臨床検査部高度検査室と連携して遺伝子解析や酵素活性測定などの遺伝学的検査を実施し、確定診断、保因者診断、出生前診断などを行っている。ライソゾーム病センターと連携して、ムコ多糖症、ポンペ病、ファブリー病などのライソゾーム病患者の診断(新生児スクリーニング)、治療、療育に携わった。



3.遺伝カウンセリングの実施

遺伝カウンセリングは、遺伝病を有する家族の再発率や出生前診断の可能性について正確な情報を提供し、それに基づく当事者の自己決定を支援する医療行為である。当科では、臨床遺伝専門医と看護師(遺伝カウンセリングナース)が協力して遺伝カウンセリングを実施し、心理・社会的な支援を含め、多様なニーズに的確に応えられる体制を確立している。2018 年度の新規の遺伝相談件数は 104 件である。前年同様、相談内容の多くは、小児科領域の染色体異常症・先天異常や次子再発に関わる相談事例であった。

4.出生前診断の適切な運用

遺伝診療科では、胎児診療科・臨床検査部との協力の下に、羊水・絨毛組織を用い、迅速かつ正確な出生前遺伝子診断を実施可能な体制を整備している。単一遺伝子疾患を対象とした出生前診断(羊水染色体除く)は、7 件実施した。実施にあたり、日本医学会「医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」などを遵守し、症例ごとに慎重な対応を行っている。胎児診療科で実施している臨床研究 「無侵襲的出生前遺伝学的検査(NIPT)」については、陽性症例などにつき、カウンセリングを実施した。出生前診断の需要が増えている社会的要請に応えるため、周産期診療部と連携をもちながら、適正な診療基盤の構築を目指している。

5.遺伝性疾患に対する臨床研究、新規治療法の開発研究と臨床応用

① 治験

ライソゾーム病に関する医師主導治験 1 件、企業治験治験 2 件、臨床研究 1 件、受託研究 7 件を実施した。

② 新規遺伝子診断法の開発

従来の染色体検査(G 分染法)で異常が見出せない患者を対象とし、「アレイ CGH 法を用いた発達遅

滞患者における微細な染色体構造異常の同定」の臨床研究を引き続き実施し、計 417 検体（2018 年 22 検体）を解析した。また、「染色体または遺伝子に変化を伴う疾患群の包括的遺伝子診断システムの構築」研究を開始し、次世代シーケンサー等を用いて、既知遺伝子および候補遺伝子の網羅的変異解析計 580 検体（2018 年 132 検体）を実施した。解析技術の改良に伴い、診断技術の基盤構築を実施した。これらの研究の結果に基づき、新しい疾患関連遺伝子の同定、正確な診断法の開発、治療や予防法を確立した。正確な遺伝相談のために有益な情報が得られた。研究結果を、国際・国内学会で発表し、英文誌に報告した。

③公的研究（競争的研究費等）

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）研究、AMED 研究事業、成育医療研究開発事業に従事した。

6.臨床遺伝専門医・認定遺伝カウンセラーの研修

当センターは、日本人類遺伝学会・日本遺伝カウンセリング学会の臨床遺伝専門医制度の認定研修施設であり、随時、院内外から医師数名の見学・研修を受け入れている。また、臨床遺伝学分野の抄読会や症例カンファレンスを院外施設（慶應義塾大学、国立病院機構東京医療センター、筑波大学、国立病院機構 埼玉病院、聖マリアンナ医科大学他）と毎週実施し、指導的役割を果たしている。

次世代シークエンサー、アレイ CGH 法等の新規遺伝子解析の臨床応用により、小児稀少疾患の確定診断率が著明に向上している。稀少疾患の正確な診断の支援を通じて、当科は、成育医療全般の精緻化に寄与することを主要なミッションとして目指している。

3-3-5 アレルギーセンター

1. アレルギーセンター概要

平成26年6月にアレルギー疾患対策基本法（平成26年法律第98号）が成立し、平成27年12月に施行された。第11条第1項に「アレルギー疾患対策の推進に関する基本的な指針を策定しなければならない」と規定されるため、「アレルギー疾患対策推進協議会」において議論されたのち、平成29年3月21日に基本指針が厚生労働大臣告示としてなされた。この基本指針の中で、国民がその居住する地域に関わらず、等しくそのアレルギーの状態に応じて適切なアレルギー疾患医療を受けることができるよう、アレルギー疾患医療全体の質の向上を進めることがうたわれている。

さらに国は、国立成育医療研究センターと国立病院機構相模原病院を全国的な中心とする医療機関、つまり「中心拠点病院」として、最新の科学的知見に基づく適切な医療に関する情報の提供、アレルギー疾患医療に関する研究及び専門的な知識と技術を有する医療従事者の育成等を推進することが、基本誌指針に記載されている（基本指針 第3条（2）キ）。

国立成育医療研究センターアレルギーセンターは、アレルギー疾患における国の中心拠点病院として、診断が困難な症例や標準的治療では病状が安定しない重症・難治性アレルギー疾患の患者さんに対し、関係する複数の診療科が連携することで総合的かつ包括的に診断、治療管理を行い、専門診療を提供することを目的として2018年6月に設置された。その構成としては、総合アレルギー科、消化管アレルギー科、皮膚アレルギー科が設置され、免疫アレルギー・感染研究部と互いに協力し、診療・研究において各診療科を横断的に統合した体制を目指している。

2. 中心拠点病院の役割

国立成育医療研究センター・アレルギーセンターは、国の政策に基づき、わが国におけるアレルギー疾患医療の全国的な拠点として、アレルギー疾患医療に関する診療、情報提供、人材育成、研究などに関する以下の役割について求められている。

①診療

診断が困難な症例や標準的治療では病態が安定化しない重症及び難治性アレルギー疾患患者さんに対し、複数の診療科が連携し、診断、治療、管理を行うこと。

②情報提供

国民や医療従事者その他のアレルギー疾患に携わる関係者に対し、アレルギー疾患に関する科学的知見に基づく適切な情報を提供すること。

③人材育成

都道府県拠点病院でアレルギー疾患医療に従事する、専門的な知識と技術を有する医療従事者の育成を実施すること。さらに、アレルギー疾患に携わる関係者向けの研修や講習会で活用できる共通教材等の作成や提供を行うこと。

④研究

国は全国的な疫学研究、臨床研究等を長期的かつ戦略的に推進することに協力すること。

⑤その他

全国拠点病院連絡会議を通じて全国の都道府県拠点病院との情報共有、意見交換等を行い、アレルギー疾患医療の均てん化に向けた取組等につき協議を行うこと。

3. Center of Excellence

さらに当センターは、2017 年に世界アレルギー機構（World Allergy Organization）から Center of Excellence に指定され、世界のアレルギー診療と研究のリーダーとして、国内はもとより世界中の専門施設の指導的役割を担うことが期待されている。国内外のアレルギー診療のモデルとなる水準の高い医療を提供するとともに、それを実現するために必要な臨床研究の推進を行う。

3-3-5-1 総合アレルギー科

総合アレルギー科ではアトピー性皮膚炎、食物アレルギー、気管支喘息、好酸球性消化管疾患をはじめとする、小児アレルギー疾患を対象とした診療と臨床研究を行っている。アレルギー指導医 4 名とアレルギー専門医 6 名を擁し、他の医療機関からの、通常治療ではコントロール困難な重症・難治性の紹介患者が診療の中心となっている。一方で、アレルギー疾患は軽症患者を含めると国民の約半数が罹患するありふれた疾患でもあり、アレルギー疾患対策基本法における中心拠点病院として、軽症患者から重症患者までを網羅する診療ガイドラインに取り入れる標準治療の開発を行うための介入研究や、小児科専門医向けのアレルギー教育研修プログラムの開発と実践を行っている。さらに、アレルギー疾患の発症予防に向けて、発症や増悪に影響する因子を探索する出生コホート研究（成育コホート研究やエコチル調査など）や多施設共同ランダム化比較試験（PACI スタディなど）をはじめ様々な疫学研究を実施している。診療と研究とは車の両輪の関係にあり、診療内容の充実と進歩のためには研究を進める必要があるが、両者を高い水準で実現している医療施設は国内外を含めても稀であると自負している。

3-3-5-2 消化管アレルギー科

消化管アレルギーは 1990 年代終わりから急増しているアレルギー疾患の 1 つである。年齢としては新生児期・乳児期での発症が多いが、学童や成人でもみられる。Food protein-induced enterocolitis syndrome では、原因となる食物（粉ミルクなど）を摂取してから、数時間後に嘔吐や血便、下痢などで発症する。消化管アレルギーの中には、他の症状がみられず体重増加不良だけの場合もあり適切な鑑別を要する。しかし通常のアレルギー検査（血液検査や皮膚プリック検査）では診断できないことが多く、さらに、炎症性消化管疾患である好酸球性胃腸炎も小児から成人にかけて患者数が増えており、近年その対応は社会的な課題となっている。アレルギーセンターでは、これまでアレルギー科で実施されていた消化管アレルギーの診療経験を活かして、消化管アレルギー科を併設し院内の他の診療科や全国の専門施設とともに診療を展開し、さらに新たな診断・治療法の開発においても中心的な役割を担っている。
消化管アレルギーの確定診断のためには、①原因食物の負荷試験による症状の有無を確認、②消化管組織検査による他消化管疾患の鑑別や消化管炎症の主体となる好酸球の増加の証明、を満たすことが必要となる。消化器症状や体重増加不良から消化管アレルギーを疑う場合、鑑別を十分行うことが重要になり、血液検査、便粘液細胞診・便検査、画像診断、消化器内視鏡検査を積極的に実施している。
また、全身状態が不安定、他の基礎疾患の治療が優先される場合、すぐに確定診断をつけることが困難な場合は、先に全身状態を改善させる治療を優先し観察している。このような場合、症状改善後や体重増加が確認できた段階で負荷試験の実施を考慮している。
新生児・乳児においては牛乳アレルギーを疑う場合は、高度加水分解乳やアミノ酸乳といった栄養剤を代替食として使用する。不足しがちな栄養素は適宜おぎない。症状が重症な場合は経口摂取を中止し、輸液による栄養管理・治療を行う。好酸球性胃腸炎で食物の関与が疑われる場合は、多種類の食物を除去することで胃腸の炎症を鎮静化し、その後原因食物の探索を入院負荷により実施している。

3-3-5-3 皮膚アレルギー科

アレルギーセンターでは、アトピー性皮膚炎の診療方針として、ガイドラインに基づいた標準的治療を基本とし、信頼性の高い最新の医学的エビデンスを取り入れ患者さんごとに決定している。アトピー性皮膚炎の患者さんの中には、他の医療機関で診療を受けたにも関わらず、重症難治化する場合がある。多くは外用療法が不適切であったりステロイド外用薬に対する誤った認識があるなどが理由であり、アレルギーセンターで実施されるアトピー教室や専門看護師（小児アレルギーエデュケーター）による患者指導により改善する場合が殆どである。しかし、難治化の原因として皮膚真菌症・ウイルス感染症をはじめとした皮膚感染症、小児皮膚筋炎・SLEを初めとしたリウマチ性疾患・自己免疫疾患の鑑別を要する症例や、先天性外胚葉低形成や先天性魚鱗性様紅皮

症、免疫不全症等における一症状としてアトピー性皮膚炎が併発する症例を管理する際には、小児皮膚科医との連携が必須であり、アレルギーセンター内において皮膚アレルギー科を設置し、シームレスな横断的連携による包括的診療を実施している。

アレルギーセンター診療活動

1.1. 外来

(1) 初診外来

初診外来は疾患別に曜日を決めて診療を行っている。初診時には原則、全ての患者家族に対して、少人数制の疾患別の教室を開催し、医師による当科の治療方針の説明、看護師による治療手技の指導や環境整備についての説明をしたうえで、本診察を開始する。

＜アレルギーセンターで実施している患者むけ教室＞

アトピー教室：主に月曜日（9:45～12:00）

アレルギー専門医によるアトピー性皮膚炎の病態や検査、治療管理に関し最新のエビデンスを交えた全般的な内容に関わる講義の後に、専門看護師（小児アレルギーエデュケーター）によるスキンケア指導（洗浄と保湿）ならびに適切な外用塗布方法の指導を行う。

食物アレルギー教室：主に木曜日（10:00～11:00）

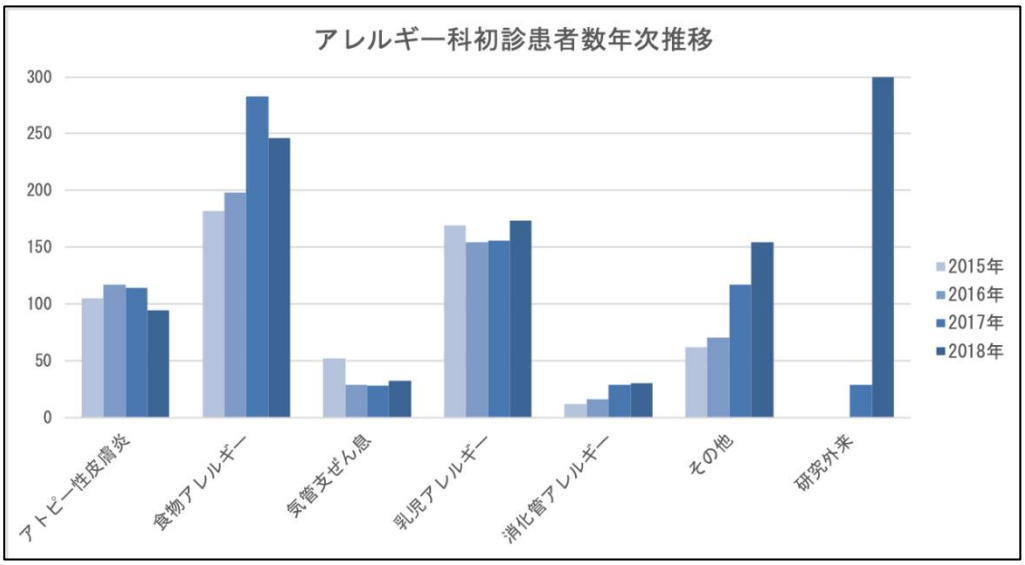
アレルギー専門医によるアレルギーの感作の仕組みや発症予防に関わる話題の他、アナフィラキシー時における緊急対応に加え免疫耐性を獲得する生活習慣について講義する。その後、管理栄養士による必要な栄養管理について説明を行う。

喘息教室：主に火曜日（10:00～11:00）

アレルギー専門医による正しい喘息の知識や情報を提供する。その後、専門看護師（小児アレルギーエデュケーター）により吸入手技の指導や環境整備について説明を行う。

乳児アレルギー教室：主に金曜日（10:00～11:00）

アレルギー専門医による乳児期の湿疹、アトピー性皮膚炎に関する病態や治療管理に関する正しい情報を提供し、加えてアレルギーの感作の仕組みや発症予防に関わる話題を説明する。専門看護師（小児アレルギーエデュケーター）によるスキンケア指導（洗浄と保湿）ならびに適切な外用塗布方法の指導を行う。



(2) 再診外来

再診外来は月～金曜日まで各曜日 4～6 診を設置している。再診外来では外来検査として皮膚テスト、運動負荷試験を実施している(主に木曜日)。

2018 年の延べ再診人数　17,283 名

外来検査　皮膚テスト　149 名

運動負荷試験　18 名

(3) 研究外来

通常の初診・再診外来とは別に、月～金曜日までの主に午後、アレルギーセンターで実施する臨床研究参加者を対象とした研究外来を設置している。

(4) 患者教育

アレルギー疾患の多くは慢性疾患であり、治療管理においては保護者並びに患児本人の理解と協力が不可欠で有り、患者教育には熱心に取り組んでいる。アレルギーセンター外来には、小児アレルギーエデュケーター(日本小児臨床アレルギー学会認定)を有する看護師2名が在籍し、アレルギー教室や短期・長期管理教育入院、日常診療の患者指導などについて医師と協力あるいは自発的に実施している。また春休み・夏休み・冬休みの各長期休暇期間中に、学童向けのアトピー教室や食物アレルギー教室を開催し、患者本人への教育を実施することにより、治療意欲と自己管理能力を高めている。

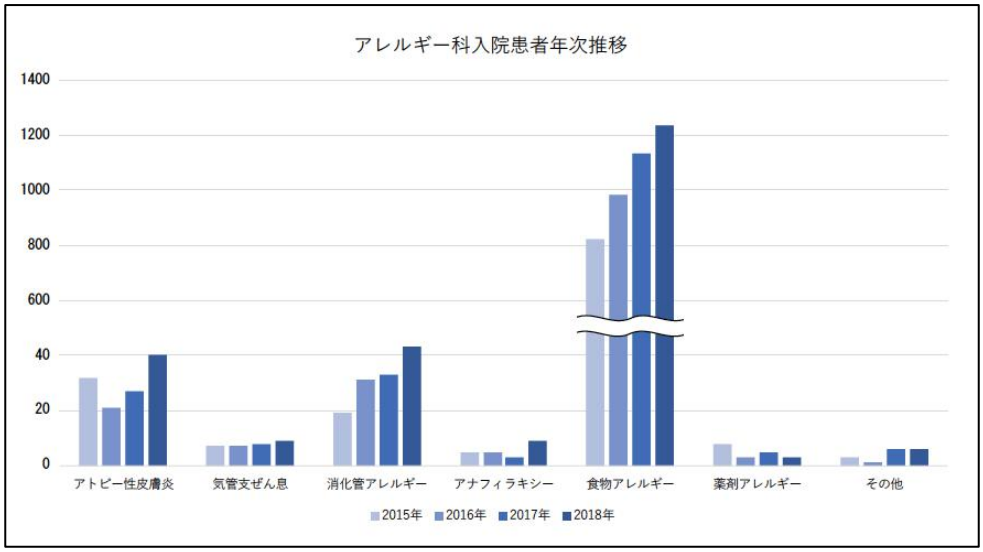
1.2.　入院

外来通院による治療による寛解維持の管理が困難な重症患者には、入院治療を行っている。その他、食物経口負荷試験を原則として入院で実施している。

即時型食物アレルギー:1 泊負荷試験、もしくは日帰り負荷試験(9 歳未満の場合、12 か月間に 2 回まで日帰り負荷試験を実施可能)

消化管アレルギー:1～2 週間負荷試験(Food protein-induced enterocolitis synderome の actute タイプ)、もしくは長期負荷試験(好酸球性消化管疾患における内視鏡検査を含めた検査入院)

即時型食物アレルギーに対する入院食物経口負荷試験件数:　1,236 件(2018 年度)



2. 研究活動(研究業績参照)

アレルギー疾患の診断・治療・病態解明・発症予防などに係わる多くの臨床研究を実施、計画しており、その一部を紹介する。

2.1. 乳児アトピー性皮膚炎への早期介入による食物アレルギー発症予防研究/多施設共同評価者盲検ランダム化介入並行群間比較試験(PACI study):生後 7〜13 週のアトピー性皮膚炎と診断された乳児を対象とし、ステロイド外用薬による標準治療群(リアクティブ療法)と積極治療群(プロアクティブ療法)に割り付け、生後半年における鶏卵アレルギーの発症を比較する。

2.2. 乳児アトピー性皮膚炎への早期介入と経口免疫寛容誘導によるアレルギーマーチへの影響を探索する前向きコホート研究(PACI-on study):PACI study に参加完了した対象者において PETIT 研究で有効性を証明した鶏卵2段階摂取法を生後 6 ヶ月から開始した上で、PACI study で実施した早期の積極的皮膚治療介入が 6 歳までのアレルギー疾患発症を予防する効果が高いかを調査する。

2.3. 牛乳アレルギー治療(経口免疫療法)に対する有効性検証試験(TOY study):乳酸菌発酵果汁飲料を用いた二重盲検プラセボ対照並行群間比較試験。

2.4. ハイリスク出生コホート研究(HiRAD study):アレルギー疾患の家族歴を持つ児における出生コホート研究。アレルギー疾患の発症をアウトカムとし、妊娠中から 6 歳まで経時的に医師診察、アンケート調査、血液検査、細菌叢検査などを行い発症因子について因果推論を行う。

2.5. 成育コホート研究(出生コホート研究):2003 年から 2005 年に当院を妊娠中に受診した妊婦をリクルートし、2004 年 3 月〜2006 年 8 月に出生した 1550 名を追跡調査している。3 歳までは年に 2 回、それ以降は年 1 回の質問票調査と 3 回の健診(5 歳、9 歳)を行った。2017 から 2019 年にかけて 13 歳健診を行っている。

2.6. アレルギー疾患における標準治療の普及と均てん化に向けた研修プログラムの開発研究

3. 教育・研修

3.1. 食物アレルギーの診断治療に関する研修プログラム:

7 期:2018 年 7 月〜2018 年 12 月　参加者 10 名(全国各地から小児科医が参加)

小児科医・プライマリケア医師を対象に、食物アレルギーの診断治療に関して皮膚テスト・食物負荷試験・食物制限の解除指導・患者教育を実践する、10 日間の研修プログラムを実施した。研修内容には、合併疾患として重要であるアトピー性皮膚炎の基本的治療も含めた。参加者の自施設における食物アレルギー診療の質の向上に寄与することを目標にして、2013 年から開始して毎年継続している。1 期 9 名、2 期 26 名、3 期 12 名が参加した。多くの参加者からは大変有意義な研修との評価を得ている。

(2019 年度より、厚労省補助事業 中央拠点病院研修「小児アレルギー診療短期重点型教育研修プログラム」へ名称変更)

3.2. 国立成育医療研究センター アレルギー臨床懇話会の開催:近隣の小児医療従事者を対象とした、アレルギー診療に関する講演会を平成 15 年より年 1, 2 回の頻度で行っており、2018 年は第 23 回を開催した。

3.3. 社会的活動(研究業績参照):

全国各地域の医師会の研修会、自治体が主催する患者向けあるいはコメディカル向けの研修会で の講演活動、NHK テレビ健康関連番組等への出演や制作協力を始め、報道関係者の取材への協力を行った。

3-3-6 小児がんセンター

国立成育医療研究センターは、厚生労働省によって、2013 年2月に全国15 の小児がん拠点病院のひとつに指定され、さらに2014 年2月には、国立がん研究センターとともに15 の拠点病院を取りまとめる小児がん中央機関に指定され、相談支援の向上、情報収集・提供、臨床試験の支援、診断・治療などの診療支援、小児がん診療に携わる者の育成、登録体制の整備などの業務を行っている。

小児がんセンターは、従来の腫瘍科を母体として、2013 年9月に生体防御系内科部から独立して新たに組織され、小児がん拠点病院・中央機関を担う部門として機能している。小児がんセンターのミッションとしては、わが国における小児がん診療のモデルとなるべく、全ての小児がん患者に対して世界標準かつ優しく温かい医療を提供するとともに、臨床研究の推進、新規治療の開発、長期フォローアップ体制の確立などを通じて、わが国の小児がん診療をリードすることを目標としている。

小児がんセンターは、診療部門、研究部門、中央診断・データ管理部門、患者支援部門に大きく分かれ、病院、研究所が互いに協力して、各診療科を横断的に統合した体制を目指す。内科系診療組織には、主として悪性疾患の診療を担当する血液腫瘍科、固形腫瘍科、脳神経腫瘍科、移植・細胞治療科、腫瘍外科、および非悪性血液疾患の診療を担当する血液内科が設置されている。2018 年4月には、診療部門として新たにがん緩和ケア科および長期フォローアップ科を、中央診断・データ管理部門として小児がん免疫診断科および小児がんデータ管理科を設置した。

3-3-6-1 血液腫瘍科
3-3-6-2 脳神経腫瘍科
3-3-6-3 移植・細胞治療科

【診療】

2018年度の小児がんセンタースタッフ（腫瘍外科、血液内科、がん緩和ケア科、小児がん免疫診断科、小児がんデータ管理科を除く）は、センター長 1 名、診療部長 3 名、医長 3 名、フェロー 9 名の計16 名であった。

診療実績は表1 に示す通りであり、血液腫瘍、脳神経腫瘍、固形腫瘍と、ほぼ全ての小児がん疾患を網羅し、年々患者数が増加している。新規診断例のみならず、再発・難治症例の診療にも積極的に取り組んでおり、特に、外科系診療科、放射線治療科などと共同して集学的治療を要する脳神経腫瘍と固形腫瘍の割合が高かった。当センターは日本骨髄バンク・さい帯血バンクの移植認定施設であり、悪性疾患・非悪性疾患に対する造血幹細胞移植を実施している。造血細胞移植実績は表2 に示す通りで、年々増加する移植件数に対応するために2018年に無菌室を新たに2床増設して4床に増床した。

日本小児血液・がん学会の専門医研修施設に認定されており、小児がん診療研修カリキュラムを整備し、若手医師の研修に対応している。2018年には、13 名の小児科専門医取得前医師（短期ローテーション研修）、9 名の血液専門医、小児血液・がん専門医取得を目指す医師（小児科専門医・2-3年間の研修）に対する研修に対応した。また、院外からも、東京医科大学から2 名の医師に対する、都立小児総合医療センターから 1名の短期研修に対応したほか、海外からもベトナム民主共和国の医師 1 名の研修を受け入れた。

【臨床研究】

全国規模の多施設共同臨床試験に積極的に参加している。日本小児がん研究グループ（JCCG）の急性リンパ性白血病委員会、急性骨髄性白血病委員会、リンパ腫委員会、HLH/LCH委員会、神経芽腫委員会、横紋筋肉腫委員会、腎腫瘍委員会、胚細胞腫瘍委員会、脳腫瘍委員会、長期フォローアップ委員会等においてスタッフ医師の多くが中心的役割を果たしており、全国規模の多施設共同臨床試験の立案、遂行を担っている。さらに、最近は、当センターの単施設試験や当センターを中心とした多施設共同臨床試験も積極的に実施しており、企業治験や医師主導治験も数多く実施するなど、新たな治療法の開発に取り組んでいる。

【将来展望】

小児の血液腫瘍、脳神経腫瘍、固形腫瘍において、新規診断例のみならず再発・難治症例を積極的に診療することで、関東甲信越地域における小児がん診療の中心を担う医療機関の一つとして機能す

ることを目指している。また、小児がんの予後の改善を目指して、標準治療の開発のみならず、新規治療開発を目的とする再発・難治症例を対象とした早期相試験についても積極的に関与していく。遺伝子改変T細胞（CAR-T）療法などの細胞治療にも取り組む体制の整備、実装に向けて取り組む。研究に関しては、臨床研究のみならず、研究所との共同研究の推進を行い、学会発表、論文発表などに繋げていく。さらに、小児がんへのがんゲノム医療の実装に対応を進める。小児がん中央機関、拠点病院として、小児がん診療の充実と院内での基盤整備、対外的な情報発信を積極的に行っていきたい。

表 1. 血液腫瘍科、脳神経腫瘍科、移植・細胞治療科診療実績（疾患別）

	2018（平成 30 年）			2017（平成 29 年）			2016（平成 28 年）		
	初発	再発	合計	初発	再発	合計	初発	再発	合計
造血期器腫瘍	57	3	60	46	2	48	41	3	44
急性リンパ性白血病	15	2	17	11	1	12	15	1	16
急性骨髄性白血病	2	0	2	9	0	9	5	1	6
まれな白血病	1	0	1	1	0	1	0	0	0
慢性骨髄性白血病	0	0	0	2	0	2	1	0	1
骨髄異形成症候群/MPD	4	0	4	0	0	0	5	0	5
非ホジキンリンパ腫	7	0	7	6	1	7	5	1	6
ホジキンリンパ腫	0	0	0	0	0	0	2	0	2
その他のリンパ増殖性疾患	3	0	3	1	0	1	0	0	0
血球貪食性リンパ組織球症	7	0	7	1	0	1	5	0	5
ランゲルハンス細胞組織球症	6	1	7	4	0	4	1	0	1
その他の組織球症	7	0	7	4	0	4	1	0	1
その他の造血器腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Down 症一過性骨髄異常症	5	0	5	7	0	7	1	0	1
固形腫瘍	69	5	74	104	2	106	68	6	74
神経芽腫	6	0	6	11	0	11	8	2	10
網膜芽腫	12	0	12	11	0	11	9	1	10
腎腫瘍	1	0	1	6	0	6	2	0	2
肝腫瘍	2	0	2	6	0	6	9	0	9
骨腫瘍	3	0	3	0	0	0	0	0	0
軟部腫瘍	6	0	6	4	0	4	4	0	4
胚細胞腫瘍（頭蓋内を除く）	11	1	12	5	0	5	4	1	5
脳脊髄腫瘍	26	4	30	59	1	60	28	2	30
その他の固形腫瘍	2	0	2	2	1	3	4	0	4

表 2. 造血細胞移植実績

	2018（平成 30 年）	2017（平成 29 年）	2016（平成 28 年）
同種造血細胞移植	23 件	18 件	17 件
同胞間造血細胞移植	5 件	3 件	1 件
家族間ハプロ造血細胞移植	7 件	3 件	1 件
非血縁骨髄移植	5 件	8 件	10 件
非血縁さい帯血移植	6 件	4 件	5 件
自家造血細胞移植	15 件	12 件	7 件

3-3-6-4 腫瘍外科

【診療】

腫瘍外科は小児がんに対する外科的治療を専門的に行う部門として 2016 年 7 月に小児がんセンター内に設置された。小児がんセンターの内科系診療科、放射線診断科、放射線治療科と連携して主に胸腹部の固形腫瘍の外科的治療を手がけているほか、専門性の高い他の外科系診療科との連携による高度医療を提供している。腫瘍生検、腫瘍摘出、中心静脈カテーテル挿入などの多くの手術は小児外科とのチームを編成して行うほか、疾患により臓器移植センター、泌尿器科、心臓血管外科、整形外科などの外科系診療科との密な連携をとり、幅広い領域にわたり標準的な治療から他施設では難しい外科治療まで対応している。

2018 年は診療部長1名、医員1名体制で、両名ともがんを専門とする国立研究開発法人である国立がん研究センター中央病院の小児腫瘍外科を併任し、両施設におけるほぼ全ての小児がん手術に携わった。

【臨床研究】

全国規模の全国規模の多施設共同臨床試験に積極的に参加している。スタッフは日本小児がん研究グループ（JCCG）神経芽腫、肝腫瘍委員会の委員を務めるほか、神経芽腫外科療法委員会副委員長・肝腫瘍委員会副委員長・外科治療検討委員会委員長、JCCG 外科療法委員会委員など、小児がん外科治療の開発研究を中心的な立場で牽引している。また肝腫瘍においては、ヨーロッパ・アメリカの臨床研究グループとの共同研究を展開し、世界の小児腫瘍医・小児腫瘍外科医と意見交換を行い、つねに最新かつ質の高い医療を提供できることを目指している。

【将来展望】

本邦唯一の小児がんに特化した外科ユニットとして、診療面では他施設で施行困難な小児がんの外科治療を提供できる体制を維持し発展させること、難治性腫瘍に対する新たな外科戦略の開発を行う一方で、より予後良好な小児がんに対しては低侵襲局所治療の拡大を目指すこと、また多施設共同臨床試験を通して全国の施設や世界の研究グループに小児固形腫瘍治療・研究に関する情報発信をより積極的に行うことを目標としている。

3-3-6-5　血液内科

【診療】

血液内科は非腫瘍性血液疾患を担当し，免疫性血小板減少性紫斑病，血友病，フォンヴィレブラント病，血栓症（遺伝性血栓傾向）などの止血・血栓性疾患や，赤芽球癆・球状赤血球症・サラセミア・ヘモグロビン異常症などの貧血，好中球減少症などを診療している。当センターは血友病の血液凝固第VIII因子と第IX因子を院内で毎日測定できる稀な病院であり，周術期（手術中とその後）の管理を安全に実施している。また，プロテインやプロテイン S，アンチトロンビンの欠乏症などの遺伝性血栓素因の診療を重視している。

【臨床研究】

日本小児血液・がん学会の血小板委員会委員長を務めるほか，止血・血栓領域を専門として研究を推進している。特筆すべきこととして，先天性血小板減少症・異常症研究のための中央事務局を当センター内に設置して，全国規模の疾患レジストリを構築し，遺伝子パネル解析を開始した。病的バリアントの絞り込みに至らなかった症例については，全エクソーム解析等の原因検索を行った。さらに，小児難治性 ITP 治療ガイドを作成し，日小血がん誌に受理された。また，血友病治療薬を開発する国際共同治験に複数参加している。なお，TP53 の新しい機能獲得変異が赤芽球癆と免疫異常の原因であることを明らかにした研究に貢献した。

【将来展望】

先天性血小板減少症・異常症の中央診断・研究機関として全国的に貢献する。難治性の血栓・止血性疾患の診療を提供できる体制を発展させること，国際共同治験に継続して参加すること，多施設共同研究を通して成果を世界に情報発信することを目標としている。

表 3. 血液内科診療実績

疾患名	血液内科新規患者数（年）				
	2014	2015	2016	2017	2018
止血・血栓性疾患					
免疫性血小板減少性紫斑病	12	12	14	9	17
家族性血小板減少症	1	1	1	0	1
血小板機能異常症	2	0	0	1	1
血友病	4	2	6	2	2
von Willebrand 病	3	1	0	1	4
ループスアンチコアグラント	1	3	5	0	0
上記以外の凝固因子異常症	3	2	3	4	2
PC, PS, AT 欠乏症（血栓傾向）	1	10	7	5	3
播種性血管内凝固症候群	0	5	8	5	0
溶血性尿毒症症候群・血栓性血小板減少性紫斑病	1	4	0	1	1
Kasabach-Merrit 症候群	0	0	0	0	1
IgA 血管炎（アレルギー性紫斑病）	8	8	4	5	4
上記以外の血管異常	2	1	2	5	2
原因不明の出血傾向	4	4	4	2	1
PC, PS, AT 以外の血栓・塞栓症	5	6	11	6	2
赤血球疾患					
再生不良性貧血	1	1	1	1	2
Fanconi 貧血	0	1	1	1	0
赤芽球癆	3	4	1	0	1
汎血球減少症(免疫不全、劇症肝炎合併)	3	1	3	1	5

免疫性溶血性貧血	0	1	2	2	2
遺伝性球状赤血球症	4	4	2	4	4
ヘモグロビン異常症(サラセミアなど)	3	1	0	7	9
上記以外の溶血性貧血	4	2	4	2	2
重症鉄欠乏性貧血	5	2	2	3	2
栄養性貧血	1	1	0	0	5
上記以外の貧血	2	4	3	4	1
白血球疾患など					
慢性好中球減少症	5	6	9	14	6
TAM(ダウン症合併)	1	2	0	1	5
血球貪食症候群	5	4	3	4	7
慢性活動性 EB ウイルス感染症	2	2	0	0	1
リンパ管腫症	0	0	1	0	0
その他	8	5	5	7	6
合計	94	100	102	97	100

3-3-6-6 がん緩和ケア科

【診療】

がんに罹患したこどもと家族の苦痛の緩和と療養生活の質の向上をはかる緩和ケアの診療体制を確立するために2018年4月に小児がんセンター内に設置された。2018年度は診療部長 1 名（総合診療部緩和ケア科診療部長と併任）の体制で、年間101件のコンサルテーションを受けている。様々な診療科の医師、看護師、臨床心理士、薬剤師、リハビリテーション科、歯科、栄養管理科、放射線診療部、チャイルドライフスペシャリスト、保育士、ソーシャルワーカーなど多職種で構成されている小児がん緩和ケアチーム（こどもサポートチーム、2014年9月～）と協働して、診断時から多面的かつ包括的なアセスメントに基づき患者の身体的精神的苦痛の緩和と患者・家族のクオリティー・オブ・ライフ（QOL）の向上を目指した緩和医療を提供している。また、2018年9月よりもみじの家において専門的緩和ケアを受けながら最期の時間を過ごすための病床運用を開始し、最期までその子らしく生き抜くことを支える医療の提供を目指し実践している。

【臨床研究】

成人を対象とした緩和ケア分野と比較して、全世界的に見て小児緩和ケアの研究体制は未成熟である。我々は現在、小児がん患者・家族と医療従事者の終末期における話し合いの現状や小児緩和ケア提供体制の現状について本邦初の全国調査を実施し結果を英文雑誌に報告するなど、日本の緩和ケアの提供体制についての実態調査を実施している。また今後継続的に緩和ケアの質が評価できるための評価尺度の開発を行っている。今後全国の小児がん拠点病院や日本小児総合医療施設協議会を通じて多施設共同研究の体制を確立し、世界に向けて発信できる日本の小児緩和ケアの研究体制の整備に努める。

【将来展望】

院内がん患者の緩和ケア体制の充実、地域コンサルテーション体制の確立、小児科サブスペシャリティとしての緩和ケア研修体制の確立、小児緩和ケアにおける研究体制の整備を図っていく。

3-3-6-7 長期フォローアップ科

【診療】
院内の長期フォローアップ体制の更なる充実を図るために2018年4月に小児がんセンター内に設置された。2018年度は診療部長 1 名（小児がんセンター長と併任）および医長 1 名（血液腫瘍科医長と併任）の体制であった。小児がん経験者に生じる問題を理解し、適切に対応するために、長期フォローアップ外来を設置して、経験豊富な医師および看護師が、治療サマリーやフォローアッププログラムを用いた対応を行っている。また、長期フォローアップ外来担当者によるカンファレンスを定期的に行っている。

【臨床研究】
院内で血液・腫瘍性疾患と診断され治療を受けた患者を対象として、定期的かつ長期的に健康状態の把握が可能な「NCCHD lifetime cohort」を作成する研究を行なっている。このコホートを用い、治療の情報と紐づけしたデータベースとすることで、治療後に生じる多岐にわたる晩期合併症の頻度や性質を把握し、治療戦略の改善や長期フォローアップ方針の確立に貢献する情報が得られると期待される。

【将来展望】
院内がん患者の長期フォローアップ体制を充実させ、本邦における小児がん長期フォローアップのモデルの確立を図る。また、対外的にも積極的に情報発信を図る。

3-2-6-8 小児がん免疫診断科

【診療】

白血病やリンパ腫などの小児造血器腫瘍の免疫学的診断、すなわちフローサイトメトリー（FCM）を用いたマーカー診断を、研究所の小児血液・腫瘍研究部と協力して行っている。2018 年 4 月に小児がん免疫診断科が小児がんセンター内に設置されたことにより、我が国におけるすべての小児造血器腫瘍症例の免疫学的な中央診断を行う体制が確立された。2018 年度は診療部長 1 名の体制で、研究所（血液・腫瘍研究部）と連携して、免疫学的診断に基づいて効率化・最適化された最新の遺伝子診断体制の確立を目指している。また、小児白血病の最も重要な予後因子のひとつであるとされる T 細胞受容体・免疫グロブリン遺伝子再構成を利用した分子学的微小残存病変（PCR-MRD）が保険収載されたが、本法が適用できない症例において FCM-MRD を測定することによって、治療反応性評価を応用した治療法選択への貢献も目指している。

【臨床研究】

全国規模の多施設共同臨床試験、特に日本小児がん研究グループ（JCCG）による小児白血病やリンパ腫などの造血器腫瘍を対象とした臨床試験の中央診断を担っている。また、造血幹細胞移植後や近年登場した新規免疫療法を受けた患者の治療後の免疫学的再構築についての研究も行なっている。

【将来展望】

引き続き多施設共同臨床試験の中央免疫診断を担うことで小児造血器腫瘍の治療成績向上に貢献していく。また、近い将来実装されるがんゲノム医療とも連携し、小児造血器腫瘍診療の質向上に貢献する。

3-2-6-9 小児がんデータ管理科

【診療】

院内がん登録データや当センター内での小児がん臨床試験データの管理および分析を行う部門として、2018 年 4 月に小児がんセンター内に設立された。2019 年 1 月からは、これまで臨床研究センターで実施していた臨床試験や観察研究のデータ管理業務と統合する形で、当センターを含む全国の小児がん診療施設と連携して、臨床研究支援業務を行っている。2018 年度は診療部長 1 名、非常勤研究員 1 名の体制である。

【臨床研究】

当科の業務は、厚生労働省健康局長通知「小児がん拠点病院等の整備について」によって小児がん中央機関としての当センターに課せられた課題である「小児がんの登録体制の整備」および「全国規模の小児がん臨床試験の支援」に関連している。具体的な内容として、小児がんの疾患登録、各種の中央診断、多施設共同臨床研究、長期フォローアップまでを一連の流れとして捉えた追跡型縦断臨床研究支援のうち、疾患登録と小児固形腫瘍分野における臨床研究支援の責務を担っている。

小児がん症例登録

2008 年以来、日本小児血液・がん学会の「20 歳未満に発症する血液疾患と小児がんに関する疫学研究」登録（以下、学会登録）の実務作業を継続して実施している。

2017 年診断分の登録実績は固形腫瘍 973 例、造血器腫瘍 983 例である。この学会登録のオンラインシステムについては、現在、日本小児外科学会の悪性腫瘍登録と登録システムを統合することが決定されており（統合学会登録）、両学会の委員と共同して昨年度に作成した新しい統合学会登録項目を搭載したうえで 2018 年 6 月 1 日に新システムの運用を開始した。

当科ではまた、日本小児がん研究グループ（JCCG）の小児固形腫瘍観察研究の登録も実施している。

2011 年からの累積一次登録例数は 2018 年 11 月 30 日の時点で 4102 例（神経芽腫群 958 例、脳・脊髄腫瘍 1050 例、軟部組織腫瘍 519 例、肝腫瘍 280 例、腎腫瘍 319 例、頭蓋外胚細胞腫瘍 261 例、骨腫瘍 226 例、網膜芽腫 44 例、その他 445 例）で、昨年の同時期から 792 例増加しており、現在 66 例/月の登録ペースである。現時点で、日本小児血液・がん学会登録の固形腫瘍登録数の約 80％をカバーしていると考えている。登録のオンラインシステムについては、先述の統合学会登録の登録システムと連携するべく、登録項目の変更を行い、現在システム設計中である。小児固形腫瘍観察研究には学会登録にはない病理中央診断との連携という特性があることから、統合学会登録と共通のオンライン登録が実装されれば、登録施設の負担軽減のみならず、統合学会登録の登録例の多くを中央診断結果と直接結びつけることも可能となる。

また、国立がん研究センターが収集している院内がん登録データを用いて 40 歳未満の院内がん登録データの集計を当センターで実施する作業について、2016 年と 2017 年分を合わせて行う方向で検討を続けている。

小児がん領域においては、このような登録によって収集された臨床情報は、臨床試験参加例の代表性の評価、臨床試験の仮説形成やヒストリカルコントロールとして利用可能なだけでなく、小児がん経験者のライフタイムコホート研究の起点として長期間にわたるフォローアップに役立つものと考えている。

小児がん多施設共同臨床試験・観察研究支援

小児がん登録と併せてJCCGの固形腫瘍分科会が実施している標準的治療法の確立を目的とした臨床試験および観察研究のデータセンターとしての活動も行っている。平成29年度には、神経芽腫委員会（JNBSG）12件、脳腫瘍委員会9件、横紋筋肉腫委員会（JRSG）7件、肝腫瘍委員会（JPLT）5件、腎腫瘍委員会（JWiTS）5件、ユーイング肉腫委員会（JESS）3件、胚細胞腫瘍委員会1件、またJCCG以外の小児がん（成育内研究を含む）や小児がん関連以外の班研究等18件、合計60件の支援を行った（研究

計画作成支援を含む)。これと併せて、臨床試験の登録前に実施される病理学的・分子生物学的中央診断のための匿名化作業も実施し、中央診断の結果も臨床情報として蓄積している。

【将来展望】

引き続き、小児がん登録や多施設共同臨床研究のデータセンターを担うことで本邦の小児悪性固形腫瘍の実態解明や治療成績向上に貢献していく。今後は、小児がん登録を起点とする追跡型臨床研究支援の終点と考えられる小児がん経験者の長期フォローアップについて、長期フォローアップ科とも連携しつつ、全国規模で情報が収集できる体制の構築を目指す。

3-3-7 臓器・運動器病態外科部

3-3-7-1 外科

2018 年はスタッフ 10 名の陣容でスタートしましたが、3 月に長年貢献してくれた渡辺稔彦先生が東海大学に転勤し、小川雄大君と後藤倫子君が退職しました。そして 4 月からは山田洋平先生、藤田拓郎君が加わり、9 名体制で診療を行いました

手術症例は 750 件と増加しております。リンパ管腫の局注や手術切除が 50 件近く、中心静脈カテーテル挿入が 120 件を超えるなどの増加があったためです。また、横隔膜ヘルニアは 9 例、先天性肺嚢胞性疾患が 5 例、など胎児診断例は例年通りの症例数でした。新生児手術症例は 41 件、内視鏡手術は 110 件でした。急性虫垂炎も 59 件と多く経験し、救急診療の重要性が増しています。さらには、最近の傾向として炎症性腸疾患や免疫不全に伴う腸疾患が増加しており、この分野での外科治療の必要性も増しています。結腸全摘、人工肛門造設、痔瘻に対するシートン手術などです。

学会や研究会発表は 66 件と例年よりも多く発信しました。また論文発表は、日本語論文 29 編、英語論文は 20 編、とこれも例年より多く発信しております。

スタッフは各種講演を計 14 回こなしております。

教育面では、慶応大学、東京大学の医学生さんの実習、外科専門医取得のための外科研修医の受け入れなどを数多く受け入れました。

研究分野では、リンパ管腫の集学的治療、腸管蠕動不全症に対する治療法の開発、先天性高インスリン血症の治療、などを行い、それぞれに進捗がみられました。

手術統計 2018

【1】 頭頚部

正中頚嚢胞	2
側頚瘻	2
副甲状腺	1

【2】 肺・横隔膜

先天性嚢胞性肺疾患	5
漏斗胸	3
横隔膜ヘルニア	9(1)

【3】 食道

先天性食道閉鎖症	5
食道バルーン拡張	32
気管食道瘻切離	2

【4】 胃・十二指腸

GER 噴門形成術	7(6)
胃瘻造設術	14(10)
胃瘻閉鎖術	1
肥厚性幽門狭窄症	3
十二指腸閉鎖・狭窄	2
胃軸捻転症	1(1)

【5】 小腸・大腸・腹膜炎・腸閉塞

腸回転異常症	1
先天性腸閉鎖症	3
壊死性腸炎	4

腸重積症	7(1)
特発性腸穿孔	1
腸閉塞	12
急性虫垂炎	59(59)
Hirschspurung 病	4
Hirschspurung 類縁疾患	1
高位・中間位鎖肛	5
低位鎖肛	7
総排泄腔遺残・外反症	2
ストーマ造設術	16(1)
ストーマ閉鎖術	9
肛門粘膜形成術	1
痔瘻手術	8

【6】 胸・腹壁異常

臍帯ヘルニア	1
臍ヘルニア	40
尿膜管遺残	4

【7】 肝・胆道・膵

胆道閉鎖症	4
胆道拡張症	6(1)
胆嚢摘出術	1
膵切除術	1

【8】 腫瘍

良性腫瘍	24
膵内分泌腫瘍	1
リンパ管腫硬化療法	39
リンパ管腫・血管腫切除	9
腎芽腫	1
奇形腫群腫瘍	8
横紋筋肉腫	1
卵黄嚢腫瘍	1
縦郭腫瘍	1
転移性肺腫瘍	5
開腹・開胸・針生検	4

【9】　ヘルニア類

鼠経ヘルニア	129(29)
停留精巣	16(1)
包茎	1

【10】　検査

上部消化管内視鏡	38
下部消化管内視鏡	6
膀胱造影・内視鏡	1
気管支鏡	1

【11】　カテーテル

中心静脈カテーテル挿入	121
中心静脈カテーテル抜去	25

VP シャント	5
ドレナージ手術	20

【12】　その他　　7

計	750
新生児手術	41
内視鏡手術	110

3-3-7-2 脳神経外科

臨床
脳神経外科では、脳腫瘍、脊髄腫瘍、二分脊椎・脂肪腫・頭蓋縫合早期癒合症等の先天奇形、水頭症、もやもや病・脳動静脈奇形等の血管障害、てんかん等の多岐に渡る疾患に対し、個々の病態に応じた計 339 件の手術加療を行った。

3-3-7-3 心臓血管外科

1.概要、特色

1.1 概要

心臓血管外科では、先天性心疾患および後天性小児心疾患の外科治療を行っています。

1.2 特色

心臓血管外科では、循環器科と協力して行っている新生児から成人に至るまでのあらゆる先天性心疾患及び後天性小児心疾患の治療のうち、手術治療を担当しています。心疾患、年齢、合併症などを考慮し、それぞれの患者に最も適した手術を行うよう心がけています。

先天性心疾患の診療には、診断、薬物治療やカテーテル治療、手術、術後管理、その後の外来での長期管理などさまざまなステップがあります。心臓血管外科は、先天性心疾患診療の一部の外科治療を担当しています。外科治療を要するさまざまな先天性心疾患のなかで、特に低出生体重児や新生児の先天性心疾患と、複雑な病態を示す成人先天性心疾患の治療に力を入れています。先天性心疾患の治療成績の向上には、診療の各ステップを専門家が行い、かつ治療全体を齟齬なくスムーズに進めるチーム医療が重要と考えています。心臓血管外科で治療を受ける患者さんは、手術に至るまでに①心疾患が胎児診断され胎児診療科−新生児科−循環器科で管理された患者、②当院で出生後心疾患が判明し新生児科−循環器科で管理された患者、③他院で出生後、当院新生児科に搬送された患者、④他院小児科から循環器科に紹介された患者、に大別されます。周術期には、さらに麻酔科や集中治療科の協力が必要です。ですから、心臓手術を必要とする患者さんは、胎児診療科−新生児科−循環器科−心臓血管外科−麻酔科−集中治療科というチーム医療の流れのどこかに乗って治療を受けることになります。対象となる患者さんは、胎児や未熟児から成人まで幅広い年齢層にわたっています。染色体異常や症候群など、心臓以外の複数の臓器に問題を抱える患者さんも多く、この様な患者さんは、幅広い集学的医療を必要としますので診療科間の協力体制は特に重要です。

心臓以外の臓器の疾患を持つ新生児や低出生体重児などの重症例に対し、手術侵襲を最小に抑えるため、循環器科と協力して、外科的手術とカテーテル治療を組み合わせるハイブリッド手術を積極的に行っています。

2.診療活動

常勤医師 3 名（心臓血管外科専門医 2 名を含む）とフェロー1名の4人体制で年間約 200 例の手術を行っています。手術成績の向上に努めると共に、チーム医療体制の強化と若手医師の教育に力を入れています。

2.1 入院診療

入院診療の中心は手術治療です。火曜、木曜を定時手術日とし、重症例 1 例、または軽症例 2 例の手術を行っています。緊急手術に関しては、麻酔科や手術室の協力のもと、曜日を問わず随時施行しています。術後の ICU 滞在中の管理は、集中治療科が中心となって行います。患者さんの状態に関して緊密に連携して、協力しながら治療を行っています。一般病棟での管理は、循環器科や総合診療部と協力して行っています。

特色のある治療としては、重症例に対するハイブリッド心臓手術（循環器科と合同で施行）や血管結紮クリップによる両側肺動脈絞扼などを行っています。手術以外にも、膜型人工肺による補助循環やカテーテルによる血管内治療に際しての血管へのカニューラやシースの挿入も行います。

2.2 手術症例概要（2018.1～2018.12.）

2.2.1 開心術

手術総数 95 例 手術時年齢：0 日～20 歳

内容：心房中隔欠損症 5 例、心室中隔欠損閉鎖 19 例、房室中隔欠損症 5 例、ファロー四徴症／両大血管右室起始症手術 8 例、肺動脈閉鎖症手術 4 例、グレン吻合 6 例、フォンタン型手術 13 例、ノーウッド手術 1 例、ダームス・ケイ・スタンセル吻合術 3 例、大動脈縮索／離断複合手術 5 例、ジャテーン手術 1 例、総肺静脈還流異常症手術 7 例、肺動脈弁置換術 1 例、僧帽弁形成術 4 例、大動脈弁置換術 1 例、大動脈形成術 1 例、肺動脈形成術 2 例、右室流出路形成術 1 例、肺静脈形成術 3 例、総動脈幹症 1 例、体肺動脈短絡手術 1 例、その他 3 例

2.2.2 非開心術

手術総数 96 例 手術時年齢：1 日～37 歳

内容:動脈管閉鎖術　7 例、肺動脈絞扼術　9 例、両側肺動脈絞扼術　4 例、体肺動脈短絡手術　2 例、大動脈縮窄症　1 例、ペースメーカー関連手術　7 例、その他　66 例

2.3 外来診療

外来は毎週月曜、水曜、金曜の午後に診療を行っています。毎月第3金曜(休日等で診療ができない場合は翌週の金曜)は特殊外来としてペースメーカー外来を行っています。循環器科と連携し、心臓血管外科は手術や入院中の管理に重点を置くようにしました。成人先天性心疾患に対する長期の綿密な管理の重要性を鑑みて、外来診療は循環器科が中心となって行う体制をとっています。

3.施設認定

3.1 心臓血管外科専門医認定機構認定施設

当施設は、日本胸部外科学会、日本心臓血管外科学会、日本血管外科学会の 3 学会で構成される心臓血管外科専門医認定機構の認定修練施設の認定を受けています。心臓血管外科専門医の認定申請に必要な修練をカリキュラムに沿って行っています。

3-3-7-4 整形外科

1.概要

小児整形外科の特徴は、患者の成長による変化が大きく、成人では問題となるような骨折の変形治癒でも、成長に伴い自然に矯正される場合がある。一方、成長とともに変形・機能障害が徐々に悪化することもあり、成長という要素を考慮して治療を行っていかなければならない。このため、治療の評価には、少なくとも数年の経過観察を必要とし、中には成人にならないと本当の意味での治療の評価ができない疾患もある。また、手術を含めた治療のタイミングも難しい問題で、これは単に医学的要素のみならず、就学との関連で様々な制限が加えられることも少なくない。

小児整形外科の対象疾患の代表としては、まず発育性股関節形成不全(旧病名 先天性股関節脱臼)、先天性内反足、先天性筋性斜頚などが挙げられるが、近年股関節形成不全や筋性斜頚はその予防についての啓発により、手術に至る症例は減少している。当科では重症度を評価してまず保存療法から行っている。また合指症、母指多指症、橈側列形成不全などの手や足の先天異常の治療を多く扱っているのが当科の特徴である。先天性上肢欠損の患児に対しては工学系研究者と、の共同研究により義手の開発を行っている。四肢の骨折の治療、さらには外傷後の拘縮・変形治癒・偽関節などの後遺障害の治療についても積極的に取り組んでいる。骨形成不全症、軟骨無形成症、多発性外骨腫、骨端異形成症、くる病などの 先天性および後天性骨系統疾患、二分脊椎、脊椎側弯症などの脊椎疾患、脳性麻痺による四肢の変形や分娩麻痺などの神経障害、良性および悪性骨腫瘍に代表される腫瘍性疾患、若年性関節リウマチ、単純性股関節炎などの炎症性疾患、ペルテス病、オスグット病などに代表される骨端症なども小児整形外科の対象疾患である。これら以外にO脚、X脚、片側肥大など下肢のアライメント異常の相談や治療、 先天性の脛骨・腓骨欠損といった四肢の先天性骨欠損ないしは形成不全、化膿性関節炎や骨髄炎、外傷や炎症の遺残変形も扱っている。

2.診療活動及び研究活動

2.1 スタッフの構成

診療部長:関敦仁 小児整形外科、手・肘関節外科、関節リウマチを専門としている。手足の先天異常や上肢の外傷とその後遺障害の治療を行う。日本整形外科学会および日本手外科学会専門医、日本小児整形外科学会、日本肘関節学会などに所属している。

診療部長:江口佳孝 下肢変形矯正・骨延長、さらに股関節・内反足の治療を専門にしている。救急診療科と協力して四肢の骨折治療にも積極的に取り組んでいる。日本整形外科学会専門医、日本小児整形外科学会、日本創外固定・骨延長学会、日本股関節学会などに所属している。

診療部長:高木岳彦 小児整形外科、手・肘関節外科、末梢神経外科を専門としている。手足の先天異常や上肢の外傷とその後遺障害の治療を行う。日本整形外科学会および日本手外科学会専門医、日本小児整形外科学会、日本肘関節学会、米国手外科学会(ASSH, AAHS)、北米小児整形外科学会(POSNA)などに所属している。

医長:内川伸一 股関節・内反足・O 脚・X 脚・脚長不等の治療を専門にしている。小児の斜頚(筋性斜頸・環軸関節回旋位固定)の治療にも詳しい。日本整形外科学会専門医、日本小児整形外科学会、日本股関節学会、日本創外固定・骨延長学会などに所属している。

2.2 外来診療

初診外来は火・水曜日に交替で行っている。病状によって対応を急ぐ必要がある場合、医療連携室を経由して、紹介した医師から情報を得て専門担当医が個別に判断して受け入れるようにしている。また、骨軟部腫瘍外来を第1, 3火曜日の午前にもうけて慶應義塾大学整形外科・中山ロバート先生に担当をお願いしている。毎週金曜の午後には内反足矯正ギプス外来を行っており、他の外来と同様に医師からの紹介状(診療情報提供書)の準備とともに病診連携を介した外来予約が必要である。

2.3 入院および手術

常時約 20 名の入院患者を担当している。牽引治療や骨延長器装着・調整では入院期間が長くなる傾向にあるが、短期入院で手術治療を行う上肢の症例が多い。

手術件数は手の先天異常を中心に 450 件を越える。火曜・水曜の手術日は常に一日中予定手術が組まれている。

2018 年手術件数 459 件

上肢　手指先天異常 137 件(内訳:重複母指 38　母指形成不全 25　合指症 14
　　裂手症 9　握り母指 6　絞扼輪症候群 4　ほか)
　内反手 9 件
　先天性橈尺骨癒合症 26 件
　肘周辺骨折 24 件 ほか

下肢　足趾先天異常 54 件
　股関節疾患 14 件
　変形矯正･骨延長 40 件
　骨折 12 件 ほか

筋性斜頚 4 件

骨軟部腫瘍 27 件

3-3-7-5 泌尿器科

2018年は、長谷川雄一、鈴木万里、江浦瑠美子の3人の日本泌尿器科学会専門医かつ指導医のスタッフ 3 人とレジデント 1 名の 4 人体制でスタートした。3 月末で江浦瑠美子先生が退職され、4 月より笠井奏子先生が着任された。4月末に鈴木万里先生が退職された。そのため、5月からは、長谷川雄一(指導医/専門医)と笠井奏子(専門医)の2名スタッフおよびレジデント1名の3人体制で診療となった。レジデントは小児泌尿器科の研修目的に採用しており、主に東京慈恵会医科大学泌尿器科学教室と連携し派遣が継続された。1月からのレジデントは今井悠先生が着任し9月末までの9か月間研修された。10月からは阪中啓吾先生が着任された。

泌尿器科手術の総症例数は 353 症例であった。感冒やウイルス感染などにより手術を延期した症例が約 60 症例であった。手術の内訳は、例年通り停留精巣固定術および尿道下裂形成術が多かった。腹腔内精巣固定術、腎摘出術、生体腎移植腎摘出術が鏡視下手術により行われた。 腎不全症例に対する外科治療が 2014 年から開始されたが、本年は 5 例の生体腎移植が施行された。

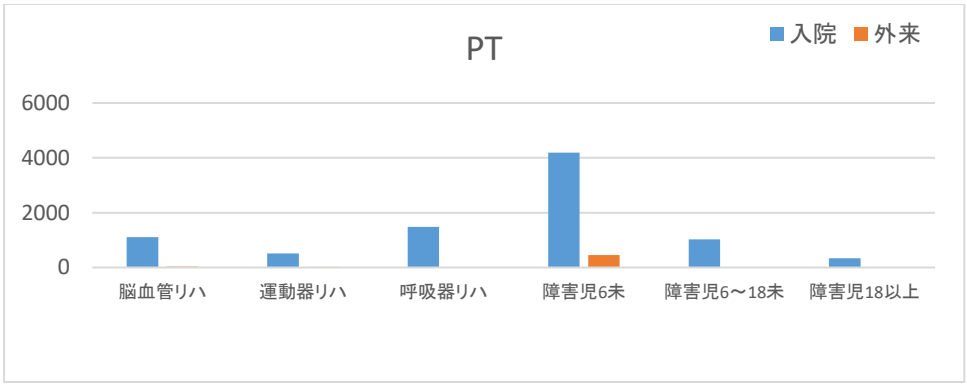
【手術症例数】353 例

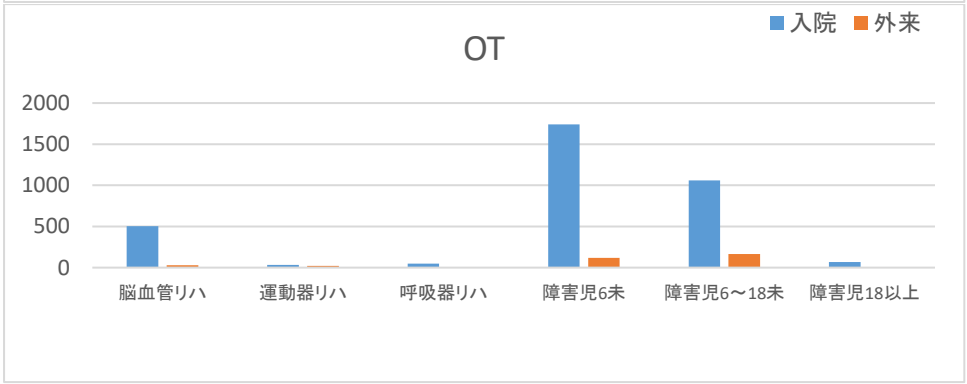
単純腎摘除術(開腹)	5
単純腎摘除術(鏡視下)	3
根治的腎摘除術(開腹)	0
腎盂形成術(小切開)	3
移植用腎採取術(開腹)	1
移植用腎採取術(鏡視下)	4
腎移植術	5
尿管膀胱吻合術(VUR 防止手術を含む)	31
尿道形成術	0
尿道下裂形成術	72
精巣固定術(精巣捻転に対する)	4
停留精巣固定術	105
停留精巣固定術(鏡視下)	2
CAPD 用カテーテル設置	7
尿道狭窄内視鏡手術	17
尿管尿管吻合術	1
造腟術	6
陰茎様陰核形成手術	3
鼠径ヘルニア	27
内視鏡的膀胱尿管逆流症手術	1
膀胱拡大術	1
外尿道腫瘍切除術	2
精索静脈瘤手術	1
包茎手術	6
経皮的腎瘻造設術	8
その他	38

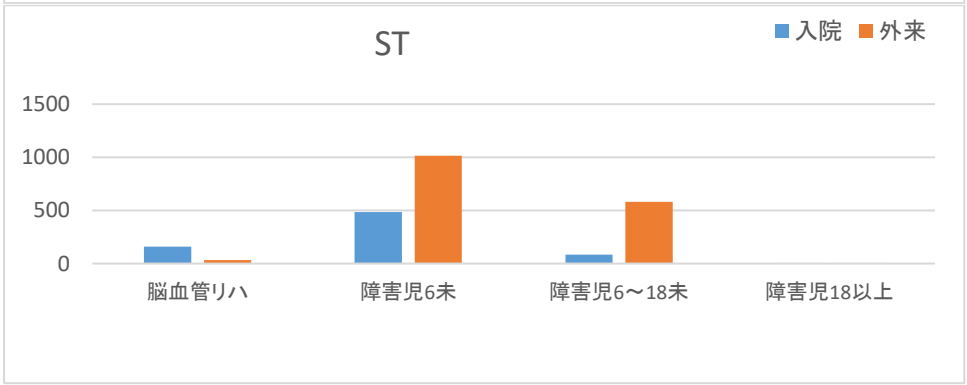
3-3-7-6 リハビリテーション科

1. 職員数
・医師　2 名（うち常勤専門医　1 名　非常勤専門医 1 名）
・理学療法士　7 名　　・作業療法士　4 名　　・言語聴覚士　3 名

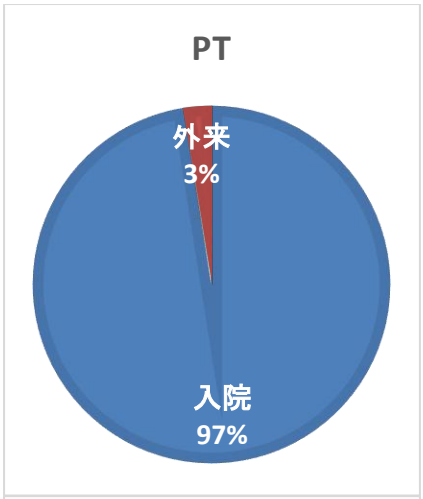
2. 療法実績（主算定項目）

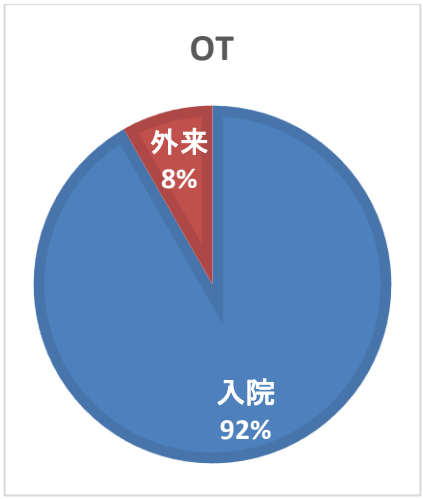


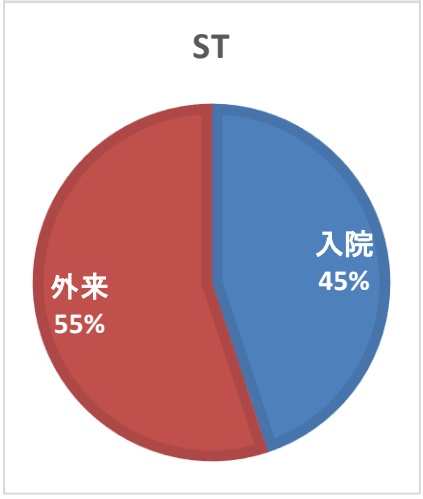




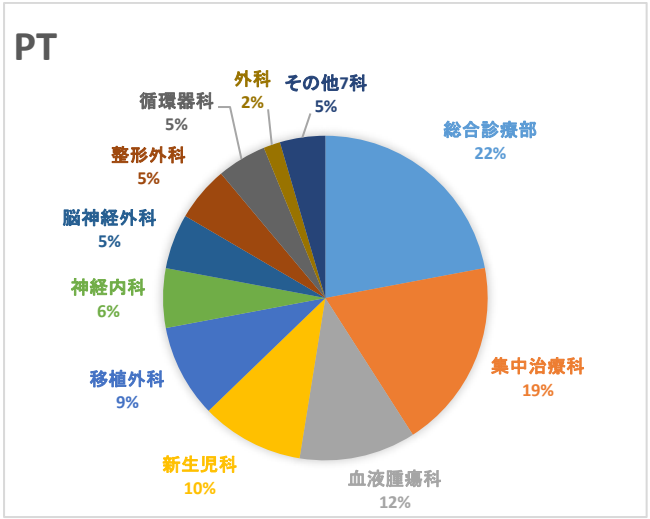
3. 入院外来件数割合

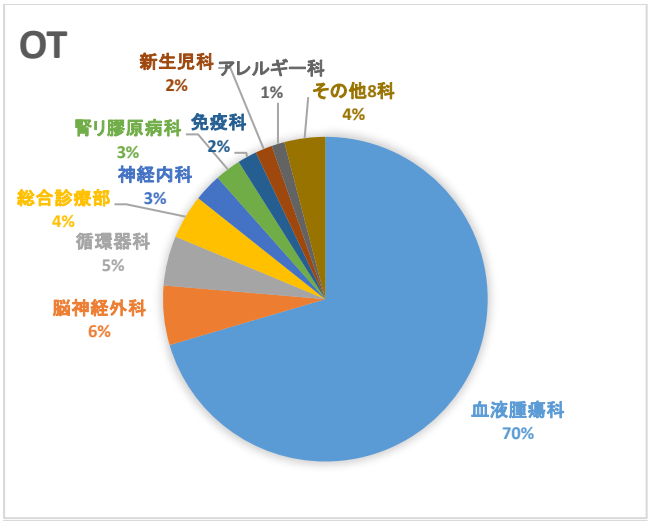


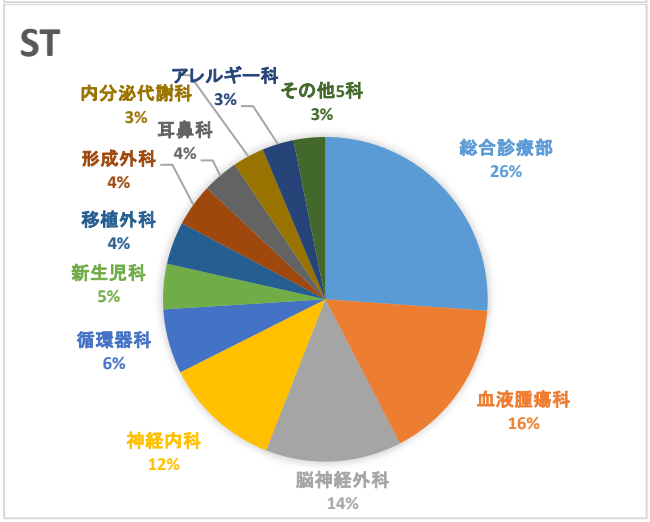




4. 依頼科別実施件数割合



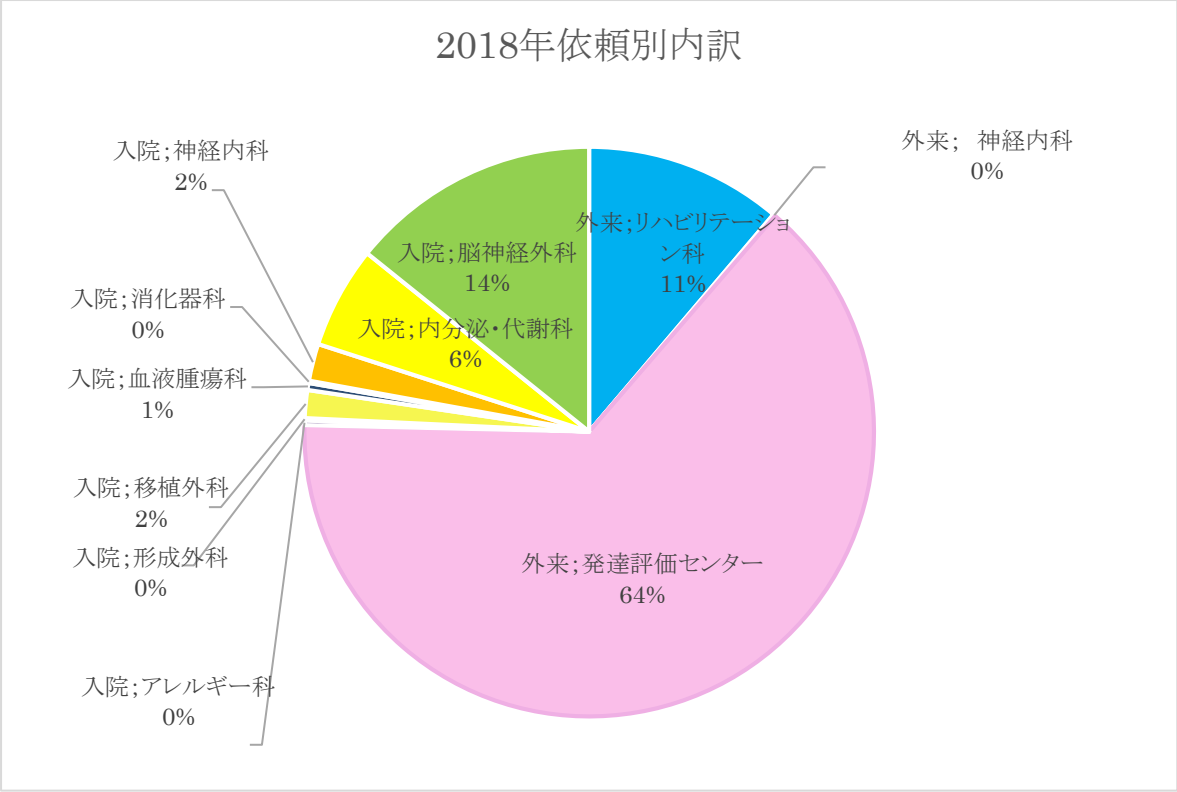

OT
新生児科
2%
アレルギー科
1%
その他8科
4%
腎リ膠原病科
3%
免疫科
2%
神経内科
3%
総合診療部
4%
循環器科
5%
脳神経外科
6%
血液腫瘍科
70%


ST
アレルギー科
3%
内分泌代謝科
3%
その他5科
3%
耳鼻科
4%
形成外科
4%
移植外科
4%
新生児科
5%
循環器科
6%
総合診療部
26%
血液腫瘍科
16%
神経内科
12%
脳神経外科
14%

3-3-7-7　発達評価支援室

1. 職員数
・医師4名（うち常勤医師3名、非常勤医師1名）
・臨床心理士　1名

2.年間依頼科内訳



3-3-8 感覚器・形態外科部

3-3-8-1 形成外科

1.概要

1.1 形成外科の目標

形成外科は，体表とそれに近しい組織の先天性・後天性欠損の形態的・機能的再建を行い，患者の社会復帰を助ける外科の一分野である．

当院形成外科の一般目標として，患児の身体的・精神発達を考慮した治療を行うこと，非侵襲的治療を推進すること，そして標準的治療体系が無い疾患について上記の基準に従った体系の確立を推進することとしている．

特に重点をおいている疾患群としては，小耳症を含む耳介先天異常，口唇裂・口蓋裂，頭蓋縫合早期癒合症，第1第2鰓弓症候群などの頭蓋顎顔面異常などである．これらについて，院内外の専門科とチーム医療を行い標準的治療体系の確立を推進することを目標としている．

1.2 スタッフの構成

診療部長：金子 剛（慶應義塾大学 1981 年卒）： 2002 年 3 月 1 日当院開院と同時に医長に就任し現在に至る．2011 年 5 月より感覚器・形態外科部長を併任．主な関心領域は口唇裂・口蓋裂，耳介先天異常，頭蓋顎顔面外科，マイクロサージャリーである．
医員： 彦坂 信（慶應義塾大学 2001 年卒）2012 年 5 月より現在に至る．主な関心領域は小児形成外科，頭蓋顎顔面外科，マイクロサージャリーなど．
レジデント：宮森悠希（慶應義塾大学形成外科より出向）2018 年 4 月より 2019 年 3 月まで．
非常勤医師：高松亜子（久留米大学 1988 年卒）2010 年 12 月より主として赤ちゃんの頭の形外来を担当している．

2.臨床実績

2.1 外来

通常の外来は月，水，金午前中に行っている．二つの特殊外来を行っている．
口蓋裂チーム外来：月 1 回，耳鼻咽喉科，リハビリテーション科（言語聴覚士），歯科と共同で行っている．主として鼻咽喉ファイバーにより鼻咽腔閉鎖不全の診断と治療方針の決定を行っている．対象患者は口蓋裂術後，先天性鼻咽腔閉鎖不全症，咽頭腫瘍の術後などである．当院の常勤の言語聴覚士（3名）だけでなく，患児の訓練を担当している外部の言語聴覚士にオープンに参加していただいている．
赤ちゃんの頭の形外来：2011 年 11 月より，当院倫理委員会の承認（511）を得て，頭位性斜頭の診断と治療を開始した．LED スキャナーによる採型データに基づくヘルメットによる頭蓋形状誘導療法を導入した．本療法の本邦への導入，頭位性斜頭の予防，頭蓋縫合早期癒合症の早期発見を目的としたスクリーニングプログラムの開発も行っている．随時全国より脳神経外科医，形成外科医，義肢装具士の見学を受け付けている．また年1回 Craniosynostosis 研究会にあわせて頭蓋形状誘導療法研究会を開催し，導入を検討している施設への情報提供，技術の紹介を図っているが、本年度は日本小児神経外科学会ランチョンセミナーにおいて小児脳神経外科医への講演を行った．

2.2 手術

手術件数の総数（2018 年 1 月より 12 月まで）は 233 件(目帰り全麻及局麻 4 件を含む)であった． 手術件数の内訳（以下日本形成外科学会の分類による）は，外傷2件（うち新鮮熱傷0件，顔面骨折2件），先天異常 167 件（口唇裂・口蓋裂関連 43 件(唇裂初回手術 12 件，口蓋裂初回手術 19 件，咽頭弁形成術 5 件など)，頭蓋・顎・顔面の先天異常 90 件（頭蓋縫合早期癒合症に対する形成術（骨延長術を含む）15 件，自家肋軟骨フレームによる小耳症耳介形成術 8 件，Beckwith Wiedemann 症候群に対する舌形成術 2 件など)，四肢の先天異常 22 件，体幹（その他）の先天異常 8 件（脊髄髄膜瘤の再建 4 件など)，腫瘍 51 件，瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド 9 件，難治性潰瘍の再建 4 件であった．悪性腫瘍およびそれに関連する再建 0 件，マイクロサージャリーによる遊離複合組織移植術は 0 件であった．

3.教育活動

3.1 施設認定

当施設は(社)日本形成外科学会認定施設(小児病院)であり，当院での研修は2年間まで形成外科学会専門医資格に必要な研修年限に組みいれることが出来る.

3.2 院外教育活動

金子部長は慶應義塾大学医学部客員准教授(形成外科)，同看護医療学部非常勤講師(「先端医療(マイクロサージャリー)」の講義を担当)，東邦大学医学部客員教授(形成外科)を務めている.

3.3 学会活動

金子部長は日本形成外科学会評議員，社会保険委員会委員長として，形成外科関係の保険診療の改善，是正のための活動を行っている. また小児形成外科分野指導医認定委員長として，小児形成外科分野指導医制度の準備を行っていたが、2018 年 4 月より認定が開始された.

関連学会では日本頭蓋顎顔面外科学会評議員，日本マイクロサージャリー学会評議員，日本口蓋裂学会評議員，日本シミュレーション外科学会理事、日本顎顔面再建先進デジタルテクノロジー学会理事等を務めている.

3.3 公職等

また公職関係としては厚生労働省先進医療技術部会構成員， MDC 班会議 MDC16 班長，中医協保険医療材料専門組織などの委員を 2014 年 10 月まで務めた. 現在は日本医師会疑義解釈委員会・保険適用検討委員会の委員を務めており、7 月から副委員長を勤めている.

4.その他

自家培養表皮の製品である「ジェイス」の先天性巨大色素性母斑への適応拡大を目的とした医師主導型治験を，2012 年 10 月から成育医療センターが中心となり小児治験ネットワークの 3 施設(成育，大阪市立総合医療センター，獨協医大)と聖マリアンナ医大の 4 施設で行った. その結果，本製品は 2016 年 9 月に適応拡大が承認され，12 月より保険収載された. その後 2016 年 8 月より PMDA の再生医療患者登録システムに関する検討会・ジェイス(母斑)分科会の委員を努めている.

また乳児血管腫用のプロプラノロール製剤の国内治験に際して医学専門家として参加した. この製剤は 2016 年 7 月に製造販売承認取得し，9 月より販売が開始された. その後本医薬品の安全かつ適正な使用を目的としたアドバイザリーボードの一員として参加している.

赤ちゃんの頭の形外来で用いている頭蓋形状矯正ヘルメットの薬事承認に協力し、2018 年 4 月にミシガン頭蓋形状矯正ヘルメット(class Ⅱ 医療機器)として承認された. 現在当施設が本邦唯一の研修施設として指定されている.

3-3-8-2 耳鼻咽喉科

1. 概要

一般的な小児耳鼻咽喉科疾患については紹介された患者および合併症を有する患者が少なくない。
小児医療の専門科がそろった病院であるからこそさまざまな角度から治療方針を検討できると考え、他科と情報共有、連携をとりながらチーム医療を行う体制をとっている。
難聴医療では新生児聴覚スクリーニングとその後の精査、療育と連携をとり、また東京都内の母子保健事業や勉強会などで難聴児早期発見についての知識普及活動を行っていることで、行政とも連携をとれるようにしている。発達障碍や神経疾患など重複障害児が多いことも特徴の一つである。
気道医療では、2 歳以下のアデノイド切除など術後の気道管理が必須である患者や、気管カニューレ抜去困難などで治療方法を模索する患者が全国から来院しており、年々増加傾向にある。他診療科と密接に連携しながら、低侵襲かつ積極的な治療を行っている。
嚥下障害に対する嚥下評価チーム外来では診断が困難な小児嚥下障害の評価・カンファレンスを専門家を交えて行っている。また吃音の診療も行えるようになった。

2.診療スタッフ

医長:守本倫子　日本耳鼻咽喉科学会専門医・気管食道科学会専門医・臨床遺伝学会専門医
医員:富里周太　日本耳鼻咽喉科学会専門医
高橋希　日本耳鼻咽喉科学会専門研修医
レジデント:奥羽穣　日本耳鼻咽喉科学会後期研修医

非常勤医師: 松永達雄　日本耳鼻咽喉科学会専門医・臨床遺伝学会専門医
小森学日本耳鼻咽喉科学会専門医

3. 診療活動

難聴診療:

新生児聴覚スクリーニングの精密検査機関である。検査方法は ABR,ASSR,および耳音響放射検査などの他覚的検査および COR,VRA などを用いた乳幼児聴力検査を行っている。
難聴の原因精査として、

- ✓ 側頭骨 CT および MRI による精査
- ✓ 臍帯による先天性サイトメガロウイルス感染検索
- ✓ 難聴遺伝子検索(保険検査、研究、IRUD)などと遺伝カウンセリング　を行っている。
- ■ 補聴器のフィッティングと言語聴覚士による指導を行い、近隣の聾学校または難聴通園施設と定期的に意見交換を開催している。永福分教室　2018 年 6 月 27 日　日本ろう話学校　2018 年1月 30 日
- ■ 療育施設見学:大塚ろう学校本校　(医師1名・言語聴覚士1名)　大塚ろう学校永福分教室　医師 1 名　立川ろう学校　医師 1 名　2018 年 5 月 17 日
- ■ 難聴児のための音楽ショー:2018 年 11 月 3 日(土)午前・午後

補聴器はリケン補聴器・ブルーム補聴器・リオン補聴器と取引している。2018 年 10 月からリオン補聴器より販売となった軟骨導補聴器を試聴、導入できるようになった。

気道診療:

気管切開　25 件
気管切開および切開後の管理や抜去に至るまでの流れの中で指導をおこなっている。
気管孔上部の狭窄に対する形成術 10 例、両側声門後部癒着に伴う声帯麻痺に対して、バルーンを用

いた喉頭形成術や喉頭狭窄症手術を積極的に行い、カニューレ抜去につながりはじめている。

外来:

再診・初診:月(午前・午後)、水(午前・午後)、金(午前)

補聴器外来:月(リオン補聴器)水　第 1/3/5 週　(リケン補聴器)第 2/4 週　(ブルーム補聴器)　金曜日(第 4 週)午後　(リケン補聴器)

不定期に金曜日午後、嚥下チーム外来

口蓋裂チーム外来(担当　形成外科・耳鼻咽喉科・口腔外科・言語聴覚士):月 1 回第 2 金曜日　午後

難聴遺伝子外来(担当　松永):月 1 回月曜日または水曜日　午後

嚥下チーム外来(担当　耳鼻咽喉科・総合診療科、放射線科、歯科口腔外科、リハビリ科)

4.手術

1 年間術件数は 940 件であった。手術の内訳は右の通りである。

	年間総手術件数　総計	940
耳科	**耳科手術　合計**	**292**
耳科	**鼓室形成術**	20
耳科	**鼓膜チューブ挿入術**	230
耳科	**人工内耳手術**	5
耳科	**先天性耳瘻管摘出術**	16
耳科	**鼓膜形成術**	5
耳科	**乳突削開術**	10
耳科	**中耳根本術**	1
耳科	その他（鼓膜切開、副耳除去、人工内耳除去など）	5
鼻科	**鼻科手術　合計**	**6**
鼻科	**内視鏡下鼻副鼻腔手術**	6
口腔咽頭喉頭	**口腔咽頭喉頭手術　合計**	**604**
口腔咽頭喉頭	**口蓋扁桃摘出術**	358
口腔咽頭喉頭	舌・口腔・咽喉頭腫瘍摘出術　小計	127
口腔咽頭喉頭	**口蓋垂・軟口蓋形成術**	0
口腔咽頭喉頭	**咽頭良性腫瘍摘出術**	3
口腔咽頭喉頭	アデノイド切除術	117
口腔咽頭喉頭	唾石摘出術	1
口腔咽頭喉頭	扁桃周囲膿瘍切開術	2
口腔咽頭喉頭	舌小帯形成	4
口腔咽頭喉頭	喉頭微細手術＋機能改善　小計	119
口腔咽頭喉頭	**喉頭微細手術**（声帯ポリープ・結節・嚢胞・ポリープ様声帯手術を含む）	71
口腔咽頭喉頭	嚥下機能改善手術、誤嚥防止手術、音声機能改善手術	48
口腔咽頭喉頭	**喉頭截開術**	17
口腔咽頭喉頭	気管口狭窄拡大術	10
口腔咽頭喉頭	気管切開口閉鎖術	4
口腔咽頭喉頭	喉頭気管分離術	6
口腔咽頭喉頭	その他（舌小帯切断、口唇裂形成、喉頭狭窄症手術など）	11
頭頸部	**頭頸部手術　合計**	**12**
頭頸部	頭頸部腫瘍摘出術　小計	12
頭頸部	**鼻・副鼻腔良性腫瘍手術**	5
頭頸部	**リンパ節生検**	1
頭頸部	**頸部嚢胞摘出術**	3
頭頸部	深頸部膿瘍切開術	3
その他	異物摘出術(外耳・鼻腔・咽頭)	1
その他	気管切開術	25

5. 研修:

日本耳鼻咽喉科学会専門医資格取得に必要な研修認定施設

日本気管食道科学会専門医認定施設

日本耳鼻咽喉科学会による新生児聴覚スクリーニング後の難聴精密検査機関

日本聴覚医学会主催「聴力測定技術講習会」中級コースで乳幼児の聴覚検査方法についての講師(守本)を務め、施設実習にも協力をしている。

3-3-8-3 眼科

1.診療活動

1.1 外来

高度医療の目的から、外来は他院眼科で当院での診断、検査、治療を要すると判断され紹介された場合に限っており、北海道から沖縄まで全国からの紹介を受けている。ほぼ 40 名/日の診療を行っている。専門外来としては、まずロービジョン外来を行って、全国的なネットワークを形成している。また、国立病院機構東京医療センターとの共同で角膜移植を含む難治性角膜疾患の治療のための角膜専門外来を設けている。

1.2 入院

ほぼすべてが手術目的の入院となっている。対象疾患は、斜視、眼瞼疾患などもあるが、白内障、緑内障、網膜硝子体手術などの内眼手術が半数以上を占める。いずれも、小眼球や先天異常を伴なう難治性症例であり、25G システムを始めとした最新の機器で検査・手術を行っている。ことに未熟児網膜症の硝子体手術は年間約 50 例を行い、復位率は 70%と好成績である。さらに本年より、重症未熟児網膜症に対して早期硝子体手術を開始し、きわめて良好な網膜復位率と視力予後が得られるようになった。また、小児角膜移植手術も定期的に行っている。

2.研究活動

臨床研究は、弱視・斜視疾患の病態研究、先天白内障、未熟児網膜症、網膜剥離、先天異常などの病態や治療成績の検討を行い、学会あるいは誌上発表を行った。

基礎研究では、遺伝性疾患の機能解明、iPS 細胞、ES 細胞を用いた網膜・視神経の再生や創薬の研究を進め、学会あるいは誌上発表を行った。

3-3-8-4 皮膚科

1. 概要と特色

当科は国立小児病院時代からの歴史を含めると1965年以来、半世紀にわたる小児皮膚科医療を行ってきた。その診療経験と症例の統計をもとに、国内において専門性の高い医療を提供している。

かつて皮膚科を受診する小児患者は減少し、乳児検診を機に皮膚疾患について小児科を受診する患者が増加する傾向があった。一方で小児慢性特定疾病の助成疾患が年々拡大し、助成される皮膚疾患が増加しただけでなく全身性皮膚疾患の診断における皮膚科の役割が増加し、診断・治療への貢献が期待されるようになった。こういった現状の中で、われわれは小児皮膚科専門領域の特殊性を強く認識し、我が国の小児皮膚科医療のレベルアップによる皮膚科、小児科双方への貢献を目標としている。以下の表は、当センターホームページに掲載している一般向け診療案内を改編したものであるが、われわれの活動内容を記した。

2. 外来診療

アトピー性皮膚炎などの湿疹・皮膚炎	診断 アレルギー検査、外用療法、皮膚生理検査 スキンケア指導
あざ（血管腫、太田母斑、異所性蒙古斑など）	乳児期での全身麻酔下でのレーザー治療 1歳未満からできる局所麻酔下でのレーザー治療
足や手のほくろ	良性、悪性の鑑別診断
毛髪疾患（円形脱毛症、先天性縮毛症など）	外用療法、エキシマライト、遺伝子診断
乾癬（関節症性乾癬、膿疱性乾癬など）	診断、治療（外用療法、エキシマライト、内服療法、生物学的製剤）
尋常性白斑	外用療法、エキシマライト
イボ、水イボなどのウイルス感染症	早期発見、早期治癒を目指す。
にきび しみ	診断 治療
角化症、魚鱗癬	診断、検査、治療、遺伝子診断、遺伝相談 小児慢性特定疾患認定申請
母斑症、その他の遺伝性、先天性疾患	診断、治療

3. 入院診療

アトピー性皮膚炎、蕁麻疹で自宅では治療が困難な症例、全身状態、栄養状態が悪い症例の改善、ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群、カポジ水痘様発疹症などの感染症を伴うアトピー性皮膚炎の管理、膿疱性乾癬などでの生物製剤の導入期、いちご状血管腫（乳児血管腫）のプロプラノール内服療法の導入期、全身麻酔が必要な症例の管理など。

4. 褥瘡対策チームとしての活動

院内の褥瘡・創傷の治療、予防対策をチームで行い、対象症例を減少させることに努めている。褥瘡対策委員会(Wound-Ostomy-Continence:創傷、ストーマ、失禁対策チーム)は、皮膚科・形成外科医師、看護師、薬剤師、栄養師、作業療法師などからなるチームであり、活動内容は週 1 回の定期回診をはじめとするベットサイドでの診察と治療、医療従事者に対する勉強会などによる教育活動などである。

主な対象疾患は褥瘡、創傷、ストーマトラブル、点滴漏れ、オムツかぶれなどであるが、小児領域では成人とは異なる基礎疾患とそれに伴う使用薬剤の差、全身や局所の解剖学的、生理学的な差違、成長と発達に対する配慮、整容的な問題に対する配慮など特殊な面も多く、一般のいわゆる高齢者を対象とした一般の褥瘡対策がそのまま通用しないため、小児の特殊性に合わせた治療を目指している。最近の年間褥瘡件数は褥瘡 2012 年度 115(106)、2013 年度 88(77)、2014 年度 89(81)件、2015 年度 85(67)件、2016 年度 70(56)件、2017 年度 67(53)件、2018 年度 81(60)件であった(カッコ内は院内発生件数を示す)。引き続き点滴漏れに対して重点的に活動を行い、点滴漏れチェックリストを用いて診療を行っている。2013 年 7 月より開始したテンプレート記入によるデータベースは 4 年以上の蓄積を経て、危険薬、点滴漏れ初期対応フローチャートの見直しに貢献している。

5. 教育活動

当科は日本皮膚科学会教育施設の認定を受けている。同学会認定専門医 2 名が勤務している(2018 年 3 月現在)。日本皮膚科学会として乾癬治療薬として認可された生物学的製剤について同学会が組織する認定委員会での審査を経て使用承認施設として認定を受けている(2010 年より)。

小児皮膚科学の2つの柱である、アレルギー性疾患と遺伝性疾患に関しては、日本アレルギー学会認定教育施設(2009 年 6 月より)に認定されている。同学会認定専門医1名が勤務している。また、日本人類遺伝学会および日本臨床遺伝学会による認定臨床遺伝専門医 1 名は、遺伝診療科との連携を図り、遺伝子診断前後の遺伝カウンセリングを行っている。

6. 研究活動

2018 年度より厚生労働省希少難治性疾患研究班【特発性後天性全身性無汗症の病態解析及び治療指針の確立】の分担研究者として、肥厚性皮膚骨膜症の遺伝子診断の受け入れなどにより症例の蓄積に努めた。平成 27 年 7 月より指定難病として医療費助成されているが、平成 30 年 4 月より小児慢性特定疾病としても医療費助成開始されるにいたっている。

アトピー性皮膚炎など皮膚バリア機能異常の関わる疾患の病態解明と診断精度向上を目的に皮膚角層成分検査を実施している。2019 年 1 月より、新生児、乳児に対する皮膚角層成分検査も実施している。

3-3-8-5 歯科

1. 特色

小児全般の小児歯科・矯正歯科治療を行っています。対象は主に基礎疾患のあるお子様です。具体的には、ウショク処置、予防処置、口腔外科処置、咬合管理等の処置を行います。お子様の状態あるいは処置内容に応じて、必要であれば全身麻酔科での処置となります。矯正歯科では先天性疾患があるお子様を優先しています。

2. 診療活動

2.1 小児歯科

主に基礎疾患のあるお子様を対象に、外来または全身麻酔下でウショク処置、嚢胞摘出・小帯切除術・埋伏過剰歯の抜歯・智歯の歯胚摘出などの小手術を行います。 その他、歯科の救急として口腔内の外傷処置を行います。

2.2 矯正歯科

当科は日本矯正歯科学会会員が所属する医療機関です。国が定める疾患に起因するかみ合わせの異常に対する矯正歯科治療、ならびに顎の外科手術を要する顎変形症の手術前後の矯正歯科治療には保険が適用されます。対象疾患の中で主に治療しているのは、唇顎口蓋裂、ゴールデンハー症候群（鰓弓異常症を含む）、鎖骨・頭蓋異形成症、頭蓋骨癒合症（クルーゾン症候群、尖頭合指症を含む）、トリチャー・コリンズ症候群、ピエール・ロバン症候群、ダウン症候群、ラッセル・シルバー症候群、ターナー症候群、ベックウィズ・ヴィードマン症候群、軟骨形成不全症、外胚葉異形成症、神経線維腫症、基底細胞母斑症候群、ヌーナン症候群、マルファン症候群、プラダー・ウィリー症候群、顔面裂、口・顔・指症候群、カブキ症候群、ウイリアムズ症候群、ビンダー症候群、スティックラー症候群、骨形成不全症、口笛顔貌症候群（フリーマン・シェルドン症候群）、ルビンシュタイン・ティビ症候群、染色体欠失症候群、チャージ症候群、成長ホルモン分泌不全性低身長症、6 歯以上の先天性部分（性）無歯症、その他顎・口腔の先天異常、等です。これ以外の保険対象疾患については日本矯正歯科学会のホームページ（＞矯正歯科治療が保険診療の適用になる場合とは＞厚生労働大臣が定める疾患）をご確認下さい。

2.3 唇顎口蓋裂

生下時より新生児科、形成外科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科との連携のもとにチーム医療を行い、ホッツ床の装着、NAM 床による鼻の術前矯正、ウショク管理、咬合管理を行います。

2.4 口腔ケア

周術期の患児、および腫瘍に対する放射線療法や化学療法を受ける患児の口腔機能管理を行います。ICU と病棟における人工呼吸器を装着した患児について、口腔ケアの定期的なフォローを行なっています。

2.5 歯科保健指導

主に基礎疾患があるお子様を対象として、乳幼児期から定期的に歯科保健指導を行いフォローします。

2.6 医療連携

地域の医療機関との連携体制の整備に取り組んでいます。ご紹介いただいた症例の全身麻酔下の歯科小手術を行い、手術後は地域の医療機関に逆紹介させていただきます。全身疾患を持つ患者様が円滑に転院できるよう、全国の小児総合医療施設の歯科系診療科との連携体制を構築しています。

3. 臨床統計

平成 30 年には、延べ 65 症例において全身麻酔下の歯科処置が行われました。 表中の「その他」には、粘液貯留膿胞摘出術、歯ぎしり用マウスピース作製、開窓術、上唇小帯切除術、先天性食道狭窄症への粘膜移植術、および下顎骨腫瘍摘出術が含まれます。

全身麻酔下の歯科処置

処置	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年
齲蝕	30	33	42	37
抜歯	7	8	10	5
舌小帯延長術	4	3	2	3
過剰埋伏歯摘出術	3	6	11	14
下顎埋伏智歯摘出術	2	1	2	0
その他	3	3	4	6
合計	49	54	71	65

3-3-9 こころの診療部

1. 概要

1.1 こころの診療部とは

こころの診療部とは子どもとその家族のこころの問題に関する診療を行う部である。こころの療部各科の外来診療に加えて こころの問題を持った子どもの入院治療、慢性の病気の子どもと家族へのこころのケア、先端医療へチームとしての参加、周産期の妊婦さんへのこころのケアなどを行なっている。また、こころの診療は医師だけでは行うことは困難であり、こころの診療部の心理士をはじめとして、ソーシャルワーカーなどの院内の他部署との連携や地域の保健・教育・福祉などの連携も重要な業務に位置付けて実施している。また、急増している子どものこころの問題に対応できる医師の教育として、フェローの教育を重視している。

1.2 こころの診療部の診療体制

こころの診療部は、乳幼児メンタルヘルス診療科、児童思春期メンタルヘルス診療科、児童思春期リエゾン診療科の 3 つの診療科と臨床心理で構成されている。乳幼児メンタルヘルス診療科は乳幼児の外来や病棟における心の諸問題に関する診療に加えて、周産期の母親のメンタルヘルスの問題を取り扱う。児童思春期メンタルヘルス診療科は、児童期と思春期の子どもたちのこころの問題をおもに外来診療で行う。児童思春期リエゾン診療科は慢性疾患で入院中の子どもと家族の心のケアおよび小児がんセンター入院患者と家族の心のケアを担当している。

スタッフは部長 2 名、医長 2 名、医員 2 名、フェロー医師 5 名、常勤心理療法士 3 名、非常勤心理療法士 10 名で診療を行っている。乳幼児メンタルヘルス診療科は医長 1 名、医員 1 名、児童思春期メンタルヘルス診療科は医長が不在で部長 1 名が代行し、医員 1 名、児童思春期リエゾン診療科は医長 1 名となっている。フェロー医師のうち 1 年目の医師は各診療科を 4 か月でローテートし、2 年目の医師は診療科には属さず、3つの診療科の業務に関わっている。

2.1 診療実績

各診療科の診療実績は、各診療科の項に記載する。

3. 研究活動

部長（奥山眞紀子）が中心となって行った研究は以下の通りである。各診療科の研究業績は各科の項を参照されたい。

1）平成 30 年度厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）「日本大震災被災地の小児保健に関する調査研究」（研究代表者　呉繁夫）分担研究「子どものこころの調査・解析」

2）平成 30 年度文部科学省研究費補助金　基盤 B「臨床研究における刑事規制の総合的検討−「被験者保護法」モデルの構築を目指して」（研究代表者　城下裕二）分担研究「精神医療に関する臨床研究の実態調査」

4. 社会的活動

4.1 公的委員会

1）厚生労働省雇用均等・児童家庭局「子ども家庭福祉人材の専門性確保ワーキンググループ」構成員　平成 29 年 6 月−平成 30 年 3 月

2）世田谷区　効果的な児童相談行政の推進検討委員会　委員　平成 29 年 5 月−継続中

3）厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課　社会保障審議会児童部社会的養育専門委員会　専門委員　平成 29 年 10 月−継続中

4）国立障害者リハビリテーションセンター　　今後のあり方に関する検討会　構成員　平成 30 年 7 月−継続中

5）厚生労働省補助事業「平成 30 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業」『子ども虐待による死亡事例等の検証結果等に関する調査研究』委員　平成 30 年 11 月−平成 31 年 3 月

4.2 学会役員

1) 日本小児精神神経学会理事
2) 日本子ども虐待防止学会理事長
3) 日本トラウマティックストレス学会理事
4) 日本子ども虐待医学会理事
5) 日本小児科学会 理事

4.3 国立成育医療研究センターを代表として参加している役職委員

1) 子どもの虹情報センター 運営委員

その他

1) 日本学術会議連携委員
2) NPO 法人「埼玉子どもを虐待から守る会」理事
3) 社会福祉法人「子どもの虐待防止センター」理事
4) 公益財団法人小児医学研究振興財団 理事
5) 公益財団法人 川野小児医学奨学財団 選考委員
6) 公益財団法人 明治安田こころの健康財団 理事
7) 国立障害者リハビリテーションセンター運営委員会 委員

3-3-9-1 乳幼児メンタルヘルス診療科

1. 概要

乳幼児メンタルヘルス診療科は、主として就学前の子どもの発達相談、心の問題や親子関係の問題、周産期・母性診療センターで加療中の妊産褥婦のメンタルケアを行っている。

幼児期の患者は、他医療機関小児科や地域の発達センターからご紹介を受け、主として自閉症スペクトラム障害の早期発見・早期介入を行っている。診断や支援のために、Autism Diagnostic Observation Schedule (ADOS)などを用いた行動観察や詳細な成育歴・発達歴を行い、対人交流を引き出すアプローチや養育者へのガイダンス等を行っている。

妊産褥婦のメンタルケアについては、エジンバラ質問票等を行い、不安障害、産後うつ病の予防や治療に力を入れている。また産科スタッフ、ソーシャルワーカー、地域母子保健と連携し、早期からの育児支援体制の構築に努めている。

2. 診療体制

立花良之診療部長、小西晶子医師(～2018年3月)、岸本真希子医師(2018年4月～)、診療部フェローと臨床心理士(主に新村麻里奈、水本深喜、引土達雄)で担当している。

3. 臨床統計 2018年の初診・再診患者の精神障害は下記のような内訳である。

ICD-10コード	初診(人)	再診(人)
F00-F09 症状性を含む器質性精神障害	0	0
F10-F19 精神作用物質使用による精神および行動の障害	1	10
F20-F29 統合失調症,統合失調型障害および妄想性障害	10	75
F30-F39 気分[感情]障害	217	881
F40-F48 神経症性障害,ストレス関連障害および身体表現性障害	376	1215
F50-F59 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	7	45
F60-F69 成人のパーソナリティおよび行動の障害	23	95
F70-F79 精神遅滞	4	25
F80-F89 心理的発達の障害	116	923
F90-F98 小児<児童>期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	6	79
合計	760	3348

3. 活動状況

研究活動

○立花が下記の研究代表者を務めた。

1) AMED 成育疾患克服等総合研究事業-BIRTHDAY「周産期メンタルヘルスの改善に向けた予防的治療介入法の開発 ー産婦自殺・母子心中をゼロにする地域母子保健システムの確立ー」

2) 厚生労働科学研究費補助金(健やか次世代育成総合研究事業)「健やかな親子関係を確立するためのプログラムの開発と有効性の評価に関する研究」

3) 文部科学省科学研究費補助金 基盤 C「妊娠中や授乳中における精神科治療の意思決定支援システムの開発と有効性に関する研究」

4) 成育医療研究開発費事業(H29-19C)「妊娠期から始まる、自閉スペクトラムの母親とその子どもへの支援及びそれに関係する心理社会的因子についての疫学研究」

○立花が下記の研究分担者を務めた。

1) 内閣府科学技術イノベーション総合戦略 2017 民間機関等における研究開発プロジェクト「社会性行動にかかわる疾患の治療・介入方法開発とその効果測定のための技術開発研究」(研究代表者 五十嵐隆)の分担研究者を務めた。

2) AMED「障害児家族の適切な親子分離をはかり親子それぞれの社会的自立を促すための支援パッケージ開発に関する研究」(研究代表者 小倉加恵子)

○岸本が下記の研究代表者を務めた。

文部科学省科学研究費補助金 基盤 C「自閉症児に対する新しい療育 RDI(対人関係発達指導法)の効果検証」

社会的活動

◯立花が下記の活動を行った。
啓発活動　自治体・医師会を対象に周産期メンタルケアの研修会を開催した。
山梨県内の各保健所、保健師会、愛育会　計18回
5月24日、7月12日、7月26日、8月16日、8月23日、8月27日、9月13日、10月15日、10月22日、10月26日、1月24日
長野県看護鏡協会、小諸市、東御市、軽井沢町、須坂市、精神病院協会　計6回
7月28日、9月20日、11月1日、2月23日（含　同日開催）
その他の自治体：計5回
7月24日　海老名産婦人科医会研修会、8月9日　東京都研修会、10月10日　東京産婦人科医会多摩ブロック研修会、1月28日　東京多摩地区研修会、2月18日　座間市研修会
団体の研修会：計4回
8月22日　日本家族計画協会研修会（東京）、9月8日　日本家族計画協会研修会（博多）、11月29日　愛育会研修会、2月16日・17日　日本産婦人科医会研修会（博多）
・厚生労働省子どもの心の診療拠点病院事業と子育てひろば全国連絡協議会の共催事業として、2019年2月13日に「地域子育て支援拠点と母子保健分野の連携を考えるワークショッププ」を開催した。
学術活動
国際学術雑誌 PLOS ONEのEditorを務めた。
下記の学会の委員として活動した。
日本精神神経学会精神保健に関する委員会委員、日本総合病院精神医学会無床総合病院委員会委員・医療政策委員、日本総合病院精神医学会児童・青年期委員会委員、東京児童青年臨床精神医学会世話人
地域医療
・「世田谷区妊娠期から子育て家庭を支える切れ目のない支援検討委員会」副委員長
・世田谷区の母子保健関係者の協議会である「母と子のサポートネットせたがや」の世話人代表として、世田谷区と共催で毎月1回の頻度で症例検討会を開催した。
・世田谷区の要保護児童地域対策協議会の実務者会議、ケース検討会議に参加した。
・長野県須坂市において「周産期メンタルヘルス実務者検討会」で精神科アドバイザーを務めた（平成30年4月26日・6月28日・8月30日・11月1日、12月20日、平成30年1月31日）
◯岸本が下記の活動を行った。
啓発活動　石川県金沢市の療育関係者向けに、療育支援についての講演「関係性を見つめ直し、関係性の再構築を目指した療育支援」を開催した。（平成30年5月19日）
学術活動　日本精神神経学会性同一性障害(GID)に関する委員会委員

3-3-9-2 児童・思春期メンタルヘルス科

概要

当科では、小学校 1 年生から中学校 3 年生までの日常生活行動や学習に困難を抱えた子どもを対象に、主に外来診療をしています。自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、限局性学習症（学習障害）、心身症、不登校、発達遅滞などが主な対象疾患です。

こうしたお子さんは日常生活や学習で様々な困難を抱えており、その原因は本人の特性だけでなく、保護者の特性や親子の関係性、学校や地域などの環境要因などが絡み合っており、一様ではありません。ご本人・ご家族と一緒に問題点と実行可能な解決策を丁寧に整理していくことで、子どもたち自身にも積極的に困難に向き合ってもらえるような診療を心がけています。

当科では診療にあたり、心理・発達検査を導入しています。子どもの元々の発達特性はどうか、現在のコンディションはどうか、親子関係はどうか、等を診察と検査を通して整理していきます。また、治療も薬物療法、心理療法など多岐にわたります。積極的に取り組むほど時間も手間もかかりますので、ご本人や家族の生活とバランスをとりながら、どの治療にどのタイミングで取りかかるか、適宜検討します。

また、近隣の開業クリニックとの連携も進めています。普段はかかりつけ医に診療してもらいながら、定期的に当院にも受診してもらい、治療の方針などをかかりつけ医に連絡するなど病診連携を重視しています。

当科のディスレクシア外来は、ディスレクシア（発達性読み書き障害）の診断と治療を行う全国の国公立病院では唯一の専門外来です。本が読めるようになって子どもが自信を取り戻し、登校しぶりがなくなるなどの成果を挙げています。

診療内容・業務内容

当診療科ではおもに以下の疾患や状態にある子どもの診療を行っています。

・発達障害：自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、限局性学習症（とくにディスレクシア）等
・心身症
・神経性習癖
・言語発達遅滞、精神遅滞

専門分野

発達障害医学 （自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、限局性学習症など）

診療実績

	2017	2018
症状性を含む器質性精神障害	4	7
精神作用物質使用による精神および行動の障害	0	0
統合失調症,統合失調型障害および妄想性障害	0	46
気分[感情]障害	94	162
神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	459	529
生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	35	219
成人のパーソナリティおよび行動の障害	2	9
精神遅滞	90	140
心理的発達の障害	386	859
小児[児童]期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	243	458
合計	1313	2429

3-3-9-3 児童・思春期リエゾン診療科

③2018年　外来、病棟における活動件数

2018年			
	リエゾン依頼件数	2018　外来	リエゾン科入院
F0	1	15	0
F1	0	1	1
F2	0	23	0
F3	16	123	1
F4	49	260	3
F5	2	21	0
F6	0	4	0
F7	38	37	0
F8	39	143	0
F9	8	78	0
親支援	41		
合計	194	705	5

④活動報告

【診療】

平成28年4月より田中が医長として思春期メンタルヘルス診療科に異動し前任の生田医師より業務を引き継ぎ診療を開始した。また、平成29年度4月より、入院患者の心理社会的支援に関する依頼件数の増加に伴い、日本国内で初の、小児専門のコンサルテーション・リエゾン診療科に改名し子どものリエゾン活動を開始した。依頼件数は2013年:52件、2014年:51件、2015年72件、2016年116件、2017年210件、2018年194件と5年前に比較し約3.5倍になっている。対応ケースとしては、療養環境に伴う情緒や行動上の問題(適応障害やうつ状態、発達特性に関するアセスメントおよびケア、親への死心理的支援、緩和ケアにおける精神的ケア、また親子関係(虐待対応)の問題などが主である。更に、病棟内(小児がんセンター内)における、集団精神療法(遊びと発達、リラクゼーションなどの心理教育など)を7月より月1回で開催し、ご家族からも好評を得ている。その他、トランジション事業においては、毎月の委員会への参加、および心理社会的問題を抱えるケースへの直接または間接介入を行った。更に第3回トランジションフェスティバルを開催し、子ども主体のワークショップを行うことでの自立支援活動を行った。小児慢性特定疾病事業(東京都)の活動に関する企画運営を担当し、7月、12、1月にセンター内にて相互交流会を開催した。次年度も引き続き活動に携わることで、疾患をもつ子どもと家族が孤立しないような地域連携(リエゾン)を目指す。

【教育】

子どもの心の診療中央拠点病院として、群馬大学小児科、東邦大学、岡山大学、東大病院、杏林

大学などから計6名の研修医の指導を行った。またセンター内ではフェロー3名、レジデント6名、コメディカル（保育士、子ども療養支援士、SW、心理等）の教育・連携にも携わっている。センター内レジデントに対して発達評価（デンバーⅡ発達評価）、リエゾン関係の講義を行った。

【研究】

平成30年度厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業））

「小児期発症慢性疾患を持つ移行期患者が疾患の個別性を超えて成人診療へ移行するための診療体制の整備に向けた調査研究」班（厚労科研窪田班）の分担者として、ヘルス・リテラシーの獲得を目的とした移行支援基本プログラムの作成を担当し、成果をあげている。平成30年度成育開発研究費の取得のもと、“療養環境におけるロボット介在療法が慢性疾患を有する子どもと家族に与える癒し効果の検証”をテーマに、株式会社ソニーと研究契約を行い、aiboを用いた臨床研究を開始した。本研究は、AMED研究におけるAIホスピタル事業の一環としても分担している。さらに、平成30年度成育疾患克服等総合研究事業（AMED）ADHDまたは慢性疾患を持つ児への成育環境の影響を測定するマルチモーダルMRI神経ネットワーク指標の開発―Child Attachment Interview による愛着分類を用いて2018-2022（研究代表者：石井礼花、2018-2022年）の分担研究として、病気を抱えた子どもと家族へのこころのケアに関する研究－支援プログラム構築に向けた現状調査－をスターとした。また本院における研究の一つである“ビオチンを添加したたんぱく質低減人工乳の栄養評価に関する研究 －乳幼児の発達に及ぼすビオチンの影響－ ”に関し、発達スクリーニングASQ3日本語版の開発を行った。対外的には、新生児に対する鉄剤投与ガイドライン検討、臨床倫理学（子どもの権利に関する）教育に関する検討、ベイリー乳幼児発達検査第3版標準化作業への協力も行なった。

3-3-9-4 臨床心理

1.　概要

1.1　心理スタッフ【心理療法士】

こころの診療部の心理スタッフ（心理療法士）は、常勤職員 3 名と非常勤職員 7（後半から育児休暇スタッフの復帰により 8）名の合計 10 名（後半から 11 名）である。

1.2　年間統計

臨床心理部門での心理検査および面接の件数（延べ回数）は年間合計 3,676 件であった。昨年度と比較すると心理検査件数は横ばい、心理面接は増加した。
内訳では、心理検査 636 件、外来心理面接 2,379 件、入院心理面接 661 件であった。

＜件数内容（述べ回数）＞
心理検査　636 件（17%）
心理面接（外来）2,379 件（65%）
心理面接（入院）661 件（18%）
計 3,676 件

外来の患者に対する心理面接件数は昨年に比して全体的に増加した（176 件の増加）。特に本人に対するカウンセリングの増加件数が 135 件と昨年に引き続き増加傾向にある。
入院の患者については、乳幼児メンタルヘルス診療科における周産期支援や、2017 年 4 月に新設された児童思春期リエゾン診療科の活動に伴い、周産期の患者や身体疾患を持つ患者に対する入院中の心理的介入の依頼件数が増加している。把握できている範囲で入院中の心理面接は延べ 661 件であった。なお入院の患者への心理的介入は入院生活のなかで適宜介入を行うことが多く、面接件数としてカウントされていない関わりも相当数あると思われる。

＜心理面接件数（述べ回数）とその内訳＞
外来　2,379 件

入院　身体疾患の患児とその親　534 件
入院　周産期の患者　127 件
入院　計 661 件

心理検査では、全体数のうち「発達面のアセスメントに関する検査」が 81%を占めていた。昨年に比較すると乳幼児の発達検査の件数がやや減少し、児童期から思春期の患者への知能検査の件数が増加した。また、子ども本人への検査のほかに、保護者へのインタビュー形式の発達検査の依頼件数は引き続き多く、子どもの発達状況をより幅広い観点から把握しようとするニーズが高いと考えられる。

＜実施した心理検査の内訳＞
発達面のアセスメントに関する検査　516 件（81%）
人格検査　120 件（19%）
計　636 件

1.3　依頼科について

外来患者の心理検査および心理面接は、こころの診療部（乳幼児メンタルヘルス診療科、児童思春期リエゾン診療科、児童思春期メンタルヘルス診療科の 3 科全体）からの依頼により行っている。発達評

価のみを必要とする他科からの検査依頼は、現在はリハビリテーション科の発達評価外来が対応している。

入院患者とその保護者については、児童思春期リエゾン診療科の新設により、こころの診療部と他科との連携が活発になったことに伴い、他科からの依頼を受けて、こころの診療部医師とともに心理的介入を行うことが増加している。また周産期の患者については、乳幼児メンタルヘルス診療科による周産期支援の幅が広がったことに伴い、周産期センターの医師や看護師から直接依頼を受け、こころの診療部医師と連絡を取りながら周産期患者に適宜心理的介入や地域支援につなげる心理的サポートを行っている。

1.4　公認心理師実習生の受け入れについて

2017年9月に心理職の国家資格として公認心理師法が全面施行となった。国民の心の健康の保持増進に寄与することを目的とした重要な資格であり、その人材育成に当部門も貢献したいと考えている。公認心理師資格は、実践力の高い人材養成のために心理支援現場での実習が定められているため、当部門は公認心理師病院実習施設として2018年10月から毎月1名の実習生を受け入れることとした。公認心理師のカリキュラムに対応する大学の大学院生を対象に、小児医療のこころの診療部門における心理社会的支援について、見学及び実践を通して学べるよう、こころの診療部医師の協力を得て実習スケジュールを組み、指導を行っている。

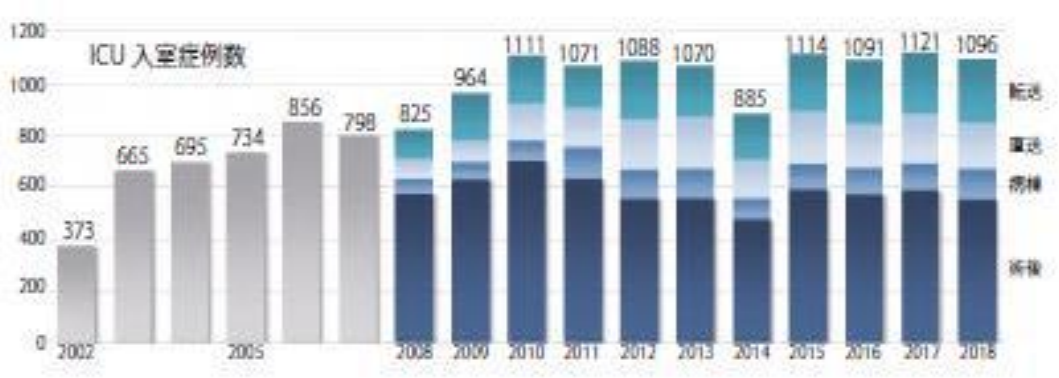
3-3-10 手術・集中治療部
3-3-10-1 集中治療科

1. 診療体制

スタッフ 10 名を軸にフェロー/レジデント 15 名とともに診療にあたっている。
当科は集中治療室における主軸診療科として機能し、関係各診療科及びコメディカルと連携し、救命救急・周術期管理・院内急変に対応している。
2012 年度から小児特定集中治療管理料が算定されるようになり、またユニット数を 2015 年 10 月より従来の加算床 12 床から 20 床へ増床し、70 名を超える看護師とともに、重症患者に対応できる体制を整備している。
PICU 専属の薬剤師に加え、2015 年度からは専従理学療法士が常駐しており、他職種連携を強化している。

2. 診療実績

術後予定入室だけでなく救急外来や病棟の急変患者など緊急入室も含め、2010 年以降年間 1000 例を超える入室数となっており国内の PICU で最多の入室数である。また転送例を含む救急症例数は年々増加しており、2010 年 9 月から開始となった東京都こども救命センター運営事業なども関連してより重症例が集約される傾向が進んでいる。肝不全症例など全国からの広域搬送も進んでおり、肝移植の周術期管理数も国内最多を誇る。
また持続濾過透析や血漿交換などの血液浄化療法の施行数においても、2 kg台の新生児から成人に至るまで施行が可能であり、幅広い疾患において施行を行っている。
Extracorporeal Membrane Oxygenation(ECMO)も年間 10-20 例施行している。



主要な治療	例／年間	延べ日数（日）
人工呼吸	430	2609
持続血液濾過透析 (CHDF)	31	307
血漿交換 (PE)	6	36
体外式膜型人工肺 (ECMO)	15	130

2018 年実績

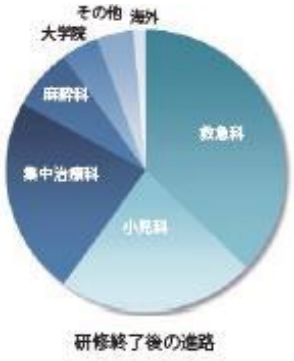
レジデント 1 人当たりの主要な手技（件／年）	
挿管（経口／経鼻）	11.2／9.3
中心静脈ライン	10.0

2018 年実績

3. 教育・研究

小児救命救急・小児集中治療を志向する医師を全国から受け容れ、研修を行っている。

豊富な総例数を背景とした On-the Job Training のみならず、Off-the Job Training までの体系化された研修を進めている。臨床研究にも力を入れており、学会発表や論文作成も精力的に行っている。



研修終了後の進路

4. 災害・院内急変対応
院内急変への対応を迅速かつ適切におこなうための RRS(Rapid Response System)の運用、看護師などを含む職員への蘇生教育も救急科、総合診療部と協力して行っている。また災害対策における DMAT 活動も体制整備を行っている。

5. 部門で行った研修
救急科とともに、若手の小児救急集中治療を志す医師向けに、年 1 回 2 日間の「成育救急集中治療セミナー」を開催している。

3-3-10-2 手術室

診療活動報告

1) 2018 年度施行麻酔件数 :( )内 2017 年度数

① 総手術件数は 5245(5407)件、総麻酔件数は、5164(5314)件、前年度に比し各々164 件、150 件の減少であった。

② 2016－2018 年度の手術件数、麻酔科管理手術件数、麻酔科の疼痛管理数の推移を下表に示した。麻酔管理数は 150 件の減少であったが、術後のオピオイド(医療麻薬)による鎮痛管理件数もそれに従って減少した。

年度	2016	2017	2018
手術総数	5264	5407	5245
術後痛	608	668	600
癌性疼痛	33	12	2

③ 鎮痛管理法 はオピオイドを経静脈的に使用する:IVPCA と硬膜外腔からオピオイドと局所麻酔薬を併用する硬膜外 PCA:PCEA を用いている。硬膜外 PCA で管理する症例は、この 3 年間で増加している。

年度	2016	2017	2018
IVPCA	544	602	518
PCEA	64	66	82
総数	608	668	600

2) 手術室運営の適正化 (2010 年度から引き続いている活動の継続)

① 予定手術調整会議:毎週水曜日午前 8 時から

手術室の人的資源の有効活用を目的に勤務者の最も多い日勤時間帯に多くの手術を受けるように手術枠、列を構成し、麻酔科医、看護師を配置し手術室使用の効率化を図る目的で手術室を使用する各科代表、麻酔科、手術室看護師長・副師長が出席し、次週の予定手術枠、臨時手術を決定している。患者リスクや緊急性を考慮し、各科の枠を交代することもある。予定で手術枠を提供できる場合にはその枠を他科が利用できるように相互連絡調整をしている。2015 年度から引き続き 2 週後の予定症例の確認も行い、空枠の発生を予防に努めた。

② 調整会議外の緊急手術申し込みの運営:麻酔科リーダーと手術室看護師リーダーで調整している。緊急枠は、慢性的に空きが少なく確保困難が常態化している。

3)手術室で使用する薬剤の管理適正化、効率化、安全管理について

2010 年度に導入した麻酔科使用薬剤のトレイ管理使用、医療用麻薬の金庫管理と並行して、2013 年度から筋弛緩薬:ロクロニウム、鎮静薬:ミダゾラムの金庫管理を開始し、現在に至っている。薬剤の安全管理のため、麻酔科医は薬剤の金庫の出し入れに関する時間、氏名の記入および既使用薬のダブルチェックをルール化した。金庫内の薬剤個数に関しては、薬剤科、手術室看護部の連携で時間を決めて手術室内在庫薬数の確認を行なっている。

さらに、金庫内薬剤の保管数、各トレイの中に配置されている薬剤の必要数,その数の適正であるかどうかを施行手術件数により勤務時間帯別に確認し、施行している。

4) 手術室 Medical Assistant:MA と病院医療事務系職員による事務作業補助の代行業務(2015 年度から継続)

手術室電子カルテシステムへ以下の事項の代行入力は、①－⑪が行われており、2017 年度同様に麻酔科 MA の業務は④、⑤に変更され、病院医療事務系職員によりその他の業務が遂行されている。医師の入力業務に要する時間が軽減されている。

①麻酔情報入力の確認 ②手術材料入力 ③医師の入力漏れ対応 ④疼痛管理ファイル入力、集計 ⑤必要書類スキャン ⑥超音波実施入力代行、⑦プロシージャーログ入力 ⑧カルテの予定手術スケジュール表への担当麻酔科医名の割り振り入力、⑨キルシュナー・ワイヤーの体内留置本数

の医事課への報告⑩麻酔中の圧測定使用薬チェック⑪手術時使用薬剤入力漏れチェックと事後入力

5）手術室タイムアウトの見直しから実施

手術を医療安全上の観点から考え、タイムアウトを新しく 2017 年度に開始し、それらの内容を見直しつつ施行している。手術の左右間違いなどを予防するのに、貢献していると言えるが、更に充実した手術室業務のため内容の検討は行っていくべきと考える。

3-3-10-3 麻酔科 疼痛管理科

1. 麻酔管理件数

麻酔管理件数は 2002 年の開設から年々増加傾向にあり、近年では年間 5,000～5300 件で安定し、平成 30 年度(2018 年)は 5,165 件であった。各診療科別の手術に対する実績麻酔管理件数の多い上位 5 診療科は産科/胎児診療科/不妊診療科 952 件、外科 672 件、眼科 449 件、耳鼻咽喉科 448 件、整形外科 422 件であった。その他、小児の検査麻酔も非常に重要な位置を占めており、各種検査にかかわる麻酔件数も増加し、放射線診断科/治療科の麻酔管理件数は 425 件であった。麻酔科管理下の肝移植術(49 件)や心臓外科手術(168 件)の件数は近年安定して推移しているものの重症症例の増加や緊急手術の増加により総麻酔時間が増加傾向にあった。

2. 手術室の効率的運用及び手術待機患者の削減

毎週水曜日の朝に開催される手術室調整会議での定例手術・臨時手術の調整と 2 週間先の手術予定の調整を行っているが、この際に定例時間内に定例手術がおさまるような手術枠の調整ならびに手術待機患者の多い整形外科、眼科、耳鼻科、脳外科の患者の手術枠確保を行った。

3. 手術・検査麻酔以外の業務

当科では、手術・検査麻酔以外に無痛分娩管理、術後疼痛管理、外来鎮静を担当している。近年では、年間 800 件前後であった外来鎮静が 650～670 件前後に減少したものの無痛分娩管理および術後疼痛管理件数は、それぞれ 900～950 件、600～670 件と安定している。これらの業務も当科の役割として重要な位置を占めているため、安定した管理を行えるようにしている。

4. 安全対策の強化

近年は、総麻酔時間も大幅に増加傾向にある。これには麻酔管理件数の増加のほかに、当科の特徴でもある小児心臓外科手術(特に新生児開心術や複雑心奇形の緊急手術)、胎児治療を要する手術、脳腫瘍摘出術等の脳神経外科手術、超低出生体重児の未熟児網膜症に対する手術、小児肝移植術などの重症症例の手術や複雑な手術が増加していることも手術時間の長時間化につながっている。さらに緊急手術も増加傾向にあり、過密な定時手術に加えて緊急手術を優先的に行うため時間外の手術が増加傾向にある。こうした診療業務の増加に対して、麻酔科の人材確保および麻酔科スタッフへの安全教育の充実を図るとともに医療連携室や各診療科と協同し、術前に関係診療科との症例カンファレンスを開催し、周術期管理の問題点およびリスクの共有や綿密な周術期管理を行い、患者の安全を担保できるようにした。

5. 積極的な研究活動

豊富な症例をもとにした臨床研究、麻酔関連薬剤の小児治験や全国調査等の実施を行い、各種学会での発表や学術誌での発表を行った。

3-3-10-4 成人麻酔科

3-3-11-6 産科麻酔科参照

3-3-10-5　医療工学室

1、 概要

医療工学室は、開院と同時に医療機器管理部門として開設された。広さ 120 平方メートル内に、輸液ポンプやシリンジポンプ、心電図モニタ、パルスオキシメータなど約 2500 台の医療機器を中央管理している。スタッフの構成は、臨床工学技士 7 名、委託 ME センター専任社員 3 名の合計 10 名である。臨床工学技士は、人工心肺、血液浄化業務、ペースメーカ業務、人工呼吸器のほか手術室で使用される医療機器、PICU、NICU を含む病棟の医療機器の操作、保守管理、点検業務に就いている。委託 ME センター専任社員は、医療機器の貸出し、回収、清拭、保守業務を行うことで安全及び効率的な運用を図ることを目的としている。使用前点検・使用後点検及び定期点検は、医療機器のトラブル防止と機器の性能保持を目的に継続している。

導入から 3 年目を迎える人工心臓では、医師、看護師、臨床工学技士で連携し安全維持に勤めている。また、人工心臓のほか心臓移植の開始に向けて、人工心臓管理技術認定士の資格取得者 5 名体制として準備している。

今後も多職種と協力しながら安全と最適なチーム医療の提供をめざし、日々業務に就いている。

2、 業務件数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
心臓外科	人工心肺	6	9	6	6	7	5	8	9	9	7	11	11	94
	セルセーバー	6	9	6	6	7	5	8	9	9	7	11	11	94
	ペースメーカー	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	2	6
脳神経外科	ナビゲーション	8	13	16	10	17	11	11	14	11	9	11	12	143
	マイクロ	9	19	16	17	11	16	17	17	12	10	14	15	173
	内視鏡	4	3	2	4	4	2	2	6	4	3	1	0	35
移植外科	マイクロ	5	1	4	5	4	7	9	3	1	3	5	3	50
胎児診療科	FLP・FETO	2	2	6	3	7	3	5	5	1	1	2	4	41
	ラジオ波	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	4
その他		2	1	1	2	0	1	0	2	1	0	0	0	10
ECMO・PCPS		11	18	4	6	8	2	18	31	0	1	0	7	106
LVAD		31	28	31	30	31	30	31	31	30	31	30	31	365
PM外来		9	9	13	11	11	11	9	14	9	15	13	20	144
血液浄化		40	32	31	45	41	37	40	37	26	41	37	34	441
スリープスタディ		5	10	17	17	11	13	14	15	8	15	6	7	138
在宅人工呼吸器患者支援		8	28	12	11	9	16	13	9	6	11	22	20	165
RST		32	26	21	32	31	34	23	33	26	22	17	21	318
臨床業務合計		179	209	187	205	199	195	208	235	153	178	180	199	2,327
機器保守管理	呼吸器ラウンド	731	412	446	821	873	1,016	882	1,067	847	1,105	702	982	9,884
	機器貸出	1,712	1,603	1,840	1,729	1,985	1,748	1,695	1,938	1,492	2,107	2,019	1,779	21,647
	修理	108	40	45	30	38	29	32	43	29	57	59	30	540
	定期点検	149	88	304	65	238	75	43	244	88	161	303	93	1,851
	日常点検	1,445	1,581	1,536	1,570	1,758	1,063	1,785	1,824	1,538	1,930	1,659	1,975	19,664
	トラブル対応	42	53	74	73	56	51	58	58	56	70	41	41	673
機器保守合計		4,187	3,777	4,245	4,288	4,948	3,982	4,495	5,174	4,050	5,430	4,783	4,900	54,259

3、 研修会実績・その他

月	対象	回数	人数	月	対象	回数	人数
1月	PICU医師・看護師対象　輸液ポンプ説明会	3	41	5月	もみじの家 看護師対象 パルスオキシメータ(Masimo)説明会	1	8
3月	NICU医師・看護師対象 PUPPYX説明会	3	36		手術室看護師対象 電気メス・内視鏡　説明会	1	7
	8西　スタッフ対象　パルスオキシメータ(Masimo)説明会	1	29		看護師対象 ミニメド640Gインスリンポンプ説明会	2	50
	7西看護師対象　経腸栄養ポンプ(JMS)説明会実施	1	9	6月	11東 看護師対象 Newport E100m 説明会	3	16
	11東看護師対象　経腸栄養ポンプ(JMS)説明会実施	1	10		看護師対象 ミニメド640Gインスリンポンプ説明会	1	10
	9東 看護師対象 パルスオキシメータ(Masimo)説明会	1	7		NICU看護師対象　経腸栄養ポンプ(JMS)説明会実施	1	19
	9西 看護師対象 パルスオキシメータ(Masimo)説明会	1	9		CE対象　経腸栄養ポンプ(JMS)説明会実施	1	5
	7東 看護師対象 パルスオキシメータ(Masimo)説明会	1	5		10西 看護師対象 Newport e360 説明会	1	7
	7東看護師対象　経腸栄養ポンプ(JMS)説明会実施	1	8		8東 看護師対象 除細動器 説明会	2	16
	外来 看護師対象　経腸栄養ポンプ(JMS)説明会実施	1	8	7月	NICU医師・看護師対象 クベース(Babyleo TN 500) 説明会	2	36
	11東 看護師対象 パルスオキシメータ(Masimo)説明会	1	9	9月	もみじの家 看護師対象 シリンジポンプ説明会	3	16
	7西 看護師対象 パルスオキシメータ(Masimo)説明会	2	11		もみじの家 看護師対象 PCAポンプ説明会	3	19
	10東看護師対象　経腸栄養ポンプ(JMS)説明会実施	1	6		NICU 看護師対象 ミルク用シリンジポンプ説明会	4	51
	10東 看護師対象 パルスオキシメータ(Masimo)説明会	1	6		もみじの家 看護師対象 輸液ポンプ説明会	3	15
	NICU看護師対象　経腸栄養ポンプ(JMS)説明会実施	2	12		PICU 看護師対象 ミルク用シリンジポンプ説明会	4	43
	PICU看護師対象　経腸栄養ポンプ(JMS)説明会実施	2	26		NICU 看護師対象 経皮ガスモニタ説明会	2	12
	8東看護師対象　経腸栄養ポンプ(JMS)説明会実施	1	9	10月	7東 看護師対象 ミルク用シリンジポンプ説明会	1	9
	手術室看護師対象 パルスオキシメータ(Masimo)説明会	2	15		9東 看護師対象 ミルク用シリンジポンプ説明会	1	7
	8東 看護師対象 パルスオキシメータ(Masimo)説明会	1	6	11月	NICU CE・看護師対象 ジラフオムニペットケアステーション説明会	1	8
	10西 看護師対象 パルスオキシメータ(Masimo)説明会	2	13		NICU CE・看護師対象 クベース(Babyleo TN 500) 説明会	1	6
	10西看護師対象　経腸栄養ポンプ(JMS)説明会実施	1	4	12月	10階医師・看護師対象　Newport E100m 説明会	1	6
	9東 看護師対象 e360 説明会	1	13	合計		78	778
4月	POCU　スタッフ対象　パルスオキシメータ(Masimo)説明会	2	28				
	NICU医師・看護師対象　インファントウォーマ説明会	3	47	＊新採用者研修は除く			
	6西 医師・看護師対象　インファントウォーマ説明会	2	39				
	11東医師・看護師対象 PUPPYⅡ説明会	1	6				

3-3-11 周産期・母性診療センター

3-3-11-1 産科

当センターは総合周産期母子医療センターで、MFICU（母体・胎児集中治療ベッド）を 6 床有しています. ハイリスク妊娠を受け入れ高度な周産期医療を提供するとともに、一般の妊婦も積極的に受け入れ安心、安全なお産を提供しています. 周産期・母性診療センターの産科診療（産科, 胎児, 不育診療）は常勤医 15 人非常勤医 13 人の合計 28 人体制で行っており, 夜間・休日も常時 3 人の夜勤・宿直体制となっています. センター内の母性内科, 産科麻酔科, 新生児科等と連携して, ハイリスクならびにローリスク妊娠/分娩管理をチーム医療として行い, 母体搬送の受け入れ等も積極的に行っています.

1. 2017 年 産科診療概要

総分娩件数（児数）は 2239 件で, 生産数は 2148 件でした. 生産における母体年齢は, 35 才以上が約 62%, 40 才以上が約 23%と高年妊婦の割合が多い傾向が持続しており, 特に 45 才以上の方の分娩も 1%強に認めています. また初産婦さんは 54%, 経産婦さんは 46%でした. 分娩様式は経腟分娩が 62%で, そのうち無痛分娩が約 66%で, 帝王切開率は分娩全体の 38%でした. 当院では 24 時間対応した無痛分娩を行っており, 産科麻酔科医が主体となり新生児科医や助産師の協力も得て, 安全性の確保に細心の注意を払っています. 希望される妊婦のみならず, 高血圧や母体心疾患など医学的適応を有する症例にも導入しています. 無痛分娩についての妊産婦教育の充実と娩出力の低下を防ぐ体力づくり（マタニティーヨガ）を目的とした無痛分娩クラスも随時行っています.

2. ハイリスク妊娠に対する専門的対応

当センター産科外来では, 妊娠合併症などのために妊娠中ならびに分娩時に厳重な管理が求められる, ハイリスク妊婦さんに対応するために専門外来を設置しています.

- 骨盤位外来

  当院骨盤位外来は, 35 週以降の骨盤位または横位の方で骨盤位外回転術を希望される方を対象としています. 外来で骨盤位外回転術についてのご説明を行い, 後日入院で手術を行っています. 2018 年には 48 名の妊婦さんが外来を受診され,後日 21 名に外回転を施行しました. 成功例は 17 人（成功率 80.9%）で,手技中に緊急帝王切開となった症例が 1 例でした.

- 早産外来

  2018 年は, 既往早産症例 43 例, 子宮頸部円錐切除術後症例 19 例を含む早産ハイリスクと言われる妊婦さん 66 人が初診となっています. 早産のリスク因子について評価し, 縫縮術や早産反復予防目的の黄体ホルモン投与など, エビデンスに基づいた診療を行なっています.

- 自己血外来

  前置胎盤, 低置胎盤など分娩時に出血が危惧される症例や血液型不適合妊娠症例に対し, あらかじめ感染リスクの少ない自分の血液を貯血する外来を行っています. 2018 年度は 106 人（191 回）の貯血を施行し, 33 人（101 単位）に返血しました.

- 甲状腺外来

  バセドウ病や橋本病など甲状腺の病気を合併した妊婦を, 母性内科と連携し母児の甲状腺機能を的確に管理しています. 2018 年には 25 人の方が初診されました（バセドウ病 14 人, 橋本病 6 人, その他甲状腺疾患 5 人）.

- FGR（fetal growth restriction：胎児発育不全）外来

  FGR の原因の検索, 及び各種検査（超音波検査による胎児の血流測定・羊水量測定・推定体重測定, 推定体重増加の有無, 胎児心拍モニタリングなど）を用い, 個々の胎児の状況に応じた適切な妊娠中の管理方法や出産時期の決定をするための外来です. 現在全国的研究にも参加しています. 2018 年には 38 人が受診されました.

- 合併症外来

  膠原病など合併症を有する妊婦の周産期管理, また妊娠前のカウンセリングを他科と連携して現在のエビデンスに基づいて行っています. 小児期に重症の病気を克服された方が妊娠, 出産を迎えるにあたっての情報も収集しています. 2018 年の初診数は 51 例で, 内訳は膠原病関連（30 例）, 血液凝固疾患（6 例）, 代謝疾患（7 例）, 心疾患（1 例）, 骨疾患（3 例）など多岐にわたっております.

- 多胎外来

双胎など多胎妊娠を専門にみる特殊外来で，産科・胎児診療科の担当医が多胎妊娠の診療を行っています．2017 年には双胎 126 例（二絨毛膜二羊膜双胎 63 例，一絨毛膜二羊膜双胎 60 例，一絨毛膜一羊膜双胎 3 例），三胎 1 例の分娩管理を行いました．

- 母子感染外来

2018 年 12 月より，妊娠中の風疹やトキソプラズマなどの感染症に対応するための，専門外来を開設しました．

3. プレコンセプションケア

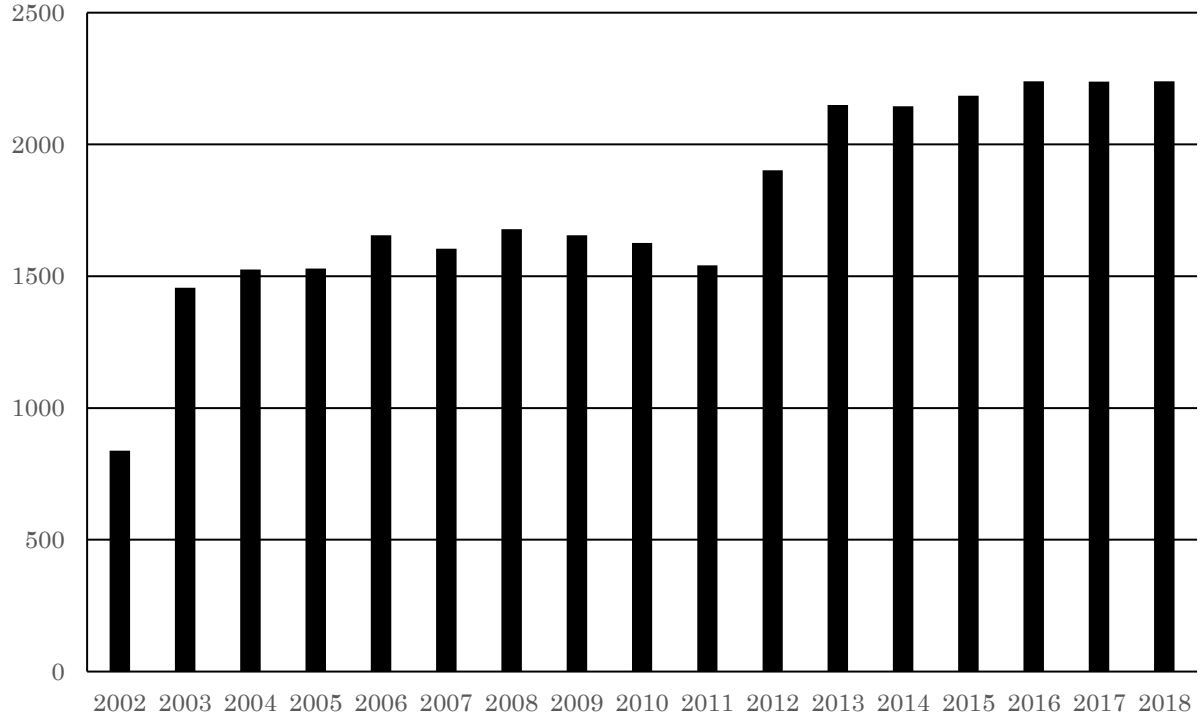
小児期がん既往者・慢性あるいは稀有疾患を有する女性及びカップルが生殖・妊娠を考えるようになりました．これまで不十分であった，妊孕性に関する情報提供や適切な妊娠前からの管理を行うべく包括的な妊娠前管理センター(Preconception Care Center)を 2015 年 9 月に開設しています．2018 年の PCC 産婦人科総受診者は 72 名でした．

2018 年診療実績（2018 年 1 月 1 日－12 月 31 日）

＜総分娩件数（児数）＞2239 件
＜生産数＞2148 件
＜母体年齢（生産）＞
35 歳未満 764 件，35～40 歳 793 件，40 歳以上 468 件
＜分娩様式（生産）＞
経腟分娩 1322 件（無痛分娩 875 件），帝王切開 826 件（予定 456 件，緊急 370 件）
＜多胎＞双胎 120 組，三胎 3 組
＜分娩週数＞
30 週未満 25 件，30～36 週 228 件，37 週以上 1895 件

総分娩数の年次推移

分娩件数



年

3-3-11-2 胎児診療科

1. 概要・特色

胎児診療科とは胎児医療を行う専門診療科で、胎児を母体に附属したものではなく、独立した個人として認め胎児を専門的に診療していく部門で、日本で最初に独立した部門として設立されました。当科の目的は、子宮内の胎児に対して最善の医療を提供することであり、診療の柱は「胎児診断」と「胎児治療」です。また胎児診断に基づき適切な出生後治療を行うために他科との連携を可能とする「チーム医療」の実践を行っています。

2. 診療活動

2.1 外来診療

胎児診療科で行う外来は胎児診療科外来と周産期遺伝外来に分かれています。胎児診療科外来では、他院からの紹介が主であり、胎児異常が疑われる症例に胎児精査超音波検査、胎児 MRI、胎児3D-CTで画像診断による精密検査を行なっています。必要に応じて羊水検査、絨毛検査による遺伝学的検査も行っています。

周産期遺伝外来では院内、院外の患者を対象に染色体異常を中心とした出生前遺伝カウンセリング・出生前遺伝学的検査:診断検査(羊水検査、絨毛検査)、スクリーニング検査(NIPT、妊娠初期コンバインド検査、クアトロテスト)を行っています。

2018 年 1 月 1 日―2018 年 12 月 31 日

検査名	件数
羊水検査	90 件
絨毛検査	38 件
NIPT	890 件
妊娠初期コンバインド検査	241 件
クアトロテスト	114 件

染色体異常(核型)	件数
21 トリソミー	20 件
18 トリソミー	18 件
13 トリソミー	2 件
性染色体異常	2 件
その他	9 件
計	51 件

2.2 胎児異常例の内訳

2017.1.1-2017.12.31 の約 1 年間に当科にて診療した胎児異常例は計 445 例でした。その内訳と内容の概略を以下に示します。中枢神経系異常であれば脳神経外科、心・大血管系異常であれば循環器科、胸部・腹壁・消化器系異常であれば小児外科、泌尿器系異常であれば泌尿器科、染色体異常・奇形症候群であれば遺伝診療科と、関係する各科や新生児科と出生前から連携を密にとり診療にあたっています。

2018 年 1 月 1 日—2018 年 12 月 31 日

中 枢 神 経系疾患 脊髄髄膜瘤(7)、水頭症・脳室拡大(9)、無頭蓋症(5)	36 例
胸 部 疾 患 横隔膜ヘルニア(8)、肺嚢胞性疾患(8)、胸水(12)	28 例
消化器・ 腹部疾患 小腸・十二指腸閉鎖(5)、臍帯ヘルニア・腹壁破裂(3)	15 例
循 環 器 疾患 左心低形成症候群(3)、大動脈縮窄・離断 (4) 共通房室弁(6)、ファロー四徴 症(6)	71 例
泌 尿 器 疾患 巨大膀胱(8)、水腎症(12)、嚢胞性腎疾患(6)	30 例
双 胎 関 連疾患 双胎間輸血症候群(41)、sIUGR(8)、無心体 (8)	62 例
その他 胎児水腫・NT 肥厚・ヒグローマ(36)、骨系統疾患(4) 染色体異常・奇形症候群(14)、胎児発育不全(14) 羊水過多・過少(7)、感染症(5)	129 例
計	368 例

2.3　胎児治療

胎児治療の適応となる疾患は限られていますが、各種胎児治療法を幅広く行っており、治療数は日本で最も多い。その中で双胎間輸血症候群に対する胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術が最も多く、次いで胸水に対する胸腔・羊水腔シャント術、無心体双胎に対するラジオ波凝固術、胎児輸血などが続きます。

2018 年 1 月 1 日―2018 年 12 月 31 日

治療名	件数	適応基準
母体抗不整脈剤投与	1 例	胎児頻脈(1)
胎児輸血	3 例	パルボウイルス感染(3)
胸腔・羊水腔シャント術	6 例	胎児胸水(6)
肺嚢胞・羊水腔シャント術	0 例	CPAM(0)
膀胱、腎盂・羊水腔シャント術	0 例	下部尿路閉鎖(0)
ラジオ波凝固術	4 例	無心体双胎(4)
胎児鏡下胎盤血管レーザー凝固法	42 例	双胎間輸血症候群(36) sIUGR(5), TAPS(1)
胎児鏡下バルーン閉塞術	0 例	横隔膜ヘルニア(0)
穿刺	4 例	胸水(3)、卵巣嚢腫(1)
EXIT	0 例	上気道閉鎖(0)
計	60 例	

3. 研究活動

行っている臨床研究は、1)「臨床試験による胎児治療法の確立に関する研究」として胎児横隔膜ヘルニアの胎児手術に関する臨床試験(海外のランダム化比較試験に参加している)、胎児心疾患の胎児治療、胎児治療の全国登録システムに関する研究を行っている。2)「重症 selective IUGR に対するレーザー手術のコホート研究」、3)「新しい胎児治療法と胎児治療のデータベースに関する研究」として胎児脊髄髄膜瘤、胎児下部尿路閉鎖、胎児治療後の長期予後調査のシステム、4)「無心体双胎に対するラジオ波凝固術の臨床研究」を行っている。日本の胎児治療成績を明らかにして胎児治療がスタンダードケアとして保険収載されるように働きかけるとともに新しい胎児治療法の日本への導入に積極的に取り組んでいます。

3-3-11-3　妊娠免疫科
3-3-11-4 不育診療科

1. 概要・特色

1.1　不育診療科・妊娠免疫科

不育症とは，妊娠は成立しても流産や死産を繰り返して生児を獲得することができない状態です．2 回以上連続した流産や 1 回でも死産の既往がある場合には，当科では不育症検査を行って原因を探索し，検出された病因にて対して適切な治療を行い，次回妊娠で生児獲得を目指すことを目的としています．偶発的な流産を繰り返した場合など，実際には一般検査で異常を特定できない症例も多いですが，その場合であっても心理面でのサポートなども含めた，厳重な周産期管理を行っています．

1.2　当センターにおける不育診療の特色

不育症を専門的に取り扱っている病院は全国的にも少ないですが，当センターでは，開院当初より独立した不育診療科として専門外来を設けています．成育医療の特色を活かして，産科・胎児診療科・新生児科・不妊診療科・母性内科・遺伝診療科など各診療科との連携により，妊娠成立から出産までにわたる包括的な診療を行うことが可能となっています．また，こころの診療部とも連携し，精神心理面でのケアに関しても留意しています．

2. 診療活動

2.1　外来・病棟診療

専門外来を週 4 日行っています．不育症患者に対して行われている原因検索は多岐にわたっており，検査項目（血液凝固系検査・免疫学的検査・内分泌的検査等）は年度ごとに最新の知見を取り入れ随時検討し変更しています．

検査で見つかった異常に対しては EBM に基づいて適切な治療を行っています．主な治療としては，凝固異常や抗リン脂質抗体症候群の場合の抗凝固療法（アスピリン内服やヘパリン注射），甲状腺機能異常や糖尿病などの場合のホルモン治療などが挙げられます．また治療を行うも再度流産に至った場合は，次回妊娠のために流産染色体検査を積極的に行って原因の特定に努めています．

2.2　治療成績

2018年1月1日より2018年12月31日までの初診患者数は146名，平均流産回数2.4回(最高8回)，再来患者数は延べ2215名でした．不育症に対する精査後に妊娠し予後が確認された患者数は130名で（化学流産除く），生児を得ることが出来た患者の割合は64.6%（84/130名）となっています．主な治療であるヘパリン注射+低用量アスピリン治療は36例に，低用量アスピリン治療は94例に施行されました．

3. 研究活動

当院での不育症患者の患者背景，検査別陽性頻度，治療成績などは不育症研究班に登録され，全国規模の臨床データベースの作成に協力しています．また 2014 年 4 月から 5 年計画で，原因不明の不育症を対象とした大量ヒト免疫グロブリン治療の臨床試験を行っており，2018 年は 4 名でした．

3-3-11-5 新生児科

＜診療体制＞

2012 年度より当周産期センターは東京都より総合周産母子医療センターの認可を受け、所属する世田谷・目黒区の地域の周産期医療のカバーのみならず、多摩地区の産科救急もカバーする事となっています。2013 年以降は、認可 NICU 病床を 21 床、認可 GCU 病床を 30 床（4 階 18 床＋6 階 12 床）に増床して、大規模に新生児医療を行っている。

＜診療実績＞

[1] 総括

2018 年 1 月 1 日から 2018 年 12 月 31 日までに当センターで生産児として出生した在胎 22 週 0 日以降の新生児は 2152 名であった。その内訳は、赤ちゃん部屋への入院（特に新生児科的治療・管理を要さない児）が 512 名(24%)、新生児室への入院が必要であった児が 1373 名(64%)（後に NICU へ入院した児 33 名を含む）、出生直後に NICU への入院が必要となった児が 267 名(12%)、その他の病棟への入院が 0 名であった。

院内出生児および院外出生児を合わせた NICU への総入院数は 374 名であり、NICU 入院中の死亡数は 12 名であった。

[2] 各入院病棟での診療

1. NICU/GCU 病棟（4 階）

NICU/GCU 病棟（4 階）への総入院数は 374 名で、院内出生児 300 名(86%)、院外出生児 74 名(14%)であった。過去 6 年間の NICU への入院数の推移を示す（図 1）。

A. 早産・低出生体重児の診療

NICU 入院患者の在胎週数別の分布（図 2）を示す。当院では、慢性期の合併症の治療目的の転院入院も多いため、生後 7 日以降に入院した症例を区別して示している。

在胎週数別では、37 週未満の早産児が 179 名（162 名）で、32-36 週の Moderate-Late preterm 児が 129 名（129 名）、32 週未満の極早産児が 50 名（33 名）、うち 26 週未満の超早産児は 22 名（10 名）であった（カッコ内は、7 日未満入院の症例数）。出生体重別では、低出生体重児（出生体重 2500g 未満）が 213 名（191 名）、極低出生体重児（出生体重 1500g 未満）が 66 名（49 名）で、うち、超低出生体重児（出生体重が 1000g 未満）が 36 名（22 名）であった（カッコ内は、7 日未満入院の症例数）。極低出生体重児の死亡は 1 名であった。

過去 5 年間の超・極低出生体重児の入院数の推移を示す（図 3）。

B. 病的新生児の診療

2018 年に当センターNICU に入院となった児 374 名中、人工呼吸管理を要した児 (n-CPAP を除く)は 156 名（42%）で、挿管なしで n-CPAP のみであった症例は 67 名（18%）であった。また、外科手術はのべ 122 件施行した。内訳は、心臓血管手術 35 例(29%)、小児外科手術 45 例(37%)、眼科手術 14 例（11%）、脳外科手術 15 例（12%）、その他の手術 13 例（11%）であった。図 4 に NICU 入院児の手術症例数の推移を示す。

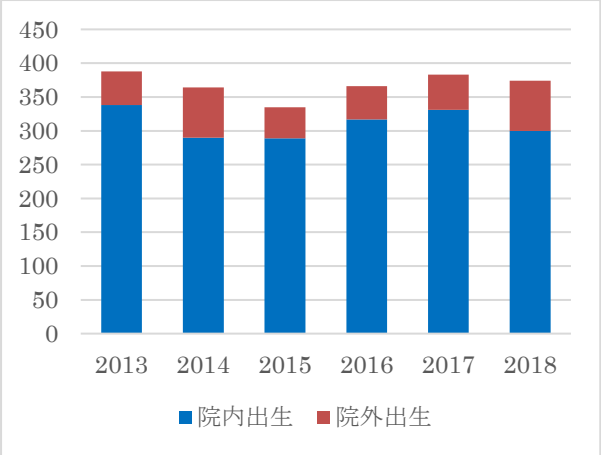
C. 長期入院患者・在宅医療への移行患者の診療システム

NICU への長期入院患者の蓄積が起こらないように、総合診療部、循環器科、小児外科などの他科の協力の下、積極的な院内での NICU から乳幼児病棟への転病棟を図っている。その結果、2018 年は、NICU 入院患者のうち 57%は NICU から直接自宅への退院に至っていたが、約 10%は 6 階 GCU あるいは新生児室へ転病棟後に自宅へ退院となっており、14%は当センター内の乳幼児病棟へ転棟し、約 5%は小児 ICU 病棟へ転棟し、12%は他院 NICU あるいは他院小児科病棟へ転院していた。

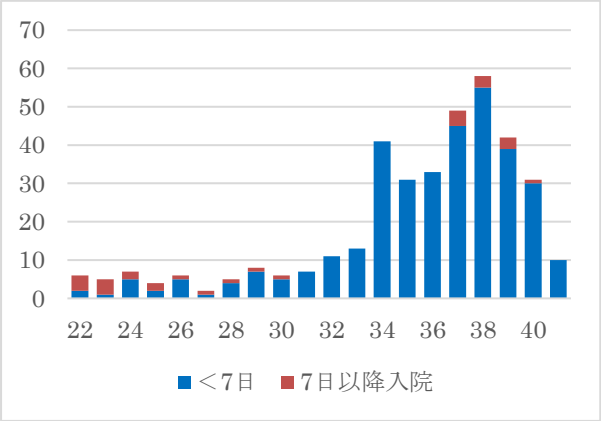
2. 6 階新生児室・11 階新生児室

当センターで出生した児は 2152 名で、このうち、母体、児に何らかの問題があり、新生児科への入院扱いとなった児は 1640 名であり、当センターの high risk 分娩の率は、76%であった。院内出生児で、最終的に NICU への入院が必要となった児は 300 名で、出生した児の 14%であった。

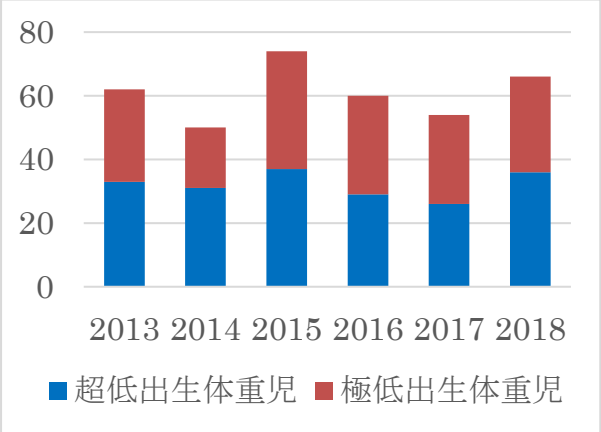
（図 1）NICU 総入院数の推移



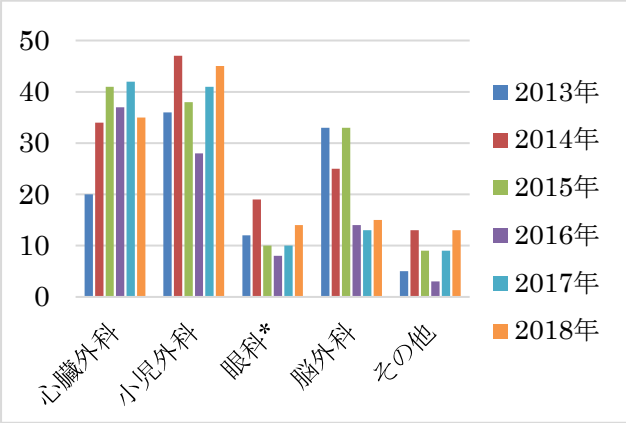
(図 2)在胎週数別 NICU 入院数(2018 年)



(図 3)超・極低出生体重児入院数の推移



(図 4)NICU 入院児の手術症例



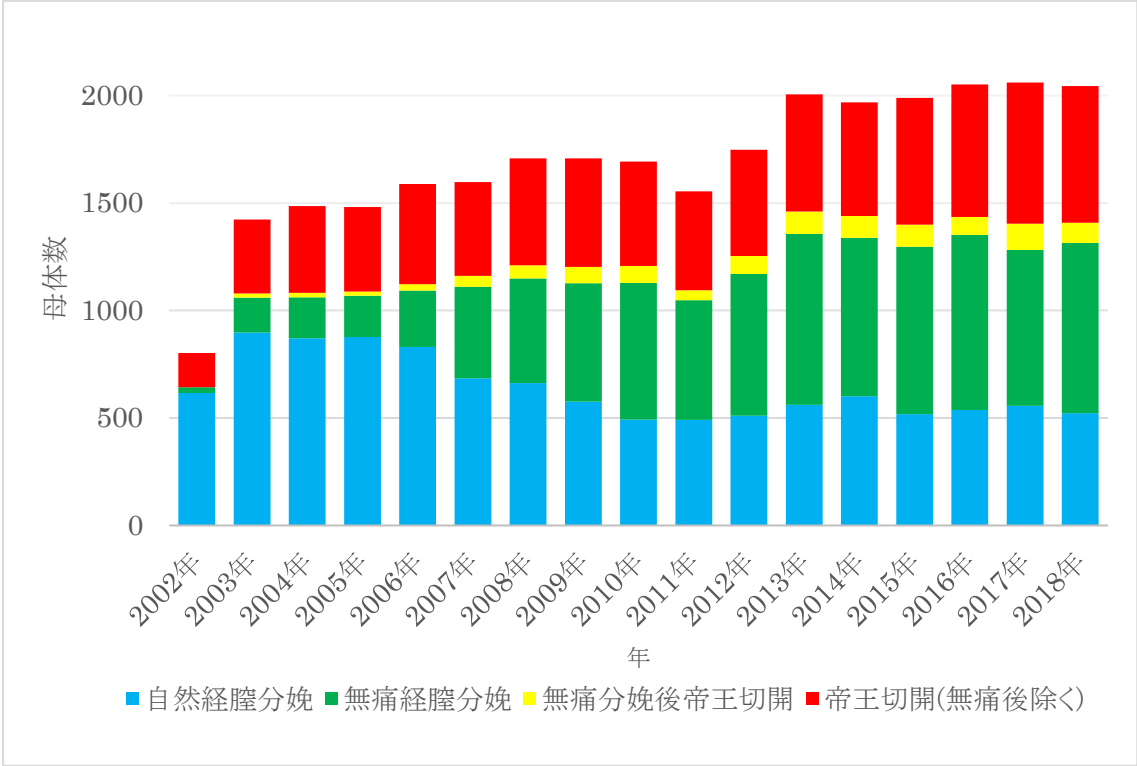
*眼科手術はレーザー治療を含まない。

3-3-11-6 産科麻酔科

1. 診療体制
2018 年の産科麻酔科の人員配置は、医員 3 名（佐藤、山下、久保）、フェロー2 名（井原、金山）、小児麻酔および産科からのローテーター2 名で業務に従事し、24 時間体制で成人麻酔および産科麻酔の業務に対応した。

2. 診療実績（帝王切開、無痛分娩）
2018 年（1 月 1 日～12 月 31 日）の分娩母体数は 2115 名（22 週以降 2045 名、22 週未満 70 名）であった。帝王切開の手術件数は 734 件（予定手術 425 件、緊急手術 309 件）であった。麻酔法は、脊椎麻酔 588 件、脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔 52 件、硬膜外麻酔 82 件、全身麻酔 16 件（区域麻酔からの全身麻酔の移行含む）だった。また、当科では 24 時間体制で自然陣発後の無痛分娩にも対応しており、妊婦がリクエストした時点で無痛分娩の導入を行っている。合計 933 名（22 週以降 886 名、22 週未満 47 名）の妊婦（全妊婦の 44%）に無痛分娩を実施し、そのうち無痛分娩中に帝王切開となった妊婦は 94 名（11%）であった。

(ア)



3. 胎児治療の麻酔
双胎間輸血症候群に対する胎盤血管レーザー凝固術は、母体に対しては脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔により十分な鎮痛を達成し、さらに少量のレミフェンタニルを持続投与することで胎児の不動化を達成している。2018 年の胎盤血管レーザー凝固術は 42 件であった。また、病棟手術室を使用し、レミフェンタニルを用いた胎児胸腔穿刺およびシャント術の麻酔管理を行った(のべ 10 件)。

4. その他の産科関連の麻酔
外回転術の麻酔管理は脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔により行っている。2017 年の外回転術の症例数は 34 件であった。

5. 成人手術の麻酔(産科以外)
子宮内容除去術は 79 例(不妊診療科以外)であった。その他、不妊診療科の手術 16 件の麻酔管理を担当した。

6. 周産期麻酔外来
周産期麻酔外来では、帝王切開が予定された妊婦や無痛分娩を希望する妊婦に加えて、ハイリスク妊婦の分娩前診察(スクリーニング)および成人手術を受ける患者の外来を行っている。2018 年の外来患者数は 1850 名であった。また、2015 年 7 月より無痛分娩を希望する妊婦に対し、助産師と共同で無痛分娩クラスを開設した(3 回/月)。2018 年の受講者数は 933 名であった。

3-3-11-7 母性内科

1. 診療

1.1 母性内科外来

1.1.1 外来患者数 1日平均 49.1人 延べ 12,124人

1.1.2 新患患者数 746人

(1)管理目的別初診状況

2018年1月～12月	総数	%
妊娠前	110	14.7
妊娠中	584	78.3
産褥期	52	7.0

(2)紹介理由

2018年1月～12月	総数	%
内科合併症(ｾｶﾝﾄﾞｵﾋﾟﾆｵﾝ含む)	415	65.3
妊娠合併症	175	27.5
偶発疾患	46	7.2

(3)依頼元

2018年1月～12月	総数	%
他院	132	26.7
産科・不妊診療科・胎児診療科	346	69.9
不妊診療科	6	1.2
その他診療科	5	1.0
紹介なし	6	1.2

(4)疾患別初診状況

2018年1月～12月	総数	%
膠原病、APS	73	9.4
内分泌・代謝	400	51.6
腎・高血圧	90	11.6
呼吸器・アレルギー	42	5.4
感染症・免疫	91	11.7
循環器疾患	16	2.1
消化器疾患	13	1.7
神経疾患	10	1.3
血液疾患	16	2.1
その他	24	3.1

1.1.3 特殊外来

(1)耐糖能評価(糖負荷試験)外来 657人

(2) ワクチン外来

妊娠中ワクチン接種人数:インフルエンザ 512人

産後ワクチン接種人数:MR 166人、麻疹 200人、風疹 185人

水痘 57人、ムンプス 505人

HPVワクチン2人、HBVワクチン 4人

1.2 妊娠前検診

「プレコンセプションケア・チェックプラン」検診 108人;プレコンセプション相談外来 59名

1.3 病棟

1.3.1 内科合併症を持った患者妊娠分娩例(合併症妊娠)の母性内科入院管理実績

延べ数 815 例(主たる疾患で算定)

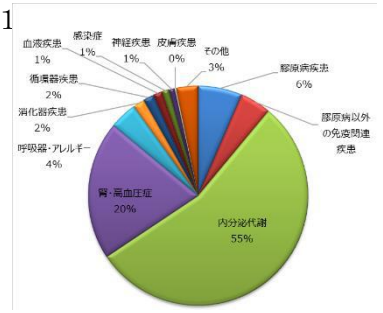
その内訳:図1 母性内科管理を行った内科合併症を持ったハイリスク妊娠分娩数入院

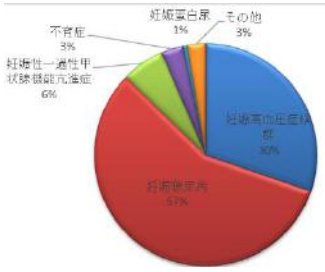
1.3.2 妊娠期の内科的合併症妊娠分娩例(妊娠合併症)の母性内科入院管理実績

延べ数 370 人(主たる疾患で算定)

その内訳:図2 母性内科管理を行った妊娠期の内科的合併症分娩入院数

図1





1.3.3 妊娠前の内科的疾患管理入院管理他実績

延べ数 8 人(その内訳:膠原病・抗リン脂質抗体症候群 3 人、高血圧症 3 人、内分泌・代謝性疾患 2 人)

2. 研究活動

・周産期母性診療センター他部署、内分泌代謝科、妊娠と薬情報センター、研究所(成育遺伝研究部、政策科学研究部、臨床疫学部)、関連学会(日本糖尿病・妊娠学会)などと協働し、公的研究費を得て研究活動を行い、成育医療分野での情報発信と政策提言を行った。(業績参照)(村島・荒田)

・主任もしくは分担研究者として以下の研究を遂行もしくは準備をした。(山口・久野)

- 新たな不妊・不育症治療薬の開発(医師主導治験を準備中)
- 新生児ヘモクロマトーシスの母体治療(医師主導治験を開始)
- 新たな HBV 母子感染予防方法の開発(医師主導臨床研究を継続中)
- 妊娠合併症の新たなバイオマーカーの開発(医師主導臨床研究を目標)
- 新たな免疫獲得評価方法の開発(医師主導臨床研究を目標)

3. 研修、評価

毎週金曜日に研究会、抄読会、カンファランスを行っている。また月 1 回金曜日に看護部、栄養科、薬剤部とともに妊娠糖尿病カンファランスを行っている。

4. 社会的活動

講演を中心に当該分野の広報を行った。母性内科に関する公開研究会などを通じて、母性内科の広報に努めた(業績参照)。プレコンセプションケアオープンセミナーを行いプレコンセプションケアの広報活動に力を入れた。

3-3-11-8 不妊診療科

概要・特色

外来診療は、予約制度を引き必要であれば土日を含めて連日施行されてきた。診療体制は、主治医制を採用して、一患者に対して一医師が継続して診療にあたるようにして、スムーズで連続性を持たせる診療を提供している。当科として提供する医療に同質性を高めるため、高度の不妊治療を提供するために、連日診療終了後にその日の診療の検討会を施行し、次回の診療に反映できる体制を整えている。

診療活動: 2018. 1. 1～2018. 12. 31

2018 年 1 月 1 日現在、勤務する医師は、前年に引き続き増減なく常勤医2名、非常勤医2名の合計4名が診療にあたっており、培養士は2名が勤務している。4 月の異動で一部の異動(入れ替わり)はあったが、診療に関わる医師数は変化なく診療が行われた。

治療実績

初診患者数

年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
患者数	461	436	496	384	369	247	353	412

2016 年に患者数 247 名と減少が見られたが、2017 年 353 名、2018 年 412 名増加傾向を見せている。子宮卵管造影検査は、108 症例施行されている。子宮鏡検査は、39 例であった。

手術は 17件施行され、開腹手術はなく、腹腔鏡下手術:7件(付属器癒着剥離術:5件、内膜症病巣除去術:1件、筋腫核出術:1件)子宮鏡下手術:6件(子宮内膜ポリープ切除術:6 件)、子宮内容除去術:2件、流産手術:2件であった。

配偶者間人工授精数

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
年	663	787	637	613	726	800	515	525

2017 年に 515 症例と減少がみられたが、2018 年は微増の 525 症例と減少は見られない。

全般的な流れとして、早期のステップアップとして生殖補助医療への移行が早まっている傾向にある。

生殖補助医療治療実績

年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018

採卵 件数	180	128	130	133	148	124	128	164	118	151
妊娠数	22	10	11	8	6	6	6	5	3	3
融解胚 移植数	100	83	77	151	136	142	137	166	211	215
融解胚 妊娠数	27	24	16	20	27	34	25	39	46	48

本年の採卵数は 151 症例と増加し、融解胚移植数も微増ではあるが、昨年を超え 215 症例とこれまでの最多症例数となっている。

治療症例は高齢化が認められ、今後もこの傾向は続くと考えられ、体外受精、顕微授精・凍結融解胚移植といった生殖補助医療を用いた治療でも妊娠成立を達成できない難治性の症例が多数みられてくると推測される。

研究・啓発活動

体外受精、採卵時における卵胞液や顆粒膜細胞を用いて、採取卵に対して非侵襲的な評価法の確立することを目的として、持続的な研究を実行中である。また、加齢に伴う妊孕性の低下に伴い、妊娠率の低下、不妊治療の困難さを広く知ってもらう啓発活動も続行中である。

3-3-12　臓器移植センター
3-3-12-1　肝臓移植科
3-3-12-2　腎臓移植科
3-3-12-3　小腸移植科
3-3-12-4　移植外科
3-3-12-5　移植病理科
3-3-12-6　移植支援室

当センターでは肝移植を 2005 年より開始し，2018 年末までに肝細胞移植を含め 543 例の肝移植治療と，2018 年には脳死小腸移植を 2 例に行いました．2018 年には生体肝移植 46 例，生体ドミノ肝移植 1 例，脳死肝移植 3 例，生体腎移植を 7 例を行いました（図 1）．肝移植適応疾患の内訳は図 2 のとおりです。肝移植手術手技として、2014 年 6 月より導入された生体ドミノ肝移植数は計 5 例、また、脳死肝移植 30 例の内、分割肝移植は 2018 年末までに計 17 例施行いたしました。当センターにおける肝移植後の患者生存率は 1 年 93.8%，3 年 92.2%，5 年 91.2%，10 年　90.1%と良好な治療成績でした（図 3）．

図 1　肝臓移植・肝細胞移植・小腸移植・腎移植数の年次推移

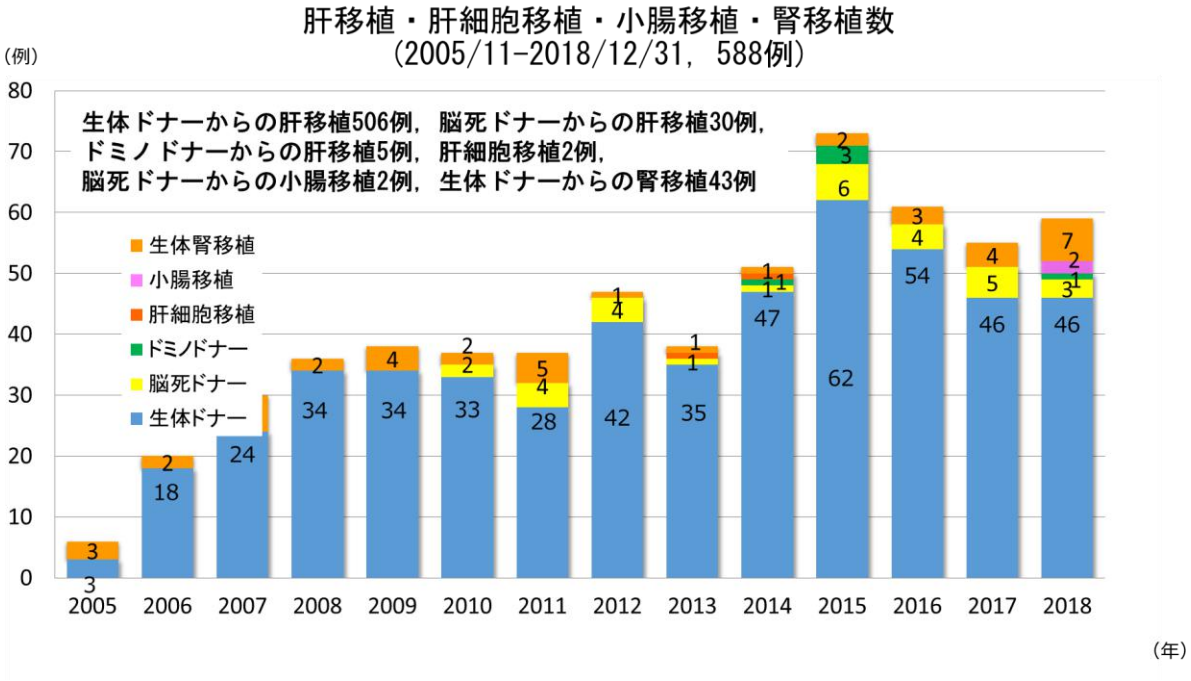


図 2　　肝移植適応疾患

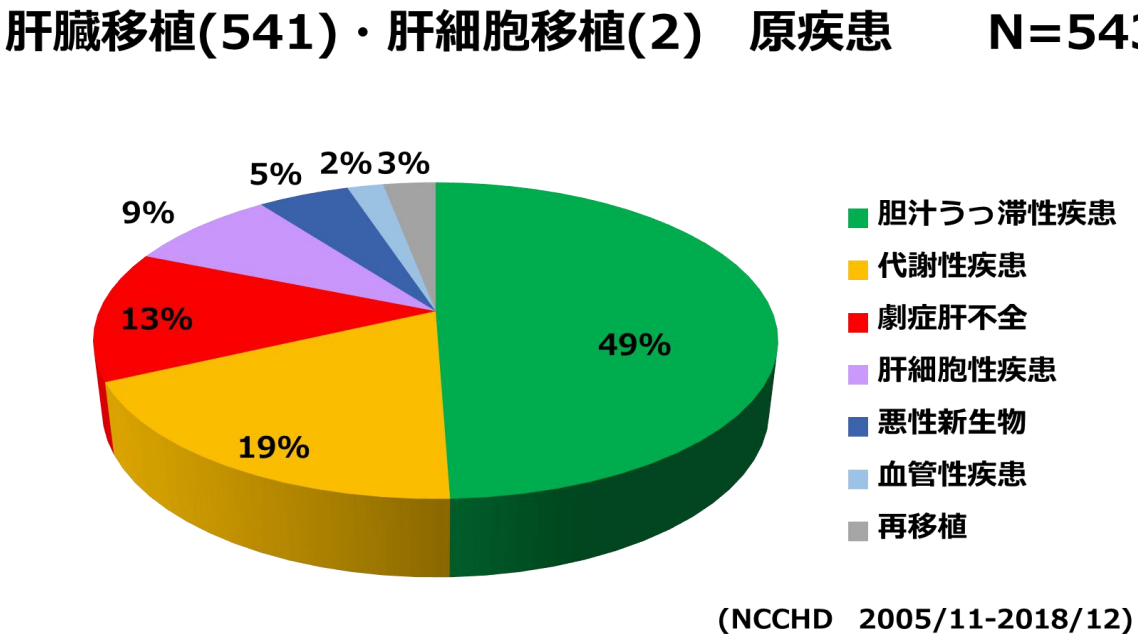
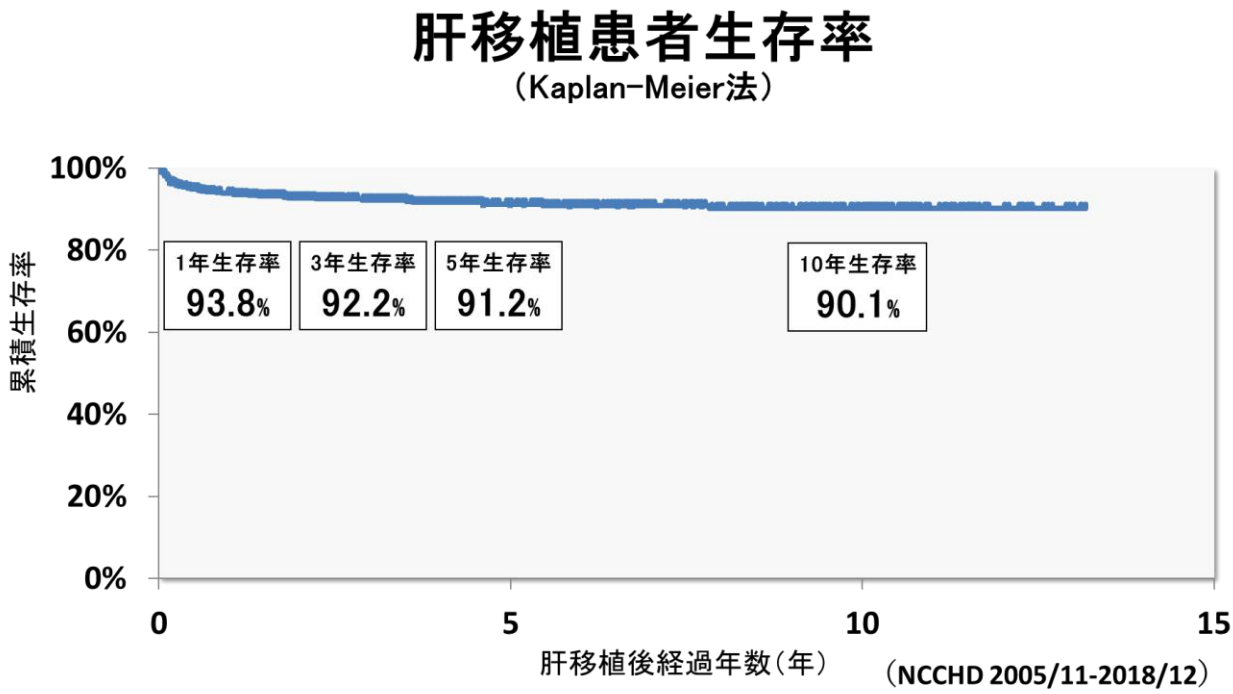

肝臓移植(541)・肝細胞移植(2)　原疾患　　N=543
49%
19%
13%
9%
5%
2%
3%
胆汁うっ滞性疾患
代謝性疾患
劇症肝不全
肝細胞性疾患
悪性新生物
血管性疾患
再移植
(NCCHD　2005/11-2018/12)

図 3　　肝移植患者生存率(Kaplan-Meier 法)



3-3-13 放射線診療部

3-3-13-1 放射線診断科

1. 概要および特色

1.1 24 時間放射線診療業務

放射線診断科の最重要目標は、患者さんならびに臨床医に役立つ画像診断情報の提供とし、ほとんど全ての画像診断(心臓超音波、心臓 MRI、心臓カテーテル検査、産婦人科超音波、歯科の単純 X 線撮影を除く)に対して放射線科医が責任を持って読影報告書を作成している。夜間休日も超音波検査、単純 X 線撮影、X 線透視検査、および CT 検査に当直体制で常時対応し、リアルタイムに救急診療をサポートしている。また、各診療科と定期的にカンファレンスを行い、画像診断に関して各診療科からフィードバックが行える体制をとっている。

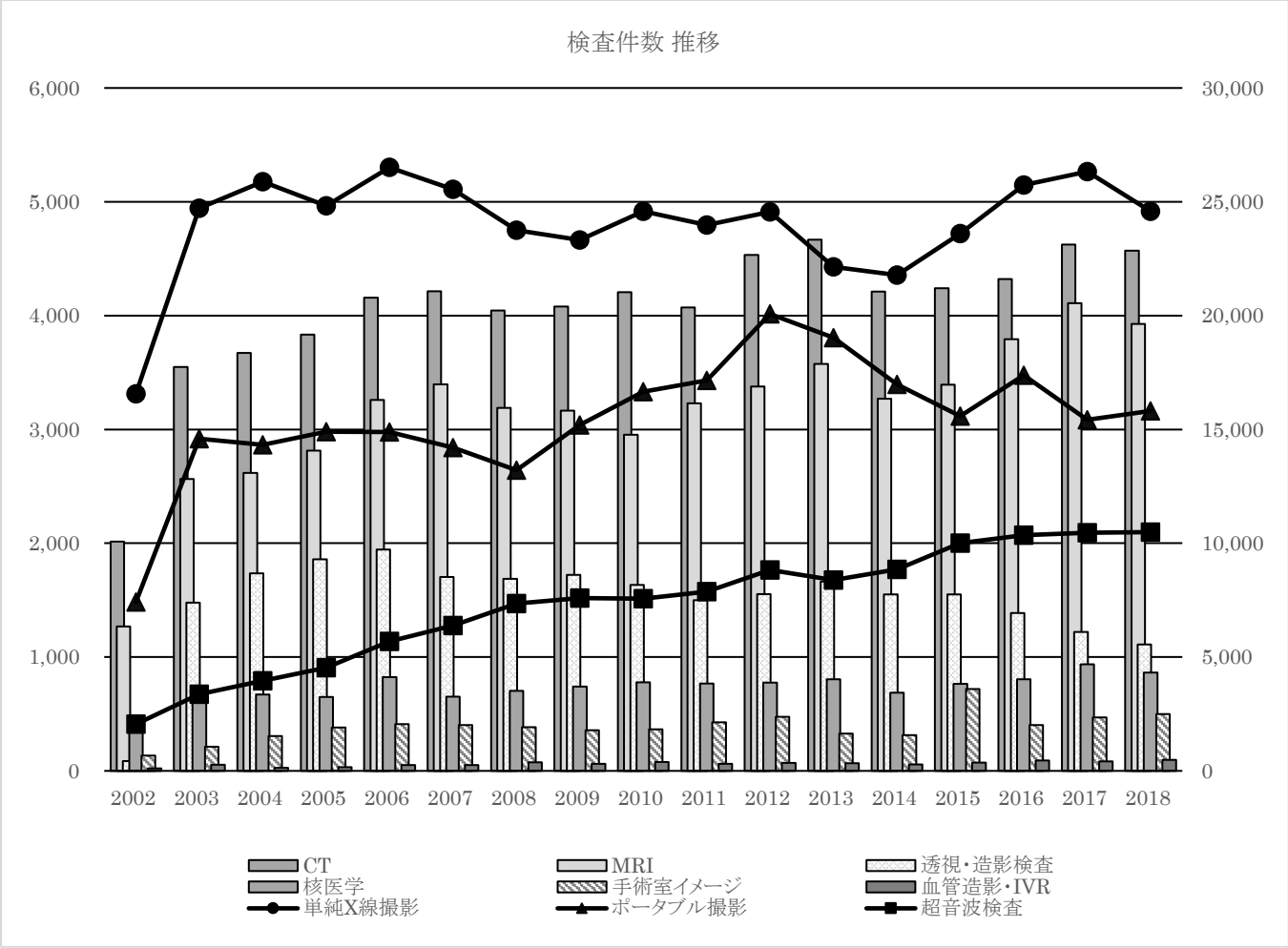
2. 診療活動、研究活動、研修活動など

2.1 放射線診断

各種画像診断は、放射線科診断医(状況に応じ診療科担当医と協同で)が診療放射線技師(超音波検査の一部は臨床検査技師)とともに行っている。平成 30 年(2018 年)は、スタッフ(放射線診断専門医)7 名、レジデント 3 名の体制である。表 1 に放射線検査件数の推移を示す。平成 30 年(2018 年)の総検査件数は 61,961 件である。

平日は業務の終了後、スタッフとレジデントによる画像レビューを行い、情報の共有化を図るとともに教育にも役立てている。小児インターベンショナルラジオロジー(IVR)の認知度が高まった現在は、先天性脳血管奇形の脳血管内治療、小児肝移植に関連した経カテーテル的治療を、関係診療科と協同で行っている。

検査件数 推移	2018
単純 X 線撮影	24,589
ポータブル撮影	15,811
超音波検査	10,489
CT	4,572
MRI	3,927
透視・造影検査	1,111
核医学	864
手術室イメージ	500
血管造影・IVR	98
合計	61,961


検査件数 推移
6,000
5,000
4,000
3,000
2,000
1,000
0
30,000
25,000
20,000
15,000
10,000
5,000
0
2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
CT
MRI
透視・造影検査
核医学
手術室イメージ
血管造影・IVR
単純X線撮影
ポータブル撮影
超音波検査

2.2 核医学診断

表 2. 平成 27 年核医学検査内訳

核医学診断業務は放射線診断業務の一部と考えている。

平成 30 年(2018 年)は 26 種類の検査を合計 864 件施行した(表 2)。年間検査件数は、ここ 5 年間は 700～900 件で推移している。上位 5 部位(泌尿器、脳、呼吸器、消化器、腫瘍・炎症)で約 90%を占める。

成人領域の病院において年少児への検査では眠剤投与で鎮静が行われるが、当センターでは脳や心臓の SPECT 検査を除いて、患児に好きなアニメーションを持参してもらい液晶モニターで見せることにより、できるだけ鎮静なしで検査を行うようにしている。

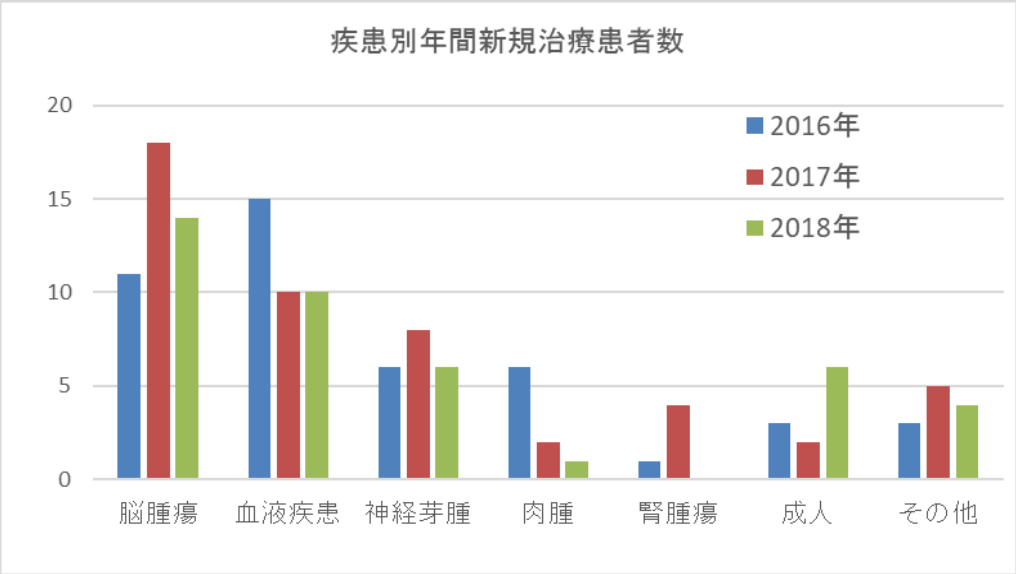
小児核医学検査については、以前より小児の体格に合わせた投与量で検査を行ってきたが、2013 年後半に日本核医学会より小児核医学検査投与量ガイドラインが公表されたので、これを参考にして検査を行っている。

表 2 2018 核医学検査

部位	検査	件数
泌尿器	腎形態(DMSA)	250
	腎動態(MAG3)	34
脳	脳血流(ECD)	158
	脳血流薬剤負荷(ECD)	75
	脳 DAT scan	7
	脳槽(In-DTPA)	6
	脳神経受容体(IMZ)	3
呼吸器	肺血流(MAA)	91
	肺換気(Kr)	8
腫瘍・炎症	腫瘍(MIBG)	86
	Ga	11
消化器	肝胆道(PMT)	68
	蛋白漏出	3
	メッケル憩室	2
	肝受容体(GSA)	1
	胃排泄	
骨	骨	33
内分泌	甲状腺(I)	11
	副甲状腺(MIBI)	1
	甲状腺(Tc)	1
	唾液腺機能(Tc)	
循環器	心筋血流(TF)	9
	心筋脂肪酸(BMIPP)	
その他	リンパ管(HSA)	3
	門脈循環	2
	リンパ管(BMIPP)	1
	合計	864

3-3-13-2 放射線治療科

小児がんには白血病、リンパ腫、脳腫瘍、神経芽腫、骨軟部肉腫などがありますが、成人のがんに比べると稀な病気です。本邦では年間 500 人程度の小児がん患者が放射線治療をうけていると考えられていますが、これは本邦で放射線治療を受ける患者全体の 0.5%にすぎません。このため一人の放射線治療医が、小児がんの患者さんの治療を行う機会が少なく、小児がんに関する専門的な知識を持つ放射線治療医も多くありません。放射線治療科では小児専門病院としての診療実績と、最新の小児がん治療に関する情報を踏まえて、専門性の高い放射線治療を提供しています。当センターでは子どもたちが治療を受け入れやすい環境を整備し、子ども特有の放射線治療技術を用いて、がんの子どもたちができるだけ快適に放射線治療を受けられるようにしています。また当センターの放射線治療科では、稀な病状に対する治療方針について情報交換をしたり、特殊な技術が必要な患者さんを相互に紹介するなど、他の施設の放射線治療医との連携も積極的に行っています。



国立成育医療研究センターで1年間に放射線治療を受ける新規患者数は約 40 人で、そうちおよそ 8 割は、脳腫瘍やその他の固形腫瘍の患者さんです。

国立成育研究センターの放射線治療の特性
放射線治療では治療中動かないこと、室内に一人でいることが求められます。このようなことは、子どもにとって容易ではありません。チャイルドライフスペシャリストによる治療の練習などの心理的プレパレーションは放射線治療の受け入れをよくするのに役立ちます。国立成育医療研究センターでは、10 歳未満の子どもたちの約 5 割に心理的プレパレーションを行い、3歳未満でも、麻酔や鎮静なしで放射線治療を行っています。また全体の 1 割程度の患者さんでは麻酔下の照射が行われます。麻酔科専門医による麻酔により、安全で正確な放射線治療が行われています。

全身照射
小児の悪性腫瘍の中で最も多いのが白血病です。全身照射は、造血幹細胞の移植に先立って血液細胞や悪性の細胞を死滅させる前処置として行われます。当センターでは抗がん剤による移植前処置が困難な場合などを中心に年間5-10 人の全身照射を行っています。最近では悪性腫瘍以外の疾患に対する移植前処置として、少ない線量の全身照射も数多く行っています。

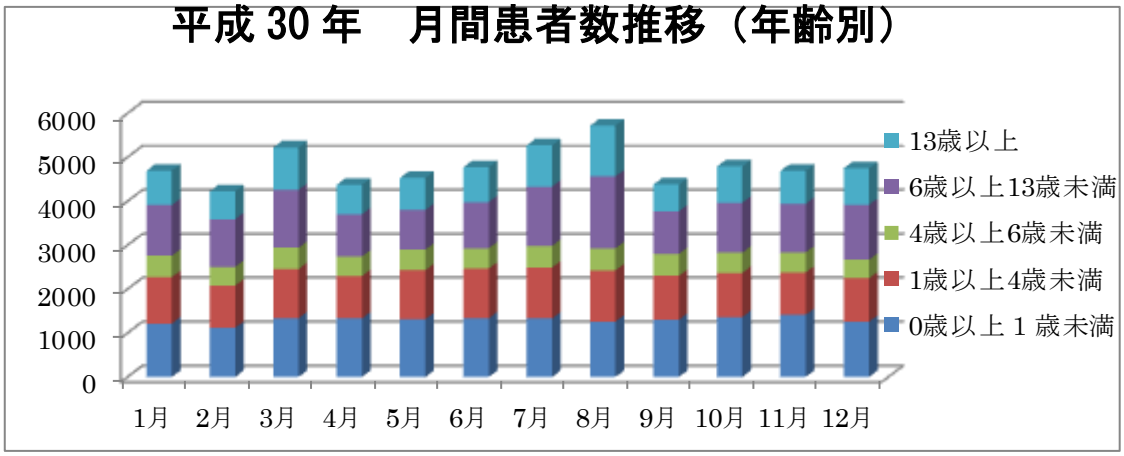
脳腫瘍や固形腫瘍の治療
当センターで 1 年間に脳腫瘍やその他の固形腫瘍に対する放射線治療を実施する患者さんは、約 30 人です。小児の脳腫瘍もその他の固形腫瘍も、手術と放射線治療、手術と抗がん剤治療と放射線治療の組み合わせを適切に行うことが重要です。また手術後や診断後に遅れることなく治療を開始すること

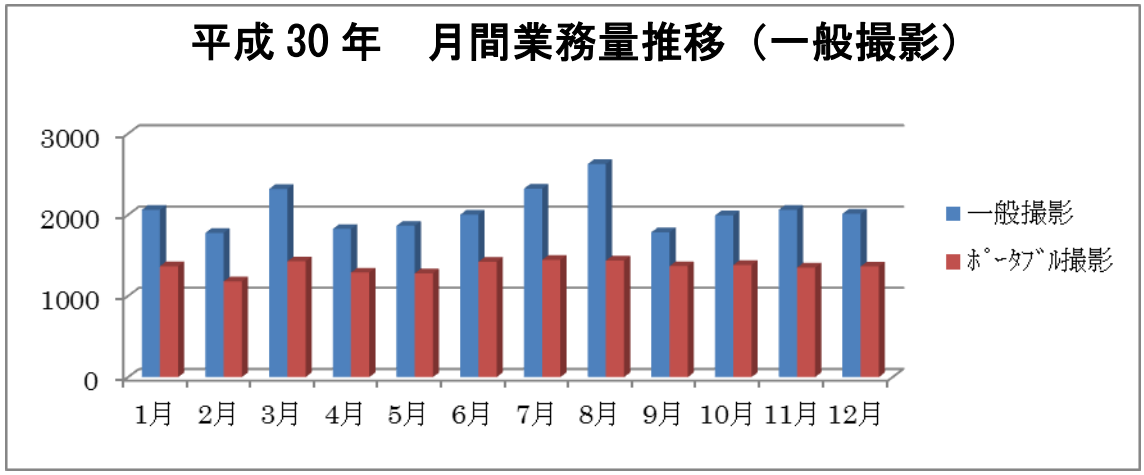
も重要です。当センターでは腫瘍内科医、外科医、放射線診断医、病理医などとカンファレンスを通じて、情報を共有し、速やかに適切な放射線治療を実施する体制をとっています。

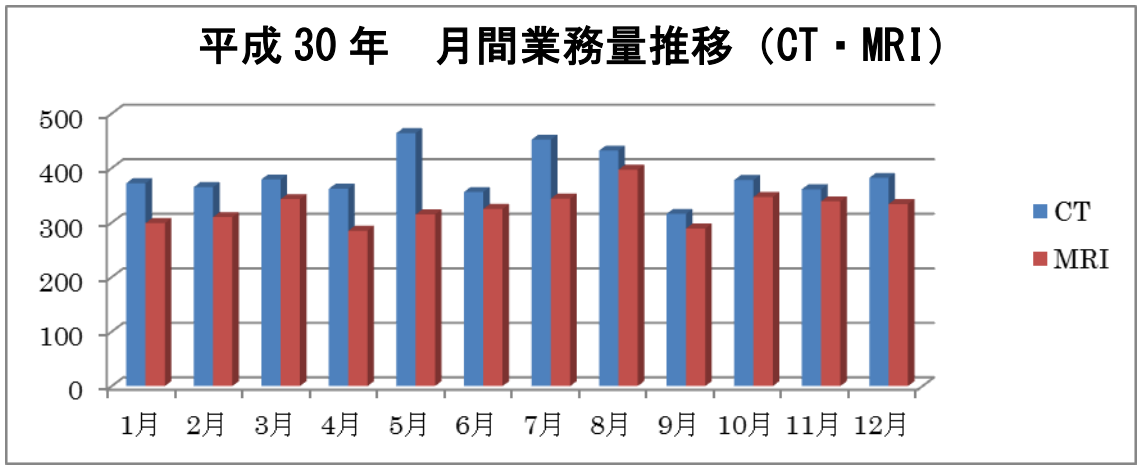
緩和的治療や緊急的治療
難治の小児がんにとって QOL を維持する治療法が選択できることはとても重要です。小児がんの患者さんでは、家庭や学校生活を維持しながら行う緩和的治療として、放射線治療が有効な場合があります。このような治療は画一的なものではないので、患者さんやご家族と相談しながら、柔軟に治療方針を検討します。

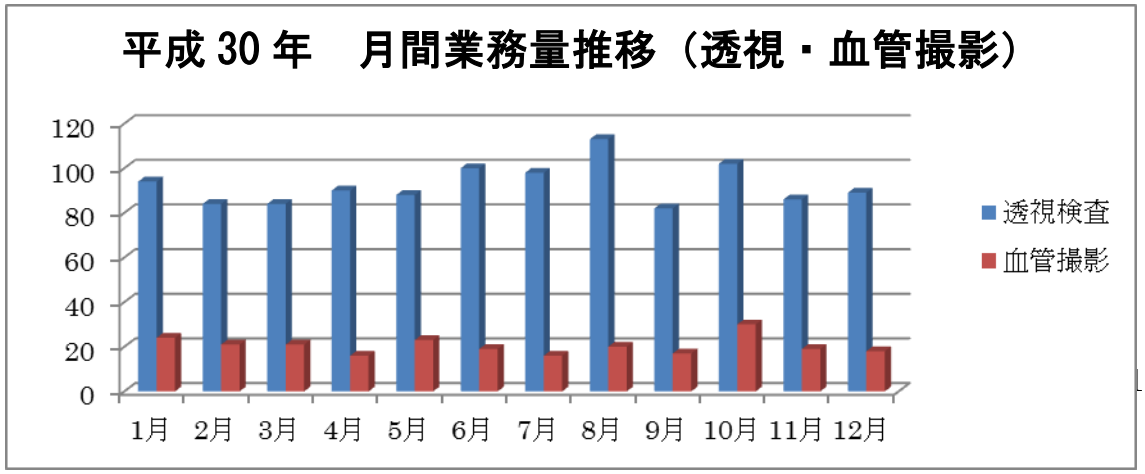
成人の放射線治療
子どもたちが快適に放射線治療をうけるための技術を活用するとともに、治療装置の効率的な運用や地域の医療への貢献のために、当センターでは成人のがん患者の放射線治療も実施しています。当センターでの放射線治療を希望される方は、担当医を通じて、放射線治療科にご相談ください。担当医と当センターの放射線治療医とが連携して、診療します。

3-3-13-3　　診療放射線技師









3-3-14 臨床検査部

1.診療科活動

臨床検査部は、生理検査室、検体検査室、高度先進検査室、細菌検査室、輸血細胞療法室、採血室から構成されている。入院および外来患者に必要な臨床検査を提供している。

2.研究活動

本年は臨床研究中核病院の要件である検査室の国際規格 ISO 15189 認定を維持継続し、臨床側に質の高い検査結果を提供していく。

3-3-14-1 生理検査室

1.概要

生理検査は、循環器系に関するものとして(心電図・ホルター心電図・トレッドミル検査・他)、神経器系(脳波・誘発検査・他)、耳鼻科系(標準純音検査・補聴器検査・他)、呼吸器系(肺活量・精密肺機能・他)をおこない、超音波を使用するものとして(腹部・産科・心臓・体表領域、骨密度検査)を行っている。診療の補助として心臓カテーテル検査、脳神経外科術中の神経機能検査を行っている。

2.稼働状況

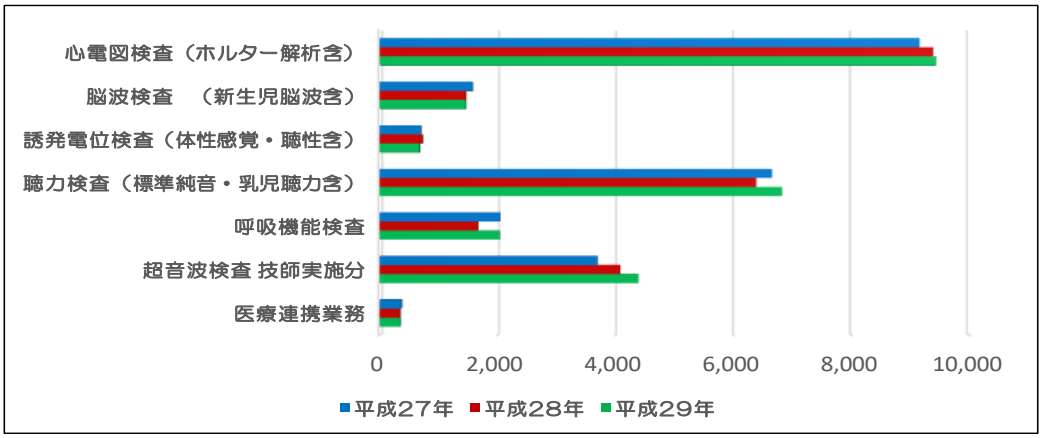
生理検査件数は心電図、脳波、呼吸機能検査、聴力検査等は昨年と比較し、全体で 7.6%増となった。内訳は循環器系 0.6%増、神経器系、脳波 13.7%増、誘発 6.4%減、耳鼻科系、標準純音検査・補聴器検査・他 6.8%増、呼吸科系 22.2%増となった。脳波検査、呼吸機能検査は年々減少傾向が続いていたが、今年は増加に転じた。ビデオ脳波検査と外来至急呼吸機能検査によるものと考えられる。

診療の補助(チーム医療)では、心臓カテーテル検査はほぼ横ばいであったが、脳神経外科術中モニタリングは前年度と比べ 6.5%増加した。超音波検査では技師実施分(腹部・体表領域)毎年増加傾向で今年も 7.6%増加した。

今後は心臓超音波検査を循環器科・総合診療部の指導のもと取り入れ、増加傾向にある耳鼻科検査は更に自記オージオメトリ検査項目を増やし、幅広い検査に対応していきたい。

生理検査業務統計

	平成27年	平成28年	平成29年	前年比(%)
心電図検査 (ホルター解析含)	9,155	9,384	9,439	100.6%
脳波検査 (新生児脳波含)	1,567	1,453	1,638	112.7%
誘発電位検査 (体性感覚・聴性含)	691	716	670	93.6%
聴力検査 (標準純音・乳児聴力含)	6,654	6,388	6,824	106.8%
呼吸機能検査	2,033	1,658	2,026	122.2%
合 計	20,100	19,599	20,860	106.4%
超音波検査 技師実施分	3,693	4,077	4,387	107.6%
医療連携業務	362	335	338	100.9%



3-3-14-2 検体検査室(院内ラボ)

1.概要

一般検査、免疫血清検査、生化学検査および血液検査を 20 名、日直当直業務は 2 名体制で実施している。また、採血室受付に1名のスタッフを配属している。検査室はワンフロアー化され、検査結果は部門システムを介し電子カルテに報告している。検査件数は、年々増加傾向を示している。H29 年のテスト数は対前年比＋11.5%で全体的に増加しており、移植関連検査を初めとする免疫系の件数増加が著明であった。

2.精度管理体制

精度管理は精度管理責任者を配し、月一回精度管理委員会を設け万全な精度管理体制を構築している。外部精度管理は日本医師会臨床検査精度管理調査、日本臨床検査技師会精度管理調査、東京都臨床検査技師会精度管理調査の3団体に参加し、精度の保持に努めている。

医療安全対策に関しては、所定の委員会を設け過誤防止活動を行っている。また、発生したインシデントに対しては速やかに原因究明と是正処置を行い再発防止に努めている。

3.検査結果報告体制

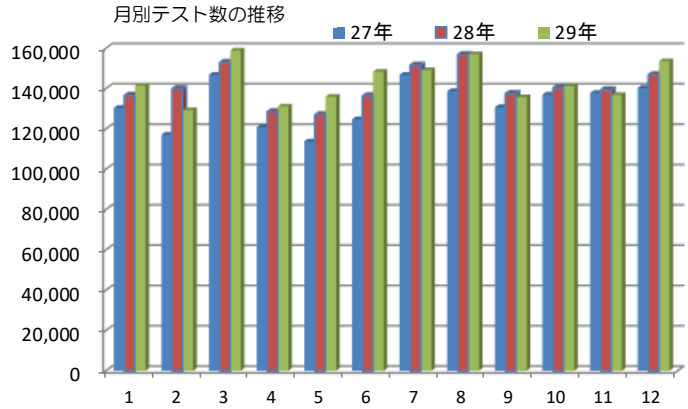
検査結果の報告は、検査項目毎に報告時間を設定し迅速に報告している。なお、報告設定時間は検体が検査室に届いてからの時間設定とし概ね 1 時間以内に報告をしており、異常値・パニック値は、提出医に直接連絡するなど迅速な対応を行っている。また、RFID(検体情報統括管理システム)導入していることから、リアルタイムで検体容器の状況確認を行っている。更に白血病・リンパ腫カンファレンスにおける骨髄像による診断のためのディスカッションに参加し、技術・知識の向上に努めている。

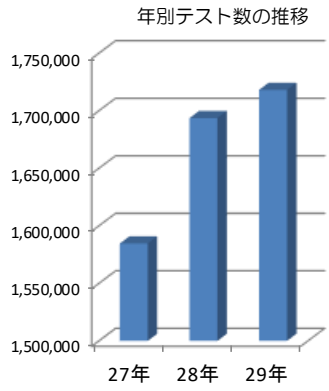
4.平成 29 年トピックス

国際規格である ISO 15189 認定取得後の定期サーベイランス更新を目指すべく活動した。また、3 月までに機器の更新を順次行った。3月に日本臨床検査技師会の精度保証認証を取得した。

患者検体の月別テスト数（3ヶ年）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
27年	130,341	117,068	146,849	120,777	113,756	124,727	146,760	138,652	130,763	136,955	137,770	140,228	1,584,646
28年	136,595	139,917	152,910	128,485	126,956	136,382	151,592	156,785	137,487	140,321	139,389	146,796	1,693,615
29年	141,395	129,269	158,851	131,096	135,891	148,324	149,140	156,994	135,716	141,161	136,786	153,558	1,718,181





3-3-14-3 高度先進検査室

1.概要

高度・先進検査室は、成育医療を推進するために必要な高度先進的・先駆的な臨床検査サービスを提供すべく設立された部門である。先天代謝異常症や先天異常症候群の確定診断を目的とした遺伝学的検査(酵素活性測定、遺伝子検査など)やろ紙微量血液検体を用いた先天代謝異常症(ライソゾーム病)のスクリーニング検査、院内や他施設で出生した新生児を対象としたポンペ病新生児スクリーニング検査などを実施している。

2.本年度の実績

2.1 遺伝子解析

平成 30 年には、ムコ多糖症 I 型・II 型・IVA 型、ファブリー病、ポンペ病、ゴーシェ病、GM1 ガングリオシドーシス、テイサックス病、ニーマンピック病 C 型、ムコリピドーシス、ライソゾーム酸性リパーゼ欠損症、ガラクトシアリドーシス、低ホスファターゼ症、オルニチントランスカルバミラーゼ欠損症、カルバミンリン酸合成酵素欠損症、メチルマロン酸血症、プロピオン酸血症、G6PD 欠損症、軟骨無形成症、ジュベール症候群、先天性水頭症、道化師様魚鱗癬、ウィルソン病などを対象として遺伝子解析を計 160 件実施し、これらの疾患の確定診断や保因者診断などを行った。なお遺伝子検査・染色体検査を実施する場合は、国立成育医療研究センター病院遺伝子検査実施要領に従い、倫理面への配慮と遺伝子関連の個人情報の保護に努めている。

2.2 ポンペ病新生児マススクリーニング

平成23年1月からライソゾーム病センターと周産期診療部門と連携して、当センターの新生児を対象としたポンペ病新生児マススクリーニング検査を開始し、平成 30 年には 1646 名の新生児のポンペ病スクリーニング検査を行った。

2.3 ポンペ病・ファブリー病・ライソゾーム酸性リパーゼ欠損症ハイリスクスクリーニング

ポンペ病、ファブリー病を対象としたハイリスクスクリーニングを平成 23 年度より実施しており、平成 30 年には 685 件のポンペ病、739 件のファブリー病ハイリスクスクリーニング検査を実施した。また平成 26 年 12 月から、ライソゾーム酸性リパーゼ欠損症のハイリスクスクリーニングも開始し、平成 30 年は 335 件の検査を実施した。

	H23 年	H24 年	H25 年	H26 年	H27 年	H28 年	H29 年	H30 年
遺伝子検査	117	140	165	200	123	105	155	160
ポンペ病新生児マススクリーニング(成育内)	1126	1323	1563	1603	1616	1694	1678	1646
ポンペ病新生児マススクリーニング(他院)					543	1042	653	173
ポンペ病ハイリスクスクリーニング	98	202	288	540	585	466	459	685
ファブリー病ハイリスクスクリーニング	11	13	206	831	1109	861	728	739
ライソゾーム酸性リパーゼ欠損症ハイリスクスクリーニング				11	554	499	762	335

3-3-14-4 細菌検査室

1.概要

細菌検査業務は、顕微鏡検査・培養同定検査・薬剤感受性検査・血液培養検査・抗酸菌検査を

実施している。二交替制勤務の導入により夜間・休日でも必要な検体処理を随時行なう体制をとっている。また、血液培養検査では自動機器導入により24時間監視体制がとられており、培養陽性時は速やかに診療側へ報告している。

また、細菌検査室は院内感染防止のための情報発信の拠点であり、感染症発生状況の掌握，院内感染の防止という重要な任務を担っている。そのため細菌検査室ではICTへ参画し、各種サーベイランス情報の発信、院内環境検査及び環境ラウンド、院内感染対策講習会などを行いその活動を通じて院内環境の保全に努めている。本年も地域連携活動のために、加算Ⅰ施設同士の相互ラウンドや加算Ⅱ施設との年4回のカンファレンスが開催され様々な情報交換が行われた。

当検査室は室長（ICD）1名、主任技師（ICMT）1名、臨床検査技師 3名で構成されており、認定臨床微生物検査技師制度研修施設として常時スキルアップに取り組んでいる。

遺伝子検査では百日咳検査が保険収載されたのに伴い今まで研究検査として実施していたLAMP法（百日咳、マイコプラズマ、結核、レジオネラ）をルーチン検査として開始した。さらに院内感染の疫学的な情報寄与を目的としてPOT法での解析も開始した。感染症のより迅速な診断に貢献している。

また、臨床検査室の国際規格であるISO15189を継続維持することにより、質の高い検査の提供に努めている。

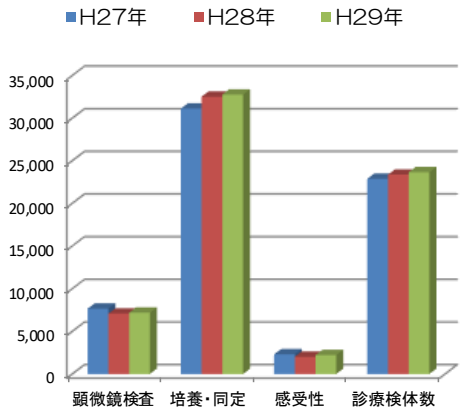
2.稼動状況

当検査室は平成 22 年に細菌検査実施規定（検査の適正化）を作成し、これに基づく運用を開始している。この規定の効果と新システム導入により無駄な検査が省かれ効率的に業務が実施されている。平成 29 年は各遺伝子検査導入により検体コストの上昇がみられたが、細菌検査として必要な検査と考えている。

また、感染管理上重要な院内環境培養やスクリーニング培養検査は平成 29 年で 732 件実施しており、細菌検査が担う責務を果たすために積極的な取り組みを行っている。

年別検査件数の推移

項　目	H27年	H28年	H29年	前年比
グラム染色	7,593	7,003	7,112	101.6%
抗酸性染色	73	84	77	91.7%
顕微鏡検査　計	7,666	7,087	7,189	101.4%
呼吸器	2,882	3,162	3,055	96.6%
消化器	1,445	1,450	1,610	111.0%
泌尿器・生殖器	5,586	5,576	5,632	101.0%
血液・穿刺液	9,572	9,692	9,707	100.2%
その他	3,358	3,407	3,571	104.8%
嫌気培養	8,041	8,991	8,945	99.5%
抗酸菌培養	79	81	74	91.4%
結核菌PCR	43	38	42	110.5%
ｱﾋﾞｳﾑ・ｲﾝﾄﾗｾﾙﾗｰPCR	31	27	37	137.0%
大腸菌抗原同定検査	6	4	15	375.0%
LAMP法	50	55	50	90.9%
トキシン検査	22	35	30	85.7%
培養・同定　計	31,115	32,518	32,768	100.8%
感受性１菌種	1,613	1,405	1,538	109.5%
感受性２菌種	218	214	235	109.8%
感受性３菌種	73	56	64	114.3%
酵母様真菌薬剤感受性	46	24	22	91.7%
感受性　計	2,314	2,025	2,222	109.7%
診療合計	41,095	41,630	42,179	101.3%
診療検体数	22,900	23,377	23,660	101.2%
環境検査等	1,074	731	732	100.1%
総検体数	23,974	24,108	24,392	101.2%
試薬購入額　(円)	10,875,648	10,546,898	11,986,660	113.7%
1検体コスト（円）	454	437	491	112.3%



	H27年	H28年	H29年
顕微鏡検査	7,666	7,087	7,189
培養・同定	31,115	32,518	32,768
感受性	2,314	2,025	2,222
診療検体数	22,900	23,377	23,660

3-3-14-5 輸血細胞療法室

1.概要

輸血細胞療法室では、検査技師 2 名、夜間休日は当直者 1 名が対応し、血液型検査や不規則抗体検査などの輸血関連検査業務や輸血用血液製剤の管理業務を 24 時間体制で行っている。その他日勤帯では、新生児輸血用製剤の分割、貯血式自己血の管理、移植用造血幹細胞の管理等も行っている。

毎月開催される輸血療法委員会では適正な輸血療法を推進するための審議をしており、平成 29 年度は、ヒト幹細胞製品(テムセル HS 注)の運用開始、産科大量出血への緊急対応「産科レベル 1」の運用を構築した。その他、廃棄血削減や輸血後感染症検査の実施率向上、患者照合採血の徹底などに取り組んでいる。

2.稼働状況

血液型検査(ABO 型、RhD 型)、不規則抗体スクリーニング、直接・間接クームス試験、成人同型クームス試験(ABO 不適合妊娠時の IgG 性抗 A、抗 B の検出)は 24 時間体制で検査を実施。また、日勤帯では不規則抗体同定および抗体価測定、抗 A・抗 B 抗体価測定(幹細胞移植時・固形臓器移植時)、亜型検査等も行っており、平成 29 年の検査総数は 15,707 件であり、平成 28 年よりやや減少した。

3. 輸血用血液製剤の使用状況

平成 29 年の製剤使用量は、赤血球製剤 3,632 単位、血漿製剤 2,669 単位、血小板製剤 17,724 単位であり、購入金額は 196,971,963 円、廃棄金額は 748,614 円であった。各製剤の使用量は昨年に比べ微増であった。

1.輸血に係る検査(血型・交差試験・不規則)

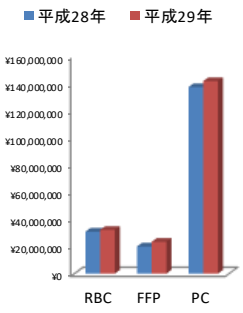
年度	平成28年	平成29年	前年比(%)
件数	16,646	15,707	94.4%

2.製剤管理状況

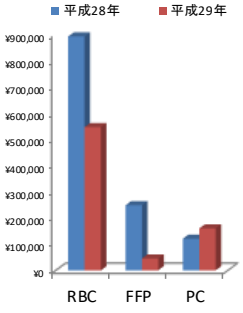
		製剤名	平成28年	平成29年	前年比(%)
輸血製剤	購入数 単位数	RBC	3,566	3,705	103.9%
		FFP	2,364	2,729	115.4%
		PC	17,165	17,734	103.3%
		合　計	23095	24168	104.6%
	購入金額	RBC	¥30,898,759	¥32,147,438	104.0%
		FFP	¥19,938,822	¥23,353,482	117.1%
		PC	¥137,089,854	¥141,471,043	103.2%
		合　計	¥187,927,435	¥196,971,963	104.8%
	使用数 単位数	RBC	3,386	3,632	107.3%
		FFP	2,312	2,669	115.4%
		Ir−PC	16,866	17,724	105.1%
		合　計	22564	24025	106.5%
	使用金額	RBC	¥29,356,101	¥31,506,842	107.3%
		FFP	¥19,477,177	¥22,952,854	117.8%
		PC	¥136,422,541	¥141,455,490	103.7%
		合　計	¥185,255,819	¥195,915,186	105.8%
	廃棄数 単位数	RBC	99	62	62.6%
		FFP	29	5	17.2%
		Ir−PC	15	20	133.3%
		合　計	143	87	60.8%
	廃棄金額	RBC	¥889,338	¥544,484	61.2%
		FFP	¥247,510	¥44,777	18.1%
		PC	¥119,975	¥159,353	132.8%
		合　計	¥1,256,823	¥748,614	59.6%
自己血		貯血単位数	447	623	139.4%
		使用単位数	157	183	116.6%
		廃棄単位数	282	463	164.2%

		製剤名	平成28年	平成29年	前年比(%)
分画製剤	使用本数	25%アルブミン50ml	2,144	2,619	122.2%
		5%アルブミン100ml	446	380	85.2%
		5%アルブミン250ml	282	261	92.6%
	単位数	25%アルブミン50ml	8,933	10,913	122.2%
		5%アルブミン100ml	743	633	85.2%
		5%アルブミン250ml	1,175	1,088	92.6%
	使用金額	25%アルブミン50ml	¥15,910,624	¥19,435,599	122.2%
		5%アルブミン100ml	¥1,771,066	¥1,508,980	85.2%
		5%アルブミン250ml	¥2,088,774	¥1,933,227	92.6%
		合　計	¥19,770,464	¥22,877,806	115.7%

製剤購入状況(金額)



廃棄状況 (金額)



3-3-14-6 採血室

1.概要

採血室は、診療部、看護部、臨床検査部にて運営されている。主な業務は、採血、採血介助、採尿・採便等の受付や案内、病棟用採血管の準備である。新生児・乳児の採血は難しく、熟練を要する。採血部位は大人と同様に上肢の皮静脈から翼状針を使い採血するが採血困難な場合は手背の表在静脈から直針採血(通称・ポタポタ)で実施する。医師は、on call で患者希望時、採血困難時、採血量が多い時(原則として患児の体重 1Kg あたり 1mL 以上の採血量)に対応している。また、現在 2 階 F 外来や中央処置室での出張採血も行っている。

今年から採血室を拡大、採血台を 2 台増やし産科・母性内科等の大人採血を原則午前中行う様にしている。

2、稼働状況

採血件数は、毎年前年を上回る患者数となっている。また、採血患者の内訳は、6 歳未満(3 歳未満 5,666 人、3 歳以上 6 歳未満 4,236 人)が 9,902 人と全体の 22%を占める。

6 歳未満の採血には多くの場合介助者が必要であり、採血に時間を要する。

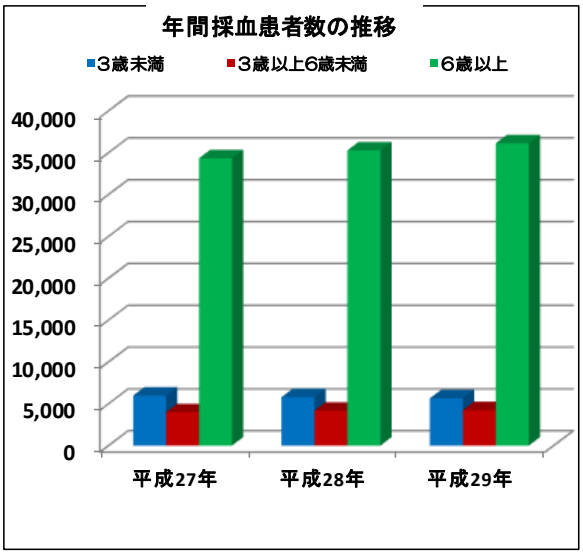
採血は基本、受付順で採血を実施しているが待ち時間が 30 分以上となった時点で、ベッド採血チームと採血台(イス)採血チームに人員を振り分け、採血待ち時間短縮に向けた対応を実施している。順番は前後するが、現状では大きな混乱はない。現在の採血待ち時間の目標は、30 分未満である。医師採血は、132 人(前年 80 人)、全体の 0.31%(同 0.18%)であった。

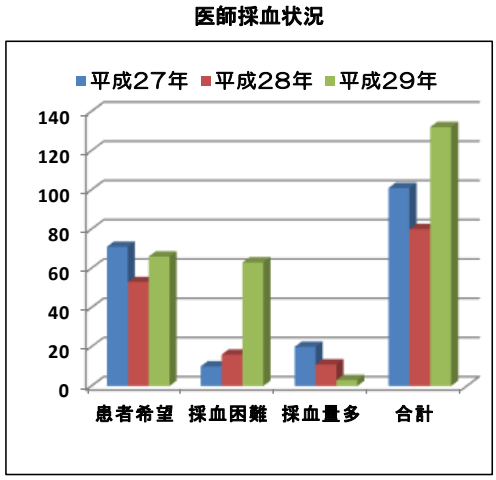
年間採血患者数の推移

	平成27年	平成28年	平成29年
3歳未満	5,986	5,801	5,666
3歳以上6歳未満	3,996	4,180	4,236
6歳以上	34,351	35,286	36,138
合計	44,364	45,267	46,040
研究採血	3,435	3,573	2,935

医師採血状況

	平成27年	平成28年	平成29年
患者希望	71	53	66
採血困難	10	16	63
採血量多	20	11	3
合計	101	80	132
医師採血率（%）	0.23	0.18	0.31





3-3-15 病理診断部

1.診療活動

病理診断部では病理組織診、細胞診、病理解剖を柱とした業務を行っており、平成30年(2018年)に行った業務は図1に示すとおりである。組織診断は、通常の HE 染色に加えて、必要に応じ、特殊染色、免疫組織化学的検査を行い、病理診断の精度を上げるために FISH, RT-PCR 法を用いた遺伝子診断を追加している。また、より正確な診断を行うためには臨床科とのコミュニケーションを重視し、院内の臨床-病理カンファレンスへは定期的に参加している。病理解剖数は減少傾向にあるが、ほとんどが稀少疾患であるため、ほとんどの症例において CPC を開催している。小児肝移植症例を有する臓器移植センターのニーズに応えるため、緊急性の高い肝生検には休日を含め、可能な限り当日あるいは翌日までに診断できるような体制を整備している。

他施設からの研修生は病理医に限らず臨床医も随時受け入れるようにし、小児の腫瘍性・非腫瘍性病変の診断や研究を行う場を提供してきた。本年は、国内より病理専門医2名(6か月)、小児外科医2名(3か月)、海外からは病理医の短期間の研修を受け入れた。

関東・東海地区の小児・周産期病理医の症例検討会を2月と7月の2回、当センター主催で開催し、活発な意見交換が行われた。小児病理に興味を持つ病理医、臨床医より構成されている日本小児病理研究会の事務局業務を担っており、会員への情報発信を行い、小児・周産期病理の拠点として活動した。

2.研究活動

研究所の小児血液・腫瘍研究部、周産期病態研究部、分子内分泌研究部、母児感染研究部との密接な連携のもと、小児・周産期疾患を対象として病理学的、細胞生物学的ならびに分子生物学的な解析方法を用いた研究を行ってきた。

小児固形腫瘍(ウイルムス腫瘍、横紋筋肉腫、ユーイング肉腫、神経芽腫、肝芽腫)、小児悪性リンパ腫の多施設共同研究においては、小児血液・腫瘍研究部と協力し、JCCG(日本小児がんグループ)の中央病理診断事務局、検体保存施設として、臨床と基礎研究を結ぶ中心的役割を果たしてきた。

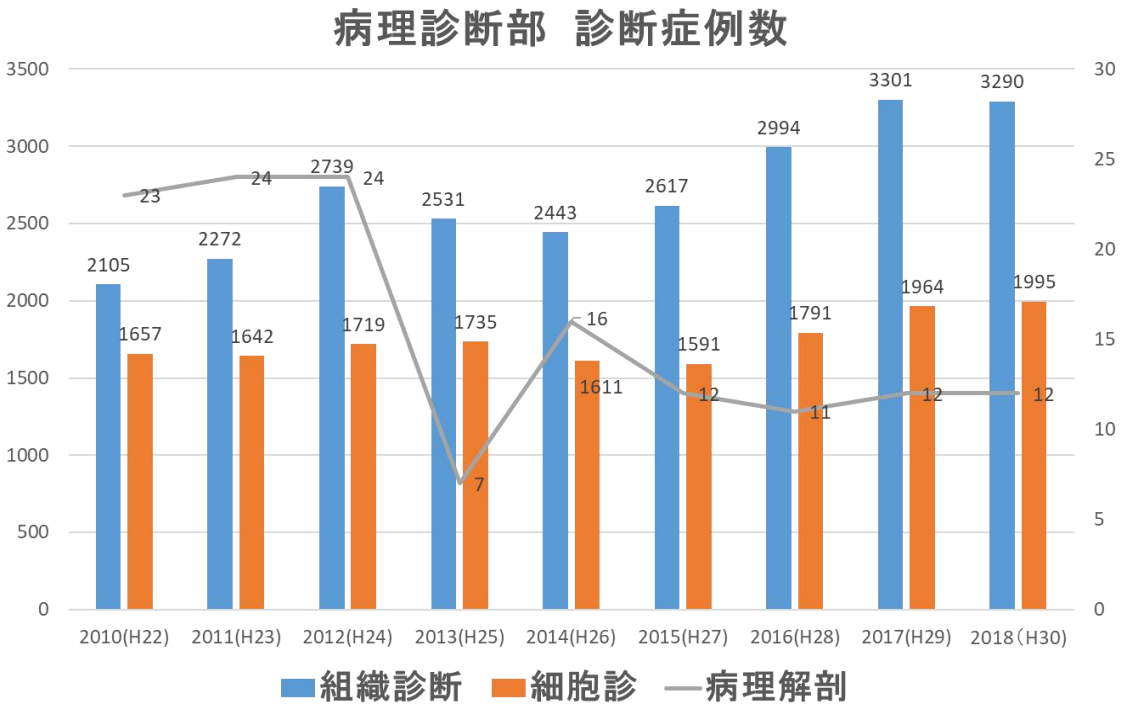
3. 病理診断件数の推移

平成29年(2017年)の病理診断件数は図1に示すとおりである。本年は組織診断数・細胞診数、病理解剖ともに昨年とほぼ同様であった。

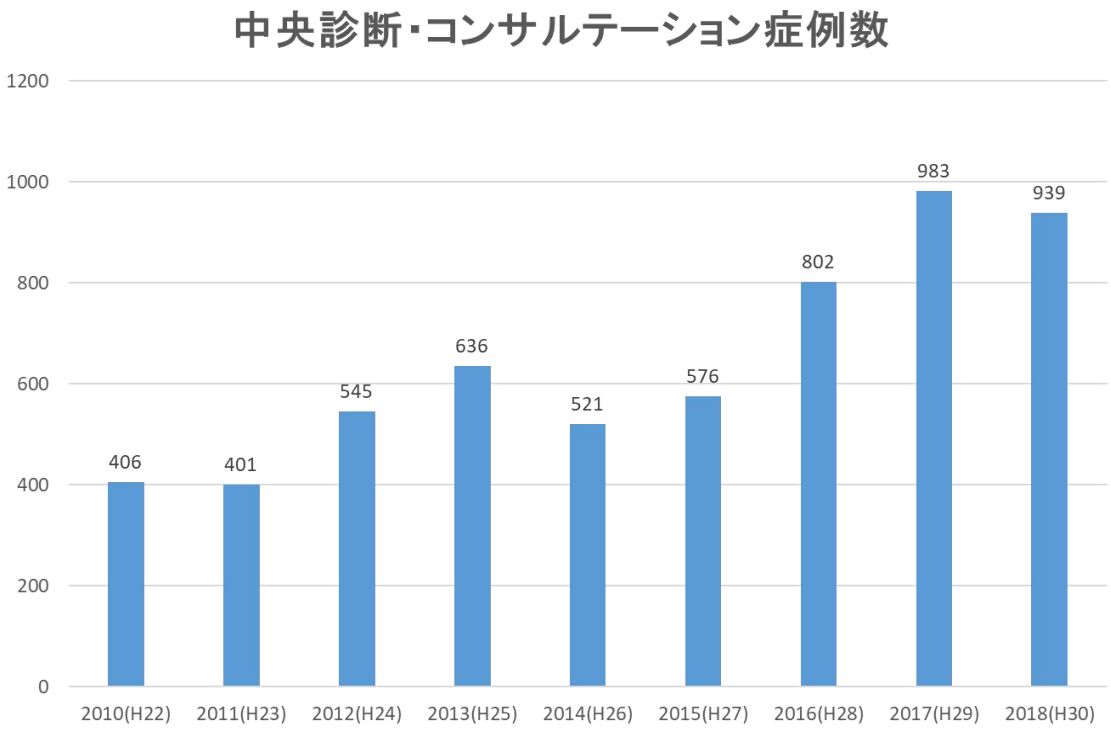
前述した小児固形腫瘍および小児悪性リンパ腫の多施設共同研究における中央病理診断業務も担っており、症例数は昨年とほぼ同様であった(図2)。

より正確な組織診断をするために免疫組織化学的検索を追加することは日常的となっている。また、遺伝子検索は病理診断を行うにあたり、必要不可欠となりつつあり、本年は遺伝子検査(PCR)でのISO15189を追加取得した。

(図1)


病理診断部　診断症例数
3500
3000
2500
2000
1500
1000
500
0
30
25
20
15
10
5
0
2105
1657
23
2272
1642
24
2739
1719
24
2531
1735
7
2443
1611
16
2617
1591
12
2994
1791
11
3301
1964
12
3290
1995
12
2010(H22)
2011(H23)
2012(H24)
2013(H25)
2014(H26)
2015(H27)
2016(H28)
2017(H29)
2018（H30)
組織診断
細胞診
病理解剖

（図2）


中央診断･コンサルテーション症例数
1200
1000
800
600
400
200
0
406
401
545
636
521
576
802
983
939
2010(H22)
2011(H23)
2012(H24)
2013(H25)
2014(H26)
2015(H27)
2016(H28)
2017(H29)
2018(H30)

3-3-16 高度感染症診断部

成育医療に関連する多くのウイルスの迅速診断を行っています。特に小児移植治療後の日和見感染症関連ウイルス(EBV, HSV-1, HSV-2, VZV, CMV, HHV-6, HHV-7, BK virus, JC virus, Parvo virus B19, AdV, HHV-8, HBV など)の早期発見・早期治療を目指しています。また、難治性ウイルス感染症の一つである EB ウイルス(EBV)が原因で起こる慢性活動性 EBV 感染症(CAEBV)や EBV 関連血球貪食性リンパ組織球症(EBV-HLH)に対する様々な検査・解析を行っています。
一部の感染症の診断には専門的な技術と経験が必要とされます。当診断部では依頼がある様々なウイルスを検出し診断支援を行っています。ウイルス検出にはリアルタイムPCR法を用いた多項目同時迅速診断システム(マルチスクリーニング解析)による定性解析(ウイルスがいるか・いないかを解析)を行い、陽性となったウイルスに関して定量解析(どれだけのウイルス量が存在するかを解析)をします。ウイルスの中にはどれだけの量のウイルス感染細胞が身体の中に存在するかが重要であるものがあり、その場合、定量解析が必須になります。体内にどれだけのウイルス量が存在すると発症し、治療が必要になるのかを見極める必要があります。ウイルス量が重要になります。検出されたウイルスの量と性状を分析し、フローサイトメトリー法による免疫応答解析による総合的な解析に基づき、治療方針を決定する独自の診断法を用いて支援を行っています。ウイルス感染症の多くは時間との戦いになりますから、これだけの解析を半日で行い、検査結果はその日のうちに現場に報告され、夜には治療が開始できる体制を整えています。 特に CAEBV, EBV-HLH, 小児肝移植後・小児骨髄移植・心臓移植後ウイルス感染症については、国内の中央診断センター的役割を果たしています。心臓移植後の解析は国内外で移植したものの全症例を当診断部で解析・検査しウイルス感染制御を日々行っています。CAEBV, EBV-HLH は日本の 80%以上の症例を診断し、治療サポートをしています。日本で唯一の移植治療後のウイルス制御と難治性ウイルス感染症制御を目的として設立された診断部です。
[2018 年の診断状況]

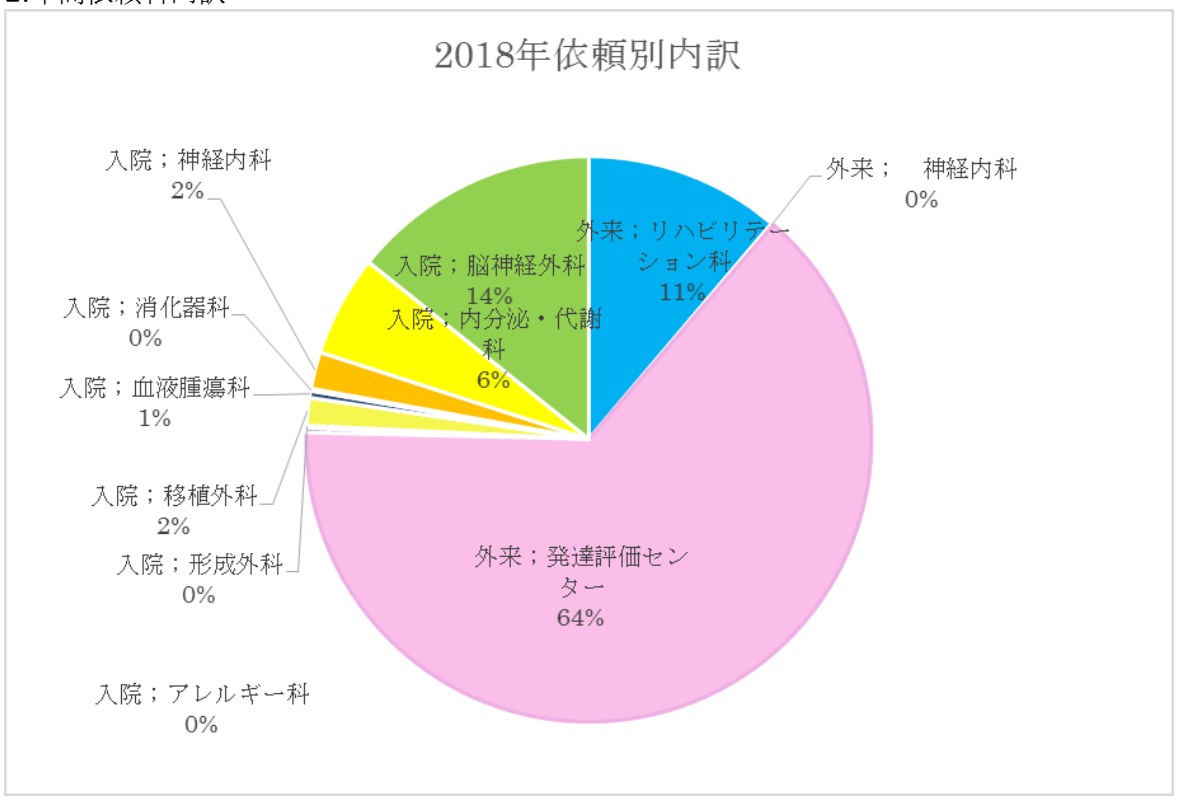
	定性	定量														
	マルチ	EBV	EBV (Li)	CMV	HHV6	HHV7	HSV-1	HSV-2	BKV	JCV	VZV	ADV	HBV	PVB19	感染細胞同定	計
成育 計	458	1013	26	386	160	44	8	1	87	87	0	18	1	14	15	2318
成育外 計	110	247	1	34	43	24	0	0	33	43	0	0	3	18	64	620
(成育+成育外) 合計	568	1260	27	420	203	68	8	1	120	130	0	18	4	32	79	2938

本年は AMED 研究班として国内外で心臓移植した全ての患者の移植後ウイルス感染症の網羅的解析と移植後ウイルス制御を目的としたモニタリング検査を実施した。

3-3-17　発達評価センター

1. 職員数
・医師4名（うち常勤医師3名、非常勤医師1名）
・言語聴覚士　3名
・臨床心理士　1名

2.年間依頼科内訳



3-3-18 医療連携・患者支援センター

概要

医療連携・患者支援センターは、他の医療機関との医療連携および患者支援を推進する部門として、平成 23 年 5 月 1 日付けで、それまでの医療連携室の役割を引き継いで設置された。平成 25 年 10 月には在宅医療支援室が新たに加わった。また、平成 30 年 10 月には組織改編により、入退院センターからベッドコントロール室が新たに加わった。

役割

高度専門医療、急性期病床としての機能を主とする当センターと地域の医療機関との連携をスムーズにできるよう、医療連携・患者支援センターを窓口として、他医療機関からの種々の問合せの対応・連絡業務を行っている。医療連携・患者支援センター長(併任)の下に、役割機能別に医療連携開発室、医療連携室、在宅医療支援室、患者相談窓口、ベッドコントロール室の 5 部門を置いている。これら 5 部門の業務には共通する部分もあることから、関係者が協調しあうことを基本としている。

具体的業務・活動内容

3-3-18-1 医療連携開発室

成育医療における渉外、外事を担っている。海外からの受診希望やセカンドオピニオンの依頼について英語対応が可能な事務職員を複数配置し、身元保証機関を仲介役とし、速やかな連絡・調整が図れるよう努めている。

3-3-18-2 医療連携室

1.前方連携・後方連携

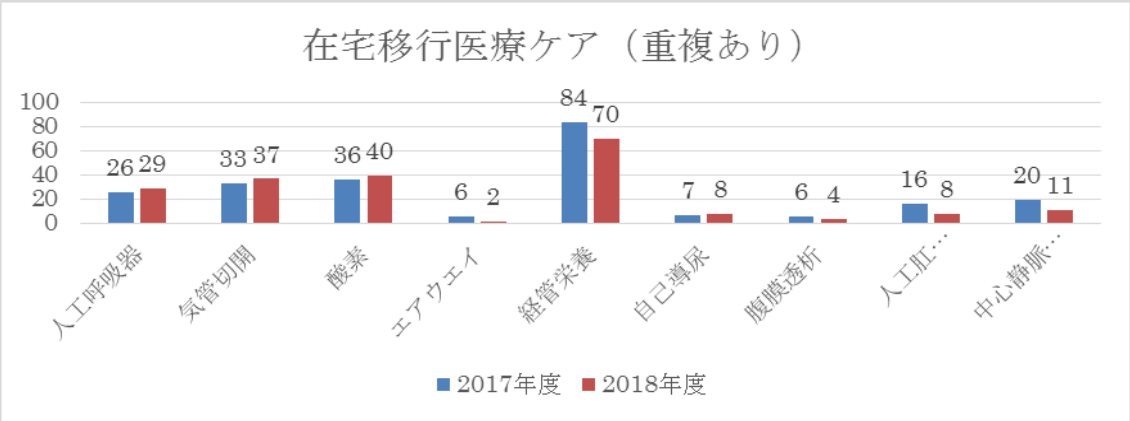
平成 30 年の平均紹介率は 87.6%,逆紹介率は 52.6%であった。成人移行に関する相談は増加しており、面談や医療機関の調整を 15 件行った。成人移行に対応できる病院の開拓が昨年と同様の課題である。また、セカンドオピニオン外来は、215 件(うち大学病院 106 件)受診があった。海外渡航者治療受入れに関しては、遠隔医療通訳システム、通訳アプリをインストールしたタブレットを導入し、体制を強化している。受入れ人数は 36 名、すべての年齢が 6 才未満であり、中国人が 80%を占めていた。

2.退院支援

退院調整依頼は 131 件あった。そのうち在宅移行できたのは 107 名であった。医療ケアの内容は、経管栄養管理が一番多く、人工呼吸器装着も 37 名と昨年より増えている。連携している事業所等も急激に増えており、訪問看護事業所は昨年より 100 件多く 329 箇所、調剤薬局は 49 箇所となった。入院期間が 90 日を超過している患者は月平均 43 名であった。

3. 地域連携

1 年間の準備期間ならびに都への申請を経て、8 月に、地域医療支援病院として承認された。年 4 回地域医療支援委員会を開催して、地域との連携を図っている。第 2 回地域医療連携懇親会を行い、外部 73 施設 100 名の参加があった。地域医療機関との連携では、医療連携機関 303 施設、医療連携医 500 名となった。



4.懇話会

1）成育臨床懇話会

9 月 1 日「発達障害医療の均てん化と教育との連携をめざして」出席者 49 名

11 月 21 日「胎児診断と胎児治療」「小児の感染症診療と予防法のアップデート」出席者 86 名

2）成育在宅医療懇話会

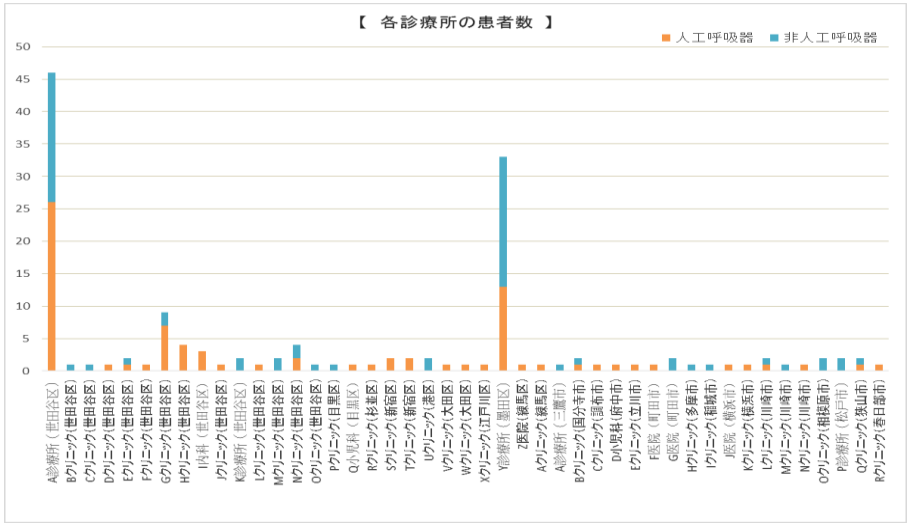
5 月 19 日「見取りを見据えて生活を支えるために大切にしたいこと」出席者 12 名

12 月 22 日「もみじの家事業　多職種連携～成長を支えるレスパイト」出席者 104 名

3-3-18-3 在宅医療支援室

成人期移行も見据えて、地域の在宅医に小児患者も診てもらえるよう活動を行っている。在宅医を希望する患者・家族の希望を聞いたうえで、在宅医を紹介している。平成 30(2018)年 12 月 31 日までの実績を下記に示す。

成育の患者さんを診ていただいている在宅医（45 診療所、患者 150 名）



研修会

成育・心身障害児総合センター合同講習会

1. 第 1 回 成育・心身障害児総合センター合同講習会. 国立成育医療研究センター. 2017.9.9
2. 第 2 回 成育・心身障害児総合センター合同講習会.心身障害児総合センター. 2018.1.6
3. 第 3 回 成育・心身障害児総合センター合同講習会.国立成育医療研究センター. 2018.6.16

世田谷小児在宅勉強会、国立成育医療研究センター.　2018.7.4, 2018.10.31

小児在宅医療技術講習会、国立成育医療研究センター. 2018.8.19, 2018.11.24

平成 30 年度小児在宅医療に関する人材養成事業　講習会.医師会館. 2019.1.27

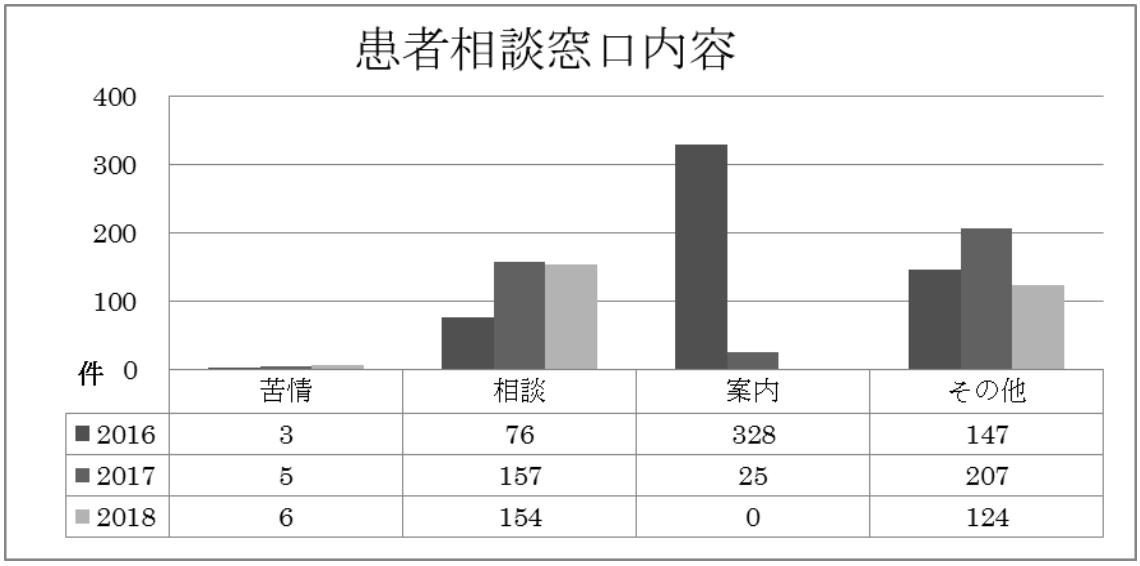
小児在宅医療勉強会

三重大学小児トータルケアセンターの活動～小児がん診療拠点病院、小児在宅医療、地域連携、そして災害時対策～.国立成育医療研究センター.　2019.3.7

3-3-18-4 患者相談

患者支援の一環として相談窓口を設置し、医療安全管理者やソーシャルワーカーを始めとする多職種で、様々な問い合わせや相談、案内、苦情への対応を行っている。

対応内容では受診方法や院内の案内が一番多いが、医師や看護師、医療安全、SWへの相談に関し、適切な部署への橋渡しの役割も担っている。苦情対応では、件数は少ないものの、職員の接遇や診療内容の説明不足等を訴える声が大半を占めており、患者の声に耳を傾け、院内の関係部署が解決策の検討を図れるよう情報提供を行っている。



	苦情	相談	案内	その他
■2016	3	76	328	147
■2017	5	157	25	207
■2018	6	154	0	124

3-3-18-5 ベッドコントロール室

1. 緊急入院のベッドの調整・確保
2. 退院予定患者の把握
3. 予約入院のベッドの確保

各病棟看護師長と連携をとり、病床の状況、患者情報をタイムリーに把握し、病床を効率的に活用できるよう迅速なベッドコントロール業務を行い、より多くの入院受け入れベッドを確保し患者のニーズに応えられるよう取り組んでいる。必要時には担当医師とも情報共有を行い入院から退院まで患者・家族が安心して医療を受けられるよう支援をしている。また、DPC データを活用し病床の稼動を適正に調整、データ化し病院経営に貢献している。

3-3-19 教育研修センター

a. レジデント・フェロー教育： 当センターでは、小児医療と周産期医療の中心となる人材育成として、小児科レジデント（専攻医）41 名とフェロー100 名以上が全国から集まり、質の高い研修を提供している（小児科レジデントの出身地を示す地図を図 1 に示す）。教育研修センターでは、小児科専門研修プログラムについて、採用選抜、研修プログラムの作成と運営、レジデントと指導医の相互評価システムの確立と運用を行っている。また、レジデントを対象として、定期的な講義を昼食の時間帯に行っている（昼レクチャー）。昼レクチャーは、当センターの特徴を生かして、小児科の専門家のみならず、外科系各科、薬剤部など、小児医療を取り巻く種々の専門領域の専門家が担当している。2017 年から小児科専門医試験の受験資格として論文執筆経験が必須化されたことに伴い、レジデントの執筆する論文数、とりわけ英文論文数が増加するとともに、研究指導が大きな比重を占めるようになった（図2）。なお、外科の専門研修に関しては、当センターは連携病院となっている。外科（小児外科）、移植外科、心臓外科で受け入れの準備を行い、基幹病院との連携をとっている。

b. 院内研修： 新入職員を対象として、患者の権利、臨床倫理、感染管理、情報セキュリティーなどの研修を定期的に開催している。また、当センターで勤務するすべての職員を対象とした医療安全や感染管理のセミナー開催の支援を行っている。さらに、シミュレーション教育の手法を用いた講習会（NCPR, PALS, ALSO, NeoSim など）の開催も支援している。医師向けのものとしては、診療録記載に関する講習会を開催した。

c. 学会発表に対する支援： 若い医師やメディカルスタッフが国際学会での発表や海外での研修プログラムへの参加を後押しするために、渡航費や研修費用を支援する制度を設け、これを活用している。

d. 対外的研修主催： 当センター外の小児・周産期医療に関わる医療従事者を対象としてセミナーを主催・支援した。2014 年に初めて開催した成育サマーセミナーは、受講者からも好評で、2018 年には第 5 回を開催した。初期研修医や現在他施設で研修中の専攻医のみならず、一般医家の先生方が、日本全国から受講された。それ以外にも、センター内の各専門部門が主催するセミナー・研修会を支援した。

e. 外国人研修受け入れ： 医療の国際化に伴い、日本の小児医療・周産期医療が注目されている。当部門は、海外からの当センターへの研修希望者の窓口として機能している。2018 年は 51 名の外国人研修生を受け入れた。

図1. 2018 年度のレジデントの出身地図

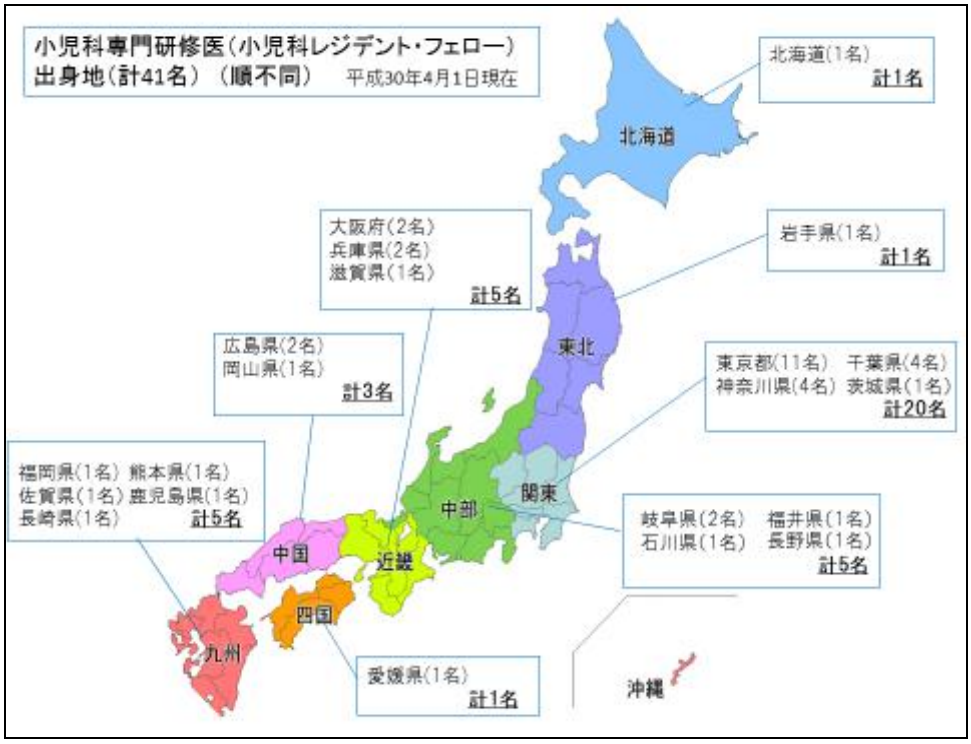
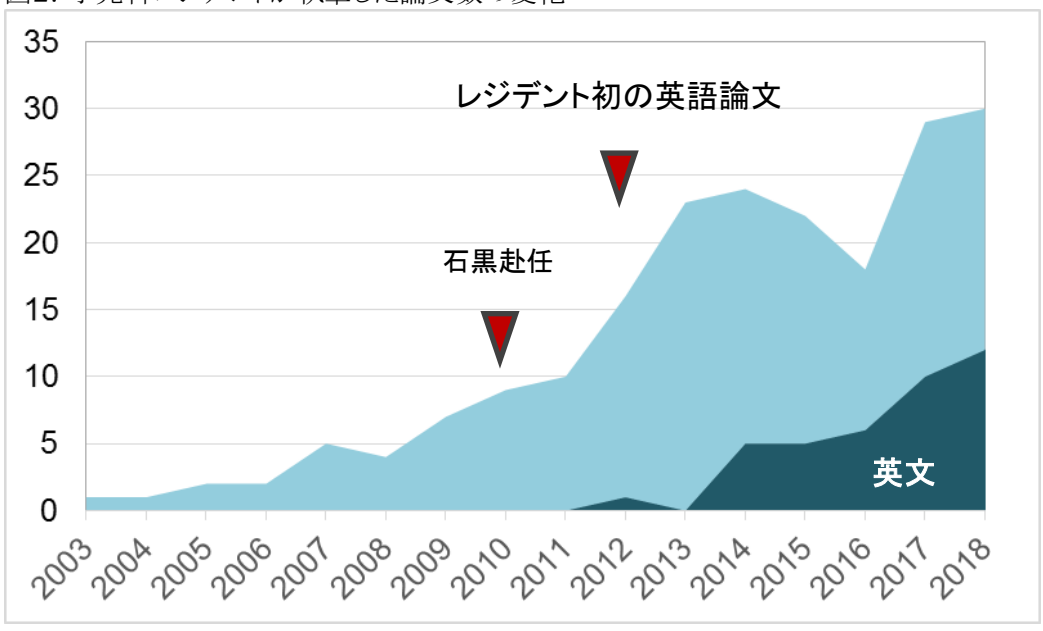


図2. 小児科レジデントが執筆した論文数の変化



3-3-20 感染制御部

1.概要

平成 14 年開院後 4 月から医師・看護師・薬剤師・検査技師・事務部の多職種による感染対策チームが編成された。平成 20 年 4 月から医師1名の専任者、感染管理認定看護師1名を専従者として感染制御室が設置され、独立行政法人化された平成 23 年度 4 月に感染防御対策室と名称を改めた。平成 30 年 6 月には抗微生物薬適正使用推進室が併設され、感染防御対策室とあわせ感染制御部に再編成された。。感染防御対策室は感染制御チームとリンク部会の運営、抗微生物薬適正使用推進室は抗菌薬管理プログラムの運営を行っている。院内感染の防止対策や感染管理体制の確立に関する各法令通達に基づいて当院の感染管理全般を担当し、病院内にかかわるすべての人を守る医療安全対策とも深く関連し、安全な医療を提供するために活動を行っている。

2.感染防御対策室活動内容

2.1 院内活動

2.1.1 感染対策に関する委員会の開催と活動内容

会議名	会期	内容
院内感染防止対策委員会(全 12 回開催)	毎月 第 3 月曜日 15 時～16 時	リンク部会報告、感染制御チーム会議報告、抗微生物薬適正使用会議報告 院内感染対策にかかわる事項の承認 院内感染防止マニュアル改訂版の承認 決定事項の広報
感染防止対策リンク部会(全 11 回開催)	毎月 第 2 火曜日 16 時～17 時 (8 月を除く)	手指衛生の実施状況の監視(毎月手指衛生遵守率調査を実施) 毎月のサーベランス報告 院内感染防止マニュアル改訂版の作成 感染対策にかかわる事項の検討及び対策の立案、実施、実施指導 決定事項の部内周知
感染制御チーム会議(全 50 回開催)	毎週火曜日 10 時～11 時	医師・看護師・薬剤師・検査技師・事務部の感染管理実行メンバーの会議 院内における感染症発生防止のための監視(サーベイランス) 耐性菌サーベイランスの実施 医療器具関連サーベイランス(人工呼吸器・尿路カテーテル・血管留置カテーテル) ウイルス感染症サーベイランス 感染防止対策実施状況の遵守率と問題点を抽出 改善活動の検討と実践指導内容の検討、環境監視ラウンド

2.1.2 院内感染防止マニュアル改訂

2.2 感染防御方法に対する教育

2.2.1 新採用者研修

毎月 1 回 新採用者研修の実施 12 回/年 (研修対象者名)

2.2.2 院内病院に従事する者への研修

感染対策研修会を全 6 回(全職員対象(必須)2 回/トピックス研修 1 回)の研修を企画・開催した。
必須研修会受講率は 100%だった。

	対象	研修内容	開催月日	参加者数
第 1 回	新入職者 必須	医療安全・感染対策研修会 抗菌薬管理プログラムの実践 感染症システムの紹介、正しい検体採取及び提出法	4/10 4/12～5/24 (フォロー)	233 名
第 2 回	全職員	感染対策研修会「耐性菌アウトブレイク対策」	5/24	384 名

第 3 回	全職員	感染対策研修会「冬季における小児の感染対策」	10/16	300 名
第 1 回	全職員(必須)	感染対策 e-ラーニング	6/12～8/6	1367 名
第 2 回	全職員(必須)	感染対策 e-ラーニング	1/21～2/26	1365 名

2.2.3 感染対策の実践教育

1) ブラックライト使用による手洗いのスキル向上に向けた教育
1 回/年 集中治療部医師・看護部職員
採用時 中途採用者職員

2) N95フィットチェックトレーニング
結核対応病棟(PICU、OR、8 東、10 東、9 西病棟)

3)手指衛生が必要な場面の実地教育

2.2.4 部門別感染対策の実践教育

耐性菌対応、PICU における HAI、NICU 感染対策の実際 など

2.2.5 院外研修

巻末の業績集に記載

2.3 感染対策コンサルテーション

年間 360 件のコンサルテーションに対応した。依頼者は看護部、診療部、薬剤部、リハビリ、放射線、栄養部、検査科からの依頼があり、内容で多かったのは、隔離予防策の実際であった。

2.4 病棟ラウンドの実施と病院感染防止対策

毎週火曜日環境ラウンドの実施

2.5 地域医療・小児医療施設との連携

2.5.1 小児医療施設との連携

小児医療施設 34 施設とネットワークを作り1回/年会議を実施

2.5.2 地域医療連携

1) 看護の日イベント参加「抗菌薬適正使用啓発活動の実施」101 名の市民の参加があった。
2) 世田谷・目黒・渋谷地区病院感染を考える会に参加
3) 新型インフルエンザ地域連絡会議への参加
4) 地域連携カンファレンス(年 4 回実施)
5) 感染対策相互ラウンドの実施:宮城県立こども病院、埼玉県立小児医療センター
6) 外部調査員として他施設への感染対策実施対応支援
埼玉県立小児医療センター2018 年 12 月

3. 抗微生物薬適正使用推進室の活動

3.1 抗菌薬使用量のモニタリングと適正使用の推進

抗 MRSA 薬・メロペン・テイコプラニン・経口抗菌薬(キノロン系抗菌薬・リネゾリド・カルバペネム系抗菌薬)については使用許可制を実施。使用許可および介入率 97%、月平均 51 件のオーダー件数について査定を実施した。内服抗菌薬使用状況の適正について医師への介入を実施し医療の質を下げる事なく使用量の削減につながった。バンコマイシン・メロペン・テイコプランの他に抗菌薬、内服抗菌薬、抗真菌薬 計 32 種類の院内全体における抗微生物薬使用量の推移のモニタリングを継続実施している

3.2 抗微生物薬適正使用推進活動の実際

週 1 回 抗微生物薬ラウンドを実施(抗微生物薬適正使用の検討を行い、各診療科の医師へフィードバックを実施

抗菌薬管理プログラムチーム(AST)全体会議 開催診療部門代表の医師・薬剤師による抗菌薬に関する事項の検討と広域抗菌薬の使用許可と不適切使用への介入

3.3 医療従事者への研修会開催

11/19 感染対策研修会「小児における抗菌薬の適正使用」 257 名

3-3-21　栄養管理部

1. 概　況

栄養管理はすべての治療の基本となるため、チーム医療の一翼を担う部門として適切な食事提供と栄養食事指導、栄養サポートチーム(NST)、緩和ケアチーム活動を行い診療支援を行っている。平成 30 年度は、調理師の定年退職(非常勤での再雇用)1 名あり、委託業務の内容を変更した。が年度途中に1名が辞職した。常勤の管理栄養士は育児休業から復帰した。栄養管理部長(副院長併任)以下のスタッフ構成は、常勤管理栄養士(5 名)、非常勤管理栄養士(2 名)、調理師(7 名)、再雇用非常勤調理師(1名)、非常勤調理助手(1 名)である。

2. 入院中の食事

一般食の小児の食事は、成長や発達にあわせて離乳食、幼児食、学童食等の食事を提供し、周産期の食事は妊産婦食、産後御膳食等を提供している。給食延べ数は年間 333,500 食であった。

平成 30 年　食種別給食数と割合

常　食	妊産婦食	産後御膳食	学童食	幼児食	離乳食
15,786	24,455	33,357	54,584	52,170	24,111
4.7%	7.3%	10.0%	16.4%	15.6%	7.2%
全粥食	分粥・流動食	流動個人	ミルク食	濃厚流動食	きざみ・ペース
2,733	2,784	11,908	60,356	16,128	13,095
0.8%	0.8%	3.6%	18.1%	4.8%	3.9%
E　食	PN食	IBD食	SCT食	負荷試験食	その他
6,203	1,400	2,270	3,031	1,922	7,207
1.9%	0.4%	0.7%	0.9%	0.6%	2.2%

平成 30 年　調乳本数

ミルク	濃厚流動
259,177(1 日平均 710)本	52,007(1 日平均 142)本

年間 26 回の行事食を実施。中でもプレートメニューは、患児に喜ばれる行事食となっている。
1 月:わんちゃん、2 月:節分、3 月:ひなまつり、4 月:春のくまのぷーさん、5 月:こどもの日、6 月:虹、7 月:七夕、9月:お月見、10 月:ハロウィン、11 月:おにぎり、12 月:クリスマスプレートを提供した。昨年から実施している出張おやつサービスを 10 西病棟を対象に毎月 1 回、定期的に行っている。手作りおやつを、4 月から月 2 回を毎週 1 回実施できるようになった。マカロニきなこ、蒸まんじゅうなど保育園で人気のものをおやつメニューに加えた。

3. 栄養食事指導

個人栄養食事指導件数は管理栄養士が育児休暇から復帰し、通常の体制に戻ったため、年間 500 件以上増加した。

栄養食事指導実施状況

区　分	個人栄養食事指導（件数）			集団栄養食事指導（人数）	
	件　数	算　定	非算定	算　定	非算定
H29年	1,429	1,315	110	0	1,071
H30年	1,985	1,794	191	0	1,030

4. 栄養サポートチーム(NST)活動

年間　65　件介入した。診療報酬改定により、専従要件は緩和されたが、毎週のカンファレンスや回診が実施困難なことから栄養サポートチーム加算は算定されていない。

11 月の世界栄養デーにあわせて『栄養の日～食育～』のイベントを実施した。

5. 緩和ケアチーム活動

4 月の診療報酬改定で、悪性腫瘍の患者に対して、緩和ケアチームに管理栄養士が参加して栄養食事管理を行った場合に個別栄養食事管理加算が認められた。年間 123 件算定している。

6. 管理栄養士（栄養士）養成施設から臨地（校外）実習生の受け入れ

養成施設4校から19名の実習生の受け入れを行った。

7. 研究等への参加

・好酸球性消化器疾患・重症持続型の根本治療・多種食物同時除去療法に関するエビデンス創出研究

・妊娠糖尿病女性における出産後の糖尿病・メタボリックシンドローム発症のリスク因子同定と予防介入に関する研究

8. 研　修

NST 勉強会は全体で3回、総合診療部医師対象に5回実施した。

NST 勉強会

全体

H30.2.2　腸内細菌について

H30.6.7　意外と知らない離乳食の話、摂食嚥下リハビリテーション

H30.10. 4　ミルクと経腸栄養剤について

総合診療部

H30.2.13　TPN

H30.7.23　栄養アセスメント

H30.8.13　栄養プランニング

H30.10.9　TPN

H30.12.4　胃瘻

3-3-22 医療安全管理部

昨今の技術の進歩は、診療の高度化、複雑化、多様化をもたらし、医療者の負荷は増大し、医療の現場はますます有害事象の発生しやすい環境になってきたといえる。われわれ医療者は事務職務も含め、常に危機管理意識をもち、安全な医療の提供に努めなければならないと考えている。

医療安全管理部は、院内の職員に対し安全意識の推進や、情報収集によるシステム改善対策を中心に、国立成育医療研究センターで発生した医療事故への対応等幅広い活動を行うため、副院長（医療安全担当）、医療安全管理室長（診療部長）、副薬剤部長（医療安全担当）、医療安全管理者（看護師長,看護副師長）、事務職員の6名が配属されている。患者からの意見を取り入れやすくするために、患者相談専門職（医事室所属）とも積極的に連携をとり、また、院内の各部署33か所に計50名のリスクマネージャーを配置し、患者にとっても職員にとっても、安心で安全な医療提供の場であるよう各部署と連携をとっている。

活動内容は、

① 全部門からの医療事故に発展する可能性のあるあらゆる事象は、インシデント・レポートとして職員が報告を行う体制にあり、この情報に基づき、毎月の全リスクマネージャー参加の医療安全部会や医療安全部会の上位にある医療安全管理委員会で討議を行い、さまざまな観点から対策を検討し、インシデント情報の集積と分析、事故予防策の検討、医療事故に対する第三者による客観的事例調査、原因究明と再発防止策の指導と標準対応指針などの策定、医療安全に関わる情報提供と、医療に関連したトラブル等に対し、センター全体で対応できる体制の構築

② 院内研修による安全意識の高い医療者の育成と安全文化の醸成

⑤ 定期的な医療安全マニュアルの見直し、院内専用医療安全ポケットマニュアルの発行、による院内各種安全マニュアルの見直し、各部門との連携医療安全研修会の開催、eラーニングの実施などで、職員の医療安全意識と知識・技術を高める活動

⑥ 厚労省の医療安全週間にあわせ、リスクマネージャを中心とした院内パトロールに加え、医療安全に関するポスターコンペを患者・家族の方にも投票を行ってもらう形で行い、医療安全について医療者だけでなく患者・家族にも関わりを持ってもらう活動

上記の活動の結果、2017年と2018年は、インシデントレポート数は増加し、420床規模の医療施設としては年間4000件を越えて、医師からの報告数も増加しつつあるが、6%前後に留まっている点が、今後の課題である。

2018年度

1. 論文　なし
2. 研修会参加
   ① 医療安全倫理・モラル研修会2018
   東京大学法文1号館2階25番講堂
   2018年6月17日（日）
   ② 医療対話推進者養成セミナー
   導入編：2018年9月20日（木） 日本医師会館小講堂
   基礎編：2018年11月10日（土）～11日（日） 日本医療機能評価機構9階ホール

3. 学会発表
   ① 小児期周産期専門施設での患者誤認の発生要因と対策
   中舘尚也、宇田川恵理子、松下ゆかり、青木　香世、野口　貴史、金子　剛、賀籐　均
   第121回日本小児科学会学術集会、2018年04月20日、福岡市

4. 広報活動

医療安全管理室主催医療安全研修会

① 2018年7月9日（月）17:30～18：30
国立成育医療研究センター講堂
「航空業界におけるヒューマンエラーに対する取り組みについて」
全日本空輸(株)整備センター教育訓練部基礎教育チーム専門部長：加藤悟先生

② 2018年12月21日（木）17:30～18:30
国立成育医療研究センター講堂
「医療者と患者のコミュニケーションギャップを考える- 医療コンフリクト・マネジメント -」
全国土木建築国民健康保険組合 総合病院 厚生中央病院 院長補佐（医療安全管理室担当）兼任 総合診療科（整形外科）副部長：荒神裕之先生

③ 2018年12月6日（木）7日（金）17:30～18:30
国立成育医療研究センター講堂
「カルテ研修会」
国立成育医療研究センター コンプライアンス室長：菊池京子先生
同 診療情報管理室長：美間由紀先生
同 総合診療部医師：阪下和美先生

3-3-23 災害対策室

災害対策室は災害などの非常時対応を担う部門です。
診療部門と事務部門が協力して活動しています。
病院の危機管理を行うには平時より全職員の協力が必要です。

【主な活動内容】

1. 防災訓練の企画立案および指揮統括

年次ごとにテーマを持って院内の防災訓練を企画、実施しています。

2. BCP(事業継続計画)の作成

昨年度に当センターの BCP を作成しました。これは災害時でも業務を継続する、もしくは速やかに業務を再開できることを目的とした実践的なマニュアルで、年次改訂版を作成します。

3. 災害時医療体制の構築

東京都および世田谷区では行政を中心に災害対策事業の整備が徐々に進んでいますが、周辺は人口密集地や巨大ターミナル駅を抱えた特殊な地域であり、難航しています。

首都直下地震に対応できるよう院内体制の整備とともに、行政などの各機関と連携を進めていきます。

3-3-24 子ども生活安全対策室

本委員会は病院長を室長とし、3 名の副室長、各部署・診療科から選出された委員 52 名の計 56 名で構成されている。
毎月の定例会議に加えて、虐待対応部門と傷害情報収集・支援担当部門の 2 部門での活動を行っている。

①虐待対応部門
(1)対応フローについて
室員の変更や実務に合わせた改定を行った。
(2)子どもの生活安全対策室室員向けマニュアルについて
室員向けマニュアルの改訂を行った。
(3)院内連携
平成 29 年 1 月 26 日に院内で小児にうける脳死判定と脳死下臓器提供に関するシミュレーションに参加し、現状に合わせた改定を行った。
(4)地域活動
平成 30 年 6 月 29 日(金)砧要保護児童支援協議会 参加
平成 30 年 7 月 17 日(火)世田谷区要保護児童支援全区協議会 参加
平成 30 年 9 月 21 日(金)世田谷区要保護児童支援協議会実務者担当会 開催
平成 30 年 10 月 25 日(木)砧要保護児童支援協議会参加予定
平成 30 年 10 月 30 日(火)世田谷要保護児童支援協議会参加予定
(5)啓発・教育活動
〔教育活動〕
平成 30 年 9 月 8 日(土)院内職員向け研修 BEAMS1.2 受講者 42 名
平成 30 年 9 月 25 日(火)室員向け研修 性的虐待診察研修 受講者 21 名
〔啓発活動〕
平成 30 年 11 月 5 日(月)全職員向け啓発活動 世田谷区ネウボラ事業について

②傷害情報収集・支援担当部門
(1)事故防止 PG テンプレートの作成について
記録について昨年度テンプレート設置の許可を頂いた.

(2)事故防止 PG の効果判定について
評価方法については困難である. WHO では事故予防効果について主要な項目は結果がでているので参考にする。
国内で必要なことは子どもの傷害サーベイランスで, これを全国的に実施することで原因を環境, 製品, 予防が不可能な傷害などに分析することが可能となり, 効果的な傷害予防に貢献できる可能性がある。
消費者庁、総務省(消防)、厚労省などと密な連携は必須であり、長期計画としてはデータサーベイランス確立とともに改善策や検証ができる行政システムを要求して行く活動も視野に入れている。
(3)院内連携
事故予防プログラム依頼の専用窓口の開設
依頼窓口を一本化した。
(4)地域活動
行政との連携
2017 年 1 年間の傷害情報提供は 3936 件。さらに詳しい傷害情報提供をしたものは 201 件, 国民生活センターに 1 例重篤な事故としての症例報告あり。
①消費者庁の国民生活センター, ②医療機関ネットワーク, ③東京都 商品等安全対策協議会, ④厚生労働省 家庭用品等に係わる健康被害病院モニターに提供して国民への注意喚起, 啓発, 製品改良に貢献している。現在, 産業技術総合研究所との連携については, 倫理審査準備をすすめている。
⑤啓発・教育活動
〔教育活動〕

事故予防の講習会を病棟医に向けて実施した(2018 年 7 月 23 日)
〔啓発活動〕
平成 30 年 10 月 27 日(土)院内職員・地域関係者向けに第 1 回子ども事故予防勉強会を実施した。

3-3-25 診療情報管理室

診療情報管理室は、平成 30 年 10 月に診療録管理室とDPC データ管理室を統合し、病院長直轄の独立部門として新設されました。現在、5 名の職員（診療情報管理士有資格者）が配置されています。

○ センターにおける診療情報管理士の役割

診療情報管理士は、諸外国では Health Information Manager（HIM）と呼ばれ、近年、多くの国々でも育成が進んでいます。わが国においても、医療機関におけるデータ管理と活用は、医療の質の評価と適切な医療政策の構築のために必須のものとなっています。診療報酬上においては、診療録管理体制加算の導入、病院機能評価、診療報酬支払制度（DPC/PDPS〈診断群分類別包括支払制度〉）、医療事故調査制度、AI 事業など、診療情報管理士が関係する重要な制度、取り組みも増えています。当センターにおいても、診療情報管理、ICD-10 コーディングの専門知識をベースに、診療情報管理士が多職種と連携し、センターの健全運営に貢献しています。

○ 主な業務

1）診療情報管理業務

診療録、退院時要約など、医師の診療記録を中心とした管理や点検業務を行い、診療録管理委員会と連携し、診療記録の適正化を図ります。

・入院診療計画書の点検
・退院時要約の作成管理
・診療録のピアレヴュー（医師の同僚審査）の支援
・診療記録の記載率調査
・説明と同意に関する診療記録の調査
・診療録管理委員会事務局の運営

2）DPC/PDPS 業務

医師の DPC 決定支援、DPC 対象病院の要件担保、センター内での DPC データ活用を推進するなど、多岐にわたる役割を担っています。

、

・DPC コーディングの調整、提案
・保険診療指数に係るデータ管理
・DPC/PDPS における、入院診療報酬請求の適正化
・DPC データを利用した各種資料の配信
・「DPC 通信」の月次発行
・DPC 委員会事務局の運営

3）医師事務作業補助者（メディカル・アシスタント）部門の管理

医師の事務作業の軽減、医療職種間でのタスクシフトを推進する一環として、医師事務作業補助者（メディカル・アシスタント）部門の管理を行っています。

現在、21 名（非常勤職員）のメディカル・アシスタントが在籍し、病棟、外来、文書係などで代行業務を行っています。

○ 所属

JACHRI 診療情報分析連絡会
こども病院診療情報管理研究会
日本診療情報管理学会
日本診療情報管理士会

日本クリニカルパス学会

3-3-26 薬剤部

I.概要、特色

薬剤部では、適正かつ安全な薬物療法の実施を目標に、調剤及び各種の診療支援・患者支援を行っている。小児及び周産期の薬物療法は一般成人とは違った特別な情報・技術が必要であり専門性が高い。このため薬剤部では専門性の高い薬剤師教育を行い、医療チームの要望に応えている。また、電子カルテ・IT機器を積極的に活用し、医薬品の安全管理や適正使用に貢献している。

1)調剤業務

入院患者の急変、緊急入院及び夜間・休日の急患に対応するため 24 時間体制で内服薬、外用薬、注射薬の調剤を実施している。平成 30 年 7 月より医師の業務負担軽減のために、医局了解のもと院外処方せん疑義照会の代行回答を実施し、約 40%の疑義照会に対し代行回答を行なっている。

	H30
入院注射処方せん枚数	346,955
外来注射処方せん枚数	31,964
入院処方せん枚数	108,285
外来院内処方せん枚数	19,933
外来院外処方せん枚数	78,439
院外処方せん発行率	79.7%

2)製剤業務(無菌製剤、一般製剤)

薬剤部内の専用のクリーンルームにて注射薬(抗がん剤、TPN 製剤等)の無菌調製を行っている。抗がん剤については正確な調製及び調製する医療スタッフの暴露防止のため専用の設備を有する薬剤部にて入院患者及び外来患者への投与の全てを調製をしている。

また、小児薬物療法においては市販されている薬剤・剤形だけでは必要な治療が行えないことがあり、様々な院内製剤を製造している。

	H30
無菌製剤処理料1 総実施件数	3,532
無菌製剤処理料2 総実施件数	9,581
院内製剤品目数	53

3)薬剤管理指導・病棟薬剤業務

入院中の患者さんに安全で適切な薬物治療が行われるように、各診療科に担当薬剤師を配置して患者さんの薬物療法を管理している。また、患者さんが適正な薬物治療を安心して受けられるように服薬指導を実施しており、小児入院医療管理料に包括ではあるものの、薬剤管理指導料の算定件数は年々増加している。加えて、PICU 及び腫瘍科病棟(8 西、10 西病棟)に平日 1 日薬剤師常駐を実施しており、様々な診療支援及び適正な医薬品管理を行っている。

	H30
薬剤管理指導料請求件数(1.ハイリスク薬管理)	2,107
薬剤管理指導料請求件数(2. 1.以外)	5,952
薬剤管理指導料請求件数(上記合計)	8,059
麻薬加算件数	62
退院時薬剤情報管理指導料件数	3,516

4) 医療チームへの参画

当院では様々な専門医療チームが活動しており、感染制御チーム(ICT)、抗菌薬適正使用プログラム(ASP)、栄養サポートチーム(NST)、褥瘡対策チーム(WOC)、がん化学療法チーム、緩和ケアチームに薬剤師も参画して様々な診療支援を行っている。

5) 医薬品リスク管理・医療安全

医薬品に係るインシデント事例について、医療安全管理室と協力し、電子カルテや部門システムを駆

使して対策を行うとともに、新採用者研修や院内 e-ラーニングなども活用して再発を防ぐ取り組みを実施している。

6) 医薬品情報管理・薬剤委員会事務局

薬剤委員会を年間 11 回開催し、医薬品の採用・削除、その他医薬品管理に関する案件について審議している。また、医薬品メーカーからの情報や厚生労働省からの通達等を整理して、院内各所に情報提供を行うとともに、院内外からの医薬品に関する問い合わせに対応している。

7) 専門・認定薬剤師の育成

薬剤部では当院で行われている専門性の高い薬物療法に対応できるよう、主に以下の専門・認定資格を取得している。

	H30
小児薬物療法認定薬剤師	15 名
妊婦・授乳婦専門薬剤師	1 名
妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師	1 名
がん専門薬剤師	1 名
日本糖尿病療養指導士	3 名
NST 専門療法士	1 名

8) 薬剤師教育

薬剤部では小児・周産期領域を専門とする薬剤師育成のために、年間に主として以下の薬剤師教育を担っている。

・小児薬物療法認定薬剤師研修　研修生 72 名
・妊婦・授乳婦専門薬剤師養成研修　研修生 9 名
・薬学生の実務実習教育　学生 12 名
・薬剤師レジデント育成　4 名（Ⅰ期 2 名・2 年間）

9)政策事業・政策提言

小児・周産期薬物療法の発展、小児用剤形開発の推進を目的として、厚生労働省の各種の政策事業や検討会に参画している。

〈事業〉
・妊娠と薬情報センター事業
・小児と薬情報収集ネットワーク事業
・小児治験ネットワーク事業
・小児製剤ラボ

〈検討会〉
・医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議（小児専門作業班（WG））

3-3-27　看護部　（保育士を含む）

[活動概要]

1. 看護部(2018 年)

2 月に育児休暇を取得していた助産師・看護師を対象に「働くママの会」第 1 回を開催し、参加者 12 名であった。この会は長期に臨床現場を離れて育児に専念していたママさん助産師・看護師を対象に、先輩ママの助産師・看護師の体験談を通して不安なく職場復帰ができることを目指している。

3 月、7 東病棟に病棟クラークを導入した。病棟クラークの主な役割は、入院する患者・家族への病棟オリエンテーションや退院時の手続き、入院中の書類の受け渡し等であり、患者がスムーズな入院生活が送れるために重要であり、また病棟業務の効率化に貢献している。

4 月に学童期～思春期の小児がん患者病棟の“クリーンルーム 2 床“設置にあたり工事を開始し、平成 30 年 8 月の運用に伴い病床変更と共に小児入院管理料Ⅰとなり、看護師夜勤体制が 4 人へ変更となる。

同月、電子カルテの ipod は個人管理から病棟管理へ変更し、個人情報を含む機器管理の体制を厳重にした。

5 月、看護助手業務の一元化に向けて、7 階病棟で取り組みを始め、同年 10 月より入院病棟全てで看護助手業務の一元化を開始した。

6 月 11 日～13 日及び 10 月 28 日～31 日、医療技術等国際展開推進事業の一環である「モンゴル国の小児急性期医療における人材育成事業」で救急病棟・集中治療病棟・新生児医療病棟の看護師長・看護師をモンゴルへ派遣した。

2. 保育士(2018 年)

1月～院内研修を始め、院外研修にも積極的に参加し、医療現場での保育士としてスキルを磨き、入院患者の QOL の向上に務めている。また、保育士内で勉強会を開催し、子どもの発達の土台となる感覚統合運動について学び、発達特性のある子どもへの玩具作りを行った。

昨年より取り組んできた「保育活動中に起こりうるインシデントについての研究」を第 22 回　日本医療保育学会で発表した。今まで日本医療保育学会では発表がされていなかったこともあり、継続的な研究を期待されている。今後も継続して研究発表に取り組み、情報発信をしていく。

日本医療保育学会認定　医療保育専門士 1 名　取得。

3. 研修　※(2018 年のみ)

研修コース	研修数	延べ人数	期間
新採用者研修	1	84	4 月
レベルⅠ	8	692	5 月～12 月
レベルⅡ	5	307	6 月～12 月
レベルⅢ	6	451	6 月～12 月
レベルⅣ	2	256	10 月～12 月
レベルⅤ	1	11	10 月
全体研修	2	585	6 月～
他部署・院外留学コース	2	20	10 月～
成育看護専門研修	7	236	7 月～
コメディカル研修	2	28	11 月～12 月

3-3-28 もみじの家

(1)沿革と概要

医療の進歩に伴い在宅で医療的ケアが必要な子どもの数は増え続け、平成30年度の推計で約 2 万人。多くの家族が24時間365日のケアに追われ、心身の疲労を蓄積させている。

もみじの家は2016年4月、医療型短期入所サービスを提供する施設として、成育医療研究センターの敷地内に開設された。主に医療的ケアが必要な子どもと家族が最長9泊10日、宿泊できる。

鉄筋2階建て、延べ床面積は約1700㎡。1階には子どものベッドが11床(個室×5、3人室×2)、共用ダイニングキッチン、2つの浴室(機械、一般)などがあり、2階にはプレイコーナー、音楽室、感覚を刺激するセンサリールームなどが整備されている。

子どもには医療的ケアに加えて、成長発達を促す遊びや学びの活動、生活介助(食事や入浴、排せつなど)のサービスが提供され、家族は安心して自由な時間を過ごすことができる。

(2)理念・ミッション

＜理念＞

重い病気を持つ子どもと家族のひとり一人が、その人らしく生きることができる社会を創る

＜ミッション＞

重い病気を持つ子どもと家族に対する新しい支援の仕組みを研究開発し、全国に広める

(3)スタッフ

・施設長(病院長が兼任)
・ハウスマネージャー
・看護師15名(看護師長を含む)
・保育士2名
・介護福祉士1名
・事務長
・医師1名(兼任)
・MSW1名(兼任)
・理学療法士1名(兼任)
・薬剤師1名(兼任)

(4)実績

平成３０年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	１０月	１１月	１２月	1月	2月	3月	計
利用者数	59	61	59	64	70	53	58	61	60	56	58	62	721
のべ利用者数（在院）	217	217	208	232	251	209	223	213	221	201	214	223	2629
一日平均利用者数（在院）	7.2	7.0	6.9	7.5	8.1	7.0	7.2	7.1	7.1	6.5	7.6	7.1	7.2
キャンセル	10	8	18	9	10	12	14	11	12	10	11	10	135
登録者数	11	14	10	10	9	6	6	7	7	7	5	7	99
一次募集申込者数	95	82	81	98	130	85	102	94	103	89	80	102	1141
一次募集で断った人数	39	22	17	32	58	31	44	33	46	32	21	40	415
一日運用ベッド数	9	9	9	9	10	10	10	11	11	11	11	11	

・平成30年度、開設以来初めて、満床の11床が運用可能になった。
・一日平均利用者数が、前年度比で1．7人増えて、7．2人となった。
・登録数は年間で99人増え、累積で619人に達した。
・夏休みの8月に最も需要が高く、申込130人中、58人が利用できなかった。
・他院にかかりつけの子どもの場合、登録面談時に必要な診察の枠が限られているため、面談までに3年以上待たなければならない状態が続いている。
・9月より、小児緩和ケア病床の運用を開始した。

(今後の課題)

①運営の安定化

平成30年度の収支は約1900万円を超える赤字で、寄付金で補てんした。障害福祉サービス費の報酬改定により、赤字の額は昨年度に比べて3分の1以下に減った。引き続き、制度の充実を要望し運営を安定させることで、もみじの家のような施設が各地に広がる基盤を確立することが求められる。

②運用ベッド数の増加

平成30年度、満床運用が可能になったが、キャンセル率の高さなどから、一日平均利用者数は 7.2人にとどまった。一方、利用希望を断らなければならない件数が月平均で約35人に上る。より多くの希望に応えるためにも、稼働率を上げる必要がある。

③寄付の呼びかけ

引き続き、赤字を補てんするための寄付を募らなければならない。

④小児緩和ケア病床の運用の安定化

もみじの家のスタッフ間のコミュニケーションや病院本体の関係者との連携を密にすることで、小児緩和ケア病床の運用がスムーズに進められる環境整備が求められる。

3-3-29 チャイルド・ライフ・サービス室

1. 目標と評価

1. 病院にかかわる患者、家族、医療スタッフへのチャイルド・ライフ・サービスの紹介と浸透
   院内外においてチャイルド・ライフ・スペシャリストの活動や視点について講義を行った。講義後より依頼件数が増え、より多くの患者、家族、医療スタッフにチャイルド・ライフ・サービスを提供することができた。
2. 医療チームの一員として他職種との密接な連携
   患者や家族への介入前後で必ず医療スタッフとコミュニケーションをとり医療チームとして患者、家族への適切な介入を行うことができた。連携をはかり医療チームの一員として活動することにより依頼件数が増え、チャイルド・ライフ・サービスの浸透にもつながった。

3. 活動内容

1. 手術室見学ツアー
2. 手術、検査、処置のためのプリパレーション（心の準備サポート）
3. 検査時、処置時の様子観察、ディストラクション（非薬物的疼痛緩和）
4. 手術、検査、処置後のフォローアップ（トラウマの予防、次の医療体験へつなげる）
5. 入院、病気、身体、内服などについてのティーチング、受容の促進
6. 様々な遊びやかかわりを通してストレスや感情の表出、発散を促す
7. 終末期のケア
8. 緩和ケア
9. きょうだい支援
10. 患者、家族にとってストレスや不安が高いと判断されるケースへの対応
11. ビリーブメント サポート

3. 活動状況

1）平成 28 年度　年間介入件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
プリパレーション	79	92	96	96	96	52	97	87	52	74	101	71	82.7
ティーチング	5	20	12	10	13	8	3	4	13	9	2	11	9.1
ディストラクション	89	89	100	90	76	69	94	89	86	94	89	93	88.1
治癒的あそび	44	26	39	42	51	22	40	30	39	20	35	26	34.5
家族支援	156	166	168	166	169	113	150	122	102	124	138	136	142.5
きょうだい支援	7	9	3	2	3	4	4	5	4	9	5	6	5.0
グリーフサポート	2	1	0	1	1	1	2	3	0	7	5	1	2.0
フォローアップ	159	177	168	162	176	100	144	129	98	116	126	134	140.7
退院・復学支援	0	2	0	0	2	1	2	2	1	0	3	5	1.5

4. その他の活動

1. 院内発表
   9 西病棟「Welcome to the World of Child Life」
   薬学部学生「Welcome to the World of Child Life」
   救急センター「Welcome to the World of Child Life」
   手術室「術前・術後のこどもたちやご家族とのかかわり」
   総合診療部昼レクチャー「Welcome to the World of Child Life」
   茨城県看護連絡会「Welcome to the World of Child Life」
   臓器移植センター「Welcome to the World of Child Life」
   小児がんセンター「Welcome to the World of Child Life」

2. 院外発表

7/28 小児治験ネットワーク CRC 教育・研修会「小児の心理社会的発達の特徴および小児患者とその家族とのコミュニケーション～チャイルドライフスペシャリストの立場から～」
8/23 チアアート勉強会「こどもの療養環境を考える勉強会～チャイルドライフスペシャリストからみるこどもの療養環境」
8/31 平成 29 年度小児がん相談員専門研修「本人ときょうだいへの支援」
9/7 子ども療養支援士養成コース後期講義「Grief Support Child Life の視点から見たこどもたちへのグリーフサポート」
10/23 こども専門家アカデミー「Bad News を伝えるコミュニケーション」
10/27 第 6 回小児緩和ケアチームカンファレンス「限られた時間の中で在宅への移行を支援した症例」
11/12 成育医療研修会看護コース「チャイルドライフスペシャリストの活動」
11/13 こども専門家アカデミー「病気や障がいと生きる！～コラボレーション～」20 回緩和ケアオープンセミナー「病院にかかわる子どもたちとの日々～チャイルドライフスペシャリストの立場から～」
11/23 日本炎症性腸疾患学会メディカルスタッフ教育セミナー「Treating The Whole Child～チャイルド・ライフ・スペシャリストの活動紹介～」
11/28 第 34 回神奈川県立こども医療センター小児緩和ケアセミナー「子どもと家族とのかかわり～チャイルドライフというアプローチ～」
12/8 アイリス訪問看護ステーション「きょうだいへの支援～チャイルドライフというアプローチ～」

3. 雑誌投稿、著書

3-4　情報管理部

情報管理部は、センターの組織構成上、研究所や病院から独立した部門となっている。部内にはシステム管理室と情報解析室の2室が存在し、部長および情報解析室長のほか、システム管理専門職2名・診療情報管理士1名・非常勤事務職1名から構成されている。

また情報システムの運用にあたるオペレーターとして、業務委託により業務系4名・基盤系2名が従事している。

業務の範囲としては、電子カルテを基幹とする病院情報システムの管理をはじめ、電子メールやグループウェア・各部門のファイルサーバー・公開Webサーバーなどの基盤情報システムの管理、情報システムのインフラであるネットワークの管理、診療情報の二次利用のための助言やデータ抽出・提供、小児医療の臨床指標開発などがあり、当センターの診療・業務の円滑な運用や臨床研究の支援に広く関与している。

また情報システム関連以外でも、情報発信（Webページ管理・メールマガジン発信など）のような広報活動や、eラーニングシステムの機器・教材・利用者管理、新採用者対象の研修などの職員教育研修業務を行っている。

病院情報システムの運用管理

(a) 日常運用管理業務として、利用者IDの登録・削除管理、利用権限の見直し、越権・特殊操作の確認および承認、重複ID患者の整理、テンプレート・文書の登録、各種マスターの更新作業等をおこなっている。
(b) 情報システム業者や医療事務委託業者等との定例会議の開催、院内での情報システム関連の委員会（情報システム委員会・部会、個人情報管理委員会）の開催等を行なっている。
(c) 不具合対応として、システムの欠陥・不具合・障害の集約、障害時の復旧作業指揮、業者との交渉等を行なっている。
(d) 院内の運用や制度変更に対し、必要となるシステム変更について、現場や関連システム業者と協議し、方針や仕様の決定・交渉等を行っている。
(e) センター内の情報交換や業務文書管理を円滑にするため、イントラネットサーバーを運用し、病院の病床利用情報や職員向けの連絡等を掲載している。また院内部門のデータ保管・共有サービスも提供し、数十の部門が業務に活用している。
(f) 診療データ後利用システムとして、DWH（Data Warehouse）を運用している。DWHには開院（2002年3月）以来の基幹電子カルテシステムのデータが蓄積されており、病院情報システムの更新に関わらず統一的に参照・検索・抽出ができるよう整備している。
(g) AIホスピタル事業やナショナルセンター間連携事業等の先進的取り組みに際し、企画や協議・環境構築等に主体的に参加している。
(h) 2020年度に病院情報システムの更新を予定しており、同更新に向けた計画立案をはじめ、市場等の調査・院内委員会開催・作業部会開催・院内各部署の意見のとりまとめ・要求仕様書の作成などに取り組んでいる。

診療情報2次利用に関する助言とデータ抽出・提供

利用者からの申請・依頼に基づき、情報管理部システム管理室にて病院情報システム等から関連情報の検索・抽出作業を行い、データの提供をしている。この際、疑義があれば申請者に連絡し、より目的に即した情報を提供できるよう努めている。利用申請数は増加傾向にあり、2018年度は299件の申請があった。

また、診療情報システム用端末で各利用者が作成したファイルの取り出し作業も行っており、2018年度は444件に対応した。

そのほか、診療情報の利用に関し、必要な手続きや利用する情報の選定・解析手法等についての助言を適宜行っている。

基盤情報システムの運用

センター基盤情報システムの運用・保守・更新作業として、電子メールサーバー・ファイル共有サーバー等の管理、グループウェア運用管理、診療端末更新プログラム配布、各部署におけるIPアドレス

管理、病院端末へのコンピューター周辺機器の増設、ソフトウェア追加等の管理、eラーニングシステムの運用管理等を行なっている。

また内閣サイバーセキュリティセンター（NISC）・独立行政法人情報処理推進機構（IPA）・厚生労働省と連携し、マルウェア（コンピューターウィルス等）対策・ファイアーウォール構築・不正通信検出・不審メールの相談受付といったいわゆるサイバーセキュリティ確保のための業務を行っている。

職員への情報研修・教育

新任職員向けに、情報システム利用の基礎および個人情報保護・情報セキュリティに関する研修を毎月実施している。また全職員向けにも病院情報システムやインターネット利用上の注意情報等を適宜提供しているほか、全体向け講習の開催や標的型攻撃メール対応の模擬訓練の実施をしている。

その他、eラーニングシステムの教材データ作成や設定・受講者集計、講演会等の院内中継、配布用動画・DVD等の作成支援も行っている。

広報

当センターのWebサイトはセンター外サーバーを利用しているが、運用管理は外部委託を行わず、職員が掲載内容を随時更新している。週に数度の更新を行うなど、常に最新情報を提供できるよう心がけている。

電子メールによる情報発信として、医療関係者向けの「国立成育医療研究センターメールマガジン」と一般市民向けの「成育すこやかジャーナル」を毎月発行している。

3-5 事務部門

3-5-1 総務部

1. 概要

総務部総務課は、総務係、広報係、文書管理係、秘書係の1課4係の組織となっている。
各係の主な業務は以下のとおり

○総務係
- ・印章の保管に関すること
- ・庁舎管理に関すること
- ・防災・消防計画に関すること
- ・寝具・清掃・廃棄物に関すること
- ・自動車の管理及び配車に関すること
- ・職員に貸与する宿舎に関すること
- ・電話交換業務に関すること
- ・小口現金管理に関すること
- ・課の事務で他の所掌に属さない事務に関すること

○広報係
- ・広報に関すること
- ・施設見学に関すること

○文書管理係
- ・法令等に規定する法人文書の審査及び進達すること
- ・文書類の接受、発達及び管理に関すること
- ・訴務及び法務に関すること
- ・寄付の受入に関すること

○秘書係
- ・理事長、研究所長、院長、医局秘書等の業務管理に関すること

以上の業務を行うに当たり、総務課の役割としてセンター職員が働きやすい環境を作ることを念頭に一致団結して取り組んでいる。平成30年4月から研究所事務係所管業務に関しては研究医療課で執り行うこととなったため係数は5係から4係に減少している。

3-5-2 人事部

1.概要

人事課は、2室4係の組織となっており、職員の任免、人事制度管理、給与制度管理、勤務時間管理、安全衛生及び福利厚生等を行っている。各係の主な業務は以下のとおり。

人事管理室

・人事係:組織、職員の任免、懲戒、服務、栄典の推薦及び表彰等に関する業務を行う。

・給与係:職員の給与・諸手当の認定及び支給等に関する業務を行う。

労務管理室

・職員係:勤務時間管理、職員の教養及び訓練、労働組合等に関する業務を行う。

・厚生係:職員の安全衛生及び福利厚生、共済組合に関する業務を行う。

2.職員数

区　　分			30年度初職員数	増（採用・転入等）	減（退職・転出等）	30年度末職員数
常勤職員	副院長・部長・医長基本年俸表		75	1	3	73
	副所長・部長・室長基本年俸表		13	0	0	13
	任期付職員基本年俸表		56	12	6	62
	院長等基本年俸表		1	1	0	2
	医療職基本給表（一）		93	10	8	95
	医療職基本給表（二）		111	14	10	115
	医療職基本給表（三）		626	25	65	586
	事務職基本給表		38	0	0	38
	技能職基本給表		9	0	1	8
	研究職基本給表		0	0	0	0
	福祉職基本給表		15	0	0	15
	療養介助職基本給表		1	0	0	1
	専門技術職基本給表		6	3	1	8
非常勤職員	計		1044	66	94	1016
	医療職基本給表（一）		195	26	28	193
	内訳	医　　師	38	6	4	40
		フェロー	92	7	10	89
		レジデント	65	13	14	64
	医療職基本給表（二）		32	2	6	28
	医療職基本給表（三）		9	6	2	13
	事務職基本給表		154	30	20	164
	技能職基本給表		23	3	1	25
	研究職基本給表		128	2	7	123
	福祉職基本給表		2	0	1	1
	専門技術職基本給表		1	1	1	1
	事業費		8	15	6	17
	間接経費		0	0	0	0
	受託研究費		92	20	5	107
	成育医療研究開発費		37	20	5	52
	科学研究費		52	15	10	57
	寄付金		0	0	0	0
	計		733	135	97	781

3-5-3 企画経営部

3-5-3-1 企画経営課

1.概要

企画経営課では、センターの業務の企画及び立案並びに調整、経営戦略、中期計画及び年度計画、運営費交付金及び補助金、業績評価等に関することを行っている。

各係の主な業務は以下のとおり

○企画調整係

・センターの業務及び経営戦略の企画及び立案並びに調整に係る専門的事務の処理

・中長期計画及び年度計画に関すること

○経営係

・経営戦略に関すること

・運営費交付金及び補助金等に関すること

・経営に係る資金計画及び資金調整に関すること

○業績評価係

・業績評価に関すること

・財務諸表に関すること

・管理会計に関すること

以上の業務を行うに当たり、企画経営課の役割として、センターが独立行政法人（国立研究開発法人）として期待される役割を適切に果たせるよう、諸事項に関することを一致団結して取り組んでいる。

なお、厚生労働省の国立研究開発法人審議会（高度専門医療研究評価部会)に提出した、センターの「平成 30 年度業務実績の概要」を掲載する。

3-5-3-2 研究医療課

1. 概要

研究医療課では、成育に係る疾患の医療に関し、調査、研究及び技術の開発並びにこれらの業務に密接に関連する医療の提供に関する企画及び立案並びに調整、外部資金による研究費の経理等に関する業務を行っている。

各係等の主な業務は以下のとおり

○医療係

・研究倫理に関する委員会の事務に関すること

・再生医療等に関する委員会の事務に関すること

○研究企画係

・成育に係る疾患に関し調査及び研究に関すること

（平成 30 年度成育医療研究開発費課題一覧を掲載する）

・外部資金による研究費の経理事務に関すること

・研究費取扱いや研究倫理の研修に関すること

○研究推進係

・研究所の人事関係や経費処理等の事務に関すること

・知財（特許権等）の申請等の事務や委員会に関すること

・ES 細胞に関する委員会の事務に関すること

以上の業務を行うに当たり、研究医療課の役割として、小児・周産期医療を担う唯一の国立研究開発法人として期待される研究や調査等を適切に実施できるよう、諸事項に関することを一致団結して取り組んでいる。

平成 30 年度成育医療研究開発費課題一覧

課題番号	研究者名	所　　属	研究課題名
26-11	深見　真紀	分子内分泌研究部	成育希少疾患の症例登録と遺伝学的診断に関する研究
26-13	秦　健一郎	周産期病態研究部	原因不明先天異常・産科異常の総合診断体系の構築
26-18	大矢　幸弘	生体防御系内科部　アレルギー科	成育医療におけるゲノム情報を含む長期追跡データの構築と病因解明に関するコホート研究
26-19	堀川　玲子	生体防御系内科部　内分泌・代謝科	成育医療における妊娠環境と母子長期予後の病態解明に関するコホート研究
26-20	清河　信敬	小児血液・腫瘍研究部	小児がんの登録･中央診断の推進を基盤とする病態解明と先駆的診断法開発
27-12	新井　勝大	器官病態系内科部　消化器科	小児期発症炎症性腸疾患の病態把握、診断基準確立および将来的な治療研究基盤確立のための研究
27-15	松本　健治	免疫アレルギー・感染研究部	小児期の血漿中 miRNA プロファイルのバイオマーカーとしての有用性を検討するためのデータベース作成
28-1	小野寺　雅史	成育遺伝研究部	小児遺伝性疾患に対する遺伝子・細胞治療のための実施体制強化
28-2	東　範行	感覚器・形態外科部　眼科 視覚科学研究室	遺伝解析とヒト iPS 細胞由来視神経細胞を用いた小児の視神経障害の病態と治療の研究
28-4	小野　博	器官病態系内科部　循環器科	川崎病の病因・病態解明と新規治療戦略開発体制の構築
28-5	加藤　元博	小児がんセンター　移植・細胞治療科	小児に対する最適な造血幹細胞移植法の開発研究
28-6	鏡　雅代	分子内分泌研究部　臨床内分泌研究室	SGA 性低身長に対する遺伝子診断システムの開発と遺伝学的原因に基く身長予後および治療法の検討

28-7	齊藤　英和	周産期・母性診療センター	生殖補助医療の安全性評価に関する研究：日本産婦人科学会登録ビックデータ（2007～ 2013 年）を用いた調査研究と実証試験
28-9	斉藤　和幸	開発企画部	国立成育医療研究センターにおける ARO 機能の確立とその評価
28-10	井手　健太郎	手術・集中治療部　集中治療科	「尿を診る」急性肝不全の新規バイオマーカーの体外診断法の確立
28-12	岡村　浩司	システム発生・再生医学研究部　組織工学研究室	新規ヒトゲノム参照配列GRCh38 および日本人基準配列を活用したゲノム変異診断
28-13	上野　瞳	小児血液・腫瘍研究部	小児腎腫瘍の鑑別診断法の確立および術前診断法の検討
29-1	梅澤　明弘	再生医療センター	成育疾患に対する再生医療に関する研究
29-2	森田　英明	免疫アレルギー・感染研究部　アレルギー研究室	自然リンパ球の解析に基づいた成育期慢性炎症性疾患の新規治療標的創出
29-3	松本　公一	小児がんセンター	NCCHD lifetime cohort を基盤とした小児血液・腫瘍患者の長期フォローアップ情報の収集
29-4	内山　徹	成育遺伝研究部　疾患遺伝子構造研究室	重症複合免疫不全症の早期診断および治療体制の構築に関する研究
29-6	要　匡	ゲノム医療研究部	新生児期に肝障害をきたす疾患の病因・病態解明と迅速ゲノム診断法の確立
29-7	鳴海　覚志	分子内分泌研究部　基礎内分泌研究室	MIRAGE 症候群の自然歴と表現型スペクトラムの解明を目指した臨床研究
29-8	石黒　精	教育研修部・臨床研究教育部	小児血栓症の早期診断法と長期治療管理法の開発に関する研究
29-9	守本　倫子	感覚器・形態外科部　耳鼻咽喉科	小児固形腫瘍に対する白金製剤治療によって生じる難聴の易感受性遺伝子検索

29-11	高田　修治	システム発生・再生医学研究部	ゲノム編集による疾患の原因遺伝子同定や病態解明のための基盤技術開発
29-12	藤野　明浩	臓器・運動器病態外科部　外科	リンパ管疾患データベースの整備及び疾患関連試料基礎バンクの作成
29-13	和田　誠司	周産期・母性診療センター　胎児診療科	新しい胎児治療法と胎児治療のデータベースに関する研究
29-15	甘利　昭一郎	周産期・母性診療センター　新生児科	周産期医療における Simulation-based Training の実践，評価と新たなトレーニングプログラムの開発
29-16	宮本　幸	薬剤治療研究部	グリア細胞側から神経疾患の病態メカニズムを解く
29-17	福井　由宇子	分子内分泌研究部	クロマチン制御因子と希少疾患-新規原因遺伝子の探索と病的意義の解明-
29-18	梅原　永能	周産期・母性診療センター　産科	子宮内胎児発育遅延における管理指針作成とその病態解明
29-19	立花　良之	こころの診療部　乳幼児メンタルヘルス診療科	妊娠期から始まる、自閉スペクトラムの母親とその子どもへの支援及びそれに関係する心理社会的因子についての疫学研究
29-21	宮戸　真美	分子内分泌研究部	小児疾患発症に関与する NR5A1 を介した分子機構の解明
29-22	廖　華南	免疫アレルギー・感染研究部　母子感染研究室	先天性サイトメガロウイルス感染症の神経学的合併症に対する新規治療法の開発
29-23	柳　久美子	ゲノム医療研究部	社会実装を目指した迅速な疾患原因遺伝子解析法の開発
29-25	五十川　伸嵩	感覚器・形態外科部　歯科	在宅超重症児への訪問歯科診療導入モデル構築に関する研究
29-27	竹内　一朗	器官病態系内科部　消化器科	成分栄養剤による栄養管理が行われている乳幼児を対象とした栄養素欠乏の探索的研究

29-28	伊藤　裕司	周産期・母性診療センター　新生児科	診察指装着型オキシメータを用いた組織酸素飽和度による症候性未熟児動脈管開存症の評価の検討
29-29	杉江　真以子	免疫アレルギー・感染研究部	広範囲に上皮や内皮細胞の傷害を引き起こす疾患（アトピー性皮膚炎、炎症性腸疾患、川崎病、好酸球性胃腸炎）における活性型 IL-33 のサブタイプの解析
29-30	金沢　英恵	感覚器・形態外科部　歯科	小児がん治療後の歯科合併症に関する研究
30 指-1	宮入　烈	生体防御系内科部　感染症科	分子生物学的診断法の感染症診療と感染対策への応用
30 指-2	清河　信敬	小児血液・腫瘍研究部	小児がん中央分子診断の自立化を目標とした体制整備に関する研究
30 指-3	今留　謙一	高度感染症診断部	成育医療における病原体迅速診断システムの構築と応用
30-1	富澤　大輔	小児がんセンター　血液腫瘍科	小児希少難治性白血病に対する新規治療の国際共同臨床試験実施に向けた早期相開発
30-2	笠原　群生	臓器移植センター	小児臓器移植医療の標準化・次世代育成に関する研究
30-3	宮入　烈	生体防御系内科部　感染症科	小児における感染症の重症化の病態解明に関する研究
30-4	阿久津　英憲	生殖医療研究部	PFIC1 型の重篤な小腸吸収不全に対する治療法開発
30-5	左合　治彦	周産期・母性診療センター	臨床試験による胎児治療法方法の確立に関する研究
30-6	小林　徹	企画運営部	冠動脈病変合併川崎病患者に対するアトロバスタチンの安全性と薬物動態を検討する多施設共同第 I/IIa 相試験
30-7	亀井　宏一	器官病態系内科部　腎臓・ﾘｳﾏﾁ・膠原病科	免疫抑制薬を内服中の腎・リウマチ・消化器・肝疾患および固形臓器移植後の患者への弱毒生ワクチン接種の有効性と安全性についての検討－多施設前向き研究および全国実態調査―

30-8	今留　謙一	高度感染症診断部	難治性ウイルス感染症に対する免疫細胞療法の開発と効果評価及び治療適応評価プラットホームの開発研究
30-9	大隅　朋生	小児がんセンター　血液腫瘍科	体細胞における HLA 欠失による移植後 GVHD からの免疫回避に関する研究
30-11	浦山　ケビン	社会医学研究部	小児血液悪性腫瘍克服患者における晩期合併症の予後予 測バイオマーカーを探索するためのオミクス解析研究
30-14	大木　健太郎	小児血液・腫瘍研究部　分子病理研究室	小児白血病/リンパ腫の発症や予後に関係する融合遺伝子のパートナー遺伝子検出・診断法の開発
30-15	田中　恭子	こころの診療部　児童・思春期リエゾン診療科	療養環境におけるロボット介在療法が慢性疾患を有する子どもと家族に与える癒し効果の検証
30-16	諫山　哲哉	周産期・母性診療センター　新生児科	Asian Neonatal Network Collaboration の立ち上げ準備研究
30-17	余谷　暢之	総合診療部　緩和ケア科	小児緩和ケアにおける質の評価尺度の開発と測定
30-18	金子　幸裕	臓器・運動器病態外科部　心臓血管外科	位相差X線CT法による先天性心疾患を有する心大血管の微細構造の研究
30-19	河合　利尚	生体防御系内科部　免疫科	網羅的病原体ゲノム解析による感染症の早期診断法に関する研究
30-20	梨井　康	RI 管理室	シングル細胞遺伝子発現解析による臓器移植後免疫寛容状態情報の構築
30-21	中村　浩幸	免疫アレルギー・感染研究部　母児感染研究室	先進的感染モデルの活用による母児感染症に対する新規治療法開発に関する研究
30-22	新城　大輔	情報解析室	小児医療における施設集約と医療の質の関係性の検証
30-23	仁科　幸子	感覚器形態外科部　眼科	小児の視機能に対する ICT の影響に関する研究

30-24	加藤　承彦	社会医学研究部　行動科学研究室	不妊治療を受ける女性の精神的健康度とQuality of Life の変化に関する疫学研究
30-25	馬場　祥行	感覚器・形態外科部　歯科	永久歯の萌出異常を伴う先天性疾患に関する歯科矯正学的検討
30-26	盛一　享徳	小児慢性特定疾病情報室	成育データコモンズの構築
30-27	松谷　弘子	看護部	看護師の師長との面談と離職意向との関連
30-28	原　聡史	システム発生・再生医学研究部	ヒト IG-DMR におけるインプリント制御の分子機構の解析
30-29	三上　剛史	データ管理部　生物統計室	研究計画書作成トレーニング指導プログラム開発と人材育成
30-30	栗山　猛	薬剤部 ／ 開発推進部　ネットワーク推進室 ／ 小児治験ネットワーク事務局	小児開発推進のための小児 CRC 養成およびアセントフォーム作成に関する研究
30-31	庄司　健介	生体防御系内科部　感染症科	小児患者における β ラクタム系抗菌薬の院内血中濃度測定系の確立と、その薬物動態に関する検討
30-32	福井(岡崎)加奈	教育研修部・臨床研究教育部	早期ビタミン B1/B6 および L カルニチン投与による AESD 発症予防効果
30-33	宮本　義孝	細胞医療研究部	3D 血管モデルから紐解く卵や成育疾患の病態メカニズムの解明
30-34	彦坂　信	感覚器形態外科部　形成外科	口唇口蓋裂患者の QOL・患者報告アウトカムを計測する質問紙「CLEFT-Q」の翻訳と言語的妥当性の検証
30-35	和田　友香	周産期・母性診療センター　新生児科	先天性横隔膜ヘルニアにおける遺伝的要因の探索
30-36	山本　依志子	政策科学研究部	無痛分娩における麻酔導入時の胎児徐脈の原因究明、治療法の開発に関する研究

30-37	瓜生 英尚	周産期病態研究部　メディカルゲノムセンター	機械学習法を用いたクロマチン高次構造の予測モデル構築

For system building to support child-rearing

子育てを支えるシステムづくりのために

本館棟

平成30年度実績評価説明資料

（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

研究棟

健全な次世代を育成する社会

国立成育医療研究センターは、十分に自己主張できない子どもの代わりになって行動を起こすことを念頭に、「人のライフサイクル」の過程に生じるさまざまな健康問題に関する医療と研究を推進します。

国立研究開発法人
国立成育医療研究センター
National Center for Child Health and Development

目　　次

評価番号	内　容・評価項目		自己評価	頁
-	国立成育医療研究センター概要			2
-	国立成育医療研究センター事業体系図			3
-	国立成育医療研究センター組織図			4
1-1	研究開発の成果の最大化その他の業務の質の向上に関する事項	担当領域の特性を踏まえた戦略かつ重点的な研究・開発の推進	S	5
1-2		実用化を目指した研究・開発の推進及び基盤整備	S	13
1-3		医療の提供に関する事項	S	19
1-4		人材育成に関する事項	A	26
1-5		医療政策の推進等に関する事項	A	30
2-1	業務運営の効率化に関する事項	業務運営の効率化に関する事項	B	35
3-1	財務内容の改善に関する事項	財務内容の改善に関する事項	B	37
4-1	その他の事項	その他業務運営に関する重要事項	A	39
-	平成30年度財務状況			41

国立成育医療研究センター概要

1．設　　立

◇平成14年3月1日
　国立成育医療センター開設

◇平成22年4月1日
　高度専門医療に関する研究等を行う独立行政法人に関する法律（平成20年法律第93号）に基づき設立された非特定独立行政法人

◇平成27年4月1日
　国立研究開発法人 国立成育医療研究センターへ移行

2．センターの行う業務

① 成育医療に関する調査、研究及び技術の開発
② 上記①の業務に密接に関連する医療の提供
③ 成育医療に関する、技術者の研修の実施
④ 上記①～③の業務に係る成果の普及及び政策の提言の実施
⑤ 上記①～④の業務に附帯する業務の実施

3．組　織

◇ 研究所
　・再生医療センター
　・バイオバンク
◇ 臨床研究センター
◇ 病　院

4．役職員数

◇ 役員数（平成30年4月１日現在）
　常勤3名　非常勤3名（うち監事2名）
◇ 職員数（平成31年1月1日現在）
　常勤1,079名　非常勤457名

5．病院の規模

◇ 病床数（一般）490床
◇ 患者数（平成30年度実績）
　・入院患者数（1日平均）　386.1人
　・外来患者数（1日平均）1,010.7人

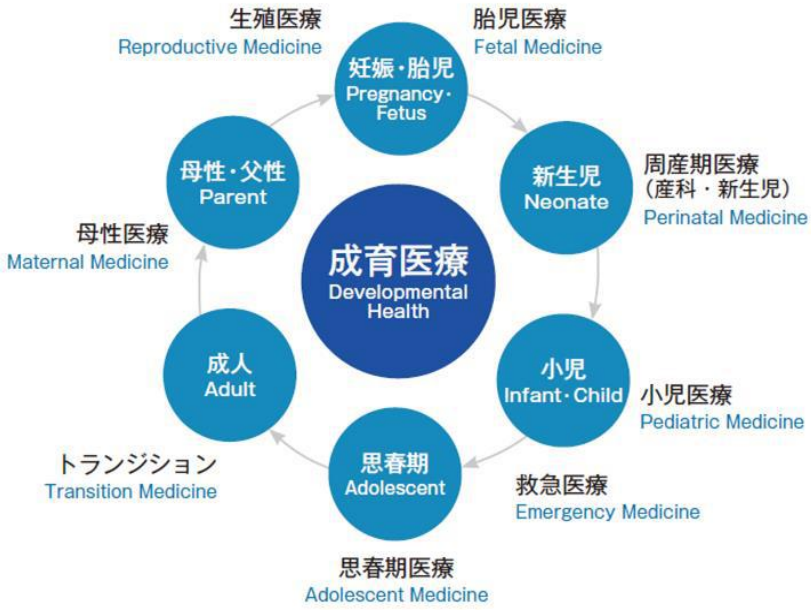
6．センターの理念

病院と研究所が一体となり、健全な次世代を育成するための医療と研究を推進します。

7．センターの基本方針

① 成育医療のモデル医療や高度先駆的医療をチーム医療により提供します。
② 成育医療の調査・研究を推進します。
③ 成育医療の専門家を育成し啓発普及のための教育研修を行います。
④ 成育医療の情報を集積し社会に向けて発信します。

小児・周産期医療を担う我が国最大の医療研究センター



国立成育医療研究センター事業体系図

研究・開発に関する事項

○担当領域の特性を踏まえた戦略的かつ重点的な研究・開発の推進
○実用化を目指した研究・開発の推進及び基盤整備

医療の提供に関する事項

○医療政策の一環として、センターで実施すべき高度かつ専門的な医療、標準化に資する医療の提供
○患者の視点に立った良質かつ安心な医療の提供

人材育成、医療政策の推進等に関する事項

○リーダーとして活躍できる人材の育成
○モデル的研修・講習等の実施
○国への政策提言に関する事項
○医療の均てん化並びに情報の収集及び発信に関する事項
○公衆衛生上の重大な危害への対応

→ 高度先駆的医療の開発、普及による公衆衛生の向上、増進

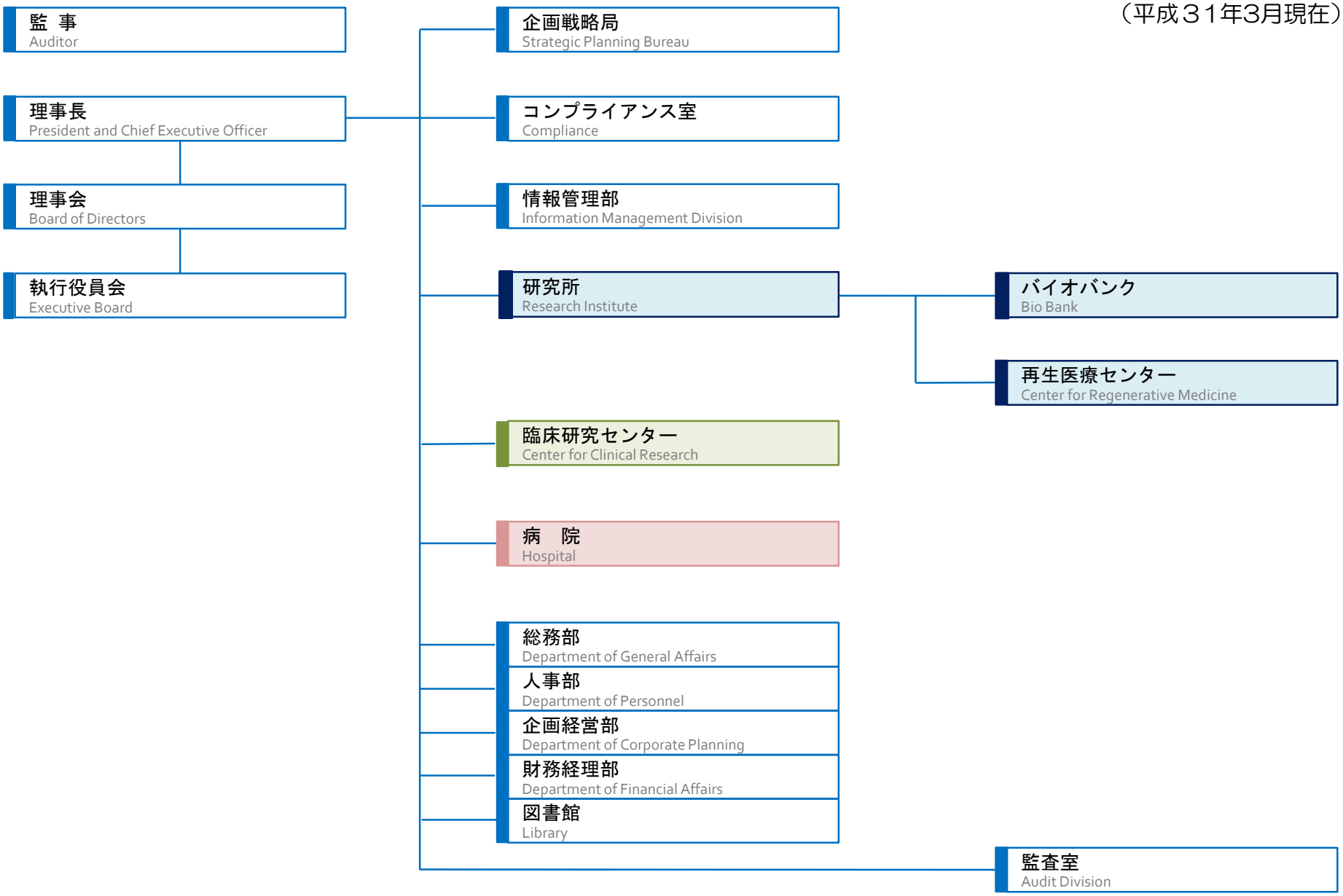
人材育成、医療政策の推進等に関する事項

○効率的な業務運営体制
○収支改善、収入の確保、電子化の推進
○予算、収支計画及び資金計画、短期借入金の限度額、剰余金の使途
○法令遵守等内部統制の適切な構築
○その他厚生労働省令で定める業務運営に関する事項

→ 効率的な業務運営の実施による安定的な経営基盤の確立

国立成育医療研究センター組織図

（平成３１年3月現在）



評価項目Ｎｏ．１－１　担当領域の特性を踏まえた戦略かつ重点的な研究・開発の推進

自己評価　Ｓ　（過去の主務大臣評価　　H27年度：Ａ　H28年度：Ｓ　H29年度：Ｓ）

Ⅰ　中長期目標等の内容

・　成育医療分野において、大学や企業等と相互の強みを活かしながら有機的な連携を行い、独創的な研究を展開するほか、成育医療に資する研究目標を定め、研究を推進するとともに、医療に大きく貢献する研究成果を2件以上あげる。
・　原著論文発表数を前年度と比して、1%以上増加させる。（394本×101%＝397.9本）

【重要度「高」の理由】
　担当領域の特性を踏まえた戦略的かつ重点的な研究・開発の推進は、国民が健康な生活及び長寿を享受することのできる社会を形成するために極めて重要であり、研究と臨床を一体的に推進できるＮＣの特長を活かすことにより研究成果の実用化に大きく貢献することが求められているため。

【難易度「高」の理由】
　免疫不全症や先天性代謝異常症等の多くは希少疾患・難治疾患であり、治療の対象となる患者数が極めて少ないことから全国的なネットワーク形成等により患者情報を集約した上、研究開発を多施設共同で取り組む必要がある。
　また、倫理的な観点からも、これらの疾患に対する診断・治療等に関し我が国におけるコンセンサスを同時に形成していく必要があるという困難な面もあるため。

Ⅱ　目標と実績との比較

以下のとおり、**所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果をあげている。**

【定量的指標】
・　**医療に大きく貢献する研究成果**　　目標値：　2（件／年）　　実績：　3（件／年）　　（達成度 150.0%）

平成30年度の研究成果
①小児急性リンパ性白血病における抗がん剤によるオーダーメード医療の手法を確立
　重篤な副作用を生じる患者をあらかじめ予測することが可能となり、患者の体質に応じた適切な抗がん剤投与量を推測することができる。
②妊娠マウスへの特殊な抗体を投与する研究による根本的なアレルギー疾患の予防法を解明
　妊娠中マウスに抗IgE抗体を投与することで、仔のIgE抗体の生産が長期間抑制されることが明らかとなった。研究成果は、乳幼児期におけるアレルギー疾患の根本的な予防法となり得る可能性がある。
③エコチル調査パイロット調査に参加している子どもが家庭で使用する寝具から鶏卵アレルゲンを100%検出
　子どもの家庭環境における寝具類の鶏卵アレルゲンの測定を日本で初めて実施した。研究成果をもとに家庭内での鶏卵アレルゲン拡散の機序解明につなげる。

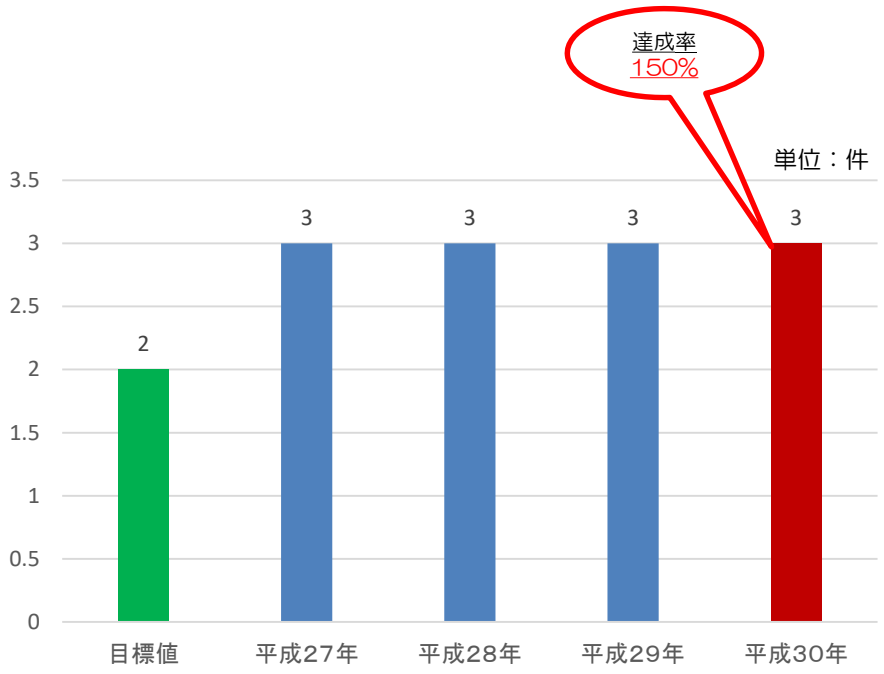
・　**原著論文発表集**　　目標値：　397.9（本／年）　　実績：400（本／年）　　（達成度　100.5%）

【定性的指標】
・　希少・未診断疾患イニチアチブにおいて、原因不明の神経難病の原因を解明
・　成育疾患の分子基盤解明：新規インプリンティング疾患の発見、疾患原因遺伝子の解明、バイオマーカーの開発
・　ＣＰＴ２欠損症の新生児マススクリーニング：正規対象疾患として全国での実施がスタート

担当領域の特性を踏まえた戦略かつ重点的な研究・開発の推進

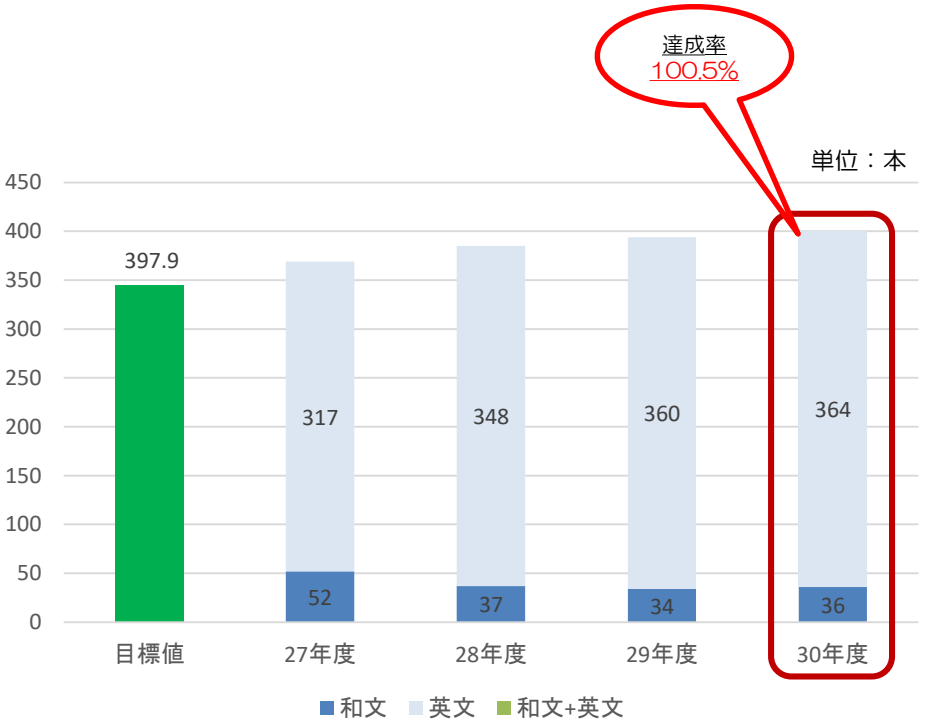
＜定量的指標＞

（1）医療に大きく貢献する研究成果



（目標値）
●30年度計画：2（件／年）
●30年度実績：3（件／年）
●達成率　　：150%

（2）原著論文発表数



（目標値）
●30年度計画：397.9（本／年）
●30年度実績：400　（本／年）
●達成率　　：100.5%

担当領域の特性を踏まえた戦略かつ重点的な研究・開発の推進

① 小児急性リンパ性白血病における抗がん剤によるオーダーメード医療の手法を確立（評価書10頁）

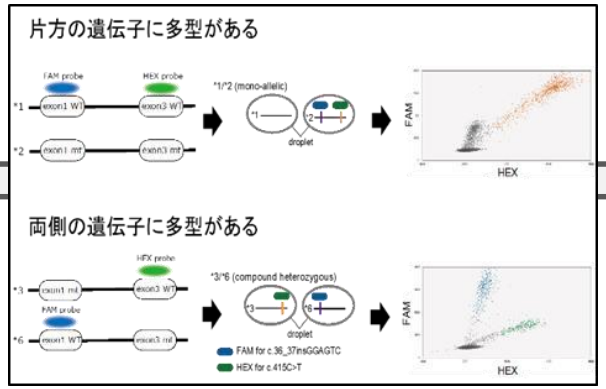
注目

重篤な副作用を生じる患者をあらかじめ予測することが可能となり、患者の体質に応じた適切な抗がん剤投与量を推測することができる。

2016年度	2017年度	2018年度	2019年度以降
・小児急性リンパ性白血病（ALL）における維持療法の意義を検証した（Leukemia 2017）。 ・国際共同研究を通じて、小児ALLの維持療法などで用いる治療薬「6-メルカプトプリン（6MP）まで」の感受性にNUDT15遺伝子多型が関与していることを特定した（Nat Genet 2016）。		・NUDT15遺伝子の複数の多型が6MPによる副作用の起こりやすさに関連することを検証し、多型の正確な解析法を確立した（Leukemia 2018）。 ・NUDT15遺伝子多型を指標とした6MPの適切な投与量の推定について、国際的なガイドラインにも掲載された（Clin Pharmacol Ther 2018）。 ・国内でもNUDT15遺伝子多型を検査することの意義が認識され、2019年2月から保険適用となった。	・NUDT15遺伝子の多型に応じた6MPの最適な投与量を設定した前方視的臨床試験を開始する。

従来：経験的な投与量調整

一律な量の6MP投与
- 感受性の低い患者 → 治療効果の不足
- 感受性の高い患者 → 過度な副作用



遺伝的多型に基づいた投与量調整

- NUDT15多型なし →十分な投与量
- NUDT15多型あり →減量した安全な投与量

→ 患者の体質にあった適切で安全な治療

NUDT15遺伝子多型の詳細かつ正確な解析

※多型（**たけい**）：遺伝子配列の個人差であり、遺伝的な体質の違いをもたらすことがある。

CPIC UPDATE

Clinical Pharmacogenetics Implementation Consortium Guideline for Thiopurine Dosing Based on *TPMT* and *NUDT15* Genotypes: 2018 Update

Mary V. Relling[1], Matthias Schwab[2,3,4], Michelle Whirl-Carrillo[5], Guilherme Suarez-Kurtz[6], Ching-Hon Pui[7], Charles M. Stein[8], Ann M. Moyer[9], William E. Evans[1], Teri E. Klein[5], Federico Guillermo Antillon-Klussmann[10,11], Kelly E. Caudle[1], Motohiro Kato[12], Allen E.J. Yeoh[13,14], Kjeld Schmiegelow[15,16] and Jun J. Yang[1]

日本でも検査が保険適用（2019年2月～）

診療における標準的検査へ

国際的なガイドライン整備

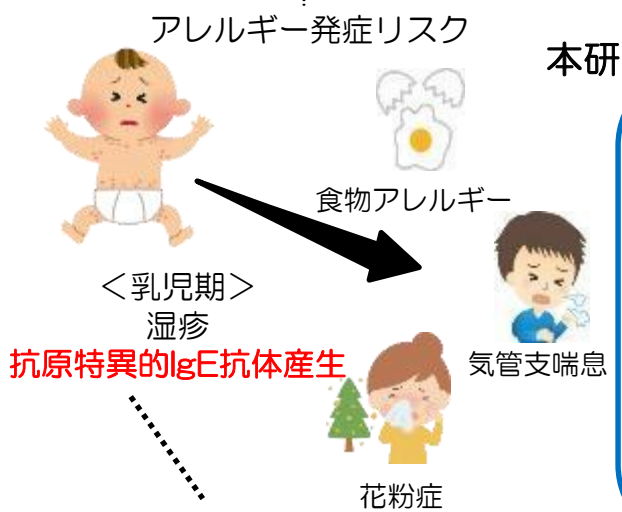
担当領域の特性を踏まえた戦略かつ重点的な研究・開発の推進

② 妊娠マウスへの特殊な抗体を投与する研究による根本的なアレルギー疾患の予防法を解明（評価書10頁）

注目

妊娠中マウスに抗IgE抗体を投与することで、仔のIgE抗体の生産が長期間抑制されることが明らかとなった。研究成果は、乳幼児期におけるアレルギー疾患の根本的な発症予防法となり得る可能性がある。

2016年度	2017年度	2018年度	2019年度以降
・仔マウスにおけるアレルギー疾患発症を評価する実験系の確立。		・抗IgE抗体のアレルギー疾患発症予防に対する効果を、マウスモデルを用いて検討。 ・その結果、妊娠中マウスに抗IgE抗体を投与することで、仔のIgE抗体の産生が長期間抑制されることが明らかとなった。	・抗IgE抗体を用いた臨床研究の実施を検討。

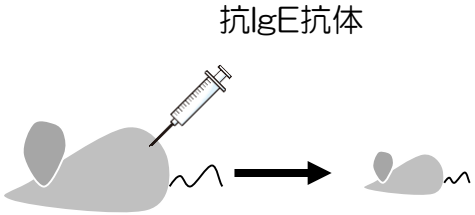


乳児期のIgE抗体産生抑制

↓

アレルギー疾患発症抑制

本研究で明らかになった抗IgE抗体の効果



アレルギー疾患の根本的な発症予防法となり得る

ぜんそく 食物アレルギー
アトピー性皮膚炎 花粉症
生まれる前に予防
マウスで確認 母体に注射 原因細胞なくす

欧州アレルギー臨床免疫学会 Phadia Allergy Research Forum (PhARF) Award受賞

平成30年11月27日朝日新聞（朝刊一面）

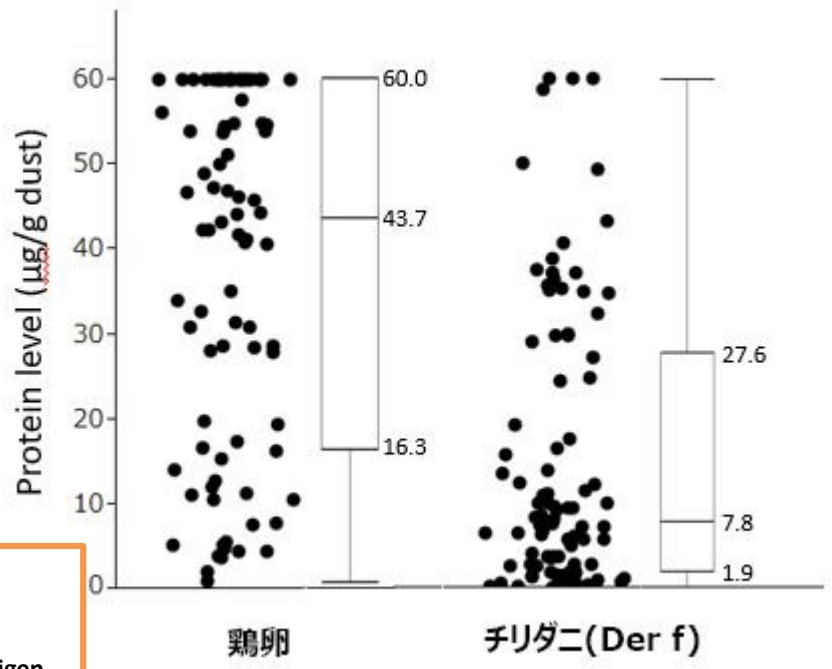
担当領域の特性を踏まえた戦略かつ重点的な研究・開発の推進

③ エコチル調査パイロット調査に参加している子どもが家庭で使用する寝具から鶏卵アレルゲンを100%検出（評価書11頁）

注目

子どもの家庭環境における寝具類の鶏卵アレルゲンの測定を日本で初めて実施した。研究成果をもとに、家庭内での鶏卵アレルゲン拡散の機序解明等につなげる。

2016年度	2017年度	2018年度	2019年度以降
・環境省事業で実施した「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」のパイロット調査で実施した。 ・3歳の子どもの家庭訪問により約90件の家庭を対象とした。 ・子どもが使用している寝具に掃除機をかけて埃を収集・埃中の鶏卵アレルゲン量とチリダニアレルゲン量を測定し比較した。		・鶏卵アレルゲンがすべての子どもの寝具に認められた。 ・鶏卵アレルゲンはダニアレルゲンよりも高濃度であった。	・環境中の鶏卵曝露の」影響が鶏卵アレルギー発症に関与するか機序の解明に期待。



・湿疹によりバリア機能が低下した皮膚から環境中の鶏卵アレルゲンが侵入。
↓
・経皮感作（IgE抗体を作る）を引き起こし、鶏卵アレルギーの発症をしているのでは？

・経皮感作は食物アレルギーの発症原因として重要視されてる。

発表論文情報
著者：北沢博、山本貴和子、齋藤麻耶子、松本健治
斎藤博久、大矢幸弘、他
題名：Egg antigen was more abundant than mite antigen in children's bedding: findings of the pilot study of The Japan Environment and Children's Study (JECS)
掲載誌：Allergology International

担当領域の特性を踏まえた戦略かつ重点的な研究・開発の推進

○ 希少・未診断疾患イニシアチブにおいて、原因不明の神経難病の原因を解明（評価書9頁）

神経機能と構造が異常になる神経難病の新規原因の発見は、正確な診断が可能になるとともに、神経機能の回復を目指した治療開発研究の推進に役立つ。

2016年度

・診断のつかない難病に対する研究プロジェクト、小児希少・未診断疾患イニシアチブ（IRUD-P）の中心的施設として研究実施。
・全国各地の拠点病院、協力病院より患者および家族の臨床情報、検体（3,539検体）を収集。
・解析の結果34.3%で診断に到達、まだ、新規原因遺伝子を発見。

2017年度

2018年度

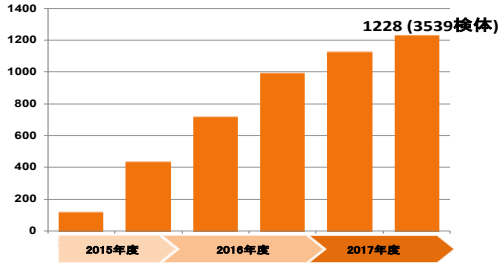
・全く診断のつかない症例（948症例）の全遺伝子シーケンスを中心とした解析により37.1%の診断到達。
・原因不明の神経難病（痙性両麻痺、大脳構造異常を呈する）の新規原因遺伝子JIP3（MAPK8IP3）を発見。[Annals of Neurology（IF=10.25）にてon line発表]。

2019年度以降

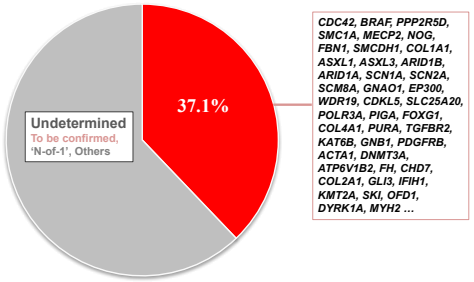
・診断困難・原因不明患者の解析と診断。
・新規疾患原因遺伝子の探索、発見。
・ゲノム診断法の普及。
・難病治療開発研究。

IRUD成育C協力病院および拠点病院

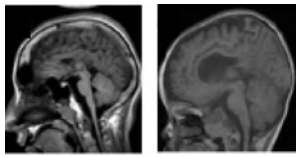
累積家系数(検体数)

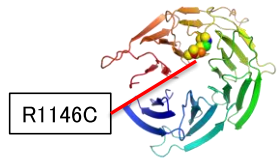


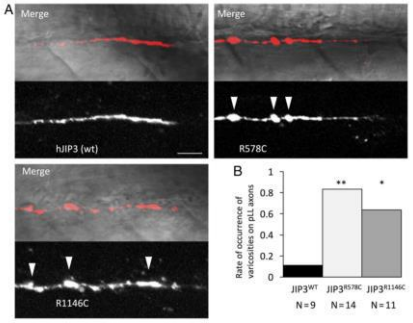
原因到達率



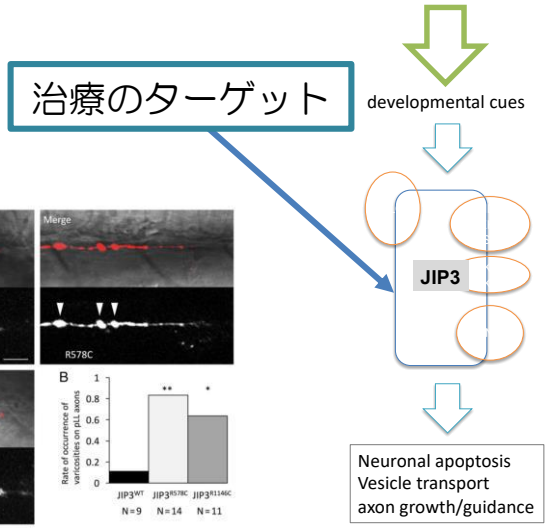
原因不明の神経難病







治療のターゲット



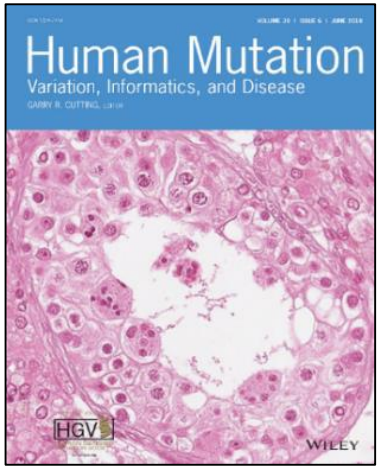
担当領域の特性を踏まえた戦略かつ重点的な研究・開発の推進

○ 成育疾患の分子基盤解明：新規インプリンティング疾患の発見、疾患原因遺伝子の解明、バイオマーカーの開発（評価書14頁）

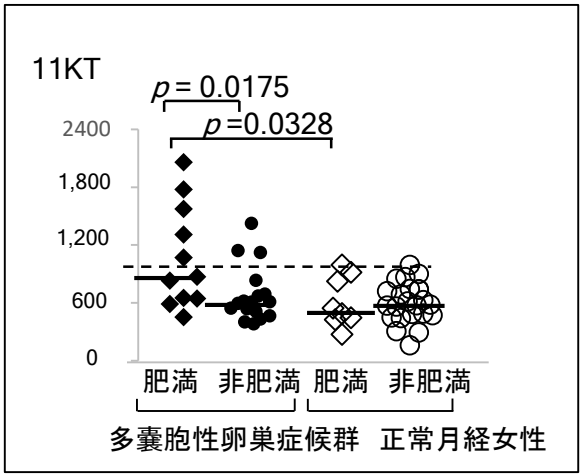
これまで原因不明であった成育疾患患者の診断が可能となり、発症機序に基づいた治療法が開発される。

2016年度	2017年度	2018年度	2019年度以降
• 国内外の医療機関と連携し、10,000以上の成育疾患検体を集積。 • 次世代シークエンス、パイロシークエンスなど最新技術を用いたゲノム・エピゲノム解析システムを開発。 • バイオインフォマティックス解析、細胞とモデル動物を用いた遺伝子機能評価システムを確立。		• 2つの新たなインプリンティング疾患を発見。 • 生殖機能障害の新たな原因遺伝子を発見。 • 多嚢胞性卵巣症候群の診断バイオマーカーとなるステロイドを同定。	• 先天性疾患クリニカルシークエンス実装化。 • 分子基盤に基づいた新規治療法の開発。 • 国際共同研究の推進。

新たなインプリンティング疾患
（20番染色体母性片親性ダイソミー症候群）を発見



STX2遺伝子異常が
精子成熟停止を招くことを発見



１１ケトテストステロン測定が
多嚢胞性卵巣症候群患者の診断
に役立つことを証明

担当領域の特性を踏まえた戦略かつ重点的な研究・開発の推進

○ CPT2欠損症の新生児マススクリーニング：正規対象疾患として全国での実施がスタート（評価書23頁）

乳幼児突然死の原因となる脂肪酸代謝異常症の中でも、日本では、特に急死リスクの高い遺伝子型による患者の比率が高く、スクリーニングによる大きな予防効果が期待される。

2016年度

・脂肪酸代謝異常症「カルニチンパルパルミトイルトランスフェラーゼ２(CPT2)欠損症」の表現型は、

欧米：大半が骨格筋症状のみ。
日本：低血糖を伴う急性発症による乳幼児の急死例が多発（表）。

・2014年度～「タンデムマス法」による新生児マススクリーニング開始：CPT2欠損症は指標の感度不足から対象外。

・新指標（C16 + C18:1)/C2 AND 14/C3（カットオフ99.9パーセンタイル）の有用性を報告（Mol Genet Metab 2016)。

2017年度

2018年度

・CPT2欠損症マススクリーニングが全自治体で開始された。

・我々が診断した発見患者数：平成30年度は6例に増加（図)。

・遺伝子型：
試験研究期発見例を合わせた13例中11例に、複数の日本人急死例で既報の変異（p.E174K, p.F383Y）を同定。

・これらの知見を改訂中の診療ガイドラインに反映させた。

・担当医に急死リスクを喚起するリーフレットを作成配布した。

・これまでの知見をまとめた総説を公表した。
（J Hum Genet 2019, 日小児会誌 2019）

2019年度以降

・発見患者の家族に急性発症リスクを喚起するリーフレットを作成・配布する。

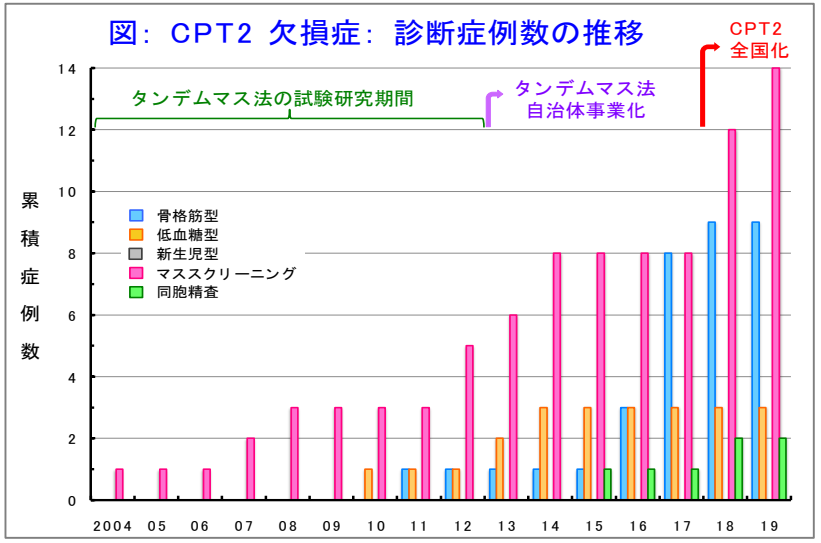
・2018年度に全国で発見されたCPT2欠損症患者数を明らかにする。

・計画中の「難病プラットフォーム」患者登録システムを利用して、発見患者を追跡する仕組みを構築する。

表：先天代謝異常症が判明した乳幼児急死例

症例	新生児マススクリーニング	発症齢	発症形態・前駆症状	転帰	診断	備考
1	三頭酵素欠損症疑い	8m	インフルエンザ	急死(当日)	CPT2	再採血で正常化 → 精査せず
2	CPT2 欠損症疑い	8m	発熱	急死(経過不詳)	CPT2	対象疾患外 → 精査せず
3	タンデムマス未開始	3d	チアノーゼ　低体温	急死(翌日)	CPT2	
4	タンデムマス未開始	1m	なし	睡眠中に死亡	VLCAD	
5	タンデムマス未開始	4m	感冒症状	急死(数日後)	CPT2	
6	タンデムマス未開始	6m	感冒症状	急死(数日後)	CPT2	
7	タンデムマス未開始	8m	不詳	急死(経過不詳)	MCAD	
8	タンデムマス未開始	9m	発熱　下痢	急死(翌日)	CPT2	
9	タンデムマス未開始	9m	不詳	急死(経過不詳)	GA2	
10	タンデムマス未開始	11m	感冒症状	急死(当日)	CPT2	
11	タンデムマス未開始	1y1m	発熱	急死(経過不詳)	CPT2	
12	タンデムマス未開始	1y1m	低血糖　けいれん	急死(６日後)	CPT2	
13	タンデムマス未開始	1y5m	意識障害　けいれん	急死(経過不詳)	VLCAD	
14	タンデムマス未開始	1y8m	不詳	急死(経過不詳)	MCAD	
15	タンデムマス未開始	不詳	Reye 様症状	急死(経過不詳)	CPT2	
16	タンデムマス未開始	不詳	インフルエンザ	急死(数日後)	CPT2	
17	タンデムマス未開始	不詳	不詳	急死(経過不詳)	CPT2	双胎例
18	タンデムマス未開始	不詳	不詳	急死(経過不詳)	CPT2	

図：CPT2 欠損症：診断症例数の推移



評価項目Ｎｏ．１－２　実用化を目指した研究・開発の推進及び基盤整備

自己評価　Ｓ　（過去の主務大臣評価　　H27年度：Ｂ　H28年度：Ａ　H29年度：Ａ）

Ⅰ　中長期目標等の内容

- 企業や大学等との連携を強化し、共同研究や受託研究を推進する。これにより共同・受託研究を、前年度に比べ1%以上増加させる。（146件×101%＝147.5件）
- 職務発明委員会における審査件数を、前年度に比べ2%以上増加させる。（14件×102%＝14.3件）
- First in Human／ First in Child（ヒト（子ども）に初めて投与する）試験実施数を1件、医師主導治験実施件数を3件開始する。
- 先進医療承認件数を3件以上とする。（3件／6年＝0.5件）（中長期計画）
- 臨床研究実施件数（倫理委員会にて承認された研究）を前年度に比し、1%増加させる。（255件×101%＝257.6件）
- 治験（製造販売後臨床試験も含む。）の実施件数を、前年度に比し、1%増加させる。（52件×101%＝52.5件）
- 学会等が作成する診療ガイドラインへの採用件数を10件とする。

【重要度「高」の理由】

実用化を目指した研究・開発の推進及び基盤整備は、国民が健康な生活及び長寿を享受することのできる社会を形成することのできる社会を形成するために極めて重要であり、研究と臨床を一体的に推進できるＮＣの特長を活かすことにより、研究成果の実用化に大きく貢献することが求められているため。

Ⅱ　目標と実績との比較

以下のとおり、**所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果をあげている。**

【定量的指標】

・ 共同研究の実施件数	目標値：	147.5（件／年）	実績値：	155（件／年）	（達成度	105.1%）
・ 職務発明審査件数	目標値：	14.3（件／年）	実績値：	9（件／年）	（達成度	62.9%）
・ First in Human試験実施数	目標値：	1（件／年）	実績値：	1（件／年）	（達成度	100.0%）
・ 医師主導治験実施件数	目標値：	3（件／年）	実績値：	4（件／年）	（達成度	133.3%）
・ 先進医療承認件数（中長期計画）	目標値：	0.5（件／年）	実績値：	0（件／年）	（達成度	0.0%）
・ 臨床研究実施件数	目標値：	257.6（件／年）	実績値：	314（件／年）	（達成度	121.9%）
・ 治験実施件数	目標値：	52.5（件／年）	実績値：	55（件／年）	（達成度	104.8%）
・ 学会ガイドライン採用件数	目標値：	10（件／年）	実績値：	28（件／年）	（達成度	280.0%）

【定性的指標】

- 無心体双胎に対するラジオ波焼灼術の適応拡大・保険収載
- 小児難病に対する胎内治療の治験開始
- 小児治験ネットワーク

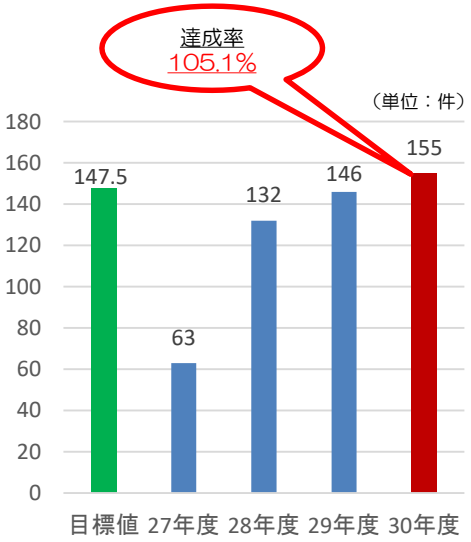
実用化を目指した研究・開発の推進及び基盤整備

自己評価【S】

＜定量的指標＞

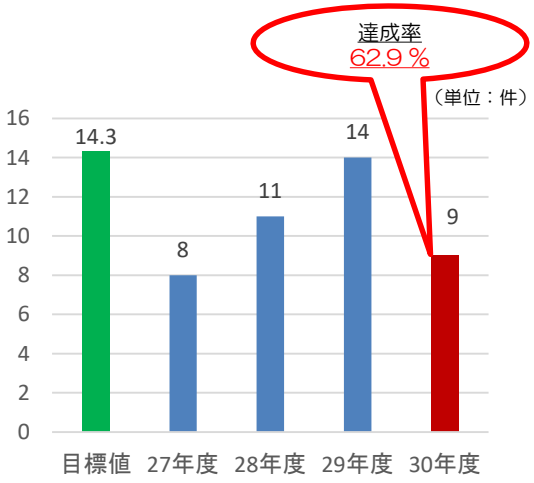
（1）共同・受託研究数

（目標値）
●30年度計画：147.5（件／年）
●30年度実績：155（件／年）
●達成率　　：105.1%



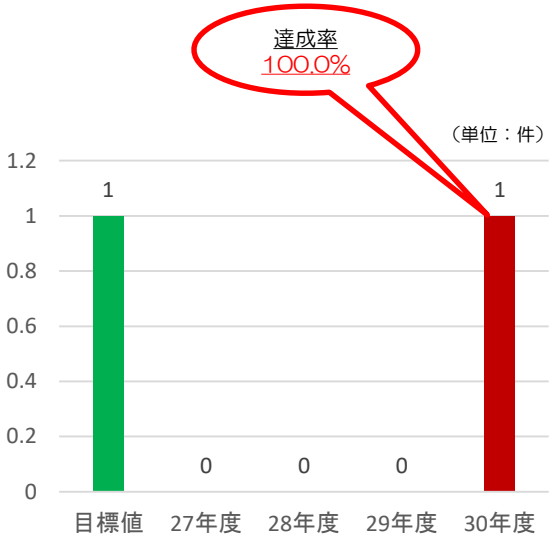
（2）職務発明委員会審査件数

（目標値）
●30年度計画：14.3（件／年）
●30年度実績：9（件／年）
●達成率　　：62.9%



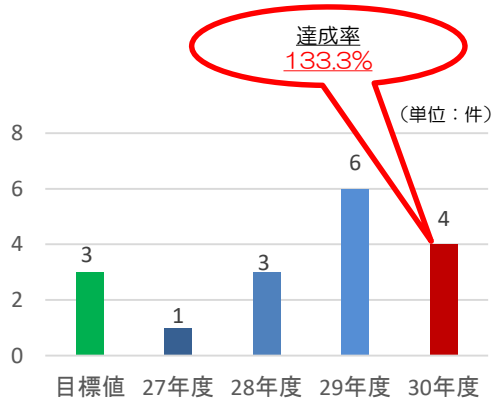
（3）First in Human／ First in Child 試験実施数

（目標値）
●30年度計画：1（件／年）
●30年度実績：1（件／年）
●達成率　　：100.0%



（4）医師主導治験実施数

（目標値）
●30年度計画：3（件／年）
●30年度実績：4（件／年）
●達成率　　：133.3%



・平成30年度は、医師主導治験4件（HAES移植治療、胎内ガンマグロブリン療法、ヘリウム・酸素混合ガス、ピリドキサミン）を新規に開始した。

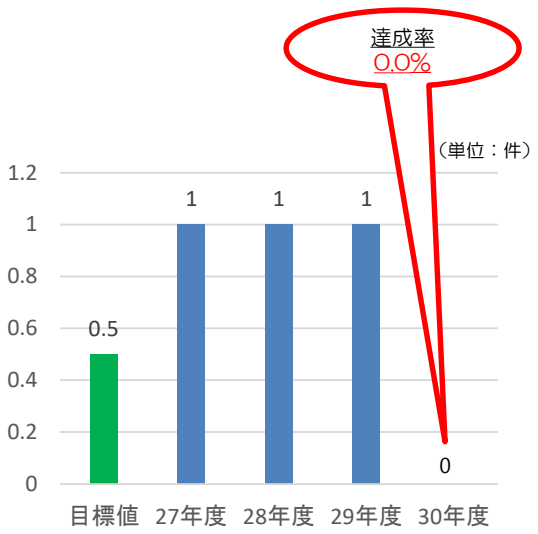
研究開発の成果の最大化その他の業務の質の向上に関する事項

実用化を目指した研究・開発の推進及び基盤整備

＜定量的指標＞

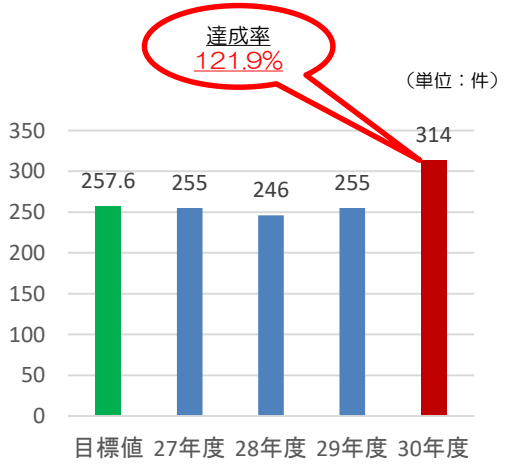
（5）先進医療承認件数

（目標値）
- ●中長期計画　：0.5（件／年）
- ●30年度実績：0（件／年）
- ●達成率　　：0.0%



（6）臨床研究実施件数（倫理委員会にて承認された研究）

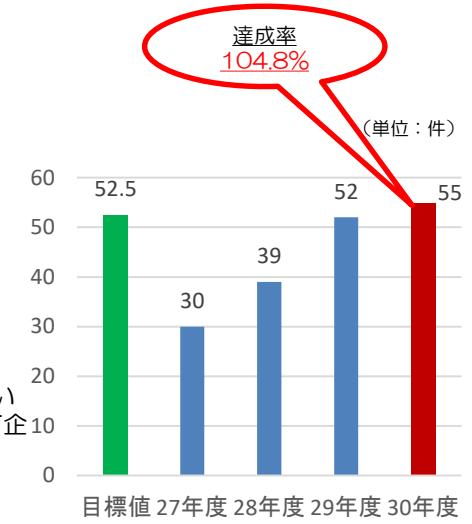
（目標値）
- ●30年度計画：257.6（件／年）
- ●30年度実績：314（件／年）
- ●達成率　　：121.9%



（7）治験（含製造販売後臨床試験）実施件数

（目標値）
- ●30年度計画　：52.5（件／年）
- ●30年度実績　：55　（件／年）
- ●達成率　　：104.8%
  - ・企業治験41件
  - ・医師主導治験14件

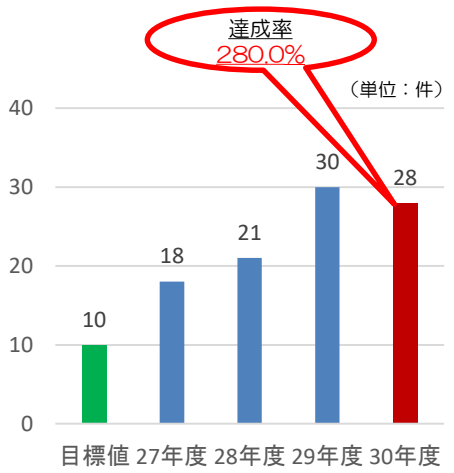
（内、小児治験ネットワークを利用しているものは、当センターでは、18件すべて企業治験）



（8）診療ガイドライン採用件数

（目標値）
- ●30年度計画：10（件／年）
- ●30年度実績：28（件／年）
- ●達成率　　：280.0%

（学会が作成する診療GIへの参画数）

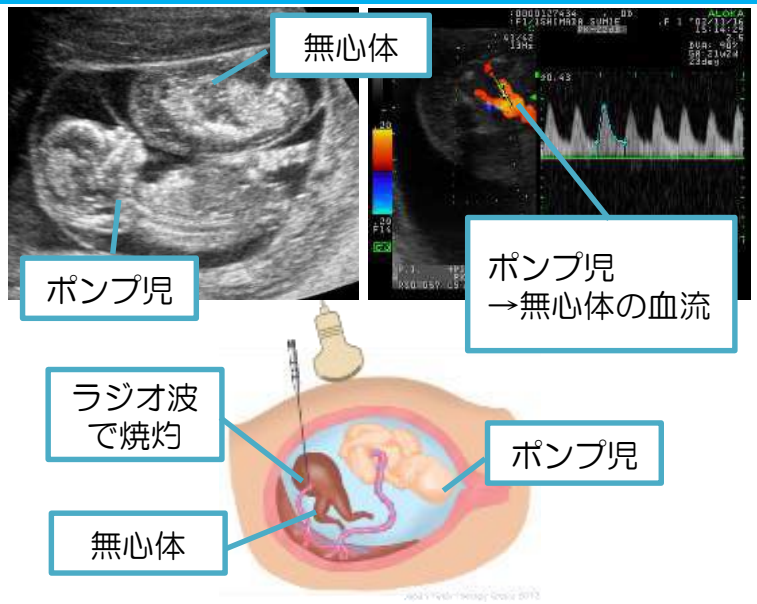


実用化を目指した研究・開発の推進及び基盤整備

① 無心体双胎に対するラジオ波焼灼術の適応拡大・保険収載（評価書34頁）

無心体双胎・TRAP sequence（Twin reversed arterial perfusion sequence）
- 健常な児と人体としての臓器構造を有さない無心体との双胎
- 極めて稀な疾患（日本で年間30症例程度）
- 本来健常な児（ポンプ児）⇒ 無心体への血流が生じると、ポンプ児が心不全に
- 無治療の場合のポンプ児の生存率：約4割
- 日本に保険収載された治療法はなかった

ラジオ波焼灼術
- 元来肝がんの治療法
- 無心体を穿刺してラジオ波で凝固させ、無心体へ流入する血流を遮断
- 日本での治療成績をまとめた生存率：約9割



適応拡大・保険収載に向け、治験実施が望ましいものの・・
- 患者数が少ない
- 企業の協力が得られない　等の障壁

専門の医師 ＋ 薬事専門家
規制当局
規制科学的判断
- 日本での治療成績をまとめた学術論文を出版
- 国内外の文献の系統的レビューを実施
- 臨床評価報告書の基礎となる資料を作成
- 適性使用指針案を作成

企業
左記、資料に基づき適応拡大の申請

治験を行うことなく、実績データに基づき、
平成30年7月：薬機法承認
平成31年3月：保険収載

治験の実施が難しい希少疾患で、治験なしで薬機法承認
←臨床現場の医師の**使用法の統一化**、使用実績の蓄積、診療データ・研究データの信頼性確保、論文発表
←開発薬事専門家等による支援
←規制当局担当者の**規制科学的判断**

② 小児難病に対する胎内治療の治験開始（評価書40頁）

有効性を検証した世界初の臨床試験

新生児ヘモクロマトーシスに対する胎内ガンマグロブリン大量静注療法の医師主導治験

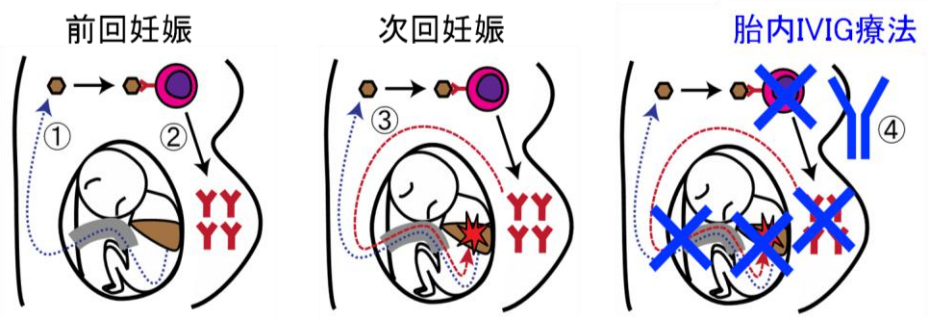
2017年度	2018年度	2019度以降
・PMDAとの薬事戦略相談を活用し、治験実施計画書を策定した。	・2018年6月から医師主導治験を開始した（成育、金沢大、自治医大）。	・2021年度末まで、医師主導治験を実施後、製薬会社による薬事承認申請。

対　象：「新生児ヘモクロマトーシス」と診断された児を分娩したことのある妊婦。

問題点：
- 次子妊娠での再発率は、80～90%と高い。
- 胎内あるいは生直後より重症の肝障害・肝不全を発症し、死亡割合が高い重篤な疾患。
- 生後早期に交換輸血、血漿交換、肝臓移植など、ハイリスクな新生児治療が必要となる。

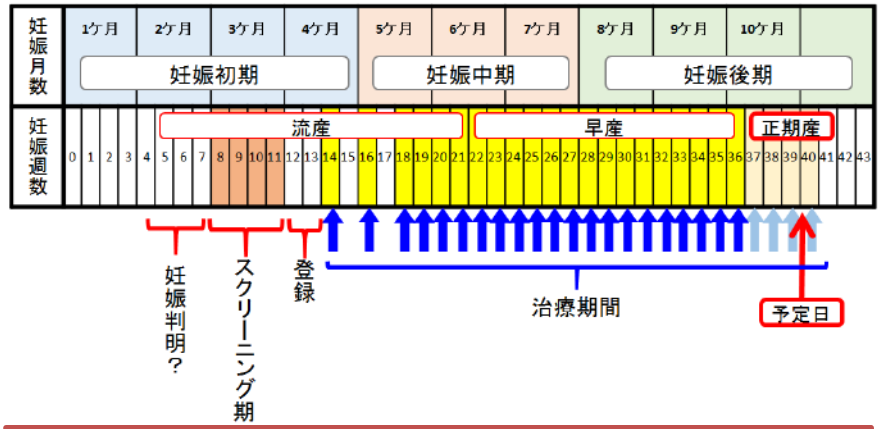
病態と胎内ガンマグロブリン大量静注療法

同種免疫性胎児肝障害
胎児抗原・母体抗体とも未特定



①胎児肝細胞（抗原）が母体に移行
②母体が胎児肝細胞に対するIgG抗体産生
③母体抗体が胎児肝細胞を攻撃
胎内で肝障害・肝不全に
胎内死亡することも
④胎内IVIG療法による，
経胎盤病因IgG移行抑制
B細胞系による抗体産生抑制
病因抗体の抗原結合阻止
補体による肝障害の抑制

治療スケジュール



- 子宮内胎児死亡の回避
- 新生児に対する集中治療の回避
- 重症肝不全の防止→生体/脳死肝移植の回避
- 医療費の削減

③ 小児治験ネットワーク（評価書35、42、43頁）

・小児領域での治験等を推進（治験効率化、中央治験審査委員会の整備、症例集積性の向上、人材育成など）させるため小児医療施設、大学病院及び国立病院機構病院等と連携（ネットワーク化）し、小児に使用できる医薬品・医療機器の拡大・充実を図り、早期開発の受け皿として機能していくことを目的とする。（平成22年設置）

One Stop Serviceの実現

平成22年設立

加盟医療機関 43 施設

ネットワーク小児病床数 6,300 床

大学附属病院	12施設	総　合　病　院	6施設
小児病院	17施設	国立病院機構病院	6施設

治験の効率化

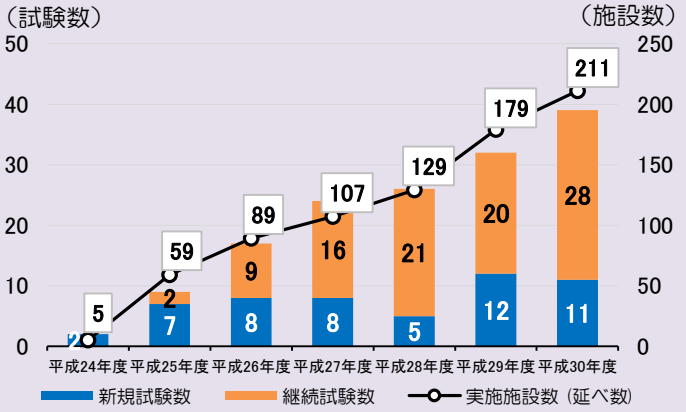
治験手続きの統一化
- 標準業務手順書
- 同意・説明文書（アセント文書）
- 費用算定、契約（書式）

治験のICT化
- web会議システム
- 文書管理・進捗管理システム
- 施設間情報共有

中央治験審査委員会の設置(12回開催)
- 治験の一括審査
- 治験（委員会）資料の電子化

治験実施環境の整備による開発コストの削減
⇒開発が容易となる環境の提供
⇒小児医薬品・医療機器の早期開発

小児治験ネットワークを介した企業治験実施状況



＊承認申請状況
- 企業主導治験：53件（平成24年度～）
- 企業主導治験：11件（平成30年度）

人材育成（CRC養成）

□小児CRC部会の設立（会員数：約130名）
（小児CRC養成研修会開催）
□日本臨床薬理学会認定研修会として開催
※平成30年度受講者数
- 座学研修：49名受講
- 実地研修：5名受講

研究・開発の促進

○産官学連携による開発推進
「小児領域における新薬開発推進のための医薬品選定等に関する研究」（臨床研究・治験推進研究事業：前年度開始）
- 学会（日本小児科学会（分科会も含む））と連携した小児医薬品開発の推進
  ※成育内に事務局設置

○医療情報を活用した開発・安全対策の推進
小児医療施設等からの医療情報を収集し、利活用を可能とする「小児医療情報収集システム」の整備
  ※疾患レジストリーの構築
  ※使用実態の把握（添付文書改訂のエビデンス）

【本年度末実績】
- 小児医療施設11施設
- クリニック35施設
- 電子カルテデータ約25万人分
- 問診データ約3万人分データ

小児治験ネットワークの人的・機能的インフラも活用

評価項目Ｎｏ．１－３　医療の提供に関する事項

自己評価　Ｓ　（過去の主務大臣評価　　H27年度：Ｂ　H28年度：Ａ　　H29年度：Ａ）

Ⅰ　中長期目標等の内容

- センターで実施されている臨床研究等について、その研究成果を活用し、先進医療を含む高度かつ専門的な医療の提供を図る。
- 先天性免疫不全症に対する遺伝子治療を1件以上実施する。
- 遺伝カウンセリング体制を確立し、臨床研究で行っている母体血による無侵襲的出生前遺伝学的検査を1,000件以上実施する。
- 小児臓器移植医療の一層の拡充を目指し、肝臓移植を50件以上実施する。
- 医療安全および感染対策に関して、年3回以上の全職員を対象とする研修を実施する。

【重要度「高」の理由】

成育医療、長寿医療に対する中核的な医療機関であり、研究開発成果の活用を前提として、医療の高度化・複雑化に対応した医療を実施することは、我が国の医療レベルの向上に繋がるため。

Ⅱ　目標と実績との比較

以下のとおり、**所期の目標を量的及び質的に上回る顕著な成果をあげている。**

【定量的指標】

・ 先天性免疫不全症に対する遺伝子治療	目標値：	1（件／年）	実績値：	1（件／年）	（達成度	100.0%）
・ 出生前遺伝学的検査	目標値：	1,000（件／年）	実績値：	1,267（件／年）	（達成度	126.7%）
・ 肝臓移植	目標値：	50（件／年）	実績値：	51（件／年）	（達成度	102.0%）
・ 医療安全および感染対策研修会	目標値：	3（件／年）	実績値：	10（件／年）	（達成度	333.3%）

【定性的指標】

- 発達障害（特にディスレクシア）に関する診療技術の指導や、交換研修を企画し、医療の均てん化に貢献
- 赤ちゃんの頭のかたち外来
- トランジション外来（小児期・思春期から成人期への移行期医療の支援）
- 国立成育医療研究センターＡＩホスピタル構想

医療の提供に関する事項

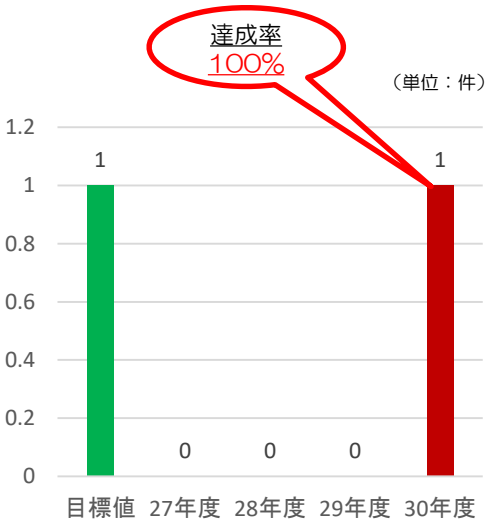
自己評価【S】

＜定量的指標＞

（1）先天性免疫不全症に対する遺伝子治療

○ 遺伝子治療数

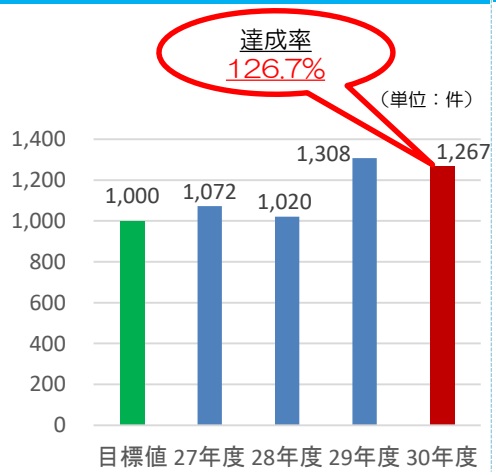
（目標値）
●30年度計画：1（件／年）
●30年度実績：1（件／年）
●達成率　　：100%



（2）出生前遺伝学的検査

○ 出生前遺伝学的検査件数

（目標値）
●30年度計画：1,000（件／年）
●30年度実績：1,267（件／年）
●達成率　　：126.7%

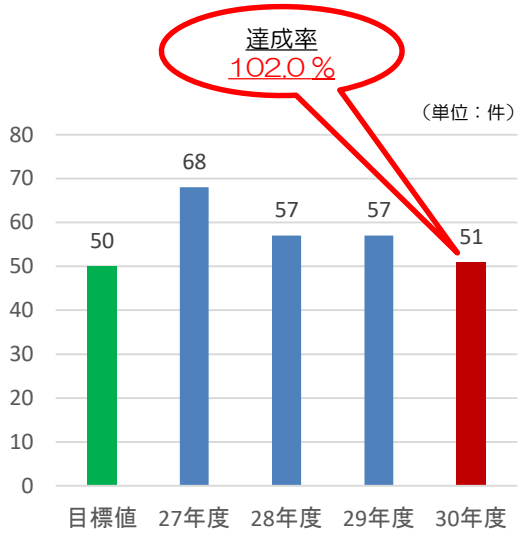


（3）肝臓移植

○ 肝臓移植実施件数

・生体肝移植症例数は国内最多
・優れた手術手技、周術期管理
・移植後に重篤となりうるウイルス感染症の早期発見・治療介入
⇒術後生存率は世界トップレベル

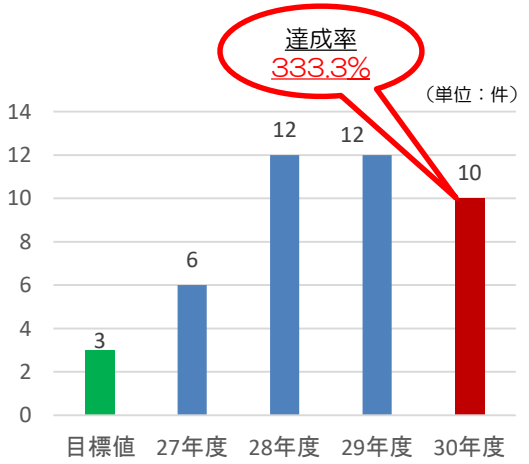
（目標値）
●30年度計画：50（件／年）
●30年度実績：51（件／年）
●達成率　　：102.0%



（4）医療安全および感染対策研修会

○ 研修会開催数

（目標値）
●30年度計画：3（件／年）
●30年度実績：10（件／年）
●達成率　　：333.3%

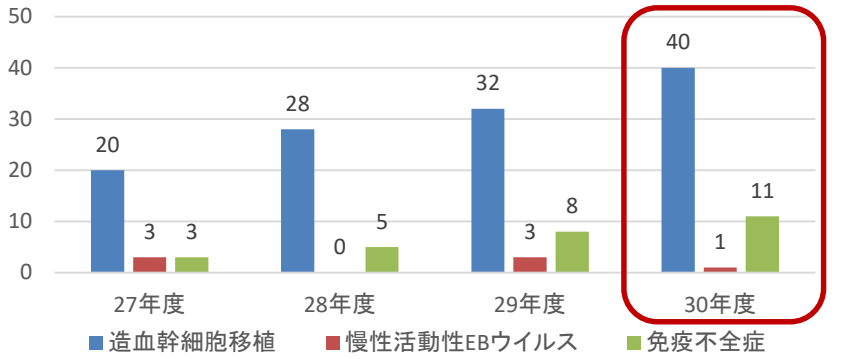


医療の提供に関する事項

（1）骨髄移植実施件数（評価書52頁）

小児分野の移植件数は、国内最多

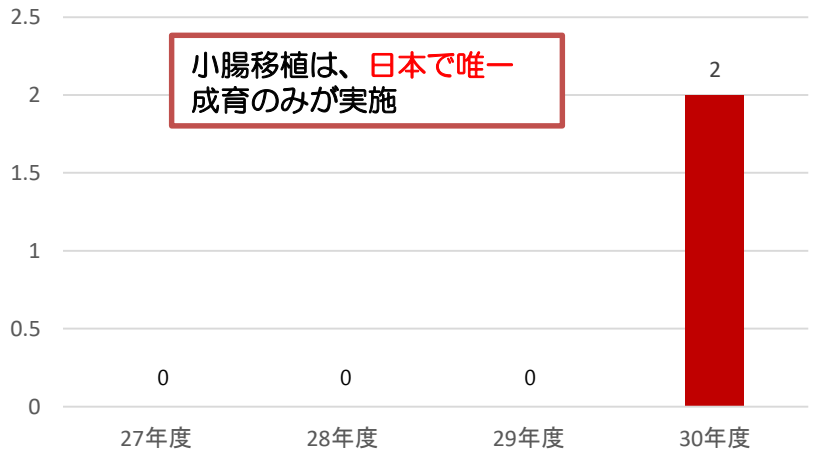
（単位：件）



（2）小腸移植実施件数（評価書54頁）

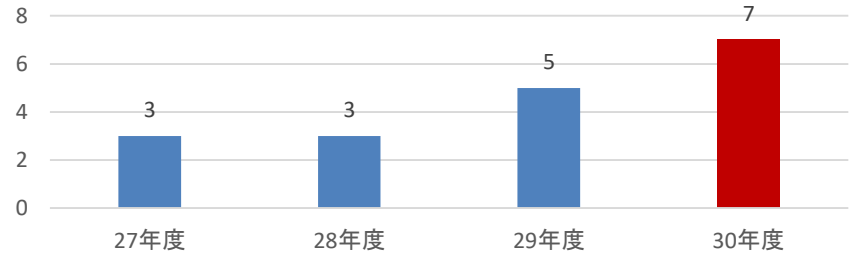
（単位：件）

小腸移植は、日本で唯一成育のみが実施



（3）腎臓移植実施件数（評価書54頁）

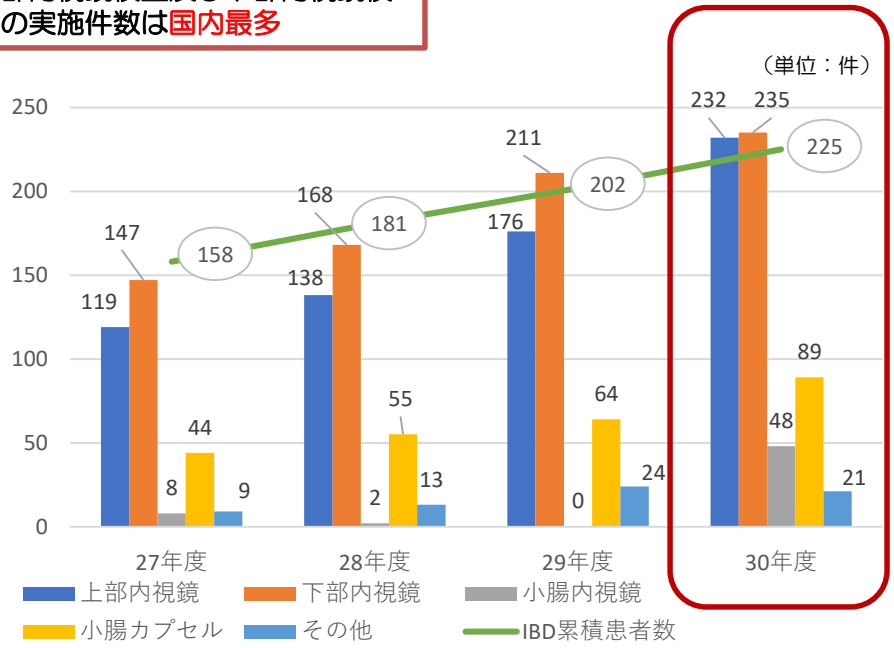
（単位：件）



（4）消化器内視鏡検査数（評価書49頁）

上部内視鏡検査及び下部内視鏡検査の実施件数は国内最多

（単位：件）



医療の提供に関する事項

① 発達障害（特にディスレクシア）に関する診療技術の指導や、交換研修を企画し、医療の均てん化に貢献（評価書59頁）

日本初のディスレクシア（発達性読み書き障害）外来

［こころの診療部 児童・思春期メンタルヘルス診療科］（対象者：小学校1年生から中学校3年生までの日常生活行動や学習に困難を抱えた子どもを対象）

※全国の医療機関では唯一の専門外来　3年間で新患143名受診（平均9.1歳、男児101名）

診断 ⇒ ひらがな音読検査開発（研究班での成果物）

日本で唯一の検査

診療報酬点数表
D285認知機能検査　その他の検査「1」容易なもの　80点

有病割合は、小学校1年生から中学校3年生までの児童50人の内１人（2%）程度

治療 ⇒ T式ひらがな音読支援の開発
- 2段階方式による音読指導
- RTIモデルによる早期発見

1 解読指導・・アプリでの練習
- 表記された文字の読みとの対応を練習
- 誤学習文字の解読も大切

2一目で把握できる「単語の形体」を見分ける指導
＝“語彙指導”
- 単語の範読　→　音読
- 意味を学ぶ
- 例文を作る

3週間で効果が現れる

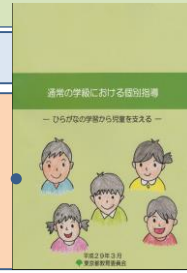
約9割の患者で症状が緩和し、3～4割の患者では、学校の成績が改善（希望高校に進学可能）

医療者の養成 ⇒ 外来の陪席と診療技術指導、検査法の伝授（2018年度　医師のべ10名（6医療機関）、心理士3名）

学校との連携 ⇒ RTIモデルによる早期発見（顕在化しにくい子たちへの早期の気づきと対処）

講演会の実施（仙台市、岐阜市、千葉市、盛岡市、中野区、中央区、北区、武蔵野市）
RTIモデルの実施（鳥取市、米子市、松江市の各市のすべての小学校で実施）

都教委との共同制作リーフレット



医療の提供に関する事項

② 赤ちゃんの頭のかたち外来(形成外科)～頭蓋縫合早期癒合症の早期発見。神経運動発達のスクリーニングに利用できる可能性～（評価書49頁）

症状

胎生期や生後の外圧による頭蓋変形
Deformational plagiocephaly (DP)
変形性斜頭

- ＳＩＤＳ予防のために仰向け寝を推奨されて以降増加している。
- 欧米では就学齢までの運動・言語・認知の遅れを高率に認める。
- 頭蓋縫合早期癒合症との鑑別が必要である。

薬機法承認の課程

2013年9月	医療ニーズの高い医療機器検討委員会に申請
2014年5月	医療ニーズの高い医療機器として選定される （適応疾患の重篤性B　医療上の有用性B）
2017年8月	メディカルU&Aより医療機器製造販売承認申請
2018年1月	一般的名称の新設：頭蓋形状矯正ヘルメット
2018年4月	医療機器として承認（classⅡ）　**薬機法承認** 販売名：ミシガン頭蓋形状矯正ヘルメット 承認番号：23000BZX00094000

診察

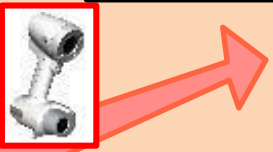
目的　DPの診断・治療、DPの啓発・予防
　　頭蓋縫合早期癒合症の早期発見
構成　形成外科＋技師装具士
　　（リハビリテーション科）
外来　週1回の専門外来

- 2011年から、頭蓋縫合早期癒合症の早期発見を目的の一つとして、変形性斜頭症を対象に開設している。
- 通常の健診で診断されず、当外来で初めて診断された頭蓋縫合早期癒合症を4例認めた。

治療

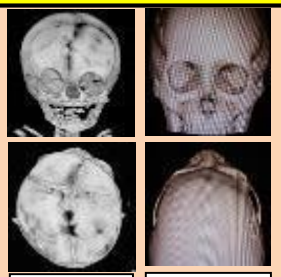
採型 → ヘルメットデータ作成 → オス型 → バキューム成型

米国
（CAD/CAM化）
スキャン



※　装用期間：定頚後、５ヶ月間、１歳頃まで

○内視鏡補助下縫合切除術＋ヘルメット療法



術　前　　術後14年

従来の頭蓋形成術より低侵襲。
1998年にJimenezらによって、舟状頭蓋に対して、良好な形態が得られたと報告された。
成育では2002年に前斜頭蓋に手術を施行（国内第一例）し、良好な結果を得ている。

（左写真は当センター症例）

1: Jimenez DF and Barone CM. J Neurosurg, 1998.

現在の取り組み

○形状誘導ヘルメットの薬事承認の取得
日本形成外科学会から医療ニーズの高い医療機器検討会に申請
日本メディカルU&A社が2018年4月に承認取得

○普及の促進（広報活動）
学会、研究会等での発表、日本頭蓋形状誘導療法研究会活動（クラニオシノストーシス研究会と同日に開催）、形状誘導療法の啓発、情報共有、 技術の均てん化、今後はユーザーズミーティングを計画中

○施設見学の積極的受け入れ（医療技術の均てん化）
2017年
大阪市立総合医療センター　形成外科１
高槻病院　小児脳神経外科１　義肢装具士２
2018年
兵庫県立こども病院　脳神経外科１
高槻病院　小児脳神経外科２
佐賀大学　形成外科２　義肢装具士１
田辺中央病院　脳神経外科１
看護師１　クラーク１

○当センター診療システム 導入済み施設一覧
大阪市立総合医療センター
高槻病院
田辺中央病院
佐賀大学
兵庫県立こども病院
新潟医療センター

○保険適応の働きかけを検討中
医原性（NICU症例、頭部・頸部の病変）
胎生期からの変形（多胎、異常胎位など）

○当センター診療システム検討施設一覧
慶応義塾大学
東海大学
神奈川県立こども医療センター
長野こども病院
※既に、当センターにおいてヘルメットを作成し、自施設での調整例は5例以上である。

○内視鏡補助下縫合切除術
専門医への紹介年齢が早まることで、内視鏡補助下縫合切除術普及を目指す。

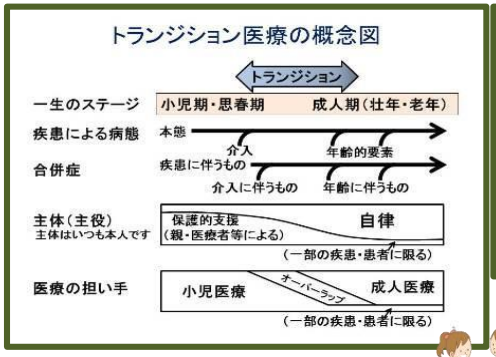
③ トランジション外来（小児期・思春期から成人期への移行医療の支援）（評価書56頁）

トランジション（移行）外来

多くの医療継続が必要な子どもが大人になってく時代となった。当センターでは、小児専門医療機関のみでの対応が困難となり、子どもから大人になった患者に「最適の診療体制を構築するためにともに考え、他の医療機関への紹介・連携を含めた医療のさまざまな選択肢を提供する」という方針とした。

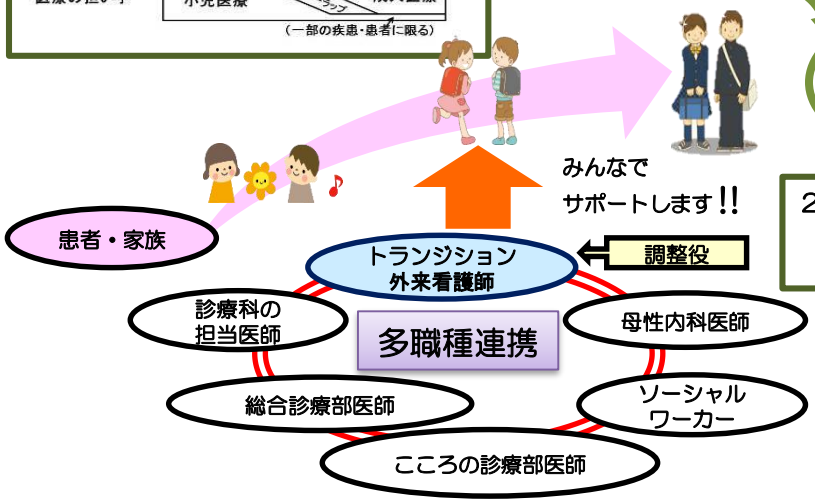
トランジションとは

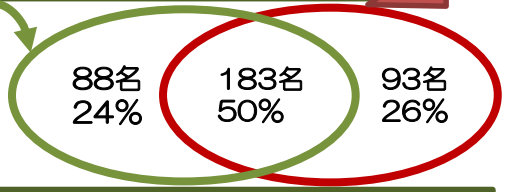
・小児期に開始された医療を成人期にも継続する必要がある患者は、小児期の医療に代わって最終的には成人期にふさわしい医療が提供されるべきであることから「移行期の患者」と呼ばれます。また、その過程を「トランジション」あるいは「移行」と呼びます。



① 患者主体の成人医療への移行支援
- 年齢に見合ったヘルスリテラシーの獲得
- メンタルヘルスの維持
- 家族、親子関係の成長の支援
- 本来の学力・能力に見合った就学、就労

② 診療連携の調整・支援





2015年9月～2019年3月
（開設より3年半）　対応患者数　364名
（男性：182名　女性：182名）

（専門的提言）
・当センターでは、「トランジション外来」を開設し、日本小児科学会の移行支援委員会、日本プライマリ・ケア連合学会、国立国際医療研究センター、東京医療センターなどと協働し、科学的見地から成人移行支援について、専門的提言を行った。

（啓発活動）
・トランジション外来を継続することにより、病院の内外に当センターの移行医療に対する姿勢を示すこととなり、トランジション外来の運営をテーマとした講演依頼を多く受け、啓発活動を行った。全国に先駆けたこの取り組みは、当センターのプレゼンスの向上に繋がり、患者・家族や専門診療科の理解も深まった。

（診療実績）
・トランジション外来（開設から3年半経過）を受診した全患者数は、364名。本年度は、162名（前年度85名）に増加した。
内訳：看護師の面談：延べ710回
（前年度496回）
医師の面談：延べ100回
（前年度18回）

厚生労働省のモデル事業

・改正児童福祉法に基づいて2015年1月1日より「小児慢性特定疾病児童成人移行期医療支援モデル事業」を2015年度から開始。小児慢性疾病の子どもたちが成人になってからも適切な医療機関で継続的医療を受けられることを目標。当センターは、この事業の事務局となって全国の関係者とともに取り組む。

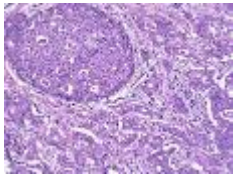
④ 国立成育医療研究センターAIホスピタル構想　～出生前からAYA世代までのデータを入手可能～（評価書50頁）

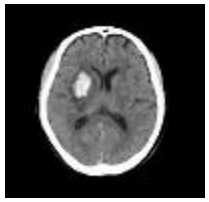
妊娠（胎児期）から小児期（そして生涯）にわたる保健医療福祉情報の集積・活用

AIによるデータ解析

乳幼児健診データ

電子カルテデータ





病理・放射線データ

妊娠情報
(電子母子手帳)

BioPsychoSocial

行動の観察データ

診療支援システムの開発

患者の支援システムの開発

小児及び妊婦に優しい
Cyber-Physical-Systemを実現する。

評価項目Ｎｏ．１－４　人材育成に関する事項

自己評価　Ａ　（過去の主務大臣評価　　H27年度：Ｂ　H28年度：Ｂ　　H29年度：Ａ）

Ⅰ　中長期目標等の内容

- 研究倫理を含めた臨床研究に関する各種講習会やハンズオンワークショップを計30回以上実施する。
- 小児科後期研修医を毎年10人以上採用し、地方の一般病院小児科での短期研修を含め、教育プログラムを充実する。

Ⅱ　目標と実績との比較

以下のとおり、**所期の目標を上回る成果をあげている。**

【定量的指標】

- 臨床研究関連講習会等開催数　　目標値：　30（回／年）　　実績値：　60（回／年）　　（達成度 200.0%）
- 小児科後期研修医採用数　　目標値：　10（人／年）　　実績値：　13（人／年）　　（達成度 130.0%）

【定性的指標】

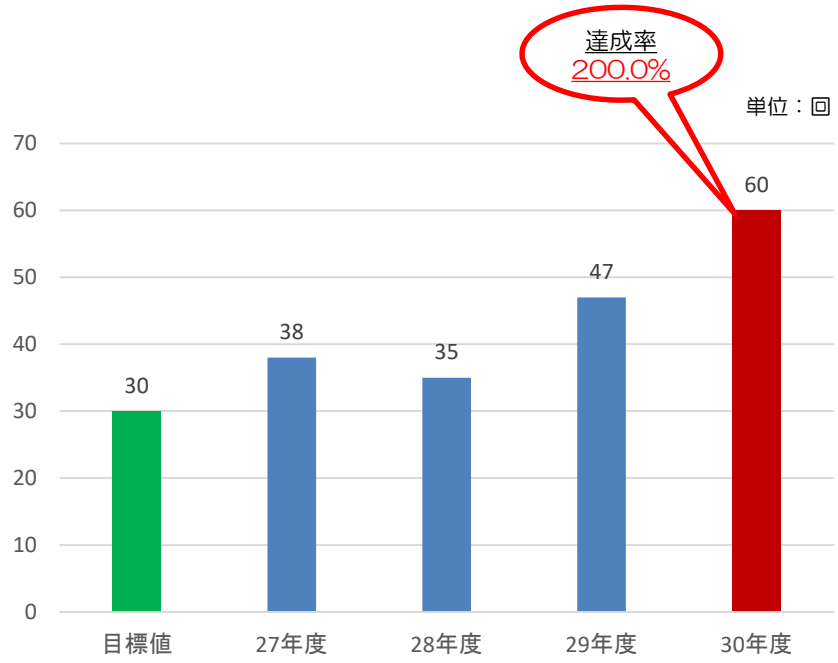
- リーダーとなる人材の育成
- 国際的に通用する人材の育成
- 臨床研究支援者の育成
- 国内外の小児病院等との交流等

人材育成に関する事項

自己評価【A】

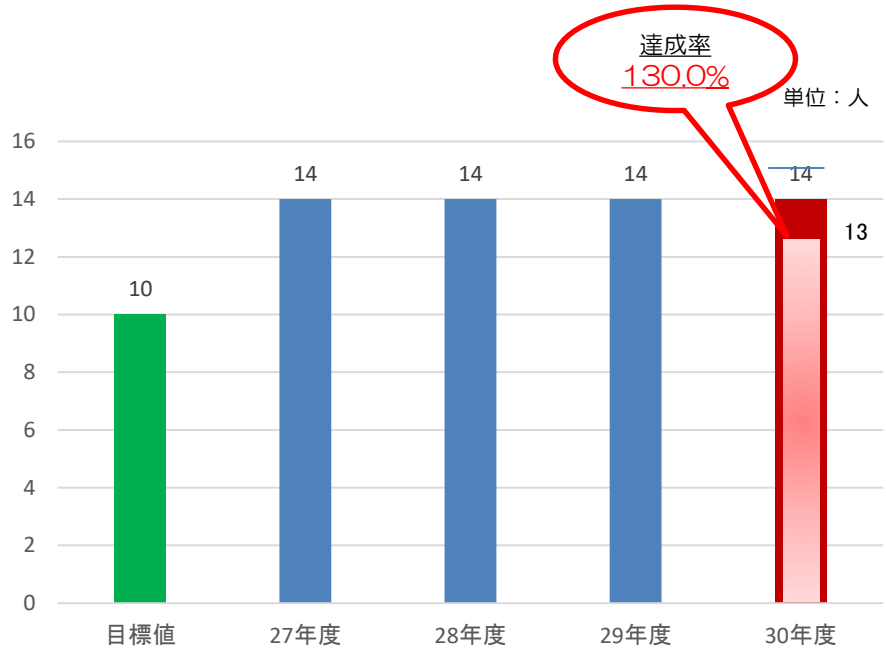
＜定量的指標＞

（1）臨床研究関連講習会等開催数



（目標値）
●30年度計画：30（回／年）
●30年度実績：60（回／年）
●達成率　　：200.0%

（2）小児科後期研修医採用数



（目標値）
●30年度計画：10（人／年）
●30年度実績：13（人／年）
●達成率　　：130.0%

本年度は、試験を行い定員枠である14人を合格としたが、専門医機構による東京都へのシーリング設定により、1人の採用を断らざるを得なかった。次年度は、採用人数を更に減らされる予定。

人材育成に関する事項

I リーダーとして活躍できる人材の育成

【中長期計画の概要】

・成育医療に関する研究・医療等のリーダーとなる人材を積極的に育成する。
・国際的にも通用する人材の育成に努める。
・小児科関連学会等と連携して、治験・臨床研究を推進するための臨床研究支援者を育成する。
・小児内科、周産期、小児外科系領域の若手医師が、国際学会での発表等を行いやすいよう支援し、世界的視野を持ったリーダーとなる人材を育成する。

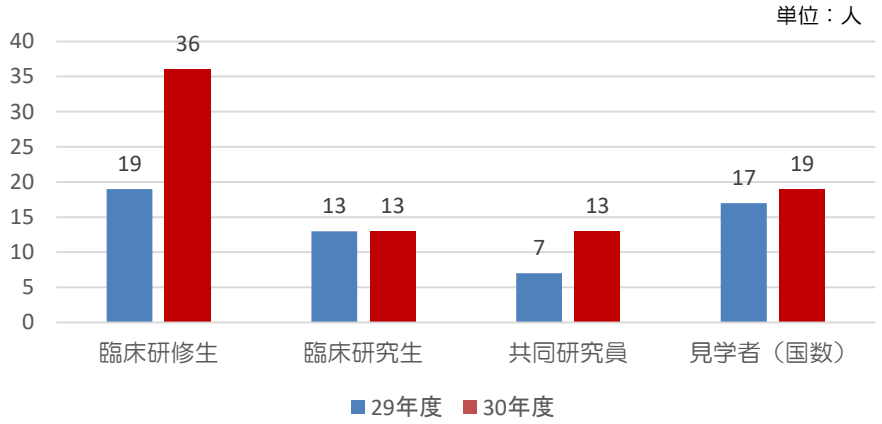
（1）リーダーとして活躍できる人材の育成（評価書67頁）

- 病院
  - ✓ 小児系、外科系、産科の合計150名以上の後期研修医を受け入れた。
  - ✓ 研修会、講習会（例：サマーセミナー、在宅医療懇話会、小児がん領域など）年間30回開催し、参加者数は、延べ2,056名であった。
- 臨床研究センター
  - ✓ <u>ハンズオントレーニング・ワークショップの実施</u>
    - ➢ 目的：臨床研究を主導する人材育成
    - ➢ 参加医師数（院内若手医師）：８名
    - ➢ 結果：平成30年度文部科学研究費４件、平成30年度成育医療研究開発費４件が採択された。
  - ✓ 小児科学会、小児循環器学会、小児腎臓病学会などの学術集会でブースを出展し、臨床研究相談を行った。

（2）国際的に通用する人材の育成（評価書67頁）

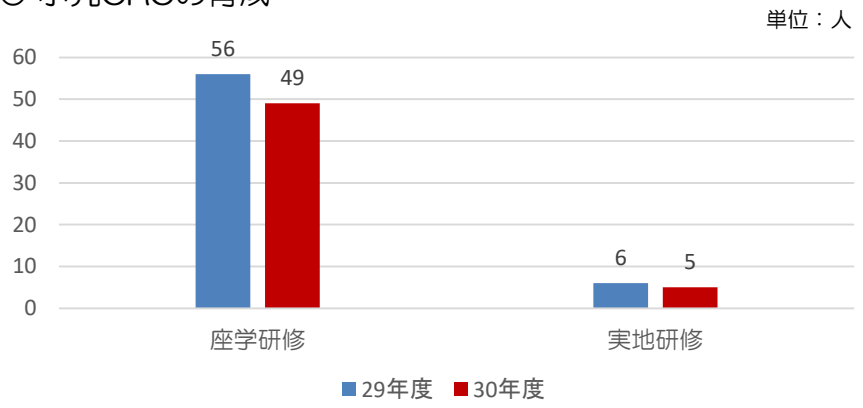
・若手医師が、国際学会での発表、外国での研修等を行いやすいよう渡航費を支援した。
・国際学会での発表は149回実施した。

○ 外国からの研修・見学受け入れ



（3）臨床研究支援者の育成（評価書66頁）

○ 小児CRCの育成



（4）国内外の小児病院等との交流等（評価書70頁）

○ 連携協定を締結している国外の小児病院

ナショナル小児医療センター（ワシントンDC）
トロント小児院
ソウル大学小児病院
上海小児医療センター
北京小児病院
台湾大学小児病院

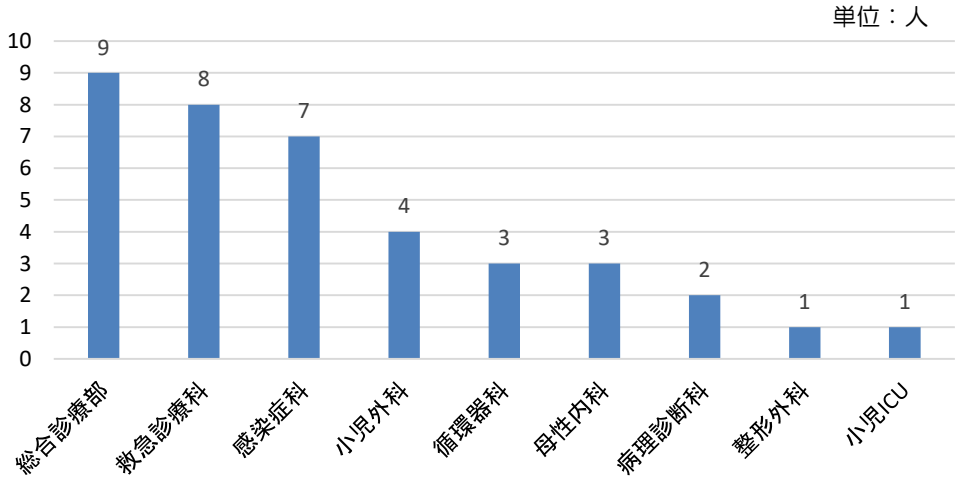
・海外から78名の研修・見学者を受け入れた。

○ 医師が現地で臨床指導など行った国

ネパール
エジプト
サウジアラビア
イラン
インドネシア
中国
モンゴル
ベトナム

・国内の小児病院等に指導者を16名派遣し、小児病院等の若手医師38名を受け入れた。

○ 国内施設からの医師臨床研修受入



評価項目Ｎｏ．１－５　医療政策の推進等に関する事項

自己評価　Ａ

（過去の主務大臣評価　　H27年度：Ｂ　H28年度：Ｂ　H29年度：Ａ）

Ⅰ　中長期目標の内容

・　我が国の小児科医療及び周産期・母性医療並びに保健のあるべき姿について検討を進め、グランドデザインを提唱する。
・　次世代育成の視点から、成育疾患に係る診療報酬体系のあり方を含め、成育医療に関わる医療政策がより強固な科学的裏付けを持ち、かつ、実情に即したものになるよう、国と連携しつつ、課題の解決策等について、科学的見地から専門的提言を行う。
・　日本小児総合医療施設協議会（JACHRI）加盟施設を中心とする小児治験ネットワークを運用して、小児用薬剤の治験等を推進する。
・　成育医療の均てん化等を推進するため、全国の中核的医療機関等との連携のもと、情報交換、技術助言等を行うとともに、標準的医療等の普及を図る。
・　成育領域の保健医療課題に関する国内外の科学的根拠を網羅的に検索し、情報の質評価を経て、コクランライブラリー等、結果をまとめる系統的レビューを作成し、広く公開する。
・　成育医療に関連した医療者・研究者向けの情報及び一般向けの情報を収集・整理し、定期的に配信する。
・　小児慢性特定疾患に関する情報発信の充実を図り、国の事業を支援する。
・　「妊娠と薬」に関する情報提供の拠点病院を全国に拡大し、情報発信をしていく。
・　「小児と薬」に関する情報を収集し、分析し、その結果を情報発信する。
・　小児の事故の発生状況に関する情報を収集するとともに、その対策の情報発信を行うシステムを構築する。

Ⅱ　目標と実績との比較

以下のとおり、**所期の目標を上回る成果をあげている。**

【定性的指標】
・　成育基本法（平成30年12月成立）
・　小児の事故の発生状況に関する情報収集とその対策の情報発信を行うシステムの構築（救急診療科）
・　緩和ケアとは「生命の危機に直面する疾患を持つ患者と家族の生活を支えること」
・　医療型短期入所施設「もみじの家」

① 成育基本法（平成30年12月成立）（評価書8、48、74頁）

・関係学会、日本医師会等と連携・協力して、成育基本法の成立に尽力

成育基本法の基本理念（抜粋・要約）

- 成育過程の心身の健やかな成育を図る
- 成育医療等を総合的に推進
- 科学的知見に基づく適切な成育医療等の提供
- 成育医療等の適切な情報提供
- 次世代を担う子どもを安心して生み育てる環境を整備

国立成育医療研究センターは、成育医療の中核的な医療機関として貢献

② 小児の事故の発生状況に関する情報収集とその対策の情報発信を行うシステムへの多大な貢献（救急診療科）

（評価書81頁）

外傷例の報告（情報発信）小児のけが、熱傷、中毒、事故情報など

NCCHD

・傷害基本情報として4,000件（前年度3,991件）を報告
　うち、詳細情報：200件（前年度200件）

・緊急で傷害情報を提供すべき重篤な症例
→ 1件（前年度1件）報告

日本小児科学会「Injury Alert」へ

・異物誤飲及び中毒情報提供
→ 400件（前年度400件）

「医療機関ネットワーク事業」（消費者庁と独立行政法人国民生活センター）への協力

厚生労働省医薬・生活衛生局「家庭用品に関わる健康被害病院モニター報告」に報告するシステムへ

2010年12月～2012年12月末までの医療機関ネットワーク事業への報告件数の内、承認された件数は9,889件（13医療機関）で、その内当センターからの報告例が、6,454件（65.3%）を占め、この功績により、内閣総理大臣表彰（消費者支援功労者）を受賞。

小児の傷害情報に関して、情報収集を行い、各主要行政機関に報告を行い、行政から国民に向けて情報発信および啓発を行う貰うシステムに多大な貢献をしている。

医療政策の推進等に関する事項

③ 緩和ケアとは「生命の危機に直面する疾患を持つ患者と家族の生活を支えること」（評価書74頁（59頁、69頁））

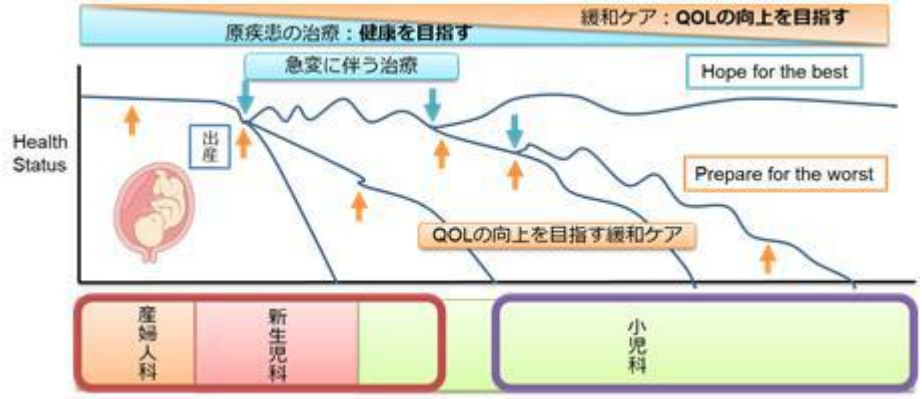
小児緩和ケアが担うこと
- 患者、家族の苦痛症状の緩和
- 意思決定支援
- ビリーブメントケア（死別後ケア）

介入件数は増加

2017年度：58件	2018年度：101件	2019年度以降
日本で初めて小児専門病院に緩和ケア科を設置 専任の診療部長赴任 非がんへの緩和ケア開始	緩和ケア診療加算取得開始 緩和ケア委員会の設置 **もみじの家での緩和ケア病床運用開始：日本初**	周産期・小児緩和ケア体制の充実、モデル化し、均てん化を目指す

非がん疾患の緩和ケアの実践

小児緩和ケアの対象の80%は周産期関連疾患・神経疾患だが日本では未整備
⇒日本におけるモデルを作成しlife courseに沿った支援を実践

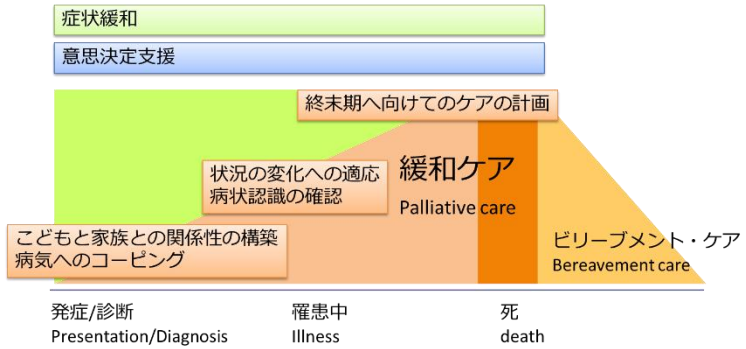


周産期における緩和ケア
致死的な疾患を持つ児に対して胎児期から新生児期、乳児期とlife courseに沿って継続した症状緩和と意思決定支援の実践

神経疾患、難病に対する緩和ケア
長期に亘る経過の中での症状緩和、意思決定支援の実践

小児がんに対する緩和ケアの実践

診断時から一貫した緩和ケア提供体制の整備、実践
症状評価の方法の開発、適切な薬剤選択の実践
⇒モデル化し、小児がん中央機関、拠点病院として全国へ発信



Cancer Control: Knowledge into Action. WHO Guide for Effective Programmes - Palliative Care. 2007

終末期のこどものQOLの向上に向けた取り組み

こどもホスピスの実践

もみじの家で、2018年9月より専門的な緩和ケアを受けながら最期の時間を過ごすための病床運用を開始
日本初の取り組み：がんだけでなく非がん患者の受け入れも行う
2018年9月に非がん患者の看取りを実施

研究、人材育成

研究

小児緩和ケアにおける質の評価尺度の開発と測定　30-17 成育医療研究開発費
終末期の患者家族と医療従事者の話し合いの現状調査
J Pediatrics 2017, BMJ Pediatrics Open 2017
小児緩和ケアの提供体制について日本初の全国調査
J Pain Symptom Manage 2018

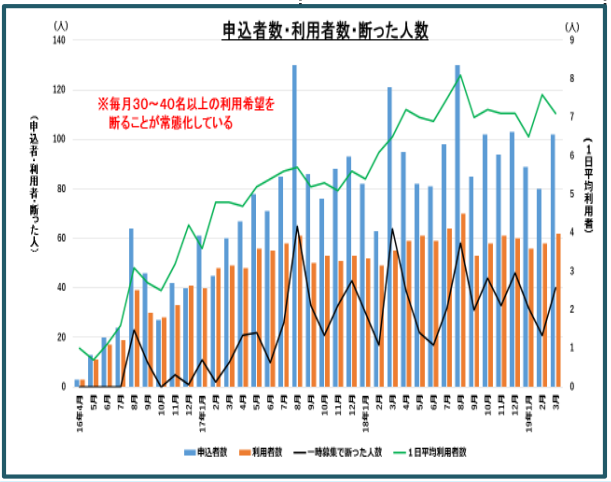
人材育成

小児病院で唯一の緩和医療学会認定研修指定施設：専門医の養成が可能
小児がん中央機関事業：小児緩和ケアチーム研修会（2018年度50人参加）を始めとする講演、研修会の実践　2018年度472人が参加

④ 医療型短期入所施設「もみじの家」 （評価書74頁）

2016年度

平成28年４月開設



2017年度

2018年度

・平成２８年の開設以来、目標としていた「もみじの家」での緩和ケア病床の運用を開始し、終末期に家族がともに安心して過ごせる環境を提供しながら、終末期の看取りを1名実施した。

もみじの家の広報

- 医療型短期入所施設「もみじの家」のパンフレットも作製し、年2回配布した。
- 「もみじの家」における・もみじの家の取り組みについて、テレビ（ＮＨＫ Ｅテレ ＴＶシンポジウム等）・新聞（朝日新聞 医療的ケア児とともに等）・ラジオ（ラジオ日本 医療界キーパーソン等）等で計22回取り上げられた。

“もみじの家”を広めるために

- 医療型短期滞在施設における管理料の値上げ、動く重心児・重症てんかん発作児への”見守り加算”の新設、日中保育活動への加算の新設の可能性などについて、他の団体・研究班と意見交換をした。

- 受け入れ人数を少しずつ増やし、現在、毎月60～70名程度の受け入れを継続している。
- 医療的ケア児を受入れる施設が非常に少ないため、キャンセル待ちが、常時発生している状態である。
- 成育以外でフォローされている在宅医療的ケア児が利用を希望する場合の、入所前診察の待ち時間は3年半後となってしまった。

2019年度以降

さらに「もみじの家」での緩和ケア、看取りの医療を含め、それらのわが国における先進的成果をグローバルに広めることが、今後の目標である。

評価項目Ｎｏ．２－１　業務運営の効率化に関する事項

自己評価　Ｂ　（過去の主務大臣評価　　H27年度：Ｂ　H28年度：Ｂ　　H29年度：Ｂ）

Ⅰ　中長期目標等の内容

- 病院の特性や機能を明確化し、地域の医療機関との連携・機能分化を図るため、紹介率80%以上を維持し、逆紹介率は中長期目標期間中に40%以上とする。
- 医師が本来の役割に専念できるよう、医師とその他医療従事者との役割分担を見直し、職員にとって魅力的で働きやすい職場環境の整備に努める。また、医師の業務軽減として、医師業務補助者や医療クラークの配置について、導入効果を検証しつつ、推進を図る。
- 医療安全の向上のため、薬剤師の病棟配置をさらに推進する。
- 看護師の確保対策を推進するとともに離職防止や復職支援の対策を講じ、看護師の離職率を、14.3%まで減少させる。（中長期計画）
- 医療の質の向上、キャリアアップ、看護部門の強化の観点から、専門・認定看護師の配置を推進し、52人程度に増加させることを目標とする。（中長期計画）
- 損益計算において経常収支率100%以上を達成する。（中長期計画）
- 一般管理費については、平成26年度に比し、10.0%以上の削減を図る。（中長期計画）
- 後発医薬品の使用については、数量シェアで60%以上を維持する。（中長期計画）

Ⅱ　目標と実績との比較

以下のとおり、**目標を達成している。**

【定量的指標】

・ 紹介率	目標値：	80.0（%／年）	実績値：	87.8（%／年）	（達成度	109.8%）
・ 逆紹介率	目標値：	40.0（%／年）	実績値：	54.7（%／年）	（達成度	136.8%）
・ 看護師離職率（中長期計画）	目標値：	14.3（%／年）	実績値：	13.6（%／年）	（達成度	104.9%）
	（参考）勤続1年未満の看護師離職率は、4.5%である。					
・ 専門・認定看護師数（中長期計画）	目標値：	51.3（人／年）	実績値：	44（人／年）	（達成度	85.8%）
・ 経常収支率（中長期計画）	目標値：	100.0（%／年）	実績値：	103.5（%／年）	（達成度	103.5%）
・ 一般管理費（中長期計画）	目標値：	△10.0（%／年）	実績値：	△21.5（%／年）	（達成度	215.0%）
・ 後発医薬品使用数量シェア（中長期計画）	目標値：	60.0（%／年）	実績値：	87.6（%／年）	（達成度	146.0%）

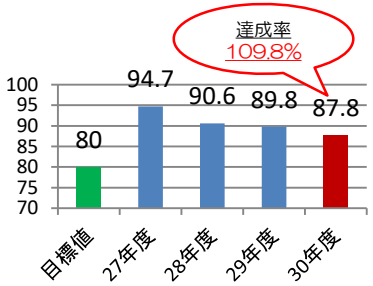
業務運営の効率化に関する事項

自己評価【B】

＜定量的指標＞

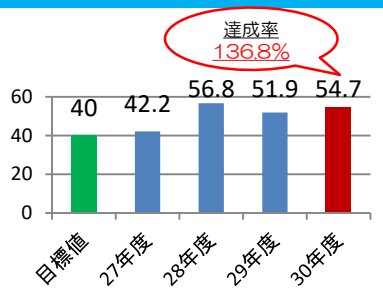
（1）紹介率

（目標値）
●30年度計画
80（%／年）
●30年度実績
87.8（%／年）
●達成率：109.8%



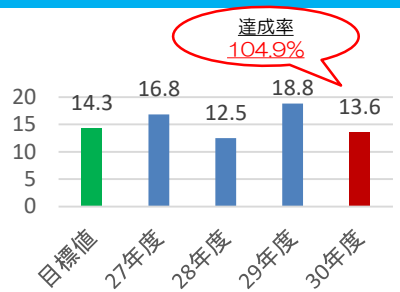
（2）逆紹介率

（目標値）
●30年度計画
40（%／年）
●30年度実績
54.7（%／年）
●達成率：136.8%



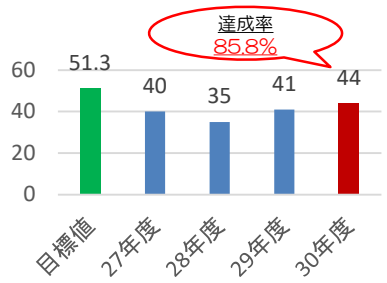
（3）看護師離職率

（目標値）
●中長期計画
14.3（%／年）
●30年度実績
13.6（%／年）
●達成率：104.9%



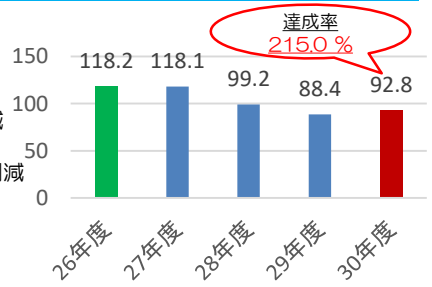
（4）専門・認定看護師数

（目標値）
● 中長期計画
51.3（人／年）
●30年度実績
44（人／年）
●達成率：85.8%



（5）一般管理費

（目標値）
●中長期計画
平成26年度比
10（%／年）削減
●30年度実績
21.5（%／年）削減
●達成率：215.0%



（6）後発医薬品使用数量シェア

（目標値）
●中長期計画
60（%／年）
●30年度実績
●87.6（%／年）
●達成率：146.0%

その他特筆すべき事項

○ 企画戦略会議（計11回開催）
（評価書87頁）

・長期的な建物整備、センター広報、外部医療機関からの検体検査の受託業務（衛生検査所の登録）のあり方を策定した。

○ 材料費等削減（評価書91頁）

【医薬品】
・小児疾患の治療に使用する酵素製剤、成長ホルモン等22品目は、小児病院の特性を活かし、当センター単独での入札を実施した。この入札に当たり、全国36のJACHRI施設に価格照会し、価格交渉の末、共同購入と比較した場合より18,683千円の費用を削減した。

【医療材料】
・ベンチマークシステムを導入し、全国平均に達していない品目をターゲットに価格交渉を実施し、17,382千円の費用を削減した。

○ 働き方改革（評価書89頁）

・業務効率化、時間外労働の削減に向けた取り組みを検討および実施するため、業務改善委員会（計7回開催）を設置し、下記の取り組みを策定した。
①タスク・シフティング
・医師事務作業補助者の増員を図り、計18名を配置した。
・病棟クラーク21名を増員を承認した。
②非常勤医師（フェロー・レジデント）の常勤化を承認した。
③新しい勤怠管理システム導入を承認した。

評価項目Ｎｏ．３－１　財務内容の改善に関する事項

自己評価　Ｂ　（過去の主務大臣評価　　H27年度：Ｂ　H28年度：Ｂ　H29年度：Ｂ）

Ⅰ　中長期目標の内容

・　治験や臨床研究による受託研究費、共同研究費等の外部研究資金の更なる獲得に努める。
・　センターの機能の維持・向上を図りつつ、投資を計画的に行い、中・長期的な固定負債（長期借入金の残高）を償還確実性が確保できる範囲とし、運営上適切なものとなるよう努める。そのため、医療機器等の投資に当たっては、原則、償還確実性を確保する。

Ⅱ　目標と実績との比較

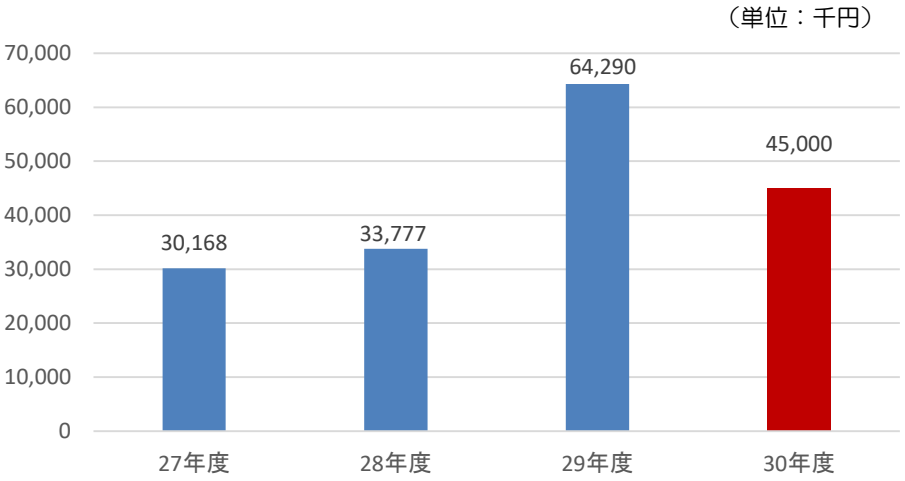
以下のとおり、**目標を達成している。**

【定性的指標】
・　小児治験ネットワークを介して実施した治験収益の確保
・　平成29年度以降、3期連続の黒字決算を達成

財務内容の改善に関する事項

自己評価【B】

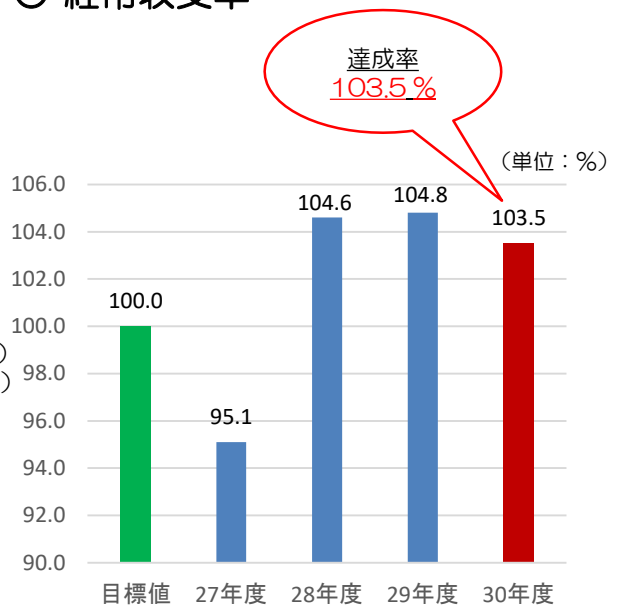
○ 小児治験ネットワークを介して実施した、治験の収益



3期連続黒字達成

（目標値）
●中長期計画 ：100.0（%／年）
●30年度実績：103.5（%／年）
●達成率：103.5%

○ 経常収支率



その他特筆すべき事項

○「小児医薬品開発コンソーシアム研究会」の本格始動（評価書102頁）

・小児治験ネットワークのホームページ更新、治験実施可能性調査マニュアル等を整備した。

○ 外部有識者を含めた「空調・電気設備等の整備計画策定に関する検討会」を立ち上げ（評価書104頁）

・今後のセンター各設備の更新・修理等の優先順位付けを実施し、中・長期的な整備方針について、整理することとした（本年度開催実績3回）。
・経年劣化により修繕が必要となる設備等については、計画的・効率的に整備する必要がある設備等を決定し、コストの合理化・適正化に努め、コスト削減を図る。
・次年度に方針策定予定。

○ 健全な財務内容（評価書104~105頁）

・当センターの機能の維持・向上を図りつつ、投資を計画的に行い、中・長期的な長期借入金を償還確実性が確保できる範囲の基、運営上適切に管理している。
・約定どおりの償還を適切に実施した。
・損益計算において経常収支率が、3期連続で100%以上を達成した。
・短期借入はない。

評価項目Ｎｏ．４－１　その他の事項

自己評価　Ａ　（過去の主務大臣評価　　H27年度：Ｂ　H28年度：Ｂ　H29年度：Ｂ）

Ⅰ　中長期目標等の内容

・　監査室による内部監査を年５回実施するとともに、監事による業務監査及び監査法人による外部監査を実施し、三者の連携により監査の実効性を高める。
・　医薬品や医療機器の実用化に向けた出口戦略機能の強化や、新たな視点や発想に基づく研究等の推進のため、独立行政法人医薬品医療機器総合機構等との人事交流を推進する。具体的には、2.3人程度に増やすことを目標とする。（中長期計画）
・　医療の質の向上及びキャリアアップの観点から、国立高度専門医療研究センター等との間における看護師及びコメディカルの人事交流をさらに推進する。具体的には、15.8人増やすことを目標とする。（中長期計画）

Ⅱ　目標と実績との比較

以下のとおり、定量指標の達成度が平均 215.3%であり、目標を達成している。

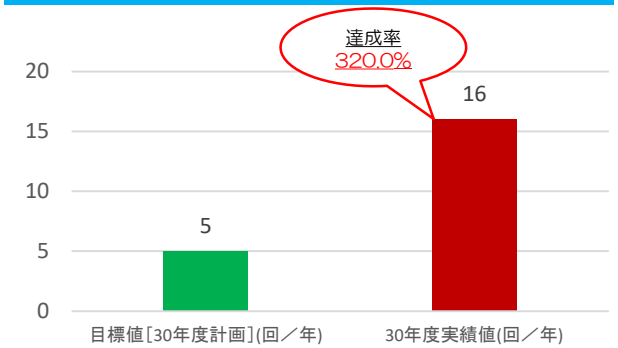
【定量的指標】

・　内部監査実施回数	目標値：	5（回／年）	実績値：	16（回／年）	（達成度	320.0%）
・　ＰＭＤＡ等人事交流人数（中長期計画）	目標値：	2.3（人／年）	実績値：	4（人／年）	（達成度	173.9%）
・　ＮＨＯ等看護師及びメディカルスタッフ人事交流人数（中長期計画）	目標値：	15.8（人／年）	実績値：	24（人／年）	（達成度	151.9%）

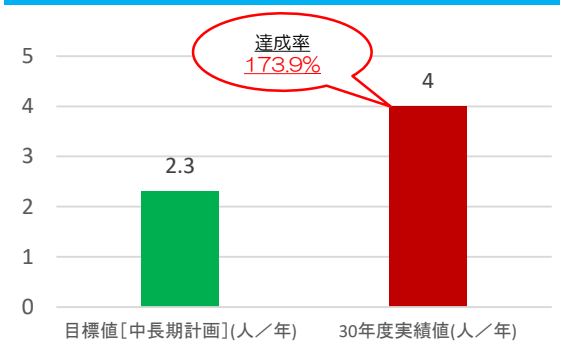
【定性的指標】
・　内部統制委員会を2回開催し、リスク対応計画を審議
・　ハラスメント対策として、コンプライアンス研修及びハラスメント研修を実施
・　企画戦略会議を開催し、「今後の広報戦略」を策定

＜定量的指標＞

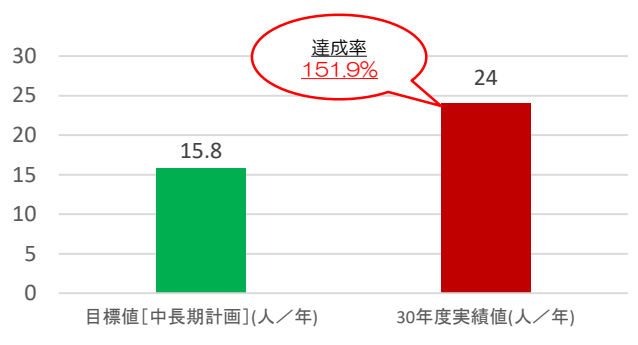
（1）内部監査実施回数



（2）PMDA等人事交流人数



（3）NHO等看護師及びメディカルスタッフ人事交流人数



その他特筆すべき事項

○ 内部統制委員会の開催（2回開催）（評価書110頁）

・内部統制委員会でリスク対応計画について、審議した。それを踏まえ、次年度より、リスク項目ごとに内部統制委員会で内部統制の適否を検討予定である。

○ ハラスメント対策の充実（評価書117頁）

・コンプライアンス及びハラスメントの研修は、コンプライアンス室が主催し、外部講師等を招き、平成30年8月21日に管理職のためのハラスメント研修を実施した。

○「今後の広報戦略」を策定（評価書117~119頁）

【中長期計画の概要】
研究・開発の成果や取組の科学技術的意義や社会経済的価値をわかりやすく説明。一般の国民が理解しやすい方法、内容で、ホームページ等で情報開示する。

・成育医療・研究・開発などの情報を発信するため、「広報企画室」の設置を決定した。
・総合的なセンターのパンフレット2019年版（日本語・英語併記）を作成し、3つの項目を追加した。
①数字で見る成育（患者特性別に受診患者数を明示）
②写真で見る成育（地域との交流イベントなどを説明）
③寄付の種類（目的、使用内容を詳しく説明）
・本年度より、センターホームページを見やすく改善し、総合トップ画面からの詳細ページへの遷移率は、57.7%（前年度43.5%）と向上した。

平成30年度財務状況

【貸借対照表：平成31年3月31日】　（単位：億円）

資産の部		負債の部	
資産	516.2	負債	132.6
流動資産	101.2	流動負債	62.0
固定資産	415.0	固定負債	70.6
		純資産の部	383.6
		純資産	383.6
資産合計	516.2	負債純資産合計	516.2

※計数は原則としてそれぞれ四捨五入しているので、端数において合計とは一致しないものがある。

【損益計算書：平成30年度】　（単位：億円）

勘定科目	金額	勘定科目	金額
経常費用	259.4	経常収益	268.5
業務費用	247.6	業務収益	225.0
給与費	117.2	運営費交付金収益	32.4
材料費	59.2	補助金等収益	4.2
委託費	29.5	その他	7.0
減価償却費	17.4		
その他	24.3		
一般管理費	10.8		
財務費用	0.6		
その他経常費用	0.5		
臨時損失	1.3	臨時利益	0.9
当期純利益	8.7		
経常収支率	103.5	総収支率	103.4

※計数は原則としてそれぞれ四捨五入しているので、端数において合計とは一致しないものがある。

【キャッシュ・フロー計算書：平成30年度】　（単位：億円）

区　分	金　額
Ⅰ 業務活動によるＣＦ	28.2
支出	△ 240.7
収入	268.9
Ⅱ 投資活動によるＣＦ	△ 9.4
支出	△ 29.4
収入	20.0
Ⅲ 財務活動によるＣＦ	△ 5.5
支出	△ 13.4
収入	7.9
Ⅳ 資金増加額	13.3
Ⅴ 資金期首残高	39.7
Ⅵ 資金期末残高	53.0

※計数は原則としてそれぞれ四捨五入しているので、端数において合計とは一致しないものがある。

平成30年度財務状況

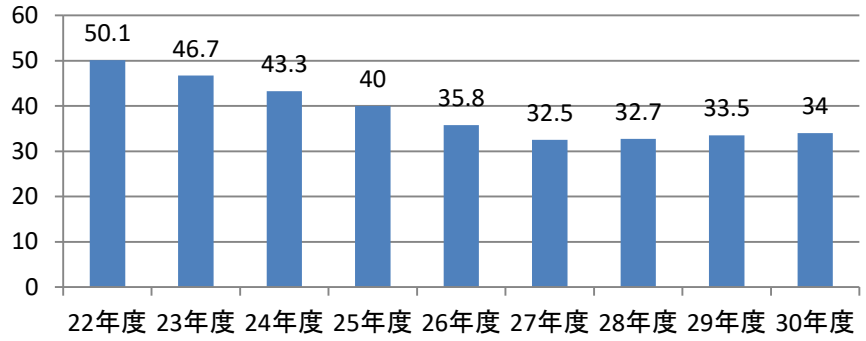
【損益計算書比較】　（単位：億円）

区分	29’決算額 (A)	30’決算額 (B)	差額 (B)－(A)
経常収益	262.7	268.5	5.8
経常費用	250.7	259.4	8.7
臨時利益	0.1	0.9	0.8
臨時損失	1.0	1.3	0.3
経常収支差	12.0	9.1	△2.8
総収支差	11.0	8.7	△2.3

※計数は原則としてそれぞれ四捨五入しているので、端数において合計とは一致しないものがある。

【参考：運営費交付金の推移】　（単位：億円）

年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
運営費交付金	50.1	46.7	43.3	40	35.8	32.5	32.7	33.5	34



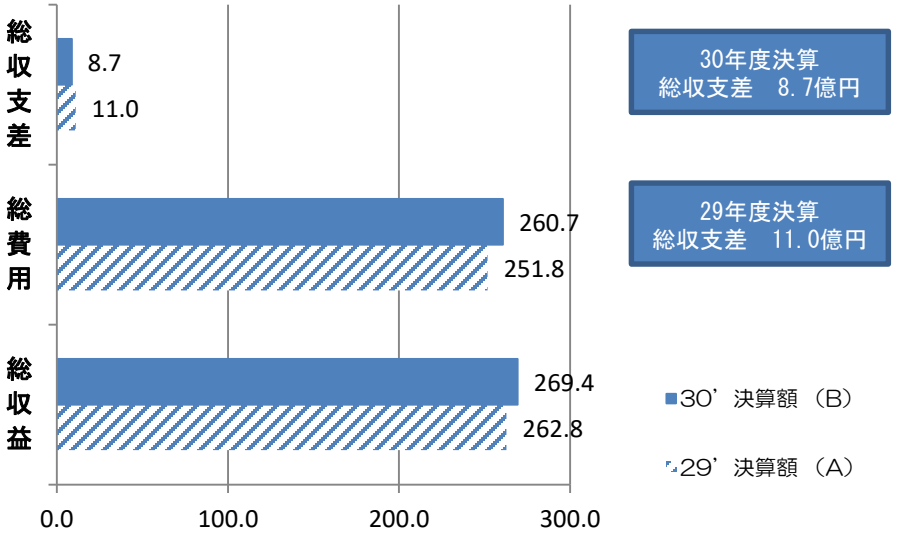
収益

○ 医業収益の増	5.0億円
○ 研究収益の増	4.4億円
○ 運営費交付金収益の減	△ 0.1億円
○ 補助金等収益の減	△ 2.0億円
○ その他（寄付金収益等）の減等	△ 1.5億円
計	5.8億円

＋

費用

○ 給与費の増	3.6億円
○ 材料費の増	1.7億円
○ 設備関係費の増	1.0億円
○ その他（経費等）の増等	2.4億円
計	8.7億円



3-5-4 財務経理部

1. 概要

平成30年度については、医業収益(入院診療収益)の増、費用については、材料費、委託費、経費等の削減に関し具体的な取り組みを進めた結果、平成30年度の経常収支率は103．5%となった。

2. 貸借対照表

平成 31 年 3 月 31 日現在　　(単位:千円)

資産の部		負債の部	
Ⅰ 流動資産		Ⅰ 流動負債	
現金及び預金	5,299,480	運営費交付金債務	130,380
医業未収金	3,902,007	預り寄附金	216,543
貸倒引当金	▲3,113	一年以内返済長期借入金	861,926
未収金	751,627	買掛金	896,369
医薬品	59,558	未払金	2,535,708
診療材料	63,708	一年以内支払リース債務	523,952
給食用材料	2,021	未払費用	823
貯蔵品	37,532	未払消費税等	19,889
前払費用	2,469	前受金	20,771
その他流動資産	124	預り金	223,576
流動資産合計	10,115,413	引当金	
		賞与引当金	684,660
Ⅱ 固定資産		その他流動負債	83,670
1 有形固定資産		流動負債合計	6,198,267
建物	22,589,225		
減価償却累計額	▲7,790,755	Ⅱ 固定負債	
構築物	199,383	資産見返負債	
減価償却累計額	▲138,896	資産見返運営費交付金	210,253
医療用器械備品	6,170,791	資産見返補助金等	317,287
減価償却累計額	▲4,801,148	資産見返寄附金	688,008
その他器械備品	5,507,017	長期借入金	4,826,154
減価償却累計額	▲4,458,689	リース債務	730,600
車両	55,832	引当金	
減価償却累計額	▲19,075	退職給付引当金	210,371
土地	23,795,696	環境対策引当金	25,372
その他有形固定資産	2,678	資産除去債務	55,215
減価償却累計額	▲1,815	固定負債合計	7,063,260
有形固定資産合計	41,110,244	負債合計	13,261,527
2 無形固定資産			
ソフトウエア	391,322		
電話加入権	160		
商標権	424		
無形固定資産合計	391,906		
3 投資その他の資産			
破産更生債権等	34,471	純資産の部	
貸倒引当金	▲34,471	Ⅰ 資本金	
長期前払費用	1,923	政府出資金	36,382,981
投資その他の資産合計	1,923	資本金合計	36,382,981

固定資産合計	41,504,073		
資産合計	51,619,486	Ⅱ 資本剰余金	
		資本剰余金	3,635,283
		損益外減価償却累計額(－)	▲3,336,134
		資本剰余金合計	299,149
		Ⅲ 利益剰余金	
		積立金	801,376
		当期末処分利益	874,453
		(うち当期総利益)	(874,453)
		利益剰余金合計	1,675,829
		純資産合計	38,357,959
		負債純資産合計	51,619,486

3. 損益計算書

平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで (単位:千円)

経常費用		経常収益	
業務費		運営費交付金収益	3,239,123
給与費	11,716,925	補助金等収益	417,300
材料費	5,924,275	業務収益	
委託費	2,946,791	医業収益	19,931,632
設備関係費	2,720,342	研修収益	26,430
経費	1,448,322	研究収益	2,540,804
一般管理費		寄附金収益	63,419
給与費	945,973	資産見返負債戻入	
経費	121,715	資産見返運営費交付金戻入	99,354
減価償却費	8,898	資産見返補助金等戻入	182,600
財務費用	56,508	資産見返寄附金戻入	51,988
その他経常費用	48,330	施設費収益	2,368
経常費用合計	25,938,079	財務収益	125
		その他経常収益	296,062
		経常収益合計	26,851,205
臨時損失		経常利益	913,126
固定資産除却損	25,519		
その他臨時損失	105,646	臨時利益	
		固定資産売却益	185
当期純利益	874,453	その他臨時利益	92,307
当期総利益	874,453		

4. キャッシュ・フロー計算書

平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで		Ⅱ 投資活動によるキャッシュ・フロー	
(単位:千円)Ⅰ 業務活動によるキャッシュ・フロー		有価証券の取得による支出	▲2,000,000
人件費支出	▲12,453,047	有価証券の売却による収入	2,000,000
材料の購入による支出	▲ 5,869,010	無形固定資産の取得による支出	
その他の業務支出	▲ 5,694,249	▲864,955	
運営費交付金収入	3,395,266	有形固定資産の売却による収入	185
補助金等収入	731,249	無形固定資産の取得による支出	
寄附金収入	109,683	▲73,400	
医業収入	19,715,497	投資活動によるキャッシュ・フロー	

研修収入	24,145
研究収入	2,527,079
その他の収入	389,176
小計	2,875,789
利息の受取額	125
利息の支払額	▲ 56,648
業務活動によるキャッシュ・フロー	
	2,819,266

	▲938,170
Ⅲ 財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	▲ 826,472
長期借入による収入	790,506
リース債務償還による支出	▲ 516,619
承継資産の回収による収入	302
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲552,283
Ⅳ 資金増加額	1,328,813
Ⅴ 資金期首残高	3,970,667
Ⅵ 資金期末残高	5,299,480

5. 利益の処分に関する書類

(単:千円)

Ⅰ 当期末処分利益	874,453
当期総利益	874,453

Ⅱ 利益処分額	874,453
積立金	874,453

6. 行政サービス実施コスト計算書

平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで (単:円)

Ⅰ 業務費用	
(1)損益計算書上の費用	
業務費	24,756,655
一般管理費	1,076,586
財務費用	56,507
その他経常費用	48,330
臨時損失	131,165
(2)(控除)自己収入等	
医業収益	▲19,931,632
研修収益	▲26,430
研究収益	▲2,445,936
その他経常収益	▲411,593
臨時利益	▲92,492
業務費用合計	3,161,160

Ⅱ 損益外減価償却相当額	296,901
Ⅲ 引当外退職給付増加見積額	64,729
Ⅳ 機会費用	
政府出資又は地方公共団体出資等の機会費用	0
Ⅴ 行政サービス実施コスト	3,522,790

3-5-5 図書館

1.概要

1.1 場所・面積　研究所低層棟 3 階　427 ㎡

1.2 座席数　閲覧用 31 席、パソコン 17 台(事務用 PC を含む)

1.3 職員　図書館長(松原洋一:4～7 月併任)、(小枝達也:8 月より併任)、
非常勤職員　司書 2 名

1.4 蔵書数　単行書 4,132 冊 (和書 2,990 冊、洋書 1,142 冊)、製本雑誌　20,024 冊

1.5 購読雑誌タイトル数

洋雑誌　66 誌(うち冊子体 4 誌)
和雑誌　30 誌(冊子体)

1.6 データベース　メディカルオンラインプラス, 医中誌 Web, Clinical Key, Springer Hospitals & Health, The Cochrane Library, ProQuest (Health & Medical Collection with MEDLINE), CHINAHL, PsycINFO, Embase, Up to Date, Web of Science

1.7 参加組織　日本医学図書館協会 (正会員 B)
NACSIS-CAT/*ILL 参加〈FA023189〉*

2.利用者サービス

2.1 図書貸出件数　83 件

2.2 文献相互利用件数

依頼[他館への依頼]　1,886 件
受付[他館から依頼]　618 件

2.3 図書館利用説明会

毎月 1 回 (約 30 分)

3.図書購入選定委員会

第1回　平成 30 年 7 月 10 日: (1)平成 29(2017)年度業務報告
(2)平成 31(2019)年購入雑誌選定について
(3)その他
第 2 回　平成 30 年 9 月 19 日:(1)平成 31(2019)年購読雑誌・図書選定について
(2)その他
第 3 回　平成 30 年 10 月 17 日:(1)平成 31(2019)年購読雑誌・図書選定について
(2)その他
第 4 回　平成 31 年 1 月 31 日:(1)平成 31(2019)年図書館運営委員会規定の変更について
(2)地域医療連携に伴う外部者の図書館利用について(案内)

3-5-6 ボランテイア

1.概要

当センター・ボランティアの会は「患者さんやそのご家族が本病院で過ごされる時間を、少しでも安らぎを感じていただけるような環境作りに努める心」を基本理念として活動している。病院とボランティアの連携を深めるために作成した、「ボランティア活動及び運営に係わる取り決め事項」にのっとり、ボランティア会員は当センター基準の感染症抗体価をクリアして活動しており、入院児支援のお手伝いの希望者が増えてくると期待している。

2.事務局報告

・会員数　　平成 30 年 4 月登録人数:269 名　新規登録者:20 名　　退会 28 名
・活動数　　平成 30 年度活動延べ人数:6,785 名　延べ活動日数 2,093 日
・ボランティア総会　　30 年 5 月 15 日開催
・ボランティア運営企画委員会　2 回開催　30 年 6 月 12 日　12 月 11 日
・毎月理事会開催
・新規会員募集活動
　第 35 期募集　6 月 27 日　20 名入会
・寄付の受入
　ゴールドマンサックス社より寄付金　215,500 円
　株式会社ボーンネルンドより継続的におもちゃの寄付
　株式会社アトランスチャーチよりバザー品を中心に物品の寄付
・シフト活動延べ人 6,785 名、

3.セクション活動報告

3.1　外来ガイド

・平日外来ガイド
　Aシフト 8:30～11:00　Bシフト 9:00～12:00　C シフト 12:00～15:00
　シフト活動延べ人数:1,322 名　会議等参加者数:158 名
　外来でのご案内、患者さん及びご家族に対するサポート、ベビーカー使用時の介助等。
　2、3 階カウンターでは案内及び受診待ちのお子さんやご兄弟のお相手をした。看護の日、救急イベント時の案内やお子様のシッティング。豆の木の赤ちゃんコーナーの清掃、管理。ベビーカー、子ども用カートの補修、管理など。
　「声かけ運動」「ちょっと預かり、ちょっと手伝い」等、積極的に心がける。
・休日救急
　救急センターにて待合室内対応と周辺（トリアージ、放射線科、おむつ替えベッド、講堂、売店、その他）のご案内をしている。活動は、土、日、祭日
　A シフト 11:00～13:30　B シフト 13:30～16:00
　シフト活動延べ人数:285 名　　会議等参加者数:37 名

3.2　ボランティアショップ タン・トン・トン

があり、各担当を決めて活動している。
店頭では、手作り品、仕入れ品、成育オリジナルグッズなどの販売をしている。
ショップ会議を月1回開催、商品の検討やショップ内のさまざまな問題点を討議している。
販売収益は会の活動に必要な費用の支払いに充てられている
平日 10:30～15:00（営業時間は 11:00～14:30）
シフト活動延べ人数:937 名　会議・作業参加者数 218 名

3.3 シッティング《ひまわり》

病室に入れない入院患児のご兄妹児・産科入院中のお母様のお子さん（6 才まで）をお預かりしている
平日 13:00～16:00（火曜日は 11:00～13:00 も活動）
シフト活動延べ人数:893 名　会議等参加人数:65 名

小学生までのご兄弟対象のイベント開催　年 1 回(夏休みお楽しみ会)

3.4 園芸

成育庭園と屋上庭園の環境美化、植苗
毎週火曜日　9:30～11:30　　第 3 日曜日　9:30～11:30
シフト活動延べ人数:742 名　　会議等参加者数:55 名
年 3 回の花苗の植え替え、花柄摘み、球根の植え込みなどの花壇の整備、芝生の手入れや低木の剪定、腐葉土作り、池の清掃など。
外資系企業の園芸美化活動の協力　2 回(5月と 6 月)

3.5 図書《にじいろ》

病院で過ごす時間に本を通して楽しんでもらいたいという思いで図書の活動をしている。
活動時間　13:00～16:00　　月曜日班は病棟　　水曜日班は外来を担当
［おはなし会］ 春と秋　　病棟内 8 ヶ所で実施
［にじいろタイム］ 月・水　2 階プレイルームにて 13:20～　絵本の読みきかせ
シフト活動延べ人数:876 名　　会議等参加人数:127 名

3.6 病棟ボランティア

「入院しているお子さんに寄り添い、寂しくしている時間を一緒に楽しみたい」という理念のもとで活動している。
活動日・時間　　月～金　　10:00～12:00　　19:00～21:00　　場所　指定の病棟
活動延べ人数　　活動延べ人数　622 名
研修・会議等　85 名

4.委員会活動報告

4.1 イベント委員会

活動延べ人数:182 名
病院・保育士イベントへの協力 5 回。委員会独自の企画・実施で病棟内でのコンサート、豆の木広場でのコンサートや人形劇など、プログラムも開催場所も多岐にわたり、年間 11 回のイベントを開催した。また、毎年恒例となったエントランスホールの七夕の笹飾りやクリスマスツリーの飾り付け、雛飾りは多くの皆さんに楽しんでいただいた。

4.2 会員交流委員会

活動延べ人数:199 名　　会議等 0 名
ボランティア会員相互の交流を図ることを目的として活動している。
10 月にバザー、11 月にミニバザーを開催。準備、当日とも多数の会員の協力で運営された。
私達の活動を応援してくださる企業、個人からの多数の寄付があり、患者さんやその家族はもとより、病院関係者の方々に喜んで購入して頂いた。8 月の夏祭りも参加。

4.3 広報委員会

成育のボランティア活動を周知していただく為の広報活動をしている。
活動延べ人数:57 名　　会議等 5 名
会員ニュース「てんとうむし」を毎月1回発行、ホームページを毎月更新等で、会の活動や会員募集などの情報を広く一般に向けて発信した。ボランティア募集時のパワーポイント、その他必要に応じて各種ポスターの作成なども行った。ボランティアルーム前の掲示板に「壁面アート」も作成して楽しんでいただいている。

3-6　監査室

1. 概要

監査室では、当センターの業務及び予算執行に対する監査並びに監事、会計監査人、との連絡調整等に係る事務を行っている。

平成 30 年度の主な業務内容は以下のとおり。

- 外部資金による研究費等の経理に関する事項、契約に関する事項については、重点事項として内部監査を実施。
- その他に固定資産の取得及び管理状況に関する事項、給与（諸手当の認定・支給・随時確認等）に関する事項、勤務時間管理に関する事項、施設基準（入院基本料、特定入院料）に関する事項、病院情報システムに関する事項、法人文書の管理に関する事項、内部統制に関する事項について内部監査を実施。
- また、センターの所有するパスモ及び切手の管理に関する事項、寄付金の受入、運用及び管理状況に関する事項について、特別調査指導を実施。
- 監事が行う監査に関する事務補佐を実施。
- 契約監視委員会を四半期毎に開催し、随意契約の妥当性や一般競争入札による契約の問題点等について審議を実施。
- 会計監査人や税理士法人と連携し、職員の会計処理能力の向上に資することを目的に職員を対象とした「習熟簿記研修会」や「消費税研修会」を開催。
- 会計検査院の実地検査、調査、特別調書提出依頼等に対し、関係部門と共に連絡調整等の対応を行った。

以上の業務を行うに当たり、センターの業務が適正かつ能率的に執行されるとともに会計処理が適正に行われるよう、諸規程に対する合規性、業務運営の適正性及び効率性を監査し、問題点の検討及び改善を図ることを基本方針として取り組んでいる。

3-7. 各 種 委 員 会 構 成 員 一 覧 表

平成28年4月1日現在

区分	構成員					審議事項	庶務（書記）	開催	委員会根拠規程等
	研究所	病院	臨床研究開発センター	理事・事務部	委員長				
1 職員採用委員会	研究所長	病院長	センター長	企画戦略局長 外部委員1名	理事長	センター職員の採用に関すること	人事部人事課	必要に応じて	人事規程(H22規程14号)第7条 H22委員会規程1号
2 職員表彰審査委員会				役員	理事長	表彰(永年勤続表彰を除く。)を受ける職員等に関する事項	人事部	必要に応じて	職員表彰規程(H22規程16号)第4条
3 懲戒審査委員会	研究所長	病院長 看護部長		企画戦略局長 人事部長	理事(1)	懲戒事由に該当する事実の存否及び内容、懲戒の種類及びその程度等に関する事項	人事部人事課	必要に応じて	職員懲戒規程(H22規程17号)第5条
4 安全衛生委員会		安全管理者 衛生管理者 産業医(1) 安全に関する経験を有する職員(2) 衛生に関する経験を有する職員(3)			人事部長 (総括安全衛生管理者)	職員の健康管理と安全管理の立案計画、意見聴取	人事課 労務管理室	1カ月に1回	安全衛生管理規程(H22規程21号)第5条 H22委員会規程2号
5 医療安全管理委員会		医療安全管理室長 診療部長等(8) 薬剤部長、看護部長 医療安全管理者 栄養管理室長 臨床工学技士長		総務部長 総務課長 医事室長 患者相談専門職 情報管理部長	副院長(医)	リスクマネージメントに関する事項	医療安全管理室	1カ月に1回	医療安全管理規程(H22規程22号)第4条
6 外部資金受入審査会		副院長(医) 看護部長	センター長	総務部長 財務経理部長 総務課長	副所長(1)	寄付受入に関する事項	総務課	必要に応じて	寄付受入規程(H22規程32号)第5条 H22委員会規程3号
7 医療及び個人情報管理委員会	研究所長	病院長、副院長2名、臨床検査部長、放射線診療部長、薬剤部長	センター長	総務部長 研究医療課長 医事室長 情報解析室長 システム管理室長 文書管理係長	情報管理部長	電算機の使用計画、保守運営に関する必要な事項	情報解析室	必要に応じて	個人情報保護規程(H22規程38号)第7条 H22委員会規程4号
8 職務発明等審査委員会	副所長(1)	副院長(1)	開発企画部長 臨床試験推進室長 知財・産学連携室長	総務課長 企画経営課長 財務経理課長	研究所長	職務発明に関する重要事項	研究医療課	必要に応じて	職務発明等規程(H22規程42号)第12条
9 倫理審査委員会	副所長	副院長 倫理予備審査委員会の委員(理事長指名) 倫理学・法律学の専門家等、人文・社会科学の有識者 研究対象者等の観点も含めて一般の立場から意見を述べることの出来る者 (男女両性で5名以上) (センターに所属しない者が複数)			理事長が指名	ヘルシンキ宣言の趣旨に添った倫理的事項	研究医療課	必要に応じて	臨床研究等倫理規程(H22規程43号)第5条 H22委員会規程5号
10 治験審査委員会	研究所部長から1名	部長、センター長、副院長から34名以上 副看護部長1名 病院医長またはその他専門知識を有する職員1名以上	部室長・主観から1名以上	事務系職員から23名以上 外部委員2名以上	専門委員から理事長指名	治験及び受託研究に関する事項	臨床試験推進室	1ヶ月に1回	受託研究取扱規程(H22規程46号)第5条 H22委員会規程6号

各　種　委　員　会　構　成　員　一　覧　表

平成28年4月1日現在

区分	構成員					審議事項	庶務（書記）	開催	委員会根拠規程等
	研究所	病院	臨床研究開発センター	理事・事務部	委員長				
11 研究活動規範委員会	研究所長	病院長		企画戦略局長 総務部長 外部委員2名	企画戦略局長	公的研究費の適正な取り扱いを確保に関する事項	研究医療課	必要に応じて	競争的研究資金取扱規程（H22規程47号）第14条 競争的研究資金取扱細則（H22細則11号）第3条
12 研究部門評価委員会	【←	理事長が指名		→ 】	理事長が指名	研究の実施体制、研究の進捗状況、研究成果に関する事項	研究所事務係長	必要に応じて	研究部門評価規程（H22規程48号）第2条
13 利益相反ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ委員会	副所長（1）	副院長（医）		総務部長 外部委員1名	理事長が指名	利益相反に関する重要事項	総務課	1年に1回 （必要に応じて）	利益相反ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ規程（H22規程49号）第6条
14 成育医療研究開発費評価委員会	研究所長 副所長 バイオバンク長	病院長、副院長 特命副院長 看護部長、薬剤部長	センター長 副センター長	理事（3） 企画戦略局長 コンプライアンス室長 情報管理部長 総務部長 人事部長 企画経営部長 財務経理部長 図書館長	理事長	成育医療研究開発費による研究の評価について	研究医療課 （研究係長）	必要に応じて	成育医療研究開発費取扱規程（H22規程66号）第3条 H22委員会規程7号
15 放射線安全管理委員会	副所長（1）	放射線診療部長 診療放射線技師長 放射線取扱主任者 副診療放射線技師長 健康管理医 管理区域担当者 医長1名 看護部長		施設管理責任者 （財務経理課長） 人事課長 医事室長 職員係長（労務管理室） 研究所事務係長	副院長（医）	放射線障害防止について必要な事項	診療放射線部	必要に応じて	放射線障害予防規程（H22規程67号）第8条 H22委員会規程8号
16 防火・防災対策委員会	副所長（1）	副院長（医）、 総合診療部長、 手術・集中治療部長、 周産期センター長、 薬剤部長、 看護部長		総務部長、 財務経理部長、 総務課長、 総務専門職、 総務係長、 監査係長、 防災センター委託責任者、ｴﾈﾙｷﾞｰセンター委託職員	総務部長	避難施設、消防用設備等・特殊消防用設備等などの点検・維持管理等に関する事項	総務課	必要に応じて	消防計画（H22規程68号）第5条
17 研究所遺伝子組換え実験安全管理委員会	研究部長及び研究室長から若干名、その他所長が必要と認める者				安全管理主任者	実験室、実験区域及び実験設備等の安全管理等に関する事項	研究所事務係長	必要に応じて	研究所遺伝子組換え実験安全管理規程（H22規程69号）第4条
18 実験動物委員会	研究所長の指名する研究部(室)長若干名				実験動物管理室長	動物舎の運用計画及び運用に関する必要な事項	研究所事務係長	必要に応じて	動物実験規程（H22規程70号）第4条 動物実験細則（H22細則14号）第2条
19 微生物安全管理委員会	研究所長の指名する研究部(室)長若干名				研究所長が指名	微生物の安全管理等に関する事項	研究所事務係長	必要に応じて	研究所微生物安全管理規程（H22規程74号）第4条
20 契約審査委員会	研究所長	副院長（1）、放射線診療部長、臨床検査部長、薬剤部長、看護部長		企画経営課長 外部委員1名	副院長	契約について競争参加者資格等の設定、随意契約の理由及び予定価格の設定に関する事項	経営係長	毎月2回程度	契約事務取扱細則（H22細則6号）第4条 契約審査実施要領（H22要領6号）

各　種　委　員　会　構　成　員　一　覧　表

平成28年4月1日現在

区分	構成員					審議事項	庶務（書記）	開催	委員会根拠規程等
	研究所	病院	臨床研究開発センター	理事・事務部	委員長				
21 共同研究審査委員会	副所長(1)	副院長(医)	開発企画部長 臨床試験推進室長	企画経営課長	研究所長	研究の目的、計画及び実施の妥当性及び研究結果及び発表の方法に関する事項	研究医療課	必要に応じて	共同研究取扱細則(H22細則13号)第3条
22 棚卸実施委員会	副所長(1)	副院長、薬剤部長、看護部長、栄養管理室長、臨床工学技士長、理学療法士長、診療放射線技師長、臨床検査技師長	臨床研究センター長	総務課長、企画経営課長、研究医療課長、財務経 理課長、調達企画室長	財務経理部長	センターの適正な棚卸資産の管理、棚卸資産の確定に関する事項	企画調達室	必要に応じて	棚卸実施要領(H22要領8号)第4条 H22委員会規程9号
23 病床管理委員会		副院長(看護)、副看護部長(1)、看護師長(複数)、生体防御系内科部長、臓器・運動器病態外科部長、周産期センター医長		財務経理部長 企画経営課長 医事室長 経理係長	総合診療部長	センターの病床の適正管理と効率的運用に関する事項	医事室	1カ月に1回	H22委員会規程10号
24 外来診療管理委員会		薬剤部長、副看護部長1名、看護師長2名、総合、内科系、外科系、周産期の各部の中から医長1名		医事室長 財務管理係長	感覚器・形態外科部長	センターの外来診療と円滑な運営に関する事項	医事室	1カ月に1回	H22委員会規程11号
25 薬剤委員会		薬剤部長、副薬剤部長、看護部長、医長6名、診療放射線技師長、臨床検査技師長、開発企画主幹		総務課長 財務経理課長 医事室長	副院長(医)	医薬品の適正な管理、円滑な供給、医薬品等購入費の効率的運用、その他薬事に関する必要な事項及び毒劇物等の適正な管理に関する事項	薬剤部 (副薬剤部長)	1カ月に1回	H22委員会規程12号
26 院内感染防止対策委員会		病院長、感染防御対策室長、看護部長、薬剤部長、緩和ケア医長、集中治療科医長、外科医長、新生児科医長、診療放射線技師長、臨床検査技師長、栄養管理室長、看護師長1名、理学療法士長、感染管理認定看護師1名		企画戦略局長 医事室長 監査係長	副院長(医)	センター内の防疫及び院内感染対策に関する必要な事項	人事課 (労務管理室)	1カ月に1回 (第4週月曜日)	H22委員会規程13号
27 手術室運営委員会		臓器・運動器病態部長、麻酔科医長2名、外科系医長3名、副看護部長1名、看護師長3名		医事室長 経理係長	手術・集中治療部長	手術室の円滑な運営に関する事項	診療報酬指導係長	1カ月に1回	H22委員会規程14号
28 教育・研修委員会・専門研修プログラム管理委員会	研究所部長1名	副院長(医)、副看護部長、薬剤部長(又は副薬剤部長)、診療部長(又は医長)若干名、看護師長(教育担当)、臨床検査技師長		情報管理部長 人事課長 財務経理課長 研究医療課長	教育・研修部長	レジデント教育・研修に関する必要な事項	研究医療課	必要に応じて	H22委員会規程15号

各　種　委　員　会　構　成　員　一　覧　表

平成28年4月1日現在

区分	構成員					審議事項	庶務（書記）	開催	委員会根拠規程等
	研究所	病院	臨床研究開発センター	理事・事務部	委員長				
29 栄養管理委員会		総合診療部又は内科部医長から3名、外科部、周産期・母性診療センターの医長各1名、看護師長2名、栄養管理室長、栄養係長、主任栄養士、調理師長		医事専門職	周産期・母性診療センター長	患者給食業務の適切な運営及び栄養指導、NST活動に関する必要な事項	栄養係長	定例会を年4回（6月、9月、12月、3月）その他必要に応じて	H22委員会規程16号
30 子どもの安全対策委員会		総合診療部長、こころの診療部長、救急診療科医長、臓器・運動器病態外科部長、放射線診療部長、医療連携・患者支援センター長、看護部長		医事室長 医療社会福祉専門員42名	病院長	センターにおいて子どもの虐待の早期発見・早期対応・子どもの事故防止に関する事項	医療社会事業専門員	概ね年1,2回 その他必要に応じて	H22委員会規程18号
31 高度先進医療専門委員会		委員長が指名する診療部長		財務経理部長 財務経理課長 医事室長 研究医療課長	病理診断部長	高度先進医療の適切な運営	医事専門職	定期的に 年2回	H22委員会規程19号
32 輸血療法委員会		（臨床検査部長、新生児科医長、腫瘍科医長）から1名、集中治療科医長、麻酔科医長、産科医長、臨床検査技師長、ICU看護師長、医療安全管理担当師長、輸血検査主任		契約係長 入院・外来係長	臨床検査部長	センターにおける輸血療法の円滑な運営に関する事項	輸血検査主任	毎月1回 第1月曜日	H22委員会規程20号
33 医療ガス安全・管理委員会		副院長（医）、看護部長、臨床検査部長、薬剤部長、麻酔科医長、看護師長2名、臨床工学技士長		財務経理部長 財務経理課長 調達企画専門職 営繕専門職 エネルギーセンター責任者	手術・集中治療部長	診療の用に供する酸素等医療ガス設備の安全管理に関する事項	管財係長	定例会を年1回 その他必要に応じて	H22委員会規程21号
34 クリニカルパス委員会		副看護部長1名、医長若干名、看護師長2名、クリニカルパス担当職員（医師・看護師）、その他（薬剤部若干名、放射線診療部医師・診療放射線技師各1名、臨床検査部医師・臨床検査技師各1名、管理栄養士1名）		情報管理部1名 外来・入院係長	臓器・運動器病態外科部長	クリニカルパスの運用に関する事項	医事室	2カ月に1回 奇数月	H22委員会規程22号
35 ボランティア運営・企画委員会		副看護部長1名、看護師長2名		総務課長、労務管理室長、患者相談専門職、総務係長、広報係長 ボランティア代表5名	診療部長	ボランティアの受け入れとボランティア活動に関する取扱い	総務課	年2回 必要に応じて	H22委員会規程23号
36 ハラスメント防止対策委員会	副所長（1）	副院長（2名） 副看護部長1名	センター長	総務課長 人事課長 労務管理室長	総務部長	職員からのハラスメントに関する苦情相談	労務管理室長	必要に応じて	H22委員会規程24号
37 分教室連絡運営委員会		副院長（医）（1）、副看護部長、病棟看護師長、ソーシャルワーカー		総務課長	（規定なし）	分教室の運営に関する事項	（規定なし）	年2回 （6月・3月）	H22委員会規程25号

各　種　委　員　会　構　成　員　一　覧　表

平成28年4月1日現在

区分	構成員					審議事項	庶務（書記）	開催	委員会根拠規程等
	研究所	病院	臨床研究開発センター	理事・事務部	委員長				
38 物品調達管理委員会		臓器・運動器病態外科部長、臨床検査技師長、中央材料室看護師長		調達企画室長 契約係長 システム管理専門職	副院長（経営・財務）	物品の調達に関する事項	契約係長	必要に応じて	H22委員会規程26号
39 診療報酬委員会		副院長（医）(1)、診療部長2名、薬剤師1名、看護師長2名、その他診療報酬に詳しい医師数名		監査室長 医事室長 医事専門職 診療報酬指導係長 医事係長 入院・外来係長	生体防御系内科部長	診療報酬の審査増減、過誤増減、審査返戻、過誤返戻の現状把握、原因・削減対策の検討に関する事項	診療報酬指導係長		H22委員会規程27号
40 看護職員確保対策委員会		副看護部長2名 教育研修部長		総務部長 財務経理部長 人事課長 企画経営課長 財務経理課長 労務管理室長 人事給与係長	看護部長	看護師確保に関する必要な事項	人事課	年4回（4・7・10・1月）	H22委員会規程28号
41 褥瘡対策委員会		外科医長、形成外科医長、皮膚科医長、WOC看護認定看護師、看護師長1名、副看護師長1名、薬剤部長、栄養管理室長、理学療法士長		医事係長	臓器・運動器病態外科部長	褥創及び医療行為に付随して起こる皮膚障害の発生を未然に防止	医事係長	月1回以上	H22委員会規29号
42 ヒトＥＳ細胞研究倫理審査委員会	一 生物学を専門とする者 二 医学を専門とする者 三 法律を専門とする者 四 生命倫理に関する意見を述べるにふさわしい識見を有する者 五 一般の立場に立って意見を述べられる者				理事長の指名		研究医療課	必要に応じて	H22委員会規程30号
43 施設等有効活用委員会	副所長(1)	副院長（医） 看護部長		財務経理部長 総務課長 営繕専門職 管財係長	総務部長	施設等活用に関すること	総務課	必要に応じて	H22委員会規程31号
44 職員厚生委員会	研究部（室）長1名	産業医 副看護部長1名 副薬剤部長 各副（放・検・栄）		労務管理室長 総務課長 研究所事務係長	人事部長	福利厚生に関すること	人事課 （労務管理室）	必要に応じて	H22委員会規程32号

各　種　委　員　会　構　成　員　一　覧　表

平成28年4月1日現在

区分	構成員					審議事項	庶務（書記）	開催	委員会根拠規程等
	研究所	病院	臨床研究開発センター	理事・事務部	委員長				
45 ＤＰＣ委員会		副院長(医)、器官病態系内科部長、生体防御系内科部長、臓器・運動器病態外科部長、小児期診療科医師、耳鼻咽喉科医師、周産期センター医師、病棟看護師長1名、薬剤師1名		医事室長 医事専門職 患者相談専門職 入院・外来係長	感覚器・形態外科部長	適切なDPCコーディングに関すること、診断及び治療方法の適正化・標準化に関すること、その他DPC業務に係る課題に関すること	医事室	年2回、その他随時	H22委員会規程33号
46 施設・医療機器等整備委員会	副所長(1)	生体防御系内科部長、臓器・運動器病態外科部長、手術・集中治療部長、周産期センター長、放射線診療部長、臨床検査部長、薬剤部長、看護部長	開発企画部長	情報管理部長 総務部長 財務経理部長 総務課長 企画経営課長 財務経理課長	企画戦略局長	医療機器の整備計画等に関すること	管財係長	月1回	H22委員会規程35号
47 臓器移植倫理委員会	副所長(1)	副院長(2)、総合診療部長、生体防御系内科部長、臓器・運動器病態外科部長、手術・集中治療部長、周産期・母性診療センター長、周産期・母性診療センター主任副センター長、放射線診療部長及び臨床検査部長		コンプライアンス室長 企画戦略局長 総務部長 外部委員25名以上	副所長(1)	法的脳死判定及び脳死下臓器提供の適正な実施に関すること	総務課	必要に応じて	H22委員会規程第36号
48 遺伝子治療臨床研究審査委員会	一 分子生物学、細胞生物学、遺伝学、臨床薬理学、病理学等を専門とする者 5名以上 二 遺伝子治療臨床研究の対象となる疾患に係る臨床医 1名以上 三 法律を専門とする者 1名以上 四 生命倫理に関する意見を述べるにふさわしい識見を有する者 1名以上 (委員は8名以上、外部委員は半数以上)				委員の互選	センターにおいて遺伝子治療臨床研究を実施する場合の適否等の審査	研究医療課	必要に応じて	H22委員会規程第37号
49 研究所麻薬・毒劇物等管理委員会	研究部(室)長若干名				研究所長が指名	麻薬・毒劇物等の適正な管理体制、保管等に関すること	研究所事務係長	必要に応じて	H22委員会規程38号
50 肝細胞移植治療臨床研究適応・評価判定委員会		臓器移植センター長、移植外科医長、内分泌・代謝科医長、病理診断部長、腎臓・リウマチ・膠原病科医長、集中治療部長、放射線診療部長、感染症科医長、遺伝診断科医長	先端医療開発室長 肝細胞移植研究室		病院長	肝細胞移植症例に関する科学的妥当性及び倫理的配慮の観点から、患者の適応及び治療の効果等に関すること	研究医療課	必要に応じて	H23委員会規程第22号

各　種　委　員　会　構　成　員　一　覧　表

平成28年4月1日現在

区分	構成員					審議事項	庶務（書記）	開催	委員会根拠規程等
	研究所	病院	臨床研究開発センター	理事・事務部	委員長				
51 遺伝子治療臨床研究適応・評価判定委員会		副院長(1名) 小児がんセンター長 臨床研究の対象となる疾患に係わるセンターの臨床医 臨床研究の対象となる疾患に係わるセンターの基礎研究者			病院長	申請された臨床研究症例について科学的妥当性及び倫理的配慮の観点から患者の適応及び治療の効果について審査	研究医療課	必要に応じて	H24委員会規程第2号
52 売店、食堂及び自動販売機等設置運営委員会	研究所部長　1名	副院長、看護部長、副看護部長1名、副薬剤部長課長、栄養管理室長、各副技師長		総務課長、労務管理室長、総務係長 外部委員1名	総務部長	売店・食堂・自動販売機の運営等に関する事項を検討し、患者サービスに資する。	総務係	必要に応じて	H24委員会規程第9号
53 臨床検査委員会	研究所部長　1名 (または室長)	診療部長または医長2名 副看護部長2名 臨床検査技師長 副臨床検査技師長		医事室長 財務経理課長	臨床検査部長	臨床検査業務に関すること	主任臨床検査技師	4半期に1回	H24委員会規程第11号
54 診療録管理委員会		診療録管理室長 診療部長(1) 診療科医長又は医員(3) 薬剤部長、看護部長		医事室長 情報解析室長	副院長(1)	診療録に関すること	診療録管理室	月1回	H25委員会規程第1号
55 医療事故調査委員会		医療安全管理室長 薬剤部長、看護部長 当該診療科部長 当該診療科以外の部長 医療安全管理者		コンプライアンス室長 情報管理部長 総務部長	副院長(1)	医療事故に係る原因調査・究明に関すること	医療安全管理室 医事室	必要に応じて	H22委員会設置規程第63号
56 医療事故外部調査委員会	【　理　事　長　が　指　名　し　た　者　】	副院長(1) 医療安全管理室長 医療安全管理者 外部の医療従事者			理事長指名	医療事故に係る原因調査・究明に関することを外部の立場から	医療安全管理室 医事室	必要に応じて	医療事故調査委員会規程
57 臨床倫理委員会	【　病　院　長　が　指　名　し　た　者　】	副院長(2) 患者相談専門職	生命倫理室長	コンプライアンス室長	病院長	医療従事者に対する倫理的支援に関すること	医療安全管理室 医事室	必要に応じて	H22委員会設置規程第63号
58 臨床研究推進委員会			社会医学研究部長 政策科学研究部長 開発企画部長 開発薬事・プロジェクト管理部長 臨床研究教育部長 上記部の室長/室長代理		臨床研究開発センター長	臨床研究中核病院整備事業に関すること	研究医療課	月1回	H22委員会設置規程第63号
59 物品・薬剤管理委員会		薬剤部長 中央材料室看護師長 中央材料室看護師(1) 薬剤師(1)		情報管理部長 財務経理部長 調達企画室長 契約係長	副院長(財務・経営担当)	診療材料等物品並びに医薬品の在庫管理に関すること	調達企画室	月1回	H22委員会設置規程第63号
60 年報・業績集委員会	研究室長(1)	副院長(1)		総務部長	副周産期・母性診療センター長	年報・業績集の編集及び刊行に関すること	総務課	必要に応じて	H22委員会設置規程第63号

各　種　委　員　会　構　成　員　一　覧　表

平成28年4月1日現在

区分	構成員					審議事項	庶務（書記）	開催	委員会根拠規程等
	研究所	病院	臨床研究開発センター	理事・事務部	委員長				
61 図書購入選定委員会	研究部長(1) 図書館職員(1)	副院長(1) 薬剤部主任(1) 看護師長(1)		総務部長	図書館長	図書館に購入する図書の選定	図書館職員	必要に応じて	H22委員会設置規程第63号
62 再生医療・細胞移植等適応評価委員会		病院長・副院長(1) 小児がんセンター長 臓器移植センター長 臨床研究の対象となる疾患に係わるセンターの臨床医 臨床研究の対象となる疾患に係わるセンターの基礎研究者			理事会指名	申請された臨床研究症例について科学的妥当性及び倫理的配慮の観点から患者の適応及び治療の効果について審査	研究医療課	必要に応じて	H22委員会設置規程第5号
63 倫理予備審査委員会	基礎医学研究部会：ヒト由来の試料を対象とした基礎研究 社会医学研究部会：観察研究等、人の健康に関する情報 治療研究部会：人を対象とした臨床研究等及び医療行為のうち安全性及び有効性が確立していないもの				理事長指名	倫理審査委員会への申請予定医療行為の臨床実施計画及び医学研究計画について科学的妥当性及び倫理的配慮の観点から審査	研究医療課	必要に応じて	倫理審査委員会規程
64 情報システム委員会	研究所長 副所長(1) 研究部長(1)	病院長・副院長(1) 診療部長(2) 薬剤部長 看護部長		総務部長 医事室長 情報解析室長 システム管理室長	情報管理部長	センターにおける情報システムの運営等に関すること	情報管理部	必要に応じて	H22委員会設置規程第63号
65 収支改善委員会				財務経理部長 情報管理部長 企画経営課長 財務経理課長	副院長(1)	経理に関するデータに基づく現状把握及び背景分析等	企画調整職	月1回	H22委員会設置規程第63号
66 特定認定再生医療等委員会	分子生物学・細胞生物学・遺伝学・臨床薬理学又は病理学の専門家 再生医療等について充分な科学的知見及び医療上の識見を有する者 臨床医 細胞培養加工に関する識見を有する者 法律に関する専門家 生命倫理に関する識見を有する者 生物統計その他臨床研究に関する識見を有する者 上記以外の一般の立場の者				理事長指名	再生医療等を提供しようとする病院もしくは診療所または提供機関の管理者から、再生医療等提供計画について意見を求められた場合において、審査を行い、当該管理者に対し意見を述べること	研究医療課	必要に応じて	H22委員会設置規程第63号
67 災害対策委員会	副所長(1)	副院長(1)・災害対策室長 医療安全管理室長 医療連携・患者視線センター長 救急診療科医長(2) 在宅診療科医長 集中治療部医師(2) 総合診療部医師(2) 副薬剤部長(1) 副栄養管理室長 主任臨床工学技士 看護師長(2)		総務部長 財務経理部長 総務課長 財務経理課長 医療社会事業専門員(2) システム管理室長	病院長	災害時におけるセンター内外に係るトリアージ等基本方針に関すること等	総務係長	必要に応じて	H22委員会設置規程第63号 消防計画第5条
68 個人情報管理委員会	副所長(1) 研究部長(1)	副院長(1) 診療部長(教育研修他1) 看護部長	開発企画部長	情報管理部 コンプライアンス室長 総務部長 総務課長・医事室長 研究医療課長	企画戦略局長	センターが保有する個人情報の管理及び情報セキュリティ対策に関すること	情報管理部	年4回	H22委員会設置規程第63号 センターの保有する個人情報に関する規程第7条

各　種　委　員　会　構　成　員　一　覧　表

平成28年4月1日現在

区　分	構成員					審議事項	庶務（書記）	開催	委員会根拠規程等
	研究所	病院	臨床研究開発センター	理事・事務部	委員長				
				情報解析室長 システム管理室長					
69 もみじの家運営委員会		看護部長 医長 看護師長		企画戦略局長 総務部長 財務経理部長 ハウスマネジャー・事務長	病院長	組織及び運営等に必要な事項を定めること	もみじの家	年2回程度	
	喜谷昌代、喜谷喜夫、日本財団が推薦する者、利用者、子ども難病ネットワークが推薦する者、ボランティア代表、一般財団法人思い病気を持つ子どもと家族を支える財団が推薦する者、報道関係者、厚生労働省、世田谷区								
70 定年延長審査委員会		病院長	開発センター長	人事部長	企画戦略局長	研究所の部長・室長の定年延長に関する取り扱いについて	人事課	必要に応じて	H22委員会設置規程第1号
71 地域医療支援委員会		副院長(1) 医療連携・患者支援センター長 看護部長 薬剤部長		企画戦略局長	病院長	かかりつけ医等からの要望に適切に対応し、地域における医療の確保のために必要な支援に係る業務に関し、当該業務が適切に行われるために審議する	医療連携・患者支援センター	年4回程度	
	成城消防署警防課長、玉川歯科医師会医療連携担当理事、光明学園主任養護教諭、世田谷薬剤師会監事、世田谷総合支所副所長、世田谷区歯科医師会専務理事、玉川砧薬剤師会在宅担当理事、玉川医師会地域医療担当理事、世田谷区障害福祉担当部長、世田谷区医師会小児学校保険部担当理事								
72 内部統制委員会					理事長	センターの内部統制に関して必要事項の審議について定める	総務課長	年2回	H27委員会設置規程第58号
73 病床管理委員会	副所長(1)	副院長(1) 医長(5) 医師若干名 副看護部長(1) ベッドコントロール室長 医療連携室長 看護師長(2)		財務経理部長 企画経営課長 医事室長 入院・外来係長	総合診療部長	病床管理、運営に関する事項等について、審議する	医事室	月1回	H22委員会設置規程第63号 消防計画第5条

病院長により廃止となる委員会(案)
経営改善委員会
宿舎・駐車場委員会
遺伝学的検査運営会議
母子保健・成育医療ﾌｪﾛｰｼｯﾌﾟ事業選考委員会
アメニティー委員会
国際交流委員会

病院長により統合となる委員会(案)
情報システム員会
医療情報管理委員会
個人情報保護委員会
診療録開示委員会

薬剤管理委員会と毒劇物管理→　6 薬剤委員会

治験管理委員会と治験審査委員会→ 18 治験審査委員会

3-8　各種事業

3-8-1　子どもの心の診療ネットワーク事業

2018 年は以下の事業を行った

1.連絡会議の開催

子どもの心の診療ネットワーク事業　連絡会議を年度内 2 回開催しているが、対象期間の内容は以下の通りである。

回/日時	議題	参加者数
第 14 回 2018/1/26(金) 13:30-17:00	1.新規参加自治体　事業説明 (福岡県、札幌市) 2.家族支援(佐賀県、東京都、香川県) 3.本事業による効果測定調査・初診待ちの解決に向けて 4.指標調査結果 5.医療機関マップに関する更新方法案・改訂案について	19 自治体,8 ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ 自治体 48 名 厚生労働省 3 名 成育 4 名 計 55 名
第 15 回 2018/7/19(木) 13:30-17:00	1.災害対応について 2.医療連携が難しい地域とのネットワーク形成について(島根県、熊本県、沖縄県) 3.診断書を希望する受診の実態調査について 4.機関別　初診待機期間調査について	19 自治体,7 ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ 自治体 59 名 厚生労働省 3 名 成育 5 名 計 67 名

家族支援は、ペアレントプログラムまたはペアレントトレーニング実施について自治体・拠点病院における取組みを発表し共有した。課題として共働き家庭が増えており、かつ知的障害を伴わない自閉症スペクトラム症の患者も増えていることを考慮したプログラム構成を考える必要がある。

医療連携が難しい地域とのネットワーク形成は、自治体・拠点病院がそれぞれの地域特性(風土や文化)や社会的資源(医師不足など)、地理的環境(離島や山間部)などの実情に合せた連携方法を発表し共有した。

2.子どもの心の診療ネットワーク事業主催　研修会開催

「子どもの心と性」　会場　フクラシア東京ステーション　会議室 D

2018 年 7 月 20 日(金) 9:30～16:30　定員:120 名/参加者:140 名(内当該事業関係者 49 名)

演　　題
挨拶
子どもの心と性の発達 奥山眞紀子 (国立成育医療研究センター　こころの診療部　統括部長)
発達障害と性教育 川上ひちろ　(岐阜大学　医学教育開発研究センター　講師)
LGPTQ と性別違和(発達障害における性別違和感を含めて) 森井智美　(昭和大学医学部　精神医学講座　精神科医)
性被害、性加害の心理 西澤哲　(山梨県立大学　人間福祉学部　教授)
ディスカッション

3.ディスレクシアワークショップ開催

2016 年度より引き続き小枝統括部長を講師として各回定員

開催日	参加者数	年間合計
2018/2/18	29	103
2018/5/27	29	
2018/10/13	45	

30~45 名にて 3 回開催した。各回の参加者数、年間合計数は
右記の表参照。参加者の職種割合は図 1 参照。

4.指標調査

各拠点病院の基礎データおよび事業項目に関する調査を行い、連絡会議時に関係者に集計表およびグラフ化し、配布した。

5.子どもの心の診療機関マップの運用

沖縄県と大阪府が参加し、7 自治体まで増えた。下記表参照。

すでに掲載している医療機関の情報の更新方法が課題であり、今後検討を行う。本年のアクセス数は 1 日 110 アカウント（1 月）から 210 アカウント（12 月）まで増えており参加自治体の増加とともにアクセス数も増えている。広報用に診療機関マップの案内カード（名刺サイズ）を作成した。今後も広報および参加自治体が増えるよう引き続き働きかけを行う。

年度	参加自治体	掲載機関数
2015年度	4	275
2016年度	4	288
2017年度	5	343
2018年度	7	405

6.事業効果測定調査の結果について

集計結果について、1 つの拠点病院において初診待機期間が短縮されている結果となった。その拠点病院では対応策として予約のトリアージシステムの導入、子どもの心の診療機関マップの活用、電話相談を行うことにより 168.13 日から 65.67 日に待機期間が短縮した。対応策の詳細をまとめ今後ホームページに掲載予定である。

7. 診断書を希望する受診の実態調査について

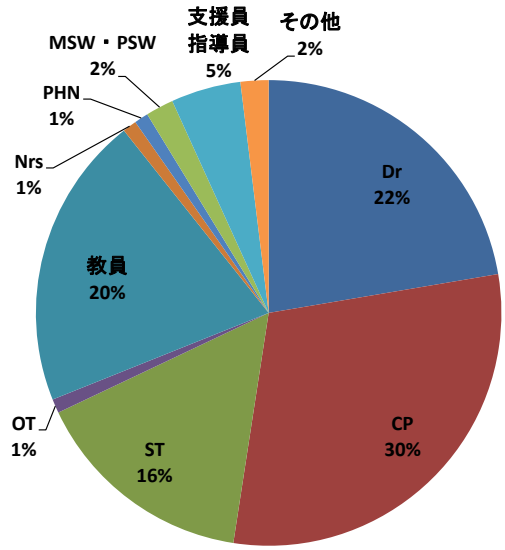
受診までの待機期間が長い理由は多岐にわたっていると推測されるが、その一つに診断書を希望する受診が考えられる。文部科学省の方針として特別支援教育を受ける際の診断書の扱いは、「診断の有無によらず、教育的ニーズに応じた支援を行うものとしている」が、教育委員会ごとの考えにより診断書の要否が決められているため、各自治体で対応にばらつきがあることが分かった。

8. 災害時対応

災害時対応として大阪北部地震および西日本豪雨災害、北海道地震時に自治体・拠点病院が災害対策本部、地域保健所、DMAT 等とどの様に連携し、子どもの心のケアの対応を行ったか会議にて共有した。本事業ホームページにて災害時の子どもの心のケアへの対応について掲載し、被災自治体や教育機関、施設へ「こころとからだのケア」および「子どものトラウマ診療ガイドライン」の冊子を必要部数提供した。

9. 事業実施主体

本事業の参加自治体・拠点病院およびオブザーバーは下記の通りである。



19自治体（18都府県、1指定都市）/ 27拠点病院・機関

自治体	行政担当課および拠点病院・機関
岩手県	岩手医科大学附属病院/いわてこどもケアセンター
東京都	東京都立小児総合医療センター
石川県	石川県こころの健康センター
	石川県立高松病院
	独立行政法人国立病院機構　医王病院
	金沢大学附属病院
山梨県	山梨県立こころの発達総合支援センター
	山梨県立北病院
	山梨県立精神保健福祉センター
	山梨県立あけぼの医療福祉センター
長野県	信州大学医学部附属病院
	長野県立こども病院
	長野県立こころの医療センター駒ヶ根
静岡県	静岡県立こども病院
三重県	三重県立子ども心身発達医療センター
大阪府	大阪府立病院機構 大阪精神医療センター
兵庫県	兵庫県立ひょうごこころの医療センター
鳥取県	鳥取大学医学部附属病院
島根県	島根県立こころの医療センター
岡山県	地方独立行政法人岡山県精神科医療センター
香川県	四国こどもとおとなの医療センター
佐賀県	肥前精神医療センター
熊本県	熊本県発達障がい医療センター （熊本大学医学部附属病院　神経精神科）
大分県	大分大学医学部附属病院
沖縄県	琉球病院
福岡県	九州大学病院子どものこころの診療部
札幌市	北海道大学医学研究院（北海道大学病院）

オブザーバー　参加自治体または参加病院・機関リスト

自治体	行政担当課および病院・機関
山形県	社会医療法人　公徳会（若宮病院）
千葉県	国立国際医療研究センター　国府台病院
神奈川県	神奈川県立こども医療センター （2011年度～2017年度末まで事業参画）
長崎県	長崎大学病院　地域連携児童思春期精神医学診療部 （2011年度～2015年度末まで事業参画）
さいたま市	さいたま市こころの健康センター
大阪市	大阪市立総合医療センター

3-8-2 小児がん拠点病院・小児がん中央機関事業

1. 概要

わが国のがん対策を総合的かつ計画的に推進することを目的として平成 18 年 6 月に成立した「がん対策基本法」に基づき、平成 24 年 6 月に閣議決定された「第 2 期がん対策推進基本計画」において、小児へのがん対策の充実が重点的に取り組むべき課題としてとりあげられた。これに基づき、厚生労働省は 2013 年2月に全国 15 の小児がん拠点病院を指定し、国立成育医療研究センターもそのひとつに選定された。さらに、2014 年2月には、国立がん研究センターとともに 15 の拠点病院を取りまとめる小児がん中央機関に指定され、相談支援の向上、情報収集・提供、臨床試験の支援、診断・治療などの診療支援、小児がん診療に携わる者の育成、登録体制の整備などの業務を行っている。

(1) 小児がん医療従事者研修事業

地域の小児がんに携わる医療従事者を対象とした以下の研修等を計画・実施した。

- 小児がん看護セミナー(9/8、1/19):小児がんのトータルケアを学び、小児がんの子どもとその家族に安心できる適切な医療や看護支援が提供できる人材を育成することと、関東甲信越の小児がん拠点病院において小児がん診療の中核となる連携病院との看護領域における地域連携ネットワークを構築することを目的として研修を実施した。
- 東京小児がん研究グループ(TCCSG)秋季セミナー共催(10/27～28): 小児がん診療に携わる医師が参加し、小児がん診療に関する講演や実習を通じて診療スキルを向上させた。今年度は小児の放射線治療や遺伝子診断の最新知見についての講演などを企画した。
- 緩和ケアレクチャー:第 19 回(5/16)、第 20 回(9/14)、第 21 回(11/7)、第 22 回(3/6)。テーマは「治癒が困難な病気をもつ子どもの家族支援について」、「グリーフケア」、「スプリチュアルケアの実際」、「消化器症状のアセスメント・ケアについて考える」など小児緩和医療において必要となる知識や姿勢を身につけることを目的とした研修を実施した。このほか、「せいいくケアカフェ」として地域の様々な分野で重症児のケアに携わる職種(医療職、行政職など)を交えた交流会を開催し意見交換を行い、今後の子どものケアにおける情報共有を促進を図った(9/5 開催、34 名参加)。
- 小児緩和ケア多職種連携ワークショップ(3/16):「AYA 世代への支援」をテーマに症例説明や外部講師による講義、グループ討議を交え、医師や看護師のほかリハビリ関係職種や保育士 SW 等様々な職種が参加し、施設間の意見交換、成人疼痛緩和の手法を小児に応用するための理解を深めた。

(2) 小児がん拠点病院ネットワーク事業

- 関東甲信越地域医療提供体制協議会:40 の医療施設、10 都県から構成されており、平成 30 年度においても、協議会を開催した(9/21)。また、関東甲信越地域医療提供体制協議会のホームページは国立成育医療研究センターのホームページ上に開設し、診療実績や基本情報を病院毎に掲載している。関東甲信越地域医療提供体制協議会運営の打ち合わせには、Webを利用したTV会議システムを活用し、定期的な会議により密な連携を図り、効率的な事業運営を行った。
- 相談支援部会:10/1
- 東京都小児がん診療連携協議会における各部会の取組みへの参画:ワーキンググループへの参加し、長期フォローアップに関するリーフレットを作成、小児がん治療後の長期フォローアップに関する事例検討会への参加、相談情報部会への参加、相談情報部会担当連絡会への参加

(3) がん相談支援事業

入院及び外来の小児がん患者と家族からの相談に応じるとともに、院外の患者家族や医療従事者や患児関係者等からの相談に応じることのできる体制を引き続き整備した。院内の小児がん患者会「あすなろクラブ」とも協働し、事業を検討した。

また関東甲信越ブロックの小児がん拠点病院と連携をとり、小児がん患者家族が適切に相談が受けられる体制の充実を図るため、相談支援部会も活用しながら検討した。

2/16 には「小児がん交流フェスタ 2019」として各種 NPO 法人や外部団体の協力を得て、「小児がん医療の現状と課題」、「子ども力～経験をばね(レジリエンス)に」など小児がん医療最新情報を患者家族向けに講演するとともに絵画展や患者・家族会と支援団体との座談会・交流など小児がんの子ども・家族を支えるための場を設けた。

7/7 には「肝芽腫治療の最前線」というの肝芽腫の患者向けの講演会を開催した。最新の治療方法

から、治療後のことまで医師、患者の会など広い立場からの情報を発信した。

(4) プレイルーム運営等事業

小児がん患者・家族が療養生活を送る上で必要なプレイルーム環境・及びベッドサイドでの遊びや保育活動等の充実を図る。小児がん患者の成長・発達に必要な環境を整備、チャイルドライフスペシャリストを配置し、玩具や図書などの備品をより一層充実させ、小児がん患者・家族が適切なケアが受けられるように院内の専門職種が連携を取るとのできる環境や体制を構築している。

また、当院の患者の滞在施設として公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンが運営している「ドナルド・マクドナルドハウスせたがや」と特定非営利法人ファミリーハウスが運営している「ひつじさんのおうち」があり、院内には患者のための院内学級（東京都立光明特別支援学校・そよ風分教室）や、きょうだいを預かるシッティングルームが存在する。それら施設との連携を図り、入院患者家族にとってより快適な生活が送れるよう環境を整えている。

小児がんセンター入院中の未就学児及び保護者を対象に、子どもの遊びをとおして身体状況や発達状況に合わせた遊びや関わりについてアドバイスする子育てサロン「わくわく広場」を開催した。

3. 小児がん中央機関事業

(1) 小児がん相談・支援事業

小児がん拠点病院の相談員や小児がん診療病院の相談員を対象に、以下のとおり研修を実施した。また、これらの研修の内容について検討を行う為、小児がん相談員研修検討委員会を開催した。

- 小児がん相談員専門研修(9/1～2)
- 小児がん拠点病院相談員継続研修(11/3)
- 小児がん相談員研修検討委員会(6/28、8/17、1/17)
- 小児がん相談支援体制整備 WG(9/18)

(2) 普及啓発・情報提供事業

- リーフレット等配布：小児がんの患者・家族、地域が利用できる相談窓口を紹介するリーフレットを作成し、全国の拠点病院等へ配布した。
- 小児がん医療相談ホットライン：平成 29 年 4/10 より開設し、それぞれの疾患・治療の理解をサポートし、納得できる医療が受けられるよう支援を行った。
- その他：情報収集のため、小児がん拠点病院数か所と、国内において小児がん患者や家族のために新しい取り組みを行う施設や研修会、地域ブロックの部会への視察を行った。また、国立がん研究センターの「小児がん情報サービス」へ情報を掲載を引き続き行い、「小児がんシリーズ」冊子の改訂作業を行った。このほか、全国の小児がん拠点病院及び小児がん診療施設の診療実績及び施設情報を収集するとともにHP上に掲載した。

(3) 小児がん医療の診断支援事業

質の高い小児がん医療の診断のため、小児がん拠点病院等から診断要請があった場合に、匿名化したうえで放射線診断、病理診断、分子生物学的診断、細胞免疫学的診断等の支援を継続して実施した。

WEB による病理・画像診断のための臨床情報収集や専門医のネットワークを活用したコンサルテーションのシステムをさらに充実させた。稀少疾患や診断困難症例に対する特殊検査として、特にフローサイトメトリーによる固形腫瘍の診断体制をさらに充実させた。

小児がん拠点病院等の病理医との連携をとり、稀少疾患の病理組織診断の参考とするために作成した診断の手引書を普及させて、診断支援の一助とした。

小児がん拠点病院等の細胞免疫学的診断担当者との連携をとり、血液腫瘍や固形腫瘍のフローサイトメトリーによる細胞免疫学的診断の結果の解釈の参考となるような診断の手引書の作成を進め、診断支援の一助とした。また画像診断撮影プロトコルを作成し標準化を図った。

臨床研究の中央診断と連携し、細胞免疫学的診断の標準化と最新の WHO 分類に準拠した内容の一層の充実を図った。

(4) 小児がん登録事業

国立がん研究センターと連携して 40 歳未満の院内がん登録データを成人がんとは別に解析する体制を構築した。また小児がん登録の統合・合理化の目的のもとに、日本小児血液・がん学会および日本小児外科学会と協議を行い、日本小児がん研究グループ(JCCG)の小児固形腫瘍観察研究と連携した形での小児固形腫瘍の共通オンライン登録システムの設計を行った。学会登録については、2018 年 6 月

に運用を開始している。また小児固形腫瘍観察研究についても学会登録に合わせて登録項目を見直し、登録システムの連結のための最終作業を行っている。

(5) 小児がん医療従事者育成事業

2/9 に「小児緩和ケアチーム研修」として、小児患者に対する緩和ケアチームが担っている現状を把握し、それを踏まえて成人がんにおける緩和ケアとの違い、チームにおける各職種の役割、コンサルテーションの方法などについて座学・グループワークで検討するなど多職種チーム医療の質の向上と機能強化を図った。

(6) 連絡協議会等運営事業

- 小児がん拠点病院連絡協議会(6/22, 1/18):小児がん拠点病院と小児がん中央機関からなる連絡協議会を開催し、拠点病院と中央機関間の密接な連携を図るため意見交換等を行った。
- 相談支援部会(6/11、12/11)
- 看護部会(6/22)
- アドバイザリー・ボード(2/8):患者・家族、教育関係者、有識者等が参画するアドバイザリー・ボードを設置し、小児がん中央機関機能強化事業等の課題を把握し、解決策の検討及び提案を行った。

3-8-3 妊娠と薬情報センター事業

厚生労働省の事業として2005年10月1日に国立成育医療センター内に開設された「妊娠と薬情報センター」は13年目を迎えた。

2017年に全47都道府県に拠点病院を設置完了したが、各地域の人口や交通の便などによる必要性を考慮しながら、拠点病院の増設をすすめていく予定であり、2018年4月～大阪大学医学部附属病院、名古屋市立大学病院、岡山大学病院、熊本大学病院、鹿児島大学病院が新たに加わった。

2018年の業務は以下の表に示す通りであった。相談申込件数は総数で1939件であった。

今年度も引き続き、日本産科婦人科学会など、各専門学会で作成している「妊娠に関するガイドライン」に参加、改訂作業などにも協力している。

また、10 月には妊娠と薬情報センターホームページ内「ママのためのお薬情報」の改訂作業を行い、患者および医療者に対して、より広く授乳中の薬剤使用に関する充実した情報提供ができるようになった。

表1、2015年4月～2018年3月の業務集計グラフ

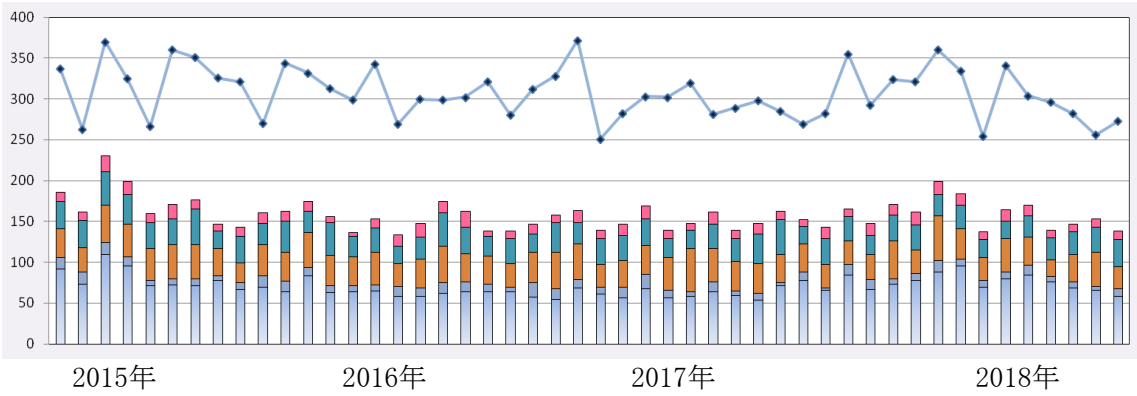


表 2、2018 年の相談・回答数

年	2017 年											
月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
回答件数合計(A～E)	153	143	166	148	171	162	199	184	138	165	170	140
A.成育外来にて回答	9	14	10	15	13	16	16	14	10	14	13	10
B.主治医に郵送	21	31	29	23	31	31	26	29	22	22	26	27
C.拠点病院で回答	35	29	29	31	47	28	55	37	28	41	34	20
D.電話で回答(妊娠中)	10	3	13	12	6	9	14	8	8	8	12	7
E.電話で回答(授乳中)	78	66	85	67	74	78	88	96	70	80	85	76
電話問い合わせ件数	269	282	355	292	324	321	360	334	254	341	304	296

2016 年 8 月から、厚生労働省の委託事業を受けて、妊婦・授乳婦を対象とした薬の適正使用推進事業が始まった。

各医薬品の添付文書において妊婦等に関する記載が不十分で、治療に必要な薬が使用できないと判断されてしまう場合が多いことを踏まえ、センターが中心となってワーキンググループ(WG)を設置し、これまでの相談例や集積情報を整理・評価して、医薬品の添付文書の「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」欄の改定案の作成作業に取り組んでいる。

WGで検討を行ったタクロリムス水和物・シクロスポリン・アザチオプリンの 3 剤について、2018 年 6 月の薬事・食品衛生審議会医薬品安全対策部会安全対策調査会での審議を経て、7 月に厚生労働省から添付文書の改訂指示通知が発出され、妊娠禁忌の記載が削除されてた。

【研修・広報活動】

年 1 回、拠点病院の医師・薬剤師の業務向上を目的に研修会を行っており、2018 年は 2 月 9 日～2

月 11 日に新規拠点病院となる 5 施設を加えて、講師 12 名を含め参加者 133 名の大規模な研修会を成育医療研究センター講堂で行った。

秋には妊娠と薬の分野の知識を広く理解し、知識を深めてもらうために一般医師・薬剤師を対象としたフォーラムを開催しており、第 13 回目の今年は、2018 年 10 月 14 日に「妊娠と薬−最新のトピックスを読み解く」というテーマで開催した。日本産婦人科学会、日本医師会、日本小児科学会、日本薬剤師会、日本先天異常学会など多くの専門学会からの後援を受け、327 名と多くの参加者を得て、盛況におこなうことができた。「妊娠中の薬剤曝露による児の発達への影響に関するトピックス」、「臨床現場における妊娠と薬に関する 2 年間のトピックス」について、専門家の講演も交えて妊娠と薬のスタッフから講演を行った。

また、特別講演として、カリフォルニアのサンディエゴ大学の小児科教授で北米の先天奇形情報サービス(OTIS)の Dr. Chambers を招いてご講演いただいた。

毎年、妊婦・授乳婦専門薬剤師研修として他施設の薬剤師を受け入れ、各 1 週間の研修を行っているが、本年も計 11 名の指導を行った。

【研究活動】

相談症例の妊娠転帰調査は 544 件送付し、476 例の返答（回答率 88%）があった。

妊娠と薬情報センターでのこれまでの相談例の解析により、正しい医療情報の提供を施す対面カウンセリングにより、妊娠中の女性の薬剤使用による児の催奇形性・胎児毒性についてのリスク認識は減少し、カウンセリング後に妊娠を継続する意向が高まることが分かったとする結果報告が 2018 年 6 月に学術誌である Reproductive Toxicology に論文として採用された。

さらに日本医療研究開発機構委託研究（AMED）研究班として、これまでに蓄積してきた妊娠と薬情報センターの相談薬剤登録データベースを解析し、薬剤の妊娠中使用に関する情報を広く提供していくための研究報告の投稿準備をすすめている。

3-8-4 小児と薬情報収集ネットワーク整備事業

1. 概要

小児用医薬品は、安全性・有効性の評価が難しいこと、開発（治験）の実施が難しいこと、採算性が乏しいことなどから、医療現場では小児用量が明確に設定されていない医薬品について成人の投与量を減らすなどして使用されています。成育医療研究センターでは、厚生労働省からの補助事業として「小児と薬情報収集ネットワーク整備事業」を平成 24 年度から進めています。この事業は、全国の小児医療機関等からなる小児医療機関ネットワークを活用して、小児に医薬品が投与された際の投与実態（投与量、投与方法）および有害事象等の情報を自動的に収集し、分析・評価する体制（小児医療情報収集システム）を整備することを目的としています。

このシステムで得られた情報を活用して、小児領域における医薬品の安全対策の向上、小児医薬品の開発促進を目指しています

2. システム整備の必要性

これまで小児の医薬品投与実態や安全性等の情報については、自動的に収集し解析可能とするインフラ（システム）は構築されていませんでした。これらの問題を解決していくための一つの手段としては、コントロールを含んだ多数の症例を網羅的に収集し解析できるシステムの構築が必要です。このシステムを整備することで、小児に対してもより安全に医薬品を投与できる環境を整え、小児用医薬品の安全対策のさらなる向上を目指すことを目標に取り組んでいきます。

3. 小児医療情報収集システム

全国の小児医療機関等からなるネットワークを活用して整備された小児医療情報収集システムは、全国の小児医療施設と診療所からのデータがセキュリティの担保されたネットワークを通じて情報収集用のデータベース（医療情報データベース）に収集されます。各施設の電子カルテシステムからは、医療情報として「検査」「病名」「処方」「注射」データを収集し、不足する患者情報は問診システムからの「問診」データによって補完しています。問診システムは、患者・家族自身が入力することで、本人同意を得るツールとしても活用しています。平成 30 年度には、小児医療施設 11、診療所 34 が本事業の協力医療機関として参画しており、平成 30 年度末時点で医療情報データベースに医療情報約 35 万人分、問診情報約 3 万人分のデータが収集されています。小児に対する医薬品の安全性を評価するために必要とされるデータの絶対数の確保に向けて、引き続きデータ収集を進めていきます。

なお、協力医療機関からの情報の収集と利活用にあたっては、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づき必要な手続きを踏まえて進められています。研究の目的を含む研究の実施についての情報を協力医療機関のホームページ又はポスター等の掲示により公開するとともに、研究対象者から医療情報データベースへの医療情報等の送信について拒否できる機会を保障しています。

4. 環境整備

本事業では、協力医療機関から収集したデータの検索に必要なデータマッピング作業を進めると同時に、医療情報データベースの機能拡充（検索・抽出機能、解析機能など）および改良、収集したデータの品質管理も進めていくことで、より効率的にデータを解析・評価できる環境を整備しています。

本事業の啓発活動の一環としては、ホームページを開設し各方面に対して本事業の趣旨説明および本事業への協力の呼びかけ、協力医療機関とのコミュニケーションツール等として活用しています。

収集したデータの整理、解析・評価を進めていくことで、小児用医薬品の安全対策の更なる向上を目指し、小児用医薬品の開発にも貢献していきます。

5. 小児を対象とした医薬品の使用環境改善事業

平成 29 年度より厚生労働省の委託事業として「小児を対象とした医薬品の使用環境改善事業」が開始され、本年度も引き続き実施しています。この事業は、小児に医薬品が使用された際のデータ（小児と薬情報収集ネットワーク整備事業で整備した小児医療情報収集システムで収集したデータ）など、これまでに得られている情報を収集・整理し、専門家、行政、企業関係者が参加する検討会で評価を行い、その結果に基づき、企業による添付文書改訂や小児用法・用量設定のための一変申請等を促すとともに、添付文書改訂等に至らないものについては、web サイトに掲載し、必要な情報提供を行うことで

小児に対する医薬品の適正使用の推進を目指しています。
＊小児医療情報収集システムホームページ＜https://pharma-net.ncchd.go.jp/＞

3-8-5 小児慢性特定疾病情報センター

小児慢性特定疾病情報センターでは、主に以下の2事業を受託し活動している。小児慢性特定疾病登録管理データ運用事業では、小児慢性特定疾病に係るデータベースの構築及び運用、小児慢性特定疾病児童等の治療・療養生活の改善等に資するポータルサイトの構築及び運用、ならびに小児慢性特定疾病指定医研究サイトの構築及び運用により、小児慢性特定疾病対策に関する情報提供、相談・啓発活動等の利用者支援を行うと共に、指定医等の研修等により制度の公正な運営に寄与している。また、小児慢性特定疾病児童等支援者養成事業では、小児慢性特定疾病児童等の成人移行期における医療支援等の普及啓発を目指した活動を進めている。

【小児慢性特定疾病登録管理データ運用事業】

1. 小児慢性特定疾病に係るデータベースの構築及び運用

平成 26 年以前の小児慢性特定疾患治療研究事業(以下、旧制度小慢事業とよぶ。)に係る小医療費助成により登録された患者データを集約・精査し、小児慢性特定疾病に係る基礎的なデータベースを構築し、登録データを研究者・研究機関等に提供することにより、小児慢性特定疾病の疾患研究推進を図ることを目的として当該事業を運営してきた。

平成 30 年度はこれまでに未提出であった登録データを実施主体から回収し、データベースへの登録を行い平成 26 年登録データの確定作業を行った。

2. 小児慢性特定疾病児童等の治療・療養生活の改善等に資するポータルサイトの構築及び運用

小児慢性特定疾病児童等の治療・療養生活の改善等に資する情報の一元化を図り、患者、小児慢性特定疾病児童等の支援団体および関係学会等にわかりやすく情報提供するためのポータルサイトを構築・運用し、小児慢性特定疾病児童等の治療・療養生活の改善等に寄与することを目的として当該事業を進め、ポータルウェブサイト「小児慢性特定疾病情報センター」(https://www.shouman.jp)の内容の拡充を行った。

掲載している 800 余りの疾患概要や診断基準(診断の手引き)・医療意見書の保守を行った。とくに医療意見書については、新規申請と継続申請を分離する大幅な改正を行い、2018 年 10 月より運用を開始した。

ポータルサイトの利用者の半数以上がスマートデバイスを用いてアクセスしていることが判明したことから、一般国民がよりアクセスしやすいよう 2018 年 2 月にスマートデバイス対応のウェブサイトに改修を行ったところ、2018 年度の閲覧件数が更に増加する傾向がみられた。2018 年 4 月から 2019 年 3 月までの1年間の累積ユーザー数は延べ242万人(昨年度比＋123万人)、アクセス数(セッション数)は356万件(昨年度比＋155万件)と増加傾向が続いており、ユーザーの65%がモバイル端末(タブレット含む)を利用していた。業務関係者の急激な利用増加は多くないと考えられることから、患者家族を含む一般国民の利用が広がっていると推察された。当該ウェブサイトにて事業に関する問合せを受け付けおり、ウェブサイトの問合せフォームを通じた問合せについては、平成 30 年度は 480 件(前年比 2.7 倍)あり、行政関係者 27%(前年比-14%ポイント)、医療機関 22%(前年比-2%ポイント)、患者家族等 41%(前年比+19%ポイント)、その他 10%(前年比-7%ポイント)であり、全体的な問合せ件数の増加が見られていたが、とくに患者家族等の個人からの問合せ件数が急増しており、一般国民への利用の広がりが理由であると思われた。

3. 小児慢性特定疾病指定医研究サイトの構築及び運用

制度に全般に関する内容ならびに対象疾病に固有の事情を踏まえた内容の講義を用意している。対象疾病に関する研修用講義および評価用試験問題等は、担当する専門学会の監修のもとで作成されている。平成 30 年 4 月より対象疾病および疾患群の拡大が行われたが、これらの制度改正に合わせ、サイト内の研修用コンテンツの追加・改訂を行った。

実施主体が本 e-learning サイトを利用するかの判断は任意であるが、2019 年 3 月末現在、全 121 実施主体中 92(76.0%)の実施主体において利用されており、2019 年 4 月から新たに実施主体となる自治体も利用する意思を示している。本サイトを利用する実施主体が増加し、自身の自治体に属している研修者の状況把握に関する要望が増えたことから、中央管理システムに加えて、実施主体ごとに自身の自治体へ修了証を提出予定の研修者の状況把握と実績集計を支援する機能を新たに追加した。

【小児慢性特定疾病児童等支援者養成事業】

1. 移行期医療支援の研修のためのテキストの作成

「都道府県における小児慢性特定疾病の患者に対する移行期医療支援体制の構築について」(平成 29 年 10 月 25 日健難発 1025 第1号厚生労働省健康局難病対策課長通知)及び厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業「小児期発症慢性疾患を持つ移行期患者が疾患の個別性を越えて成人診療へ移行するための診療体制の整備に向けた調査研究」班において作成されている「小児期発症慢性疾患を持つ患者の成人移行支援コアガイド ver.1.0」等を踏まえ、当該事業における講義テキストとして、移行支援に対する国の取り組み、移行支援の必要性と重要性、「小児期発症慢性疾患を持つ患者の成人移行支援コアガイド ver.1.0」の説明を主とした講義資料を作成した。

また、当該講義資料については、より広く周知する目的から、移行期医療支援に関する情報共有サイトを再構築し、関連情報も含め公開・周知を行っている。

2. 移行期医療支援に関する研修の実施

移行期医療支援を実施するために必要な知識や専門性を身につけるため、移行期医療に関与する自治体職員及び移行期医療支援センターの設置を検討している医療機関関係者等を主な対象とし、全国を、関東(東京)・関西(大阪)・東北(仙台)・中部(名古屋)・中国(岡山)・北陸(新潟)・九州(博多)・四国(松山)の8ブロックに分け研修会を企画した。北陸ブロックを除く7ブロックでは予定通り開催できたが、北陸ブロックでの研修会は天候の影響で中止となり、替りに東京にて追加研修会を開催した。

合計で8回の研修会を実施し 128 名が参加した。128 名の内訳としては、自治体からの参加が 79 名(62%)、医療機関からの参加が 38 名(30%)、その他自立支援受託機関・教育機関などからの参加が 11 名(8%)であった。

研修テキストについては、1 で作成した研修資料を活用した。

ブロック	日程	会場	会場名称	参加人数
関東	2018/11/30	東京	TKP 東京駅セントラルカンファレンスセンター	24
関西	2018/12/14	大阪	TKP ガーデンシティ PREMIUM 大阪駅前	23
東北	2018/12/27	仙台	宮城県庁行政庁舎1階「みやぎ広報室」	19
中部	2019/1/30	名古屋	名古屋ダイヤビルディング	10
中国	2019/1/31	岡山	サン・ピーチ岡山	12
北陸	2019/2/7	新潟	駅まえオフィス貸会議室	0
九州	2019/2/19	博多	TKP 博多駅前シティセンター	6
四国	2019/2/28	松山	スカイホテル	27
追加	2019/3/28	東京	TKP 東京駅セントラルカンファレンスセンター	7
TOTAL				128

3. 移行期医療支援に関する研修の評価

移行期医療支援に関する研修が、移行期医療支援にどのように役立ったか等について、受講者全員に対して調査を行い、128 名の参加者のうち、92 名(72%)から回答を得た。

「講義内容について理解できたか」「研修前と比較し、移行支援の重要性についての理解が深まったか」「講義内容は実際の業務に役立つものだったか」をそれぞれ 5 段階で評価し、また、講義内容が具体的にどのように役立ったかについては、記述式の回答とした。

「講義内容について理解できたか」については、5 段階中最も高評価となる「非常によく理解できた」が 25 名(27%)、次いで 2 番目に高い評価となる「理解できた」が 56 名(61%)、中間の評価となる「まあまあ理解できた」が 10 名(11%)、未回答 1 名(1%)で、ほぼ全ての参加者が理解できたとの評価であった。

「研修前と比較し、移行支援の重要性についての理解が深まったか」については、5 段階中最も高評

価となる「非常に深まった」が 27 名（30%）、次いで 2 番目に高い評価となる「深まった」が 62 名（67%）、中間の評価となる「どちらともいえない」が 2 名（2%）、未回答 1 名（1%）で、97%の参加者が、研修の参加により移行支援の重要性についての理解が深まったと評価した。

「講義内容は実際の業務に役立つものだったか」については、最も高評価の「非常に役立つ」が 27 名（30%）、2 番目に高い評価となる「役立つ」が 47 名（51%）、中間の評価となる「どちらともいえない」が 16 名（17%）、4 番目の評価「あまり役立たない」が 1 名（1%）、未回答 1 名（1%）で、81%の参加者が役立ったと評価した。

講義内容がどのように役立つかの記述式回答では、移行支援の事例、問題などが具体的に示されていたため、今後の取り組みを検討する上での参考になったとの意見が大半で、移行支援の必要性に加えて、パンフレット、ツールの例、コアガイド（案）を示したことで、今後の課題を具体的にイメージできるようになったとの回答が多かった。一方で、個別対応の難しさ、地域差など今後クリアすべき課題が多々あることについても、多くの意見が寄せられた。

これら小児慢性特定疾病児童等支援者養成事業の成果は、「移行期支援情報共有サイト」を改編し「小児期発症慢性疾患をもつ患者のための移行支援・自立支援 情報共有サイト」として構築・運用し、小児慢性特定疾病情報センターのトップページのバナーからも閲覧できるように運用している。

4　研究業績(発表論文・著書・学会発表等)

4 研究業績(発表論文・著書・学会発表等)

4-0 理事長 五十嵐 隆

Kasahara M, Sakamoto S, Horikawa R, Fukuda A, Umezawa A, Matsubara Y, Kato H, Igarashi T: Present state and future prospects of pediatric liver transplantations. JMASJ 1: 50-56, 2018

Igarashi T: Mental health treatment should be an integrated part of caring for cancer patients, caregivers and families in Japan. JMAJ 1: 75-76, 2018

Devuyst C, Igarashi T: Renal Fanconi syndrome, Dent disease, and Bartter syndrome. Genetics of bone biology and skeletal disease, 2nd ed, Edited by Thakker RV, Whyte MP, Eisman JA, Igarashi T, Academic Press, pp783-800, UK, 2018

五十嵐隆:はじめに、医学のあゆみ 265:607, 2018

五十嵐隆:小児慢性疾患患者の移行期医療の課題、医学のあゆみ 265:609-613, 2018

五十嵐隆:これからの小児医療と小児保健、沖縄の小児保健 45:3-8, 2018

五十嵐隆:保健・医療面から見た子どもの貧困、日本家政学誌 69:775-778, 2018

五十嵐 隆:これからの指定難病、小児慢性特定疾病対策、小児科診療 12:1677-1680, 2018

4-1 研究所

4-1-1 研究所長 松原 洋一

[原著論文:査読付](Reviewed Paper)

1. Hamanaka T, Kimura M, Sakurai T, Ishida N, Yasuda J, Nagasaki M, Nariai N, Endo A, Homma K, Katsuoka F, Matsubara Y, Yamamoto M, Fuse N. A Histologic Categorization of Aqueous Outflow Routes in Familial Open-Angle Glaucoma and Associations With Mutations in the MYOC Gene in Japanese Patients. Invest ***Ophthalmol Vis Sci.*** 58(5):2818-2831, 2018.
2. Katoh-Fukui Y, Yatsuga S, Shima H, Hattori A, Nakamura A, Okamura K, Yanagi K, Iso M, Kaname T, Matsubara Y, Fukami M. An unclassified variant of CHD7 activates a cryptic splice site in a patient with CHARGE syndrome. ***Hum Genome Var.*** 5:18006, 2018.
3. Mizuguchi T, Nakashima M, Kato M, Okamoto N, Kurahashi H, Ekhilevitch N, Shiina M, Nishimura G, Shibata T, Matsuo M, Ikeda T, Ogata K, Tsuchida N, Mitsuhashi S, Miyatake S, Takata A, Miyake N, Hata K, Kaname T, Matsubara Y, Saitsu H, Matsumoto N. Loss-of-function and gain-of-function mutations in PPP3CA cause two distinct disorders. ***Hum Mol Genet.*** 27(8):1421-1433, 2018.
4. Osumi T, Tsujimoto SI, Nakabayashi K, Taniguchi M, Shirai R, Yoshida M, Uchiyama T, Nagasawa J, Goyama S, Yoshioka T, Tomizawa D, Kurokawa M, Matsubara Y, Kiyokawa N, Matsumoto K, Hata K, Kato M. Somatic MECOM mosaicism in a patient with congenital bone marrow failure without a radial abnormality. ***Pediatr Blood Cancer.*** 65(6):e26959, 2018.
5. Oba D, Inoue SI, Miyagawa-Tomita S, Nakashima Y, Niihori T, Yamaguchi S, Matsubara Y, Aoki Y. Mice with an Oncogenic HRAS Mutation are Resistant to High-Fat Diet-Induced Obesity and Exhibit Impaired Hepatic Energy Homeostasis. ***EBioMedicine.*** 27:138-150, 2018.
6. Ozono K, Ogata T, Horikawa R, Matsubara Y, Ogawa Y, Nishijima K, Yokoya S. Efficacy and safety of two doses of Norditropin® (somatropin) in short stature due to Noonan syndrome: a 2-year randomized, double-blind, multicenter trial in Japanese patients. ***Endocr J.*** 65(2):159-174, 2018.
7. Ushijima K, Fukami M, Ayabe T, Narumi S, Okuno M, Nakamura A, Takahashi T, Ihara K, Ohkubo K, Tachikawa E, Nakayama S, Arai J, Kikuchi N, Kikuchi T, Kawamura T, Urakami T, Hata K, Nakabayashi K, Matsubara Y, Amemiya S, Ogata T, Yokota I, Sugihara S; Japanese Study Group of Insulin Therapy for Childhood and Adolescent Diabetes. Comprehensive screening for monogenic diabetes in 89 Japanese children with insulin-requiring antibody-negative type 1 diabetes***. Pediatr Diabetes.*** 19(2):243-250, 2018.
8. Yoshida T, Matsuzaki T, Miyado M, Saito K, Iwasa T, Matsubara Y, Ogata T, Irahara M, Fukami M. 11-oxygenated C19 steroids as circulating androgens in women with polycystic ovary syndrome. ***Endocr J.*** 65(10):979-990, 2018.
9. Okano S, Miyamoto A, Fukuda I, Tanaka H, Hata K, Kaname T, Matsubara Y, Makita Y. Genitopatellar syndrome: the first reported case in Japan. ***Hum Genome Var.*** 2018 May 28;5:8. doi: 10.1038/s41439-018-0010-1. eCollection 2018.
10. Kawashima S, Nakamura A, Inoue T, Matsubara K, Horikawa R, Wakui K, Takano K, Fukushima Y, Tatematsu T, Mizuno 5, Tsubaki J, Kure S, Matsubara Y, Ogata T, Fukami M, Kagami M. Maternal Uniparental Disomy for Chromosome 20: Physical and Endocrinological Characteristics of Five Patients. ***J Clin Endocrinol Metab.*** 103(6):2083-2088, 2018.

[学会発表]

(1)国際学会講演・シンポジウム・招待講演

1. Initiative on Rare and Undiagnosed Disesases (IRUD)、口頭、松原洋一、16th Asia Pacific Congress of Pediatrics(APCP)2018, 9th Annual Scientific Meeting of Indonesian

Pediatric Society(ASMIPS), 2018/8/27、国外
2. Initiative on Rare and Undiagnosed Disesases (IRUD)、ポスター、松原洋一、American Society of Human Genetics 2018、2018/10/16～20、国外
3. Plenary Lecture Ⅲ"Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases in Pediatrics in Japan"、口頭、松原洋一、2018EAUHGS meeting, Seoul, Korea, 2018/11/30、国外

(2)国内学会講演・シンポジウム
1. 未診断疾患イニシアチブ(IRUD)から見えてきたもの、口頭、松原洋一、第 91 回日本内分泌学会学術総会、教育講演 18、2018/4/28、国内
2. 遺伝学的検査 ～なぜ、いつ、どこで、どうやって？～、口頭、松原洋一、nordiscience forum2018 企画セッション「日常診療における遺伝学的検査の臨床応用の現状」における基調講演、2018/6/2、国内
3. セッション:シンポジウム 6「腎臓病領域における希少疾患と指定難病」、口頭、松原洋一、第 61 回日本腎臓学会学術総会、2018/6/8、国内
4. ゲノム医療時代に求められる遺伝カウンセリングの役割 Genetic counselling in the era of genomic medicine、口頭、松原洋一、第 42 回日本遺伝カウンセリング学会学術集会 特別講演、2018/6/30、国内
5. 未診断疾患イニシアチブ(IRUD)の診療体制、口頭、松原洋一、第 25 回日本遺伝子診療学会大会、シンポジウム2「希少疾患と遺伝医療」、2018/7/13,国内
6. 急速に拡大しつつある遺伝学的検査～小児科診療へのインパクトと倫理的課題、口頭、松原洋一、第 647 回日本小児科学会 東京都地方会講話会、2018/7/14、国内
7. 進化する小児疾患の遺伝子診断、口頭、松原洋一、第 5 回サマーセミナー、国立成育医療研究センター セミナールーム講堂、2018/7/28、国内
8. 「ゲノム医療時代における遺伝カウンセリング」、口頭、松原洋一、第 77 回日本癌学会、特別企画3、人類遺伝学会、遺伝カウンセリング学会、家族性腫瘍学会の3学会合同シンポジウム、2018/9/28、国内
9. "日本先天代謝異常学会の活性化に向けて:関連学会の立場から How we can facilitate the activity of JSIMD?"、口頭、松原洋一、第 60 回日本先天代謝異常学会総会 シンポジウム 2 今後の日本先天代謝異常学会を考える、2018/11/8～10、国内
10. 「遺伝子診療における倫理的課題」、口頭、松原洋一、第 4 回日本産科婦人科遺伝診療学会学術講演会 特別講演 1、2018/12/15、国内

副研究所長　梅澤　明弘

Nishino K, Arai Y, Takasawa K, Toyoda M, Yamazaki-Inoue M, Sugawara T, Akutsu H, Nishimura K, Ohtaka M, Nakanishi M, Umezawa A. Epigenetic-scale comparison of human iPSCs generated by retrovirus, Sendai virus or episomal vectors. Regen Ther. 2018 ;9:71-78.

Iwai M, Harada Y, Miyabayashi R, Kang W, Nakamura A, Kawano N, Miyamoto Y, Yamada M, Hamatani T, Miyado M, Yoshida K, Saito H, Tanaka M, Umezawa A, Miyado K. Chemotactic behavior of egg mitochondria in response to sperm fusion in mice. Heliyon. 2018 ;4(11)

Iwai M, Hamatani T, Nakamura A, Kawano N, Kanai S, Kang W, Yoshii N, Odawara Y, Yamada M, Miyamoto Y, Saito T, Saito H, Miyado M, Umezawa A, Miyado K, Tanaka M. Membrane protein CD9 is repositioned and released to enhance uterine function. Lab Invest. 2019 99(2):200-209

Iso Y, Usui S, Toyoda M, Spees JL, Umezawa A, Suzuki H. Bone marrow-derived mesenchymal stem cells inhibit vascular smooth muscle cell proliferation and neointimal hyperplasia after arterial injury in rats. Biochem Biophys Rep. 2018 ;16:79-87.

Seko Y, Iwanami M, Miyamoto-Matsui K, Takita S, Aoi N, Umezawa A, Kato S. The manner of decay of genetically defective EYS gene transcripts in photoreceptor-directed fibroblasts derived from retinitis pigmentosa patients depends on the type of mutation. Stem Cell Res Ther. 2018 9(1):279.

Yasuda S, Kusakawa S, Kuroda T, Miura T, Tano K, Takada N, Matsuyama S, Matsuyama A, Nasu M, Umezawa A, Hayakawa T, Tsutsumi H, Sato Y. Tumorigenicity-associated characteristics of human iPS cell lines. PLoS One. 2018 Oct 4;13(10):e0205022.

Fukuda A, Umezawa A, Akutsu H. Manipulation of Xist Imprinting in Mouse Preimplantation Embryos. Methods Mol Biol. 2018;1861:47-53.

Nakamura A, Kawano N, Motomura K, Kuroda A, Sekiguchi K, Miyado M, Kang W, Miyamoto Y, Hanai M, Iwai M, Yamada M, Hamatani T, Saito T, Saito H, Tanaka M, Umezawa A, Miyado K. Degradation of phosphate polymer polyP enhances lactic fermentation in mice. Genes Cells. 2018 Oct;23(10):904-914.

Kang W, Ishida E, Yamatoya K, Nakamura A, Miyado M, Miyamoto Y, Iwai M, Tatsumi K, Saito T, Saito K, Kawano N, Hamatani T, Umezawa A, Miyado K, Saito H. Autophagy-disrupted LC3 abundance leads to death of supporting cells of human oocytes. Biochem Biophys Rep. 2018 Aug 21;15:107-114.

Sakai T, Naito AT, Kuramoto Y, Ito M, Okada K, Higo T, Nakagawa A, Shibamoto M, Yamaguchi T, Sumida T, Nomura S, Umezawa A, Miyagawa S, Sawa Y, Morita H, Lee JK, Shiojima I, Sakata Y, Komuro I. Phenotypic Screening Using Patient-Derived Induced Pluripotent Stem Cells Identified Pyr3 as a Candidate Compound for the Treatment of Infantile Hypertrophic Cardiomyopathy. Int Heart J. 2018 Sep 26;59(5):1096-1105.

Ishii T, Yin C, Seko Y, Umezawa A, Kaneda M. Variation in the Phenotype of Photosensitive Cells Produced from Human Fibroblast Cell Lines. J Nippon Med Sch. 2018;85(2):110-116.

Bai F, Li Z, Umezawa A, Terada N, Jin S. Bacterial type III secretion system as a protein delivery tool for a broad range of biomedical applications. Biotechnol Adv. 2018 Mar - Apr;36(2):482-493.

Yoshida K, Kang W, Nakamura A, Kawano N, Hanai M, Miyado M, Miyamoto Y, Iwai M, Hamatani T, Saito H, Miyado K, Umezawa A. Ubiquitin-activating enzyme E1 inhibitor PYR-41 retards sperm enlargement after fusion to the egg. Reprod Toxicol. 2018 Mar;76:71-77.

Matsunari H, Watanabe M, Nakano K, Enosawa S, Umeyama K, Uchikura A, Yashima S, Fukuda T, Klymiuk N, Kurome M, Kessler B, Wuensch A, Zakhartchenko V, Wolf E, Hanazono Y, Nagaya M, Umezawa A, Nakauchi H, Nagashima H. Modeling lethal X-linked genetic disorders in pigs with ensured fertility. Proc Natl Acad Sci U S A. 2018 Jan 23;115(4):708-713.

Takasawa K, Arai Y, Yamazaki-Inoue M, Toyoda M, Akutsu H, Umezawa A, Nishino K. DNA hypermethylation enhanced telomerase reverse transcriptase expression in human-induced pluripotent stem cells. Hum Cell. 2018 Jan;31(1):78-86.

研究所長補佐　斎藤 博久

[原著論文:査読付](Reviewed Paper)

1. Ayabe T, Yamamoto-Hanada K, Mezawa H, Konishi M, Ishitsuka K, Saito M, Fukami M, Michikawa T, Yamazaki S, Senju A, Kusuhara K, Kawamoto T, Sanefuji M, Kato K, Oda M, Mitsubuchi H, Katoh T, Monden Y, Mise N, Kayama F, Saito H, Ohya Y. Regional difference of infant 25OHD levels in Pilot Study of Japan Environment and Children's Study. *Pediatr Int* 2018 Jan;60(1):30-34.
2. Okada N, Nakayama T, Asaka D, Inoue N, Tsurumoto T, Takaishi S, Otori N, Kojima H, Matsuda A, Oboki K, Saito H, Matsumoto K, Yoshikawa M. Distinct gene expression profiles and regulation networks of nasal polyps in eosinophilic and non-eosinophilic chronic rhinosinusitis. *Int Forum Allergy Rhinol* 2018 May;8(5):592-604. Epub 2018 Jan 16.
3. Yamamoto-Hanada K, Ishitsuka K, Pak, BK, Saito M, Ayabe T, Mezawa H, Konishi M, Yang L, Matsumoto K, Saito H, Ohya Y; Japan Environment and Children's Study Study Group. Allergy and mental health among pregnant women in the Japan Environment and Children's Study. *J Allergy Clin Immunol Pract* 2018 Jul - Aug;6(4):1421-1424.e2. Epub 2018 Feb 1.
4. Tamari M, Orimo K, Motomura K, Arae K, Matsuda A, Nakae S, Saito H, Morita H, Matsumoto K. The optimal age for epicutaneous sensitization following tape-stripping in BALB/c mice. *Allergol Int* 2018 Jul;67(3):380-387.
5. Suto H, Nambu A, Morita H, Yamaguchi S, Numata T, Yoshizaki T, Shimura E, Arae K, Asada Y, Motomura K, Kaneko M, Abe T, Matsuda A, Iwakura Y, Okumura K, Saito H, Matsumoto K, Sudo K, Nakae S. IL-25 enhances T(H)17 cell-mediated contact dermatitis by promoting IL-1β production by dermal dendritic cells. *J Allergy Clin Immunol* 2018 Nov;142(5):1500-1509.
6. Matsumoto K, Mori R, Miyazaki C, Ohya Y, Saito H. Are both early egg introduction and eczema treatment necessary for primary prevention of egg allergy? *J Allergy Clin Immunol* 2018 Jun;141(6):1997-2001.e3.
7. Yang L, Narita M, Yamamoto-Hanada K, Sakamoto N, Saito H, Ohya Y. Phenotypes of childhood wheeze in Japanese children: A group-based trajectory analysis. *Pediatr Allergy Immunol* 2018 Sep;29(6):606-611.
8. Emi-Sugie M, Toyama S, Matsuda A, Saito H, Matsumoto K. IL-33 induces functional CCR7 expression in human mast cells. *J Allergy Clin Immunol* 2018 Oct;142(4):1341-1344.
9. Saito M, Yamamoto-Hanada K, Pak K, Ayabe T, Mezawa H, Ishitsuka K, Konishi M, Yang L, Matsumoto K, Saito H, Ohya Y; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group.Having small-for-gestational-age infants was associated with maternal allergic features in the JECS birth cohort. *Allergy* 2018 Sep;73(9):1908-1911.
10. Mitsuda N, Eitoku M, Yamasaki K, Sakaguchi M, Yasumitsu-Lovell K, Maeda N, Fujieda M, Suganuma N; Japan Environment & Children's Study (JECS) Group. Nausea and vomiting during pregnancy associated with lower incidence of preterm births: the Japan Environment and Children's Study (JECS). *BMC Pregnancy Childbirth* 2018 Jun 27;18(1):268.
11. Tsuji M, Shibata E, Morokuma S, Tanaka R, Senju A, Araki S, Sanefuji M, Koriyama C, Yamamoto M, Ishihara Y, Kusuhara K, Kawamoto T; Japan Environment & Children's Study Group. The association between whole blood concentrations of heavy metals in pregnant women and premature births: The Japan Environment and Children's Study (JECS). *Environ Res* 2018 Jun 28;166:562-569.
12. Arae K, Morita H, Unno H, Motomura K, Toyama S, Okada N, Ohno T, Tamari M, Orimo K, Mishima Y, Suto H, Okumura K, Sudo K, Miyazawa H, Taguchi H, Saito H, Matsumoto K, Nakae S. Chitin promotes antigen-specific Th2 cell-mediated murine asthma through induction of IL-33-mediated IL-1β production by DCs. *Sci Rep* 2018 Aug 6;8(1):11721.

13. Yamamoto-Hanada K, Kobayashi T, Williams HC, Mikami M, Saito-Abe M, Morita K, Natsume O, Sato M, Iwama M, Miyaji Y, Miyata M, Inagaki S, Tatsuki F, Masami N, Nakayama SF, Kido H, Saito H, Ohya Y. Early aggressive intervention for infantile atopic dermatitis to prevent development of food allergy: a multicenter, investigator-blinded, randomized, parallel group controlled trial (PACI Study)-protocol for a randomized controlled trial. *Clin Transl Allergy* 2018 Nov 23;8:47.
14. Tanaka R, Tsuji M, Kusuhara K, Kawamoto T; Japan Environment and Children's Study Group. Association between time-related work factors and dietary behaviors: results from the Japan Environment and Children's Study (JECS). *Environ Health Prev Med* 2018 Dec 14;23(1):62.
15. Hiraishi Y, Yamaguchi S, Yoshizaki T, Nambu A, Shimura E, Takamori A, Narushima S, Nakanishi W, Asada Y, Numata T, Suzukawa M, Yamauchi Y, Matsuda A, Arae K, Morita H, Hoshino T, Suto H, Okumura K, Matsumoto K, Saito H, Sudo K, Iikura M, Nagase T, Nakae S. IL-33, IL-25 and TSLP contribute to development of fungal-associated protease-induced innate-type airway inflammation. *Sci Rep* 2018 Dec 21;8(1):18052.
16. 松原 優里, 阿江 竜介, 大矢 幸弘, 穐山 浩, 今井 孝成, 松本 健治, 福家 辰樹, 青山 泰子, 牧野 伸子, 中村 好一, 斎藤博久. 日本における食物アレルギー患者数の推計:疫学調査の現状と課題. アレルギー 2018;67(6):767-773.
17. Morita H, Tamari M, Fujiwara M, Motomura K, Koezuka Y, Ichien G, Matsumoto K, Ishizaka K, Saito H. IgE-class-specific immunosuppression in offspring by administration of anti-IgE to pregnant mice. *J Allergy Clin Immunol* [Epub ahead of print 2018 Nov 21]

[総説・追悼記事]

1. Takeda T, Morita H, Saito H, Matsumoto K, Matsuda A. Recent advances in understanding the roles of blood platelets in the pathogenesis of allergic inflammation and bronchial asthma. *Allergol Int* 2018 Jul;67(3):326-333.
2. Mukai K, Mindy T, Saito H, Galli S. Mast cells as sources of cytokines, chemokines and growth factors. *Immunol Rev* 2018 Mar;282(1):121-150.
3. Saito H. In lasting tribute: Kimishige Ishizaka, December 3, 1925, to July 6, 2018. *J Allergy Clin Immunol* 2018 Sep;142(3):781-782.
4. Saito H. Kimishige Ishizaka (1925-2018). *Allergol Int* 2018 Oct;67(4):431-432.

[学会発表]

シンポジウム・招待講演

1. 斎藤博久. アレルギー疾患対策基本法のための研究とは. 第 67 回日本アレルギー学会学術大会 シンポジウム 4「拠点病院からみたアレルギー対策基本法」、2018/6/22、国内
2. Hirohisa Saito. Learning from death cases caused by injection (A report from Japan Medical Safety Research Organization). XXXI National Congress SIAAIC & World Allergy Organization (WAO) International Scientific Conference "Symposium – Anaphylaxis: Recent topics from JSA", Florence, Italy、2018/12/6、国外

4-1-2　　小児血液・腫瘍研究部
（造血腫瘍発生研究室、分子病理研究室、腫瘍病態研究室）

[原著論文:査読付]（Reviewed Paper）

1. Matsuo H, Iijima-Yamashita Y, Yamada M, Deguchi T, Kiyokawa N, Shimada A, Tawa A, Tomizawa D, Taga T, Kinoshita A, Adachi S, Horibe K: Monitoring of fusion gene transcripts to predict relapses in pediatric acute myeloid leukemia. Pediatr Int. 2018 Jan;60(1):41-46. doi: 10.1111/ped.13440.
2. Iijima-Yamashita Y, Matsuo H, Yamada M, Deguchi T, Kiyokawa N, Shimada A, Tawa A, Takahashi H, Tomizawa D, Taga T, Kinoshita A, Adachi S, Horibe K: Performance of multiplex fusion gene testing in pediatric acute myeloid leukemia. Pediatr Int. 2018 Jan;60(1):47-51. doi: 10.1111/ped.13451.
3. Tzoneva G, Dieck CL, Oshima K, Ambesi-Impiombato A, Sánchez-Martín M, Madubata CJ, Khiabanian H, Yu J, Waanders E, Iacobucci I, Sulis ML, Kato M, Koh K, Paganin M, Basso G, Gastier-Foster JM, Loh ML, Kirschner-Schwabe R, Mullighan CG, Rabadan R, Ferrando AA: Clonal evolution mechanisms in NT5C2 mutant-relapsed acute lymphoblastic leukaemia. Nature. 2018 Jan 25;553(7689):511-514. doi: 10.1038/nature25186.
4. Urayama KY, Takagi M, Kawaguchi T, Matsuo K, Tanaka Y, Ayukawa Y, Arakawa Y, Hasegawa D, Yuza Y, Kaneko T, Noguchi Y, Taneyama Y, Ota S, Inukai T, Yanagimachi M, Keino D, Koike K, Toyama D, Nakazawa Y, Kurosawa H, Nakamura K, Moriwaki K, Goto H, Sekinaka Y, Morita D, Kato M, Takita J, Tanaka T, Inazawa J, Koh K, Ishida Y, Ohara A, Mizutani S, Matsuda F, Manabe A: Regional evaluation of childhood acute lymphoblastic leukemia genetic susceptibility loci among Japanese. Sci Rep. 2018 Jan 15;8(1):789. doi: 10.1038/s41598-017-19127-7.
5. Fukano R, Sunami S, Sekimizu M, Takimoto T, Mori T, Mitsui T, Mori T, Saito AM, Watanabe T, Ohshima K, Fujimoto J, Nakazawa A, Kiyokawa N, Kobayashi R, Horibe K, Tsurusawa M: Clinical Features and Prognosis According to Immunophenotypic Subtypes Including the Early T-Cell Precursor Subtype of T-Lymphoblastic Lymphoma in the Japanese Pediatric Leukemia/Lymphoma Study Group ALB-NHL03 Study. J Pediatr Hematol Oncol. 2018 Jan;40(1):e34-e37. doi: 10.1097/MPH.0000000000000850.
6. Kuwatsuka Y, Tomizawa D, Kihara R, Nagata Y, Shiba N, Iijima-Yamashita Y, Shimada A, Deguchi T, Miyachi H, Tawa A, Taga T, Kinoshita A, Nakayama H, Kiyokawa N, Saito AM, Koh K, Goto H, Kosaka Y, Asou N, Ohtake S, Miyawaki S, Miyazaki Y, Sakura T, Ozawa Y, Usui N, Kanamori H, Ito Y, Imai K, Suehiro Y, Kobayashi S, Kitamura K, Sakaida E, Ogawa S, Naoe T, Hayashi Y, Horibe K, Manabe A, Mizutani S, Adachi S, Kiyoi H: Prognostic value of genetic mutations in adolescent and young adults with acute myeloid leukemia. Int J Hematol. 2018 Feb;107(2):201-210. doi: 10.1007/s12185-017-2340-z.
7. Isobe T, Seki M, Yoshida K, Sekiguchi M, Shiozawa Y, Shiraishi Y, Kimura S, Yoshida M, Inoue Y, Yokoyama A, Kakiuchi N, Suzuki H, Kataoka K, Sato Y, Kawai T, Chiba K, Tanaka H, Shimamura T, Kato M, Iguchi A, Hama A, Taguchi T, Akiyama M, Fujimura J, Inoue A, Ito T, Deguchi T, Kiyotani C, Iehara T, Hosoi H, Oka A, Sanada M, Tanaka Y, Hata K, Miyano S, Ogawa S, Takita J: Integrated Molecular Characterization of the Lethal Pediatric Cancer Pancreatoblastoma. Cancer Res. 2018 Feb 15;78(4):865-876. doi: 10.1158/0008-5472.CAN-17-2581.
8. Kobayashi K, Yoshioka T, Miyauchi J, Nakazawa A, Kiyokawa N, Maihara T, Usami I: Role of monocyte chemoattractant protein-1 in liver fibrosis with transient myeloproliferative disorder in down syndrome. Hepatol Commun. 2018 Feb 1;2(3):230-236. doi: 10.1002/hep4.1150. eCollection 2018 Mar.
9. Shimada A, Iijima-Yamashita Y, Tawa A, Tomizawa D, Yamada M, Norio S, Watanabe T, Taga T, Iwamoto S, Terui K, Moritake H, Kinoshita A, Takahashi H, Nakayama H, Koh K, Goto H, Kosaka Y, Saito AM, Kiyokawa N, Horibe K, Hara Y, Oki K, Hayashi Y, Tanaka S, Adachi S: Risk-stratified therapy for children with FLT3-ITD-positive acute

myeloid leukemia: results from the JPLSG AML-05 study. Int J Hematol. 2018 May;107(5):586-595. doi: 10.1007/s12185-017-2395-x
10. Nishii R, Moriyama T, Janke LJ, Yang W, Suiter CC, Lin TN, Li L, Kihira K, Toyoda H, Hofmann U, Schwab M, Takagi M, Morio T, Manabe A, Kham S, Jiang N, Rabin KR, Kato M, Koh K, Yeoh AE, Hori H, Yang JJ: Preclinical evaluation of NUDT15-guided thiopurine therapy and its effects on toxicity and antileukemic efficacy. Blood. 2018 May 31;131(22):2466-2474. doi: 10.1182/blood-2017-11-815506.
11. Yamato G, Shiba N, Yoshida K, Hara Y, Shiraishi Y, Ohki K, Okubo J, Park MJ, Sotomatsu M, Arakawa H, Kiyokawa N, Tomizawa D, Adachi S, Taga T, Horibe K, Miyano S, Ogawa S, Hayashi Y: RUNX1 mutations in pediatric acute myeloid leukemia are associated with distinct genetic features and an inferior prognosis. Blood. 2018 May 17;131(20):2266-2270. doi: 10.1182/blood-2017-11-814442. Epub 2018 Mar 14. No abstract available.
12. Takahashi H, Kajiwara R, Kato M, Hasegawa D, Tomizawa D, Noguchi Y, Koike K, Toyama D, Yabe H, Kajiwara M, Fujimura J, Sotomatsu M, Ota S, Maeda M, Goto H, Kato Y, Mori T, Inukai T, Shimada H, Fukushima K, Ogawa C, Makimoto A, Fukushima T, Ohki K, Koh K, Kiyokawa N, Manabe A, Ohara A: Treatment outcome of children with acute lymphoblastic leukemia: the Tokyo Children's Cancer Study Group (TCCSG) Study L04-16. Int J Hematol. 2018 Jul;108(1):98-108. doi: 10.1007/s12185-018-2440-4.
13. Hori D, Kobayashi R, Suzuki D, Sano H, Kiyokawa N, Kobayashi K: Successful Treatment of Mediastinal γδ T-Cell Lymphoblastic Lymphoma in a 3-Year-Old Girl by Allogeneic Cord Blood Transplantation. J Pediatr Hematol Oncol. 2018 Jul;40(5):e311-e314. doi: 10.1097/MPH.0000000000000999.
14. Koga Y, Baba S, Fukano R, Nakamura K, Soejima T, Maeda N, Sunami S, Ueyama J, Mitsui T, Mori T, Osumi T, Sekimizu M, Ohki K, Tanaka F, Kamei M, Fujita N, Mori T, Saito AM, Kada A, Kobayashi R: The Effect of Interim FDG-PET-guided Response-Adapted Therapy in Pediatric Patients with Hodgkin's Lymphoma (HL-14) : Protocol for a Phase II Study. Acta Med Okayama. 2018 Aug;72(4):437-440. doi: 10.18926/AMO/56185.
15. Tsujimoto SI, Nakano Y, Osumi T, Okada K, Ouchi-Uchiyama M, Kataoka K, Fujii Y, Ohki K, Seki M, Tamagawa N, Takita J, Ogawa S, Kiyokawa N, Hara J, Kato M: A Cryptic NUP214-ABL1 Fusion in B-cell Precursor Acute Lymphoblastic Leukemia. J Pediatr Hematol Oncol. 2018 Aug;40(6):e397-e399. doi: 10.1097/MPH.0000000000001007.
16. Osumi T, Tsujimoto SI, Tamura M, Uchiyama M, Nakabayashi K, Okamura K, Yoshida M, Tomizawa D, Watanabe A, Takahashi H, Hori T, Yamamoto S, Hamamoto K, Migita M, Ogata-Kawata H, Uchiyama T, Kizawa H, Ueno-Yokohata H, Shirai R, Seki M, Ohki K, Takita J, Inukai T, Ogawa S, Kitamura T, Matsumoto K, Hata K, Kiyokawa N, Goyama S, Kato M: Recurrent RARB Translocations in Acute Promyelocytic Leukemia Lacking RARA Translocation. Cancer Res. 2018 Aug 15;78(16):4452-4458. doi: 10.1158/0008-5472.CAN-18-0840.
17. Ueno-Yokohata H, Okita H, Nakasato K, Hishiki T, Shirai R, Tsujimoto S, Osumi T, Yoshimura S, Yamada Y, Shioda Y, Kiyotani C, Terashima K, Miyazaki O, Matsumoto K, Kiyokawa N, Yoshioka T, Kato M: Preoperative diagnosis of clear cell sarcoma of the kidney by detection of BCOR internal tandem duplication in circulating tumor DNA. Genes Chromosomes Cancer. Genes Chromosomes Cancer. 2018 Oct;57(10):525-529. doi: 10.1002/gcc.22648.
18. Alexander TB, Gu Z, Iacobucci I, Dickerson K, Choi JK, Xu B, Payne-Turner D, Yoshihara H, Loh ML, Horan J, Buldini B, Basso G, Elitzur S, de Haas V, Zwaan CM, Yeoh A, Reinhardt D, Tomizawa D, Kiyokawa N, Lammens T, De Moerloose B, Catchpoole D, Hori H, Moorman A, Moore AS, Hrusak O, Meshinchi S, Orgel E, Devidas M, Borowitz M, Wood B, Heerema NA, Carrol A, Yang YL, Smith MA, Davidsen TM, Hermida LC, Gesuwan P, Marra MA, Ma Y, Mungall AJ, Moore RA, Jones SJM, Valentine M, Janke LJ, Rubnitz JE, Pui CH, Ding L, Liu Y, Zhang J,

Nichols KE, Downing JR, Cao X, Shi L, Pounds S, Newman S, Pei D, Guidry Auvil JM, Gerhard DS, Hunger SP, Inaba H, Mullighan CG: The genetic basis and cell of origin of mixed phenotype acute leukaemia. Nature. 2018 Oct;562(7727):373-379. doi: 10.1038/s41586-018-0436-0.

19. Matsuo H, Yoshida K, Fukumura K, Nakatani K, Noguchi Y, Takasaki S, Noura M, Shiozawa Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Okada A, Nannya Y, Takeda J, Ueno H, Shiba N, Yamato G, Handa H, Ono Y, Hiramoto N, Ishikawa T, Usuki K, Ishiyama K, Miyawaki S, Itonaga H, Miyazaki Y, Kawamura M, Yamaguchi H, Kiyokawa N, Tomizawa D, Taga T, Tawa A, Hayashi Y, Mano H, Miyano S, Kamikubo Y, Ogawa S, Adachi S: Recurrent CCND3 mutations in MLL-rearranged acute myeloid leukemia. Blood Adv. 2018 Nov 13;2(21):2879-2889. doi: 10.1182/bloodadvances.2018019398.
20. Tsujimoto S, Osumi T, Uchiyama M, Shirai R, Moriyama T, Nishii R, Yamada Y, Kudo K, Sekiguchi M, Arakawa Y, Yoshida M, Uchiyama T, Terui K, Ito S, Koh K, Takita J, Ito E, Tomizawa D, Manabe A, Kiyokawa N, Yang JJ, Kato M: Diplotype analysis of NUDT15 variants and 6-mercaptopurine sensitivity in pediatric lymphoid neoplasms. Leukemia. 2018 Dec;32(12):2710-2714. doi: 10.1038/s41375-018-0190-1.
21. Koh K, Kato M, Saito AM, Kada A, Kawasaki H, Okamoto Y, Imamura T, Horibe K, Manabe A. Phase II/III study in children and adolescents with newly diagnosed B-cell precursor acute lymphoblastic leukemia: protocol for a nationwide multicenter trial in Japan. Jpn J Clin Oncol 2018 Jul 1;48(7):684-691.

[症例報告]

1. Yoshida M, Osumi T, Imadome KI, Tomizawa D, Kato M, Miyazawa N, Ito R, Nakazawa A, Matsumoto K: Successful treatment of systemic EBV positive T-cell lymphoma of childhood using the SMILE regimen. Pediatr Hematol Oncol. 2018 Mar;35(2):121-124. doi: 10.1080/08880018.2018.1459982.
2. Osumi T, Tsujimoto SI, Nakabayashi K, Taniguchi M, Shirai R, Yoshida M, Uchiyama T, Nagasawa J, Goyama S, Yoshioka T, Tomizawa D, Kurokawa M, Matsubara Y, Kiyokawa N, Matsumoto K, Hata K, Kato M: Somatic MECOM mosaicism in a patient with congenital bone marrow failure without a radial abnormality. Pediatr Blood Cancer. 2018 Jun;65(6):e26959. doi: 10.1002/pbc.26959.
3. 野沢永貴, 加藤元博, 大隅朋生, 谷口真紀, 石黒精, 富澤大輔, 松本公一: 寛解導入療法中の骨髄抑制にプロプラノロールによる薬剤性汎血球減少症を合併した小児急性リンパ性白血病の一例. 日本小児血液・がん学会雑誌 2018;55(1):15-18.

[総説]

1. Kato M, Manabe A: Treatment of biology of pediatric acute lymphoblastic leukemia. Pediatr Int. 60:4-12, 2018
2. 加藤元博:小児 ALL の遺伝的背景と治療. 臨床血液 2018;59(10):2268-2272
3. 加藤元博:小児急性リンパ性白血病 病態研究と診療の新展開. 臨床血液 2018;59(5):504-510

[ガイドライン、報告書、その他]

＜ガイドライン＞

1. 加藤元博(分担執筆):造血細胞移植ガイドライン 小児急性リンパ性白血病(第 3 版) 日本造血細胞移植学会 2018
2. 加藤元博(分担執筆):造血器腫瘍ゲノム検査ガイドライン 日本血液学会 2018

＜その他＞

1. 加藤元博:次世代シークエンサーを用いた急性リンパ性白血病の微小残存病変の測定. 血液内

科 2018:76(5):609-612
2. 加藤元博：成人に達する/達した患者への医療　小児がん．医学のあゆみ 2018;265(12):1042-1047

[学会発表]

1. Ohki K. Saito Y, Manabe A. Kiyokawa N: Recurrent MEF2D fusions in pediatric B precursor acute lymphoblastic leukemia and lymphoma: TCCSG trial. IBFM ALL Committee Interim Meeting. Milano, Italy, 2018.21.
2. Ando R, Osumi T, Kato M, Shioda Y, Kiyotani C, Terashima K, Matsumoto K, Tomizawa D: Relationship between prophylactic antibiotics and blood stream infections in children with acute myeloid leukemia. 50th Congress of the International Society of Pediatric Oncology (SIOP), Kyoto, 2018.11.17
3. Tsumura Y, Kiyotani C, Shioda Y, Osumi T, Kato M, Tomizawa D, Terashima K, Hishiki T, Fuji H, Horikawa R, Matsumoto K: Short stature among high-risk neuroblastoma survivors treated with non-TBI regimen. 50th Congress of the International Society of Pediatric Oncology (SIOP), Kyoto, 2018.11.17
4. Yoshimura S, Kiyotani C, Osumi T, Shioda Y, Terashima K, Kato M, Tomizawa D, Matsumoto K: Preemptive treatment with recombinant thrombomodulin for children who developed veno-occlusive disease after hematopoietic stem cell transplantation: a single center experience in Japan. 50th Congress of the International Society of Pediatric Oncology (SIOP), Kyoto, 2018.11.18
5. Shirai R, Osumi T, Uchiyama M, Tsujimoto S, Yoshida M, Uchiyama T, Tomizawa D, Watanabe K, Shioda Y, Kiyotani C, Terashima K, Yoshioka T, Ogawa S, Matsumoto K, Kato M: High prevalence of SMAICB1 germline abnormality in rhabdoid tumors. 50th Congress of the International Society of Pediatric Oncology (SIOP), Kyoto, 2018.11.18
6. Yoshida M, Nakanbayashi K, Tsujimoto S, Osumi T, Shirai R, Kawai T, Yuza Y, Takagi M, Koh K, Takahashi H, Kinohsita A, Hino M, Manabe A, Imamura T, Ohara A, Tomizawa D, Kiyokawa N, Hata K, Kato M: Germline genetic predispositions to secondary malignant neoplasms in children. 50th Congress of the International Society of Pediatric Oncology (SIOP), Kyoto, 2018.11.18
7. Ueno HY, Okita H, Nakasato K, Hishiki T, Tsujimoto S, Shirai R, Osumi T, Yoshimura S, Yamada Y, Shioda Y, Kiyotani C, Terashima K, Miyazaki O, Matsumoto K, Kiyokawa N, Yoshioka T, Kato M: Identification of BCOR internal tandem duplication in circulating tumor DNA from children with renal tumors. . 50th Congress of the International Society of Pediatric Oncology (SIOP), Kyoto, 2018.11.17
8. Ueno H, Yoshida K, Shiozawa Y, Nannya Y, Iijima-Yamashita Y, Kiyokawa N, Shiraish Y, Chiba K, Tanaka H, Isobe T, Seki M, Kimura S, Makishima H, Kakiuchi N, Kataoka K, Yoshizato T, Tsukamoto H, Nishijima D, Deguchi T, Ohki K, Sato A, Takahashi H, Hashii Y, Tokimasa S, HaraJ, Kosaka Y, Kato K, Inukai T, Takita J, Imamura T, Miyano S, Manabe A, Horibe K, Ogawa S and Sanada M: The Prognostic Value of TP53 Mutations Depends on Clinical Backgrounds in Pediatric Patients with Acute Lymphoblastic Leukemia. 60h ASH Annual Meeting and Exposition, San Diego, USA, 2018.12.3.
9. Kaburagi T, Yamato G, Shiba N, Yoshida K, Hara Y, Shiraishi Y, Ohki K, Sotomatsu M, Arakawa H, Matsuo H, Shimada A, Kiyokawa N, Tomizawa D, Taga T, Horibe K, Miyano S, Ogawa S, Adachi S, Hayashi Y: Comprehensive Analysis of 343 Genes Using Targeted Sequencing Panel By Next-Generation Sequencer in 77 Pediatric AML Patients with Normal and Complex Karyotypes: Jccg Study, JPLSG AML-05. 60h ASH Annual Meeting and Exposition, San Diego, USA, 2018.12.3.
10. Kato M, Kurata M, Kanda J, Kato K, Tomizawa D, Kudo K, Yoshida N, Watanabe K, Shimada H, Inagaki J, Koh K, Goto H, Kato K, Cho Y, Yuza Y, Ogawa A, Okada K, Inoue M, Hashii Y, Teshima T, Murata M, Atsuta Y: Impact of GVHD on relapse and survival after allogeneic HSCT for pediatric leukemia. 第 40 回日本造血細胞移植学会総会, 札幌, 2018.2.2（口演）

11. 大隅朋生, 河合俊尚, 富澤大輔, 内山徹, 佐古まゆみ, 井上永介, 田村英一郎, 渡辺信之, 藤浩, 塩田曜子, 清谷知賀子, 寺島慶太, 今留謙一, 瀧本哲也, 小野寺雅史, 松本公一, 加藤元博:用量調整ブスルファンを用いた慢性肉芽腫症に対する非血縁者間骨髄移植:単一施設でのパイロット試験. 第 40 回日本造血細胞移植学会総会, 札幌, 2018.2.2(口演)
12. 安藤理恵, 加藤元博, 小川英輝, 大隅朋生, 木村由依, 津村悠介, 山田悠司, 吉村聡, 吉田馨, 大楠清文, 清谷知賀子, 塩田曜子, 寺島慶太, 宮入烈, 富澤大輔, 松本公一:気管支肺胞洗浄が早期診断に有効であった同種移植後の肺ノカルジア症の一例. 第 40 回日本造血細胞移植学会総会, 札幌, 2018.2.3(ポスター)
13. 吉村聡, 寺島慶太, 木村由依, 白井了太, 山田悠司, 塩田曜子, 清谷知賀子, 大隅朋生, 吉田馨, 安藤理恵, 津村悠介, 竹内一朗, 加藤元博, 富澤大輔, 宮嵜治, 新井勝大, 松本公一: VIP 産生神経芽腫と炎症性腸疾患を合併していた難治性下痢症の幼児例. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.21(ポスター)
14. 山田悠司, 大隅朋生, 白井了太, 加藤元博, 富澤大輔, 松本公一: 肝移植後に肝血管肉腫が判明した先天性角化不全症の 1 例. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.21(ポスター)
15. 峠千晶, 加藤元博, 大隅朋生, 富澤大輔, 村上瑛梨, 河合利尚, 今留謙一, 八角高裕, 石黒精: 自然回復と再燃を反復した家族性血球貪食症候群 3 型. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.22(ポスター)
16. Kanayama T, Imamura T, Sakamoto K, Hayakawa F, Tanizawa A, Kiyokawa N, Hosoi H: PAX5-KIDINS220 fusion protein activates JAK2-STAT5 pathway through repression of SOCS5 expression. 第 80 回日本血液学会学術集会, 大阪, 2018.10.12
17. Kubota Y, Uryu K, Ito T, Kawai T, Seki M, Isobe T, Toki T, Yoshida K, Kataoka K, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Ohki K, Kiyokawa N, Miyano N, Oka A, Hayashi H, Ogawa S, Terui K, Sato A, Hata K, Ito E, Junko TakitaJ: Ph-like signature in acute lymphoblastic leukemia of Down syndrome. 第 80 回日本血液学会学術集会, 大阪, 2018.10.12
18. Matsuo H, Yoshida K, Fukumura K, Shiozawa Y, Nannya Y, Takeda J, Ueno H, Shiba N, Yamato G, Handa H, Ono Y, Hiramoto N, Ishikawa T, Usuki K, Ishiyama K, Miyawaki S, Itonaga H, Miyazaki Y, Kawamura M, Yamaguchi H, Kiyokawa N, Tomizawa D, Taga T, Tawa A, Hayashi Y, Mano H, Miyano S, Kamikubo Y, Ogawa S, Adachi S: Identification of recurrent CCND3 mutations in MLL-rearranged acute myeloid leukemia.第 80 回日本血液学会学術集会, 大阪, 2018.10.14
19. Kaburagi T, GYamato G, Shiba N, Hara Y, Ohki K, Sotomatsu M, Arakawa H, Kiyokawa N, Tomizawa D, Adachi A, TTaga T, Horibe K, Hayashi Y: Clinical significance and prognostic analyses of PTPN11, RAS, and CBL mutations in pediatric AML. 第80回日本血液学会学術集会, 大阪, 2018.10.14
20. Kimura S, SekiM, KYoshida K, Ueno H, Shiozawa Y, Isobe T, Ohk K, Kato M, Koh K, Kobayashi R, Deguchi T, Hashii Y, Imamura T, Sato A, Kiyokawa N, Manabe A, Horibe K, Ohara A, Sanada M, Kobayashi M, Oka A, Hayashi Y, Miyano S, Ogawa S , Takita J: Analysis of features of alterations leading to activate NOTCH1 signaling in pediatric T-ALL. 第 80 回日本血液学会学術集会, 大阪, 2018.10.14
21. Nishimura A, Hirabayashi S, Kanabuchi S, Kamamoto K, Aiga S, Hosoya Y, Ohki K, Kiyokawa N, Hasegawa D, Manabe A: TCF3-ZNF384 positive acute lymphoblastic leukemia recurring 10 years after diagnosis.第 80 回日本血液学会学術集会, 大阪, 2018.10.14
22. Tomii T, Imamura T, Yano M, Kiyokawa N, Horibe K, Hosoi H: Leukemic cell with a novel kinase fusion gene NCOR1-LYN exhibits high sensitivity to dasatinib. 第80回日本血液学会学術集会, 大阪, 2018.10.14
23. Matsuo H, Yoshida K, Fukumura K, YShiozawa Y, Nannya Y, Takeda J, Ueno H, Shiba N, Yamato G, Handa H, Ono Y, Hiramoto N, Ishikawa T, Usuki K, shiyama K, Miyawaki S, Itonaga H, Miyazaki Y, Kawamura M, Yamaguchi H, Kiyokawa N, Tomizawa D, Taga T, Tawa A, Hayashi Y, Mano H, Miyano S, Kamikubo Y, Ogawa S, Adachi S:

Identification of recurrent CCND3 mutations in MLL-rearranged acute myeloid leukemia.第 80 回日本血液学会学術集会, 大阪, 2018.10.14

24. Kimura S, Seki M, Yoshida K, Ueno H, Shiozawa Y, Isobe T, Ohk K, Kato M, Koh K, Kobayashi R, Deguchi T, Hashii Y, Imamura T, Sato A, Kiyokawa N, Manabe A, Horibe K, Ohara A, Sanada M, Kobayashi M, Oka A, Hayashi Y, Miyano S, Ogawa S, Takita J: Analysis of features of alterations leading to activate NOTCH1 signaling in pediatric T-ALL. 第 80 回日本血液学会学術集会, 大阪, 2018.10.14
25. Shirai R, Shioda Y, Osumi T, Tsujimoto S, Yoshida M, Uchiyama T, Tomizawa D, Kiyotani C, Terashima K, Matusmoto K, Kiyokawa N, Yoshioka T, Kato M: Sensitive detection of BRAF V600E in Langernhans cell histiocytosis using droplet digital PCR. 第 80 回日本血液学会学術集会, 大阪, 2018.10.12(口演)
26. Yoshida M, Nakabayashi K, Ogata H, Tsujimoto S, Osumi T, Shirai R, Tomizawa D, Kiyokawa N, Hata K, Kato M: A novel MLL-ACTN2 fusion in infant B-lineage acute lymphoblastic leukemia. 第 80 回日本血液学会学術集会, 大阪, 2018.10.14(口演)
27. Kato M, Osumi T, Tsujimoto S, Tamura M, Uchiyama M, Nakabayashi K, Okamura K, Yoshida M, Tomizawa D, Watanabe A, Takahashi H, Hori T, Yamamoto S, Hamamoto K, Migita M, Ogata H, Uchiyama T, Kizawa H, Ueno H, Shirai R, Seki M, Ohki K, Takita J, Inukai T, Ogawa S, Kitamura T, Matsumoto K, Hata K, Goyama S, Kiyokawa N: RARB translocations in RARA-negative acute peomyelocytic leukemia. 第 80 回日本血液学会学術集会, 大阪, 2018.10.14(口演)
28. Osumi T, Watanabe A, Okamura K, Nakabayashi K, Yoshida M, Tsujimoto S, Shirai R, Uchiyama M, Ohki K, Takahashi H, Kizawa H, Uchiyama T, Tomizawa D, Hata K, Kiyokawa N, Kato M: Acute promyelocytic leukemia with a cryptoc insertion of RARA into TBL1XR1. 第 80 回日本血液学会学術集会, 大阪, 2018.10.14(口演)
29. Tsumura Y, Yamada Y, Osumi T, Kato M, Shioda Y, Kiyotani C, Terashima K, Matusmoto K, Tomizawa D: Successful treatment with ATRA/ATO for a child with Down syndrome and acute promyelocytic leukemia. 第 80 回日本血液学会学術集会, 大阪, 2018.10.14(ポスター)
30. Sasaki K, Shiba N, Uchiyama Y, Ikeda J, Yoshitomi M, Shimosato Y, Tokumasu M, Matsuo H, KYoshida K, Ohki K, Yamato G, Hara Y, Kinoshita A, Tomizawa D, Taga T, Adachi S, Tawa A, Horibe K, Matsumoto N, Ito S, Hayashi Y: The detection of minor clones with somatic KIT D816V mutations in pediatric de novo AML. 第 80 回日本血液学会学術集会, 大阪, 2018.10.12
31. Ohki K, Kiyokawa N, Takahashi H, Kajiwara R, Kato M, Hasegawa D, Tomizawa D, Noguchi Y, Koike K, Toyama D, Yabe H, Kajiwara M, Fujimura J, Sotomatsu M, Ota S, Maeda M, Goto H, Kato Y, Mori T, Inukai T, Shimada H, Fukushima K, Ogawa C, Fukushima T, Koh K, Manabe A, Ohara A: Treatment outcome of children with acute lyemphoblastic leukemia harbouring newly identified genetic abnormalities. 第 60 回日本小児血液・がん学会学術集会, 京都, 2018.11.14(口演)
32. Kiyotani C, Terashima K, Kimura Y, Ando R, Sakamoto K, Mizuno T, Tsumura Y, Yoshimura S, Tsujimoto S, Isshiki K, Shioda Y, Osumi T, Kato M, Tomizawa D, Matsumoto K: Dexrazoxane treatment along with doxorubicin chemotherapy among Japanese children with solid or brain tumors: 第 60 回日本小児血液・がん学会学術集会, 京都, 2018.11.14(口演)
33. Utano T, Kato M, Osumi T, Shioda Y, Kiyotani C, Terashima K, Tomizawa D, Matsumoto K, Yamatani A: Difference in increased tacrolimus blood concentration level by its administration route when combined with voriconazole in pediatric stem cell transplant recipients. 第 60 回日本小児血液・がん学会学術集会, 京都, 2018.11.14(口演)
34. Sakamoto K, Shioda Y, Uehara Y, Osumi T, Terashima K, Kato M, Tomizawa D, Kiyotani C, Mochimaru N, Yoshida K, Miyazaki O, Yoshioka T, Irie R, Ito Y, Matsumoto K: A neonate with severe systemic juvenile xanthogranuloma presented with fetal hydrops and hepatosplenomegaly but lacking skin lesions. 第 60 回日本小児血液・がん学会学術集会, 京都, 2018.11.14(ポスター)

35. Yamada Y, Kato S, Shirai R, Osumi T, Kiyotani C, Watanabe T, Hishiki T, Sekiguchi M, Seki M, Takita J, Kiyokawa N, Miyazaki O, Yoshioka T, Matsumoto K, Kato M: Sibling cases of pleuropulmonary blastoma with compound heterozygous DICER1 mutations. 第 60 回日本小児血液・がん学会学術集会, 京都, 2018.11.15
36. Yoshida K, Kakuda H, Shirai R, Yoshida Y, Osumi T, Kiyokawa N, Okimoto Y, Kato M: X linked vitamin B6-Responsive Sideroblastic anemia due to ALAS2 gene variant. 第 60 回日本小児血液・がん学会学術集会, 京都, 2018.11.16
37. Deguchi T, Kiyokawa N, Ohki K, Manabe A, ASaito A, Horibe K: CD22 expression in Childhood Leukemia. 第 60 回日本小児血液・がん学会学術集会, 京都, 2018.11.15
38. Sakamoto K, Shiba N, Deguchi T, Kiyokawa N, Hashii Y, ASaito A, Tomizawa D, Taga T, Adachi S, Imamura T: Negative CD19 expression is associated with inferior relapse free survival in RUNX1-RUNX1T1 positive AML; JPLSG experience from the AML-05 study. 第 60 回日本小児血液・がん学会学術集会, 京都, 2018.11.16
39. Kimura K, Seki M, Kawai T, Yoshida K, sobe T, Ueno T, Shiozawa Y, Suzuki H, Shiraishi Y, Ohki K, Kato M, Koh K, Kobayashi R, Deguchi T, Hashii Y, Imamura T, Sato A, Kiyokawa N, Manabe A, Sanada M, Ohara A, Horibe K, Kobayashi M, Oka A, Hayashi Y, Miyano S, Hata K, Ogawa S, Takita J: DNA methylation-based characterization of T-cell acute lymphoblastic leukemia well correlated with genetic features, prognosis and differentiation stages. 第 60 回日本小児血液・がん学会学術集会, 京都, 2018.11.15
40. Ohki K, Kiyokawa N, Hiroyuki Takahashi H, Kajiwara R, Kato M, Hasegawa D, Tomizawa D, Noguchi Y, Koike K, Toyama D, Yabe H, Kajiwara M, Fujimura J, Sotomatsu M, Ota S, Maeda M, Goto H, Kato Y, Mori T, Inukai T, Shimada H, Fukushima K, Ogawa C, Fukushima T, Koh K, Manabe A, Ohara A: Treatment outcome of children with acute lymphoblastic leukemia harbouring newly identified genetic abnormalities: Results from TCCSG Study L04-16. 第 60 回日本小児血液・がん学会学術集会, 京都, 2018.11.15
41. Hayase T, Shioda Y, Imamura T, Watanabe K, Ohki K, Oh Y, Kawahara Y, Morimoto A: Analysis of BRAF V600E mutation in Japanese patients with Langerhans cell histiocytosis. 第 60 回日本小児血液・がん学会学術集会, 京都, 2018.11.16
42. Kaburagi T, Yamato G, Hara Y, Shiba N, Ohki K, Sotomatsu M, Shimada A, Hasegawa D, Manabe A, Hayashi Y: A case of t(8;21)-AML with internal tandem duplication of KIT at relapse. 第 60 回日本小児血液・がん学会学術集会, 京都, 2018.11.16

[講演]

1. Kato M: Germline biology of pediatric cancer. Joint Cancer Conference with China, Japan, and USA. 京都 2018.11.16
2. 加藤元博:小児がんにおけるゲノム医療の役割と可能性. BMS パートナリング＆イノベーションセミナー, 東京, 2018.9.25
3. 加藤元博:小児 ALL の遺伝的背景と治療. 第 80 回日本血液学会, 大阪, 2018.10.12
4. 加藤元博:Physician scientist の目線から行う小児血液・腫瘍疾患の"outlier"の分子遺伝学的解析. 第 29 回南九州腫瘍研究会, 鹿児島, 2018.4.26
5. 加藤元博:遺伝性素因と白血病. 第 11 回研修医のための血液学セミナー, 大津, 2017.7.8
6. 加藤元博:臨床研究をやってみよう:小児造血幹細胞移植におけるエビデンスの構築. 第 58 回東海小児小児造血細胞移植研究会, 名古屋, 2018.11.9
7. 加藤元博:ゲノム解析から解き明かす小児血液・腫瘍疾患のバイオロジー. 生命科学系学会合同年次大会, 神戸, 2017.12.16

4-1-3 分子内分泌研究部 （基礎内分泌研究室・臨床内分泌研究室）

[原著論文:査読付](Reviewed Paper)

1. Miyado M, Muroya K, Katsumi M, Saito K, Kon M, Fukami M: Somatically acquired idic(Y) and mosaic loss of chromosome Y in a boy with hypospadias. Cytogenet Genome Res 2018;154(3):122-125
2. Ushijima K, Fukami M, Ayabe T, Narumi S, Okuno M, Nakamura A, Takahashi T, Ihara K, Ohkubo K, Tachikawa E, Nakayama S, Arai J, Kikuchi N, Kikuchi T, Kawamura T, Urakami T, Hata K, Nakabayashi K, Matsubara Y, Amemiya S, Ogata T, Yokota I, Sugihara S; The Japanese Study Group of Insulin Therapy for Childhood and Adolescent Diabetes : Comprehensive screening for monogenic diabetes in 89 Japanese children with insulin-requiring antibody-negative type 1 diabetes. Pediatr Diabetes 2018;19(2):243-250
3. Nakamura S, Kobori Y, Ueda Y, Tanaka Y, Ishikawa H, Yoshida A, Katsumi M, Saito K, Nakamura A, Ogata T, Okada H, Nakai H, Miyado M, Fukami M: STX2 is a causative gene for non-obstructive azoospermia. Hum Mutat. 2018 ;39(6):830-833.
4. Narumi S, Matsubara K, Ishii T, Hasegawa T: Methylome analysis of thyroid ectopy shows no disease-specific DNA methylation signature. Clin Pediatr Endocrinol 2018;27(4):235-238
5. Shima H, Hayashi M, Tachibana T, Oshiro M, Amano N, Ishii T, Haruna H, Igarashi M, Kon M, Fukuzawa R, Tanaka Y, Fukami M, Hasegawa T, Narumi S: MIRAGE syndrome is a rare cause of 46, XY DSD born SGA without adrenal insufficiency. PLoS One 2018;13(11):e0206184
6. Katoh-Fukui Y, Baba T, Sato T, Otake H, Nagakui-Noguchi Y, Shindo M, Suyama M, Ohkawa Y, Tsumura H, Morohashi KI, Fukami M: Mouse polycomb group gene Cbx2 promotes osteoblastic but suppresses adipogenic differentiation in postnatal long bones. Bone 2018;120:219-231
7. Igarashi M, Mizuno K, Kon M, Narumi S, Kojima Y, Hayashi Y, Ogata T, Fukami M: *GATA4* mutations are uncommon in patients with 46, XY disorders of sex development without heart anomaly. Asian J Androl 2018;20(6):629-631
8. Tanase-Nakao K, Miyata I, Terauchi A, Saito M, Wada S, Hasegawa T, Narumi S: Fetal goitrous hypothyroidism and polyhydramnios in a patient with compound heterozygous DUOXA2 mutations. Horm Res Paediatr 2018;90(2):132-137
9. Yoshida T, Matsuzaki T, Miyado M, Saito K, Iwasa T, Matsubara Y, Ogata T, Irahara M, Fukami M : 11-oxygenated C19 steroids as circulating androgens in women with polycystic ovary syndrome. Endocr J 2018;65(10):979-990
10. Katoh-Fukui Y, Yatsuga S, Shima H, Hattori A, Nakamura A, Okamura K, Yanagi K, Iso M, Kaname T, Matsubara Y, Fukami M : An unclassified variant of CHD7 activates a cryptic splice site in a patient with CHARGE syndrome. Hum Genome Var 2018;5:18006
11. Kawashima S, Nakamura A, Inoue T, Matsubara K, Horikawa R, Wakui K, Takano K, Fukushima Y, Tatematsu T, Mizuno S.Tsubaki J, Kure S, Matsubara Y, Ogata T, Fukami M, Kagami M : Maternal uniparental disomy for chromosome 20: physical and endocrinological characteristics of five patient. J Clin Endocrinol Metab 2018;103(6):2083-2088
12. Shima H, Koehler K, Nomura Y, Sugimoto K, Satoh A, Ogata T, Fukami M, Jühlen R, Schuelke M, Mohnike K, Huebner A, Narumi S : Two patients with MIRAGE syndrome lacking haematologic features: Role of somatic second-site reversion SAMD9 mutations. J Med Genet 2018;55(2):81-85
13. Ushijima K, Yatsuga S, Matsumoto T, Nakamura A, Fukami M, Kagami M: A severely short-statured girl with 47, XX, +14/46, XX, upd(14)mat, mosaicism. J Hum Genet 2018;63(3):377-381
14. Ayabe T, Yamamoto-Hanada K, Mezawa H, Konishi M, Ishitsuka K, Saito M, Fukami M, Michikawa T, Yamazaki S, Senju A, Kusuhara K, Kawamoto T, Sanefuji M, Kato K, Oda M, Mitsubuchi H, Katoh T, Monden Y, Nathan Mise, Kayama F, Saito H, Ohya Y : Regional difference of infant 25OHD levels in pilot study of Japan Environment and

Children's Study. Pediatr Int 2018;60(1):30-34.
15. Ogata H, Ihara H, Gito M, Sayama M, Murakami N, Ayabe T, Oto Y, Nagai T, Shimoda K : Aberrant, autistic, and food-related behaviors in adults with Prader-Willi syndrome. The comparison between young adults and adults. Res Dev Disabil 2018;73:126-134
16. Yoshida K, Kang W, Nakamura A, Kawano N, Hanai M, Miyado M, Miyamoto Y, Iwai M, Hamatani T, Saito H, Miyado K, Umezawa A: Ubiquitin-activating enzyme E1 inhibitor PYR-41 retards sperm enlargement after fusion to the egg. Reprod Toxicol 2018;76:71-77
17. Yamoto K, Okamoto S, Fujisawa Y, Fukami M, Saitsu H, Ogata T : FGFR1 disruption identified by whole genome sequencing in a male with a complex chromosomal rearrangement and hypogonadotropic hypogonadism. Am J Med Genet A 2018;176(1):139-143
18. Yamazaki F, Shima H, Osumi T, Narumi S, Kuroda T, Shimada H : Nodular lymphocyte-predominant hodgkin lymphoma in a 15-year-old boy with Li-Fraumeni syndrome having a germline TP53 D49H mutation. J Pediatr Hematol Oncol 2018;40(3):e195-e197
19. Horikawa Y, Enya M, Komagata M, Hashimoto KI, Kagami M, Fukami M, Takeda J: Effectiveness of sodium-glucose cotransporter-2 Inhibitor as an add-on drug to GLP-1 receptor agonists for glycemic control of a patient with Prader-Willi syndrome: a case report. Diabetes Ther 2018;9(1):421-426
20. Wilson DB, Bessler M, Ferkol TW, Shenoy S, Amano N, Ishii T, Shima H, Narumi S: Comment on: Acquired monosomy 7 myelodysplastic syndrome in a child with clinical features of dyskeratosis congenita and IMAGe association. Pediatr Blood Cancer 2018;65(1)
21. Nakamura A, Muroya K, Ogata-Kawata H, Nakabayashi K, Matsubara K, Ogata T, Kurosawa K, Fukami M, Kagami M: A case of paternal uniparental isodisomy for chromosome 7 associated with overgrowth. J Med Genet 2018;55(8):567-570
22. Jeffries L, Shima H, Ji W, Panisello-Manterola D, McGrath J, Bird LM, Konstantino M, Narumi S, Lakhani S : A novel SAMD9 mutation causing MIRAGE syndrome: An expansion and review of phenotype, dysmorphology, and natural history. Am J Med Genet A 2018;176(2):415-420
23. Sarthy J, Zha J, Babushok D, Shenoy A, Fan JM, Wertheim G, Himebauch A, Munchel A, Taraseviciute A, Yang S, Shima H, Narumi S, Meshinchi S, Olson TS : Poor outcome with hematopoietic stem cell transplantation for bone marrow failure and MDS with severe MIRAGE syndrome phenotype. Blood Adv 2018;2(2):120-125
24. Mora JRH, Tayama C, Sánchez-Delgado M, Monteagudo-Sánchez A, Hata K, Ogata T, Medrano J, Eugenia Poo-Llanill M, Simón C, Moran S, Esteller M, Tenorio J, Lapunzina P, Kagami M, Monk D, Nakabayashi K : Characterization of parent-of-origin methylation using the Illumina Infinium MethylationEPIC array platform. Epigenomics 2018;10(7):941-954
25. Montalbano A, Juergensen L, Fukami M, Thiel CT, Hauer NH, Roeth R, Weiss B, Naiki Y, Ogata T, Hassel D, Rappold GA : Functional missense and splicing variants in the retinoic acid catabolizing enzyme CYP26C1 in idiopathic short stature. Eur J Hum Genet 2018;26(8):1113-1120
26. Hosono K, Nishina S, Yokoi T, Katagiri S, Saitsu H, Kurata K, Miyamichi D, Hikoya A, Mizobuchi K, Nakano T, Minoshima S, Fukami M, Kondo H, Sato M, Hayashi T, Azuma N, Hotta Y: Molecular diagnosis of 34 Japanese families with Leber Congenital Amaurosis using targeted Next-generation sequencing. Sci Rep 2018;8(1):8279
27. Takagi M, Shimomura S, Fukuzawa R, Narumi S, Nishimura G, Hasegawa T: A novel truncating mutation in MYH3 causes spondylocarpotarsal synostosis syndrome with basilar invagination. J Hum Genet 2018;63(12):1277-1281
28. Sugisawa C, Abe K, Sunaga Y, Taniyama M, Hasegawa T, Narumi S: Identification of compound heterozygous TSHR mutations (R109Q and R450H) in a patient with nonclassic TSH resistance and functional characterization of the mutant receptors. Clin Pediatr Endocrinol 2018;27(3):123-130

29. Tomonaga K, Tahara K, Watanabe T, Ohno M, Ogawa K, Kutsukake M, Fujino A, Hishiki T, Kinjyo K, Horikawa R, Katsumata N, Kanamori Y: A case of congenital autonomous thyroid adenoma with a somatic activating gene mutation in the thyroid-stimulating hormone receptor. J Pediatr Surg Case Rep 2018;38:50-52
30. Ohsako S, Aiba T, Miyado M, Fukami M, Ogata T, Hayashi Y, Mizuno K, Kojima Y: Expression of xenobiotic biomarkers CYP1 family in preputial tissue of patients with hypospadias and phimosis and its association with DNA methylation level of SRD5A2 minimal promoter. Arch Environ Contam Toxicol 2018;74(2):240-247
31. Abe K, Narumi S, Suwanai AS, Adachi M, Muroya K, Asakura Y, Nagasaki K, Abe T, Hasegawa T : Association between monoallelic TSHR mutations and congenital hypothyroidism: a statistical approach. Eur J Endocrinol 2018;178(2):137-144
32. Nakamura A, Kawano N, Motomura K, Kuroda A, Sekiguchi K, Miyado M, Kang W, Miyamoto Y, Hanai M, Iwai M, Yamada M, Hamatani T, Saito T, Saito H, Tanaka M, Umezawa A, Miyado K : Degradation of phosphate polymer polyP enhances lactic fermentation in mice. Genes Cells 2018;23(10):904-914
33. Kang W, Ishida E, Yamatoya K, Nakamura A, Miyado M, Miyamoto Y, Iwai M, Tatsumi K, Saito T, Saito K, Kawano N, Hamatani T, Umezawa A, Miyado K, Saito H: Autophagy-disrupted LC3 abundance leads to death of supporting cells of human oocytes. Biochem Biophys Rep 2018;15:107-114
34. Kimura T, Kagami M, Matsubara K, Yatsuga S, Mukasa R, Yatsuga C, Matsumoto T, Koga Y : Temple syndrome diagnosed in an adult patient with clinical autism spectrum disorder. Clin Case Rep 2018;7(1):15-18
35. Takagi M, Shimomura S, Fukuzawa R, Narumi S, Nishimura G, Hasegawa T: A novel truncating mutation in MYH3 causes spondylocarpotarsal synostosis syndrome with basilar invagination. J Hum Genet 2018;63(12):1277-1281
36. Nagata Y, Narumi S, Guan Y, Przychodzen BP, Hirsch CM, Makishima H, Shima H, Aly M, Pastor V, Kuzmanovic T, Radivoyevitch T, Adema V, Awada H, Yoshida K, Li S, Sole F, Hanna R, Jha BK, LaFramboise T, Ogawa S, Sekeres MA, Wlodarski MW, Cammenga J, Maciejewski JP : Germline loss-of-function SAMD9 and SAMD9L alterations in adult myelodysplastic syndromes. Blood 2018;132(21):2309-2313
37. Yoshii K, Naiki Y, Terada Y, Fukami M, Horikawa R: Mismatch between fetal sexing and birth phenotype: a case of complete androgen insensitivity syndrome. Endocr J 2018;65(2):221-225
38. Shimizu D, Iwashima S, Sato K, Hayano S, Fukami M, Saitsu H, Ogata T: *GATA4* variant identified by whole-exome sequencing in a Japanese family with atrial septal defect: Implications for male sex development. Clin Case Rep 2018;6(11):2229-2233
39. Iwai M, Harada Y, Miyabayashi R, Kang W, Nakamura A, Kawano N, Miyamoto Y, Yamada M, Hamatani T, Miyado M, Yoshida K, Saito H, Tanaka M, Umezawa A, Miyado K: Chemotactic behavior of egg mitochondria in response to sperm fusion in mice. Heliyon 2018;4(11):e00944

[総説]

1. Fukami M: Long-term healthcare of people with disorders of sex development: Predictors of pubertal outcomes of partial androgen insensitivity syndrome (Commentary). EBioMedicine 2018;37:29-30
2. Fukami M, Suzuki E, Igarashi M, Miyado M, Ogata T: Gain-of-function mutations in G-protein coupled receptor genes associated with human endocrine disorders. Clin Endocrinol 2018;88(3):351-359
3. Matsubara K, Kagami M, Fukami M: Uniparental disomy as a cause of pediatric endocrine disorders. Clin Pediatr Endocrinol 2018;27(3):113-121
4. Narumi S: Rare monogenic causes of primary adrenal insufficiency. Curr Opin Endocrinol Diabetes Obes 2018;25(3):172-177
5. Katsumata N: Standardization of growth hormone and insulin-like growth factor-I measurement. Pediatr Endocrinol Rev 2018;16(Suppl 1):28-32
6. 深見真紀,緒方勤: 目で見る染色体異常症の診断と生殖内分泌関連疾患－Y 染色体異常症―.

Hormone Frontier in Gynecology 2018
7. 深見真紀: 性分化疾患 (婦人科・小児科) 今日の臨床サポート. エルゼピア・ジャパン 2018
8. 服部淳,深見真紀: 性分化疾患 (性腺分化異常症) の診断と治療. 最新女性医療 2018
9. 宮戸真美,深見真紀: 停留精巣の原因遺伝子と環境因子—ゲノム解析の現況と未来. 臨床泌尿器科 医学書院 2018;72(10):836-839

[著書]
1. 深見真紀: 女性化乳房. 見て学ぶ小児内分泌疾患 vol.12, 2018
2. 深見真紀: 17βヒドロキシステロイド・デヒドロゲナーゼ3型欠損症. 日本臨牀別冊 内分泌症候群 (第3版), 日本臨牀社, 2018
3. 勝又規行: 男性化副腎皮質腫瘍. 日本臨牀別冊 内分泌症候群 (第3版), 日本臨牀社, 2018;(II):191-193
4. 勝又規行: 女性化副腎皮質腫瘍. 日本臨牀別冊 内分泌症候群 (第3版), 日本臨牀社, 2018;(II):194-196
5. 深見真紀(編集): SHOX 異常症-基礎から最新知見まで-. 緒方勤(監修), 神崎晋・深見真紀(編集), 診断と治療社, 2018

[学会発表]
(1) 国際学会講演・シンポジウム・招待講演
1. Fukami M : Molecular basis of disorders of sex development. International Workshop for Sex Development, Tokyo, 2018.7.23
2. Fukami M : Delayed puberty. 16th Asia-Oceania Congress of Endocrinology, Yogyakarta, 2018.9.29
3. Fukami M : Molecular basis of disorders of sex development. 16th Asia-Oceania Congress of Endocrinology, Yogyakarta, 2018.9.30

(2) 国際学会一般演題発表
1. Inoue T, Yagasaki H, Nishioka J, Nakamura A, Matsubara K, Narumi S, Nakabayashi K, Yamazawa K, Fuke T, Oka A, Ogata T, Fukami M, Kagami M : Molecular and clinical analyses of two UPD(16)mat patients detected by screening 94 patients with Silver-Russell syndrome patients without known etiology. The 57th Annual ESPE Meeting, Athens, 2018.9.29
2. Ushijima K, Kawamura T, Ogata T, Yokota I, Sugihara S, Narumi S, Fukami M;The Japanese Study Group of Insulin Therapy for Childhood and Adolescent Diabetes : Functional characterization of a novel *KLF11* mutation identified in a family with autoantibody-negative type 1 diabetes. 57th ESPE 2018 Meeting, Athens, 2018.9.27
3. Igarashi M, Nogawa S, Kawafune K, Hachiya T, Takahashi S, Jia H, Saito K, Kato H : Identification of 12q24 locus associated with fish intake frequency by genome-wide meta-analysis in Japanese populations. Asia-Pacific Nutrigenomics and Nutrigenetics Organization (APNNO), Tokyo, 2018.12.03-04
4. Hattori A, Saito K, Fukami M : Copy number polymorphism on Y chromosome and adult height: The gr/gr region does not contain the Y-specific growth gene. American Society of Human Genetics 2018 Annual Meeting, San Diego, 2018.10.18
5. Kawashima S, Nakamura A, Inoue T, Matsubara K, Horikawa R, Wakui K, Takano K, Fukushima Y, Tatematsu T, Mizuno S, Tsubaki J, Kure S, Matsubara Y, Ogata T, Nagasaki K, Fukami M, Kagami M : Maternal uniparental disomy for chromosome 20: physical and endocrinological characteristics of six patients. The 57th Annual European Society for Pediatric Endocrinology Meeting, Athens, 2018.9.29

(3) 国内学会講演・シンポジウム・招待講演・教育講演・特別講演
1. 鳴海覚志: 世代シーケンシングで解明する小児内分泌疾患の分子基盤. 西新宿糖尿病研究会 2018, 東京, 2018.2.19
2. 井上毅信: 成長障害を来すインプリンティング異常症. 第31回近畿小児科学会, 大阪,

2018.3.11
3. 宮戸真美: スンクスの外性器形成過程について． 第 12 回スンクス研究会，東京，2018.3.24
4. 深見真紀: ヒト染色体異常の新知見．長崎大学大学院セミナー，長崎，2018.3.16
5. 鳴海覚志: MIRAGE 症候群の発見とその後の展開．第 121 回東京新生児研究会，東京，2018.4.10
6. 深見真紀: ヒトの性の再定義．シンポジウム 性分化・性成熟疾患における新しい展開，第 91 回日本内分泌学会学術集会，宮崎，2018.4.26
7. 鳴海覚志: Pathway burden 仮説：遺伝因子と環境因子の交差点．第 91 回日本内分泌学会学術集会，宮崎，2018.4.28
8. 鏡雅代: 成長障害を示すインプリンティング異常症．教育講演，第 91 回日本内分泌学会学術総会，宮崎，2018.4.28
9. 深見真紀: SHOX 異常症の診断 update．PED フォーラム特別講演，宮崎，2018.4.27
10. 深見真紀: 次世代シークエンサーを用いた 1 型糖尿病感受性因子の探索．シンポジウム 小児思春期糖尿病をめぐる課題と展望，第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会，東京，2018.5.26
11. 深見真紀: 又吉直樹のヘウレーカ！"男はつらい"ってホント？．NHK E テレ，2018.6.13
12. 鳴海覚志: SAMD9/SAMD9L と血液系悪性腫瘍．小児 MDS 治療研究会，名古屋，2018.5.27
13. 鳴海覚志: 次世代シーケンシングで解明する小児内分泌疾患の分子基盤．第 110 回神戸甲状腺研究会，神戸，2018.9.8
14. 深見真紀: 遺伝子から見たMen’s health．特別講演，日本内分泌学会関東甲信支部学術集会，東京，2018.9.8
15. 鏡雅代: 新しいインプリンティング異常症：臨床像および分子遺伝学的知見．シンポジウム，第 63 回日本人類遺伝学会，横浜，2018.10.12
16. 鏡雅代: 新しいインプリンティング異常症：臨床像および分子遺伝学的知見．シンポジウム，第 63 回日本人類遺伝学会，横浜，2018.10.12
17. 深見真紀: 研究の初めの一歩．若手研究支援セミナー，日本小児内分泌学会学術集会，東京，2018.10.5
18. 鏡雅代: インプリンティング異常症：基本から新知見まで．第 6 回湯島臨床内分泌カンファレンス，東京，2018.11.16
19. 深見真紀: Y 染色体と Men's health．特別講演，泌尿器抗加齢医学研究会第 10 回研究会，沖縄，2018.12.9
20. 鳴海覚志: Pathway burden 仮説：遺伝因子と環境因子の交差点． 甲状腺疾患と妊娠の会，東京，2018.12.15

(4) 国内学会一般演題
68 題 (省略)

4-1-4 免疫アレルギー・感染研究部

1. 論文発表

［原著(欧文)］

1. Yamaoka M, Akiyama M, Ohyama W, Tachimoto H, Matsumoto K. Acute lymphoblastic leukemia with hypereosinophilia in a 3-year-old boy. Pediatr Int 2018;**60**:88-90.
2. Yamamoto-Hanada K, Ishitsuka K, Pak K, Saito M, Ayabe T, Mezawa H, Konishi M, Yang L, Matsumoto K, Saito H, Ohya Y. Allergy and mental health among pregnant women in the Japan Environment and Children's Study. J Allergy Clin Immunol Pract 2018;**6**:1421-4.
3. Yamaguchi S, Nambu A, Numata T, Yoshizaki T, Narushima S, Shimura E, Hiraishi Y, Arae K, Morita H, Matsumoto K, Hisatome I, Sudo K, Nakae S. The roles of IL-17C in T cell-dependent and -independent inflammatory diseases. Sci Rep 2018;8:15750.
4. Tamari M, Orimo K, Motomura K, Arae K, Matsuda A, Nakae S, Saito H, Morita H, Matsumoto K. The optimal age for epicutaneous sensitization following tape-stripping in BALB/c mice. Allergol Int 2018;**67**:380-7.
5. Takamori A, Nambu A, Sato K, Yamaguchi S, Matsuda K, Numata T, Sugawara T, Yoshizaki T, Arae K, Morita H, Matsumoto K, Sudo K, Okumura K, Kitaura J, Matsuda H, Nakae S. IL-31 is crucial for induction of pruritus, but not inflammation, in contact hypersensitivity. Sci Rep 2018;**8**:6639.
6. Suto H, Nambu A, Morita H, Yamaguchi S, Numata T, Yoshizaki T, Shimura E, Arae K, Asada Y, Motomura K, Kaneko M, Abe T, Matsuda A, Iwakura Y, Okumura K, Saito H, Matsumoto K, Sudo K, Nakae S. IL-25 enhances TH17 cell-mediated contact dermatitis by promoting IL-1beta production by dermal dendritic cells. J Allergy Clin Immunol 2018;**142**:1500-9.
7. Sugita K, Steer CA, Martinez-Gonzalez I, Altunbulakli C, Morita H, Castro-Giner F, Kubo T, Wawrzyniak P, Ruckert B, Sudo K, Nakae S, Matsumoto K, O'Mahony L, Akdis M, Takei F, Akdis CA. Type 2 innate lymphoid cells disrupt bronchial epithelial barrier integrity by targeting tight junctions through IL-13 in asthmatic patients. J Allergy Clin Immunol 2018;**141**:300-10 e11.
8. Saito M, Yamamoto-Hanada K, Pak K, Ayabe T, Mezawa H, Ishitsuka K, Konishi M, Yang L, Matsumoto K, Saito H, Ohya Y. Having small-for-gestational-age infants was associated with maternal allergic features in the JECS birth cohort. Allergy 2018;**73**:1908-11.
9. Okada N, Nakayama T, Asaka D, Inoue N, Tsurumoto T, Takaishi S, Otori N, Kojima H, Matsuda A, Oboki K, Saito H, Matsumoto K, Yoshikawa M. Distinct gene expression profiles and regulation networks of nasal polyps in eosinophilic and non-eosinophilic chronic rhinosinusitis. Int Forum Allergy Rhinol 2018;**8**:592-604.
10. Matsumoto Y, Yokoi H, Kimura T, Kawada M, Arae K, Nakae S, Ikeda T, Matsumoto K, Sakurai H, Saito K. Gastrin-Releasing Peptide Is Involved in the Establishment of Allergic Rhinitis in Mice. Laryngoscope 2018;**128**:E377-E84.
11. Hiraishi Y, Yamaguchi S, Yoshizaki T, Nambu A, Shimura E, Takamori A, Narushima S, Nakanishi W, Asada Y, Numata T, Suzukawa M, Yamauchi Y, Matsuda A, Arae K, Morita H, Hoshino T, Suto H, Okumura K, Matsumoto K, Saito H, Sudo K, Iikura M, Nagase T, Nakae S. IL-33, IL-25 and TSLP contribute to development of fungal-associated protease-induced innate-type airway inflammation. Sci Rep 2018;**8**:18052.
12. Higaki S, Muramatsu M, Matsuda A, Matsumoto K, Satoh JI, Michikawa M, Niida S. Defensive effect of microRNA-200b/c against amyloid-beta peptide-induced toxicity in Alzheimer's disease models. PLoS ONE 2018;**13**:e0196929.
13. Fujiwara T, Weisman O, Ochi M, Shirai K, Matsumoto K, Noguchi E, Feldman R. Genetic and peripheral markers of the oxytocin system and parental care jointly support the cross-generational transmission of bonding across three generations.

Psychoneuroendocrinology 2018;**102**:172-81.
14. Emi-Sugie M, Toyama S, Matsuda A, Saito H, Matsumoto K. IL-33 induces functional CCR7 expression in human mast cells. J Allergy Clin Immunol 2018;**142**:1341-4.
15. Demenais F, Margaritte-Jeannin P, Barnes KC, Cookson WOC, Altmüller J, Ang W, Barr RG, Beaty TH, Becker AB, Beilby J, Bisgaard H, Bjornsdottir US, Bleecker E, Bønnelykke K, Boomsma DI, Bouzigon E, Brightling CE, Brossard M, Brusselle GG, Burchard E, Burkart KM, Bush A, Chan-Yeung M, Chung KF, Couto Alves A, Curtin JA, Custovic A, Daley D, de Jongste JC, Del-Rio-Navarro BE, Donohue KM, Duijts L, Eng C, Eriksson JG, Farrall M, Fedorova Y, Feenstra B, Ferreira MA, Freidin MB, Gajdos Z, Gauderman J, Gehring U, Geller F, Genuneit J, Gharib SA, Gilliland F, Granell R, Graves PE, Gudbjartsson DF, Haahtela T, Heckbert SR, Heederik D, Heinrich J, Heliövaara M, Henderson J, Himes BE, Hirose H, Hirschhorn JN, Hofman A, Holt P, Hottenga J, Hudson TJ, Hui J, Imboden M, Ivanov V, Jaddoe VWV, James A, Janson C, Jarvelin M-R, Jarvis D, Jones G, Jonsdottir I, Jousilahti P, Kabesch M, Kähönen M, Kantor DB, Karunas AS, Khusnutdinova E, Koppelman GH, Kozyrskyj AL, Kreiner E, Kubo M, Kumar R, Kumar A, Kuokkanen M, Lahousse L, Laitinen T, Laprise C, Lathrop M, Lau S, Lee Y-A, Lehtimäki T, Letort S, Levin AM, Li G, Liang L, Loehr LR, London SJ, Loth DW, Manichaikul A, Marenholz I, Martinez FJ, Matheson MC, Mathias RA, Matsumoto K, Mbarek H, McArdle WL, Melbye M, Melén E, Meyers D, Michel S, Mohamdi H, Musk AW, Myers RA, Nieuwenhuis MAE, Noguchi E, O'Connor GT, Ogorodova LM, Palmer CD, Palotie A, Park JE, Pennell CE, Pershagen G, Polonikov A, Postma DS, Probst-Hensch N, Puzyrev VP, Raby BA, Raitakari OT, Ramasamy A, Rich SS, Robertson CF, Romieu I, Salam MT, Salomaa V, Schlünssen V, Scott R, Selivanova PA, Sigsgaard T, Simpson A, Siroux V, Smith LJ, Solodilova M, Standl M, Stefansson K, Strachan DP, Stricker BH, Takahashi A, Thompson PJ, Thorleifsson G, Thorsteinsdottir U, Tiesler CMT, Torgerson DG, Tsunoda T, Uitterlinden AG, van der Valk RJP, Vaysse A, Vedantam S, von Berg A, von Mutius E, Vonk JM, Waage J, Wareham NJ, Weiss ST, White WB, Wickman M, Widén E, Willemsen G, Williams LK, Wouters IM, Yang JJ, Zhao JH, Moffatt MF, Ober C, Nicolae DL. Multiancestry association study identifies new asthma risk loci that colocalize with immune-cell enhancer marks. Nature Genetics 2018;**50**:42-53.
16. Arae K, Morita H, Unno H, Motomura K, Toyama S, Okada N, Ohno T, Tamari M, Orimo K, Mishima Y, Suto H, Okumura K, Sudo K, Miyazawa H, Taguchi H, Saito H, Matsumoto K, Nakae S. Chitin promotes antigen-specific Th2 cell-mediated murine asthma through induction of IL-33-mediated IL-1beta production by DCs. Sci Rep 2018;**8**:11721.
17. Morita H, Kubo T, Rückert B, Ravindran A, Soyka M, Rinaldi A, Sugita K, Wawrzyniak M, Wawrzyniak P, Motomura K, Tamari M, Orimo K, Okada N, Arae K, Saito K, Altunbulakli C, Castro-Giner F, Tan G, Neumann A, Sudo K, O'Mahony L, Honda K, Nakae S, Saito H, Mjösberg J, Nilsson G, Matsumoto K, Akdis M, Akdis CA. Induction of human regulatory innate lymphoid cells from group 2 innate lymphoid cells by retinoic acid. J Allergy Clin Immunol. 2018 accepted.
18. Boonpiyathad T, Sokolowska M, Morita H, Rückert B, Kast JI, Wawrzyniak M, Sangasapaviliya A, Pradubpongsa P, Fuengthong R, Thantiworasit P, Sirivichayakul S, Kwok WW, Ruxrungtham K, Akdis M, Akdis CA. Der p 1-specific regulatory T cell response during house dust mite allergen immunotherapy. Allergy. 2018 in press. doi:10.1111/all.13684.
19. Morita H, Tamari M, Fujiwara M, Motomura K, Koezuka Y, Ichien G, Matsumoto K, Ishizaka K, Saito H. IgE-class-specific immunosuppression in offspring by administration of anti-IgE to pregnant mice. J Allergy Clin Immunol. 2018 in press. doi:10.1016/j.jaci.2018.11.008.
20. Uda K, Kinoshita N, Morisaki N, Kasai M, Horikoshi Y, Miyairi I. Targets for optimizing oral antibiotic prescriptions for pediatric outpatients in Japan. Jpn J Infect Dis. 2018 Dec 25. PMID: 30584195.

21. Uchida H, Tada T, Tohya M, Sugahara Y, Kato A, Miyairi I, Kirikae T. Emergence in Japan of an isolate of Klebsiella pneumoniae co-harboring bla(KPC-2) and rmtB.J Glob Antimicrob Resist. 2018 Dec 13. PubMed PMID: 30553930.
22. Shoji K, Kawai T, Onodera M, Tsutsumi Y, Nosaka S, Miyairi I. Multipleosteolytic lesions on the skull of a girl with Mendelian susceptibility to mycobacterial disease. Pediatr Int. 2018 Nov;60(11):1043-1044.
23. Kinoshita N, Morisaki N, Okubo Y, Uda K, Ksai M, Horikoshi Y, Miyairi I. Nationwide study of outpatient oral antimicrobial utilization patterns for children in Japan (2013-2016). Journal of Infection and Chemotherapy 2018 Nov 2 (In press)
24. Uda K, Kinoshita N, Morisaki N, Kasai M, Horikoshi Y, Miyairi I. Targets for optimizing oral antibiotic prescriptions for pediatric outpatients in Japan. Japanese Journal of Infectious Diseases 2018 (In press)
25. Okubo Y, Michihat N, Morisaki N, Uda K, Miyairi I, Ogawa Y, Matsui H, Fushimi K, Yasunaga H. Recent trends in practice patterns and impact of corticosteroid use on pediatric *Mycoplasma pneumoniae*-related respiratory infections. Respiratory Investigation, 2018 Mar;56(2):158-165..
26. Okubo Y, Michihata N, Morisaki N, Kinoshita N, Miyairi I, Urayama KY, Yasunaga H. Recent patterns in antibiotic use for children with group A streptococcal infections. J Glob Antimicrob Resist. 2017 Nov 13. 2213-7165(17)30215-1.
27. Kudo D, Sasaki J, Ikeda H, Shiino Y, Shime N, Mochizuki T, Morita M, Soeda H, Ohge H, Lee JJ, Fujita M, Miyairi I, Kato Y, Watanabe M, Yokota H; Committee for Infection Control for the Emergency Department, the Japanese Association for Acute Medicine, and the joint working group. A survey on infection control in emergency departments in Japan. Acute Med Surg. 2018 Jul 30;5(4):374-379.
28. Uda K, Koyama-Wakai C, Shoji K, Iwase N, Motooka D, Nakamura S, Miyairi I. WU Polyomavirus Detected from Children with Severe Respiratory Failure. Journal of Clinical Virology 2018 Aug 9;107:25-28.
29. Uda K, Okubo Y, Shoji K, Miyairi I, Morisaki N, Michihata N, Matsui H, Fushimi K, Yasunaga H. Trends of neuraminidase inhibitors use in children with influenza related respiratory infections. Pediatric pulmonology Pediatr Pulmonol. 2018 Jun;53(6):802-808.
30. Uda K, Shoji K, Koyama-Wakai C, Furuichi M, Iwase N, Fujisaki S, Watanabe S, Miyairi I. Clinical characteristics of influenza virus-induced lower respiratory infection during the 2015 to 2016 season. Journal of infection and chemotherapy 2018 Jun;24(6):407-413.
31. Yoshii S, Uda K, Miyairi I, Nakao H, Kono N, Kubota M, Ishiguro A. Multiple bullae associated with human parvovirus B19. The Journal of Pediatrics 2018 Nov;202:327-327
32. Okubo Y, Michihata N, Uda K, Morisaki N, Miyairi I, Matsui H, Fushimi K, Yasunaga H. Dose–response relationship between weight status and clinical outcomes in pediatric influenza-related respiratory infection. Pediatric pulmonology 2018 Feb;53(2):218-223.
33. Shoji K, Tsuboi N, Arakawa R, Ide K, Mikami M, Kato A, Miyairi I. Continuous Monitoring and Feedback Optimizes Blood Volume Inoculated Into Culture Bottles in the Pediatric Intensive Care Unit. J Pediatric Infect Dis Soc. 2018 Jul 16 (In press)
34. Uchida H, Tada T, Sugahara Y, Kato A, Miyairi I, Kirikae T. A clinical isolate of Escherichia coli co-harbouring mcr-1 and blaNDM-5 in Japan. J Med Microbiol. 2018 Aug;67(8):1047-1049
35. Murofushi Y, Furuichi M, Shoji K, Kubota M, Ishiguro A, Uematsu S, Gai R, Miyairi I. Adverse Economic Impact Associated With Blood Culture Contamination in a Pediatric Emergency Department. Pediatr Infect Dis J. 2018 Aug;37(8):755-758
36. Asakura M, Tanaka T, Shoji K, Karakawa S, Ishiguro A, Miyairi I. Chronic Neutropenia in Children with Abscess Forming Cervical Lymphadenitis Caused by Staphylococcus aureus. Pediatr Infect Dis J. 2018 Apr 2. (In press)
37. Funaki T, Miyairi I. Breakthrough Candidemia In Children On Micafungin. Pediatr Infect Dis J. 2018 Dec;37(12):1258-1260
38. Kamei K, Miyairi I, Ishikura K, Ogura M, Shoji K, Funaki T, Ito R, Arai K, Abe J, Kawai T, Onodera M, Ito S. Prospective Study of Live Attenuated Vaccines for Patients with

Nephrotic Syndrome Receiving Immunosuppressive Agents. J Pediatr. 2018 May;196:217-222.e1.
39. Kinoshita N, Shoji K, Funaki T, Fukuda A, Sakamoto S, Kasahara M, Miyairi I. Safety of BCG Vaccination in Pediatric Liver Transplant Recipients. Transplantation. 2018 Apr;102(4):e125.
40. Okazaki K, Imadome KI, Nakao H, Miyairi I, Ishiguro A. Quantitative PCR Assays of Cytomegalovirus and Epstein-Barr Virus in Hemophagocytic Lymphohistiocytosis. Indian J Pediatr. 2018 Jul;85(7):593-594.
41. Furuichi M, Fukuda A, Sakamoto S, Kasahara M, Miyairi I. Characteristics and Risk Factors of Late-onset Bloodstream Infection Beyond 6 Months After Liver Transplantation in Children. Pediatr Infect Dis J. 2018 Mar;37(3):263-268

[総説(欧文)]

1. Takeda T, Morita H, Saito H, Matsumoto K, *Matsuda A.: Recent advances in understanding the roles of blood platelets in the pathogenesis of allergic inflammation and bronchial asthma. Allergology International. 2018; 67(3): 326-333.Kortekaas Krohn I, Shikhagaie MM, Golebski K, Bernink JHJ, Breynaert C, Creyns B, Diamant Z, Fokkens WJ, Gevaert P, Hellings P, Hendriks RW, Klimek L, Mjösberg J, Morita H, Ogg G, O'Mahony L, Schwarze J, Seys SF, Shamji MH, Bal SM. Emerging roles of innate lymphoid cells in inflammatory diseases: clinical implications. Allergy 2018; 73(4): 837-850.
2. Matsumoto K, Mori R, Miyazaki C, Ohya Y, Saito H. Are both early egg introduction and eczema treatment necessary for primary prevention of egg allergy? J Allergy Clin Immunol 2018;141:1997-2001.

[総説(和文)]

1. 溜雅人, 森田英明:オミックス解析　日本小児アレルギー学会誌 2018; 32(2): 735-736
2. 森田久美子, 森田英明:食物アレルギーの分類と機序　消化器病サイエンス 2018; 2(4): 179-183
3. 溜雅人,森田英明:消化管アレルギー　周産期医学 2018; 48
4. Matsubara Y, Ae R, Ohya Y, Akiyama H, Imai T, Matsumoto K, Fukuie T, Aoyama Y, Makino N, Nakamura Y, Saito H. [ESTIMATED NUMBER OF PATIENTS WITH FOOD ALLERGY IN JAPAN: THE PRESENT STATUS AND ISSUES REGARDING EPIDEMIOLOGICAL INVESTIGATION]. Arerugi 2018;67:767-73.

[著書(英文)]

3. *Matsuda A.: Platelets: Pivotal Player in Primary Sensitization to Allergen? American Journal of Respiratory Cell and Molecular Biology. 2018;59(1): 7-8.

2. 学会発表

[招待講演・特別講演・シンポジウム・ワークショップ]

1. 松田明生:S3-4. 基礎から見た衛生仮説の再考 (第 67 回日本アレルギー学会 シンポジウム 3 衛生仮説を再考する)、2018 年 6 月 22 日、幕張
2. 松田明生 : S11-3. 基礎研究者から見た臨床と基礎の team-up の意義と今後の課題 (第 67 回日本アレルギー学会　シンポジウム 11　臨床と基礎の team-up)、2018 年 6 月 23 日、東京

1. Morita H. Innate immunity in allergic inflammation. The 14th Research Symposium on Human Natural Defense System. Seoul, Korea, 2018.10.20

2. Morita H. Roles of bronchial epithelial cells in asthma. European Academy of Allergy and Clinical Immunology 2018. JSA Symposium: Barrier dysfunction and allergic diseases. Munich, Germany, 2018.5.28
3. Morita H. Role of ILC during tolerance induction. American Academy of Allergy and Immunology/World Allergy Organization Joint Congress 2018, Symposium: Cellular Players of Immune Tolerance. Orlando, U.S.A. 2018.3.4
4. 森田英明:明らかになってきた喘息の病態 ～新たな治療法、予防法の確立を目指して～ 第 23 回御茶ノ水小児アレルギー研究会, 東京, 2018.12.8
5. 森田英明:バリア機能とアレルギー性炎症 第 22 回愛知免疫アレルギーを語る会, 名古屋, 2018.7.7
6. 森田英明:免疫学・アレルギー学の基礎 第 53 回日本アレルギー学会 専門医教育セミナー, 千葉, 2018.6.24
7. 森田英明:アレルギー性炎症の新機軸 ～自然免疫とアレルギー～ 第 24 回大分アレルギー講習会, 大分, 2018.2.17
8. 森田英明:バリア機能とアレルギー性炎症 ～生体防御のフロントライン～ 千葉アレルギークリニカルカンファレンス 2018, 千葉, 2018.1.10

4-1-5 成育遺伝研究部

[原著論文:査読付](Reviewed Paper)

(英文原著)

1. Kamei K, Miyairi I, Ishikura K, Ogura M, Shoji K, Funaki T, Ito R, Arai K, Abe J, Kawai T, Onodera M, Ito S. Prospective Study of Live Attenuated Vaccines for Patients with Nephrotic Syndrome Receiving Immunosuppressive Agents. *J Pediatr*. S0022-3476 (17) 31756-0, 2018.
2. Nishi K, Kawai T, Kubota M, Ishiguro A, Onodera M. X-linked agammaglobulinemia complicated with pulmonary aspergillosis. *Pediatr Int* 1: 90-92, 2018.
3. Osumi T, Tsujimoto S, Nakabayashi K, Taniguchi M, Shirai R, Yoshida M, Uchiyama T, Nagasawa J, Goyama S, Yoshida T, Tomizawa T, Kurokawa M, Matsubara Y, Kiyokawa N, Hata K, Kato M. Somatic MECOM mosaicism in a patient with congenital bone marrow failure without a radial abnormality. *Pediatr Blood Cancer*. 65: e26959, 2018
4. Tsujimoto S, Osumi T, Uchiyama M, Shirai R, Moriyama T, Nishii R, Yamada Y, Kudo K, Sekiguchi M, Arakawa Y, Yoshida M, Uchiyama T, KTerui, Ito S, Koh K, Takita J, Ito E, Tomizawa D, Manabe A, Kiyokawa N, Yang J, Kato M. Diplotype analysis of NUDT15 variants and 6-mercaptopurine sensitivity in pediatric lymphoid neoplasms. *Leukemia.* 32: 2710-2714, 2018.
5. Okano T, Imai K……, Uchiyama T (56 人中 38 番目), ……, Morio T. Hematopoietic stem cell transplantation for progressive combined immunodeficiency and lymphoproliferation in Activated PI3K□ syndrome type 1. *J Allergy Clin Immunol*. 2018 (in press)
6. Osumi T, Tsujimoto S, Tamura M, Uchiyama M, Nakabayashi K, Okamura K, Toshida M, Tomizawa D, Watanabe A, Takahashi H, Hori T, Yamamoto S, Hamamoto K, Migita M, Ogata-Kawata H, Uchiyama T, Kizawa H, Ueno-Yokohata H, Shirai R, Seki M, Ohki K, Inukai T, Ogawa S, Kitamura T, Matsumoto K, Hata K, Kiyokawa N, Goyama S, Kato M. Recurrent RARB translocation in Acute Promyelocytic leukemia lacking RARA translocation. *Cancer Res.* 78: 4452-4458, 2018
7. Osumi T, Tomizawa D, Kawai T, Sako M, Inoue E, Takimoto T, Tamura E, Uchiyama T, Imadome KI, Taniguchi M, Shirai R, Yoshida M, Ando R, Tsumura Y, Fuji H, Matsumoto K, Shioda Y, Kiyotani C, Terashima K, Onodera M, Matsumoto K, Kato M. A prospective study of allogeneic transplantation from unrelated donors for chronic granulomatous disease with target busulfan-based reduced-intensity conditioning. *Bone Marrow Transplant.* 2018 Jun 29. doi: 10.1038/s41409-018-0271-9
8. Shoji K, Kawai T, Onodera M, Tsutsumi Y, Nosaka S, Miyairi I. Multiple osteolytic lesions on the skull of a girl with Mendelian susceptibility to mycobacterial disease. *Pediatr Int*. 60: 1043-1044, 2018.
9. Tomono T, Hirai Y, Okada H, Miyagawa Y, Adachi K, Sakamoto S, Kawano Y, Chono H, Mineno J, Ishii A, Shimada T, Onodera M, Tamaoka A, Okada T. Highly Efficient Ultracentrifugation-free Chromatographic Purification of Recombinant AAV Serotype 9. *Mol Ther Methods Clin Dev*. 11: 180-190, 2018. 32:2710-2714, 2018
10. Tsujimoto S, Osumi T, Uchiyama M, Shirai R, Moriyama T, Nishii R, Yamada Y, Kudo Km Sekiguchi M, Arakawa Y, Yoshida M, Uchiyama T, Terui K, Ito S, Koh K, Takita J, Tomizawa D, Manabe A, Kiyokawa N, N. Yang JJ, Kato M. Diplotype analysis of NUD15 variants and 6-mercaptopurine sensitivity in pediatric lymphoid neoplasms. *Leukemia*, 32:2710-2714, 2018
11. Narumoto S, Sakamoto S, Sasaki K, Hirata Y, Fukuda A, Uchiyama T, Irie R, Yoshioka T, Kasahara M. ABO-incompatible liver transplantation for children under 2 years of age: A case report and a single center review. *Pediatr. Transplant.* Doi: 10.1111/petr.13308. 2018

[総説]

(和文総説)

1. 小野寺雅史 原発性免疫不全症の遺伝子治療 医薬ジャーナル 54:59-66, 2018.
2. 小野寺雅史 遺伝子治療の新局面 – はじめに– 医学のあゆみ 265: 323, 2018.
3. 内山徹 レトロウイルス、レンチウイルスベクター:特徴と作製法、最近の話題 医学のあゆみ 265: 337, 2018.
4. 小野寺雅史 毛細血管拡張性運動失調症 産科と婦人科 85:649-653, 2018.
5. 小野寺雅史 ヘモグロビン異常症に対する造血幹細胞遺伝子治療 – β サラセミナ、鎌状赤血球症 – 血液フロンティア 28:768-774, 2018.

[学会発表]

(国内学会講演)

1. 小野寺雅史 Stem cell gene therapy for primary immunodeficiencies in Japan. 第 8 回国際協力遺伝病遺伝子治療フォーラム 東京 2018.1.18
2. 小野寺雅史 原発性免疫不全症に対する遺伝子治療の現状と展望 第 1 回 日本免疫不全・自己炎症学会総会 東京 2018.1.20
3. 小野寺雅史 遺伝性疾患に対する造血幹細胞遺伝子治療 第 17 回 日本再生医療学会総会 横浜 2018.3.21-23
4. 小野寺雅史 皮膚科領域における遺伝子治療の現状とその未来 富山デルマ学術講演会 富山 2018.3.
5. 小野寺雅史 Gene and cell therapy, to take one step forward. 第 24 回日本遺伝細胞治療学会学術集会 東京 2018.7.26-28
6. 小野寺雅史 熱を繰り返す子にどう対処するか 世田谷医師会小児科医会 東京 2018.9
7. 小野寺雅史 小児難治性遺伝性疾患に対する新規治療法の開発. 日本小児アレルギー学会第 55 回学術集会 岡山 2018.10.20-21
8. 小野寺雅史 カルタヘナ法対応を含めたレンチウイルスベクターによる造血幹細胞遺伝子治療の実施要件 平成 30 年度プログラム連携シンポジウム 東京 2018.11
9. 小野寺雅史 難治性遺伝性疾患に対する遺伝子細胞治療の現状と今後の展開 第 33 回阪大医療組織工学フォーラム 大阪 2018.11.27
10. Masafumi ONODERA Operation and issues of Cartagena law in Japan. 3rd DIA Cell and Gene Therapy Products in Japan, Tokyo 2018.12.13-14
11. 小野寺雅史 講演 2 遺伝子改変技術の必要性・今後の展開 平成 30 年度産官学連携秋季シンポジウム 東京 2018.12.21
12. 内山徹 遺伝性難病に対する ex vivo 遺伝子治療の現状と展望 第 3 回日本遺伝子細胞治療学会若手研究会セミナー 招待講演 東京 2018.12.14

(国内学会一般演題)

1. 内山徹 Blastic transformation of retrovirus-transduced cells in X-CGD gene therapy. 第 24 回日本遺伝子細胞治療学会 東京 2018.7.26
2. 内山徹 Distribution of retroviral vector in ADA-SCID patients treated with T cell- and stem cell-gene therapy. 第 24 回日本遺伝子細胞治療学会 東京 2018.7.27
3. 安田徹、渡辺信之、内山徹、小野寺雅史 Immune cell-mediated modulation of neurodegeneration in Niemann-Pick disease Type C. 第 24 回日本遺伝子細胞治療学会 東京 2018.7.26
4. 安田徹、渡辺信之、内山徹、小野寺雅史 Immune system-mediated modulation of neurodegeneration in Niemann-Pick disease Type C. 第 41 回日本神経科学大会 神戸 2018.7.27
5. 土田奈緒美、宮武聡子、桐野洋平、石川尊士、田村英一郎、河合利尚、内山徹、新井勝大、松本直通、小野寺雅史 周期性発熱およびベーチェット病症状を呈した A20 ハプロ不全症 第 9 回関東甲越免疫不全症研究会 東京 2018.9.23
6. 金森啓太、河合利尚、石川尊士、田村英一郎、内山徹、新井勝大、石黒精、小野寺雅史 胸腺腫大を伴った慢性肉芽腫症 第 9 回関東甲越免疫不全症研究会 東京 2018.9.23
7. 内山徹、高橋シリラット、枝澤佳織、渡辺信之、田村英一郎、三浦茜、加藤元博、河合利尚、大津

真、有賀正、小野寺雅史　ADA 欠損書への造血幹細胞及び T 細胞遺伝子治療におけるレトロウイルスベクターの追跡　第 80 回日本血液学会学術集会　大阪 2018.10.12

8. 白井了太、塩田曜子、大隅朋生、辻本信一、吉田仁典、内山徹、富澤大輔、清谷知賀子、寺島慶太、松本公一、清河信敬、義岡孝子、加藤元博　ランゲルハンス細胞組織球症における droplet digital PCR による BRAF V600E 変異検出の有用性　第 80 回日本血液学会学術集会　大阪 2018.10.12
9. 加藤元博、大隅朋生、辻本信一、田村萌、内山芽里、中林一彦、岡村浩司、吉田仁典、富澤大輔、渡辺輝浩、高橋浩之、堀司、山本将平、浜本和子、右田昌宏、緒方広子、内山徹、木澤洋恵、上野瞳、白井了太、関正史、大木健太郎、滝田順子、犬飼岳史、小川誠司、北村俊雄、松本公一、秦健一郎、合山進、清河信敬　RARA 転座陰性の急性前骨髄性白血病における RARB 転座　第 80 回日本血液学会学術集会　2018 年 10 月 14 日　大阪
10. 大隅朋生、渡辺輝浩、岡村浩司、中林一彦、吉田仁典、辻本信一、白井了太、内山芽里、大木健太郎、高橋浩之、木澤洋恵、内山徹、富澤大輔、秦健一郎、清河信敬、加藤元博　RARA 遺伝子の TBLXR1 遺伝子への潜在的挿入による急性前骨髄急性白血病　第 80 回日本血液学会学術集会　大阪　2018.10.14

4-1-6 ゲノム医療研究部

[原著論文:査読付](Reviewed Paper)

1. Sasaki H, Yanagi K, Ugi S, Kobayashi K, Ohkubo K, Tajiri Y, Maegawa H, Kashiwagi A, Kaname T. Definitive diagnosis of mandibular hypoplasia, deafness, progeroid features and lipodystrophy (MDPL) syndrome caused by a recurrent de novo mutation in the POLD1 gene. *Endocrine J*. 2018; 65(2): 227-238
2. Hiraide T, Nakashima M, Yamoto K, Fukuda T, Kato M, Ikeda H, Sugie Y, Aoto K, Kaname T, Nakabayashi K, Ogata T, Matsumot N, Saitsu H. De novo variants in SETD1B are associated with intellectual disability, epilepsy and autism. *Hum Genet*. 2018; 137(1): 95-104
3. Shioda T, Takahashi S, Kaname T, Yamauchi T, Fukuoka T. MECP2 mutation in a boy with severe apnea and sick sinus syndrome. *Brain Dev*. 2018; S0387-7604(18): 30102-5
4. Okano S, Miyamoto A, Fukuda I, Tanaka H, Hata K, Kaname T, Matsubara Y, Makita Y. Genitopatellar syndrome: the first reported case in Japan. *Hum Genome Var*. 2018; 5: 8
5. Ono H, Saitsu H, Horikawa R, Nakashima S, Ohkubo Y, Yanagi K, Nakabayashi K, Fukami M, Fujisawa Y, Ogata T. Partial androgen insensitivity syndrome caused by a deep intronic mutation creating an alternative splice acceptor site of the AR gene. *Sci Rep*. 2018; 8(1): 2287
6. Katoh-Fukui Y, Yatsuga S, Shima H, Hattori A, Nakamura A, Okamura K, Yanagi K, Iso M, Kaname T, Matsubara Y and Fukami M. An unclassified variant of CHD7 activates a cryptic splice site in a patient with CHARGE syndrome. *Hum Genome Var*. 2018; 5, 18006: 1-4
7. Mizuguchi T, Nakashima M, Kato M, Okamoto N, Kurahashi H, Ekhilevitch N, Shiina M, Nishimura G, Shibata T, Matsuo M, Ikeda T, Ogata K, Tsuchida N, Mitsuhashi S, Miyatake S, Takata A, Miyake N, Hata K, Kaname T, Matsubara Y, Saitsu H, Matsumoto N. Loss-of-function and gain-of-function mutations in PPP3CA cause two distinct disorders. *Hum Mol Genet*. 2018; 27(8): 1421-1433
8. Ueda K, Yanagi K, Kaname T, Okamoto N. A novel mutation in the GATAD2B gene associated with severe intellectual disability. *Brain Dev*. 2018; pii: S0387-7604(18)30430-3
9. Takeyari S, Kubota T, Miyata K, Yamamoto K, Nakayama H, Yamamoto K, Ohata Y, Kitaoka T, Yanagi K, Kaname T, Ozono K. Japanese Patient with Cole-Carpenter Syndrome with Compound Heterozygous Variants of SEC24D. *Am J Med Genet A*. 2018; 176(12): 2882-2886
10. Narumi-Kishimoto Y, Araki N, Migita O, Kawai T, Okamura K, Nakabayashi K, Kaname T, Ozawa Y, Ozawa H, Takada F, Hata K. Novel SIN3A mutation identified in a Japanese patient with Witteveen-Kolk syndrome. *Eur J Med Genet*. 2018; pii: S1769-7212(18)30312-4
11. Nakano K, Minami M, Shinzato M, Shimoji M, Ashimine N, Shiroma A, Ohki S, Nakanishi T, Tamotsu H, Teruya K, Satou K, Moriya N, Kimoto-Nira H, Kobayashi M, Hagi T, Nomura M, Suzuki C, and Hirano T. Complete Genome Sequence of Lactococcus lactis subsp. lactis G50 with Immunostimulating Activity, Isolated from Napier Grass. *Genome Announc*. 2018; 6(8): e00069-18.
12. Ikegami K, Aita Y, Shiroma A, Shimoji M, Tamotsu H, Ashimine N, Shinzato M, Ohki S, Nakano K, Teruya K, Satou K, Hirano T, and Yohda M. Complete Genome Sequence of Petrimonas sp. Strain IBARAKI, Assembled from the Metagenome Data of a Culture Containing Dehalococcoides spp. *Genome Announc*. 2018; 6(18): e00384-18.
13. Moriya N, Nakano K, Shiroma A, Shinzato M, Ashimine N, Minami M, Tamotsu H, Shimoji M, Nakanishi T, Ohki S, Teruya K, Satou K, Hirano T, Hagi T, Kobayashi M, Nomura M, Kimoto-Nira H, Tajima K, Yimin Cai, and Suzuki C. Complete Genome Sequence of Lactobacillus plantarum Strain LQ80, Selected for Preparation of Fermented Liquid Feed for Pigs. *Genome Announc*. 2018; 6(25): e00530-18.
14. Asahina Y, Shiroma A, Nakano K, Tamotsu H, Ashimine N, Shinzato M, Minami M, Shimoji M, Nakanishi T, Ohki S, Teruya K, Satou K, Kobayashi M, Hagi T, Moriya N,

Suzuki C, Tajima A, Nomura M, and Hirano T. Complete Genome Sequence of Lactobacillus paracasei EG9, a Strain Accelerating Free Amino Acid Production during Cheese Ripening. *Genome Announc*. 2018; 6(27): e00627-18.

15. Tada T, Uechi K, Nakasone I, Nakamatsu M, Satou K, Hirano T, Kirikae T, and Fujita J. Emergence of IncX4 plasmids encoding mcr-1 in a clinical isolate of Klebsiella pneumoniae in Japan. *Int J Infect Dis*. 2018; 75: 98-100.
16. Ohki S, Hagi T, Nakano K, Shiroma A, Tamotsu H, Shimoji M, Shinzato M, Ashimine N, Minami M, Nakanishi T, Teruya K, Satou K, Moriya N, Kobayashi M, Nomura M, Suzuki C, and Hirano T. Complete Genome Sequence of Carotenoid-Producing Enterococcus gilvus CR1, Isolated from Raw Cow's Milk. *Microbiol Resour Announc*. 2018; 7: e00988-18

[原著論文:査読なし]

なし

[症例報告]

なし

[総説]

1. 要 匡. 小児希少・未診断疾患イニシアチブ 実施状況と成果:遺伝カウンセリングの重要性. 日本遺伝カウンセリング学会誌. 2018; 39(1): 25-29
2. 柳 久美子、要 匡. 次世代シークエンサーを用いた実際の業務と今後の課題・展望 ー先天性疾患を中心としてー. 日本染色体遺伝子検査. 2018; 36(1): 45-52
3. 要 匡. ヒトゲノム・遺伝子解析に関する倫理指針. 臨床免疫・アレルギー科. 70 巻 6 号 549-554 2018 年
4. 養王田正文、佐藤万仁. DNA 解析装置(シーケンサー), 日経バイオ年鑑 2019ー研究開発と市場・産業動向(日経バイオテク編集)(2018 年 12 月, 日経 BP 社)

[著書]

なし

[ガイドライン、報告書、その他]

なし

[学会発表]

1. Kobayashi K, Sasaki H, Yanagi K, Ugi S, Okubo K, Tajiri Y, Maegawa H, Kashiwagi A, Kaname T. The first Japanese woman of mandibular hypoplasia, deafness, progeroid features, and progressive lipodystrophy (MDPL) syndrome caused by a de novo mutation in the *POLD1* gene. International Meeting on RECQ Helicases and Related Diseases 2018, Chiba, Japan, 2018.2.
2. Kuroki Y, Toyoda A, Noguchi H, Ono C, Fujiyama A, Kaname T. Resequencing and analysis of the human subtelomeric regions. ADVANCES IN GENOME BIOLOGY AND TECHNOLOGY (AGBT) 2018, Florida, USA, 2018.2.13
3. Kaname T, Hosoki K, Kimura T, Yanagi K, Iso M, Ogata H, Kazuhiko N, Hata K, Okamura K, Shinozaki T, Matsubara Y. A novel pathogenic variant of PURA in a patient with severe developmental delay, delayed myelination and empty sella. The European Society of Human Genetics (ESHG) 2018, Milano, 2018.6.16-19
4. Yanagi K, Minatogawa M, Iso M, Sato K, Okamoto N, Matsubara Y, Kaname T. A large deletion of the MECP2 gene in a Japanese patient with severe phenotype of Rett syndrome. The European Society of Human Genetics (ESHG) 2018, Milano, 2018.6.16-19
5. Matsubara Y, Hata K, Kaname T, Kosaki K, IRUD-P consortium. Initiative on Rare and

Undiagnosed Diseases in Pediatrics (IRUD-P) in Japan: Recent achievement and statistics. The European Society of Human Genetics (ESHG) 2018, Milano, 2018.6.16-19
6. Ganaha A, Kaname T, Yanagi K, Suzuki M, Tono T. Cochlear implantation in a patient with Takenouchi-Kosaki syndrome. EAONO2018, Copenhagen, Denmark, 2018.6.20-23
7. Takamatsu G, Kaname T, Yanagi K, Hara-Miyauchi C, Manome Y, Hayakawa T, Kondo T, H.James Okano, Matsushita M. Development of cellular disease models of bipolar disorder and schizophrenia:Pedigree-based induced pluripotent stem cell studies in the Ryukyu Islands. The World Federation of Societies of Biological Psychiatry (WFSBP) the Asia Pacific Regional Congress of Biological Psychiatry 2018, Kobe, 2018.7.7-9
8. Iso M, Suzuki M, Yanagi K, Sakurai Y, Minowa K, Shimizu T, Kaname T. Variants of the *CFTR* gene in Japanese patients with childhood pancreatitis. APPSPGHAN2018, Bangkok, 2018.10.24
9. 要 匡. がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン(ゲノム医療)e-learning 収録「ゲノム医療と倫理・法律・社会的問題＜個人または集団のプライバシーと情報の機密性＞」 群馬大学大学院医学系研究科, 群馬, 2018.1.19
10. 要 匡. 体験講座「遺伝子と仲良くなろう」講義, 熊本大学医学部, 熊本, 2018.3.4
11. 要 匡. 小児希少・未診断疾患イニシアチブ(IRUD-P)の成果と今後. 第 25 回大阪母子医療センター 母と子のすこやか基金シンポジウム, 大阪, 2018.2.16
12. 要 匡、湊川 真理、松原 洋一、成富 研二. UR-DBMS と人工知能を用いた遺伝子関連疾患診断支援システムの構築. 第 121 回日本小児科学会, 福岡, 2018.4.20
13. 要 匡. 全遺伝子検索と小児突然死. 第 65 回日本小児保健協会学術集会(シンポジウム), 鳥取, 2018.6.15
14. 要 匡. IRUD と IRUD Beyond. 第 42 回日本遺伝カウンセリング学会学術集会(シンポジウム), 仙台, 2018.6.29
15. 要 匡、秦健一郎、小崎健次郎、松原洋一、IRUD-P コンソーシアム. 第一期未診断疾患イニシアチブ(IRUD)と今後. 第 25 回日本遺伝子診療学会大会, 三重, 2018.7.14
16. 要 匡. 疫学・診断 2. 第 58 回日本先天異常学会(座長), 東京, 2018.7.27
17. 要 匡. ゲノム医療実現に向けた遺伝子関連疾患の解析. 第 38 回ヒューマンサイエンス基礎研究講習会, 東京, 2018.9.11
18. 要 匡. OMIM データおよび文献情報を基本とした新規データベースと人工知能(IBM WATSON)の組合せによる遺伝子関連疾患診断支援システム, トーゴーの日シンポジウム 2018(シンポジウム), 東京, 2018.10.5

19. 要 匡. ロングリードシーケンサの活用と臨床シーケンス, 日本人類遺伝学会 第 63 回大会(ランチョンセミナー2), 横浜, 2018.10.11
20. 要 匡. 人工知能および遺伝性疾患データベースを活用した希少・難病診断支援システムの構築, 日本人類遺伝学会 第 63 回大会(特別講演), 横浜, 2018.10.13
21. 要 匡、鈴木 穣. NGS II, 日本人類遺伝学会 第 63 回大会(座長), 横浜, 2018.10.13
22. 要 匡. もしかして遺伝の病気？-治療につながる原因探し-, 宮崎県皮膚科耳鼻咽喉科免疫アレルギー・ジョイントセミナー, 宮崎, 2018.10.25

4-1-7 システム発生・再生医学研究部

[原著論文]

1. Inui M, Mokuda S, Sato T, Tamano M, Takada S, Asahara H: Dissecting the roles of miR-140 and its host gene. Nature Cell Biology 2018;20:516-518
2. Tsuji-Hosokawa A, Kashimada K, Kato T, Ogawa Y, Nomura R, Takasawa K, Lavery R, Coschiera A, Schlessinger D, Harley VR, Takada S, Morio T: Peptidyl arginine deiminase 2 (Padi2) is expressed in Sertoli cells in a specific manner and regulated by SOX9 during testicular development. Scientific Reports 2018;8(1):13263
3. Saito T, Hara S, Kato T, Tamano M, Muramatsu A, Asahara H, Takada S: A tandem repeat array in IG-DMR is essential for imprinting of paternal allele at the Dlk1-Dio3 domain during embryonic development. Human Molecular Genetics 2018;27(18): 3283-3292
4. Ogawa Y, Terao M, Hara S, Tamano M, Okayasu H, Kato T, Takada S: Mapping of a responsible region for sex reversal upstream of Sox9 by production of mice with serial deletion in a genomic locus. Scientific Reports 2018;8(1):17514
5. Steward O, Matsudaira Yee K, Farris S, Pirbhoy PS, Worley P, Okamura K, Okuno H, Bito H: Delayed degradation and impaired dendritic delivery of intron-lacking EGFP-Arc/Arg3.1 mRNA in EGFP-Arc transgenic mice. Frontiers in Molecular Neuroscience 2018;10:435
6. Okuno M, Ayabe T, Yokota I, Musha I, Shiga K, Kikuchi T, Kikuchi N, Ohtake A, Nakamura A, Nakabayashi K, Okamura K, Momozawa Y, Kubo M, Suzuki J, Urakami T, Kawamura T, Amemiya S, Ogata T, Sugihara S, Fukami M: Protein-altering variants of PTPN2 in childhood-onset Type 1A diabetes. Diabetic Medicine 2018; 35(3):376–380
7. Katoh-Fukui Y, Yatsuga S, Shima H, Hattori A, Nakamura A, Okamura K, Yanagi K, Iso M, Kaname T, Matsubara Y, Fukami M: An unclassified variant of CHD7 activates a cryptic splice site in a patient with CHARGE syndrome. Human Genome Variation 2018;5:18006
8. Osumi T, Tsujimoto SI, Tamura M, Uchiyama M, Nakabayashi K, Okamura K, Yoshida M, Tomizawa D, Watanabe A, Takahashi H, Hori T, Yamamoto S, Hamamoto K, Migita M, Ogata-Kawata H, Uchiyama T, Kizawa H, Ueno-Yokohata H, Shirai R, Seki M, Ohki K, Takita J, Inukai T, Ogawa S, Kitamura T, Matsumoto K, Hata K, KIyokawa N, Goyama S, Kato M: Recurrent RARB translocations in acute promyelocytic leukemia lacking RARA translocation. Cancer Research 2018;78(16):4452–4458
9. Miyado M, Fukami M, Takada S, Terao M, Nakabayashi K, Hata K, Matsubara Y, Tanaka Y, Sasaki G, Nagasaki K, Shiina M, Ogata K, Masunaga Y, Saitsu H, Ogata T: Nephrogenic syndrome of inappropriate 1 antidiuresis caused by germline-derived gain-of-function mutations of GNAS Gsα-coding exons. in press
10. Kagami M, Yanagisawa A, Ota M, Matsuoka K, Nakamura A, Matsubara K, Nakabayashi K, Takada S, Fukami M, Ogata T: Temple syndrome in a patient with variably methylated CpGs at the primary MEG3/DLK1:IG-DMR and severely hypomethylated CpGs at the secondary MEG3:TSS-DMR. Clin Epigenetics. 2019 Mar 7;11(1):42.

[学会発表]

1. Takada S: Identification of a cis-regulatory sequence that mediates Sox9 expression in mouse embryonic gonads. International Workshop for Sex Development Supported by the Grant-in-aid for Scientific Research on Innovative Areas “Sex Spectrum”, Tokyo, JAPAN, 2018 年 7 月 23 日
2. 青砥早希, 岡村浩司: オリゴヌクレオチドの位置関係と畳み込みニューラルネットワークを利用したプロモーター配列の解析. 第 41 回日本分子生物学会年会; ワークショップ 1PW1-12-3, 神奈川, 2018 年 11 月 28 日
3. 高田修治: ゲノム編集技術によるマウス胎仔期生殖腺における *Sox9* の発現をシスに調節する配

列の探索． 第 41 回日本分子生物学会年会; ワークショップ 2PW1-12-6, 神奈川, 2018 年 11 月 29 日

[その他]

1. 高田修治: ヒトの疾患原因変異を持つマウスを作る． 国立成育医療研究センターだより 2018 Vol.13 初冬号; 研究開発のトピックス; 研究所, 2018;p10
2. 黒岩麻里, 高田修治: ワークショップオーガナイザー． 第 41 回日本分子生物学会年会; ワークショップ[2PW1-12]脊椎動物の性決定、性分化の分子機構, 神奈川, 2018 年 11 月 29 日

4-1-8 薬剤治療研究部（分子薬理研究室、実験薬理研究室）

1.研究プロジェクト

1.1 手術摘出検体を利用した創薬研究および細胞治療法の開発
1.2 創薬研究に活用可能なヒト肝細胞・培養系の開発
1.3 培養細胞を用いた薬効・安全性評価系構築のためのガイダンスの作成
1.4 神経変性・発達障害関連因子の探索及び薬物療法の開発

2. 研究概要

小児では遺伝性疾患を含む原因不明の難治性疾患が多く、原因の解明とともに治療法の開発が求められている。薬剤治療研究部では、成育医療におけるこれら難治性小児疾患の病因解明、治療法の開発や薬物療法に関する科学的根拠・情報を提供し、新たな薬物療法を開発することを目標としている。これらの目標を達成するために、治療法の確立していない疾患の薬物標的因子の探索ならびに機能解析、ホルモン受容体の機能解明、さらに新規治療法の開発を行い成育医療における薬物療法の確立を目指している。

3. 研究内容

3.1 手術摘出検体を利用した創薬研究および細胞治療法の開発

国立成育医療研究センターでは、帝王切開、臓器移植をはじめとして多くの手術が行われている。薬剤治療研究部では成育医療にける細胞製剤の開発として、これまで生体肝移植時ドナー余剰肝より単離・保存した肝細胞を肝細胞移植治療の細胞供給元として利用するための細胞分離・保存工程の確立および品質評価を行い、病院臓器移植センターならびに研究所再生医療センターと連携し「重症高アンモニア血症を生じる先天代謝異常症に対する肝細胞移植治療に関する臨床研究」として、肝細胞移植治療を 2 例実施してきた。近年、再生医療の発展により、さまざまな症例に対して、手術摘出検体から分離された細胞を再生医療等製品あるいは細胞製剤の原材料として利用することが検討されている。例えば、移植片対宿主病に対して、間葉系幹細胞の免疫抑制効果が期待され、骨髄由来間葉系幹細胞がヒト体性幹細胞加工製品として製品化されている。しかし、骨髄を大量に得ることは難しく、骨髄に比べ採取が容易な羊膜由来間葉系幹細胞が注目されている。このほかにも、スポーツ障害に対する手術の際に切除される膝滑膜、多指症の手術の際に切除される多指部位、抜歯時の歯より得られる歯髄細胞などが、再生医療等製品の原材料として期待されている。薬剤治療研究部では、手術摘出検体のアカデミアによる研究利用や企業による製品開発のために、手術摘出検体および単離細胞の提供を行ってきた。これは成育医療における細胞製剤の開発を原料供給の観点で下支えするものであり、成育医療における細胞製剤の開発において重要である。今後もさらに多くの手術摘出検体を研究機関等へ提供し、成育医療における細胞製剤の開発の裾野を広げ、さらにその拡大につなげていく。

3.2 創薬研究に活用可能なヒト肝細胞・培養系の開発

肝薬物代謝や薬物肝毒性を評価するために、高い肝機能を有するヒト肝細胞を用いた *in vitro* 試験法の開発は、国内外においてニーズの高い研究対象となっている。薬剤治療研究部では肝細胞初代培養系において高い肝機能を維持するため、これまでに、国立成育医療研究センターで実施される生体肝移植手術の際に摘出された肝組織より肝細胞を単離し、培養法の検討を行ってきた。特に、新規の三次元培養法により、ヒト初代肝細胞ならびにヒト肝細胞株の肝細胞特異的機能を向上させることに成功した。これら成果を発展させ、ヒト肝細胞株にDNAメチル化阻害剤を添加することにより、肝機能を亢進させることにも成功した。

3.3 培養細胞を用いた薬効・安全性評価系構築のためのガイダンスの作成

近年、国内外において薬剤候補物質の薬効・安全性評価系へのヒトiPS細胞由来神経細胞、肝細胞、心筋細胞等を用いた応用の期待が高まっている。一方で、創薬研究の推進のために、研究者が効率よく分化細胞を活用できるよう取り扱い等に関する適切なノウハウや情報の提供が急務である。培養細胞を用いた薬効・安全性評価系構築のための基本原則・留意点を作成することを目標として、専門家ならびに AMED、厚生労働省、経済産業省からのオブザーバー委員により構成されるワーキンググループを設置し意見交換を行った。当該ワーキンググループにおいて、細胞培養を用いた研究開発成果の適

切性・再現性の担保には細胞培養に関する基本的概念の共有が必要であるとの見解で一致し、基礎研究、開発研究、応用研究を行う上で、細胞培養を用いる際に共通に重要だと考えられる基本的な考え方を広く国内の研究者へ周知するために、「細胞培養における基本原則の提案」として、また細胞培養を行う上で基本的な手技となる細胞の観察に関して「培養細胞の観察の基本原則の提案」として、さらに創薬・毒性評価の基本となる手技として「ヒト多能性幹細胞培養の留意点」をとりまとめ、日本組織培養学会誌で報告した。論文公開後は、日本組織培養学会、日本動物実験代替法学会のホームページより閲覧できるようにし、また関連学会のホームページにもリンクの設定をお願いし、広く研究者へ閲覧される環境を整えた。

3.4　神経変性・発達障害関連因子の探索及び薬物療法の開発

成育医療における難治性疾患等に対する薬物療法の開発として、早期ライフステージ、特に乳幼児・児童期の精神・神経発達障害に対する薬物標的分子の探索・機能解析、薬物療法の開発を行っている。虐待や劣悪な養育環境により、「安全基地」であるはずの母親や養育者との愛着形成に重篤な障害、すなわち愛着障害を持つ乳幼児が存在し、これら子どもたちに対する支援・介入は現在、精神保健の重要な国際的課題となっている。また、特に発達期にある子どもは長期の療養により、抑うつや不安などの精神機能や発達への負荷、入院や療養という非日常的体験や社会的刺激の少なさなどが要因となるソーシャルスキルの問題、養育者や同胞への心理的負担など、多岐にわたる心理社会的影響を受けやすい。幼少期の養育環境が成人期以降の健康状態に影響を及ぼし得ることは容易に想像され、特に幼少期に受ける過度な肉体的・精神的ストレスは成人期以降の精神発達等に重大な影響を及ぼし、コミュニケーション障害等を引き起こす。また、遺伝的特性が精神・神経発達障害発症のリスクとなり、環境要因と遺伝的要因が重なることにより、精神・神経発達障害が惹起されると考えられる。薬剤治療研究部ではこころの診療部と連携して、リエゾン医療における子どもと家族の癒し効果を生物学的に検証している。また、神奈川県の児童相談所の協力の下、被虐待児・非虐待児およびその親のホルモン動態の解析を行っている。さらに、遺伝子欠損マウス等の実験動物を用いて、社会性行動の評価およびその発現機構について研究を進めている。今後も引き続きこれら研究を推進・発展させ、早期ライフステージに起こる精神・神経発達障害、特に対人コミュニケーションや愛着形成の不全を引き起こす機構を明らかにすることにより、診断バイオマーカーの同定、薬物標的分子の探索・機能解析および薬物療法の開発を行い、薬剤治療研究の観点から健全な次世代を育成するための研究を推進していく。

また、ソニーのエンターテイメントロボット aibo による介在療法が慢性疾患を有する小児に与える癒し効果の検証のため、株式会社ソニー、成育医療研究センター病院こころの診療部との共同研究により、「ソニーのエンターテイメントロボット aibo による介在療法が慢性疾患を有する小児に与える癒し効果の検証～小児のコンサルテーション・リエゾン活動における新たな介入として～」を開始し、エンターテイメントロボットによる介入が神経ペプチドや各種サイトカイン等の変動を引き起こすか解析を行っている。

4-1-9 周産期病態研究部

平成 30 年研究業績

下線は研究実施時点において国立成育医療研究センター研究所周産期病態研究部に在籍している研究者を示す。*は責任著者を示す。

1. 論文

[原著論文(欧文)]

1. Kabata R*, Okuda H, Noguchi A, Kondo D, Fujiwara M, Hata K, Kato Y, Ishikawa K, Tanaka M, Sekine Y, Hishikawa N, Mizukami T, Ito J, Akasaka M, Sakurai K, Yoshida T, Minoura H, Hayashi T, Inoshita K, Matsuyama M, Kinjo N, Cao Y, Inoue S, Kobayashi H, Harada KH, Youssefian S, Takahashi T, Koizumi A : Familial episodic limb pain in kindreds with novel Nav1.9 mutations. PLoS One. 2018;13:e0208516
2. Katoh N, Kuroda K, Tomikawa J, Ogata-Kawata H, Ozaki R, Ochiai A, Kitade M, Takeda S, Nakabayashi K*, Hata K* : Reciprocal changes of H3K27ac and H3K27me3 at the promoter regions of the critical genes for endometrial decidualization. Epigenomics. 2018;10:1243-1257
3. Hernandez Mora JR, Tayama C, Sánchez-Delgado M, Monteagudo-Sánchez A, Hata K, Ogata T, Medrano J, Poo-Llanillo ME, Simón C, Moran S, Esteller M, Tenorio J, Lapunzina P, Kagami M, Monk D*, Nakabayashi K* : Characterization of parent-of-origin methylation using the Illumina Infinium MethylationEPIC array platform. Epigenomics. 2018;10:941-954
4. Okumura A*, Maruyama K, Shibata M, Kurahashi H, Ishii A, Numoto S, Hirose S, Kawai T, Iso M, Kataoka S, Okuno Y, Muramatsu H, Kojima S : A patient with a GNAO1 mutation with decreased spontaneous movements, hypotonia, and dystonic features. Brain Dev. 2018;40:926-930
5. Osumi T, Tsujimoto SI, Tamura M, Uchiyama M, Nakabayashi K, Okamura K, Yoshida M, Tomizawa D, Watanabe A, Takahashi H, Hori T, Yamamoto S, Hamamoto K, Migita M, Ogata-Kawata H, Uchiyama T, Kizawa H, Ueno-Yokohata H, Shirai R, Seki M, Ohki K, Takita J, Inukai T, Ogawa S, Kitamura T, Matsumoto K, Hata K, KIyokawa N, Goyama S, Kato M* : Recurrent RARB Translocations in Acute Promyelocytic Leukemia lacking RARA Translocation. Cancer Res. 2018;78:4452-4458
6. Okano S, Miyamoto A, Fukuda I, Tanaka H, Hata K, Kaname T, Matsubara Y, Makita Y* : Genitopatellar syndrome: the first reported case in Japan. Hum Genome Var. 2018;5:8
7. Sato T, Samura O, Kato N, Taniguchi K, Takahashi K, Ito Y, Aoki H, Kobayashi M, Migita O, Okamoto A, Hata K* : Novel TFAP2A mutation in a Japanese family with Branchio-oculo-facial syndrome. Hum Genome Var. 2018;5:5
8. Usui H*, Nakabayashi K, Kaku H, Maehara K, Hata K, Shozu M : Elucidation of the developmental mechanism of ovarian mature cystic teratomas using B allele-frequency plots of single nucleotide polymorphism array data. Genes Chromosomes Cancer. 2018;57:409-419
9. Matsushita J, Okamura K, Nakabayashi K, Suzuki T, Horibe Y, Kawai T, Sakurai T, Yamashita S, Higami Y, Ichihara G, Hata K, Nohara K* : The DNA methylation profile of liver tumors in C3H mice and identification of differentially methylated regions involved in the regulation of tumorigenic genes. BMC Cancer. 2018;18:317
10. Nakamura A*, Muroya K, Ogata-Kawata H, Nakabayashi K, Matsubara K, Ogata T, Kurosawa K, Fukami M, Kagami M* : A case of paternal uniparental isodisomy for chromosome 7 associated with overgrowth. J Med Genet. 2018;55:567-570
11. Yoshida W*, Saikyo H, Nakabayashi K, Yoshioka H, Bay DH, Iida K, Kawai T, Hata K, Ikebukuro K, Nagasawa K, Karube I : Identification of G-quadruplex clusters by high-throughput sequencing of whole-genome amplified products with a G-quadruplex ligand. Sci Rep. 2018;8:3116
12. Mizuguchi T, Nakashima M, Kato M, Okamoto N, Kurahashi H, Ekhilevitch N, Shiina M, Nishimura G, Shibata T, Matsuo M, Ikeda T, Ogata K, Tsuchida N, Mitsuhashi S,

Miyatake S, Takata A, Miyake N, Hata K, Kaname T, Matsubara Y, Saitsu H, Matsumoto N* : Loss-of-function and gain-of-function mutations in PPP3CA cause two distinct disorders. Hum Mol Genet. 2018;27:1421-1433

13. Ono H, Saitsu H, Horikawa R, Nakashima S, Ohkubo Y, Yanagi K, Nakabayashi K, Fukami M, Fujisawa Y, Ogata T* : Partial androgen insensitivity syndrome caused by a deep intronic mutation creating an alternative splice acceptor site of the AR gene. Sci Rep. 2018;8:2287
14. Miyashita N, Onozawa M*, Hayasaka K, Yamada T, Migita O, Hata K, Okada K, Goto H, Nakagawa M, Hashimoto D, KaHata K, Kondo T, Kunishima S, Teshima T : A novel heterozygous ITGB3 p.T720del inducing spontaneous activation of integrin αIIbβ3 in autosomal dominant macrothrombocytopenia with aggregation dysfunction. Ann Hematol. 2018;97:629-640
15. Osumi T, Tsujimoto SI, Nakabayashi K, Taniguchi M, Shirai R, Yoshida M, Uchiyama T, Nagasawa J, Goyama S, Yoshioka T, Tomizawa D, Kurokawa M, Matsubara Y, Kiyokawa N, Matsumoto K, Hata K, Kato M* : Somatic MECOM mosaicism in a patient with congenital bone marrow failure without a radial abnormality. Pediatr Blood Cancer. 2018;65:e26959
16. Hiraide T, Nakashima M, Yamoto K, Fukuda T, Kato M, Ikeda H, Sugie Y, Aoto K, Kaname T, Nakabayashi K, Ogata T, Matsumoto N*, Saitsu H* : De novo variants in SETD1B are associated with intellectual disability, epilepsy and autism. Hum Genet. 2018;137:95-104
17. Isobe T, Seki M, Yoshida K, Sekiguchi M, Shiozawa Y, Shiraishi Y, Kimura S, Yoshida M, Inoue Y, Yokoyama A, Kakiuchi N, Suzuki H, Kataoka K, Sato Y, Kawai T, Chiba K, Tanaka H, Shimamura T, Kato M, Iguchi A, Hama A, Taguchi T, Akiyama M, Fujimura J, Inoue A, Ito T, Deguchi T, Kiyotani C, Iehara T, Hosoi H, Oka A, Sanada M, Tanaka Y, Hata K, Miyano S, Ogawa S, Takita J* : Integrated molecular characterization of the lethal pediatric cancer pancreatoblastoma. Cancer Res. 2018;78:865-876
18. Nakamura Y, Togawa Y, Okuno Y, Muramatsu H, Nakabayashi K, Kuroki Y, Ieda D, Hori I, Negishi Y, Togawa T, Hattori A, Kojima S, Saitoh S* : Biallelic mutations in SZT2 cause a discernible clinical entity with epilepsy, developmental delay, macrocephaly and a dysmorphic corpus callosum. Brain Dev. 2018;40:134-139
19. Ushijima K, Fukami M*, Ayabe T, Narumi S, Okuno M, Nakamura A, Takahashi T, Ihara K, Ohkubo K, Tachikawa E, Nakayama S, Arai J, Kikuchi N, Kikuchi T, Kawamura T, Urakami T, Hata K, Nakabayashi K, Matsubara Y, Amemiya S, Ogata T, Yokota I, Sugihara S; Japanese Study Group of Insulin Therapy for Childhood and Adolescent Diabetes. : Comprehensive screening for monogenic diabetes in 89 Japanese children with insulin-requiring antibody-negative type 1 diabetes. Pediatr Diabetes. 2018;19:243-250
20. Will Cuningham, Nicholas Geard, James E. Fielding, Sabine Braat, Shabir A. Madhi, Marta C. Nunes, Lisa M. Christian, Shin-Yu Lin, Chien-Nan Lee, Koushi Yamaguchi, Hans Bisgaard, Bo Chawes, An-Shine Chao, Geraldine Blanchard-Rohner, Elizabeth P. Schlaudecker, Barbra M. Fisher, Jodie McVernon, Robert Moss. Optimal Timing of Influenza Vaccine during Pregnancy: a Systematic Review and Meta-Analysis. Influenza and Other Respiratory Viruses 2018.

[総説(英文)]

1. Taniguchi K, Kawai T, Hata K(2018) Placental Development and Nutritional Environment. Adv Exp Med Biol. 1012:63-73

[総説(和文)]

1. 中林一彦(2018) ヒト以外の遺伝子に関連する研究 哺乳類エピゲノムの多様性と進化. 遺伝子医学 8:185-191
2. 河合智子, 秦健一郎(2018) 特集生活習慣病と子ども－DOHaD と健康のカギ Ⅰ.DOHaD の基礎 エピジェネティクス. 小児科診療 81:1261-1266

3. 右田王介, 秦健一郎(2018) 【最新遺伝医学研究と遺伝カウンセリング(シリーズ 3) 最新 多因子遺伝性疾患研究と遺伝カウンセリング】(第 2 章)主に新生児～小児期にみられる多因子疾患の遺伝医学研究・診療各論 二分脊椎・神経管閉鎖不全(解説/特集) 遺伝子医学 MOOK 別冊最新多因子遺伝性疾患研究と遺伝カウンセリング 44-48
4. 秦健一郎(2018) 【早産予防 2018】早産の遺伝学的解析. 周産期医学 48:453-455
5. 秦健一郎(2018) 【子宮筋腫のすべて】子宮筋腫発生の分子遺伝学的メカニズム. HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY 25:99-103
6. 中林一彦(2018) 【遺伝子治療の新局面】 遺伝子導入・改変法・解析法 特徴と作製法、最近の話題 遺伝子治療を支える次世代シーケンス技術 遺伝子導入部位解析とゲノム編集オフターゲット評価. 医学の歩み 265:379-383

2. 学会・研究会発表

[招待講演・教育講演・シンポジウム]

1. 秦健一郎:「胎児期の環境ストレスと出生児で実際に観察されるエピゲノム変化」第 41 回日本分子生物学会年会, 横浜, 2018.11.30
2. 中林一彦:「マウス胚発生におけるエピジェネティクスの関与とその解析法」国立研究開発法人国立環境研究所セミナー, つくば, 2017.11.9
3. 秦健一郎:「エピジェネティックな修飾状態からみたヒト発生異常の再検証」日本人類遺伝学会第 63 回大会, 横浜, 2018.10.12
4. 秦健一郎:「発達期に着目したライフコース医学と先端科学技術の融合」, AMED 戦略検討ワークショップ, 東京, 2018.9.28
5. 秦健一郎:「NCBN の事例紹介」, AMED 第 5 回バイオバンク連絡会, 東京, 2018.9.22
6. 秦健一郎:「Genetic and epigenetic analysis of the placenta」, IFPA 第 24 回国際胎盤学会, 東京, 2018.9.22
7. 中林一彦:「表現型可塑性におけるエピゲノムの役割」第 20 回大会日本進化学会, 東京, 2018.8.24
8. 中林一彦:「転写制御ゲノム領域の網羅的同定と機能解明:エピゲノム基盤技術と最近の動向」滋賀医科大学 医学総合特論パイオニアセミナー・第126回実験実習支援センターセミナー, 大津, 2018.7.9
9. 中林一彦:"Epigenomics for child health and development: genomic imprinting and beyond", 30th Anniversary of Andrew Sass-Kortsak Award, Toronto, 2018.6.19
10. 秦健一郎:「早産の遺伝子解析」第1回福岡大学周産期研究会~新たな早産予防と治療戦略の確立に向けて~, 福岡大学医学部, 福岡, 2018.6.12
11. 秦健一郎:「小児科・産科領域の異常とゲノム・エピゲノム・マイクロビオーム解析」第 14 回日本小児消化管感染症研究会, 東京, 2018.2.3
12. 河合智子:「栄養とエピジェネティクス」DOHaD 疫学セミナー第 6 回例会, 東京, 2018.1.20

[海外一般演題発表]

1. Kubota Y, Uryu K, Ito T, Kawai T, Seki M, Isobe T, Toki T, Yoshida K, Kataoka K, Oki K, Kiyokawa N, Miyano S, Oka A, Hayashi Y, Ogawa S, Terui K, Sato A, Hata K, Ito E, Takita J : Integrated genetic analysis elucidated expression and methylation profiles of acute lymphoblastic leukemia in down syndrome. 50th Congress of the International Society of Paediatric Oncology (SIOP), Kyoto, 2018.11.19
2. Yamato G, Kawai T, Shiba N, Ohki K, Hara Y, Kiyokawa N, Tomizawa D, Shimada A, Sotomatsu M, Arakawa H, Adachi S, Taga T, Horibe K, Hata K, Hayashi Y : Prognosis of pediatric AML patient with FLT3-ITD is predicted by DNA methylation pattern –the JCCG study, JPLSG AML–05–. 50th Congress of the International Society of Paediatric Oncology (SIOP), Kyoto, 2018.11.18
3. Yoshida M, Nakabayashi K, Tsujimoto S, Osumi T, Shirai R, Kawai T, Yuza Y, Takagi M, Koh K, Takahashi H, Kinoshita A, Hino M, Manabe A, Imamura T, Ohara A, Tomizawa D, Kiyokawa N, Hata K, Kato M : Germline genetic predispositions to secondary malignant neoplasms in children. 50th Congress of the International Society

of Paediatric Oncology (SIOP), Kyoto, 2018.11.18

4. Watanabe K, Kimura S, Seki M, Isobe T, Kawai T, Hiwatarai M, Yoshida K, Kataoka K, Sato Y, Fujii Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Oka A, Koh K, Hata K, Miyano S, Ogawa S, Takita J : Molecular basis underlying targeting metabolism for cancer therapy in neuroblastoma. 50th Congress of the International Society of Paediatric Oncology (SIOP), Kyoto, 2018.11.17
5. Sekiguchi M, Seki M, Kawai T, Isobe T, Yoshida K, Yoshida M, Shirai R, Souzaki R, Shiraishi Y, Hoshino N, Watanabe K, Arakawa Y, Koh K, Taguchi T, Kato M, Tanaka Y, Miyano S, Hata K, Ogawa S, Takita J : High expression of *NQO1* with promoter hypomethylation in high-risk hepatoblastoma is related to increased cell proliferation and drug resistance. 50th Congress of the International Society of Paediatric Oncology (SIOP), Kyoto, 2018.11.17
6. Meza J, Nishio M, Tsukakoshi K, Yanagihara I, Hata K, Nakahashi K, Ikebukuro K : Screening of DNA aptamers against synthetic lipopeptide UPM-1 for Ureaplasma detection. The 45th International Symposium on Nucleic Acids Chemistry 2018 The 2nd Annual Meeting of Japan Society of Nucleic Acids Chemistry, Kyoto, 2018.11.7
7. Nakamura Y, Togawa Y, Okuno Y, Muramatsu H, Nakabayashi K, Kuroki Y, Ieda D, Hori I, Negishi Y, Togawa T, Hattori A, Kojima S, Saitoh S : Novel biallelic mutations in SZT2 cause mild intellectual disability and epilepsy: Expanding the phenotypic spectrum. ASHG2018, San Diego, 2018.10.19
8. Uryu H, Hata K : Accurate prediction of chromatin conformation status using deep neural network model. ASHG2018, San Diego, 2018.10.18
9. Sato T, Kawai T, Kashima K, Omori I, Shimizu M, Nishimura R, Hyodo H, Kugu K, Nagamatsu T, Fujii T, Takahashi N, Okamoto A, Hata K : The possibility of using placenta-specific interindividual differences in genome-wide DNA methylation profiles to assess intrauterine environments. International Federation of Placenta Associations, Tokyo, 2018.9.21
10. Nakagawa K, Kwak-Kim J, Moriyama A, Nakao N, Sugiyama R, Horikawa T, Takamizawa S, Kuroda K, Sugiyama R, Yamaguchi K : T helper 1 cell level is associated with reproductive outcome of women with repeated implantation failures who received Tacrolimus treatment. Human Reproduction, Barcelona Spain 2018 July 1-4.
11. Kimura S, Seki M, Kawai T, Yoshida K, Isobe T, Ueno H, Shiozawa Y, Suzuki H, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Ohki K, Kato M, Koh K, Hanada R, Moritake H, Kobayashi R, Deguchi T, Hashii Y, Imamura T, Sato A, Kiyokawa N, Manabe A, Horibe K, Ohara A, Sanada M, Kobayashi M, Oka A, Hayashi Y, Miyano S, Ogawa S, Hata K, Takita J : Characterization of pediatric T-cell acute lymphoblastic leukemia with DNA methylation status. European Heamatoloy Association, Stockholm, Sweden, 2018.6.16
12. Kubota Y, Uryu K, Ito T, Kawai T, Seki M, Isobe T, Toki T, Yoshida K, Kataoka K, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Miyano S, Oka A, Hayashi Y, Ogawa S, Terui K, Sato A, Hata K, Ito E, Takita J : Integrated genetic and epigenetic analysis elucidated expression and methylation profiles of acute lymphoblastic leukemia in down syndrome. European Heamatoloy Association, Stockholm, Sweden, 2018.6.15
13. Watanabe K, Kimura S, Seki M, Isobe T, Kawai T, Hiwatarai M, Yoshida K, Kataoka K, Sato Y, Fujii Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Oka A, Koh K, Hata K, Miyano S, Ogawa S, Takita J : Inhibition of phosphoglycerate dehydrogenase inhibits neuroblastoma growth and arginine deiminase reinforces the effect by altering tumor metabolism. Advances in Neuroblastoma Research, San Francisco, USA, 2018.5.12
14. Urushiyama D, Yasunaga S, Nomiyama M, Hattori M, Miyamoto S, Hata K : Prediction of chorioamnionitis using next-generation sequencing in amniotic fluid samples. 2018 ACOG Annual Clinical and Scientific Meeting. Austin, Texas,2018.4.28
15. Uryu H and Hata K : Accurate prediction of chromatin conformation status using deep neural network model.(poster) Human Genome Meeting 2018, Yokohama, 2018.3.12-14

【その他（教育・広報など）】

［教育活動］

秦健一郎　東京農業大学バイオサイエンス学科　客員教授
秦健一郎　東京農工大学　客員講師
秦健一郎　東京医科歯科大学大学院　連携教授
秦健一郎　聖マリアンナ医科大学　客員教授
秦健一郎　東京大学　客員講師
秦健一郎　筑波大学　客員講師
秦健一郎　北里大学　客員講師
秦健一郎　浜松医科大学　客員講師
中林一彦　福岡大学医学部講義（分子遺伝学）
中林一彦　埼玉大学　客員講師

［審査等］

秦健一郎　国際学術誌　査読　11 編
秦健一郎　北里大学　プロジェクト研究外部評価委員
秦健一郎　CITI Japan プロジェクト 外部協力教員
秦健一郎　未来価値創造実践人材育成コンソーシアム 第一次選考書類審査
秦健一郎　環境情報科学センター　エコチル調査支援
中林一彦　国際学術誌　査読　12 編
河合智子　国際学術誌　査読　2 編

［研究所運営への貢献］

秦健一郎　倫理予備審査委員会　基礎医学研究部会委員
秦健一郎　研究所予算委員会　委員
中林一彦　遺伝子組換え実験安全委員会　委員
中林一彦　セミナー庶務係
河合智子　麻薬・劇毒物管理委員会　委員

［学会活動］

秦健一郎　日本人類遺伝学会　評議員、庶務幹事
秦健一郎　日本 DOHaD 学会　幹事
河合智子　第 7 回日本 DOHaD 学会学術集会　実行委員

4-1-10 社会医学研究部

[原著論文:査読付](Reviewed Paper)

1. Doi S, Fujiwara T, Ochi M, Isumi A, Kato T. Association of sleep habits with behavior problems and resilience of 6- to 7-year-old children: Results from the A-CHILD study, Sleep Medicine. 2018; 45:62-68
2. Inoue S, Kato T, Yorifuji T. Self-rated school adjustment and absenteeism: An epidemiological study. Health Behavior & Policy Review. 2018; 5(3): 59-66
3. Urayama KY, Takagi M, Kawaguchi T, Matsuo K, Tanaka Y, Ayukara Y, Arakawa Y, Hasegawa D, Yuza Y, Kaneko T, Noguchi T, Taneyama Y, Ota S, Inukai T, Yanagimachi M, Keino D, Koike K, Toyama D, Nakazawa Y, Kurosawa H, Nakamura K, Moriwaki K, Goto H, Sekinaka Y, Morita D, Kato M, Takita J, Tanaka T, Inazawa H, Koh K, Ishida Y, Ohara A, Mizutani S, Matsuda F, Manabe A. Regional evaluation of childhood acute lymphoblastic leukemia genetic susceptibility loci among Japanese. Scientific Reports. 2018; 8:789. doi:10.1038/s41598-017-19127-7
4. Morimoto N, Kasuga C, Tanaka A, Kamachi K, Ai M, Urayama KY, Tanaka A. Association between dietary fibre: carbohydrate intake ratio and insulin resistance in Japanese adults without type 2 diabetes. British Journal of Nutrition. 2018; 119(6):620-628
5. Okubo Y*, Michihata N, Morisaki N, Hangai M, Matsui H, Fushimi K, Yasunaga H. Recent trends in practice patterns and comparisons between immunoglobulin and corticosteroid in pediatric immune thrombocytopenia. International Journal of Hematology. 2018;107(1):75-82
6. Okubo Y*, Michihata N, Uda K, Morisaki N, Miyairi I, Matsui H, Fushimi K, Yasunaga H. Dose-response relationship between weight status and clinical outcomes in children hospitalized with influenza-related respiratory infections. Pediatric Pulmonology. 2018;53(2):218-223
7. Okubo Y*, Michihata N, Morisaki N, Uda K, Miyairi I, Ogawa Y, Matsui H, Fushimi K, Yasunaga H. Recent trends in practice patterns and impact of corticosteroid use on pediatric Mycoplasma pneumoniae-related respiratory infections. Respiratory Investigation. 2018;56(2):158-165
8. Okubo Y*, Michihata N, Morisaki N, Kinoshita N, Miyairi I, Urayama K, Yasunaga H. Recent patterns in antibiotic use for children with group A streptococcal infections in Japan. Journal of Global Antimicrobial Resistance. 2018;13:55-59
9. Kato T, Kumamaru H, Fukuda S. Associations of men's participation in housework and childcare with parity progression: A Japanese population-based study. Asian Population Studies. 2018; 14(3) 290-309
10. Kato T, Yorifuji T, Yamakawa M, Inoue S. National data showed that delayed sleep in six-year-old children was associated with excessive use of electronic devices at 12 years. Acta Paediatrica. 2018; 107(8), 1439-1448
11. Kato T. Associations of gender role attitudes with fertility intentions: a Japanese population-based study on single men and women of reproductive ages. Sexual & Reproductive Healthcare. 2018; 16: 15-22
12. Horiuchi Y, Tanimoto S, Latif AHMM, Urayama KY, Aoki J, Yahagi K, Okuno T, Sato Y, Nakajima H, Hara K, Tanabe K. Identifying Novel Phenotypes of Acute Heart Failure Using Cluster Analysis of Clinical Variables. International Journal of Cardiology. 2018,1;262:57-63
13. Delnord M*, Mortensen L, Hindori-Mohangoo A, Blondel B, Gissler M, Kramer MR, Richards JL, Deb-Rinker P, Morisaki N, Nassar N, Nybo Andersen AM, Kramer MS, Zeitlin J. Can we apply a population approach to preterm birth prevention? An ecological study of preterm and early term births in 34 high-income countries. European Journal of Public Health. 2018;28(2):303-309

14. Okubo Y*, Morisaki N, Michihata N, Matsui H, Fushimi K, Yasunaga H. Dose-response relationship between weight status and clinical outcomes in infants hospitalized with respiratory syncytial virus infections. Pediatric Pulmonology. 2018;53(4):461-466
15. Beltempo M, Isayama T, Vento M, Lui K, Kusuda S, Lehtonen L, Sjors G, Hakansson S, Adams M, Noguchi A, Reichman B, Darlow B, Morisaki N, Bassler D, Pratesi S, Lee S, Lodha A, Modi N, Helenius K, Shah PS*. Respiratory management of extremely preterm infants: an international survey. Neonatology. 2018;13;114(1):28-36
16. Daru J*, Zamora J, Felix BF, Vogel J, Oladapo O, Morisaki N, Tuncalp O, Torloni MR, Mittal S, Jayaratne K, Lumbiganon P, Togoobaatar G, Khan KS. Severe anemia and maternal mortality: Multilevel and propensity score regression analyses of the World Health Organization Multi-country Survey. Lancet Global Health. 2018;6(5):e548-e554
17. Morisaki N*, Isayama T, Samura O, Wada K, Kusuda S. Socioeconomic inequity in survival for deliveries at 22-24 weeks of gestation. Archives of Diseases in Childhood. Fetal and Neonatal Edition. 2018;103(3):F202-F207

18. Sasaki H*, Kakee N, Morisaki N, Mori R, Ravens-Sieberer U, Bullinger M. Assessing health-related quality of life in Japanese children with chronic conditions: Validation of the DISABKIDS Chronic Generic Module. Health Quality Life Outcomes. 2018;2;16(1):85
19. Ogawa K*, Morisaki N, Kobayashi M, Jwa SC, Tani Y, Sago H, Horikawa R, Fujiwara T. Maternal vegetable intake in early pregnancy and wheeze in offspring at the age of 2 years. European Journal of Clinical Nutrition. 2018;72(5):761-771
20. Yamaoka Y, Morisaki N*, Noguchi H, Takahashi H, Tamiya N. Comprehensive assessment of risk factors of cause-specific infant deaths in Japan. Journal of Epidemiology. 2018;5;28(6):307-314
21. Uda K, Okubo Y*, Shoji K, Miyairi I, Morisaki N, Michihata N, Matsui H, Fushimi K, Yasunaga H. Trends of neuraminidase inhibitors use in children with influenza related respiratory infections. Pediatric Pulmonology. 2018;53(6):802-808
22. Okubo Y*, Michihata N, Morisaki N, Yoshida K, Matsui H, Fushimi K, Yasunaga H. Effects of glucocorticoids on hospitalized children with anaphylaxis. Pediatric Emergency Care. 2018. doi: 10.1097/PEC.0000000000001544 [Epub ahead of print]
23. Matsuyama Y, Fujiwara T, Ochi M, Isumi A, Kato T. Self-control and dental caries among elementary school children in Japan. Journal of Community Dentistry & Oral Epidemiology. 2018;46(5):465-471. doi: 10.1111/cdoe.12387. Epub 2018 Jun 4
24. Doi S, Fujiwara T, Ochi M, Isumi A, Kato T. Relationship between leaving children home alone and child mental health in Japan: Results from the A-CHILD study. Frontiers in Psychiatry. 2018; 9:192. doi: 10.3389/fpsyt.2018.00192
25. Tani Y, Fujiwara T, Ochi M, Isumi A, Kato T. Does eating vegetable first prevent child overweight in Japan? A-CHILD study. Frontiers in Pediatrics. 2018;6:134. doi: 10.3389/fped.2018.00134
26. Kachi Y, Fujiwara T, Yamaoka Y, Kato T. Parental socioeconomic status and weight faltering in infants in Japan. Frontiers in Pediatrics. 2018;6:127. doi: 10.3389/fped.2018.00127
27. Okubo Y, Handa A. Nationwide trend analysis of pediatric inpatients with immune thrombocytopenia in the United States. Journal of Pediatric Hematology/Oncology. 2018;40:e140-144
28. Lee M, Ohde S, Urayama KY, Takahashi O, Fukui T. Weather and Health Symptoms. International Journal of Environmental Research and Public Health. 2018;15(8):1670
29. Smith L, Morisaki N*, Morken NH, Gissler M, Deb-Rinker P, Rouleau J, Hakansson S, Kramer MR, Kramer MS. An International Comparison of Death Classification at 22 to 25 Weeks' Gestational Age. Pediatrics. 2018;142(1). pii: e20173324
30. Okubo Y*, Michihata N, Morisaki N, Sundel R, Yasunaga H. Association between dose of glucocorticoids and coronary artery lesions in Kawasaki disease. Arthritis Care & Research. 2018;70(7):1052-1057
31. Ogawa K, Morisaki N*, Sago H, Fujiwara T, Horikawa R. Association between women's

perceived ideal gestational weight gain during pregnancy and pregnancy outcomes. Scientific Reports. 2018;8(1):11574

32. Darlow BA, Vento M, Beltempo M, Lehtonen L, Håkansson S, Reichman B, Helenius K, Sjörs G, Sigali E, Lee S, Noguchi A, Morisaki N, Kusuda S, Bassler D, San Feliciano L, Adams M, Isayama T, Shah PS, Lui K: on behalf of the International Network for Evaluating Outcomes (iNeo) of Neonates. Variations in Oxygen Saturation Targeting, and Retinopathy of Prematurity Screening and Treatment Criteria in Neonatal Intensive Care Units: An International Survey. Neonatology. 2018;114(4):323-331

33. Shibasaki J, Aida N, Morisaki N, Tomiyasu M*, Nishi Y, Toyoshima K. Changes in Brain Metabolite Concentrations after Neonatal Hypoxic-ischemic Encephalopathy. Radiology. 2018 June 12. doi: 10.1148/radiol.2018172083. [Epub ahead of print] 2018; 288(3):840-848

34. Ando E, Morisaki N*, Asakura K, Sasaki S, Fujiwara T, Horikawa R. Association between Vitamin D intake and serum 25(OH)D levels in Japanese children. British Journal of Nutrition. 2018; 120(9):1034-1044

35. Isumi A, Fujiwara T, Ochi M, Kato T. Mediating effects of parental psychological distress and individual-level social capital on the association between child poverty and maltreatment in Japan. Child Abuse & Neglect. 2018;83:142-150

36. Kizuki M, Ochi M, Isumi A, Kato T, Fujiwara T. Parental time of returning home from work and child mental health among first-year primary school students in Japan: Result from A-CHILD Study. Frontiers in Pediatrics. 2018;6:179. doi: 10.3389/fped.2018.00179

37. Okubo Y, Handa A, Nariai H. National survey of factors associated with repeated admissions due to febrile seizure. Seizure. 2018;61:149-152

38. Okubo Y, Nochioka K, Testa MA. Nationwide survey of hospitalization due to pediatric food-induced anaphylaxis in the US. Pediatric Emergency Care. 2018 Aug 14. [Epub ahead of print]

39. Nomura O, Okubo Y. The correct use of noninferiority trials. The Journal of Pediatrics. 2018;200:295

40. Takahashi T, Okubo Y, Pereda MA, Handa A, Miller S. Factors associated with mechanical ventilation use in children with sickle cell disease and acute chest syndrome. Pediatric Critical Care Medicine. 2018;19:801-809

41. Shibasaki J, Aida N, Morisaki N, Tomiyasu M*, Nishi Y, Toyoshima K. Changes in Brain Metabolite Concentrations after Neonatal Hypoxic-ischemic Encephalopathy. Radiology. 2018 Sep; 288(3):840-848

42. Ando E, Morisaki N*, Asakura K, Sasaki S, Fujiwara T, Horikawa R. Serum 25-hydroxyvitamin D levels showed strong seasonality but lacked association with vitamin D intake in 3-year-old Japanese children. British Journal of Nutrition. 2018 Nov;120(9):1034-1044

43. Morisaki N, Nagata C, Yasuo S*, Kato K, Sanefuji M, Shibata E, Tsuji M, Senju A, Kawamoto T, Ohga S, Kusuhara K, Morokuma S. Optimal protein intake during pregnancy for reducing the risk of fetal growth restriction: the Japan Environment and Children's Study. British Journal of Nutrition. 2018;120(12):1432-1440

44. Uda K, Kinoshita N, Morisaki N, Okubo Y, Kasai M, Horikoshi Y, Miyairi I*. Targets for optimizing oral antibiotic prescriptions for pediatric outpatients in Japan. Journal of Infection and Chemotherapy. 2018 Dec 25. doi: 10.7883/yoken.JJID.2018.374. [Epub ahead of print]

45. Inoue S, Kato T, Yorifuji T. Interpersonal Relationships, and Learning Influence Withdrawal from School: A Study among Junior High School Students in Japan. International Journal of Environmental Research and Public Health. 2018; 15(10)

46. GBD 2017 SDG Collaborators. Measuring progress from 1990 to 2017 and projecting attainment to 2030 of the health-related Sustainable Development Goals for 195 countries and territories: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2017. Lancet. 2018;392(10159):2091-2138

47. Ogawa K*, Morisaki N, Kobayashi M, Jwa SC, Tani Y, Sago H, Horikawa R, Fujiwara

T. Reply to Shakira et al.: Validation of a food frequency questionnaire for Japanese pregnant women in mid to late pregnancy. European Journal of Clinical Nutrition. 2018 doi: 10.1038/s41430-018-0263-2. [Epub ahead of print]

48. Huang M, Inukai T, Kagami K, Abe M, Shinohara T, Watanabe A, Somazu S, Oshiro H, Goi K, Goto H, Minegishi M, Iwamoto S, Urayama KY, Sugita K. Splicing variant profiles and single nucleotide polymorphisms of the glucocorticoid receptor gene in relation to glucocorticoid-sensitivity of B-cell precursor acute lymphoblastic leukaemia. Hematological Oncology. 2018 Feb;36(1):245-251

49. Takahashi T, Okubo Y, Handa A. Acute chest syndrome among children hospitalized with vaso-occlusive crisis: A nationwide study in the United States. Pediatric Blood & Cancer. 2018;65(3).

50. Okubo Y, Nochioka T, Testa MA. The impact of pediatric obesity on hospitalized children with lower respiratory tract infections in the United States. Clinical Respiratory Journal. 2018;12(4):1479-1484. doi: 10.1111/crj.12694. Epub 2017 Sep 7

51. Maeda K, Hasegawa D, Urayama KY, Tsujimoto S, Azami Y, Ozawa M, Manabe A. Risk factors for psychological and psychosomatic symptoms among children with malignancies. Journal of Paediatrics and Child Health. 2018;54(4):411-415

52. 加藤承彦,福田節也．男性の育児参加が次子の出生に与える影響:三世代同居との交互作用の検討．厚生の指標、厚生労働統計協会、2018
三瓶舞紀子．ハイリスク妊産婦支援が楽になる動機付け面接活用の可能性．保健師ジャーナル、2018;74 (8):704-711

[総説]

1. 森崎菜穂．新生児医療最新トピック Next! ライフコース疫学研究について．ネオネイタルケア、2018 年.31 巻 3 号 P67

[学会発表]

1. Urayama KY. Basics in Epidemiological Research Design: An Overview. 18th International Society for Pediatric and Adolescent Diabetes (ISPAD) Science School for Physicians, Kanagawa, 2018.9.30

2. Urayama KY. Epidemiology of Childhood Cancers: Perspectives from East Asia. CLIC-I4C Joint International Symposium, International House of Japan, Tokyo, 2018.11.12

3. Urayama KY. CLIC ALL GWAS Meta-analysis Working Session. Childhood Leukemia International Consortium Annual Meeting, Tokyo, 2018.11.13

4. Miyamoto S, Naruto T, Morio T, Urayama KY, Manabe A, Takagi M. Association of a TCF3 germline variant with pediatric B-cell precursor ALL development, The 80th Annual Meeting of the Japan Society of Hematology, Osaka, Japan. 2018.10.10

5. Miyamoto S, Naruto T, Morio T, Urayama KY, Manabe A, Takagi M. TCF3 inherited variants in children with B-cell precursor acute lymphoblastic leukemia, Japan Society of Pediatric Hematology/Oncology Annual Meeting, Kyoto, Japan. 2018.11.16

6. Urayama KY. Epidemiological Methods: In Brief. Clinical Epidemiological Seminar Series, St. Luke's International University, Tokyo, 2018.10.9

7. Urayama KY. TCCSG Projects on Inherited Genetic Variation. TCCSG Winter Seminar. St. Luke's International Hospital. 2018.3.3

8. Urayama KY. Epidemiological Methods: In Brief. Clinical Epidemiological Seminar Series, St. Luke's International University, Tokyo, Japan. 2018.10.9

9. Urayama KY: Epidemiologic Research and Related Informatics. Big Data Analytical Science Course, Tokyo Medical and Dental University, 2018.5.28

10. Urayama KY. Basics in Epidemiological Research Design: An Overview. 18th ISPAD Science School for Physicians, International Society of Pediatrics and Adolescent Diabetes, Kanagawa, Japan. 2018.9.30

11. Urayama KY. Epidemiology of Childhood Cancers: Perspectives from East Asia. CLIC-I4C Joint International Symposium, International House of Japan, Tokyo, Japan.

2018.11.12

12. Urayama KY. CLIC ALL GWAS Meta-analysis Working Session. Childhood Leukemia International Consortium Annual Meeting, Tokyo, Japan, 2018.11.13-15

13. 浦山ケビン. 疫学研究における情報学概論. 東京医科歯科大学ビッグデータ解析学, 東京, 2018.5.28

14. 森崎菜穂. “海外からみた日本”からはじまる母子保健研究. 愛知医科大学, 愛知, 2018.6.15

15. 森崎菜穂. 日本人の平均身長低下:胎内発育低下の長期的影響. 第 44 回東京成長ホルモン成長因子セミナー, 東京, 2018.6.29

16. 加藤承彦. 3歳以降で未就園の子の社会・身体的背景要因の分析. 子どもの貧困研究のフロンティア定例学術研究会, 東京, 2018.9.19

17. 加藤承彦. Characteristics Associated with Non-Utilization of Early Center Care among Children between the Ages of 3 and 5. Mini-conference on Early Childhood Research, 東京, 2018.8.1

18. 加藤承彦. 社会疫学の観点から見た乳幼児期の子どもの健康と発達. 同志社大学赤ちゃん学研究センター定期セミナー, 京都, 2018.6.19

19. 加藤承彦. 都市部で育児をする親を取り巻く社会環境. 社会福祉法人ちとせ校友会職員研修会, 東京, 2018.5.28

20. 加濃正人, 磯村毅, 三瓶舞紀子. 動機づけ面接技法. 第7回動機づけ面接法集中講座, 神奈川, 2018.1.6-1.8

21. 三瓶舞紀子. 家族と関わり支える面接技法, 第 2 回管内児童虐待対応地域リーダー養成研修会, 千葉, 2018.2.2

22. 加濃正人, 三瓶舞紀子. 第 3 回卒煙サポートセミナー, 神奈川, 2018.2.15

23. 三瓶舞紀子. 禁煙支援が楽になる、患者さんとの会話のコツ-エビデンスベースの面接法「動機付け面接」-. 禁煙サポート薬剤師要請ワークショップ, 東京, 2018.9.29

24. 三瓶舞紀子. 保護者からのドキッとする一言への対応を考える. 平成 30 年度第 2 回養育支援訪問事業推進研修会, 名古屋, 2018.10.12 及び 11.16

25. 三瓶舞紀子. 周産期のメンタルヘルスと妊産婦へのアプローチ. 平成 30 年度養育支援関係機関連絡会議(研修会), 栃木, 2018.11.14

26. 三瓶舞紀子. Social determinant of Health (健康の社会的決定要因) とタバコ-社会疫学的視点から-. 第 9 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 三重, 2018.6.16

[広報活動]

Normile D. Staying slim during pregnancy carries a price. Science. 2018.8.3. doi:10.1126/science.aau9712

4-1-11 政策科学研究部

[原著論文:査読付]**(Reviewed Paper)**

1. Shintaku H, Nabetani M, Hamazaki T, Ohnishi S, Tanaka E, Kusuda S, Tamura M, Watabe S, Hayakawa M, Sato Y, Tsuji M, Taguchi A, Ichiba H, Oka A, Mori R, Mukai T, Nagamura-Inoue T: AB009. Regenerative therapy in neonates with hypoxic ischemic encephalopathy. Pediatric Medicine 2018;1:AB009 DOI:10.21037/pm.2018.AB009
2. *Matsumoto K, Mori R, Miyazaki C, Ohya Y, Saito H: Are both early egg introduction and eczema treatment necessary for primary prevention of egg allergy? Journal of Allergy and Clinical Immunology 2018;141(6):1997-2001. DOI: 10.1016/j.jaci.2018.02.033
3. *Sasaki H, Kakee N, Morisaki N, Mori R, Ravens-Sieberer U, Bullinger M: Assessing health-related quality of life in Japanese children with a chronic condition: validation of the DISABKIDS chronic generic module. Health and quality of life outcomes 2018;16(1):85. DOI: 10.1186/s12955-018-0911-1
4. Takahashi N, *Mori R: Clinical Trials on Cell Therapy for Perinatal Brain Injury: Challenges and Opportunities. Cell Therapy for Perinatal Brain Injury 2018;131-143. DOI: 10.1007/978-981-10-1412-3_13
5. *Hoque DME, Chowdhury MAK, Rahman AE, Billah SM, Bari S, Tahsina T, Hasan MM, Islam S, Islam T, Mori R: A community-based cluster randomized controlled trial (cRCT) to evaluate the impact and operational assessment of “safe motherhood and newborn health promotion package”: study protocol. BMC public health 2018;18(1):592. DOI: 10.1186/s12889-018-5478-6
6. Cui S, *Tobe RG, Mo X, Liu X, Xu L, Li S: Correction to: Cost-effectiveness analysis of rotavirus vaccination in China: Projected possibility of scale-up from the current domestic option. BMC Infectious Diseases 2018;18(1):487. DOI: 10.1186/s12879-018-3370-8
7. Liu Y, Wang Z, *Tobe RG, Lin H, Wu B: Cost Effectiveness of Daclatasvir Plus Asunaprevir Therapy for Chinese Patients with Chronic Hepatitis C Virus Genotype 1b. Clinical drug investigation 2018;38(5):427-437. DOI: 10.1007/s40261-018-0621-9
8. GBD 2016 Lower Respiratory Infections Collaborators (Tobe RG): Estimates of the global, regional, and national morbidity, mortality, and aetiologies of lower respiratory infections in 195 countries, 1990–2016: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2016. The Lancet Infectious Diseases 2018;18(11):1191-1210. DOI: 10.1016/S1473-3099(18)30310-4
9. Yamamoto S, Hotta K, Ota E, Matsunaga A, *Mori R: Exercise‐based cardiac rehabilitation for people with implantable ventricular assist devices. Cochrane Library 2018;9. DOI: 10.1002/14651858.CD012222.pub2
10. GBD 2016 Injury Collaborators (Mori R): Global Mortality From Firearms, 1990-2016. JAMA 2018;320(8):792-814. DOI: 10.1001/jama.2018.10060
11. Yamada T, *Mori R, Hosoe J, Shojima N, Kamata R, Ishinohachi K, Yamauchi T, Tanikawa Y, Kadowaki T: Glucagon‐like peptide (GLP)‐1 analogues as an add‐on to insulin for adults with type 1 diabetes mellitus. Cochrane Library 2018;11. DOI: 10.1002/14651858.CD013164
12. *Wu B, Tobe RG, Liu Y, He B: Health Economic Analysis of Antiplatelet Therapy for Acute Coronary Syndromes in the Context of Five Eastern Asian Countries. Clinical drug investigation 2018;38(7):621-630. DOI: 10.1007/s40261-018-0649-x
13. Ferguson L, *Futamura M, Vakirlis E, Kojima R, Sasaki H, Roberts A, Mori R: Leukotriene receptor antagonists for eczema. Cochrane Library 2018;10. DOI: 10.1002/14651858.CD011224.pub2
14. *Dagvadorj A, Ganbaatar D, Balogun OO, Yonemoto N, Bavuusuren B, Takehara K, Mori R, Akahira-Azuma M: Maternal socio-demographic and psychological predictors for risk of developmental delays among young children in Mongolia. BMC pediatrics

2018;18(1):68. DOI: 10.1186/s12887-018-1017-y
15. GBD 2016 Healthcare Access and Quality Collaborators (Mori R, Tobe RG): Measuring performance on the Healthcare Access and Quality Index for 195 countries and territories and selected subnational locations: a systematic analysis from the Global Burden of Disease Study 2016. The Lancet 2018;391(10136):2236-2271. DOI: 10.1016/S0140-6736(18)30994-2
16. *Tachibana Y, Miyazaki C, Mikami M, Ota E, Mori R, Hwang Y, Terasaka A, Kobayashi E, Kamio Y: Meta-analyses of individual versus group interventions for pre-school children with autism spectrum disorder (ASD). PLoS One 2018;13(5):e0196272. DOI: 10.1371/journal.pone.0196272
17. *Tobe RG, Haque SE, Ikegami K, Mori R: Mobile-health tool to improve maternal and neonatal health care in Bangladesh: a cluster randomized controlled trial. BMC Pregnancy Childbirth 2018;18(1):102. DOI: 10.1186/s12884-018-1714-4
18. Kawasaki M, *Arata N, Miyazaki C, Mori R, Kikuchi T, Ogawa Y, Ota E: Obesity and abnormal glucose tolerance in offspring of diabetic mothers: A systematic review and meta-analysis. PLoS One 2018;13(1):e0190676.
DOI: 10.1371/journal.pone.0190676
19. GBD Health Financing Collaborators (Tobe RG): Spending on health and HIV/AIDS: domestic health spending and development assistance in 188 countries, 1995-2015. The Lancet 2018;391(10132):1799-1829. DOI: 10.1016/S0140-6736(18)30698-6
20. GBD Health Financing Collaborators (Tobe RG): Trends in future health financing and coverage: future health spending and universal health coverage in 188 countries, 2016–40. The Lancet 2018;391(10132):1783-1798. DOI: 10.1016/S0140-6736(18)30697-4*Hikita N, Haruna M, Matsuzaki M, Shiraishi M, Takehara K, Dagvadorj A, Sumya N, Bavuusuren B, Baljinnyam P, Ota E, Mori R: Utilisation of maternal and child health handbook in Mongolia: A cross-sectional study. Health Education Journal 2018;77(4):458-469. DOI: 10.1177/0017896917753649
21. *Hikita N, Haruna M, Matsuzaki M, Shiraishi M, Takehara K, Dagvadorj A, Sumya N, Bavuusuren B, Baljinnyam P, Ota E, Mori R: Utilisation of maternal and child health handbook in Mongolia: A cross-sectional study. Health Education Journal 2018;77(4):458-469 . DOI: 10.1177/0017896917753649
22. *Shahrook S, Ota E, Hanada N, Sawada K, Mori R: Vitamin K supplementation during pregnancy for improving outcomes: a systematic review and meta-analysis. Sci Rep 2018;8(1):11459. DOI: 10.1038/s41598-018-29616-y
23. GBD 2017 SDG Collaborators (Tobe RG): Measuring progress from 1990 to 2017 and projecting attainment to 2030 of the health-related Sustainable Development Goals for 195 countries and territories: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2017 2018;392(10159):2091-2138. DOI: 10.1016/S0140-6736(18)32281-5
24. GBD 2017 Causes of Death Collaborators (Tobe RG): Global, regional, and national age-sex-specific mortality for 282 causes of death in 195 countries and territories, 1980-2017: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2017. Lancet 2018;392(10159):1736-1788. DOI: 10.1016/S0140-6736(17)32152-9
25. GBD 2017 Mortality Collaborators (Tobe RG): Global, regional, and national age-sex-specific mortality and life expectancy, 1950-2017: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2017. Lancet 2018;392(10159):1684-1735. DOI: 10.1016/S0140-6736(18)31891-9
26. *Takehara K, Tachibana Y, Yoshida K, Mori R, Kakee N, Kubo T: Prevalence trends of pre-and postnatal depression in Japanese women: A population-based longitudinal study. Journal of Affective Disorders 2018;225:389-394. DOI: 10.1016/j.jad.2017.08.008
27. 葛西圭子, 山城五月, 田村千亜紀, 北目利子, 渡邊香, 竹原健二: 母児訪問助産師がとらえた初産婦の産後 1 か月以内のメンタルヘルスの状況. 日本助産学会誌 2018;32(1):27-36

［原著論文：査読なし］
なし

［症例報告］
なし

［総説］
1. 森臨太郎：日本における系統的レビュー(コクラン)と医療技術評価と診療ガイドライン．東京女子医科大学雑誌 2018;88(Extra1):E10-E5
2. 須藤茉衣子：書評「健康医学情報の伝達におけるリーダビリティ. 酒井 由紀子 著」．情報の科学と技術 2018;68(10):523
3. 森臨太郎：コクラン:医療と研究における意思決定と患者一般参画．情報管理 2018;60(12):855-864

［著書］
1. 森臨太郎：『ほんとうに確かなことから考える 妊娠・出産の話』の効果的な使い方，教えます．助産雑誌 2018;72(4):282-284

［ガイドライン、報告書、その他］
（研究報告書）
1. 森臨太郎，盛一享徳：小児慢性特定疾患データベースのリンケージと解析に関する研究．平成 30 年度厚生労働科学研究費補助金「周産期関連の医療データベースのリンケージの研究」，平成 30 年度研究報告書， 2019;9-12
2. 森崎菜穂，康永秀生，大久保祐輔，山本依志子，小川浩平：各種厚生労働省統計、周産期関連学会データベース、および DPC 情報のリンケージと解析．平成 30 年度厚生労働科学研究費補助金「周産期関連の医療データベースのリンケージの研究 」， 平成 30 年度研究報告書，2019;19-26
3. 永田知映，山本依志子：周産期関連の医療データベースのリンケージの研究．平成 30 年度厚生労働科学研究費補助金「周産期関連の医療データベースのリンケージの研究 」， 平成 30 年度研究報告書， 2019;27-30
4. 森臨太郎，盛一享徳，西田俊彦：小児慢性特定疾患データベースのリンケージと解析に関する研究．平成 28～30 年度厚生労働科学研究費補助金「周産期関連の医療データベースのリンケージの研究」， 総合研究報告書， 2019;11-14
5. 永田知映，盛一享徳，山本依志子：周産期関連の医療データベースのリンケージの研究．平成 28～30 年度厚生労働科学研究費補助金「周産期関連の医療データベースのリンケージの研究 」， 総合研究報告書， 2019;45-50
6. 森崎菜穂，Mahbub Latif，大久保祐輔，山本依志子，山岡結衣，小川浩平：各種厚生労働省統計と周産期関連学会データベースのリンケージと解析．平成 28～30 年度厚生労働科学研究費補助金「周産期関連の医療データベースのリンケージの研究 」， 総合研究報告書， 2019;51-62
7. 森臨太郎，森崎菜穂：周産期死亡の予防可能死を把握するための体制構築に関する研究「チャイルド・デス・レビュー(CDR)を地域で社会実装するための準備読本分担執筆」．平成 30 年度厚生労働科学研究費補助金「小児死亡事例に関する登録・検証システムの確立に向けた実現可能性に関する研究」， 平成 30 年度研究報告書， 2019;50-52
8. 森臨太郎，森崎菜穂：周産期死亡の予防可能死を把握するための体制構築に関する研究「チャイルド・デス・レビュー(CDR)を地域で社会実装するための準備読本分担執筆」．平成 28～30 年度厚生労働科学研究費補助金「小児死亡事例に関する登録・検証システムの確立に向けた実現可能性に関する研究」， 総合研究報告書， 2019;189-194
9. 森臨太郎：指定難病制度の普及・啓発のための方法論の開発に関する研究．平成30年度厚生労働科学研究費補助金「指定難病の普及・啓発に向けた統合研究」， 平成30年度研究報告書，2019;97-101
10. 森臨太郎，須藤茉衣子，芹沢優子：小児保健・医療領域における積極的予防に関する系統的レビュー．平成30年度厚生労働科学研究費補助金「母子の健康改善のための母子保健情報利活

用に関する研究」， 平成30年度研究報告書， 2019;162-168
11. 山縣然太朗, 永光信一郎, 松浦賢長, 山崎嘉久, 松田義雄, 市川香織, 尾島俊之, 菅原準一, 上原里程, 森臨太郎, 須藤茉衣子, 近藤尚己, 吉田穂波, 篠原亮次, 秋山有佳: 母子保健情報利活用の推進のための環境整備に関する平成30年度の経過報告. 平成30年度厚生労働科学研究費補助金「母子の健康改善のための母子保健情報利活用に関する研究」， 平成30年度研究報告書， 2019;74-87
12. 山縣然太朗, 永光信一郎, 松浦賢長, 山崎嘉久, 松田義雄, 市川香織, 尾島俊之, 菅原準一, 上原里程, 森臨太郎, 須藤茉衣子, 近藤尚己, 吉田穂波, 篠原亮次, 秋山有佳: 母子保健情報利活用の推進のための環境整備に関する平成28～30年度の経過報告. 平成28～30年度厚生労働科学研究費補助金「母子の健康改善のための母子保健情報利活用に関する研究」， 総合研究報告書， 2019;111-157
13. 森臨太郎, 須藤茉衣子, 芹沢優子: 小児保健・医療領域における積極的予防に関する系統的レビュー. 平成28～30年度厚生労働科学研究費補助金「母子の健康改善のための母子保健情報利活用に関する研究」， 総合研究報告書， 2019;247-265
14. 森臨太郎, 須藤茉衣子: 我が国の小児保健医療の文献・データからの現状評価・課題の抽出. 平成 30 年度厚生労働科学研究費補助金「身体的・精神的・社会的(biopsychosocial)に健やかな子どもの発育を促すための切れ目のない保健・医療体制提供のための研究」， 平成 30 年度研究報告書， 2019;35-38
15. 西小森隆太, 平家俊男, 八角高裕, 高田英俊, 伊藤秀一, 大西秀典, 井田弘明, 神戸直智,金澤伸雄, 上松一永, 谷内江昭宏, 森尾友宏, 河合利尚, 武井修治, 右田清志, 宮前多佳子, 金兼弘和, 野々山恵章, 今井耕輔, 笹原洋二, 小林 正夫, 森臨太郎, 小原收, 井澤和司, 山田雅文, 石村匡崇, 盛一享德, 川上 純, 田中孝之, 仁平寛士, 粟屋智就, 阿部純也, 葉山惟大, 金城紀子, 石川智朗, 熊木恵里, 小野慎太郎, 岡本圭祐, 植木将弘, 本田吉孝: (1)自己炎症性疾患とその類縁疾患の診療体制改善に関する研究、(2)自己炎症性疾患の診療ガイドライン/フローチャートを作成に関する研究. 平成 30 年度厚生労働科学研究費補助金「自己炎症性疾患とその類縁疾患の全国診療体制整備、重症度分類、診療ガイドライン確立に関する研究」， 平成 30 年度研究報告書， 2019;7-10, 11-14
16. 植木美乃, 小林庸子, 中馬孝容, 加世田ゆみ子, 森臨太郎, 服部富士子: 難病患者のリハビリテーションの現状及び生活機能維持に与える影響. 平成 30 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金「難病患者の総合的支援体制に関する研究」， 平成 30 年度研究報告書， 2019;45-51
17. 盛一享德, 横谷進, 大竹明, 森臨太郎,: 小児慢性特定疾病の状態の程度の検討－小児慢性特定疾病への国際生活機能分類の概念導入の試み－. 平成 30 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金「小児慢性特定疾病対策の推進に寄与する実践的基盤提供にむけた研究」， 平成 30 年度研究報告書， 2019;21-55
18. 盛一享德, 横谷進, 大竹明, 森臨太郎: 神奈川県国民健康保険診療報酬明細書データの特徴に関する研究. 平成 30 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金「小児慢性特定疾病対策の推進に寄与する実践的基盤提供にむけた研究」， 平成30年度研究報告書， 2019;57-60
19. 盛一享德, 横谷進, 大竹明, 森臨太郎: 神奈川県国民健康保険診療報酬明細書データを用いた小児慢性特定疾病の公費負担の実情に関する研究. 平成 30 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金「小児慢性特定疾病対策の推進に寄与する実践的基盤提供にむけた研究」， 平成30年度研究報告書， 2019;61-73
20. 盛一享德, 横谷進: 小児慢性特定疾病に対するICD-10 コード附番に関する検討. 平成 30 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金「小児慢性特定疾病対策の推進に寄与する実践的基盤提供にむけた研究」， 平成30年度研究報告書， 2019;85-109
21. 盛一享德: 「小児慢性特定疾病情報センター」ポータルウェブサイトの利用状況と情報発信のあり方に関する検討. 平成 30 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金「小児慢性特定疾病対策の推進に寄与する実践的基盤提供にむけた研究」， 平成30年度研究報告書， 2019;185-190
22. 盛一享德: 小児慢性特定疾病指定医の研修プログラム(e-learning)の構築及び運用の検討. 平成 30 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金「小児慢性特定疾病対策の推進に寄与する

実践的基盤提供にむけた研究」， 平成30年度研究報告書， 2019;191-203
23. 蓋若琰: 子どもの虐待の社会的損失についての医療経済評価. 平成 30 年度厚生労働科学研究費補助金「健やかな親子関係を確立するためのプログラムの開発と有効性の評価に関する研究」， 平成30年度研究報告書， 2019;61-66
24. 山本依志子: 低出生体重のリスク因子に関する系統的レビュー. 平成 30 年度子ども子育て支援推進調査研究事業「低出生体重による成人期生活習慣病を含めた疾病負担に関する研究」，平成 30 年度研究報告書， 2019;5-21
25. 辻麻里子: 低出生体重の長期予後に関する系統的レビュー. 平成 30 年度子ども子育て支援推進調査研究事業「低出生体重による成人期生活習慣病を含めた疾病負担に関する研究」， 平成 30 年度研究報告書， 2019;23-43
26. 山本依志子: 低出生体重の長期的な疾病負担の推計. 平成 30 年度子ども子育て支援推進調査研究事業「低出生体重による成人期生活習慣病を含めた疾病負担に関する研究」， 平成 30 年度研究報告書， 2019;45-75
27. 須藤茉衣子, 辻麻里子: 低出生体重の予防的介入の効果: Overview of Cochrane Systematic Reviews. 平成 30 年度子ども子育て支援推進調査研究事業「低出生体重による成人期生活習慣病を含めた疾病負担に関する研究」， 平成 30 年度研究報告書， 2019;77-129
28. 竹原健二: 「イクメン」はわが国の父親のありようの理想像といえるのかー「イクメンブーム」がもたらした影響とそれにより失った何かを問い直すー. トヨタ財団2016年度研究助成プログラム(B個人研究助成)， 最終報告書， 2019

[学会発表]

（一般演題）

1. 竹原健二: 国際保健と疫学～フィールドとアカデミアをつなぐために～. 第 33 回日本国際保健医療学会， 東京， 2018.12.1
2. 蓋若琰: New Policies on Applying HTA to Action in China, Japan, and South Korea: Roles and Relevance. Health Technology Assessment international (HTAi)2018 Annual Meeting, Canada, 2018.6.5
3. 蓋若琰: How to Measure and Value Health Benefits to Facilitate Priority Setting for Pediatric Population? Development and Application Issues. ISPOR Asia-Pacific 2018, 東京， 2018.9.10
4. 山本依志子, 山下陽子, 久保浩太, 金山旭, 佐藤正規, 梅原永能, 佐合治彦: 当センターにおける無痛分娩時の胎児心拍低下による緊急帝王切開の解析. ポスター発表， 第 122 回日本産科麻酔学会学術集会， 静岡， 2018.11.23
5. 橋本直也, 安藤友久, 田中俊之, 森臨太郎: 小児科医によるインターネット小児遠隔健康医療相談利用後の受診行動に関する検討. 第 28 回日本外来小児科学会年次集会， 2018.8.25

[講演・シンポジウム・ワークショップ]

1. 森臨太郎: ケアや施策のランダム化比較試験を行うには. 第 9 回順天堂大学大学院医療看護学研究科 FD 講演会， 千葉， 2018.8.2
2. 森臨太郎: Cochrane China Network の創設について. Cochrane China Network Consultation. 北京， 2018.10.9.
3. 森臨太郎: 周産期診療の質向上に関するクラスターランダム化比較試験:科学的根拠に基づく方針と個別の診療方針をつなぐ試み. 第 1 回普及と実装科学研究会， 東京， 2018.11.18
4. 蓋若琰: バングラデシュにおける母子手帳と SDGs. よくわかる SDGs 講座， 長崎, 2018.11.9
5. 蓋若琰: インターベンション医のための医療経済塾講座， インターベンション医のための医療経済塾, 福岡， 2018.11.24
6. 竹原健二: イクメンは我が国の父親のありようの理想像と言えるのか. トヨタ財団ワークショップ， 東京, 2018.4.14

4-1-13　エコチル調査研究部

[原著論文:査読付(Reviewed Paper)]

1. Yamamoto-Hanada K, Ishitsuka K, Pak K, Saito M, Ayabe T, Mezawa H, Konishi M, Yang L, Matsumoto K, Saito H, Ohya Y; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group: Allergy and mental health among pregnant women in the Japan Environment and Children's Study. J Allergy Clin Immunol Pract. 2018 Jan 20. pii:S2213-2198(17)31024-3.
2. Natsume O, Ohya Y. Recent advancement to prevent the development of allergy and allergic diseases and therapeutic strategy in the perspective of barrier dysfunction: Allergol Int. 2018 Jan;67(1):24-31.
3. Ayabe T, Yamamoto-Hanada K, Mezawa H, Konishi M, Ishitsuka K, Saito M, Fukami M, Michikawa T, Yamazaki S, Senju A, Kusuhara K, Kawamoto T, Sanefuji M, Kato K, Oda M, Mitsubuchi H, Katoh T, Monden Y, Mise N, Kayama F, Saito H, Ohya Y: Regional differences in infant 25-Hydroxyvitamin D: Pilot study of the Japan Environment and Children's Study. Pediatr Int. 2018 Jan;60(1):30-34.
4. Mito A, Arata N, Qiu D, Sakamoto N, Murashima A, Ichihara A, Matsuoka R, Sekizawa A, Ohya Y, Kitagawa M: Hypertensive disorders of pregnancy: a strong risk factor for subsequent hypertension 5 years after delivery. Hypertens Res. 2018 Feb;41(2):141-146.
5. Nagao M, Inagaki S, Kawano T, Azuma Y, Nomura N, Noguchi Y, Ohta S, Kawaguchi A, Odajima H, Ohya Y, Fujisawa T, Izuhara K: SCCA2 is a reliable biomarker for evaluating pediatric atopic dermatitis. J Allergy Clin Immunol. 2018 Feb 5.
6. Aoki S, Hashimoto K, Mezawa H, Hatakenaka Y, Yasumitsu-Lovell K, Suganuma N, Ohya Y, Wilson P, Fernell E, Kamio Y, Gillberg C. Development of a new screening tool for neuromotor development in hildren aged two - the neuromotor 5 min exam 2-year-old version (N5E2). Brain Dev. 2018;40: 445-451.
7. Matsumoto K, Mori R, Miyazaki C, Ohya Y, Saito H. Are both early egg introduction and eczema treatment necessary for primary prevention of egg allergy? : J Allergy Clin Immunol. 2018 Mar 6.
8. Yang L, Narita M, Yamamoto-Hanada K, Sakamoto N, Saito H, Ohya Y. Phenotypes of Childhood Wheeze in Japanese children: A Group-Based Trajectory Analysis. Pediatr Allergy Immunol. 2018 Apr 26.
9. Honjo S, Murakami Y, Odajima H, Adachi Y, Yoshida K, Ohya Y, Akasawa A. An independent relation of atopic dermatitis to exercise-induced wheezing in asthmatic children. Allergol Int. 2018 May 29.
10. Ogawa K, Tanaka S, Yang L, Arata N, Sago H, Yamamoto-Hanada K, Narita M, Ohya Y: Reply to Matsubara et al. Pediatr Allergy Immunol. 2018 May;29(3):333-334.
11. Saito M, Yamamoto-Hanada K, Pak K, Ayabe T, Mezawa H, Ishitsuka K, Konishi M, Yang L, Matsumoto K, Saito H, Ohya Y: Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Having small-for-gestational-age infants was associated with maternc feal allergiatures in the JECS birth cohort. Allergy. 2018 May 26.in press
12. Mezawa H, Tomotaki A, Yamamoto-Hanada K, Ishitsuka K, Ayabe T, Konishi M, Saito M, Yang L, Suganuma N, Hirahara F, Nakayama S, Saito H, Ohya Y: the Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Prevalence of congenital anomalies in the Japan Environment and Children's Study. Journal of

Epidemiology; in press.

13. Inagaki S, Maeda S, Narita M, Nakamura T, Shimosawa T, Murata T, Ohya Y:. Urinary PGDM, a prostaglandin D2 metabolite, is a novel biomarker for objectively detecting allergic reactions of food allergy. J Allergy Clin Immunol. 2018;142(5):1634-1636.
14. Yamamoto-Hanada K, Ohya Y. Self-efficacy of food allergy management in elementary school personnel in Tokyo. Pediatr Int. 2018 Aug;60(8):769-770.
15. Hirota R, Ohya Y, Yamamoto-Hanada K, FukutomiI Y, Muto G, Ngatu-Nlandu R,Nakamura T, Nakamura H. Triclosan-induced Alteration of Gut Microbiome and Aggravation of Asthmatic Airway Response in Aeroallergen-sensitized mice. Allergy. 2018 2018 Oct 24.
16. Yamaguchi C, Ebara T, Hosokawa R, Futamura M, Ohya Y, Asano M. Factors determining parenting stress in mothers of children with atopic dermatitis.Allergol Int. 2018 Sep 11.in press
17. Shimizu Y, Kambayashi Y, Tsujiguchi H, Hara A, Hori D, Thi Thu Nguyen T, Suzuki F, Hamagishi T, Yamada Y, Nakamura H, Yoshikawa T, Hayashi K, Hibino Y, Shibata A, Fukutomi Y, Ohya Y, Yamamoto-Hanada K, Muto G, Hirota R, Konoshita T, Nakamura H.Relationship between the Use of Parabens and Allergic Diseases in Japanese Adults—A Cross-Sectional Study. *J* 2018; **1**: 148-58.
18. Ishitsuka K, Yamamoto-Hanada K, Ayabe T, Mezawa H, Konishi M, Saito M, Ohya Y. Risky Health Behaviors of Teenage Mothers and Infant Outcomes in the Japan Environment and Children's Study: A Nationwide Cohort Study. J Pediatr Adolesc Gynecol. 2018 Nov 2. pii: S1083-3188(18)30348-6.
19. Yamamoto-Hanada K, Kobayashi T, Williams HC, Mikami M, Saito-Abe M, Morita K, Natsume O, Sato M, Iwama M, Miyaji Y, Miyata M, Inagaki S, Tatsuki F, Masami N, Nakayama SF, Kido H, Saito H, Ohya Y. Early aggressive intervention for infantile atopic dermatitis to prevent development of food allergy: a multicenter, investigator-blinded, randomized, parallel group controlled trial (PACIStudy)-protocol for a randomized controlled trial. Clin Transl Allergy. 2018 Nov 23;8:47.
20. Konishi M, Tomotaki A, Yamamoto-Hanada K, Mezawa H, Ayabe T, Ishitsuka K, Saito M, Saito H, Ohya Y. Sleep status varies by age among Japanese women during preconception and pregnancy in a nationwide birth cohort study [the Japan Environment and Children's Study (JECS)]. *Sleep and Biological Rhythms* (2018): 1-12.
21. Saito-Abe M, Futamura M, Yamamoto-Hanada K, Yang L,Kohta Suzuki, Ohya Y.Topical corticosteroid phobia among caretakers of children with atopic dermatitis: a cross-sectional study using TOPICOP in Japan. Pediatric Dermatology (2018.Epub ahead of print)

[原著論文:査読なし]

1. 加藤則人, 大矢幸弘, 池田政憲, 海老原全, 片山一朗, 佐伯秀久, 下条直樹, 田中暁生, 中原剛士, 長尾みづほ, 秀 道広, 藤田雄治,藤澤隆夫, 二村昌樹, 益田浩司, 室田浩之, 山本貴和子 アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2018 日皮会誌:128(12), 2431-2502, 2018
2. 加藤則人, 大矢幸弘, 池田政憲, 海老原全, 片山一朗, 佐伯秀久, 下条直樹, 田中暁生, 中原剛士, 長尾みづほ, 秀 道広, 藤田雄治,藤澤隆夫, 二村昌樹, 益田浩司, 室田浩之, 山本貴和子 アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2018 アレルギー:67 (10), 1297-2018, 2018

[症例報告]

和文

1. 吉田明生, 福家辰樹, 齋藤麻耶子, 成田雅美, 大矢幸弘. エスカルゴによる食物依存性運動誘発アナフィラキシーの 1 例. 日本小児臨床アレルギー学会誌 16 巻 1 号 40-44, 2018.

[総説]

欧文

1. Natsume O, Ohya Y: Recent advancement to prevent the development of allergy and allergic diseases and therapeutic strategy in the perspective of barrier dysfunction. Allergol Int. 2018 Jan;67(1):24-31.
2. Yamamoto-Hanada K. Use of acid suppressive medications and antibiotics in young infants is associated with development of allergic disease. J Pediatr. 2018 Nov;202:330-333.

和文

1. 大矢幸弘: アレルギー研究最前線 鶏卵アレルギーの発症予防. 週刊医学のあゆみ, 2018; 265: 822-826. 医師薬出版
2. 大矢幸弘: 食物アレルギーを防ぐための指導 調剤と情報 2018; 24(7): 69-75.
3. 成田雅美: 食物アレルギーとアトピー性皮膚炎 特集食物アレルギーの患者をみんなで支えるためには. 臨床栄養, 2018;132(7):968-973.
4. 大矢幸弘: アレルギー疾患の心身医学ー古典から現代へ 心身医学 58 巻 376-383, 2018
5. 大矢幸弘: アレルギーマーチの予防の可能性 マルホ皮膚科セミナー放送内容集 NO.255, p17-23, 2018
6. 福家辰樹, 大矢幸弘. 離乳期早期の鶏卵摂取は鶏卵アレルギー発症を予防する THE LUNG-perspectives26 巻 3 号, 292-297, 2018.
7. 宮地裕美子 大矢幸弘 小児気管支喘息とその対応 東山書房 健康教室 第 818 集 19-22.2018.
8. 福家辰樹 大矢幸弘 食物アレルギーを知る 食物アレルギー予防 消化器病学サイエンス vol.2, 25-29, 2018.
9. 宮地裕美子, 飯尾美沙, 大矢幸弘 ガイドライン解説「第 6 章 患者教育, 吸入指導」日本小児アレルギー学会誌 第 32 巻第 5 号 813-823, 2018.

[著書]

和文

1. 大矢幸弘: アトピー性皮膚炎. 小児の治療指針 小児科診療 2018 年増刊号, 2018, 246-249.
2. 平岩幹男監修 大矢幸弘・堤ちはる・渡部茂編集: 食と栄養相談 Q&A. 診断と治療社 2018
3. 大矢幸弘:小児薬物療法テキストブック 第二章疾患と薬剤 アトピー性皮膚炎・食物アレルギー じほう 2018: 86-92.
4. 山本貴和子、大矢幸弘: 出生後のアレルギー疾患予防策:スキンケア. : 赤ちゃんとお母さんのためのアレルギー読本 2018 Vol.48 増刊号, 2018, 503-506.

[ガイドライン、報告書、その他]

学会・研究班ガイドライン

1. 「喘息予防・管理ガイドライン 2018」作成委員(大矢幸弘)日本アレルギー学会喘息ガイドライン専門部会監修.喘息予防・管理ガイドライン 2018 協和企画 2018
2. 加藤則人、大矢幸弘、池田政憲、海老原全、佐伯秀久、下条直樹、藤田雄治、片山一朗、田中暁生、中原剛士、長尾みづほ、秀道広、二村昌樹、藤澤隆夫、益田浩司、室田浩之、山本

貴和子. アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2018. 日皮会誌 128; 2431-2502, 2018.

3. 加藤則人, 大矢幸弘, 池田政憲, 海老原全, 片山一朗, 佐伯秀久, 下条直樹, 田中暁生, 中原剛士, 長尾みづほ, 秀 道広, 藤田雄治,藤澤隆夫, 二村昌樹, 益田浩司, 室田浩之, 山本貴和子 アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2018 アレルギー:67 (10), 1297-2018, 2018
4. 新生児-乳児食物蛋白誘発胃腸症 Minds 準拠診療ガイドライン 厚生労働省好酸球性消化管疾患研究班(統括委員長 野村伊知郎、統括委員 大矢幸弘他 SR チーム 福家辰樹 佐藤未織 他)2018.5.25 https://www.egid.jp/index/guideline

[記事]

1. 大矢幸弘: 食物アレルギーなぜ発症 読売新聞 2018.2.7 夕刊
2. 大矢幸弘: 今さら聞けない子育ての「常識」 朝日新聞 2018.3.17 朝刊
3. 山本貴和子: 抗菌薬:乳幼児は服用注意を アレルギー発症率 1.7 倍. :毎日新聞. 2018.5.2 朝刊
4. 山本貴和子: AERA dot."やってはいけない「風邪に抗菌薬」.ママが知っておきたい乳幼児への使い方" 2018.5.30
5. 山本貴和子: yomiDr."抗菌薬、アレルギーと関係「乳幼児の服用慎重に」…国立成育研など発表" 2018.6.19
6. 山本貴和子:メディカルトリビューン. 妊婦中の母親ではスギ花粉、ダニの感作が多い. 2018.7.25.
7. 大矢幸弘 変わる食物アレルギー対応 食べる治療で安全模索 毎日新聞 2018.12.8 朝刊
8. 大矢幸弘 変わる食物アレルギー対応 新常識知って予防・改善を 毎日新聞 2018.12.12 朝刊

[学会発表]

国際学会

1. Yukihiro Ohya Clinical Evidence of Epidermal Barrier Dysfunction in Food Allergy. JSA sister society symposium: Barrier dysfunction in Allergic Diseases. AAAAI/WAO Joint Congress Joint Congress 2018. 3.5 Florida, USA.
2. Yamamoto-Hanada K, Yang L, Ishitsuka K, Ayabe T, Mezawa H, Konishi M, Shoda T, Matsumoto K, Saito H, Ohya Y, Allergic profiles of mothers and fathers in the Japan Environment and Children's Study (JECS): a nationwide birth cohort study. AAAAI/WAO Joint Congress Joint Congress 2018. 3.5 Florida, USA.
3. Miyaji Y , Fukuie T, Narita M, Ohya Y, Matsumoto K, Nomura I: Significant comorbidity of necrotizing enterocolitis with non-IgE-mediated gastrointestinal food allergy in non-premature babies 2018. 3.2 Florida, USA.
4. Inagaki S, Narita M, Nakamura T, Shimosawa T, Murata T, Yukihiro Ohya: Urinary tetranor-PGDM, a metabolite from prostaglandin D_2, could it be a reliable marker to evaluate the effectiveness of oral immunotherapies for children with food allergies? AAAAI/WAO Joint Congress Joint Congress 2018.3.5 Florida, USA.
5. Mitsui M, Yamamoto-Hanada K, Hirota R, Muto G, Nakamura T, Fukutomi Y, Nakamura H, Ohya Y: Daily Products Containing Paraben and Triclosan Use and Allergic Diseases In Tokyo, 2016-2017: a Cross-Sectional Study. AAAAI/WAO Joint Congress Joint Congress 2018.3.3 Florida, USA.
6. Sato M, Yamamoto-Hanada K, Irahara M, Ishikawa F, Mitsui M, Saito M, Miyaji Y, Inagaki S, Fukuie T, Nomura I, Narita N, Ohya Y: Complementary and Alternative Medicine among Children with Atopic Dermatitis. AAAAI/WAO Joint Congress Joint Congress 2018.3.4 Florida, USA.

7. Nomura I, Morita H, Matsuda A, Sato M, Mitsui M, Miyaji Y, Inagaki S, Fukuie T,Narita M, Ohya Y. Elevated serum TSLP, IL-33, 6Ckine and MCP-3 levels in school children or older patients with eosinophilic gastroenteritis. AAAAI/WAO Joint Congress Joint Congress 2018.3.4 Florida, USA.
8. Ohya Y: Meet the Professor: Eczema treatment and prevention of food allergy: 31st Annual Congress of Korean Academy of Pediatric Allergy and Respiratory Disease, 2018. 4. 6. Taegu, Korea.
9. Ohya Y: Plenary lecture: Preventive strategies of atopic dermatitis, food allergy and allergic march: 31st Annual Congress of Korean Academy of Pediatric Allergy and Respiratory Disease. 2018. 4.7. Taegu, Korea.
10. Ohya Y: Session 6 Gaps in evidence: Early introduction of proactive therapy for infantile atopic dermatitis prevents onset of food allergy. International Symposium of Atopic Dermatitis 2018, 2018. 4. 13. Utrecht, Netherlands.
11. Yamamoto-Hanada K, Saito M, Matsumoto M, Saito H, Ohya Y: Eczema and Mental Health Among Pregnant Women in the Japan Environment and Children's Study. ISAD 2018. Utrecht, Netherlands. 2018. 4. 13.
12. Yamamoto-Hanada K, Borres M.P, Åberg.K.M, Yang L, Fukuie T, Narita M, Saito H, and Ohya Y: Allergic profile of the general pediatric population at the ages of five and nine years in Tokyo from a birth cohort . EAACi 2018. Munich, Germany. 2018.5.27.
13. OhyaY: EAACI-JSA Symposium Epidermal barrier dysfunction and food allergy: EAACI 2018, 2018. 5.28. Munich, Germany.
14. Miyaji Y , Fukuie T, Narita M, Yang L, Irahara M, Ishikawa F, Miyata M, Mitsui M, Sato M, Saito M, Inagaki S, Yamamoto-Hanada K, Suda T, Nomura I, Ohya Y: The effectiveness and the safety of tiny dose oral immunotherapy for children with food allergyEAACI 2018. 5.26. Munich, Germany.
15. Inagaki S, Nagao M, Toshiaki Kawano, Yoshinori Azuma, Noriko Nomura, Yasuhiko Noguchi, Hiroshi Odajima, Takao Fujisawa, Yukihiro Ohya, Kenji Izuhara: Serum squamous cell carcinoma antigen-2 (SCCA2) is a reliable biomarker for detecting the clinical severity of atopic dermatitis in children. EAACI 2018. 5.30.Munich, Germany.
16. Fukuie T, Narita M, Yamamoto-Hanada K, Ishikawa F, Irahara M, Mitsui M, Sato S, Miyaji Y, Inagaki S, Saito M, Yang L, Saito H, and Ohya Y: Sensitization to dust mite is associated with an increased risk of high FeNO levels and future onset of asthma: a population-based birth cohort study. EAACI 2018. Munich, Germany. 2018.5.30.
17. Yamamoto-Hanada K, Mitsui M, Hirota R, Muto G, Nakamura T, Fukutomi Y, Nakamura H, Ohya Y: Daily Products Containing Paraben and Triclosan Use and Allergic Diseases In Tokyo, 2016-2017: a Cross-Sectional Study. ISEE/ISES 2018.8.28 Ottawa, Canada.
18. Tadayuki Ayabe, Maki Fukami, Kiwako Yamamoto-Hanada, Hidetoshi Mezawa, Mizuho Konishi, Kazue Ishitsuka, Mayako Saito, Hatoko Sasaki, Miori Sato, Minaho Nishizato, Shin Yamazaki, Takehiro Michikawa, Yukifumi Monden, Nathan Mise, Fujio Kayama, Masayuki Shimono, Koichi Kusuhara, Toshihiro Kawamoto, Masafumi Sanefuji, Kiyoko Kato, Masako Oda, Hiroshi Mitsubuchi, Takahiko Katoh, Hirohisa Saito, and Yukihiro Ohya. Sex hormone levels in young children: a pilot study of the Japan Environment and Children's Study The 57th Annual ESPE Meeting. 28, Sep, 2018. Athens, Greece.
19. Yukihiro Ohya, Yumiko Miyaji, Limin Yang, Kiwako Yamamoto-Hanada, Masami

Narita. Duration of eczema from its onset and the severity were the risk factor of food allergy at 2 years of age. 32nd Symposium of thhe Collegium Internationale Allergologium. 2018. 10.4. Mallorca, Spain.

20. Yamamoto-Hanada K, Kabashima S, Natsume O, Saito M, Narita M, Saito H, Ohya Y and the PETIT study group. Could My Child with Eczema Wean from Proactive Therapy to Reactive Therapy? : a Secondary Analysis of PETIT Study. APAAACI and APAPARI 2018. Bangkok, Thailand. 2018.10.12.
21. Yukihiro Ohya Symposium#6 Recent Advances in Atopic Dermatitis. Barrier dysfunction in atopic dermatitis. APAAACI and APAPARI 2018. Bangkok, Thailand. 2018.10.12.
22. Yukihiro Ohya Symposium#20 Prevention of Allergy and Future Perspective. Use of Emollient in the prevention of atopic dermatitis. APAAACI and APAPARI 2018. Bangkok, Thailand. 2018.10.14.
23. Yukihiro Ohya Symposium#24 How to manage food allergy? Preventing egg allergy, to do or not to do? APAAACI and APAPARI 2018. Bangkok, Thailand. 2018.10.14.
24. Yusuke Inuzuka, Yumiko Miyaji, Tomohisa Ando, Kenji Toyokuni, Koji Nishimura, Hirotoshi Unno, Makoto Irahara, Fumi Ishikawa, Miori Sato, Makiko Miyata, Mayako Saito, Kiwako Yamamoto, Tatsuki Fukuie, Masami Narita, Ichiro Nomura, Yukihiro Ohya. Is it possible to improve the prognosis of remission by continuing oral food challenge even after oral symptoms ?APAAACI and APAPARI 2018. Bangkok, Thailand. 2018.10.14.
25. Toyokuni K, Miyaji Y, Yoshida A, Inuzuka Y, Nishimura K, Unno H, Irahara M, Ishikawa F, Sato M, Miyata M, Saito M, Yamamoto K, Fukuie T, Narita M, Nomura I, Ohya Y: 3-year prognosis of infants with severe protein loss in atopic dermatitis. APAAACI and APAPARI 2018. Bangkok, Thailand. 2018.10.12.
26. M. Sato, K. Yamamoto-Hanada, Y. Inuzuka, K. Toyokuni, K. Nishimura, H.Unno, M. Irahara, F. Ishikawa, M. Miyata, M. Saito, Y. Miyaji, T. Suda, T. Fukuie, I. Nomura, M. Narita, Y. Ohya.Overview of oral food challenge in infants under one year old. APAAACI and APAPARI 2018. Bangkok, Thailand. 2018.10.13.
27. M. Saito-Abe, K. Yamamoto-Hanada, K. Pak, T. Ayabe, H. Mezawa, K. Ishitsuka, M. Konishi, L. Yang, K.Matsumoto, H.Saito, Y. Ohya & the Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Having small for gestational age infants was associated with maternal allergic features in the JECS birth cohort.WISC 2018.Florence,Italy.2018.12.7

[国内学会]

1. 大矢幸弘: 午後の特別プログラム 日本小児アレルギー学会からの鶏卵アレルギー発症予防に関する提言について 第 18 回食物アレルギー研究会 神奈川 2018.2.18
2. 大矢幸弘: 特別講演「アレルギーの発症阻止と食餌療法 ～食べるべきか、避けるべきか～」第 143 回日本小児科学会栃木県地方会, 栃木, 2018.3.19
3. 山本貴和子: シンポジウム 生活用品中のパラベン類によるアレルギー性疾患発症に関する総合的研究. 第 88 回日本衛生学会学術総会, 東京, 2018. 3.28
4. 大矢幸弘: 教育セミナー アレルギーマーチの予防とアトピー性皮膚炎の治療. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.20
5. 大矢幸弘: シンポジウム 食物アレルギー最前線 食物アレルギー予防の最前線 第 34 回日本臨床皮膚科医会総会臨床学術大会, 宮城, 2018.4.29
6. 大矢幸弘: シンポジウム アレルゲンとなる食物タンパクの摂取に関するパラダイムシフト 日本アミノ酸学会第 5 回産官学連携シンポジウム, 東京, 2018.6.18
7. 山本貴和子, 羊利敏, 松本健治, 齋藤博久, 大矢幸弘: ミニシンポジウム 妊娠中の母親と

父親のアレルギープロファイルーこどもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）第 67 回日本アレルギー学会学術大会，千葉, 2018.6.22

8. 石川史，山本貴和子，稲垣真一郎，福家辰樹，成田雅美，藤澤隆夫，赤澤晃，海老澤元宏，斎藤博久，大矢幸弘: アレルギー医療の均てん化促進のための医師のニーズ 第67回日本アレルギー学会学術大会，千葉, 2018.6.22
9. 山本貴和子: シンポジウム 成育コホートからの知見．第 67 回日本アレルギー学会学術大会，千葉 2018.6.23
10. 稲垣真一郎，成田雅美，中村達郎，石川史，苛原誠，佐藤未織，三井元子，齋藤麻耶子，宮田真貴子，宮地裕美子，山本貴和子，福家辰樹，野村伊知郎，村田幸久，大矢幸弘: 小児食物アレルギー患者の免疫療法効果予測としてのプロスタグランジンD2尿中代謝産物の有用性．第 67 回日本アレルギー学会学術大会，千葉, 2018.6.23
11. 大矢幸弘:ステロイドの副作用とエビデンス ~副作用は避けられる 第 42 回日本小児皮膚科学会学術大会シンポジウム 5 東京 2018.7.15
12. 苛原誠，野村伊知郎，安藤友久，石川史，三井元子，佐藤未織，宮地裕美子，稲垣真一郎，福家辰樹，成田雅美，大矢幸弘: アミノ酸乳の導入でも血便が停止せず、治療に難渋した新生児-乳児消化管アレルギーの一例．第 35 回日本小児臨床アレルギー学会，福岡，2018.7.28.
13. 石川史,福家辰樹,佐藤未織,稲垣真一郎,苛原誠,岩間元子,宮地裕美子,野村伊知郎,成田雅美,大矢幸弘:応用行動分析に基づいた家族・医療者の対応が奏功した難治喘息の一例．第 35 回日本小児臨床アレルギー学会，福岡, 2018.7.28.

14. 大矢幸弘 ランチョンセミナー3小児外用療法を見直す～アレルギー療法の変遷と剤形選択の真髄～ 乳幼児期の経皮感作とアレルギーマーチ 第 45 回日本小児臨床薬理学会学術集会、東京、2018.10.7
15. 山本貴和子:シンポジウム 1 アレルギーマーチの源流としてのアトピー性皮膚炎 第55回日本小児アレルギー学会学術大会 2018.10.20 岡山
16. 大矢幸弘 イブニングシンポジウム1 食物アレルギー発症予防へのアプローチ Practical approach to prevention of food allergy. 日本小児アレルギー学会学術大会 2018.10.20 岡山
17. 大矢幸弘 県民公開講座 今すぐできる！ スキンケアと食物アレルギー対策 日本小児アレルギー学会学術大会 2018.10.21 岡山
18. 成田雅美，苛原誠，石川史，岩間元子，佐藤未織，宮地裕美子,稲垣真一郎,宮田真貴子,齋藤麻耶子，山本貴和子，須田友子，福家辰樹，野村伊知郎，大矢幸弘: 重症化したアレルギー患者の背景因子の検討．第 55 回日本小児アレルギー学会，岡山, 2018.10.21.
19. 犬塚祐介、宮地裕美子、安藤友久、豊國賢治、西村幸士、海野浩寿、苛原誠、石川史、佐藤未織、宮田真貴子、斎藤麻耶子、山本貴和子、福家辰樹、成田雅美、野村伊知郎、大矢幸弘:食物経口負荷試験において口周囲症状後も負荷継続することで寛解の予後を改善させられるか。第 55 回日本小児アレルギー学会，岡山, 2018.10.21.
20. 佐藤未織、山本貴和子、犬塚祐介、豊國賢治、西村幸士、海野浩寿、苛原誠、石川史、宮田真貴子、宮地裕美子、齋藤麻耶子、須田友子、福家辰樹、野村伊知郎、成田雅美、大矢幸弘: 乳児期（1 歳未満）に施行された食物経口負荷試験の検討．第 55 回日本小児アレルギー学会，岡山, 2018.10.21.
21. 豊国賢治，宮地裕美子，吉田明生，犬塚祐介，西村幸士，海野浩寿，苛原誠，石川史，佐藤未織，宮田真貴子，齋藤麻耶子，山本貴和子，福家辰樹，成田雅美，野村伊知郎，大矢幸弘: 当院で入院加療を行った低蛋白血症を伴う重症アトピー性皮膚炎乳児の 3 年後の予後についての検討．第 55 回日本小児アレルギー学会，岡山, 2018.10.21
22. Mayako Saito-Abe, Kiwako Yamamoto-Hanada, Fumi Ishikawa, Makoto Irahara, Miori Sato, Motoko Mitsui, Makiko Miyata, Yumiko Miyaji, Shinichiro Inagaki, Tomoko Suda, Tatsuki Fukuie, Ichiro Nomura, Masami Narita, Yukihiro Ohya . The relationship between the Pediatric Adherence Assessment Questionnaire (PAAQ) for asthmatic children and fraction of exhaled nitric oxide (FeNO) . IPAS

第 55 回日本小児アレルギー学会, 岡山, 2018.10.21.

23. 宮地裕美子、成田雅美、福家辰樹、犬塚祐介、豊國賢治、西村幸士、海野浩寿、苛原誠、石川史、佐藤未織、宮田真貴子、齋藤麻耶子、山本貴和子、野村伊知郎、大矢幸弘:食物アレルギー小児における極微量経口免疫療法の効果・安全性について.第 55 回日本小児アレルギー学会, 岡山, 2018.10.21
24. 山本貴和子、齋藤麻耶子、大矢幸弘:アレルギー疾患児をもつ養育者を対象としたアレルギー予防に関する意識調査. 第 77 回日本公衆衛生学会総会, 福島, 2018.10.26
25. 山本貴和子、齋藤麻耶子、二村昌樹、大矢幸弘:アレルギー疾患児をもつ養育者を対象としたアレルギー予防に関する意識調査. 第 20 子ども健康科学会学術大会, 千葉, 2018.12.8
26. 石川史、福家辰樹、犬塚祐介、豊國賢治、西村幸士、苛原誠、齋藤麻耶子、佐藤未織、宮地裕美子、山本貴和子、野村伊知郎、成田雅美、大矢幸弘:換気不全による湿気の影響と気管支喘息、アレルギー性鼻炎の症状の関連が示唆された一例. 第 20 子ども健康科学会学術大会, 千葉, 2018.12.8

[講演・その他]

1. 大矢幸弘:アレルギーマーチの根幹にあるアトピー性皮膚炎と食物アレルギーの克服に向けて 第 26 回関東アレルギークラブ, 東京, 2018.1.13
2. 山本貴和子:乳幼児のためのアレルギー教室. 中野区鷺沼保健所, 東京, 2018.1.16
3. 大矢幸弘:赤ちゃんから思春期までできるスキンケアとアレルギー対策, 大阪, 2018.1.20
4. 大矢幸弘:小児アトピー性皮膚炎の治療と関連疾患への影響. 和歌山小児科医会学術講演会, 和歌山, 018.1.20
5. 大矢幸弘:食物アレルギーの予防はアトピー性皮膚炎の治療から. 第 14 回アラジーポット学びの場講演会, 東京, 2018.2.11
6. 大矢幸弘:特別講演 小児アレルギー疾患の発症予防とアレルギーマーチの阻止. 第 71 回静岡小児アレルギー研究会, 静岡, 2018.2.17
7. 大矢幸弘:特別講演 アトピー性皮膚炎の治療と鶏卵アレルギー発症予防について. 第 422 回相模原市医師会小児科医会月齢懇話会, 神奈川, 2018.2.21
8. 大矢幸弘:特別講演① 小児アトピー性皮膚炎の予防・治療と関連疾患への影響 南大阪アトピー性皮膚炎フォーラム 大阪 2018.2.22
9. 大矢幸弘:大きく変わったアレルギー疾患予防の常識 ～エビデンスに基づく治療を普及させよう～. 神奈川, 2018.3.15
10. 大矢幸弘:特別講演 経皮感作を防ぐスキンケアとアトピー性皮膚炎の治療方法について. 奈良県小児科 医会学術講演会, 奈良, 2018.3.18
11. 大矢幸弘:新生児の皮膚トラブルとその後のアレルギー発症に関する研究の動向. 第 24 回シフラの会, 東京, 2018.4.25
12. 山本貴和子:食物アレルギーとその対応について. 世田谷区新 BOP 職員研修, 東京, 2018.5.24
13. 大矢幸弘:特別講演 アトピー性皮膚炎の治療ならびに鶏卵アレルギー発症予防の提言について. 第 44 回厚木市皮膚科医会例会 神奈川 2019.5.17
14. 大矢幸弘:特別講演 食物アレルギーの予防とアトピー性皮膚炎を寛解に導く対策. 平成 30 年度沖縄県小児保健学会・定時総会, 沖縄, 2018.6.2
15. 大矢幸弘:経皮感作で発症するアレルギーがもたらしたパラダイムシフト. 茨城県小児保険学会, 茨城, 2018.6.13
16. 大矢幸弘:小児アレルギー診療の最近の動向 鶏卵アレルギー発症予防に関するコンセンサスステートメント 2017 キーエッセンス 小児喘息アレルギーセミナー2018 東京 2018.7.1
17. 大矢幸弘 特別講演 小児アトピー性皮膚炎の予防・治療と関連疾患への影響 第 37 回秋田賞にアレルギー研究会 秋田 2018.7.21
18. 山本貴和子:平成 30 年度千代田区第 1 回アレルギー予防教室, 東京, 2018.07.23 大矢幸弘: 特別講演 食物アレルギーの予防とアトピー性皮膚炎への対策 第 478 回福岡地区小児科医会(丹々会) 福岡 2018.7.25

19. 大矢幸弘:教育講演　アレルギー診療に応用する行動科学とチーム医療　第 35 回日本小児臨床アレルギー学会　福岡　2018.7.29
20. 大矢幸弘　経皮感作とアレルギーマーチの最新の話題　皮膚バリア 2018ーヒルドイドの適正使用を目指してー　東京　2018.9.17
21. 山本貴和子:乳幼児のためのやさしいアレルギー教室. 中野区鷺沼保健所. 東京. 2018.09.27
22. 大矢幸弘　特別講演　早期対策でアレルギーはどこまで予防できるか？　第 11 回愛知アレルギー・免疫療法研究会　愛知　2018.11.3
23. 山本貴和子:抗菌薬とアレルギー疾患の関連について. 第 4 回院内感染対策研修会. 東京 2018.11.19
24. 大矢幸弘　乳児期からはじめるアレルギー予防　つくば市アレルギースキンケア講演会　茨城 2018.11.30

4-1-14 実験動物管理室

1. Bcl-2-associated athanogene 3 (BAG3) is an enhancer of small heat shock protein turnover via activation of autophagy in the heart.
Inomata Y, Nagasaka S, Miyate K, Goto Y, Hino C, Toukairin C, Higashio R, Ishida K, Saino T, Hirose M, Tsumura H, Sanbe A. Biochem Biophys Res Commun. 2018 Feb 19;496(4):1141-1147.

4-1-15 ラジオアイソトープ管理室/移植免疫研究室

【研究業績】

［原著論文：査読付（Reviewed Paper）］（欧文、和文の順に、*Corresponding author）
1. Liu C, Yang X, Zhu P, Fujino M, Ito H, Takahashi K, Nakajima M, Tanaka T, Wang J, Zhuang J, Zou HJ, Li Xiao K*. Combination of 5-aminolaevulinic acid and iron prevents skin fibrosis in murine sclerodermatous grafts-versus-host disease. Experimental Dermatology 27(10): 1104-1111; 2018.
2. Li S, Fujino M, Ichimaru N, Kurokawa R, Hirano S, Mou L, Takahara S, Takahara T, Li Xiao K*. Molecular hydrogen protects against ischemia-reperfusion injury in a mouse fatty liver model via regulating HO-1 and Sirt1 expression. Scientific Reports 8(1): 14019; 2018.
3. Ito H, Nishio Y, Hara T, Sugihara H, Tanaka T, Li Xiao K. Oral administration of 5-aminolevulinic acid induces heme oxygenase-1 expression in peripheral blood mononuclear cells of healthy human subjects in combination with ferrous iron. European Journal of Pharmacology 833: 25-33; 2018.
4. Hatayama N, Hirai S, Naito M, Terayama H, Araki J, Yokota H, Matsushita M, Li Xiao K, Itoh M. Preservation of rat limbs by hyperbaric carbon monoxide and oxygen. Scientific Reports 8(1): 6627; 2018.
5. Joyce D, Fujino M, Morita M, Araki R, Fung J, Qian S, Lu L, Li Xiao K*. Induced pluripotent stem cells-derived myeloid-derived suppressor cells regulate the $CD8^+$ T cell response. Stem Cell Research 29:32-41; 2018.
6. Cheng XY, Li SY, Mao CJ, Wang MX, Chen J, Wang F, Wang GH, Deng WB, Li Xiao K, Liu CF. Serum Response Factor Promotes Dopaminergic Neuron Survival via Activation of Beclin 1-Dependent Autophagy. Neuroscience 371:288-295; 2018.
7. Zhou WC, Wang Y, Fujino M, Shi LM, Jin L, Li Xiao K*, Wang JC. A standardized fold change (SFC) method for microarray differential expression analysis used to reveal genes involved in acute rejection in murine allograft models. FEBS Open Biology 8(3): 481-490; 2018.

［原著論文：査読なし］（欧文、和文の順に）
なし

[症例報告]（欧文、和文の順に）
なし

［総説］（欧文、和文の順に）
1.Li S, Fujino M, Takahara T, Li Xiao K*. Protective role of heme oxygenase-1 in fatty liver ischemia-reperfusion injury. Medical Molecular Morphology Aug 31. 2018.
2.Zhao M, Yang M, Que W, Zhong L, Fujino M, Li Xiao K. Myeloid heme oxygenase-1: a new therapeutic target in anti-inflammation. Front Biosci. 23:2001-2015; 2018.

[著書]（欧文、和文の順に）
なし

[ガイドライン、報告書、その他]（学会・研究班ガイドライン、研究班報告書、刊行物等）（欧文、和文の順に）
なし

[学会発表]（国際学会、国内学会の順に）

1. Ito H, Nishio Y, Hara T, Sugihara H, Tanaka T, Li Xiao K. Oral administration of 5-aminolevulinic acid in combination with ferrous iron induces heme oxygenase-1

expression in peripheral blood mononuclear cells of healthy human subjects. 6th International ALA and Porphyrin Symposium. Fukuroi. 2018.10.27.

【公的研究費】

［代表研究者］
1.文部科学省科学研究費補助金　基盤研究（B）
抗原特異的な移植免疫寛容を誘導するための自然・獲得免疫時空間ネットワークの構築(390 万円)

2.文部科学省科学研究費補助金　特別研究員奨励費
新規急速液体凍結法「凍眠」を用いた移植用臓器保存法の確立およびその機序の解明(120 万円)

3.成育医療研究開発費
シングル細胞遺伝子発現解析による臓器移植後免疫寛容状態情報の構築(330 万円)

［分担研究者］

1.文部科学省科学研究費補助金　基盤研究（B）（代表研究者：張替秀郎）(40 万円)
遺伝性鉄芽球性貧血の病態解明、新規治療法の開発に向けた国際共同研究

2.文部科学省科学研究費補助金　基盤研究（C）（代表研究者：藤野真之）(70 万円)
炎症制御による移植免疫寛容の確立

3.文部科学省科学研究費補助金　基盤研究（C）（代表研究者：高原照美）(10 万円)
Met シグナルを介した NASH の抗体医薬療法の開発

4.文部科学省科学研究費補助金　基盤研究（C）（代表研究者：阪本靖介）(30 万円)
肝移植における虚血再灌流障害に対する水素水の効果と細胞動態イメージング評価

5.文部科学省科学研究費補助金　基盤研究（C）（代表研究者：市丸直嗣）(20 万円)
抗 CD70 抗体を用いた臓器移植における次世代免疫抑制療法の開発

6.文部科学省科学研究費補助金　挑戦的萌芽研究（代表研究者：坪井康次）(30 万円)
陽子線照射でがん免疫も賦活する「がん陽子線・在所ワクチン療法」の開発

7.成育医療研究開発費
小児臓器移植医療の標準化・次世代育成に関する研究（代表研究者：笠原群生）(30 万円)

【特許】
臓器保存液 (特許第 6292640 号); 登録日:2018.2.23.

【その他（教育・広報など）】

［教育活動］
首都大学東京特任教授(H30.10.1～)
鄭州大学付属第一病院兼職教授(H30.11.1～)

［社会活動］
特になし

［研究所運営への貢献］
　放射線取扱主任者、放射線安全委員会委員、麻薬・毒劇物等管理委員会委員、倫理予備審査委員会委員

【その他】
　特になし

4-1-16 マススクリーニング研究室

[原著論文:査読付] (Reviewed Paper)

1. 但馬剛, 後藤温子, 前田堂子, 相﨑潤子, 志村明子, 小澤仁子, 中島英規: マススクリーニング検査の外部精度管理:現状と改革の方向性. 日本マススクリーニング学会誌. 2018; 28(3): 229-234

[症例報告]

1. 岡崎咲栄, 立石浩, 原圭一, 但馬剛, 内田正志: 性線モザイク発生によると考えられるOTC欠損症の女児例. 日本小児科学会雑誌. 2018; 122(6): 1043-1046
2. 李知子, 山本和宏, 起塚庸, 山田健治, 小林弘典, 湯浅光織, 重松陽介, 原圭一, 但馬剛, 竹島泰弘: 新生児スクリーニングで異常を認めず、横紋筋融解症を機にカルニチンパルミトイルトランスフェラーゼ 2(CPT2)欠損症と診断された幼児例. 日本マススクリーニング学会誌. 2018; 28(3): 253-260

[総説]

1. Tajima G, Hara K, Yuasa M: Carnitine palmitoyltransferase II deficiency with a focus on newborn screening. Journal of Human Genetics. 2018 Dec 4. doi: 10.1038/s10038-018-0530-z
2. 重松陽介, 但馬剛: CPT2 欠損症の一次対象疾患化に向けて. 日本マススクリーニング学会誌 2018; 27(3): 245-250

[著書]

1. 但馬剛, 原圭一: 小児疾患の診断治療基準(第 5 版):有機酸代謝異常症. 小児内科 2018; 50(増): 164-165

[学会発表]

1. Tajima G, Hara K, Tsumura M, Kagawa R, Okada S, Yuasa M, Hata I, Shigematsu Y, Yamaguchi S: Newborn screening for carnitine palmitoyltransferase II deficiency in Japan using (C16 + C18:1)/C2 and C14/C3. Society for the Study of Inborn Errors of Metabolism (SSIEM) Annual Symposium 2018, Athens, 2018.9.4-7
2. Hara K, Tajima G, Kagawa R, Okada S: Newborn screening for VLCAD deficiency: risk assessment of positive subjects by genetic and enzymatic study. Society for the Study of Inborn Errors of Metabolism (SSIEM) Annual Symposium 2018, Athens, 2018.9.4-7
3. Yuasa M, Hata I, Sugihara K, Isozaki Y, Shigematsu Y, Ohshima Y, Tsumura M, Kagawa R, Okada S, Hara K, Tajima G: Investigation of the beta-oxidation process in MCAD-deficient patients with normal enzyme activity. Society for the Study of Inborn Errors of Metabolism (SSIEM) Annual Symposium 2018, Athens, 2018.9.4-7
4. Sasai H, Ago Y, Otsuka H, Hosokawa J, Fujiki R, Ohara O, Nakajima Y, Ito T, Hara K, Kobayashi M, Tajima G, Sakamoto O, Matsumoto S, Nakamura K, Hamazaki T, Kobayashi H, Hasegawa Y, Fukao T: Gene panel study for target metabolic diseases in newborn mass screening. Society for the Study of Inborn Errors of Metabolism (SSIEM) Annual Symposium 2018, Athens, 2018.9.4-7
5. 但馬剛: マススクリーニング検査の外部精度管理:現状と改革の方向性. 第 45 回日本マススクリーニング学会学術集会, ワークショップ:新生児マススクリーニングの「質の担保」. さいたま市, 2018.8.17
6. 但馬剛: 前田康博. プロピオン酸血症における遺伝子診断の意義. 第 45 回日本マススクリーニング学会学術集会, シンポジウム1:代謝性疾患マススクリーニング診療における遺伝子検査の重要性(意義). さいたま市, 2018.8.17
7. 国内学会一般演題発表 21 題(第 60 回日本先天代謝異常学会 12 題, 第 45 回日本マススクリーニング学会 6 題, 第 63 回日本人類遺伝学会 2 題, 第 24 回日本 SIDS・乳幼児突然死予防学会 1 題)

[講演]

1. 但馬剛: 先天代謝異常症の新生児マススクリーニング:「ガスリー」から「タンデムマス」へ. 第 145 回熊本小児科学会(教育講演), 熊本市, 2018.6.17
2. 但馬剛: 先天代謝異常症の新生児マススクリーニング:「ガスリー」から「タンデムマス」へ. 第 24 回山形小児内分泌・代謝研究会(特別講演), 山形市, 2018.7.6
3. 但馬剛: タンデムマス・スクリーニングと二次検査. 第 14 回日本先天代謝異常学会セミナー, 東京都, 2018.7.14

[医療・社会への貢献]

1. 但馬 剛: 日本先天代謝異常学会による NBS 対象疾患の診療ガイドライン改訂 有機酸代謝異常症全体の責任者およびプロピオン酸血症の改訂を担当
2. 但馬 剛: 担当医療者向けの手引き資料「CPT2 欠損症の診療に関わっておられる方へ－危険な急性発症を防ぐために」を作成（全国の主な小児医療機関 161 施設に配布/ウェブサイトに PDF 版を掲載 http://nrichd.ncchd.go.jp/massscreening/original/reference.html）
3. 但馬剛：PCT 出願(PCT/JP2018/009326), 台湾出願(107108239)「アンチセンスオリゴヌクレオチドおよび糖原病Ia型予防または治療用組成物」 発明者 但馬剛・岡田賢・津村弥来, 出願人 国立研究開発法人国立成育医療研究センター・国立大学法人広島大学

4-1-17 小児慢性特定疾病情報室

［原著論文:査読付］

［原著論文:査読なし］

［症例報告］

［総説］

［著書］

［ガイドライン、報告書、その他］

1. 盛一享徳、横谷進、大竹明、森臨太郎. 平成 30 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業))分担研究報告「小児慢性特定疾病の状態の程度の検討－小児慢性特定疾病への国際生活機能分類の概念導入の試み－」総括報告書 p21-55.
2. 盛一享徳、横谷進、大竹明、森臨太郎. 平成 30 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業))分担研究報告「神奈川県国民健康保険診療報酬明細書データの特徴に関する研究」総括報告書 p57-60.
3. 盛一享徳、横谷進、大竹明、森臨太郎. 平成 30 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業))分担研究報告「神奈川県国民健康保険診療報酬明細書データを用いた小児慢性特定疾病の公費負担の実情に関する研究」総括報告書 p57-73.
4. 盛一享徳、横谷進. 平成 30 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業))分担研究報告「小児慢性特定疾病に対する ICD-10 コード附番に関する検討」総括報告書 p85-109.
5. 盛一享徳. 平成 30 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業))分担研究報告「「小児慢性特定疾病情報センター」ポータルウェブサイトの利用状況と情報発信のあり方に関する検討」総括報告書 p185-190.
6. 盛一享徳. 平成 30 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業))分担研究報告「小児慢性特定疾病指定医の研修プログラム(e-learning)の構築及び運用の検討」総括報告書 p191-203.
7. 盛一享徳. 平成 30 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業補助金「子どもの適切な生活習慣形成等に関する調査研究」報告書.

8. 盛一享徳. 平成 30 年度厚生労働科学研究費補助金疾病・障害対策研究分野成育疾患克服等次世代育成基盤研究補助金 分担研究「早産低出生体重児の成長・発達評価に関する調査」総括報告書 p50-56.

［学会発表］

1. 謝花 幸祐, 杉田 侑子, 岡本 奈美, 盛一 享徳, 掛江 直子, 森 臨太郎, 賀藤 均. 小児慢性特定疾患治療研究事業データを利用した各地域及び病院における診療実態の検討. 第 28 回日本小児リウマチ学会総会・学術集会(2018 年 10 月 26 日～28 日、東京).
2. 盛一享徳. Natural Language Processing(NLP)を利用した病名収集の試み. 第 44 回日本診療情報管理学会学術大会(2018 年 9 月 20 日～21 日、新潟)
3. 岡崎 哲也, 粟屋 智就, 林 雅晴, 小牧 宏文, 盛一 享徳, 掛江 直子. 結節性硬化症データを用いた小児慢性特定疾病対策登録データの有用性の検討. 第 60 回日本小児神経学会学術集会(2018 年 5 月 31 日～6 月 2 日、千葉)
4. 盛一享徳, 柏﨑ゆたか, 森本康子, 横谷進. 小児慢性特定疾病登録の地域差に関する検討. 第 121 回日本小児科学会学術集会(平成 30 年 4 月 22 日、福岡)
5. 盛一享徳. 総合シンポジウム 2 データに基づく将来を見据えた小児医療提供体制:病院調査から

見る小児医療の変遷. 第 121 回日本小児科学会学術集会（平成 30 年 4 月 20 日、福岡）

4-1-18 高度先進医療研究室

2018

1) Imadome KI,Higuchi H, Yamakawa N, Yahata T, Kotaki R, Ogata J, et al. Role of exosomes as a proinflammatory mediator in the development of EBV-associated lymphoma. Blood. 2018;131(23):2552-67.
2) Hoshino A, Tanita K, Kanda K, Imadome KI, Shikama Y, Yasumi T, et al. High frequencies of asymptomatic Epstein-Barr virus viremia in affected and unaffected individuals with CTLA4 mutations. Clin Immunol. 2018;195:45-8.
3) Koizumi Y, Imadome KI, Ota Y, Minamiguchi H, Kodama Y, Watanabe D, et al. Dual Threat of Epstein-Barr Virus: an Autopsy Case Report of HIV-Positive Plasmablastic Lymphoma Complicating EBV-Associated Hemophagocytic Lymphohistiocytosis. J Clin Immunol. 2018;38(4):478-83.
4) Nakanishi K, Kaito H, Ogi M, Takai D, Fujimura J, Horinouchi T, et al. Three Severe Cases of Viral Infections with Post-Kidney Transplantation Successfully Confirmed by Polymerase Chain Reaction and Flow Cytometry. Case Rep Nephrol Dial. 2018;8(3):198-206.
5) Okazaki K, Imadome KI, Nakao H, Miyairi I, Ishiguro A. Quantitative PCR Assays of Cytomegalovirus and Epstein-Barr Virus in Hemophagocytic Lymphohistiocytosis. Indian J Pediatr. 2018;85(7):593-4.
6) Tokoro S, Namiki T, Miura K, Watanabe K, Arai A, Imadome K, et al. Chronic active Epstein-Barr virus infection with cutaneous lymphoproliferation: haemophagocytosis in the skin and haemophagocytic syndrome. J Eur Acad Dermatol Venereol. 2018;32(3):e116-e7.
7) Onozawa E, Shibayama H, Takada H, Imadome KI, Aoki S, Yoshimori M, et al. STAT3 is constitutively activated in chronic active Epstein-Barr virus infection and can be a therapeutic target. Oncotarget. 2018;9(57):31077-89.
8) Yoshida M, Osumi T, Imadome KI, Tomizawa D, Kato M, Miyazawa N, et al. Successful treatment of systemic EBV positive T-cell lymphoma of childhood using the SMILE regimen. Pediatr Hematol Oncol. 2018;35(2):121-4.
9) Yoshimori M, Imadome KI, Tomii S, Yamamoto K, Miura O, Arai A. [Cerebrospinal fluid findings in chronic active Epstein-Barr virus infection with central nervous system involvement]. Rinsho Ketsueki. 2018;59(4):367-72.
10) Toriihara A, Arai A, Nakadate M, Yamamoto K, Imadome KI, Miura O, et al. FDG-PET/CT findings of chronic active Epstein-Barr virus infection. Leuk Lymphoma.

2018;59(6):1470-3.

4-1-19 視覚科学研究室

[原著論文:査読付](Reviewed Paper)

1. Hosono K, Nishina S, Yokoi T, Katagiri S, Saitsu H, Kurata K, Miyamichi D, Hikoya A, Mizobuchi K, Nakano T, Minoshima S, Fukami M, Kondo H, Sato M, Hayashi T, Azuma N, Hotta Y. Molecular diagnosis of 34 Japanese families with Leber congenital amaurosis using targeted next generation sequencing. Sci Rep. 2018 May 29;8(1):8279. doi: 10.1038/s41598-018-26524-z.
2. Wakayama A, Nishina, S, Miki A, Utsumi T, Sugasawa J, Hayashi T, Sato M, Kimura A, Fujikado T. Incidence of side effects of topical atropine sulfate and cyclopentolate hydrochloride for cycloplegia in Japanese children:a multicenter study. Jpn J Ophthalmol, 2018 DOI 10.1007/s10384-018-0612-7
3. Yoshida T, Nishina S, Matsuoka M, Akaike S, Ogonuki S, Yokoi T, Azuma N. Pediatric strabismus cases possibly related to excessive use of information and communication technology devices. Advances in strabismus, 13th Meeting of the International Strabismological Association. Joint Meeting with the Annual Meeting of the American Association for Pediatric Ophthalmology and Strabismus. Washington, DC, USA, 18-22 March 2018.
4. Takahashi M, Yokoi T, Katagigi S, Yoshida-Uemura T, Nishina, S, Azuma N. Surgical treatments for fibrous tissue extending to the posterior retina in eyes with familial exudative vitreoretinopathy. Jpn J Ophthalmol, 2018 Jan; 62(1): 63-67.
5. 吉田朋世、仁科幸子、松岡真未、萬束恭子、赤池祥子、越後貫滋子、横井匡、東範行：Information and Communication Technology 機器の使用が契機と思われた小児斜視症例. 眼臨紀 11 (1): 61-66, 2018.
6. 太刀川貴子, 武井正人, 清田眞理子, 齋藤雄太, 東範行, 仁科幸子, 丸子一朗, 根岸貴志, 野田英一郎, 大熊康弘, 吉田圭, 藤巻拓郎, 松本直, 渡邊恵美子, 齋藤誠：低出生体重児における未熟児網膜症：東京都多施設研究. 日眼会誌 122 巻 2 号 p103-113, 2018
7. 佐藤美保、加藤光広、田島敏広、川村孝、仁科幸子、根岸貴志、柿原寛子、初川嘉一、松村望、三木淳司、寺井朋子、横山利幸、森田由香、三原美晴、野村耕治、富田香、林思音、磯貝正智、堀田喜裕：中隔視神経異形成症の眼科診療に関する研究. 眼臨紀 11 (5): 395-400, 2018.

[原著論文:査読なし]

[症例報告]

[総説]

1. 仁科 幸子：乳幼児の新しい視覚スクリーニング—簡便で正確な検査装置の導入—. 日本医師会雑誌 147 (8): 1628-1629, 2018.
2. 吉田 朋世、仁科幸子：内斜視. 眼科 Vol.60 臨時増刊号 主訴と所見からみた眼科 common disease, p1157-1162, 2018

[著書]

1. 仁科幸子：未熟児網膜症—眼底検査法と写真撮影法. リハビリテーション・ロービジョンケア. 類縁疾患. 未熟児網膜症, 東範行編、三輪書店、東京, 2018

[ガイドライン、報告書、その他]

1. 仁科幸子：乳幼児健康診査身体診察マニュアル：標準的な乳幼児健診に関する調査検討委員会（2018 年 3 月）眼科的記述を担当
2. 仁科幸子、東 範行：小児科医向け Spot Vision Screener 運用マニュアル Ver.1：日本弱視斜視学会・日本小児眼科学会（2018 年 7 月）

[学会発表]

1. Nishina S, Yokoi T, Yoshida T, Fukami M, Hosono K, Kurata K, Hotta Y, Azuma N. OCT and ERG initial findings in Leber congenital amaurosis and genetic analysis. 44rd Annual Meeting, American Association for Pediatric Ophthalmology and Strabismus, Washington DC, USA, 2018.3
2. Yoshida T, Nishina S, Matsuoka M, Akaike S, Ogonuki S, Yokoi T, Azuma N. Pediatric strabismus cases possibly related to excessive use of information and communication technology devices. XIIIed meeting of the ISA , Washington DC, USA, 2018.3
3. 片桐聡、横井匡、吉田朋世、仁科幸子、東範行. 家族性滲出性硝子体網膜症に伴う裂孔原性網膜剥離における網膜裂孔の特徴と手術成績. 第 57 回日本網膜硝子体学会総会，京都，2018.12
4. 仁科幸子、細野克博、横井匡、吉田朋世、深見真紀、堀田喜裕、東範行. *CACNAIF* 遺伝子変異を同定した Leber 先天黒内障の 1 例. 第 57 回日本網膜硝子体学会総会, 京都, 2018.12
5. Ogawa H, Nishina S, Yokoi T, Tanaka S, Nakao S, Yoshida T, Fukami M, Hosono K, Hotta Y, Azuma N. Six cases of Leber congenital amaurosis associated with Coats-like vasculopathy. Distinguished Papers Symposium, 第 57 回日本網膜硝子体学会，京都，2018.12
6. 大久保陽子、中馬秀樹、仁科幸子. 先天性動眼神経麻痺に伴った周期性瞳孔けいれんと思われた一例. 第 56 回日本神経眼科学会総会，神戸，2018.12
7. 石井杏奈、仁科幸子、松岡真未、三井田千春、赤池祥子、新保由紀子、越後貫滋子、吉田朋世、横井匡、東範行. 眼器質疾患をもつ低年齢児に対する Spot Vision Screener 検査. 第 59 回日本視能矯正学会，横浜，2018.11
8. 仁科幸子. Leber 先天盲. シンポジウム 6 小児網膜変性疾患の病態と診断. 第 72 回日本臨床眼科学会，東京，2018.10
9. 堤典子、仁科幸子、吉田朋世、横井匡、東範行. 周期性斜視 7 例の臨床像と治療経過. 第 72 回日本臨床眼科学会，東京，2018.10
10. 仁科幸子. 小児の神経眼科. インストラクションコース 17 やさしい神経眼科. 第 72 回日本臨床眼科学会，東京，2018.10
11. 松岡真未、仁科幸子、石井杏奈、三井田千春、赤池祥子、新保由紀子、越後貫滋子、吉田朋世、横井匡、東範行. 低年齢児における Spot Vision Screener の屈折異常判定の検討. 第 74 回日本弱視斜視学会総会，倉敷，2018.7
12. 田中慎、仁科幸子、中尾志郎、吉田朋世、横井匡、東範行. 斜位近視を契機に発見された小脳腫瘍の小児例. 第 74 回日本弱視斜視学会総会，倉敷，2018.7
13. 仁科幸子. 新型レチノマックスの変更点. ランチョンセミナー 1 : 新型レチノマックス　どう変わった？ 第 74 回日本弱視斜視学会総会，倉敷，2018.7
14. 田中慎、片桐聡、横井匡、林孝彰、仁科幸子、門之園一明、東範行. 両眼の胞状網膜分離を示した X 染色体連鎖網膜分離症の男児の一例. 第 66 回日本臨床視覚電気生理学会，浜松，2018.9
15. 仁科幸子. 小児白内障の検査. 教育セミナー1 小児白内障・緑内障の検査と治療. 第 122 回日本眼科学会総会，大阪，2018.4
16. 細野克博、仁科幸子、横井匡、片桐聡、倉田健太郎、宮道大督、溝渕圭、中野匡、簑島伸生、深見真紀、近藤寛之、佐藤美保、林孝彰、東範行、堀田喜裕. 日本人 Leber 先天盲の次世代シークエンサーによる遺伝子変異解析. 第 122 回日本眼科学会総会，大阪，2018.4
17. 中尾志郎、仁科幸子、田中慎、羅秀玉、吉田朋世、横井匡、東範行. 乳児期に重篤な網膜症を合併した色素失調症の 3 例. 第 43 回日本小児眼科学会総会，名古屋，2018.3
18. 三井田千春、仁科幸子、石井杏奈、松岡真未、赤池祥子、新保由紀子、越後貫滋子、吉田朋世、横井匡、東範行. 低年齢児における Spot Vision Screener の有用性. 第 43 回日本小児眼科学会総会，名古屋，2018.3
19. 仁科幸子. 乳幼児の眼底に先天異常をみつけたら? 講習会 これで完璧　先天網膜疾患のすべて第 43 回日本小児眼科学会総会，名古屋，2018.3

[講演]

1. 仁科幸子. 乳幼児健診において小児科医が知っておくべき眼疾患とその対応. 大阪小児科医会第 7 回成育医療研修会, 大阪, 2018.4
2. 仁科幸子. 見逃しに注意;小児眼科医からのアドバイス. 乳幼児健診を中心とする小児科医のための研修会 PartⅢ～一歩進んだ乳幼児健診を目指して～, 東京, 2018.6
3. 仁科幸子. 乳幼児の気をつけたい目の病気. 母子保健相談員研修会, 東京, 2018.6
4. 仁科幸子. 視機能の発達・小児によくみられる眼疾患. 母子愛育会 地域母子保健 3 乳幼児期に見られる諸問題, 東京, 2018.7
5. 仁科幸子. 乳幼児に対するスポットビジョンスクリーナー:小児科と眼科のよりよい連携のために. 第 28 回日本外来小児科学会 学術集会 LS11, 東京, 2018.10
6. 仁科幸子. 乳幼児健診アップデートー小児科医と眼科医の連携のためにー. 第 8 回静岡県眼科アップデートセミナー, 静岡, 2018.10
7. 仁科幸子. 0 歳から見つけたい！小児眼疾患. Tokyo Ophthalmology Club, 東京, 2018.10
8. 仁科幸子. 0 歳から見つけたい！小児眼科疾患. 第 28 回青森眼科セミナー, 青森, 2018.11

[広報活動]

1. 仁科幸子:子どもの弱視. 小児科診療サポート DVD, MSD 社

4-1-20 再生医療センター(細胞医療研究部・生殖医療研究部)

[原著論文:査読付](Reviewed Paper)

1. Iwai M, Harada Y, Miyabayashi R, Kang W, Nakamura A, Kawano N, Miyamoto Y, Yamada M, Hamatani T, Miyado M, Yoshida K, Saito H, Tanaka M, Umezawa A, Miyado K: Chemotactic behavior of egg mitochondria in response to sperm fusion in mice. Heliyon 2018; 4:e00944
2. Seko Y, Iwanami M, Miyamoto-Matsui K, Takita S, Aoi N, Umezawa A, Kato S: The manner of decay of genetically defective EYS gene transcripts in photoreceptor-directed fibroblasts derived from retinitis pigmentosa patients depends on the type of mutation. Stem Cell Res Ther 2018; 9:279
3. Iso Y, Usui S, Toyoda M, Spees JL, Umezawa A, Suzuki H: Bone marrow-derived mesenchymal stem cells inhibit vascular smooth muscle cell proliferation and neointimal hyperplasia after arterial injury in rats. Biochem Biophys Rep 2018; 16:79-87
4. Yasuda S, Kusakawa S, Kuroda T, Miura T, Tano K, Takada N, Matsuyama S, Matsuyama A, Nasu M, Umezawa A, Hayakawa T, Tsutsumi H, Sato Y: Tumorigenicity-associated characteristics of human iPS cell lines. PLoS One 2018; 13:e0205022
5. Nakamura A, Kawano N, Motomura K, Kuroda A, Sekiguchi K, Miyado M, Kang W, Miyamoto Y, Hanai M, Iwai M, Yamada M, Hamatani T, Saito T, Saito H, Tanaka M, Umezawa A, Miyado K: Degradation of phosphate polymer polyP enhances lactic fermentation in mice. Genes Cells 2018; 23:904-914
6. Ito C, Yamatoya K, Yoshida K, Fujimura L, Sugiyama H, Suganami A, Tamura Y, Hatano M, Miyado K, Toshimori K: Deletion of Eqtn in mice reduces male fertility and sperm–egg adhesion. Reproduction 2018; pii: REP-18-0394.
7. Sakai T, Naito AT, Kuramoto Y, Ito M, Okada K, Higo T, Nakagawa A, Shibamoto M, Yamaguchi T, Sumida T, Nomura S, Umezawa A, Miyagawa S, Sawa Y, Morita H, Lee JK, Shiojima I, Sakata Y, Komuro I: Phenotypic Screening Using Patient-Derived Induced Pluripotent Stem Cells Identified Pyr3 as a Candidate Compound for the Treatment of Infantile Hypertrophic Cardiomyopathy. Int Heart J 2018; 59:1096-1105
8. Nishino K, Arai Y, Takasawa K, Toyoda M, Yamazaki-Inoue M, Sugawara T, Akutsu H, Nishimura K, Ohtaka M, Nakanishi M, Umezawa A: Epigenetic-scale comparison of human iPSCs generated by retrovirus, Sendai virus or episomal vectors. Regen Ther 2018; 9:71-78
9. Kang W, Ishida E, Yamatoya K, Nakamura A, Miyado M, Miyamoto Y, Iwai M, Tatsumi K, Saito T, Saito K, Kawano N, Hamatani T, Umezawa A, Miyado K, Saito H: Autophagy-disrupted LC3 abundance leads to death of supporting cells of human oocytes. Biochem Biophys Rep 2018; 15:107-114
10. Yoshida K, Kang W, Nakamura A, Kawano N, Hanai M, Miyado M, Miyamoto Y, Iwai M, Hamatani T, Saito H, Miyado K, Umezawa A: Ubiquitin-activating enzyme E1 inhibitor PYR-41 retards sperm enlargement after fusion to the egg. Reprod Toxicol 2018; 76:71-77
11. Matsunari H, Watanabe M, Nakano K, Enosawa S, Umeyama K, Uchikura A, Yashima S, Fukuda T, Klymiuk N, Kurome M, Kessler B, Wuensch A, Zakhartchenko V, Wolf E, Hanazono Y, Nagaya M, Umezawa A, Nakauchi H, Nagashima H: Modeling lethal X-linked genetic disorders in pigs with ensured fertility. Proc Natl Acad Sci U S A 2018; 115:708-713.
12. Sugawara T, Sasaki K, Akutsu H: Organoids recapitulate organs? Stem Cell Investig 2018; 5:3
13. Bai F, Li Z, Umezawa A, Terada N, Jin S: Bacterial type III secretion system as a protein delivery tool for a broad range of biomedical applications. Biotechnol Adv 2018; 36:482-493
14. Takasawa K, Arai Y, Yamazaki-Inoue M, Toyoda M, Akutsu H, Umezawa A, Nishino K: DNA hypermethylation enhanced telomerase reverse transcriptase expression in human-induced pluripotent stem cells. Hum Cell 2018; 31:78-86

15. Ishii T, Yin C, Seko Y, Umezawa A, Kaneda M: Variation in the Phenotype of Photosensitive Cells Produced from Human Fibroblast Cell Lines. J Nippon Med Sch 2018; 85:110-116
16. Fukuda A, Umezawa A, Akutsu H: Manipulation of Xist Imprinting in Mouse Preimplantation Embryos. Methods Mol Biol 2018; 1861:47-53

［講演・学会］

1. 阿久津英憲:「ミニ腸の創生と応用」, 日本農芸化学会 2019 シンポジウム 3S12, 日本農芸化学会, 東京農業大学(東京), 2019.3.26
2. 阿久津英憲:「ヒト ES 細胞によるオルガノイド再生医学」, 第 18 回日本再生医療学会 シンポジウム 14, 日本再生医療学会, 神戸国際会議場(兵庫), 2019.3.22
3. 阿久津英憲:「ミニ腸による消化管再生の可能性」, 第 18 回日本再生医療学会 シンポジウム 10, 日本再生医療学会, 神戸国際会議場(兵庫), 2019.3.21
4. 阿久津英憲:「ヒト ES 細胞をめぐる冒険」, 第18回東海不妊内分泌研究会, 静岡県産婦人科医会, (静岡), 2019.2.16
5. 阿久津英憲:「はたらく幹細胞～細胞が医療に使われるまで～」, 平成 30 年度 AMED 再生医療公開シンポジウム なるほど the 再生医療, 国立研究開発法人日本医療研究開発機構, TKP ガーデンシティ品川(東京), 2019.2.5
6. 阿久津英憲:「ヒト ES/iPS 細胞からの次世代オルガノイド創生～ミニ腸による”in vitro 臨床試験“モデルの可能性～」, 自治医科大学大学院特別講義, 自治医科大学大学院, 自治医科大学(栃木), 2019.1.28
7. 阿久津英憲:「ヒト ES/iPS 細胞からの次世代オルガノイド創生～ミニ腸による”in vitro 臨床試験“モデルの可能性～」, 第 30 回 福島県小児外科研究会, 福島県立医科大学, ラコパふくしま(福島), 2019.1.26
8. 阿久津英憲:「ヒト受精胚を用いたゲノム編集利用研究について 疾患、病態研究を念頭に」, 第 3 回ゲノム編集技術の医学応用に関する検討作業部会, 日本医学会連合, 日内会館(東京), 2018.12.10
9. 阿久津英憲:「パネルディスカッション 生殖医学の倫理」, 公開シンポジウム『生殖細胞のエピゲノムダイナミクスとその制御』, 生殖細胞のエピゲノムダイナミクスとその制御, 京都教育文化センター(京都), 2018.12.4
10. 阿久津英憲:「Regulatory Actions for Researches Using Genome Editing Technology on Human Embryos in Japan」, Second International Summit on Human Genome Editing －Update: Governmental Actions and Advisory Opinions Regarding Human Genome Editing－, Second International Summit on Human Genome Editing, Hong Kong, 2018.11.26-29
11. 阿久津英憲:「細胞、幹細胞、受精胚」, 公開勉強会アーサー・ビナードさんが聞く,生き物の未来はどうなるのか？, ゲノム問題検討会議, 川崎市総合福祉センター大会議室(神奈川), 2018.11.10
12. 阿久津英憲:「ヒト多能性幹細胞からのミニ腸の作製と“in vitro 臨床試験”モデル開発」, 順天堂大学アトピー疾患研究センター講演会, 順天堂大学, 順天堂大学センチュリータワー(東京), 2018.11.7
13. 梅澤明弘:「Efficacy of hepatocytes from human ESCs and iPSCs to congenital metabolic dosorders」, 2nd International Symposium of Human Phenomics, Fudan University, Parkyard Hotel (Shanghai), 2018.11.2
14. 阿久津英憲:「Xeno-free generation of multi-functional gut organoids (Mini-Guts) from Human embryonic stem cells」, The 9rd Asian Cellular Therapy Organization Meeting, Symposium; Stem Cell Research, The Thai Society of Hematology, Chiangmai, Thailand, 2018.10.26-28
15. 阿久津英憲:「ヒト胚・幹細胞研究に関連する倫理指針のポイント」, 東京医科歯科大学ヒト ES 細胞を使用した研究にかかる講習会, 東京医科歯科大学, 東京医科歯科大学 M&D タワー(東京), 2018.10.4
16. 梅澤明弘:「Stem Cell-based Therapy in Japan: Current State of the Art」, International

Federation of Placenta Association (IFPA)/2018 国際胎盤学会, 東京慈恵会医科大学, 東京慈恵会医科大学　新医局棟 1 階講堂(東京), 2018.9.21

17. 梅澤明弘:「先天性代謝異常症に対する間葉系幹細胞による再生医療」, 題 51 回大阪小児先進医療研究会セミナー, 国立大学法人大阪大学　大学院医学系研究科小児科学, 大阪大学(大阪), 2018.9.19
18. 梅澤明弘:「ヒト肝細胞の供給　ー創薬及び再生医療ー」, 第 38 回ヒューマンサイエンス基礎研究講習会　成育における研究活動～小児期から周産期に発症する成育疾患に関する基礎医学研究、臨床研究を中心として～, 国立成育医療研究センター研究所(東京), 2018.9.11
19. 阿久津英憲:「ヒト ES/iPS 細胞からの次世代オルガノイド創生」, 第 38 回ヒューマンサイエンス基礎研究講習会　成育における研究活動～小児期から周産期に発症する成育疾患に関する基礎医学研究、臨床研究を中心として～, 国立成育医療研究センター研究所(東京), 2018.9.11
20. 梅澤明弘:「キメラ抗原受容体 T 細胞(CAR-T 細胞)によるがん免疫療法」, 第 5 回国際組織工学・再生医療学会　共催セミナー, 株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング, 国立京都国際会館(京都), 2018.9.6
21. 阿久津英憲:「再生医療の現状とその先　～進展する幹細胞研究から見えてくるもの～」, 第二回千葉県医師会・獣医師会合同セミナー, 公益社団法人　千葉県獣医師会, ホテルポートプラザちば(千葉), 2018.8.19
22. 阿久津英憲:「細胞から臓器をつくる」, 会津若松市あいづ未来人材育成塾, 新生日本・再生故郷実行委員会事務局(会津若松市役所), 会津大学(福島), 2018.7.31
23. 阿久津英憲:「間葉系幹細胞の特性と応用の可能性」, 第 45 回日本毒性学会学術年会　シンポジウム 14, 一般社団法人　日本毒性学会, 大阪国際会議場(大阪), 2018.7.19
24. 阿久津英憲:「細胞をめぐる冒険～基礎研究から再生医療、そしてその先へ～」, 再生医療実現拠点ネットワーク・公開シンポジウム, 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(会津若松), 2018.6.27
25. 梅澤明弘:「再生医療と病理の展望」, 第 107 回日本病理学会総会, 北海道大学大学院医学研究院(北海道), 2018.6.22
26. 阿久津英憲:「ヒト多能性幹細胞からのミニ小腸の作製と“in vitro 臨床試験”モデル開発」, 第 28 回ビジネス協議会, 株式会社 iPS ポータル, 医療イノベーション推進センター(神戸), 2018.6.12
27. 阿久津英憲:「ヒト ES 細胞の臨床応用」, 第 59 回日本卵子学会学術集会, 埼玉医科大学産科婦人科学教室医局(埼玉), 2018.5.26
28. 阿久津英憲:「Generation of functional gut organoids self-organoizing from human embryonic stem cells: the next generation of organoids」, Yonsei Biomedical Dialogue 2018, Yonsei University College of Dentistry(韓国、ソウル), 2018.5.24
29. 梅澤明弘:「わが国における再生医療」, 三重大学大学院医学セミナー, 三重大学(三重), 2018.5.18

［執筆］

1. 梅澤明弘:「女性(乳・子宮・卵巣など)分野」,『再生医療ポータル(WEB)コンテンツ　再生医療の疾患情報』, 一般社団法人　日本再生医療学会, 2019.3
2. 梅澤明弘:「再生医療の細胞ソース　再生医療 UP to date」,『腎と透析　第 86 号 3 号』, 株式会社　東京医学社, 2019.3
3. 梅澤明弘:「第 1 部:再生医療等の基盤　第 1 章　再生医療とは　(3)細胞治療(組織修復、免疫を含む)」,『日本再生医療学会 E-learning 教材』, 一般社団法人　日本再生医療学会, 2019.2
4. 梅澤明弘:「重症高アンモニア血症を生じる尿素サイクル異常症に対する ES 細胞由来再生医療等製品に関する医師主導治験」,『内分泌・糖尿病・代謝内科　第 47 巻第 1 号』, 有限会社　科学評論社, 2018.7.28
5. 梅澤明弘:「＜各論＞ c. 小児外科領域　④肝細胞再生」,『周産期医学 48 巻 7 号　周産期再生医療の現状と未来—周産期医療はどこに向かうのか』, 株式会社　東京医学社, 2018.7.10
6. 阿久津英憲:「＜総論＞ 2. 幹細胞とは(各種幹細胞, iPS 細胞, ES 細胞)」,『周産期医学 48 巻 7 号　周産期再生医療の現状と未来—周産期医療はどこに向かうのか』, 株式会社　東京医学社, 2018.7.10

7. 阿久津英憲:「間葉系幹細胞による scale-out 型再生医療製造システムの開発」,『月刊 クリーンテクノロジー7 月号』, 日本工業出版株式会社, 2018.7.10
8. 梅澤明弘:「再生医療・細胞医療産業の最前線」,『先端医療 NAVIGATOR 続・今日の再生医療・細胞医療の産業化に向けて』, 株式会社日本医学出版, 2018.6.25
9. 宮戸健二:Regulation of Sperm-Egg Fusion at the Plasma Membrane. Reproductive and Developmental Strategies: The Continuity of Life (Diversity and Commonality in Animals), Springer, 2018/6/1; 549-568
10. 哺乳類の受精の項目について執筆した。
11. 梅澤明弘:「間葉系幹細胞の再生医療」,『レギュラトリーサイエンス学会誌 8 巻(2018)2 号』, 2018.5.31

[講義]

1. 梅澤明弘:「病理学」, 慶応義塾大学医学部, 2019.2.5
2. 阿久津英憲:「大阪大学ヒト ES に係る倫理教育訓練・技術教育訓練」, 大阪大学医学部, 2018.12.11
3. 梅澤明弘:「再生医療 2」, 東京医科大学, 2018.11.7
4. 梅澤明弘:「iPS 細胞及び幹細胞研究の最前線」, 東京農業大学, 2018.10.26
5. 阿久津英憲:「生殖補助医療胚培養基礎系講義 II、臨床系講義 II」, 国際医療福祉大学大学院, 2018.10.11 および 2018.10.18
6. 阿久津英憲:「生殖医療と再生医療」, 東京女子大学数理学科・情報理学専攻, 2018.7.10
7. 梅澤明弘:「免疫学」, 北里大学医学部, 2018.7.2

[取材]

1. 阿久津英憲:香港で開催された第 2 回ヒトゲノム編集国際サミットにて、中国の研究者による産児(双子)までいたったゲノム編集の事例について日本メディア多数(TV、新聞)から取材を受け、報道された(日本テレビ、テレビ朝日、TBS、NHK、朝日新聞、読売新聞、共同通信等), 2018.11.26-29

4-1-22 好酸球性消化管疾患研究室

【平成 30 年研究業績】

下線は研究実施時点において国立成育医療センター研究所、好酸球性消化管疾患研究室および、免疫アレルギー研究部に在籍している研究者を示す。

１．論文発表

［原著（欧文）］

なし

［総説（欧文）］

なし

［総説（和文）］

1. 野村伊知郎 : 解説/特集、新生児-乳児消化管アレルギー、小児科診療　小児の治療指針 2018：268-272
2. 野村伊知郎：解説/特集、新生児-乳児消化管アレルギーの臨床と病型分類、小児科、2018：123-128
3. 野村伊知郎：小児好酸球性食道炎の治療、胃と腸、2018：339-342.
4. 永嶋 早織, 野村 伊知郎. 食物経口負荷試験(新生児/乳児消化管アレルギー)　アレルギー・免疫　2018：1040-1045

２．学会発表

［招待講演・特別講演・シンポジウム・ワークショップに限定］

1. Ichiro Nomura: Update of Eosinophilic Gastrointestinal Disorders in Children.（シンポジウム、招聘）, Pediatric Academic Societies Meeting (PAS), Tronto, Canada, 2018.5.6
2. 野村伊知郎、鈴木啓子、森田英明、斎藤博久、大矢幸弘、松本健治: 消化管アレルギーの予後（シンポジウム）, 第 67 回日本アレルギー学会学術大会　千葉, 2018.6.22
3. 野村伊知郎；新生児-乳児消化管アレルギー、好酸球性胃腸炎について, 第 13 回愛媛小児アレルギー疾患臨床セミナー, 愛媛, 2018.7.14.
4. 野村伊知郎:特別講演　消化管アレルギーの最新知見, 第 46 回西日本小児アレルギー研究会福岡, 2018.8.19
5. 野村伊知郎:講演　新生児-乳児消化管アレルギー 第 2 回免疫アレルギーTerakoya 勉強会, 東京, 2018.9.21
6. 野村伊知郎：新生児-乳児消化管アレルギー　体重増加不良タイプ（クラスター3）の診断と治療, 第 55 回日本小児アレルギー学会, 岡山, 2018.10.20
7. 野村伊知郎：消化管アレルギー　日本小児臨床アレルギー学会第 12 回スキルアップセミナー, 東京, 2018.12.2

ガイドライン

1. 野村伊知郎（統括委員長）他：新生児・乳児食物蛋白誘発胃腸症 Minds 準拠ガイドライン、作成主体；厚生労働省好酸球性消化管疾患研究班、日本小児アレルギー学会、日本小児栄養消化器肝臓病学会、https://www.egid.jp/index/guideline、2018 年 5 月公開

【公的研究費】

[国立研究開発法人 日本医療研究開発機構]

野村伊知郎
「難治性疾患実用化研究事業」
研究課題名：「好酸球性消化管疾患、重症持続型の根本治療、多種食物同時除去療法に関するエビデンス創出研究（課題管理番号：18ek0109257h0002)」（平成 29 年度～平成 30 年度
研究代表者　助成金額　315 万円　（平成 30 年度）

[厚生労働省]
野村伊知郎
厚生労働科学研究費　難治性疾患等政策研究事業（平成 29～31 年度）
「好酸球性消化管疾患、重症持続型の根本治療、多種食物同時除去療法の
診療体制構築に関する研究」
研究代表者　助成金額　555 万円　（平成 30 年度）

【その他】
[教育活動・社会貢献]
野村伊知郎
1. 新生児乳児アレルギー疾患研究会主宰、新生児乳児消化管アレルギー診断治療指針をインターネットホームページ上に一般公開（http://www.nch.go.jp/imal/FPIES/icho/index.html）
2. 東京慈恵会医科大学小児科非常勤講師
3. 日本アレルギー学会代議員および日本アレルギー学会認定指導医

【受賞】
Ichiro Nomura
American Academy of Allergy, Asthma and Immunology 2018, AAAAI/APFED best oral abstract on EGIDs. Elevated Serum TSLP, IL33, 6Ckine and MCP-3 Levels in School Children or Older Patients with Eosinophilc Gastroenteritis. （米国好酸球性消化管疾患患者団体 APFED から受賞理由；患者治療と検査の進歩に寄与した）

4-2　臨床研究センター

4-2-1 企画運営部

[原著論文:査読付]

1. Yoshida M, Oana S, Masuda H, Ishiguro A, Kato H, Ito S, Kobayashi T, Abe J. Recurrence of Fever After Initial Intravenous Immunoglobulin Treatment in Children With Kawasaki Disease. Clinical pediatrics 2018;57(2):189-192
2. Yamamoto-Hanada K, Kobayashi T, Williams HC, Mikami M, Saito-Abe M, Morita K, Natsume O, Sato M, Iwama M, Miyaji Y, Miyata M, Inagaki S, Tatsuki F, Masami N, Nakayama SF, Kido H, Saito H, Ohya Y. Early aggressive intervention for infantile atopic dermatitis to prevent development of food allergy: a multicenter, investigator-blinded, randomized, parallel group controlled trial (PACI Study)-protocol for a randomized controlled trial. Clinical and translational allergy 8 47 2018 年
3. Fukazawa R, Kobayashi T, Mikami M, Saji T, Hamaoka K, Kato H, Suzuki H, Tsuda E, Ayusawa M, Miura M, Ebata R, Kobayashi T, Yashiro M, Ogawa S. Nationwide Survey of Patients With Giant Coronary Aneurysm Secondary to Kawasaki Disease 1999-2010 in Japan. Circulation journal : official journal of the Japanese Circulation Society 82(1) 239-246 2017 年 12 月

[原著論文:査読なし]

なし

[症例報告(査読付)]

1. 成相 諒子, 小林 徹, 益田 博司, 小野 博, 今留 謙一, 窪田 満, 伊藤 秀一, 石黒 精. 川崎病急性期にループスアンチコアグラントが一過性に陽性となった 1 例. 日本臨床免疫学会会誌 40(6) 456-459 2017 年 12 月
2. 黒川 愛恵, 益田 博司, 小林 徹, 小野 博, 賀藤 均, 今留 謙一, 阿部 淳, 阿部 裕一, 伊藤 秀一, 石黒 精. インフリキシマブが著効した可逆性脳梁膨大部病変を有する軽症脳炎・脳症を合併した川崎病の幼児例. 日本臨床免疫学会会誌 40(3) 190-195 2017 年 6 月

[総 説]

1. 小林 徹.【今ここでステロイドを再考する-common disease から専門領域まで-】common diseaseとステロイド 川崎病. 小児科診療 80(4) 447-452 2017 年 4 月

[著 書]

[ガイドライン]

1. McCrindle BW, Rowley AH, Newburger JW, Burns JC, Bolger AF, Gewitz M, Baker AL, Jackson MA, Takahashi M, Shah PB, Kobayashi T, Wu MH, Saji TT, Pahl E, American Heart Association Rheumatic Fever,Endocarditis,and Kawasaki Disease Committee of the Council on Cardiovascular Disease in the Young; Council on Cardiovascular and Stroke Nursing; Council on Cardiovascular Surgery and Anesthesia; and Council on Epidemiology and Prevention. Diagnosis, Treatment, and Long-Term Management of Kawasaki Disease: A Scientific Statement for Health Professionals From the American Heart Association. Circulation 135(17) e927-e999 2017 年 4 月

[学会発表(シンポジウムも含む)]

1. 小林徹. 川崎病に対するインフリキシマブの有用性・安全性:全国調査と製造販売後調査結果から. 第 37 回日本川崎病学会学術集会　2017 年 10 月 27 日
2. 小林徹. PLASE Study:多施設共同臨床研究を通じた診療の質向上の試み. 第 60 回日本成育新生児医学会　2017 年 10 月 13 日
3. 小林徹. 川崎病急性期治療Up to Date. 第55回日本小児循環器学会総会・学術集会, 静岡, 2017年7月7日

[講 演]
1. 小林徹. 冠動脈内径 Z score をどのように使うか:基礎と実践. 第 6 回宮城川崎病研究会, 仙台, 2017 年 11 月 11 日
2. 小林徹. 川崎病の最新ガイドライン:日米の比較と今後の展望. 第 45 回群馬小児循環器研究会, 前橋, 2017 年 10 月 7 日
3. 小林徹. 介入研究のすすめかた. 第 3 回臨床研究支援セミナー, 船橋, 2017 年 8 月 19 日
4. Kobayashi T. Management of Kawasaki disease to prevent coronary compromise. The 7th World Congress of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery. Barcelona 2017 年 7 月 20 日

4-2-1-1 企画運営室
[原著論文:査読付]
なし
[原著論文:査読なし]
なし
[症例報告(査読付)]
なし
[総 説]
なし
[著 書]
1. 菊地佳代子, 他. 再生医療等技術を臨床研究として実施するための実務者マニュアル. 一般社団法人 ARO 協議会 薬事専門家連絡会. 2018 年 8 月 30 日(第 1 版).
2. 菊地佳代子, 他. レギュラトリーサイエンス戦略相談のための実務マニュアルー医療機器ー. 一般社団法人 ARO 協議会 薬事専門家連絡会. 2018 年 8 月 30 日(第 1 版).
[ガイドライン]
なし
[学会発表(シンポジウムも含む)]
1. 菊地佳代子. 治験開始からクロージングまでのフロー. 日本臨床試験学会第 10 回学術集会総会シンポジウム 2019 年 1 月 25 日
2. 菊地佳代子. 小児領域における臨床研究法施行の影響と今後の課題. 日本臨床試験学会第 10 回学術集会総会シンポジウム 2019 年 1 月 26 日
3. 笹井雅夫, 菊地佳代子 他. ARO 協議会薬事専門家連絡会の活動「再生医療等安全性確保法下で実施する臨床研究の支援について」第 18 回日本再生医療学会総会 2019 年 3 月 21 日
[講 演]
1. 菊地佳代子. プロトコールレビューとモニタリング計画作成における品質マネジメント,第 5 回 DIA 医療機関向けプロジェクトマネジメントトレーニングコース, 2018 年 7 月 21 日
2. 菊地佳代子. 試験の立ち上げから開始までのフロー～医師主導治験におけるスタディマネジメント～ARO 協議会主催医師主導治験におけるスタディマネジメントセミナー, 2018 年 11 月 17 日
3. 菊地佳代子. アクティビティを洗い出し、構造化する, 第 3 回慶應義塾大学 臨床研究プロジェクトマネジメントワークショップ, 2019 年 1 月 19 日
4. 菊地佳代子. 臨床試験のプロジェクトマネジメントについて, 第 5 回慶應義塾大学 JKICK 臨床試験入門セミナー, 2019 年 2 月 7 日

4-2-2 開発推進部
4-2-2-1 臨床試験推進室
[原著論文:査読付]
1. Horinouchi T, Sako M, Nakanishi K, Ishikura K, Ito S, Nakamura H, Oba MS, Nozu K, Iijima K; Study protocol: mycophenolate mofetil as maintenance therapy after rituximab treatment for childhood-onset, complicated, frequently-relapsing nephrotic syndrome or steroid-dependent nephrotic syndrome: a multicenter double-blind, randomized, placebo-controlled trial (JSKDC07). BMC Nephrol. 2018;19(1):302.

2. Hama T, Nakanishi K, Ishikura K, Ito S, Nakamura H, Sako M, Saito-Oba M, Nozu K, Shima Y, Iijima K, Yoshikawa N; Japanese Study Group of Kidney Disease in Children (JSKDC).： Study protocol: high-dose mizoribine with prednisolone therapy in short-term relapsing steroid-sensitive nephrotic syndrome to prevent frequent relapse (JSKDC05 trial). BMC Nephrol. 2018 Sep 10;19(1):223.
3. Shima Y, Nakanishi K, Kaku Y, Ishikura K, Hataya H, Matsuyama T, Honda M, Sako M, Nozu K, Tanaka R, Iijima K, Yoshikawa N; Japanese Pediatric IgA Nephropathy Treatment Study Group: Combination therapy with or without warfarin and dipyridamole for severe childhood IgA nephropathy: an RCT. Pediatr Nephrol. 2018; 33:2103-2112.
4. Kubota W, Honda M, Okada H, Hattori M, Iwano M, Akioka Y, Ashida A, Kawasaki Y, Kiyomoto H, Sako M, Terada Y, Hirano D, Fujieda M, Fujimoto S, Masaki T, Ito S, Uemura O, Gotoh Y, Komatsu Y, Nishi S, Maru M, Narita I, Maruyama S: A consensus statement on health-care transition of patients with childhood-onset chronic kidney diseases: providing adequate medical care in adolescence and young adulthood. Clin Exp Nephrol. 2018;22:743-751.
5. Nagata H, Sato M, Ogura M, Yoshikawa T, Yamamoto K, Matsumura S, Kano Y, Saida K, Sako M, Kamei K, Yoshioka T, Ogata K, Ito S, Ishikura K: Coagulopathy as a complication of kidney biopsies in paediatric systemic lupus erythematosus patients with antiphospholipid syndrome. Nephrolology. 2018 ;23:592-596.
6. 佐古 まゆみ, 三浦 健一郎, 芦田 明, 石倉 健司, 井上 勉, 後藤 芳充, 小松 康宏, 重松 隆, 杉山 斉, 寺野 千香子, 中西 浩一, 西尾 妙織, 幡谷 浩史, 藤元 昭一, 向山 政志, 吉矢 邦彦, 本田 雅敬, 岩野 正之, 服部 元史：小児慢性腎臓病患者における移行医療についての提言」と「思春期・青年期の患者のための CKD 診療ガイド」の認知度、理解度、活用度に関するアンケート調査の報告. 日本腎臓学会誌 2018;60:972 - 977.

[総 説]

43. Iijima K, Sako M, Kamei K, Nozu K: Rituximab in steroid-sensitive nephrotic syndrome: lessons from clinical trials. Pediatr Nephrol. 2018;33:1499-1455.
44. 亀井 宏一, 宮入 烈, 庄司 健介, 河合 利尚, 新井 勝大, 伊藤 玲子, 小椋 雅夫, 佐古 まゆみ, 中村 秀文, 伊藤 秀一, 石倉 健司：免疫抑制薬内服中の患者への弱毒生ワクチン接種の現状と今後の戦略・課題. 日本臨床腎移植学会雑誌 2018;6:163 - 172.

[学会発表(シンポジウムも含む)]

1. 稲吉 美由紀：認定 CRC を対象としたアンケート調査結果と CRC のキャリアアップについて. 第 3 回日本臨床薬理学会 関東・甲信越地方会, 神奈川 2018 年 11 月 24 日
2. 芦田 明, 佐古 まゆみ, 服部 元史：シンポジウム 4 腎不全の臨床疫学 本邦における小児腎不全の実態調査から学んだこと. 第 48 回日本腎臓学会西部学術集会, 徳島 2918 年 9 月 29 日
3. 西條彩香, 宮前由里恵, 渡部静, 福井希, 宮本圭奈美, 横尾由希子, 佐古まゆみ：看護職員への治験に対する意識調査. 第 18 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議, 富山 2018 年 9 月 16 日
4. 亀井 宏一, 奥津 美夏, 石和 翔, 西 健太朗, 松村 壮史, 佐藤 舞, 小椋 雅夫, 佐古 まゆみ, 伊藤 秀一, 石倉 健司：リツキシマブ後免疫抑制薬を継続した難治性ネフローゼ症候群での免疫抑制薬の至適中止時期および中止後再発に寄与する因子の検討. 第 53 回日本小児腎臓病学会, 福島 2018 年 6 月 29 日
5. 西 健太朗, 小椋 雅夫, 石和 翔, 加納 優治, 才田 謙, 奥津 美夏, 松村 壮史, 佐藤 舞, 佐古 まゆみ, 亀井 宏一, 長田 道夫, 義岡 孝子, 緒方 謙太郎, 石倉 健司：血栓性微小血管障害(TMA)を合併したステロイド抵抗性ネフローゼ症候群の 1 歳男児例. 第 53 回日本小児腎臓病学会, 福島 2018 年 6 月 29 日
6. 亀井 宏一, 宮入 烈, 庄司 健介, 佐古 まゆみ, 中村 秀文, 石倉 健司：免疫抑制薬内服中の患者への弱毒生ワクチン接種の現状と今後の戦略・課題. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡 2018 年 4 月 21 日

[講演]

1. 稲吉　美由紀:臨床研究関係者に対するコンサルテーションと教育. 平成 30 年度 上級者臨床研究コーディネーター養成研修, 国立がん研究センター中央病院 2018 年 10 月 19 日
2. 稲吉　美由紀:CRC 業務の実際. 平成 30 年度国公私立大学病院医療技術関係職員研修 臨床研究(治験)コーディネーター養成, 東京大学医学部附属病院 2018 年 6 月 19 日
3. 稲吉　美由紀:改正 GCP への医療機関の対応. 認定 CRC アドバンスト研修会 2017 Part2, 日本臨床薬理学会認定 CRC 制度委員会 2018 年 3 月 3 日

4-2-2-2 薬事・国際連携室

[原著論文:査読付]

1. Saito J, Akabane M, Komura M, Nakamura H, Ishikawa Y; Age-Appropriate Pediatric Dosage Forms in Japan Insights into End-User Perceptions From an Observational Cross-Sectional Survey Assessing the Acceptability of Oral Formulation. July 2018 Therapeutic Innovation and Regulatory Science DOI: 10.1177/2168479018791133
2. Koga Y, Povalko N, Inoue E, Nakamura H, Ishi A, Suzuki Y, Yoneda M, Kanda F, Kubota M, Okada H, Fujii K: Therapeutic regimen of L-arginine for MELAS: 9-year, prospective, multicenter, clinical research. 2018 Sep. J Neurol. https://doi.org/10.1007/s00415-018-9057-7
3. Raman SR, Man KKC, Bahmanyar S, Berard A, Bilder S, Boukhris T, Bushnell G, Crystal S, Furu K, KaoYang YH, Karlstad Ø, Kieler H, Kubota K[1], Lai EC, Martikainen JE, Maura G, Moore N, Montero D, Nakamura H, Neumann A, Pate V, Pottegård A, Pratt NL, Roughead EE, Macias Saint-Gerons D, Stürmer T, Su CC, Zoega H, Sturkenbroom MCJM, Chan EW, Coghill D, Ip P, Wong ICK. Trends in attention-deficit hyperactivity disorder medication use: a retrospective observational study using population-based databases. Lancet Psychiatry. 2018 Oct;5(10):824-835. doi:10.1016/S2215-0366(18)30293-1. Epub 2018 Sep 13.
4. Hama T, Nakanishi K, Ishikura K, Ito S, Nakamura H, Sako M, Saito-Oba M, Nozu K, Shima Y, Iijima K, Yoshikawa N; Japanese Study Group of Kidney Disease in Children (JSKDC); Study protocol: high-dose mizoribine with prednisolone therapy in short-term relapsing steroid-sensitive nephrotic syndrome to prevent frequent relapse (JSKDC05 trial). BMC Nephrol. 2018 Sep 10;19(1):223. doi: 10.1186/s12882-018-1033-z

[原著論文:査読なし]

なし

[症例報告:査読付]

なし

[総説]

1. 亀井 宏一, 宮入 烈, 庄司 健介, 河合 利尚, 新井 勝大, 伊藤 玲子, 小椋 雅夫, 佐古 まゆみ, 中村 秀文, 伊藤 秀一, 石倉 健司: 免疫抑制薬内服中の患者への弱毒生ワクチン接種の現状と今後の戦略・課題. 日本臨床腎移植学会雑誌 2018;6 (2): 163-172
2. 亀井 宏一(国立成育医療研究センター 腎臓リウマチ膠原病科), 宮入 烈, 庄司 健介, 河合 利尚, 新井 勝大, 伊藤 玲子, 小椋 雅夫, 佐古 まゆみ, 中村 秀文, 伊藤 秀一, 石倉 健司:【ネフローゼ症候群-MCNS/FSGS の最新知見】合併症対策とエビデンス 免疫抑制薬内服中の患者への弱毒性ワクチン接種. 腎と透析. 2018;85 (6) 864-868.

[著書]

1. 中村秀文: 新生児における薬物動態. 新生児学テキスト. 一般社団法人日本新生児成育医学会編. メディカ出版, 2018:668-673.
2. 中村秀文: 新生児への薬剤使用の原則. 新生児学テキスト. 一般社団法人日本新生児成育医学会編. メディカ出版, 2018:673-675.

[学会発表]

1. 中村秀文:Current status of pediatric drug development in the US, EU and Japan2018 International Meeting on 22nd MDO and 33rd JSSX in Kanazawa, 金沢, 2018 年 10 月 2

日
2. 中村秀文:日本における小児医薬品開発・評価のオーバービュー, 第 45 回日本小児臨床薬理学会学術集会 教育講演 進化を続ける小児医薬品開発、東京, 2018 年 10 月 6 日

［講演］
1. 中村秀文:オールジャパン体制での小児医薬品開発に向けて, 久留米大学小児科グランドラウンド, 福岡, 2018 年 1 月 5 日.
2. 中村秀文:小児・妊娠・授乳と薬物投与, 琉球大学医学部 2 年臨床薬理学講義, 沖縄, 2018 年 2 月 8 日
3. 中村秀文:小児・妊婦・授乳婦の薬物療法と小児医薬品開発. 東京大学大学院クリニカルサイエンス特論, 東京, 2018 年 4 月 5 日
4. 中村秀文:Physiology and clinical pharmacology in pediatric population. PMDA－ATC & US FDA Pediatric Drug Review Seminor, 東京, 2018 年 5 月 7 日
5. 中村秀文:小児製剤の現状と今後の展望. 第 31 回インターフェックスジャパン併催セミナー基礎講座, 東京, 2018 年 6 月 27 日
6. 中村秀文:小児における薬物治療・開発の現状と課題, ギュラトリーサイエンス エキスパート研修会 専門コース第 227 回 小児科領域の新医薬品開発を取り巻く現状と課題-小児用医薬品の開発促進へ向けた対策の現状と将来展望-, 東京, 2018 年 8 月 24 日
7. 中村秀文:小児薬物治療のための臨床薬理学(授乳と薬を含む), 日本小児科学会第 8 回インテンシブコース, 京都, 2018 年 8 月 18 日
8. 中村秀文:薬学部発の研究シーズを臨床開発につなぐためには, 東京大学大学院薬学研究科医療薬学特論, 東京, 2018 年 11 月 18 日

4-2-2-3 ネットワーク推進室

[総 説]
1. 栗山 猛:小児臨床開発の現状と課題、推進に向けた取組み-未来を担う子どもたちのために-. 薬理と治療. ライフサイエンス出版(株). Vol.46, 1096, 2018.8
2. 荒牧英治, 若宮翔子, 岩尾友秀, 川上庶子, 中江睦美, 松本妙子, 友廣公子, 栗山猛:小児頻用医薬品に関する医薬品添付文書における記載状況の調査. 医療情報学雑誌. Volume 38 (Number 6), 2018

[ガイドライン、研究報告書、その他]
1. 栗山 猛:小児領域の医薬品の適正使用推進のための人工知能を用いた医療情報データベースの利活用に関する研究(総括研究報告書). 厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業(臨床研究等 ICT 基盤構築・人工知能実装研究事業)), 2018.5
2. 栗山 猛:医薬品の安全性評価のためのデータベースの高度化に関する研究(分担研究報告書). 臨床研究等 ICT 基盤構築研究事業(日本医療研究開発機構), 2018.5

[学会発表(シンポジウムも含む)]
1. 栗山 猛:小児医薬品開発推進に向けた取組みについて. 第 18 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議 in 富山. 2018.9
2. 中國 正祥:遺伝子治療の治験実施に必要な事項について(ポスター発表). 第18回CRCと臨床試験のあり方を考える会議 in 富山. 2018.9

[講演]
1. 栗山 猛:小児での臨床開発推進に向けた取組み. 医療薬学フォーラム 2018, 東京, 2018.6.23
2. 栗山 猛:治験責任医師と分担医師の行うべき業務、他. 第 14 回横浜市立大学医学部附属病院臨床研究セミナー, 横浜, 2018.11
3. 栗山 猛:小児の薬剤開発に対する新しい取り組みー小児治験ネットワークについてー. 小児がんのための薬剤開発を考える会, 東京, 2019.1.9

4-2-2-4 製剤開発室

[原著論文:査読付]
1. Pharmaceutical formulation analysis of gelatin-based soft capsule film sheets using near-infrared spectroscopy, J. Drug Delivery Science and Technology 48 174-182 (2018)

[学会発表]

1. ナノ粒子に対する動的光散乱法による粒子径測定の検討:シンポジウム講演、日本薬学会第 1317 年会(金沢、2018)
2. 「肺胞への薬物送達を目的とした多孔質 PLGA/ゼラチン複合体マイクロスフェアの開発」日本薬学会第 1317 年会(2018)
3. 「凍結噴霧乾燥法を用いた Theophylline-Oxalic acid 共結晶の形成と分光学的手法による疑似結晶多形転移の解析」日本薬学会第 1317 年会(2018)
4. 「シンポジウム小児製剤に関連して」製剤と添加剤研究会題回シンポジウム、武蔵野大学(有明・東京)12 月 7 日(2018)

4-2-3 データ管理部

4-2-3-1 生物統計室

[原著論文:査読付](Reviewed Paper)

11. Tachibana Y, Takehara K, Kakee N, Mikami M, Inoue E, Mori R, Ota E, Koizumi T, Okuyama M, Kubo T: Meta-analyses of individual versus group interventions for pre-school children with autism spectrum disorder (ASD). PLoS One 2018;13(5):e0196272
12. Maekawa T, Ohya Y, Mikami M, Uematsu S, Ishiguro A: Clinical Utility of the Modified Pulmonary Index Score as an Objective Assessment Tool for Acute Asthma Exacerbation in Children. JMA J 2018;1(1):57-66
13. Yamamoto-Hanada K, Kobayashi T, Williams HC, Mikami M, Saito-Abe M, Morita K, Natsume O, Sato M, Iwama M, Miyaji Y, Miyata M, Inagaki S, Tatsuki F, Masami N, Nakayama SF, Kido H, Saito H, Ohya Y: Early aggressive intervention for infantile atopic dermatitis to prevent development of food allergy: a multicenter, investigator-blinded, randomized, parallel group controlled trial (PACI Study)-protocol for a randomized controlled trial. Clin Transl Allergy 2018;8:47
14. Sekiguchi M, Mikami M, Nakagawa C, Ozaki M, Tanigaki S, Kobayashi T, Miyasaka N, Sago H: An ultrasonographic estimated fetal weight reference for Japanese twin pregnancies. J Med Ultrason 2018;46(2):209-215

4-2-3-2 データ科学室

[講演]

加藤 省吾. 小児医療情報収集システムの整備について. 第 29 回日本小児科医会総会フォーラム, 横浜, 2018 年 6 月 23 日

4-2-3-3 疾患登録管理室

[原著論文:査読付]

1. 1. Shinjo D, Tachimori H, Maruyama-Sakurai K, Ohnuma T, Fujimori K, Fushimi K. Risk factors for early unplanned readmission in patients with bipolar disorder: A retrospective observational study. Gen Hosp Psychiatry. 2019;58:51-58. doi:10.1016/j.genhosppsych.2019.03.003
2. 2. Shinjo D, Matsumoto K, Terashima K, et al. Volume effect in paediatric brain tumour resection surgery: analysis of data from the Japanese national inpatient database. Eur J Cancer. 2019;109:111-119. doi:10.1016/j.ejca.2018.12.030

4-2-4 臨床研究教育部

4-2-4-1 臨床研究教育室

[原著論文:査読付]

1. GBD 2017 Disease and Injury Incidence and Prevalence Collaborators: Global, regional, and national incidence, prevalence, and years lived with disability for 354 diseases and injuries for 195 countries and territories, 1990-2017: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2017. Lancet. 2018;392(10159):1789-858.
2. GBD 2017 DALYs and HALE Collaborators: Global, regional, and national

disability-adjusted life-years (DALYs) for 359 diseases and injuries and healthy life expectancy (HALE) for 195 countries and territories, 1990-2017: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2017. Lancet. 2018;392(10159):1859-922.
3. Morisaki N, Nagata C, Yasuo S, Morokuma S, Kato K, Sanefuji M, Shibata E, Tsuji M, Senju A, Kawamoto T, Ohga S, Kusuhara K: Optimal protein intake during pregnancy for reducing the risk of fetal growth restriction: the Japan Environment and Children's Study. The British journal of nutrition. 2018;120(12):1432-40.
4. Uehara E, Nagata C, Masuda H, Fujimori K, Kobayashi S, Kubota M, Ishiguro A: Risk factors of long hospital stay for immunoglobulin A vasculitis: Single-center study. Pediatrics international. 2018;60(10):918-22.
5. GBD 2016 Healthcare Access and Quality Collaborators: Measuring performance on the Healthcare Access and Quality Index for 195 countries and territories and selected subnational locations: a systematic analysis from the Global Burden of Disease Study 2016. Lancet. 2018;391(10136):2236-71.
6. 谷口貴之，菱川賢志，永田知映，福田貴則，日下剛，井上裕美：既往帝王切開妊婦に対しての選択的帝王切開と trial of labor after cesarean delivery(TOLAC)との周産期予後の比較. 日本周産期・新生児医学会雑誌 2018;54(1): 125-132

[原著論文:査読なし] なし
[症例報告] なし
[総説] なし
[著書] なし

[ガイドライン、研究報告書、その他]
1. 永田知映，盛一享徳，山本依志子：平成 30 年度厚生労働科学研究費補助金 政策科学総合研究事業(臨床研究等 ICT 基盤構築・人工知能実装研究事業)「周産期関連の医療データベースのリンケージの研究」，総合研究報告書・分担研究報告書.

[学会発表]
1. 谷垣伸治，永田知映，小澤伸晃，芝田恵，金子佳代子，村島温子，小林陽一，岩下光利，左合治彦：妊娠中の母体プレドニゾロン投与による胎児・新生児免疫能への影響．第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会，仙台，2018.5.12
2. 上原絵理香，永田知映，益田博司，藤森健太郎，窪田満，石黒精：IgA 血管炎において長期入院と関連する因子の後方視的検討．第 121 回日本小児科学会学術集会，福岡，2018.4.20
3. 森川和彦，小林徹，友常雅子，金子徹治，萩原佑亮，牧本敦，永田知映，加藤元博，三浦大：小児・周産期領域を対象とした臨床研究ワークショップの実施と評価． 第 121 回日本小児科学会学術集会，福岡，2018.4.22

[講演] なし
[広報活動] なし

4-2-4-2 生命倫理研究室
[原著論文:査読付]
1. Sasaki H, Kakee N, Morisaki N, Mori R, Ravens-Sieberer U, Bullinger M: Assessing health-related quality of life in Japanese children with a chronic condition: validation of the DISABKIDS chronic generic module. Health Qual Life Outcomes 2018 May 2;16(1):85.
2. Takehara K, Tachibana Y, Yoshida K, Mori R, Kakee N, Kubo T: Prevalence trends of pre- and postnatal depression in Japanese women: A population-based longitudinal study. J Affect Disord 2018 Jan 1;225:389-394.

[原著論文:査読なし] なし
[症例報告] なし

[総説]

1. 掛江直子:「再生医療」, 医事法辞典, 信山社, 2018; 221.
2. 掛江直子:「同意の撤回」, 医事法辞典, 信山社, 2018; 401.
3. 掛江直子:「利益相反」, 医事法辞典, 信山社, 2018; 499-500.
4. 掛江直子: 2. 胎児治療における倫理的問題. 産科と婦人科, 診断と治療社, 2018;85:1019-1024

[著書]

1. 掛江直子: 第9章 胎児・小児をめぐる諸問題. 塚田敬義, 前田和彦(編), 改訂版 生命倫理・医事法, 医療科学社, 2018;147-164
2. 掛江直子: 12. 造血細胞移植の倫理的問題. チーム医療のための造血細胞移植ガイドブック, 医薬ジャーナル社, 2018;177-185

[ガイドライン、報告書、その他]

1. 掛江直子, 桑原絵里加, 国府田みなみ, 佐々木八十子, 森淳之介, 河村淳子: 慢性疾病を有する子どもの QOL および社会支援等に関する実態調査. 平成 30 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金「小児慢性特定疾病対策の推進に寄与する実践的基盤提供にむけた研究」, 平成30 年度総合報告書, 2018;309-382
2. 掛江直子, 桑原絵里加, 国府田みなみ, 佐々木八十子, 森淳之介, 河村淳子: 慢性疾病を有する子どもの QOL および社会支援等に関する実態調査. 平成 30 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金「小児慢性特定疾病対策の推進に寄与する実践的基盤提供にむけた研究」, 平成30 年度総括報告書, 2018;111-184
3. 掛江直子, 王子野麻代, 河村淳子, 盛一享徳: 患者家族等ならびに医療関係者への情報提供・情報共有についての検討. 平成 30 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金「小児慢性特定疾病対策の推進に寄与する実践的基盤提供にむけた研究」, 平成 30 年度総括報告書, 2018;205-212

[学会発表]

1. 掛江直子: 小児慢性特定疾病対策における自立支援. 第 59 回日本児童青年精神医学会総会シンポジウム 5「こどものコンサルテーション・リエゾンの現状と課題」, 東京, 2018.10.12

[講演]

1. 掛江直子: 臨床倫理概論. 国立成育医療研究センター臨床倫理研修会(小児科専門医共通講習), 東京, 2018.10.31
2. 掛江直子: 再生医療の倫理的・法的枠組みについて ー再生医療法施行規則の改正を踏まえてー. 一般社団法人日本保険情報コンソシウム研究倫理研修会, 東京, 2018.10.20
3. 掛江直子: 臨床研究における倫理的配慮. 第 31 回東京大学大学院薬学系研究科・薬学部ヒトを対象とする研究倫理審査委員会 倫理研修会, 東京, 2018.9.14
4. 掛江直子: 倫理(医療倫理・生命倫理). 平成30年度 造血細胞移植コーディネーター認定講習 Ⅰ. 日本造血細胞移植学会, 東京, 2018.6.9
5. 掛江直子: 医療における子どもの権利について. 第 9 回健康フェスティバル教育講演, 健康づくり 0 次クラブ, 滋賀, 2018.5.20
   掛江直子: 小児医療における倫理. 第 31 回近畿小児科学会 教育講演 3, 大阪, 2018.3.11

4-3 病院

4-3-1 病院長

[原著論文：査読付]

1. Yoshida M, Oana S, Masuda H, Ishiguro I, Kato H, Ito S, Kobayashi T, Abe J: Recurrence of Fever after Initial IVIG Treatment in Children with Kawasaki Disease. Clin Pediatr.2018:57(2):189-192
2. Fukazawa T,Kobayashi T, Mikami M, Saji T, Hamaoka K, Kato H, Suzuki H, Tsuda E, Ayusawa M, Miura M, Ebata R, Kobayashi T, Yashiro M, Ogawa S: Nationwide Survey of Patients with Coronary Giant Aneurysm Secondary to Kawasaki Disease from 1999 to 2010 in Japan. Circ J. 2018:84(1): 239-246
3. Kasahara M, Sakamoto S, Horikawa R, Fukuda A, Umezawa A, Matsubara Y, Kato H, Igarashi I: Present State and Future Prospects of Pediatric Liver Transplantation. JAMA Journal. 2018;1(1):50-56.
4. **小野 博、林 泰祐、賀藤 均:パルスオキシメトリーによる重症先天性心疾患の新生児スクリーニング 日本小児科学会雑誌** . 2018;123(3):558-565

[総説]

1. **賀藤 均**:[広域災害と子ども]小児専門病院が行うべき備えと現状. **小児内科** 2018;50(3):349-352
2. **賀藤 均**:[小児の治療指針]完全大血管転位. **小児科診療** 2018;81(増刊号):341-344
3. **賀藤 均**:診療ガイドラインの作成と利益相反(COI). **小児内科** 2018;50(5):797
4. **賀藤 均**:薬が保健収載されるまで ドラッグラッグの解決手段. **小児内科** 2018;50(10):1489-1493

[講演]

1. **賀藤 均：**Certified CLS **が日本で認知された職種になるのは**. CLS **研究会 2月** 10 **日 東京八重洲ホール**
2. **賀藤 均：日本における移行期ケア(医療・支援)の現状と今後. 東大小児科医学研究会 3月** 18 **日 東大病院**
3. **賀藤 均：**National Healthcare Insurance for children in Japan. **上海小児医療センター創立** 20 **周年記念** 6 **月** 1 **日、 上海**
4. **賀藤 均：現在の日本の小児医療の問題点.慈恵医大小児医学研究会 7月21日 慈恵会医科大病院**

4-3-2 総合診療部

原著論文：査読付

1. Yotani N, Kizawa Y: Specialist palliative care service for children with life-threatening conditions: A nationwide survey of availability and utilization. J Pain Symptom Manage 2018;56(4):582-587
2. Omae T, Yotani N, Sakashita A, Kizawa Y: Number of Unused Medications at the Time of Last Admission: A Prospective Observational Study in a Single Palliative Care Unit. Am J Hosp Palliat Care 2018;35(12):1498-1504
3. Amagasa S, Tsuji S, Matsui H, Uematsu S, Moriya T, Kinoshita K: Prognostic factors of acute neurological outcomes in infants with traumatic brain injury. Childs Nerv Syst 2018;34:673–680
4. Amagasa S, Tsuji S, Matsui H, Uematsu S, Moriya T, Kinoshita K: Characteristics distinguishing abusive head trauma from accidental head trauma in infants with traumatic intracranial hemorrhage in Japan. Acute Med Surg 2018;5:265–271
5. Masuda H, Kobayashi T, Hachiya A, Nakashima Y, Shimizu H, Nozawa T, Ogihara Y, Ito S, Takatsuki S, Katsumata N, Suzuki Y, Takenaka S, Hirono K, Kobayashi T, Suzuki H, Suganuma E, Takahashi K, Saji T: Infliximab for the Treatment of Refractory Kawasaki Disease: A Nationwide Survey in Japan. The Journal of Pediatrics 2018;195:115-120
6. Yoshida M, Oana S, Masuda H, Ishiguro A, Kato H, Ito S, Kobayahi T, Abe J: Recurrence of Fever After Initial Intravenous Immunoglobulin Treatment in Children with Kawasaki Disease. Clinical Pediatrics 2018;57(2):189-192
7. Yasuda M, Tetsuhara K, Tsuji S: Point-of-care ultrasound in two neonates with congenital chylothorax and respiratory failure. Journal of Pediatric Surgery Case Reports 2018;34:17-19
8. Yotani N, Kizawa Y: Specialist palliative care service for children with life-threatening conditions: A nationwide survey of availability and utilization. J Pain Symptom Manage 2018;56:582-587
9. Omae T, Yotani N, Sakashita A, Kizawa Y: Number of Unused Medications at the Time of Last Admission: A Prospective Observational Study in a Single Palliative Care Unit. Am J Hosp Palliat Care 2018;35:1498-1504
10. Uehara E, Nagata C, Masuda H, Fujimori K, Kobayashi S, Kubota M, Ishiguro A: Risk factors of long hospital stay for immunoglobulin A vasculitis: Single-center study. Pediatr Int. 2018 Oct;60(10):918-922
11. Maekawa T, Ohya Y, Mikami M, Uematsu S, Ishiguro A: Clinical utility of the modified Pulmonary Index Score as an objective assessment tool for acute asthma exacerbation in children. JMA Journal 2018 Sept; 1(1):57-66
12. Murofushi Y, Furuichi M, Shoji K, Kubota M, Ishiguro A, Uematsu S, Gai R, Miyairi I: Adverse clinical and economic impacts associated with blood culture contamination in a pediatric emergency department. Pediatr Infect Dis J. 2018 Aug;37(8):755-758
13. Iwai K, Tetsuhara K, Ogawa E, Kubota M: Hidden diagnosis behind viral infection: the danger of anchoring bias. BMJ Case Rep 2018 Oct 21;2018.
14. Amagasa S, Tsuji S, Matsui H, et. al. Prognostic factors of acute neurological outcomes in infants with traumatic brain injury. Childs Nerv Syst. 2018;34: 673-680.
15. Tetsuhara K, Tsuji S, Uematsu S, et.al. Pulmonary Embolism Mimicking Infectious Pleuritis. Pediatr Emerg Care2018;34:e201-e203
16. **小川雄大, 木下洋子, 山上祐次, 栗原博, 窪田満, 菊池信行, 安達昌功, 平原史樹, 古井民一郎: 極長鎖アシル CoA 脱水素酵素欠損症に対する新指標の有用性. 日本マススクリーニング学会誌** 2018;28(1):101-105
17. **三浦真理子, 村本美香, 益田博司, 小﨑里華, 伊藤裕司, 鏡雅代, 和田友香：**Prader-Willi **症候群との鑑別が困難であった** Temple **症候群の新生児例. 小児科臨床,** 2018; 71(6):1121-1126.
18. **成相諒子, 亀井宏一, 余谷暢之, 加納優治, 小椋雅夫, 久保田雅也, 塩田曜子, 田中恭子, 前田浩利, 木須彩, 栃谷治子, 鈴木彩, 石黒精, 石倉健司: 生体腎移植後末期腎不全に腎代替療法を行えなかった結節性硬化症の 1 例. 日本小児腎不全学会雑誌** 2018;38:242-244

19. 谷山禎彦，前川貴伸，窪田満，福原康之，奥山虎之，宮嵜 治，石黒精，中舘尚也： 骨単純 X 線写真が診断に有用であった大理石骨病の 5 症例．小児科診療，2018;81(7):941-945

原著論文：査読なし

1. 阪下和美: 米国の小児健診体制(Bright Futures)と本邦への応用の検討．日本医師会雑誌 2018;147(3):568－572

症例報告：

1. Okazaki K, Imadome K, Nakao H, Miyairi I, Ishiguro A: Quantitative PCR Assays of Cytomegalovirus and Epstein-Barr Virus in Hemophagocytic Lymphohistiocytosis. The Indian Journal of Pediatrics 2018;85:593–594
2. Uehara E, Nakao H, Tsumura Y, Nakadate H, Amari S, Fujinaga H, Tsutsumi Y, Kang D, Ohga S, Ishiguro A: Slow elevation in protein C activity without PROC mutation in a neonate with intracranial hemorrhage. American Journal of Perinatology Reports 2018;8(2):68-70
3. Yasuda M, Tetsuhara K, Tsuji S: Point-of-care ultrasound in two neonates with congenital chylothorax and respiratory failure. Journal of Pediatric Surgery Case Reports 2018;34:17-19
4. Takeuchi I, Ito T, Ito Y, Uematsu S, Misato M, Oono M, Tsuji S, Sakai H: Effective use of computed tomography for detection of press-through-package sheet ingestion in a pediatric patient. Pediatr Emerg Care. 2018 May; 34(5): e82-e84.
5. Nishi K, Kawai T, Kubota M, Ishiguro A, Onodera M: X-linked agammaglobulinemia complicated with pulmonary aspergillosis. Pediatr Int. 2018 Jan;60(1):90-92
6. Tetsuhara K, Tsuji S, Uematsu S, Kamei K: Pulmonary Embolism Mimicking Infectious Pleuritis. Pediatr Emerg Care. 2018 Nov;34(11):e201-e203
7. Yoshii S, Uda K, Miyairi I, Nakao H, Kono N, Kubota M, Ishiguro A: Multiple Bullae Associated with Human Parvovirus B19. J Pediatr. 2018 Nov; 202.327-327.e1
8. Iwai K, Tetsuhara K, Ogawa E, Kubota M: Hidden diagnosis behind viral infection: the danger of anchoring bias. BMJ Case Rep. 2018; 226613
9. 生駒尚子, 中尾寛, 奥山眞紀子, 窪田満, 石黒精: 筋緊張低下、体重増加不良を主訴としたネグレクトの 1 例．小児内科 2018;50(3):425-428
10. 村上瑛梨, 中尾寛, 加久翔太朗, 西村菜穂, 窪田満, 石黒精: 高血圧が遷延したⅢ度熱中症の学童例．日本小児科学会雑誌 2018;122(5):915-921
11. 福政宏司, 辻聡, 中川聡: 小児救急外来での high flow nasal cannula の使用経験．日本救急医学会雑誌 2018;29(1):18–24
12. 中村早希 ，田中雄一郎，窪田満：研修医のためのクリニカルクイズ，症例：1 歳 2 か月 男児，主訴：発熱，けいれん．小児内科，2018; 50(4)；437-449．
13. 中嶋萌, 新関寛徳, 前川貴伸, 吉田和恵, 田中諒, 小森学, 義岡孝子, 下村裕, 林良太, 窪田満, 石黒精：難治性の鼻腔内痂皮が診断の一助となった Ectodysplasin A 遺伝子変異・低汗性外胚葉形成不全の乳児例．外来小児科，2018; 21(1):72 -75.
14. 國上千紘，田中雄一郎，窪田満：研修医のためのクリニカルクイズ，症例：5 歳 女児，主訴：吐血．小児内科，2018; 50(3); 293-295．
15. 池乗愛依，田中雄一郎，窪田満：研修医のためのクリニカルクイズ，症例：5 か月 女児，主訴：発熱，頸部リンパ節腫脹．小児内科，2018; 50(2): 157-159．
16. 福政宏司, 辻聡: ガス供給と電源容量の問題が解決され high flow nasal cannula 呼吸補助下に施設間陸路搬送した 1 例．日救急医会誌 2018;29: 247-253
17. 朝倉真理，前川貴伸，大野通暢，野坂俊介，野村伊知郎，金森 豊，宮嵜治，石黒 精 ：胆汁性嘔吐の軽快・増悪を繰り返し，診断に複数回の画像検査を要した腸回転異常の一例．小児科臨床，2018: 71(9): 1545-1550
18. 竹澤芳樹, 中村知夫，守本倫子，清谷知賀子，窪田満，石黒精 ：スパイロメトリーが声帯開大障害による上気道狭窄合併の診断に有用だった脳幹部低悪性度グリオーマの 1 例．小児科臨床，2018;

71(8): 1415-1419

総説

1. 窪田満: 摂取不良、嘔吐、体重増加不良などを認める児の授乳・離乳. 小児内科 2018; 50(1):114-117
2. 窪田満: 先天代謝異常によるけいれん・意識障害. 小児内科 2018;50(4):673-677
3. 笠原群生, 阪本靖介, 福田晃也, 藤野明浩, 金森豊, 菱木知郎, 堀川玲子, 野坂俊介, 宮入烈, 鈴木康之, 中川聡, 西村奈緒, 植松悟子, 小野博, 今留謙一, 入江理恵, 義岡孝子, 石黒精 , 松本公一, 梨井康, 絵野沢伸, 深見真紀, 阿久津英憲, 齊藤博久, 梅澤明弘, 松原洋一, 斉藤和幸, 賀藤均, 五十嵐隆:国立成育医療研究センターにおける小児肝移植医療. 医療, 2018; 72(3): 99-104.
4. 窪田満: 私の一本. 日本医事新報 2018;4916:65
5. 窪田満: 子どもの心相談医になって. 日本小児科医会会報 2018;56:152-154
6. 窪田満: 在宅における医療的ケアと医行為. 小児内科 2018;50(11):1769-1771
7. 窪田満: 代謝性肝疾患. 小児内科 2018;50(増刊号):456-457
8. 中村知夫: 小児訪問歯科診療の重要性について考える 医療的ケア児に対する地域の動向と支援体制. 小児歯科臨床 2018;23:6-12
9. 中村知夫: 小児在宅医療の現状と展望 はじめに. 医学のあゆみ 2018;266(3):189
10. 中村知夫: 病院小児科における退院時の支援. 小児内科 2018;50(11):1782-1789
11. 中村知夫: 医療的ケア児に対する地域のドプ校と支援体制. 小児歯科臨床 2018; 23(6):6-12
12. 余谷暢之: 痛みの客観的評価. 小児内科 2018;50(7):1042-1046
13. 余谷暢之: 緩和医療の視点から見た小児在宅医療. 医学のあゆみ 2018;266(3):219-224
14. 辻聡: 小児疾患の診断治療基準. 第 2 部疾患 外因性の病態 溺水. 小児内科 2018;50:914-915
15. 植松悟子: 小児疾患の診断治療基準. 第 2 部疾患 外因性の病態 転落・墜落. 小児内科 2018;50:904-905
16. 植松悟子: 子どものけがのホームケア. 頭を打った. チャイルド ヘルス 2018;21:891-894
17. 大西志麻: 今さら聞けない?小児救急の総復習. 初期対応 嘔吐・下痢. 小児科診療 2018;81:1506-1511
18. 鉄原健一: 今さら聞けない?小児救急の総復習. よく遭遇する疾患の身体診察 肺炎の診断と身体診察. 小児科診療 2018;81:1464-1468
19. 辻聡: 今さら聞けない?小児救急の総復習. プライマリーサーベイ 生理学的徴候の評価 呼吸(聴診・測定). 小児科診療 2018;81:1412-1416
20. 多賀谷貴史: 今さら聞けない?小児救急の総復習. プライマリーサーベイ 生理学的徴候の評価 呼吸(視診). 小児科診療 2018;81:1406-1411
21. 植松悟子: Well Baby のための乳幼児健診. 保健指導・子育て支援 乳幼児健診で多い相談と、大切と思われるアドバイス 事故予防. 小児内科 2018;50:986-990
22. 辻聡: けいれん・意識障害. 薬剤・中毒・事故 向精神薬・睡眠薬・抗てんかん薬・違法薬物中毒. 小児内科 2018;22:694-697
23. 辻聡: 小児救急の基本「子どもは苦手」を克服しよう!熱が下がらない、頭をぶつけた、泣き止まない、保護者への説明どうする?など、あらゆる「困った」の答えがみつかる!. (第 4 章)よく出会う小児の外傷 小児の骨折. レジデントノート 2018;19:3028-3034.
24. 鉄原健一: 小児救急の基本「子どもは苦手」を克服しよう!熱が下がらない、頭をぶつけた、泣き止まない、保護者への説明どうする?など、あらゆる「困った」の答えがみつかる!. (第 2 章)緊急度の評価 バイタルサイン. レジデントノート 2018;19:2984-2988
25. 多賀谷貴史: 小児救急の基本「子どもは苦手」を克服しよう!熱が下がらない、頭をぶつけた、泣き止まない、保護者への説明どうする?など、あらゆる「困った」の答えがみつかる!. (第 1 章)総論 小児救急の基本 手技 末梢静脈路、骨髄路、腰椎穿刺、プレパレーション含む. レジデントノート 2018;19:2918-2927
26. 植松悟子: どう診るか?どこまで診るか? 小児の軽症外科. 頭部外傷(脳しんとう). 小児科 2018;59:27-34

著書

1. 窪田満：小児の総合診療とは？．窪田満(編集)，スキルアップ！小児の総合診療，診断と治療社，2018;2-3
2. 前川貴伸：ライフステージに沿った総合診療．窪田満(編集)，スキルアップ！小児の総合診療，診断と治療社，2018;4-6
3. 鉄原健一：　発熱　一次診療．窪田満(編集)，スキルアップ小児の総合診療，診断と治療社，2018;8-10
4. 阪下和美：発熱　二次診療,三次診療．　窪田満(編集)　スキルアップ！小児の総合診療，診断と治療社，2018;11-15
5. 辻聡：喘鳴・呼吸困難　一次診療．窪田満(編集)　スキルアップ！小児の総合診療，診断と治療社，2018;16-17
6. 前川貴伸：　喘鳴・呼吸困難　二次診療．窪田満(編集)　スキルアップ！小児の総合診療，診断と治療社，2018;19-21
7. 植松悟子：けいれん　一次診療．　窪田満(編集)，スキルアップ！小児の総合診療，診断と治療社，2018;26-27
8. 永井章：けいれん　二次診療．窪田満(編集)，スキルアップ！小児の総合診療，診断と治療社，2018;28-30
9. 辻聡：意識障害　一次診療．窪田満(編集)，スキルアップ！小児の総合診療，診断と治療社，2018;33-35
10. 永井章：意識障害　二次診療．窪田満(編集)，スキルアップ！小児の総合診療，診断と治療社，2018;36-37
11. 佐々木隆司：熱中症　一次診療．窪田満(編集)，スキルアップ！小児の総合診療，診断と治療社，2018;41-42
12. 富田慶一：熱中症　二次診療．窪田満(編集)，スキルアップ！小児の総合診療，診断と治療社，2018;43-45
13. 中舘尚也：頭痛　一次診療．窪田満(編集)，スキルアップ！小児の総合診療，診断と治療社，2018;49-51
14. 余谷暢之：頭痛　二次診療．窪田満(編集)，スキルアップ！小児の総合診療，診断と治療社，2018;52-53
15. 内田佳子：胸痛　一次診療．窪田満(編集)，スキルアップ！小児の総合診療，診断と治療社，2018;56-57
16. 長濱由美：胸痛　二次診療,三次診療．窪田満(編集)，スキルアップ！小児の総合診療，診断と治療社，2018;58-60
17. 内田佳子：腹痛　一次診療．窪田満(編集)，スキルアップ！小児の総合診療，診断と治療社，2018;61-62
18. 鉄原健一：悪心・嘔吐・下痢　一次診療．窪田満(編集)，スキルアップ小児の総合診療，診断と治療社，2018;68-70
19. 田中雄一郎：　悪心・嘔吐・下痢　二次診療．窪田満(編集)　スキルアップ！小児の総合診療，診断と治療社　2018;71－75
20. 益田博司：発疹と紫斑　二次診療,三次診療．窪田満(編集)　スキルアップ！小児の総合診療，診断と治療社　2018;83-87
21. 多賀谷貴史：誤飲・誤嚥　一次診療．窪田満(編集)　スキルアップ！小児の総合診療，診断と治療社　2018;88-90
22. 田中雄一郎：誤飲・誤嚥　二次診療．窪田満(編集)　スキルアップ！小児の総合診療，診断と治療社　2018;91-92
23. 多賀谷貴史：ショック　一次診療．窪田満(編集)　スキルアップ！小児の総合診療，診断と治療社　2018;95-98
24. 佐々木隆司：むくみ　一次診療．窪田満(編集)　スキルアップ！小児の総合診療，診断と治療社　2018;105-106
25. 中尾寛：　むくみ　二次診療．窪田満(編集)　スキルアップ！小児の総合診療，診断と治療社　2018;107-108

26. 大西志麻: 心雑音・不整脈 一次診療. 窪田満(編集) スキルアップ！小児の総合診療, 診断と治療社 2018;112-114
27. 安田真人, 鉄原健一: 頭頚部外傷 一次診療,二次診療. 窪田満(編集) スキルアップ！小児の総合診療, 診断と治療社 2018;124-128
28. 堀川美和子: 耳痛・耳漏・顔面腫脹 一次診療. 窪田満(編集) スキルアップ！小児の総合診療, 診断と治療社 2018;140-141
29. 植松悟子: 被虐待児症候群 一次診療. 窪田満(編集), スキルアップ！小児の総合診療, 診断と治療社, 2018;147-149
30. 中尾寛: 被虐待児症候群 二次診療. 窪田満(編集), スキルアップ！小児の総合診療, 診断と治療社, 2018;150-152
31. 中村知夫: 在宅医療への移行のポイント:院内のサポートシステム,地域のサポートシステム. 窪田満(編集), スキルアップ！小児の総合診療, 診断と治療社, 2018;156-165
32. 余谷暢之: 小児の緩和ケア-Life を支える医療からのアプローチ-. 窪田満(編集), スキルアップ！小児の総合診療, 診断と治療社, 2018;166-170
33. 中舘尚也: 死亡診断書の書き方. 窪田満(編集), スキルアップ！小児の総合診療, 診断と治療社, 2018;171
34. 鉄原健一: PALS. 鉄原健一(編集), レジデントノート増刊 Vol.19 No.17 小児救急の基本「子どもは苦手」を克服しよう!, 羊土社, 2018;103-111
35. 鉄原健一: バイタルサイン. 鉄原健一(編集), レジデントノート増刊 Vol.19 No.17 小児救急の基本「子どもは苦手」を克服しよう!, 羊土社, 2018;112-117
36. 道端伸明,永井章: 食行動および摂食障害. 小児科診療 増刊 Vol.81, 診断と治療社, 2018;907-909

ガイドライン、報告書、その他

1. 松本吉郎,田村正徳,中尾正俊,中村知夫,野田正治,福岡寿,前田浩利,峯眞人,柳原俊雄,山田雅子,渡辺志伸: 小児の在宅医療を行う医療機関の確保のために 基幹病院(浩司機能病院や小児専門病院)や地域中核病院の役割, 日本医師会 小児在宅ケア検討委員会, 平成 28.29 年度小児在宅ケア検討委員会報告書, 2018;11-13
2. 阪下和美: 乳幼児健康診査身体診察マニュアル. 平成 29 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「身体診察マニュアル(仮称)」作成に関する調査研究, 2018;88-92
3. 田中雄一郎: 新生児・乳児食物蛋白誘発胃腸症 Minds 準拠診療ガイドライン. 厚生労働省好酸球性消化管疾患研究班, 2018;1－47

学会発表

1. Masuda H, Abe J, Ono H, Kobayashi T, Ishiguro A, Imadome K, Matsuda A, Ito S, Kato H: Effectiveness of Infliximab therapy in Patients with Intractable Kawasaki Disease: An Analysis Using Z Scoring System in Japan. The 12th International Kawasaki Disease Symposium, Yokohama, 2018.6.13
2. Yotani N, Kizawa Y: Specialist palliative care service for children with life-threatening conditions: A nationwide survey of availability and utilization. The 50th Congress of the International Society of Paediatiric Oncology, Kyoto, 2018.11.18
3. Honda A, Nakao H, Shoji K, Miyairi I, Kubota M, Ishiguro A: A neonatal case of group B streptococcal ventriculitis without fever. The 9th Asian Congress of Pediatric Infectious Diseases, Fukuoka, 2018.11.11
4. Yasukohchi M, Ogawa E, Miyazaki M, Kubota M, Ishiguro A, Miyairi I: MRI findings may not be noticeable at the early stage of small diarthrodial joint arthritis. The 9th Asian Congress of Pediatric Infectious Diseases, Fukuoka, 2018.11.11
5. 橋本梨沙, 垰千晶, 田中雄一郎, 益田博司, 中尾寛, 守本倫子, 窪田満, 石黒精:川崎病の PICU 入室例のまとめ. 第 644 回日本小児科学会東京都地方会, 東京, 2018.3.17
6. 窪田満: 小児における代謝救急と神経救急. 第 68 回日本小児神経学会関東地方会, 東京,

2018.3.24

7. 長濱由美, 中村知夫, 窪田満: 先天性多発関節硬縮床の乳児期の全身管理における問題点. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.20
8. 西村奈穂, 植松悟子, 井手健太郎, 中川聡, 長濱由美, 中村知夫, 窪田満: PICU 退出後長期的に医療的ケアを必要とする救急重症患者はどれくらいいるのか？. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.20
9. 巻和佳奈, 生田泰久, 余谷暢之, 藤野修平, 甘利昭一郎, 長澤純子, 和田友香, 丸山秀彦, 塚本桂子, 諫山哲哉, 伊藤裕司: NICU で多職種による緩和ケアを行った 18 トリソミーの一例. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.20
10. 窪田満, 益田博司, 田中恭子, 掛江直子, 平田陽一郎, 一ノ瀬英史, 本田雅敬, 賀藤均: トランジション外来での経験に基づいた成人移行期支援基本プログラムの作成. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.20
11. 吉井祥子, 中尾寛, 川上沙織, 水野貴基, 田中 諒, 宇田和宏, 宮入烈, 窪田満, 石黒 精 :水疱病変を呈したパルボウイルス B19 の一例, 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.20
12. 上原絵理香, 永田知映, 益田博司, 藤森健太郎, 窪田満, 石黒精 :IgA 血管炎において長期入院と関連する因子の後方視的検討, 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.20
13. 岡崎加奈, 中尾寛, 窪田満, 石黒 精 :VACTERL 連合の臨床像と発達に関わる因子. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.20
14. 國上千紘, 佐藤美織, 宮地裕美子, 稲垣信一郎, 福家辰樹, 成田雅美, 窪田満, 石黒 精 , 長尾みづほ, 大矢幸弘:インフルエンザワクチン接種後に蜂窩織炎様症状を呈しアレルギー反応が示唆された一例. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.20
15. 中村知夫: 総合シンポジウム 9 医療的ケア児のスムーズな在宅移行と豊かな在宅生活のために 小児高度医療機関におけるフォローアップの問題点. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.21
16. 中村知夫, 長濱由美, 窪田満, 野坂俊介: 医療的ケア児者への支援人材養成と連携を目的とした講演会開催の取り組み. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.21
17. 余谷暢之, 中村知夫, 松本公一, 窪田満, 賀藤均: 小児専門病院における緩和医療専門医の役割についての検討. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.21
18. 植松悟子, 窪田満: 子どもの怪我を小児科医が診療することについて. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.21
19. 安田真人, 鉄原健一, 佐々木隆司, 植松悟子, 窪田満: ベッドサイドでの超音波検査が診断の契機になった先天性乳糜胸の 2 例. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.21
20. 杉山みづき, 中舘尚也, 永井章, 堀川美和子, 阪下和美, 植松悟子, 辻聡, 久保雅也, 窪田満, 石黒精: 当院で過去に6年間に経験した Panyiotpopoulos 症候群の臨床像と脳波所見の検討. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.21
21. 田中雄一郎, 福原康之, 石黒精, 窪田満: 乳び胸を伴った重症常染色体劣性 Centronuclear myopathy の本邦第一例. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.21
22. 永井由紗, 内田佳子, 長濱由美, 堤義之, 窪田満, 石黒精 :腰椎穿刺後に血腫との鑑別を要した脊髄硬膜外液体貯留の幼児例. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.21
23. 窪田満: 複数の疾患を持つ患児のための移行期医療. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.22
24. 徐悦, 永井章, 阪下和美, 堀川美和子, 中舘尚哉, 窪田満, 石黒精: 小児専門診療施設における一次性夜尿症に対する生活指導の有効性いついて. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.22
25. 奥村藍, 余谷暢之, 本多愛子, 中嶋萌, 有里裕生, 前川貴伸, 松井俊大, 宮入烈, 窪田満, 石黒精: 志賀毒素産生性大腸菌 O175 感染症は虫垂炎症状を呈することがある. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.21
26. 冬木真規子, 余谷暢之, 舟本仁一, 松村弥, 比嘉勇介, 三浦夕子, 川又攻, 金太章, 新宅治夫: 当院での短期入所の検討. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.22
27. 岩崎由佳, 塚本桂子, 津村悠介, 加藤元博, 生田泰久, 甘利昭一郎, 長澤純子, 和田友香, 丸

山秀彦，余谷暢之，諫山哲哉，伊藤裕司:　先天性白血病の 1 例.　第 121 回日本小児科学会学術集会，福岡，2018.4.22
28. 田畑健士郎，成田雅美，大西志麻，稲垣真一郎，福家辰樹，辻聡，窪田満，石黒精，大矢幸弘：小児救急外来における 15 kg 未満のアナフィラキシー患者の症例集積研究．第 121 回日本小児科学会学術集会，福岡, 2018.4.22
29. 関戸雄基，中舘尚也，伊藤秀一，小椋雅夫，石倉健司，宮嵜治，野坂俊介，窪田満，石黒精：多発性骨病変を呈した慢性再発性多発性骨髄炎の 2 例．第 121 回日本小児科学会学術集会，福岡, 2018.4.22
30. 岩井謙治，内田佳子，鉄原健一，小川英樹，宮入烈，植松悟子，窪田満:　悪寒戦慄の重要性アンカリングを回避できた 1 例．日本小児科学会，福岡，2018.4.22
31. 谷山禎彦，中尾寛，田中雄一郎，中村知夫，柴田優花，伊藤裕司，余谷暢之，石黒 精 ，窪田満：　在宅医との密な連携により遠隔地への在宅移行が行えた 13 トリソミーノ1例．第 645 回日本小児科学会東京都地方会，東京, 2018.5.12.
32. 余谷暢之:　小児神経疾患におけるアドバンス・ケア・プランニング．　第 60 回日本小児神経学会学術集会　シンポジウム　重篤な神経疾患を抱えるこどもの緩和ケア～終末期を見据えた話し合いについて～，千葉，2018.6.1
33. 余谷暢之，木澤義之，新宅治夫:　重篤な神経疾患を抱える思春期患者に対するアドバンス・ケア・プランニングの現状:小児神経専門医に対する全国調査．　第 60 回日本小児神経学会学術集会，千葉，2018.6.2
34. 岩井謙治，鉄原健一，福政宏司，植松悟子，辻聡:　喘鳴診療のピットフォール．日本小児救急学会学術集会，茨城，2018.6.2
35. 富田健一，辻聡，鉄原健一，佐々木隆司，植松悟子，野坂俊介，窪田満:　小児の頭蓋内損傷を伴わない頭蓋骨線状骨折の診療．日本小児救急学会学術集会，茨城，2018.6.2
36. 大西志麻，植松悟子，鉄原健一，内田佳子，福政宏司，多賀谷貴史，佐々木隆司，窪田満，辻聡:　小児救急医が継続して働くことができる診療体制．小児救急医学会，茨城，2018.6.2
37. 清水聡一郎，植松悟子，江口佳孝，窪田満，石黒精：左上肢可動域制限により診断に至った上腕骨骨髄炎・化膿性関節炎の1例．第 646 回日本小児科学会東京都地方会，東京, 2018.6.9
38. 窪田満:　Patient Journey Map を作ろう．　第 65 回日本小児保健協会学術集会，米子，2018.6.16
39. 余谷暢之:　日本における小児緩和ケアの現状．第 23 回日本緩和医療学会学術集会シンポジウム　小児緩和ケアからのメッセージ～非がん疾患への関わりとこれからのありかたについて～，神戸，2018.6.16
40. 風間麻優子，野坂俊介，大西志麻，辻聡，植松悟子，藤野明浩，金森豊，岡本礼子，窪田満，石黒精：Cornelia de Lange に併発した小児盲腸捻転の 3 例．第 54 回日本小児放射線学会学術集会，東京, 2018.6.16
41. 中村知夫:　シンポジウム　今、病院と地域がどのように連携すべきか　患者・家族の生活と育ちに寄り添う．　第 32 回日本小児ストーマ・排泄・損傷管理研究会，東京，2018.6.30
42. 石黒精，阪本靖介，福田晃也，大賀正一，康東天，瀧正志，長江千愛，西村奈穂，中舘尚也，笠原群生:　生体肝移植後にドナー由来のアンチトロンビン欠乏症になった本邦第 1 例．第 40 回日本血栓止血学会学術集会，札幌, 2018.6.30
43. 中村知夫:　在宅医療に求められる周産期にかかわる医師の役割．第 54 回日本周産期・新生児医学会学術集会，東京，2018.7.8
44. 小谷晋平，中舘尚也，阪下和美，永井章，橋本玲奈，吉田和恵，新関寛徳，義岡孝子，窪田満，石黒精:当科で経験した皮膚限局型肥満細胞症の 6 例．第 647 回日本小児科学会東京都地方会，東京, 2018.7.14
45. 徐悦，永井章，阪下和美，堀川美和子，中舘尚也，窪田満，石黒精:　小児専門診療施設での一次性夜尿に対する生活指導の有用性について．第 29 回日本夜尿症学会，東京，2018.7.18
46. 植松悟子:　軽度外傷の初期診療:クリニックでどう取り組む　小児科医も診る　子どものけが・熱傷．外来小児科学会，東京，2018.8.25
47. 池乗愛依，余谷暢之，小川英輝，河野直子，宮入烈，三井真理，小椋雅夫，前川貴伸，窪田満，石黒精:　小児の外陰部潰瘍　性的虐待の鑑別としての Lipschuetz 潰瘍．第 28 回日本外来小児

科学会年次集会，東京，2018.8.26
48. 橋本梨沙，余谷暢之，庄司健介，山口宗太，生方公子，宮入烈，水野貴基，前川貴伸，窪田満，石黒精：ニューキノロン系薬剤耐性ムコイド型 A 群溶血性レンサ球菌による急性中耳炎・乳突蜂巣炎の 1 例．第 28 回日本外来小児科学会年次集会，東京，2018.8.26
49. 永井悠史，中尾寛，窪田満，石黒精：無菌性髄膜炎による髄膜炎尿閉症候群の 1 例．第 648 回日本小児科学会東京都地方会，東京, 2018.9.8
50. 井口敏之，多田光，藤本保，永井章：当学会保健委員会の活動．心療継続のための効果的な保険診療をめざして．第 36 回日本小児心身医学会，金沢，2018.9.8
51. 窪田満：移行期医療−最善の医療を求めて−．第 70 回北日本小児科学会，秋田，2018.9.15
52. 中村知夫，小沼徳恵：病院組織としての小児在宅支援・連携構築の取り組みから見えた院内多職種連携の重要性と課題．第 8 回日本小児在宅医療支援研究会，神戸，2018.9.29
53. 山﨑成敏，福原康之，佐藤奈保子，井上毅信，蘇哲民, Seo Joo-Hyun，津島智子，真島隆一，吉田和恵，小須賀基道，石黒精 ，窪田満，小崎里華，奥山虎之：末梢血アレイ CGH 検査でコピー数異常を検出した Palloster-Killian 症候群の男児．第 63 回人類遺伝学会，横浜，2018.10.11
54. 池乗愛依，窪田満，鏡雅代，石黒精，梅田陽：精神運動発達遅滞を伴う糖尿病Ⅸ型で de novo の 14q32 重複を同定した一例．第 60 回日本先天代謝異常学会総会，岐阜，2018.11.8
55. 飯島弘之：メチルマロン酸血症の 2 次検査と治療における LC/MS/MS 法の有用性． 第 60 回日本先天代謝異常学会総会，岐阜，2018.11.8
56. 窪田満：とにかくわかる先天代謝異常症 —日常診療の場面で—．第 60 回日本先天代謝異常学会，岐阜，2018.11.10
57. 余谷暢之，新城大輔，伏見清秀，松本公一：小児がん患者に対する終末期積極的治療の実態．第 60 回日本小児血液・がん学会学術集会，京都，2018.11.15
58. 余谷暢之，鍋谷まこと，飯島一誠，船戸正久，田村正徳：新生児領域における終末期の治療の制限および話し合いの現状に関する全国調査．第 63 回日本新生児成育医学会・学術集会，東京，2018.11
59. 坂本淳，中舘尚也，松本智子，野上恵嗣，石黒精：周術期の凝固波形解析により併用バイパス療法を評価したインヒビター陽性血友病例．第 60 回小児血液がん学会学術集会，京都，2018.11.16
60. 橋本梨沙，益田博司，西村菜穂，小野博，今留謙一，阿部淳，松田明生，小林 徹，窪田満，石黒 精：PICU 管理を要した川崎病症例．第 38 回日本川崎病学会・学術集会，和歌山，2018.11.17
61. 猪野木雄太，安田真人，植松悟子：異物誤飲歴のなかった小腸異物で外科的治療を要した 4 例．第 46 回日本救急医学会学術集会，横浜市, 2018.11.21
62. 本多愛子，中尾寛，飯島弘之，窪田満，石黒精 ：血糖コントロールに難渋した膠原病Ⅲ型の乳児例．第 650 回日本小児科学会東京都地方会，東京, 2018.12.8

講演

1. 余谷暢之：小児緩和ケアとアドバンス・ケア・プランニング．文部科学省課題解決型高度人材養成プログラム「重症児の在宅支援を担う医師等養成事業」大阪市立大学大学院医学研究科発達小児医学教室，重症児の在宅支援を担う専門職養成のためのインテンシブコース，大阪，2018.1.13
2. 中村知夫：小児在宅医療に関する国の取り組みと現状について． 埼玉県医師会， 平成 29 年度第 2 回埼玉県小児在宅医療研修会，埼玉，2018.1.25
3. 窪田満：代謝救急とご家族への IC．第 11 回奈良小児救急医療研究会，奈良, 2018.1.27
4. 植松悟子：小児トリアージに強くなる．日本救急看護学会，日本救急看護学会トリアージブラッシュアップセミナー，東京，2018.2.3
5. 余谷暢之：重症児診療における話し合い～診断から看取りまで関わる際に大切にしたいこと～．公益社団法人日本医療社会福祉協会，2017 年度ソーシャルワークスキルアップ研修 周産期から始まるソーシャルワーク，名古屋，2018.2.5
6. 窪田満：トランジション医療 − 最善の医療を求めて −．砧エリア自立支援協議会，東京，

2018.2.8
7. 窪田満: 新生児マススクリーニングの意義. 平成 29 年度新生児スクリーニング精密検査・診断・治療専門医研修会, 東京, 2018.2.18
8. 阪下和美: 米国の小児健診体制(Bright Futures)と本邦への応用の検討. 日本医師会, 平成29年度母子保健講習会, 東京, 2018.2.18
9. 中村知夫: 小児在宅医療に関する人材養成講習会 医療機関の役割. 厚生労働省委託事業, 平成 29 年度厚生労働省委託事業 在宅医療関連講師人材養成事業 小児を対象とした在宅医療分野, 東京, 2018.2.25
10. 窪田満: 移行期医療支援体制について. 第 4 回地域連携懇談会, 埼玉, 2018.3.1
11. 中村知夫: 中核病院から地域の小児在宅医療体制を構築する. 新潟県医師会, 平成 29 年度新潟県小児在宅医療講演会, 新潟, 2018.3.2
12. 窪田満: 成人移行期医療の取り組みについて. 長野県立こども病院研修会, 松本, 2018.3.6
13. 中村知夫: 小児在宅医療における小児高度医療機関の役割. 聖マリアンナ医科大学 外科, 聖マリアンナ医科大学 外科 Ground Round, 神奈川, 2018.3.7
14. 中村知夫: 小児在宅医療総論. 東京都医師会, 第 7 回 東京在宅医療塾, 東京, 2018.3.10
15. 余谷暢之: アドバンス・ケア・プランニング～治癒が望めない病気をもつこどもと家族との話し合い. 心身障害児総合医療療育センター, 第 53 回重症障害児(者)医療講習会, 東京, 2018.3.10
16. 窪田満: 移行期医療支援体制の整備に関する留意事項. 難病医療提供体制整備事業等に係る説明会(厚労省), 東京, 2018.5.9
17. 余谷暢之: 終末期における意思決定支援. 第 60 回日本小児神経学会学術集会, 実践教育セミナー 小児神経科医が知っておきたい緩和ケアのエッセンス, 千葉, 2018.6.2
18. 窪田満: 新生児スクリーニング基本概念. 日本マススクリーニング学会新生児スクリーニング事業基礎研修会, 東京, 2018.6.22
19. 窪田満: この症例で何を疑う?(水もの). 第 14 回先天代謝異常学会セミナー, 東京, 2018.7.14
20. 余谷暢之: 小児緩和ケア. 京都府双方向遠隔講義による専門的緩和ケア研修推進事業, 京都, 2018.7.20
21. 窪田満: 症例検討会. 第 4 回成育サマーセミナー, 東京, 2018.7.28
22. 窪田満: 代謝救急とご家族への IC. 第 2660 回 浜松医療センター診療協議会, 浜松, 2018.8.9
23. 窪田満: 将来について考えよう – トランジション医療とは? –. 神奈川県小児慢性特定疾病相互交流事業自立支援フォーラム, 藤沢, 2018.8.29
24. 余谷暢之: 小児緩和ケア. 平成 30 年度小児がん相談員専門研修, 東京, 2018.9.1
25. 余谷暢之: 在宅重症児 総論. 文部科学省課題解決型高度人材養成プログラム「重症児の在宅支援を担う医師等養成事業」大阪市立大学大学院医学研究科発達小児医学教室 重症児の在宅支援を担う専門職養成のためのインテンシブコース, 大阪, 2018.9.22
26. 鉄原健一:小児敗血症の認知. 小児感染症学会, 小児救急医学会. 小児敗血症セミナー, 大府, 2018.9.24
27. 余谷暢之: これからの治療・ケアに関する話し合い～アドバンス・ケア・プランニングについて考える. 第 44 回日本重症心身障害学会 公開セミナー, 東京, 2018.9.29
28. 中村知夫: 小児在宅ケアの地域連携の実際. 平成 30 年度小児在宅研修会, 尾張瀬戸, 2018.10.6
29. 窪田満: 成育医療センターの今 – 最善の医療として移行期医療 –. 神奈川県立こども医療センター成人移行期医療支援モデル事業プロジェクト, 横浜, 2018.10.10
30. 余谷暢之: 在宅重症児の見方. 文部科学省課題解決型高度人材養成プログラム「重症児の在宅支援を担う医師等養成事業」大阪市立大学大学院医学研究科発達小児医学教室 重症児の在宅支援を担う専門職養成のためのインテンシブコース, 大阪, 2018.10.13
31. 余谷暢之: アドバンス・ケア・プランニングとは. 平成 30 年度厚生労働省委託事業 人生の最終段階における医療体制整備事業 患者の意向を尊重した意思決定のための研修会, 千葉, 2018.10.14
32. 余谷暢之: 小児緩和ケアが果たす役割. 第 24 回日本小児麻酔学会 招待講演, 神戸, 2018.10.20

33. 植松聡子: 小児救急医療. 日本救急医療財団・日本救急医学会 医師救急医療業務実地修練, 2018.11.1
34. 中村知夫: 地域共生社会における小児在宅医療の意義. 玉川医師会学術集会, 東京, 2018.11.14
35. 窪田満: 新生児スクリーニング対象代謝異常疾患の臨床～精密検査から診断、治療～. 日本マススクリーニング学会検査技術者専門研修会, 東京, 2018.11.17
36. 余谷暢之: 重篤な神経疾患を抱えるこどもに対するアドバンス・ケア・プランニング～これからの治療・ケアに関する話し合い. 第 2 回信州地域療育推進ネットワーク研修会, 長野, 2018.12.1
37. 余谷暢之: 思春期・若年成人患者の意思決定支援～アドバンス・ケア・プランニングについて考える～. 第 28 回すぎなみ緩和ケア研究会特別講演, 東京, 2018.12.5
38. 余谷暢之: わが国における小児緩和ケアの取り組み. 第 12 回大阪小児緩和ケア研究会特別講演, 大阪, 2018.12.22

4-3-3 器官病態系内科部
消化器科

[原著論文:査読付き] (Reviewed Paper)

1. Stephanie M, Irie R, Sasaki K, Hirata Y, Narumoto S, Fukuda A, Sakamoto S, Arai K, Yoshioka T, Kasahara M: Histological changes of the intestinal mucosa in complications following a living donor liver transplantation for progressive familial intrahepatic cholestasis type 1. Pathol Int. 2018;68(9):536-537.
2. Ikuse T, Kudo T, Arai K, Fujii Y, Ida S, Ishii T, Mushiake S, Nagata K, Tamai H, Toki A, Tomomasa T, Ushijima K, Yanagi T, Yonekura T, Taguchi T, Shimizu T: Shwachman-Diamond syndrome: Nationwide survey and systematic review in Japan. Pediatr Int. 2018;60(8):719-726.
3. Kamei K, Miyairi I, Ishikura K, Ogura M, Shoji K, Funaki T, Ito R, Arai K, Abe J, Kawai T, Onodera M, Ito S: Prospective Study of Live Attenuated Vaccines for Patients with Nephrotic Syndrome Receiving Immunosuppressive Agents. J Pediatr. 2018;196:217-222.e1.
4. **4. 齊藤順平, 河合利尚, 赤羽三貴, 今泉仁美, 新井勝大, 小野寺雅史, 石川洋一: 小児慢性肉芽腫症腸炎に対するサリドマイド懸濁製剤の実用化に資する運用方法の検討. 日本小児臨床薬理学会雑誌 2018;30(1):63-68**

[総説]

1. **亀井宏一, 宮入烈, 庄司健介, 河合利尚, 新井勝大, 伊藤玲子, 小椋雅夫, 佐古まゆみ, 中村秀文, 伊藤秀一, 石倉健司: 免疫抑制薬内服中の患者への弱毒生ワクチン接種の現状と今後の戦略・課題. 日本臨床腎移植学会雑誌 2018;6(2)163-172**
2. **亀井宏一, 宮入烈, 庄司健介, 河合利尚, 新井勝大, 伊藤玲子, 小椋雅夫, 佐古まゆみ, 中村秀文, 伊藤秀一, 石倉健司: 【ネフローゼ症候群-MCNS/FSGS の最新知見】合併症対策とエビデンス 免疫抑制薬内服中の患者への弱毒性ワクチン接種. 腎と透析 2018;85(6)864-868**
3. **竹内一朗, 新井勝大: 【小児疾患の診断治療基準】(第 2 部)疾患 消化器疾患 Crohn 病. 小児内科 2018;50(増刊)410-411**
4. **清水泰岳: 【小児の機能性消化管疾患-機能性の嘔吐・腹痛・下痢・便秘】機能性嘔吐の診断と治療 空気嚥下症. 小児内科 2018:50(12)1977-1979**
5. **時田万英, 新井勝大: 【新薬が変える子ども医療-薬物の使い分けと作用機序】新しく開発された薬 消化管・肝臓疾患 炎症性腸疾患 インフリキシマブ、アダリムマブ. 小児内科 2018:50(10):1666-1669**
6. **新井勝大: 小児の炎症性腸疾患 小児科と内科の連携について. 杏林医学会雑誌 2018;49(2):131-132**
7. **新井勝大: 【IBD の類縁疾患を知り、鑑別する!】原発性免疫不全症に伴う腸炎. IBD Research 2018;12(2)104-111**

8. 竹内一朗, 新井勝大：【研修医必携!これだけは知ってほしい薬の使い方】薬効別・薬の使い方 免疫抑制薬・免疫調整薬、生物学的製剤． 小児科診療 2018;81(5)645-649
9. 新井勝大：【炎症性腸疾患(第2版)-病因解明と診断・治療の最新知見-】小児・高齢炎症性腸疾患の特徴と対応および炎症性腸疾患患者の妊娠への指導 小児炎症性腸疾患の診断と臨床的特徴． 日本臨牀 2018;76(増刊号 3):490-498
10. 清水泰岳：【耳鼻咽喉科における新生児・乳幼児・小児への投薬-update-】症状から処方する薬物 下痢や便秘． ENTONI 2018;218:44-53

[ガイドライン、研究報告書、その他]

1. 新井勝大： 医療ルネサンス 増える腸の難病－投薬での成長障害に注意． 読売新聞(朝刊)， 2018.3.15
2. 新井勝大： 新生児・乳児食物蛋白誘発胃腸症 Minds準拠診療ガイドライン(実用版)． 厚生労働省好酸球性消化管疾患研究班・日本小児アレルギー学会・日本小児栄養消化器肝臓学会(診療ガイドライン作成主体)， 2018.5.25
3. 新関寛徳，横関博雄，石河 晃，戸倉新樹，椛島健治，種瀬啓士，関 敦仁，小﨑慶介，桑原理充，宮坂実木子，三森経世，久松理一，亀井宏一，新井勝大，堀川玲子，工藤純，井上永介： 肥厚性皮膚骨膜症の診療内容の均てん化に基づく重症度判定の策定に 関する研究． 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業) 肥厚性皮膚骨膜症の診療内容の均てん化に基づく重症度判定の策定に関する研究， 平成29年度総括研究報告書， 2018
4. 新関寛徳，横関博雄，石河 晃，戸倉新樹，椛島健治，種瀬啓士，関 敦仁，小﨑慶介，桑原理充，宮坂実木子，三森経世，久松理一，亀井宏一，新井勝大，堀川玲子，工藤純，井上永介： 肥厚性皮膚骨膜症の合併症発生状況の解析(重症度分類の検討に向けて)．厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業) 肥厚性皮膚骨膜症の診療内容の均てん化に基づく重症度判定の策定に関する研究， 平成29年度分担研究報告書， 2018;4-5
5. 新関寛徳，横関博雄，石河 晃，戸倉新樹，椛島健治，種瀬啓士，関 敦仁，小﨑慶介，桑原理充，宮坂実木子，三森経世，久松理一，亀井宏一，新井勝大，堀川玲子，工藤純，井上永介： 肥厚性皮膚骨膜症の診療内容の均てん化に基づく重症度判定の策定に 関する研究． 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業) 肥厚性皮膚骨膜症の診療内容の均てん化に基づく重症度判定の策定に関する研究， 平成27年～29年度総合研究報告書， 2018;1-6
6. 新関寛徳，横関博雄，石河 晃，戸倉新樹，椛島健治，種瀬啓士，関 敦仁，小﨑慶介，桑原理充，宮坂実木子，三森経世，久松理一，亀井宏一，新井勝大，堀川玲子，工藤純，大田えりか，井上永介： 肥厚性皮膚骨膜症全国調査による合併症実態調査(重症度判定の策定に向けて)． 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業) 肥厚性皮膚骨膜症の診療内容の均てん化に基づく重症度判定の策定に関する研究， 平成29年度分担研究報告書， 2018;7-9
7. 位田忍，虫明聡太郎，工藤孝広，新井勝大，土岐彰，水落建輝，虻川大樹，大賀正一，米倉竹夫： 難治性下痢症． 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業) 小児期から移行期・成人期を包括する希少難治性慢性消化器疾患の医療政策に関する研究， 平成29年度分担研究報告書， 2018
8. 新井勝大： 小児低亜鉛血症に対する酢酸亜鉛顆粒剤の有効性・安全性の評価のための医師主導 治験． 平成28年度国立医療研究開発機構(臨床研究・治験推進研究事業)， 平成28年度委託研究開発成果報告書， 2018.5.25
9. 新井勝大： 潰瘍性大腸炎・クローン病診断基準・治療指針「小児クローン病治療指針(2018年3月改訂)．」． 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業) 難治性炎症性腸管障害に関する調査研究， 平成29年度分担研究報告書別冊， 2018;29-30
10. 清水俊明，新井勝大： 本邦における超早期発症型炎症性腸疾患(VEO－IBD)の実態解明と診断基準の作成． 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業) 難治性炎症性腸管障害に関する調査研究， 平成29年度分担研究報告書， 2018;173-178

[学会発表]

1. Takeuchi I, Shimizu H, Tokita K, Hirano Y, Arai K: USTEKINUMAB TREATMENT FOR PATIENTS WITH PEDIATRIC-ONSET CROHN'S DISEASE IN A TERTIARY

CHILDREN'S HOSPITAL. The 14th Asian Pan - Pacific Society of Pediatric Gastroenterology,Hepatology and Nutrition Meeting. Bangkok,Thailand, 2018.10.24

2. Tokita K,Shimizu H,Takeuchi I,Shimizu T,Arai K: Golimumab for pediatric-onset ulcerative colitis ; A single center experience. The 6th Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis, Shanghai,China, 2018.6.23
3. Shimizu H, Ohnishi E, Arai K, Takeuchi I, Kamura H, Hata K: OUTCOME OF THE REPETITIVE FECAL MICROBIOTA TRANSPLANTATION USING FECAL SOLUTION PREPARED UNDER THE ANAEROBIC CONDITION FOLLOWING THE ANTIBIOTIC PRETREATMENT IN EIGHT CHILDREN WITH ULCERATIVE COLITIS. Crohn's & Colitis Congress, Las Vegas, 2018.2.7
4. **水落建輝，新井勝大，工藤孝広，南部隆亮，田尻仁，青松友槻，阿部直紀，垣内俊彦，橋本邦生，十河剛，高橋美智子，恵谷ゆり，高木祐吾，小西健一郎，石原潤，榑井俊介，光山慶一：新規血清マーカーACP353 の小児クローン病診断に対する有用性：前方視野的多施設研究． 第 9 回日本炎症性腸疾患学会学術集会， 京都， 2018.11.22**
5. **京戸玲子，清水泰岳，竹内一朗，新井勝大： 治療法未確立の難治性小腸疾患に対する挑戦 乳児期に発症した原発性腸リンパ管拡張症の一例． 第 56 回日本小腸学会学術集会， 東京，** 2018.10.27
6. 平野友梨, 野村智実, 清水泰岳, 竹内一朗, 時田万英, 田中恭子： 思春期の IBD 患者と母親の QOL にメンタルヘルスとストレスコーピングが及ぼす影響についての調査研究． 第 45 回日本小児栄養消化器肝臓学会， 埼玉， 2018.10.7
7. **水落建輝，新井勝大，工藤孝広，南部隆亮，青松友槻，阿部直紀，垣内俊彦，橋本邦生，十河剛，田尻仁，高橋美智子，恵谷ゆり，光山慶一： 新規血清マーカーACP353 の小児クローン病診断に対する有用性・前方視的多施設研究． 第 45 回日本小児栄養消化器肝臓学会， 埼玉，** 2018.10.7
8. **丘逸宏，竹内一朗，清水泰岳，清水俊明，新井勝大： 小児IBD患者における** MR enterography **の実施経験． 第** 45 **回日本小児栄養消化器肝臓学会， 埼玉，** 2018.10.7
9. 岩間達, 清水泰岳, 奥平尊, 角田文彦, 立花奈緒, 阿部直紀, 本間仁, 工藤孝広, 中山佳子：小児におけるカプセル内視鏡挿入補助器具の有効性および安全性に関する多施設共同研究．第 45 回日本小児栄養消化器肝臓学会， 埼玉， 2018.10.6
10. **時田万英，清水泰岳，竹内一朗，清水俊明，新井勝大： 成育医療研究センターにおける小児期発症潰瘍性大腸炎に対するゴリムマブの使用経験． 第 45 回日本小児栄養消化器肝臓学会，埼玉，** 2018.10.6
11. **堀内朗，清水俊明，後藤田卓志，新井勝大，中山佳子： 小児消化器内視鏡医育成のための附置研究会設立について． 第** 45 **回日本小児栄養消化器肝臓学会， 埼玉，** 2018.10.6
12. **細井賢二，新井勝大，平野友梨，清水泰岳，宮入烈，亀井宏一，伊藤秀一，藤原武男，清水俊明： 小児炎症性腸疾患患者におけるB型肝炎ワクチン接種の効果と安全性．第 45 回日本小児栄養消化器肝臓学会， 埼玉，** 2018.10.6
13. **竹内一朗，清水泰岳，時田万英，新井勝大： 当院における小児期発症IBD患者に対する全エクソーム解析の実績． 第** 45 **回日本小児栄養消化器肝臓学会， 埼玉，** 2018.10.6
14. **土田奈緒美，宮武聡子，桐野洋平，石川尊士，田村英一郎，河合利尚，内山徹，新井勝大，松本直通，小野寺雅史： 周期性発熱およびベーチェット病症状を呈したA20ハプロ不全症． 第 9 回関東甲越免疫不全症研究会， 東京，** 2018.9.23
15. **金森啓太，河合利尚，石川尊士，田村英一郎，内山徹，新井勝大，石黒精，小野寺雅史： 胸腺腫大を伴った慢性肉芽腫症． 第** 9 **回関東甲越免疫不全症研究会， 東京，** 2018.9.23
16. **新井勝大，清水俊明，工藤孝広，清水泰岳，細井賢二，大塚宜一，内田恵一，石毛崇，田尻仁，鈴木康夫： 本邦における超早期発症型炎症性腸疾患（VEO-IBD）の実態解明と診断基準の作成． 厚生労働科学研究費 難治性疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成** 30 **年度 第** 1 **回総会， 東京，** 2018.7.26
17. **新井勝大，清水泰岳，竹内一朗，時田万英： 小児炎症性腸疾患診療における全消化管評価の有用性． 第** 45 **回日本小児内視鏡研究会， 東京，** 2018.7.7
18. 時田万英, 竹内一朗, 清水泰岳, 野村伊知郎, 清水俊明, 新井勝大： 上部消化管内視鏡検査により好酸球性食道炎の診断に至った 14 歳男子例． 第 45 回日本小児内視鏡研究会， 東京，

2018.7.7

19. 新井喜康, 神保圭佑, 伊藤夏希, 時田万英, 吉村良子, 丘逸宏, 京戸玲子, 佐藤真教, 宮田恵理, 細井賢二, 松村成一, 幾瀬圭, 工藤孝広, 大塚宜一, 清水俊明, 小坂征太郎, 矢崎悠太, 越智崇徳, 山高篤行, 竹内一朗, 清水泰岳, 新井勝大：IL－10受容体異常症と診断した超早期発症型炎症性腸疾患の 1 乳児例． 第 45 回日本小児内視鏡研究会， 東京， 2018.7.7
20. 竹内一朗，時田万英，清水泰岳，新井勝大：難治性肛門病変で発症し、インフチキシマブ（IFX）導入後に、肛門機能廃絶による排便障害と、IFX効果減弱に伴う腸炎再燃と周期的発熱を呈した乳児期発症炎症性腸疾患の 1 女児例． 第 14 回仙台小児IBD研究会， 仙台， 2018.5.19
21. 清水泰岳，竹内一朗，時田万英，新井勝大：小児病院における小児の内視鏡検査の実態と小児科医の内視鏡研修の課題． 第 95 回日本消化器内視鏡学会総会， 東京， 2018.5.12
22. 吉村聡, 寺島慶太, 木村由依, 白井了太, 山田悠司, 塩田曜子, 清谷知賀子, 大隅朋生, 吉田馨, 安藤理恵, 津村悠介, 竹内一朗, 加藤元博, 富澤大輔, 宮嵜治, 新井勝大, 松本公一：VIP 産生神経芽腫と炎症性腸疾患を合併していた難治性下痢症の幼児例． 第 121 回日本小児科学会学術集会， 福岡， 2018.4.21
23. 細井賢二, 新井勝大, 清水泰岳, 宮入烈, 亀井宏一, 伊藤秀一, 藤原武男, 清水俊明：小児炎症性腸疾患患者におけるB型肝炎ワクチン接種の効果と安全性． 第 121 回日本小児科学会学術集会， 福岡， 2018.4.21
24. 船山理恵，竹内一朗，東海林宏道，南部隆亮，神保圭佑，原朋子，工藤孝広，丘逸宏，清水泰岳，野村伊知郎，山岡和枝，清水俊明，新井勝大：成分栄養剤による栄養管理が行われている乳幼児における脂溶性ビタミン欠乏の予備調査． 第 33 回日本静脈経腸栄養学会学術集会， 横浜，2018.2.23
25. 新井勝大：小児発症の炎症性腸疾患の現状とトランジション 小児期発症炎症性腸疾患患者のトランジッションにおける課題と解決策の検討． 第 14 回日本消化管学会総会学術集会， 東京，2018.2.9
26. 清水泰岳，時田万英，竹内一朗，新井勝大：「炎症性腸疾患:シームレスなアプローチを目指して」Total Care から Microbiota まで 成育医療研究センターにおける小児潰瘍性大腸炎に対するインフリキシマブの長期成績． 第 14 回日本消化管学会総会学術集会， 東京， 2018.2.9
27. 時田万英，清水泰岳，竹内一朗，清水俊明，新井勝大：小児期発症潰瘍性大腸炎に対するゴリムマブの使用経験． 第 18 回日本小児IBD研究会， 東京， 2018.2.4
28. 竹内一朗，清水泰岳，時田万英，新井勝大：小児期発症クローン病患者に対するウステキヌマブの使用経験． 第 18 回日本小児IBD研究会， 東京， 2018.2.4
29. 齋藤武, 井上幹大, 国崎玲子, 南部隆亮, 村越孝次, 角田文彦, 石毛崇, 田尻仁, 水落建輝, 加藤沢子, 吉年俊文, 岩田直美, 吉田英生, 内田恵一, 清水泰岳, 平野友梨, 新井勝大：日本小児炎症性腸疾患レジストリ研究報告 2018 手術症例の検討． 第 18 回日本小児IBD研究会，東京， 2018.2.4
30. 清水泰岳：Mimic IBD IBDに合併する消化管感染症． 第 14 回日本小児消化管感染症研究会， 東京， 2018.2.3
31. 畠中美帆, 吉田和恵, 新関寛徳, 関敦仁, 新井勝大, 種瀬啓士, 和田芳雅：中学生で診断し得た肥厚性皮膚骨膜症の 2 例． 第 877 回日本皮膚科学会東京地方会， 東京， 2018.1.20
32. 新井勝大，清水俊明，工藤孝広，清水泰岳，細井賢二，大塚宜一，内田恵一，田尻仁，鈴木康夫：本邦における超早期発症型炎症性腸疾患（VEO－IBD）の実態解明と診断基準の作成．厚生労働科学研究費 難治性腸疾患等政策研究事業「難治性炎症性腸疾患障害に関する調査研究」平成 29 年度第 2 回総会， 東京， 2018.1.18
33. 新井勝大：炎症性腸疾患治療における栄養管理の重要性を見つめ直す!小児クローン病診療における栄養療法の位置づけと問題点． 第 21 回日本病態栄養学会年次学術集会， 京都，2018.1.14

[講演]

1. 新井勝大：小児IBD診療の最前線 2018． 第 7 回浜松IBD道場， 静岡， 2018.12.15
2. 新井勝大：Monogenic IBD 診療の現状と未来． 第 38 回 IBD＆ベーチェット病（IBD＆B）研究会， 東京， 2018.11.30

3. 田尻仁(座長)，虻川大樹，新井勝大，熊谷秀規： 座談会「小児炎症性腸疾患患者とご家族に伝えたいこと」． 京都， 2018.11.22
4. 新井勝大： IBD治療における今後の可能性． CD Web Seminar Meet The Specialist， 東京， 2018.11.15
5. 清水泰岳： 小児のIBD診療． 炎症性腸疾患研究会 in 徳島， 徳島， 2018.11.9
6. 新井勝大： 小児における生物学的製剤． JDDW 2018 Kobe サテライトシンポジウム 91， 兵庫， 2018.11.2
7. 新井勝大： 小児における小腸内視鏡検査の実態と展望． 第 56 回日本小腸学会学術集会，東京， 2018.10.27
8. 新井勝大： 小児潰瘍性大腸炎治療における免疫原性の重要性． Meet it Expert Seminar on UC ～潰瘍性大腸炎治療における免疫原性の重要性を考える～， 北海道， 2018.10.11
9. 新井勝大： 小児IBD診療における生物学的製剤の位置付け． 第 45 回日本小児臨床薬理学会学術集会ランチョンセミナー， 東京， 2018.10.7
10. 清水泰岳： 小児診療で患者と医師のニーズに応える －飲む込むタイプのカプセル内視鏡検査－． 第 45 回日本小児栄養消化器肝臓学会， 埼玉， 2018.10.6
11. 新井勝大： IBD診断の新時代へ！－小児IBDにおける遺伝子診断の取り組み－． 第 23 回青森IBD研究会， 青森， 2018.9.22
12. 新井勝大： 小児IBDの病態と診療 Management． IBD Expert Meeting 小児 IBD に学ぶ，大阪， 2018.9.20
13. 新井勝大： 小児の消化器疾患の基本． 2018 年第 3 回若手小児科医のための Basic Core Lecture， 新潟， 2018.9.8
14. 清水泰岳： 小児潰瘍性大腸炎に対するインフリキシマブの治療成績． Symposium212， ポスター発表， 京都， 2018.9.7
15. 新井勝大： 医療に携わるということ－体験を通じて． 第 19 回グローバルシチズンシップセミナー， 大阪， 2018.7.18
16. 清水泰岳： 小児IBD患者の診療 成人との違い． IBDメディカルスタッフ教育セミナー in 福岡， 福岡， 2018.7.8
17. 新井勝大： 進化する小児IBD診療 新薬からQOL改善の取り組みまで． 第 16 回 IBDの子どもと歩む会， 大阪， 2018.6.10
18. 新井勝大： 小児IBD患者におけるバイオ治療 ～過去から未来へ～． 第 18 回 IBDフォーラム in 札幌， 北海道， 2018.6.2
19. 竹内一朗： 小児炎症性腸疾患、類縁疾患について． 第 14 回仙台小児IBD研究会， 宮城，2018.5.19
20. 新井勝大： 小児IBDの生物学的製剤 最新情報～バイオシミラーから新薬まで～． SENDAI IBD FORUM 2018， 宮城， 2018.5.18
21. 新井勝大： 小児 IBD 患者にバイオを始めるタイミングと留意点． 第 104 回日本消化器病学会総会ランチョンセミナー2， 東京， 2018.4.19
22. 新井勝大： もう困らない！子どもの下痢と血便． 第 7 回国立成育医療研究センターとの医療連携定期学術講演会， 東京， 2018.4.4
23. 新井勝大： みんなで考えようIBDライフ－IBD 患者の抱える問題点とその対策． NPO法人日本炎症性腸疾患協会シンポジウム， 東京， 2018.3.17
24. 新井勝大： 小児IBD診療の最前線． IBDカンファレンス， 広島， 2018.2.20

循環器科

[原著論文:英語]

1. Hayashi T, Ono H, Kaneko Y: Echocardiographic assessment of ventricular contraction and synchrony in children with isolated complete atrioventricular block and epicardial pacing: implications of interventricular mechanical delay. Echocardiography 2018;35:1370-1377
2. Nakano K, Hayashi T, Ono H: Vascular ring associated with d-transposition of the great arteries: when should we suspect aortic arch anomalies? Cardiology in the Young 2018;28:1489-1490
3. Sakaki S, Murakami T, Shiraishi M, Yamamoto M: Impact of Pulmonary Valve Regurgitation on Pressure Difference of Pulmonary Valve Stenosis in Patients with Tetralogy of Fallot After Repair. Pediatric Cardiology 2018; 39:1663–1668
4. Shiozawa Y, Inuzuka R, Shindo T, Mafune R, Hayashi T, Hirata Y, Shimizu N, Inatomi J, Yokoyama Y, Namai Y, Oda Y, Takamizawa M, Harita Y, Kawahara T, Oka A.: Effect of i.v. immunoglobulin in the first 4 days of illness in Kawasaki disease. Pediatr Int. 2018;(4):334-341
5. Nakamura M, Kita S, Kikuchi R, Hirata Y, Shindo T, Shimizu N, Inuzuka R, Oka A, Kamibeppu K.: A Qualitative Assessment of Adolescent Girls' Perception of Living with Congenital Heart Disease: Focusing on Future Pregnancies and Childbirth. J Pediatr Nurs. 2018;38:e12-e18

〔原著論文:日本語〕

1. **浦辺智美, 金子幸裕, 小野博: 2,000g 未満の低出生体重児に対する両側肺動脈絞扼術の経過と問題点. 日本周産期・新生児医学会雑誌** 2018; 54: 1014-1018
2. **笠原群生, 阪本靖介, 福田晃也, 藤野明浩, 金森豊, 菱木知郎, 堀川玲子, 野坂俊介, 宮入烈, 鈴木康之, 中川聡, 西村奈穂, 植松悟子, 小野博, 今留謙一, 入江理恵, 義岡孝子, 石黒精, 松本公一, 李小康, 絵野沢伸, 深見真紀, 阿久津英憲, 斎藤博久, 梅澤明弘, 石川洋一, 松谷弘子, 松原洋一, 斉藤和幸, 賀藤均, 五十嵐隆: 国立成育医療研究センターにおける小児肝移植医療. 医療** 2018;72: 99-104
3. **美間由紀, 松井麻乃, 吉田美恵子, 野口貴史, 小野博:DPC コーディング業務の改善とその精度における効果. 診療情報管理** 2018;30:113-117

[症例報告:英語]

1. Kosaki R, Ono H, Terashima H, Kosaki K. Timothy syndrome-like condition with syndactyly but without prolongation of the QT interval. Am J Med Genet A. 2018 ;176:1657-1661
2. Kizawa M, Nakagama Y, Shindo T, Ogawa S, Inuzuka R.: Identification of a Novel Titin Variant Underlying Myocardial Involvement in Neurofibromatosis Type 1. Can J Cardiol. 2018;34:1369.e5-1369.e7
3. Nakagama Y, Inuzuka R, Ichimura K, Hinata M, Takehara H, Takeda N, Kakiuchi S, Shiraga K, Asakai H, Shindo T, Hirata Y, Saitoh M, Oka A.: Accelerated Cardiomyocyte Proliferation in the Heart of a Neonate With LEOPARD Syndrome-Associated Fatal Cardiomyopathy. Circ Heart Fail. 2018;11:e00466

[症例報告:日本語]

1. **関戸雄貴, 甘利昭一郎, 藤野修平, 和田友香, 小野博, 伊藤裕司: 胎児期から特徴的な病変の変化を示した肥大型心筋症の一例. 日本周産期・新生児医学会雑誌** 2018; 54: 234-238

〔総説:日本語〕

1. **小野博: 慢性肺疾患に合併した肺高血圧症に対する肺血管拡張療法, 日本小児呼吸器学会雑**

誌 2018;29:178-185

[著書]
1. 小野博. 小児疾患の診断治療基準 循環器疾患 心筋炎. 小児内科 2018;50:552-553
2. 進藤考洋: 心筋症. 「小児内科」「小児外科」編集委員会共編 小児疾患の診断治療基準改訂 5版 東京医学社 2018;554-555

[学会発表: 海外]

1. Hayashi T, Shindo T, Misaki Y, Ono H. Decreased left atrial strain in children with left ventricular hypertrophy and preserved left ventricular contraction. 22nd Annual Meeting of the European Association of Cardiovascular Imaging, Milan, Italy, December 5, 2018

〔学会発表:国内〕
1. 林泰佑, 清水信隆, 三崎泰志, 小野博, 杉林里佳, 和田誠司, 左合治彦:出生前診断されたhypoplastic left heart complex～二心室修復適応をどう決めるか～. 第 24 回日本胎児心臓病学会学術集会, さいたま, 2018.2.16
2. 林泰佑, 清水信隆, 三崎泰志, 小野博:先天性完全房室ブロックの小児に対する心外膜ペーシング～心室間の収縮同期性と左室機能の関連～. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.20
3. 林泰佑:Blood Speckle Imaging で観察した小児の正常心と先天性心疾患. 第 10 回血流会, 安曇野, 2018.6.30
4. 林泰佑, 中野克俊, 鈴木孝典, 真船亮, 清水信隆, 三崎泰志, 小野博, 賀藤均:小児の左房ストレインは左室心筋肥大と関連する. 第 54 回日本小児循環器学会学術集会, 横浜, 2018.7.5
5. 三崎泰志、鈴木孝典、中野克俊、真船亮、林泰佑、清水信隆、小野博、賀藤均: 小児心房中隔欠損デバイス閉鎖術におけるデバイス選択の検討 2. 第 29 回日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会学術集会, 福岡市, 2018.1.18
6. 三崎泰志、鈴木孝典、中野克俊、真船亮、林泰佑、清水信隆、小野博、賀藤均: 動脈管開存におけるデバイス選択の検討 2DE における術前計測の妥当性を含めて
   第54回日本小児循環器学会学術集会, 横浜市, 2018.7.6
7. 榊真一郎、進藤考洋、小川陽介、真船亮、林泰佑、三崎泰志、小野博、賀藤均: 小児拡張型心筋症における年齢的特徴. 第 27 回小児心筋疾患学会、東京、2018.10.13
8. 中野克俊, 鈴木孝典, 真船亮, 林泰佑, 清水信隆, 三崎泰史, 小野博, 金子幸裕, 賀藤均新生児期および乳児早期の心室中隔欠損を伴った肺動脈閉鎖症に対する一期的心内修復術の右心機能に対する影響. 第 54 回日本小児循環器学会学術集会, 横浜, 2018.7.5
9. 真船亮, 鈴木孝典, 中野克俊, 林泰佑, 清水信隆, 三崎泰志, 小野博, 金子幸裕, 賀藤均
   左心低形成症候群およびその類縁疾患に対する Norwood Glenn 手術の有用性. 第 54 回日本小児循環器学会学術集会, 横浜, 2018.7.5
10. 鈴木孝典, 真船亮, 中野克俊, 林泰佑, 清水信隆, 三崎泰志, 小野博, 金子幸裕, 賀藤均
11. 純型肺動脈閉鎖症における経皮的肺動脈弁形成術前後での左心機能変化の検討. 第 54 回日本小児循環器学会学術集会, 横浜, 2018.7.5
12. 小野博, 林泰佑, 和田誠司, 左合治彦, 賀藤均. 胎児治療最前線:薬物治療/カテーテル治療重症大動脈弁狭窄症に対する胎児治療 早期安全性試験. 第 24 回日本胎児心臓病学会学術集会, さいたま, 2018.2.16
13. 真船亮, 小野博, 鈴木孝典, 中野克俊, 林泰佑, 清水信隆, 三崎泰志, 賀藤均, 小崎里華:肺高血圧症を合併した CACNA1C 変異の 1 例. 第 24 回日本小児肺循環研究会、東京、2018.2.3
14. 小野博, 鈴木孝典, 中野克俊, 真船亮, 林泰佑, 清水信隆, 三崎泰志, 賀藤均: 肺動脈弁逆流を有するファロー四徴症心内修復後遠隔期における右室の経時的変化 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.20

15. 浦田晋，林泰佑，中野克俊，野木森宜嗣，清水信隆，三崎泰志，小野博，賀藤均，萩原教文重：篤な心不全を生じたベラパミル感受性心室頻拍の一例 第 121 回日本小児科学会学術集会，福岡，2018.4.20
16. 中野克俊，野木森宣嗣，浦田晋，益田瞳，林泰佑，清水信隆，三崎泰志，小野博，賀藤均：肝移植後ミトコンドリア DNA 枯渇症候群に発症した肺動脈性肺高血圧症の 2 例 第 121 回日本小児科学会学術集会，福岡，2018.4.20
17. 前田朋子、小野博、鈴木孝典、中野克俊、真船亮、清水信隆、林泰佑、三﨑泰志、賀藤均: 血圧の変動により心機能の増悪を繰り返す、先天性ネフローゼ症候群の 1 例 第 25 回東京循環器小児科治療 Agora，東京，2018.3.10
18. 小川陽介、榊真一郎、真船亮、林泰佑、進藤考洋、三﨑泰志、小野博、賀藤均: 術式の決定に苦慮している完全大血管転位症Ⅲ型の 4 か月女児例 第 26 回東京循環器小児科治療 Agora，東京，2018.9.29

[講演]

1. 小野博，林泰佑，和田誠司，左合治彦，賀藤均：胎児治療最前線:薬物治療/カテーテル治療 重症大動脈弁狭窄症に対する胎児治療 早期安全性試験 第 54 回日本小児循環器学会学術集会，横浜，2018,7,5
2. 小野博：心筋炎のピットホール 第 289 回愛知県小児科医会例会，名古屋，2018.3.25
3. 小野博：先天性心疾患の胎児治療 最近の話題 第 13 回茅ヶ崎周産期連携カンファランス，茅ヶ崎，2018.2.5
4. 小野博：RS ウイルス・シナジスについて 感染対策研修会，成育， 2018.10.16
5. Takahiro Shindo, Norihide Fukushima, Minoru Ono: Revisions to the allocation system for patients with congenital heart disease. 第 54 回日本小児循環器学会学術集会，横浜，2018.7.5
6. 進藤考洋:心筋生検実施における私たちの工夫 小児心筋生検．第 40 回心筋生検研究会，東京，2018.12.8

呼吸器科

[原著論文:査読付]

1. 今井 丈英, 足立 雄一, 市丸 智浩, 上田 康久, 樋口 昌孝: 第 2 回小児気管・気管支異物に関する全国調査結果. 日本小児呼吸器学会雑誌 2018;29:114-121
2. Watanabe T, Ohno M, Tahara K, Tomonaga K, Fuchimoto Y, Fujino A, Hishiki T, Tsukamoto K, Ito Y, Sugibayashi R, Wada S, Sago H, Higuchi M, Kawasaki K, Yoshioka T, Kanamori Y. An investigation on clinical differences between congenital pulmonary airway malformation and bronchial atresia. J Pediatr Surg. 2018 Dec;53(12):2390-2393

[原著論文:査読なし]

なし

[症例報告]

なし

[総説]

1. 川崎一輝: 小児呼吸器学から教わったこと(解説). 日本小児呼吸器学会雑誌 2018;29:29-38
2. 肥沼悟郎: 呼吸器疾患 気管狭窄、軟化症(解説/特集). 小児内科 2018;50 増:496-497
3. 樋口昌孝: 呼吸器疾患 嚢胞性肺疾患(解説/特集). 小児内科 2018;50 増:498-499
4. 遠藤美紀, 川崎一輝: 呼吸器疾患 気道異物(解説/特集). 小児内科 2018;50 増:494-495
5. 樋口昌孝: 気道狭窄について(解説). 日本小児呼吸器学会雑誌 2018;29:108-113
6. 肥沼悟郎: 新薬が変える子ども医療 薬物の使い分けと作用機序 再評価された薬 ヒドロキシクロロキン 特発性間質性肺炎と特発性肺ヘモジデローシス(解説/特集). 小児内科 2018;50:1697-1700
7. 肥沼悟郎: 小児の治療指針 呼吸器 特発性間質性肺炎(解説/特集). 小児科診療 2018;81 増:410-412
8. 樋口昌孝: 小児の治療指針 呼吸器 先天性喘鳴(解説/特集). 小児科診療 2018;81 増:429-431
9. 川崎一輝: インフォームドコンセントのあり方 気道異物摘出(解説/特集). 小児外科 2017;49:397-399
10. 樋口昌孝: 小児科ケースカンファレンス呼吸器、アレルギー 気道異物(解説/特集). 小児科診療 2017;80 増:206-210

[著書]

なし

[ガイドライン、報告書、そのほか]

1. 前田貢作, 肥沼悟郎, 守本倫子, 西島栄治, 二藤隆春: 先天性呼吸器・胸郭形成異常疾患に関する診療ガイドライン作成ならびに診療体制の構築・普及に関する研究 平成 29 年度厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患性政策研究事業)「小児重症気道狭窄に関する全国実態調査ならびに診療ガイドライン作成に関する研究;気道狭窄症」, 平成 29 年度研究報告書, 2018;68-74
2. 肥沼悟郎: 小児慢性特定疾病対策の推進に寄与する実践的基盤提供にむけた研究 平成 29 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金 難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患性政策研究事業)「呼吸器疾患における小児慢性特定疾病対策の推進に寄与する実践的基盤提供にむけた研究」, 平成 29 年度研究報告書, 2018;133-13

[学会発表]

1. 玉井直敬, 肥沼悟郎: 小児特発性間質性肺炎登録システム 運用 8 年間の報告. 第 51 回日本小児呼吸器学会, 札幌, 2018.9.29
2. 前島 沙織, 肥沼 悟郎, 前田 直則, 河津 桃子, 簇生 なおみ, 佐藤 利永子, 香取 奈穂, 鈴木

絵理, 三春 晶嗣, 藤田 尚代, 山澤 一樹, 込山 修, 春松 敏夫, 下島 直樹, 廣部 誠一, 船田桂子, 石立 誠人, 宮川 知士: 肺血流増加型先天性心疾患があったため診断が遅れた左肺動脈右肺動脈起始症に先天気管狭窄・軟化症を合併した乳児例. 第 51 回日本小児呼吸器学会, 札幌, 2018.9.29

3. 肥沼悟郎: 間質性肺疾患のライフステージ別の問題点と知識共有 小児期特発性間質性肺疾患(肺炎)の長期管理の課題. 第 51 回日本小児呼吸器学会, 札幌, 2018.9.29
4. 船田 桂子, 石立 誠人, 宮川 知士: 生後1ヵ月でQFT陽性を示した初期変化群肺結核の1例. 第 51 回日本小児呼吸器学会, 札幌, 2018.9.29
5. 船田 桂子, 石立 誠人, 宮川 知士: 3 年間陥入していたと考えられた気管異物の 6 歳男児の 1 例. 第 51 回日本小児呼吸器学会, 札幌, 2018.9.28
6. 小林 久人, 遠藤 美紀, 樋口 昌孝, 朝長 高太郎, 田原 和典, 渡邉 稔彦, 藤野 明浩, 金森豊, 川崎 一輝: 気管食道瘻結紮後の気管憩室へ気管チューブが迷入して換気トラブルが生じた 2 症例. 第 51 回日本小児呼吸器学会, 札幌, 2018.9.29
7. 小林 久人, 遠山 悟史, 浦田 純, 遠藤 美紀, 樋口 昌孝,川崎 一輝: 乳児肺胞蛋白症に対する片側全肺洗浄の方法と注意点. 第 51 回日本小児呼吸器学会, 札幌, 2018.9.28
8. 肥沼悟郎: 救急対応を要する小児耳鼻咽喉科疾患 クループの診断の難しさについて. 第 13 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 横浜, 2018.7.13
9. 小林 久人, 肥沼 悟郎, 渕本 康史, 星野 健, 黒田 達夫: 基礎疾患を持つため気管切開からの離脱時期の決定が困難であった 2 症例. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.21
10. 船田 桂子, 石立 誠人, 宮川 知士: 難治性の喘息性気管支炎として治療されていた先天性気管狭窄症の 4 例. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.21
11. 伊東 藍, 塚本 桂子, 米田 康太, 生田 泰久, 長澤 純子, 甘利 昭一郎, 和田 友香, 丸山 秀彦, 諫山 哲也, 小野 博, 樋口 昌孝, 伊藤 裕司: 当院 NICU で経験した片肺無形成の 6 例の検討. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.21
12. 浦田 純, 松尾 基視, 遠藤 美紀, 樋口 昌孝, 川崎 一輝: 感染後の閉塞性細気管支炎の臨床経過. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.21
13. 遠藤 美紀, 松尾 基視,樋口 昌孝, 川崎 一輝: 呼吸器疾患に対するヒドロキシクロロキンの使用経験. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.21
14. 渡辺 稔彦, 小川 雄大, 沓掛 真衣, 後藤 倫子, 朝長 高太郎, 大野 通暢, 田原 和典, 杉林里佳, 小澤 克典, 和田 誠司, 左合 治彦, 伊藤 裕司, 樋口 昌孝, 川崎 一輝, 義岡 孝子, 藤野 明浩, 菱木 知郎, 金森 豊: 2 肺葉以上を摘出した先天性嚢胞性肺疾患症例の特徴に関する検討. 第 55 回日本小児外科学会学術集会, 新潟, 2018.5.31

[講演]

なし

神経内科

[原著論文：査読付(Reviewed Paper)]

1. Tsuchida N, Nakashima M, Kato M, Heyman E, Inui T, Haginoya K, Watanabe S, Chiyonobu T, Morimoto M, Ohta M, Kumakura A, Kubota M, Kumagai Y, Hamano SI, Lourenco CM, Yahaya NA, Ch'ng GS, Ngu LH, Fattal-Valevski A, Hubshman MW, Orenstein N,Marom D, Cohen L, Goldberg-Stern H, Uchiyama Y, Imagawa E, Mizuguchi T, Takata A, Miyake N, Nakajima H, Saitsu H, Miyatake S, Matsumoto N：Detection of copy number variations in epilepsy using exome data. Clin Genet 2018 ;93:577-587. doi: 10.1111/cge.13144
2. Chong PF, Kira R, Mori H, Okumura A, Torisu H, Yasumoto S, Shimizu H, Fujimoto T, Hanaoka N, Kusunoki S, Takahashi T, Oishi K, Tanaka-Taya K;：AFM collaborative study investigators (Kubota M et al.)：Clinical Features of Acute Flaccid Myelitis Temporally Associated with an Enterovirus D68 Outbreak: Results of a Nationwide Survey of Acute Flaccid Paralysis in Japan, August-December 2015. Clin Infect Dis. 2018;66:653-664. doi: 10.1093/cid/cix860.
3. Hayakawa I, Kubota M.：Ictal pouting: kabuki visage or chapeau de gendarme? Pract Neurol 2018;**0**:1–3. doi:10.1136/practneurol-2017-001847
4. Kasai M, Matsunami M, Terashima H, Fukuda A, Kasahara M, Kubota M：Improvement of Symptomatic West Syndrome in a Child with Protein C Deficiency following Liver Transplantation. JICNA 2018 18:105 https://jicna.org/index.php/journal/article/view/105
5. Calmels N, Botta E, Jia N, Fawcett H, Nardo T, Nakazawa Y, Lanzafame M, Moriwaki S, Sugita K, Kubota M, Obringer C, Spitz MA, Stefanini M, Laugel V, Orioli D, Ogi T, Lehmann AR：Functional and clinical relevance of novel mutations in a large cohort of patients with Cockayne syndrome. J Med Genet 2018;55:329–343. DOI: 10.1136/jmedgenet-2017-104877
6. Mizuguchi M, Ikeda H, Kagitani-Shimono K, Yoshinaga H, Suzuki Y, Aoki M, Endo M, Yonemura M, Kubota M：Everolimus for epilepsy and autism spectrum disorder in tuberous sclerosis complex: EXIST-3 substudy in Japan. Brain Dev. 2018 Jul 27. pii: S0387-7604(18)30176-1. doi: 10.1016/j.braindev.2018.07.003.
7. Koga Y, Povalko N, Inoue E, Nakamura H, Ishii A, Suzuki Y, Yoneda M, Kanda F, Kubota M. Okada H, Fujii K：Therapeutic regimen of l-arginine for MELAS: 9-year, prospective, multicenter, clinical research. Journal of Neurology, 2018;1-14. https://doi.org/10.1007/s00415-018-9057-7
8. Nagai K, Maekawa T, Terashima H, Kubota M, Ishiguro A：Severe anti-GAD antibody-associated encephalitis after stem cell transplantation. Brain Dev. 2018 Oct 28. pii: S0387-7604(18)30294-8. doi: 10.1016/j.braindev.2018.10.006.
9. Kanamori K, Terashima H, Anzai M, Ishiguro A, Kubota M： Prolonged mild disturbance of consciousness and acute encephalopathy. Pediatr Int. 2018 Dec 15. doi: 10.1111/ped.13753.
10. Nabbout R, Belousova E, Benedik MP, Carter T, Cottin V et al. ; TOSCA Consortium and TOSCA Investigators (Kubota M et al.)：Epilepsy in tuberous sclerosis complex: Findings from the TOSCA Study. Epilepsia Open. 2018 ;4:73-84.
11. Ueda NK, Nakamura K, Go H, Takehara H, Kashiwabara N, Arai K, Takemura H, Namai Y, Kanemitsu K : Neonatal meningitis and recurrent bacteremia with group B Streptococcus transmitted by own mother's milk: A case report and review of previous cases. International Journal of Infectious Diseases 2018;74:13–15
12. Suzuki-Muromoto S, Wakusawa K, Miyabayashi T, Sato R, Okubo Y, Endo W, Inui T, Togashi N, Kato A, Oba H, Nakashima M, Saitsu H, Matsumoto N, Haginoya K： A case of new PCDH12 gene variants presented as dyskinetic cerebral palsy with epilepsy. J Hum Genet. 2018; 63:749-753.
13. Wakusawa K, Nara C, Kubota Y, Tomizawa Y, Taki Y, Sassa Y, Kobayashi S, Suzuki-Muromoto S, Hirose M, Yokoyama H, Nara T, Kure S, Mori N, Takei N, Kawashima R： Intra-individual cognitive imbalance in ASD between perceptual

reasoning and ambiguity-solving related to tool use: Comparison among children exhibiting ASD, AD/HD, and typical development. Brain Dev. 2018; 40:16-25.

14. Okubo Y, Endo W, Inui T, Suzuki-Muromoto S, Miyabayashi T, Togashi N, Sato R, Arai-Ichinoi N, Kikuchi A, Kure S, Haginoya K: A severe female case of arthrogryposis multiplex congenita with brain atrophy, spastic quadriplegia and intellectual disability caused by ZC4H2 mutation. Brain Dev. 2018; 40:334-338.
15. Takezawa Y, Kikuchi A, Haginoya K, Niihori T, Numata-Uematsu Y, Inui T, Yamamura-Suzuki S, Miyabayashi T, Anzai M, Suzuki-Muromoto S, Okubo Y, Endo W, Togashi N, Kobayashi Y, Onuma A, Funayama R, Shirota M, Nakayama K, Aoki Y, Kure S: Genomic analysis identifies masqueraders of full-term cerebral palsy. Ann Clin Transl Neurol. 2018; 5:538-551.
16. Abe Y, Sassa K, Kikuchi T, Yamanouchi H: Hypothalamic-pituitary-adrenal axis hypofunction after adrenocorticotropic hormone therapy. Epilepsy and Seizure. 2018; 10:11-21.
17. Yuka Murofushi, Munehiro Furuichi, Kensuke Shoji, Mitsuru Kubota, Akira Ishiguro, Satoko Uematsu, Ruoyan Gai, Isao Miyairi:Adverse Economic Impact Associated With Blood Culture Contamination in a Pediatric Emergency Department. The Pediatric Infectious Disease Journal.2018;37:755-758.
18. Jun-ichi Takanashi, Kumi Yasukawa, Yuka Murofushi, Atsuko Masunaga, Hiroshi Sakum, Masaharu Hayashi:Loss of myelinated axons and astrocytosis in an autopsy case of acute encephalopathy with biphasic seizures and late reduced diffusion. Brain Dev.2018;40:947-951.
19. Kana Yokota, Kentaro Sano, Yuka Murofushi, Daisuke Yoshimaru, Jun-ichi Takanashi: Neurochemistry evaluated by MR spectroscopy in a patient with xeroderma pigmentosum group A. Brain Dev.2018;40:931-933.
20. Otani T, Morikawa Y, Hayakawa I, Atsumi Y, Tomari K, Tomobe Y, Uda K, Funakoshi Y, Sakaguchi C, Nishimoto S, Hataya H:Ultrasound-guided peripheral intravenous access placement for children in the emergency department. : Eur J Pediatr. 2018;177:1443-1449.
21. 久保田 雅也,木村 育美:MEGとアイトラッキングによるアスペルガー症候群の顔認知解析 臨床神経生理学 2018;46:124-131.
22. 占部 良介, 久保田 雅也:【小児処方の新潮流】 抗ヒスタミン薬 東京小児科医会報 2018;37:3-7.
23. 柿本 優, 久保田 雅也:【ここまできた小児神経・筋疾患の診断と治療】 治療 脳性麻痺(重度痙性) 小児科診療 2018;81:73-77.
24. 村上瑛梨 中尾寛 中川聡 西村奈穂:体温上昇に伴う高血圧が遷延したⅢ度熱中症の学童例 第119回日本小児科学会学術集会 日本小児科学会雑誌 2018;122:915-921
25. 成相 諒子, 亀井 宏一, 余谷 暢之, 加納 優治, 小椋 雅夫, 久保田 雅也, 塩田 曜子, 田中 恭子, 前田 浩利, 木須 彩, 栃谷 治子, 鈴木 彩, 石黒 精, 石倉 健司:生体腎移植後末期腎不全に腎代替療法を行えなかった結節性硬化症の 1 例. 日本小児腎不全学会雑誌 2018;38:242-244.

[原著論文:査読なし]

なし

[総説]

1. 上田菜穂子, 久保田雅也:けいれん・意識障害の診断・治療の進め方. 小児内科 2018;50:451-5.

[著書]

[ガイドライン、報告書、その他](学会・研究班ガイドライン、研究班報告書、刊行物等)(欧文、和文の順

に）

[学会発表]（国際学会、国内学会の順に）

国際学会

1. Sassa, K, Fujino M, Abe Y, Yamanouchi H: CHARACTERISTIC SURFACE EMG IN A CASE OF EPILEPTIC SPASMS WITH NODDING/OBEYING MANNER. 19th International Symposium on Severe Infantile epilepsies: old and new treatments, Rome, 2018.9.20-22.

国内学会

1. 上田菜穂子，富田慶一，早川格，占部良介，神岡哲治，武井剛，鈴木智，寺嶋宙，久保田雅也：新生児期発症の不随意運動・驚愕反射・全身強直発作が難治に経過している一乳児例．第71回多摩小児神経懇話会，東京，2018年1月20日
2. 上田菜穂子，占部良介，神岡哲治，柿本優，武井剛，寺嶋宙，久保田雅也：ITB 療法前後でアクチグラフを用いた睡眠覚醒状態の記録を通して筋緊張の評価を行ったアテトーゼ型の性麻痺の一例．第60回小児神経学会学術集会，千葉，2018.5.31
3. 占部 良介，寺嶋 宙，上田 菜穂子，早川 格，武井 剛，鈴木 智，神岡 哲治，久保田 雅也：長期間の weekly ACTH 療法が有効な難治性てんかんを呈する歌舞伎症候群の一例．第60回小児神経学会学術集会，千葉，2018.5.31
4. 上田菜穂子，寺嶋宙，久保田雅也：可逆性脳梁膨大部病変を有する軽症脳症に、けいれん重積型二相性急性脳症を合併した4歳男児例．第10回小児免疫性脳炎研究会，千葉，2018年6月2日
5. 鈴木智，上田菜穂子，占部良介，早川 格，神岡哲治，武井 剛，寺嶋 宙，余谷暢之,久保田雅也：新しい形の小児短期入所施設「もみじの家」～短期入所利用者家族の施設に対するニーズの検討～ 第60回日本小児神経学会学術集会，千葉，2018.5.31
6. 田中 雅大，夏目 淳，伊予田 邦昭，金村 英秋，久保田 雅也，小島原 典子，田辺 卓也，吉永治美，新島 新一，浜野 晋一郎，三牧 正和，杉江 秀夫，福田 冬季子，前垣 義弘：熱性けいれん診療ガイドライン 2015 による小児科医の診療行動変化の全国調査 第60回日本小児神経学会学術集会，千葉，2018.5.31
7. 古賀 靖敏，井上 永介，中村 秀文，鈴木 康弘，久保田 雅也，藤井 克則：MELAS に対するアルギニン治療の9年間の前方視的、多施設共同研究のフォローアップと治療レジメン 第60回日本小児神経学会学術集会，千葉，2018.5.31
8. 宇佐美 憲一，寺嶋 宙，久保田 雅也：脳梁離断術の適応となる難治性てんかん 発作成績と術後合併症について 第60回日本小児神経学会学術集会，千葉，2018.5.31
9. 川上 沙織，寺嶋 宙，石黒 精，久保田 雅也：Panayiotopoulos 症候群と急性脳症の臨床像の比較 第60回日本小児神経学会学術集会，千葉，2018.5.31
10. 鈴木智,犬塚陽子，木暮紀子，大久保浩子，余谷暢之，阿部祐一，滝本悦子，内多勝康，久保田雅也：新しい形の小児短期入所施設「もみじの家」～短期入所施設の次なる役割とは～ 第7回小児診療多職種医療研究会，北九州，2018.11.24
11. 大橋瑛梨、佐藤 敦志、樋渡 光輝、下田 木の実、竹中 暁、関 正史、三谷 友一、日高 もえ、滝田 順子、岡 明：造血幹細胞移植後の血管脆弱性を背景とした脳血管障害の3例 第121回日本小児科学会学術集会 福岡 2018.4.21
12. Abe Y, Sassa K, Yamanouchi H: Transition from steroid to tacrolimus monotherapy for myasthenia gravis in children. 第60回日本小児神経学会学術集会，千葉，2018.5.31-6.2
13. Abe Y, Hayakawa I, Kosaki R, Kubota M: A novel mutation in GRIN1 gene associated encephalopathy. The 52th Congress of the Japan Epilepsy Society, Yokohama, 2018. 10. 25-27.
14. 颯佐かおり，阿部裕一，秋岡祐子，菊池透，大竹明，徳山研一，山内秀雄：ナルコレプシーの治療介入前後での日中の過眠と学業成績の変化．第171回日本小児科学会埼玉地方会，さいたま，2018.2.18
15. 清水貴寛，小川俊一，盛田英司，植田 穣，山﨑太郎，阿部裕一，秋岡祐子，山内秀雄，菊池透，大竹明，徳山研一：小麦（うどん）の負荷試験で著明な炎症反応上昇を認め、非IgE依存性消化管

食物アレルギーが疑われた1例. 第171回日本小児科学会埼玉地方会, さいたま, 2018.2.18
16. 野田あんず, 古山晶子, 阿部裕一:診断に苦慮したGuillain-Barre症候群の1例. 第68回日本小児神経学会関東地方会, 品川, 2018.3.24
17. 藤野美里, 颯佐かおり, 阿部裕一, 山内秀雄: 焦点性発作の要素をもつ欠神てんかんの1例. 第68回日本小児神経学会関東地方会, 品川, 2018.3.24
18. 颯佐かおり, 阿部裕一, 山内秀雄:ビデオ脳波同時記録で発作時脳波から PNES (psychogenic non-epileptic seizures) と診断した 5 症例の検討. 第 60 回日本小児神経学会学術集会, 千葉, 2018.5.31-6.2.
19. 野田あんず, 古山晶子, 阿部裕一, 新保裕子, 相田典子, 後藤知英:家族からの検査希望を契機に診断されたクレアチントランスポーター欠損症の 1 例. 第 60 回日本小児神経学会学術集会, 千葉, 2018.5.31-6.2.
20. 飛田和えりか, 松崎正樹, 武者育麻, 荒尾正人, 盛田英司, 阿部裕一, 秋岡祐子, 徳山研一: OR-164 発熱, 関節痛, 皮疹を伴い急性腎不全で発症した感染関連糸球体腎炎の一例. 第53回日本小児腎臓病学会学術集会, 福島, 2018.6.29-30.
21. 神岡哲治, 上田菜穂子, 占部良介, 早川格, 川井未知子, 武井剛, 鈴木智, 阿部裕一, 久保田雅也, 加藤光広:原因不明のてんかん・不随意運動・発達遅滞で発症し, CACNA1A遺伝子異常が見出された1症例. 第52回日本てんかん学会学術集会, 横浜, 2018.10.25-27.
22. 占部 良介, 早川 格, 上田 菜穂子, 武井 剛, 鈴木 智, 神岡 哲治, 寺嶋 宙, 久保田 雅也, 小崎 里華, 加藤 光広: 新生児期発症の難治性てんかん性脳症をきたしたSCN2A変異の男児例. 第52回日本てんかん学会学術集会, 横浜, 2018.10.25-27.
23. 秋山 倫之, 大星 大観, 今井 克美, 道和 百合, 椎原 隆, 福山 哲広, 兵頭 勇紀, 土屋 弘樹, 久保田 雅也, 浜野 晋一郎, 岡西 徹, 小林 勝弘: 本邦におけるピリドキシン依存性てんかん診断システムの開発. 第52回日本てんかん学会学術集会, 横浜, 2018.10.25-27.
24. 宇佐美 憲一, 石坂 栄太郎, 松橋 阿子, 久保田 雅也, 荻原 英樹: 小児脳腫瘍に伴うてんかん治療における手術の役割. 第52回日本てんかん学会学術集会, 横浜, 2018.10.25-27.
25. 占部良介, 川井未知子, 早川格, 上田菜穂子, 武井剛, 鈴木智, 阿部裕一, 久保田雅也:感染を契機に増悪し、意識減損、体幹動揺を伴うミオクローヌス、ジストニアを呈する幼児例. 第48回日本臨床神経生理学会学術大会, 東京, 2018.11.8-10.
26. 室伏 佑香, 中村 由紀子, 河野 千佳, 大澤 麻記, 小沢 愉理, 永松 扶紗, 長谷川 行洋, 小沢 浩:低身長、運動発達遅滞を主訴に診断された自己免疫性甲状腺炎の 1 歳女児症例. 第 68 回日本小児神経学会関東地方会 東京 2018.3.24
27. 室伏 佑香, 佐野 賢太郎, 白戸 由理, 森山 陽子, 武藤 順子, 細山 公子, 久保田 一生, 佐藤 典子, 高橋 祐二, 高梨 潤一:反復する頭部打撲により大脳白質裂傷を生じた小児 3 症例. 第 121 回日本小児科学会学術集会 福岡 2018.4.20-22
28. 武井 剛、早川 格、上田 菜穂子、占部 良介、神岡 哲治、鈴木 智、寺嶋 宙、久保田 雅也: 胎児期～新生児期早期に診断された結節性硬化症の特徴 第 60 回日本小児神経学会学術集会 千葉 2018.5.30
29. Takei G, Kamioka T, Terashima H, Kubota M, Itoh R, Kosuga M, Okuyama T: A case of late-onset Pompe disease followed up as hepatic dysfunction of unknown origin 第 60 回日本先天代謝異常学会学術集会 岐阜 2018.11.8
30. 早川 格, 久保田 雅也:6 年間の下肢痛を主訴とした Charcot-Marie-Tooth 病の 9 歳男児例 第 69 回日本小児神経学会関東地方会 2018.10.13
31. 早川 格, 寺嶋 宙, 小崎 里華, 久保田 雅也:大頭と発達遅滞を呈し PTEN 遺伝子変異を認めた 2 例 第 68 回日本小児神経学会関東地方会 2018.3.24
32. 早川 格, 寺嶋 宙, 上田 菜穂子, 占部 良介, 武井 剛, 鈴木 智, 神岡 哲治, 久保田 雅也: 早期乳児の気道感染に伴う無呼吸はてんかん性ではない 第 60 回日本小児神経学会学術集会 千葉 2018.5.30
33. 早川 格, 安藤 亜希, 寺嶋 宙, 久保田 雅也:4 歳から 6 歳の立方体描写の定型発達『母子コホート研究による成育疾患等の病態解明に関する研究』から 第 60 回日本小児神経学会学術集会 千葉 2018.5.30
34. 星野 愛, 齋藤 真木子, 久保田 雅也, 高梨 潤一, 岡 明, 水口 雅:急性壊死性脳症における

遺伝的リスクファクター 第 121 回日本小児科学会学術集会 福岡 2018.4.20-22

35. 松戸 孝博, 西村 奈穂, 渡邉 太郎, 井手 健太郎, 中川 聡, 宮入 烈, 石倉 健司, 久保田 雅也：腸管出血性大腸菌感染症による溶血性尿毒症症候群に伴う急性脳症の予後の検討 第 121 回日本小児科学会学術集会 福岡 2018.4.20-22.
36. 杉山 みづき, 中舘 尚也, 永井 章, 堀川 美和子, 坂下 和美, 植松 悟子, 辻 聡, 久保田 雅也, 窪田 満, 石黒 精：当院で過去 6 年間に経験した Panayiotopoulos 症候群の臨床像と脳波所見の検討 第 121 回日本小児科学会学術集会 福岡 2018.4.20-22.
37. 久保田 雅也, 八鍬 瑛子, 寺嶋 宙, 星野 英紀：MCT8 欠損症(Allan-Herndon-Dudley 症候群)の全国実態調査 第 121 回日本小児科学会学術集会 福岡 2018.4.20-22.

講演

1. 上田菜穂子, 占部良介, 川井未知子, 早川格, 武井剛, 鈴木智, 阿部裕一, 久保田雅也：当院におけるヌシネルセン投与経験. 神経筋疾患懇話会, 東京, 2018.10.18
2. 久保田雅也：シンポジウム「児童青年期の神経・精神発達疫学」 乳幼児発達の意味するもの 成育母子コホートにおける観察研究から 第59回日本児童青年精神医学会総会 東京 2018.10.11
3. 久保田雅也：エキスパートレクチャー11 小児神経疾患とMEG 第48回日本臨床神経生理学会 東京 2018.11.10
4. 久保田雅也：一例から始まる極私的神経症候学 実践教育セミナー 第 60 回日本小児神経学会学術集会, 千葉, 2018.5.31
5. 久保田雅也：東京大学大学院情報理工研究科知能機械情報学専攻大学院生および学部生に対して「生体情報論」および「医療工学」の講義を 2018.4.11～7.11 まで週 1 コマ、以下のテーマで行った。小児臨床神経学概論,不随意運動からヒトの行為・行動の仕組みを考える,乳児のこころと身体の発達, てんかん発作からヒトの脳の正常・異常・病的状態を考える、稀少難病について、発達障害とは何か.

腎臓・リウマチ・膠原病科

[原著論文：査読付] (Reviewed Paper)

1. Iijima K,Sako M,Kamei K,Nozu K: Rituximab in steroid-sensitive nephrotic syndrome: lessons from clinical trials. Pediatr Nephrol 2018;33:1449-1455
2. Kamei K,Ogura M ,Sato M,Ito S,Ishikura K: Infusion reactions associated with rituximab treatment for childhood-onset complicated nephrotic syndrome. Pediatr Nephrol 2018;33:1013-1018
3. Kamei K,Miyairi I,Ishikura K,Ogura M,Shoji K,Funaki T,Ito R,Arai K,Abe J,Kawai T,Onodera M, Ito S: Prospective study of live attenuated vaccines for patients with nephrotic syndrome receiving immunosuppressive agents. J Pediatr 2018;196:217-222. (2019 年日本小児腎臓病学会森田賞受賞)
4. Horinouchi T,Nozu K,Yamamura T,Minamikawa S,Omori T,NakaNishi K,Fujimura J, Ashida A,Kitamura M,Kawano M,Shimabukuro W,Kitabayashi C,Imafuku A,Tamagaki K,Kamei K,Okamoto K,Fujinaga S,Oka M,Igarashi T,Miyazono A,Sawanobori E,Fujimaru R,NakaNishi K,Shima Y,Matsuo M,Ye MJ,Nozu Y,Morisada N,Kaito H, Iijima K: Detection of Splicing Abnormalities and Genotype-Phenotype Correlation in X-linked Alport Syndrome. J Am Soc Nephrol 2018;29:2244-2254
5. Jia X,Horinouchi T,Hitomi Y,Shono A,Khor SS,Omae Y,Kojima K,Kawai Y,Nagasaki M,Kaku Y,Okamoto T,Ohwada Y,Ohta K,Okuda Y,Fujimaru R,Hatae K,Kumagai N, Sawanobori E,Nakazato H,Ohtsuka Y,NakaNishi K,Shima Y,Tanaka R,Ashida A,Kamei K,Ishikura K,Nozu K,Tokunaga K,Iijima K; Research Consortium on Genetics of Childhood Idiopathic Nephrotic Syndrome in Japan: Strong Association of the HLA-DR/DQ Locus with Childhood Steroid-Sensitive Nephrotic Syndrome in the Japanese Population. J Am Soc Nephrol 2018;29:2189-2199
6. Doi K,Nishida O,Shigematsu T,Sadahiro T,Itami N,Iseki K,Yuzawa Y,Okada H,Koya D,Kiyomoto H,Shibagaki Y,Matsuda K,Kato A,Hayashi T,Ogawa T,Tsukamoto T,Noiri E,Negi S,Kamei K,Kitayama H,Kashihara N,Moriyama T,Terada Y; Japanese Clinical Practice Guideline for Acute Kidney Injury 2016 Committee: The Japanese clinical practice guideline for acute kidney injury 2016. Clin Exp Nephrol 2018;22:985-10
7. Doi K,Nishida O,Shigematsu T,Sadahiro T,Itami N,Iseki K,Yuzawa Y,Okada H,Koya D,Kiyomoto H,Shibagaki Y,Matsuda K,Kato A,Hayashi T,Ogawa T,Tsukamoto T,Noiri E,Negi S,Kamei K,Kitayama H,Kashihara N,Moriyama T,Terada Y; Japanese Clinical Practice Guideline for Acute Kidney Injury 2016 Committee: The Japanese Clinical Practice Guideline for acute kidney injury 2016. J Intensive Care 2018 Aug 13; 6: 48. doi: 10.1186/s40560-018-0308-6. eCollection 2018.
8. Unzaki A, Morisada N, Nagatani K, Nozu K, Ye MJ, Ito S, Matsunaga T, Ishikura K, Ina S, Nagatani K, Okamoto T, Inaba Y, Ito N, Igarashi T, Kanda S, Ito K, Omune K, Iwaki T, Ueno K, Yahata M, Goto S, Okamoto N, Iijima K: Clinically diverse phenotypes and genotypes of patients with branchio-oto-renal syndrome. J Hum Genet 2018;63:647-656
9. Shima Y, NakaNishi K, Kaku Y, Ishikura K, Hataya H, Matsuyama T, Honda M, Sako M, Nozu K, Tanaka R, Iijima K, Yoshikawa N: Combination therapy with or without warfarin and dipyridamole for severe childhood IgA nephropathy; an RCT. Pediatr Nephrol 2018;33:2103-2112
10. Harada R, Ishikura K, Shinozuka S, Mikami N, Hamada R, Hataya H, Morikawa Y, Omori T, Takahashi H, Hamasaki Y, Kaneko T, Iijima K, Honda M: Ensuring safe drug administration to pediatric patients with renal dysfunction: a multicenter study. Clin Exp Nephrol 2018;22:938-946
11. Hamasaki Y, Muramatsu M, Hamada R, Ishikura K, Hataya H, Satou H, Honda M, NakaNishi K, Shishido S: Long-term outcome of congenital nephrotic syndrome after kidney transplantation in Japan. Clin Exp Nephrol 2018;22:719-726
12. Morikawa Y, Miura M, Furuhata MY, Morino S, Omori T, Otsuka M, Chiga M, Obonai T, Hataya H, Kaneko T, Ishikura K, Honda M, Hasegawa Y: Nebulized hypertonic saline in infants hospitalized with moderately severe bronchiolitis due to RSV infection: A multicenter randomized controlled trial. Pediatr Pulmonol 2018;53:358-365

13. Terano C, Ishikura K, Hamada R, Yoshida Y, Kubota W, Okuda Y, Shinozuka S, Harada R, Iyoda S, Fujimura Y, Hamasaki Y, Hataya H, Honda M: Practical issues in using eculizumab for children with atypical haemolytic uremic syndrome in the acute phase: a review of 4 patients. Nephrology (Carlton) 2018;23:539-545
14. Ploos van Amstel S, Noordzij M, Warady BA, Cano F, Craig JC, Groothoff JW, Ishikura K, Neu A, Safouh H, Xu H, Jager KJ, Schaefer F: Renal replacement therapy for children throughout the world: the need for a global registry. Pediatr Nephrol 2018;33:863-871
15. Gotoh Y, Uemura O, Ishikura K, Sakai T, Hamasaki Y, Araki Y, Hamada R, Honda M: Validation of estimated glomerular filtration rate equations for Japanese children. Clin Exp Nephrol 2018;22:931-937
16. Uemura O, Ishikura K, Gotoh Y, Honda M: Creatinine-based estimated glomerular filtration rate for children younger than 2 years. Clin Exp Nephrol 2018;22: 483-484
17. Horinouchi T, Sako M, NakaNishi K, Ishikura K, Ito S, Nakamura H, Oba MS, Nozu K, Iijima K. Study protocol: mycophenolate mofetil as maintenance therapy after rituximab treatment for childhood-onset, complicated, frequently-relapsing nephrotic syndrome or steroid-dependent nephrotic syndrome: a multicenter double-blind, randomized, placebo-controlled trial (JSKDC07). Journal of BMC Nephrol 2018;19(1):302
18. Hama T, NakaNishi K, Ishikura K, Ito S, Nakamura H, Sako M, Saito-Oba M, Nozu K, Shima Y, Iijima K, Yoshikawa N; Japanese Study Group of Kidney Disease in Children (JSKDC). Study protocol: high-dose mizoribine with prednisolone therapy in short-term relapsing steroid-sensitive nephrotic syndrome to prevent frequent relapse (JSKDC05 trial). Journal of BMC Nephrol 2018;19(1):223
19. Sato M,Kamei K,Ogura M,Ishikura K Ito S: Relapse of nephrotic syndrome during post-**rituximab** peripheral blood B-lymphocyte depletion. Clin Exp Nephrol. 2018 Feb;22(1):110-116
20. Nagata H,Sato M,Ogura M,Yoshikawa T,Yamamoto K,Matsumura S,Kano Y,Saida K, Sako M,Kamei K,Yoshioka T,Ogata K,Ito S,Ishikura K: Coagulopathy as a complication of kidney biopsies in paediatric systemic lupus erythematosus patients with antiphospholipid syndrome. Nephrology (Carlton). 2018 Jun;23(6):592-596. doi: 10.1111/nep.13175.
21. Saida K, Ogura M, Kano Y, Ishimori S, Yoshikawa T, Nagata H, Sato M, Kamei K, Ishikura K: Treatment of hemolytic uremic syndrome related to Bordetella pertussis infection -is plasma exchange or eculizumab use necessary?. BMC Nephrol. 2018;19(1):365
22. Saida K, Kamei K, Ogura M, Matsumura S, Kano Y, Sato M, Andoh A, Ishikura K: Azathioprine-induced Agranulocytosis and Severe Alopecia After Kidney Transplantation Associated With a NUDT15 Polymorphism: A Case Report. Transplant Proc. 2018;50(10):3925-3927
23. **亀井宏一：小児の慢性腎臓病の管理 －コツと** pitfall**－. 日本小児腎臓病学会雑誌** 2018;31:123-128
24. **亀井宏一, 小椋雅夫, 松村壮史, 加納優治, 好川貴久, 永田裕子, 才田謙, 佐藤舞, 山本かずな, 佐古まゆみ, 伊藤秀一, 石倉健司：移植腎のプロトコール生検の意義. 腎移植・血管外科** 2018;2:1-6
25. **亀井宏一, 宮入烈, 庄司健介, 河合利尚, 新井勝大, 伊藤玲子, 小椋雅夫, 佐古まゆみ, 中村秀文, 伊藤秀一, 石倉健司：免疫抑制薬内服中の患者への弱毒生ワクチン接種の現状と今後の戦略・課題. 日本臨床腎移植学会雑誌** 2018;6:163-172
26. **亀井宏一, 稲垣 秀人, 森 崇寧, 藤丸 拓也, 蘇原 映誠, 濱崎 祐子, 宍戸 清一郎, 義岡 孝子, 緒方 謙太郎, 岡田 麻理, 小椋雅夫, 佐藤舞, 倉橋 浩樹, 石倉健司**: PKD1 **の複合ヘテロ接合体変異を示** ARPKD **と類似した臨床像を呈した男児例. 日本小児腎不全学会雑誌**, 38: 152-155, 2018.
27. **佐古まゆみ, 三浦健一郎, 芦田明, 石倉健司, 井上勉, 後藤芳充, 小松康宏, 重松 隆, 杉山斉, 寺野千香子, 中西浩一, 西尾妙織, 幡谷浩史, 藤元昭一, 向山政志, 吉矢邦彦, 本田雅敬, 岩野正之, 服部元史**: **「小児慢性腎臓病患者における移行医療についての提言」と「思春期・青年期**

の患者のための CKD 診療ガイド」の認知度、理解度、活用度に関するアンケート調査の報告. 日本腎臓学会誌 2018;60(7):972-977

28. 山本かずな, 寺野千香子, 濱田陸, 橋本淳也, 武田良淳, 原田涼子, 石倉健司, 長谷川行洋, 幡谷浩史, 本田雅敬: 腎機能障害を契機に診断された甲状腺機能低下症の 1 例. 日本小児腎臓病学会雑誌 2018;31(2):167-171

[原著論文:査読なし]

[症例報告]

1. Saida K,Ogura M,Kano Y,Ishimori S,Yoshikawa T,Nagata H,Sato M,Kamei K, Ishikura K: Treatment of hemolytic uremic syndrome related to Bordetella pertussis infection -is plasma exchange or eculizumab use necessary?. BMC Nephrol 2018;19:365.doi: 10.1186/s12882-018-1168-y.
2. Okada M,Kamei K,Matsuoka K,Ito S: Development of antibody mediated rejection shortly after acute cellular rejection in a pediatric kidney transplantation recipient. CEN Case Rep 2018;7:288-291
3. Nagata H,Sato M,Ogura M,Yoshikawa T,Yamamoto K,Matsumura S,Kano Y,Saida K,Sako M,Kamei K,Yoshioka T,Ogata K,Ito S,Ishikura K: Coagulopathy as a complication of kidney biopsies in paediatric systemic lupus erythematosus patients with antiphospholipid syndrome. Nephrology(Carlton) 2018;23:592-596
4. Tetsuhara K,Tsuji S,Uematsu S,Kamei K: Pulmonary Embolism Mimicking Infectious Pleuritis. Pediatr Emerg Care 2018;34:e201-e203
5. 亀井宏一, 稲垣秀人, 森崇寧, 藤丸拓也, 蘇原映誠, 濱崎祐子, 宍戸清一郎, 義岡孝子, 緒方謙太郎, 岡田麻理, 小椋雅夫, 佐藤舞, 倉橋浩樹, 石倉健司: *PKD1* の複合ヘテロ変異を示し ARPKD と類似した臨床像を呈した男児例. 日本小児腎不全学会雑誌 2018;38:152-155
6. 成相諒子, 亀井宏一, 余谷暢之, 加納優治, 小椋雅夫, 久保田雅也, 塩田曜子, 田中恭子, 前田浩利, 木須彩, 栃谷治子, 鈴木彩, 石黒精, 石倉健司: 生体腎移植後末期腎不全に腎代替療法を行えなかった結節性硬化症の 1 例. 日本小児腎不全学会雑誌 2018;38:242-244
7. 西田幹子, 緒方志穂, 中山美穂子, 石和翔, 小椋雅夫, 亀井宏一, 石倉健司: 腹膜透析から血液透析へ移行した多動傾向にある患者の看護. 日本小児 PD・HD 研究会雑誌 2018;30:66-68
8. 石和翔, 亀井宏一, 小椋雅夫, 西健太朗, 奥津美夏, 松村壮史, 佐藤舞, 西田幹子, 宇田和宏, 庄司健介, 石倉健司: 起因菌同定までに時間を要し診断に苦慮した非定型抗酸菌性腹膜炎の 4 歳男児例. 日本小児 PD・HD 研究会雑誌 2018;30:33-35
9. 亀井宏一, 好川貴久, 永田裕子, 西健太朗, 石和翔, 奥津美夏, 松村壮史, 佐藤舞, 小椋雅夫, 佐古まゆみ, 鈴木万里, 石倉健司: 血圧の管理に難渋した高レニン性高血圧の Denys-Drash 症候群の 1 歳女児例. 日本小児 PD・HD 研究会雑誌. 2018;30:55-57

[総説]

1. 亀井宏一: 特集 小児腎不全－移行期医療の管理 小児期急性腎障害の現況と長期予後. 臨床透析 2018;34:1143-1148
2. 亀井宏一: AKI 診療ガイドライン 2016. 日本小児腎不全学会雑誌 2018;38:11-17
3. 亀井宏一: 特集 小児腎・泌尿器疾患 update AKI 診療ガイドライン 2016. 小児科 2018;59:1399-1408
4. 亀井宏一: 膜性腎症. 増刊号 小児疾患の診断治療基準 改訂第 5 版 東京医学社 2018;654-655
5. 亀井宏一: 特集 ネフローゼ症候群-MCNS/FSGS の最新知見 免疫抑制薬内服中の患者への弱毒生ワクチン. 腎と透析 2018;85:864-868
6. 小椋雅夫, 石倉健司: 特殊な腎代替療法—小児の血液透析と腹膜透析. 救急・集中治療アドバンス 重症患者における急性肝不全・急性腎傷害・代謝異常 2018;161-169
7. 小椋雅夫, 石倉健司: 小児末期腎不全における栄養療法. 臨床透析 2018;34:1097-1102,
8. 小椋雅夫:やさしくわかる 腎臓のしくみとはたらき. 新こどもの腎炎・ネフローゼ 正しい理解が希

望をはぐくむ 2018;15-26
9. 小椋雅夫:299. ループス腎炎. 小児内科第 50 巻増刊号 小児疾患の診断治療基準 第 5 版 2018;662-663
10. 佐藤舞: 特集「小児診療ガイドラインの読み解き方」小児関連学会のガイドラインへの取り組み 腎臓領域(日本小児腎臓病学会). 小児内科 2018;50(5): 824-827
11. 佐藤舞, 石倉健司: 海外と日本の比較 小児. 腎と透析 2018;85(6):795-800
12. 奥津美夏: Dent 病 . 小児疾患の診断治療基準 第 5 版 2018;50:674-675
13. 石和翔, 石倉健司: 小児慢性腎臓病(小児 CKD)の最新の知見. 小児科 2018; 59:1315-1323

[著書]
1. 佐藤舞:「とことん解説Ⅲ 透析療法と腎移植」. 伊藤秀一(編集) 新子どもの腎炎・ネフローゼ, 東京医学社, 2018;95-122
2. 西健太朗,石倉健司: スキルアップ!小児の総合診療—セイイクノスキル—. 診断と治療社, 2018;109-111

[ガイドライン, 報告書, その他]
1. 新関寛徳, 横関博雄, 石河 晃, 戸倉新樹, 椛島健治, 種瀬啓士, 関 敦仁, 小﨑慶介, 桑原理充, 宮坂実木子, 三森経世, 久松理一, 亀井宏一, 新井勝大, 堀川玲子, 工藤純, 井上永介: 肥厚性皮膚骨膜症の診療内容の均てん化に基づく重症度判定の策定に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業)「肥厚性皮膚骨膜症の診療内容の均てん化に基づく重症度判定の策定に関する研究」, 平成 29 年度総括研究報告書, 2018
2. 新関寛徳, 横関博雄, 石河 晃, 戸倉新樹, 椛島健治, 種瀬啓士, 関 敦仁, 小﨑慶介, 桑原理充, 宮坂実木子, 三森経世, 久松理一, 亀井宏一, 新井勝大, 堀川玲子, 工藤純, 井上永介: 肥厚性皮膚骨膜症の合併症発生状況の解析(重症度分類の検討に向けて). 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業)「肥厚性皮膚骨膜症の診療内容の均てん化に基づく重症度判定の策定に関する研究」, 平成 29 年度分担研究報告書, 2018;4-5
3. 新関寛徳, 横関博雄, 石河 晃, 戸倉新樹, 椛島健治, 種瀬啓士, 関 敦仁, 小﨑慶介, 桑原理充, 宮坂実木子, 三森経世, 久松理一, 亀井宏一, 新井勝大, 堀川玲子, 工藤純, 井上永介: 肥厚性皮膚骨膜症の診療内容の均てん化に基づく重症度判定の策定に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業)「肥厚性皮膚骨膜症の診療内容の均てん化に基づく重症度判定の策定に関する研究」, 平成 27 年～29 年度総合研究報告書, 2018;1-6
4. 新関寛徳, 横関博雄, 石河 晃, 戸倉新樹, 椛島健治, 種瀬啓士, 関 敦仁, 小﨑慶介, 桑原理充, 宮坂実木子, 三森経世, 久松理一, 亀井宏一, 新井勝大, 堀川玲子, 工藤純, 大田えりか, 井上永介: 肥厚性皮膚骨膜症全国調査による合併症実態調査(重症度判定の策定に向けて). 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業)「肥厚性皮膚骨膜症の診療内容の均てん化に基づく重症度判定の策定に関する研究」, 平成 29 年度分担研究報告書, 2018;7-9
5. 岡田浩一, 安田宜成, 旭浩一, 伊藤孝史, 要伸也, 神田英一郎, 菅野義彦, 四方賢一, 柴垣有吾, 土谷健, 鶴屋和彦, 長田太助, 成田一衛, 南学正臣, 服部元史, 濱野高行, 藤元昭一, 守山敏樹, 山縣邦弘, 山本陵平, 若杉三奈子, 芦田明, 臼井丈一, 川村和子, 北村健一郎, 今田恒夫, 鈴木祐介, 鶴岡秀一, 西尾妙織, 藤井直彦, 藤井秀毅, 和田健彦, 横山仁, 青木克憲, 秋山大一郎, 荒木信一, 有馬久富, 石川英二, 石倉健司, 石塚喜世伸, 石本卓嗣, 石本遊, 井関邦敏, 板橋美津世, 一岡聡子, 市川一誠, 市川大介, 井上秀二, 今井利美, 今村秀明, 岩田恭宜, 岩津好隆, 臼井俊明, 内田啓子, 江川雅博, 大原信一郎, 大森教雄, 岡田理恵子, 奥田雄介, 尾関貴哉, 小畑 陽子, 甲斐平康, 加藤規利, 金崎啓造, 金子佳賢, 蒲澤秀門, 川口武彦, 川崎幸彦, 川島圭介, 河野春奈, 菊地勘, 木原正夫, 木村良紀, 栗田宜明, 小池健太郎, 小泉賢洋, 小島智亜里, 後藤俊介, 此元隆雄, 古波蔵健太郎, 小松弘幸, 駒場大峰, 齋藤知栄, 酒井行直, 坂口悠介, 里中弘志, 自見加奈子, 清水昭博, 清水さやか, 白井小百合, 新沢真紀, 杉山和寛, 鈴木智, 鈴木仁, 陶山和秀, 瀬川裕佳, 高橋和也, 田中健一, 田中哲洋, 角田亮也, 鶴田悠木, 中倉兵庫, 長澤康行, 中西浩一, 長浜正彦, 中屋来哉, 名波正義, 新畑覚也, 西慎一, 西脇宏樹, 長谷川祥子, 長谷川みどり, 花田 健, 林宏樹, 原田涼子, 菱田学, 平野大志,

平橋淳一, 平間章郎, 平山浩一, 深川雅史, 福田顕弘, 藤井良幸, 藤崎毅一郎, 古屋文彦, 星野純一, 細島康宏, 本田謙次郎, 増田貴博, 松井浩輔, 松隈祐太, 松村英樹, 三井亜希子, 三浦健一郎, 三戸部倫大, 宮里賢和, 宮本聡, 三輪沙織, 谷澤雅彦, 矢田雄介, 山本義浩, 渡邉公雄, CKD 診療ガイド・ガイドライン改訂委員会, 日本腎臓学会：エビデンスに基づく CKD 診療ガイドライン 2018. 日本腎臓学会誌 2018;60(8):1037-1193

[学会発表]

1. Kamei K,Nozu K,NakaNishi K,Nagano C,Okutsu M,Ishiwa S,Nishi K,Matsumura S, Sato M,Ogura M,Sako M,Ito S,Iiijima K,Ishikura K: A case of an 8-year-old girl with steroid-resistant nephrotic syndrome caused by a NPHS1 compound heterozygous mutation. The 16th Japan -Korea-China Pediatric Nephrology Seminar, Busan, 2018.4.13
2. Harada R, Kikunaga K, Kamei K, Hamada R, Nagata H, Ando T, Ishikura K. Adrenal suppression after prednisolone treatment in children with idiopathic nephrotic syndrome: a multicenter prospective study. ASN Kidney Week 2018, San Diego, 2018.10.24
3. Nishi K,Ogura O,Ishiwa S,Kano Y,Saida K,Okutsu M,Matsumura S,Sato M,Sako M, Kamei K,Nagata M,Yoshioka T,Ogata K,Ishikura K： A 1-year-old boy with steroid-resistant nephrotic syndrome complicated with thrombotic. The 16th Japan-Korea-China Pediatric Nephrology Seminar, 上海, 2018.4.15
4. Saida K, Fukuda T, Mizuno K, Nishi K, Sato M, Ogura M, Kamei K, Ishikura K, Ito S: Personalized regimen of eculizumab based on PK/PD estimation in a girl with atypical hemolytic uremic syndrome. The 16th Korea-China-Japan Pediatric Nephrology Seminar, South Korea, 2018.4.14
5. 亀井宏一，宮入烈，庄司健介，佐古まゆみ，中村秀文，石倉健司： 免疫抑制薬内服下での生ワクチン接種の現状と今後の戦略・課題． 第 51 回日本臨床腎移植学会，神戸， 2018.2.16
6. 亀井宏一，奥津美夏，石和翔，西健太朗，松村壮史，佐藤舞，小椋雅夫，中西啓太，野津寛大，飯島一誠，石倉健司： NUP107 の複合ヘテロ変異を認めた無症候性蛋白尿の 3 歳女児． 第 121 回日本小児科学会， 福岡， 2018.4.20
7. 亀井宏一、宮入烈、庄司健介、佐古まゆみ、中村秀文、石倉健司： 免疫抑制薬内服中の患者への弱毒生ワクチン接種の現状と今後の戦略・課題． 第 121 回日本小児科学会， 福岡，2018.4.22
8. 亀井宏一，奥津美夏，石和翔，西健太朗，松村壮史，佐藤舞，小椋雅夫，佐古まゆみ，伊藤秀一，石倉健司：リツキシマブ後免疫抑制薬を継続した難治性ネフローゼ症候群での免疫抑制薬中止後再発に寄与する因子の検討． 第 61 回日本腎臓学会学術集会， 新潟， 2018.6.9
9. 亀井宏一，奥津美夏，石和翔，西健太朗，松村壮史，佐藤舞，小椋雅夫，佐古まゆみ，伊藤秀一，石倉健司：リツキシマブ後免疫抑制薬を継続した難治性ネフローゼ症候群での免疫抑制薬の至適中止時期および中止後再発に寄与する因子の検討． 第 53 回日本小児腎臓病学会学術総会，福島， 2018.6.29
10. 亀井宏一，野津寛大，中西啓太，長野智那，奥津美夏，石和翔，西健太朗，松村壮史，佐藤舞，小椋雅夫，佐古まゆみ，伊藤秀一，飯島一誠，石倉健司： 8 歳でステロイド抵抗性ネフローゼ症候群を発症し後に NPHS1 複合ヘテロ接合体変異が判明した女児例． 第 53 回日本小児腎臓病学会学術総会， 福島，2018.6.30
11. 亀井宏一，佐藤舞，金森透，奥津美夏，石和翔，西健太朗，小椋雅夫，澤井俊宏，奥田雄介，義岡孝子，緒方謙太郎，石倉健司： 半月体形成性腎炎を呈した C3 腎炎の 4 歳女児． 第 40 回日本小児腎不全学会学術集会， 宮崎， 2018.11.9
12. 石倉健司： 小児特発性ネフローゼ症候群 本邦の臨床研究と診療ガイドラインの改訂． 第 53 回日本小児腎臓病学会学術総会， 福島，2018.6.30
13. 石倉健司： 高血圧と腎障害 インターベンション 小児腎疾患と高血圧緊急症 PRES を中心に．第 53 回日本小児腎臓病学会学術総会， 福島，2018.6.30
14. 石倉健司： 本邦の小児慢性腎臓病（小児 CKD）．沖縄小児腎臓病フォーラム，沖縄，2018.
15. 関戸雄貴, 中舘尚也, 伊藤秀一, 小椋雅夫, 石倉健司, 宮嵜治, 野坂俊介, 窪田満, 石黒精：

多発性骨病変を呈した慢性再発性多発性骨髄炎の 2 例． 第 121 回日本小児科学会， 福岡，2018.4.22

16. 釜江智佳子，亀井宏一，松村壮史，渋川尚幸，三谷爽，辻田由喜，小國裕和，野村智章，藤田基資，中川紀子，石倉健司，黒木康富： 学校検尿を契機に発見され腎機能障害を呈した肥満関連腎症の 14 歳男児例． 第 121 回日本小児科学会， 福岡， 2018.4.22
17. 松戸孝博，西村奈穂，渡邉太郎，井手健太郎，中川聡，宮入烈，石倉健司，久保田雅也： 腸管出血性大腸菌感染症による溶血性尿毒症症候群に伴う急性脳症の予後の検討． 第 121 回日本小児科学会， 福岡， 2018.4.22
18. 濱田陸，出来沙織，南裕佳，井口智洋，大森教雄，齊藤綾子，徳永孝史，菊永佳織，三上直朗，寺野千香子，原田涼子，濱崎祐子，石倉健司，幡谷浩史，本田 雅敬： 小児期発症 STEC-HUS と aHUS の診断時臨床像および予後の比較． 第 121 回日本小児科学会， 福岡，2018.4.22
19. 三浦真理子，加納優治，伊東藍，前川貴伸，小椋雅夫，亀井宏一，野津寛大，窪田満，石黒精，石倉健司： 3 型 Bartter 症候群(3 型 BS)の 2 例と Gitelman 症候群(GS)の 2 例:臨床診断の限界について． 第 121 回日本小児科学会， 福岡， 2018.4.22
20. 堀之内智子，野津寛大，石倉健司，飯島一誠： ゲノムワイド関連解析による小児特発性ネフローゼ症候群の riskhaplotype 同定． 第 61 回日本腎臓学会学術集会， 新潟， 2018.6.9
21. 井口智洋，濱田陸，南裕佳，出来沙織，大森教雄，齊藤綾子，徳永孝史，菊永佳織，三上直朗，寺野千香子，原田涼子，濱崎祐子，幡谷浩史，石倉健司，本田雅敬： 当院で管理された先天性ネフローゼ症候群、乳児ネフローゼ症候群 49 例の臨床経過の検討． 第 53 回日本小児腎臓病学会学術総会， 福島，2018.6.30
22. 濱田陸，石倉健司，大森教雄，三上直朗，寺野千香子，原田涼子，松井善一，佐藤 裕之，後藤美和，濱崎祐子，幡谷浩史，緒方謙太郎，中西浩一，長谷川行洋，宍戸清一郎，本田雅敬： 当院で経験した WT1 関連腎症 34 例の遺伝子異常と臨床像． 第 53 回日本小児腎臓病学会学術総会， 福島，2018.6.30
23. 齋藤綾子，原田涼子，南裕佳，出来沙織，井口智洋，大森教雄，徳永孝史，菊永佳織，寺野千香子，濱田陸，濱崎祐子，幡谷浩史，石倉健司，本田雅敬： 小児初発ネフローゼ症候群における高血圧の臨床像．第 53 回日本小児腎臓病学会学術総会， 福島，2018.6.30
24. 寺野千香子，幡谷浩史，久保田亘，菊永佳織，三上直朗，原田涼子，濱田陸，濱崎祐子，石倉健司，杉井章二，西尾康英，本田雅敬： 小児期発症腎疾患患者の疾患理解、自立度は成人期発症患者と同等である． 第 53 回日本小児腎臓病学会学術総会， 福島，2018.6.30
25. 徳永孝史，濱田陸，出来沙織，南裕佳，大森教雄，齊藤綾子，井口智洋，菊永佳織，寺野千香子，三上直朗，原田涼子，濱崎祐子，幡谷浩史，石倉健司，本田雅敬： automated peritoneal dialysis(APD)における除水量当たりのナトリウム除去量についての検討． 第 53 回日本小児腎臓病学会学術総会， 福島，2018.6.30
26. 菊永佳織，濱田陸，南裕佳，出来沙織，井口智洋，大森教雄，齊藤綾子，徳永孝史，三上直朗，寺野千香子，原田涼子，濱崎祐子，幡谷浩史，石倉健司，本田雅敬： 末期腎不全に至った先天性腎尿路異常(CAKUT)患者の経過 Syndromic と Non-syndromic の比較． 第 53 回日本小児腎臓病学会学術総会， 福島，2018.6.30
27. 堀之内智子，Xiaoyuan J，人見祐基，石倉健司，亀井宏一，濱田陸，郭 義胤，藤丸 季可，岡本孝之，大和田葉子，田中亮二郎，後藤芳充，貝藤裕史，野津寛大，徳永勝士，飯島一誠： ゲノムワイド関連解析による小児特発性ネフローゼ症候群の risk haplotype 同定． 第 53 回日本小児腎臓病学会学術総会， 福島，2018.6.30
28. 森教雄，濱田陸，出来沙織，南裕佳，井口智洋，齊藤綾子，徳永孝史，菊永佳織，奥田雄介，三上直朗，寺野千香子，原田涼子，濱崎祐子，幡谷浩史，石倉健司，本田雅敬： IgG 沈着の有無による C3 腎症の予後の検討． 第 53 回日本小児腎臓病学会学術総会， 福島，2018.6.30
29. 釜江智佳子，亀井宏一，松村壮史，渋川尚幸，三谷爽，辻田由喜，山本かずな，小國 裕和，野村智章，藤田基資，中川紀子，石倉健司，黒木康富： 学校検尿を契機に発見され腎機能障害を呈した肥満関連腎症の 14 歳男児例． 第 53 回日本小児腎臓病学会学術総会， 福島，2018.6.30

30. 加納優治, 西健太朗, 石和翔, 奥津美夏, 松 壮史, 佐藤舞, 小椋雅夫, 亀井宏一, 福原康之, 野津寛大, 池田真理子, 倉橋 浩樹, 石倉健司: 遺伝学的検査により確定診断され、次子の出生前診断が検討された遺伝性腎疾患の 2 家系. 第 53 回日本小児腎臓病学会学術総会, 福島, 2018.6.30
31. 大谷勇紀, 井口智洋, 徳永孝史, 南裕佳, 出来沙織, 大森教雄, 齊藤綾子, 菊永佳織, 寺野千香子, 原田涼子, 濱田陸, 濱崎祐子, 幡谷浩史, 石倉健司, 本田雅敬: ネフローゼ状態に至った小児重症紫斑病性腎炎(HSPN)に対する腎生検適応 血清アルブミン値からみた腎生検介入時期の検討. 第 53 回日本小児腎臓病学会学術総会, 福島, 2018.6.30
32. 小椋雅夫, 伊藤秀一: 当院における少関節型若年性特発性関節炎の臨床経過のまとめ. Total Biologics Seminar Special, 東京, 2018.1.23
33. 小椋雅夫, 伊藤秀一, 金森透, 西健太朗, 奥津美夏, 石和翔, 佐藤舞, 亀井宏一, 石倉健司: 抗 MDA-5 抗体陽性若年性皮膚筋炎の完治後に混合性結合組織病を発症した 1 女児例. 第 28 回日本小児リウマチ学会, 東京, 2018.10.27
34. 湖城由佳, 詫間梨恵, 鈴木萌夏, 赤羽三貴, 小椋雅夫, 伊藤秀一, 石倉健司, 石川洋一: 小児リウマチ性疾患患児におけるメトトレキサートの副作用調査および葉酸製剤の予防効果の検討. 第 138 回日本薬学会, 金沢, 2018.3.27
35. 安河内悠, 小椋雅夫, 石倉健司, 伊藤秀一, 石黒精: 上肢の関節拘縮で発見され、早期治療が奏功した少関節型若年性特発性関節炎の 3 例. 第 121 回日本小児科学会, 福岡, 2018.4.27
36. 金森啓太, 西健太朗, 石和翔, 小椋雅夫, 伊藤秀一, 石倉健司: 急性心不全で発症した高安動脈炎の 12 歳女児例. 第8回東日本小児リウマチ研究会, 東京, 2018.5.19
37. 池乗愛依, 余谷暢之, 小川英輝, 河野直子, 宮入烈, 三井真理, 小椋雅夫, 前川貴信, 窪田満, 石黒精: 小児の外陰部潰瘍‐性的虐待の鑑別としての Lipschütz 潰瘍‐. 第 28 回日本外来小児科学会, 東京, 2018.8.26
38. 湖城由佳, 詫間梨恵, 小椋雅夫, 石倉健司, 伊藤秀一, 山谷明正: 小児リウマチ性疾患におけるメトトレキサートの副作用調査および葉酸製剤の予防効果の検討. 第 28 回日本小児リウマチ学会, 東京, 2018.10.27
39. 金森啓太, 西健太朗, 石和翔, 小椋雅夫, 石倉健司, 伊藤秀一: 急性心不全で発症した高安動脈炎の 12 歳女児例. 第 28 回日本小児リウマチ学会, 東京, 2018.10.28
40. 蘇哲民, 壷井伯彦, 小椋雅夫, 進藤考洋, 西村奈穂, 中川聡: 大動脈閉鎖不全を伴った高安動脈炎の 1 例. 第 46 回日本救急医学会, 横浜, 2018.11.21
41. 佐藤舞, 石倉健司, 寺野千香子, 菊永佳織, 小牧文代, 石森真吾, 濱崎祐子, 安藤高志, 伊藤秀一, 本田雅敬: 小児特発性ネフローゼ症候群全国疫学調査(JP-SHINE study). 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.22
42. 佐藤舞, 石倉健司, 小椋雅夫, 亀井宏一, 武田昌寛, 佐々木健吾, 内田孟, 平田義弘, 福田晃也, 阪本靖介, 笠原群生: 腎障害の有無による小児肝移植例の長期腎予後:471 例の解析. 第 54 回日本移植学会総会, 東京, 2018.10.3
43. 佐藤舞, 小椋雅夫, 亀井宏一, 石倉健司, 福田晃也, 阪本靖介, 笠原群生: 肝移植後同一ドナーによる腎移植における抗ドナー抗体の意義. 第 54 回日本移植学会総会, 東京, 2018.10.4
44. 西健太朗, 小椋雅夫, 石和翔, 加納優治, 才田謙, 奥津美夏, 松村壮史, 佐藤舞, 佐古まゆみ, 亀井宏一, 長田道夫, 義岡孝子, 緒方謙太郎, 石倉健司: 血栓性微小血管障害(TMA)を合併したステロイド抵抗性ネフローゼ症候群の1歳男児例. 第 85 回関東小児腎臓研究会, 東京, 2018.3.2
45. 西健太朗, 小椋雅夫, 石和翔, 奥津美夏, 松村壮史, 佐藤舞, 佐古まゆみ, 亀井宏一, 伊藤秀一, 石倉健司: 急激な腎機能低下により新生児期に透析導入に至った Denys-Drash 症候群の 5 例. 第 121 回日本小児科学会, 福岡, 2018.4.20
46. 西健太朗, 小椋雅夫, 金森透, 石和翔, 奥津美夏, 佐藤舞, 佐古まゆみ, 諫山哲哉, 亀井宏一, 伊藤秀一, 伊藤裕司, 石倉健司: 新生児期に腎機能障害を呈する先天性腎尿路異常(CAKUT)において Cr 値は腎機能予後予測に有用か. 第 32 回小児 PDHD 研究会, 広島, 2018.10.4
47. 西健太朗, 小椋雅夫, 石和翔, 奥津美夏, 金森透, 佐藤舞, 佐古まゆみ, 亀井宏一, 伊藤秀一, 石倉健司: ステロイドを中止しえた小児期発症全身性エリテマトーデスの 12 例. 第 28 回小児リ

ウマチ研究会， 東京， 2018.10.26

48. 金森透，亀井宏一，西健太朗，奥津美夏，石和翔，佐藤舞，小椋雅夫，伊藤秀一，中西啓太，野津寛大，飯島一誠，石倉健司： 無症候性蛋白尿の精査で WT1 遺伝子異常が判明した 17 歳女児例． 第 40 回日本小児腎不全学会学術集会， 宮崎， 2018.11.9
49. 金森透，小椋雅夫，早川格，西健太朗，奥津美夏，石和翔，佐藤舞，亀井宏一，伊藤秀一，石倉健司： MFN2 ヘテロ接合体変異を伴う Charcot-Marie-Tooth 病に抗 MDA5 抗体陽性の若年性皮膚筋炎を合併した 14 歳女子例． 小児科学会東京都地方会， 東京，2018.12
50. 奥津美夏，亀井宏一，松村壮史，佐藤舞，西健太朗，石和翔，小椋雅夫，佐古まゆみ，伊藤秀一，石倉健司： ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群の既往がある難治性ネフローゼ症候群に対する B 細胞回復後のリツキシマブ予防的追加投与．日本小児腎臓病学会学術集会， 福島，2018.6.30.
51. 松村壮史，宇田和弘，奥津美夏，西健太朗，石和翔，佐藤舞，小椋雅夫，佐古まゆみ，亀井宏一，宮入烈，石倉健司： Lethal HUS associated with urinary tract infection in an 8-year-old girl． 第 53 回日本小児腎臓病学会学術集会，福島，2018.6.29
52. 石和翔，佐藤舞，西健太朗，金森透，奥津美夏，小椋雅夫，佐古まゆみ，亀井宏一，伊藤秀一，飯島一誠，石倉健司： 先天性腎尿路異常の臨床像と遺伝子変異の関連性：単施設 64 例の解析．第 40 回日本小児腎不全学会学術集会, 2018. 宮崎.

[講演]

1. 亀井宏一： 紫斑病性腎炎と IgA 腎症の異同． 小児難治性腎疾患治療研究会，新潟，2018.6.8
2. 亀井宏一： 教育講演 8 小児の CKD の管理 -コツと pit fall-． 第 53 回日本小児腎臓病学会学術総会， 福島， 2018.6.30,
3. 亀井宏一 ： 教育セミナー 免疫抑制薬内服中の患者への弱毒生ワクチン接種． 第 40 回日本小児腎不全学会学術集会， 宮崎， 2018.11.9
4. 亀井宏一： 特別講演 小児の慢性腎不全と腎代替療法． 第 35 回神奈川・腎移植を勉強する会，横浜, 2018.12.22
5. 亀井宏一： 分野別シンポジウム 8 「子供の薬：適正使用、安全性と添付文書のはざ間で」免疫不全患者または免疫抑制薬内服中の患者への生ワクチン接種． 第 120 回日本小児科学会， 東京，2017.4.15,
6. 亀井宏一： シンポジウム 2 「生物学的製剤の現状」難治性ネフローゼ症候群とリツキシマブ療法． 第 1 回日本不全・自己炎症学会， 東京， 2018.1.20,
7. 亀井宏一： サテライトシンポジウム テーマ 1 「難治性腎疾患と分子標的薬（リツキサンなど）」小児の難治性ネフローゼ症候群とリツキシマブ療法． 第 61 回日本腎臓学会学術集会サテライトシンポジウム， 埼玉， 2018.7.29
8. 佐藤舞，亀井宏一，石倉健司，笠原群生: 常染色体劣性多発性嚢胞腎の長期予後～肝移植と腎移植の戦略～． 第 32 回小児 PD・HD 研究会， 東京， 2018.10.5
9. 佐藤舞: 抗体関連拒絶の理論と管理の現状～移植腎の長期生着を目指して～． 第 6 回東京横浜小児腎センターの会， 新宿， 2018.1.26

4-3-4 生体防御系内科部
免疫科

[原著論文:査読付](Reviewed Paper)

1. Shoji K, Kawai T, Onodera M, Tsutsumi Y, Nosaka S, Miyairi I: Multiple osteolytic lesions on the skull of a girl with MSMD. Pediatr Int. 2018 Nov;60(11):1043-1044. doi: 10.1111/ped.13691.
2. Osumi T, Tomizawa D, Kawai T, Sako M, Inoue E, Takimoto T, Tamura E, Uchiyama T, Imadome K, Taniguchi M, Shirai R, Yoshida M, Ando R, Tsumura Y, Fuji H, Matsumoto K, Shioda Y, Kiyotani C, Terashima K, Onodera M, Matsumoto K, Kato M: A prospective study of allogeneic transplantation from unrelated donors for chronic granulomatous disease with target busulfan-based reduced-intensity conditioning. Bone Marrow Transplant. 2018 Jun 29. doi: 10.1038/s41409-018-0271-9.
3. Ohnishi T, Shinjoh M, Ohara H, Kawai T, Kamimaki I, Mizushima R, Kamada K, Itakura Y, Iguchi S, Uzawa Y, Yoshida A, Kikuchi K: Purulent lymphadenitis caused by Staphylococcus argenteus, representing the first Japanese case of Staphylococcus argenteus (multilocus sequence type 2250) infection in a 12-year-old boy. J Infect Chemother. 2018 Nov;24(11):925-927. doi:10.1016/j.jiac.2018.03.018.
4. Kamei K, Miyairi I, Ishikura K, Ogura M, Shoji K, Funaki T, Ito R, Arai K, Abe J, Kawai T, Onodera M, Ito S. : Prospective Study of Live Attenuated Vaccines for Patients with Nephrotic Syndrome Receiving Immunosuppressive Agents. J Pediatr. 2018 May;196:217-222.e1. doi: 10.1016/j.jpeds.2017.12.061.
5. Nishi K, Kawai T, Kubota M, Ishiguro A, Onodera M.: X-linked agammaglobulinemia complicated with pulmonary aspergillosis. Pediatr Int. 2018 Jan;60(1):90-92

[総説]

1. 河合利尚:食細胞機能異常症、小児科診療「小児の治療指針」、診断と治療社、2018:81;228-231
2. 河合利尚:原発性免疫不全症や移植後の免疫抑制薬服用中の小児に対する投薬、ENTONI、全日本病院出版会、2018:218;167-174.
3. 河合利尚、乳児発症 STING 関連血管炎、日本臨牀、日本臨牀社、2018;76(10);1825-31
4. 河合利尚、炎症性疾患に対するサリドマイド治療、小児内科、東京医学社、2018;50(10):1689-92
5. 河合利尚、免疫不全症における感染症、小児科診療、診断と治療社、2018;9(65):1171-6
6. 河合利尚、NLRC4 インフラマソーム、医学のあゆみ、医歯薬出版株式会社、2018;267(9):683-8
7. 河合利尚、食細胞機能異常症、小児内科、2018;50:262-263

[学会発表]

1. Kawai T, Arai K, Ishikawa T, Tamura E, Uchiyama T, Onodera M: Coadministration of thalidomide ameliorates inflammatory bowel disease associated with chronic granulomatous disease. European Society of Immunodeficiency diseases. Lisbon、2018/10/25
2. 石川尊士、田村英一郎、内山徹、小野寺雅史、和田靖之、河合利尚:小児期から重症感染症を繰り返す X 連鎖性慢性肉芽腫症の成人女性例、第 50 回小児感染症学会、福岡、2018/4/22
3. 熱田雄也、松原昌平、田中勝、福島一彰、小林泰一郎、矢嶋敬史郎、関谷紀貴、味澤篤、河合利尚、今村顕史:黄色ブドウ球菌による肝膿瘍を契機に成人期に診断した X 連鎖慢性肉芽腫症保因者の一例、第 92 回日本感染症学会学術講演会、岡山、2018/6/1
4. 大西卓磨、新庄正宜、河合利尚、上牧勇、水島遼、鎌田啓佑、板倉泰朋、川口成一、吉田淳、菊池賢:Staphylococcus argenteus による化膿性リンパ節炎を起こした 12 歳男児、第 92 回日本感染症学会学術講演会、岡山、2018/6/1
5. 上島洋二、大石勉、荒井孝、古市美穂子、佐藤智、菅沼栄介、高野忠将、康勝好、河合利尚、布

井博幸：当院で経験した慢性肉芽腫症 18 例の臨床経過、第 121 回小児科学会学術集会、福岡、2018/4/22

6. 峠千晶、加藤元博、大隅朋生、富澤大輔、村上瑛梨、河合利尚、今留謙一、八角高裕、石黒精：自然回復と再燃を反復した家族性血球貪食症候群 3 型、第 121 回小児科学会学術集会、福岡、2018/4/22
7. 石川尊士、南波広行、和田靖之、斎藤義弘、河合利尚、久保政勝、井田博幸：トシリズマブを中止し得た治療抵抗性全身性若年性特発性関節炎の女児例、第 121 回小児科学会学術集会、福岡、2018/4/22
8. 吉田陽一郎、島田空知、川田友美、石羽澤映美、渡辺信之、河合利尚、高橋弘典、長森恒久、東寛：新規 STAT3 遺伝子変異を伴う高 IgE 症候群例の IL-17 産生能解析、第 121 回小児科学会学術集会、福岡、2018/4/22
9. 大隅朋生、河合利尚、富澤大輔、内山徹、佐古まゆみ、井上永介、田村英一郎、渡辺信之、藤浩、塩田曜子、　清谷千賀子、寺島慶太、今留謙一、瀧本哲也、小野寺雅史、松本公一、加藤元博: 前方視的臨床試験による用量調整 BU を用いた慢性肉芽腫症(CGD)に対する非血縁者間骨髄移植、日本造血幹細胞移植学会、札幌、2018/2/1

内分泌代謝科

【原著】

1. Ozono K,Ogata T,Horikawa R, Matsubara Y, Ogawa Y ,Nishijima K,Yokoya S:Efficacy and safety of two doses of Norditropin(somatropin) in short stature due to Noonan syndrome:a 2-years randomized, double-blind, multicenter trial in Japanese patients. Endocr J. 2018;26;65(2):159-174
2. Yoshii K,Naiki Y,Terada Y,Fukami M,Horikawa R: Mismatch between fetal and birth phenotype : a case of complete androgen insensitivity syndrome. Endoc J. 2018; 26;65(2):221-225
3. Kosaki R,Horikawa R,Fujii E,Kosaki K: Biallelic mutations in LARS2 can cause Perrault syndrome type 2 with neurologic symptoms. AM J Med Genet A. 2018;176(2):404-408
4. Ono H,Saitsu H,Horikawa R,Nakashima S,Ohkubo Y,Yanagi K,Nakabayashi K,Fukami M,Fujisawa Y,Ogata T: Partial androgen insensitivity syndrome caused by a deep intronic mutation creating an alternative splice acceptor site of the AR gene. Sci Rep. 2018;2;8(1):2287
5. Ogawa K,Morisaki N,Kobayashi M,Jwa SC,Tani Y,Sago H,Horikawa R,Fujiwara T: Maternal vegetable intake in early pregnancy and wheeze in offspring at the age of 2 years. Eur J Clin Nutr. 2018;72(5):761-771.
6. Johannsson G,Bidlingmaier M,Biller BMK,Boguszewski M,Casanueva FF,Chanson P, Clayton PE,Choong CS,Clemmons D,Dattani M,Frystyk J,Ho K,Hoffman AR,Horikawa R, Juul A,Kopchick JJ Luo X,Neggers S Netchine I,Olsson DS,Radovick S,Rosenfeld R, Ross RJ,Schilbach K Solberg P,Strasburger C,Trainer P,Yuen KCJ,Wickstrom K, Jorgensen JOL; Growth Hormone Research Society: Growth Hormone Research Society perspective on biomarkers of GH action in children and adults. Endocr Connect. 2018;7(3):R126-R134.
7. Aoki S,Hashimoto K, gawa K,Horikawa R,Sago H: Developmental outcomes of Japanese children born through Assisted Reproductive Technology (ART) in toddlerhood. J Obstet Gynaecol Res. 2018;44(5):929-935.
8. Hanew K,Tanaka T,Horikawa R,Hasegawa T,Yokoya S: Prevalence of diverse complications and its association with karyotypes in Japanese adult women with Turner syndrome-a questionnaire survey by the Foundation for Growth Science. Endocr J. 2018;65(5):509-519.
9. Kawashima S,Nakamura A,Inoue T,Matsubara K,Horikawa R,Wakui K,Takano K, Fukushima Y,Tatematsu T, Mizuno S,Tsubaki J,Kure S,Matsubara Y,Ogata T,Fukami M,Kagami M: Maternal Uniparental Disomy for Chromosome 20: Physical and Endocrinological Characteristics of Five Patients. J Clin Endocrinol Metab. 2018;103(6):2083-2088.
10. Ahiko N,Baba Y,Tsuji M,Horikawa R,Moriyama K: Investigation of maxillofacial morphology and oral characteristics with Turner syndrome and early mixed dentition. Congenit Anom (Kyoto). 2018 Apr 25.
11. Ono H,Saitsu H,Horikawa R,Nakashima S,Ohkubo Y,Yanagi K,Nakabayashi K,Fukami M, Fujisawa Y,Ogata T: Partial androgen insensitivity syndrome caused by a deep intronic mutation creating an alternative splice acceptor site of the AR gene. Sci Rep. 2018;8(1):2287.
12. Niizeki H,Hayashi R,Naiki Y,Yoshida K,Tanaka R,Shimizu A,Terashima H,Isogawa N, Abe R,Shimomura Y: Delayed-onset heat intolerance in a Japanese patient with X-linked hypohidrotic ectodermal dysplasia associated with a large deletion involving four genes. J Dermatol. 2018 Mar;45(3):376-378.
13. Ando E,MorisakiN,Asakura K,Sasaki S,Fujiwara T,Horikawa R: Serum 25-hydroxy -vitamin D levels showed strong seasonality but lacked association with vitamin D intake in 3-year-old Japanese children. Br J Nutr 2018;120(9):1034-1044
14. Ogawa K,Morisaki N,Sago H,Fujiwara T,Horikwa R: Association between women's perceived adial gestational weight gain during pregnancy and pregnancy outcomes.

Sci Rep.2018;8(1):11574

15. Sasai H, Aoyama Y, Otuka H, Abdelkreem E, Naiki Y, Kubota M, Sekine Y, Itoh M, Nakamura M, Ohnishi H, Fujiki R, Ohara O, Fukao T: Heterozygous carriers of succinyl-CoA: 3-oxoacid CoA transferase deficiency can develop severe ketoacidosis. J Inherit Metab Dis. 2017 Nov;40(6):845-852
16. Niizeki H, Hayashi R, Naiki Y, Yoshida K, Tanaka R, Shimizu A, Terashima H, Isogawa N, Abe R, Shimomura Y.; Delayed-onset heat intolerance in a Japanese patient with X-linked hypohidrotic ectoderman dysplasia associated with a large deletion involving four genes. J Dermatol. 2017;45(3):376-378
17. Montabano A, Juergensen L, Fukami M, Thiel C, Hauer N, Roeth R, Weiss B, Naiki Y, Ogata T, Hassel D, Rapprld G: Functional missense and splicing variants in the retinoic acid catabolizing enzyme CYP26C1 in idiopathic short stature. Eur J Hum Genet. 2018;26(8):1113-1120
18. **田中敏章, 神崎晋, 田島敏広, 田中弘之, 西美和, 長谷川奉延, 堀川玲子, 横谷進, 依藤亨: ターナー症候群の0.35mg/kg/週による成長ホルモンの治療後の成人身長 TRC共同研究. 日本成長学会雑誌** 2018;24(2): 64-70
19. **小野裕之, 中島信一, 藤沢泰子, 緒方勤, 才津浩智, 堀川玲子, 大久保由美子, 深見真紀: 不完全型アンドロゲン受容体異常症家系において同定されたAR遺伝子深部イントロンバリアントの機能解析. 成長科科学協会研究年報** 2018;41:101-103
20. **寺田有美子, 水谷和子, 森崎菜穂, 堀川玲子, : 【生活習慣病と子ども-DOHaDと健康のカギ】DOHaDの基礎 SGA・早産の影響 在胎週数が臍帯血中アミノ酸濃度に与える影響および母体と胎児の関連. 小児科診療** 2018;81(10)1279-1283
21. **石毛信之, 渡辺和宏, 長谷川智美, 小西薫, 間下充子, 世良保美, 村山圭, 菅原秀典,金城健一, 堀川玲子, 石毛美夏, 大和田操: LC/MS/MS法によるイソ吉草酸血症の2次検査法の有用性 ろ紙血C5アシルカルニチン異性体とイソバレリルグリシン同時分析法. 日本マス・スクリーニング学会誌** 2018;28(3):305-314

【症例報告】

1. Tomonaga K,Tahara K,Watanabe T,Ohno M,Ogawa K,Kutsukake M,Fujino A,Hishiki T, Kinjyo K,Horikawa R,Katsumata N,Kanamori Y: A case of congenital autonomous thyroid adenoma with a somatic activating gene mutation in the thyroid-stimulating hormone receptor. J Pediatr Surg Case Rep 2018;38:50-52

【総説】

1. **堀川玲子:【新生児の薬物療法-update】ステロイド以外のホルモン製剤. 周産期医学** 2018;48(2):226-228
2. **笠原群生, 阪本靖介, 福田晃也, 藤野明浩, 金森豊, 菱木知郎, 堀川玲子, 野坂俊介,宮入烈, 鈴木康之, 中川聡, 西村奈穂, 植松悟子, 小野博, 今留謙一, 入江理恵, 義岡孝子, 石黒精, 松本公一, 李小康, 絵野沢伸, 深見真紀, 阿久津英憲, 斎藤博久, 梅澤明弘, 石川洋一, 松谷弘子, 松原洋一, 斉藤和幸, 賀藤均, 五十嵐隆: 国立成育医療研究センターにおける小児肝移植医療(総説). 医療** 2018;72(3):99-104
3. **堀川玲子: 【思春期を観る!】移行期医療を踏まえた診察の仕方-これを診ておこう・やっておこう 内分泌疾患. 小児科** 2018;24Suppl.:193
4. **内木康博: 外性器異常の取り扱い - 病態と初期対応 周産期医学** 2018;48(11): 1557-1563
5. **内木康博: 45,X/46,XY 混合性性腺異形成 見て学ぶ小児内分泌疾患** No.11 2018

【著書】

該当なし

【その他】

1. **堀川玲子: 性分化疾患. 宮崎日日新聞** 2018.3.14

2. 堀川玲子： 成長ホルモン分泌不全性低身長症周辺の知識向上. Growing46 号総監修, 東京, 2019.3.1～2018.3.20

【学会発表】

1. Kinjo K,Yoshida T,Fujisawa Y,Terada Y,Chiba Y,Yoshii K,Naiki Y,Horikawa R: Different Effects of Sulfonylurea Treatment on Two Cases of Neonatal Diabetes. ENDO 2018, Chicago, 2018.3.18
2. Naiki Y,Miyado M,Hasegawa Y,Horikawa R,Pang S,Katsumata N,Fukami N. Induction of CYP21A2 with AAV vector for gene therapy of CAH. gene therapy of CAH. 100th Annual meeting of the Endocrine Society, Chicago, 2018.3.19
3. Matsumoto H,Naiki Y,Horikawa R: 2400 mL/m²/day is better cut-off value of urine volume to distinguish between central diabetes insipidus and primary polydipsia in children. The 17th National Conference on Pediatric Endocrine and Genetic Metabolic Diseases, China, 2018.8.25
4. Terada Y, Fujisawa Y, Chiba Y, Ogiwara Y, Nakao K, Yoshii K, Naiki Y, Horikawa R: Short and long-term outcome of patients with congenital hyperinsulinism. 10th International Meeting of Pediatric Endocrinology, Washington DC, 2018.9.15
5. Matsumoto H,Naiki Y,Horikawa R: 2400 mL/m²/day is better cut-off value of urine volume to distinguish between central diabetes insipidus and primary polydipsia in children. The 17th National Conference on Pediatric Endocrine and Genetic Metabolic Diseases, China, 2018.8.25
6. Terada Y,Fujisawa Y,Chiba Y,Kinjo K,Tsukamura A,Yamaguchi T,Yoshii K, Naiki Y,Horikawa R: A Novel Gene Mutation and Atypical Clinical Phenotype of Kallmann Syndrome. 57th annual meeting of the European Society for Pediatric Endocrinology Society, Greece, 2018 年 9 月 27 日～29 日
7. Yamaguchi T,Kinjo K,Tsukamura A,Terashita S,Matsumoto M,Fujisawa Y,Terada Y,Yoshii K,Naiki Y,Horikawa R: Postoperative endocrinological evaluation in androgen-producing adrenal tumor. 10th Asia Pacific Pediatric Endocrine Society Scientific Meeting, Chiang Mai, 2018.11.9
8. Kinjo K,Yoshii K,Fujisawa Y,Naiki Y,Horikawa R: Autonomously functioning thyroid nodules caused by somatic TSHR gene mutation in Japanese children. 10th Asia Pacific Pediatric Endocrine Society Scientific Meeting, Chiang Mai, 2018.11.9
9. 松本英樹, 内木康博, 堀川玲子: 尿量 2400ml/m2/日は部分型中枢性尿崩症と習慣性多飲多尿をより高感度に鑑別できるカットオフ値である. 第 91 回日本内分泌学会学術総会, 宮崎, 2018.4.26
10. 内木康博, 宮戸真美, 長谷川雄一, 堀川玲子, 高田修治, 勝又規行, 深見真紀 AAV ベクターを用いた遺伝子導入による先天性副腎皮質過形成の遺伝子治療の試み 第91回日本内分泌学会学術集会, 宮崎, 2018.4.26
11. 金城健一, 吉田朋子, 藤澤佑介, 千葉悠太, 寺田有美子, 吉井啓介, 内木康博, 堀川玲子: SU 薬治療を行った新生児糖尿病 2 例. 第 91 回日本内分泌学会学術総会, 宮崎, 2018.4.27
12. 塚村篤史, 寺下新太郎, 松本真明, 金城健一, 山口朋恵, 藤澤佑介, 寺田有美子, 吉井啓介, 内木康博, 堀川玲子: NKX2-1 新規変異を認めた先天性甲状腺機能低下症の一例. 第 22 回小児分子内分泌研究会, 北海道, 2018.7.7
13. 藤澤佑介, 太田知子, 勝又規行, 深見真紀, 堀川玲子: DAX-1 異常症新規変異の兄弟例. 第 22 回小児分子内分泌研究会, 北海道, 2018 年 7 月 7 日～8 日
14. 寺下新太郎, 松本真明, 金城健一, 塚村篤史, 山口朋恵, 藤澤佑介, 寺田有美子, 吉井啓介, 内木康博, 堀川玲子: 小児急性発症 1 型糖尿病患者の内因性インスリン枯渇時期と発症時因子の 検討. 第 19 回日本内分泌学会 関東甲信越支部学術集会, 東京, 2018.9.8
15. 松本真明, 寺下新太郎, 金城健一, 山口朋恵, 塚村篤史, 藤澤佑介, 寺田有美子, 吉井啓介, 内木康博, 堀川玲子: Freestyle Libre の 1 型糖尿病患者に対する HbA1c 改善効果：患者背景別解析. 第 18 回先進糖尿病治療研究会, 神戸, 2018.9.29

16. 松本真明, 廣田勇士, 永井正志, 坊亮輔, 松岡敦, 浜口哲矢, 竹内健人, 中川靖, 粟野宏之: 兵庫県内の 1 型糖尿病患者に対するグルカゴン製剤の処方率. 第 18 回日本先進糖尿病治療研究会・第 16 回 1 型糖尿病研究会, 神戸, 2018.9.29
17. 寺下新太郎, 松本真明, 金城健一, 塚村篤史, 山口朋恵, 藤澤佑介, 寺田有美子, 吉井啓介, 内木康博, 堀川玲子: 小児急性発症 1 型糖尿病患者のインスリン枯渇時期に関連する発症時因子の検討. 第 52 回日本小児内分泌学会学術集会, 東京, 2018.10.4.
18. 松本真明, 寺下新太郎, 金城健一, 山口朋恵, 塚村篤史, 藤澤佑介, 寺田有美子, 吉井啓介, 内木康博, 堀川玲子: FreeStyle Libre の 1 型糖尿病患者に対する HbA1c 改善効果: 患者背景別解析. 第 52 回日本小児内分泌学会学術集会, 東京, 2018.10.4
19. 金城健一, 寺下新太郎, 松本真明, 山口朋恵, 塚村篤史, 藤澤佑介, 寺田有美子, 吉井啓介, 内木康博, 堀川玲子: 第 5 中節骨短縮の頻度と評価法の検討. 第 52 回日本小児内分泌学会学術集会, 東京, 2018.10.4
20. 内木康博, 宮戸真美, 長谷川雄一, 堀川玲子, 高田修治, 勝又規行, 深見真紀　AAV ベクターを用いた遺伝子導入による先天性副腎皮質過形成の遺伝子治療の試み 第 52 回日本小児内分泌学会学術集会, 東京, 2018.10.5
21. 寺田有美子, 藤澤祐介, 金城健一, 塚村篤史, 山口朋恵, 松本真明, 寺下新太郎, 吉井啓介, 内木康博, 堀川玲子: 新生児バセドウ病の発症・臨床経過予測. 第 52 回日本小児内分泌学会学術集会, 東京, 2018.10.5
22. 山口朋恵, 金城健一, 寺下新太郎, 松本真明, 太田知子, 塚村篤史, 藤澤佑介, 寺田有美子, 吉井啓介, 内木康博, 堀川玲子: アンドロゲン産生副腎腫瘍の術後性腺機能の検討. 第 52 回日本小児内分泌学会学術集会, 東京, 2018.10.4
23. 塚村篤史, 寺下新太郎, 松本真明, 金城健一, 山口朋恵, 藤澤佑介, 寺田有美子, 吉井啓介, 内木康博, 堀川玲子: 頭蓋内胚細胞腫の再発マーカーとして性ホルモンは利用できるか. 第 52 回日本小児内分泌学会学術集会, 東京, 2018.10.5
24. 塚村篤史, 松本真明, 堀川玲子: 世田谷区生活習慣病予防検診陽性児における血清 25 水酸化ビタミン D 値についての検討. 第 39 回日本肥満学会, 神戸, 2018.10.7
25. 松本真明, 塚村篤史, 堀川玲子: 生殖補助医療が幼児期肥満に与える影響:性別による差異. 第 39 回日本肥満学会, 神戸, 2018.10.8
26. 寺田有美子, 藤澤佑介, 塚村篤史, 金城健一, 山口朋恵, 松本真明, 寺下新太郎, 吉井啓介, 内木康博, 堀川玲子: Kallmann 症候群の新規遺伝子変異と非典型的臨床像の報告. 第 28 回臨床内分泌代謝 Update, 福岡, 2018 年 11 月 2 日～3 日

【講演】

1. 堀川玲子: ヌーナン症候群の低身長は改善できるのか？ 第 40 回日本小児遺伝学会学術集会企業共済セミナー, 東京, 2018.1.13
2. 堀川玲子: OCS フォローアップの現状. 第 19 回東北小児成長フォーラム, 宮城, 2018.1.26
3. 堀川玲子: 医療的ケアを必要とする児童・生徒の学校生活上の課題等に関する検討. 平成 29 年度第 4 回医療的ケア運営協議会, 東京, 2018.2.6
4. 堀川玲子: ターナー症候群 UPDATE. 第 7 回岐阜県小児科内分泌・代謝研究会, 岐阜, 2018.2.22
5. 堀川玲子: 成長ホルモン治療臨床成績. Norditropin 承認 30 周年記念シンポジウム教育講演, 東京, 2018.2.24
6. 堀川玲子: Current Strategies in Noonan Syndrome. Global Medical Summit, Spain, 2018.3.2
7. 堀川玲子: 小児科におけるインスリン SAP 療法に関する勉強会. 第 2 回小児科 SAP 講演会, 東京, 2018.3.8
8. 堀川玲子: Ⅰ型糖尿病患児の医療ケア. 医療的ケア「血糖値測定及びその後の処置」講習会, 東京, 2018.3.27
9. 堀川玲子: ターナーガイドブックの改訂について. 第 19 回東日本ターナー講演会 東京, 2018.4.14

10. 堀川玲子：日常診療で遭遇する内分泌疾患について．　第15回静岡小児内分泌カンファレンス，静岡，2018.5.19
11. 堀川玲子：性分化疾患の現状と未来-国際的取り組み．　関東小児泌尿器科勉強会，東京，2018.6.2
12. 堀川玲子：Biosimilars-What is the reality with >10 years of exprerience/国内の医療行政同効とバイオシミラーの役割．　EDGE-J，東京，2018.7.22
13. 堀川玲子：日常診療で知っておきたい内分泌疾患． 第 13 回小児北陸内分泌症例検討会，石川，2018.7.28
14. 堀川玲子：低身長と心の問題． 第 36 回日本小児心身医学会学術集会教育セミナー3， 埼玉，2018.9.7
15. 堀川玲子：Growth hormone in various type of short stature. Novo Nordisk Luncheon Symposium, Thailand, 2018.11.9
16. 堀川玲子：　Growth hormone treatment. Global Norditropin Advisory Panel, Switzerland, 2018.11.16
17. 堀川玲子：胎児環境と生後の成長代謝． 長野県小児内分泌研究会， 長野， 2018.11.24
18. 堀川玲子：　GHRH 受容体が成長に与えるインパクト．　第 12 回滋賀小児内分泌代謝研究会，滋賀，2018.12.8
19. 内木康博　低身長を来す疾患 Update-SGA 性低身長症- Pfizer Endocrinology Forum，東京, 2018.9.1

感染症科

[原著論文：査読付(Reviewed Paper)]

1. Shoji K, Saitoh A: Herpetic Whitlow. The New England Journal of Medicine 2018;378(6):563
2. Okubo Y, Michihata N, Morisaki N, Uda K, Miyairi I, Ogawa Y, Matsui H, Fushimi K, Yasunaga H: Dose-response relationship between weight status and clinical outcomes in pediatric influenza-related respiratory infections Pediatr Pulmonol 2018;53(2):218-223
3. Furuichi M, Fukuda A, Sakamoto S, Kasahara M, Miyairi I: Characteristics and Risk Factors of Late-Onset Bloodstream Infection Beyond Six Months after Liver Transplantation in Children. Pediatrics Infection Disease Journal 2018;37(3) :263-268
4. Okazaki K, Imadome KI, Nakao H, Miyairi I, Ishiguro A: Quantitative PCR Assays of Cytomegalovirus and Epstein-Barr Virus in Hemophagocytic Lymphohistiocytosis. Indian J Pediatr 2018;85(7):593-594
5. Kinoshita N, Shoji K, Funaki T, Fukuda A, Sakamoto S, Kasahara M, Miyairi I: Safety of BCG Vaccination in Pediatric Liver Transplant Recipients. Transplantation 2018;102(4):e125
6. Okubo Y, Michihata N, Morisaki N, Kinoshita N, Miyairi I, Urayama Y. K, Yasunaga H: Recent patterns in antibiotic use for children with group A streptococcal infections in Japan. Journal of Global Antimicrobial Resistance 2018;13:55-59
7. Uda K, Shoji K, Koyama-Wakai C, Furuichi M, Iwase N, Fujisaki S, Watanabe S, Miyairi I: Clinical characteristics of Influenza virus-induced lower respiratory infection during the 2015 to 2016 season. J Infect Chemother 2018;24(6):407-413
8. Uda K, Okubo Y, Shoji K, Miyairi I, Morisaki N, Michihata N, Matsui H, Fushimi K, Yasunaga H: Trends of neuraminidase inhibitors use in children with influenza related respiratory infections. Pediatr Pulmonol 2018;53(6):802-808
9. Kudo D, Sasaki J, Ikeda H, Shiino Y, Shime N, Mochizuki T, Morita M, Soeda H, Ohge H, Lee J J, Fujita M, Miyairi I, Kato Y, Watanabe M, Yokota H: A survey on infection control in emergency departments in Japan. Acute Med Surg 2018;30;5(4):374-379
10. Uda K, Koyama-Wakai C, Shoji K, Iwase N, Motooka D, Nakamura S, Miyairi I: WU polyomavirus detected in children with severe respiratory failure. Journal of Clinical Virology 2018;107:25-28
11. Kamei K, Miyairi I, Ishikura K, Ogura M, Shoji K, Funaki T, Ito R, Arai K, Abe J, Kawai T, Onodera M, Ito S: Prospective Study of Live Attenuated Vaccines for Patients with Nephrotic Syndrome Receiving Immunosuppressive Agents. J Pediatr 2018;196:217-222
12. Murofushi Y, Furuichi M, Shoji K, Kubota M, Ishiguro A, Uematsu S, Gai R, Miyairi I: Adverse Economic Impact Associated With Blood Culture Contamination in a Pediatric Emergency Department. Pediatr Infect Dis J 2018;37(8):755-758
13. Furuichi M, Furuichi M, Horikoshi Y, Miyairi I: Infectious Diseases Consultation Improves Treatment and Decreases Mortality by Enterococcal Bacteremia in Children. Pediatr Infect Dis J 2018;37(9):856-860
14. Funaki T, Miyairi I: Breakthrough Candidemia In Children On Micafungin. Pediatr Infect Dis J 2018;37(12):1258-1260
15. Yoshii S, Uda K, Miyairi I, Nakao H, Kono N, Kubota M, Ishiguro A: Multiple Bullae Associated with Human Parvovirus B19. J Pediatr 2018;202:327-327
16. Uchida H, Tada T, Sugahara Y, Kato A, Miyairi I, Kirikae T: A clinical isolate of Escherichia coli co-harbouring mcr-1 and blaNDM-5 in Japan. J Med Microbiol 2018;67(8):1047-1049
17. Shoji K, Kawai T, Onodera M, Tsutsumi Y, Nosaka S, Miyairi I: Multiple osteolytic lesions on the skull of a girl with Mendelian susceptibility to mycobacterial disease.

Pediatr Int 2018;60(11):1043-1044
18. 鈴木大地, 庄司健介, 小山(若井)ちとせ, 宮田一平, 岩瀬徳康, 宮入烈: 日齢 90 未満のヘルペス脳炎疑い症例に対する院内 real-time PCR 測定の有用性. 小児感染免疫 2018;30(1):3-9
19. 川上沙織, 庄司健介, 石黒精, 宮入烈: 小児専門医療施設に入院した早発型・遅発型大腸菌菌血症の特徴. 日本小児科学会雑誌 2018;122(4):748-753

[原著論文:査読なし]

1. 小谷晋平, 庄司健介, 福田晃也, 坂本靖介, 笠原群生, 宮入烈: 肝移植前後の小児 *Campylobacter* 感染症の特徴. 移植 2018;53(4・5):1-4

[症例報告]

[総説]

1. 庄司健介: 小児への抗菌薬投与で気をつけたいこと. 月刊薬事 1 月臨時増刊号 2018;60(2):107-112
2. 木下典子: 賢い選択 確かな医療とは/中 薬の過剰投与 医師・患者ともリスク軽視. 毎日新聞 2018.1.10 東京朝刊
3. 宮入烈: アレルギー疾患や基礎疾患のある患者へのワクチン接種. 印旛市郡医師会報 2018:74:145-167
4. 宮入烈: よぼうせっしゅのはなし Vaccination 2018 年度版. 日本ワクチン産業協会 2018:1-27
5. 木下典子: 耳鼻咽喉科における新生児・乳幼児・小児への投薬－update－ Ⅲ 耳鼻咽喉科疾患に対する薬物療法 13 急性咽頭扁桃炎、伝染性単核球症、扁桃周囲膿瘍. ENTONI 2018;218:141-147
6. 岩田敏, 佐藤智明, 松本哲哉, 宮入烈, 柳原克紀: 感染症診断の未来を科学する. モダンメディア通巻 750 号記念特集-2 2018;64(5):193-210
7. 庄司健介: これってどの感染症?. 調剤と情報 2018;24(9):12-16
8. 宮入烈: 今年の麻しんの流行について. 月刊 母子保健 2018;712:4-5
9. 庄司健介: Hib ワクチン. 小児内科 2018;50(8):1251-1253
10. 宮入烈: 医療関係者のための院内感染対策. そんりーさ 2018;19:9-10
11. 宮入烈: 抗微生物薬適正使用の手引き(第一版)の解説と改訂について. 小児科臨床 2018;71(12):2486-2491
12. 庄司健介: 呼吸器領域 上気道炎. 小児科臨床 2018;71(12):2515-2517
13. 庄司健介: 呼吸器領域 中耳炎. 小児科臨床 2018;71(12):2518-2520
14. 庄司健介: 呼吸器領域 肺炎. 小児科臨床 2018;71(12):2521-2522
15. 宇田和宏, 木下典子: 地域ネットワークでの取り組み. 小児科臨床 2018;71 (12):2621-2623
16. 宮入烈: RS ウイルス治療薬の開発. 臨床とウイルス 2018;46(3):143-152

[著書]

1. 宇田和宏: 2 感染症 ジフテリア. 今日の治療指針 私はこう治療している 2018, 医学書院, 2018;171

[ガイドライン、報告書、その他]

1. 濵砂良一, 安田満, 高橋聡, 上原慎也, 河合泰宏, 宮入烈, 荒川創一, 清田浩: JAID/ JSC 感染症治療ガイドライン 2018－男性尿道炎とその関連疾患－. 感染症学雑誌, 2018;92(3):313-330
2. 庄司健介: 薬効かない耐性菌拡大. 琉球新報, 2018;3.21:19

3. **庄司健介：感染症の重症化招く耐性菌拡大．新潟日報，2018;3.26:4**
4. **庄司健介：薬が効かない耐性菌．釧路新聞，2018;3.31:9**
5. **庄司健介：薬が効かない耐性菌．十勝毎日新聞，2018;5.7:9**
6. **宮入烈：2 歳以下抗菌薬控えめに．毎日新聞，2018;5.2:1**
7. **宮入烈：賢い選択 価値の低い医療中．毎日新聞，2018;5.2:13**
8. **宮入烈：薬剤耐性菌の問題と国立成育医療研究センターの取り組み．国立成育医療研究センターだより，2018;11:4**
9. **宮入烈：医のねだんQ 風邪に不要な抗菌薬．読売新聞，2018;8.2:14**

[受賞]

1. **庄司健介：公益社団法人日本小児科学会雑誌 2017 年優秀査読者賞**

[学会発表]

1. Ogawa E, Shoji K, Kinoshita N, Koyama W.C, Miyairi I：Multiplex respiratory PCR may not contribute to cessation of antibiotic against severe respiratory tract viral infection in children. Pediatric Academic Societies (PAS)2018, Canada, 2018.5.5
2. Kinoshita N, Morisaki N, Uda K, Kasai M, Horikoshi Y, Miyairi I：Nationwide outpatient oral antimicrobial utilization by children in Japan(2013-2016). ID Week 2018, San Francisco, 2018.10.4
3. Uda K, Kinoshita N, Morisaki N, Kasai M, Horikoshi Y, Miyairi I：Targets for optimizing oral antibiotic prescriptions for pediatric outpatients in Japan. ID Week 2018, San Francisco, 2018.10.4
4. Uehara E, Shoji K, Ishiguro A, Miyairi I：Utility of follow-up blood cultures for gram negative rod bacteremia in children. The 9th Asian Congress Pediatric Infectious Diseases, Fukuoka Japan, 2018.11.11
5. Yoshida M, Sakurai H, Umebayashi H, Onuma M, Suda N, Nakamura K：Direct identification of pathogents from positive blood culture bottles using Matrix-assisted laser desorption/ionization time of flight mass spectrometry in a Japanese pediatric hospital. The 9th Asian Congress Pediatric Infectious Diseases, Fukuoka Japan, 2018.11.11
6. Yasukohchi M, Ogawa E, Miyazaki O, Kubota M, Ishiguro A, Miyairi I：MRI could not visualise small diarthrodial joint arthritis at the early stage. The 9th Asian Congress Pediatric Infectious Diseases, Fukuoka Japan, 2018.11.11
7. Kinoshita N, Shoji K, Furuichi M, Fukuda A, Sakamoto S, Kasahara M, Miyairi I：Cytomegalovirus infection in pediatric living donor liver transplant recipients that received antithymocyte globulin. The 9th Asian Congress Pediatric Infectious Diseases, Fukuoka Japan, 2018.11.11
8. Honda A, Nakao H, Shoji K, Miyairi I, Kubota M, Ishiguro A：A neonatal case of group B streptococcal ventriculitis without fever. The 9th Asian Congress Pediatric Infectious Diseases, Fukuoka Japan, 2018.11.11
9. Shoji K, Saitoh J, Oho Y, Matsumoto S, Fukuda A, Sakamoto S, Kasahara M, Miyairi I：Meropenem pharmacokinetics during relapsing peritonitis due to ESBL producing enterobacteriaciae in a liver transplant recipient. The 9th Asian Congress Pediatric Infectious Diseases, Fukuoka Japan, 2018.11.11
10. Uda K, Funaki T, Shoji K, Shoji K, Miyairi I：Preemptive infection control against multi-drug resistant organisms by active screening for children hospitalized abroad. The 9th Asian Congress Pediatric Infectious Diseases, Fukuoka Japan, 2018.11.11
11. Matsui T, Shoji K, Yoshii H, Miyata I, Fukuda A, Sakamoto S, Kasahara M, Saitoh A, Miyairi I：Symptomatic and asymptomatic varicella-zoster virus infection in pediatric liver transplant recipients. The 9th Asian Congress Pediatric Infectious Diseases, Fukuoka Japan, 2018.11.12

12. 宮入烈：みんなで取り組む小児の感染管理～手洗いからワクチンまで～．第33回日本環境感染学会総会学術集会，東京，2018.2.23
13. 木下典子，大久保祐輔，庄司健介，森崎菜穂，道端伸明，宮入烈：本邦の小児溶連菌感染症に対する抗菌薬の処方実態．第121回日本小児科学会学術集会，福岡，2018.4.21
14. 小川英輝，庄司健介，鈴木大地，峠千晶，守本倫子，窪田満，宮入烈：健常小児における市中獲得型MRSAによる喉後膿瘍．第121回日本小児科学会学術集会，福岡，2018.4.21
15. 松戸孝博，西村奈穂，渡邉太郎，井手健太郎，中川聡，宮入烈，石倉健司，久保田雅也：腸管出血性大腸菌感染症による溶血性尿毒症症候群に伴う急性脳症の予後の検討．第121回日本小児科学会学術集会，福岡，2018.4.22
16. 庄司健介，壷井伯彦，井手健太郎，西村奈穂，宮入烈：小児集中治療室での血液培養における嫌気性培養ボトルの有用性に関する検討．第121回日本小児科学会学術集会，福岡，2018.4.22
17. 宮入烈：全国の診療所医師を対象とした抗菌薬適正使用に関するアンケート調査．第92回日本感染症学会総会学術講演会，岡山，2018.6.1
18. 庄司健介：小児固形臓器移植後の感染症．第92回日本感染症学会総会学術講演会，岡山，2018.6.1
19. 庄司健介：小児期感染症診療におけるTDMの重要性について．第35回日本TDM学会・学術大会，福岡，2018.5.26
20. 宮入烈：ワクチンの功績と今も問題となるVaccine preventable disease ～私たちが頑張り続けなければならない理由～．第65回日本小児保健協会学術集会，鳥取，2018.6.15
21. 宮入烈：小児クラミジア感染症の現況．第36回日本クラミジア研究会学術集会，東京，2018.9.22
22. 宮入烈：小児科外来における抗菌薬の適正使用を地域でどのように進めるか．第 152 回日本小児科学会山梨地方会，山梨，2018.10.20
23. 宮入烈：シンポジウム17 麻疹・風疹．第67回日本感染症学会東日本地方会学術集会，東京，2018.10.26
24. 小川英輝，庄司健介，佐藤舞，石倉健司，笠原群生，宮入烈：Eculizumab 投与後の Klebsiella pneumoniae 菌血症．第50回日本小児感染症学会総会学術集会，福岡，2018.11.10
25. 宮入烈：抗微生物薬適正使用の手引きと小児の感染症診療．第 43 回東日本小児科学会，千葉，2018.11.23

[講演]

1. 木下典子：抗菌薬の処方問題．FM FUJI「YES! Morning」，東京，2018. 1.17
2. 宮入烈： 周産期における新生児感染症へのアプローチ．日本周産期・新生児医学会 第 36 回周産期学シンポジウム ランチョンセミナー，長野，2018. 1.20
3. 庄司健介：集中治療に役立つ抗菌薬の PK/PD．第 10 回滋賀集中治療懇話会，滋賀，2018.1.20
4. 庄司健介：母集団薬物動態解析による小児のセフェピム投与設計に関する検討．平成 29 年度第 27 回学校法人北里研究所学会賞受賞者特別講演会，東京，2018.1.29
5. 宮入烈：感染症診断の未来を科学する．「モダンメディア」通巻 750 号記念座談会，東京，2018.2.14
6. 松井俊大：小児血液・腫瘍患者における血液培養陽性に関連するリスク因子の検討．第 15 回東京小児感染免疫懇話会，東京，2018.2.15
7. 宮入烈：抗微生物薬適正使用の手引きと小児のAMR対策．第 36 回福岡臨床感染症研究会，福岡，2018.3.9
8. 宮入烈：日本にも迫る髄膜炎菌感染症のリスク～髄膜炎菌予防接種の重要性～．髄膜炎菌感染症予防に対する Expert meeting，福岡，2018.4.19
9. 松井俊大：小児がん患者に対する抗菌薬適正使用プログラムの効果．第 8 回小児 Febrile Neutropenia 研究会，福岡，2018.4.20
10. 庄司健介：「小児感染症と小児薬物動態の特徴」「ケーススタディ討論～小児カテーテル関連血

流感染症（CRBSI）について～」．第 114 回薬物治療モニタリング研究会，東京，2018.6.9
11. 宮入烈：小児感染症における抗微生物薬の適正使用．平成 30 年度感染制御専門薬剤師講習会（福岡会場），福岡，2018.5.13
12. 宮入烈：小児感染症診療の基本．東京医科歯科大学マンデーセミナー，東京，2018.5.28
13. 宮入烈：基調講演「抗菌薬の適正使用」．第 29 回日本小児科医会総会フォーラム，横浜，2018.6.23
14. 宮入烈：AMRにおける抗菌薬を大切に使用しなければいけないこと、感染症の三角形などの診断の基礎、抗微生物薬適正使用の手引きに触れる、AMR時代の抗菌薬の使い方．第 7 回東京小児感染症サマーセミナー，東京，2018.6.30
15. 小川英輝：時間依存性の概略と%Time above MIC、有効性あげるためのDIV、持続投与にも触れる、時間依存性の薬の考え方．第 7 回東京小児感染症サマーセミナー，東京，2018.6.30
16. 宇田和宏：抗菌薬を投与していて治療判定の仕方、改善か憎悪の細菌感染症の原則論、熱がさがらないときのアプローチの仕方で臓器や微生物診断の見直し、ソースコントロール、非感染性の原因検索に触れる、治療で良くならないときの考え方．第 7 回東京小児感染症サマーセミナー，東京，2018.6.30
17. 松井俊大：それぞれの臓器での代表的な菌とその耐性に触れて、静注または内服の治療の選択、アモキシシリンの高用量に触れる、肺炎・中耳炎・A群溶連菌咽頭炎での治療薬．第 7 回東京小児感染症サマーセミナー，東京，2018.6.30
18. 宮入烈：小児感染症における抗微生物薬の適正使用．平成 30 年度感染制御専門薬剤師講習会（東京会場），東京，2018.7.21
19. 宮入烈：基礎疾患のない 13 歳未満小児の水痘の患者さんにアシクロビルを投与するか．小児感染症専門医育成フォーラム 2018，東京，2018.7.28
20. 宮入烈：様々な状況下でのワクチン接種について．JVワクチンセミナーin 東京，東京，2018.8.4
21. 宮入烈：感染症を防ぐワクチンと手洗い．子育て応援セミナー「こども達の健やかな成長のために」八戸会場，青森，2018.9.8
22. 宮入烈：感染症を防ぐワクチンと手洗い．子育て応援セミナー「こども達の健やかな成長のために」青森会場，青森，2018.9.8
23. 宮入烈：ER における小児の感染症診療とピットフォール．第 116 回慶應義塾大学医学部 生涯教育研修セミナー，東京，2018.10.13
24. 宮入烈：抗菌薬適正使用について．抗菌薬適正使用に関する開業医向け講演会/東京都立小児総合医療センター，東京，2018.11.14
25. 宮入烈：小児科の観点から現在の取り組み．第 4 回日本小児科医会記者懇談会，東京，2018.12.5
26. 宮入烈：大人も注意が必要な小児の感染症への対策～麻疹・風疹・RS ウイルスなど～．院内感染防止に関する教育講演会/金沢医科大学病院，石川，2018.12.14
27. 庄司健介：小児感染症の世界．感染症ベーシックスクール in 関東，東京，2018.12.16

遺伝診療科

[原著論文：査読付](Reviewed Paper)

1. Ichimiya Y, Wada Y, Kunishima S, Tsukamoto K, Kosaki R, Sago H, Ishiguro A, Ito Y. 11q23 deletion syndrome (Jacobsen syndrome) with severe bleeding: a case report. J Med Case Rep. 2018 Jan 8;12(1):3. doi: 10.1186/s13256-017-1535-5.
2. Kosaki R, Ono H, Terashima H,Kosaki K. Timothy Syndrome with Syndactyly but without Prolongation of the QT Interval. Am J Med Genet A. 2018 Jul;176(7):1657-1661.
3. Kusano C, Hori N, Izawa K, Kosaki R, Nishimura G, Hasegawa T. Trismus-pseudocamptodactyly syndrome with bilateral hypoplastic mandibular condyles and shallow mandibular fossa: A case report. ORAL SCIENCE INTERNATIONAL. 2018 July. 15(2) 90-92.
4. **三浦真理子 村本美香 益田博司 小崎里華 伊藤裕司 鏡雅代 和田友香**: Prader - Willi **症候群との鑑別が困難であった** Temple **症候群の新生児例 小児科臨床** vol.71(6) 1121-1126, 2018.
5. **占部良介 早川格 上田菜穂子 武井剛 鈴木智 神岡哲治 寺嶋宙 久保田雅也 小崎里華 加藤光広： 新生児期発症の難治性てんかん性脳症をきたした** SCN2A **変異の男児例 てんかん研究** vol.36(2) 501, 2018.
6. Takase Y, Nagai T, Kubota T, Takeo H, Kosuga M, Okuyama T, Tabata H. Progression of Left Ventricular Fibrosis in a Woman with Anderson-Fabry Disease: Longitudinal Observations Using Two-Dimensional Speckle-Tracking Echocardiography CASE (Phila). 2018;2:69-72.
7. *Sohn YB, Ko AR, Seong MR, Lee S, Kim MR, Cho SY, Kim JS, Sakaguchi M, Nakazawa T, Kosuga M, Seo JH, Okuyama T, Jin DK. The efficacy of intracerebroventricular idursulfase-beta enzyme replacement therapy in mucopolysaccharidosis II murine model: heparan sulfate in cerebrospinal fluid as a clinical biomarker of neuropathology. J Inherit Metab Dis. 2018 Jul 5.*
8. Oitani Y, Ishiyama A, Kosuga M, Iwasawa K, Ogata A, Tanaka F, Takeshita E, Shimizu-Motohashi Y, Komaki H, Nishino I, Okuyama T, Sasaki M. Interpretation of acid α-glucosidase activity in creatine kinase elevation: A case of Becker muscular dystrophy. Brain Dev. 2018 May 16.
9. Kobayashi H, Ariga M, Sato Y, Fujiwara M, Fukasawa N, Fukuda T, Takahashi H, Ikegami M, Kosuga M, Okuyama T, Eto Y, Ida H. P-Tau and Subunit c Mitochondrial ATP Synthase Accumulation in the Central Nervous System of a Woman with Hurler-Scheie Syndrome Treated with Enzyme Replacement Therapy for 12 Years. JIMD Rep. 2018 Apr 29.
10. Ozono T, Kinoshita M, Narita A, Hirakiyama A, Kosuga M, Okuyama T, Fukada K. Juvenile-onset neuronal ceroid lipofuscinosis (CLN1) disease with a novel deletion and duplication in the PPT1 gene. J Neurol Sci. 2018 May 15;388:4-6.
11. Ohira M, Okuyama T, Mashima R. Quantification of 11 enzyme activities of lysosomal storage disorders using liquid chromatography-tandem mass spectrometry. Mol Genet Metab Rep. 2018 Sep 7;17:9-15.
12. Mashima R, Maekawa M, Narita A, Okuyama T, Mano N. Elevation of plasma lysosphingomyelin-509 and urinary bile acid metabolite in Niemann-Pick disease type C-affected individuals. Mol Genet Metab Rep. 2018 Mar 21;15:90-95.

[症例報告]

1. **谷山禎彦, 前川貴伸, 窪田満, 福原康之, 奥山虎之, 宮嵜治, 石黒精, 中舘尚也：骨単純** X **線写真が診断に有用であった大理石骨病の** 5 **症例. 小児科診療, 診断と治療社**, 2018, **第** 81 **巻** 7 **号** Page941-945.

[著書]

1. 小須賀 基通:ライソゾーム病. ここまできた小児神経・筋疾患の診断と治療. 小児科診療. 診断と治療社, 2018;81 巻増刊 Page99-105.
2. 小須賀 基通:ムコ多糖症 I 型・II 型.知っておくべき治療可能な胎児・新生児希少疾患.周産期医学, 東京医学社, 2018,48 巻 10 号 Page1377-1379.
3. 小須賀 基通:【ライソゾーム病のすべて】ライソゾーム病の診断:生化学的診断, 形態学的診断, 遺伝子診断. 医学のあゆみ, 医歯薬出版株式会社, 264 巻 9 号 Page759-764.
4. 奥山虎之:【ライソゾーム病のすべて】酵素補充療法の現状と展望. 医学のあゆみ, 医歯薬出版株式会, 264 巻 9 号 Page785-788.
5. 奥山虎之:【遺伝子治療の新局面】先天代謝異常症における *ex vivo* 遺伝子治療の現状と展望-ライソゾーム病, ペルオキシソーム病の中枢神経症状に対する治療法の開発. 医学のあゆみ, 医歯薬出版株式会社, 265 巻 5 号 Page393-397.
6. 小須賀 基通:【小児の治療指針】ライソゾーム病 3:ムコ多糖症. 小児科診療, 診断と治療社, 2018, 第 81 巻増刊 Page553-554.
7.

[学会発表]

1. Ihara K,Sato-Kawano N, Takemoto M, Okabe E, Yokote K, Matsuo M, Kosaki R. The clinical characteristics of Asian patients with coassecao-type Hutchinson-Gilford progeria syndrome. International Meeting on RECQ Helicases and Related Diseases.2018.2.17
2. Kwano N,Takemono M,YokoteK ,MatsuoM, Kosaki R,Ihara K. Establishment of a care system aimed at improving QOL of Patients with Hutchinson-Gilford progeria syndrome in Japan. International Meeting on RECQ Helicases and Related Diseases.2018.2.17
3. Matsuo M,Kawano N,Takemoto M,Yokote K, Kosaki R,Ihara K. Aclerotic skin lesion as an initial manifestation of Hutchinson-Gilford Projeria syndrome. International Meeting on RECQ Helicases and Related Diseases.2018.2.17
4. Kosaki R, Kubota M, Suzuki H, Uehara T, Takenouchi T,Kosaki K: Consecutive Medical Exome Analysis at a Tertiary Center: Diagnostic and Health-economic Outcomes American Society of Human Genetics, 2018.10.16
5. 小崎里華 久保田雅也 要匡 小崎健次郎 :三次小児医療センター臨床遺伝診療部門におけるメディカルエクソーム解析の臨床的有用性の評価 第 40 回日本小児遺伝学会学術集会 2018. 1.12
6. 矢本香織, 小崎里華, 永田絵子 鹿野博亀 池川志郎 加藤芙弥子 高田修治 深見真紀 才津浩智 緒方勤 :先天性四肢形成不全症 92 家系における分子遺伝学的解析 第 40 回日本小児遺伝学会学術集会 2018. 1.12
7. 川野奈々江 竹本稔 横手幸太郎 松尾宗明 小崎里華 井原健二 ハッチンソン・ギルフォード症候群: 国内全国調査とアジア症例の検討 第 40 回日本小児遺伝学会学術集会 2018. 1.13
8. 和田友香 生田泰久 長澤純子 甘利昭一郎 丸山秀彦 塚本桂子 井上毅信 小崎里華 松原圭子 鏡雅代 深見真紀 諫山哲哉 伊藤裕司: 新生児期・乳児期に筋緊張低下,哺乳不良を認めた児に対するインプリンティング異常症の検索 第 121 回 日本小児科学会学術集会 2018 4.21
9. 鈴木寿人 上原朋子 武内俊樹 小崎里華 大橋博文 緒方勤 岡本伸彦 倉橋浩樹 黒澤健司 齋藤伸治 長谷川奉延 小崎健次郎: 日本人稀少疾患患者文献データ由来の病的バリアントデータベースの構築と展望 第 121 回 日本小児科学会学術集会 2018 4.21
10. 柏井洋文、早川格 寺嶋宙 小崎里華 小崎健次郎 渡辺博 久保田雅也: 孤発性 CAPOS 症候群の一例 A sporadic case of CAPOS syndrome 第 60 回 日本小児神経学会学術集会 2018.6.1
11. 小崎里華: Rubinstein –Taybi 症候群: 第 58 回 日本先天異常学会 2018.7.29

12. **早川格　寺嶋宙　小崎里華　久保田雅也：大頭症と発達遅滞を呈しPTEN遺伝子変異を認めた2例　第68回日本小児神経学会関東地方会**　2018.3.24
13. **小崎里華　久保田雅也　上原朋子　鈴木寿人　武内俊樹　小崎健次郎：三次小児医療センター臨床遺伝診療部門におけるメディカルエクソーム解析の臨床的有用性と医療経済の評価　第63回日本人類遺伝学会**　2018.10.12
14. **山崎成敏　福原康之　佐藤奈保子　井上毅信　蘇哲民**　Seo Joo-Hyun　**津島智子　真嶋隆一　吉田和恵　小須賀基通　石黒精　窪田満　小崎里華　奥山虎之：末梢血アレイ**CGH **検査でコピー数異常を検出した**Pallister-Killian **症候群の男児例　第**63 **回日本人類遺伝学会**　2018.10**.**12
15. **鈴木寿人　上原朋子　吉橋博史　福島紘子　須磨崎亮　山口有　武内俊樹　小崎里華　小崎健次郎：エクソームデータを元にした新しい**CNV **検出アルゴリズムの評価;**325 **人の未診断患者での検討　第**63 **回日本人類遺伝学会**　2018.10.12
16. **矢本香織　才津浩智　小崎里華　芳賀信彦　外木秀文　永田絵子　加藤　芙弥子　大高幸之助　藤澤泰子　西村玄　池川志郎　高田修治　深見真紀　緒方勤：裂手・裂足症**95 **家系における分子遺伝学的解析　第**63 **回日本人類遺伝学会**　2018.10.12
17. **占部良介　早川格　上田　武井剛　鈴木智　神岡哲治　寺嶋宙　久保田雅也　小崎里華　加藤光広：新生児期発症の難治性てんかん性脳症をきたした**SCN2A **変異の男児例　第**52 **回日本てんかん学会**　2018.10**.**27
18. **阿部裕一　小崎里華　久保田雅也：**A novel mutation in GRIN1 gene associated encephalopathy. **第**52 **回日本てんかん学会**　2018.10**.**26
19. Okuayama T: Novel therapeutic approach for the treatment of inherited and metabolic diseases. The 8th International Collaboration Forum of Human Gene Therapy for Genetic Disease (ICFHGTGD), Tokyo,2018.Jan.18
20. **福原康之**, **藤　直子**, **山崎成敏**, **開山麻美**, Seo Joo-Hyun, **神岡哲治**, **津島智子**, **真島隆一**, **小須賀基通**, **奥山虎之**: **ポンペ病**38 **症例の臨床経過・遺伝子型の検討**. **第**121 **回日本小児科学会学術集会**, **福岡**, 2018.4.20.
21. **小澤　南**, **右田王介**, **小須賀基通**, **新井奈津子**, **奥山虎之**, **山本　仁**: **発端者の四肢疼痛から診断された**Fabry **病家系**. **第**121 **回日本小児科学会学術集会**, **福岡**, 2018.4.22.
22. 北條　彰, 加藤光広, 村瀬正彦, 小林　梢, 三川武志, 小須賀基通, 足立香織, 難波栄二, 田角　勝, 板橋家頭夫: 頬部の硬結が特徴的なムコリピドーシスII型(I-cell病)の一例. 第121回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.22.
23. **持丸奈央子**, **田中　諒**, **福原康之**, **湊川真理**, **要匡**, **寺嶋　宙**, **守本倫子**, **新関寛徳**, **吉田和恵：**SASH1**変異を認めた多発性黒子の**1 **例**. **第**117 **回日本皮膚科学会総会**, **広島**, 2018.5.31.
24. 奥山虎之：Enzyme replacement therapy for CNS Iesions of lysosomal storage diseases（脳を守る酵素補充療法）, シンポジウム 23 神経代謝疾患に対する治療戦略の展望. 第 60 回日本小児神経学会学術集会, 東京, 2018.6.2.
25. 奥山虎之:先天代謝異常症における治療の進歩, シンポジウムII 先天代謝異常症～最近のトピックスと遺伝カウンセリング. 第 42 回日本遺伝カウンセリング学会, 仙台, 2018.6.30.
26. 奥山虎之： 神経代謝病トピックス, ライソゾーム病の脳障害に対する治療. 第 3 回神経代謝病研究会, 東京, 2018.7.5.
27. **真嶋隆一**, **大平麻里**, **奥山虎之：**LC/MS/MS **を用いたムコ多糖症** MPSII/MPSIVA/MPSVI **の酵素活性同時測定法の検討**. **第** 45 **回　日本マス・スクリーニング学会学術集会**, **さいたま**, 2018.8.17.
28. 奥山虎之：中枢神経症状の治療戦略. 第 22 回ムコ多糖症研究会・日本ムコ多糖症患者家族の会合同シンポジウム, 横浜, 2018.8.25.
29. 奥山虎之：希少遺伝性疾患の「早期発見」を可能にするスクリーニング方法の開発と普及, シンポジウム 5.希少遺伝性疾患の「早期発見」を考える. 第 28 回日本外来小児科学会年次集会, 東京, 2018.8.26.
30. **福原康之**, **宮嵜治**, Sung Yoon Cho, **山崎成敏**, **蘇哲民**, **服部　淳**, Joo-Hyun Seo, **津島智子**,

真嶋隆一, **小須賀基通**, **深見真紀**, Dong-Kyu Jin, **石黒精**, **窪田満**, **奥山虎之**, **西村玄**: Spondyloepimetaphyseal dysplasia(SEMD) aggrecan type **の本邦初報告例 日本人類遺伝学会第** 63 **回大会**, **神奈川**, 2018.10.11

31. 小須賀基通: ムコ多糖症の診断と治療法の選択における課題,シンポジウム：ムコ多糖症の治療管理を考える. 第 60 回日本先天代謝異常学会総会, 岐阜, 2018.11.8.

32. 奥山虎之. ムコ多糖症：治療の現状と今後の課題,シンポジウム：ムコ多糖症の治療管理を考える. 第 60 回日本先天代謝異常学会総会, 岐阜, 2018.11.8.

33. **真嶋隆一**, **前川正充**, **成田綾**, **奥山虎之**, **眞野成康：ニーマンピック病 C 型で上昇するバイオマーカーについて**. **第** 60 **回日本先天代謝異常学会総会**, **岐阜**, 2018.11.9.

34. **山崎成敏**, **福原康之**, **開山麻美**, **三浦 愛**, **蘇 哲民**, **伊藤玲子**, **徐 じゅひょん**, **石黒 精**, **小須賀基通**, **奥山虎之**, **福田晃也**: **当センターで解析した** Wilson **病** 11 **症例の臨床経過・遺伝子型の検討**. **第** 60 **回日本先天代謝異常学会総会**, **岐阜**, 2018.11.8.

35. 山崎成敏, 福原康之, 徐 じゅひょん, 石黒 精, 矢部普正, 奥山虎之, 小須賀基通:早期に造血幹細胞移植を行い、中枢神経の予後が良好であったムコ多糖症Ⅰ型の姉妹例.第 60 回日本先天代謝異常学会総会, 岐阜, 2018.11.9.

36. **大平麻里、真嶋隆一、奥山虎之：**LC-MS/MS**を用いたライソゾーム病原因酵素の酵素活性同時測定法の検討**. **第** 58 **回日本先天代謝異常学会総会**, **岐阜**, 2018.11.9.

37. 武井 剛, 神岡哲治, 寺嶋 宙, 久保田雅也, 伊藤玲子, 小須賀基通, 奥山虎之: 原因不明の肝機能障害として経過観察されていた遅発型ポンペ病の一例. 第 60 回日本先天代謝異常学会総会, 岐阜, 2018.11.8.

38. **大平麻里、真嶋隆一、奥山虎之：質量分析法を利用したファブリー病のバイオマーカーの検討**. **第** 60 **回日本先天代謝異常学会総会**, **岐阜**, 2018.11.9.

39. **徐 じゅひょん,宮入真紀子,大竹明**, **奥山虎之**: **先天代謝異常症患者登録制度(**JaSMIn**)の現状：患者家族との繋がり**. **第** 60 **回日本先天代謝異常学会総会**, **岐阜**, 2018.11.8.

40. **松木恒太**, **小倉正恒**, **小坂喜太郎**, **小須賀基通**, **藤直子**, **斯波真理子**: **脂質代謝異常から診断に至ったライソゾーム酸性リパーゼ欠損症** (LAL-D) **の** 1 **例**. **日本小児脂質研究会,東京**, 2018.12.1.

[講演]

1. **小須賀基通：第** 4 **回市民公開フォーラム：診療ガイドライン「ムコ多糖症Ⅰ型」**. **厚生労働省難治性疾患当政策研究事業ライソゾーム病(ファブリー病を含む)に関する調査研究班主催**, 2018.1.14.
2. **奥山虎之：第** 4 **回市民公開フォーラム：ライソゾーム病の治療の進歩「中枢神経系治療の進歩」**. **厚生労働省難治性疾患当政策研究事業ライソゾーム病(ファブリー病を含む)に関する調査研究班主催**, 2018.1.14.

4-3-5 アレルギーセンター
総合アレルギー科

[原著論文:査読付(Reviewed Paper)]

欧文、

1. Yamamoto-Hanada K, Ishitsuka K, Pak K, Saito M, Ayabe T, Mezawa H, Konishi M, Yang L, Matsumoto K, Saito H, Ohya Y; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group: Allergy and mental health among pregnant women in the Japan Environment and Children's Study. J Allergy Clin Immunol Pract. 2018 Jan 20. pii:S2213-2198(17)31024-3.
2. Natsume O, Ohya Y. Recent advancement to prevent the development of allergy and allergic diseases and therapeutic strategy in the perspective of barrier dysfunction: Allergol Int. 2018 Jan;67(1):24-31.
3. Ayabe T, Yamamoto-Hanada K, Mezawa H, Konishi M, Ishitsuka K, Saito M, Fukami M, Michikawa T, Yamazaki S, Senju A, Kusuhara K, Kawamoto T, Sanefuji M, Kato K, Oda M, Mitsubuchi H, Katoh T, Monden Y, Mise N, Kayama F, Saito H, Ohya Y: Regional differences in infant 25-Hydroxyvitamin D: Pilot study of the Japan Environment and Children's Study. Pediatr Int. 2018 Jan;60(1):30-34.
4. Mito A, Arata N, Qiu D, Sakamoto N, Murashima A, Ichihara A, Matsuoka R, Sekizawa A, Ohya Y, Kitagawa M: Hypertensive disorders of pregnancy: a strong risk factor for subsequent hypertension 5 years after delivery. Hypertens Res. 2018 Feb;41(2):141-146.
5. Mori Y, Okazaki F, Inuo C, Yamaguchi Y, Masuda S, Sugiura S, Fukuie T, Nagao M, Tsuge I, Yosikawa T, Yagami A, Matsunaga K, Fujisawa T, Ito K, Narita H, Kondo Y: Fruits Allergy Component Study Group, Japan. Evaluation of serum IgE in peach-allergic patients with systemic reaction by using recombinant Pru p 7 (gibberellin-regulated protein). Allergol Immunopathol. 2018. doi: 10.1016/j.aller.2018.02.07.
6. Nagao M, Inagaki S, Kawano T, Azuma Y, Nomura N, Noguchi Y, Ohta S, Kawaguchi A, Odajima H, Ohya Y, Fujisawa T, Izuhara K: SCCA2 is a reliable biomarker for evaluating pediatric atopic dermatitis. J Allergy Clin Immunol. 2018 Feb 5.
7. Aoki S, Hashimoto K, Mezawa H, Hatakenaka Y, Yasumitsu-Lovell K, Suganuma N, Ohya Y, Wilson P, Fernell E, Kamio Y, Gillberg C. Development of a new screening tool for neuromotor development in hildren aged two - the neuromotor 5 min exam 2-year-old version (N5E2). Brain Dev. 2018;40: 445-451.
8. Matsumoto K, Mori R, Miyazaki C, Ohya Y, Saito H. Are both early egg introduction and eczema treatment necessary for primary prevention of egg allergy? : J Allergy Clin Immunol. 2018 Mar 6.
9. Yang L, Narita M, Yamamoto-Hanada K, Sakamoto N, Saito H, Ohya Y. Phenotypes of Childhood Wheeze in Japanese children: A Group-Based Trajectory Analysis. Pediatr Allergy Immunol. 2018 Apr 26.
10. Honjo S, Murakami Y, Odajima H, Adachi Y, Yoshida K, Ohya Y, Akasawa A. An independent relation of atopic dermatitis to exercise-induced wheezing in asthmatic children. Allergol Int. 2018 May 29.
11. Ogawa K, Tanaka S, Yang L, Arata N, Sago H, Yamamoto-Hanada K, Narita M, Ohya Y: Reply to Matsubara et al. Pediatr Allergy Immunol. 2018 May;29(3):333-334.
12. Saito M, Yamamoto-Hanada K, Pak K, Ayabe T, Mezawa H, Ishitsuka K, Konishi M,

Yang L, Matsumoto K, Saito H, Ohya Y: Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Having small-for-gestational-age infants was associated with maternc feal allergiatures in the JECS birth cohort. Allergy. 2018 May 26.in press
13. Mezawa H, Tomotaki A, Yamamoto-Hanada K, Ishitsuka K, Ayabe T, Konishi M, Saito M, Yang L, Suganuma N, Hirahara F, Nakayama S, Saito H, Ohya Y: the Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Prevalence of congenital anomalies in the Japan Environment and Children's Study. Journal of Epidemiology; in press.
14. Inagaki S, Maeda S, Narita M, Nakamura T, Shimosawa T, Murata T, Ohya Y:. Urinary PGDM, a prostaglandin D2 metabolite, is a novel biomarker for objectively detecting allergic reactions of food allergy. J Allergy Clin Immunol. 2018;142(5):1634-1636.
15. Yamamoto-Hanada K, Ohya Y. Self-efficacy of food allergy management in elementary school personnel in Tokyo. Pediatr Int. 2018 Aug;60(8):769-770.
16. Hirota R, Ohya Y, Yamamoto-Hanada K, FukutomiI Y, Muto G, Ngatu-Nlandu R,Nakamura T, Nakamura H. Triclosan-induced Alteration of Gut Microbiome and Aggravation of Asthmatic Airway Response in Aeroallergen-sensitized mice. Allergy. 2018 2018 Oct 24.
17. Fukuie T, Yasuoka R, Fujiyama T, Sakabe J, Taguchi T, Tokura Y. Palmar hyperlinearity in early childhood atopic dermatitis is associated with filaggrin mutation and sensitization to egg. Pediatric Dermatology, *in press*.
18. Yamaguchi C, Ebara T, Hosokawa R, Futamura M, Ohya Y, Asano M. Factors determining parenting stress in mothers of children with atopic dermatitis.Allergol Int. 2018 Sep 11.in press
19. Shimizu Y, Kambayashi Y, Tsujiguchi H, Hara A, Hori D, Thi Thu Nguyen T, Suzuki F, Hamagishi T, Yamada Y, Nakamura H, Yoshikawa T, Hayashi K, Hibino Y, Shibata A, Fukutomi Y, Ohya Y, Yamamoto-Hanada K, Muto G, Hirota R, Konoshita T, Nakamura H.Relationship between the Use of Parabens and Allergic Diseases in Japanese Adults—A Cross-Sectional Study. *J* 2018; **1**: 148-58.
20. Ishitsuka K, Yamamoto-Hanada K, Ayabe T, Mezawa H, Konishi M, Saito M, Ohya Y. Risky Health Behaviors of Teenage Mothers and Infant Outcomes in the Japan Environment and Children's Study: A Nationwide Cohort Study. J Pediatr Adolesc Gynecol. 2018 Nov 2. pii: S1083-3188(18)30348-6.
21. Yamamoto-Hanada K, Kobayashi T, Williams HC, Mikami M, Saito-Abe M, Morita K, Natsume O, Sato M, Iwama M, Miyaji Y, Miyata M, Inagaki S, Tatsuki F, Masami N, Nakayama SF, Kido H, Saito H, Ohya Y. Early aggressive intervention for infantile atopic dermatitis to prevent development of food allergy: a multicenter, investigator-blinded, randomized, parallel group controlled trial (PACIStudy)-protocol for a randomized controlled trial. Clin Transl Allergy. 2018 Nov 23;8:47.
22. Konishi M, Tomotaki A, Yamamoto-Hanada K, Mezawa H, Ayabe T, Ishitsuka K, Saito M, Saito H, Ohya Y. Sleep status varies by age among Japanese women during preconception and pregnancy in a nationwide birth cohort study [the Japan Environment and Children's Study (JECS)]. *Sleep and Biological Rhythms* (2018): 1-12.
23. Saito-Abe M, Futamura M, Yamamoto-Hanada K, Yang L,Kohta Suzuki, Ohya Y.Topical corticosteroid phobia among caretakers of children with atopic dermatitis: a cross-sectional study using TOPICOP in Japan. Pediatric Dermatology (2018.Epub ahead of print)

和文

1. 犬塚祐介, 加藤由希子 , 坂井聡, 田口智英, 夏目 統: 小児アトピー性皮膚炎における秋冬の石けん使用についての左右比較研究. 日本小児アレルギー学会誌, 2018;32(2):249-257.
2. 西村幸士, 日野ひとみ, 竹本幸司, 大藤佳子, 楠目和代, 石井榮一:愛媛県における医療圏域を越えた小児二次救急体制の構築. 日本小児科学会雑誌, 2018;122:793-799
3. 松原優里, 阿江竜介, 大矢幸弘, 穐山浩, 今井孝成, 松本健治, 福家辰樹, 青山泰子, 牧野伸子, 中村好一, 斎藤博久. 日本における食物アレルギー患者数の推計 疫学調査の現状と課題. アレルギー 2018, 67(6), 767-773.
4. 犬塚祐介,高柳文貴,西田光宏:クラリスロマイシンが著効した非好酸球性難治性気管支喘息の一例.浜松医療センター学術誌 2018; 12(1): 26-30

[原著論文:査読なし]

1. 加藤則人, 大矢幸弘, 池田政憲, 海老原全, 片山一朗, 佐伯秀久, 下条直樹, 田中暁生, 中原剛士, 長尾みづほ, 秀 道広, 藤田雄治,藤澤隆夫, 二村昌樹, 益田浩司, 室田浩之, 山本貴和子 アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2018 日皮会誌:128(12), 2431-2502, 2018
2. 加藤則人, 大矢幸弘, 池田政憲, 海老原全, 片山一朗, 佐伯秀久, 下条直樹, 田中暁生, 中原剛士, 長尾みづほ, 秀 道広, 藤田雄治,藤澤隆夫, 二村昌樹, 益田浩司, 室田浩之, 山本貴和子 アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2018 アレルギー:67 (10), 1297-2018, 2018

[症例報告]

和文

1. 吉田明生, 福家辰樹, 齋藤麻耶子, 成田雅美, 大矢幸弘. エスカルゴによる食物依存性運動誘発アナフィラキシーの 1 例. 日本小児臨床アレルギー学会誌 16 巻 1 号 40-44, 2018.
2. 犬塚祐介, 矢島周平, 瀬川祐貴, 松尾嘉人, 黒田喜代子, 佐野伸一朗, 宮本健, 西田光宏, 吉原重美: 呼気中一酸化窒素濃度(eNO)と呼吸機能で分類した喘息 Phenotype での呼吸機能の変化. 浜松医療センター学術誌 2018; 11(1): 62-66
3. 朝倉 真理, 前川 貴伸, 大野 通暢, 野坂 俊介, 野村 伊知郎, 金森 豊, 宮嵜 治, 石黒 精. 胆汁性嘔吐の軽快・増悪を繰り返し, 診断に複数回の画像検査を要した腸回転異常の 1 例, 小児科臨床 71 巻 9 号 Page1545-1550, 2018.09.
4. 藤野 修平, 丸山 秀彦, 甘利 昭一郎, 藤永 英志, 和田 友香, 長澤 純子, 塚本 桂子, 有里 裕生, 宮地 裕美子, 野村 伊知郎, 伊藤 裕司, 腹部コンパートメント症候群を来した新生児・乳児消化管アレルギー 日本小児科学会雑誌 122 巻 6 号, 1024-1030, 2018.06.

[総説]

欧文、

1. Natsume O, Ohya Y: Recent advancement to prevent the development of allergy and allergic diseases and therapeutic strategy in the perspective of barrier dysfunction. Allergol Int. 2018 Jan;67(1):24-31.
2. Yamamoto-Hanada K. Use of acid suppressive medications and antibiotics in young infants is associated with development of allergic disease. J Pediatr. 2018 Nov;202:330-333.

和文

1. 大矢幸弘: アレルギー研究最前線 鶏卵アレルギーの発症予防. 週刊医学のあゆみ, 2018;

265: 822-826. 医師薬出版

2. 大矢幸弘: 食物アレルギーを防ぐための指導　調剤と情報 2018; 24(7): 69-75.
3. 福家辰樹, 松本健治: アレルギー素因の最新の考え方】アレルギーマーチの考え方と介入による修飾. アレルギーの臨床, 38 巻 2 号 117-120, 2018.
4. 福家辰樹:【ストップ・ザ・マーチ!予防も含めたアレルギー治療の実際】アトピー性皮膚炎のプロアクティブ療法. Derma, 265 号 40-46, 2018.
5. 福家辰樹: 知っておきたい最新のアレルギー・免疫学用語　PGD2. 日本小児アレルギー学会誌, 第 32 巻 2 号, 2018.
6. 成田雅美: 食物アレルギーとアトピー性皮膚炎　特集食物アレルギーの患者をみんなで支えるためには. 臨床栄養,　2018;132(7):968-973.
7. 成田雅美:【これってアレルギー？】食物不耐症と食物アレルギー. チャイルドヘルス, 2018; 21(4):265-267.
8. 野村伊知郎:解説/特集、新生児-乳児消化管アレルギー. 小児科診療, 81 巻増刊(小児の治療指針)268-272, 2018.
9. 野村伊知郎:解説/特集、新生児-乳児消化管アレルギーの臨床と病型分類. 小児科, 59 巻 2 号　123-128, 2018.
10. 野村伊知郎:小児好酸球性食道炎の治療. 胃と腸, 53 巻 3 号　339-342, 2018.
11. 大矢幸弘: アレルギー疾患の心身医学ー古典から現代へ　心身医学 58 巻 376-383, 2018
12. 大矢幸弘: アレルギーマーチの予防の可能性　マルホ皮膚科セミナー放送内容集 NO.255, p17-23, 2018
13. 福家辰樹, 大矢幸弘. 離乳期早期の鶏卵摂取は鶏卵アレルギー発症を予防する　THE LUNG-perspectives26 巻 3 号, 292-297, 2018.
14. 成田雅美:アレルギー疾患発症予防の新戦略　アレルギー疾患における最新の治療. アレルギーの臨床　2018;38(9):863-866
15. 永嶋 早織, 野村 伊知郎. 食物経口負荷試験(新生児/乳児消化管アレルギー)　アレルギー・免疫 25 巻 8 号, 1040-1045, 2018.07.
16. 宮地裕美子 大矢幸弘 小児気管支喘息とその対応 東山書房 健康教室 第 818 集 19-22.2018.
17. 福家辰樹 大矢幸弘 食物アレルギーを知る 食物アレルギー予防 消化器病学サイエンス vol.2, 25-29, 2018.
18. 成田雅美:移行期医療　成人に達する/達した患者への医療　小児アレルギー疾患の移行期医療　患者・家族に最善の医療. 医学のあゆみ　2018;267(4):305-310
19. 宮地裕美子, 飯尾美沙, 大矢幸弘 ガイドライン解説「第6章 患者教育, 吸入指導」日本小児アレルギー学会誌 第 32 巻第 5 号 813-823, 2018.

[著書]

欧文

和文

1. 成田雅美: 気管支喘息治療薬. 抗アレルギー薬(1)　岡　明、木津純子(編集)、新　小児薬用量改訂第8版, 診断と治療社,　2018;162-181.
2. 成田雅美: 食物アレルギーのある者の参加の注意点は？など. 衛藤隆, 田中哲郎, 横田俊一郎, 渡辺博(編著), 最新 Q&A 教師のための救急百科第2版, 2018;392-3.など
3. 大矢幸弘: アトピー性皮膚炎. 小児の治療指針　小児科診療 2018 年増刊号,　2018, 246-249.
4. 平岩幹男監修　大矢幸弘・堤ちはる・渡部茂編集: 食と栄養相談 Q&A.　診断と治療社 2018

5. 大矢幸弘：小児薬物療法テキストブック　第二章疾患と薬剤 アトピー性皮膚炎・食物アレルギーじほう 2018: 86-92.
6. 稲垣真一郎、野村伊知郎: 新生児・乳児消化管アレルギー 正常出生体重児．症例を通して学ぶ年代別食物アレルギーのすべて 海老澤元宏（編集）、南山堂、2018; 126-127
7. 福家辰樹: 6 予知と予防．症例を通して学ぶ年代別食物アレルギーのすべて 海老澤元宏（編集）、南山堂、2018.
8. 福家辰樹. 5 予知と予防，食物アレルギーの栄養指導第２版（海老澤元宏監修）. 2018.（医歯薬出版）
9. 成田雅美: アトピー性皮膚炎．小児疾患の診断治療指針　小児内科　2018 Vol.50 増刊号, 2018, 280-281.
10. 宮地裕美子，成田雅美: 赤ちゃんとお母さんのためのアレルギー読本 2018 Vol.48 増刊号, 2018, 309-317.
11. 山本貴和子、大矢幸弘： 出生後のアレルギー疾患予防策：スキンケア．: 赤ちゃんとお母さんのためのアレルギー読本 2018 Vol.48 増刊号, 2018, 503-506.

[ガイドライン、報告書、その他]

学会・研究班ガイドライン

1. 「喘息予防・管理ガイドライン 2018」作成委員（大矢幸弘）日本アレルギー学会喘息ガイドライン専門部会監修.喘息予防・管理ガイドライン 2018　協和企画　2018
2. 加藤則人、大矢幸弘、池田政憲、海老原全、佐伯秀久、下条直樹、藤田雄治、片山一朗、田中暁生、中原剛士、長尾みづほ、秀道広、二村昌樹、藤澤隆夫、益田浩司、室田浩之、山本貴和子．アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2018．日皮会誌 128; 2431-2502, 2018.
3. 加藤則人，大矢幸弘，池田政憲，海老原全，片山一朗，佐伯秀久，下条直樹，田中暁生，中原剛士，長尾みづほ，秀 道広，藤田雄治,藤澤隆夫，二村昌樹，益田浩司，室田浩之，山本貴和子 アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2018 アレルギー:67 (10)，1297-2018，2018
4. 新生児-乳児食物蛋白誘発胃腸症 Minds 準拠診療ガイドライン 厚生労働省好酸球性消化管疾患研究班（統括委員長 野村伊知郎、統括委員 大矢幸弘他 SR チーム 福家辰樹 佐藤未織 他）2018.5.25 https://www.egid.jp/index/guideline

記事

1. 大矢幸弘: 食物アレルギーなぜ発症 読売新聞 2018.2.7 夕刊
2. 大矢幸弘: 今さら聞けない子育ての「常識」 朝日新聞 2018.3.17 朝刊
3. 福家辰樹．知っておきたい、提言のポイント「鶏卵アレルギー発症予防に関する提言」の解説．養鶏の友．2018 年 4 月号
4. 山本貴和子: 抗菌薬：乳幼児は服用注意を アレルギー発症率 1.7 倍．：毎日新聞．2018.5.2 朝刊
5. 山本貴和子: AERA dot.”やってはいけない「風邪に抗菌薬」.ママが知っておきたい乳幼児への使い方” 2018.5.30
6. 山本貴和子: yomiDr.“抗菌薬、アレルギーと関係「乳幼児の服用慎重に」…国立成育研など発表” 2018.6.19
7. 山本貴和子：メディカルトリビューン．妊婦中の母親ではスギ花粉、ダニの感作が多い．2018.7.25.
8. 大矢幸弘 変わる食物アレルギー対応 食べる治療で安全模索 毎日新聞 2018.12.8 朝刊
9. 大矢幸弘 変わる食物アレルギー対応 新常識知って予防・改善を 毎日新聞 2018.12.12 朝

刊

その他

1. 成田雅美：アレルギーはどうして起こるのか？　腸から始まる健康ライフ　TBS ラジオ 2018.7.2.
2. 成田雅美：こんなものにも反応する？アレルギーの種類、過敏症との違い　腸から始まる健康ライフ　TBS ラジオ　2018.7.9.
3. 成田雅美：食物アレルギーとその治療　腸から始まる健康ライフ　TBS ラジオ 2018.7.16.
4. 成田雅美：アトピー性皮膚炎にはスキンケアが重要　腸から始まる健康ライフ　TBS ラジオ 2018.7.23.
5. 成田雅美：食物アレルギーの最新研究　腸から始まる健康ライフ　TBS ラジオ 2018.7.30.

[学会発表]

国際学会

1. Yukihiro Ohya Clinical Evidence of Epidermal Barrier Dysfunction in Food Allergy. JSA sister society symposium: Barrier dysfunction in Allergic Diseases. AAAAI/WAO Joint Congress Joint Congress　2018. 3.5 Florida, USA.
2. Yamamoto-Hanada K, Yang L, Ishitsuka K, Ayabe T, Mezawa H, Konishi M, Shoda T, Matsumoto K, Saito H, Ohya Y, Allergic profiles of mothers and fathers in the Japan Environment and Children's Study (JECS): a nationwide birth cohort study. AAAAI/WAO Joint Congress Joint Congress　2018. 3.5 Florida, USA.
3. Miyaji Y , Fukuie T, Narita M, Ohya Y, Matsumoto K, Nomura I:　Significant comorbidity of necrotizing enterocolitis with non-IgE-mediated gastrointestinal food allergy in non-premature babies 2018. 3.2 Florida, USA.
4. Inagaki S, Narita M, Nakamura T, Shimosawa T,　Murata T, Yukihiro Ohya: Urinary tetranor-PGDM, a metabolite from prostaglandin D_2, could it be a reliable marker to evaluate the effectiveness of oral immunotherapies for children with food allergies? AAAAI/WAO Joint Congress Joint Congress 2018.3.5 Florida, USA.
5. Mitsui M,　Yamamoto-Hanada K, Hirota R, Muto G, Nakamura T, Fukutomi Y, Nakamura H, Ohya Y:　Daily Products Containing Paraben and Triclosan Use and Allergic Diseases In Tokyo, 2016-2017: a Cross-Sectional Study. AAAAI/WAO Joint Congress Joint Congress 2018.3.3 Florida, USA.
6. Sato M, Yamamoto-Hanada K, Irahara M, Ishikawa F, Mitsui M,　Saito M,　Miyaji Y, Inagaki S,　Fukuie T,　Nomura I,　Narita N, Ohya Y: Complementary and Alternative Medicine among Children with Atopic Dermatitis. AAAAI/WAO Joint Congress Joint Congress 2018.3.4 Florida, USA.
7. Nomura I, Morita H, Matsuda A, Sato M, Mitsui M, Miyaji Y, Inagaki S, Fukuie T,Narita M, Ohya Y. Elevated serum TSLP, IL-33, 6Ckine and MCP-3 levels in school children or older patients with eosinophilic gastroenteritis. AAAAI/WAO Joint Congress Joint Congress 2018.3.4 Florida, USA.
8. Ohya Y:　Meet the Professor: Eczema treatment and prevention of food allergy: 31st Annual Congress of Korean Academy of Pediatric Allergy and Respiratory Disease, 2018. 4. 6. Taegu, Korea.
9. Ohya Y:　Plenary lecture: Preventive strategies of atopic dermatitis, food allergy and allergic march: 31st Annual Congress of Korean Academy of Pediatric Allergy and Respiratory Disease. 2018. 4.7. Taegu, Korea.
10. Ohya Y:　Session 6 Gaps in evidence: Early introduction of proactive therapy for infantile atopic dermatitis prevents onset of food allergy. International Symposium of

Atopic Dermatitis 2018, 2018. 4. 13. Utrecht, Netherlands.

11. Yamamoto-Hanada K, Saito M, Matsumoto M, Saito H, Ohya Y: Eczema and Mental Health Among Pregnant Women in the Japan Environment and Children's Study. ISAD 2018. Utrecht, Netherlands. 2018. 4. 13.
12. Ichiro Nomura; Eosinophilic gastroenteritis –emerging challenge in the 21st century-Symposium; Update of Eosinophilic Gastrointestinal Disorders in Children. Pediatric Academic Societies Meeting (PAS), May 6 2018, Toronto Canada.
13. Yamamoto-Hanada K, Borres M.P, Åberg.K.M, Yang L, Fukuie T, Narita M, Saito H, and Ohya Y: Allergic profile of the general pediatric population at the ages of five and nine years in Tokyo from a birth cohort . EAACi 2018. Munich, Germany. 2018.5.27.
14. OhyaY: EAACI-JSA Symposium Epidermal barrier dysfunction and food allergy: EAACI 2018, 2018. 5.28. Munich, Germany.
15. Miyaji Y , Fukuie T, Narita M, Yang L, Irahara M, Ishikawa F, Miyata M, Mitsui M, Sato M, Saito M, Inagaki S, Yamamoto-Hanada K, Suda T, Nomura I, Ohya Y: The effectiveness and the safety of tiny dose oral immunotherapy for children with food allergyEAACI 2018. 5.26. Munich, Germany.
16. Irahara M, Shinahara W, Kido H. Eczema induce high ovalbumin specific IgE/IgG1 ratio and affinity maturation during lactation period: EAACI 2018. 5.30.Munich, Germany.
17. Inagaki S, Nagao M, Toshiaki Kawano, Yoshinori Azuma, Noriko Nomura, Yasuhiko Noguchi, Hiroshi Odajima, Takao Fujisawa, Yukihiro Ohya, Kenji Izuhara: Serum squamous cell carcinoma antigen-2 (SCCA2) is a reliable biomarker for detecting the clinical severity of atopic dermatitis in children. EAACI 2018. 5.30.Munich, Germany.
18. Fukuie T, Narita M, Yamamoto-Hanada K, Ishikawa F, Irahara M, Mitsui M, Sato S, Miyaji Y, Inagaki S, Saito M, Yang L, Saito H, and Ohya Y: Sensitization to dust mite is associated with an increased risk of high FeNO levels and future onset of asthma: a population-based birth cohort study. EAACI 2018. Munich, Germany. 2018.5.30.
19. Yamamoto-Hanada K, Mitsui M, Hirota R, Muto G, Nakamura T, Fukutomi Y, Nakamura H, Ohya Y: Daily Products Containing Paraben and Triclosan Use and Allergic Diseases In Tokyo, 2016-2017: a Cross-Sectional Study. ISEE/ISES 2018.8.28 Ottawa, Canada.
20. Yukihiro Ohya, Yumiko Miyaji, Limin Yang, Kiwako Yamamoto-Hanada, Nasami Narita. Duration of eczema from its onset and the severity were the risk factor of food allergy at 2 years of age. 32nd Symposium of thhe Collegium Internationale Allergologium. 2018. 10.4. Mallorca, Spain.
21. Yamamoto-Hanada K, Kabashima S, Natsume O, Saito M, Narita M, Saito H, Ohya Y and the PETIT study group. Could My Child with Eczema Wean from Proactive Therapy to Reactive Therapy? : a Secondary Analysis of PETIT Study. APAAACI and APAPARI 2018. Bangkok, Thailand. 2018.10.12.
22. Yukihiro Ohya Symposium#6 Recent Advances in Atopic Dermatitis. Barrier dysfunction in atopic dermatitis. APAAACI and APAPARI 2018. Bangkok, Thailand. 2018.10.12.
23. Yukihiro Ohya Symposium#20 Prevention of Allergy and Future Perspective. Use of Emollient in the prevention of atopic dermatitis. APAAACI and APAPARI 2018. Bangkok, Thailand. 2018.10.14.
24. Yukihiro Ohya Symposium#24 How to manage food allergy? Preventing egg allergy,

to do or not to do? APAAACI and APAPARI 2018. Bangkok, Thailand. 2018.10.14.

25. Yusuke Inuzuka, Yumiko Miyaji, Tomohisa Ando, Kenji Toyokuni, Koji Nishimura, Hirotoshi Unno, Makoto Irahara, Fumi Ishikawa, Miori Sato, Makiko Miyata, Mayako Saito, Kiwako Yamamoto, Tatsuki Fukuie, Masami Narita, Ichiro Nomura, Yukihiro Ohya. Is it possible to improve the prognosis of remission by continuing oral food challenge even after oral symptoms ?APAAACI and APAPARI 2018. Bangkok, Thailand. 2018.10.14.
26. Toyokuni K, Miyaji Y, Yoshida A, Inuzuka Y, Nishimura K, Unno H, Irahara M, Ishikawa F, Sato M, Miyata M, Saito M, Yamamoto K, Fukuie T, Narita M, Nomura I, Ohya Y: 3-year prognosis of infants with severe protein loss in atopic dermatitis. APAAACI and APAPARI 2018. Bangkok, Thailand. 2018.10.12.
27. M. Sato, K. Yamamoto-Hanada, Y. Inuzuka, K. Toyokuni, K. Nishimura, H.Unno, M. Irahara, F. Ishikawa, M. Miyata, M. Saito, Y. Miyaji, T. Suda, T. Fukuie, I. Nomura, M. Narita, Y. Ohya.Overview of oral food challenge in infants under one year old. APAAACI and APAPARI 2018. Bangkok, Thailand. 2018.10.13.
28. M. Saito-Abe, K. Yamamoto-Hanada, K. Pak, T. Ayabe, H. Mezawa, K. Ishitsuka, M. Konishi, L. Yang, K.Matsumoto, H.Saito, Y. Ohya & the Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Having small for gestational age infants was associated with maternal allergic features in the JECS birth cohort.
WISC 2018.Florence,Italy.2018.12.7

国内学会

1. **大矢幸弘: 午後の特別プログラム 日本小児アレルギー学会からの鶏卵アレルギー発症予防に関する提言について 第 18 回食物アレルギー研究会 神奈川** 2018.2.18
2. **大矢幸弘: 特別講演「アレルギーの発症阻止と食餌療法 ～食べるべきか、避けるべきか～」第 143 回日本小児科学会栃木県地方会, 栃木**, 2018.3.19
3. **山本貴和子: シンポジウム 生活用品中のパラベン類によるアレルギー性疾患発症に関する総合的研究. 第 88 回日本衛生学会学術総会, 東京**, 2018. 3.28
4. **大矢幸弘: 教育セミナー アレルギーマーチの予防とアトピー性皮膚炎の治療. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡**, 2018.4.20
5. **福家辰樹: 小児アレルギー疾患診療 Update2018 エビデンスに基づいた早期介入. アレルギーマーチの上流に迫る. 第 121 回日本小児科学会学術集会分野別シンポジウム, 福岡**, 2018.4.21.
6. **大矢幸弘: シンポジウム 食物アレルギー最前線 食物アレルギー予防の最前線 第 34 回日本臨床皮膚科医会総会臨床学術大会, 宮城**, 2018.4.29
7. **福家辰樹: プロアクティブ療法によるアレルギーマーチの予防について. 第 117 回日本皮膚科学会総会教育講演 50. 広島**, 2018.6.3.
8. **大矢幸弘: シンポジウム アレルゲンとなる食物タンパクの摂取に関するパラダイムシフト 日本アミノ酸学会第 5 回産官学連携シンポジウム, 東京**, 2018.6.18
9. **野村伊知郎, 鈴木啓子, 森田英明, 斎藤博久, 大矢幸弘, 松本健治:シンポジウム 1 食物アレルギーの予後;最新知見から, 消化管アレルギーの予後. 第 67 回日本アレルギー学会学術大会, 千葉**, 2018.6.22.
10. **山本貴和子, 羊利敏, 松本健治, 齋藤博久, 大矢幸弘: ミニシンポジウム 妊娠中の母親と父親のアレルギープロファイルーこどもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)第 67 回日本アレルギー学会学術大会, 千葉**, 2018.6.22
11. **石川史, 山本貴和子, 稲垣真一郎, 福家辰樹, 成田雅美, 藤澤隆夫, 赤澤晃, 海老澤元宏, 斎藤博久, 大矢幸弘: アレルギー医療の均てん化促進のための医師のニーズ 第 67 回日本アレルギー学会学術大会, 千葉**, 2018.6.22
12. **宮地裕美子, 福家辰樹, 成田雅美, 松本健治, 大矢幸弘, 野村伊知郎: 新生児-乳児**

消化管アレルギーに関連した 壊死性腸炎の検討第 67 回日本アレルギー学会学術大会, 千葉, 2018.6.22

13. 山本貴和子: シンポジウム 成育コホートからの知見. 第 67 回日本アレルギー学会学術大会, 千葉 2018.6.23
14. 西村幸士,浅見経之, 楠目和代:当院における2年間の舌下免疫療法の治療経過. 第 67 回日本アレルギー学会学術大会, 千葉, 2018.6.23
15. 稲垣真一郎, 成田雅美, 中村達郎, 石川史, 苛原誠, 佐藤未織, 三井元子, 齋藤麻耶子, 宮田真貴子, 宮地裕美子, 山本貴和子, 福家辰樹, 野村伊知郎, 村田幸久,大矢幸弘: 小児食物アレルギー患者の免疫療法効果予測としてのプロスタグランジンD2尿中代謝産物の有用性. 第 67 回日本アレルギー学会学術大会, 千葉, 2018.6.23
16. 犬塚祐介, 夏目統, 松永真由美, 加藤由紀子, 田口智英:食物アレルギーへの栄養食事指導は閾値上昇に有効か. 第 67 回日本アレルギー学会学術大会, 千葉, 2018.6.24
17. 福家辰樹: 良くなってからが勝負のプロアクティブ療法とは?. 第 42 回日本小児皮膚科学会学術大会シンポジウム 5. 東京, 2018.7.15.
18. 大矢幸弘:ステロイドの副作用とエビデンス ~副作用は避けられる 第 42 回日本小児皮膚科学会学術大会シンポジウム 5 東京 2018.7.15
19. 福家辰樹: 食物アレルギー(スキンケアから将来の抗体療法まで). 第 35 回日本小児臨床アレルギー学会シンポジウム 3, 福岡, 2018.7.29.
20. 苛原誠, 野村伊知郎, 安藤友久, 石川史, 三井元子, 佐藤美織, 宮地裕美子, 稲垣真一郎, 福家辰樹成田雅美, 大矢幸弘: アミノ酸乳の導入でも血便が停止せず、治療に難渋した新生児-乳児消化管アレルギーの一例. 第 35 回日本小児臨床アレルギー学会, 福岡, 2018.7.28.
21. 石川史,福家辰樹,佐藤未織,稲垣真一郎,苛原誠,岩間元子,宮地裕美子,野村伊知郎,成田雅美,大矢幸弘:応用行動分析に基づいた家族・医療者の対応が奏功した難治喘息の一例. 第 35 回日本小児臨床アレルギー学会, 福岡, 2018.7.28.
22. 福家辰樹:食物アレルギー予防としての離乳食の進め方. 第 28 回日本外来小児科学会年次集会シンポジウム 7. 東京 2018.8.26
23. 大矢幸弘 ランチョンセミナー3小児外用療法を見直す~アレルギー療法の変遷と剤形選択の真髄~ 乳幼児期の経皮感作とアレルギーマーチ 第 45 回日本小児臨床薬理学会学術集会、東京、2018.10.7
24. 山本貴和子:シンポジウム 1 アレルギーマーチの源流としてのアトピー性皮膚炎 第55回日本小児アレルギー学会学術大会 2018.10.20 岡山
25. 大矢幸弘 イブニングシンポジウム1 食物アレルギー発症予防へのアプローチ Practical approach to prevention of food allergy. 日本小児アレルギー学会学術大会 2018.10.20 岡山
26. 大矢幸弘 県民公開講座 今すぐできる! スキンケアと食物アレルギー対策 日本小児アレルギー学会学術大会 2018.10.21 岡山
27. 成田雅美, 苛原誠, 石川史, 岩間元子, 佐藤未織, 宮地裕美子,稲垣真一郎,宮田真貴子, 齋藤麻耶子, 山本貴和子, 須田友子, 福家辰樹, 野村伊知郎, 大矢幸弘: 重症化したアレルギー患者の背景因子の検討. 第 55 回日本小児アレルギー学会, 岡山, 2018.10.21.
28. 犬塚祐介、宮地裕美子、安藤友久、豊國賢治、西村幸士、海野浩寿、苛原誠、石川史、佐藤未織、宮田真貴子、斎藤麻耶子、山本貴和子、福家辰樹、成田雅美、野村伊知郎、大矢幸弘:食物経口 負荷試験において口周囲症状後も負荷継続することで寛解の予後を改善させられるか。第 55 回日 本小児アレルギー学会, 岡山, 2018.10.21.
29. 佐藤未織、山本貴和子、犬塚祐介、豊國賢治、西村幸士、海野浩寿、苛原誠、石川史、宮田真貴子、宮地裕美子、齋藤麻耶子、須田友子、福家辰樹、野村伊知郎、成田雅美、

大矢幸弘: 乳児期(1歳未満)に施行された食物経口負荷試験の検討. 第55回日本小児アレルギー学会, 岡山, 2018.10.21.

30. 豊国賢治, 宮地裕美子, 吉田明生, 犬塚祐介, 西村幸士, 海野浩寿, 苛原誠, 石川史, 佐藤未織, 宮田真貴子, 齋藤麻耶子, 山本貴和子, 福家辰樹, 成田雅美, 野村伊知郎, 大矢幸弘: 当院で入院加療を行った低蛋白血症を伴う重症アトピー性皮膚炎乳児の3年後の予後についての検討. 第55回日本小児アレルギー学会, 岡山, 2018.10.21
31. Mayako Saito-Abe, Kiwako Yamamoto-Hanada, Fumi Ishikawa, Makoto Irahara, Miori Sato, Motoko Mitsui, Makiko Miyata, Yumiko Miyaji, Shinichiro Inagaki, Tomoko Suda, Tatsuki Fukuie, Ichiro Nomura, Masami Narita, Yukihiro Ohya . The relationship between the Pediatric Adherence Assessment Questionnaire (PAAQ) for asthmatic children and fraction of exhaled nitric oxide (FeNO) . IPAS 第55回日本小児アレルギー学会, 岡山, 2018.10.21.
32. 宮地裕美子、成田雅美、福家辰樹、犬塚祐介、豊國賢治、西村幸士、海野浩寿、苛原誠、石川史、佐藤未織、宮田真貴子、齋藤麻耶子、山本貴和子、野村伊知郎、大矢幸弘:食物アレルギー小児における極微量経口免疫療法の効果・安全性について.第55回日本小児アレルギー学会, 岡山, 2018.10.21
33. 野村伊知郎:新生児-乳児消化管アレルギー 体重増加不良タイプ(クラスター3)の診断と治療, 第55回日本小児アレルギー学会シンポジウム4, 岡山, 2018.10.20
34. 福家辰樹:アトピー性皮膚炎の基礎とスキンケアの重要性について. ハンズオン, 第55回日本小児アレルギー学会, 岡山, 2018.10.20
35. 山本貴和子、齋藤麻耶子、大矢幸弘:アレルギー疾患児をもつ養育者を対象としたアレルギー予防に関する意識調査. 第77回日本公衆衛生学会総会, 福島, 2018.10.26
36. 福家辰樹:アトピー性皮膚炎のプロアクティブ療法と経皮感作. 第70回日本皮膚科学会西部支部学術大会, 松江, 2018.11.10
37. 福家辰樹:食物アレルギー発症予防. 第43回東日本小児科学会, 千葉, 2018.11.23
38. 山本貴和子、齋藤麻耶子、二村昌樹、大矢幸弘:アレルギー疾患児をもつ養育者を対象としたアレルギー予防に関する意識調査. 第20子ども健康科学会学術大会, 千葉, 2018.12.8
39. 石川史、福家辰樹、犬塚祐介、豊國賢治、西村幸士、苛原誠、齋藤麻耶子、佐藤未織、宮地裕美子、山本貴和子、野村伊知郎、成田雅美、大矢幸弘:換気不全による湿気の影響と気管支喘息、アレルギー性鼻炎の症状の関連が示唆された一例. 第20子ども健康科学会学術大会, 千葉, 2018.12.8

講演・その他

1. 成田雅美:アレルギーが関与する呼吸障害、気管軟化症と気管支喘息の鑑別. 第2回 成育・心身障害児総合医療療育センター合同研修会, 東京, 2018.1.6.
2. 大矢幸弘:アレルギーマーチの根幹にあるアトピー性皮膚炎と食物アレルギーの克服に向けて 第26回関東アレルギークラブ, 東京, 2018.1.13
3. 山本貴和子:乳幼児のためのアレルギー教室. 中野区鷺沼保健所, 東京, 2018.1.16
4. 大矢幸弘:赤ちゃんから思春期までできるスキンケアとアレルギー対策, 大阪, 2018.1.20
5. 大矢幸弘:小児アトピー性皮膚炎の治療と関連疾患への影響. 和歌山小児科医会学術講演会, 和歌山, 018.1.20
6. 成田雅美:ガイドラインをふまえた個別化医療への挑戦 たくさんの引き出しを持つ. 第60回気管支喘息勉強会, 大阪, 2018.1.27.
7. 成田雅美:食物アレルギーの正しい理解と対応. 渋谷区栄養管理講習会, 東京, 2018.1.31.

8. 大矢幸弘：食物アレルギーの予防はアトピー性皮膚炎の治療から．第 14 回アラジーポット学びの場講演会，東京, 2018.2.11
9. 福家辰樹：ホントに役立つアレルギー対策の最新ポイント．NPO 法人アレルギーを考える母の会，アナフィラキシー親子のための懇談会， 横浜, 2018.2.16.
10. 大矢幸弘：特別講演 小児アレルギー疾患の発症予防とアレルギーマーチの阻止．第 71 回静岡小児アレルギー研究会，静岡, 2018.2.17
11. 大矢幸弘：特別講演 アトピー性皮膚炎の治療と鶏卵アレルギー発症予防について．第 422 回相模原市医師会小児科医会月齢懇話会，神奈川, 2018.2.21
12. 大矢幸弘：特別講演① 小児アトピー性皮膚炎の予防・治療と関連疾患への影響 南大阪アトピー性皮膚炎フォーラム 大阪 2018.2.22
13. 福家辰樹：小児の食物アレルギー診療．関東信越国立病院管理栄養士協議会研修会，東京, 2018.3.3.1.
14. 成田雅美：腸内細菌とアレルギー．第 28 回東京小児科医会セミナー，東京, 2018.3.11.
15. 大矢幸弘：大きく変わったアレルギー疾患予防の常識 ～エビデンスに基づく治療を普及させよう～．神奈川, 2018.3.15
16. 大矢幸弘：特別講演 経皮感作を防ぐスキンケアとアトピー性皮膚炎の治療方法について．奈良県小児科 医会学術講演会，奈良, 2018.3.18
17. 大矢幸弘：新生児の皮膚トラブルとその後のアレルギー発症に関する研究の動向．第 24 回シフラの会，東京, 2018.4.25
18. 山本貴和子：食物アレルギーとその対応について．世田谷区新 BOP 職員研修，東京，2018.5.24
19. 宮地裕美子：食物アレルギーの理解とその対応について エピペン演習 ．平成 30 年世田谷区保育課「食物アレルギー対応研修」，東京, 2018.5.11.
20. 大矢幸弘：特別講演 アトピー性皮膚炎の治療ならびに鶏卵アレルギー発症予防の提言について． 第 44 回厚木市皮膚科医会例会 神奈川 2019.5.17
20. 福家辰樹：食物アレルギーの理解とその対応について エピペン演習 ．平成 30 年世田谷区保育課「食物アレルギー対応研修」，東京, 2018.5.18.
21. 成田雅美：食物アレルギーの理解とその対応について エピペン演習 ．平成 30 年世田谷区保育課「食物アレルギー対応研修，東京,2018.5.22.
22. 石川史：食物アレルギーの理解とその対応について エピペン演習 ．平成 30 年世田谷区保育課「食物アレルギー対応研修」，東京, 2018.6.6.
23. 大矢幸弘：特別講演 食物アレルギーの予防とアトピー性皮膚炎を寛解に導く対策．平成 30 年度沖縄県小児保健学会・定時総会，沖縄, 2018.6.2
24. 成田雅美：子どもの食物アレルギー．日野市アレルギー講演会，東京, 2018.6.9.
25. 大矢幸弘：経皮感作で発症するアレルギーがもたらしたパラダイムシフト．茨城県小児保険学会， 茨城, 2018.6.13
26. 福家辰樹：赤ちゃんのスキンケア講座．台東保健所区民向け講習会，東京, 2018.7.6.
27. 福家辰樹：皮膚から予防する小児のアレルギー性疾患．第 8 回城南皮膚病カンファレンス．東京, 2018.7.12.
28. 野村伊知郎；特別講演 新生児-乳児消化管アレルギー、好酸球性胃腸炎について,第 13 回愛媛小児アレルギー疾患臨床セミナー,愛媛,2018.7.14.
29. 大矢幸弘：小児アレルギー診療の最近の動向 鶏卵アレルギー発症予防に関するコンセンサスステートメント 2017 キーエッセンス 小児喘息アレルギーセミナー2018 東京 2018.7.1
30. 大矢幸弘 特別講演 小児アトピー性皮膚炎の予防・治療と関連疾患への影響 第 37 回秋田賞にアレルギー研究会 秋田 2018.7.21
31. 山本貴和子：平成 30 年度千代田区第 1 回アレルギー予防教室，東京，2018.07.23
32. 大矢幸弘：特別講演 食物アレルギーの予防とアトピー性皮膚炎への対策 第 478 回福岡地区小児科医会（丹々会） 福岡 2018.7.25

33. 福家辰樹: 食物アレルギーの発症予防. 第 5 回成育サマーセミナー, 東京, 2018.7.28.
34. 大矢幸弘:教育講演 アレルギー診療に応用する行動科学とチーム医療 第 35 回日本小児臨床アレルギー学会 福岡 2018.7.29
35. 福家辰樹: アトピー性皮膚炎. 平成 30 年度厚生労働省補助事業アレルギー・リウマチ相談員養成 研修会, 東京, 2018.8.4.
36. 野村伊知郎:特別講演 消化管アレルギーの最新知見,第 46 回西日本小児アレルギー研究会,福岡,2018.8.19.
37. 成田雅美:食物アレルギーと食育(エピペン演習)東京都保育士就職支援セミナー. 東京 2018.8.24
38. 宮地裕美子:保育施設におけるアレルギー疾患への理解と対応.杉並区保育課研修,東京,2018.9.3
39. 成田雅美:赤ちゃんのスキンケア 神奈川県助産師会研修会, 神奈川, 2018.9.8.
40. 成田雅美:腸内細菌とアレルギー 第5回静岡プロバイオティクス学術セミナー,静岡,2018.9.14
41. 大矢幸弘 経皮感作とアレルギーマーチの最新の話題 皮膚バリア 2018ーヒルドイドの適正使用を目指してー 東京 2018.9.17
42. 野村伊知郎:講演 新生児-乳児消化管アレルギー,第 2 回免疫アレルギーTerakoya 勉強会,東京,2018.9.21
43. 福家辰樹:明日から役に立つスキンケアの実際と緊急時対応. 神奈川県福祉社会協議会協働事業. 横浜市 2018.9.21
44. 山本貴和子:乳幼児のためのやさしいアレルギー教室. 中野区鷺沼保健所. 東京. 2018.09.27
45. 福家辰樹:小児アトピー性皮膚炎の治療. アレルギーエデュケーター勉強会 in 名古屋. 名古屋 2018.9.29
46. 成田雅美:小児ぜんそく診療の up-to-date 舌下免疫療法やアレルギー発症予防も含めて 東京都医師会ぜん息患者最新治療およびアレルギー対策講演会,東京, 2018.9.29.

47. 福家辰樹:経皮感作とアレルギーマーチに関する最新の話題. ヒルドイドフォーム発売記念講演会 in 大阪. 大阪 2018.10.13
48. 福家辰樹:赤ちゃんからのスキンケア講座. 平成 30 年度伊勢原市すこやか親子育児支援事業. 伊勢原市 2018.10.30
49. 大矢幸弘 特別講演 早期対策でアレルギーはどこまで予防できるか? 第 11 回愛知アレルギー・免疫療法研究会 愛知 2018.11.3
50. 成田雅美:小児ぜんそく診療の up-to-date 舌下免疫療法やアレルギー発症予防も含めて 東京都医師会ぜん息患者最新治療およびアレルギー対策講演会,東京, 2018.11.10.
51. 野村伊知郎:新生児-乳児消化管アレルギーと好酸球性胃腸炎 長野県立こども病院院内研修会 長野県安曇野 2018.11.16
52. 山本貴和子:抗菌薬とアレルギー疾患の関連について. 第 4 回院内感染対策研修会. 東京 2018.11.19
53. 成田雅美:食物アレルギーと食育(エピペン演習)東京都保育士就職支援セミナー. 東京 2018.11.24
54. 福家辰樹:赤ちゃんから出来るスキンケアとアレルギー対策 平成 30 年度乳児過程全戸訪問事業研究会. 盛岡市 2018.11.20
55. 大矢幸弘 乳児期からはじめるアレルギー予防 つくば市アレルギースキンケア講演会 茨城 2018.11.30

56. 福家辰樹：症例のみかた、まとめかた. 2018 年度小児アレルギーエデュケーター認定講習会. 東京 201812.1-2
57. 成田雅美：アレルギー疾患発症予防とアレルゲン免疫療法 第 4 回島根アレルゲン免疫療法研究会,松江, 2018.12.1
58. 福家辰樹：食物アレルギーの理解と緊急時のアナフィラキシー対応について. 平成 30 年度相馬郡医師会「子どもを守る！食物アレルギー講演会」相馬市 2018.12.7
59. 宮地裕美子, 福家辰樹：第 5 回総合アレルギー講習会 ハンズオンセミナー 食物経口負荷試験 2018.12.15-16 大阪
60. 成田雅美：第 5 回総合アレルギー講習会 ハンズオンセミナー 吸入指導（小児）大阪 2018.12.15
61. 福家辰樹：これだけは知っておきたい！こどものアレルギー. 平成 30 年度横浜市ぜん息予防等講演会. 横浜市 2018.12.19
62. 福家辰樹：アトピー性皮膚炎のプロアクティブ療法. 鳥居薬品アトピー性皮膚炎座談会 第 3 回. 東京 2018.12.
63. 野村伊知郎：消化管アレルギー 日本小児臨床アレルギー学会 第 12 回スキルアップセミナー 2018.12.2 東京

4-3-6 小児がんセンター

[原著論文:査読付](Reviewed Paper)

1. Tsujimoto S, Osumi T, Uchiyama M, Shirai R, Moriyama T, Nishii R, Yamada Y, Kudo K, Sekiguchi M, Arakawa Y, Yoshida M, Uchiyama T, Terui K, Ito S, Koh K, Takita J, Ito E, Tomizawa D, Manabe A, Kiyokawa N, Yang J, Kato M: Diplotype analysis of NUDT15 variants and 6-mercaptopurine sensitivity in pediatric lymphoid neoplasms. Leukemia 2018;32(12):2710-2714
2. Matsuo H, Yoshida K, Fukumura K, Nakatani K, Noguchi Y, Takasaki S, Noura M, Shiozawa Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Okada A, Nannya Y, Takeda J, Ueno H, Shiba N, Yamato G, Handa H, Ono Y, Hiramoto N, Ishikawa T, Usuki K, Ishiyama K, Miyawaki S, Itonaga H, Miyazaki Y, Kawamura M, Yamaguchi H, Kiyokawa N, Tomizawa D, Taga T, Tawa A, Hayashi Y, Mano H, Miyano S, Kamikubo Y, Ogawa S, Adachi S: Recurrent CCND3 mutations in MLL-rearranged acute myeloid leukemia. Blood Adv 2018;2(21):2879-2889
3. Alexander TB, Gu Z, Iacobucci I, Dickerson K, Choi JK, Xu B, Payne-Turner D, Yoshihara H, Loh ML, Horan J, Buldini B, Basso G, Elitzur S, de Haas V, Zwaan CM, Yeoh A, Reinhardt D, Tomizawa D, Kiyokawa N, Lammens T, De Moerloose B, Catchpoole D, Hori H, Moorman A, Moore AS, Hrusak O, Meschinchi S, Orgel E, Devidas M, Borowitz M, Wood B, Heerema NA, Carrol A, Yang Y-L, Smith MA, Davidsen TM, Hermida LC, Gesuwan P, Marra MA, Ma Y, Mungall AJ, Moore RA, Jones SJM, Valentine M, Janke LJ, Rubnitz JE, Pui C-H, Ding L, Liu Y, Zhang J, Nichols KE, Downing JR, Cao X, Shi L, Pounds S, Newman S, Pei D, Guidry Auvil JM, Gerhard DS, Hunger SP, Inaba H, Mullighan CG: The genetic basis and cell of origin of mixed phenotype acute leukemia. Nature 2018;562(7727):373-379
4. Noort S, Zimmermann M, Reinhardt D, Wendy C, Pigazzi M, Smith JL, Ries RE, Alonzo T, Hirsch B, Tomizawa D, Locatelli F, Gruber T, Raimondi S, Sonneveld E, Cheuk DK, Dworzak M, Stary J, Abrahamsson J, Arad-Cohen N, Czogala M, De Moerloose B, Hasle H, Meshinchi S, van den Heuvel-Eibrink MM, Zwaan CM: Prognostic impact of t(16;21)(p11;q22) and t(16;21)(q24;q22) in pediatric AML: a retrospective study by the I-BFM SG. Blood 2018;132(15):1584-1592
5. Osumi T, Tsujimoto S, Tamura M, Uchiyama M, Nakabayashi K, Okamura K, Yoshida M, Tomizawa D, Watanabe A, Takahashi H, Hori T, Yamamoto S, Hamamoto K, Migita M, Ogata-Kawata H, Uchiyama T, Kizawa H, Ueno-Yokohata H, Shirai R, Seki M, Oki K, Takita J, Inukai T, Ogawa S, Kitamura T, Matsumoto K, Hata K, Kiyokawa N, Goyama S, Kato M: Recurrent RARB Translocations in Acute Promyelocytic Leukemia lacking RARA Translocation. Cancer Res 2018;78(16):4452-4458
6. Nakagawa R, Hosokawa-Tsuji A, Aoki Y, Takasawa K, Maru M, Nakajima K, Sutani A, Miyakawa Y, Tomizawa D, Kashimada K, Morio T: Total body irradiation for hematopoietic stem cell transplantation during early childhood is associated with the risk for diabetes mellitus. Endocrine 2018;61(1):76-82
7. Takahashi H, Kajiwara R, Kato M, Hasegawa D, Tomizawa D, Noguchi Y, Koike K, Toyama D, Yabe H, Kajiwara M, Fujimura J, Sotomatsu M, Ota S, Maeda M, Goto H, Kato Y, Mori T, Inukai T, Shimada H, Fukushima K, Ogawa C, Makimoto A, Fukushima T, Ohki K, Koh K, Kiyokawa N, Manabe A, Ohara A: Treatment outcome of children with acute lymphoblastic leukemia: the Tokyo Children's Cancer Study Group (TCCSG) Study L04-16. Int J Hematol 2018;108(1):98-108
8. Tomizawa D, Tanaka S, Hasegawa D, Iwamoto S, Hiramatsu H, Kiyokawa N, Miyachi H, Horibe K, Saito AM, Taga T, Adachi S: Evaluation of High-dose Cytarabine in Induction Therapy for Children with De Novo Acute Myeloid Leukemia: A Study Protocol of the Japan Children's Cancer Group Multi-Center Seamless Phase II-III Randomized Trial (JPLSG AML-12). Jpn J Clin Oncol 2018;48(6):587-593
9. Yamato G, Shiba N, Yoshida K, Hara Y, Ohki K, Okubo J, Park M-J, Sotomatsu M, Arakawa H, Kiyokawa N, Tomizawa D, Adachi S, Taga T, Horibe K, Ogawa S, Hayashi

Y: RUNX1 mutations in pediatric acute myeloid leukemia are associated with distinct genetic features and an inferior prognosis. Blood 2018;131(20):2266-2270
10. Shimada A, Yamashita Y, Tawa A, Tomizawa D, Yamada M, Shiba N, Watanabe T, Taga T, Iwamoto S, Terui K, Moritake H, Kinoshita A, Takahashi H, Nakayama H, Koh K, Goto H, Kosaka Y, Saito AM, Kiyokawa N, Horibe K, Hara Y, Oki K, Hayashi Y, Tanaka S, Adachi S: Risk-stratified therapy for children with FLT3-ITD positive acute myeloid leukemia: Results from the JPLSG AML-05 study. Int J Hematol 2018;107(5):586-595
11. Kuwatsuka Y, Tomizawa D, Kihara R, Nagata Y, Shiba N, Iijima-Yamashita Y, Shimada A, Deguchi T, Miyachi H, Tawa A, Taga T, Kinoshita A, Nakayama H, Kiyokawa N, Moriya Saito A, Koh K, Goto H, Kosaka H, Asou N, Ohtake S, Miyawaki S, Miyazaki Y, Sakura T, Ozawa Y, Usui N, Kanamori H, Ito Y, Imai K, Suehiro Y, Kobayashi S, Kitamura K, Sakaida E, Ogawa S, Naoe T, Hayashi Y, Horibe K, Manabe A, Mizutani S, Adachi S, Kiyoi H: Prognostic value of genetic mutations in adolescent and young adults with acute myeloid leukemia. Int J Hematol 2018;107(2):201-210
12. Iijima-Yamashita Y, Matsuo H, Yamada M, Deguchi T, Kiyokawa N, Shimada A, Tawa A, Takahashi H, Tomizawa D, Taga T, Kinoshita A, Adachi S, Horibe K: Performance of multiplex fusion gene testing in pediatric acute myeloid leukemia. Pediatr Int 2018;60(1):47-51
13. Matsuo H, Iijima-Yamashita Y, Yamada M, Deguchi T, Kiyokawa N, Shimada A, Tawa A, Tomizawa D, Taga T, Kinoshita A, Adachi S, Horibe K: Monitoring of fusion gene transcripts to predict relapses in pediatric acute myeloid leukemia. Pediatr Int 2018;60(1):41-46
14. Ueno-Yokohata H, Okita H, Nakasato K, Hishiki T, Shirai R, Tsujimoto S, Osumi T, Yoshimura S, Yamada Y, Shioda Y, Kiyotani C, Terashima K, Miyazaki O, Matsumoto K, Kiyokawa N, Yoshioka T, Kato M. Preoperative diagnosis of clear cell sarcoma of the kidney by detection of BCOR internal tandem duplication in circulating tumor DNA. Genes Chromosomes Cancer 2018 ;57(10):525-529
15. Koh K, Kato M, Saito AM, Kada A, Kawasaki H, Okamoto Y, Imamura T, Horibe K, Manabe A. Phase II/III study in children and adolescents with newly diagnosed B-cell precursor acute lymphoblastic leukemia: protocol for a nationwide multicenter trial in Japan. Jpn J Clin Oncol 2018 Jul 1;48(7):684-691.
16. Nishii R, Moriyama T, Janke L, Yang W, Suiter C, Lin TN, Li L, Kihira K, Toyoda H, Hofmann U, M Schwab, Takagi M, Morio T, Manabe A, Kham S, Jiang N, Rabin KR, Kato M, Koh K, Yeoh AE, Hori H, Yang J. Effects of NUDT15 genotype-guided treatment individualization on thiopurine toxicity and anti-leukemic efficacy. Blood 2018;131(22):2466-2474.
17. Urayama K, Takagi M, Kawaguchi T, Matsuo K, Tanaka Y, Ayukara Y, Arakawa Y, Hasegawa D, Yuza Y, Kaneko T, Noguchi T, Taneyama Y, Ota S, Inukai T, Yanagimachi M, Keino D, Koike K, Toyama D, Nakazawa Y, Kurosawa H, Nakamura K, Moriwaki K, Goto H, Sekinaka Y, Morita D, Kato M, Takita J, Tanaka T, Inazawa H, Koh K, Ishida Y, Ohara A, Mizutani S, Matsuda F, Manabe A. Regional evaluation of childhood acute lymphoblastic leukemia genetic susceptibility loci among Japanese. Sci Rep 2018 Jan 15;8(1):789
18. Isobe T, Seki M, Yoshida K, Sekiguchi M, Shiozawa Y, Shiraishi Y, Kimura S, Yoshida M, Inoue Y, Yokohama A, Kakiuchi N, Suzuki H, Kataoka K, Sato Y, Kawai Y, Chiba K, Tanaka H, Shimamura T, Kato M, Iguchi A, Hama A, Taguchi T, Akiyama M, Fujimura J, Inoue A, Ito T, Deguchi T, Kiyotani C, Iehara T, Hosoi H, Oka A, Sanada M, Tanaka Y, Hata K, Miyano S, Ogawa S, Takita J. Integrated molecular characterization of pancreatoblastoma. Can Res 2018 Feb 15;78(4):865-876
19. Tzoneva G, Dieck CL, Oshima K, Ambesi-Impiombato A, Sánchez-Martín M, Madubata CJ, Khiabanian H, Yu J, Waanders E, Iacobucci I, Sulis ML, Kato M, Koh K, Paganin M, Basso G, Gastier-Foster JM, Loh ML, Kirschner-Schwabe R, Mullighan CG, Rabadan R, Ferrando AA.. Clonal evolution mechanisms in NT5C2 mutant relapsed acute lymphoblastic leukemia. Nature 2018;Jan 25;553(7689):511-514
20. Tsujimoto S, Nakano Y, Osumi T, Okada K, Ouchi-Uchiyama M, Kataoka K, Fujii Y,

Ohki K, Seki M, Tamagawa N, Takita J, Ogawa S, Kiyokawa N, Hara J, Kato M. A cryptic NUP214-ABL1 fusion in B-cell precursor acute lymphoblastic leukemia. J Pediatr Hematol Oncol 2018;40(6):e397-e399

21. Terashima K. Chemotherapy of Intracranial Gliomas in Children. Prog Neurol Surg. 2018; 31: 162-167
22. Morimoto A, Shioda Y, Imamura T, Kudo K, Kitoh T, Kawaguchi H, Goto H, Kosaka Y, Tsunematsu Y, Imashuku S; Japan LCH Study Group.:Intensification of induction therapy and prolongation of maintenance therapy did not improve the outcome of pediatric Langerhans cell histiocytosis with single-system multifocal bone lesions: results of the Japan Langerhans Cell Histiocytosis Study Group-02 Protocol Study. Int J Hematol. 2018 Aug;108(2):192-198
23. Ishida Y, Maeda M, Adachi S, Inada H, Kawaguchi H, Hori H, Ogawa A, Kudo K, Kiyotani C, Shichino H, Rikiishi T, Kobayashi R, Sato M, Okamura J, Goto H, Manabe A, Yoshinaga S, Qiu D, Fujimoto J, Kuroda T. Secondary cancer after a childhood cancer diagnosis: viewpoints considering primary cancer. Int J Clin Oncol. 2018;23(6):1178-1188.
24. Yano M, Imamura T, Asai D, Deguchi T, Hashii Y, Endo M, Sato A, Kawasaki H, Kosaka Y, Kato K, Hori H, Yumura-Yagi K, Hara J, Oda M, Horibe K: Clinical significance of SH2B3 (LNK) expression in paediatric B-cell precursor acute lymphoblastic leukaemia. Br J Haematol 2018;183(2):327-330
25. Toyoda H, Deguchi T, Iwamoto S, Kihira K, Hori H, Komada Y, Hirayama M: Weekly Rituximab Followed by Monthly Rituximab Treatment for Autoimmune Disease Associated With RAS-associated Autoimmune Leukoproliferative Disease. J Pediatr Hematol Oncol 2018;40(8):516-518
26. Sekimizu M, Osumi T, Fukano R, Kada A, Saito AM, Mori T. A Phase I/II Study of Crizotinib for Recurrent or Refractory Anaplastic Lymphoma Kinase-Positive Anaplastic Large Cell Lymphoma and a Phase I Study of Crizotinib for Recurrent or Refractory Neuroblastoma : Study Protocol for a Multicenter Single-arm Open-label Trial. Acta medica Okayama 2018;72:431-6.
27. Koga Y, Baba S, Fukano R, Nakamura K, Soejima T, Maeda N, Sunami S, Ueyama J, Mitsui T, Mori T, Osumi T, Sekimizu M, Ohki K, Tanaka F, Kamei M, Fujita N, Mori T, Saito AM, Kada A, Kobayashi R. The Effect of Interim FDG-PET-guided Response-Adapted Therapy in Pediatric Patients with Hodgkin's Lymphoma (HL-14) : Protocol for a Phase II Study. Acta medica Okayama 2018;72:437-40.
28. Yotani N, Kizawa Y. Specialist palliative care service for children with life-threatening conditions: A nationwide survey of availability and utilization. J Pain Symptom Manage 2018;56:582-587
29. Omae T, Yotani N, Sakashita A, Kizawa Y. Number of Unused Medications at the Time of Last Admission: A Prospective Observational Study in a Single Palliative Care Unit. Am J Hosp Palliat Care. 2018;35:1498-1504
30. Uehara E, Nagata C, Masuda H, Fujimori K, Kobayashi S, Kubota M, Ishiguro A: Risk factors of long hospital stay for immunoglobulin A vasculitis: Single-center study. Pediatr Int. 2018 Oct;60(10):918-922.
31. Maekawa T, Ohya Y, Mikami M, Uematsu S, Ishiguro A: Clinical utility of the modified Pulmonary Index Score as an objective assessment tool for acute asthma exacerbation in children. JMA Journal 2018 Sept; 1(1): 57-66..
32. Toki T, Yoshida K, Wang R, Nakamura S, Maekawa T, Goi K, Katoh M, Mizuno S, Sugiyama F, Kanezaki R, Uechi T, Nakajima Y, Sato Y, Okuno Y, Sato-Otsubo A, Shiozawa Y, Kataoka K, Shiraishi Y, Sanada M, Chiba K, Tanaka H, Terui K, Sato T, Kamio T, Sakaguchi H, Ohga S, Kuramitsu M, Hamaguchi I, Ohara A, Kanno H, Miyano S, Kojima S, Ishiguro A, Sugita K, Kenmochi N, Takahashi S, Eto K, Ogawa S, Ito E: De novo mutations activating germline TP53 in an inherited bone marrow failure syndrome. Am J Hum Genet 2018 Sept 6; 103: 440-447.
33. Murofushi Y, Furuichi M, Shoji K, Kubota M, Ishiguro A, Uematsu S, Gai R, Miyairi I:

Adverse clinical and economic impacts associated with blood culture contamination in a pediatric emergency department. Pediatr Infect Dis J. 2018 Aug;37(8):755-758.

34. Tanaka Y, Nakadate H, Kondoh K, Nakamura K, Koh K, Manabe A: Interaction between NUDT15 and ABCC4 variants enhances intolerability of 6-mercaptopurine in Japanese patients with childhood acute lymphoblastic leukemia. Pharmacogenomics J 2018 Apr;18(2):275-280.
35. Yoshida M, Oana S, Masuda H, Ishiguro A, Kato H, Ito S, Kobayashi T, Abe J: Recurrence of fever after initial intravenous immunoglobulin treatment in children with Kawasaki disease. Clin Pediatr 2018 Feb; 57(2): 189-192.
36. **石田也寸志、前田美穂、岡村純、川口浩史、佐藤真穂、徳山美香、清谷知賀子、堀浩樹、小林良二、吉永信治、後藤裕明、藤本純一郎、黒田達夫. 小児がん診断後の二次性甲状腺がん:15 病院のケースシリーズ研究.日本小児血液・がん学会雑誌** 2018;55(3):261-268
37. **成相諒子、亀井宏一、余谷暢之、加納優治、小椋雅夫、久保田雅也、塩田曜子、田中恭子、前田浩利、木須彩、栃谷治子、鈴木彩、石黒精、石倉健司. 生体腎移植後末期腎不全に腎代替療法を行えなかった結節性硬化症の 1 例. 日本小児腎不全学会雑誌 2018;38:242－244**
38. **川上沙織, 庄司健介, 石黒 精, 宮入烈:小児専門医療施設における早発型・遅発型大腸菌菌血症の特徴. 日児誌,** 2018; 122(4):748-753.

[原著論文:査読なし]

[症例報告]

1. Yoshida M, Osumi T, Imadome K, Tomizawa D, Kato M, Miyazawa N, Ito R, Miyazaki O, Yoshioka T, Nakazawa A, Matsumoto K: Successful treatment of Systemic EBV positive T-cell lymphoma of childhood with the SMILE regimen. Pediatr Hematol Oncol 2018;35(2):121-4
2. Noguchi Y, Tomizawa D, Hiroki H, Miyamoto S, Tezuka M, Miyawaki R, Tanaka-Kubota M, Okano T, Kobayashi C, Mitsuiki N, Aoki Y, Imai K, Kajiwara M, Kanegane H, Morio T, Takagi M: Hematopoietic cell transplantation for myeloid/NK cell precursor acute leukemia in second remission. Clin Case Rep 2018;6(6):1023-1028
3. Osumi T, Tsujimoto S, Nakabayashi K, Taniguchi M, Shirai R, Yoshida M, Uchiyama T, Nagasawa J, Goyama S, Yoshioka T, Tomizawa D, Kurokawa M, Matsubara Y, Kiyokawa N, Matsumoto K, Hata K, Kato M: Somatic MECOM mosaicism in a patient with congenital bone marrow failure without a radial abnormality. Pediatr Blood Cancer 2018;113(4):e26959
4. Yamazaki F, Shima H, Osumi T, Narumi S, Kuroda T, Shimada H. Nodular Lymphocyte-predominant Hodgkin Lymphoma in a 15-Year-Old Boy With Li-Fraumeni Syndrome Having a Germline TP53 D49H Mutation. Journal of pediatric hematology/oncology 2018 Apr;40(3):e195-e197.
5. Yoshii S, Uda K, Miyairi I, Nakao H, Kono N, Kubota M, Ishiguro A: Multiple bullae associated with human parvovirus B19. J Pediatr 2018 Nov; 202: 327.
6. Okazaki K, Imadome K, Nakao H, Miyairi I, Ishiguro A: Quantitative PCR assays of cytomegalovirus and Epstein-Barr virus are valuable for treating hemophagocytic lymphohistiocytosis. Indian J Pediatr 2018 Jul; 85(7): 593-594.
7. Uehara E, Nakao H, Tsumura Y, Nakadate H, Amari S, Fujinaga H, Tsutsumi Y, Kang D, Ohga S, Ishiguro A: Slow elevation in protein C activity without a *PROC* mutation in a neonate with intracranial hemorrhage. Am J Perinatol Rep 2018 Apr; 8(2): e68-e70.
8. Nishi K, Kawai T, Kubota M, Ishiguro A, Onodera M: X-linked agammaglobulinemia complicated with pulmonary aspergillosis. Pediatr Int 2018 Jan; 60(1):90-92.
9. Ichimiya Y, Wada Y, Kunishima S, Tsukamoto K, Kosaki R, Sago H, Ishiguro A, Ito Y: 11q23 deletion syndrome (Jacobsen syndrome) with severe bleeding: a case report. J Med Case Rep 2018 Jan 8; 12(1): 3.

10. **野沢永貴，加藤元博，大隅朋生，谷口真紀，石黒精，富澤大輔，松本公一：寛解導入療法中の骨髄抑制にプロプラノロールによる薬剤性汎血球減少症を合併した小児急性リンパ性白血病の一例．日本小児血液・がん学会雑誌** 2018;55(1):15-18
11. 成相諒子，亀井宏一，余谷暢之，加納優治，小椋雅夫，久保田雅也，塩田曜子，田中恭子，前田浩利，木須彩，栃谷治子，鈴木彩，石黒 精，石倉健司：生体腎移植後末期腎不全に腎代替療法を行わなかった結節性硬化症の一例．日小児腎不全会誌，2018; 38: 242-244.
12. 朝倉真理，前川貴伸，大野通暢，野坂俊介，野村伊知郎，金森 豊，宮嵜 治，石黒 精：胆汁性嘔吐の軽快・増悪を繰り返し，診断に複数回の画像検査を要した腸回転異常の一例．小児科臨床，2018: 71(9): 1545-1550.
13. 竹澤芳樹，中村知夫，守本倫子，清谷知賀子，窪田 満，石黒 精：スパイロメトリーが声帯開大障害による上気道狭窄合併の診断に有用だった脳幹部低悪性度グリオーマの 1 例．小児科臨床，2018; 71(8): 1415-1419.
14. 谷山禎彦，前川貴伸，窪田 満，福原康之，奥山虎之，宮嵜 治，石黒 精，中舘尚也：骨単純 X 線写真が診断に有用であった大理石骨病の 5 症例．小児科診療，2018;81(7):941-945.
15. 岩脇史郎、大和玄季、柴　徳生、村松一洋、川島　淳、小板橋実希子、奥野はるな、中舘尚也、西村奈穂、星野顕宏、今井耕輔、桑島　信、金兼弘和、荒川浩一：自己免疫性溶血性貧血を契機に診断された CTLA-4 欠損症．日児誌，2018; 122(1): 55-61.
16. 中嶋 萌，新関寛徳，前川貴伸，吉田和恵，田中 諒，小森 学，義岡孝子，下村 裕，林 良太，窪田 満，石黒 精：難治性の鼻腔内痂皮が診断の一助となった *ectodysplasin A* 遺伝子変異・低汗性外胚葉形成不全の乳児例．外来小児科，2018;21(1):72 -75.
17. 村上瑛梨，中尾 寛，加久翔太朗，西村奈穂，中川 聡，窪田 満，石黒 精：高血圧が遷延したⅢ度熱中症の学童例．日児誌，2018;122(5):915-921.
18. **生駒尚子，中尾 寛，奥山眞紀子，窪田 満，石黒 精：筋緊張低下を主訴としたネグレクトの一例．小児内科，**2018;50(3):425-428.

[総説]

1. Kato M, Manabe A：Treatment of biology of pediatric acute lymphoblastic leukemia. Pediatr Int. 60:4-12, 2018
2. **笠原群生，阪本靖介，福田晃也，藤野明浩，金森豊，菱木知郎，堀川玲子，野坂俊介，宮入烈，鈴木康之，中川聡，西村奈緒，植松悟子，小野博，今留謙一，入江理恵，義岡孝子，石黒 精，松本公一，梨井康，絵野沢伸，深見真紀，阿久津英憲，齊藤博久，梅澤明弘，松原洋一，斉藤和幸，賀藤均，五十嵐隆：国立成育医療研究センターにおける小児肝移植医療．医療，**2018; 72(3): 99-104
3. **富澤大輔：小児急性骨髄性白血病に対する新規治療法の開発．日本小児血液がん・学会雑誌** 2018;55(2):116-122
4. **加藤元博：小児 ALL の遺伝的背景と治療．臨床血液** 2018;59(10):2268-2272
5. **加藤元博：小児急性リンパ性白血病　病態研究と診療の新展開．　臨床血液** 2018;59(5):504-510
6. **中舘尚也：自己免疫性血小板減少性紫斑病．小児の治療指針，小児科診療** 2018; 81(**増刊号**): 454-456.
7. **落合正行，石村匡崇，市山正子，石黒 精，大賀正一：新生児・小児の血栓症．(特集)血栓・塞栓症－診断・治療・予防の最新動向－．日本臨床，**2018; 76(9): 1681-1686.

[著書]

1. **富澤大輔 (分担執筆):III.白血病 C.急性リンパ性白血病(ALL) 4.AYA 世代 ALL の治療．金倉譲，木崎昌弘，鈴木律朗，神田善伸編，EBM 血液疾患の治療[2019-2020 年版]，中外医学社，**2018;148-152
2. **寺島慶太(分担執筆)：**284**「脳腫瘍」．「小児内科」「小児外科」編集員会共編：小児疾患の診断治療基準第 5 版，東京医学社，**2018，630-631
3. **余谷暢之：頭痛　二次診療：入院時の鑑別疾患と初期治療，スキルアップ！小児の総合診療，**

2018；52-53
4. 余谷暢之：小児緩和ケア－Life を支える医療からのアプローチ－，スキルアップ！小児の総合診療，2018；166-170

[ガイドライン、報告書、その他]

＜ガイドライン＞

1. 富澤大輔(分担執筆):小児急性骨髄性白血病 I.病型分類、II.小児 de novo AML の移植の適応とそのエビデンスレベル 日本造血細胞移植学会ガイドライン委員会編，造血細胞移植ガイドライン第 3 版，2018
2. 加藤元博(分担執筆)：造血細胞移植ガイドライン 小児急性リンパ性白血病(第3版) 日本造血細胞移植学会 2018
3. 加藤元博(分担執筆)：造血器腫瘍ゲノム検査ガイドライン 日本血液学会 2018
4. 中舘尚也：頭痛一次診療，スキルアップ小児の総合診療，窪田満(編)，49-51 診断と治療社，2018，東京
5. 中舘尚也：死亡診断書の書き方，スキルアップ小児の総合診療，窪田満(編)，171–173 診断と治療社，2018，東京

＜研究報告書＞

＜その他＞

1. 富澤大輔：第 2 部：疾患 XIV.血液・造血器疾患 269.急性骨髄性白血病「小児内科」「小児外科」編集委員会共編，小児疾患の診断治療基準 第 5 版．小児内科 2018;50(増刊号):596-597
2. 富澤大輔：AYA 世代小児 ALL 治療における同種造血幹細胞移植の役割．血液内科 2018;77(5):543-548
3. 富澤大輔：「新薬が変える子ども医療-薬物の使い分けと作用機序」FLT3-ITD 陽性急性骨髄性白血病: FLT3阻害薬．小児内科 2018;50(10):1536-1539
4. 富澤大輔：「第5回 1990年ノーベル生理学・医学賞」ヒトの疾患治療における臓器および細胞移植に関する発見．小児内科 2018;50(6):1012-1015
5. 富澤大輔：AYA 世代の急性白血病．小児科 2018;59(7):1053-60
6. 富澤大輔：特集「頸部腫瘤の診かた」総論 頸部腫瘤の診断手順と鑑別．小児内科 2018;50(2):183-187
7. 加藤元博：次世代シークエンサーを用いた急性リンパ性白血病の微小残存病変の測定．血液内科 2018:76(5):609-612
8. 加藤元博：成人に達する/達した患者への医療 小児がん．医学のあゆみ 2018;265(12):1042-1047
9. 塩田曜子：【小児疾患の診断治療基準】(第 2 部)疾患 血液・造血器疾患 ランゲルハンス細胞組織球症(解説/特集)： 小児内科 (2018.11) (50 巻増刊 Page608-609
10. 清谷知賀子．第 2 部：疾患 XV. 新生物(悪性腫瘍) 632. 網膜芽細胞腫.「小児内科」「小児外科」編集委員会共編，小児疾患の診断と治療基準 第 5 版．小児内科 2018;50(増刊号)：632-633
11. 竹澤芳樹，中村知夫，守本倫子，清谷知賀子，窪田満，石黒精．スパイロメトリーが声帯拡大障害による上気道狭窄合併の診断に有用だった脳幹部低悪性度グリオーマの 1 例．小児科臨床 2018;71(8):1415-1419
12. 津村悠介，安藤理恵，辻本信一，加藤元博，松本公一(分担執筆)：【小児医療における診断・治療の進歩 2018】診断技術 造血器腫瘍に対する分子遺伝学的診断．小児科 2018;59(12):1639-47
13. 余谷暢之：痛みの客観的評価．小児内科 2018；50 (7)：1042-46
14. 余谷暢之：緩和医療の視点から見た小児在宅医療．医学のあゆみ 2018；266 (3)：219-224

[学会発表]

1. Tomizawa D: Allogeneic stem cell transplantation for children with unfavorable risk cytogenetic AML. 29th Annual Meeting of the International BFM Study Group, Helsinki, 2018.5.19
2. Nakashima K, Hasegawa D, Miyamura T, Hama A, Iwamoto S, Terui K, Tomizawa D, Adachi S, Taga T: Characteristics and outcome of children with acute myeloid leukemia and Down syndrome ineligible for clinical trials. 11th Biennial Childhood Leukemia and Lymphoma Symposium, Helsinki, 2018.5.21
3. Deguchi T, Kiyokawa N, Ohki K, Hashii Y, Manabe A, Adachi S, Saito A, Horibe K: Comprehensive immunophenotyping panel in Japan enables to detect rare subtypes in childhood leukemia. 11th biennial Childhood Leukemia and Lymphoma Symposium, Helsinki, 2018.5.21
4. Matsumoto K, Daisuke S, Terashima K, Nishikawa R, Takimoto T, Noguchi T, Fushimi K.: Surgeries of Childhood Brain Tumors Need to be Integrated in Japan? – An Analysis from National Administrative Database 50th Congress of the International Society of Pediatric Oncology (SIOP), Kyoto, 2018.11.18
5. Tomizawa D, Yoshida M, Kondo T, Miyamura T, Taga T, Adachi S, Koh K, Noguchi M, Kakuda H, Shiba N, Watanabe K, Inoue M, Hashii Y, Atsuta Y, Ishida H: Outcome of allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for children and adolescents with acute myeloid leukemia and high-risk cytogenetics. 50th Congress of the International Society of Pediatric Oncology (SIOP), Kyoto, 2018.11.17
6. Ando R, Osumi T, Kato M, Shioda Y, Kiyotani C, Terashima K, Matsumoto K, Tomizawa D: Relationship between prophylactic antibiotics and blood stream infections in children with acute myeloid leukemia. 50th Congress of the International Society of Pediatric Oncology (SIOP), Kyoto, 2018.11.17
7. Tsumura Y, Kiyotani C, Shioda Y, Osumi T, Kato M, Tomizawa D, Terashima K, Hishiki T, Fuji H, Horikawa R, Matsumoto K: Short stature among high-risk neuroblastoma survivors treated with non-TBI regimen. 50th Congress of the International Society of Pediatric Oncology (SIOP), Kyoto, 2018.11.17
8. Hara Y, Shiba N, Ohki K, Yamato G, Sotomatsu M, Tomizawa D, Taki T, Kinoshita A, Kiyokawa N, Arakawa H, Tawa A, Horibe K, Taga T, Adachi S, Hayashi Y: Age and NRAS mutation status are possible prognostic markers in pediatric acute myeloid leukemia with CBFB-MYH11 fusion gene. 50th Congress of the International Society of Pediatric Oncology (SIOP), Kyoto, 2018.11.17
9. Kaburagi T, Yamato G, Shiba N, Hara Y, Ohki K, Sotomatsu M, Arakawa H, Kiyokawa N, Tomizawa D, Adachi S, Taga T, Horibe K, Hayashi Y. Clinical significance of mutations of RAS pathway related genes including PTPN11, RAS, and CBL genes in pediatric AML -the JCCG study, JPLSG AML-05-. 50th Congress of the International Society of Pediatric Oncology (SIOP), Kyoto, 2018.11.17
10. Yoshimura S, Kiyotani C, Osumi T, Shioda Y, Terashima K, Kato M, Tomizawa D, Matsumoto K: Preemptive treatment with recombinant thrombomodulin for children who developed veno-occlusive disease after hematopoietic stem cell transplantation: a single center experience in Japan. 50th Congress of the International Society of Pediatric Oncology (SIOP), Kyoto, 2018.11.18
11. Shirai R, Osumi T, Uchiyama M, Tsujimoto S, Yoshida M, Uchiyama T, Tomizawa D, Watanabe K, Shioda Y, Kiyotani C, Terashima K, Yoshioka T, Ogawa S, Matsumoto K, Kato M: High prevalence of SMAICB1 germline abnormality in rhabdoid tumors. 50th Congress of the International Society of Pediatric Oncology (SIOP), Kyoto, 2018.11.18
12. Yoshida M, Nakanbayashi K, Tsujimoto S, Osumi T, Shirai R, Kawai T, Yuza Y, Takagi M, Koh K, Takahashi H, Kinohsita A, Hino M, Manabe A, Imamura T, Ohara A, Tomizawa D, Kiyokawa N, Hata K, Kato M: Germline genetic predispositions to secondary malignant neoplasms in children. 50th Congress of the International Society of Pediatric Oncology (SIOP), Kyoto, 2018.11.18
13. Aoki T, Takahashi H, Tanaka S, Shiba N, Hasegawa D, Iwamoto S, Terui K, Moritake H, Nakayama H, Shimada A, Koh K, Goto H, Kosaka Y, Moriya-Saito A, Horibe K, Kinoshita A, Tomizawa D, Tawa A, Taga T, Adachi S: Prognostic impact of neutropenia

period in patients with acute myeloid leukemia (AML) enrolled in the Japanese Pediatric Leukemia/Lymphoma Study Group AML-05 study. 50th Congress of the International Society of Pediatric Oncology (SIOP), Kyoto, 2018.11.18

14. Yamato G, Kawai T, Shiba N, Ohki K, Hara Y, Kiyokawa N, Tomizawa D, Shimada A, Sotomatsu M, Arakawa H, Adachi S, Taga T, Horibe K, Hata K, Hayashi Y: Prognosis of pediatric AML patients with FLT3-ITD is predicted by DNA methylation pattern -the JCCG study JPLAG AML-05-. 50th Congress of the International Society of Pediatric Oncology (SIOP), Kyoto, 2018.11.18
15. Hammer ASB, Juul-Dam K, Sandahl JD, Abrahamsson J, Balwierz W, Guilmatre A, Haltrich I, Jahnukainen K, Kolb EA, Kovács G, Leverger G, Locatelli F, Masetti R, Noren-Nyström U, Raimondi SC, Rasche M, Reinhardt D, Taki T, Tomizawa D, Zeller B, Hasle H, Kjeldsen E: Hypodiploidy in Childhood Acute Myeloid Leukemia: A Retrospective Cohort Study within the International Berlin-Frankfurt-Münster Study Group. 60th Annual Meeting of the American Society of Hematology, San Diego, 2018.12.1.
16. Hara Y, Shiba N, Yamato G, Ohki K, Sotomatsu M, Tabuchi K, Tomizawa D, Taki T, Kinoshita A, Kiyokawa N, Arakawa H, Shibuya M, Taga T, Tawa A, Horibe K, Adachi S, Hayashi Y: Effect of Age on the Prognosis of Molecular Abnormalities in Pediatric Acute Myeloid Leukemia. 60th Annual Meeting of the American Society of Hematology, San Diego, 2018.12.1.
17. Kaburagi T, Yamato G, Shiba N, Yoshida K, Hara Y, Shiraishi Y, Ohki K, Sotomatsu M, Arakawa H, Matsuo H, Shimada A, Kiyokawa N, Tomizawa D, Taga T, Horibe K, Miyano S, Ogawa S, Adachi S, Hayashi Y: Comprehensive Analysis of 343 Genes Using Targeted Sequencing Panel By Next-Generation Sequencer in 77 Pediatric AML Patients with Normal and Complex Karyotypes: JCCG Study, JPLSG AML-05. 60th Annual Meeting of the American Society of Hematology, San Diego, 2018.12.1.
18. Matsuo H, Yoshida K, Fukumura K, Nakatani K, Noguchi Y, Takasaki S, Noura M, Shiozawa Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Okada A, Nannya Y, Takeda J, Ueno H, Shiba N, Yamato G, Kiyokawa N, Tomizawa D, Taga T, Tawa A, Hayashi Y, Mano H, Miyano S, Kamikubo Y, Ogawa S, Adachi S: Recurrent Genomic Aberrations of D-Type Cyclins Are Therapeutic Targets of CDK4/6 Inhibitors in t(8;21) and *MLL*-Rearranged Acute Myeloid Leukemia. 60th Annual Meeting of the American Society of Hematology, San Diego, 2018.12.2.
19. Imamura T, Sakamoto K, Shiba N, Deguchi T, Kiyokawa N, Hashii Y, Saito A, Tomizawa D, Taga T, Adachi S: Negative CD19 Expression Is Associated with Inferior Relapse-Free Survival in *RUNX1-RUNX1T1*-Positive Acute Myeloid Leukemia; The Japanese Pediatric Leukemia/Lymphoma Study Group Experience from the AML-05 Study. 60th Annual Meeting of the American Society of Hematology, San Diego, 2018.12.2.
20. Okamoto Y, Kudo K, Tabuchi K, Tomizawa D, Taga T, Goto H, Yabe H, Nakazawa Y, Koh K, Ikegame K, Yoshida N, Uchida N, Watanabe K, Koga Y, Inoue M, Kato K, Atsuta, Y, Ishida H: Hematopoietic Stem-Cell Transplantation in Children with Refractory Acute Myeloid Leukemia. 60th Annual Meeting of the American Society of Hematology, San Diego, 2018.12.3.
21. Hama A, Taga T, Tomizawa D, Muramatsu H, Hasegawa D, Adachi S, Yoshida N, Noguchi M, Inoue M, Oakada K, Koh K, Atsuta Y, Ishida H: Hematopoietic Cell Transplantation for Children with Acute Megakaryoblastic Leukemia without Down Syndrome. 60th Annual Meeting of the American Society of Hematology, San Diego, 2018.12.3.
22. Terashima K, Shirai R, Osumi T, Uchiyama M, Tsujimoto S, Yoshida M, Uchiyama T, Tomizawa D, Watanabe K, Shioda Y, Kiyotani C, Yoshioka T, Ogawa S, Matsumoto K, Kiyokawa N, Kato M: High prevalence of SMARCB1 germline abnormality in rhabdoid tumors: International Rhabdoid Tumor Meeting 2018, Banff, Canada, 2018.4.21.
23. Kimura Y, Terashima K, Kiyotani C, Osumi T, Shioda Y, Kato M, Tomizawa D, Fuji H,

Usami K, Aoki H, Irie R, Ogiwara H, Tsutsumi Y, Yoshioka T, Matsumoto K: Re-irradiation for Recurrent Diffuse Intrinsic Pontine Glioma: 18th International Symposium on Pediatric Neuro-Oncology (ISPNO 2018), Denver, Colorado, 2018.7.1

24. Terashima K, Kiyotani C, Kimura Y, Osumi T, Shioda Y, Kato M, Tomizawa D, Usami K, Ogiwara H, Aoki H, Tsutsumi Y, Irie R, Yoshioka T, Matsumoto K: Bevacizumab for Pediatric Low Grade Glioma: 18th International Symposium on Pediatric Neuro-Oncology (ISPNO 2018), Denver, Colorado, 2018.7.2
25. Shioda Y, Morimoto A, Imamura T, Kudo K, Tsunematsu Y, Imashuku S, on behalf of the Japan LCH Study Group:Prognostic significance of the combination of liver involvement, spleen involvement and younger age at diagnosis in the pediatric langerhans cell histiocytosis. 2018.10.22 Lisbon
26. Morimoto A, Shioda Y, Imamura T, Kudo K, Tsunematsu Y, Imashuku S, on behalf of the Japan LCH Study Group.: Combination of routine laboratory examination at diagnosis can extract extremely poor prognostic group in pediatric langerhans cell histiocytosis with high accuracy. 2018.10.22 Lisbon
27. Sakamoto K, Morimoto A, Shioda Y, Imamura T, Imashuku S, on behalf of the Japan LCH Study Group (JLSG).: Neurodegenerative CNS disease in pediatric Langerhans cell histiocytosis (LCH) – identified during long term follow-up in the JLSG-96/02 study. 2018.10.22 Lisbon
28. Kiyotani C. How to Setup a Survivor Clinic. A Japanese experience on building survivorship care. 50th congress of the International Society of Pediatric Oncology (SIOP), Kyoto, 2018.11.17-18 (oral)
29. Matsumoto K, Yamazaki F, Kiyotani C, Yamasaki K, Hashii Y, Nitani C, Okada K, Fujisaki H, Ohta H, Osugi Y, Shioda Y, Hara J. A double-conditioning regimen with thiotepa and melphalan is effective for MYCN-amplified high-risk neuroblastoma. Advances in Neuroblastoma (ANR), San Francisco, 2018.5.9-12
30. Ishida Y, Maeda M, Adachi S, Inada H, Kawaguchi H, Hori H, Ogawa A, Kudo K, Kiyotani C, Shichino H, Rikiishi T, Kobayashi R, Sato M, Okamura J, Goto H, Manabe A, Yoshinaga S, Qiu D, Fujimoto J, Kuroda T. Secondary cancer after a childhood cancer diagnosis: Viewpoints considering primary cancer. 50th Congress of the International Society of Pediatric Oncology (SIOP), Kyoto, 2018.11.17 (poster)
31. Yamasaki K, Watanabe Y, Isobe K, Koga Y, Kiyotani C, Terashima K, Arakawa Y, Hasegawa D, Kosaka Y, Goto H, Koh K, Hara J. Retrospective Analysis of Atypical Teratoid Rhabdoid Tumor in the era of multimodal treatment in Japan. the 18th International Symposium on Pediatric Neuro-Oncology (ISPNO 2018). Denver, 2018.6.30-7.2 (poster)
32. Terashima K, Kiyotani C, Kimura Y, Osumi T, Shioda Y, Kato M, Tomizawa D, Usami K, Ogiwara H, Aoki H, Tsutsumi Y, Irie R, Yoshioka T, Matsumoto K. Bevacizumab for pediatric low-grade glioma. the 18th International Symposium on Pediatric Neuro-Oncology (ISPNO 2018). Denver, 2018.6.30-7.2 (poster)
33. Shima M, Nogami K, Nagami S, Yoshida S, Yoneyama K, Ishiguro A, Suzuki T, Taki M: Every 2 weeks or Every 4 weeks subcutaneous injection of emicizumab in pediatric patients with severe hemophilia A without inhibitors: A multi-center, open-label study in Japan (HOHOEMI Study). 60th ASH Annual Meeting, San Diego, CA, 2018.12.2.
34. Ishiguro A, Ohga S, Shima M, Suenobu S, Sakamoto S, Kasahara M: Proposal for a novel treatment strategy for children with inherited protein C deficiency: Liver transplantation. 14th Congress of the Asian Society for Pediatric Research, Manila, 2018.10.4.
35. Shimizu S, Ishiguro A, Nomura O, Michihata N, Kobayashi T, Igarashi T: Research during pediatric residency training: A nationwide in Japan. 14th Congress of the Asian Society for Pediatric Research, Manila, 2018.10.4
36. Kato M, Kurata M, Kanda J, Kato K, Tomizawa D, Kudo K, Yoshida N, Watanabe K, Shimada H, Inagaki J, Koh K, Goto H, Kato K, Cho Y, Yuza Y, Ogawa A, Okada K, Inoue M, Hashii Y, Teshima T, Murata M, Atsuta Y: Impact of GVHD on relapse and survival

after allogeneic HSCT for pediatric leukemia. 第 40 回日本造血細胞移植学会総会，札幌，2018.2.2（口演）

37. 西村聡，青木由貴，石渡泰芳，松本和明，廣木遥，小野真太郎，岡野翼，宮本智史，足洗美穂，星野顕宏，田中真理，宮脇零士，小林千佳，手束真理，大川哲平，満生紀子，遠藤明史，小野敏明，磯田健志，富澤大輔，長澤正之，水谷修紀，安原眞人，梶原道子，柳町昌克，高木正稔，金兼弘和，今井耕輔，森尾友宏：原発性免疫不全症に対する FluBU と FluMel による前処置法の比較検討．第 40 回日本造血細胞移植学会総会，札幌，2018.2.2（口演）
38. 大隅朋生，河合俊尚，富澤大輔，内山徹，佐古まゆみ，井上永介，田村英一郎，渡辺信之，藤浩，塩田曜子，清谷知賀子，寺島慶太，今留謙一，瀧本哲也，小野寺雅史，松本公一，加藤元博：用量調整ブスルファンを用いた慢性肉芽腫症に対する非血縁者間骨髄移植：単一施設でのパイロット試験．第 40 回日本造血細胞移植学会総会，札幌，2018.2.2（口演）
39. 山本将平，富澤大輔，工藤寿子，長谷川大一郎，多賀崇，柳田正光，近藤忠一，中澤洋三，衛藤徹也，井上雅美，加藤剛二，熱田由子，石田宏之：本邦における小児急性前骨髄球性白血病に対する造血細胞移植成績：JSHCT 小児 AML WG 研究．第 40 回日本造血細胞移植学会総会，札幌，2018.2.3（口演）
40. 安藤理恵，加藤元博，小川英輝，大隅朋生，木村由依，津村悠介，山田悠司，吉村聡，吉田馨，大楠清文，清谷知賀子，塩田曜子，寺島慶太，宮入烈，富澤大輔，松本公一：気管支肺胞洗浄が早期診断に有効であった同種移植後の肺ノカルジア症の一例．第 40 回日本造血細胞移植学会総会，札幌，2018.2.3（ポスター）
41. 木村俊介，関正史，吉田健一，上野浩生，大木健太郎，小林良二，出口隆生，橋井佳子，今村俊彦，佐藤篤，清河信敬，小林正夫，岡明，林泰秀，真部淳，小原明，堀部敬三，宮野悟，小川誠司，滝田順子：幼弱 T 細胞性急性リンパ性白血病の予後因子の検討．第 121 回日本小児科学会学術集会，福岡，2018.4.20（口演）
42. 吉村聡，寺島慶太，木村由依，白井了太，山田悠司，塩田曜子，清谷知賀子，大隅朋生，吉田馨，安藤理恵，津村悠介，竹内一朗，加藤元博，富澤大輔，宮嵜治，新井勝大，松本公一：VIP 産生神経芽腫と炎症性腸疾患を合併していた難治性下痢症の幼児例．第 121 回日本小児科学会学術集会，福岡，2018.4.21（ポスター）
43. 山田悠司，大隅朋生，白井了太，加藤元博，富澤大輔，松本公一：肝移植後に肝血管肉腫が判明した先天性角化不全症の 1 例．第 121 回日本小児科学会学術集会，福岡，2018.4.21（ポスター）
44. 峠千晶，加藤元博，大隅朋生，富澤大輔，村上瑛梨，河合利尚，今留謙一，八角高裕，石黒精：自然回復と再燃を反復した家族性血球貪食症候群 3 型．第 121 回日本小児科学会学術集会，福岡，2018.4.22（ポスター）
45. 間宮範人，天野敬史郎，坪谷尚季，神谷雄作，光嶋紳吾，平山淳也，豊田秀実，岩本彰太郎，出口隆生，堀浩樹，平山雅浩：腎血管筋脂肪腫にエベロリムスが奏功した結節性硬化症の 1 例．第 121 回日本小児科学会学術集会，福岡，2018.4.21（ポスター）
46. Hama A, Taga T, Tomizawa D, Muramatsu H, Hasegawa D, Adachi S, Kato K, Noguchi M, Inoue M, Okada K, Koh K, Atsuta Y, Ishida H: Hematopoietic cell transplantation for children with acute megakaryoblastic leukemia. 第 80 回日本血液学会学術集会，大阪，2018.10.12（口演）
47. Shirai R, Shioda Y, Osumi T, Tsujimoto S, Yoshida M, Uchiyama T, Tomizawa D, Kiyotani C, Terashima K, Matusmoto K, Kiyokawa N, Yoshioka T, Kato M: Sensitive detection of BRAF V600E in Langernhans cell histiocytosis using droplet digital PCR. 第 80 回日本血液学会学術集会，大阪，2018.10.12（口演）
48. Sasaki K, Shiba N, Uchiyama Y, Ikeda J, Yoshitomi M, Shimosato Y, Tokumasu M, Matsuo H, Yoshida K, Ohki K, Yamato G, Hara Y, Kinoshita A, Tomizawa D, Taga T, Adachi S, Tawa A, Horibe K, Matsumoto N, Ito S, Hayashi Y: The detection of minor clones with somatic KIT D816V mutations in pediatric de novo AML. 第 80 回日本血液学会学術集会，大阪，2018.10.12（口演）
49. Yoshida M, Nakabayashi K, Ogata H, Tsujimoto S, Osumi T, Shirai R, Tomizawa D, Kiyokawa N, Hata K, Kato M: A novel MLL-ACTN2 fusion in infant B-lineage acute lymphoblastic leukemia. 第 80 回日本血液学会学術集会，大阪，2018.10.14（口演）

50. Matsuo H, Yoshida K, Fukumura K, Shiozawa Y, Nannya Y, Takeda J, Ueno H, Shiba N, Yamato G, Handa H, Ono Y, Hiramoto N, Ishikawa T, Usuki K, Ishiyama K, Miyawaki S, Itonaga H, Miyazaki Y, Kawamura M, Yamaguchi H, Kiyokawa N, Tomizawa D, Taga T, Tawa A, Hayashi Y, Mano H, Miyano S, Kamikubo Y, Ogawa S, Adachi S: Identification of recurrent CCND3 mutations in MLL-rearranged acute myeloid leukemia. **第 80 回日本血液学会学術集会，大阪，** 2018.10.14**(口演)**
51. Kaburagi T, Yamato G, Shiba N, Hara Y, Ohki K, Sotomatsu M, Arakawa H, Kiyokawa N, Tomizawa D, Adachi S, Taga T, Horibe K, Hayashi Y: Clinical significance and prognostic analyses of PTPN11, RAS, and CBL mutations in pediatric AML. **第 80 回日本血液学会学術集会，大阪，** 2018.10.14**(口演)**
52. Kato M, Osumi T, Tsujimoto S, Tamura M, Uchiyama M, Nakabayashi K, Okamura K, Yoshida M, Tomizawa D, Watanabe A, Takahashi H, Hori T, Yamamoto S, Hamamoto K, Migita M, Ogata H, Uchiyama T, Kizawa H, Ueno H, Shirai R, Seki M, Ohki K, Takita J, Inukai T, Ogawa S, Kitamura T, Matsumoto K, Hata K, Goyama S, Kiyokawa N: RARB translocations in RARA-negative acute peomyelocytic leukemia. **第 80 回日本血液学会学術集会，大阪，** 2018.10.14**(口演)**
53. Osumi T, Watanabe A, Okamura K, Nakabayashi K, Yoshida M, Tsujimoto S, Shirai R, Uchiyama M, Ohki K, Takahashi H, Kizawa H, Uchiyama T, Tomizawa D, Hata K, Kiyokawa N, Kato M: Acute promyelocytic leukemia with a cryptoc insertion of RARA into TBL1XR1. **第 80 回日本血液学会学術集会，大阪，** 2018.10.14**(口演)**
54. Tsumura Y, Yamada Y, Osumi T, Kato M, Shioda Y, Kiyotani C, Terashima K, Matusmoto K, Tomizawa D: Successful treatment with ATRA/ATO for a child with Down syndrome and acute promyelocytic leukemia. **第 80 回日本血液学会学術集会，大阪，** 2018.10.14**(ポスター)**
55. Sano H, Fukushima K, Yano M, Osone S, Kato Y, Shinkoda Y, Mori N, Ishida Y, Saito Y, Sawada A, Toyoda H, Hasegawa D, Miyamura T, Iwamoto S, Takahashi H, Terui K, Koh K, Goto H, Kosaka Y, Saito A, Horibe K, Kinoshita A, Tomizawa D, Tawa A, Taga T, Adachi S: Correlation between obesity and outcome in patients with AML enrolled in the JPLSG AML-05 study. **第 80 回日本血液学会学術集会，大阪，** 2018.10.14**(ポスター)**
56. **木村俊介, 関正史, 吉田健一, 上野浩生, 塩澤裕介, 磯部知弥, 大木健太郎, 加藤元博, 康勝好, 小林良二, 出口隆生, 橋井佳子, 今村俊彦, 佐藤篤, 清河信敬, 真部淳, 堀部敬三, 小原明, 眞田昌, 小林正夫, 岡明, 林泰秀, 宮野悟, 小川誠司, 滝田順子: 小児 T 細胞性急性リンパ性白血病における** NOTCH1 **シグナル活性化変異の種類と臨床的特徴の解析. 第 80 回日本血液学会学術集会，大阪，** 2018.10.14**(口演)**
57. Ohki K, Kiyokawa N, Takahashi H, Kajiwara R, Kato M, Hasegawa D, Tomizawa D, Noguchi Y, Koike K, Toyama D, Yabe H, Kajiwara M, Fujimura J, Sotomatsu M, Ota S, Maeda M, Goto H, Kato Y, Mori T, Inukai T, Shimada H, Fukushima K, Ogawa C, Fukushima T, Koh K, Manabe A, Ohara A: Treatment outcome of children with acute lymphoblastic leukemia harbouring newly identified genetic abnormalities. **第 60 回日本小児血液・がん学会学術集会，京都，** 2018.11.14**(口演)**
58. Sakagushi H, Miyamura T, Tomizawa D, Taga T, Ishida H, Koh K, Goto H, Yoshida N, Sato M, Noguchi M, Hara J, Inoue M, Hashii Y, Atsuta Y: Outcomes of allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for pediatric acute myeloid leukemia with extramedullary disease. **第 60 回日本小児血液・がん学会学術集会，京都，** 2018.11.14**(口演)**
59. Kiyotani C, Terashima K, Kimura Y, Ando R, Sakamoto K, Mizuno T, Tsumura Y, Yoshimura S, Tsujimoto S, Isshiki K, Shioda Y, Osumi T, Kato M, Tomizawa D, Matsumoto K: Dexrazoxane treatment along with doxorubicin chemotherapy among Japanese children with solid or brain tumors: **第 60 回日本小児血液・がん学会学術集会，京都，** 2018.11.14**(口演)**
60. Utano T, Kato M, Osumi T, Shioda Y, Kiyotani C, Terashima K, Tomizawa D, Matsumoto K, Yamatani A: Difference in increased tacrolimus blood concentration level

by its administration route when combined with voriconazole in pediatric stem cell transplant recipients. 第 60 回日本小児血液・がん学会学術集会，京都，2018.11.14（口演）

61. Sakamoto K, Shiba N, Deguchi T, Kiyokawa N, Hashii Y, Saito A, Tomizawa D, Taga T, Adachi S, Imamura T: Negative CD19 expression is associated with inferior relapse free survival in RUNX1-RUNX1T1 positive AML; JPLSG experience from the AML-05 study. 第 60 回日本小児血液・がん学会学術集会，京都，2018.11.16（口演）
62. 吉村聡，寺島慶太，木村由依，白井了太，山田悠司，塩田曜子，清谷知賀子，大隅朋生，吉田馨，安藤理恵，津村悠介，竹内一朗，新井勝大，菱木知郎，宮嵜治，入江理恵，義岡孝子，加藤元博，富澤大輔，松本公一：VIP 産生神経芽腫と炎症性腸疾患を合併していた難治性下痢症の幼児例：第 121 回日本小児科学会学術集会，福岡，2018.4.21.（口演）
63. 吉村聡，寺島慶太，清谷知賀子，洪碩佑，広川大輔，宇佐美憲一，荻原英樹，青木英和，堤義之，藤浩，入江理恵，義岡孝子，松本公一：高悪性度神経膠腫の 16 歳男子例に対する腫瘍全摘出後の治療選択：第 14 回関東小児脳腫瘍カンファレンス，東京，2018.2.17.（口演）
64. 寺島慶太，吉村聡，木村由依，清谷知賀子，洪碩佑，広川大輔，宇佐美憲一，青木英和，堤義之，藤浩，入江理恵，義岡孝子，松本公一，荻原英樹：BRAF V600E 変異を有する小児グリオーマの2例：分子標的治療の可能性：第 46 回日本小児神経外科学会，東京，2018.6.9（口演）
65. 寺島慶太：現在までの胚細胞腫の治療開発の歴史：第 17 回小児脳腫瘍治療研究会，東京，2018.6.23.（口演）
66. 寺島慶太：再発胚細胞腫の治療：第 17 回小児脳腫瘍治療研究会，東京，2018.6.23.（口演）
67. 寺島慶太：中枢神経系胚細胞腫瘍・治療毒性軽減のための戦略：第 56 回日本癌治療学会学術総会，横浜，2018.10.20.（口演）
68. Terashima K:CNS Germ Cell Tumors: Where do we come from? Where are we going?: JSPHO/KSPHO Joint Symposium Brain tumor, The 60th JSPHO Annual Meeting, Kyoto, 2018.11.16.（口演）
69. 寺島慶太、新城大輔、瀧本哲也、大沼哲 、野口貴史、伏見清秀、松本公一：小児脳腫瘍摘出術において施設手術経験数と治療成績は相関する～DPC データの解析より：第 36 回日本脳腫瘍学会，小田原市，2018.12.2.（ポスター）
70. 木村由依，塩田曜子，羅秀玉，仁科幸子，吉田朋世，横井匡,吉田和恵，大隅朋生，清谷知賀子，加藤元博，富澤大輔，寺島慶太，義岡孝子，東範行，松本公一：眼症状を契機に診断された虹彩若年性黄色肉芽腫（JXG）の乳児 4 例.第 45 回 LCH 研究会 2018.03.18 東京
71. 白井 了太，塩田 曜子，大隅 朋生，辻本 信一，吉田 仁典，内山 徹，富澤 大輔，清谷 知賀子，寺島 慶太，松本 公一，清河 信敬，義岡 孝子，加藤 元博:ランゲルハンス細胞組織球症におけるdroplet digital PCRによるBRAF V600E変異検出の有用性(Sensitive detection of BRAF V600E in Langerhans cell histiocytosis using droplet digital PCR).臨床血液学会 2018.09 （口演）
72. 牧野 仁，田中 恭子，関戸 雄貴，大隅 朋生，塩田 曜子，松本 公一:SONY「aibo」を用いた、小児がん患者・養育者に対する集団ロボット介在療法の効果の検討 パイロット調査.日本小児血液・がん学会 2018.11.16 京都（口演）
73. 塩田 曜子:組織球症の鑑別診断と治療 LCHとnon-LCH.日本小児血液・がん学会 2018.11.16 京都（教育講演）
74. 坂本 謙一，塩田 曜子，上原 陽治,大隅 朋生,寺島 慶太,加藤 元博,富澤 大輔,清谷 知賀子,持丸 奈央子,吉田 和恵,宮嵜 治,義岡 孝子,入江 理恵,伊藤 裕司,松本 公一:皮疹を認めず胎児水腫と著明な肝脾腫で発症した新生児全身性若年性黄色肉芽腫の 1 例. 日本小児血液・がん学会 2018.11.15 京都（ポスター）
75. Yamasaki K, Watanabe Y, Koga Y, Kiyotani C, Terashima K, Goto H, Isobe K, Koh K, Arakawa Y, Hasegawa D, Kosaka Y, Hara J. A multi-institutional retrospective analysis of atypical teratoid rhabdoid tumor (ATRT) in Japan: JCCG brain tumor working committee.第 60 回日本小児血液・がん学会学術集会，京都，2018.11.14-16（口演）
76. Sakamoto K, Shioda Y, Uehara Y, Osumi T, Terashima K, Kato M, Tomizawa D, Kiyotani C, Mochimaru N, Yoshida K, Miyazaki O, Yoshioka T, Irie R, Ito Y, Matsumoto K: A neonate with severe systemic juvenile xanthogranuloma presented with fetal

hydrops and hepatosplenomegaly but lacking skin lesions. 第 60 回日本小児血液・がん学会学術集会, 京都, 2018.11.14(ポスター)

77. Deguch T, Kiyokawa N, Ohki K, Manabe A, Saito A, Horibe K: 小児白血病における CD22 発現. 第 60 回日本小児血液・がん学会学術集会, 京都, 2018.11.15(口演)
78. Kimura S, Seki M, Kawai T, Yoshida K, Isobe T, Ueno H, Shiozawa Y, Suzuki H, Shiraishi Y, Ohki K, Kato M, Koh K, Kobayashi R, Deguchi T, Hashii Y, Imamura T, Sato A, Kiyokawa N, Manabe A, Sanada M, Ohara A, Horibe K, Kobayashi M, Oka A, Hayashi Y, Miyano S, Hata K, Ogawa S, Takita J: 小児 T 細胞性急性リンパ性白血病の DNA メチル化による分類と変異・発現・分化段階・予後との強い関連性. 第 60 回日本小児血液・がん学会学術集会, 京都, 2018.11.15(口演)
79. Morimoto N, Yanagi K, Nakao A, Hashiomoto A, Kiyotani C, Matsumoto K, Kaname T. Analysis of genetic risk factors for Cisplatin ototoxicity in Japanese children with cancer. 第 63 回 日本人類遺伝学会大会. 横浜, 2018.10.10-13
80. 清谷知賀子, 石田也寸志, 前田美穂, 岡村純, 川口浩史, 佐藤真穂, 徳山美香, 大園秀一, 力石健, 気賀沢寿人, 堀浩樹, 小林良二, 足立壮一, 藤本純一郎, 黒田達夫. 小児がん診断後の二次性脳腫瘍－15 病院のケースシリーズ研究. 第 36 回日本脳腫瘍学会学術集会, 小田原. 2018.12.2(ポスター)
81. 小松裕美, 藤崎弘之, 瀧本哲也, 湯坐有希, 米田光宏, 木下義晶, 新城大輔, 平井健治, 渡辺美貴, 弘瀬孝子, 松本公一:「小児がん診療施設の情報公開」および「小児がん拠点病院 QI」における院内がん登録データの活用. 第 27 回日本がん登録協議会学術集会, 沖縄, 2018.6.14(ポスター)
82. 井倉千佳, 奥野祐希, 末藤美貴, 河俣あゆみ, 岩本彰太郎, 豊田秀実, 出口隆生, 堀浩樹, 平山雅浩: 学童期以降に小児がんを発症したこどもの退院後の支援の検討. 第 16 回日本小児がん看護学会学術集会, 京都, 2018.11.15(口演)
83. 井倉千佳, 奥野祐希, 末藤美貴, 河俣あゆみ, 岩本彰太郎, 豊田秀実, 出口隆生, 堀浩樹, 平山雅浩: 学童期以降に小児がんを発症したこどもの退院後の困難. 第 16 回日本小児がん看護学会学術集会, 京都, 2018.11.15(口演)
84. 余谷暢之、松本公一、窪田満、賀藤均:小児専門病院における緩和医療専門医の役割についての検討, 第 121 回日本小児科学会学術集会、福岡、2018.4.
85. 奥村藍、余谷暢之、本多愛子、中嶋萌、有里裕生、前川貴伸、松井俊大、宮入烈、窪田満、石黒精:志賀毒素産生性大腸菌 O175 感染症は虫垂炎症状を呈することがある. 第 121 回日本小児科学会学術集会、福岡、2018.4.
86. 冬木真規子、余谷暢之、舟本仁一、松村弥、比嘉勇介、三浦夕子、川又攻、金太章、新宅治夫:当院での短期入所の検討, 第 121 回日本小児科学会学術集会、福岡、2018.4.
87. 巻和佳奈、生田泰久、余谷暢之、藤野修平、甘利昭一郎、長澤純子、和田友香、丸山秀彦、塚本桂子、諫山哲哉、伊藤裕司:NICU で多職種による緩和ケアを行った 18 トリソミーの一例. 第 121 回日本小児科学会学術集会、福岡、2018.4.
88. 岩崎由佳、塚本桂子、津村悠介、加藤元博、生田泰久、甘利昭一郎、長澤純子、和田友香、丸山秀彦、余谷暢之、諫山哲哉、伊藤裕司:先天性白血病の 1 例, 第 121 回日本小児科学会学術集会、福岡、2018.4.
89. 余谷暢之、木澤義之、新宅治夫:重篤な神経疾患を抱える思春期患者に対するアドバンス・ケア・プランニングの現状:小児神経専門医に対する全国調査. 第 60 回日本小児神経学会学術集会、千葉、2018.6.
90. 余谷暢之:小児神経疾患におけるアドバンス・ケア・プランニング. 第 60 回日本小児神経学会学術集会、千葉、2018.6.
91. 余谷暢之:日本における小児緩和ケアの現状. 第 23 回日本緩和医療学会学術集会、神戸、2018.6.
92. 池乗愛依、余谷暢之、小川英輝、河野直子、宮入烈、三井真理、小椋雅夫、前川貴伸、窪田満、石黒精:小児の外陰部潰瘍 性的虐待の鑑別としての Lipschuetz 潰瘍. 第 28 回日本外来小児科学会年次集会、東京、2018.8.
93. 橋本梨沙、余谷暢之、庄司健介、山口宗太、生方公子、宮入烈、水野貴基、前川貴伸、窪田満、

石黒精:ニューキノロン系薬剤耐性ムコイド型 A 群溶血性レンサ球菌による急性中耳炎・乳突蜂巣炎の 1 例.第 28 回日本外来小児科学会年次集会、東京、2018.8.

94. 余谷暢之、新城大輔、伏見清秀、松本公一：小児がん患者に対する終末期積極的治療の実態．第 60 回日本小児血液・がん学会学術集会、京都、2018.11.
95. Yotani N, Kizawa Y：Specialist palliative care service for children with life-threatening conditions: A nationwide survey of availability and utilization. The 50th Congress of the International Society of Paediatiric Oncology, November 18th , Kyoto, Japan
96. 余谷暢之、鍋谷まこと、飯島一誠、船戸正久、田村正徳:新生児領域における終末期の治療の制限および話し合いの現状に関する全国調査．第 63 回日本新生児成育医学会・学術集会、東京、2018.11.
97. 本多愛子，中尾寛，飯島弘之，窪田 満，石黒 精：血糖コントロールに難渋した膠原病Ⅲ型の乳児例．第 650 回日本小児科学会東京都地方会，東京，2018.12.8
98. 橋本梨沙，益田博司，西村菜穂，小野 博，今留謙一，阿部 淳，松田明生，小林 徹，窪田 満，石黒 精：PICU 管理を要した川崎病症例．第 38 回日本川崎病学会・学術集会，和歌山，2018.11.17.
99. 坂本 淳，中舘尚也，松本智子，野上恵嗣，石黒 精：周術期の凝固波形解析により併用バイパス療法を評価したインヒビター陽性血友病例．第 60 回小児血液がん学会学術集会，京都，2018.11.16.
100. Ishiguro A, Kunishima S, Sasahara Y, Platelet Disorders Committee of the Japanese Society of Pediatric Hematology/Oncology: Establishment of diagnostic system, registry and sample banking in congenital thrombocytopenia. 第 60 回日本小児血液・がん学会，京都，2018.11.16.
101. Sasahara Y, Kunishima S, Imaizumi M, Takahashi Y, Ishiguro A, Platelet Committee: Recent advances in molecular pathogenesis and nationwide survey of inherited thrombocytopenia with small or normal-sized platelets. 第 60 回日本小児血液・がん学会，京都，2018.11.15.
102. Saito A, Kosaka Y, Hasegawa D, Ishimura M, Hyakuna N, Kudo K, Nagae C, Kawasaki H, Ishiguro A, Shima M, Taki M, Ohga S: The clinical utility of eculizumab therapy for childhood hematopoietic stem cell transplantation-associated aHUS in Japan. 第 60 回日本小児血液・がん学会，京都，2018.11.14
103. 渡辺直樹，山田浩之，金澤剛二，泉裕之，中舘尚也，陳基明：*ELANE* 変異陽性先天性重症好中球減少症家系の Total Care Support. 第 60 回日本小児血液がん学術集会 京都府京都市 2018.11
104. 石黒 精：先天性血小板減少症の診療・研究体制の変更について．第 26 回小児 ITP 研究会，京都，2018.11.14
105. Honda A, Nakao H, Shoji K, Miyairi I, Kubota M, Ishiguro A: A neonatal case of group B streptococcal ventriculitis without fever. The 9th Asian Congress of Pediatric Infectious Diseases, Fukuoka, 2018.11.11.
106. Yasukohchi M, Ogawa E, Miyazaki M, Kubota M, Ishiguro A, Miyairi I: MRI findings may not be noticeable at the early stage of small diarthrodial joint arthritis. The 9th Asian Congress of Pediatric Infectious Diseases, Fukuoka, 2018.11.11.
107. Uehara E, Shoji K, Ishiguro A, Miyairi I: Utility of follow-up blood cultures for gram negative rod bacteremia in children. The 9th Asian Congress of Pediatric Infectious Diseases, Fukuoka, 2018.11.11.
108. 山﨑成敏，福原康之，徐じゅひょん，石黒 精，矢部普正，奥山虎之，小須賀基通：早期に造血幹細胞移植を行い，中枢神経の予後が良好であったムコ多糖症 I 型の姉妹例，第 60 回日本先天代謝異常学会総会，岐阜，2018.11.9.
109. 池乗愛依，窪田満，鏡 雅代，石黒 精，梅田 陽：精神運動発達遅滞を伴う糖尿病Ⅸ型で de novo の 14q32 重複を同定した一例．第 60 回日本先天代謝異常学会総会，岐阜，2018.11.8.
110. 山﨑成敏，福原康之，開山麻美，三浦 愛，蘇 哲民，伊藤玲子，徐じゅひょん，石黒 精，小須賀基通，奥山虎之，福田晃也：当センターで解析した Wilson 病 11 症例の臨床経過・遺伝子型の検討．第 60 回日本先天代謝異常学会総会，岐阜，2018.11.8.

111. 福武勝幸, Pipe S, Jimenez-Yuste V, 石黒 精, 豊嶋崇徳, Shapiro A, Key N, Podolak-Dawidziak M, Hermans C, Peerlinck K, Lehle M, Chebon S, Portron A, Bienz NS, 永見早耶花, 大塚渉, 米山洸一郎, 葛西隆, Levy G, 嶋緑倫: Every 4 weeks (Q4W) emicizumab in persons with hemophilia A (PwHA): Results from HAVEN 4 study. 第 80 回日本血液学会学術集会, 大阪, 2018,10.13.
112. 山田浩之, 渡辺直樹, 片桐さやか, 棟方隆一, 中舘尚也:好中球減少症児の歯槽骨変化の検討. 第 80 回日本血液学会学術集会, 大阪府大阪市 2018.10.
113. 鹿島健幹, 前川貴伸, 阿南揚子, 小川英輝, 宮坂実木子, 窪田 満, 石黒 精:頸椎骨髄炎を発症し, 背景に全身性リンパ管異常症(GLA) が疑われた一例. 第649回日本小児科学会東京都地方会, 東京, 2018.10.13.
114. 山﨑成敏, 福原康之, 佐藤奈保子, 井上毅信, 蘇哲民, Seo Joo-Hyun, 津島智子, 真島隆一, 吉田和恵, 小須賀基道, 石黒 精, 窪田満, 小崎里華, 奥山虎之:末梢血アレイ CGH 検査でコピー数異常を検出した Palloster-Killian 症候群の男児. 第 63 回人類遺伝学会, 横浜, 2018.10.11.
115. 金森啓太, 田村 英一郎, 小野寺雅史, 益田博司, 中尾 寛, 窪田 満, 石黒 精, 河合利尚:胸腺に多発性肉芽腫性病変を合併した慢性肉芽腫症腸炎の乳児例. 第 9 回関東甲信越免疫不全研究会, 東京, 2018.9.23.
116. 永井悠史, 中尾 寛, 窪田 満, 石黒 精:無菌性髄膜炎による髄膜炎尿閉症候群の 1 例. 第 648 回日本小児科学会東京都地方会, 東京, 2018.9.8.
117. 橋本梨沙, 余谷暢之, 庄司健介, 山口宗太, 生方公子, 宮入 烈, 水野貴基, 前川貴伸, 窪田満, 石黒 精:ニューキノロン系薬耐性ムコイド型 A 群溶血性レンサ球菌による急性中耳炎・乳突蜂巣炎の 1 例. 第 28 回日本外来小児科学会年次集会, 東京, 2018.8.26.
118. 池乗愛依, 余谷暢之, 小川英輝, 河野直子, 宮入 烈, 三井真理, 小椋雅夫, 前川貴伸, 窪田満, 石黒 精:小児の外陰部潰瘍-性的虐待の鑑別としての Lipschutz 潰瘍-. 第 28 回日本外来小児科学会年次集会, 東京, 2018.8.26.
119. 小谷晋平, 中舘尚也, 阪下和美, 永井 章, 橋本玲奈, 吉田和恵, 新関寛徳, 義岡孝子, 窪田 満, 石黒 精:当科で経験した皮膚限局型肥満細胞症の 6 例. 第 647 回日本小児科学会東京都地方会, 東京, 2018.7.14.
120. 大賀正一, 市山正子, 落合正行, 石村 匡崇, 石黒 精, 末延 聡一, 西久保敏也, 高橋幸博, 嶋緑倫, 瀧 正志, 堀田多恵子, 内海健, 康 東天:小児の遺伝性血栓性素因の特徴とその治療. 第 19 回日本検査血液学会学術集会, 大宮, 2018.7.21.
121. 石黒 精, 阪本靖介, 福田晃也, 大賀正一, 康 東天, 瀧 正志, 長江千愛, 西村奈穂, 中舘尚也, 笠原群生: 生体肝移植後にドナー由来のアンチトロンビン欠乏症になった本邦第 1 例. 第 40 回日本血栓止血学会学術集会, 札幌, 2018.6.30.
122. 風間麻優子, 野坂俊介, 大西志麻, 辻 聡, 植松悟子, 藤野明浩, 金森 豊, 岡本礼子, 窪田 満, 石黒 精:Cornelia de Lange に併発した小児盲腸捻転の 3 例. 第 54 回日本小児放射線学会学術集会, 東京, 2018.6.16.
123. 甘利昭一郎, 塚本桂子, 石黒 精:出生時から遷延する貧血と血小板減少症とを合併した Aicardi-Goutières 症候群 7 型の最重症例. 日本産婦人科・新生児血液学会第 28 回学術集会, 宮崎, 2018.6.15.
124. Fujimori K, Kobayashi T, Masuda H, Ono H, Imadome K, Ishiguro A, Matsuda A, Abe J, Kato H: Serial Changes in Study Designs of Abstracts Presented at Meeting of the Japanese Society of Kawasaki Disease: A Systematic Review. The 12th International Kawasaki Disease Symposium, Yokohama, 2018.6.14.
125. Fukuda S, Nomura O, Ota E, Ono H, Ishiguro A, Kobayashi T: Monoclonal antibody therapy for Kawasaki disease: a systematic review and meta-analysis. The 12th International Kawasaki Disease Symposium, Yokohama, 2018.6.13.
126. Masuda H, Abe J, Ono H, Kobayashi T, Ishiguro A, Imadome K, Matsuda A, Ito S, Kato H: Effectiveness of Infliximab therapy in patients with intractable Kawasaki disease: an analysis using Z scoring system in Japan. The 12th International Kawasaki Disease Symposium, Yokohama, 2018.6.13.
127. Hashimoto R, Tanoshima R, Suzuki T, Ishiguro A, Kobayashi T: Systematic review of

the effectiveness of antiplatelet therapy for Kawasaki disease. The 12th International Kawasaki Disease Symposium, Yokohama, 2018.6.13.

128. 清水聡一郎, 植松悟子, 江口佳孝, 窪田 満, 石黒 精：左上肢可動域制限により診断に至った上腕骨骨髄炎・化膿性関節炎の1例. 第 646 回日本小児科学会東京都地方会, 東京, 2018.6.9.
129. 川上沙織, 寺嶋 宙, 石黒 精, 久保田雅也：Panayiotopoulos 症候群と急性脳症の臨床像の比較. 第 60 回日本小児神経学会学術集会, 千葉, 2018.6.1.（優秀演題賞）
130. 谷山禎彦, 中尾 寛, 田中雄一郎, 中村知夫, 柴田優花, 伊藤裕司, 余谷暢之, 石黒 精, 窪田満：在宅医との密な連携により遠隔地への在宅移行が行えた 13 トリソミーノ1例. 第 645 回日本小児科学会東京都地方会, 東京, 2018.5.12.
131. Ichiyama M, Inoue H, Ochiai M, Ishimura M, Shiraishi A, Fujiyoshi J, Yamashita H, Sato K, Matsumoto S, Hotta T, Uchiumi T, Kang D, Nishikubo T, Ishiguro A, Ohga S: Diagnostic challenge of heritable protein C deficiency in the newborn infants. 2018 Pediatric Academic Societies Annual Meeting, Toronto, Canada, 2018.5.6.
132. 石黒 精, 野村 理, 道端伸明, 小林 徹, 西屋克己, 吉川哲史, 金子一成, 日本小児科学会専門医試験運営委員会：わが国における小児科専門研修中の研究活動に関する全国調査. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.22.
133. 田畑 健士郎, 成田雅美, 大西志麻, 稲垣真一郎, 福家辰樹, 辻 聡, 窪田 満, 石黒 精, 大矢幸弘：小児救急外来における 15 kg 未満のアナフィラキシー患者の症例集積研究. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.22
134. 峠 千晶, 加藤元博, 大隅朋生, 富澤大輔, 村上瑛梨, 河合利尚, 今留謙一, 八角高裕, 石黒精：自然回復と再燃を反復した家族性血球貪食症候群 3 型. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.22
135. 徐 悦, 永井 章, 阪下和美, 堀川美和子, 中舘尚也, 窪田 満, 石黒 精：小児期専門診療施設での一次性夜尿の診療経験について. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.22
136. 関戸雄基, 中舘尚也, 伊藤秀一, 小椋雅夫, 石倉健司, 宮嵜 治, 野坂俊介, 窪田 満, 石黒精：多発性骨病変を呈した慢性再発性多発性骨髄炎の 2 例. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.22
137. 杉山みずき, 中舘尚也, 永井 章, 堀川美和子, 阪下和美, 植松悟子, 辻 聡, 久保田雅也, 窪田満, 石黒 精：当院で過去 6 年間に経験した Panayiotopoulos 症候群の臨床像と脳波所見の検討. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.21.
138. 奥村 藍, 余谷暢之, 本多愛子, 中嶋 萌, 有里裕生, 前川貴伸, 松井俊大, 宮入 烈, 窪田 満, 石黒 精：志賀毒素産生性大腸菌 O157 感染症は虫垂炎症状を呈することがある. . 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.21.
139. 田中雄一郎, 福原康之, 石黒 精, 窪田満:乳び胸を伴った重症常染色体劣性 Centronuclear myopathy の本邦第一例. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.21
140. 永井由紗, 内田佳子, 長濱由美, 堤 義之, 窪田 満, 石黒 精：腰椎穿刺後に血腫との鑑別を要した脊髄硬膜外液体貯留の幼児例. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.21
141. 吉井祥子, 中尾 寛, 川上沙織, 水野貴基, 田中 諒, 宇田和宏, 宮入 烈, 窪田 満, 石黒 精：水疱病変を呈したパルボウイルス B19 の一例, 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.20
142. 安河内 悠, 小椋雅夫, 石倉健司, 伊藤秀一, 石黒 精：上肢の関節拘縮で発見され, 早期治療が奏功した少関節型若年性特発性関節炎の 3 例, 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.20
143. 上原絵理香, 永田知映, 益田博司, 藤森健太郎, 窪田 満, 石黒 精：IgA 血管炎において長期入院と関連する因子の後方視的検討, 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.20.
144. 國上千紘, 佐藤美織, 宮地裕美子, 稲垣信一郎, 福家辰樹, 成田雅美, 窪田 満, 石黒 精, 長尾みづほ, 大矢幸弘：インフルエンザワクチン接種後に蜂窩織炎様症状を呈しアレルギー反応が示唆された一例. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.20.
145. 鈴木大地, 稲垣真一郎, 福家辰樹, 成田雅美, 野村伊知郎, 石黒 精, 大矢幸弘：食物負荷試験時の血圧低下にステロイドが著効した新生児・乳児消化管アレルギーの 1 例. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.20.
146. 岡崎加奈, 中尾 寛, 窪田 満, 石黒 精：VACTERL 連合の臨床像と発達に関わる因子. 第 121

回日本小児科学会学術集会，福岡，2018.4.20.
147.橋本梨紗，峠 千晶，田中雄一郎，益田博司，中尾 寛，守本倫子，窪田 満，石黒 精：川崎病の PICU 入室例のまとめ．第 644 回日本小児科学会東京都地方会，東京，2018.3.17

[講演]

1. Tomizawa D: Acute lymphoblastic leukemia in adolescents and young adults. BTG 2018, 9th International Hematologic Malignancies Conference, Seoul 2018.3.30
2. Tomizawa D: Therapy Optimization in Infant ALL. ICKSH 2018, 2018 Korean Society of Hematology International Conference and 59th Annual Meeting, Seoul, 2018.3.31
3. 富澤大輔：小児 ALL：診断・治療について．アステラス・アムジェン・バイオファーマ株式会社社内勉強会，東京，2018.6.13
4. 富澤大輔：血液腫瘍．平成 30 年度小児がん相談員専門研修，東京，2018.9.1
5. 富澤大輔：AYA 世代のがん．平成 30 年度小児がん相談員専門研修，東京，2018.9.1
6. Tomizawa D: Overview of AML studies in Japan. Children's Oncology Group Fall Group Meeting. Dallas, 2018.10.4
7. 富澤大輔：小児がんの基礎知識．東京都小児がん診療連携協議会 第 6 回市民公開講座「子どものがんを考える」，東京，2018.11.3
8. Kato M: Germline biology of pediatric cancer. Joint Cancer Conference with China, Japan, and USA. 京都 2018.11.16
9. 加藤元博：小児がんにおけるゲノム医療の役割と可能性．BMS パートナリング＆イノベーションセミナー，東京， 2018.9.25
10. 加藤元博：小児 ALL の遺伝的背景と治療．第 80 回日本血液学会，大阪，2018.10.12
11. 加藤元博：Physician scientist の目線から行う小児血液・腫瘍疾患の"outlier"の分子遺伝学的解析．第 29 回南九州腫瘍研究会，鹿児島，2018.4.26
12. 加藤元博：遺伝性素因と白血病．第 11 回研修医のための血液学セミナー，大津，2017.7.8
13. 加藤元博：臨床研究をやってみよう：小児造血幹細胞移植におけるエビデンスの構築．第 58 回東海小児造血細胞移植研究会，名古屋，2018.11.9
14. 加藤元博：ゲノム解析から解き明かす小児血液・腫瘍疾患のバイオロジー．生命科学系学会合同年次大会，神戸，2017.12.16
15. 寺島慶太：“Precision Medicine”小児脳腫瘍の遺伝学的診断と分子標的治療：平成 29 年度東京都小児がん地域連携推進研修会「小児がんセミナー」，東京，2018.1.25.
16. 寺島慶太：小児脳腫瘍の多職種診療：第 37 回画像学会，東京，2018.2.24
17. 寺島慶太：小児脳腫瘍の診断と治療“Precision Medicine への道”：小児血液・がんセミナー in 東北，仙台，2018.3.17
18. 出口隆生: 小児造血器腫瘍の免疫学的診断とフローサイトメトリーによる微小残存病変測定．第 28 回日本サイトメトリー学会学術集会，東京，2018.5.27
19. 塩田曜子：小児がんについて ランゲルハンス細胞組織球症 LCH をよく知り治す ジャパンキャンサーフォーラム 東京, 2018.8.12
20. 清谷知賀子：長期フォローアップの実際．小児・AYA 世代のがんの長期フォローアップ体制整備事業 2017 年度 第 2 回 小児・AYA 世代のがんの長期フォローアップに関する研修会(LCAS)．大阪 2018.2.24-25
21. 清谷知賀子：小児がん治療後のフォローアップの現況-易疲労感や心身の不調等へのホルモン投与ほか，長期にわたる治療後のケアについて．日本骨髄バンク/NPO 法人血液情報広場つばさ/厚労科研「福田班」共催 市民公開講座，東京, 2018.5.12
22. 清谷知賀子：中枢神経胚細胞腫瘍の晩期合併症．第 17 回小児脳腫瘍研究会，大阪, 2018.6.23
23. 清谷知賀子：肝芽腫の治療と副作用・晩期合併症～長期フォローについて．公開セミナー 肝芽腫治療の最前線，東京, 2018.7.7
24. 清谷知賀子：長期フォローアップの実際．小児・AYA 世代のがんの長期フォローアップ体制整備事業 2018 年度 第 1 回 小児・AYA 世代のがんの長期フォローアップに関する研修会(LCAS)，名古屋, 2018.7.7-8
25. 清谷知賀子：小児・AYA 世代のがんの長期フォローアップ．Japan Cancer Forum 2018，東京, 2018.8.12

26. 清谷知賀子：晩期合併症と長期フォローアップ．平成 30 年度小児がん相談員専門研修，東京，2018.9.1
27. 清谷知賀子：長期フォローアップの実際．小児・AYA 世代のがんの長期フォローアップ体制整備事業 2018 年度 第 2 回 小児・AYA 世代のがんの長期フォローアップに関する研修会(LCAS)，福岡，2018.9.29-30
28. 清谷知賀子：長期フォローアップ．慶応義塾大学 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン/インテンシブコース「小児がんコース」，東京，2018.10.15
29. 清谷知賀子：長期フォローアップの実際．小児・AYA 世代のがんの長期フォローアップ体制整備事業 2018 年度 第 3 回 小児・AYA 世代のがんの長期フォローアップに関する研修会(LCAS)，東京，2018.12.1-2
30. 余谷暢之：小児緩和ケアとアドバンス・ケア・プランニング．文部科学省課題解決型高度人材養成プログラム「重症児の在宅支援を担う医師等養成事業」．大阪，2018.1.13.
31. 余谷暢之：重症児診療における話し合い～診断から看取りまで関わる際に大切にしたいこと～．公益社団法人日本医療社会福祉協会 2017 年度ソーシャルワークスキルアップ研修 周産期から始まるソーシャルワーク、名古屋、2018 年 2 月 5 日
32. 余谷暢之：アドバンス・ケア・プランニング～治癒が望めない病気をもつこどもと家族との話し合い 心身障害児総合医療療育センター第 53 回重症障害児（者）医療講習会、東京、2018 年 3 月 10 日
33. 余谷暢之：終末期における意思決定支援．第 60 回日本小児神経学会学術集会実践教育セミナー 小児神経科医が知っておきたい緩和ケアのエッセンス．千葉．2018 年 6 月 2 日
34. 余谷暢之：小児緩和ケア．京都府双方向遠隔講義による専門的緩和ケア研修推進事業．京都．2018 年 7 月 20 日
35. 余谷暢之：小児緩和ケア．平成 30 年度小児がん相談員専門研修，東京，2018 年 9 月 1 日
36. 余谷暢之：在宅重症児 総論．文部科学省課題解決型高度人材養成プログラム「重症児の在宅支援を担う医師等養成事業」大阪，2018 年 9 月 22 日
37. 余谷暢之：これからの治療・ケアに関する話し合い～アドバンス・ケア・プランニングについて考える．第 44 回日本重症心身障害学会 公開セミナー、東京、2018 年 9 月 29 日
38. 余谷暢之：在宅重症児の見方．文部科学省課題解決型高度人材養成プログラム「重症児の在宅支援を担う医師等養成事業」、大阪、2018 年 10 月 13 日
39. 余谷暢之：アドバンス・ケア・プランニングとは．平成 30 年度厚生労働省委託事業 人生の最終段階における医療体制整備事業 患者の意向を尊重した意思決定のための研修会，千葉，2018 年 10 月 14 日
40. 余谷暢之：小児緩和ケアが果たす役割．第 24 回日本小児麻酔学会 招待講演．神戸，2018 年 10 月 20 日
41. 余谷暢之：重篤な神経疾患を抱えるこどもに対するアドバンス・ケア・プランニング～これからの治療・ケアに関する話し合い．第 2 回信州地域療育推進ネットワーク研修会．長野．2018 年 12 月 1 日
42. 余谷暢之：思春期・若年成人患者の意思決定支援～アドバンス・ケア・プランニングについて考える～．第 28 回すぎなみ緩和ケア研究会 特別講演，東京，2018 年 12 月 5 日
43. 余谷暢之：わが国における小児緩和ケアの取り組み．第 12 回大阪小児緩和ケア研究会 特別講演，大阪，2018 年 12 月 22 日
44. 石黒 精：日常診療に役立つ小児血液疾患の診かたと最近のトピックス～凝固・線溶系を中心に～長野県小児科医会第 67 回学術研修セミナー，長野，2018.11.25.
45. 石黒 精：小児科系疾患と臨床用語．日本医療マネジメント学会，2018 年度医師事務作業補助者指導者養成講習会，東京，2018.10.21.
46. 石黒 精，大賀正一：新生児・小児科領域と先天性 AT 欠乏症．先天性アンチトロンビン欠乏症セミナー，東京，2018.9.22.
47. 石黒 精：後期研修プログラムの動向と成育のレジデント教育．第 5 回成育サマーセミナー，東京，2018.7.28.
48. 石黒 精：小児科系疾患と臨床用語．医師事務作業補助者講演会，東京，2018.5.16.
49. 石黒 精：小児血栓症の特徴と治療戦略．第 12 回日本血栓止血学会学術標準化委員会シンポジ

ウム，血栓性素因部会，東京，2018.2.10.
50. 石黒 精：日常診療に役立つ小児血液疾患の診かたと最近のトピックス～凝固・線溶系を中心に～ 第 69 回調布小児科医会研修会，調布，2018.2.7.
51. 石黒 精：ちょっと研究してみませんか，ついでに論文などもいかが．国立病院機構 福山医療センター オープンカンファレンス，福山，2018.2.2.

[広報活動]

1. 塩田曜子：インターネット家庭の医療情報サイト「いしゃまち」；知っていますか？まれで不思議な病気、LCH（ランゲルハンス細胞組織球症）2018.9月
2. 塩田曜子：インターネット家庭の医療情報サイト「いしゃまち」；まれな病気・LCH なぜもっとはやく診断できないの？ 2018.10月
3. 塩田曜子：インターネット家庭の医療情報サイト「いしゃまち」；“LCHっぽい”症状や特徴を写真で解説：骨の穴とこぶ編 2018.11月

4-3-7 臓器・運動器病態外科部
外科

原著論文(査読有)

1. Muto M, Matsufuji H, Taguchi T, Tomomasa T, Nio M, Tamai H, Tamura M, Sago H, Toki A, Nosaka S, Kuroda T, Yoshida M, Nakajima A, Kobayashi H, Sou H, Masumoto K, Watanabe Y, Kanamori Y, Hamada Y, Yamataka A, Shimojima N, Kubota A, Ushijima K, Haruma K, Fukudo S, Araki Y, Kudo T, Obata S, Sumita W, Watanabe T, Fukahori S, Fujii Y, Yamada Y, Jimbo K, Kawai F, Fukuoka T, Onuma S, Morizane T, Ieiri S, Esumi G, Jimbo T, Yamasaki T. Japanese clinical practice guidelines for allied disorders of Hirschsprung's disease, 2017. Pediatr Int. 2018; 60: 400-410. doi:10.1111/ped.13559.
2. Kanamori Y, Watanabe T, Yorifuji T, Masue M, Sasaki H, Nio M. Congenital hyperinsulinism treated by surgical resection of the hyperplastic lesion which had been preoperatively diagnosed by 18F-DOPA PET examination in Japan: a nationwide survey. Pediatr Surg Int 2018; 34: 1093-1098. doi: 10.1007/s00383-018-4315-4.
3. Watanabe T, Ohno M, Tahara K, Tomonaga K, Fuchimoto Y, Fujino A, Hishiki T, Tsukamoto K, Ito Y, Sugibayashi R, Wada S, Sago H, Kawasaki K, Yoshioka T, Kanamori Y. An investigation on clinical differences between congenital pulmonary airway malformation and bronchial atresia. J Pediatr Surg 2018; 53: 2390-2393. doi: 10.1016/j.jpedsurg.2018.08.031.
4. Fuchimoto Y, Watanabe T, Fujino A, Kanamori Y, Itoh Y, Wada S, Sago H, Yoshioka T. Predicotrs of early lobectomy after birth in prenatally diagnosed congenital pulmonary airway obstruction syndrome. J Pediatr Surg 2018; 53: 2386-2389. doi: 10.1016/j.jpedsurg.2018.08.025.
5. Ueno S, Fujino A, Morikawa Y, Iwanaka T, Kinoshita Y, Ozeki M, Nosaka S, Matsuoka K, Usui N. Treatment of mediastinal lymphatic malformation in children: an analysis of a nationwide survey in Japan. Surg Today. 2018; 48: 716-725 doi:10.1007/s00595-018-1640-0
6. Hishiki T, Mise N, Harada K, Ihara F, Takami M, Saito T, Terui K, Nakata M, Komatsu S, Yoshida H, Motohashi S. Frequency and proliferative response of circulating invariant natural killer T cells in pediatric patients with malignant solid tumors. Pediatr Surg Int. 2018; 34:169-76. doi: 10.1007/s00383-017-4185-1.
7. Hishiki T, Mise N, Harada K, Ihara F, Takami M, Saito T, Terui K, Nakata M, Komatsu S, Yoshida H, Motohashi S. Invariant natural killer T infiltration in neuroblastoma with favorable outcome. Pediatr Surg Int. 2018; 34: 195-201.doi: 10.1007/s00383-017-4189-x.
8. Sakamoto S, Sasaki K, Uchida H, Kitajima T, Narumoto S, Hirata Y, Hishiki T, Fukuda A, Kasahara M. Ex vivo reduction of thickness in the left lateral section to tailor the graft size in infantile split deceased donor liver transplantation. Liver Transpl. 2018; 24: 428-31.doi: 10.1002/lt.24976.
9. Fukuda A, Sakamoto S, Sasaki K, Narumoto S, Kitajima T, Hirata Y, Hishiki T, Kasahara M. Modified triangular hepatic vein reconstruction for preventing hepatic venous outflow obstruction in pediatric living donor liver transplantation using left lateral segment grafts. Pediatr Transplant. 2018; 23: e13167. doi: 10.1111/petr.13167.
10. Hishiki T, Matsumoto K, Ohira M, Kamijo T, Shichino H, Kuroda T, Yoneda A, Soejima T, Nakazawa A, Takimoto T, Yokota I, Teramukai S, Takahashi H, Fukushima T, Kaneko T, Hara J, Kaneko M, Ikeda H, Tajiri T, Nakagawara A. Results of a phase II trial for high-risk neuroblastoma treatment protocol JN-H-07: a

report from the Japan Childhood Cancer Group Neuroblastoma Committee (JNBSG). Int J Clin Oncol. 2018; 23:965-73. doi: 10.1007/s10147-018-1281-8.

11. Uchida H，Sakamoto S，Sasaki K，Takeda M，Hirata Y，Fukuda A，Hishiki T，Irie R，Nakazawa A，Miyazaki O，Nosaka S，Kasahara M. Surgical treatment strategy for advanced hepatoblastoma: Resection versus transplantation. Pediatr Blood Cancer. 2018; 65: e27383. doi: 10.1002/pbc.27383.
12. Ueno-Yokohata H，Okita H，Nakasato K，Hishiki T，Shirai R，Tsujimoto S，Osumi T，Yoshimura S，Yamada Y，Shioda Y，Kiyotani C，Terashima K，Miyazaki O，Matsumoto K，Kiyokawa N，Yoshioka T，Kato M. Preoperative diagnosis of clear cell sarcoma of the kidney by detection of BCOR internal tandem duplication in circulating tumor DNA. Genes Chromosomes Cancer. 2018; 57: 525-9. doi: 10.1002/gcc.22648.
13. Harada K，Ihara F，Takami M，Kamata T，Mise N，Yoshizawa H，Hishiki T，Saito T，Terui K，Nakata M，Komatsu S，Ikeuchi T，Nakayama T，Yoshida H，Motohashi S. Soluble factors derived from neuroblastoma cell lines suppress dendritic cell differentiation and activation. Cancer Sci，2019; 110: 888-902. doi: 10.1111/cas.13933.
14. Yamada Y, Hoshino K, Fuchimoto Y, Matsubara K, Hibi T, Yagi H, Abe Y, Shinoda M, Kitago M, Obara H, Yagi T, Okajima H, Kaido T, Uemoto S, Suzuki T, Kubota K, Yoshizumi T, Maehara Y, Inomata Y, Kitagawa Y, Egawa H, Kuroda T.Rituximab induction to prevent the recurrence of PSC after liver transplantation. -The lessons learned from ABO-incompatible living donor liver transplantation-. Transplant Direct 2018; 4: e342 29464203 10.1097/TXD.0000000000000760
15. Yohei Yamada, Ken Hoshino, Teisaburo Mori, Miho Kawaida, Kiyotomo Abe, Nobuhiro Takahashi, Takumi Fujimura, Kaori Kameyama, Tatsuo Kuroda Metastasectomy of hepatoblastoma utilizing a novel overlay fluorescence imaging system. Journal of Laparoendoscopic & Advanced Surgical Techniques. 2018; 28: 1152-1155 29906233 10.1089/lap.2017.0735
16. Wakabayashi T, Shinoda M, Obara H, Kitago M, Yagi H, Abe Y, Matsubara K, Yamada Y, Oshima G, Hirukawa K, Mizota T, Hibi T, Itano O, Hoshino K, Kuroda T, Kitagawa Y. Decreased Incidence of Acute Cellular Rejection in Low-Muscle-Mass Recipients After Living-donor Liver Transplantation. Transplant Proc 2018; 50: 3626-3634 30577248 10.1016/j.transproceed.2018.06.028
17. 金森豊．腸内細菌叢コントロールの最前線．（特集）小児短腸症候群・小腸機能不全の最前線．日外会誌 2018; 119: 636-643.
18. 臼井規朗, 岡本晋弥, 上原秀一郎, 小笠原有紀, 古賀寛之, 佐々木隆士, 寺脇幹, 照井慶太, 藤代 準, 藤野明浩, 文野誠久, 古村眞, 平原憲道, 岡本竜弥, 富田紘史, 藤雄木亨真, 渡辺栄一郎, 米倉 竹夫, 家入里志, 伊勢一哉, 佐々木英之, 下野隆一, 高安肇, 尾藤祐子, 宮田裕章, 江角元史郎,:日本小児外科学会 NCD 連絡委員会 National Clinical Database(小児外科領域)Annual Report 2013-2014. 日小外会誌 (0288-609X) 2018;54(2): 314-335
19. 右田美里，渡邉稔彦，竹添豊志子，前田健一，高橋正貴，大野通暢，田原和典，藤野明浩，渕本康史，金森豊：出生前診断の重症度からみた先天性横隔膜ヘルニアの外科的合併症の検討．日小外会誌 2018;54(7):1311-1315
20. 渡辺稔彦，藤野明浩，金森豊.【小児短腸症候群・小腸機能不全の最前線】IFALD に対する魚油由来脂肪乳剤の最新の知見．日外会誌 2018;119:652-7.

症例報告

1. Ogawa K, Kanamori Y, Watanabe T, Tomonaga K, Kutsukake M, Goto M, Ohno M, Tahara K, Hishiki T, Fujino A. Acute pancreatitis caused by a duodenal duplication cyst covering ampulla of Vater. J Pediatr Surg Case Reports 2018; 34: 23-26. Doi 10.1061/j.epsc.2018.04.019

2. Tomonaga K, Tahara K, Watanabe T, Ohno M, Ogawa K, Kutsukake M, Fujino A, Hishiki T, Kinjyo K, Horikawa R, Katsumata N, Kanamori Y. A case of congenital hyperthyroidism (autonomous thyroid adenoma: AA) with a somatic activating gene mutation in the thyroid-stimulating hormone receptor (*TSHR*). J Pediatr Surg Case Reports 2018; 38: 50-52. doi: 10.1016/j.epsc.2018.08.012.
3. Yamada Y, Hoshino K, Oyanagi T, Gatayama R, Maeda J, Katori N, Fuchimoto Y, Hibi T, Shinoda M, Matsubara K, Obara H, Aeba R, Kitagawa Y, Yamagishi H, Kuroda T: Successful management of living donor liver transplantation for biliary atresia with single ventricle physiology - from peri-transplant through total cavopulomonary connection. Pediatr Transplant. 2018; 22: 29457852 10.1111/petr.13118
4. Nakata M, Hishiki T, Sakurai H, Saito T, Terui K, Mitsunaga T, Komatsu S, Ochiai H, Hino M, Ando K, Chikaraishi K, Aoki T, Okunushi T, Honma S, Fugo K, Yoshida H. Transurethral resection for botryoid bladder rhabdomyosarcoma. Pediatr Surg Case Rep. 2018; 28: 37-40.
5. **小川雄大, 渡邉稔彦, 大野通暢, 田原和典, 菱木知郎, 藤野明浩, 北村正幸, 宮嵜治, 野坂俊介, 金森豊: 磁性玩具の誤飲による腸閉塞の 1 例. 日小外会誌** 2018;54(6): 1245-1249
6. **小川雄大, 渡邉稔彦, 前田健一, 竹添豊志子, 右田美里, 高橋正貴, 大野通暢, 渕本康史, 金森豊. 直腸閉鎖の 1 女児例. 日小外会誌** 2018;54:50-3.
7. **小川雄大, 渡邉稔彦, 大野通暢, 田原和典, 菱木知郎, 藤野明浩, 北村正幸, 宮嵜治, 野坂俊介, 金森豊. 磁性玩具の誤飲による腸閉塞の 1 例. 日小外会誌** 2018;54:1245-9.

日本語著書

1. 金森豊. 消化管穿孔. ナースのための小児・新生児の外科疾患 完全マスターガイド. Pp111－114、メディカ出版、大阪、2018.
2. 金森豊. 壊死性腸炎. ナースのための小児・新生児の外科疾患 完全マスターガイド. Pp115－118、メディカ出版、大阪、2018.
3. 藤野明浩：血管腫・血管奇形臨床アトラス 大原國章，神人正寿編， 南江堂 2018; 130-130

4. 藤野明浩: 今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針（第 4 版）45. 頭頸部領域のリンパ管腫（リンパ管奇形）,大森孝一，藤枝重治,小島博己，猪原秀典編, 医学書院 2018 ;549-552

脳神経外科

研究

脳神経外科では、主に臨床研究を中心とし、学会での発表と英文での原著論文の発表を行った。

The long-term outcomes of endoscopic third ventriculostomy in pediatric hydrocephalus, with an emphasis on future intellectual development and shunt dependency.
Hong S, Hirokawa D, Usami K, Ogiwara H.
J Neurosurg Pediatr. 2018 Oct 12;23(1):104-108. doi: 10.3171/2018.7.PEDS18220.

Long-term follow-up for patients with infantile hydrocephalus treated by choroid plexus coagulation.
Okano A, Ogiwara H.
J Neurosurg Pediatr. 2018 Dec 1;22(6):638-645. doi: 10.3171/2018.6.PEDS1840.

Dumbbell-shaped atypical teratoid rhabdoid tumor in the cervical spine mimicking schwannoma.
Hong S, Ogiwara H.
Childs Nerv Syst. 2018 Jan;34(1):27-28. doi: 10.1007/s00381-017-3603-y. Epub 2017 Oct 10.
No abstract available.

心臓血管外科

[原著論文：査読無)]

1. **金子幸裕：肺動脈弁狭窄症、肺動脈狭窄症（ファロー四徴症を含む）：循環器疾患最新の治療** 2018-2019, 2018 ; 207-8

2. **金子幸裕：先天性心疾患　－術後のリスクとリハビリテーション－**
3. Monthly book Medical rehabilitation　2018；208：9-14

[学会発表]

1. **武井哲理、金子幸裕、阿知和郁也、吉竹修一　右肺欠損症例に対する総肺静脈還流異常症1手術例　第 176 回胸部外科学会関東甲信越地方会** 2018/3/10
2. **武井哲理、金子幸裕、阿知和郁也、吉竹修一　重症拡張型心筋症の乳児に対する肺動脈絞扼術　第 177 回胸部外科学会関東甲信越地方会** 2018/6/23

整形外科

[原著論文：査読付]

1. Mano H, Fujiwara S, Takamura K, Kitoh, Takayama S, OgataT, Hashioto S, Haga N: Congenital limb deficiency in Japan: a cross-sectional nationwode survey on its epidemiology. BMC Musculoskelet Didord. 2018 Jul27:19(1):262.doi:10.1186/s 12891-018-215-3.30053842
2. Hiyoshi Y, Murai Y, Yabuki Y, Takahama K, Morishita S, Jiang Y, Togo S, Takayama S, Yokoi H: Development of a parent wireless assistive interface for myoelectric prosthetic hands for children. Front Neurobot. 2018 Aug2;12:48.doi:10.3389/fnbot.2018.00048. eCollection 2018.30116188
3. Kusakabe H, Ueoka K, Takayama S, Seki A : Gradual bone transfer for the correction of the pubic diastasis using the Ilizarov technique in closure of bladder and cloacal exstrophy.J Orthop Sci. 2018 Jan;23(1):144-150
4. **飯ヶ谷るり子，高山真一郎，鳥居暁子，関敦仁，佐藤和毅：重度母指形成不全症に対する再建術における移植骨の成長．日手会誌** 2018: 35(3);484-8
5. **稲葉尚人、高山真一郎、鳥居暁子，阿南揚子，別所祐貴，江口佳孝，関　敦仁：先天性橈尺骨癒合症分離授動術後における肘関節肢位による回内外可動域の変化.日肘会誌** 2018: 25(2);43-5
6. **別所祐貴，関　敦仁，江口佳孝，稲葉尚人、高山真一郎、高木岳彦：小児上腕骨外側顆骨折に対する後外側アプローチによる手術成績.日肘会誌** 2018: 25(2);11-4
7. **別所祐貴　関敦仁　江口佳孝　内川伸一　阿南揚子　稲葉尚人　鳥居暁子　高山真一郎：短指症（Bell 分類 E 型）の検討．日整会誌** 2018:92(11);880-882

[原著論文：査読なし]

1. **高山真一郎，関　敦仁，内川伸一: 多発性軟骨性外骨腫症の治療．日整会誌** 2018:92(11);866-73

[症例報告]

1. Nishiwaki T, Uchikawa S, Kusakabe H, Seki A, Eguchi Y, Takayama S, Toyama Y, Nakamura M, Matsumoto M, Kanaji A: Neuroblastoma metastasis to bone requiring differentiation from septic arthritis of the hip. Report of 2 cases. J Orthop Sci. 2018 Sep;23(5):853-856.
2. Nishiwaki T, Uchikawa S, Kusakabe H, Seki A, Eguchi Y, Takayama S, Oya A, Nakamura M, Matsumoto M, Kanaji A : Pronounced femur malunion after pathological bone fracture due to a simple bone cyst in the shaft of the femur, treated using Ilizarov fixation: a case report. J Med Case Rep. 2018 Jun 21;12(1):173
3. Sun X, Hosoe N, Miyanaga R, Kimura K, Mizuno S, Takabayashi K, Naganuma M, Niizeki H, Seki A, Ogata H, Kanai T: A male Korean who was diagnosed with chronic enteropathy associated with SLCO2A1(CEAS): case report with literature review. BMJ Open Gastroenterol. 2018 Oct 23;5(1):e000223. doi: 10.1136/bmjgast-2018-000223. eCollection 2018.

[総説]

1. **高木岳彦，高山真一郎．先天性重複上肢**（upper limb dimelia）**．整形外科**, 2018;69(12):1271-1273.
2. **高木岳彦，高山真一郎，矢吹佳子，加藤龍，横井浩史．上肢欠損、切断患者における筋電義手を用いた治療の実際** -Targeted muscle reinnervation **における今後の展望-．運動器リハビリテーション**, 2018;29(3):287-291.
3. **江口　佳孝：創外固定による変形矯正法：整形・災害外科；**2018**：**25(1)**：**163-171
4. **江口佳孝，関　敦仁，高山真一郎: 肘内障．小児内科** 2018:50; 882-3
5. **矢吹佳子，**Hesong Ye, Xu Yong, **日吉祐太郎，村井雄太，東郷俊太，姜銀来，加藤龍，高木岳**

彦，高山真一郎，横井浩史．個性適応型制御法を用いた幼児・子供用義手の開発，2018;29(3):302-311.

[著書]

1. 江口 佳孝(国立成育医療研究センター整形外科)：肘内障，小児疾患の診断治療基準第5版，小児内科 2018：882-883

[講演]

1. 江口佳孝：先天性股関節脱臼の早期発見と最新の治療，助産師教育指導講習会，東京都，2018.11.5
2. 関敦仁：整形外科で診る小児疾患(先天股脱・内反足・斜頸など)．第5回成育サマーセミナー，東京 2018.7.28

[学会発表]

1. 高木岳彦，関 敦仁，江口 佳孝，内川 伸一，稲葉 尚人，阿南 揚子，林健太郎，高山 真一郎．小児上腕骨外側顆骨折後の内反肘変形に対する検討．第29回日本小児整形外科学会学術集会，名古屋，2018.12.15
2. 高山真一郎，江口佳孝，内川伸一，稲葉尚人，阿南揚子，林健太郎，高木岳彦，関敦仁：先天性橈尺骨癒合症に対する分離授動術 -術式の変遷と術後成績について-．第29回日本小児整形外科学会 名古屋 2018.12.15
3. 稲葉尚人，高山真一郎，林健太郎，鳥居暁子，阿南揚子，別所祐貴，高木岳彦，内川伸一，江口佳孝，関敦仁：先天性橈尺骨癒合症における肘関節屈伸による回内外強直肢位の変化．第29回日本小児整形外科学会 名古屋 2018.12.15
4. 鳥居暁子，関敦仁，江口佳孝，内川伸一，高木岳彦，阿南揚子，稲葉尚人，林健太郎，宮嵜治，高山真一郎：皮膚骨膜肥厚症患者の青年期の画像所見．第29回日本小児整形外科学会 名古屋 2018.12.15
5. 林健太郎，関敦仁，稲葉尚人，江口佳孝，内川伸一，高木岳彦，鳥居暁子，高山真一郎：手指関節近傍の骨腫瘍に対して関節形成術を施行した自験例の検討．第 29 回日本小児整形外科学会，名古屋 2018.12.14
6. 江口佳孝，高山真一郎，内川伸一，稲葉尚人，阿南揚子，林健太郎，関敦仁：二次検診紹介基準導入後の登院における乳児股関節検診の現状と課題．第29回日本小児整形外科学会 名古屋 2018.12.14
7. 内川伸一、関敦仁、江口佳孝、高木岳彦、阿南揚子、稲葉尚人、林健太郎、飯塚藍、高山真一郎：Radiological evaluations of Perthes disease at fragmentation stage．第29回日本小児整形外科学会 名古屋 2018.12.14
8. 阿南揚子，関敦仁，江口佳孝，内川伸一，稲葉尚人，林健太郎，高木岳彦，高山真一郎：先天性多発性関節拘縮症児の移動能力の予後に関する因子の検討．第29回日本小児整形外科学会 名古屋 2018.12.14
9. 河野亜紀，高山真一郎，関敦仁，鳥居暁子：観血的治療を行った両側先天性肘関節伸展強直の1例．第29回日本小児整形外科学会 名古屋 2018.12.14

10. Takagi T, Seki A, Takayama S, Ishii T, Kobayashi Y, Watanabe M. Characteristics of cubitus varus deformity after lateral humeral condylar fracture. 15th Annual International Pediatric Orthopaedic Symposium, Orlando, FL, USA, 2018.11.27
11. Takagi T, Seki A, Mochida J, Takayama S. On-top plasty for floating digit acquires morphology and function. 15th Annual International Pediatric Orthopaedic Symposium, Orlando, FL, USA, 2018.11.27
12. 江口 佳孝，関 敦仁，内川 伸一， 高山 真一郎： 当院における創外固定器を用いた四肢再建術． 第31回日本創外固定・骨延長学会学術集会， 弘前， 2018/8/4
13. 関敦仁，高山真一郎，高木岳彦：Ulnar dimeliaの治療方針．第13回関東上肢先天異常症例検討会 東京 2018.7.26

14. 江口 佳孝， 内川 伸一， 稲葉 尚人， 林 健太郎， 阿南 揚子， 関 敦仁， 宮嵜 治， 高山 真一郎： 小児化膿性股関節炎への造影 MRI 検査の診断的価値． 第 57 回日本小児股関節研究会学術集会， 仙台， 2018/6/22

15. Takagi T, Kodama M, Kato R, Yamanoi Y, Nishino W, Ogiri Y, Yokoi H, Takayama S, Masakado Y, Watanabe M. Novel selective motor fascicle transfer for transhumeral amputees to achieve more intuitive control of a six degree-of-freedom prosthetic arm. 2nd International Symposium on Innovations in Amputation Surgery and Prosthetic Technologies (IASPT), Vienna, Austria, 2018.5.10

16. 飯ヶ谷るり子，高山 真一郎，関 敦仁，佐藤 和毅，高木 岳彦，別所 祐貴，鳥居 暁子，稲葉 尚人：骨端軟骨付き骨移植で再建を行った重度母指形成不全症における移植骨片の成長について．第 61 回日本手外科学会 東京 2018.4.26

17. 別所 祐貴，高山 真一郎，稲葉 尚人，鳥居 暁子，阿南 揚子，関敦仁：母指形成不全症 Blauth Type 3A における外在筋の病態および治療 第 61 回日本手外科学会 東京 2018.4.26

18. 稲葉尚人，高山真一郎，鳥居暁子，阿南揚子，別所祐貴，高木岳彦，関敦仁：母指形成不全症における母指 CM 関節形態異常の検討．第 61 回日本手外科学会 東京 2018.4.26

19. 鳥居暁子，高山真一郎，別所祐貴，関敦仁，佐藤和毅：五指手・六指手の治療経験．第 61 回日本手外科学会 東京 2018.4.26

20. 阿南揚子，高山真一郎，関敦仁，別所祐貴，鳥居暁子，稲葉尚人，高木岳彦：裂手治療における骨処理の手技と問題点．第 61 回日本手外科学会 東京 2018.4.26

21. 柳澤聖，高木岳彦，高山真一郎，関敦仁，小林由香，渡辺雅彦：Fanconi 貧血を合併した母指形成不全症の検討．第 61 回日本手外科学会 東京 2018.4.26

22. 木村洋朗，関敦仁，佐藤和毅，高山真一郎：骨矯正骨切り術に橈骨短縮骨切り術を併用した陳旧性モンテジア骨折の治療経験．第 61 回日本手外科学会 東京 2018.4.27

23. Naoto Inaba, Satoshi Oki, Rieko Shimizu, Noboru Matsumura ,Takuji Iwamoto, Masahiro Jinzaki,Morio Matsumoto, Masaya Nakamura, Takeo Nagura, Kazuki Sato: A 4DCT Analysis of the Joint Contact Stress on the Radiolunate Joint during Active Wrist Flexion and Forearm Rotation. 64th Orthopedic Reseach Society New Olins 2018.3.10

24. Bessho Y, Seki A, Eguchi Y, Uchikawa S, Anami Y, Inaba N, Torii A, Takayama S: Treatment for Wassel type 5 and 6 polydactyly of the thumb. World Symposium of Congenital Malformations of Hand and Upper Limb Hongkong 2018.3.8

25. Takayama S, Seki A, Bessho Y, Torii A, Takagi T：Reconstruction of Abnormal Induction of Digital Ray with beneficial use of transverse bones. World Symposium of Congenital Malformations of Hand and Upper Limb Hongkong 2018.3.8

26. Torii A, Seki A and Takayama S.：Surgical Treatment for congenital ankylosis of the elbow. World symposium of congenital malformations of hand and upper limb 2018. 2018/3/8 Hong Kong

27. Takagi T, Seki A, Kobayashi Y, Watanabe M, Takayama S. Isolated muscle transfer to restore elbow flexion in children with arthrogryposis. 11th World Symposium on Congenital Malformations of the Hand and Upper Limb, Rotterdam, 2018.3.7)

28. 別所祐貴 高山真一郎 江口佳孝 稲葉尚人 鳥居暁子 関敦仁：先天性橈尺骨癒合症に対する分離授動術 術後回外可動域不足症例に対する二期的尺骨回旋骨切りの検討．第 30 回日本肘関節学会 2018.2.17

29. 別所祐貴 関敦仁 江口佳孝 阿南揚子 稲葉尚人 高木岳彦 高山真一郎：小児上腕骨外側顆骨折の治療成績．第 30 回日本肘関節学会 2018.2.16

30. 阿南揚子，関敦仁，別所祐貴，稲葉尚人，高山真一郎，高木岳彦，鳥居暁子：骨端軟骨付き骨移

植の併用により合指分離を行った合短指症の2例. 第32回東日本手外科研究会　東京　2018.2.3

31. 江口佳孝, 別所祐貴, 稲葉尚人, 阿南揚子, 畠山拓人, 内川伸一, 関敦仁, 高山真一郎：Pucker signを伴う小児上腕骨顆上骨折の治療成績. 第28回関東小児整形外科研究会　東京　2018.2.3

32. 関敦仁, 畠山拓人, 阿南揚子, 稲葉尚人, 別所祐貴, 内川伸一, 江口佳孝, 高山真一郎：隣接中手骨を用いた中手骨欠損への対応. 第12回関東上肢先天異常症例検討会　東京　2018.1.18

［広報活動］

1. 江口佳孝, 発育性股関節形成不全（先天性股関節脱臼）健診と検診, 総合診療部講義. 2018/5/22

泌尿器科

【学会発表】

1）江浦 瑠美子，鈴木 万里，長谷川 雄一，上岡 克彦；重複腎盂尿管に合併する膀胱尿管逆流 15 例の臨床的検討；第 26 回日本逆流性腎症フォーラム、2018.02

2）今井 悠，笠井 奏子，江浦 瑠美子，鈴木 万里，頴川 晋，長谷川 雄一；小児に発生した X-p11.2 転座両側腎細胞癌の 1 例；第 27 回日本小児泌尿器科学会、2018.06

3）笠井奏子、今井 悠、頴川 晋、長谷川雄一；Hemangioma の 1 例；第 27 回日本小児泌尿器科学会、2018，06

4）江浦 瑠美子；停留精巣 陰嚢より僅かに頭側 手術アプローチはどちら? 低位停留精巣でも鼠径アプローチ：日本小児泌尿器科学会、2018.06

5）今井 悠，笠井 奏子，頴川 晋，長谷川 雄一；小児両側腎細胞癌の 1 例；日本泌尿器科学会東部総会、2018.10

6）長谷川雄一；成育的観点からみた小児泌尿器科診療 総排泄腔外反症と総排泄腔遺残症におけるトランジション；日本泌尿器科東部総会パネルディスカッション、2018.10

7）笠井 奏子，阪中 啓吾，今井 悠，長谷川 雄一；新生児期に診断された尿膜管開存の 2 例；日韓小児泌尿器科学会（滋賀県大津市）、2019.01

【著書】

1）長谷川雄一；【小児在宅医療-医療的ケアと医行為を学ぶ】医療的ケアの実際 排泄に関する医療的ケア 自己導尿、膀胱皮膚瘻、腎瘻；小児内科（0385-6305）50 巻 11 号 Page1845-1848(2018.11)

2）長谷川雄一；明日から使える小児泌尿器診療 minimal requirement 包茎と陰嚢疾患 泌尿器外科(0914-6180)31 巻臨増 Page752-755、2018.06

リハビリテーション科

[原著論文]

1. Aoki S, Hashiomto K, Ogawa K, Horikawa R, Sago H. Developmental outcomes of Japanese children born through Assisted Reproductive Technology (ART) in toddlerhood. J Obstet Gynaecol Res. 2018; 44: 929-35.
2. Aoki S, Hashimoto K, Mezawa H, Hatakenaka Y, Yasumitsu-Lovell K, Suganuma N, Ohya Y, Wilson P, Fernell E, Kamio Y, Gillberg C. Development of a new screening tool for neuromotor development in children aged two – the neuromotor 5 min exam 2-year-old version (N5E2). Brain Dev. 2018; 40: 445-51.
3. Aoki S, Yamauchi Y, Hashimoto K. Developmental trend of children with Down's syndrome – How do sex and neonatal conditions influence their developmental patterns? Brain Dev. 2018; 40: 181-7.
4. **橋本圭司. 高次脳機能障害と認知症～ICT による評価システムの有用性～. 日本早期認知症学会誌** 2018; 11: 29-35.
5. **橋本圭司. 高次脳機能障害に対するアプローチ. 月刊デイ** 2018; 225: 75-8.
6. **橋本圭司. 高次脳機能障害リハビリテーション**. MB Med Reha 2018; 222: 61-66.
7. **上久保毅. 脳の画像による予後予測 -高次脳機能障害の予後予測-. 総合リハ** 2018; 46: 635-641.
8. **粳間 剛, 橋本圭司. 痛み関連の神経内科疾患 高次脳機能障害. ペインクリニック** 2018; 39: 1183-91.

「書籍」

1. **大久保浩子, 小児疾患 理学療法のポイント リハビリテーション医学第1版, 東京, 羊土社,** 2018
2. **深澤聡子, 小児疾患 作業療法のポイント リハビリテーション医学第1版, 東京, 羊土社,** 2018

「学会発表」

1. **深澤聡子, 蓮川嶺希, 栁澤いずみ, 松井直子, 木須彩, 上久保毅, 松本公一: 当院における小児がん患者に対する作業療法の取り組み, 第 8 回日本がんリハビリテーション研究会, 札幌,** 2018.12.2
2. **松井直子, 蓮川嶺希, 栁澤いずみ, 深澤聡子, 大久保浩子, 上久保毅, 富澤大輔: 移植後に慢性呼吸不全となった乳児白血病の一症例～在宅生活にむけた作業療法～, 第 8 回日本がんリハビリテーション研究会, 札幌,** 2018.12.2
3. **栁澤いずみ, 蓮川嶺希, 松井直子, 深澤聡子, 上久保毅, 富澤大輔: リハビリ拒否が長期化した急性骨髄性白血病男児への作業療法の関わり, 第 8 回日本がんリハビリテーション研究会, 札幌,** 2018.12.2
4. **峯耕太郎, 松井直子, 大久保浩子, 上久保毅, 寺島慶太: 警戒心やこだわりが強く介入に難渋した小児悪性脳腫瘍の一症例, 第 8 回日本がんリハビリテーション研究会 札幌** 2018.12.1
5. **橋本圭司: 第 10 回リハビリテーション科専門医試験支援講座「小児リハビリテーション」, 第2回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会. 仙台,** 2018.11.3
6. **橋本圭司: よくわかるシリーズ「発達障害のサインと判定法」, 第2回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会. 仙台,** 2018.11.3

7. Tamai S, Hashimoto K, Yamada S, Oikawa E, Abe K, Takahashi K, Mori K：The Promotion of corporation among pediatric rehabilitation experts in Japan-using Ability for Basic Physical Activity Scale for Children (ABPS-C). WHO – Family of International Cassification Network Annual Meeting 2018, Soul, 2018.10
8. 上久保毅: 小児脳腫瘍患者に対して神経心理学的検査を行う際の注意点, 第 55 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 福岡, 2018.7.1
9. 橋本圭司: 教育講演「発達障害児者の支援の実際」, 第55回日本リハビリテーション医学会学術集会. 福岡, 2018.6.29
10. 佐藤裕子, 彦坂信: 国立成育医療研究センターにおける口蓋形成術と音声言語の連携と工夫, 第 42 回日本口蓋裂学会総会シンポジウム, 大阪, 2018.5.24
11. 石田幸宏, 壷井伯彦, 野嵜仁美, 並木亮, 西村奈穂, 中川聡, 笠原群生, 上久保毅: PICU 内における小児肝移植術後患者に対する早期リハビリテーションの効果, 第 45 回日本集中治療医学会学術集会, 幕張, 2018.2.22

[講演]

1. 橋本圭司. 発達を支える高次脳機能リハビリテーション.「子どもの健康と発達障害を知ろう!」. ちばエコチル調査講演会. 2018.12.1
2. 橋本圭司. 特別講演「高次脳機能を育てるリハビリテーション」. 第19回国際小児脳腫瘍シンポジウム第2回市民公開講座. 2018.7.22
3. 橋本圭司. 市民公開講座「生活を支える心と身体のリハビリテーション -子供から高齢者まで-」. 第28 回四国作業療法学会. 2018.1.14
4. 蓮川嶺希. 高次脳機能障害児が安心して健康に成長するために私たちができること. 高次脳機能障害ファシリテーター養成講座. 2018.11.22
5. 松井直子. こどもの高次脳機能障害. 高次脳機能障害者関係施設連絡会世田谷高次脳機能障害の今を振り返る 2018.8.24
6. 今井裕弥子. 聴覚障害児への指導・支援の実際. 東京都母子保健研修. 2018.6.28
7. 佐藤裕子. こどもの聞こえに関わる 早期発見・早期療育のためにできること. 杉並区すこやか赤ちゃん訪問事業研修. 2018.2.20

4-3-8 感覚器形態外科部
形成外科

[原著論文：査読付]（Reviewed Paper）
1. Kaneko A., Kaneko T.: A New Classification of Early Female Pattern Hair Loss. International journal of trichology 2018;10:61-67
2. Takechi T., Kumokawa T., Kato R., Higuchi T., Kaneko T., Ieiri I.: Population Pharmacokinetics and Pharmacodynamics of Oral Propranolol in Pediatric Patients With Infantile Hemangioma. Journal of clinical pharmacology 2018;58:1361-1370

[原著論文：査読なし]
1. 金子 剛, 彦坂 信:【新薬が変える子ども医療-薬物の使い分けと作用機序】再評価された薬 プロプラノロール 乳児血管腫. 小児内科 2018;50:1683-1688

[症例報告]
該当なし

[総説]
該当なし

[著書]
該当なし

[ガイドライン、報告書、その他]
該当なし

[学会発表]
1. 彦坂 信, 金子 剛, 高松 亜子, 桑原 広輔, 中島 由佳理: 頭蓋縫合早期癒合症に対する内視鏡補助下縫合切除術 ナビゲーションの有用性. 第 23 回日本形成外科手術手技学会, 兵庫, 2018.2.10
2. 桑原 広輔、金子 剛、高松 亜子、彦坂 信、中島 由佳理、谷尻 豊寿: 相同モデルを用いた日本人健常乳児の頭蓋形態の解析. 第 61 回日本形成外科学会学術集会, 福岡, 2018.4.1
3. 西垣宏美、彦坂 信、金子 剛、佐藤裕子: Furlow 変法による初回口蓋形成術後の言語成績. 第 61 回日本形成外科学会学術集会, 福岡, 2018.4.1
4. 彦坂 信、金子 剛、高松亜子、桑原広輔、中島由佳理: 頭蓋縫合早期癒合症に対する内視鏡補助下縫合切除術と形状誘導ヘルメット療法：当センターでの最近の傾向. 第 61 回日本形成外科学会学術集会, 福岡, 2018.4.1
5. 彦坂 信, 佐藤 裕子, 金子 剛, 桑原 広輔, 中島 由佳理, 今井 裕弥子, 村田 百子, 守本 倫子, 馬場 祥行: 口蓋裂手術と音声言語の連携と工夫 国立成育医療研究センターにおける口蓋形成術と音声言語の連携と工夫. 第 42 回日本口蓋裂学会学術集会, 大阪, 2019.5.24
6. 中島 由佳理, 金子 剛, 彦坂 信, 藤井 可絵, 佐藤 裕子: 口蓋形成術後に退院前検査として施行した睡眠時呼吸検査に関する検討. 第 42 回日本口蓋裂学会学術集会, 大阪, 2019.5.24
7. 彦坂 信, 金子 剛, 荻原 英樹, 宇佐美 憲一, 師田 信人: 国立成育医療研究センターにおける頭蓋縫合早期癒合症に対する内視鏡補助下縫合切除術に関する検討. 第 46 回日本小児神経外科学会, 東京, 2018.6.8
8. 小阪 拓男, 杉原 望, 佐藤 元信, 大西 礼, 絵野沢 伸, 彦坂 信, 金子 剛, 小原 有弘: 多指(趾)症の(形成外科)手術において摘出される余剰組織からの細胞調製及び研究資源化.日本組織培養学会第 91 回大会, 愛知, 2018.6.15
9. 彦坂 信、金子 剛、桑原広輔、宮森悠希、荻原英樹、宇佐美憲一、師田信人: ラムダ縫合の頭蓋縫合早期癒合症において後方延長術後に冠状縫合の癒合を来した症例の検討. 第 14 回 Craniosynostosis 研究会, 長野, 2018.7.14
10. Hikosaka M, Kaneko T, Kuwahara K, Takamatsu A, Miyamori Y, Miyazaki O, Nosaka S,

Ogawa R: Analysis of cranial morphology of Japanese healthy infants using homologous modeling. The 10th World Society for Simulation Surgery, Chicago, 2018.9.30

11. 彦坂 信、金子 剛、桑原広輔、宮森悠希、荻原英樹、宇佐美憲一: ラムダ縫合の頭蓋縫合早期癒合例における後方延長術後の冠状縫合の癒合に関する検討. 第 36 回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 北海道, 2018.10.11
12. 桑原 広輔、金子 剛、彦坂 信、高松 亜子、小川 令、宮嵜 治、野坂 俊介、谷尻 豊寿: 相同モデルを用いた日本人健常乳児の頭蓋形態の解析. 第14回Craniosynostosis研究会, 長野, 2018.7.14
13. 桑原 広輔, 小川 令, 金子 剛, 彦坂 信, 高松 亜子, 谷尻 豊寿: 相同モデルを用いた日本人健常乳児の頭蓋形態の網羅的解析. 第 86 回日本医科大学医学会総会, 東京, 2018.9.1
14. 宮森 悠希, 金子 剛, 桑原 広輔, 彦坂 信, 高松 亜子, 宮嵜 治, 野坂 俊介, 宇佐美 憲一, 荻原 秀樹: 頭蓋縫合早期癒合症に対する2方向頭蓋骨延長の有用性の検討. 第28回日本シミュレーション外科学会, 東京, 2018.11.10
15. 桑原 広輔, 金子 剛, 彦坂 信, 高松 亜子, 小川 令, 宮嵜 治, 野坂 俊介, 谷尻 豊寿: 相同モデルを用いた頭蓋形態の解析　健常乳児における頭蓋の成長様式の解明. 第 28 回日本シミュレーション外科学会, 東京, 2018.11.10

[講演]

1. 金子 剛、高松亜子、彦坂 信: 変形性斜頭/短頭の診断と治療を目的とした「赤ちゃんの頭のかたち外来」について. 第 46 回日本小児神経外科学会, 東京, 2018.6.8
2. 金子 剛: 国立成育医療研究センターにおける形成外科の臨床と研究. 第 20 回日本医科大学形成外科同門会 特別講演, 東京, 2018.7.21
3. 金子 剛:国立成育医療研究センターにおける舌形成術. Beckwith Wiedemann 患者会, 東京, 2018.8.26
4. 彦坂 信、金子 剛、高松亜子: 赤ちゃんのあたまの変形: 乳幼児健診で役立つ観察ポイント. 所沢医師会 乳幼児健康診査医師講習会, 埼玉, 2018.10.25

[広報活動]

該当なし

耳鼻科

原著

1. 水野貴基,和田友香,守本倫子： 基礎疾患を有する新生児・乳児への経鼻エアウェイ使用に関する検討. 小児耳 2018;39(3):333-338
2. 吉浜圭祐,小森学,藤井可絵,土橋奈々,守本倫子： 第一鰓裂嚢胞・瘻孔の 3 症例. 小児耳 2018;39(1):31-37
3. 守本倫子,益田慎,麻生伸, 樫尾 明憲, 神田 幸彦, 中澤 操, 森田 訓子, 中川 尚志, 西崎 和則, 日本耳鼻咽喉科学会福祉医療・乳幼児委員会： 2015-2016 年のムンプス流行時に発症したムンプス難聴症例の全国調査. 日耳鼻会報 2018;121(9):1173-1180
4. 竹澤芳樹,中村知夫,守本倫子, 清谷 知賀子, 窪田 満, 石黒 精： スパイロメトリーが声帯開大障害による上気道狭窄合併の診断に有用だった脳幹部低悪性度グリオーマの 1 例. 小児科臨床 2018;71(8):1415-1419
5. 小森学,吉浜圭祐,藤井可絵,守本倫子： 萎縮性鼻炎から診断された低汗性外胚葉形成不全の乳児 2 症例. 耳展 2018;61(1):24-28
6. 守本倫子： 感覚器障害の治療と研究の最前線 QOL 向上とコミュニケーションのあり方を考える 小児難聴． ファルマシア 2018;54(11):1035-1039
7. 山口宗太,角田真弓,藤井可絵,遠山悟史,守本倫子： 無挿管で開窓術を施行した小児声門下嚢胞の1例. 日気食 2019;70(1):25-29
8. Suzuki N, Mutai H, Miya F, Tsunoda T, Terashima H, Morimoto N, Matsunaga T: A case report of reversible generalized seizures in a patient with Waardenburg syndrome associated with a novel nonsense mutation in the penultimate exon of SOX10. BMC Pediatr 2018 May 23;18(1):171.doi:10.1186/s12887-018-1139-2.
9. Kitao K, Mutai H, Namba K, Morimoto N, Nakano A, Arimoto Y, Sugiuchi T, Masuda S, Okamoto Y, Morita N, Sakamoto H, Shintani T, Fukuda S, Kaga K, Matsunaga T: Deterioration in Distortion Product Otoacoustic Emissions in Auditory Neuropathy patients with distinct clinical and genetic backgrounds. Ear Hear 2018;23:doi: 10.1097/AUD.0000000000000586
10. Morimoto N, Mutai H, Namba K, Kaneko H, Kosaki R, Matsunaga T: Homozygous EDNRB mutation in a patient with Waardenburg syndrome type 1. Auris Nasus Larynx 2018;45:222-226

総説

1. 守本倫子： 妊娠中ですが薬は飲めますか？． 耳鼻咽喉科頭頸部外科患者・家族への説明ガイド 2018;90(5):324-325
2. 守本倫子： 小児の気管食道科領域の診療. 日気食会報 2018;69(2):57
3. 守本倫子： あらためて浮かび上がったムンプス予防の必要性. Pharma medica 2018;36(5):43-46
4. 守本倫子： 鼻副鼻腔疾患 9 後鼻孔閉鎖症． 今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針 2018;4:292-293
5. 守本倫子： Ⅲ感覚器疾患のみかた 聴覚・平衡覚 6小児で重要な聴覚・平衡覚疾患. わかりやすい感覚器疾患 日本医師会雑誌 2018;47(1)s:150-151
6. 守本倫子： ムンプスと難聴． 感染症 2018;48(4): 138-142
7. 守本倫子： 胎児期感染による先天性難聴． JOHNS 2018;34(11):1521-1524
8. 守本倫子： ムンプス難聴について． 小児保健研究 2018;77(5):402-405
9. 守本倫子： 聴覚障害の早期発見と支援体制―新生児聴覚検査の現状と課題． 公衆衛生 2018;82(6):442-447
10. 守本倫子： 新生児聴覚スクリーニング検査の現状と課題． 月刊母子保健 2019;718:6-7
11. 守本倫子： ウイルスと一側性難聴． 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2019;91(③) :212-216

12. 守本倫子，山口宗太： 17 耳痛・耳漏・顔面腫脹． スキルアップ小児の総合診療， 診断と治療社， 2018;142-146
13. 守本倫子： 小児の咽喉頭疾患 悩ましい治療方針．喉頭 2018;30(2):88-91
14. 富里周太，守本倫子： 主な感染症に対する治療の実績 耳鼻咽喉科中耳炎． Medical Practice 2019;36:278-281
15. 守本倫子，小森学，奥羽譲，富里 周太，山口 宗太： 日本人小児固形腫瘍に対するシスプラチン難聴の遺伝的・非遺伝的危険因子の検討． AUDIOLOGY JAPAN 2018;61(5) :467

学会発表

1. 守本倫子： 座長一般口演「第 3 群 発達・療育・リハビリ」． 第 13 回日本小児耳鼻咽喉科学会，神奈川， 2018.7.12
2. 守本倫子： 小児の難聴—ムンプス難聴を含めて． 第 108 回東京小児科医会学術講演会，東京，2018.6.17
3. 富里周太，山口宗太，奥羽譲，宮入烈，守本倫子： BCG 菌による結核性頸部リンパ節炎の 1 例．第 6 回日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会， 石川，2018.9.7

4. 富里周太，矢田康人，白石紗衣： 認知行動療法を応用したカウンセリングを施行した吃音症例の検討． 音声言語医学会，福岡， 2018.10.11-12
5. 守本倫子： 日本人の小児癌におけるシスプラチン難聴の遺伝学的危険因子の解析． 第 63 回日本人類遺伝学会， 神奈川，2018. 10.12
6. 守本倫子，小森 学，奥羽 譲，富里 周太，山口 宗太： 日本人小児固形腫瘍に対するシスプラチン難聴の遺伝的・非遺伝的危険因子の検討． 第 63 回 日本聴覚医学会総会・学術講演会， 兵庫，2018. 10. 19
7. 奥羽 譲，富里 周太，山口 宗太，守本 倫子，： 小児咽頭軟弱症に対して両側披裂部焼灼術を施行し改善を認めた一例． 第 70 回 日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会， 東京，2018. 11. 8

教育講演・シンポジウム

1. 守本倫子： 女性医師のキャリアプランの立て方・キャリア形成の考え方． 第 80 回 耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会，神奈川，2018.6.29
2. 守本倫子： Inter Professional Network 新生児上気道狭窄(咽頭・声門下・気管支)の診断と治療． 第 54 回 日本周産期・新生児医学会学術集会，東京，2018.7.9
3. Morimoto N: Perioperative management in LTR-. 14th Congress of the European Society of Pediatric Otorhinolaryngology, Stockholm, 2018.6.4
4. 守本倫子： 予防できる小児の耳鼻咽喉科疾患． 第 6 回 日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会， 石川，2018. 9.7
5. 守本倫子： ムンプス難聴．真のワクチンギャップ解消に向けて．第 22 回 日本ワクチン学会学術講演会．兵庫，2018. 12. 8
6. 守本倫子： 耳鼻咽喉科で遭遇するムコ多糖症患者発見のポイント～その症状！もしかしてムコ多糖症？． 第 119 回 日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会，神奈川，2018.5.3
7. 守本倫子:耳鼻咽喉科で求められるワクチンの現状と今後の展望—ムンプス難聴とムンプスワクチン.日耳鼻専門医大会,福岡, 2018.11.7
8. 守本倫子:ムンプス難聴とワクチンの課題-軽くみていませんか？ムンプス難聴.日本小児科医会生涯研修セミナー,広島,2018.10.8

講演

1. 守本倫子:新生児聴覚スクリーニング検査のその後の対応.三部会で盛り上げよう、切れ目のない支援と産後ケア、日本助産師会 2018.12．7
2. 守本倫子:様子みていて大丈夫？小児の上気道狭窄症状.第 16 回埼玉小児科耳鼻咽喉科懇話会、2018.11.1
3. 守本倫子:ムンプス難聴—知っていたら予防接種受けていたのに．千葉市医師会予防接種講習会,

千葉,2018.7.6

4. 守本倫子：聴覚障害がある子の健康管理．平成 30 年度関東地区ろう教育研究会，葛飾,2018.7.30
5. 守本倫子：小児の難聴―ムンプス難聴を含めて．第 108 回東京小児科医会学術講演会，東京都,2018.6.17
6. 守本倫子：こどもの耳の聞こえと聴覚検査．東京都母子保健研修、2018.6.28
7. 守本倫子：ムンプス難聴―知っているようで知らなかったこと。ムンプス難聴全国調査結果について．第 6 回横浜北 4 区耳鼻咽喉科セミナー,2018.6.21
8. 守本倫子：新生児聴覚スクリーニング後にみつかった難聴？第 135 回札幌市耳鼻咽喉科医会講演会,2018.6.16

眼科

[原著論文：査読付]（Reviewed Paper）

1. Hosono K, Nishina S, Yokoi T, Katagiri S, Saitsu H, Kurata K, Miyamichi D, Hikoya A, Mizobuchi K, Nakano T, Minoshima S, Fukami M, Kondo H, Sato M, Hayashi T, Azuma N, Hotta Y. Molecular diagnosis of 34 Japanese families with Leber congenital amaurosis using targeted next generation sequencing. Sci Rep. 2018 May 29;8(1):8279. doi: 10.1038/s41598-018-26524-z.
2. Wakayama A, Nishina, S, Miki A, Utsumi T, Sugasawa J, Hayashi T, Sato M, Kimura A, Fujikado T. Incidence of side effects of topical atropine sulfate and cyclopentolate hydrochloride for cycloplegia in Japanese children:a multicenter study. Jpn J Ophthalmol, 2018 DOI 10.1007/s10384-018-0612-7
3. Yoshida T, Nishina S, Matsuoka M, Akaike S, Ogonuki S, Yokoi T, Azuma N. Pediatric strabismus cases possibly related to excessive use of information and communication technology devices. Advances in strabismus, 13th Meeting of the International Strabismological Association. Joint Meeting with the Annual Meeting of the American Association for Pediatric Ophthalmology and Strabismus. Washington, DC, USA, 18-22 March 2018.
4. Takahashi M, Yokoi T, Katagigi S, Yoshida-Uemura T, Nishina, S, Azuma N. Surgical treatments for fibrous tissue extending to the posterior retina in eyes with familial exudative vitreoretinopathy. Jpn J Ophthalmol, 2018 Jan; 62(1): 63-67.
5. **吉田朋世、仁科幸子、松岡真未、萬東恭子、赤池祥子、越後貫滋子、横井匡、東範行：**Information and Communication Technology **機器の使用が契機と思われた小児斜視症例**. **眼臨紀** 11 (1): 61-66, 2018.
6. **太刀川貴子，武井正人，清田眞理子，齋藤雄太，東範行，仁科幸子，丸子一朗，根岸貴志，野田英一郎，大熊康弘，吉田圭，藤巻拓郎，松本直，渡邊恵美子，齋藤誠：低出生体重児における未熟児網膜症：東京都多施設研究**. **日眼会誌** 122 **巻** 2 **号** p103-113, 2018
7. **佐藤美保、加藤光広、田島敏広、川村孝、仁科幸子、根岸貴志、柿原寛子、初川嘉一、松村望、三木淳司、寺井朋子、横山利幸、森田由香、三原美晴、野村耕治、富田香、林思音、磯貝正智、堀田喜裕：中隔視神経異形成症の眼科診療に関する研究**. **眼臨紀** 11 (5): 395-400, 2018.

[原著論文：査読なし]

[症例報告]

[総説]

3. **仁科 幸子：乳幼児の新しい視覚スクリーニング―簡便で正確な検査装置の導入―**. **日本医師会雑誌** 147 (8): 1628-1629, 2018.
4. **吉田 朋世、仁科幸子：内斜視**. **眼科** Vol.60 **臨時増刊号 主訴と所見からみた眼科** common disease, p1157-1162, 2018

[著書]

2. **仁科幸子：未熟児網膜症―眼底検査法と写真撮影法．リハビリテーション・ロービジョンケア．類縁疾患**. **未熟児網膜症**, **東範行編、三輪書店、東京**, 2018

[ガイドライン、報告書、その他]

3. **仁科幸子：乳幼児健康診査身体診察マニュアル：標準的な乳幼児健診に関する調査検討委員会**（2018 **年** 3 **月**）**眼科的記述を担当**
4. **仁科幸子、東 範行：小児科医向け** Spot Vision Screener **運用マニュアル** Ver.1**：日本弱視斜視学会・日本小児眼科学会**（2018 **年** 7 **月**）

[学会発表]

1. Nishina S, Yokoi T, Yoshida T, Fukami M, Hosono K, Kurata K, Hotta Y, Azuma N. OCT and ERG initial findings in Leber congenital amaurosis and genetic analysis. 44rd Annual Meeting, American Association for Pediatric Ophthalmology and Strabismus, Washington DC, USA, 2018.3
2. Yoshida T, Nishina S, Matsuoka M, Akaike S, Ogonuki S, Yokoi T, Azuma N. Pediatric strabismus cases possibly related to excessive use of information and communication technology devices. XIIIed meeting of the ISA , Washington DC, USA, 2018.3
3. **片桐聡、横井匡、吉田朋世、仁科幸子、東範行. 家族性滲出性硝子体網膜症に伴う裂孔原性網膜剥離における網膜裂孔の特徴と手術成績. 第 57 回日本網膜硝子体学会総会, 京都,** 2018.12
4. **仁科幸子、細野克博、横井匡、吉田朋世、深見真紀、堀田喜裕、東範行.** *CACNAIF* **遺伝子変異を同定した** Leber **先天黒内障の 1 例. 第 57 回日本網膜硝子体学会総会, 京都,** 2018.12
5. Ogawa H, Nishina S, Yokoi T, Tanaka S, Nakao S, Yoshida T, Fukami M, Hosono K, Hotta Y, Azuma N. Six cases of Leber congenital amaurosis associated with Coats-like vasculopathy. Distinguished Papers Symposium, **第 57 回日本網膜硝子体学会, 京都,** 2018.12
6. **大久保陽子、中馬秀樹、仁科幸子. 先天性動眼神経麻痺に伴った周期性瞳孔けいれんと思われた一例. 第** 56 **回日本神経眼科学会総会, 神戸,** 2018.12
7. **石井杏奈、仁科幸子、松岡真未、三井田千春、赤池祥子、新保由紀子、越後貫滋子、吉田朋世、横井匡、東範行. 眼器質疾患をもつ低年齢児に対する** Spot Vision Screener **検査. 第** 59 **回日本視能矯正学会, 横浜,** 2018.11
8. **仁科幸子**. Leber **先天盲. シンポジウム** 6 **小児網膜変性疾患の病態と診断. 第** 72 **回日本臨床眼科学会, 東京,** 2018.10
9. **堤典子、仁科幸子、吉田朋世、横井匡、東範行. 周期性斜視7例の臨床像と治療経過. 第 72 回日本臨床眼科学会, 東京,** 2018.10
10. **仁科幸子. 小児の神経眼科. インストラクションコース** 17 **やさしい神経眼科. 第** 72 **回日本臨床眼科学会, 東京,** 2018.10
11. **松岡真未、仁科幸子、石井杏奈、三井田千春、赤池祥子、新保由紀子、越後貫滋子、吉田朋世、横井匡、東範行. 低年齢児における** Spot Vision Screener **の屈折異常判定の検討. 第** 74 **回日本弱視斜視学会総会, 倉敷,** 2018.7
12. **田中慎、仁科幸子、中尾志郎、吉田朋世、横井匡、東範行. 斜位近視を契機に発見された小脳腫瘍の小児例. 第** 74 **回日本弱視斜視学会総会, 倉敷,** 2018.7
13. **仁科幸子. 新型レチノマックスの変更点. ランチョンセミナー 1:新型レチノマックス どう変わった? 第** 74 **回日本弱視斜視学会総会, 倉敷,** 2018.7
14. **田中慎、片桐聡、横井匡、林孝彰、仁科幸子、門之園一明、東範行. 両眼の胞状網膜分離を示した** X **染色体連鎖網膜分離症の男児の一例. 第** 66 **回日本臨床視覚電気生理学会, 浜松,** 2018.9
15. **仁科幸子. 小児白内障の検査. 教育セミナー**1 **小児白内障・緑内障の検査と治療. 第** 122 **回日本眼科学会総会, 大阪,** 2018.4
16. **細野克博、仁科幸子、横井匡、片桐聡、倉田健太郎、宮道大督、溝渕圭、中野匡、簑島伸生、深**

見真紀、近藤寛之、佐藤美保、林孝彰、東範行、堀田喜裕．日本人 Leber 先天盲の次世代シークエンサーによる遺伝子変異解析．第 122 回日本眼科学会総会，大阪，2018.4

17. 中尾志郎、仁科幸子、田中慎、羅秀玉、吉田朋世、横井匡、東範行．乳児期に重篤な網膜症を合併した色素失調症の3例．第 43 回日本小児眼科学会総会，名古屋，2018.3
18. 三井田千春、仁科幸子、石井杏奈、松岡真未、赤池祥子、新保由紀子、越後貫滋子、吉田朋世、横井匡、東範行．低年齢児における Spot Vision Screener の有用性．第 43 回日本小児眼科学会総会，名古屋，2018.3
19. 仁科幸子．乳幼児の眼底に先天異常をみつけたら? 講習会 これで完璧 先天網膜疾患のすべて第 43 回日本小児眼科学会総会，名古屋，2018.3

[講演]

1. 仁科幸子．乳幼児健診において小児科医が知っておくべき眼疾患とその対応．大阪小児科医会第 7 回成育医療研修会，大阪, 2018.4
2. 仁科幸子．見逃しに注意；小児眼科医からのアドバイス．乳幼児健診を中心とする小児科医のための研修会 PartⅢ～一歩進んだ乳幼児健診を目指して～，東京, 2018.6
3. 仁科幸子．乳幼児の気をつけたい目の病気．母子保健相談員研修会，東京, 2018.6
4. 仁科幸子．視機能の発達・小児によくみられる眼疾患．母子愛育会 地域母子保健 3 乳幼児期に見られる諸問題，東京, 2018.7
5. 仁科幸子．乳幼児に対するスポットビジョンスクリーナー：小児科と眼科のよりよい連携のために．第 28 回日本外来小児科学会 学術集会 LS11，東京, 2018.10
6. 仁科幸子．乳幼児健診アップデートー小児科医と眼科医の連携のためにー．第 8 回静岡県眼科アップデートセミナー，静岡, 2018.10
7. 仁科幸子. 0 歳から見つけたい！小児眼疾患. Tokyo Ophthalmology Club，東京, 2018.10
8. 仁科幸子. 0 歳から見つけたい！小児眼科疾患．第 28 回青森眼科セミナー，青森, 2018.11

[広報活動]

1. 仁科幸子：子どもの弱視．小児科診療サポート DVD, MSD 社

皮膚科

[原著論文:査読付](Reviewed Paper)

1. Shakya P, Pokhrel KN, Mlunde LB, Tan S, Ota E, Niizeki H: Effectiveness of Non-Steroidal Anti-Inflammatory Drugs among patients with Primary Hypertrophic Osteoarthropathy: a systematic review. J Dermatol Sci, 2018 Apr;90(1):21-26.
2. Tamesada Y, Nakano E, Tsujimoto M, Masaki T, Yoshida K, Niizeki H, Nishigori C: Japanese case of xeroderma pigmentosum complementation group C with a novel mutation. J Dermatol. 2018 Apr;45(4):e80-e81.
3. Niizeki H, Hayashi R, Naiki Y, Yoshida K, Tanaka R, Shimizu A, Terashima H, Isogawa N, Abe R, Shimomura Y: Delayed-onset heat intolerance in a Japanese patient with X-linked hypohidrotic ectodermal dysplasia associated with a large deletion involving four genes. J Dermatol. 2018 Mar;45(3):376-378.
4. Wataya-Kaneda M, Ohno Y, Fujita Y, Yokozeki H, Niizeki H, Ogai M, Fukai K, Nagai H, Yoshida Y, Hamada I, Hio T, Shimizu K, Murota H: Sirolimus Gel Treatment vs Placebo for Facial Angiofibromas in Patients With Tuberous Sclerosis Complex: A Randomized Clinical Trial. JAMA Dermatol. 2018 Jul 1;154(7):781-788.
5. Tanaka R, Umegaki-Arao N, Sasaki T, Aoki S, Yoshida K, Niizeki H, Kubo A: Linear keratinocytic epidermal nevi on trunk skin caused by a somatic FGFR2 p.C382R mutation. J Dermatol. 2018 Nov;45(11):e302-e303.
6. Nakazawa S, Niizeki H, Nakabayashi K, Tanese K, Tokura Y: Congenital nail clubbing. J Dermatol. 2019 Mar;46(3):e101-e102.
7. Sun X, Hosoe N, Miyanaga R, Kimura K, Mizuno S, Takabayashi K, Naganuma M, Niizeki H, Seki A, Ogata H, Kanai T. A male Korean who was diagnosed with chronicenteropathy associated with SLCO2A1 (CEAS): case report with literature review. BMJ Open Gastroenterol. 2018 Oct 23;5(1):e000223.
8. Olteanu C, Shear N, Chew H, Hashimoto R , Alhusayen R, Whyte-Croasdaile S, Finkelstein Y, Burnett M, Ziv M, Sade S, Jeschke M, Dodiuk-Gad R : Severe Physical Complications among Survivors of Stevens– Johnson Syndrome and Toxic Epidermal Necrolysis. Drug Safety, 2018;41(3):277-284
9. **持丸 奈央子, 川崎 洋, 福島 彩乃, 小幡 祥子, 安田 文世, 海老原 全: アトピー性皮膚炎、特に躯幹四肢の治療におけるベタメタゾン酪酸エステルプロピオン酸エステルローション製剤の有用性の検討, 西日本皮膚科** 80 **巻** 3 **号** Page244-249(2018.06)

[原著論文:査読なし]

該当なし

[症例報告]

1. **中嶋萌, 新関寛徳, 前川貴伸, 吉田和恵, 田中諒, 小森学, 義岡孝子, 下村裕, 林良太, 窪田満, 石黒精:難治性の鼻腔内痂皮が診断の一助となった** Ectodysplasin A **遺伝子変異・低汗性外胚葉形成不全の乳児例. 外来小児科** 21 **巻** 1 **号** Page72-75(2018.03)
2. **渡邊恒輔, 安田葉月, 大原関利章, 福田英嗣: ダーモスコピーが診断に有用であった** Clear Cell Acanthoma. **皮膚科の臨床** 2018;60:582-583
3. **安田葉月, 渡邊恒輔, 高橋美咲, 福田英嗣: 背部に生じた限局性リンパ管腫の** 1 **例. 皮膚科の臨床** 2018;60:2049-2052
4. **畠中美帆, 石橋正史:** Desmoplastic Trichoepithelioma **の** 1 **例. 皮膚科の臨床** 2018;60:134-135
5. **椎山 理恵, 持丸 奈央子, 舩越 建, 大山 宗徳, 菅井 基行, 天谷 雅行: タンポンの使用に起因した** toxic shock syndrome. **皮膚病診療** 40 **巻** 2 **号** Page193-196(2018.02)

[総説]

1. 新関寛徳：指定難病最前線(Volume67) 肥厚性皮膚骨膜症. 新薬と臨牀 2018;67: 1117-1123(2018.09)
2. 持丸奈央子, 吉田和恵. "【赤ちゃんとお母さんのためのアレルギー読本】［産科各論］ アトピー性皮膚炎の管理." 周産期医学 48(増刊): 518-522.2018, 12.

[著書]

1. Dodiuk-Gad R, Shear N, (Editorial Assistants Olteanu C, Hashimoto R): Advances in Diagnosis and Management of Cutaneous Adverse Drug Reactions: Current and Future Trends. Springer Nature, 2018
2. 西本周平, 吉田和恵: 皮膚科 1. 母斑、2. 湿疹・皮膚炎、3. 皮膚感染症. ナースとコメディカルのための小児科学 改訂第6版: pp406-408, 日本小児医事出版社; 2018.02.28.

[ガイドライン、報告書、その他]

1. 新関寛徳： 総括研究報告「肥厚性皮膚骨膜症の診療内容の均てん化に基づく重症度判定の策定に関する研究」 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)「肥厚性皮膚骨膜症の診療内容の均てん化に基づく重症度判定の策定に関する研究」, 平成29年度総括・分担研究報告書, 2018;1-3
2. 新関寛徳, 横関博雄, 石河晃, 戸倉新樹, 椛島健治, 種瀬啓士, 関敦仁 ,小﨑慶介 ,桑原理充 ,宮坂実木子, 三森経世, 久松理一, 亀井宏一, 新井勝大, 堀川玲子, 工藤純, 井上永介： 分担研究報告「肥厚性皮膚骨膜症の合併症発生状況の解析(重症度分類の検討に向けて)」, 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)「肥厚性皮膚骨膜症の診療内容の均てん化に基づく重症度判定の策定に関する研究」, 平成29年度総括・分担研究報告書, 2018;4-5
3. 新関寛徳, 吉田和恵： 平成 29 年度分担報告書 厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)) 平成 29 年度研究報告書, 2018
4. 新関寛徳： 総合研究報告「肥厚性皮膚骨膜症の診療内容の均てん化に基づく重症度判定の策定に関する研究」 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)「肥厚性皮膚骨膜症の診療内容の均てん化に基づく重症度判定の策定に関する研究」, 平成27・28・29年度 総合・分担研究報告書, 2018;1-6
5. 新関寛徳, 横関博雄, 石河晃, 戸倉新樹, 椛島健治, 種瀬啓士, 関敦仁, 小﨑慶介, 桑原理充, 宮坂実木子, 三森経世, 久松理一, 亀井宏一, 新井勝大, 堀川玲子, 工藤純, 井上永介： 分担研究報告「肥厚性皮膚骨膜症全国調査による合併症実態調査(重症度判定の策定に向けて)」 総合研究報告「肥厚性皮膚骨膜症の診療内容の均てん化に基づく重症度判定の策定に関する研究」 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)「肥厚性皮膚骨膜症の診療内容の均てん化に基づく重症度判定の策定に関する研究」, 平成27・28・29年度 総合・分担研究報告書, 2018;7-10

[学会発表]

1. Sonoko SAITO, Ryo TANAKA, Noriko ONO, Noriko UMEGAKI-ARAO,Takashi SASAKI, Satomi AOKI, Rieko YASUHARA, Toshihiro NAGAI, Hideki SONOBE, Masayuki AMAGAI, Akiharu KUBO. Novel compound heterozygous mutations in a Japanese patient with Hermansky-Pudlak syndrome type 3. 7 th Joint Meeting of the Society for Skin Structure and Research(SSSR) and the Society for Cutaneous Ultrastructure Research(SCUR), Asahikawa, Japan, 2018.10.3
2. 畠中美帆, 関敦仁, 新井勝大, 和田芳雅, 種瀬啓士, 新関寛徳, 吉田和恵: 中学生で診断し得た肥厚性皮膚骨膜症の 2 例. 第 877 回東京地方会; 東京, 2018.01.20
3. 安田葉月, 高橋美咲, 福田英嗣, 植村功： 口囲中心に生じた顔面播種状粟粒性狼瘡の 1 例. 第 877 回日本皮膚科学会東京地方会, 東京, 2018.01.20
4. 橋本梨沙, 中尾寛, 川上沙織, 田中諒, 吉田和恵, 窪田満, 石黒精: 新生児における急性汎発性発疹性膿疱症の一例. 第 121 回 日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.04.22

5. 田中諒, 宮本樹里亜, 筋野和代, 福田桂太郎, 海老原全, 天谷雅行, 谷川瑛子: 自傷を契機に指趾壊疽を来した不全型ベーチェット病の 1 例. 第 117 回 日本皮膚科学会総会, 広島, 2018.05.30
6. 持丸奈央子, 吉田和恵, 福原康之, 要匡, 寺島宙, 新関寛徳: *SASH1*変異を認めた多発性黒子の 1 例 第 117 回日本皮膚科学会総会, 広島市, 2018.06.01
7. 高橋美咲, 原田侑弥, 安田葉月, 植村功, 福田英嗣: 口囲中心に生じた顔面播種状粟粒性狼瘡の 3 例. 第 117 回日本皮膚科学会総会, 広島, 2018.06.01
8. 原田侑弥, 高橋美咲, 安田葉月, 藤田聡, 福田英嗣: 頭蓋内黄色腫に合併した扁平黄色腫の 1 例. 第 117 回日本皮膚科学会総会, 広島, 2018.06.01
9. 齋藤苑子, 田中諒, 平井郁子, 中村善雄, 大内健嗣, 天谷雅行,船越建. 食道悪性黒色腫の免疫療法中に項部 nodal nevus を認めた1例. 第 879 回 日本皮膚科学会東京地方会. 2018.06.16
10. 鎌田亜紀, 田中諒, 船越建, 久保亮治, 天谷雅行, 谷川瑛子: 再発性陰部ヘルペスを契機に診断し得た選択的 IgM 欠損症の 1 例. 第 879 回日本皮膚科学会地方会. 2018.06.16
11. 小幡祥子, 川崎洋, 福島彩乃, 持丸奈央子, 関口文世, 海老原全, 久恒順三, 于連升, 菅井基行, 天谷雅行: ゲノタイプ解析を用いたアトピー性皮膚炎患者皮膚に特異的な黄色ブドウ球菌株に関する検討. 第 67 回日本アレルギー学会学術大会, 幕張, 2018.06.22
12. 小谷晋平, 中舘尚也, 阪下和美, 永井章, , 橋本玲奈, 吉田和恵, 新関寛徳, 義岡孝子, 窪田満, 石黒精: 当科で経験した皮膚限局型肥満細胞症の 6 例. 第 647 回日本小児科学会東京地方会, 東京, 2018.07.14.
13. 持丸奈央子, 田中諒, 彦坂信, 清谷知賀子, 新関寛徳, 吉田和恵: 腫瘤の自然退縮を認めた神経皮膚黒色症の 1 例 第 42 回日本小児皮膚科学会, 東京, 2018.07.14-15
14. 田中諒, 栗原佑一, 齋藤苑子, 船越建, 山上淳(慶大), 中崎寿隆(同小児科), 松崎陽平(同小児科), 天谷雅行, 久保亮治: 無症状の母から出生した新生児尋常性天疱瘡の1例. 第 42 回日本小児皮膚科学会学術大会, 東京, 2018.07.14
15. 齋藤苑子, 田中諒, 小野紀子, 梅垣知子, 青木里美, 佐々木貴史, 永井俊弘, 天谷 雅行, 久保亮治. 軽微な魚鱗癬と絞扼輪を伴わない掌蹠角化を呈し, ロリクリン遺伝子に c.802dupG 変異をヘテロに認めた父娘例. 第 69 回 日本皮膚科学会中部支部学術大会. 2018.10.27
16. 平井郁子, 持丸奈央子, 中村善雄, 海老原全, 天谷雅行, 船越建: 腹部に巨大な腫瘤を生じ原発性皮膚未分化大細胞リンパ腫と鑑別を要した菌状息肉症の大細胞転化の 1 例. 第 70 回日本皮膚科学会西部支部学術大会, 島根, 2018.11.10-11
17. 坂本謙一, 塩田曜子, 上原陽治, 大隅朋生, 寺島慶太, 加藤元博, 富澤大輔, 清谷知賀子, 持丸奈央子, 吉田和恵, 宮嵜治, 義岡孝子, 入江理恵, 伊藤裕司 松本公一: 皮疹を認めず胎児水腫と著明な肝脾腫で発症した新生児全身性若年性黄色肉芽腫の 1 例. 第 60 回日本小児血液・がん学会学術集会, 京都, 2018.11.14-16
18. 持丸奈央子, 川崎洋, 福島彩乃, 小幡祥子, 安田文世, 大橋莉子, 前大初美, 天谷雅行, 海老原全: アトピー性皮膚炎患者を対象とした自宅での外用治療状況・皮膚状態を記録するスマートフォン用アプリ"肌日記"の有用性の検討第 82 回 日本皮膚科学会東京支部総会, 東京, 2018.12.01-02
19. 安田葉月, 持丸奈央子, 金城健一, 堀川玲子, 吉田和恵: メチルマロン酸血症の治療中に腸性肢端皮膚炎様皮疹を呈した 1 例. 第 82 回 日本皮膚科学会東京支部学術大会, 東京, 2018.12.01-02
20. 田中諒, 新川宏樹, 筋野和代, 谷川瑛子: 抗 MDA-5 抗体陽性皮膚筋炎の 3 例:逆ゴットロン徴候の病理組織学的検討. 第 82 回日本皮膚科学会東京支部学術大会. 東京, 2018.12.01

[講演]

1. 新関寛徳: ご存じですか? 小児慢性特定疾病(小慢)医療費助成制度. 第 117 回日本皮膚科学会総会, 広島市, 2018.06.02
2. 吉田和恵: アトピー性皮膚炎の免疫応答と皮膚バリア. 皮膚の診療連携フォーラム 2018, 東京, 2018.06.09
3. 吉田和恵: 顔の皮膚病変の治療について. 2018/TS つばさの会, 東京, 2018.11.23.

4. 吉田和恵：小児でよくみる皮膚疾患，第 82 回日本皮膚科学会東京支部学術大会，東京，2018.12.01

[広報活動]

野崎誠：「未来のミライ」医学監修（2018 年 7 月 20 日公開）

歯科

【原著論文：査読付】(Reviewed Paper)

1. Niizeki H, Hayashi R, Naiki Y, Yoshida K, Tanaka R, Shimizu A, Terashima H, Isogawa N, Abe R, Shimomura Y.: Delayed-onset heat intolerance in a Japanese patient with X-linked hypohidrotic ectodermal dysplasia associated with a large deletion involving four genes. J Dermatol 2018;45:376-378
2. **浅見拓也, 松本力, 庄司あゆみ, 疋田理奈, 辻美千子, 馬場祥行, 森山啓司**: Williams 症候群患者における顎顔面形態と口腔内の特徴. Orthodontic Waves-Japanese Edition 2018;77:9-16
3. **馬場祥行, 阿彦希, 五十川伸崇：偽性副甲状腺機能低下症の一卵性双生児にみられた口腔内所見. 東矯歯誌** 2018;28:9-17

【著書】

1. **金沢英恵：小児がん経験者の歯の晩期合併症の実態調査に関する研究—三次元的評価項目の検討. のぞみ, がんの子どもを守る会,** 2018;193:12-13

【報告書】

1. **五十川伸崇, 中村知夫：在宅超重症児への訪問歯科診療導入モデル構築に関する研究. 成育医療研究開発事業, 平成** 29 **年度報告書,** 2018
2. **金沢英恵：小児がん治療後の歯科合併症に関する研究. 平成** 29 **年度成育医療研究開発事業, 平成** 29 **年度報告書,** 2018
3. **金沢英恵：小児がん経験者の歯科合併症の実態調査に関する研究**. NPO **法人ハートリンクワーキングプロジェクト平成** 29 **年度フォローアップ研究助成, 平成** 29 **年度フォローアップ研究助成成果報告書**, 2018

【学会発表】

1. Isogawa N, E Matsuda, Baba Y: Outcome of avulsed short root incisor replantation in Rubinstein–Taybi syndrome. The 11th Biennial Conference of the Pediatric Dentistry Association of Asia, Beijing, 2018.9.15
2. **勝又由紀, 五十川伸崇, 工藤みふね, 金沢英恵, 金田一純子, 馬場祥行：外傷により脱落した乳歯の治療法と予後を決める要素について. 第** 56 **回日本小児歯科学会, 大阪,** 2018.5.10
3. **金沢英恵, 工藤みふね, 和田奏絵, 小美濃千鶴, 世川晶子, 高橋奈津子, 五十川伸崇, 金田一純子, 宮新美智世, 馬場祥行：小児がん治療後の永久歯晩期合併症調査～第一報：パノラマエックス線写真による調査～. 第** 56 **回日本小児歯科学会, 大阪,** 2018.5.10
4. **五十川伸崇：小児総合医療施設における在宅超重症児への訪問歯科導入についてのアンケート調査. 第** 18 **回日本訪問歯科医学会, 東京,** 2018.11.4
5. **大江智可子, 五十川伸崇, 世川晶子, 馬場祥行：**Down **症候群における第3大臼歯および他歯の先天欠如について. 第** 35 **回日本障害者歯科学会大会, 東京,** 2018.11.17

【講演】

1. **金沢英恵：未来につながる歯の話. 小児がん交流フェスタ, 国立成育医療研究センター, 東京**, 2018.2.16
2. **五十川伸崇：小児病院から卒業するこどもたちの歯科治療～高度先進医療、その後～. 東京臨床小児歯科研究会春季例会, 中央大学駿河台記念館, 東京,** 2018.3.18
3. **金沢英恵：小児がん経験者の歯科合併症調査に関する研究. 第** 3 **回小児がんフォローアップ研究助成発表シンポジウム**, NST **ゆめディア, 新潟**, 2018.4.15
4. **彦坂信, 佐藤裕子, 金子剛, 桑原広輔, 中島由佳里, 今井裕弥子, 村田百子, 守本倫子, 馬場祥行：国立成育医療研究センターにおける口蓋形成術と音声言語の連携と工夫. 第** 42 **回日本口蓋裂学会, 大阪市中央公会堂, 大阪,** 2018.5.25**(シンポジウム)**
5. **金沢英恵：小児がん患児の口腔ケア. 8 西病棟口腔ケアチーム合同勉強会, 国立成育医療研究センター, 東京**, 2018.7.25

6. 五十川伸崇、世川晶子、高橋奈津子、三田浩子：VAP 予防と口腔ケア．RST 勉強会，国立成育医療研究センター，東京，2018.10.17
7. 世川晶子：小児歯科での甘味指導の実際 指導ツールの紹介．横浜歯科臨床座談会 ヨコハマブラッシング，横浜歯科臨床座談会ホール，横浜，2018.10.28

4-3-9 こころの診療部

A 紙上発表

総説

1. 奥山眞紀子：新しい社会的養育ビジョン，特集＝乳幼児のこころとそだち-Ⅱ乳幼児のそだちを支える．そだちの科学こころの科学．2018.4.15;no30:25-30
2. 奥山眞紀子：深刻化する子どもの養育環境と子育て支援のための家族政策―新しい社会的養育ビジョンの意義―，政策研究：少子化問題への処方箋，世界平和研究，平和政策研究所，2018.8.1:No.218:27-35
3. 奥山真紀子：子どもの心の発達支援　子どもの心の診療ネットワーク構築，特集　発達障害者支援の到達点－新しい支援の枠組みを考える，公衆衛生，医学書院，2018.5.15；vol.82 No.5：364-369
4. 伊藤友弥、緒方健一、奥山眞紀子、呉繁夫、高田哲、岬美穂、村山佳津美、中村友彦、中村安秀、渕向透、桃井伸緒、和田和子、千田勝一、田村正徳、清水直樹、井田孔明、細矢光亮、楠田聡：平成 28 年熊本震災で日本小児科学会から派遣された医師へのアンケート調査結果報告および、今後の日本小児科学会による被災地診療支援への取り組み，日本小児科学会雑誌，2018.9.1;vol.122:1510-5

著書

1. 奥山眞紀子：三次診療：虐待を疑ったときのマネージメント，18.被虐待児症候群，Ⅱ「症状・兆候別」総合診療の実際，窪田満（編集），スキルアップ！小児の総合医療－セイイクノスキル－，診断と治療社．2018.4.16:153-154

ガイドライン、報告書、その他

1. 奥山眞紀子，相澤仁，内ヶ崎西作，中板育美，西澤哲，溝口史剛，宮本信也：地方公共団体が行う子ども虐待事例の効果的な検証に関する研究，」平成 29 年度総括・分担研究報告書，厚生労働科学研究費補助金　政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業）「地方公共団体が行う子ども虐待事例の効果的な検証に関する研究，2018 ;1-10
2. 奥山眞紀子：地方公共団体の子ども虐待事例の効果的検証に資するマニュアル等の 作成に関する研究，平成 29 年度総括・分担研究報告書，厚生労働科学研究費補助金　政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業）「地方公共団体が行う子ども虐待事例の効果的な検証に関する研究」，2018 ；43 -60
3. 奥山眞紀子，相澤仁，内ヶ崎西作，中板育美，西澤哲，溝口史剛，宮本信也：地方公共団体が行う子ども虐待事例の効果的な検証に関する研究，平成 27～29 年度総合研究報告書，厚生労働科学研究費補助金　政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業）「地方公共団体が行う子ども虐待事例の効果的な検証に関する研究」，2018；1-9
4. 奥山眞紀子：地方公共団体の子ども虐待事例の効果的検証に資するマニュアル等の作成に関する研究，平成 27～29 年度総合研究報告書，厚生労働科学研究費補助金　政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業）「地方公共団体が行う子ども虐待事例の効果的な検証に関する研究」，2018；59-62
5. 奥山眞紀子：子どものメンタルヘルスに与える長期的影響に関する研究，平成 29 年度総括・分担研究報告書，厚生労働科学研究費補助金疾病・障害対策研究分野　成育疾病克服等次世代育成基板研究「東日本大震災後に発生した小児への健康被害への対応に関する研究」（研究代表者：呉繁夫），　2018；88-153
6. 奥山真紀子：児童福祉法改正と新しい社会的養育ビジョン，CAP ニューズ，社会福祉法人子どもの虐待防止センター，2018.春；106:1-5
7. 奥山眞紀子：「児童虐待の水際にプロ必要」と訴える医師ら 「迷わず通告」が命救う，AERA，朝日新聞出版，2018.6.25: No.28:57

B 講演

学会

1. Makiko Okuyama:Suicide attempt in children and adolescent, 16th Asia Pacific Congress of Pediatrics(APCP)2018, Bali Nusa Dua, 2018.8.26-30
2. Makiko Okuyama: Child abuse in Autism and ADHD, 16th Asia Pacific Congress of Pediatrics(APCP)2018, Bali Nusa Dua, 2018.8.26-30

講演・シンポジウム、その他

1. 奥山眞紀子：医療機関における子ども虐待への取り組み～KCAP の取り組みと地域の医療機関との連携の必要性～，乳幼児健康診査研修会，川崎市子ども未来局．川崎市．2018.2.1
2. 奥山眞紀子：子どもの心のケア～医療現場から～関係機関とのネットワークの状況について，松戸市児童虐待防止ネットワーク 平成 29 年度 Part3 医療機関ネットワーク，松戸市，2018.2.8
3. 奥山眞紀子：「支援者によるアタッチメント形成に必要な基本的な理解」「事例報告を踏まえた、改正児童福祉法における地域の役割」，困難事例検討会（学習会），渋谷区幡ヶ谷保健所，渋谷区，2018.2.15
4. 奥山眞紀子：児童福祉施設における施設内の権利擁護について，鹿児島県児童養護協議会全体研修会，鹿児島市 2018.2.16
5. 奥山眞紀子：親子関係が子どもの発達に与える影響～医療の役割～，平成 29 年度「子どもの心を考える」かかりつけ医・学校医等研修会，島根県健康福祉部障がい福祉課，出雲市 2018.2.25
6. 奥山眞紀子：事例検討会，平成 29 年度児童福祉司スーパーバイザー後期研修，公益財団法人 SBI 子ども希望財団，横浜市．2018.3.8
7. 奥山眞紀子：地域に求められている社会的養護とは，第 46 回子どもの虐待防止セミナー「妊娠期からの切れ目ない親子支援－保健医療・福祉・教育をつなぐ地域の役割－」，社会福祉法人子どもの虐待防止センター,渋谷区，2018.3.21
8. 奥山眞紀子：子どもの権利を中心とした社会的養護の全体像，子ども・専門講座 9「新たな時代の子ども家庭福祉」，公益財団法人明治安田こころの健康財団，千代田区，2018.3.24
9. 奥山眞紀子：子どもの虐待について，日本歯科医師会公開フォーラム「多職種による母子保健の推進～歯科からの提案～」，公益社団法人日本歯科医師会，東京都千代田区，l2018.5.20
10. 奥山眞紀子：施設における治療的ケアの実践と施設内虐待への取り組み，2018 年 SBI 子ども希望財団 児童養護施設職員研修，SBI 子ども希望財団，東京都江戸川区，2018.7.8
11. 奥山眞紀子：子どもの心と性の発達，子どもの心の診療ネットワーク事業中央拠点病院主催研修会「子どもの心と性」，子どもの心の診療ネットワーク事業中央拠点病院，東京都千代田区，2018.7.20
12. 奥山眞紀子：子ども虐待対応，児童福祉司等及び要保護児童対策調整機関の調整担当者研修，山梨県福祉保健部子育て支援課，笛吹市，2018.9.5
13. 奥山眞紀子：児童養護施設ケアワーカーのメンタルヘルスの問題とその対応， SBI ブロック別 児童養護施設職員リーダー研修，SBI 子ども希望財団，宮城県仙台市，2018.9.7
14. 奥山眞紀子:こどもの心の理解，松江医師会・学校保健会合同研修会，島根県松江市，2018.9.28
15. 奥山眞紀子:医療現場における子ども虐待防止のための支援の実際，医療機関と地域がつながるために，児童虐待防止推進研修事業，島根県出雲市，2018.9.29
16. 奥山眞紀子:シンポジウム「子どもが家庭で育つということ」～児童虐待への取組みと地域で子どもの育ちを支えるために～，「児童虐待・DV 防止講演会」及びシンポジウム，長野県県民文化部こども・家庭課，長野県，2018.10.13
17. 奥山眞紀子:虐待を受けた子どもの心を理解する，北関東甲信越学校保健・保健活動セミナー，中野区，2018.10.29
18. 奥山眞紀子：子どもの発達と児童虐待の影響、子どもの諸問題，児童相談所児童福祉司スーパーバイザー義務研修，子どもの虹情報研修センター，神奈川県横浜市，2018.10.31
19. 奥山眞紀子：関係機関とのネットワーク～医療機関の現場から～，児童虐待防止対策，市町村職員中央研修所，千葉市，2018.11.2
20. 奥山眞紀子：妊娠期からの虐待予防～虐待死ゼロを目指して～，子育て支援フォーラム in 福島，公益財団法人 SBI 子どもの希望財団，福島県郡山市，2018.11.10
21. 奥山眞紀子：子どもの発達課題と生活，2018 年度未成年後見人養成研修，公益社団法人日本社

会福祉会，東京都渋谷区，2018.11.11

22. 奥山眞紀子：子どもの発達と児童虐待の影響、子どもの諸問題，児童相談所児童福祉司スーパーバイザー義務研修，子どもの虹情報研修センター，神奈川県横浜市，2018.11.14
23. 奥山眞紀子：親子関係の問題とアプローチ，第 46 回東葛北部小児科臨床懇話会，柏市，2018.11.15
24. 奥山眞紀子：子ども虐待とトラウマ，全体研修会，社会福祉法人横浜いのちの電話，横浜市,2018.11.17
25. 奥山眞紀子：“子どもの最善の利益を優先して考慮した療育とは！”その 2，平成 30 年度全国里親会公開シンポジウム，公益社団法人全国里親会，金沢市，2018.11.18
26. 奥山眞紀子：質の良い里親制度を構築するために～質の高い家庭養護の養育者を増やし、支援するために私達にできること～，第 3 回埼玉県里親支援専門相談員連絡会，さいたま市，2018.12.7
27. 奥山眞紀子：子どもの虐待から守るための医療の役割，第 2677 回診療協議回，浜松市医師会，浜松市，2018.12.13
28. 奥山眞紀子：不適切な養育を受けた子どものアタッチメント形成不全とトラウマ，テーマ企画1【虐待とトラウマ】，日本小児精神神経学会第 120 回記念大会，港区，2018.12.15

乳幼児メンタルヘルス診療科

原著

英文（査読あり）

1. Tachibana Y.,Koizumi N. et al. Integrated mental health care in a multidisciplinary maternal and child health service in the community: The findings from the Suzaka trial. BMC Pregnancy and Childbirth.10.1186/s12884-019-2179-9. 2019; 19: 58.
2. Tachibana Y. et al.. Meta-analyses of individual versus group interventions for p re-school children with autism spectrum disorder (ASD). PLOS ONE. 2018 May 15;13(5):e0196272. doi: 10.1371/journal.pone.0196272. eCollection 2018.
3. Takehara K, Tachibana Y., Yoshida K, et al. Prevalence trends of pre-and postna tal depression in Japanese women: A population-based longitudinal study. Journa l of Affective Disorders 2018
4. Nishi D., Kuan-Pin Su, Usuda K., Jane Pei-Chen Chang, Yi-Ju Chiang, Hui-ting Chen, Yu-Chuan Chien, ChienTai-Wei Guu, Okazaki E.,Hamazaki K., Susukida R.,Nakaya N.,Sone T., Yo Sano, Ito H., Isaka K., Tachibana Y.,et al. Site matter s to the efficacy of omega 3 fatty acids for depressive symptoms among pregnant women in Japan and Taiwan: A randomized, double-blind, placebo-controlled tri al (SYNCHRO; NCT01948596). Psychotherapy and Psychosomatics. 2018

和文（査読あり）

1. 立花良之、「メンタルヘルス不調の母親に対する妊娠期からの切れ目のない支援のための、医療・保健・福祉の連携体制の整備について」、日本周産期メンタルヘルス学会会誌（2432-5880）4巻1号 Page23-29
2. 立花良之、西郡 秀和, 小泉 典章、「胎児虐待対応の今後の課題」、子どもの虐待とネグレクト (1345-1839)20巻1号 Page100-104(2018.05)

和文（査読なし）

1. 立花良之、「人格検査 エジンバラ産後うつ病質問票(EPDS)」、小児内科、50巻9号 1434-1437、2018
2. 立花良之、神尾陽子、「個別療育と集団療育に効果の違いはあるか?ランダム化比較対照試験のメタ解析による検討」、小児の精神と神経、(58)3,234-235、2018
3. 牧野仁、立花良之、「養育支援 養育困難 精神疾患合併妊娠の対応と母児のフォローアップ方法について」、周産期医学、48巻9号、1074-1077、2018
4. 立花良之、「発達障害を持つ母親への育児支援の重要性」、精神神経学雑誌、2018特別号 S598
5. 立花良之、「乳幼児健診で多い相談と、大切と思われるアドバイス 母親のメンタルヘルス」、小児内科、50巻6号 967-971、2018
6. 立花 良之, 宮崎セリーヌ, 大田えりか, 森臨太郎, 黄淵熙, 寺坂明子, 小林絵理子, 神尾陽子、「自閉スペクトラム症の早期療育プログラム効果についてのメタアナリシスによる検討」、小児の精神と神経、58巻1号 76-77、2018

ガイドライン

立花が日本精神神経学会・日本産科婦人科学会（編）「（仮称）精神疾患を合併した、或いは合併の可能性のある妊産婦の診療ガイドライン」の編集委員・執筆担当者として、岸本が執筆担当者として2018年より携わっている。

研究報告書

1. 立花良之、小泉典章、山縣然太朗、松田妙子、秦健一郎、梅原永能、水元深喜、AMED 成育疾患克服等総合研究事業-BIRTHDAY「周産期メンタルヘルスの改善に向けた予防的治療介入法の開発 －産婦自殺・母子心中をゼロにする地域母子保健システムの確立—」平成30年度研究報告書
2. 立花良之、小泉典章、山縣然太朗、松田妙子、山崎嘉久、鈴木俊治、齋藤尚大、厚生労働科学研究費補助金健やか次世代育成総合研究事業（成育疾患克服等次世代育成基盤（健やか次世代育成総合研究事業））「健やかな親子関係を確立するためのプログラムの開発と有効性の評価に関する研究」平成30年度総括・分担研究年度終了報告書
3. 立花良之、文部科学省科学研究費補助金 基盤 C「妊娠中や授乳中における精神科治療の意思決定支援システムの開発と有効性に関する研究」平成30年度研究報告書

4. 立花良之、成育医療研究開発費事業（H29-19C）「妊娠期から始まる、自閉スペクトラムの母親とその子どもへの支援及びそれに関係する心理社会的因子についての疫学研究」平成 30 年度研究報告書
5. 岸本真希子、文部科学省科学研究費補助金　基盤 C「自閉症児に対する新しい療育 RDI（対人関係発達指導法）の効果検証」平成 30 年度研究報告書

学会発表
国際学会
1. Tachibana Y. Japanese Women's Perinatal Mental Health: Perspectives from the National Cohort Study in Tokyo. (Symposium). 2018 The International Marcé Society for Perinatal Mental Health (Bangalore, India)

国内学会
1. 立花良之、発達障害特性を持つ母親への支援の重要性、シンポジウム、第114回日本精神神経学会総会、平成30年6月23日、神戸
2. 立花良之、竹原 健二、掛江 直子、三上 剛史、森 臨太郎、大田 えりか、小泉 智恵、奥山 眞紀子、久保 隆彦、乳児虐待のリスク因子である妊婦の衝動コントロールの困難さと発達障害傾向について、口頭、第 10 回日本子ども虐待医学会学術集会 in かがわ、平成 30 年 8 月 4 日、高松
3. 立花良之、竹原 健二、掛江 直子、三上 剛史、森 臨太郎、大田 えりか、小泉 智恵、久保 隆彦、妊娠期から予測する産後の養育不全傾向・養育不全のリスク因子について、ポスター、第 15 回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会、平成 30 年 10 月 28 日、大分
4. 岸本真希子、酒本真次、岡久祐子、高木学、山田了士、ストレスチェック制度の有効活用に向けた勤労者の精神疾患発症リスクに関連する神経心理学的特性の検討、ポスター、第114回日本精神神経学会学術総会2018年6月22日、神戸

講演
立花が自治体・医師会を対象に周産期メンタルケアの研修会を開催した。
2月8日　長野県研修会、5月24日　山梨県保健師会、7月12日　山梨県富士・東部保健所、7月26日　山梨県中北保健所、7月28日　長野県看護協会研修会、8月16日　山梨県富士・東部保健所山梨県峡北支所、8月23日　山梨県峡東保健所、8月27日　山梨県中北保健所、9月13日　山梨県中北保健所研修会、9月20日　長野県研修会、10月15日　山梨中北保健所研修会、10月22日　山梨県中北保健所研修会、10月26日　長野県小諸市研修会・長野県東御市研修会、11月1日　長野県軽井沢町研修会・長野県須坂市研修会、1月24日　山梨県愛育会研修会、2月23日　長野県精神病院協会研修会
その他の自治体：計9回
2月18日　神奈川県医師会、2月22日　宮城県研修会、平成30年3月8日　横浜市研修会、3月15日　岡山県研修会、7月24日　海老名産婦人科医会研修会、8月9日　東京都研修会、10月10日　東京産婦人科医会多摩ブロック研修会
団体の研修会：計3回
8月22日　日本家族計画協会研修会（東京）、9月8日　日本家族計画協会研修会（博多）、11月29日　愛育会研修会

岸本真希子、「関係性を見つめ直し、関係性の再構築を目指した療育支援」、金沢市、平成30年5月19日

広報
立花の研究成果が下記のマスコミ報道で取り上げられた。
朝日新聞：平成30年11月27日
毎日新聞：平成30年11月20日
下野新聞：平成30年7月19日

児童・思春期メンタルヘルス科

[原著論文:査読付](Reviewed Paper)

1. Stigma associated with autism among college students in Japan and the United States: An online training study. Someki F, Torii M, Brooks PJ, Koeda T, Gillespie-Lynch K. Res Dev Disabil. 2018 May;76:88-98. doi: 10.1016/j.ridd.2018.02.016.
2. Intelligence test at preschool-age predicts reading difficulty among school-aged very low birth weight infants in Japan. Takeuchi A, Ogino T, Koeda T, Oka M, Yorifuji T, Takayanagi T, Sato K, Sugino N, Bonno M, Nakamura M, Kageyama M. Brain Dev. 2018 Oct;40(9):735-742. doi: 10.1016/j.braindev.2018.05.002.

[原著論文:査読なし]

なし

[症例報告]

1. Dyslexia と誤診されていた先天性眼球運動失行症の 1 例(会議録/症例報告) 黒神 経彦, 小枝 達也, 秦 健一郎 脳と発達 (0029-0831)50 巻 3 号 Page218(2018.05)
2. 発達障害を主訴とし、代理ミュンヒハウゼン症候群との類似性があった育児困難の 2 症例(原著論文/症例報告) 山口 有紗, 柳楽 明子, 小枝 達也, 奥山 眞紀子 小児の精神と神経 (0559-9040)58 巻 2 号 Page141-146(2018.07)
3. 急激退行と誤診された統合失調症のダウン症候群 11 歳女児例(原著論文/症例報告) 多門 裕貴, 小枝 達也 発達障害研究 (0387-9682)40 巻 3 号 Page265-271(2018.08)

[総説]

1. 発達障害幼児の診断と治療 健診での気付きと対応(解説) 小枝 達也 日本医師会雑誌 (0021-4493)147 巻 3 号 Page578-581(2018.06)
2. 【LD(学習障害)を支援する】国立成育医療研究センターディスレクシア外来の紹介(解説/特集) 小枝 達也 チャイルド ヘルス (1344-3151)21 巻 6 号 Page444-445(2018.06)
3. 【小児科医ができる発達検査・心理検査】発達障害の検出に活用する検査 比喩皮肉文テスト(解説/特集) 小枝 達也, 多門 裕貴, 黒神 経彦 小児内科 (0385-6305)50 巻 9 号 Page1410-1413(2018.09)
4. (第 2 回)多職種のための投稿論文書き方セミナー 投稿論文の文章構成(解説) 小枝 達也 小児保健研究 (0037-4113)77 巻 6 号 Page635-637(2018.11)

[著書] なし

[ガイドライン、報告書、その他]

1. 「乳幼児健康診査 身体診察マニュアル」 平成 29 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業 乳幼児健康診査のための「保健指導マニュアル(仮称)」及び「身体診察マニュアル(仮称)」作成に関する調査研究 2018 年 3 月
2. 就学時の健康診断マニュアル 学校保健会 平成 29 年度改訂
3. 乳幼児健康診査のための「保健指導マニュアル(仮称)」及び「身体診察マニュアル(仮称)」作成に関する調査研究報告書 平成 29 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業 研究代表者小枝達也
4. 算数障害・コミュニケーション障害の診断メニュー作成:ASD 併存例の特徴 分担研究者 小枝達也 研究協力者 多門裕貴, 前垣義弘, 大羽沢子, 関あゆみ, 後藤亜矢子 平成 30 年度精神・神経疾患研究開発費(29-6)「発達障害の治療法の確立をめざすトランスレーショナルリサーチ」研究代表者一戸紀孝

[学会発表]

1. 発達性読み書き障害の診断と治療 小枝達也 第 42 回北海道児童青年精神保健学会 教育講演 2018 年 2 月 4 日

2. 発達障害の小児に対する学習支援. 小枝達也 第 9 回日本 ADHD 学会 教育講演1 東京、2018 年 3 月 3 日
3. 発達障害の二次障害としての心身症（適応障害） -脳科学の臨床への応用- 第 9 回日本小児新進医学会 関東甲信越地方会 教育講演 千葉 2018 年 3 月 18 日
4. 発達性読み書き障害の診断と治療. 小枝達也 長崎県小児科医会 特別講演 2017 年 4 月 22 日
5. Diagnosis and treatment for developmental disorders Koeda T 紫禁城国際小児薬安全使用 symposium 2018 年 5 月 11 日 北京
6. 総合シンポジウム4 子どもの環境と精神神経発達 小枝達也 第 119 回日本小児科学会 札幌 2018 年 5 月 18 日
7. Cohort Study for early detection of ASD: Trajectory of Preferential looking in 2-3 years-olds（視覚選好性を応用した自閉スペクトラム症の早期発見に関するコホート研究：ハイリスク群 2－3 歳の trajectory） 小枝達也 大羽沢子 前垣義弘 第 60 回日本小児神経科学会 東京 2018 年 5 月 31 日
8. Dyscalculia の診断に向けた新しい検査法の開発に関する研究 大羽沢子、小枝達也、前垣義弘. 第 60 回日本小児神経科学会 東京 2018 年 6 月 1 日
9. 健診で気づかれる発達障害幼児とその後の指導 小枝達也 三鷹市医師会小児科医会学術講演会 2018 年 7 月 10 日
10. 健診で気づかれる発達障害幼児とその後の指導 小枝達也 千葉県小児科医会学術講演会特別講演 2018 年 7 月 21 日

[講演・セミナー・研修]

1. 発達障害の診断と治療のエッセンス 小枝達也 福島県県中・県南保健福祉事務所発達障がい児支援者スキルアップ研修 2018 年 1 月 13 日
2. 自閉スペクトラム症の理解と対応 小枝達也 国立成育医療研究センター看護部トピックス研修会 2018 年 1 月 19 日
3. ディスレクシアとその対応 小枝達也 第2回多職種のための発達障害の研修会 2018 年 1 月 21 日
4. 発達性読み書き障害の診断と治療 小枝達也 横浜市総合リハビリテーションセンター療育研修会 2018 年 2 月 1 日
5. 小児発達障害の臨床像について 小枝達也 第 12 回妊娠と薬情報センター業務研修会 2018 年 2 月 10 日
6. 発達障害幼児の診断と治療 －健診での気づきとその後の対応－ 小枝達也 2018 年 2 月 18 日
7. 発達障害医療のエッセンス 小枝達也 第 6 回 医療連携定期学術講演会 2018 年 2 月 28 日
8. 学習障害の診断と治療 小枝達也 第 12 回プライマリケア医のための子どもの心の診療セミナー 2018 年 3 月 5 日
9. 読み書きに困難がある子どもの見立てと指導 小枝達也 第49回尾道発達障害児支援フォーラム 2018 年 3 月 17 日
10. 意外と身近な学習障害－診断と指導の実際－ 小枝達也 第 3 回北区発達ネットワーク勉強会 2018 年 4 月 6 日
11. 健診で気づく発達障害の幼児とその後の支援 小枝達也 第 67 回群馬県小児科医会講演会 2018 年 4 月 14 日
12. 発達と行動が気になる子への対処について 小枝達也 発達と行動が気になる子への対処について 成育新入職看護師研修 2018 年 4 月 17 日
13. 脳科学から見るコミュニケーション 小枝達也 鳥取大学医学部ヒューマン・コミュニケーション 2018 年 4 月 26 日
14. 脳科学から読み解く子どもの発達と発達障害 小枝達也 第 20 回「子どものこころ」研修会 2018 年 5 月 20 日
15. 発達障がいの幼児をどのように受け入れるか？ ～その後の成長を見てきたものからのメッセージ～ 中国地区私立幼稚園教育研修会 2018 年 8 月 23 日
16. 発達障害診療のピットフォールとエッセンス 小枝達也 慶応義塾大学発達障害診療勉強会

2018 年 7 月 12 日
17. 脳科学から読み解く発達障害　小枝達也　第 5 回成育サマーセミナー　2018 年 7 月 29 日
18. 発達障害の幼児に対する見立てと支援　～育てにくさに寄り添う視点から～　小枝達也　鳥取県障害児保育研修会　2018 年 8 月 4 日
19. 発達性読み書き障害のすべて～T 式ひらがな音読支援による理論と実践～　小枝達也　第1回仙台市発達障害多職種セミナー　2018 年 8 月 11 日
20. 子どもの心の診療ネットワーク事業　～発達障害医療の均てん化と教育との連携をめざして～　小枝達也　第 32 回成育臨床懇話会　2018 年 9 月 1 日
21. 発達性読み書き障害の診断と治療～T 式ひらがな音読支援による理論と実践～　小枝達也　日本臨床心理士会　定例研修会Ⅰ　2018 年 10 月 14 日
22. 発達障害のある子どもの見立てと支援　小枝達也　第2回ハッチネットセンター　2018 年 9 月 6 日
23. 発達性読み書き障害の診断と治療　小枝達也　第 16 回小児神経学入門講座　2018 年 9 月 15 日
24. 発達性読み書き障害のすべて　小枝達也　千葉県言語聴覚士会研修会　2018 年 10 月 14 日
25. 健診で気づく発達が気になる子へのアプローチ　小枝達也　群馬県小児保健学会　小児保健に関する講演会　2018 年 10 月 17 日
26. 乳幼児療育と教育をつなぐ～母子保健から療育視して教育へ～　小枝達也　全国発達支援通園事業連絡会　第 22 回全国大会 in 秋田 2018 年 10 月 20 日
27. 幼児期の発達障害．小枝達也　愛育会保健師講習会　2018 年 10 月 18 日
28. 新しく変わった就学時健診　小枝達也　第 109 回 東京都小児科医会学術講演会　2018 年 10 月 21 日
29. ことばに親しむ土壌をつくる～学習やコミュニケーションの基盤となることばの力を育む～　小枝達也　鳥取市「ことばの発達」に関する講演会　2018 年 10 月 27 日
30. 発達性読み書き障害のすべて　小枝達也　平成 30 年度中野区医師会小児学校保健会研修会　2018 年 11 月 1 日
31. 発達障害の小児に対する学習支援　小枝達也　富山県発達障害研究会　2018 年 11 月 10 日
32. 発達障害の早期発見と早期支援　小枝達也　平成 30 年度富山県発達障害研究会　2018 年 11 月 10 日
33. 幼児期の発達障害児の早期発見と早期診断の意義　小枝達也　石川県発達障害早期発見・早期支援関係者セミナー　2018 年 11 月 18 日
34. 発達障害診療のピットフォールとエッセンス　小枝達也　第 31 回城東小児神経懇話会　2018 年 12 月 5 日
35. 発達障害の子に対する学びの支援　小枝達也　岐阜県発達障害研修会　2018 年 12 月 8 日
36. どの子も育つ　～特別支援という視点からの子ども理解～　小枝達也　都私幼研第2回園長・主幹研修会　2018 年 12 月 13 日
37. ちょっと気になる子の見立てと支援～その後の成長を見てきたものからのメッセージ～　小枝達也　久米島発達障害に関する研修会　2018 年 12 月 22 日
38. 子どもを健やかに育むために親にできること～すくすくコホート研究の結果より～　小枝達也　第 15 回大田区子どもフォーラム　2018 年 7 月 14 日

児童・思春期リエゾン診療科

①原著　査読あり

1. Mitomo S, Hosozawa M, Yoshikawa N, Tanaka K, Shimizu T. Bayley-III and subsequent cognitive function in very-low-birthweight children Juntendo Medical Journal, in press. 2018
2. Hatta K, Hosozawa M, Tanaka K, Shimizu T. Exploring Traits of Autism and Their Impact on Functional Disability in Children with Somatic Symptom Disorder. J Autism Dev Disord. Epub 2018 Sep 18.
3. 永田雅子，田中恭子，船戸正久，舟本仁一，江原伯陽，宮田章子，荒井洋，石井光子，植松悟子，江原朗，栗原まな，是松聖悟，側島久典，南条浩輝，森俊彦，渡辺章充，渡辺晋一，星野陸夫，大竹明，齋藤伸治，小児医療委員会療養環境小委員会．小児医療領域における大学の倫理的教育の現状と課題．日本小児科学会雑誌 122：967-972. 2018

②原著　査読なし

③症例報告

1. 成相諒子，亀井宏一，余谷暢之，加納優治，小椋雅夫，久保田雅也，塩田曜子，田中恭子，前田浩利，石黒精，石倉健司．生体腎移植後末期腎不全に陥ったが腎代替療法を行わなかった結節性硬化症の一例．日本小児腎不全学会 38:242-244. 2018.　査読あり

④総説

1. 田中恭子，永田雅子，辻井弘美，濱田純子，古荘純一．小児医療におけるコンサルテーション・リエゾンの重要性と課題．日本小児科学会雑誌 122:1669-1676. 2018
2. 田中恭子．【How to Follow-up Q&A-2018 アップデート】評価と対応　乳幼児期の発達評価　新版 K 式発達検査、Bayley 検査法などについて教えてください．周産期医学 48:1185-1189.2018
3. 田中恭子．【How to Follow-up Q&A-2018 アップデート】評価と対応　極低出生体重児の学童期以降のフォローアップ　学童期の知的能力の評価方法　Wechsler、KABC-II、Vineland-II などについて解説してください．周産期医学 48:1205-1209. 2018
4. 田中恭子．【小児医療・療育の現場で働く心理職のためのミニマルエッセンス】（第 2 章）小児医療・療育の職場はどんなところ？ 子どもの権利　小児医療の現場から．小児の精神と神経 58（増）：43-46. 2018
5. 田中恭子．【思春期を診る!】総論 思春期心性とは．小児科 59:487-495. 2018
6. 田中恭子．【けいれん・意識障害】精神心理疾患　機能性疾患（解離性障害）．小児内科 50:723-726. 2018
7. 田中恭子．【Well Baby のための乳幼児健診】健診の学び方　知識を学ぶ、スキルを学ぶ．小児内科 50:896-902. 2018
8. 田中恭子．実践講座　乳幼児健診(4) 4 歳児,5 歳児健診のポイント　子どもの発達に焦点をあてて．総合リハビリテーション 46:159-163. 2018
9. 田中恭子．実践講座　乳幼児健診(5) 子どものヘルススーパービジョンとしての健診　米国の Bright Futures を参考に．総合リハビリテーション 46:255-260. 2018
10. 田中恭子．実践講座　乳幼児健診 乳幼児健診のポイント　子どもの発達に焦点をあてて 1 歳，1 歳半，2 歳，3 歳の健診での評価．総合リハビリテーション 46:53-58. 2018
11. 田中恭子．子どもの権利と療養　小児における臨床倫理．日本小児科学会雑誌 122:584-593. 2018

⑤著書

⑥ガイドライン、研究報告書、その他

1. 田中恭子，坂下和美．一歩進んだ健診を目指して：～子どものヘルススーパービジョンとしての健診～　乳幼児健康診査　身体診察マニュアル　　平成 29 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業　乳幼児健康診査のための「保健指導マニュアル（仮称）」及び「身体診察マニュアル（仮称）」作成に関する調査研究　国立成育医療研究開発法人国立成育医療研究センター．2018
2. 田中恭子．ヘルス・リテラシーの獲得を目的とした移行支援基本プログラムの作成．（分担研究：田中恭子）．平成 30 年度難治性疾患政策研究事業「小児期発症慢性疾患を持つ移行期患者が疾患の個別性を超えて成人診療へ移行するための診療体制の整備に向けた調査研究」（研究代表者：窪田満）．2018

3. 田中恭子. 療養環境におけるロボット介在療法が慢性疾患を有する子どもと家族に与える癒し効果の検証.(研究代表者:田中恭子). 平成 30 年度成育医療開発研究費. 2018
4. 田中恭子. 慢性疾患により長期療養を要する子どの愛着の検討と介入プログラムの開発. (分担研究者:田中恭子). 平成 30 年度成育疾患克服等総合研究事業(AMED)「ADHD または慢性疾患を持つ児への成育環境の影響を測定するマルチモーダル MRI 神経ネットワーク指標の開発 —Child Attachment Interview による愛着分類を用いて」(研究代表者:石井礼花). 2018
5. 田中恭子. 心の発達分野における人工知能(AI)の活用. (分担研究者:田中恭子). 平成 30 年度成育疾患克服等総合研究事業(AMED)「小児・周産期病院における AI ホスピタル機能の実装に基づく実証研究」(研究代表者:五十嵐隆). 2018

⑦ 学会発表

1. 田中恭子. 鶴丸靖子. 牧野仁. 山口有紗. 三木崇弘. 小枝達也. 奥山眞紀子. 小児医療における心理社会的アセスメントとその支援の重要性. 口演 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡. 2018.4.20
2. 田中恭子. 子どもの自立を支える移行期医療 シンポジウム:移行期医療の現状と課題. 第 121 回日本小児科学会学術集会シンポジウム, 福岡. 2018.4.22
3. 田中恭子. 発達の多様性～Bio-Psycho-Social からみた理解と支援～. 第 60 回日本小児神経学会学術集会シンポジウム4, 幕張. 2018.6.1
4. 田中恭子. 小児医療における心理社会的支援の必要性. 第 52 回日本小児内分泌学会シンポジウム4, 東京. 2018.10.4
5. 田中恭子. 小児のCL～育てにくさのモデルに基づいた今後の課題と展望～. 第 59 回児童青年精神医学会シンポジウム 7, 東京. 2018.10.14

⑧講演

1. 田中恭子. 子どもの声を聴く～身体症状の裏に潜むこころの傷～. 富山県医師会虐待研修, 富山. 2018.1.13
2. 田中恭子. 子どもの意思決定支援における現状と課題. 第 11 回日本小児科学会倫理委員会公開フォーラム, 東京. 2018.2.12
3. 田中恭子. 療養と子どもの権利. 子どもの権利総合研究所シンポジウム, 東京. 2018.2.17
4. 田中恭子. 移行期患者の問題 —こころの視点から—. 患者と家族を中心にしたトランジション医療 成育医療研究センターグランドラウンド, 東京. 2018.4.9
5. 田中恭子. 移行期患者の問題 —こころの視点から— 患者と家族を中心にしたトランジション医療. 成育医療研究センターグランドラウンド, 東京. 2018.4.9
6. 田中恭子. 市民公開講座「育てにくさ」への対応ー発達障害、不登校、いじめ対策として－不登園・不登校の兆しへの対応. 第 122 回小児科学会学術集会, 福岡. 2018.4.22
7. 田中恭子. 子どものアセスメント. 子ども療養支援士養成講座前期. 2018.4.26
8. 田中恭子. 子どもの神秘 小児医療の現場から. 難病のこども支援全国ネットワーク プレイリーダー養成講座, 東京. 2018.5.17
9. 田中恭子. 思春期心性の理解と支援. 第 2 回 Heart to Heart Forum, 大阪. 2018.7.1
10. 田中恭子. 夜尿症～心理社会的アセスメントとその支援を考える～. 第 29 回日本夜尿症学会, 横浜. 2018.7.14
11. 田中恭子. 小児の特性～小児医療の現場から～. M1 医の人間学講義. 2018.7.6
12. 田中恭子. JR-141-301 による発達評価. JR-141 Investigators Meeting,東京. 2018.7.21
13. 田中恭子. デンバーⅡ講習会. デンバーⅡ講習会, 東京. 2018.9.22
14. 田中恭子. 自立を見据えた移行支援. AMED 難病班22q11. 2欠失症候群統合的支援研究第 1 回班会議, 東京. 2018.9.24
15. 田中恭子. 介入の効果. 子ども療養支援士養成講座後期. 2018.9.27
16. 田中恭子. 子どもの神秘 小児医療の現場から. 難病のこども支援全国ネットワーク プレイリーダー養成講座, 東京. 2018.10.18
17. 田中恭子. 小児医療における子どもの権利を考える～ライフステージに沿った療養支援～. 第 141 回日本小児科学会栃木県地方会, 小山. 2018.11.25

⑨広報

1. 田中恭子 成長と発達のため不可欠 医療ルネッサンス 子どもを守る遊び 2018.2.27 読売新

聞
2. 田中恭子　中村和昭　五十嵐隆　矢部雄平　エンタテインメントロボット“aibo”（アイボ）による介在療法が 慢性疾患を有する小児に与える癒し効果の検証を開始　プレスリリース 2018.11.29
3. 「aibo」で入院中の子どもの不安和らげる研究始まる　NHK ニュース 2018.11.29
4. 療養中の子ども、「aibo」の癒やし効果は？--ソニーら、小児医療現場で検証　Japan net 2018. 11.29
5. ソニー、「aibo」癒やし効果検証　小児患者向け　Nikkei com. 2018.11.29
6. 長期入院の子　aibo で癒し　読売新聞 2018. 12.3
7. 田中恭子　シリーズ　子どもの権利　小児医療の現場から①　はらっぱ　子ども情報研究センター 2018. 2. 19
8. 田中恭子　シリーズ　子どもの権利　小児医療の現場から②　はらっぱ　子ども情報研究センター 2018. 5.20
9. 田中恭子　シリーズ　子どもの権利　小児医療の現場から③　はらっぱ　子ども情報研
10. 究センター　2018. 8. 20
11. 田中恭子　シリーズ　子どもの権利　小児医療の現場から④　はらっぱ　子ども情報研究センター 2018. 11. 20
12. 田中恭子　アタッチメンとの課題とレジリエンス　月間　母子保健　2018. 9 月号
13. 田中恭子　小児慢性特定疾病事業のお知らせ　成育だより　Vol. 11.　2018
14. 田中恭子　病児の遊びとおもちゃ　成育だより Vol.10.2018.

こころの診療部　心理療法士

[原著論文：査読付]（Reviewed Paper）

1. Mizumoto M, Tachibana Y: Loss of fantasy as a cause of postpartum blues of primipara. International Journal of Psychology Research 2018;12:53-60
2. Mizumoto M, Tachibana Y: Assessment and intervention for perinatal bonding disorder. International Journal of Child Health and Human Development 2018;11:271-280
3. 水本深喜：青年期後期の子の親との関係―精神的自立と親密性からみた父息子・父娘・母息子・母娘間差―. 教育心理学研究　2018；66：111－126
4. 柳楽明子：思春期の自閉症スペクトラム障害者への水平的関与を通した心理的支援. 青年期精神療法　2018；14(1)

[著書]

1. 水本深喜：親子関係の尺度. 高坂康雅（監修），ノードとしての青年期，ナカニシヤ出版，2018；86－87

[ガイドライン、報告書、その他]

1. 水本深喜：子どもの頃の家族関係が青年後期・成人期のメンタルヘルスに与える影響Ⅱ親子ペアデータの検討，平成 29 年度厚生労働科学研究費補助金（健やか次世代育成総合研究事業），研究協力者報告書，2018

[総説]

1. 水本深喜，立花良之：母親のメンタルヘルスと愛着形成：ボンディング障害，月刊母子保健 6 月号，2018；11

[学会発表]

1. 柳楽明子,引土達雄,辻井弘美：思春期発達障害者の適応状態および親子関係の調査. 第 59 回日本児童青年精神医学会総会，東京. 2018.10.12

[講演、広報活動]

1. 引土達雄：小児がん看護セミナー「家族支援について」講演，国立成育医療研究センター講堂，2018.1.20
2. 柳楽明子：雑誌　母子保健 第 707 号，「ペアレントトレーニングと親支援」インタビュー記事掲載，2018.3
3. 田中恭子，鈴木綾，松元和子：平成 30 年度東京都小児慢性特定疾病児童等自立支援事業・相互交流支援事業 「慢性疾病をもつ子の“育ち”のために」 シリーズ（1）（4）「成長と発育に不可欠な“遊び”」講演、ファシリテーター・相談ブース，国立成育医療研究センター講堂，2018.7.4、12.8
4. 田中恭子，辻井弘美，松元和子：第 6 回日本子ども療養支援研究会「子どもの力を感じよう」「子どもの力をアセスメントする～心理士の立場から～」シンポジスト，東京家政大学，2018.7.1

4-3-10 手術・集中治療部

[原著論文]

1. Tsuboi N, Abe M, Matsumoto S, Nishimura N, Nakagawa S: The Effect of Clinical Experience on the Learning Curve of Pediatric Intensive Care Unit Residents for the Central Venous Catheter Placement Procedure. Journal of Pediatric Intensive Care 2018;7:39-42
2. Ohshimo S, Shime N, Nakagawa S, Nishida O, Takeda S and Committee of the Japan ECMO project : Comparison of extracorporeal membrane oxygenation outcome for influenza-associated acute respiratory failure in Japan between 2009 and 2016. J Inensive Care 2018;6:38.
3. Toyama S, Shimoyama N, Szeto HH, Schiller PW, Shimoyama M: Protective Effect of a Mitochondria-Targeted Peptide against the Development of Chemotherapy-Induced Peripheral Neuropathy in Mice. ACS Chem Neurosci, 2018;9(7):1566-1571
4. Toyama S, Shimoyama N, Tagaito Y, Nagase H, Saitoh T, Yanagisawa M, Shimoyama M:Nonpeptide Orexin-2 Receptor Agonist Attenuates Morphine-induced Sedative Effects in Rats. Anesthesiology 2018;128(5):992-1003
5. Tsuboi N, Hiratsuka M, Kaneko S, Nishimura N, Nakagawa S, Kasahara M, Kamikubo T: Benefits of early mobilization after pediatric liver transplantation. Pediatr Crit Care Med 2018 [Epub ahead of print].
6. Kamijo Y, Kanda E, Horiuchi H, Kounoue N,Ono K, Maeda K,Yanai A, Honda K,Tsujimoto R, Yanagi M, Ishibashi Y, Yoshida M:Continuous nonitoring of blood pressuer by analyzing the blood flow sound of arteriovenous fisrula in hemodialysis patients. Clin Exp Nephrol 2018; 22: 677-683
7. **森由美子, 佐藤正規, 山下陽子, 遠山悟史, 鈴木康之: 硬膜外無痛分娩から帝王切開へ移行した症例の麻酔方法についての後方視的検討. 麻酔** 2018;67:1269-1275

[症例報告]

1. **福政宏司, 辻聡, 中川聡: 小児救急外来での** high flow nasal cannula **の使用経験. 日救急医会誌** 2018;29:18-24

[総説]

1. **中川聡: ここが知りたい!**PICS **小児~小児の** PICS **で現在わかっていること~. 呼吸器ケア** 2018;84-87
2. **中川聡:** Apparent life-threatening events(ALTE) **と** brief resolved unexplained events(BRUE). **小児外科** 2018;50:738-740
3. **佐藤正規, 鈴木康之: 胎児治療(子宮内手術)の麻酔管理. 日臨麻会誌** 2018;38:548-555
4. **井手健太郎, 西村奈穂, 中川聡, 笠原群生: 小児急性肝不全に対するアフェレシス. 日本アフェレシス学会雑誌** 2018; 37: 139-145
5. **鈴木康之: 在宅人工呼吸療法. 小児科診療** 2018;82(1):109-114
6. **中川聡: 小児の敗血症で気をつけること. 救急・集中治療** 2018;30:801-806
7. **新原朗子, 中川元文, 狩谷伸享, 丸山由起子, 大畑めぐみ, 山下陽子, 佐藤正規, 田村高子: 症例カンファレンス** CSEA **後神経障害の既往のある妊婦(解説). LiSA** 2018;25(12):1237-52

[著書]

1. **松本正太朗:** Ⅱ**「症状・微候別」総合診療の実際** 2 **喘鳴・呼吸困難 三次診療:**ICU **入室の適応と** ICU **での治療. 窪田満(編), スキルアップ!小児の総合診療, 診断と治療社,** 2018;22-25
2. **西村奈穂:** Ⅱ**「症状・微候別」総合診療の実際** 4**意識障害 三次診療:**ICU **入室の適応と**ICU **での治療. 窪田満(編), スキルアップ!小児の総合診療, 診断と治療社,** 2018;38-40
3. **青木智史:** Ⅱ**「症状・微候別」総合診療の実際** 5**熱中症 三次診療:**ICU **入室の適応と**ICU **での治療. 窪田満(編), スキルアップ!小児の総合診療, 診断と治療社,** 2018;46-48

4. 儀間政文： Ⅱ「症状・微候別」総合診療の実際 9 悪心・嘔吐・下痢 三次診療:ICU 入室の適応と ICU での治療． 窪田満(編)， スキルアップ！小児の総合診療， 診断と治療社，2018；76-79
5. 井手健太郎： Ⅱ「症状・微候別」総合診療の実際 12 ショック 二次診療:入院時の鑑別診断と初期治療． 窪田満(編)， スキルアップ！小児の総合診療， 診断と治療社，2018；99-101
6. 井手健太郎： Ⅱ「症状・微候別」総合診療の実際 12 ショック 三次診療:ICU 入室の適応と ICU での治療． 窪田満(編)， スキルアップ！小児の総合診療， 診断と治療社，2018；102-104
7. 壷井伯彦： Ⅱ「症状・微候別」総合診療の実際 16 胸部外傷・腹部外傷 三次診療:ICU 入室の適応と ICU での治療． 窪田満(編)， スキルアップ！小児の総合診療， 診断と治療社，2018；137-139
8. 佐藤正規，鈴木康之： 第 4 章 胎児治療(子宮内手術)の麻酔管理． 日本臨床麻酔学会 稲垣喜三，齊藤洋司(編)， 臨床麻酔実践シリーズ 10 産科麻酔， ライフメディコム， 2018；33-42
9. 遠山悟史： 頭蓋骨早期癒合症． 宮部雅幸,川名信(編)， カンファでおさえる小児麻酔， 克誠堂出版， 2018；87-95
10. 鈴木康之： 気道異物． 宮部雅幸,川名信(編)， カンファでおさえる小児麻酔， 克誠堂出版，2018；105-114
11. 松本正太朗： 小児の呼吸の特徴． 日本小児集中治療研究会(編)， 呼吸管理，メディカル・サイエンス・インターナショナル， 2018；3-14
12. 鈴木康之： 気管切開の適応・管理． 日本小児集中治療研究会(編)， 呼吸管理，メディカル・サイエンス・インターナショナル， 2018；81-88
13. 中川聡： 小児の急性呼吸窮迫症候群の特徴． 日本小児集中治療研究会(編)， 呼吸管理，メディカル・サイエンス・インターナショナル， 2018；123-127

[ガイドライン]

1. Nishida O, Ogura H, Egi M, Fujishima S, Hayashi Y, Iba T, Imaizumi H, Inoue S, Kakihana Y, Kotani J, Kushimoto S, Masuda Y, Matsuda N, Matsushima A, Nakada T, Nakagawa S, Nunomiya S, Sadahiro T, Shime N, Yatabe T, Hara Y, Hayashida K, Kondo Y, Sumi Y, Yasuda H, Aoyama K, Azuhata T, Doi K, Doi M, Fujimura N, Fuke R, Fukuda T, Goto K, Hasegawa R, Hashimoto S, Hatakeyama J, Hayakawa M, Hifumi T, Higashibeppu N, Hirai K, Hirose T, Ide K, Kaizuka Y, Kano T, Kuroda H, Matsuda A, Matsumoto S, Nagae M, Onodeera M, Ohnuma T, Oshima K, Saito N, Sakamoto S, Sakuraya M, Sasano M, Sato N, Sawamura A, Shimizu K, Shirai K, Takei T, Takeuchi M, Takimoto K, Taniguchi T, Tatsumi H, Tsuruta R, Yama N, Yamakawa K, Yamashita C, Yamashita K, Yoshida T, Tanaka H, Oda S: The Japanese practice guidelines for management of sepsis and septic shock 2016 (J-SSCG 2016). J Intensive Care 2018; 6:7
2. Nishida O, Ogura H, Egi M, Fujishima S, Hayashi Y, Iba T, Imaizumi H, Inoue S, Kakihana Y, Kotani J, Kushimoto S, Masuda Y, Matsuda N, Matsushima A, Nakada T, Nakagawa S, Nunomiya S, Sadahiro T, Shime N, Yatabe T, Hara Y, Hayashida K, Kondo Y, Sumi Y, Yasuda H, Aoyama K, Azuhata T, Doi K, Doi M, Fujimura N, Fuke R, Fukuda T, Goto K, Hasegawa R, Hashimoto S, Hatakeyama J, Hayakawa M, Hifumi T, Higashibeppu N, Hirai K, Hirose T, Ide K, Kaizuka Y, Kano T, Kuroda H, Matsuda A, Matsumoto S, Nagae M, Onodeera M, Ohnuma T, Oshima K, Saito N, Sakamoto S, Sakuraya M, Sasano M, Sato N, Sawamura A, Shimizu K, Shirai K, Takei T, Takeuchi M, Takimoto K, Taniguchi T, Tatsumi H, Tsuruta R, Yama N, Yamakawa K, Yamashita C, Yamashita K, Yoshida T, Tanaka H, Oda S: The Japanese practice guidelines for management of sepsis and septic shock 2016 (J-SSCG 2016). Acute Med Surg 2018; 5:3-89

[報告書]

1. 鈴木康之： 日本小児麻酔学会第 23 回大会印象記． 臨床麻酔， 2017；41：1689-1690

[新聞掲載]

1. 中川聡： 乳児突然死防げる？ 読売新聞夕刊，2018.1.27

[講演]

1. Nakagawa S：Acute respiratory distress syndrome in infants and children． National Center for Maternal and Child Health， Ulaanbaatar, Mongolia， 2018.1.22
2. Nakagawa S：Continuous renal replacement therapy in infants and children， Ulaanbaatar, Mongolia， 2018.1.23
3. Nakagawa S： One lung ventilation; what should we do? Respiratory Support Summit in Critically Ill Children，Bali Indonesia， 2018.3.21
4. Nakagawa S： High-frequency oscillatory ventilation in children． Respiratory Support Summit in Critically Ill Children，Bali Indonesia， 2018.3.21
5. Nakagawa S： Respiratory physiology relevant to high-frequency oscillatory ventilation (HFOV)． Non-conventional Advanced Mode of Ventilation: HFOV， Bali Indonesia， 2018.3.22
6. Nakagawa S： Optimal Paw strategy and lung recruitment in HFOV． Non-conventional Advanced Mode of Ventilation: HFOV， Bali Indonesia， 2018.3.22
7. Nakagawa S： Signs and Symptoms of Cardiogenic Shock in Children． Rumah Sakit Umum Pusat Sanglah， Bali Indonesia， 2018.3.23
8. Nakagawa S: Current status of pediatric transplantation in Japan. 10th Indonesian PICU-NICU Updaete, Bali Indonesia, 2018.3.23
9. Nakagawa S： Septic shock: What's the blood pressure target for children? High or low． 2nd International Children's Critical Care Medicine Forum in China， Shanghai China， 2018.3.30
10. Nakagawa S: How I use high-frequnency oscillation in pediatric patients. 14th European Conference on Pediatric and Neonatal Mechanical Ventilation. Montreux, Switzerland, 2018.4.25
11. Nakagawa S: When to use high-frequnency oscillatory ventilation (HFOV) in pediatric ARDS (PARDS). 14th European Conference on Pediatric and Neonatal Mechanical Ventilation, Montreux Switzerland, 2018.4.28
12. Nakagawa S: Performance indicators in PICU; What we do to improve in Tokyo． Neonatal and Pediatric Critical Care Nursing Educational Course，Tokyo Japan， 2018.8.6
13. Nakagawa S: Performance indicators in PICU; What we do to improve in Tokyo． El Galaa Hospital for Armed ForcesCairo, Egypt， 2018.8.11
14. Nakagawa S: The Emergency Medical Service for Children in Japan and What we do at NCCHD． 16th Asia Pacific Congress of Pediatrics， Bali Indonesia, 2018.8.27
15. Nakagawa S: Perioperative management in liver transplantation． 16th Asia Pacific Congress of Pediatrics Bali Indonesia， 2018.8.28
16. Nakagawa S: Incidence and mortality risks of sepsis in children; Japanese experience and global view. 16th Asia Pacific Congress of Pediatrics， Bali Indonesia， 2018.8.29
17. Nakagawa S: Sepsis and nosocomial infection in children． 4th Oriental Congress of Pediatrics ， Shanghai China， 2018.9.15
18. Matsumoto S: Management of ECMO in NCCHD; Respiratory ECMO and complications. International Symposium of Chonnam National University Children's Hospital 2018, Korea, 2018.10.12
19. Nakagawa S: The critically ill children with community acquired pneumonia． International Pediatric Critical Care Conference of India，Hyderabad, India， 2018.10.21
20. Nakagawa S: ECMO． Advanced Pediatric Intensive Care Course，Hyderabad India， 2018.10.22
21. Nakagawa S: Refractory hypoxemia． Advanced Pediatric Intensive Care Course， Coimbatore India， 2018.11.16

22. Nakagawa S: Septic shock; How the guidelines have changed my practice ? 20th National Conference of Pediatric Intensive Care， Coimbatore India，2018.11.17
23. **中川聡：小児の循環生理と心不全． JSPICC 第 4 回メディカルスタッフ向けセミナー， 東京，** 2018.1.13
24. **中川聡：** Acute Respiratory Distress Syndrome(ARDS)**． 東京女子医大八千代医療センター， 千葉，** 2018.1.16
25. **中川聡：** Heated Humidified High-flow Nasal Cannula. **ハイフローセラピー勉強会， 埼玉，** 2018.2.6
26. **鈴木康之：安全かつ有効な鎮静のために． 東京女子医科大学鎮静講習会， 東京**, 2018.2.2
27. **田村高子：無痛分娩の実際． 第4回** PAN **ネットワーク研究会， 東京，** 2018.2.24
28. **中川聡：呼吸困難とショックへの対応． 東京医科歯科大学医学部，東京，** 2018.5.7
29. **中川聡：酸素療法の功罪:「とりあえず酸素」は正しいか？ 東京女子医大八千代医療センター，千葉，** 2018.5.8
30. **中川聡：** Signs and Symptoms of Cardiogenic Shock in Children. **松戸市立総合医療センター， 千葉，** 2018.5.10
31. **中川聡：小児の気管挿管とそれにまつわる問題点． 第 32 回日本小児救急医学会学術集会，茨城，** 2018.6.3
32. **中川聡：児童・生徒の突然死とその予防と対策． 三鷹市教育委員会， 東京，** 2018.7.3
33. **中川聡：小児救急・集中治療の現状． 成育救急・集中治療セミナー， 東京，**2018.7.7
34. **中川聡：呼吸管理． 成育救急・集中治療セミナー， 東京，**2018.7.7
35. **中川聡：小児の人工呼吸療法に必要な呼吸生理． JSPICC 第 5 回メディカルスタッフ向けセミナー， 東京，** 2018.7.14
36. **中川聡：小児の気管挿管とそれにまつわる問題点． 埼玉医科大学総合医療センター， 埼玉，** 2018.7.26
37. **中川聡：小児敗血症の特徴． 成育サマーセミナー， 東京都，** 2018.7.29
38. **中川聡：敗血症の病態・診断・治療の現状と求める診断・治療薬像．敗血症セミナー，東京都，** 2018.7.31
39. **鈴木康之：小児周術期疼痛管理．テルモ講演会， 東京，** 2018.8.9
40. **中川聡：** Incidence and mortality risks of sepsis in children; Japanese experience and global view**． 東京女子医大八千代医療センター， 千葉，** 2018.9.11
41. **鈴木康之：血液ガス分析からはじまる小児重症患者管理**. RADIOMETER LIVE **血液ガスセミナー**2018 TOKYO**， 東京，** 2018.9.29
42. **中川聡：子どもの突然死、その予防と対策．三鷹市医師会， 東京都，** 2018.10.2
43. **中川聡：小児の人工呼吸管理 ． 倉敷中央病院， 岡山，** 2018.10.5
44. **中川聡：小児** ICU **の鎮痛・鎮静管理の現状． 小児** ICU **鎮静管理会議， 東京，**2018.10.6
45. **中川聡：小児** ICU **をめぐる諸問題． 兵庫県立こども病院， 神戸，**2018.10.19
46. **鈴木康之：在宅人工呼吸**. **呼吸・モニタリングセミナー －新生児・小児~成人まで基礎と実践－， 東京，** 2018.12.9
47. **鈴木康之：プレセデックス．** Web **セミナー 小児集中治療患者の鎮静の新知見～プレセデックス小児適応国内多施設共同試験より学ぶ～， 東京**, 2018.12.12

[学会発表]

1. Nakagawa S, Tho B, Phuc P.H, Ainai A, Takayama I, Suzuki T, Thuy P, Huong D.T, Tuan T.A, Hai L.T, Nakajima N：Biomarkers may predict clinical courses in pediatric patients with acute respiratory distress syndrome．9th Congress of the world federation of pediatric intensive & critical care societies 2018， Singapore，2018.6.11
2. Nakagawa S： Pro Con Debate:HFOV is no longer necessary when VV-ECMO is available.HFO is still needed. 9th Congress of the world federation of pediatric intensive & critical care societies 2018， Singapore，2018.6.11
3. Nakagawa S： Needs Based Pedagogy Development． 9th Congress of the world

federation of pediatric intensive & critical care societies 2018， Singapore，2018.6.12

4. Miyahara Y, Nakagawa S, Nishimura N, Ide K, Tsutsumi Y：Current cuffed endotracheal tubes may be inadequately designed．9th Congress of the world federation of pediatric intensive & critical care societies 2018， Singapore，2018.6.11
5. Nakano S, Nishimura N, Nakagawa S：Continuous renal replacement therapy in children less than or equal to12 months old: Japanese single center experience．9th Congress of the world federation of pediatric intensive & critical care societies 2018， Singapore，2018.6.12
6. Nakagawa S, Xoay T.D, T.A. Tuan T.A, Phuc P.H, Hai L.T, Nakajima N, Suzuki T, Dung N.T, Dien T.M：High leukocyte counts and younger age are not predictors of mortality in children with pertussis who required mechanical ventilation．9th Congress of the world federation of pediatric intensive & critical care societies 2018， Singapore， 2018.6.13
7. Nakagawa S: Panel Discussion:Fluids in Sepsis,Can We Drown it? 16th Asia Pacific Congress of Pediatrics， Bali Indonesia， 2018.8.27
8. Nakagawa S: Pro Con Debate: Adrenaline vs. noradrenaline as a first line agent in septic shock: Noradrenaline. International Pediatric Critical Conference of India， Hyderabad India， 2018.10.21
9. Nakagawa S: HFOV and iNO. Advanced Pediatric Intensive Care Course at Reinbow Children's Hospital， Hyderabad India， 2018.10.22
10. Nakagawa S: A Critical Care Journey. Critical Care Canada Forum， Toronto ON Canada， 2018.11.9
11. Shimizu K, Bui T, Phan P H, Ainai A, Takayama I, Suzuki T, Phung T, Do Huong Thu, Ta Tuan Anh, Le Hai Thanh, Nakajima N, Nakagawa S：Combination of early PaO2/FIO2 ratio and interferon-g induced protein 10 (IP-10) level may predict clinical outcome in pediatric acute respiratory distress syndrome．Critical Care Canada Forum, Toronto ON Canada， 2018.11.7
12. Nakagawa S: Tutorial． Advanced Pediatric Intensive Care Course，Coimbatore India， 2018.11.16
13. **太田英仁，渡邉太郎，井手健太郎，西村奈穂，中川聡：小児における末梢挿入型中心静脈カテーテルの至適挿入長は予測できるか？． 第 45 回日本集中治療医学会学術集会， 千葉，** 2018.2.21
14. **小倉裕司，西田修，井上成亮，射場敏明，今泉均，江木盛時，垣花泰之，久志本成樹，小谷譲治，貞広智仁，志馬伸朗，中川聡，中田孝明，布宮伸，林淑朗，藤島清太郎，升田好樹，松嶋麻子，松田直之，織田成人，田中裕：本邦における敗血症診療ガイドライン作成の意義とその恩恵． 第 45 回日本集中治療医学会学術集会， 千葉，** 2018.2.21
15. **林健一郎，壷井伯彦，井手健太郎，西村奈穂，中川聡：** RS **ウイルス感染症による気管挿管患者における複合的アプローチ導入前後の人工呼吸器装着期間の変化． 第** 45 **回日本集中治療医学会学術集会， 千葉，** 2018.2.22
16. **儀間政文，井手健太郎，壷井伯彦，松戸孝博，荒川立郎，西村奈穂，中川聡：小児集中治療室における血液培養検体量の検討． 第** 45 **回日本集中治療医学会学術集会， 千葉，** 2018.2.22
17. **中野論，中川聡，西村奈穂：** 12 **ヶ月以下の若年小児に対する持続賢代替療法の成績:過去起点コホート研究． 第** 45 **回日本集中治療医学会学術集会， 千葉，** 2018.2.22
18. **加藤宏樹，荒川立郎，井手健太郎，松本正太朗，西村奈穂，中川聡：非典型的な経過の中枢神経障障害により死亡した溶血性尿毒症症候群の** 2 **小児例． 第** 45 **回日本集中治療医学会学術集会， 千葉，** 2018.2.22
19. **井手健太郎，阿部迪子，太田英仁，西村奈穂，中川聡：小児急性肝不全に対する集学的治療の現状と限界． 第** 45 **回日本集中治療医学会学術集会， 千葉，** 2018.2.22
20. **石田幸宏，壷井伯彦，野嵜仁美，並木亮，西村奈穂，中川聡，笠原群生，上久保毅：** PICU **内における小児肝移植術後患者に対する早期リハビリテーションの効果． 第** 45 **回日本集中治療医学会学術集会， 千葉，** 2018.2.22
21. **壷井伯彦：当院** PICU **での鎮痛管理方針． 第** 45 **回日本集中治療医学会学術集会， 千葉，**

2018.2.23

22. 西村奈穂，植松悟子，井手健太郎，中川聡，長濱由美，中村知夫，窪田満： PICU 退室後長期的に医療的ケアを必要とする救急重症患者はどれくらいいるのか？ 第 121 回日本小児科学会学術集会，福岡， 2018.4.20
23. 大場彦明，林健一郎，西村奈穂，中川聡： ペースト食の摂取によりメトヘモグロビン血症を呈したと考えられる 1 例． 第 121 回日本小児科学会学術集会， 福岡， 2018.4.20
24. 中川聡，志馬伸朗，青山和由，井手健太郎，川崎達也，竹内宗之，平井克樹，松本正太朗： 日本版敗血症診療ガイドライン 2016 小児領域． 第 121 回日本小児科学会学術集会，福岡，2018.4.21
25. 松戸孝博，西村奈穂，渡邉太郎，井手健太郎，中川聡，宮入烈，石倉健司，久保田雅也： 腸管出血性大腸菌感染症による溶血性尿毒症症候群に伴う急性脳症の予後の検討．第 121 回日本小児科学会学術集会，福岡， 2018.4.22
26. 庄司健介，壷井伯彦，井手健太郎，西村奈穂，宮入烈： 小児集中治療室での血液培養における嫌気性培養ボトルの有用性に関する検討． 第 121 回日本小児科学会学術集会，福岡，2018.4.22
27. 伊集院亜梨紗，佐藤正規，山下陽子，久保浩太，鈴木康之： 当院における無痛分娩後の神経症状について検討． 日本麻酔科学会第 65 回学術集会，神奈川，2018.5.17
28. 鈴木康之： 小児麻酔の専門性と小児麻酔科学会認定医制度． 日本麻酔科学会第 65 回学術集会，神奈川，2018.5.18
29. 鈴木康之： 小児レミフェンタニルを上手に使うために~治験から学び、ピットフォールに注意！~．日本麻酔科学会第 65 回学術集会，神奈川，2018.5.17
30. 野沢永貴，壷井伯彦，西村奈穂，中川聡，藤野明浩： 出生前に胸水を認めず生後大量の胸水貯留をきたした乳び胸の4例． 第 32 回日本小児救急医学会学術集会， 茨城，2018.6.2
31. 阿見祐規，青木智史，西村奈穂，中川聡： 外傷性急性硬膜下血腫除去術後、ヘパリンによる抗凝固療法中に脳出血を来した 1 例． 第 32 回日本小児救急医学会学術集会， 茨城， 2018.6.2
32. 大澤一郎，渡邉太郎，西村奈穂，中川聡： 肺高血圧を伴い長期の ECMO 管理を要した重症百日咳の 2 例． 第 32 回日本小児救急医学会学術集会， 茨城， 2018.6.2
33. 中川聡： 敗血症の早期発見と市民啓発． 第 92 回日本感染症学会学術講演会・第 66 回日本化学療法学会総会合同学会， 岡山， 2018.6.2(シンポジウム)
34. 久保浩太，山下陽子，佐藤正規，梅原永能，佐合治彦： 無痛分娩における麻酔手技に関連する有害事象の後方視的検討． 第 54 回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会， 東京，2018.7.9
35. 松本正太朗： 鋳型気管支炎を合併したインフルエンザによる呼吸不全の小児に対する治療戦略．第 40 回日本呼吸療法医学会学術集会， 東京， 2018.8.4
36. 井手健太郎： 現行のカフ付きチューブにおける小児での問題点． 第 40 回日本呼吸療法医学会学術集会， 東京， 2018.8.4
37. 松本正太朗，秋山類，井坂華奈子，水口壮一，和田翔，竹内宗之，中川聡： 本邦における小児の ARDS の現状． 第 40 回日本呼吸療法医学会学術集会， 東京， 2018.8.5(シンポジウム)
38. 澤井真優子，鈴木康之，古田真知子，蜷川純，遠山悟史，糟谷周吾： EXIT(Ex Utero Intrapartum Treatment)を施行せずに出生直後の緊急気管切開により救命できた先天性喉頭閉鎖の2症例．日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第 58 回合同学術集会，東京， 2018.9.1
39. 古畑紫利，遠山悟史，田村高子，鈴木康之： 小児におけるプロポフォールとレミフェンタニルによる全身麻酔中の局所脳酸素飽和度の変動． 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第 58 回合同学術集会，東京， 2018.9.1
40. 武井寛英，鈴木康之，遠山悟史，蜷川純，風間大樹，糟谷周吾： 小児拡張型心筋症に対して姑息的肺動脈絞扼術を施行した1例．日本心臓血管麻酔学会第 23 回学術集会， 東京，2018.9.14
41. 蜷川純： 心臓手術における心室細胞の治療． 日本心臓血管麻酔学会第 23 回学術集会， 東京，2018.9.15(シンポジウム)
42. 久保浩太，蜷川純，行正翔，糟谷周吾，遠山悟史，鈴木康之： 右肺無形成を合併した総肺静脈還流異常修復術の麻酔経験． 日本心臓血管麻酔学会第 23 回学術集会， 東京， 2018.9.15

43. 金山旭，蜷川純，阿部真友子，行正翔，遠山悟史，鈴木康之： 先天性食道閉鎖・食道気管瘻を合併した共通肺静脈閉鎖の新生児手術の麻酔経験． 日本心臓血管麻酔学会第 23 回学術集会，東京， 2018.9.15
44. 蜷川純： 周産期心筋症 周産期発症例の帝王切開麻酔管理． 日本心臓血管麻酔学会第 23 回学術集会， 東京， 2018.9.16(シンポジウム)
45. 加藤宏樹： 小児救急/集中治療における菌血症の今 江戸の実情． 第 26 回小児集中治療ワークショップ， 京都， 2018.10.13
46. 竹澤芳樹，井手健太郎，西村奈穂，中川聡： 集中治療管理を要した閉塞性細気管支炎の3例．第 26 回小児集中治療ワークショップ， 京都， 2018.10.13
47. 井手健太郎： 頭蓋内圧/脳灌流圧と中枢神経管理． 第 26 回小児集中治療ワークショップ， 京都， 2018.10.13
48. 井手健太郎： 日本の臨床研究を今一度せんたくいたし申候 INSPIRED:小児集中治療研究グループ提供 臨床研究． 第 26 回小児集中治療ワークショップ， 京都， 2018.10.14
49. 中川聡： 先達が教えるこどもの呼吸． 第 3 回看護師向けハンズオン， 京都， 2018.10.14
50. 山本偉，遠山悟史，田村高子，鈴木康之： 小児整形外科手術（上肢）における疾患別の術後 PCA の使用状況についての後方視的研究． 日本小児麻酔学会第 24 回大会， 神戸，2018.10.20
51. 古田真知子，遠山悟史，田村高子，鈴木康之： 小児下肢変形に対する骨端軟骨発育抑制術後の疼痛管理について後方視的検討． 日本小児麻酔学会第 24 回大会， 神戸， 2018.10.20
52. 藤原愛，蜷川純，鈴木康之： 術前に診断されていなかった重症喉頭狭窄症を合併した先天性食道閉鎖症患者の麻酔経験． 日本小児麻酔学会第 24 回大会， 神戸， 2018.10.20
53. 鈴木康之，竹内護，根本慎太郎，高橋直基，竹中信子，高田亜実，小林美穂子： 小児集中治療患者におけるデクスメデトミジンの有効性・安全性の検討 - 国内多施設共同第3相臨床試験． 日本小児麻酔学会第 24 回大会， 神戸， 2018.10.20
54. 澤井真優子，遠山悟史，田村高子，鈴木康之： 小児喉頭微細手術や喉頭ファイバー検査に対する非挿管自発呼吸下麻酔管理． 日本小児麻酔学会第 24 回大会， 神戸， 2018.10.21
55. 弓場智雄，糟谷周吾，遠山悟史，鈴木康之： 劇症肝炎に対する生体肝移植の麻酔導入時に著しい低酸素に陥った一例． 日本小児麻酔学会第 24 回大会， 神戸， 2018.10.21
56. 阿部真友子，遠山悟史，金山旭，田村高子，鈴木康之： 肺胞蛋白症に対しプロポフォールを用いた完全静脈麻酔下に肺洗浄を施行した症例． 日本小児麻酔学会第 24 回大会， 神戸，2018.10.21
57. 行正翔，遠山悟史，田村高子，鈴木康之： フォンタン手術後に早期抜管に至らなかった危険因子についての後方視的検討． 日本小児麻酔学会第 24 回大会， 神戸， 2018.10.21
58. 風間大樹，古田真知子，行正翔，蜷川純，糟谷周吾，遠山悟史，伊東祐之，田村高子，鈴木康之： 無顎症で気管切開管理されていたが、繰り返す誤嚥に対し喉頭気管分離術を行った一例．日本小児麻酔学会第 24 回大会， 神戸， 2018.10.21
59. 金山旭，遠山悟史，田村高子，鈴木康之： 若手男性医師からみた女性麻酔科医―同僚支援の視点から―． 日本臨床麻酔学会第 38 回大会， 北九州， 2018.11.3
60. 井手健太郎，植松悟子，早野駿佑，萩原佑亮，鉄原健一，伊藤友弥，中澤太一，関根一郎，神薗淳司： 軽症頭部外傷小児に対する PECARN ルールの安全性の検討 - 多施設共同前方視的観察研究． 第 46 回日本救急医学会総会・学術集会， 横浜， 2018.11.20
61. 小倉裕司，丸藤哲，阿部智一，久志本成樹，齋藤大蔵，白石淳，藤島清太郎，真弓俊彦，松嶋麻子，井上成亮，井上貴昭，中川聡，中田孝明，志馬伸朗，田中裕： 敗血症の疫学研究： 学会主導研究・委員会活動の重要性． 第 46 回日本救急医学会総会・学術集会， 横浜， 2018.11.21
62. 藤島清太郎，松嶋麻子，小倉裕司，井上成亮，井上貴昭，志馬伸朗，中川聡，中田孝明，大野博司，垣花泰之，川崎達也，松田直之，明神哲也，福家良太，薬師寺泰匡，剱持雄二，西村匡司，田中裕： 敗血症の疫学： その変遷と現状． 第 46 回日本救急医学会総会・学術集会， 横浜，2018.11.21
63. 井上成亮，松嶋麻子，小倉裕司，井上貴昭，志馬伸朗，中川聡，中田孝明，藤島清太郎，大野博司，垣花泰之，川崎達也，松田直之，明神哲也，福家良太，薬師寺泰匡，剱持雄二，西村匡司，田中裕： 敗血症患者における PICS 対策． 第 46 回日本救急医学会総会・学術集会， 横浜，

2018.11.21

64. 中川聡，松嶋麻子，小倉裕司，井上成亮，井上貴昭，志馬伸朗，中田孝明，藤島清太郎，大野博司，垣花泰之，川崎達也，松田直之，明神哲也，福家良太，薬師寺泰匡，剱持雄二，西村匡司，田中裕： 敗血症の疫学:小児医療領域の敗血症対策． 第 46 回日本救急医学会総会・学術集会，横浜， 2018.11.21
65. 蘇哲民，壷井伯彦，小椋雅夫，進藤考洋，西村奈穂，中川聡： 大動脈閉鎖不全を伴った高安動脈炎の1例． 第 46 回日本救急医学会総会・学術集会， 横浜， 2018.11.21
66. 成相諒子，井手健太郎，西村奈穂，中川聡： ビタミン B1 投与で肺高血圧が改善した小児の1例．第 46 回日本救急医学会総会・学術集会， 横浜， 2018.11.21
67. 金山旭，山下陽子，佐藤正規，遠山悟史，鈴木康之： 妊娠高血圧症患者で緊急帝王切開弛緩出血後に視力低下，視野異常を認めた1例．第 122 回日本産科麻酔学会学術集会， 浜松，2018.11.23
68. 山本依志子，山下陽子，久保浩太，金山旭，佐藤正規，梅原永能，左合治彦： 当センターにおける、無痛分娩時の胎児心拍低下による緊急帝王切開の解析． 第 122 回日本産科麻酔学会学術集会， 浜松， 2018.11.23
69. 阿部真友子，佐藤正規，金山旭，久保浩太，山下陽子，鈴木康之： ベーチェット病合併妊娠における無痛分娩 3 症例の検討． 第 122 回日本産科麻酔学会学術集会， 浜松， 2018.11.23
70. 佐藤正規： 妊婦の呼吸管理－気道確保から術後呼吸管理まで－． 第 122 回日本産科麻酔学会学術集会， 浜松， 2018.11.23
71. 平井晶子，三浦加奈，佐藤正規，久保浩太，平本康子：「飛び込み無痛分娩」症例の検討． 第 122 回日本産科麻酔学会学術集会， 浜松， 2018.11.23
72. 三浦加奈，佐藤正規，久保浩太，平井昌子，平本康子： 当センターにおける無痛分娩クラスの分析と今後の課題．第 122 回日本産科麻酔学会学術集会， 浜松， 2018.11.23
73. 行正翔，佐藤正規，鈴木康之： 当院での超緊急帝王切開手術における麻酔方法と胎児の予後に関する後方視的検討． 第 122 回日本産科麻酔学会学術集会， 浜松， 2018.11.23
74. 三浦寄子，大穂祐介，三大寺紀子，宇野千晶，赤羽三貴，壷井伯彦，奥田裕美，持丸奈央子，吉田和恵，山谷明正： 小児集中治療室におけるニカルジピン注射液による血管障害の実態調査および危険因子の検討． 第 28 回日本医療薬学会年会， 2018.11.24
75. 澤井真優子，遠山悟史，鈴木康之： 小児喉頭微細手術や喉頭ファイバー検査に対するプロポフォールを用いた非挿管自発呼吸下の麻酔管理． 第 25 回日本静脈麻酔学会， 足利，2018.12.7

[学会・座長]

1. 中川聡： 一般演題 3． 第 24 回日本 SIDS・乳幼児突然死予防学会学術集会，東京，2018.2.24
2. 堀内勇人:ワークショップ1 透析医療現場への就学的対応 第 45 回日本血液浄化技術学会， 愛知，2018.4.24
3. 堀内勇人： 呼吸器 8． 第 26 回東京都臨床工学技士会， 東京，2018.6.3
4. 田村高子： 産科麻酔． 第 54 回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会， 東京，2018.7.9
5. 中川聡： ECMO 私はこうやって助けた、この症例にはこんな管理だ． 第 40 回日本呼吸療法医学会学術集会， 東京， 2018.8.4
6. 中川聡： 呼吸療法における医工連携;気道管理から体外循環補助まで． 第 40 回日本呼吸療法医学会学術集会， 東京， 2018.8.4
7. 松本正太朗： 小児の ARDS． 第 40 回日本呼吸療法医学会学術集会， 東京， 2018.8.5
8. 佐藤正規： 心臓外科 成人 3．日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第 58 回合同学術集会，東京， 2018.9.1
9. 中川聡： 救命を超えたその先…なぜ今 PICS か． 第 26 回小児集中治療ワークショップ， 京都，2018.10.13
10. 井手健太郎： 看護 一般． 第 26 回小児集中治療ワークショップ， 京都， 2018.10.13
11. 中川聡： 黒船来襲！臨床研究． 第 26 回小児集中治療ワークショップ， 京都， 2018.10.14
12. 井手健太郎： 中堅医師向け ECOM ハンズオン． 第 26 回小児集中治療ワークショップ， 京都，

2018.10.14

13. **鈴木康之： 岩井誠三記念講演． 日本小児麻酔学会第 24 回大会， 神戸，** 2018.10.20
14. **中川聡： 小児救急・集中治療と麻酔科医の関わり. 日本小児麻酔学会第 24 回大会， 神戸，** 2018.10.21**（シンポジウム）**
15. **鈴木康之： 帝王切開術 3 麻酔管理 2． 日本臨床麻酔学会第 38 回大会， 北九州，** 2018.11.2
16. **鈴木康之： 小児心疾患の麻酔の基礎． 日本臨床麻酔学会第 38 回大会， 北九州，** 2018.11.3

4-3-11 周産期・母性診療センター
産科・胎児診療科・妊娠免疫科・不育診療科

[原著論文：査読付(Reviewed Paper)]

1. Sekiguchi M, Miyoshi Y, Kikuchi N, Sago H.: Pregnancy outcomes in female childhood cancer survivors: Nationwide survey in Japan. Pediatr Int. 2018 Mar;60(3):254-258.
2. Nakamura M, Umehara N, Ishii K, Sasahara J, Kiyoshi K, Ozawa K, Tanaka K, Tanemoto T, Ichizuka K, Hasegawa J, Ishikawa H, Murakoshi T, Sago H.: A poor long-term neurological prognosis is associated with abnormal cord insertion in severe growth-restricted fetuses. J Perinat Med. 2018 Nov 27;46(9):1040-1047.
3. Ichimiya Y, Wada Y, Kunishima S, Tsukamoto K, Kosaki R, Sago H, Ishiguro A, Ito Y.: 11q23 deletion syndrome (Jacobsen syndrome) with severe bleeding: a case report. J Med Case Rep. 2018 Jan 8;12(1):3.
4. Ogawa K, Tanaka S, Limin Y, Arata N, Sago H, Yamamoto-Hanada K, Narita M, Ohya Y.: Reply to Matsubara et.al. Pediatr Allergy Immunol. 2018 May;29(3):333-334.
5. Ogawa K, Morisaki N, Kobayashi M, Jwa SC, Tani Y, Sago H, Horikawa R, Fujiwara T.: Maternal vegetable intake in early pregnancy and wheeze in offspring at the age of 2 years. Eur J Clin Nutr. 2018 May;72(5):761-771.
6. Sago H, Ishii K, Sugibayashi R, Ozawa K, Sumie M, Wada S.: Fetoscopic laser photocoagulation for twin-twin transfusion syndrome. J Obstet Gynaecol Res. 2018 May;44(5):831-839.
7. Suyama F, Ozawa K, Ogawa K, Sugibayashi R, Wada S, Sago H.: Fetal lung size after thoracoamniotic shunting reflects the survival in primary fetal hydrothorax with hydrops. J Obstet Gynaecol Res. 2018 Jul;44(7):1216-1220.
8. Kojima Y, Ozawa K, Sugibayashi R, Wada S, Sago H.: Stomach herniation prior to non-reassuring fetal status in a case of fetal gastroschisis. J Obstet Gyn R. 2018 Jul;44(7):1322-1325.
9. Ogawa K , Morisaki N , Sago H, Fujiwara T, Horikawa R.: Association between women's perceived ideal gestational weight gain during pregnancy and pregnancy outcomes. Sci rep. 2018 Aug 1;8(1):11574.
10. Okada N, Sasaki A, Saito J, Mitani Y, Yachie A, Takahashi H, Matsubara S, Tenkumo C, Tanaka H, Hata T, Motomura K, Nagasawa J, Wada Y, Sako M, Yamaguchi K, Matsumoto K, Nakamura H, Sago H, Mizuta K.: The Japanese experience and pharmacokinetics of antenatal maternal high-dose immunoglobulin treatment as a prophylaxis for neonatal hemochromatosis in siblings. J Matern Fetal Neonatal Med. 2018 Jul 22:1-7.
11. Suzumori N, Sekizawa A, Ebara T, Samura O, Sasaki A, Akaishi R, Wada S, Hamanoue H, Hirahara F, Izumi H, Sawai H, Nakamura H, Yamada T, Miura K, Masuzaki H, Yamashita T, Okai T, Kamei Y, Namba A, Murotsuki J, Tanemoto T, Fukushima A,

Haino K, Tairaku S, Matsubara K, Maeda K, Kaji T, Ogawa M, Osada H, Nishizawa H, Okamoto Y, Kanagawa T, Kakigano A, Kitagawa M, Ogawa M, Izumi S, Katagiri Y, Takeshita N, Kasai Y, Naruse K, Neki R, Masuyama H, Hyodo M, Kawano Y, Ohba T, Ichizuka K, Nagamatsu T, Watanabe A, Shirato N, Yotsumoto J, Nishiyama M, Hirose T, Sago H.: Fetal cell-free DNA fraction in maternal plasma for the prediction of hypertensive disorders of pregnancy. Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol. 2018 May;224:165-169.

12. Ueda K, Maeno Y, Miyoshi T, Inamura N, Kawataki M, Taketazu M, Nii M, Hagiwara A, Horigome H, Shozu M, Shimizu W, Yasukochi S, Yoda H, Shiraishi I, Sakaguchi H, Katsuragi S, Sago H, Ikeda T; ; on behalf of Japan Fetal Arrhythmia Group.: The impact of intrauterine treatment on fetal tachycardia: a nationwide survey in Japan. J Matern Fetal Neonatal Med. 2018 Oct;31(19):2605-2610.
13. Kaneko K, Mishima S, Goto M, Mitsui M, Tanigaki S, Oku K, Ozawa N, Inoue E, Atsumi T, Sago H, Murashima A.: Clinical feature and anti-phospholipid antibody profiles of pregnancy failure in young women with antiphospholipid antibody syndrome treated with conventional therapy. Mod Rheumatol. 2018 Jul;28(4):670-675.
14. Aoki S, Hashimoto K, Ogawa K, Horikawa R, Sago H.: Developmental outcomes of Japanese children born through Assisted Reproductive Technology (ART) in toddlerhood. J Obstet Gynaecol Res. 2018 May;44(5):929-935.
15. Yamada T, Sekizawa A, Fujii Y, Hirose T, Samura O, Suzumori N, Miura K, Sawai H, Hirahara F, Murotsuki J, Kamei Y, Sago H; Japan NIPT consortium.: Correction: Maternal age-specific risk for trisomy 21 based on the clinical performance of NIPT and empirically derived NIPT age-specific positive and negative predictive values in Japan. J Hum Genet. 2018 Oct;63(10):1097-1098.
16. Muto M, Matsufuji H, Taguchi T, Tomomasa T, Nio M, Tamai H, Tamura M, Sago H, Toki A, Nosaka S, Kuroda T, Yoshida M, Nakajima A, Kobayashi H, Sou H, Masumoto K, Watanabe Y, Kanamori Y, Hamada Y, Yamataka A, Shimojima N, Kubota A, Ushijima K, Haruma K, Fukudo S, Araki Y, Kudo T, Obata S, Sumita W, Watanabe T, Fukahori S, Fujii Y, Yamada Y, Jimbo K, Kawai F, Fukuoka T, Onuma S, Morizane T, Ieiri S, Esumi G, Jimbo T, Yamasaki T.: Japanese clinical practice guidelines for allied disorders of Hirschsprung's disease, 2017. Pediatr Int. 2018 May;60(5):400-410.
17. Miyake H, Yamada S, Fujii Y, Sawai H, Arimori N, Yamanouchi Y, Ozasa Y, Kanai M, Sago H, Sekizawa A, Takada F, Masuzaki H, Matsubara Y, Hirahara F, Kugu K.: Correction: Nationwide survey for current clinical status of amniocentesis and maternal serum marker test in Japan. J Hum Genet. 2018 Nov;63(11):1195.
18. Watanabe T, Ohno M, Tahara K, Tomonaga K, Fuchimoto Y, Fujino A, Hishiki T, Tsukamoto K, Ito Y, Sugibayashi R, Wada S, Sago H, Higuchi M, Kawasaki K, Yoshioka T, Kanamori Y.: An investigation on clinical differences between congenital pulmonary

airway malformation and bronchial atresia. J Pediatr Surg. 2018 Dec;53(12):2390-2393.

19. Fuchimoto Y, Watanabe T, Fujino A, Kanamori Y, Itoh Y, Wada S, Sago H, Yoshioka T.: Predictors of early lobectomy after birth in prenatally diagnosed congenital pulmonary airway malformation. J Pediatr Surg. 2018 Dec;53(12):2386-2389.
20. Hasegawa J, Wada S, Kasamatsu A, Nakamura M, Hamanoue H, Iwata E, Murotsuki J, Nagai R, Tateishi Y, Sunami R, Tajima A, Murata S, Matsubara K, Nakata M, Kondo A, Nishiyama M, Sasaki A, Sekizawa A, Sago H, Kamei Y; Study group for first trimester Combined Test (FCTG).: Distribution of PAPP-A and total hCG between 11 and 13 weeks of gestation in Japanese pregnant women. J Matern Fetal Neonatal Med. 2018 Nov;28:1-6.
21. Aoki H, Ito N, Kaniwa N, Saito Y, Wada Y, Nakajima K, Sago H, Murashima A, Okamoto A, Ito S.: Low Levels of Amlodipine in Breast Milk and Plasma. Breastfeed Med. 2018 Nov;13(9):622-626.
22. **大西純貴, 関口将軌, 正古悠一, 松田祐奈, 中川智絵, 舟木哲, 松井仁志, 鈴木朋, 梅原永能, 小澤伸晃, 塚原優己, 左合治彦：当センターにおける妊娠・産褥期の基質特異性拡張型 β ラクタマーゼ(ESBL)産生菌の現状について. 東京産科婦人科学会会誌** 2018;67(1):12-16
23. **正古悠一, 谷垣伸治, 関口将軌, 松田裕奈, 大西純貴, 芝田恵, 梅原永能, 左合治彦：当院における母体菌血症と児の予後. 東京産科婦人科学会会誌** 2018;67(1):17-21
24. **佐々木愛子, 左合治彦, 吉橋博史, 山田重人, 三宅秀彦, 鈴森伸宏, 高田史男, 増﨑英明, 平原史樹, 久具宏司, 小西郁生：日本における出生前遺伝学的検査の動向** 1998-2016**. 日本周産期・新生児医学会雑誌** 2018;54(1):101-107
25. **小澤克典, 村田将春, 室月淳, 村越毅, 与田仁志, 梶原道子, 北澤淳一, 左合治彦：胎児輸血実施マニュアル 日本産婦人科・新生児血液学会誌** 2018;27(2):97-100
26. **西山深雪. 出生前診断における遺伝カウンセラーの役割,日本遺伝カウンセリング学会誌** 39(1): 15-19. 2018

[原著論文：査読なし]※出版社からの依頼原稿は除く
なし

[症例報告(Case report)]
なし

[総説(Review article)]

1) **小川浩平, 左合治彦：基礎疾患と妊娠高血圧症候群. 産婦人科の実際** 2018;67(6):633-637
2) **大野通暢, 金森豊, 朝長高太郎, 渡邉稔彦, 田原和典, 菱木知郎, 藤野明浩, 甘利昭一郎, 塚本桂子, 伊藤裕司, 杉林里佳, 和田誠司, 左合治彦：当センターで出生前診断された先天性横隔膜ヘルニアの治療成績. 小児外科** 2018;50(6):583-587
3) **渡邉稔彦, 大野通暢, 朝長高太郎, 田原和典, 菱木知郎, 藤野明浩, 和田誠司, 左合治彦, 諫山哲哉, 伊藤裕司, 宮嵜治, 野坂俊介, 金森豊：仙尾部奇形腫の治療成績に関する検討と今後の課題. 小児外科** 2018;50(6):628-631

4) 小澤克典，和田誠司，左合治彦：【胎児心臓をみる-診断から治療へ】重症大動脈弁狭窄症に対する胎児治療　産科と婦人科 2018;85(1):78-84
5) 和田誠司，杉林里佳，小澤克典，左合治彦：【胎児心臓をみる-診断から治療へ】TTTS/TRAPに対する胎児治療　産科と婦人科 2018;85(1):85-89
6) 和田誠司，杉林里佳，小澤克典，遠藤誠之，左合治彦：今,専門学会では何が話題なのか?【第5回】日本胎児治療学会第14回日本胎児治療学会学術集会　現在の我が国における先天性横隔膜ヘルニアに対する FETO(胎児鏡下気管閉塞術の適応)の成績と今後　周産期医学 2018;48(5):612-613
7) 左合治彦：【今,話題になっていること-産科編】胎児疾患に対する外科的治療　日本医事新報 2018;4913:37-39
8) 鈴木朋，小川浩平，梅原永能，左合治彦：【早産と助産師のケア】日本の切迫早産と早産管理の現状について　助産雑誌 2018;72(9):660-665
9) 和田誠司：胎児の生理学　日本臨床麻酔学会誌. 2018;38:538-41
10) 和田誠司：新生児医療最新トピック NEXT(no.14) 先天性横隔膜ヘルニアに対する胎児治療の最前線. Neonatal Care. 2018;31:486.
11) 左合治彦：【ここまで進んだ胎児治療】胎児治療総論　産科と婦人科 2018;85(9):1013-1017
12) 和田誠司，室本仁，杉林里佳，小澤克典，遠藤誠之，左合治彦：【ここまで進んだ胎児治療】先天性横隔膜ヘルニアに対する胎児鏡下気管閉塞術の適応と実際　産科と婦人科 2018;85(9):1063-1067
13) 杉林里佳，和田誠司，左合治彦：【ここまで進んだ胎児治療】重症先天性大動脈弁狭窄・閉鎖に対する胎児治療の適応と実際　産科と婦人科 2018;85(9):1074-1078
14) 佐々木愛子，本村健一郎，左合治彦：【知っておくべき治療可能な胎児・新生児希少疾患】(自己)免疫疾患　新生児ヘモクロマトーシス　周産期医学 2018;48(10):1391-1395
15) 左合治彦，杉林里佳，小澤克典，和田誠司：【On Fleek 産婦人科手術】周産期　胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術(FLP)　産婦人科の実際 2018;67(11):1416-1423
16) 和田誠司，室本仁，杉林里佳，小澤克典，左合治彦：【小児医療における診断・治療の進歩2018】治療技術　胎児治療　小児科 2018;59(12):1745-1752
17) 左合治彦：胎児治療　Fetal Surgery　日本産科婦人科学会雑誌 2018;70(11):2399-2403
18) 和田誠司，室本仁，赤石理奈，杉林里佳，小澤克典，左合治彦：【周産期内分泌疾患の必修知識】母体合併症・治療の母体への影響　ミラー症候群　周産期医学 2018;48(11):1479-1481
19) 左合治彦：生殖医療・妊孕性温存・出生前診断の今　出生前診断の現状 Journal of Clinical Rehabilitation 2018;27(11):1112-1115
20) 佐々木愛子，左合治彦：出生前診断の進歩と遺伝カウンセリングの役割　日本における出生前検査の現状　日本遺伝カウンセリング学会誌 2018;39(3):97-101
21) 西山深雪，父親の加齢と胎児異常,臨床婦人科産科, 72(12): - (2018)
22) 小澤伸晃,丸山哲夫：染色体構造異常,臨床婦人科産科 2018;72(4):185-189

[著書]

1) 小澤伸晃：抗リン脂質抗体症候群，実践　臨床生殖免疫学(柴原浩章編)中外医学社 2018:640-644

[ガイドライン,報告書,その他]
なし

[学会発表・シンポジウム]

1) Miyuki Nishiyama, Akihiko Sekizawa , Hiroaki Nakamura, Nobuhiro Suzumori, Setsuko Nakayama, Takahiro Yamada, Masaki Ogawa, Yukiko Katagiri, Yoko Okamoto, Akira Namba, Haruka Hamanoue, Masanobu Ogawa, Kiyonori Miura, Shunichiro Izumi, Yoshimasa Kamei, Haruhiko Sago. Parental decisions on prenatally diagnosed chromosome abnormalities before 22 weeks of gestation: A Japanese multicenter retrospective study. The 13th International Congress of Human Genetics, Kyoto, 2018.4
2) Seiji Kanazawa, Rika Sugibayashi, Katsusuke Ozawa, Seiji Wada, Yushi Ito, Haruhiko Sago：The risks of the Solomon technique of fetoscopic laser photocoagulation for twin-twin transfusion syndrome **第 28 回国際産婦人科超音波学会学術講演会 シンガポール** 2018.10.20-24
3) **左合治彦：**Fetal Surgery **第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会 宮城** 2018.5.10-13
4) Seiji Kanazawa, Rika Sugibayashi, Katsusuke Ozawa, Seiji Wada, Yushi Ito, Haruhiko Sago：The outcome of fetoscopic laser photocoagulation using the Solomon technique versus selective coagulation for twin-twin transfusion syndrome **第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会 宮城** 2018.5.10-13
5) **杉林里佳, 和田誠司, 金沢誠司, 串本卓哉, 赤石理奈, 佐々木愛子, 左合治彦 ： 妊娠 20 週未満に診断された胎児下部尿路閉塞症例の転帰 第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会 宮城** 2018.5.10-13
6) **小川浩平,佐藤昌司,斎藤滋,左合治彦,森崎菜穂：高年妊娠が妊娠転帰に与える影響とその背景因子による効果修飾 第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会 宮城** 2018.5.10-13
7) **和田誠司：超音波検査による胎児評価 ー胎児の形態学的評価ー 第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会 宮城** 2018.5.10-13
8) **網田光善,小川浩平,波羅友里恵,西井彰悟,田中理恵子,斎藤隆和,齋藤英和：排卵誘発剤併用による人工授精(IUI)周期の排卵数と妊娠率の検討 第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会 宮城** 2018.5.10-13
9) **室本仁,和田誠司,串本卓哉,赤石里奈,杉林里佳,小澤克典,左合治彦：胎児脊髄髄膜瘤の出生前診断と胎児治療の適応 第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会 宮城** 2018.5.10-13
10) **中川智絵 関口将軌,三辻礼美,金沢誠司,串本拓哉,松井仁志,芝田恵,高橋由佳,宮美智子,小川浩平,赤石里奈,左合治彦：双胎妊娠の膜性による周産期予後の差異 第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会 宮城** 2018.5.10-13
11) **鈴木朋, 梅原永能, 三辻礼美, 中川智絵, 松井仁志, 関口将軌, 三井真理, 左合治彦: 既往流早産症例に対しての合成プロゲステロンの有用性及び有害事象についての評価 第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会 宮城** 2018.5.10-13
12) **三井真理, 小澤伸晃, 舟木哲, 高橋由佳, 佐々木愛子, 梅原永能, 左合治彦：当院における不育症患者の既往流死産回数別妊娠予後 第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会 宮城** 2018.5.10-13
13) **谷垣伸治, 永田知映, 小澤伸晃, 芝田恵, 金子佳代子, 村島温子, 小林陽一, 岩下光利, 左合治彦：妊娠中の母体プレドニゾロン投与による胎児・新生児免疫能への影響 第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会 宮城** 2018.5.10-13
14) **山田崇弘, 関沢明彦, 廣瀬達子, 佐村修, 鈴森伸宏, 三浦清徳, 澤井英明, 平原史樹, 左合治彦：**NIPT **から推定した本邦におけるトリソミー頻度と** NIPT **の経験的陽性的中率及び陰性的中率 第** 70 **回日本産科婦人科学会学術講演会 宮城** 2018.5.10-13
15) **岡崎有香, 金子佳代子, 荒田尚子, 左合治彦, 村島温子：**SLE **合併妊娠におけるステロイド内服と前期破水 第** 70 **回日本産科婦人科学会学術講演会 宮城** 2018.5.10-13
16) **杉林里佳, 和田誠司, 室本仁, 赤石理奈, 山本亮, 石井桂介, 左合治彦 ： 妊娠 26 週未満に胎児下部尿路閉塞と診断された症例の転帰 第 54 回日本周産期・新生児医学会学術集会 東京** 2018.7.8-10

17) 杉林里佳 ： 胎児評価の新展開 胎児生体電気信号の可能性 第 54 回日本周産期・新生児医学会学術講演会 ランチョンセミナー 東京 2018.7.8-10
18) 鈴木朋, 梅原永能, 舟木哲, 金沢誠司, 松井仁志,高橋由佳, 三井真理, 小澤伸晃, 左合治彦：既往早産症例に対する合成プロゲステロン筋肉注射の分娩転帰と早産リスク因子についての検討 第 54 回日本周産期・新生児医学会学術集会 東京 2018.7.8-10
19) 石井 桂介, 和田誠司, 山本亮, 杉林里佳, 左合治彦: 胎児下部尿路閉塞(LUTO)に対する胎児膀胱鏡の臨床試験の計画 第 54 回日本周産期・新生児医学会学術集会 東京 2018.7.8-10
20) 岡崎有香, 梅原永能, 和田誠司, 荒田尚子, 左合治彦：油性ヨード造影剤による子宮卵管造影検査(HSG)後の妊娠で羊水過多を伴う胎児甲状腺腫を認めた 3 妊娠例 第 54 回日本周産期・新生児医学会学術集会 東京 2018.7.8-10
21) 前田裕斗,杉林里佳,林彩世,小野寺洋平,室本仁,赤石理奈,和田誠司,左合治彦：出生前診断困難であった上部消化管閉鎖合併上気道閉鎖の二例 第 16 回日本胎児治療学会学術集会 東京
22) 芝田恵 赤石理奈 佐々木愛子 舟木哲 串本卓哉 小川浩平 杉林里佳 関口将軌 小澤克典 梅原永能 上原麻理子 和田誠司 小澤伸晃 西山深雪 左合治彦：当院におけるNIPTを含めた出生前遺伝学的検査の受検実態 第 41 回日本遺伝カウンセリング学会学術集会 宮城 2018.5.11
23) 長澤純子,和田友香,諫山哲哉, 佐々木愛子,本村健一郎,伊藤玲子,左合治彦,伊藤裕司：国内における新生児ヘモクロマトーシス症例の実態調査 第 54 回日本周産期・新生児医学会 東京 2018.7.8-10
24) 三辻礼美,小川浩平,金沢誠司,森崎菜穂,左合治彦：妊娠初期及び中期のカフェイン摂取が及ぼす妊娠転帰への影響 第 54 回日本周産期・新生児医学会 東京 2018.7.8-10
25) 芝田恵, 赤石理奈, 佐々木愛子, 小川浩平, 杉林里佳, 関口将軌, 小澤克典, 梅原永能, 上原麻理子, 和田誠司, 小澤伸晃, 西雪, 左合治彦：当院周産期遺伝外来におけるNIPTを含めた遺伝学的検査の受検実態 第 54 回日本周産期・新生児医学会 東京 2018.7.8-10
26) 室本仁,和田誠司,舟木哲,赤石里奈,杉林里佳,左合治彦：当院における Potter sequence46 例の検討 第 54 回日本周産期・新生児医学会 東京 2018.7.8-10
27) 佐々木愛子 小川浩平 和田誠司 小澤伸晃 左合治彦：胎児期から新生児期へ マネジメントの現状と展望 ～開放性神経管障害（二分脊椎）の出生前診断と疾患予防・治療～ 第 35 回日本二分脊椎研究会 神奈川 2018.7.14
28) Seiji Kanazawa, Rika Sugibayashi, Katsusuke Ozawa
29) Seiji Wada, Takako Yoshioka, Haruhiko Sago：The clinical and pathological findings of placental abruption following fetoscopic laser photocoagulation for twin-twin transfusion syndrome using the Solomon technique ：第 24 回国際胎盤学会 東京 2018.9.21-24
30) 酒井杏菜・関口将軌・三辻礼美・舟木哲・松井仁志・小川浩平・赤石理奈・佐々木愛子・三井真理・梅原永能・小澤伸晃・左合治彦：当センターにおける超緊急帝王切開術の現状 第 387 回東京産科婦人科学会例会 東京 2018.9.29
31) 舟木哲,佐々木愛子,池袋真,嘉村駿佑,小野寺洋平,串本卓哉,松井仁志,芝田恵,小川浩平,赤石理奈,杉林里佳,関口将軌,小澤克典,梅原永能,上原真理子,和田誠司,小澤伸晃,西山深雪,左合治彦：当施設における双胎妊娠の羊水検査のリスク 日本人類遺伝学会第 63 回大会 神奈川 2018.10.11
32) 鈴木朋 赤石理奈 佐々木愛子 鈴木美奈子 串本卓哉 金沢誠司 舟木哲 中村紀友喜 芝田恵 小川浩平 杉林里佳 関口雅軌 小澤克典 梅原永能 谷垣伸治 和田誠司 小澤伸晃 西山深雪 左合治彦：当院における着床前診断後妊娠症例の出生前診断の状況 日本人類遺伝学会第 63 回大会 神奈川 2018.10.11
33) 小川浩平：女児における出生週数・出生体重と成長後の妊娠転帰との関係 第77回日本公衆衛生学会総会 福島 2018.10.26
34) 鈴木朋, 梅原永能, 三辻礼美,串本卓哉,左合治彦: 早産既往症例における縫縮術と妊娠転帰についての検討 第 12 回日本早産学会学術集会 埼玉 2018.10.12
35) 岡田 憲樹(自治医科大学 医学部移植外科), 眞田 幸弘, 井原 欣幸, 山田 直也, 平田 雄大, 片野 匠, 佐々木 愛子, 水田 耕一：新生児ヘモクロマトーシス同胞発症予防に対する母体高用量γグロブリン療法を施行した 2 例 第 45 回小児栄養消化器肝臓学会 埼玉 2018.10.6

36) 室本仁,赤石里奈,杉林里佳,小澤克典,和田誠司,左合治彦：胎児脊髄髄膜瘤の出生前診断と胎児治療の現状　第 16 回胎児治療学会　東京 2018.11.30
37) 小澤克典,和田誠司,左合治彦,Zhiyun Tian,Jack Rychik,,Marcus Davey,Alan W. Flake：Extrauterine Environment for Neonatal Development（EXTEND）におけるヒツジ胎仔の循環 および心機能評価　第 16 回胎児治療学会　東京 2018.11.30
38) 三好剛一,前野泰樹,左合治彦,稲村昇,安河内聰,川滝元,堀米仁志, 與田仁志,竹田津未生,新居正基,生水真紀夫,賀藤均,萩原聡子,坂口平馬, 白石公,上田恵子,桂木真司,濵崎俊光,山本晴子,池田智明：胎児頻脈性不整脈に対する経胎盤的抗不整脈薬投与に関する臨床試験：多施設共同介入試験　第 16 回胎児治療学会　東京 2018.11.30
39) 串本卓哉, 赤石理奈, 嘉村駿佑, 小野寺洋平, 舟木哲, 松井仁志, 芝田恵, 小川浩平, 杉林里佳, 関口将軌, 小澤克典, 佐々木愛子, 梅原永能, 上原麻理子, 和田誠司, 小澤伸晃, 西山深雪, 左合治彦: NIPT 以外の非確定的検査を第一選択した後の選択と転帰　第 4 回日本産科婦人科遺伝診療学会　東京　2018.12.14

[講演]

1) 佐々木愛子：新生児ヘモクロマトーシスに対する母体大量ガンマグロブリン療法と新生児予後　第 120 回東京新生児研究会　東京
2) 佐々木愛子：周産期遺伝カウンセリングにおける必須知識　第 4 回日産婦遺伝診療学会　東京 2018.12.14
3) 佐々木愛子：胎児期から新生児期へ　マネジメントの現状と展望　～開放性神経管障害（二分脊椎）の出生前診断と疾患予防・治療～　第 35 回日本二分脊椎研究会　神奈川　2018.7.14
4) 鈴木朋：「妊娠と薬～産婦人科でよく処方する薬編～」第 45 回品川地区産婦人科臨床研究会 2018.5.24
5) 和田誠司　成育医療研究センターにおける胎児診療　－胎児治療と NIPT－,世田谷区・玉川産婦人科医会 合同学術講演 2018.5.24
6) 和田誠司　胎児超音波検査　江戸川・江東・千葉西ブロック産婦人科医会合同研修会　2018.9.1
7) 和田誠司　総排泄腔遺残,総排泄腔外反・膀胱外反の胎児診断, 下部尿路閉鎖の胎児診断と胎児治療神奈川胎児エコー研究会　第 69 回スペシャル講座　2018.7.29
8) 左合治彦：教育講演：胎児治療と母性．第 33 回東京母性衛生学会学術セミナー，東京，2018.3.10
9) 左合治彦：生涯研修プログラム 16 胎児治療：1) fetal surgery．第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会，仙台，2018.5.12
10) Sago H: The current state of fetal therapy in Japan. Invited lecture. 104th Annual Congress of the Korean Society of Obstetrics and Gynecology and 23rd Seoul International Symposium. Seoul, Korea, 2018.Sep 28
11) Sago H: Fetal therapy for complicated monochorionic twin pregnancy. Invited lecture. 104th Annual Congress of the Korean Society of Obstetrics and Gynecology and 23rd Seoul International Symposium. Seoul, Korea, 2018.Sep 29
12) 左合治彦：研究する心－研究するきっかけと臨床－．福岡大学産婦人科学教室講演，福岡，2018.11.22

[広報活動]　なし

産科麻酔科

[原著論文]

1. 森由美子, 佐藤正規, 山下陽子, 遠山悟史, 鈴木康之：硬膜外無痛分娩から帝王切開へ移行した症例の麻酔方法についての後方視的検討． 麻酔 2018;67:1269-1275

[症例報告]

[総説]

1. 佐藤正規, 鈴木康之： 胎児治療(子宮内手術)の麻酔管理． 日臨麻会誌 2018;38:548-555
2. 新原朗子, 中川元文, 狩谷伸享, 丸山由起子, 大畑めぐみ, 山下陽子, 佐藤正規, 田村高子： 症例カンファレンス CSEA 後神経障害の既往のある妊婦(解説)． LiSA 2018;25(12):1237-52

[著書]

1. 佐藤正規, 鈴木康之：胎児治療(子宮内手術)の麻酔管理. 日本臨床麻酔学会 稲垣喜三, 齊藤洋司(編集). 臨床麻酔実践シリーズ 10「産科麻酔」. ライフメディコム, 2018;33-42

[ガイドライン]

[講演]

1. 佐藤正規. 産科麻酔の ABC. 第 15 回首都圏麻酔カンファレンス, 東京、2018.2.24
2. 佐藤正規. 妊婦の呼吸管理～気道確保から術後呼吸管理まで～. 第 122 回日本産科麻酔学会学術集会, 浜松市, 2018.11.23

[学会発表]

1. 伊集院亜梨紗, 佐藤正規, 山下陽子, 久保浩太, 鈴木康之： 当院における無痛分娩後の神経症状について検討． 日本麻酔科学会第 65 回学術集会, 神奈川, 2018.5.17
2. 久保浩太, 山下陽子, 佐藤正規, 梅原永能, 佐合治彦： 無痛分娩における麻酔手技に関連する有害事象の後方視的検討． 第 54 回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会， 東京, 2018.7.9
3. 久保浩太, 蜷川純, 行正翔, 糟谷周吾, 遠山悟史, 鈴木康之： 右肺無形成を合併した総肺静脈還流異常修復術の麻酔経験． 日本心臓血管麻酔学会第 23 回学術集会， 東京， 2018.9.15
4. 金山旭, 蜷川純, 阿部真友子, 行正翔, 遠山悟史, 鈴木康之： 先天性食道閉鎖・食道気管瘻を合併した共通肺静脈閉鎖の新生児手術の麻酔経験． 日本心臓血管麻酔学会第 23 回学術集会, 東京， 2018.9.15
5. 金山旭, 遠山悟史, 田村高子, 鈴木康之： 若手男性医師からみた女性麻酔科医—同僚支援の視点から—． 日本臨床麻酔学会第 38 回大会， 北九州， 2018.11.3
6.
7. 金山旭, 山下陽子, 佐藤正規, 遠山悟史, 鈴木康之： 妊娠高血圧症患者で緊急帝王切開弛緩出血後に視力低下, 視野異常を認めた1例. 第 122 回日本産科麻酔学会学術集会， 浜松, 2018.11.23
8. 山本依志子, 山下陽子, 久保浩太, 金山旭, 佐藤正規, 梅原永能, 左合治彦： 当センターにおける、無痛分娩時の胎児心拍低下による緊急帝王切開の解析． 第 122 回日本産科麻酔学会学術集会， 浜松， 2018.11.23
9. 阿部真友子, 佐藤正規, 金山旭, 久保浩太, 山下陽子, 鈴木康之： ベーチェット病合併妊娠における無痛分娩 3 症例の検討． 第 122 回日本産科麻酔学会学術集会， 浜松， 2018.11.23
10. 平井晶子, 三浦加奈, 佐藤正規, 久保浩太, 平本康子：「飛び込み無痛分娩」症例の検討． 第 122 回日本産科麻酔学会学術集会， 浜松， 2018.11.23
11. 三浦加奈, 佐藤正規, 久保浩太, 平井昌子, 平本康子： 当センターにおける無痛分娩クラスの分析と今後の課題. 第 122 回日本産科麻酔学会学術集会， 浜松， 2018.11.23

12. **行正翔，佐藤正規，鈴木康之： 当院での超緊急帝王切開手術における麻酔方法と胎児の予後に関する後方視的検討． 第 122 回日本産科麻酔学会学術集会， 浜松，** 2018.11.23

産科・胎児診療科・妊娠免疫科・不育診療科

[原著論文：査読付(Reviewed Paper)]

1) Sekiguchi M, Miyoshi Y, Kikuchi N, Sago H.: Pregnancy outcomes in female childhood cancer survivors: Nationwide survey in Japan. Pediatr Int. 2018 Mar;60(3):254-258.
2) Nakamura M, Umehara N, Ishii K, Sasahara J, Kiyoshi K, Ozawa K, Tanaka K, Tanemoto T, Ichizuka K, Hasegawa J, Ishikawa H, Murakoshi T, Sago H.: A poor long-term neurological prognosis is associated with abnormal cord insertion in severe growth-restricted fetuses. J Perinat Med. 2018 Nov 27;46(9):1040-1047.
3) Ichimiya Y, Wada Y, Kunishima S, Tsukamoto K, Kosaki R, Sago H, Ishiguro A, Ito Y.: 11q23 deletion syndrome (Jacobsen syndrome) with severe bleeding: a case report. J Med Case Rep. 2018 Jan 8;12(1):3.
4) Ogawa K, Tanaka S, Limin Y, Arata N, Sago H, Yamamoto-Hanada K, Narita M, Ohya Y.: Reply to Matsubara et.al. Pediatr Allergy Immunol. 2018 May;29(3):333-334.
5) Ogawa K, Morisaki N, Kobayashi M, Jwa SC, Tani Y, Sago H, Horikawa R, Fujiwara T.: Maternal vegetable intake in early pregnancy and wheeze in offspring at the age of 2 years. Eur J Clin Nutr. 2018 May;72(5):761-771.
6) Sago H, Ishii K, Sugibayashi R, Ozawa K, Sumie M, Wada S.: Fetoscopic laser photocoagulation for twin-twin transfusion syndrome. J Obstet Gynaecol Res. 2018 May;44(5):831-839.
7) Suyama F, Ozawa K, Ogawa K, Sugibayashi R, Wada S, Sago H.: Fetal lung size after thoracoamniotic shunting reflects the survival in primary fetal hydrothorax with hydrops. J Obstet Gynaecol Res. 2018 Jul;44(7):1216-1220.
8) Kojima Y, Ozawa K, Sugibayashi R, Wada S, Sago H.: Stomach herniation prior to non-reassuring fetal status in a case of fetal gastroschisis. J Obstet Gyn R. 2018 Jul;44(7):1322-1325.
9) Ogawa K , Morisaki N , Sago H, Fujiwara T, Horikawa R.: Association between women's perceived ideal gestational weight gain during pregnancy and pregnancy outcomes. Sci rep. 2018 Aug 1;8(1):11574.
10) Okada N, Sasaki A, Saito J, Mitani Y, Yachie A, Takahashi H, Matsubara S, Tenkumo C, Tanaka H, Hata T, Motomura K, Nagasawa J, Wada Y, Sako M, Yamaguchi K, Matsumoto K, Nakamura H, Sago H, Mizuta K.: The Japanese experience and pharmacokinetics of antenatal maternal high-dose immunoglobulin treatment as a prophylaxis for neonatal hemochromatosis in siblings. J Matern Fetal Neonatal Med. 2018 Jul 22:1-7.
11) Suzumori N, Sekizawa A, Ebara T, Samura O, Sasaki A, Akaishi R, Wada S, Hamanoue H, Hirahara F, Izumi H, Sawai H, Nakamura H, Yamada T, Miura K, Masuzaki H, Yamashita T, Okai T, Kamei Y, Namba A, Murotsuki J, Tanemoto T, Fukushima A, Haino K, Tairaku S, Matsubara K, Maeda K, Kaji T, Ogawa M, Osada H, Nishizawa H,

Okamoto Y, Kanagawa T, Kakigano A, Kitagawa M, Ogawa M, Izumi S, Katagiri Y, Takeshita N, Kasai Y, Naruse K, Neki R, Masuyama H, Hyodo M, Kawano Y, Ohba T, Ichizuka K, Nagamatsu T, Watanabe A, Shirato N, Yotsumoto J, Nishiyama M, Hirose T, Sago H.: Fetal cell-free DNA fraction in maternal plasma for the prediction of hypertensive disorders of pregnancy. Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol. 2018 May;224:165-169.

12) Ueda K, Maeno Y, Miyoshi T, Inamura N, Kawataki M, Taketazu M, Nii M, Hagiwara A, Horigome H, Shozu M, Shimizu W, Yasukochi S, Yoda H, Shiraishi I, Sakaguchi H, Katsuragi S, Sago H, Ikeda T; ; on behalf of Japan Fetal Arrhythmia Group.: The impact of intrauterine treatment on fetal tachycardia: a nationwide survey in Japan. J Matern Fetal Neonatal Med. 2018 Oct;31(19):2605-2610.

13) Kaneko K, Mishima S, Goto M, Mitsui M, Tanigaki S, Oku K, Ozawa N, Inoue E, Atsumi T, Sago H, Murashima A.: Clinical feature and anti-phospholipid antibody profiles of pregnancy failure in young women with antiphospholipid antibody syndrome treated with conventional therapy. Mod Rheumatol. 2018 Jul;28(4):670-675.

14) Aoki S, Hashimoto K, Ogawa K, Horikawa R, Sago H.: Developmental outcomes of Japanese children born through Assisted Reproductive Technology (ART) in toddlerhood. J Obstet Gynaecol Res. 2018 May;44(5):929-935.

15) Yamada T, Sekizawa A, Fujii Y, Hirose T, Samura O, Suzumori N, Miura K, Sawai H, Hirahara F, Murotsuki J, Kamei Y, Sago H; Japan NIPT consortium.: Correction: Maternal age-specific risk for trisomy 21 based on the clinical performance of NIPT and empirically derived NIPT age-specific positive and negative predictive values in Japan. J Hum Genet. 2018 Oct;63(10):1097-1098.

16) Muto M, Matsufuji H, Taguchi T, Tomomasa T, Nio M, Tamai H, Tamura M, Sago H, Toki A, Nosaka S, Kuroda T, Yoshida M, Nakajima A, Kobayashi H, Sou H, Masumoto K, Watanabe Y, Kanamori Y, Hamada Y, Yamataka A, Shimojima N, Kubota A, Ushijima K, Haruma K, Fukudo S, Araki Y, Kudo T, Obata S, Sumita W, Watanabe T, Fukahori S, Fujii Y, Yamada Y, Jimbo K, Kawai F, Fukuoka T, Onuma S, Morizane T, Ieiri S, Esumi G, Jimbo T, Yamasaki T.: Japanese clinical practice guidelines for allied disorders of Hirschsprung's disease, 2017. Pediatr Int. 2018 May;60(5):400-410.

17) Miyake H, Yamada S, Fujii Y, Sawai H, Arimori N, Yamanouchi Y, Ozasa Y, Kanai M, Sago H, Sekizawa A, Takada F, Masuzaki H, Matsubara Y, Hirahara F, Kugu K.: Correction: Nationwide survey for current clinical status of amniocentesis and maternal serum marker test in Japan. J Hum Genet. 2018 Nov;63(11):1195.

18) Watanabe T, Ohno M, Tahara K, Tomonaga K, Fuchimoto Y, Fujino A, Hishiki T, Tsukamoto K, Ito Y, Sugibayashi R, Wada S, Sago H, Higuchi M, Kawasaki K, Yoshioka T, Kanamori Y.: An investigation on clinical differences between congenital pulmonary airway malformation and bronchial atresia. J Pediatr Surg. 2018 Dec;53(12):2390-2393.

19) Fuchimoto Y, Watanabe T, Fujino A, Kanamori Y, Itoh Y, Wada S, Sago H, Yoshioka T.: Predictors of early lobectomy after birth in prenatally diagnosed congenital pulmonary airway malformation. J Pediatr Surg. 2018 Dec;53(12):2386-2389.

20) Hasegawa J, Wada S, Kasamatsu A, Nakamura M, Hamanoue H, Iwata E, Murotsuki J, Nagai R, Tateishi Y, Sunami R, Tajima A, Murata S, Matsubara K, Nakata M, Kondo A, Nishiyama M, Sasaki A, Sekizawa A, Sago H, Kamei Y; Study group for first trimester Combined Test (FCTG).: Distribution of PAPP-A and total hCG between 11 and 13 weeks of gestation in Japanese pregnant women. J Matern Fetal Neonatal Med. 2018 Nov;28:1-6.

21) Aoki H, Ito N, Kaniwa N, Saito Y, Wada Y, Nakajima K, Sago H, Murashima A, Okamoto A, Ito S.: Low Levels of Amlodipine in Breast Milk and Plasma. Breastfeed Med. 2018 Nov;13(9):622-626.

22) 大西純貴, 関口将軌, 正古悠一, 松田祐奈, 中川智絵, 舟木哲, 松井仁志, 鈴木朋, 梅原永能, 小澤伸晃, 塚原優己, 左合治彦：当センターにおける妊娠・産褥期の基質特異性拡張型βラクタマーゼ(ESBL)産生菌の現状について. 東京産科婦人科学会会誌 2018;67(1):12-16

23) 正古悠一, 谷垣伸治, 関口将軌, 松田裕奈, 大西純貴, 芝田恵, 梅原永能, 左合治彦：当院における母体菌血症と児の予後. 東京産科婦人科学会会誌 2018;67(1):17-21

24) 佐々木愛子, 左合治彦, 吉橋博史, 山田重人, 三宅秀彦, 鈴森伸宏, 高田史男, 増﨑英明, 平原史樹, 久具宏司, 小西郁生：日本における出生前遺伝学的検査の動向 1998-2016. 日本周産期・新生児医学会雑誌 2018;54(1):101-107

25) 小澤克典, 村田将春, 室月淳, 村越毅, 与田仁志, 梶原道子, 北澤淳一, 左合治彦：胎児輸血実施マニュアル 日本産婦人科・新生児血液学会誌 2018;27(2):97-100

26) 西山深雪. 出生前診断における遺伝カウンセラーの役割,日本遺伝カウンセリング学会誌 39(1): 15-19. 2018

[原著論文：査読なし]※出版社からの依頼原稿は除く

なし

[症例報告(Case report)]

なし

[総説(Review article)]

1. 小川浩平, 左合治彦：基礎疾患と妊娠高血圧症候群. 産婦人科の実際 2018;67(6):633-637
2. 大野通暢, 金森豊, 朝長高太郎, 渡邉稔彦, 田原和典, 菱木知郎, 藤野明浩, 甘利昭一郎, 塚本桂子, 伊藤裕司, 杉林里佳, 和田誠司, 左合治彦：当センターで出生前診断された先天性横隔膜ヘルニアの治療成績. 小児外科 2018;50(6):583-587
3. 渡邉稔彦, 大野通暢, 朝長高太郎, 田原和典, 菱木知郎, 藤野明浩, 和田誠司, 左合治彦, 諫山哲哉, 伊藤裕司, 宮嵜治, 野坂俊介, 金森豊：仙尾部奇形腫の治療成績に関する検討と今後の課題. 小児外科 2018;50(6):628-631
4. 小澤克典, 和田誠司, 左合治彦：【胎児心臓をみる-診断から治療へ】重症大動脈弁狭窄症に対する胎児治療 産科と婦人科 2018;85(1):78-84
5. 和田誠司, 杉林里佳, 小澤克典, 左合治彦：【胎児心臓をみる-診断から治療へ】TTTS/TRAP

に対する胎児治療　産科と婦人科 2018;85(1):85-89

6. 和田誠司, 杉林里佳, 小澤克典, 遠藤誠之, 左合治彦：今,専門学会では何が話題なのか?【第 5 回】日本胎児治療学会第 14 回日本胎児治療学会学術集会 現在の我が国における先天性横隔膜ヘルニアに対する FETO(胎児鏡下気管閉塞術の適応)の成績と今後 周産期医学 2018;48(5):612-613
7. 左合治彦：【今,話題になっていること-産科編】胎児疾患に対する外科的治療 日本医事新報 2018;4913:37-39
8. 鈴木朋, 小川浩平, 梅原永能, 左合治彦：【早産と助産師のケア】日本の切迫早産と早産管理の現状について 助産雑誌 2018;72(9):660-665
9. 和田誠司：胎児の生理学 日本臨床麻酔学会誌. 2018;38:538-41
10. 和田誠司：新生児医療最新トピック NEXT(no.14) 先天性横隔膜ヘルニアに対する胎児治療の最前線. Neonatal Care. 2018;31:486.
11. 左合治彦：【ここまで進んだ胎児治療】胎児治療総論 産科と婦人科 2018;85(9):1013-1017
12. 和田誠司, 室本仁, 杉林里佳, 小澤克典, 遠藤誠之, 左合治彦：【ここまで進んだ胎児治療】先天性横隔膜ヘルニアに対する胎児鏡下気管閉塞術の適応と実際 産科と婦人科 2018;85(9):1063-1067
13. 杉林里佳, 和田誠司, 左合治彦：【ここまで進んだ胎児治療】重症先天性大動脈弁狭窄・閉鎖に対する胎児治療の適応と実際 産科と婦人科 2018;85(9):1074-1078
14. 佐々木愛子, 本村健一郎, 左合治彦：【知っておくべき治療可能な胎児・新生児希少疾患】(自己)免疫疾患 新生児ヘモクロマトーシス 周産期医学 2018;48(10):1391-1395
15. 左合治彦, 杉林里佳, 小澤克典, 和田誠司：【On Fleek 産婦人科手術】周産期 胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術(FLP) 産婦人科の実際 2018;67(11):1416-1423
16. 和田誠司, 室本仁, 杉林里佳, 小澤克典, 左合治彦：【小児医療における診断・治療の進歩 2018】治療技術 胎児治療 小児科 2018;59(12):1745-1752
17. 左合治彦：胎児治療 Fetal Surgery 日本産科婦人科学会雑誌 2018;70(11):2399-2403
18. 和田誠司, 室本仁, 赤石理奈, 杉林里佳, 小澤克典, 左合治彦：【周産期内分泌疾患の必修知識】母体合併症・治療の母体への影響 ミラー症候群 周産期医学 2018;48(11):1479-1481
19. 左合治彦：生殖医療・妊孕性温存・出生前診断の今 出生前診断の現状 Journal of Clinical Rehabilitation 2018;27(11):1112-1115
20. 佐々木愛子, 左合治彦：出生前診断の進歩と遺伝カウンセリングの役割 日本における出生前検査の現状 日本遺伝カウンセリング学会誌 2018;39(3):97-101
21. 西山深雪, 父親の加齢と胎児異常,臨床婦人科産科, 72(12): - (2018)
22. 小澤伸晃,丸山哲夫：染色体構造異常,臨床婦人科産科 2018;72(4):185-189

[著書]

1. 小澤伸晃：抗リン脂質抗体症候群, 実践 臨床生殖免疫学(柴原浩章編)中外医学社 2018:640-644

[ガイドライン,報告書,その他]

なし

[学会発表・シンポジウム]

1. Miyuki Nishiyama, Akihiko Sekizawa , Hiroaki Nakamura, Nobuhiro Suzumori, Setsuko Nakayama, Takahiro Yamada, Masaki Ogawa, Yukiko Katagiri, Yoko Okamoto, Akira Namba, Haruka Hamanoue, Masanobu Ogawa, Kiyonori Miura, Shunichiro Izumi, Yoshimasa Kamei, Haruhiko Sago. Parental decisions on prenatally diagnosed chromosome abnormalities before 22 weeks of gestation: A Japanese multicenter retrospective study. The 13th International Congress of Human Genetics, Kyoto, 2018.4
2. Seiji Kanazawa, Rika Sugibayashi, Katsusuke Ozawa, Seiji Wada, Yushi Ito, Haruhiko Sago：The risks of the Solomon technique of fetoscopic laser photocoagulation for twin-twin transfusion syndrome **第 28 回国際産婦人科超音波学会学術講演会 シンガポール** 2018.10.20-24
3. **左合治彦：**Fetal Surgery **第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会 宮城** 2018.5.10-13
4. Seiji Kanazawa, Rika Sugibayashi, Katsusuke Ozawa, Seiji Wada, Yushi Ito, Haruhiko Sago**：**The outcome of fetoscopic laser photocoagulation using the Solomon technique versus selective coagulation for twin-twin transfusion syndrome **第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会 宮城** 2018.5.10-13
5. **杉林里佳, 和田誠司, 金沢誠司, 串本卓哉, 赤石理奈, 佐々木愛子, 左合治彦 ： 妊娠 20 週未満に診断された胎児下部尿路閉塞症例の転帰 第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会 宮城** 2018.5.10-13
6. **小川浩平,佐藤昌司,斎藤滋,左合治彦,森崎菜穂：高年妊娠が妊娠転帰に与える影響とその背景因子による効果修飾 第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会 宮城** 2018.5.10-13
7. **和田誠司：超音波検査による胎児評価 ー胎児の形態学的評価ー 第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会 宮城** 2018.5.10-13
8. **網田光善,小川浩平,波羅友里恵,西井彰悟,田中理恵子,斎藤隆和,齋藤英和：排卵誘発剤併用による人工授精(IUI)周期の排卵数と妊娠率の検討 第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会 宮城** 2018.5.10-13
9. **室本仁,和田誠司,串本卓哉,赤石里奈,杉林里佳,小澤克典,左合治彦：胎児脊髄髄膜瘤の出生前診断と胎児治療の適応 第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会 宮城** 2018.5.10-13
10. **中川智絵 関口将軌,三辻礼美,金沢誠司,串本拓哉,松井仁志,芝田恵,高橋由佳,宮美智子,小川浩平,赤石里奈,左合治彦：双胎妊娠の膜性による周産期予後の差異 第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会 宮城** 2018.5.10-13
11. **鈴木朋, 梅原永能, 三辻礼美, 中川智絵, 松井仁志, 関口将軌, 三井真理, 左合治彦: 既往流早産症例に対しての合成プロゲステロンの有用性及び有害事象についての評価 第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会 宮城** 2018.5.10-13
12. **三井真理, 小澤伸晃, 舟木哲, 高橋由佳, 佐々木愛子, 梅原永能, 左合治彦：当院における不育症患者の既往流死産回数別妊娠予後 第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会 宮城** 2018.5.10-13
13. **谷垣伸治, 永田知映, 小澤伸晃, 芝田恵, 金子佳代子, 村島温子, 小林陽一, 岩下光利, 左合**

治彦：妊娠中の母体プレドニゾロン投与による胎児・新生児免疫能への影響　第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会　宮城　2018.5.10-13

14. 山田崇弘，関沢明彦，廣瀬達子，佐村修，鈴森伸宏，三浦清徳，澤井英明，平原史樹，左合治彦：NIPT から推定した本邦におけるトリソミー頻度と NIPT の経験的陽性的中率及び陰性的中率　第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会　宮城　2018.5.10-13
15. 岡崎有香，金子佳代子，荒田尚子，左合治彦，村島温子：SLE 合併妊娠におけるステロイド内服と前期破水　第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会　宮城　2018.5.10-13
16. 杉林里佳，和田誠司，室本仁，赤石理奈，山本亮，石井桂介，左合治彦 ： 妊娠 26 週未満に胎児下部尿路閉塞と診断された症例の転帰　第 54 回日本周産期・新生児医学会学術集会　東京　2018.7.8-10
17. 杉林里佳 ： 胎児評価の新展開 胎児生体電気信号の可能性　第 54 回日本周産期・新生児医学会学術講演会 ランチョンセミナー　東京　2018.7.8-10
18. 鈴木朋，梅原永能，舟木哲，金沢誠司，松井仁志,高橋由佳，三井真理，小澤伸晃，左合治彦：既往早産症例に対する合成プロゲステロン筋肉注射の分娩転帰と早産リスク因子についての検討　第 54 回日本周産期・新生児医学会学術集会　東京　2018.7.8-10
19. 石井 桂介，和田誠司，山本亮，杉林里佳，左合治彦: 胎児下部尿路閉塞(LUTO)に対する胎児膀胱鏡の臨床試験の計画　第 54 回日本周産期・新生児医学会学術集会　東京　2018.7.8-10
20. 岡崎有香，梅原永能，和田誠司，荒田尚子，左合治彦：油性ヨード造影剤による子宮卵管造影検査(HSG)後の妊娠で羊水過多を伴う胎児甲状腺腫を認めた 3 妊娠例　第 54 回日本周産期・新生児医学会学術集会　東京　2018.7.8-10
21. 前田裕斗,杉林里佳,林彩世,小野寺洋平,室本仁,赤石理奈,和田誠司,左合治彦：出生前診断困難であった上部消化管閉鎖合併上気道閉鎖の二例　第 16 回日本胎児治療学会学術集会　東京
22. 芝田恵　赤石理奈　佐々木愛子　舟木哲　串本卓哉　小川浩平　杉林里佳　関口将軌　小澤克典　梅原永能　上原麻理子　和田誠司　小澤伸晃　西山深雪　左合治彦：当院における NIPT を含めた出生前遺伝学的検査の受検実態　第 41 回日本遺伝カウンセリング学会学術集会　宮城　2018.5.11
23. 長澤純子,和田友香,諫山哲哉，佐々木愛子,本村健一郎,伊藤玲子,左合治彦,伊藤裕司：国内における新生児ヘモクロマトーシス症例の実態調査　第 54 回日本周産期・新生児医学会　東京　2018.7.8-10
24. 三辻礼美,小川浩平,金沢誠司,森崎菜穂,左合治彦：妊娠初期及び中期のカフェイン摂取が及ぼす妊娠転帰への影響　第 54 回日本周産期・新生児医学会　東京　2018.7.8-10
25. 芝田恵，赤石理奈，佐々木愛子，小川浩平，杉林里佳，関口将軌，小澤克典，梅原永能，上原麻理子，和田誠司，小澤伸晃，西雪，左合治彦：当院周産期遺伝外来における NIPT を含めた遺伝学的検査の受検実態　第 54 回日本周産期・新生児医学会　東京　2018.7.8-10
26. 室本仁,和田誠司,舟木哲,赤石里奈,杉林里佳,左合治彦：当院における Potter sequence46 例の検討　第 54 回日本周産期・新生児医学会　東京　2018.7.8-10
27. 佐々木愛子　小川浩平　和田誠司　小澤伸晃　左合治彦：胎児期から新生児期へ　マネジメントの現状と展望　～開放性神経管障害（二分脊椎）の出生前診断と疾患予防・治療～　第 35 回日本

二分脊椎研究会　神奈川　2018.7.14

28. Seiji Kanazawa, Rika Sugibayashi, Katsusuke Ozawa
29. Seiji Wada, Takako Yoshioka, Haruhiko Sago：The clinical and pathological findings of placental abruption following fetoscopic laser photocoagulation for twin-twin transfusion syndrome using the Solomon technique ：第 24 回国際胎盤学会　東京 2018.9.21-24
30. 酒井杏菜・関口将軌・三辻礼美・舟木哲・松井仁志・小川浩平・赤石理奈・佐々木愛子・三井真理・梅原永能・小澤伸晃・左合治彦：当センターにおける超緊急帝王切開術の現状　第 387 回東京産科婦人科学会例会　東京　2018.9.29
31. 舟木哲,佐々木愛子,池袋真,嘉村駿佑,小野寺洋平,串本卓哉,松井仁志,芝田恵,小川浩平,赤石理奈,杉林里佳,関口将軌,小澤克典,梅原永能,上原真理子,和田誠司,小澤伸晃,西山深雪,左合治彦：当施設における双胎妊娠の羊水検査のリスク　日本人類遺伝学会第 63 回大会　神奈川　2018.10.11
32. 鈴木朋 赤石理奈 佐々木愛子 鈴木美奈子 串本卓哉 金沢誠司 舟木哲 中村紀友喜 芝田恵 小川浩平 杉林里佳 関口雅軌 小澤克典 梅原永能 谷垣伸治 和田誠司 小澤伸晃 西山深雪 左合治彦：当院における着床前診断後妊娠症例の出生前診断の状況　日本人類遺伝学会第 63 回大会　神奈川　2018.10.11
33. 小川浩平：女児における出生週数・出生体重と成長後の妊娠転帰との関係　第77回日本公衆衛生学会総会　福島　2018.10.26
34. 鈴木朋, 梅原永能, 三辻礼美,串本卓哉,左合治彦: 早産既往症例における縫縮術と妊娠転帰についての検討　第 12 回日本早産学会学術集会　埼玉　2018.10.12
35. 岡田 憲樹(自治医科大学 医学部移植外科), 眞田 幸弘, 井原 欣幸, 山田 直也, 平田 雄大, 片野 匠, 佐々木 愛子, 水田 耕一：新生児ヘモクロマトーシス同胞発症予防に対する母体高用量γグロブリン療法を施行した 2 例　第 45 回小児栄養消化器肝臓学会　埼玉　2018.10.6
36. 室本仁,赤石里奈,杉林里佳,小澤克典,和田誠司,左合治彦：胎児脊髄髄膜瘤の出生前診断と胎児治療の現状　第 16 回胎児治療学会　東京　2018.11.30
37. 小澤克典,和田誠司,左合治彦,Zhiyun Tian,Jack Rychik,,Marcus Davey,Alan W. Flake：Extrauterine Environment for Neonatal Development（EXTEND）におけるヒツジ胎仔の循環 および心機能評価　第 16 回胎児治療学会　東京 2018.11.30
38. 三好剛一,前野泰樹,左合治彦,稲村昇,安河内聰,川滝元,堀米仁志, 與田仁志,竹田津未生,新居正基,生水真紀夫,賀藤均,萩原聡子,坂口平馬, 白石公,上田恵子,桂木真司,濵崎俊光,山本晴子,池田智明：胎児頻脈性不整脈に対する経胎盤的抗不整脈薬投与に関する臨床試験：多施設共同介入試験　第 16 回胎児治療学会　東京 2018.11.30
39. 串本卓哉, 赤石理奈, 嘉村駿佑, 小野寺洋平, 舟木哲, 松井仁志, 芝田恵, 小川浩平,　杉林里佳, 関口将軌, 小澤克典, 佐々木愛子, 梅原永能, 上原麻理子, 和田誠司, 小澤伸晃, 西山深雪, 左合治彦: NIPT 以外の非確定的検査を第一選択した後の選択と転帰　第 4 回日本産科婦人科遺伝診療学会　東京　2018.12.14

[講演]

1. 佐々木愛子：新生児ヘモクロマトーシスに対する母体大量ガンマグロブリン療法と新生児予後　第120回東京新生児研究会　東京
2. 佐々木愛子：周産期遺伝カウンセリングにおける必須知識　第 4 回日産婦遺伝診療学会　東京 2018.12.14
3. 佐々木愛子：胎児期から新生児期へ　マネジメントの現状と展望　～開放性神経管障害（二分脊椎）の出生前診断と疾患予防・治療～　第35回日本二分脊椎研究会　神奈川　2018.7.14
4. 鈴木朋：「妊娠と薬～産婦人科でよく処方する薬編～」第 45 回品川地区産婦人科臨床研究会 2018.5.24
5. 和田誠司　成育医療研究センターにおける胎児診療　－胎児治療と NIPT－,世田谷区・玉川産婦人科医会 合同学術講演 2018.5.24
6. 和田誠司　胎児超音波検査　江戸川・江東・千葉西ブロック産婦人科医会合同研修会　2018.9.1
7. 和田誠司　総排泄腔遺残,総排泄腔外反・膀胱外反の胎児診断，下部尿路閉鎖の胎児診断と胎児治療神奈川胎児エコー研究会　第69回スペシャル講座　2018.7.29
8. 左合治彦：教育講演：胎児治療と母性．第 33 回東京母性衛生学会学術セミナー，東京，2018.3.10
9. 左合治彦：生涯研修プログラム 16 胎児治療：1) fetal surgery．第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会，仙台，2018.5.12
10. Sago H: The current state of fetal therapy in Japan. Invited lecture. 104th Annual Congress of the Korean Society of Obstetrics and Gynecology and 23rd Seoul International Symposium. Seoul, Korea, 2018.Sep 28
11. Sago H: Fetal therapy for complicated monochorionic twin pregnancy. Invited lecture. 104th Annual Congress of the Korean Society of Obstetrics and Gynecology and 23rd Seoul International Symposium. Seoul, Korea, 2018.Sep 29
12. 左合治彦：研究する心－研究するきっかけと臨床－．福岡大学産婦人科学教室講演，福岡，2018.11.22

[広報活動]
なし

新生児科

[原著論文：査読付(Reviewed Paper)]

1. Shah PS, Kusuda S, Håkansson S, Reichman B, Lui K, Lehtonen L, Modi N, Vento M, Adams M, Rusconi F, Norman M, Darlow BA, Lodha A, Yang J, Bassler D, Helenius KK, **Isayama T**, Lee SK; International Network for Evaluation of Outcomes (iNEO) in Neonates Investigators.Neonatal Outcomes of Very Preterm or Very Low Birth Weight Triplets. Pediatrics. 2018 Dec;142(6). pii: e20181938. doi: 10.1542/peds.2018-1938. PMID: 30463851
2. Mildenhall LFJ, **Isayama T**. What to do if A + B doesn't work. Semin Fetal Neonatal Med. 2018 Oct;23(5):355-360. doi:10.1016/j.siny.2018.09.005. Epub 2018 Sep 27. Review. PMID: 30292708
3. Darlow BA, Vento M, Beltempo M, Lehtonen L, Håkansson S, Reichman B, Helenius K, Sjörs G, Sigali E, Lee S, Noguchi A, Morisaki N, Kusuda S, Bassler D, San Feliciano L, Adams M, **Isayama T**, Shah PS, Lui K; on behalf of the International Network for Evaluating Outcomes (iNeo) of Neonates. Variations in Oxygen Saturation Targeting, and Retinopathy of Prematurity Screening and Treatment Criteria in Neonatal Intensive Care Units: An International Survey. Neonatology. 2018 Aug 8;114(4):323-331. doi: 10.1159/000490372. [Epub ahead of print] PMID: 30089298
4. Iwami H, **Isayama T**, et al. Outcomes after Neonatal Seizures in Infants Less Than 29 Weeks' Gestation: A Population-Based Cohort Study. Am J Perinatol. 2018 Jul 17. doi: 10.1055/s-0038-1667107. [Epub ahead of print] PMID: 30016820
5. Persson M, Shah PS, Rusconi F, Reichman B, Modi N, Kusuda S, Lehtonen L, Håkansson S, Yang J, **Isayama T**, Beltempo M, Lee S, Norman M; Association of Maternal Diabetes With Neonatal Outcomes of Very Preterm and Very Low-Birth-Weight Infants: An International Cohort Study. International Network for Evaluating Outcomes of Neonates. JAMA Pediatr. 2018 Sep 1;172(9):867-875. doi: 10.1001/jamapediatrics.2018.1811.
6. Beltempo M, **Isayama T** (co-primary author), et al. Respiratory Management of Extremely Preterm Infants: An International Survey. Neonatology. 2018;114(1):28-36. doi: 10.1159/000487987. Epub 2018 Apr 13. PMID: 29656287
7. Watanabe T, Ohno M, Tahara K, Tomonaga K, Fuchimoto Y, Fujino A, Hishiki T, **Tsukamoto K**, **Ito Y**, Sugibayashi R, Wada S, Sago H, Higuchi M, Kawasaki K, Yoshioka T, Kanamori Y. An investigation on clinical differences between congenital pulmonary airway malformation and bronchial atresia. J Pediatr Surg. 2018 Sep 1. pii: S0022-3468(18)30537-2. doi: 10.1016/j.jpedsurg.2018.08.031. [Epub ahead of print] 10. Maruyama H, Saito J, Nagai M, Mochizuki M, Ishikawa Y, Ito Y. Maximization of calcium and phosphate in neonatal total parenteral nutrition. Pediatr Int. 2018 Apr 13. doi: 10.1111/ped.13579. [Epub ahead of print] 11. Ichimiya Y, Wada Y, Kunishima S, Tsukamoto K, Kosaki R, Sago H, Ishiguro A, Ito Y. 11q23 deletion syndrome (Jacobsen syndrome) with severe bleeding: a case report. J Med Case Rep. 2018 Jan 8;12(1):3. doi: 10.1186/s13256-017-1535-5.
8. Koyano S, Morioka I, Oka A, Moriuchi H, Asano K, **Ito Y**, Yoshikawa T, Yamada H, Suzutani T, Inoue N; Japanese Congenital Cytomegalovirus Study Group. Congenital cytomegalovirus in Japan: More than 2 year follow up of infected newborns. Pediatr Int. 2018 Jan;60(1):57-62. doi: 10.1111/ped.13433. Epub 2017 Dec 19.
9. Beltempo M, **Isayama T** (co-primary author), Vento M, Lui K, Kusuda S, Lehtonen L, Sjörs G, Håkansson S, Adams M, Noguchi A, Reichman B, Darlow BA, Morisaki N, Bassler D, Pratesi S, Lee SK, Lodha A, Modi N, Helenius K, Shah PS; on behalf of the International Network for Evaluating Outcomes of Neonates. Respiratory Management of Extremely Preterm Infants: An International Survey. Neonatology. 2018;114(1):28-36. doi: 10.1159/000487987. Epub 2018 Apr 13. PMID: 29656287
10. **Maruyama H**, Saito J, Nagai M, Mochizuki M, Ishikawa Y, **Ito Y**: Maximization of Calcium and Phosphate in Neonatal Total Parenteral Nutrition. Pediatr Int 2018;60:634-638

11. Maruyama H, Hasegawa Y, Sugibayashi R, Iwasaki Y, Fujino S, Amari S, Nagasawa J, Wada Y, Fujinaga H, Tsukamoto K, Tahara K, Yoshioka T, Ito Y, Sago H: Megacystis Microcolon Intestinal Hypoperistalsis Syndrome Overlapping Prune Belly Syndrome: A Case Report. J Pediatr Surg Case Reports 2018;34:54-57
12. Uehara E, Nakao H, Tsumura Y, Nakadate H, Amari S, Fujinaga H, Tsutsumi Y, Kang D, Ohga S, Ishiguro A：Slow Elevation in Protein C Activity without a PROC Mutation in a Neonate with Intracranial Hemorrhage. AJP Rep 2018;8:e68-e70.
13. Maruyama H, Shibata Y, Xingge Xia, Yunxia Sun, Shaoru He, Ito Y. Comparison of decision-making in neonatal care between China and Japan. World Journal of Pediatrics, 2019 Feb;15(1):85-91.
14. Ichimiya Y, Wada Y, Kunishima S, Tsukamoto K, Kosaki R, Sago H, Ishiguro A, Ito Y. 11q23 deletion syndrome (Jacobsen syndrome) with severe bleeding: a case report. J Med Case Rep. 2018 Jan 8;12(1):3. doi: 10.1186/s13256-017-1535-5.
15. Aoki H, Ito N, Kaniwa N, Saito Y, Wada Y, Nakajima K, Sago H, Murashima A, Okamoto A, Ito S. Low Levels of Amlodipine in Breast Milk and Plasma. Breastfeed Med. 2018 Nov;13(9):622-626. doi: 10.1089/bfm.2018.0158. Epub 2018 Sep 28.
16. Okada N, Sasaki A, Saito J, Mitani Y, Yachie A, Takahashi H, Matsubara S, Tenkumo C, Tanaka H, Hata T, Motomura K, Nagasawa J, Wada Y, Sako M, Yamaguchi K, Matsumoto K, Nakamura H, Sago H, Mizuta K. The Japanese experience and pharmacokinetics of antenatal maternal high-dose immunoglobulin treatment as a prophylaxis for neonatal hemochromatosis in siblings. J Matern Fetal Neonatal Med. 2018 Jul 22:1-7. doi: 10.1080/14767058.2018.1487940. [Epub ahead of print] PMID:29890876
17. 大野 通暢(国立成育医療研究センター 外科), 金森 豊, 朝長 高太郎, 渡邉 稔彦, 田原 和典, 菱木 知郎, 藤野 明浩, 甘利 昭一郎, 塚本 桂子, 伊藤 裕司, 杉林 里佳, 和田 誠司, 左合 治彦：当センターで出生前診断された先天性横隔膜ヘルニアの治療成績 , 小児外科(0385-6313)50 巻 6 号 Page583-587(2018.06)
18. 和田友香、村島温子. 母乳育児が行えない場合の支援. 小児内科. 2018; 50(1): 77-81

[症例報告(Case report)]

1. 藤野 修平(国立成育医療研究センター 周産期・母性診療センター新生児科), 丸山 秀彦, 甘利 昭一郎, 藤永 英志, 和田 友香, 長澤 純子, 塚本 桂子, 有里 裕生, 宮地 裕美子, 野村 伊知郎, 伊藤 裕司：腹部コンパートメント症候群を来した新生児・乳児消化管アレルギー日本小児科学会, 雑誌(0001-6543)122 巻 6 号 Page1024-1030(2018.06)
2. 関戸 雄貴(国立成育医療研究センター 周産期・母性診療センター新生児科), 甘利 昭一郎, 藤野 修平, 和田 友香, 小野 博, 伊藤 裕司：胎児期から特徴的な病変の変化を示した肥大型心筋症の一例, 日本周産期・新生児医学会雑誌(1348-964X)54 巻 1 号 Page234-238(2018.05)
3. 長澤 純子(国立成育医療研究センター 周産期・母性診療センター新生児科), 和田 友香, 藤野 修平, 甘利 昭一郎, 高橋 重裕, 藤永 英志, 塚本 桂子, 佐々木 愛子, 伊藤 玲子, 左合 治彦, 伊藤 裕司：母体への高用量γグロブリン療法後に出生した新生児ヘモクロマトーシスの一例, 日本周産期・新生児医学会雑誌(1348-964X)54 巻 1 号 Page219-223(2018.05)
4. Uehara E, Nakao H, Tsumura Y, Nakadate H, Amari S, Fujinaga H, Tsutsumi Y, Kang D, Ohga S, Ishiguro A.：Slow Elevation in Protein C Activity without a PROC Mutation in a Neonate with Intracranial Hemorrhage., AJP Rep. 2018 Apr;8(2):e68-e70. doi: 10.1055/s-0038-1639614. Epub 2018 Apr 12.
5. 三浦 真理子, 村本 美香, 益田 博司, 小崎 里華, 伊藤 裕司, 鏡 雅代, 和田 友香 (corresponding author). Prader-Willi症候群との鑑別が困難であったTemple症候群の新生児例.小児科臨床 (0021-518X)71 巻 6 号 Page1121-1126(2018.06)
6. 水野貴基、和田友香 (corresponding author)、守本倫子. 基礎疾患を有する新生児・乳児への経鼻エアウェイ使用に関する検討. 小児耳鼻咽喉科雑誌. 2018; 39 (3): 333-338

[総説(Review article)]

1. 諫山 哲哉,上塘正人.「在胎 22 週児の分娩の取り扱い シンポジウム座長のまとめ」 日本周産

期・新生児医学会雑誌 第 5 号 第 5 号 2018 年 in pres
2. 諫山 哲哉:「2. 予後影響要因:早産低出生体重児の予後に影響する新生児要因」 周産期医学 48 巻 9 号増大号(2018 年 9 月発行)
3. 諫山 哲哉:「ILCOR 新生児グループ(Neonatal Life Support group: NLS)」 ICU と CCU Vol. 42 No. 9 (2018 年 9 月発行)p575-579
4. 諫山 哲哉:「ILCOR 国際蘇生ガイドライン～国際共同活動から日本の新生児蘇生 NCPR ガイドラインができるまで～」 NICU mate 2018 年
5. 諫山 哲哉:「早産児の動脈管開存症(PDA)」 Neonatal Care 春季増刊号 2018 年 新生児の循環管理 ビジュアル大図解 メディカ出版. P44～50
6. 諫山 哲哉. :「総論 呼吸急迫症候群、慢性肺疾患、横隔膜ヘルニアの診断・管理とその変遷」 Neonatal Care 2018 vol.31 no.1
7. 甘利 昭一郎:【小児の治療指針】新生児 先天性横隔膜ヘルニア, 小児科診療(0386-9806)81 巻増刊 Page952-955(2018.04)
8. 甘利 昭一郎:【はじめてでもよくわかる!注意点別!NICU で使用する循環器用薬一覧つき 新生児の循環管理 ビジュアル大図解】(第 1 章)まずは赤ちゃんの循環(血行動態)を正しく知ろう 早産・低出生体重児に循環のトラブルが起こりやすいのはなぜ?, Neonatal Care(1341-4577)2018 春季増刊 Page32-39(2018.03)
9. 甘利 昭一郎:【検査から治療・ケアまで新生児の呼吸器疾患重症化予防・予後改善のプラスワン!】先天性横隔膜ヘルニア(CDH) GV(gentle ventilation)を主体とした呼吸管理, Neonatal Care(1341-4577)31 巻 1 号 Page46-51(2018.01)

[著書]

[学会発表・シンポジウム]
1. Hidehiko Maruyama,Jumpei Saito,Miki Nagai,Mai Mochizuki,Yoichi Ishikawa,Yushi Ito:Maximization of Calcium and Phosphate in Neonatal Parenteral Nutrition;The 2nd Korea-Japan-Taiwan Joint Congress on Neonatology.Korea.2018.5.24
2. Yuka Wada, Fumio Suyama , Yuika Shimizu, Jumpei Saito, Aiko Sasaki. Effectiveness and safety of domperidon for increasing milk secretion in Japanese mothers with lactation failure whose babies were in the NICU (ISRHML, Oct. 2018, Kanagawa)
3. Yuka Wada, Yuka Iwasaki, Kota Yoneda, Yasuhisa Ikuta, Shoichiro Amari, Hidehiko Maruyama, Keiko Tsukamoto, Tetsuya Isayama, Yushi Ito. Effectiveness and safety of domperidon for increasing milk secretion in Japanese mothers with lactation failure whose babies were in the NICU. 第 63 回日本新生児成育医学会 (2018 年 11 月、東京)
4. 諫山哲哉:新生児医療の国際比較から見えてきたもの;日本小児科学会. 福岡県. 2018.4.21
5. 諫山哲哉:新生児医療の国際比較から見えてきたもの;日本小児科学会. 福岡県. 2018.4.21
6. 和田友香, 生田泰久, 長澤純子, 甘利昭一郎, 丸山秀彦, 塚本桂子, 井上毅信, 小崎里華, 松原圭子, 鏡雅代, 深見真紀, 諫山哲哉, 伊藤裕司:筋緊張低下, 哺乳不良を認めた新生児・乳児に対するインプリンティング異常症の検索;日本小児科学会. 福岡県. 2018.4.21
7. 佐々木優花, 上原陽治, 岩﨑由佳, 長澤純子, 生田泰久, 甘利昭一郎, 和田友香, 塚本桂子, 諫山哲哉, 伊藤裕司, 小川雄大, 藤野明浩:多発奇形, リンパ管腫症を合併した9番染色体長腕遠位部部分モノソミーの1例;日本小児科学会. 福岡県. 2018.4.21
8. 巻和佳奈, 生田泰久, 余谷暢之, 藤野修平, 甘利昭一郎, 長澤純子, 和田友香, 丸山秀彦, 塚本桂子, 諫山哲哉, 伊藤裕司:NICU で多職種による緩和ケアを行った 18 トリソミーの 1 例;日本小児科学会. 福岡県. 2018.4.21
9. 伊東藍, 塚本桂子, 米田康太, 生田泰久, 長澤純子, 甘利昭一郎, 和田友香, 丸山秀彦, 諫山哲哉, 小野博, 樋口昌孝, 伊藤裕司:当院 NICU で経験した片肺無形成の6例の検討;日本小児科学会. 福岡県. 2018.4.21
10. 岩﨑由佳, 塚本桂子, 津村悠介, 加藤元博, 生田泰久, 甘利昭一郎, 長澤純子, 和田友香, 丸山秀彦, 余谷暢之, 諫山哲哉, 伊藤裕司:先天性白血病の1例;日本小児科学会. 福岡県. 2018.4.22

11. **藤野修平，甘利昭一郎，塚本桂子，伊藤裕司：**肺血流量増加を来す先天性心疾患における局所酸素飽和度（rSo2）の有用性の検討；日本小児科学会．福岡県．2018.4.22
12. **諫山哲哉，**増谷聡，小林徹，横山岳彦，岩見裕子，川崎秀穂，長澤宏幸，岩島覚，蘇鉄民，中山淳，**甘利昭一郎，**山本裕，大西聡，佐藤雅彦,豊島勝昭：PLASE 研究：多施設共同研究でのサブ研究を通じた参加医師の臨床研究能力向上の試み；日本小児科学会．福岡県．2018.4.22
13. 横山 岳彦, 増谷 聡, 小林 徹, **諫山 哲哉**, 岩見 裕子, 川崎 秀徳, 蘇 哲民, 中山 淳, **甘利昭一郎**, 豊島 勝昭：早産児動脈管開存症の手術と関連する心エコー指標は何か(PLASE 研究)，小児科学会学術集会，福岡，2018.4.20–22
14. **丸山秀彦：**中心静脈栄養剤中のカルシウムとリン濃度の最大化に関する検討；第 35 回四国新生児医療研究会．愛媛県．2018.5.18
15. 伊**東藍，甘利 昭一郎，諫山 哲哉，伊藤 裕司：**ヒト臍帯を用いた臍帯カテーテルタスクトレーナーの作成について，第 6 回日本シミュレーション医療教育学会，岐阜，2018.6.2
16. **甘利昭一郎：**出生時から蔓延する貧血と血小板減少症と合併した Aicardi-Goutleres 症候群7型の最重症例；第 28 回日本産婦人科・新生児血液学会．宮崎県．2018.6.15
17. **丸山秀彦，伊東藍，佐々木優花，上原陽治，岩﨑由佳，米田康太，生田泰久，甘利昭一郎，長澤純子，和田友香，塚本桂子，諫山哲哉，伊藤裕司：**中心静脈栄養剤中のカルシウムとリン濃度の最大化に関する検討；第 54 回日本周産期・新生児医学会．東京都．2018.7.8
18. **上原陽治，長澤純子，米田康太，生田泰久，甘利昭一郎，和田友香，丸山秀彦，塚本桂子，諫山哲哉，**藤野明浩，金森豊，守本倫子，和田誠司，左合治彦，**伊藤裕司：**気道管理に難渋した頸部・縦膜巨大リンパ管腫の一例；第 54 回日本周産期・新生児医学会．東京都．2018.7.8
19. 沓掛 真衣, 金森 豊, 小川 雄大, 朝長 高太郎, 大野 通暢, 田原 和典, 渡邉 稔彦, 藤野 明浩, 菱木 知郎, **甘利 昭一郎**, **伊藤 裕司**, 宮嵜 治, 杉林 里佳, 和田 誠司, 左合 治彦：食道閉鎖・気管食道瘻・十二指腸閉鎖を合併した先天性上気道閉塞症候群(CHAOS)の一症例，第 54 回日本周産期・新生児医学会学術集会，東京，2018.7.8–10
20. 川西 陽子, 遠藤 誠之, **甘利 昭一郎**, 臼井 規朗, 内田 恵一, 漆原 直人, 岡和田 学, 金森 豊, 田口 智章, 照井 慶太, 豊島 勝昭, 早川 昌弘, 古川 泰三, 横井 暁子, 奥山 宏臣：出生前診断された先天性横隔膜ヘルニア症例における出生時週数と児の予後に関する検討，第 54 回日本周産期・新生児医学会学術集会，東京，2018.7.8–10
21. 臼井 規朗, 奥山 宏臣, 照井 慶太, 早川 昌弘, 増本 幸二, 豊島 勝昭, **甘利 昭一郎**, 漆原 直人, 稲村 昇, 横井 暁子, 岡崎 任晴, 岡和田 学, 古川 泰三, 内田 恵一, 田口 智章：新生児先天性横隔膜ヘルニアにおける気胸発症の実態とリスク因子の解析，第 54 回日本周産期・新生児医学会学術集会，東京，2018.7.8–10
22. **田畑健士郎，生田泰久，米田康太，甘利昭一郎，長澤純子，和田友香，丸山秀彦，塚本桂子，諫山哲哉，伊藤裕司：**生直後から重度の遷延性低血糖をきたした複合型下垂体重機能低下症の一例；第 54 回日本周産期・新生児医学会．東京都．2018.7.10
23. **長澤純子，和田友香，諫山哲哉，**佐々木愛子，木村健一郎，伊藤玲子，左合治彦，**伊藤裕司：**国内における新生児ヘモクロマトーシス症例の実態調査；第 54 回日本周産期・新生児医学会．東京都．2018.7.10
24. **丸山秀彦，岩﨑由佳，長澤純子，藤野修平，甘利昭一郎，和田友香，藤永英志，塚本桂子，**田原和典，長谷川雄一，杉林里佳，義岡孝子，**伊藤裕司，**左合治彦：Pure Velly Syndrome を合併した Megacystis Microcolon Interstinal Hypoperistalsis Syndrome;A Case Report；日本人類遺伝学会第 63 回大会．神奈川県．2018.10.13
25. **諫山哲哉：**Experience for the studies using neonatal network including iNEO；1st Korean Neonatal Network Symposium.Korea.2018.10.20
26. **諫山哲哉，**増谷聡，横山岳彦，岩見裕子，川崎秀徳，長澤宏幸，**甘利昭一郎，**中山淳，池田智文，岡田尚子，山本裕，本田茜，松本敦，豊島勝昭：PLASE 研究のこれまで・これから；第 63 回日本新生児成育医学会.東京都.2018.11.23（シンポジウム）
27. **諫山哲哉：**臨床研究初心者が知っておくべき統計の基本；第 63 回日本新生児成育医学会.東京都.2018.11.23
28. 杉浦崇浩，岩永甲午郎，加藤丈典，福原里恵，水本洋，安田真之，柳貴英，**諫山哲哉，**草川功，細野茂春：新たな新生児法インストラクターフォローアップコースの開発；第 63 回日本新生児成育

医学会.東京都.2018.11.22

29. 伊藤誠人，友滝清一，**諫山哲哉**，原裕子，平田克弥，新井浩和：アンケート調査から見た日本国内における新生児慢性肺疾患診断の現状；第 63 回日本新生児成育医学会.東京都.2018.11.23
30. **和田友香**，**岩崎由佳**，**米田康太**，**生田泰久**，**甘利昭一郎**，**丸山秀彦**，**塚本桂子**，**諫山哲哉**，**伊藤裕司**：母乳分泌不全母体に対するナウゼリン投与に関する研究；第 63 回日本新生児成育医学会.東京都.2018.11.23

[招待講演]

1. **塚本桂子**：第 20 回新生児呼吸療法・モニタリングフォーラム　企画セッション　新生児診療における NIRS の有用性：長野県.2018.2.16
2. **諫山哲哉**：第 20 回新生児呼吸療法・モニタリングフォーラム　企画セッション　世界における慢性肺疾患の定義の再考～長期予後予測能の観点から～：長野県.2018.2.16
3. **Isayama T**: Ventilation strategies to prevent bronchopulmonary dysplasia: What is the evidence? Toward A Better Tomorrow 2018: Recent Advances in the Care of Very Preterm Infants. Taiwan Neonatal Symposium. Feb 25, 2018, Taichung, Taiwan (Invited lecture)
4. **Isayama T**: International comparison of NICU care of VLBW infants, Lecture at the Taipei Veterans General Hospital, Taipei, Taiwan,2018.02.26
5. **Isayama T:** International comparison of NICU care of VLBW infants, Lecture at the Cathy General Hospital, Taipei, Taiwan,2018.02.27
6. **Isayama T**: Ventilation strategies to prevent bronchopulmonary dysplasia: What is the evidence? Toward A Better Tomorrow 2018: Recent Advances in the Care of Very Preterm Infants. Shencheng Neonatal Symposium. Mar 1, 2018, Shenzhen, China (Invited lecture)
7. **諫山 哲哉**:「ガイドライン 2020 に関する情報」2018 年 3 月 17 日　金城館（熱海）　神奈川　（新生児蘇生法委員会・クオリティマネージャー合同合宿）
8. **諫山　哲哉**:「新生児医療の国際比較から見えてきたもの～International Comparison of Neonatal Care～」 2018 年 4 月 21 日　福岡国際会議場　福岡　（第 121 回小児科学会学術集会総合シンポジウム 7）
9. **諫 山 哲 哉 ：** Finalize Oxygen CoSTR&Values&Prefernces Statement for Term Newborn.ILCOR Meeting.Canada.2018.5
10. **諫山哲哉**：Healthcare Cost and Resource Use of Early Discharge of Health Late Preterm and Term Singletion:A Popukation-Based Cohort Study.Pediatric Academic Societies Meeting.Canada.2018.5
11. **諫山 哲哉**:「国際比較からみた我が国の新生児医療の課題～Neonatology in Japan vs. World～」 2018 年 7 月 14 日　名鉄ニューグランドホテル　名古屋　（第 15 回名古屋新生児フォーラム）
12. **和田友香**：特別な支援を要する児への授乳支援.助産実践能力向上研修.日本助産師会.（2018 年 7 月 20 日－21 日、東京）
13. **甘利昭一郎**：医学教育　～効果的な人材育成のために～，第 22 回新生児成育医学会教育セミナー，長野，2018.8.24
14. **Isayama T**: Neonatal Research Network in Japan and International Collaboration (iNEO). 16th　Asia Pacific Congress of Pediatrics (APCP) Aug 27, 2018, Bali, Indonesia (Invited lecture)
15. **Isayama T**: International comparison of NICU outcomes and practice. -The International Network for Evaluation of Outcomes in neonates (iNEO). Sep 15, 2018. Shanghai, China (The 4th Oriental Congress of Pediatrics)
16. **Isayama T**: Learning through international neonatal network collaboration The International Network for Evaluation of Outcomes in neonates (iNEO). Oct 20, 2018, The 1st Korean Neonatal Network Symposium. Seoul, South Korea

17. **諫山 哲哉**:「世界から見た日本の新生児医療　現状とその課題」 2018 年 11 月 24 日　東京（第 63 回日本新生児成育医学会学術集会　教育講演）
18. **諫山 哲哉**:「世界から見た日本の新生児医療 留学・臨床・研究から見えてきたもの」 2018 年 12 月 8 日　仙台（第 12 回新生児科指導医教育セミナー）
19. **和田友香**：最新の情報を得る～文献検索の方法と新 10 ステップに関連した英語文献の読み方～. 第 1 回 IBCLC のための研修会（2018.12.23、東京）

[広報活動]

【教育：国際的人材育成】

2018.1.18　**カンボジア新生児科医師・看護師・行政官受入**　Rithy ら 8 人
2018.01.30　**フランス人新生児科医師・新生児医療研究者**
2018.02.13　**ロシア　クラコフ病院の新生児科医・超音波検査技師**
2018.5.7-8.1　**中国**　Shen
2018.8.13-8.31　**モンゴル**　Ariuntungalag, Zoljargal
2018.8.20-8.31　**コスタリカ**　Erika
2018.9.3-9.28　**コスタリカ**　Susan
2018.9.25-10.19　**タイ**　Sakikarn
2018.10.1-10.19　**タイ**　Supamas, Manunya
2018.9.14-9.18　**韓国**　Kim
2018.10.22-11.2　**韓国**　Lee
2018.11.20　**インドネシア**　Radhian
2018.12.5-12.12　**イギリス**　Chantelle

【教育：国内】

2018.7.2-3　国立看護大学校の授業：**丸山秀彦**
7/2 「低出生体重児・早産児」
7/3 「出生直後のアセスメントと新生児蘇生法 1」「出生直後のアセスメントと新生児蘇生法 2」

【院内講習】

【病棟勉強会：丸山秀彦】

2018.10.18：症例検討（新生児一過性多呼吸）：看護師、助産師 5 人：6 階 GCU
2018.10.23：症例検討（新生児一過性多呼吸）：看護師、助産師 5 人：11 階西
2018.10.24：症例検討（新生児一過性多呼吸）　：看護師、助産師 5 人：6 階西
2018.10.25：症例検討（新生児一過性多呼吸）　看護師、助産師 6 人：：6 階東
2018.11.5：症例検討（新生児黄疸）：看護師、助産師　　10 人：6 階東
2018.11.6：症例検討（新生児黄疸）：看護師、助産師　　5 人：6 階西
2018.11.16：症例検討（新生児黄疸）：看護師、助産師　　4 人：11 階西
2018.11.22：症例検討（新生児黄疸）　：看護師、助産師 5 人：6 階 GCU
2018.12.4：症例検討（新生児低血糖）：看護師、助産師 10 人：6 階東
2018.12.12：症例検討（新生児低血糖）：看護師、助産師 5 人：　　：6 階西
2018.12.20：症例検討（新生児低血糖）：看護師、助産師 5 人：6 階 GCU
2018.12.25：症例検討（新生児低血糖）：看護師、助産師 4 人：11 階西

【NCPR】
A コース　新生児蘇生法を習得するための講習会
S コース　申請蘇生法のスキルアップのための講習会

1. 2018.2.25 **甘利昭一郎**、**伊藤裕司**、**塚本桂子**：NCPR A コース講習会，東京
2. 2018.5.12 **甘利昭一郎**：NCPR A コース講習会，東京
3. 2018.6.24 **甘利昭一郎**：NCPR A コース講習会，東京
4. 2018.10.21 **甘利昭一郎**：NCPR A コース講習会，東京

5. 2018.1.25 **甘利昭一郎**：NCPR S コース講習会，東京
6. 2018.2.27 **甘利昭一郎**、岡崎加奈：NCPR S コース講習会，東京
7. 2018.3.15 **甘利昭一郎**、藤本健志、三田浩子：NCPR S コース講習会，東京
8. 2018.5.17 **甘利昭一郎**：NCPR S コース講習会，東京
9. 2018.6.28 **甘利昭一郎**：NCPR S コース講習会，東京
10. 2018.8.30 **甘利昭一郎**：NCPR S コース講習会，東京
11. 2018.9.27 **甘利昭一郎**：NCPR S コース講習会，東京
12. 2018.11.29 **甘利昭一郎**：NCPR S コース講習会，東京

【NeoSim】
13. 甘利昭一郎ほか：NeoSim-J 2018，東京，2018.11.10–11

【取材】
1. **和田友香**：讀賣新聞 2018/6/2 夕刊．6 面.「からだ Café 子どもにカフェイン、大丈夫？」
2. **和田友香**：解決！ 親子クリニック・小児科 エナジードリンクを子供に飲ませても大丈夫？．プレジデント・ファミリー2018・冬号

産科麻酔科

[原著論文]
1. 森由美子，佐藤正規，山下陽子，遠山悟史，鈴木康之：硬膜外無痛分娩から帝王切開へ移行した症例の麻酔方法についての後方視的検討． 麻酔 2018；67：1269-1275

[症例報告]

[総説]
1. 佐藤正規，鈴木康之： 胎児治療(子宮内手術)の麻酔管理． 日臨麻会誌 2018；38：548-555
2. 新原朗子，中川元文，狩谷伸享，丸山由起子，大畑めぐみ，山下陽子，佐藤正規，田村高子： 症例カンファレンス CSEA 後神経障害の既往のある妊婦(解説)． LiSA 2018；25(12)：1237-52

[著書]
1. 佐藤正規，鈴木康之：胎児治療（子宮内手術）の麻酔管理．日本臨床麻酔学会 稲垣喜三，齊藤洋司（編集）．臨床麻酔実践シリーズ 10「産科麻酔」．ライフメディコム，2018；33-42

[ガイドライン]

[講演]
1. 佐藤正規．産科麻酔の ABC．第 15 回首都圏麻酔カンファレンス，東京、2018.2.24
2. 佐藤正規．妊婦の呼吸管理～気道確保から術後呼吸管理まで～．第 122 回日本産科麻酔学会学術集会，浜松市，2018.11.23

[学会発表]
1. 伊集院亜梨紗，佐藤正規，山下陽子，久保浩太，鈴木康之： 当院における無痛分娩後の神経症状について検討． 日本麻酔科学会第 65 回学術集会，神奈川，2018.5.17
2. 久保浩太，山下陽子，佐藤正規，梅原永能，佐合治彦： 無痛分娩における麻酔手技に関連する有害事象の後方視的検討． 第 54 回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会， 東京，2018.7.9
3. 久保浩太，蜷川純，行正翔，糟谷周吾，遠山悟史，鈴木康之： 右肺無形成を合併した総肺静脈還流異常修復術の麻酔経験． 日本心臓血管麻酔学会第 23 回学術集会， 東京， 2018.9.15
4. 金山旭，蜷川純，阿部真友子，行正翔，遠山悟史，鈴木康之： 先天性食道閉鎖・食道気管瘻を合併した共通肺静脈閉鎖の新生児手術の麻酔経験． 日本心臓血管麻酔学会第 23 回学術集会，

東京， 2018.9.15

5. 金山旭，遠山悟史，田村高子，鈴木康之： 若手男性医師からみた女性麻酔科医―同僚支援の視点から―． 日本臨床麻酔学会第 38 回大会， 北九州， 2018.11.3

6. 金山旭，山下陽子，佐藤正規，遠山悟史，鈴木康之： 妊娠高血圧症患者で緊急帝王切開弛緩出血後に視力低下，視野異常を認めた1例．第 122 回日本産科麻酔学会学術集会， 浜松，2018.11.23
7. 山本依志子，山下陽子，久保浩太，金山旭，佐藤正規，梅原永能，左合治彦： 当センターにおける、無痛分娩時の胎児心拍低下による緊急帝王切開の解析． 第 122 回日本産科麻酔学会学術集会， 浜松， 2018.11.23
8. 阿部真友子，佐藤正規，金山旭，久保浩太，山下陽子，鈴木康之： ベーチェット病合併妊娠における無痛分娩 3 症例の検討． 第 122 回日本産科麻酔学会学術集会， 浜松， 2018.11.23
9. 平井晶子，三浦加奈，佐藤正規，久保浩太，平本康子：「飛び込み無痛分娩」症例の検討． 第 122 回日本産科麻酔学会学術集会， 浜松， 2018.11.23
10. 三浦加奈，佐藤正規，久保浩太，平井昌子，平本康子： 当センターにおける無痛分娩クラスの分析と今後の課題．第 122 回日本産科麻酔学会学術集会， 浜松， 2018.11.23
11. 行正翔，佐藤正規，鈴木康之： 当院での超緊急帝王切開手術における麻酔方法と胎児の予後に関する後方視的検討． 第 122 回日本産科麻酔学会学術集会， 浜松， 2018.11.23

母性内科

[原著論文:査読付] (Reviewed Paper)

1. Yakuwa N, Nakajima K, Koinuma S, Goto M, Suzuki T, Ito N, Watanabe O, Murashima A: Perception of pregnant Japanese women regarding the teratogenic risk of medication exposure during pregnancy and the effect of counseling through the Japan drug information institute in pregnancy. Reprod Toxicol. 2018;79:66-71
2. Saito J, Yakuwa N, Takai C, Nakajima K, Kaneko K, Goto M, Ishikawa Y, Murashima A: Tocilizumab concentrations in maternal serum and breast milk during breastfeeding and a safety assessment in infants: a case study. Rheumatology 2018;57:1499-1501
3. Mito A, Arata N, Qiu D, Sakamoto N, Murashima A, Ichihara A, Matsuoka R, Sekizawa A, Ohya Y, Kitagawa M： Hypertensive disorders of pregnancy: a strong risk factor for subsequent hypertension 5 years after delivery. Hypertens Res. 2018;41:141-146
4. Kaneko K, Mishima S, Goto M, Mitsui M, Tanigaki S, Oku K, Ozawa N, Inoue E, Atsumi T, Sago H, Murashima A: Clinical feature and anti-phospholipid antibody profiles of pregnancy failure in young women with antiphospholipid antibody syndrome treated with conventional therapy. Mod Rheumatol. 2018;28:670-675
5. Aoki H, Ito N, Kaniwa N, Saito Y, Wada Y, Nakajima K, Sago H, Murashima A, Okamoto A, Ito S: Low Levels of Amlodipine in Breast Milk and Plasma. Breastfeed Med. 2018;13:622-626
6. Okada N, Sasaki A, Saito J, Mitani Y, Yachie A, Takahashi H, Matsubara S, Tenkumo C, Tanaka H, Hata T, Motomura K, Nagasawa J, Wada Y, Sako M, Yamaguchi K, Matsumoto K, Nakamura H, Sago H, Mizuta K：The Japanese experience and pharmacokinetics of antenatal maternal high-dose immunoglobulin treatment as a prophylaxis for neonatal hemochromatosis in siblings. J Matern Fetal Neonatal Med. 2018;22:1-7
7. Kawasaki M, Arata N, Ogawa Y： Obesity and abnormal glucose tolerance in the offspring of mothers with diabetes. Current Opinion. 2018;30:361-368
8. Ogawa K, Tanaka S, Yang L, Arata N, Sago H, Yamamoto-Hanada K, Narita M, Ohya Y: Reply to Matsubaraetal. Pediatr Allergy Immunol. 2018;29:333-334
9. Kawasaki M, Arata N, Miyazaki C, Mori R, Kikuchi T, Ogawa Y, Ota E: Obesity and abnormal glucose tolerance in offspring of diabetic mothers: A systematic review and meta-analysis. PLoS One. 2018 12;13:e0190676
10. 名越澄子, 梶波康二, 西川典子, 檜山桂子, 別役智子, 正木崇生, 山内高弘, 白鳥 敬子, 橋

本悦子, 瀧原圭子, 鈴木眞理, 成瀬桂子, 内田啓子, 金子猛, 三谷絹子, 村田美穂, 相良博典, 駒瀬裕子, 村島温子, 吉田正樹, 安藤富士子： 日本内科学会及び内科系 13 学会における男女共同参画に関する調査結果報告． 内科系学会の男女共同参画に関する連絡協議会．日本内科学会雑誌 2018;107:894-899

[症例報告]

1. 松田祐奈, 小川浩平, 関口将軌, 正古悠一, 大西純貴, 岡﨑有香, 金子佳代子, 佐々木愛子, 谷垣伸治, 小澤伸晃, 左合治彦： 正常経腟分娩後 13 日目に診断した静脈血栓塞栓症の 1 例．東京産科婦人科学会会誌 2018;67:412-415

[総説]

1. 三島就子, 村島温子： 合併症妊娠の薬物療法 膠原病． 周産期医学 2018;48:83-85
2. 三島就子, 村島温子: 腎疾患患者の妊娠中薬物療法． リウマチ科 2018;59:172-177
3. 和田友香, 村島温子： 授乳・離乳支援 母乳育児が行えない場合の支援． 小児内科 2018;50:77-81
4. 村島温子： 妊娠と薬剤(膠原病合併妊娠も含めて)． Visual Dermatology 2018;17:928-931
5. 高井千夏, 村島温子： 内科疾患における生物学的製剤の使い分け 周産期, 周術期などにおける使用． Modern Physician 2018;38:990-991
6. 河野千慧, 村島温子： 全身性自己免疫疾患． 臨床検査 2018;62:962-969
7. 藤岡 泉, 村島温子: 周産期を知るためのミニマム知識 妊娠・授乳と薬剤． Modern Physician 2018;38:1125-1128
8. 肥沼 幸, 村島温子： 妊娠中・授乳中の投薬 投薬の原則と実際． 産婦人科の実際 2018;67:1579-1585
9. 肥沼 幸, 村島温子： 妊娠中および授乳期のアレルギー疾患に対する薬物療法． 周産期医学 2018;48 増刊号:508-512
10. 村島温子： MTX と妊娠． Visual Dermatology 2018;18:58
11. 川上美里, 村島温子： 日常診療に直結する薬理学 妊婦・授乳婦における薬物使用の注意点．診断と治療 2018;107:181-187
12. 山口晃史： 妊婦・授乳婦や妊娠を考えている方がインフルエンザワクチンを接種する意義について教えてください。また、接種にあたって注意すべき点について教えて下さい． インフルエンザQ&A 2018
13. 荒田尚子： Basedow 病の再燃・増悪．「臨床婦人科産科」2018 増刊号 産婦人科外来パーフェクトガイド 2018;72:303-306
14. 岡﨑有香, 荒田尚子： 潜在性甲状腺機能低下症の管理．「臨床婦人科産科」2018 増刊号 産婦人科外来パーフェクトガイド 2018;72:307-310
15. 三輪照未, 荒田尚子： 診断薬による甲状腺機能への影響 子宮卵管造影によるヨウ素の影響．日本甲状腺学会雑誌 2018;9:5-9
16. 荒田尚子： 甲状腺疾患． 産科と婦人科 2018;85:527-531
17. 荒田尚子： プレコンセプションケア． アンチ・エイジング医学-日本抗加齢医学会雑誌 2018;14:347-352
18. 川﨑麻紀, 荒田尚子： 母乳育児支援． PERINATAL CARE 2018;37:667-671
19. 岡﨑有香, 荒田尚子： 妊娠合併症． 臨床検査 2018;62:898-904
20. 和栗雅子, 荒田尚子： 日本人における GDM 既往女性の分娩後の糖尿病発症の実態． 糖尿病と妊娠 2018;18:S22-S25
21. 荒田尚子, 川﨑麻紀： GDM 患者の長期予後 2 型糖尿病発症のリスクについて． 臨床婦人科産科 2018;72:1018-1023
22. 荒田尚子： 胎児プログラミング仮説の基礎． PERINATAL CARE 2018;37:919-923
23. 金子佳代子, 荒田尚子： 女性の健康とプレコンセプション 母性内科-国立成育医療研究センターの場合-． Hormone Frontier in Gynecoology 2018;25:309-314
24. 荒田尚子： 妊娠とバセドウ病． 別冊 日本臨床 内分泌症候群(第 3 版) 2018;3:273-277
25. 三戸麻子： 女性の高血圧の病態と降圧治療 閉経後高血圧、妊娠、経口避妊薬． 日本内科

学会雑誌 2018;107:713-719
26. 三戸麻子: 高血圧:エビデンスと推奨-日常診療への提言 関連疾患・病態での診断と治療 女性周産期・閉経後. 腎と透析 2018; 85:262-266
27. 金子佳代子, 高井千夏: 実地医家が知っておくべき膠原病治療の Pearls and Myths 膠原病患者の周産期診療. Medical Practice 2018;36:961-96
28. 金子佳代子: 妊娠と膠原病、薬疹(case 11) 抗リン脂質抗体症候群. Visual Dermatology 2018;17:959-961
29. 金子佳代子: 診療上のギモン SLE 女性,妊娠してもよいでしょうか?. 内科 2018;122:691
30. 金子佳代子: 関節リウマチ治療における生物学的製剤を使いこなすためには 妊婦に対する注意点と使用法. リウマチ科 2018;59:580-587
31. 三島就子: 母性内科の「め」 妊婦・授乳婦さんのケアと薬の使い方・1 かぜ薬飲んじゃったんですけど, 大丈夫ですか?. medicina 2018;55:732-736
32. 三島就子: 母性内科の「め」 妊婦・授乳婦さんのケアと薬の使い方・2 食欲がなくて……食べても吐いてしまいます…. medicina 2018;55:916-920
33. 三島就子: 母性内科の「め」 妊婦・授乳婦さんのケアと薬の使い方・3 おなかが痛いんです. medicina 2018;55:1106-1111
34. 三島就子: 母性内科の「め」 妊婦・授乳婦さんのケアと薬の使い方・4 痛み止めを飲んでもよいのでしょうか?. medicina 2018;55:1258-1263
35. 三島就子: 母性内科の「め」 妊婦・授乳婦さんのケアと薬の使い方・5 食あたりでしょうか……. medicina 2018;55:1480-1484
36. 三島就子: 母性内科の「め」 妊婦・授乳婦さんのケアと薬の使い方・6 咳がつらくてひどいです. medicina 2018;55:1678-1683

[著書]
1. 村島温子: 妊娠中の薬物投与の基本. 北野敦子, 塩田恭子, 村島温子, 山内英子, 山内照夫, 米盛 勧(編集), 妊娠期がん診療ガイドブック, 南山堂, 2018;34-40
2. 後藤美賀子, 村島温子: シェ—グレン症候群患者の妊娠・出産. 日本シェ—グレン症候群学会(編集), 竹内 勤, 川上 純, 住田孝之(監修), シェーグレン症候群の診断と治療マニュアル, 診断と治療社, 2018;162-167
3. 金子佳代子, 村島温子: 第 1 部 ステロイドの基礎知識 9. 妊婦・授乳婦への投与. 山本一彦(編集), ステロイドの選び方・使い方ハンドブック(改訂第 3 版), 羊土社, 2018;64-69
4. 荒田尚子, 他: 妊娠と甲状腺. 横手幸太郎(監修), 龍野一郎, 橋本尚武, 岩岡秀明(編著), ここが知りたい!内分泌疾患診療ハンドブック ver. 2, 中外医学社, 2018;2:214-219
5. 荒田尚子, 他: 妊娠と内分泌疾患. 一般社団法人 日本内分泌学会(編集), 内分泌代謝科専門医研修ガイドブック初版第 1 版, 診断と治療社, 2018;724-725
6. 荒田尚子: 出産後の甲状腺機能異常. 日本甲状腺学会(編集), 甲状腺専門医ガイドブック改訂第 2 版, 診断と治療社, 2018;247-250
7. 荒田尚子: 妊娠を希望している場合, 糖尿病の治療を変更する必要がありますか?. 日本糖尿病・妊娠学会(編集), 妊婦の糖代謝異常診療・管理マニュアル改訂第 2 版, MEDICAL VIEW, 2018;30-32
8. 荒田尚子: 妊娠前の目標値はどれくらいにすればよいのですか?. 日本糖尿病・妊娠学会(編集), 妊婦の糖代謝異常診療・管理マニュアル改訂第 2 版. MEDICAL VIEW, 2018;47-48
9. 金子佳代子: 全身性エリテマトーデス, シェーグレン症候群. Ⅱハイリスク妊婦の管理. 藤井知行(編集), 週数別妊婦健診マニュアル, 医学書院, 2018;323-328

[ガイドライン、研究報告書、その他]
1. 村島温子: 全身性エリテマトーデス(SLE)、関節リウマチ(RA)若年性特発性関節炎(JIA)や炎症性腸疾患(IBD)罹患女性患者の妊娠、出産を考えた治療指針. 平成 28－29 年度 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業「関節リウマチ(RA)

や炎症性腸疾患（IBD）罹患女性患者の妊娠、出産を考えた治療指針の作成」研究班 （編集），齋藤 滋（研究代表者） 2018 年 3 月

2. 村島温子，林 昌洋，濱田洋実，中山健夫，高橋邦彦： 平成 29 年度日本医療研究開発機構委託研究費（医薬品等規制調和・評価研究事業）「妊婦及び授乳婦への薬物投与に関するリスク・ベネフィットに関する研究」， 平成 29 年度委託研究開発成果報告書， 2018 年 5 月
3. 平松祐司，安日一郎，曽根博仁，菊池 透，荒田尚子，瀧本秀美，安田和基，小川佳宏： 妊娠糖尿病女性における出産後の糖尿病・メタボリックシンドローム発症のリスク因子同定と予防介入に関する研究 平成 29 年度日本医療研究開発機構委託研究費 女性の健康の包括的支援実用化研究事業 平成 29 年度研究報告書， 2018 年 5 月
4. 荒田尚子，三戸麻子： 閉経前後女性，男性における MCH の HbA1c に及ぼす影響に関する検討． 平成 29 年度成育医療研究開発事業「成育医療におけるゲノム情報を含む長期追跡データの構築と病因解明に関するコホート研究」平成 29 年度実績報告書， 2018
5. 三戸麻子，坂なほ子： 妊娠高血圧症候群に胎内で曝露した児の小児期血圧値の検討 平成 29 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）

［学会発表］

1. Nakagawa K, Kwak-Kim J, Moriyama A, Nakao K, Sugiyama R, Horikawa T, Takamizawa S, Kuroda K, Yamaguchi K: T helper 1 cell level is associated with reproductive outcome of women with repeated implantation failures who received Tacrolimus treatment. Human Reproduction, Barcelona Spain 2018.7.1-4.
2. Okazaki Y, Murashima A: Possibility of corticosteroids to induce premature rapture of membrane in patients with systemic lupus erythematosus. International Society for the Study of Hypertension in Pregnancy (ISSHP) and the International Society for Obstetric Medicine (ISOM) 2018, Amsterdam Netherlands, 2018.10.6
3. Mito A, Murashima A, Wada Y, Miyasato-Isoda M, Kamiya CA, Yoshimatsu J, Yakuwa N, Watanabe O, Suzuki T, Arata N, Ito S: SAFETY OF AMLODIPINE IN EARLY PREGNANCY. Congress of the International Society of Hypertension in Pregnancy 2018. Amsterdam Netherlands, 2018.10.9
4. 岡﨑有香，荒田尚子，佐藤志織，山内泰介，田尻淳一，菱沼 昭，小飼貴彦，井出上隆史，村島温子： 家族性非自己免疫性甲状腺機能亢進症（FNAH）の一妊娠経過． 第 34 回甲状腺病態生理研究会， 東京． 2018.2.3
5. 川﨑麻紀，荒田尚子，佐藤志織，福成信博，御子神哲也，菱沼 昭，小飼貴彦，村島温子： 妊娠中に甲状腺全摘術を施行した巨大甲状腺腫の一例． 第 34 回甲状腺病態生理研究会， 東京，2018.2.3
6. 村島温子，高井千夏：【シンポジウム】ACHD の妊娠・出産管理 妊娠・授乳中の薬物治療． 第 20 回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会， 東京， 2018.1.28
7. 村島温子，金子佳代子： 全国膠原病友の会会員に対する、膠原病と妊娠と出産に関するアンケート調査． 第 115 回日本内科学会総会・講演会， 京都， 2018.4.14
8. 横川直人，後藤美賀子，村島温子，村井章二： 新生児ループス予防プロジェクト：先天性完全房室ブロックの全国実態調査から遠隔診療を用いた全国臨床試験（J-PATCH）まで． 第 62 回日本リウマチ学会総会・学術集会， 東京， 2018.4.26
9. 矢嶋宣幸，金子佳代子，磯島咲子，岩田恭宜，大西香絵，仁科 直，根本卓也，平野 亨，中村浩之，宮前多佳子，横山和佳，奥 健志，竹内 勤，田村直人，森 雅亮，村島温子： 我が国の若年全身性エリテマトーデス患者の現状と妊娠転帰を含む長期・短期予後に関する前向きコホート研究【日本リウマチ学会ワーキンググループ】． 第 62 回日本リウマチ学会総会・学術集会， 東京， 2018.4.26
10. 後藤美賀子，中島 研，高井千夏，三島就子，金子佳代子，川上美里，渡邉央美，村島温子： 妊娠と薬情報センターのデータベースを用いたエタネルセプトに妊娠中に曝露した例の解析． 第 62 回日本リウマチ学会総会・学術集会， 2018.4.27
11. 河野千慧，三島就子，金子佳代子，高井千夏，川上美里，後藤美賀子，村島温子： 治療抵抗性の抗リン脂質抗体症候群（APS）合併妊娠に対しプラバスタチンを使用した二例． 第 62 回日本リウマチ学会総会・学術集会， 東京， 2018.4.28

12. 三島就子, 金子佳代子, 後藤美賀子, 高井千夏, 川上美里, 村島温子： 妊娠・その他 当センターで分娩したループス腎炎(LN)合併妊娠からみたプレコンセプションケア(PCC)の重要性． 第62回日本リウマチ学会総会・学術集会， 東京， 2018.4.27
13. 岡﨑有香，荒田尚子, 佐藤志織, 山内泰介, 田尻淳一, 菱沼 昭, 小飼貴彦, 井出上 隆史, 村島温子： 家族性非自己免疫性甲状腺機能亢進症(FNAH)の一妊娠経過． 第91回日本内分泌学会総会， 宮崎， 2018.4.26
14. 川﨑麻紀, 荒田尚子, 佐藤志織, 福成信博, 御子神哲也, 菱沼 昭, 小飼貴彦, 村島 温子： 妊娠中に甲状腺全摘術を施行した巨大甲状腺腫の一例． 第91回日本内分泌学会総会， 宮崎， 2018.4.26
15. 鬼頭健一, 荒田尚子, 佐藤志織, 川﨑麻紀, 齋藤英和, 齋藤 隆和, 三島就子, 金子 佳代子, 村島温子： 甲状腺自己抗体、潜在性甲状腺機能低下の妊娠成立、早期流産に及ぼす影響に関する検討． 第91回日本内分泌学会総会， 宮崎， 2018.4.26
16. 吉原紘行，大前陽輔，杉浦真弓，村島温子, 藤田太輔, 藤田富雄, 北折珠央, 片野 衣江, 尾崎康彦： ゲノムワイド関連解析を用いた産科抗リン脂質抗体症候群の新たな関連遺伝子の探索． 第70 回日本産科婦人科学会学術講演会， 仙台， 2018.5.12
17. 岡﨑有香, 金子佳代子, 荒田尚子, 左合治彦, 村島温子： SLE 合併妊娠におけるステロイド内服と前期破水． 第70回日本産科婦人科学会学術講演会， 仙台， 2018.5.12
18. 谷垣伸治, 永田知映, 小澤伸晃, 芝田 恵, 金子佳代子, 村島温子, 小林陽一, 岩下 光利, 左合治彦： 妊娠中の母体プレドニゾロン投与による胎児・新生児免疫能への影響． 第 70 回日本産科婦人科学会学術講演会， 仙台， 2018.5.12
19. 西井彰悟，網田光善，波羅友里恵，田中理恵子，齊藤隆和，齊藤英和，関沢明彦，山口晃史： プレドニゾロン(PSL)治療により炎症および免疫状態の改善が得られ妊娠成立した Behcet 病の一例． 第70回日本産科婦人科学会学術講演会， 仙台， 2018.5.12
20. 荒田尚子：【シンポジウム 21】 母児の将来を見据えた妊娠糖尿病の内科管理． 第 61 回日本糖尿病学会学術総会， 東京， 2018.5.25
21. 川﨑麻紀，荒田尚子，宮越 敬，菊池 透，曽根博仁，守屋達美，杉山 隆，佐川典正，内潟安子，難波光義，平松祐司： 糖尿病合併妊娠の妊娠転帰に関する多施設前向き研究(DREAMBeeスタディ)について． 第61回日本糖尿病学会学術総会， 東京， 2018.5.25
22. 村島温子：【シンポジウム】女性が学会理事になるということ． 第59回日本神経学会学術集会，札幌， 2018.5.26
23. 肥沼 幸，福田晃也，阪本靖介，村島温子，笠原群生： 生体肝移植後にタクロリムスの内服を継続しながら3度の妊娠出産を経験した1例． 第3回日本母性内科学会総会・学術集会， 東京，2018.7.1
24. 川上美里，八鍬奈穂，後藤美賀子，肥沼 幸，中島 研，村島温子: 妊娠と薬情報センターへの相談事例におけるタクロリムス妊娠時曝露例と児の転帰の解析． 第 3 回日本母性内科学会総会・学術集会， 東京， 2018.7.1
25. 藤岡 泉，渡邊央美，肥沼 幸，村島温子： 妊娠・授乳と薬に関する相談 向精神薬服用症例の特徴． 第54回日本周産期・新生児医学会学術集会， 東京， 2018.7.8
26. 岡崎有香，梅原永能，和田誠司，荒田尚子，左合治彦： 油性ヨード造影剤による子宮卵管造影検査(HSG)後の妊娠で羊水過多を伴う胎児甲状腺腫を認めた 3 妊娠例． 第 54 回周産期・新生児医学会学術集会， 東京， 2018.7.8
27. 三戸麻子，村島温子，和田芳直，宮里 舞，神谷千津子，塩野入規，吉松 淳，八鍬奈穂，鈴木朋，荒田尚子，伊藤真也： 妊娠初期にアムロジピンを使用した50例の報告． 第41回日本高血圧学会総会， 旭川， 2018.9.14
28. 三戸麻子, 村島温子： 妊娠年齢高血圧女性に対する降圧加療の実態調査． 第41回日本高血圧学会総会， 旭川， 2018.9.14
29. 肥沼 幸, 福田晃也, 阪本靖介, 上遠野雅美, 久保田智美, 村島温子, 笠原群生： タクロリムスでの治療中の母乳哺育 生体肝移植後に 3 児の母乳哺育を行った症例の経験より． 第 54 回日本移植学会総会， 東京， 2018.10.5
30. 春日義史，宮越 敬，税所芳史，池ノ上学，荒田尚子，田中 守： 日本人妊娠糖尿病既往女性における産後糖代謝異常発症予測因子に関する後方視的検討． 第 34 回日本糖尿病・妊娠学会

学術集会， 神奈川， 2018.11.23
31. 本田由佳，岡﨑有香，川﨑麻紀，荒田尚子： ICT を活用した医療従事者伴走「体重支援システム」による子育て期肥満女性の体重変化． 第 34 回日本糖尿病・妊娠学会学術集会， 神奈川，2018.11.23
32. 川﨑麻紀，荒田尚子，和栗雅子，平松祐司：【シンポジウム 2】「GDM のフォローアップ」2 型糖尿病発症予防のための 妊娠糖尿病妊婦への非薬物的強化介入の試み． 第 34 回日本糖尿病・妊娠学会学術集会， 神奈川， 2018.11.24

［講演］
1. 村島温子：【教育研修講演】リウマチ性疾患と妊娠 母性内科の立場から． 第 62 回日本リウマチ学会総会・学術集会， 東京， 2018.4.27
2. 村島温子： 妊娠・授乳中の薬の使い方． 第 25 回練馬区医学会， 東京， 2018.6.3
3. 村島温子： リウマチ・膠原病合併妊娠の薬物療法． 熊本県病院薬剤師会 妊婦・授乳婦薬物療法ワーキンググループ研修会， 熊本， 2018.6.23
4. 村島温子： 内科合併症と不妊治療「不妊症・不育症の診断と治療」． 聖路加国際大学教育センター 認定看護師教育課程（不妊症看護コース）， 東京， 2018.7.7
5. 村島温子： 知っておきたい、妊婦さんと薬の上手な付き合い方． 東京保険医協会「日常診療学習会」， 東京， 2018.9.27
6. 村島温子： 妊娠・授乳中の投薬． 札幌市小児科医会研究会， 札幌， 2018.9.22
7. 村島温子：【教育講演】リウマチ性疾患の妊娠管理． 第 33 回日本臨床リウマチ学会， 東京，2018.11.24
8. 荒田尚子：【教育講演Ⅱ】プレコンセプションケア． 第 33 回東京母性衛生学会学術セミナー，東京， 2018.3.11
9. 荒田尚子： 妊娠・授乳中の甲状腺疾患の薬物療法． 平成 29 年度第 9 回専門薬剤師育成委員会講習会， 大阪， 2018.3.24
10. 荒田尚子： 糖代謝異常～プレコンセプションケアから産後のフォローアップまで～． 第 36 回東京母性衛生学会学術集会， 東京， 2018.5.20
11. 荒田尚子： 内科合併症と不妊治療「不妊症・不育症の診断と治療」． 聖路加国際大学教育センター 認定看護師教育課程（不妊症看護コース）， 東京， 2018.7.7
12. 荒田尚子： 妊娠・産後の女性の健康． 母子保健指導者研修会 石川， 2018.7.23
13. 荒田尚子： 妊娠糖尿病・糖尿病合併妊娠の分娩～管理と対応～． 平成 30 年度周産期医療研修会 1.<医師ｺｰｽ:産科編>， 東京， 2018.7.27
14. 荒田尚子： 妊娠前から糖代謝と甲状腺の働きをコントロールしておこう． 第 43 回不妊カウンセラー・体外受精コーディネーター養成講座． 東京， 2018.10.13
15. 荒田尚子：【専門医教育セミナーⅠ・講演】甲状腺と妊娠． 第 61 回日本甲状腺学会学術集会．埼玉． 2018.11.22
16. 荒田尚子： プレコンセプションケアの重要性． 中央区医師会学術講演会． 東京, 2018.12.26
17. 荒田尚子： 妊娠と糖尿病． 認定薬剤師研修「薬剤師生涯学習講演会シリーズ」「かかりつけ薬剤師」の資格にかかわる～薬剤師向けの研修会， 東京， 2018.12.2
18. 荒田尚子： プレコンセプションケア． 東京都助産師会 東京都委託講習会． 東京，2018.12.6
19. 三戸麻子： プレコンセプションケア．慶應義塾大学現代社会と医学（健康と安全の医学）， 東京，2018. 6. 18
20. 三戸麻子： 妊娠・出産のための知識．慶應義塾大学体育学講義， 神奈川， 2018. 10. 25
21. 三戸麻子： プレコンセプションケア．慶應義塾大学現代社会と医学（健康と安全の医学）， 東京，2018. 11.5
22. 金子佳代子：【合併症妊娠と薬物療法】SLE・抗リン脂質抗体症候群． 平成 30 年度春期妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師講習会， 東京， 2018.5.27

［広報活動］
1. 村島温子： シリーズ リウマチ・膠原病の最新情報 リウマチ・膠原病と妊娠． ラジオ NIKKEI 杏林シンポジア， 東京， 2018．3.26

4-3-12 臓器移植センター　移植外科

[英語原著論文:査読あり]

1. Hayashi H,Naoi S,Togawa T,Hirose Y,Kondou H,Hasegawa Y,Abukawa D,Sasaki M, Muroya K,Watanabe S,Nakano S,Minowa K,Inui A,Fukuda A,Kasahara M,Nagasawa H, Bessho K,Suzuki M,Kusuhara H: Assessment of ATP8B1 Deficiency in Pediatric Patients with Cholestasis Using Peripheral Blood Monocyte-Derived Macrophages. EBioMedicine. 2018;27:187-199.
2. Sakamoto S,Sasaki K,Uchida H,Narumoto S,Kitajima T,Irie R,Fukuda A,Yoshioka T,Kasahara M: A severely cholestatic liver graft can be successfully used in deceased donor liver transplantation. Hepatol Res 2018;48(3):E367-E371.
3. Narumoto S,Sakamoto S,Uchida H,Sasaki K,Shigeta T,Fukuda A,Nosaka S,Irie R, Yoshioka T,Kasahara M: Necrotizing enterocolitis in the setting of milk allergy after pediatric living donor liver transplantation. Pediatr Transplant 2018;22(1).
4. Ochi T,Nakamura M,Wada M,Tamura T,Koga H,Okazaki T,Urano M,Ishizaki Y, Kawasaki S,Kasahara M,Mizuta K,Lane GJ,Yamataka A: Liver transplantation for deterioration in native liver function after portoenterostomy for biliary atresia in Japan: Short versus long-term versus. J Pediatr Surg 2018;53(2):277-280.
5. Kasahara M,Umeshita K,Sakamoto S,Fukuda A,Furukawa H,Sakisaka S,Kobayashi E, Tanaka E,Inomata Y,Kawasaki S,Shimada M,Kokudo N,Egawa H,Ohdan H,Uemoto S; Japanese Liver Transplantation Society: Living donor liver transplantation for biliary atresia: An analysis of 2085 cases in the registry of the Japanese Liver Transplantation Society. Am J Transpl 2018;18(3):659-668.
6. Furuichi M,Fukuda A,Sakamoto S,Kasahara M,Miyairi I: Characteristics and Risk Factors of Late-Onset Bloodstream Infection Beyond Six Months after Liver Transplantation in Children. Pediatr Infect Dis J 2018;37(3):263-268
7. Sakamoto S,Sasaki K,Uchida H,Kitajima T,Narutomo S,Hirata Y,Hishiki T, Fukuda A,Kasahara M: Ex vivo reduction of thickness in the left lateral section to tailor the graft size in infantile split deceased donor liver transplantation. Liver Transpl 2018;24(3):428-431
8. Kinoshita N,Shoji K,Funaki T,Fukuda A,Sakamoto S,Kasahara M,Miyairi I: Safety of BCG vaccination in pediatric liver transplant recipients transplantation 2018;102(4):e125
9. Fukuda A,Sakamoto S,Sasaki K,Narumoto S,Kitajima T,Hirata Y,Hishiki T, Kasahara M: Modified triangular hepatic vein reconstruction for preventing hepatic venous outflow obstruction in pediatric living donor liver transplantation using lift lateral segment grafts. Pediatr Transplant. Pediatr Transplant 2018;22(3):e13167.
10. Sakamoto S,Sasaki K,Kitajima T, irata Y,Narumoto S,Kazemi K,Fukuda A, Miyazaki O,Nosaka S,Kasahara M: A novel technique for collateral interruption to maximize portal venous flow in pediatric liver transplantation. Liver Transpl 2018;24(7):969-973
11. Uchida H,Sakamoto S,Sasaki K,Takeda M,Hirata Y,Fukuda A,Hishiki T,Irie R, Nakazawa A,Miyazaki O,Nosaka S, asahara M : Surgical treatment strategy for advanced hepatoblastoma: Resection versus transplantation. Pediatr Blood Cancer 2018;65(12):e27383
12. Sakamoto S,Kitajima T,Kasahara M: Response to: "Graft reduction in pediatric liver transplantation: The myth of 4?". Am J Transplant 2018; 18(12):3083-3084.
13. Stephanie M,Irie R,Sasaki K,Hirata Y,Narumoto S,Fukuda A,Sakamoto S,Arai K, Yoshioka T,Kasahara M:Histological changes of the intestinal mucosa in complications following a living donor liver transplantation for progressive familial intrahepatic cholestasis type 1. Pathol Int 2018;68(9):536-537
14. Kitajima T,Sakamoto S,Sasaki K,Narumoto S,Kazemi K,Hirata Y,Fukuda A,Imai R, Miyazaki O,Irie R,Teramukai S,Uemoto S,Kasahara M: Impact of graft thickness reduction of left lateral segment on outcomes following pediatric living donor liver transplantation.Am J Transplant 2018;18(9):2208-2219

15. Kasahara M,Sasaki K,Uchida H,Hirata Y,Takeda M,Fukuda A,Sakamoto S: Novel technique for pediatric living donor liver transplantation in patients with portal vein obstruction: The "pullout technique". Pediatr Transplant 2018; 22(8):e13297
16. Kasai M,Matsunami M,Terashima H,Fukuda A,Kasahara M,Kubota M: Improvement of Symptomatic West Syndrome in a Child with Protein C Deficiency following Liver Transplantation. JICNA 2018
17. Kasahara M,Sakamoto S,Horikawa R,Fukuda A,Umezawa A,Matsubara Y,Kato H, Igarashi T: Present State and Future Prospects of Pediatric Liver Transplantations. JMA Journal 2018;1:50-56
18. Takagi K,Miura K,Nakanuma S,Sakamoto S,Yamamoto H,Yagi T,Eguchi S,Ohta T, Wakai T,Ohtsuka M,Uemoto S,Kasahara M,Inomata Y: Six National University Consortium in Liver Transplant Professionals Training (SNUC-LT) Program in Japan. Transplant Proc 2018;50(1):168-174

[日本語原著論文:査読あり]

1. 笠原群生: 門脈狭窄による静脈瘤の小児例－経皮的アプローチ(BRTO、バルーン拡張術). 胆と膵 2018;39(5)
2. 笠原群生, 内田孟, 佐々木健吾, 平田義弘, 武田昌寛, 北嶋俊寛, 上遠野雅美, 久保田智美, 中里弥生, 福田晃也, 阪本靖介: 国立成育医療研究センターにおける肝移植 500 例の成績. 移植 2018;53(2)(3)
3. 金澤 郁恵, 佐島毅, 川島瞳, 大久保浩子, 橋本圭司, 内田孟, 福田晃也, 阪本靖介, 笠原群生: 1 歳未満で生体肝移植をした胆道閉鎖症児の発達経過. 移植 2018;52(6)525-531
4. 小谷晋平, 庄司健介, 福田晃也, 阪本靖介, 笠原群生, 宮入烈: 肝移植前後の小児 Campylobacter 感染症の特徴. 移植 2018;53(4)(5)289-292
5. 金澤郁恵, 佐島毅, 福田晃也, 阪本靖介, 笠原群生: 小児肝移植患者への移植に関する説明についての検討. 移植 2018;53(2)(3)185-190
6. 笠原群生: 小児難治性肝疾患の発症機序の解明. 上原記念生命科学財団研究報告集 2018; 32:1-4

[総説]

1. 笠原群生, 阪本靖介, 福田晃也, 藤野明浩, 金森豊, 菱木知郎, 堀川玲子, 野坂俊介, 宮入烈, 鈴木康之, 中川聡, 西村奈穂, 植松悟子, 小野博, 今留謙一, 入江理恵, 義岡孝子, 石黒精, 松本公一, 李小康, 絵野沢伸, 深見真紀, 阿久津英憲, 斎藤博久, 梅澤明弘, 石川洋一, 松谷弘子, 松原洋一, 斉藤和幸, 賀藤均, 五十嵐隆: 国立成育医療研究センターにおける小児肝移植医療. 医療 2018;72(3)99-104
2. 笠原群生: FOCUS 小児肝移植の現状とこれから. 臨床外科 73(1):60-66(2018)
3. 井手健太郎, 西村奈穂, 中川聡, 笠原群生: 小児急性肝不全に対するアフェレシス. 日本アフェレシス学会雑 2018;37(2)139-145
4. 平田義弘, 阪本靖介, 佐々木健吾, 福田晃也, 宮嵜治, 野坂俊介, 笠原群生: 【胆道・膵疾患術後の晩期障害】小児肝移植後の晩期門脈関連合併症に対する経皮的カテーテル治療について. 胆と膵 2018;39(5)427-434
5. 阪本靖介, 福田晃也, 笠原群生: 【移植医療 2018】小児脳死肝移植の現状と展望. 外科 2018;80(2):144-148
6. 阪本靖介, 笠原群生: 【あたらしい外科局所解剖全図-ランドマークとその出し方】肝胆膵 下大静脈合併切除に必要な局所解剖 肝上部下大静脈～心嚢内下大静脈の剥離法). 臨床外科 73(11)183-187
7. 佐々木健吾, 阪本靖介, 笠原群生: 【小児医療における診断・治療の進歩 2018】治療技術 肝移植による代謝性疾患の治療. 小児科 59(12)1801-1808
8. 笠原群生, 阪本靖介, 福田晃也: 小児肝移植の現状と展望. 東京小児科医会報 37(2)
9. 武田昌寛, 阪本靖介, 福田晃也, 佐々木健吾, 内田孟, 平田義弘, 笠原群生: 【小児の機能性消化管疾患-機能性の嘔吐・腹痛・下痢・便秘】 慢性特発性偽性腸閉塞(CIIP)に対する小腸移植の現状. 小児内科 50(12)2032-2034

[国際学会発表]

1. Kasahara M: Pediatric living donor liver transplantation: Japanese Experience. 12th SEHA International Pediatric Conference, Abu Dhabi, 2018/1/20
2. Kasahara M: ABO incompatible Liver Transplant. 7th Pan Arab Liver Transplant Congress, Saudi Arabia, 2018/1/27
3. Kasahara M: Portal vein reconstruction in Pediatric Living Donor Liver Transplantation. 7th Pan Arab Liver Transplant Congress, Saudi Arabia, 2018/1/27
4. Kasahara M: Pediatric Liver Transplantaition;A Gloval Perspective. 6th International Congress of Hepato-Pancreatico-Bikiary and Liver Transplant Surgery, Egypt, 2018/5/2
5. Hirata Y: Biliary stricture after pediatric liver transplantation :review of the timing of intervention by cholescintigraphy. 2018 Pacific Association of Pediatric Surgeons Annual Meeting, Sapporo, 2018/5/15
6. Kasahara M: Surgical innovation in pediatric liver transplant. The 2018 Joint International Congress of ILTS, ELITA & LICAGE Lisbon, Portugal, 2018/5/24
7. Sakamoto S: A Novel technique for collateral interruption to maximize portal venous flow in pediatric liver transplantation. The 2018 Joint International Congress of ILTS, ELITA & LICAGE Lisbon, Portugal, 2018/5/25
8. Kasahara M: LDLT and acute & chronic end-stage liver disease in children. LDLT Study Group Colloquium in Kazakhstan, Kazakhstan, 2018/6/23
9. Kasahara M: Lesson learnt from Asia Pacific Collaboration on Liver transplantation. 16th APCP, 9th ASMIPS/PIT-IKA, 6th APCPN 2018, Bali, 2018/8/26
10. Sakamoto S: Pediatric Liver Transplantation: Technical considerations. The summit Forum of Gonji Transplantation, China, 2018/8/26
11. Kasahara M: Management of liver transplantation for very small babies. IHPBA2018, Switzerland, 2018/9/5
12. Kasahara M: Major hepatectomy for pediatric hepatic malignancy. IHPBA2018, Switzerland, 2018/9/5
13. Kasahara M: Lesson learnt from Asia Pacific Collaboration on Liver transplantation. 6th ELITA split liver course, Ghent, 2018/9/10
14. Sakamoto S: Prognostic and therapeutic predictors of outcomes of liver transplant for hopatoblastoma. 4th CLBS SYMPOSIUM, India, 2018/9/15
15. Kasahara M: Pre-Post-PLDLT management of small weighted patients. IHPBA CIS 2018 congress in Almaty, Kazakhstan, 2018/9/20
16. Kasahara M: Video presentation about liver surgery for pediatric advanced cancer. IHPBA CIS 2018 congress in Almaty, Kazakhstan, 2018/9/20
17. Uchida H,Sakamoto S,Takeda M,Sasaki K,Hirata Y,Fukuda A,Kasahara M: Evaluation for liver re-transplantation in children: single center experience. The 12th Japan Korea Transplantation Forum, Tokyo, 2018/10/5
18. Kasahara M,Sakamoto S,Fukuda A: Long-term survival care in Liver transplant recipients in Japan. The 12th Japan Korea Transplantation Forum, Tokyo, 2018/10/5
19. Kasahara M: surgical management in pediatric liver transplantation. 7th Biliary Atresia and Pediatric Liver Transplantation Furum, China, 2018/10/13
20. Kasahara M: Short-and long-term surgical complications. 14th APPSPGHAN, Thailand, 2018/10/25
21. Kasahara M: Current situation and futureof pediatric liver transplantation:Implication frim big data of Japanese liver taransplantation registration system. 2018 world life Science Conference, China, 2018/10/29
22. Sakamoto S: Surgical strategies for pediatric liver tumors. NSPHO, Russia 2018/11/10
23. Hirata Y: Outcomes of 50cases of liver transplantation for intrapulmonary Shunting. ATW2018, Korea, 2018/11/9
24. Takeda M: Late-onset acute rejection may contribute to poor outcomes in adolescence and young adulthood in liver transplantation. ATW2018, Korea, 2018/11/10

25. Shimizu S: The practical use of cell-free and concentrated ascites reinfusion therapy(KY-CART)for the liver transplant recipients with perioperative refractory ascites. ATW2018, Korea, 2018/11/9
26. Uchida H: Surgical treatment strategy for advanced hepatoblastoma:resection vs transplantation. SIOP2018, Kyoto, 2018/11/16
27. Kasahara M: Monitor of PV Pressure or Flow to prevent small and large size syndrome. Transplantation Science Symposium, Taiwan, 2018/11/24
28. Kasahara M: How to raise them up - Long-term outcome of PED LDLT. International Symposium for Commemoration of 5000 LDLTs at AMC, Korea, 2018/12/1
29. Uchida H: Long term outcomes after pediatric living donor liver transplantation:5 years'follow up. International Symposium for Commemoration of 5000 LDLTs at AMC, Korea, 2018/12/1
30. Fukuda A: Single-center experience of 500 pediatric liver transplantation in Japan. International Symposium for Commemoration of 5000 LDLTs at AMC, Korea, 2018/12/1
31. Fukuda A: Outcomes for pediatric liver re-transplantation: single center experience. International Symposium for Commemoration of 5000 LDLTs at AMC, Korea, 2018/12/1
32. Kasahara M: Portal vein Inflow modulation in Pesiatric Liver Transplantation. 2nd World Science and Technology of LifeConference & the 4th International Hepatobiliary & Pancreatic Diseases Summit Forum, China, 2018/12/8

[国内学会発表]

1. 上遠野雅美: 各施設における脳死肝移植登録の現状. ﾜｰｷﾝｸﾞｸﾞﾙｰﾌﾟﾐｰﾃｨﾝｸﾞ・脳死肝移植研究会, 東京, 2018/2/2
2. 佐々木健吾: ミニ腸におけるトランスポーターの発現と代謝機能. 第 30 回日本小腸移植研究会, 宮城, 2018/2/10
3. 平田義弘: 小児肝移植後の癒着性腸閉塞についての検討. 第 54 回日本腹部救急医学会総会, 東京, 2018/3/8
4. 福田晃也: ES 細胞をセルソースとした肝細胞移植の展望. ヒト ES 細胞シンポジウム, 東京, 2018/3/26
5. 阪本靖介: 小児肝移植手術における門脈再建法とその工夫. 第 118 回日本外科学会定期学術集会, 東京, 2018/4/7
6. 平田義弘: 門脈体循環シャントに対し Amplatzer Vascular Plug を用いて治療を行った 10 例の検討. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018/4/20
7. 佐々木健吾, 福田晃也: 下大静脈浸潤を伴う再発肝芽腫に対する下大静脈合併切除手術の有効性. 第 72 回手術手技研究会, 徳島, 2018/5/12
8. 福田晃也: 有機酸代謝異常症に対する肝移植治療成績. 第 13 回小児肝移植懇話会, 東京, 2018/5/24
9. 佐々木健吾: 小児肝移植後の抗体関連拒絶反応の検討. 第 36 回日本肝移植研究会, 東京, 2018/5/25
10. 平田義弘: シルデナフィルにより呼吸状態の改善を得た高度肺内シャントを有する肝肺症候群に対する小児肝移植後呼吸不全の 2 例. 第 36 回日本肝移植研究会, 東京, 2018/5/25
11. 福田晃也: doublecortin domain-containing 2 (DCDC2)遺伝子異常を検出した neonatal sclerosing cholangitis の 1 例. 第 36 回日本肝移植研究会, 東京, 2018/5/26
12. 笠原群生: ABO 不適合生体肝移植後に 3 度のに妊娠出産を経験し、タクロリムスの内服を継続しながら母乳育児を行った 1 例. 第 36 回肝移植研究会, 東京, 2018/5/26
13. 佐々木健吾: A novel technique to get sufficient portal vein flow in the pediatric living donor liver transplantation. 第 30 回日本肝胆膵外科学会, 神奈川, 2018/6/8
14. 平田義弘: Biliary stricture after pediatric liver transplantation :review of the timing of intervention by cholescintigraphy. 第 30 回日本肝胆膵外科学会,神奈川, 2018/6/8
15. 福田晃也: Outcomes for pediatric liver re-transplantation: single center experience. 第 30 回日本肝胆膵外科学会, 神奈川, 2018/6/8
16. 佐々木健吾, 福田晃也: doublecortin domain-containing 2 (DCDC2)遺伝子異常を検出した

neonatal sclerosing cholangitis の 1 例. 第 35 回小児肝臓研究会, 宮城, 2018/7/14
17. 福田晃也: 生体肝移植ドナーの長期成績. 第 54 回日本移植学会, 東京, 2018/10/5
18. 入江理恵, 中澤 温子, 武田 昌寛, 佐々木健吾, 内田孟, 平田義弘, 福田晃也, 阪本靖介, 義岡孝子, 笠原群生: 小児生体肝移植においてドナー肝の脂肪変性が予後に与える影響. 第 54 回日本移植学会, 東京, 2018/10/3
19. 武田昌寛, 佐々木健吾, 内田孟, 平田義弘, 福田晃也, 阪本靖介, 笠原群生: 先天性心疾患を合併した胆道閉鎖症に対する生体肝移植の治療報告. 第 54 回日本移植学会, 東京, 2018/10/3
20. 佐藤 舞, 石倉健司, 武田昌寛, 佐々木健吾, 内田孟, 平田義弘, 福田晃也, 阪本靖介, 笠原群生:腎障害の有無による小児肝移植例の長期腎予後:471 例の解析. 第 54 回日本移植学会, 東京, 2018/10/3
21. 阪本靖介, 福田晃也, 入江理恵, 内田孟, 佐々木健吾, 武田昌寛, 平田義弘, 義岡孝子, 笠原群生: 小児肝移植術後 5 年以上経過症例の検討. 第 54 回日本移植学会, 東京, 2018/10/3
22. 平田義弘, 阪本靖介, 武田昌寛, 佐々木健吾, 内田孟, 福田晃也, 笠原群生: 小児肝移植における Donor specific anti-HLAantibody (DSA)の意義. 第 54 回日本移植学会, 東京, 2018/10/4
23. 佐藤舞, 小椋雅夫, 亀井宏一, 石倉健司, 福田晃也, 阪本靖介, 笠原群生: 肝移植後同一ドナーによる腎移植における抗ドナー抗体の意義. 第 54 回日本移植学会, 東京, 2018/10/4
24. 内田孟, 阪本靖介, 武田寛昌, 平田義弘, 福田晃也, 内山徹, 笠原群生: 肝移植後拒絶反応時の末梢血リンパ球解析の有用性. 第 54 回日本移植学会, 東京, 2018/10/4
25. 笠原群生, 上遠野雅美, 久保田智美, 福田晃也, 平田義弘, 佐々木健吾, 内田孟, 武田昌寛, 阪本靖介: 小児肝移植後長期経過例の問題点. 第 54 回日本移植学会, 東京, 2018/10/5
26. 上遠野雅美, 笠原群生: レシピエント移植コーディネーターからみた小児肝移植後長期経過症例の問題点と課題. 第 54 回日本移植学会, 東京, 2018/10/5
27. 福田晃也, 武田昌寛, 清水誠一, 内田孟, 平田義弘, 阪本靖介, 笠原群生:小児生体肝移植ドナーの長期成績. 第 54 回日本移植学会, 東京, 2018/10/5
28. 肥沼幸, 福田晃也, 阪本靖介, 上遠野雅美, 久保田智美, 村島温子, 笠原群生: タクロリムスでの治療中の母乳哺育～生体肝移植後に 3 児の母乳哺育を行った症例の経験より～. 第 54 回日本移植学会, 東京, 2018/10/5
29. 笠原群生, 阪本靖介, 福田晃也: 小児肝移植待機患者の評価. JDDW2018 第 16 回日本消化器外科学会大会, 兵庫, 2018/11/2
30. 入江理恵, 伊藤玲子, 成本壮一, 福田晃也, 阪本靖介, 笠原群生: 小児肝移植後早期の拒絶発症に関与する因子の検討. DDW2018 第 16 回日本消化器外科学会大会, 兵庫, 2018/11/2
31. Saito M,Akiyama N,Tsuruoka T,Fushimi T,Sassa K,Musya I,Arao M,Kasahara M, Murayama K,Ohtake A: A case of heterozygous female diagnosed after the birth of male baby with OTC deficiency. 第 60 回日本先天代謝異常学会総会, 岐阜, 2018/11/8
32. 阪本靖介: Portal vein reconstruction in pediatric liver transplantaion:How to get sufficient portal front flow?. 第 80 回日本臨床外科学会, 東京, 2018/11/24
33. 福田晃也: 小児肝移植後の再移植治療成績:単一施設での経験. 第 80 回日本臨床外科学会, 東京, 2018/11/22
34. 福田晃也, 吉村翔平: 急性肝不全に対して生体肝移植後に巨大脾腫を生じ脾臓摘出術を要した一例. 第 51 回武蔵野小児肝臓病懇話会, 東京, 2018/12/4
35. 清水誠一: カロリ病の疑診にて生体肝移植後、呼吸不全・肝肝膿瘍の治療に難渋した 1 例. 第 51 回武蔵野小児肝臓病懇話会, 東京, 2018/12/4

4-3-13 放射線診療部(部・室)

[原著論文:査読付](Reviewed Paper)

3. Miyazaki O, Miyasaka M, Okamoto R, Tsutsumi Y, Nosaka S : Osteomyelitis of a sacral neurocentral synchondrosis: a case report of another metaphyseal equivalent. Skeletal Radiol 2018 Dec 5. doi: 10.1007/s00256-018-3122-2. [Epub ahead of print] PubMed PMID: 30519964.
4. Yamazaki D, Miyazaki O, Takei Y, Matsubara K, Shinozaki M, Shimada Y, Suzuki S, Muramatsu Y : Usefulness of size-specific dose estimates in pediatric computed tomography: Revalidation of large-scale pediatric CT survey data in Japan. Radiat Prot Dosimetry 2018;179(3):254-262
5. Towbin AJ, Meyers RL, Woodley H, Miyazaki O, Weldon CB, Morland B, Hiyama E, Czauderna P, Roebuck DJ, Tiao GM : Another point of view on 2017 PRETEXT: reply to Pariente et al Pediatr Radiol 2018;48:1820-1822
6. Towbin AJ, Meyers RL, Woodley H, Miyazaki O, Weldon CB, Morland B, Hiyama E, Czauderna P, Roebuck DJ, Tiao GM : 2017 PRETEXT: radiologic staging system for primary hepatic malignancies of childhood revised for the Paediatric Hepatic International Tumour Trial (PHITT). Pediatr Radiol 2018;48(4):536-554
7. Shoji K, Kawai T, Onodera M, Tsutsumi Y, Nosaka S, Miyairi I : Multiple osteolytic lesions on the skull of a girl with Mendelian susceptibility to mycobacterial disease. Pediatr Int 2018;60(11):1043-1044
8. Ueno S, Fujino A, Morikawa Y, Iwanaka T, Kinoshita Y, Ozeki M, Nosaka S, Matsuoka K, Usui N : Treatment of mediastinal lymphatic malformation in children: an analysis of a nationwide survey in Japan. Surg Today 2018;48(7):716-725
9. Sakamoto S, Sasaki K, Kitajima T, Hirata Y, Narumoto S, Kazemi K, Fukuda A, Miyazaki O, Nosaka S, Kasahara M : A novel technique for collateral interruption to maximize portal venous flow in pediatric liver transplantation. Liver Transpl 2018;24(7):969-973
10. Kuwahara K, Hikosaka M, Kaneko T, Takamatsu A, Nakajima Y, Ogawa R, Miyazaki O, Nosaka S : Analysis of Cranial Morphology of Healthy Infants Using Homologous Modeling. J Craniofac Surg 2018 Nov 12. doi: 10.1097/SCS.0000000000004893. [Epub ahead of print] PubMed PMID: 30439731.
11. Uchida H, Sakamoto S, Sasaki K, Takeda M, Hirata Y, Fukuda A, Hishiki T, Irie R, Nakazawa A, Miyazaki O, Nosaka S, Kasahara M : Surgical treatment strategy for advanced hepatoblastoma: Resection versus transplantation. Pediatr Blood Cancer 2018 Dec; 65(12):e27383. doi: 10.1002/pbc.27383. Epub 2018 Aug 7. PubMed PMID: 30084209.
12. Narumoto S, Sakamoto S, Uchida H, Sasaki K, Shigeta T, Fukuda A, Nosaka S, Irie R, Yoshioka T, Kasahara M : Necrotizing enterocolitis in the setting of milk allergy after pediatric living donor liver transplantation. Pediatr Transplant 2018 Feb;22(1). doi: 10.1111/petr.13096. Epub 2017 Dec 7. PubMed PMID: 29218832.
13. Ueno S, Fujino A, Morikawa Y, Iwanaka T, Kinoshita Y, Ozeki M, Nosaka S, Matsuoka K, Usui N : Treatment of mediastinal lymphatic malformation in children: an analysis of a nationwide survey in Japan. SurgToday 2018;48(7):716-725. doi:10.1007/s00595-018-1640-0
14. Ueno-Yokohata H, Okita H, Nakasato K, Hishiki T, Shirai R, Tsujimoto S, Osumi T, Yoshimura S, Yamada Y, Shioda Y, Kiyotani C, Terashima K, Miyazaki O, Matsumoto K, Kiyokawa N, Yoshioka T, Kato M : Preoperative diagnosis of clear cell sarcoma of the kidney by detection of BCOR internal tandem duplication in circulating tumor DNA. Genes Chromosomes Cancer. 2018; 57: 525-529
15. Uehara E, Nakao H, Tsumura Y, Nakadate H, Amari S, Fujinaga H, Tsutsumi Y,Kang D, Ohga S, Ishiguro A : Slow Elevation in Protein C Activity without a PROC Mutation in a Neonate with Intracranial Hemorrhage. AJP Rep 2018:8:e68-e70

16. Shoji K, Kawai T, Onodera M, Tsutsumi Y, Nosaka S, Miyairi I : Multiple osteolytic lesions on the skull of a girl with Mendelian susceptibility to mycobacterial disease. Pediatr Int 2018;60:1043-1044
17. Mizumoto M, Murayama S, Akimoto T, Demizu Y, Fukushima T, Ishida Y, Oshiro Y, Numajiri H, Fuji H, Okumura T, Shirato H, Sakurai H : Preliminary results of proton radiotherapy for pediatric rhabdomyosarcoma: a multi-institutional study in Japan. Cancer Med 2018 ;7(5):1870-1874
18. 谷山禎彦, 前川貴伸, 窪田 満, 福原康之, 奥山虎之, 宮嵜 治, 石黒 精, 中館尚也: 単純X線写真が診断に有用であった大理石骨病の 5 症例. 小児科診療 2018;81:941-945

[原著論文:査読なし]なし

[症例報告]
1. 朝倉真理, 前川貴伸, 大野通暢, 野坂俊介, 野村伊知郎, 金森 豊, 宮嵜 治, 石黒 精: 胆汁性嘔吐の軽快・増悪を繰り返し, 診断に複数回の画像検査を要した腸回転異常の 1 例. 小児科臨床 2018;71(9):1545-1550

[総説]
1. 野坂俊介: 【特集 小児救急最新の知識-小児外科と小児救急】小児外科救急に役立つ IVR の適応と現状. 小児外科 2018;50 (7):685-690
2. 野坂 俊介:【救急放射線診断へのアプローチ】腹部/急性腹症 診断の進め方 腸重積症. 臨床画像 2018;34(10 月増刊):170-171
3. 野坂俊介: 押さえておきたい臨床・画像分類, 腹部・骨盤 先天性門脈体循環短絡症. 画像診断 2018;38:A170-A173
4. 野坂俊介: 押さえておきたい臨床・画像分類, 腹部・骨盤 胆道閉鎖症. 画像診断 2018;38:A182-A185
5. 宮嵜 治: こどもたちのための被ばく低減 –医師の立場から-. Rad fan 2018;16(14):23-26
6. 宮嵜 治: 日本における小児 CT の現状. 特集 小児画像診断における放射線被ばく低減への取り組み. 臨床放射線 2018;63(7):751-758
7. 宮坂実木子: 小児腎・泌尿器疾患update 小児泌尿器疾患の画像診断. 小児科 2018;59(10):1425-1432
8. 宮坂実木子: 押さえておきたい臨床・画像分類, 腹部・骨盤 子宮 Muller管形成異常. 画像診断 2018, 38:A258-A261
9. 宮坂実木子: 押さえておきたい臨床・画像分類, 腹部・骨盤 子宮 変位腎. 画像診断 2018;38:A235-A238
10. 青木英和, 宮坂実木子:押さえておきたい臨床・画像分類, 腹部・骨盤 子宮 水腎症. 画像診断. 2018;38:A248-A253
11. 宮坂実木子: 小児腹部疾患のMRI. 日本小児放射線学会雑誌 2018;33:122-132
12. 北村正幸: 胆道閉鎖の画像診断. 小児外科 2018;50(1) 33-36

[著書]
1. 野坂俊介: 疾患各論 腸重積症. 水沼仁孝, 古川 顕(編集), 腹部救急疾患の画像診断とインターベンション, メジカルビュー社, 2018;54-60
2. 野坂俊介: 疾患各論 Meckel 憩室関連疾患. 水沼仁孝, 古川 顕(編集), 腹部救急疾患の画像診断とインターベンション, メジカルビュー社, 2018;61-62
3. 宮嵜 治: 医療被ばく 最近の知見. 山田 恵 (編集), 画像所見から絞り込む！頭部画像診断 羊土社, 2018;23-27
4. 宮嵜 治: 救急における小児と女性の医療被ばく 水沼仁孝, 古川 顕(編集), 腹部救急疾患の画像診断とインターベンション, メジカルビュー社 2018;404-405
5. 浅野圭亮, 今井瑠美, 岩間佳子, 大越康正, 木村恭彦, 黒崎栄治, 鈴木成人, 染森太三, 髙橋毅, 田中英之, 永松洋志, 鳴海千秋, 半田賢一, 日浦諒大, 平松千春, 藤田勝則, 藤淵智康, 藤吉真沙也, 丸山智之: 新生児から小児単純 X 線撮影マニュアル. 野坂俊介(監修), 医療科学

社, 2018;1-167

[ガイドライン、報告書、その他]

1. 野坂俊介: 胆道閉鎖症診療ガイドライン. 日本胆道閉鎖症研究会編, 2018.10.5
2. 宮嵜 治, 北村正幸: 厚生労働省 「日露医療協力推進事業」 小児がん対策協力プラン; MoTIF (Moscow Tokyo Image Forum)conference モスクワ ロガチョフ小児血液学・腫瘍学・免疫学センター病院との小児がん遠隔コンサルテーション, 2018.1.24
3. 熊本忠史, 中川原 章, 恒松由記子, 金子安比古, 鈴木茂伸, 河合 章, 田尻達郎, 中野嘉子, 真部 淳, 高木正稔, 服部浩義, 宮坂実木子, 野崎大希, 滝田順子, 船戸道徳, 伊藤道哉, 田村智英子, 田代志門, 掛江直子, 浜島ちさと: 小児がん領域におけるゲノム医療 小児期に発症する遺伝腫瘍に対するゲノム医療体制実装のための研究. 日本小児血液・がん学会雑誌. 2018;55:164

[学会発表]

1. Miyazaki O, Aoki H, Miyasaka M, Okamoto R, Tsutsumi Y, Nosaka S: The Seven Day Rule: MRI for detection of bone marrow edema in acute hematogenous osteomyelitis of the pelvis in children. SPR 2017 Annual meeting, Nashville, 2018.05.14-19
2. Miyazaki O, Okamoto R, Aoki H, Tsutsumi, Miyasaka M, Nosaka S: Mediastinal soft tissue mass like lesions in congenital unilateral pulmonary vein atresia (CUPVA) a retrospective review. AOSPR 2018, Chandigarh, 2018.09.13-17
3. Miyazaki O: Sacrococcygeal teratoma. Radiological aspect. SIOP/IPSO 2018, Kyoto, 2018.11.17
4. Miyazaki O: Multidisciplinary management of liver tumor; Radiological evaluation of hepatoblastoma:Comparison of PRETEXT2005–2017. SIOP 2018, Kyoto, 2018.11.19
5. Miyazaki O: Radiological evaluation of hepatoblastoma: Comparison of PRETEXT 2005–2017. SIOPEL 2018, Hiroshima, 2018.11.20
6. Miyasaka M, Nosaka S, Nagamatsu H: Utility of Gd-EOB-DTPA in the visualization of biliary system in pediatric patients. 54th Annual Meeting of European Society of Pediatric Radiology, Berllin, 2018.6.18-22
7. Hara H, Kitamura R, Hasegawa H, Suzuki S, Shintani N, Tsutsumi Y, Nosaka S, Kuwashima S, Shiraki N, Sato Y, Nakagawa M: Imaging Findings of cecrvical ectopic thymus in infants and children. 54th Annual Meeting of European Society of Pediatric Radiology, Berlin, 2018.6.18-19
8. Tsutsumi Y,Ogiwara H,Nosaka S,Aoki H,Niiya N,Okamoto R,Miyasaka M,Miyazaki O,Hara H.: Optimal scan delay during head CT angiography in infants and small children. 54th Annual Meeting of European Society of Pediatric Radiology, Berlin, 2018.6.18-19
9. Imai R, Miyazaki O, Asano K, Horiuchi T, Suzuki N, Nosaka S : Disease-Specific Dose Estimate (DSDE); A utility of the weight base protocol that considered effective diameter.RSNA 2018 104th Scientific Assembly and Annual Meeting, Chicago, 2018.11.26
10. Miyazaki O: Dose reduction in the pediatric patient in Japan—the current situation. 第 77 回日本医学放射線学会学術集会, 横浜, 2018.4.15
11. Miyasaka M, Nosaka S, Nagamatsu H, Aoki H, Irahara S, Okamoto R, Niiya N, Tsutsumi Y, Miyazaki
12. 宮嵜 治: 正常と異常の境界 これはNormal？ Abnormal？ 第4回胎児MRI研究会 東京, 2018.02.11
13. 宮嵜 治: 胎児 CT 撮影技術の進歩と被ばく低減への挑戦.第 91 回日本超音波医学会総会 シンポジウム 産婦人科 3 胎児 MRI・CT の現状と未来 、神戸. 2019.06.08
14. 宮嵜 治: シンポジウム 4.小児腫瘍性疾患への適応. 第 46 回日本磁気共鳴学会, 金沢, 2018.09.04
15. 宮嵜 治: 本邦における小児 CT 検査の“正当化”と“最適化”の問題点. 第 61 回 日本放射線影響学会総会, 長崎, 2018.11.09

16. 宮嵜 治: 新生児・胎児の画像診断. 第 63 回日本新生児育成医学会, 東京, 2018.11.23
17. Miyasaka M, Nosaka S, Nagamatsu H, Aoki H, Irahara S, Okamoto R, Niiya N, Tsutsumi Y, Miyazaki O: Biliary duct visualization using Gd-EOB-DTPA in pediatric patients: comparison of liver function. 第 77 回日本医学放射線学会学術集会, 横浜, 2018.4.15
18. 北村正幸, 藤田勝則, 半田賢一, 藤吉真沙也, 丸山智之: 小児肝移植患者の MAA 肺血流シンチにおける肝肺症候群(高シャント率)症例について. 第 18 回小児核医学研究会, 東京, 2018.7.21
19. 北村正幸: 小児核医学検査適正施行の brush up 小児核医学検査の投与量低減と SPECT/CT「淡い集積をひろおう」. 第 58 回日本核医学会学術総会 合同シンポジウム, 沖縄, 2018.11.15
20. Okamoto R, Miyazaki O, Aoki H, Tsutsumi Y, Miyasaka M, Nosaka S: Mediastinal soft tissue mass in congenital unilateral pulmonary vein atresia-a retrospective review of seven cases. 第 77 回日本医学放射線学会総会, 横浜, 2018.04.15
21. 青木英和, 宮嵜 治, 苛原早保, 岡本礼子, 堤 義之, 新谷紀子, 宮坂実木子, 野坂俊介, 金森豊, 大野通暢: 小腸捻転で発症した腸間膜リンパ管腫の 1 例. 第 28 回日本救急放射線研究会, 福岡, 2018.10.7
22. 青木英和, 宮坂実木子, 岡本礼子, 堤 義之, 新谷紀子, 宮嵜 治, 野坂俊介, 植松悟子, 辻 聡: 非典型的症状で発症した IgA 血管炎の 2 例. 第 53 回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 愛媛, 2018.9.10
23. 新谷紀子, 宮坂実木子, 青木英和, 苛原早保, 岡本礼子, 堤 義之, 野坂俊介, 宮嵜 治, 植松悟子: 頭部 CT による小児頭蓋骨骨折の治癒過程の後方視検討. 第 54 回日本小児放射線学会, 東京, 2018.6.15
24. 苛原早保, 宮嵜 治, 青木英和, 岡本礼子, 堤 義之, 新谷紀子, 水戸守真寿, 宮坂 実木子, 白井了太, 清谷知賀子, 加藤元博, 野坂俊介: DICER1 症候群による胸膜肺芽腫を発症した姉弟例. 第 54 回日本小児放射線学会, 東京, 2018.6.15
25. 藤野明浩, 朝長高太郎, 金森 豊, 菱木知郎, 水戸守真寿, 宮坂実木子, 野坂俊介, 義岡孝子, 柳井広之: 術前画像診断が困難だった腹腔内巨大多房性嚢胞性病変の 1 小児例. 第 54 回日本小児放射線学会, 東京, 2018.6.15
26. 小川雄大, 渡邉稔彦, 大野通暢, 田原和典, 菱木知郎, 藤野明浩, 金森 豊, 北村正幸, 宮嵜 治, 野坂俊介: 磁性玩具の誤飲による腸閉塞の一例. 第 54 回日本小児放射線学会, 東京, 2018.6.16
27. 風間麻優子, 野坂俊介, 大西志麻, 辻 聡, 植松悟子, 藤野明浩, 金森豊, 岡本礼子, 窪田満, 石黒 精: Cornelia de Lange 症候群に併発した小児盲腸捻転の 3 例. 第 54 回日本小児放射線学会, 東京, 2018.6.16
28. 永井 由紗, 内田 佳子, 長濱 由美, 堤 義之, 窪田 満, 石黒 精: 腰椎穿刺後に血腫との鑑別を要した脊髄硬膜外液体貯留の幼児例 第 119 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.04.20.
29. 木村恭彦: 単心室症に対するフォンタン手術後までのフォローアップ. 東海ライブ研究会 第 8 回豊橋ライブデモンストレーションコース, 愛知, 2018.6.23
30. 藤田勝則: 小児核医学検査. 第 18 回小児核医学研究会, 東京, 2018.7.21
31. 木村恭彦: 透視検査において放射線防護メガネの有用性について. 第 72 回国立病院総合医学会, 兵庫, 2018.11.9

[講演]

41. Nosaka. S: Congenital Portosystemic Shunt: Diagnosis and Intervention. 18th AOSPR & 16th ISPR 2018, Chandigarh, 2018.9.15
42. Miyazaki O, Yoshioka T, Kitamura M, Matsumoto K: MoTIF (Moscow Tokyo Image Forum)An example of communication/cooperation between pediatric oncology groups in different countries. Japan-Russia Medical Symposium 2018 relating to JRMEF, Niigata, 2018.11.10
43. Tsutsumi Y: Intracranial AV shunts in fetus, newborn and infants. Suzhou Children's

Hospital/Soochow University Radiology Conference, Suzhou, 2018.11.16
44. Fuji H: RT issues in intracranial non germinoma germ cell tumor: Target and dose for medium and high risk: Asia. 50th Congress of the International Society of Paediatric Oncology, Kyoto, 2018.11.16-19
45. Fuji H: PROS/IPSO/SIOP Symposium, Management of multidisciplinary palliative care: Radiotherapy. 50th Congress of the International Society of Paediatric Oncology, Kyoto, 2018.11.16-19
46. Fuji H: Proton beam therapy and pediatric radiotherapy. International Symposium on Ion Therapy 2018 (ISIT2018), Saga, 2018.11.10-11
47. 野坂俊介: 画像診断を日常診療でどう使うか. 第 5 回成育サマーセミナー, 東京, 2018.7.29
48. 宮嵜 治: 小児の画像診断. 静岡県立こども病院 院内学術講演会, 2018.01.12
49. 宮嵜 治: Pediatric musculoskeletal Radiology 骨軟部. Radiology Today in Setouchi 4th, 岡山, 2018.02.10
50. 宮嵜 治: 小児画像診断における放射線被ばくの現状とリスクの伝え方. 第 54 回日本小児放射線学会, 東京, 2018.06.16
51. 宮嵜 治: 小児の画像診断:子供たちのために私たちができること. 第 74 回千葉撮影技術研究会. 千葉, 2018.11.30
52. 宮嵜 治: Pediatric oncology imaging 肝芽腫の画像診断 慶應大学 がんプロフェッショナル小児がんコース. 2018.12.17
53. 堤 義之: 神経放射線. 第 46 回日本小児神経外科学会教育セミナー, 東京, 2018.06.08.
54. 堤 義之: 造影剤に関する薬理と副作用と投与禁忌について. 国立病院機構診療放射線技師実習技能研修, 東京, 2018.10.24.
55. 堤 義之: 小児中枢神経画像診断. 成育医療研修会, 東京, 2018.11.14
56. 宮坂実木子: 虐待による頭部外傷の画像診断(Imaging of abusive head trauma: AHT). 第 77 回日本医学放射線学会学術集会, 横浜, 2018.4.15
57. 宮坂実木子: 小児腎・尿路感染症と尿路奇形の超音波診断 小児嚢胞性腎疾患, 第91回日本超音波医学会学術集会, 神戸, 2018.6.10
58. 宮坂実木子: 腎泌尿器疾患の胎児MRI診断. 神奈川胎児エコー研究会. 横浜, 2018.7.29
59. 宮坂実木子: 小児泌尿器領域の超音波診断. 第49回Rad-US研究会, 東京, 2018.10.13
60. 宮坂実木子: 小児泌尿器領域の基礎とピットフォール. 第4回日本小児超音波研究会学術集会, 大阪, 2018.11.11
61. 宮坂実木子: 小児画像診断のABC 撮影と読影のポイント. 国立病院関東講師熱放射線技師会第20回新採用者研修会プログラム. 東京, 2018.4.21
62. 宮坂実木子: 小児画像診断のツボ－外傷, 先天異常－ 尿路感染症に関連する先天異常. 第15回日本小児放射線学会教育セミナー. 東京, 20182.3
63. 鈴木成人: 放射線部門における医療安全. 国立病院関東信越診療放射線技師長協議会平成 30 年度新任技師長研修会プログラム, 東京, 2018.4.21
64. 黒崎栄治: 国立成育医療研究センターにおける PACS の運用. 日本医用画像管理学会 The 1st PACS Administrator Seminar, 東京, 2018.1.7
65. 平松千春: 小児における医療安全確保. 第 41 回日本小児放射線技術研究会, 神奈川, 2018.4.14
66. 平松千春: 小児撮影のテクニック～子どもの接し方と検査の工夫～. 国立病院関東甲信越放射線技師会第 20 回新採用者等研修会, 東京, 2018.4.21
67. 今井瑠美: 小児 CT 検査における撮影技術. 第 17 回高速らせん CT 研究会, 広島, 2018.5.26
68. 藤田勝則: 当院小児核医学検査の実際と技術そして工夫. 第 58 回日本核医学会学術総会, 沖縄, 2018.11.15

[広報活動] なし

4-3-14 臨床検査部
臨床検査技師

[学会発表]

1. 小川礼佳, 木澤洋恵, 吉村稔, 大川正人, 大隅朋生, 富澤大輔, 加藤元博, 義岡孝子
2. ：生後 8 か月で発症した myeloid sarcoma の一例、第 64 回日本臨床検査医学会学術集会、2017.11.16～19、京都
3. 荒木勇麿, 石田賢史, 柳澤衣緒, 安井一浩, 椚好陽, 南澤ふみ子, 三五朋子, 後藤由紀, 湯浅日南子, 高橋晴香, 濱田沙夢, 松丸佳代, 立川康則, 工藤元記, 岡村治, 大川正人, 奥山虎之:当センターの条件詮索反応聴力検査(COR)の現状と今後の課題,第 45 回臨関信支部学会,東京,2017.9.2
4. 南澤ふみ子, 立川康則, 安井一浩, 石田賢史, 椚好陽, 柳澤衣緒, 荒木勇麿, 三五朋子, 後藤由紀, 湯浅日南子, 高橋晴香, 濱田沙夢, 松丸佳代, 工藤元記, 岡村治, 大川正人, 奥山虎之: 胎児総肺静脈還流異常のスクリーニングにおける肺静脈血流波形,左房と大動脈間距離測定の有用性,第 45 回臨関信支部学会,東京,2017.9.2

4-3-15 病理診断科（病理診断部）

[原著論文:査読付(REVIEWED PAPER)]

1. Sakamoto S, Sasaki K, Uchida H, Narumoto S, Kitajima T, Irie R, Fukuda A, Yoshioka T, Kasahara M.: A severely cholestatic liver graft can be successfully used in deceased donor liver transplantation. Hepatol Res 2018;48(3):E367-E371.

2. Nagata H, Sato M, Ogura M, Yoshikawa T, Yamamoto K, Matsumura S, Kano Y, Saida K, Sako M, Kamei K, Yoshioka T, Ogata K, Ito S, Ishikura: Coagulopathy as a complication of kidney biopsies in paediatric systemic lupus erythematosus patients with antiphospholipid syndrome. K.Nephrology (Carlton) 2018;23(6):592-596.

3. Narumoto S, Sakamoto S, Uchida H, Sasaki K, Shigeta T, Fukuda A, Nosaka S, Irie R, Yoshioka T, Kasahara M: Necrotizing enterocolitis in the setting of milk allergy after pediatric living donor liver transplantation. Pediatr Transplant 2018;22(1)

4. Yoshida Y, Nobusawa S, Nakata S, Nakada M, Arakawa Y, Mineharu Y, Sugita Y, Yoshioka T, Araki A, Sato Y, Takeshima H, Okada M, Nishi A, Yamazaki T, Kohashi K, Oda Y, Hirato J, Yokoo H: CNS high-grade neuroepithelial tumor with BCOR internal tandem duplication: a comparison with its counterparts in the kidney and soft tissue. Brain Pathol 2018; 28(5):710-720

5. Osumi T, Tsujimoto SI, Nakabayashi K, Taniguchi M, Shirai R, Yoshida M, Uchiyama T, Nagasawa J, Goyama S, Yoshioka T, Tomizawa D, Kurokawa M, Matsubara Y, Kiyokawa N, Matsumoto K, Hata K, Kato M: Somatic MECOM mosaicism in a patient with congenital bone marrow failure without a radial abnormality. Pediatr Blood Cancer 2018;65(6):e26959

6. Saitoh Y, Setoguchi T, Yoshioka T, Nishi J, Tanimoto A, Komiya S: Intraoperative evaluation of polymorphonuclear leukocyte during second-stage revision surgery promote overdiagnosis of persistent periprosthetic joint infection. Acta Orthop Traumatol Turc 2018;52(3):191-195

7. Kobayashi K, Yoshioka T, Miyauchi J, Nakazawa A, Kiyokawa N, Maihara T, Usami I: Role of monocyte chemoattractant protein-1 in liver fibrosis with transient myeloproliferative disorder in down syndrome. Hepatol Commun 2018;2(3):230-236

8. Stephanie M, Irie R, Sasaki K, Hirata Y, Narumoto S, Fukuda A, Sakamoto S, Arai K, Yoshioka T, Kasahara M: Histological changes of the intestinal mucosa in complications following a living donor liver transplantation for progressive familial intrahepatic cholestasis type 1. Pathol Int 2018;68(9):536-537

9. Onishi S, Kaji T, Yamada W, Nakame K, Machigashira S, Kawano M, Yano K, Harumatsu T, Yamada K, Masuya R, Kawano T, Mukai M, Hamada T, Souda M, Yoshioka T, Tanimoto A, Ieiri S: Ghrelin stimulates intestinal adaptation following massive small bowel resection in parenterally fed rats. Peptides 2018;106:59-67

10. Ueno-Yokohata H, Okita H, Nakasato K, Hishiki T, Shirai R, Tsujimoto S, Osumi T, Yoshimura S, Yamada Y, Shioda Y, Kiyotani C, Terashima K, Miyazaki O, Matsumoto K, Kiyokawa N, Yoshioka T, Kato M: Preoperative diagnosis of clear cell sarcoma of the kidney by detection of BCOR internal tandem duplication in circulating tumor DNA. Genes Chromosomes Cancer 2018;57(10):525-529

11. Watanabe T, Ohno M, Tahara K, Tomonaga K, Fuchimoto Y, Fujino A, Hishiki T, Tsukamoto K, Ito Y, Sugibayashi R, Wada S, Sago H, Higuchi M, Kawasaki K, Yoshioka

T, Kanamori Y: An investigation on clinical differences between congenital pulmonary airway malformation and bronchial atresia. J Pediatr Surg 2018;53(12):2390-2393

12. Fuchimoto Y, Watanabe T, Fujino A, Kanamori Y, Itoh Y, Wada S, Sago H, Yoshioka T: Predictors of early lobectomy after birth in prenatally diagnosed congenital pulmonary airway malformation. J Pediatr Surg 2018;53(12):2386-2389

13. Fuchimoto Y, Watanabe T, Fujino A, Kanamori Y, Itoh Y, Wada S, Sago H, Yoshioka T: Predictors of early lobectomy after birth in prenatally diagnosed congenital pulmonary airway malformation. J Pediatr Surg 2018;53(12):2386-2389

14. Onishi S, Kaji T, Machigashira S, Yamada W, Masuya R, Nakame K, Kawano M, Yano K, Yamada K, Kawano T, Mukai M, Yoshioka T, Tanimoto A, Ieiri S: The effect of intravenous lipid emulsions and mucosal adaptation following massive bowel resection. J Pediatr Surg 2018;53(12):2444-2448

15. Ide K, Mitsui K, Irie R, Matsushita Y, Ijichi N, Toyodome S, Kosai KI: A Novel Construction of Lentiviral Vectors for Eliminating Tumorigenic Cells from Pluripotent Stem Cells. Stem Cells 2018;36(2):230-239

16. Okata-Karigane U, Tanese K, Watanabe-Okada E, Irie R, Sugiura H, Miura K, Miyakawa S: Atypisches Fibroxanthom mit auffälligem CD8-positiven lymphozytären Infiltrat und diffuser Expression des epithelialen Membranantigens. J Dtsch Dermatol Ges 2018;16(3):330-332

17. Teratani T, Tomita K, Suzuki T, Furuhashi H, Irie R, Nishikawa M, Yamamoto J, Hibi T, Miura S, Minamino T, Oike Y, Hokari R, Kanai T: Aortic carboxypeptidase-like protein, a WNT ligand, exacerbates nonalcoholic steatohepatitis. J Clin Invest 2018;128(4):1581-1596

18. Kitajima T, Sakamoto S, Sasaki K, Narumoto S, Kazemi K, Hirata Y, Fukuda A, Imai R, Miyazaki O, Irie R, Teramukai S, Uemoto S, Kasahara M: Impact of graft thickness reduction of left lateral segment on outcomes following pediatric living donor liver transplantation. Am J Transplant 2018;18(9):2208-2219

19. Uchida H, Sakamoto S, Sasaki K, Takeda M, Hirata Y, Fukuda A, Hishiki T, Irie R, Nakazawa A, Miyazaki O, Nosaka S, Kasahara M: Surgical treatment strategy for advanced hepatoblastoma: Resection versus transplantation. Pediatr Blood Cancer 2018;65(12):e27383

20. Owada Y, Tamura T, Tanoi T, Ozawa Y, Shimizu Y, Hisakura K, Matsuzaka T, Shimano H, Nakano N, Sakashita S, Matsukawa T, Isoda H, Ohkohchi N: Novel non-alcoholic steatohepatitis model with histopathological and insulin-resistant features. Pathol Int 2018; 68(1):12-22

21. Dai T, Dai Y, Murata Y, Husni RE, Nakano N, Sakashita S, Noguchi M: The prognostic significance of N-myc downregulated gene 1 in lung adenocarcinoma. Pathol Int 2018;68(4):224-231

22. Matsuoka R, Shiba-Ishii A, Nakano N, Togayachi A, Sakashita S, Sato Y, Minami Y, Noguchi M: Heterotopic production of ceruloplasmin by lung adenocarcinoma is significantly correlated with prognosis. Lung Cancer 2018;118:97-104

23. Kim Y, Shiba-Ishii A, Nakagawa T, Iemura SI, Natsume T, Nakano N, Matsuoka R, Sakashita S, Lee S, Kawaguchi A, Sato Y, Noguchi M: Stratifin regulates stabilization of

receptor tyrosine kinases via interaction with ubiquitin-specific protease 8 in lung adenocarcinoma. Oncogene 2018;37(40):5387-5402

24. Sakashita M, Sakashita S, Murata Y, Shiba-Ishii A, Kim Y, Matsuoka R, Nakano N, Sato Y, Noguchi M: High expression of ovarian cancer immunoreactive antigen domain containing 2 (OCIAD2) is associated with poor prognosis in lung adenocarcinoma. Pathol Int 2018;68(11):596-604

25. Koshinaga T, Takimoto T, Oue T, Okita H, Tanaka Y, Nozaki M, Tsuchiya K, Inoue E, Haruta M, Kaneko Y, Fukuzawa M: Outcome of renal tumors registered in Japan Wilms Tumor Study-2 (JWiTS-2): A report from the Japan Children's Cancer Group (JCCG). Pediatr Blood Cancer 2018;65(7):e27056

26. Shimizu T, Fuchimoto Y, Okita H, Fukuda K, Kitagawa Y, Ueno S, Kuroda T: A curative treatment strategy using tumor debulking surgery combined with immune checkpoint inhibitors for advanced pediatric solid tumors: An in vivo study using a murine model of osteosarcoma. J Pediatr Surg 2018;53(12):2460-2464

27. 大野通暢, 金森豊, 渡邉稔彦, 田原和典, 藤野明浩, 義岡孝子: 先天性体表瘻孔のすべて 類皮嚢胞を診断されていた先天性頸部瘻孔の症例と新しい概念について. 小児外科 2018;50(2):153-158

28. 中嶋萌, 新関寛徳, 前川貴伸, 吉田和恵, 田中諒, 小森学, 義岡孝子, 下村裕, 林良太, 窪田満, 石黒精: 難治性の鼻腔内痂皮が診断の一助となった Ectodysplasin A 遺伝子変異・低汗性外胚葉形成不全の乳児例. 外来小児科 2018;21(1):72-75

29. 亀井宏一, 稲垣秀人, 森崇寧, 藤丸拓也, 蘇原映誠, 濱崎祐子, 宍戸清一郎, 義岡孝子, 緒方謙太郎, 岡田麻理, 小椋雅夫, 佐藤舞, 倉橋浩樹, 石倉健司: PKD1 の複合ヘテロ接合体変異を示し ARPKD と類似した臨床像を呈した男児例. 日本小児腎不全学会雑誌 2018;38:152-155

30. あべ松貴成, 岡本康裕, 中川俊輔, 倉内宏一郎, 児玉祐一, 西川拓朗, 田邊貴幸, 新小田雄一, 畠中美帆, 義岡孝子, 河野嘉文: 早期の想定が功を奏した急性骨髄性白血病の骨髄移植後に発症した播種性皮膚ムコール感染症例(Early suspicion of disseminated cutaneous mucormycosis leading to successful treatment after bone marrow transplantation in a patient with acute myeloid leukemia)(英語). 日本小児血液・がん学会雑誌 2018;55(3): 298-303

31. 馬場徳朗, 川野孝文, 池江隆正, 大西峻, 中目和彦, 向井基, 加治建, 義岡孝子, 野口啓幸, 家入里志: 限局性十二指腸拡張症の 1 例. 日本小児外科学会雑誌 2018;54(6): 1231-1235

32. 赤石奈保美, 大槻友紀, 渡邊京子, 中山哲成, 中野雅之: 尋常性天疱瘡の経過中に尿路マラコプラキアを発症した 1 例. 日本皮膚免疫アレルギー学会雑誌 2018;1(3):195-199

[症例報告]

1. 寺島慶太, 吉村聡, 木村由衣, 清谷知賀子, 洪碩佑, 広川大輔, 宇佐美憲一, 青木英和, 堤 義之, 藤浩, 入江理恵, 義岡孝子, 松本公一, 荻原英樹: BRAF V600E 変異を有する小児グリオーマの 2 例 分子標的治療の可能性. 小児の脳神経 2018;43(2):260

2. 西 健太朗(国立成育医療研究センター 腎臓リウマチ膠原病科), 小椋 雅夫, 石和 翔, 加納 優治, 才田 謙, 奥津 美夏, 松村 壮史, 佐藤 舞, 佐古 まゆみ, 亀井 宏一, 長田 道夫, 義岡

孝子, 緒方 謙太郎, 石倉 健司: 血栓性微小血管障害(TMA)を合併したステロイド抵抗性ネフローゼ症候群の 1 歳男児例. 日本小児腎臓病学会雑誌 2018;31(2)号 182-183

3. 柴原一陽, 檀充, 宮坂和弘, 佐藤澄人, 秀拓一郎, 義岡孝子, 平戸純子, 中野嘉子, 市村幸一, 隈部俊宏: 中脳 Rosette-forming glioneuronal tumor の 2 例と臨床的及び分子病理学的解析. Brain Tumor Pathology 2018;35(Suppl):169

4. 徳安成郎, 高野周一, 清水法男, 渡邉淨司, 網崎正孝, 森本昌樹, 内仲英, 柳生拓輝, 坂本 照尚, 本城総一郎, 蘆田啓吾, 齊藤博昭, 義岡孝子, 藤原義之: 小児胃平滑筋肉腫術後の肝転移にて長期生存した 1 例. 日本臨床外科学会雑誌 2018;79(増刊):810

[総説]

1. 笠原群生, 阪本靖介, 福田晃也, 藤野明浩, 金森豊, 菱木知郎, 堀川玲子, 野坂俊介, 宮入烈, 鈴木康之, 中川聡, 西村奈穂, 植松悟子, 小野博, 今留謙一, 入江理恵, 義岡孝子, 石黒精, 松本 公一, 李小康, 絵野沢伸, 深見真紀, 阿久津英憲, 斎藤博久, 梅澤明弘, 石川洋一, 松谷弘子, 松原洋一, 斉藤和幸, 賀藤均, 五十嵐隆: 国立成育医療研究センターにおける小児肝移植医療. 医療 2018;72(3):99-104

[国際学会発表]

1. Uchida H, Sakamoto S, Fukuda A, Hishiki T, Nosaka S, Yoshioka T, Matsumoto K, Kasahara M: Surgical Treatment Strategy for Advanced Heaptoblastoma: Resection VS. Transplantation.
50th Congress of the International Society of Paediatric Oncology(SIOP), 京都, 2018.11.16

2. Ohno M, Hishiki T, Tomonaga K, Tahara K, Watanabe T, Fujino A, Kanamori Y, Matsumoto K, Kasahara M, Yoshioka T: EIGHT SURGERY CASES FOR PULMONARY METASTASIS OF HEPATOBLASTOMA. 50th Congress of the International Society of Paediatric Oncology(SIOP), 京都, 2018.11.16

3. Matsumoto K, Tajiri T, Tnaka Y, Yoneda A, Yoshioka T, Kuroda T:Meet the Exparts 6 Embryonal Tumors. 50th Congress of the International Society of Paediatric Oncology(SIOP), 京都, 2018.11.17

[国内学会発表]

1. 義岡孝子: 小児がんにおける多施設共同臨床研究への病理医の関りと問題点. 第 107 回日本病理学会総会, 北海道, 2018.6.21

2. 入江理恵: 小児生体肝移植においてドナー肝の脂肪変性が予後に与える影響. 第 107 回日本病理学会総会, 北海道, 2018.6.21

3. 佐々木健吾, 福田晃也, 武田昌寛, 内田孟, 平田義弘, 阪本靖介, 入江恵理, 義岡孝子, 全 陽, 岩間達, 乾あやの, 藤澤知雄, 笠原群生: PSC(2)doublecortin domain-containing 2(DCDC2) 遺伝子異常を検出した neonatal sclerosing cholangitis の 1 例. 第 35 回日本小児肝臓研究会, 宮城, 2018.7.14

4. 入江理恵, 中澤温子, 武田昌寛, 佐々木健吾, 内田孟, 平田義弘, 福田晃也, 阪本靖介, 義岡孝子, 笠原群生: 小児生体肝移植においてドナー肝の脂肪変性が予後に与える影響. 第 54 回日

本移植学会総会，東京，2018.10.3

5. Fumito Y, Atsuko N, Yoshiko N, Miki O, Takako Y, Motohiro K, Chitose O, Koichi I, Takehiko K, Tomoro H, Hitoshi I: 小児固形腫瘍 NGS パネルによる CTNNB1 部分欠失の検出. 第 60 回日本小児血液･がん学会学術集会, 京都, 2018.11.15

6. Yuji Y, Shota K, Ryota S, Tomoo O, Chikako K, Toshihiko W, Tomoro H, Masahiro S, Masafumi S, Junko T, Nobutaka K, Osamu M, Takako Y, Kimikazu M, Motohiro K: *DICER1* 複合ヘテロ接合体変異を認めた胸膜肺芽腫の姉弟例. 第 60 回日本小児血液･がん学会学術集会, 京都，2018.11.15

7. Kenichi S, Yoko S, Yoji U, Tomoo O, Keita T, Motohiro K, Daisuke Tomizawa, Chikako K, Naoko M, Kazue Y, Osamu M, Takako Y, Rie I, Yushi I, Kimikazu M: 皮疹を認めず胎児水腫と著明な肝脾朱腫で発症した新生児全身性若年性黄色肉芽腫の 1 例. 第 60 回日本小児血液･がん学会学術集会, 京都, 2018.11.14

8. 大喜多肇: 小児横紋筋肉腫の分子病理. 第 60 回日本小児血液･がん学会学術集会, 京都, 2018.11.14

9. Sato A, Seki M, ShiraishiY, Chiba K, Tanaka H, Okita H, Miyano S, Ogawa S, Hosoi H, Takita J: 胎児型横紋筋肉腫における FGFR4 経路の変異. 第 60 回日本小児血液･がん学会学術集会, 京都, 2018.11.16

10. Yamaashi K, Fukushima T, Tao K, Nakao T, Fukushima H, Suzuki R, Yamaki Y, Hosaka S, Nakano M, Sakashita S, Arakawa A, Ogawa C, Yoshida A,Mori T, Takada H: 三則性網膜芽細胞腫の診断後 13 年で多発骨腫瘍を発症した 1 例. 第 60 回日本小児血液･がん学会学術集会, 京都, 2018.11.15

[講演]

1. 義岡孝子: 小児腫瘍診療における病理の役割. 2018 年小児血液がん学会, 愛知, 2018.6.17

2. 義岡孝子: 遠隔医療を用いた小児がん分野での日露医療協力. 日露医学医療シンポジウム 2018, 新潟, 2018.11.10.

4-3-16 高度感染症診断部

[原著論文:査読付]

1. High frequencies of asymptomatic Epstein-Barr virus viremia in affected and unaffected individuals with CTLA4 mutations.
   Hoshino A., Tanita K., Kanda K., Imadome K., Shikama Y., Yasumi T., Imai K., Takagi M., Morio T., Kanegane H.
   Clin Immunol. 2018 Oct;195:45-48.
2. STAT3 is constitutively activated in chronic active Epstein-Barr virus infection and can be a therapeutic target.
   Onozawa E., Shibayama H., Takada H., Imadome K., Aoki S., Yoshinori M., Shimizu N., Fujiwara S., Koyama T., Miura O., Arai A.
   Oncotarget. 2018 Jul 24;9(57):31077-31089.
3. A prospective study of allogeneic transplantation from unrelated donors for chronic granulomatous disease with target busulfan-based reduced-intensity conditioning.
   Osumi T., Tomizawa D., Kawai T., Sako M., Inoue E., Takimoto T., Tamura E., Uchiyama T., Imadome K., Taniguchi M., Shirai R., Yoshida M., Ando R., Tsumura Y., Fuji H., Matsumoto K., Shioda Y., Kiyotani C., Terashima K., Onodera M., Matsumoto K., Kato M.
   Bone Marrow Transplant. 2018 Jun 29.
4. Role of exosomes as a proinflammatory mediator in the development of EBV-associated lymphoma.
   Imadome K.*, Higuchi H.*, Yamakawa N.*, Yahata T., Kotaki R., Ogata J., Kakizaki M., Fujita K., Lu J., Yokoyama K., Okuyama K., Sato A., Takamatsu M., Kurosaki N., Alba SM., Azhim A., Horie R., Watanabe T., Kitamura T., Ando K., Kashiwagi T., Matsui T., Okamoto A., Handa H., Kuroda M., Nakamura N., Kotani A. (* ***contributed equally to this work***)
   Blood. 2018 Jun 7;131(23):2552-2567.
5. Successful treatment of systemic EBV positive T-cell lymphoma of childhood using the SMILE regimen.

   Yoshida M., Osumi T., Imadome K., Tomizawa D., Kato M., Miyazawa N., Ito R., Nakazawa A., Matsumoto K.

   Pediatr Hematol Oncol. 2018 Apr 12:1-4.

6. Dual Threat of Epstein-Barr Virus: an Autopsy Case Report of HIV-Positive Plasmablastic Lymphoma Complicating EBV-Associated Hemophagocytic Lymphohistiocytosis.
   Koizumi Y., Imadome K., Ota Y., Minamiguchi H., Kodama Y., Watanabe D., Mikano H., Uehira T., Okada S., Shirasaka T.
   J Clin Immunol. 2018 Apr 23.
7. Chronic active Epstei -Barr virus infection with cutaneous lymphoproliferation: hemophagocytosis in the skin and hemophagocytic syndrome.
   Tokoro S., Namiki T., Miura K., Watanabe K., Arai A., Imadome K., Yokozeki H.
   J Eur Acad Dermatol Venereol. 2018 Mar;32(3):e116-e117.
8. Epstein-Barr Virus (EBV) –induced B-cell Lymphoproliferative Disorder Mimickimg the Recurrence of EBV-associated Hemophagocytic Lymphohistiocytosis.

   Yatsushiro Y., Nishikawa T., Saito A., Nakazawa Y., Imadome K., Nakagawa S., Kodama Y., Okamoto Y., Kanegane H., Kawano Y.

   J Pediatr Hematol Oncol. 2018 Jan 10.

[症例報告]

1. Quantitative PCR Assay of Cytomegalovirus and Epstein-Barr Virus in Hemophagocytic Lymphohistiocytosis.
   Okazaki K., Imadome K., Nakao H., Miyairi I., Ishiguro A.
   Indian J Pediatr. 2018 Jul;85(7):593-594.
2. Three Severe Cases of Viral Infections with Post-Kidney Transplantation Successfully Confirmed by Polymerase Chain Reaction and Flow Cytometry.

   Nakanishi K., Kaito H., Ogi M., Takai D., Fujimura J., Horinouchi T., Yamamura T., Minamikawa S., Ninchoji T., Nozu K., Imadome K., Iijima K.

   Case Rep Nephrol Dial. 2018 Sep 25;8(3):198-206.

[和文]
1. Cerebrospinal fluid findings in chronic active Epstein-Barr virus infection with central nervous system involvement.
   Yoshimori M., **Imadome K.**, Tomii S., Yamamoto K., Miura O., Arai A.
   Rinsho Ketsueki. 2018;59(4):367-372

[総説]
1. あらためて見直す RS ウイルス感染症「RS ウイルス感染症の診断」
   本村良知、大賀正一、今留謙一 ***小児科*** 2018 年 4 月号(59 巻 04 号) 金原出版
2. ヘルペスウイルス感染症の最新の知見「慢性活動性 EB ウイルス感染症」
   石村匡崇、今留謙一、大賀正一 ***臨床と研究*** 2018 年 4 月号(95 巻 04 号) 大道学館出版

[招聘講演]
1.「ヒト化マウスを用いた EB ウイルス疾患モデルマウス作製と病態発現解析
   ～限界とこれから～」
   東京医科歯科大学小児科 Monday-Seminar 2018.2.26 (東京 招聘講演)
2.「EBV-T/NK-LPD の診断と病態把握」
   下野 Hematology Seminar 2018 2018.3.29 (栃木 招聘講演)
3.「EBV の臨床(診断と治療)と基礎研究について」
   第 13 回京都地区小児血液腫瘍研究会 2018.7.28 (京都 招聘講演)
4.「重症 EBV 関連疾患の病態把握と診断」
   第 23 回神奈川小児血液・感染症フォーラム」 2018.8.31 (神奈川 招聘講演)
5.「移植後日和見感染症関連ウイルスへの対応と診断および治療
   ～PTLD 発症阻止に向けて～」
   第 37 回日本心臓移植研究会 2018.10.13 (東京 ランチョンセミナー招聘講演)
6.「ヘルペスウイルス感染症～重症化とその要因～」
   第 50 回日本小児感染症学会・第 9 回 ACPID 2018.11.11 (福岡 招聘講演)
7.「慢性活動性 EBV 感染症(CAEBV)の診断と病態把握」
   第 9 回 CAEBV 患者会 SHAKE 2018.11.18 (東京 招聘講演)
8.「移植後日和見感染症関連ウイルス制御のための診断と病態把握」
   第 9 回あきた免疫・移植・感染症研究会 2018.12.6 (秋田 招聘講演)

4-3-18 医療連携・患者支援センター

[原著論文:査読付](Reviewed Paper)
該当なし

[原著論文:査読なし]
該当なし

[症例報告]
該当なし

[総説]
1. 中村知夫: 小児在宅医療の現状と展望 はじめに. 医学のあゆみ 2018 ; 266(3):189
2. 中村知夫: 病院小児科における退院時の支援. 小児内科 2018 ; 50(11):1782-1789
3. 中村知夫: 医療的ケア児に対する地域の動向と支援体制. 小児歯科臨床 2018 ; 23(6):6-12

[著書]
該当なし

[ガイドライン、報告書、その他]
1. 田村正徳, 中尾正俊, 中村知夫, 野田正治, 福岡寿, 前田浩利, 峯眞人, 柳原俊雄, 山田雅子, 渡辺志伸:小児の在宅医療を行う医療機関確保のために 基幹病院(高次機能病院や小児専門病院)や地域中核病院の役割. 平成28・29年度 小児在宅ケア検討委員会報告書 日本医師会小児在宅ケア検討委員会, 2018;11-16

[学会発表]
1. 中村知夫, 長濱由美,窪田満、野坂俊介: 医療的ケア児者への支援人材養成と連携を目的とした講習会開催の取り組み. 第121回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2017.4.20
2. 中村知夫: 在宅医療に求められる周産期にかかわる医師の役割. 第32回日本小児ストーマ・排泄・創傷管理研究会 シンポジウム, 東京, 2018.6.30
3. 中村知夫: 在宅医療に求められる周産期にかかわる医師の役割. 第54回日本周産期・新生児医学会学術集会, 東京, 2018.7.8
4. 中村知夫, 小沼徳恵: 病院組織としての小児在宅支援・連携構築の取り組みから見えた院内多職種連携の重要性と課題. 第8回日本小児在宅医療支援研究会. 兵庫, 2018.9.29

[講演]
1. 中村知夫: 小児在宅医療を通じて同職種間、多職種間連携を考える. 板橋区医師会 第17回在宅療養ネットワーク懇話会, 東京, 2018.2.9
2. 中村知夫: 中核病院から地域の小児在宅医療体制を構築する. 平成29年度新潟県小児在宅医療講演会基調講演, 新潟, 2018.3.2
3. 中村知夫: 小児在宅医療総論, 東京在宅医療塾 第7回小児在宅医療. 東京, 2018.3.10
4. 中村知夫: 小児在宅ケアの地域連携の実際, 平成30年度小児在宅研修会. 愛知, 2018.10.6
5. 中村知夫: 地域共生社会における小児在宅医療の意義. 玉川医師会学術集会,東京, 2018.11.14

4-3-19 教育研修センター

[原著論文:査読付]

Omae T, Yotani N, Sakashita A, Kizawa Y: Number of unused medications at the time of last admission: A prospective observational study in asingle palliative care unit. Am J Hosp Palliat Care 2018 Dec;35(12):1498-1504.

Uehara E, Nagata C, Masuda H, Fujimori K, Kobayashi S, Kubota M, Ishiguro A: Risk factors of long hospital stay for immunoglobulin A vasculitis: Single-center study. Pediatr Int 2018 Oct;60(10):918-922.

Yotani N, Kizawa Y: Specialist palliative care service for children with life-threatening conditions: A nationwide survey of availability and utilization. J Pain Symptom Manage 2018 Oct;56 (4):582-587.

Maekawa T, Ohya Y, Mikami M, Uematsu S, Ishiguro A: Clinical utility of the modified Pulmonary Index Score as an objective assessment tool for acute asthma exacerbation in children. JMA Journal 2018 Sept; 1(1): 57-66.

Toki T, Yoshida K, Wang R, Nakamura S, Maekawa T, Goi K, Katoh M, Mizuno S, Sugiyama F, Kanezaki R, Uechi T, Nakajima Y, Sato Y, Okuno Y, Sato-Otsubo A, Shiozawa Y, Kataoka K, Shiraishi Y, Sanada M, Chiba K, Tanaka H, Terui K, Sato T, Kamio T, Sakaguchi H, Ohga S, Kuramitsu M, Hamaguchi I, Ohara A, Kanno H, Miyano S, Kojima S, Ishiguro A, Sugita K, Kenmochi N, Takahashi S, Eto K, Ogawa S, Ito E: De novo mutations activating germline TP53 in an inherited bone marrow failure syndrome. Am J Hum Genet 2018 Sept 6;103:440-447.

Murofushi Y, Furuichi M, Shoji K, Kubota M, Ishiguro A, Uematsu S, Gai R, Miyairi I: Adverse clinical and economic impacts associated with blood culture contamination in a pediatric emergency department. Pediatr Infect Dis J 2018 Aug;37(8):755-758.

Tsuboi N, Abe M, Matsumoto S, Nishimura N, Nakagawa S: The effect of clinical experience on the learning curve of pediatric intensive care unit residents for the central venous catheter placement procedure. J Pediatr Intensive Care 2018 Mar; 7:39-42.

Ohshimo S, Shime N, Nakagawa S, Nishida O, Takeda S, Committee of the Japan ECMO project: Comparison of extracorporeal membrane oxygenation outcome for influenza-associated acute respiratory failure in Japan between 2009 and 2016. J Intensive Care 2018 July;6:38.

Fukuhara Y, Fuji N, Yamazaki N, Hirakiyama A, Kamioka T, Seo JH, Mashima R, Kosuga M, Okuyama T, Joo-Hyun Seo: A molecular analysis of the GAA gene and clinical spectrum in 38 patients with Pompe disease in Japan. Mol Genet Metab Rep 2017 Oct 31;14:3-9.

Yoshida M, Oana S, Masuda H, Ishiguro A, Kato H, Ito S, Kobayashi T, Abe J: Recurrence of fever after initial intravenous immunoglobulin treatment in children with Kawasaki disease. Clin Pediatr 2018 Feb;57(2):189-192.

Nishida O, Ogura H, Egi M, Fujishima S, Hayashi Y, Iba T, Imaizumi H, Inoue S, Kakihana Y, Kotani J, Kushimoto S, Masuda Y, Matsuda N, Matsushima A, Nakada T, Nakagawa S, et al: The Japanese clinical practice guidelines for management of sepsis and septic shock 2016 (J-SSCG 2016). Acute Med Surg 2018 Feb;5(1):3-89.

Nishida O, Ogura H, Egi M, Fujishima S, Hayashi Y, Iba T, Imaizumi H, Inoue S, Kakihana Y, Kotani J, Kushimoto S, Masuda Y, Matsuda N, Matsushima A, Nakada T, Nakagawa S, et al: The Japanese clinical practice guidelines for management of sepsis and septic shock 2016 (J-SSCG 2016). J Intensive Care 2018 Feb;6:7.

Tsuboi N, Abe M, Matsumoto S, Nishimura N, Nakagawa S: The effect of clinical experience on the learning curve of pediatric intensive care unit residents for the central venous catheter placement procedure. J Pediatr Intensive Care 2018;7:39-42.

小谷晋平, 庄司健介, 福田晃也, 阪本靖介, 笠原群生, 宮入烈: 肝移植前後の小児 Campylobacter 感染症の特徴. 移植 2018;53(4-5):289-292.

水野貴基, 和田友香, 守本倫子: 基礎疾患を有する新生児・乳児への経鼻エアウェイ使用に関する検討. 小児耳鼻咽喉科 2018;39(3):333-338.

谷山禎彦, 前川貴伸, 窪田 満, 福原康之, 奥山虎之, 宮嵜 治, 石黒 精, 中舘尚也: 骨単純 X 線写真が診断に有用であった大理石骨病の 5 症例. 小児科診療 2018;81(7):941-945.

三浦真理子, 村本美香, 益田博司, 小﨑里華, 伊藤裕司, 鏡雅代, 和田友香: Prader-Willi 症候群との鑑別が困難であった Temple 症候群の新生児例. 小児科臨床 2018; 71(6):1121-1126.
川上沙織, 庄司健介, 石黒 精, 宮入烈: 小児専門医療施設における早発型・遅発型大腸菌菌血症の特徴. 日児誌 2018;122(4):748-753.
鈴木大地, 庄司健介, 小山(若井)ちとせ, 宮田一平, 岩瀬徳康, 宮入烈: 日齢 90 未満のヘルペス脳炎疑い症例に対する院内 real-time PCR 測定の有用性. 小児感染免疫 2018;30 (1):3-9.

[症例報告:査読付]

1. Tetsuhara K, Tsuji S, Uematsu S, Kamei K: Pulmonary embolism mimicking infectious pleuritis. Pediatr Emerg Care 2018 Nov;34(11):e201-e203.
2. Yoshii S, Uda K, Miyairi I, Nakao H, Kono N, Kubota M, Ishiguro A: ultiple bullae associated with human parvovirus B19. Pediatr 018 Nov;202.327-327.e1.
3. Okazaki K, Imadome KI, Nakao H, Miyairi I, Ishiguro A: uantitative PCR assays of cytomegalovirus and Epstein-Barr virus are valuable for treating hemophagocytic lymphohistiocytosis. Indian J Pediatr 2018 Jul;85(7):593-594.
4. Takeuchi I, Ito T, Ito Y, Uematsu S, Misato M, Oono M, Tsuji S, Sakai H: Effective use of computed tomography for detection of press-through-package sheet ingestion in a pediatric patient. Pediatr Emerg Care 2018 May;34(5):e82-e84.
5. Uehara E, Nakao H, Tamura Y, Nakadate H, Amari S, Fujinaga H, Tsutsumi Y, Kang D, Ohga S, Ishiguro A: Slow elevation in protein C activity without a PROC mutation in a neonate with intracranial hemorrhage. AJP Rep 2018 Apr;8(2):e68–e70.
6. Yasuda M, Tetsuhara K, Tsuji S: Point-of-care ultrasound in two neonates with congenital chylothorax and respiratory failure. J Pediatr Surg Case Rep 2018;34:17-19
7. Ichimiya Y, Wada Y, Kunishima S, Tsukamoto K, Kosaki R, Sago H, Ishiguro A, Ito Y: 11q23 deletion syndrome (Jacobsen syndrome) with severe bleeding: a case report. J Med Case Rep 2018 Jan 8;12(1):3
8. Nishi K, Kawai T, Kubota M, Ishiguro A, Onodera M: X-linked agammaglobulinemia complicated with pulmonary aspergillosis. Pediatr Int 2018 Jan;60(1):90-92.
9. 多門裕貴, 小枝達也: 急激退行と誤診された統合失調症のダウン症候群 11 歳女児例. 発達障害研究 2018.11;40(3).
10. 成相諒子, 亀井宏一, 余谷暢之, 加納優治, 小椋雅夫, 久保田雅也, 塩田曜子, 田中恭子, 前田浩利, 木須彩, 栃谷治子, 鈴木彩, 石黒 精, 石倉健司: 生体腎移植後末期腎不全に腎代替療法を行えなかった結節性硬化症の 1 例. 日小児腎不全会誌 2018;38:242-244
11. 朝倉真理, 前川貴伸, 大野通暢, 野坂俊介, 野村伊知郎, 金森 豊, 宮嵜 治, 石黒 精: 胆汁性嘔吐の軽快・増悪を繰り返し, 診断に複数回の画像検査を要した腸回転異常の一例. 小児科臨床 2018:71(9):1545-1550
12. 竹澤芳樹, 中村知夫, 守本倫子, 清谷知賀子, 窪田 満, 石黒 精: スパイロメトリーが声帯開大障害による上気道狭窄合併の診断に有用だった脳幹部低悪性度グリオーマの 1 例. 小児科臨床 2018;71(8):1415-1419.
13. 村上瑛梨, 中尾 寛, 加久翔太朗, 西村奈穂, 中川 聡, 窪田 満, 石黒 精: 高血圧が遷延したⅢ度熱中症の学童例. 日児誌 2018;122(5):915-921.
14. 中村早希, 田中雄一郎, 窪田 満: 研修医のためのクリニカルクイズ, 症例 : 1 歳 2 か月男児, 主訴 : 発熱, けいれん. 小児内科 2018;50(4):437-449.
15. 生駒尚子, 中尾 寛, 奥山眞紀子, 窪田 満, 石黒 精: 筋緊張低下を主訴としたネグレクトの一例. 小児内科 2018;50(3):425-428.
16. 関戸雄貴, 甘利昭一郎, 藤野修平, 和田友香, 小野 博, 伊藤 裕司: 胎児期から特徴的な病変の変化を示した肥大型心筋症の一例. 日新生児成育医会誌 2018;54(1): 234-238.
17. 中嶋 萌, 新関寛徳, 前川貴伸, 吉田和恵, 田中諒, 小森学, 義岡孝子, 下村裕, 林良太, 窪田 満, 石黒精: 難治性の鼻腔内痂皮が診断の一助となった Ectodysplasin A 遺伝子変異・低汗性外胚葉形成不全の乳児例. 外来小児科 2018;21(1):72-75.
18. 國上千紘, 田中雄一郎, 窪田 満: 研修医のためのクリニカルクイズ, 症例 : 5 歳 女児, 主訴 : 吐血. 小児内科 2018;50(3):293-295.

19. 池乗愛依，田中雄一郎，窪田 満： 研修医のためのクリニカルクイズ，症例：5 か月 女児，主訴：発熱，頸部リンパ節腫脹． 小児内科 2018;50(2):157-159.
20. 福政宏司，辻 聡，中川 聡： 小児救急外来での high flow nasal cannula の使用経験． 日救急医会誌 2018;29:18-24
21. 野沢 永貴，加藤 元博，大隅 朋生，谷口 真紀，石黒 精，富澤 大輔，松本 公一： 寛解導入療法中の骨髄抑制にプロプラノロールによる薬剤性汎血球減少症を合併した小児急性リンパ性白血病の一例． 日本小児血液・がん学会雑誌 2018;55(1):15-18.

[総説]

1. 落合正行，石村匡崇，市山正子，石黒 精，大賀正一： 新生児・小児の血栓症．(特集)血栓・塞栓症－診断・治療・予防の最新動向－． 日本臨床 2018;76(9):1681-1686.
2. 余谷暢之： 痛みの客観的評価． 小児内科 2018;50(7):1042-46
3. 井手健太郎，西村奈穂，中川 聡，笠原群生： 小児急性肝不全に対するアフェレシス．日本アフェレシス学会雑誌 2018;37:139-145.
4. 笠原群生，阪本靖介，福田晃也，藤野明浩，金森 豊，菱木知郎，堀川玲子，野坂俊介，宮入 烈，鈴木康之，中川 聡，西村奈緒，植松悟子，小野 博，今留謙一，入江理恵，義岡孝子，石黒 精，松本公一，梨井康，絵野沢伸，深見真紀，阿久津英憲，齊藤博久，梅澤明弘，松原洋一，斉藤和幸，賀藤均，五十嵐隆： 国立成育医療研究センターにおける小児肝移植医療． 医療 2018;72(3):99-104.
5. 余谷暢之： 緩和医療の視点から見た小児在宅医療． 医学のあゆみ 2018;266(3):219-224

[著書]

1. 鉄原健一： 肺炎の診断と身体診察． 小児科診療 No.11， 診断と治療社， 2018;1464-1468.
2. 中川 聡： 小児の急性呼吸窮迫症候群の特徴．In 日本集中治療研究会編， 小児救命救急・ICU ピックアップ②「ARDS」， メディカル・サイエンス・インターナショナル， 2018;123-127.
3. 鉄原健一： PALS．鉄原健一(編集)，レジデントノート増刊 Vol.19 No.17 小児救急の基本「子どもは苦手」を克服しよう!， 羊土社，2018;103-111
4. 鉄原健一： バイタルサイン．鉄原健一(編集)，レジデントノート増刊 Vol.19 No.17 小児救急の基本「子どもは苦手」を克服しよう!，羊土社，2018;112-117

[ガイドライン、報告書、その他]

1. 中川 聡： 集中治療管理．In H7N9 小児治療指針作成委員会編集． 鳥インフルエンザ A(H7N9)ウイルス感染症小児治療指針， 2018.12.29.

[学会発表]

1. Shima M, Nogami K, Nagami S, Yoshida S, Yoneyama K, Ishiguro A, Suzuki T, Taki M: Every 2 weeks or Every 4 weeks subcutaneous injection of emicizumab in pediatric patients with severe hemophilia A without inhibitors: A multi-center, open-label study in Japan (HOHOEMI Study). 60th ASH Annual Meeting, San Diego, CA, 2018.12.2.
2. Yotani N, Kizawa Y: Specialist palliative care service for children with life-threatening conditions: A nationwide survey of availability and utilization. 50th Congress of the International Society of Paediatiric Oncology, Kyoto, 2018.11.18.
3. Nakagawa S: Tutorial. Advanced mechanical ventilation course, Coimbatore, India, 2018.11.15
4. Honda A, Nakao H, Shoji K, Miyairi I, Kubota M, Ishiguro A: A neonatal case of group B streptococcal ventriculitis without fever. The 9th Asian Congress of Pediatric Infectious Diseases, Fukuoka, 2018.11.11.
5. Yasukohchi M, Ogawa E, Miyazaki M, Kubota M, Ishiguro A, Miyairi I: MRI findings may not be noticeable at the early stage of small diarthrodial joint arthritis. The 9th Asian Congress of Pediatric Infectious Diseases, Fukuoka, 2018.11.11.
6. Uehara E, Shoji K, Ishiguro A, Miyairi I: Utility of follow-up blood cultures for gram negative rod bacteremia in children. The 9th Asian Congress of Pediatric Infectious Diseases, Fukuoka, 2018.11.11.

7. Nakagawa S: A Critical Care Journey. Critical Care Canada Forum, Toronto, ON, Canada, November 9, 2018.
8. Nakagawa S: HFOV and iNO. Advanced Pediatric Intensive Care Course, Hyderabad, India, October 22, 2018.
9. Nakagawa S: Pro Con Debate: Adrenaline vs. noradrenaline as a first line agent in septic shock: Noradrenaline. International Pediatric Critical Conference of India, Hyderabad, India, October 21, 2018.
10. Ishiguro A, Ohga S, Shima M, Suenobu S, Sakamoto S, Kasahara M: Proposal for a novel treatment strategy for children with inherited protein C deficiency: Liver transplantation. 14th Congress of the Asian Society for Pediatric Research, Manila, 2018.10.4.
11. Shimizu S, Ishiguro A, Nomura O, Michihata N, Kobayashi T, Igarashi T: Research during pediatric residency training: A nationwide in Japan. 14th Congress of the Asian Society for Pediatric Research, Manila, 2018.10.4
12. Nakagawa S: Panel Discussion: Fluids in Sepsis, Can We Drown it? 16th Asia Pacific Congress of Pediatrics, Nusa Dua, Bali, Indonesia, August 27, 2018.
13. Fujimori K, Kobayashi T, Masuda H, Ono H, Imadome K, Ishiguro A, Matsuda A, Abe J, Kato H: Serial Changes in Study Designs of Abstracts Presented at Meeting of the Japanese Society of Kawasaki Disease: A Systematic Review. The 12th International Kawasaki Disease Symposium, Yokohama, 2018.6.14.
14. Fukuda S, Nomura O, Ota E, Ono H, Ishiguro A, Kobayashi T: Monoclonal antibody therapy for Kawasaki disease: a systematic review and meta-analysis. The 12th International Kawasaki Disease Symposium, Yokohama, 2018.6.13.
15. Masuda H, Abe J, Ono H, Kobayashi T, Ishiguro A, Imadome K, Matsuda A, Ito S, Kato H: Effectiveness of Infliximab therapy in patients with intractable Kawasaki disease: an analysis using Z scoring system in Japan. The 12th International Kawasaki Disease Symposium, Yokohama, 2018.6.13.
16. Hashimoto R, Tanoshima R, Suzuki T, Ishiguro A, Kobayashi T: Systematic review of the effectiveness of antiplatelet therapy for Kawasaki disease. The 12th International Kawasaki Disease Symposium, Yokohama, 2018.6.13.
17. Nakagawa S: Needs Based Pedagogy Development. 9th Congress of World Federation of Pediatric Intensive and Critical Care Societies, Singapore, 2018.6.12.
18. Nakagawa S: Pro Con Debate: HFOV is no longer necessary when VV-ECMO is available. HFO is still needed. 9th Congress of World Federation of Pediatric Intensive and Critical Care Societies, Singapore, 2018.6.11.
19. Ichiyama M, Inoue H, Ochiai M, Ishimura M, Shiraishi A, Fujiyoshi J, Yamashita H, Sato K, Matsumoto S, Hotta T, Uchiumi T, Kang D, Nishikubo T, Ishiguro A, Ohga S: Diagnostic challenge of heritable protein C deficiency in the newborn infants. 2018 Pediatric Academic Societies Annual Meeting, Toronto, Canada, 2018.5.6.
20. 本多愛子, 中尾寛, 飯島弘之, 窪田 満, 石黒 精: 血糖コントロールに難渋した膠原病Ⅲ型の乳児例. 第 650 回日本小児科学会東京都地方会, 東京, 2018.12.8.
21. 余谷暢之, 鍋谷まこと, 飯島一誠, 船戸正久, 田村正徳: 新生児領域における終末期の治療の制限および話し合いの現状に関する全国調査. 第 63 回日本新生児成育医学会・学術集会, 東京, 2018.11.
22. 猪野木雄太, 安田 真人, 植松 悟子: 異物誤飲歴のなかった小腸異物で外科的治療を要した 4 例. 第 46 回日本救急医学会学術集会, 横浜市, 2018.11.21.
23. 中川 聡: 小児領域の敗血症対策. 第 46 回日本救急医学会学術集会, 横浜市, 2018.11.21.
24. 橋本梨沙, 益田博司, 西村菜穂, 小野 博, 今留謙一, 阿部 淳, 松田明生, 小林 徹, 窪田 満, 石黒 精: PICU 管理を要した川崎病症例. 第 38 回日本川崎病学会・学術集会, 和歌山, 2018.11.17.
25. 坂本 淳, 中舘尚也, 松本智子, 野上恵嗣, 石黒 精: 周術期の凝固波形解析により併用バイパス療法を評価したインヒビター陽性血友病例. 第 60 回小児血液がん学会学術集会, 京都, 2018.11.16.
26. Ishiguro A, Kunishima S, Sasahara Y, Platelet Disorders Committee of the Japanese

Society of Pediatric Hematology/Oncology: Establishment of diagnostic system, registry and sample banking in congenital thrombocytopenia. 第 60 回日本小児血液・がん学会, 京都, 2018.11.16.

27. Sasahara Y, Kunishima S, Imaizumi M, Takahashi Y, Ishiguro A, Platelet Committee: Recent advances in molecular pathogenesis and nationwide survey of inherited thrombocytopenia with small or normal-sized platelets. 第 60 回日本小児血液・がん学会, 京都, 2018.11.15.
28. 余谷暢之, 新城大輔, 伏見清秀, 松本公一: 小児がん患者に対する終末期積極的治療の実態. 第 60 回日本小児血液・がん学会学術集会, 京都, 2018.11.15.
29. Saito A, Kosaka Y, Hasegawa D, Ishimura M, Hyakuna N, Kudo K, Nagae C, Kawasaki H, Ishiguro A, Shima M, Taki M, Ohga S: The clinical utility of eculizumab therapy for childhood hematopoietic stem cell transplantation-associated aHUS in Japan. 第60回日本小児血液・がん学会, 京都, 2018.11.14.
30. Takezawa Y, Nakao H, Koyama C, Yoshimura S, Masuda H, Nakadate H, Miyairi I, Kubota M, Ishiguro A: The first case of paroxysmal cold hemoglobinuria with RSV infection in Japan. The 59th Annual Meeting of the Japanese Society of Pediatric Hematorogy and Oncology, Matsuyama, 2017.11.9.
31. 石黒 精: 先天性血小板減少症の診療・研究体制の変更について. 第 26 回小児 ITP 研究会, 京都, 2018.11.14.
32. 山﨑成敏, 福原康之, 徐じゅひょん, 石黒 精, 矢部普正, 奥山虎之, 小須賀基通: 早期に造血幹細胞移植を行い, 中枢神経の予後が良好であったムコ多糖症 I 型の姉妹例. 第 60 回日本先天代謝異常学会総会, 岐阜, 2018.11.9.
33. 池乗愛依, 窪田満, 鏡 雅代, 石黒 精, 梅田 陽: 精神運動発達遅滞を伴う糖尿病IX型で de novo の 14q32 重複を同定した一例. 第 60 回日本先天代謝異常学会総会, 岐阜, 2018.11.8.
34. 山﨑成敏, 福原康之, 開山麻美, 三浦 愛, 蘇 哲民, 伊藤玲子, 徐じゅひょん, 石黒 精, 小須賀基通, 奥山虎之, 福田晃也: 当センターで解析した Wilson 病 11 症例の臨床経過・遺伝子型の検討. 第 60 回日本先天代謝異常学会総会, 岐阜, 2018.11.8.
35. 金森啓太, 西健太朗, 石和 翔, 小椋雅夫, 石倉健司, 伊藤秀一: 急性心不全で発症した高安病脈炎の 12 歳女児例. 第 28 回小児リウマチ学会総会・学術集会, 東京, 2018.10.27.
36. 中川 聡: 先達が教えるこどもの呼吸. 第 26 回日本小児集中治療ワークショップ,京都市, 2018.10.14.
37. 福武勝幸, Pipe S, Jimenez-Yuste V, 石黒 精, 豊嶋崇徳, Shapiro A, Key N, Podolak-Dawidziak M, Hermans C, Peerlinck K, Lehle M, Chebon S, Portron A, Bienz NS, 永見早耶花, 大塚渉, 米山洸一郎, 葛西隆, Levy G, 嶋緑倫: Every 4 weeks (Q4W) emicizumab in persons with hemophilia A (PwHA): Results from HAVEN 4 study. 第 80 回日本血液学会学術集会, 大阪, 2018,10.13.
38. 鹿島健幹, 前川貴伸, 阿南揚子, 小川英輝, 宮坂美紀子, 窪田 満, 石黒 精: 頸椎骨髄炎を発症し,背景に全身性リンパ管以上(GLA)が疑われた 1 例. 第 649 回日本小児科学会東京都地方会, 東京, 2018.10.13.
39. 山﨑成敏, 福原康之, 佐藤奈保子, 井上毅信, 蘇哲民, Seo Joo-Hyun, 津島智子, 真島隆一, 吉田和恵, 小須賀基道, 石黒精 , 窪田満, 小崎里華, 奥山虎之: 末梢血アレイ CGH 検査でコピー数異常を検出した Palloster-Killian 症候群の男児. 第 63 回人類遺伝学会, 横浜, 2018.10.11.
40. 金森啓太, 河合利尚, 石川尊士, 田村英一郎, 内山 徹, 新井勝大, 石黒 精, 小野寺雅史: 胸腺腫大を伴った慢性肉芽腫症, 第 9 回関東甲越免疫不全症研究会, 東京, 2018.9.23.
41. 永井悠史, 中尾 寛, 窪田 満, 石黒 精: 無菌性髄膜炎による髄膜炎尿閉症候群の 1 例. 第 648 回日本小児科学会東京都地方会, 東京, 2018.9.8.
42. 池乗愛依, 余谷暢之, 小川英輝, 河野尚子, 宮入 烈, 三井真理, 小椋雅夫, 前川貴伸, 窪田満, 石黒 精: 小児の外陰部潰瘍-性的虐待の鑑別としての Lipschutz 潰瘍-. 第 28 回日本外来小児科学会年次集会, 東京, 2018.8.26.
43. 橋本梨沙, 余谷暢之, 庄司健介, 山口宗太, 生方公子, 宮入 烈, 水野貴基, 前川貴伸, 窪田

満, 石黒 精: ニューキノロン系薬耐性ムコイド型 A 群溶血性レンサ球菌による急性中耳炎・乳突蜂巣炎の 1 例. 第 28 回日本外来小児科学会年次集会, 東京, 2018.8.26.

44. 大賀正一, 市山正子, 落合正行, 石村 匡崇, 石黒 精, 末延 聡一, 西久保敏也, 高橋幸博, 嶋緑倫, 瀧 正志, 堀田多恵子, 内海健, 康 東天: 小児の遺伝性血栓性素因の特徴とその治療. 第 19 回日本検査血液学会学術集会, 大宮, 2018.7.21.
45. 小谷晋平, 中舘尚也, 阪下和美, 永井 章, 橋本玲奈, 吉田和恵, 新関寛徳, 義岡孝子, 窪田満, 石黒 精: 当科で経験した皮膚限局型肥満細胞症の 6 例. 第 647 回日本小児科学会東京都地方会, 東京, 2018.7.14.
46. 石黒 精, 阪本靖介, 福田晃也, 大賀正一, 康東天, 瀧正志, 長江千愛, 西村奈穂, 中舘尚也, 笠原群生: 生体肝移植後にドナー由来のアンチトロンビン欠乏症になった本邦第 1 例. 第 40 回日本血栓止血学会学術集会, 札幌, 2018.6.30.
47. 風間麻優子, 野坂俊介, 大西志麻, 辻 聡, 植松悟子, 藤野明浩, 金森 豊, 岡本礼子, 窪田 満, 石黒 精: Cornelia de Lange に併発した小児盲腸捻転の 3 例. 第 54 回日本小児放射線学会学術集会, 東京, 2018.6.16.
48. 余谷暢之: 日本における小児緩和ケアの現状. 第 23 回日本緩和医療学会学術集会シンポジウム 小児緩和ケアからのメッセージ～非がん疾患への関わりとこれからのありかたについて～, 神戸, 2018.6.16
49. 甘利昭一郎, 塚本桂子, 石黒 精: 出生時から遷延する貧血と血小板減少症とを合併した Aicardi-Goutires 症候群 7 型の最重症例. 日本産婦人科・新生児血液学会第 28 回学術集会, 宮崎, 2018.6.15.
50. 清水聡一郎, 植松悟子, 江口佳孝, 窪田 満, 石黒 精: 左上肢可動域制限により診断に至った上腕骨骨髄炎・化膿性関節炎の1例. 第 646 回日本小児科学会東京都地方会, 東京, 2018.6.9.
51. 中川 聡: 敗血症の早期発見と市民啓発. 第 92 回日本感染症学会学術講演会・第 66 回日本化学療法学会総会合同学会, 岡山市, 2018.6.2.
52. 余谷暢之, 木澤義之, 新宅治夫: 重篤な神経疾患を抱える思春期患者に対するアドバンス・ケア・プランニングの現状:小児神経専門医に対する全国調査. 第 60 回日本小児神経学会学術集会, 千葉, 2018.6.2
53. 岩井謙治, 鉄原健一 , 福政宏司, 植松悟子, 辻 聡: 喘鳴診療のピットフォール. 日本小児救急学会学術集会, 茨城, 2018.6.2
54. 富田健一, 辻 聡, 鉄原健一 , 佐々木隆司, 植松悟子, 野坂俊介, 窪田満: 小児の頭蓋内損傷を伴わない頭蓋骨線状骨折の診療. 日本小児救急学会学術集会, 茨城, 2018.6.2
55. 大西志麻, 植松悟子, 鉄原健一, 内田佳子, 福政宏司, 多賀谷貴史, 佐々木隆司, 窪田満, 辻聡: 小児救急医が継続して働くことができる診療体制. 小児救急医学会, 茨城, 2018.6.2
56. 川上沙織, 寺嶋 宙, 石黒 精, 久保田雅也: Panayiotopoulos 症候群と急性脳症の臨床像の比較. 第 60 回日本小児神経学会学術集会, 千葉, 2018.6.1.（優秀演題賞）
57. 余谷暢之: 小児神経疾患におけるアドバンス・ケア・プランニング. 第 60 回日本小児神経学会学術集会 シンポジウム 重篤な神経疾患を抱えるこどもの緩和ケア～終末期を見据えた話し合いについて～, 千葉, 2018.6.1
58. 谷山禎彦, 中尾 寛, 田中雄一郎, 中村知夫, 柴田優花, 伊藤裕司, 余谷暢之, 石黒 精, 窪田満: 在宅医との密な連携により遠隔地への在宅移行が行えた 13 トリソミーノ1例. 第 645 回日本小児科学会東京都地方会, 東京, 2018.5.12.
59. 田畑健士郎, 成田雅美, 大西志麻, 稲垣真一郎, 福家辰樹, 辻 聡, 窪田 満, 石黒 精, 大矢幸弘: 小児救急外来における 15 kg 未満のアナフィラキシー患者の症例集積研究. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.22
60. 峠 千晶, 加藤元博, 大隅朋生, 富澤大輔, 村上瑛梨, 河合利尚, 今留謙一, 八角高裕, 石黒精: 自然回復と再燃を反復した家族性血球貪食症候群 3 型. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.22
61. 徐 悦, 永井 章, 阪下和美, 堀川美和子, 中舘尚也, 窪田 満, 石黒 精: 小児期専門診療施設での一次性夜尿の診療経験について. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.22

62. 関戸雄基, 中舘尚也, 伊藤秀一, 小椋雅夫, 石倉健司, 宮嵜 治, 野坂俊介, 窪田 満, 石黒精: 多発性骨病変を呈した慢性再発性多発性骨髄炎の2例. 第121回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.22
63. 冬木真規子, 余谷暢之, 舟本仁一, 松村弥, 比嘉勇介, 三浦夕子, 川又攻, 金太章, 新宅治夫: 当院での短期入所の検討. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.22
64. 岩崎由佳, 塚本桂子, 津村悠介, 加藤元博, 生田泰久, 甘利昭一郎, 長澤純子, 和田友香, 丸山秀彦, 余谷暢之, 諫山哲哉, 伊藤裕司: 先天性白血病の 1 例. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.22
65. 石黒 精, 野村 理, 道端伸明, 小林 徹, 西屋克己, 吉川哲史, 金子一成, 日本小児科学会専門医試験運営委員会: わが国における小児科専門研修中の研究活動に関する全国調査. 第121回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.22.
66. 奥村 藍, 余谷暢之, 本多愛子, 中嶋 萌, 有里裕生, 前川貴伸, 松井俊大, 宮入 烈, 窪田 満, 石黒 精: 志賀毒素産生性大腸菌 O157 感染症は虫垂炎症状を呈することがある. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.21.
67. 杉山みずき, 中舘尚也, 永井 章, 堀川美和子, 阪下和美, 植松悟子, 辻 聡, 久保田雅也, 窪田 満, 石黒 精: 当院で過去6年間に経験したPanayiotopoulos症候群の臨床像と脳波所見の検討. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.21.
68. 中川 聡: 日本版敗血症診療ガイドライン 2016 小児領域. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡市, 2018.4.21.
69. 余谷暢之, 中村知夫, 松本公一, 窪田 満, 賀藤 均: 小児専門病院における緩和医療専門医の役割についての検討. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.21
70. 田中雄一郎, 福原康之, 石黒 精, 窪田満: 乳び胸を伴った重症常染色体劣性 Centronuclear myopathy の本邦第一例. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.21
71. 永井由紗, 内田佳子, 長濱由美, 堤 義之, 窪田 満, 石黒 精: 腰椎穿刺後に血腫との鑑別を要した脊髄硬膜外液体貯留の幼児例. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.21
72. 吉井祥子, 中尾 寛, 川上沙織, 水野貴基, 田中 諒, 宇田和宏, 宮入 烈, 窪田 満, 石黒 精: 水疱病変を呈したパルボウイルス B19 の一例. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.20
73. 安河内 悠, 小椋雅夫, 石倉健司, 伊藤秀一, 石黒 精: 上肢の関節拘縮で発見され, 早期治療が奏功した少関節型若年性特発性関節炎の 3 例. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.20
74. 上原絵理香, 永田知映, 益田博司, 藤森健太郎, 窪田 満, 石黒 精: IgA 血管炎において長期入院と関連する因子の後方視的検討. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.20.
75. 岡崎加奈, 中尾 寛, 窪田 満, 石黒 精: VACTERL 連合の臨床像と発達に関わる因子. 第121回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.20.
76. 國上千紘, 佐藤美織, 宮地裕美子, 稲垣信一郎, 福家辰樹, 成田雅美, 窪田 満, 石黒 精, 長尾みづほ, 大矢幸弘: インフルエンザワクチン接種後に蜂窩織炎様症状を呈しアレルギー反応が示唆された一例. 第 121 回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.20.
77. 鈴木大地, 稲垣真一郎, 福家辰樹, 成田雅美, 野村伊知郎, 石黒 精, 大矢幸弘: 食物負荷試験時の血圧低下にステロイドが著効した新生児・乳児消化管アレルギーの1例. 第121回日本小児科学会学術集会, 福岡, 2018.4.20.
78. 橋本梨沙, 垰 千晶, 田中雄一郎, 益田博司, 中尾 寛, 守本倫子, 窪田 満, 石黒 精: 川崎病の PICU 入室例のまとめ. 第 644 回日本小児科学会東京都地方会, 東京, 2018.3.17.

[講演]

1. Nakagawa S: Septic shock; How the guidelines have changed my practice? 20th National Conference of Pediatric Intensive Care, Coimbatore, India, November 17, 2018.
2. Nakagawa S: Refractory hypoxemia. Advanced Pediatric Intensive Care Course, Coimbatore Coimbatore, India, November 16, 2018.
3. Nakagawa S: ECMO. Advanced Pediatric Intensive Care Course, Coimbatore Hyderabad, India, October 22, 2018.
4. Nakagawa S: The critically ill children with community acquired pneumonia.

International Pediatric Critical Care Conference of India, Coimbatore Hyderabad, India, October 21, 2018.

5. Nakagawa S: Sepsis and nosocomial infection in children. 4th Oriental Congress of Pediatrics, Coimbatore Shanghai, China, September 15, 2018.
6. Nakagawa S: Incidence and mortality risks of sepsis in children; Japanese experience and global view. 16th Asia Pacific Congress of Pediatrics, Nusa Dua, Bali, Indonesia, August 29, 2018.
7. Nakagawa S: Perioperative management in liver transplantation. 16th Asia Pacific Congress of Pediatrics, Coimbatore Nusa Dua, Bali, Indonesia, August 28, 2018.
8. Nakagawa S: The Emergency Medical Service for Children in Japan and What we do at NCCHD. 16th Asia Pacific Congress of Pediatrics, Perioperative management Nusa Dua, Bali, Indonesia, August 27, 2018.
9. Nakagawa S: When to use high-frequency oscillatory ventilation (HFOV) in pediatric ARDS (PARDS). 14th European Conference on Pediatric and Neonatal Mechanical Ventilation, Perioperative management Montreux, Switzerland, April 28, 2018.
10. Nakagawa S: How I use high-frequency oscillation in pediatric patients. 14th European Conference on Pediatric and Neonatal Mechanical Ventilation, Perioperative management Montreux, Switzerland, April 25, 2018.
11. Nakagawa S: Septic shock: What's the blood pressure target for children? High or low. 2nd International Children's Critical Care Medicine Forum in China, Perioperative management Shanghai, China, March 30, 2018.
12. Nakagawa S: Current status of pediatric transplant in Japan. 10th Indonesian PICU-NICU Update, Perioperative management Legian, Bali, Indonesia, March 23, 2018.
13. Nakagawa S: Respiratory physiology relevant to high-frequency oscillatory ventilation (HFOV). Non-conventional advanced mode of ventilation: HFOV, Perioperative management Legian, Bali, Indonesia, March 22, 2018.
14. Nakagawa S: Optimal Paw strategy and lung recruitment in HFOV. Non-conventional advanced mode of ventilation: HFOV, Perioperative management Legian, Bali, Indonesia, March 22, 2018.
15. Nakagawa S: One lung ventilation; what should we do? Respiratory Support Summit in Critically Ill Children, Perioperative management Legian, Bali, Indonesia, March 21, 2018.
16. Nakagawa S: High-frequency oscillatory ventilation in children. Respiratory Support Summit in Critically Ill Children, Perioperative management Legian, Bali, Indonesia, March 21, 2018.
17. 余谷暢之: わが国における小児緩和ケアの取り組み. 第 12 回大阪小児緩和ケア研究会.特別講演, 大阪, 2018.12.22.
18. 余谷暢之: 思春期・若年成人患者の意思決定支援～アドバンス・ケア・プランニングについて考える～. 第 28 回すぎなみ緩和ケア研究会. 特別講演, 東京, 2018.12.5.
19. 余谷暢之: 重篤な神経疾患を抱えるこどもに対するアドバンス・ケア・プランニング～これからの治療・ケアに関する話し合い. 第 2 回信州地域療育推進ネットワーク研修会, 長野, 2018.12.1
20. 石黒 精: 日常診療に役立つ小児血液疾患の診かたと最近のトピックス～凝固・線溶系を中心に～. 長野県小児科医会第 67 回学術研修セミナー, 長野, 2018.11.25.
21. 石黒 精: 小児科系疾患と臨床用語. 日本医療マネジメント学会 2018 年度医師事務作業補助者指導者養成講習会, 東京, 2018.10.21.
22. 余谷暢之: 小児緩和ケアが果たす役割. 第 24 回日本小児麻酔学会. 招待講演, 神戸, 2018.10.20.
23. 余谷暢之: アドバンス・ケア・プランニングとは. 平成 30 年度厚生労働省委託事業 人生の最終段階における医療体制整備事業 患者の意向を尊重した意思決定のための研修会, 千葉. 2018.10.14.
24. 余谷暢之: 在宅重症児の見方. 文部科学省課題解決型高度人材養成プログラム「重症児の在宅支援を担う医師等養成事業」大阪市立大学大学院医学研究科発達小児医学教室. 重症児の在宅支援を担う専門職養成のためのインテンシブコース, 大阪, 2018.10.13.

25. 石黒 精, 大賀正一： 新生児・小児科領域と先天性 AT 欠乏症． 先天性アンチトロンビン欠乏症セミナー， 東京， 2018.9.22.
26. 鉄原健一： 小児敗血症の認知．小児感染症学会 小児救急医学会 小児敗血症セミナー， 大府市， 2018.9.24.
27. 余谷暢之： 在宅重症児 総論．文部科学省課題解決型高度人材養成プログラム「重症児の在宅支援を担う医師等養成事業」大阪市立大学大学院医学研究科発達小児医学教室． 重症児の在宅支援を担う専門職養成のためのインテンシブコース， 大阪， 2018.9.22.
28. 余谷暢之： これからの治療・ケアに関する話し合い～アドバンス・ケア・プランニングについて考える． 第 44 回日本重症心身障害学会公開セミナー， 東京， 2018.9.29
29. 余谷暢之： 小児緩和ケア． 国立がん研究センター．平成 30 年度小児がん相談員専門研修，東京， 2018.9.1.
30. 石黒 精： 後期研修プログラムの動向と成育のレジデント教育． 第 5 回成育サマーセミナー，東京， 2018.7.28.
31. 石黒 精： 小児科系疾患と臨床用語． 医師事務作業補助者講演会， 東京， 2018.5.16.
32. 余谷暢之： 小児緩和ケア． 京都大学．京都府双方向遠隔講義による専門的緩和ケア研修推進事業， 京都 2018.7.20.
33. 中川 聡： 小児の気管挿管とそれにまつわる問題点． 第 32 回日本小児救急医学会学術集会，茨城県つくば市， 2018.6.3.
34. 余谷暢之： 終末期における意思決定支援．第 60 回日本小児神経学会学術集会，実践教育セミナー 小児神経科医が知っておきたい緩和ケアのエッセンス，千葉, 2018.6.2
35. 余谷暢之： アドバンス・ケア・プランニング～治癒が望めない病気をもつこどもと家族との話し合い．心身障害児総合医療療育センター，第 53 回重症障害児（者）医療講習会，東京，2018.3.10
36. 石黒 精： 小児血栓症の特徴と治療戦略． 第 12 回日本血栓止血学会学術標準化委員会シンポジウム，血栓性素因部会， 東京， 2018.2.10.
37. 石黒 精： 日常診療に役立つ小児血液疾患の診かたと最近のトピックス～凝固・線溶系を中心に～ 第 69 回調布小児科医会研修会， 調布， 2018.2.7.
38. 余谷暢之： 重症児診療における話し合い～診断から看取りまで関わる際に大切にしたいこと～．公益社団法人日本医療社会福祉協会, 2017 年度ソーシャルワークスキルアップ研修 周産期から始まるソーシャルワーク，名古屋，2018.2.5
39. 石黒 精： ちょっと研究してみませんか，ついでに論文などもいかが． 国立病院機構 福山医療センター オープンカンファレンス， 福山， 2018.2.2.
40. 余谷暢之： 小児緩和ケアとアドバンス・ケア・プランニング．文部科学省課題解決型高度人材養成プログラム「重症児の在宅支援を担う医師等養成事業」大阪市立大学大学院医学研究科発達小児医学教室，重症児の在宅支援を担う専門職養成のためのインテンシブコース，大阪，2018.1.13.

4-3-20 感染制御部

[原著論文:査読付(Reviewed Paper)]

1. Okubo Y, Michihata N, Morisaki N, Uda K, Miyairi I, Ogawa Y, Matsui H, Fushimi K, Yasunaga H: Dose-response relationship between weight status and clinical outcomes in pediatric influenza-related respiratory infections Pediatr Pulmonol 2018;53(2):218-223
2. Uda K, Shoji K, Koyama-Wakai C, Furuichi M, Iwase N, Fujisaki S, Watanabe S, Miyairi I: Clinical characteristics of Influenza virus-induced lower respiratory infection during the 2015 to 2016 season. J Infect Chemother 2018;24(6):407-413
3. Uda K, Okubo Y, Shoji K, Miyairi I, Morisaki N, Michihata N, Matsui H, Fushimi K, Yasunaga H: Trends of neuraminidase inhibitors use in children with influenza related respiratory infections. Pediatr Pulmonol 2018;53(6):802-808
4. Uda K, Koyama-Wakai C, Shoji K, Iwase N, Motooka D, Nakamura S, Miyairi I: WU polyomavirus detected in children with severe respiratory failure. Journal of Clinical Virology 2018;107:25-28
5. Uchida H, Tada T, Sugahara Y, Kato A, Miyairi I, Kirikae T: A clinical isolate of Escherichia coli co-harbouring mcr-1 and blaNDM-5 in Japan. J Med Microbiol 2018;67(8):1047-1049

[総説]

1. 宮入烈: 今年の麻しんの流行について. 月刊 母子保健 2018;712:4-5
2. 宮入烈: 医療関係者のための院内感染対策. そんりーさ 2018;19:9-10
3. 宮入烈: 抗微生物薬適正使用の手引き(第一版)の解説と改訂について. 小児科臨床 2018;71(12):2486-2491
4. 宇田和宏, 木下典子: 地域ネットワークでの取り組み. 小児科臨床 2018;71 (12):2621-2623
5. 菅原美絵:医療・福祉・保育・教育実習学生のための予防接種の考え方, 小児保健研究 77(3):306-307 2018

[著書]

1. 宇田和宏: 2 感染症 ジフテリア. 今日の治療指針 私はこう治療している 2018, 医学書院, 2018;171

[ガイドライン、報告書、その他]

1. 宮入烈: 2 歳以下抗菌薬控えめに. 毎日新聞, 2018;5.2:1
2. 宮入烈: 賢い選択 価値の低い医療中. 毎日新聞, 2018;5.2:13
3. 宮入烈: 薬剤耐性菌の問題と国立成育医療研究センターの取り組み. 国立成育医療研究センターだより, 2018;11:4
4. 宮入烈: 医のねだんQ 風邪に不要な抗菌薬. 読売新聞, 2018;8.2:14
5. 多屋馨子 岡田賢司 乾 幸治、古賀伸子、菅原美絵、津川 毅、並木由美江、三沢あき子、三田村敬子、渡邊久美:医療・福祉・保育・教育実習学生のための予防接種の考え方(第 1 版) 日本小児保健協会 予防接種・感染症委員会 2018 年 8 月公開

[学会発表]

1. Uda K, Kinoshita N, Morisaki N, Kasai M, Horikoshi Y, Miyairi I: Targets for optimizing oral antibiotic prescriptions for pediatric outpatients in Japan. ID Week 2018, San Francisco, 2018.10.4

2. Yoshida M, Sakurai H, Umebayashi H, Onuma M, Suda N, Nakamura K: Direct identification of pathogents from positive blood culture bottles using Matrix-assisted laser desorption/ionization time of flight mass spectrometry in a Japanese pediatric hospital. The 9th Asian Congress Pediatric Infectious Diseases, Fukuoka Japan, 2018.11.11
3. Uda K, Funaki T, Shoji K, Shoji K, Miyairi I: Preemptive infection control against multi-drug resistant organisms by active screening for children hospitalized abroad. The 9th Asian Congress Pediatric Infectious Diseases, Fukuoka Japan, 2018.11.11
4. 宮入烈: みんなで取り組む小児の感染管理～手洗いからワクチンまで～. 第33回日本環境感染学会総会学術集会, 東京, 2018.2.23
5. 宮入烈: ワクチンの功績と今も問題となるVaccine preventable disease ～私たちが頑張り続けなければならない理由～. 第65回日本小児保健協会学術集会, 鳥取, 2018.6.15
6. 菅原美絵、宮入烈:インフルエンザ流行期におけるインフルエンザ曝露後予防に関する検討 第33回日本環境感染学会総会学術集会, 品川,2018. 2.23

[講演]

1. 山林美有紀: そよ風分教室における感染対策の基本. 東京都立光明特別支援学校 そよ風分教室 平成 30 年度第 1 回感染予防研修会, **東京, 2018.4.27**
2. 宮入烈,三浦祥子: そよ風分教室における感染対策 耐性菌対策を中心に. 東京都立光明特別支援学校 そよ風分教室 平成 30 年度第 2 回感染予防研修会, **東京, 2018.5.30**
3. **宇田和宏: 抗菌薬を投与していて治療判定の仕方、改善か憎悪の細菌感染症の原則論、熱がさがらないときのアプローチの仕方で臓器や微生物診断の見直し、ソースコントロール、非感染性の原因検索に触れる、治療で良くならないときの考え方. 第 7 回東京小児感染症サマーセミナー, 東京, 2018.6.30**
4. **宮入烈: 感染症を防ぐワクチンと手洗い. 子育て応援セミナー「こども達の健やかな成長のために」八戸会場, 青森, 2018.9.8**
5. **宮入烈: 感染症を防ぐワクチンと手洗い. 子育て応援セミナー「こども達の健やかな成長のために」青森会場, 青森, 2018.9.8**
6. 山林美有紀,塚本桂子: 隔離の実際 グラム陰性菌対策. 第 12 回新生児感染症管理予防研究会, **東京, 2018.11.23**
7. **宮入烈: 大人も注意が必要な小児の感染症への対策～麻疹・風疹・RS ウイルスなど～. 院内感染防止に関する教育講演会/金沢医科大学病院, 石川, 2018.12.14**

4-3-21 栄養管理部

〔学会発表〕

1. 坂井里恵、益田静夏、鴨志田純子: 体重増加不良(FTT)の栄養指導による効果別要因の検討、第 34 回日本静脈経腸栄養学会学術集会、神奈川、2018.2.22
2. 益田静夏、坂井里恵、河野真美、大橋友香、黒葛野真依、伊東祥幸、鴨志田純子、小林佐依子:管理栄養士による出張おやつサービス、 第 21 回関東信越国立病院管理栄養士協議会学会、 東京、 2018.6.23

4-3-22 医療安全対策室

5. 著書
   中舘尚也 : 死亡診断書の書き方. 窪田 満(監修), スキルアップ! 小児の総合診療 , 診断と治療社, 2018;171-173
6. 研修会参加
   ② 医療安全倫理・モラル研修会2018
   東京大学法文1号館2階25番講堂
   2018年6月17日(日)
   ③ 医療対話推進者養成セミナー
   導入編:2018年9月20日(木) 日本医師会館小講堂
   基礎編:2018年11月10日(土)～11日(日) 日本医療機能評価機構9階ホール

7. 学会発表
   ① 小児期周産期専門施設での患者誤認の発生要因と対策
   中舘尚也、宇田川恵理子、松下ゆかり、青木 香世、野口 貴史、金子 剛、賀籐 均
   第121回日本小児科学会学術集会、2018年04月20日、福岡市

8. 広報活動
   医療安全管理室主催医療安全研修会
   ① 2018年7月9日(月)17:30～18:30
   国立成育医療研究センター講堂
   「航空業界におけるヒューマンエラーに対する取り組みについて」
   全日本空輸(株)整備センター教育訓練部基礎教育チーム専門部長:加藤悟先生
   ② 2018年12月21日(木)17:30～18:30
   国立成育医療研究センター講堂
   「医療者と患者のコミュニケーションギャップを考える - 医療コンフリクト・マネジメント -」
   全国土木建築国民健康保険組合 総合病院 厚生中央病院 院長補佐(医療安全管理室担当)兼任 総合診療科(整形外科)副部長:荒神裕之先生
   ③ 2018年12月6日(木)7日(金)17:30～18:30
   国立成育医療研究センター講堂
   「カルテ研修会」
   国立成育医療研究センター コンプライアンス室長:菊池京子先生
   同 診療情報管理室長:美間由紀先生
   同 総合診療部医師:阪下和美先生

4-3-26 薬剤部

[原著論文]

1. Saito J, Yakuwa N, Takai C, Nakajima K, Kaneko K, Goto M, Ishikawa Y, Murashima A : Tocilizumab concentrations in maternal serum and breast milk during breastfeeding and a safety assessment in infants: a case study. Rheumatology 2018.4.4;57:1499-1501
2. Maruyama H, Saito J, Nagai M, Mochizuki M, Ishikawa Y, Ito Y: Maximization of Calcium and Phosphate in Neonatal Total Parenteral Nutrition. Pediatrics International 2018.4.3; 60: 634-678
3. 江畑貴広, 下井辰徳, 文靖子, 吉田昭彦, 下村昭彦, 野口瑛美, 米盛勧, 清水千佳子, 藤原康弘, 成田善孝, 田村研治: Efficacy and Safety of Pazopanib for Recurrent or Metastatic Solitary Fibrous Tumor. Oncology. Oncology.2018 ; 94(6): 340-344
4. Saito J, Akabane M, Komura M, Nakamura H, Ishikawa Y: Age-Appropriate Pediatric Dosage Forms in Japan Insights into End-User Perceptions From an Observational Cross-Sectional Survey Assessing the Acceptability of Oral Formulation. Therapeutic Innovation and Regulatory Science 2018.7.12;1-17
5. Okada N, Sasaki A, Saito J, Mitani Y, Yachie A, Takahashi H, Matsubara S, Tenkumo C, Tanaka H, hata T, Motomura K, Nagasawa J, Wada Y, Sako M, Yamaguchi K, Matsumoto K, Nakamura H, Sago H, Mizuta K: The Japanese experience and pharmacokinetics of antenatal maternal high-dose immunoglobulin treatment as a prophylaxis for neonatal hemochromatosis in siblings. The Journal of Maternal-Fetal & Neonatal Medicine 2018.7.22;1-7
6. Yakuwa N, Nakajima K, Koinuma S, Goto M, Suzuki T, Ito N, Watanabe O, Murashima A: Perception of pregnant Japanese women regarding the teratogenic risk of medication exposure during pregnancy and the effect of counseling through the Japan drug information institute in pregnancy. Reproductive Toxicology 2018.8;79:66-71
7. Saito J, Akabane M, Ishikawa Y, Nakamura H, Yamatani A: Potentially harmful excipients in neonatal medications: an observational and crossregional comparison of Japan and Europe. Neonatal and Pediatric Medicine 2018.11.23;4:1-7
8. 齊藤順平, 赤羽三貴, 廣川太士朗, 小村誠, 石川洋一: 小児における高用量バンコマイシン投与の要因解析－単施設後方視的症例対照研究－. 医学と薬学 2018;75:37-42
9. 齊藤順平, 歌野智之, 倉富未来, 廣川太士朗, 小村誠, 赤羽三貴, 牧山稔, 石川洋一: 院内製剤ダントロレンナトリウム希釈散の調製方法に関する検討－脱カプセルとカプセル粉砕の比較－. 医療薬学 2018;44:1-7
10. 齊藤順平, 河合利尚, 今泉仁美, 赤羽三貴, 新井勝大, 小野寺雅史, 石川洋一: 小児慢性肉芽腫症腸炎に対するサリドマイド懸濁製剤の実用化に資する運用方法の検討. 日本小児臨床薬理学会雑誌 2018.6.18;30:63-68
11. 齊藤順平, 八鍬奈穂, 須山文緒, 中島 研, 和田友香, 佐々木愛子, 清水結花, 石川洋一: 母乳分泌不全で投与された Domperidone の母乳移行性と児への曝露評価. 日本小児臨床薬理学会雑誌 2018.12.30;31:48-55

[総説]

1. 齊藤順平: Allergy Testing in Children With Low-Risk Penicillin Allergy Symptoms. 月刊薬事 ジャーナルクラブの広場 2018.4;60(5):169-169
2. 齊藤順平: Association of Broad- vs Narrow-Spectrum Antibiotics with Treatment Failure, Adverse Events, and Quality of Life in Children with Acute Respiratory Tract Infections. 月刊薬事 ジャーナルクラブの広場 2018.6;60(8):157-158
3. 齊藤順平: Acute Responses to Diuretic Therapy in Extremely Low Gestational Age Newborns: Results from the Prematurity and Respiratory Outcomes Program Cohort Study. 月刊薬事 ジャーナルクラブの広場 2018.8;60(11):147-148
4. 齊藤順平: Chemotherapy-Induced Peripheral Neuropathy in Long-term Survivors of Childhood Cancer: Clinical, Neurophysiological, Functional, and Patient-Reported

Outcomes. 月刊薬事 ジャーナルクラブの広場 2018.10;60(13):118-119
5. 齊藤順平: Adverse Drug Event-Related Admissions to a Pediatric Emergency Unit. 月刊薬事 ジャーナルクラブの広場 2018.12;60(15):138
6. 中島研: 特集 産科の薬物療法 update 総論 妊娠中・授乳期の薬物の安全性. 周産期医学 2018;48(1):9-14
7. 三大寺紀子,中島研: 妊娠と薬の基礎知識 妊婦向けのサプリメント. 日経ドラッグインフォメーション 2018.1;19-20
8. 中島研: 特集 母乳育児と乳がん 乳がんの薬と母子への影響. 助産雑誌 2018; February Vol.72(2):120-125
9. 三大寺紀子,中島研: 妊娠と薬の基礎知識 尋常性ざ瘡治療薬. 日経ドラッグインフォメーション 2018.2;19-20
10. 三大寺紀子,中島研: 妊娠と薬の基礎知識 妊娠性掻痒治療薬. 日経ドラッグインフォメーション 2018.3;19-20
11. 栗山猛: 小児領域における医療情報データベースを活用した安全対策の推進について. ファルマシア 2018;54(3):222-224
12. 山尾晶子,石川洋一: 小児用の薬物の取り扱い,薬剤剤形(シロップやドライシロップなど)の取り扱い. Monthly Book ENTONI 2018.4;No.218:7-15
13. 八鍬奈穂,中島研: 専門薬剤師からみた勘所 プロフェッショナル EYE 妊娠中の解熱鎮痛薬といえば・・・. 薬局 2018 2018.4;Vol.69(5):139-143
14. 三大寺紀子,中島研: 妊婦とくすりの基礎知識 ステロイド(全身投与). 日経ドラッグインフォメーション 2018.4;19-20
15. 八鍬奈穂,中島研: 妊婦とくすりの基礎知識 てんかんと妊娠. 日経ドラッグインフォメーション 2018.5;19-20
16. 八鍬奈穂,中島研: 妊婦とくすりの基礎知識 バルプロ酸. 日経ドラッグインフォメーション 2018.6;19-20
17. 八鍬奈穂,中島研: 妊婦とくすりの基礎知識 カルバマゼピン,ラモトリギン. 日経ドラッグインフォメーション 2018.7;19-20
18. 石井真理子: 特集 妊娠期・授乳期の向精神薬治療-母児への影響と使い方- 「授乳期の薬物動態の考え方」. 精神科治療学 2018.7;Vol.33 No.7:859-863
19. 栗山猛: 小児臨床開発の現状と課題,推進に向けた取組み-未来を担う子どもたちのために-. 薬理と治療 2018.8;Vol.46:1096
20. 三大寺紀子,中島研: 妊婦とくすりの基礎知識 レベチラセタム,トピラマート. 日経ドラッグインフォメーション 2018.8;19-20
21. 三大寺紀子,中島研: 妊婦とくすりの基礎知識 妊娠と糖尿病. 日経ドラッグインフォメーション 2018.9;19-20
22. 八鍬奈穂,中島研: 妊婦とくすりの基礎知識 インスリン製剤. 日経ドラッグインフォメーション 2018.10;19-20
23. 中島研,八鍬奈穂: 妊婦とくすりの基礎知識 スルホニル尿素薬. 日経ドラッグインフォメーション 2018.11;19-20
24. 中島研,八鍬奈穂: 妊婦とくすりの基礎知識 経口糖尿病治療薬. 日経ドラッグインフォメーション 2018.12;19-20
25. 齋藤裕里奈: パパもママも知りたい！薬の上手な飲み方・飲ませ方. サプリメントコラム web 掲載 2018.12.12

[著書]
1. 中島研: 文献の批評的評価:観察研究の複雑さを理解する. 妊婦の精神疾患と向精神薬 Psychopharmacology and Pregnancy Treatment efficacy,Risk,and Guidelines, 南山堂, 2018.6; 21-31
2. 八鍬奈穂: 不安・睡眠障害,精神薬理学と妊娠 ベンゾジアゼピン系薬剤と妊娠,プレガバリンと妊娠,不眠症と妊娠,催眠薬と妊娠. 妊婦の精神疾患と向精神薬 Psychopharmacology and Pregnancy Treatment efficacy,Risk,and Guidelines, 南山堂, 2018.6;90-95

3. 八鍬奈穂: 妊娠中の精神領域の補完代替療法 必須脂肪酸,葉酸塩・葉酸・L-メチル葉酸塩. 妊婦の精神疾患と向精神薬 Psychopharmacology and Pregnancy Treatment efficacy,Risk,and Guidelines, 南山堂, 2018.6;198-200
4. 中島研,八鍬奈穂: 妊娠期における葉酸投与の意義と使い方. 精神科治療学, 星和書店, 2018.7; 837-844
5. 八鍬奈穂,中島研: 妊娠と薬情報センターにおける薬剤師の活動状況. ファルマシア, 日本薬学会, 2018.8;757-761
6. 赤羽三貴,小村誠,丹沢彩乃,徳永秀美: こどもと薬の Q&A 続. じほう, 2018.9

[研究報告書]

1. 栗山猛: 小児領域の医薬品の適正使用推進のための人工知能を用いた医療情報データベースの利活用に関する研究(総括研究報告書). 厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業(臨床研究等 ICT 基盤構築・人工知能実装研究事業)), 総括研究報告書, 2018.5
2. 栗山猛: 医薬品の安全性評価のためのデータベースの高度化に関する研究(分担研究報告書). 臨床研究等 ICT 基盤構築研究事業(日本医療研究開発機構), 分担研究報告書, 2018.5

[学会発表]

1. Maruyama H, Saito J, Nagai N, Mochizuki M, Ishikawa Y, Ito Y: Maximization of Calcium and Phosphate in Neonatal Total Parenteral Nutrition. 2nd Korea-Japan-Taiwan Joint Congress on Neonatology, Seoul, 2018.5.25
2. Saito J,Nakamura H,Akabane M, Ishikawa Y, Yamatani A: Potentially harmful excipients in neonatal medicines: Japanese single center observational study. 10th EuPFI conference, London, UK, 2018.9.12
3. Wada Y, Suyama F, Shimizu Y,Saito J, Sasaki A: Effectiveness and safety of domperidone for increasing milk secretion in Japanese mothers with lactation failure whose babies were in the NICU. 19th ISRHML Conference, Kanagawa, 2018.10.7
4. Bun S, Kunisawa S, Sasaki N, Fushimi K, Matsumoto K, Yamatani A ,Yuichi Imanaka: The concordance with antiemetic guideline for pediatric, adolescent and young adult (AYA) patients with cancer using a large-scale administrative database. 欧州臨床腫瘍学会, ドイツ,ミュンヘン, 2018.10.22
5. 稲吉美由紀: 関信地区国立病院等臨床研究・治験推進協議会における 実務者会議への新たな取り組み. 日本臨床試験学会 第 9 回学術集会総会 in 仙台, 仙台, 2018.2.23
6. 中島研: シンポジウム 医療における賢明な選択(Choosing Wisely)と "Shared decision making"―薬剤師に期待される役割― 妊婦・授乳婦の医薬品適正使用に向けたエビデンス構築. 日本薬学会第 138 年会, 金沢, 2018.3.26
7. 湖城由佳,詫間梨恵,鈴木萌夏,赤羽三貴,小椋雅夫,伊藤秀一,石倉健司,石川洋一: 小児リウマチ性疾患患児におけるメトトレキサートの副作用調査および葉酸製剤の予防効果の検討. 日本薬学会 第 138 年会, 金沢, 2018.3.28
8. 村上遼光,歌野智之,文靖子,長谷川彩薫,赤羽三貴,大隅朋生,加藤元博,富澤大輔,松本公一,石川洋一: 2 歳未満小児における血中濃度測定を用いボリコナゾールの至適投与用量に関する検討. 日本薬学会 第 138 年会, 金沢, 2018.3.28
9. 川上美里,八鍬奈穂,後藤美賀子,肥沼幸,中島研,村島温子: 妊娠と薬情報センターへの相談事例におけるタクロリムス妊娠時曝露例と児の転帰の解析. 3 回日本母性内科学会総会・学術集会, 東京, 2018.7.1
10. 文靖子,國澤進,伏見清秀,石川洋一,今中雄一: 小児・思春期若年成人(AYA)世代に発症したがん患者の化学療法誘発性悪心・嘔吐に対する支持療法の調査. 日本臨床腫瘍学会, 神戸, 2018.7.19
11. 八鍬奈穂: 教育セミナー 汎用薬の催奇形性を考える JAK 阻害薬. 第 58 回日本先天異常学会学術集会, 東京, 2018.7.29

12. 栗山猛: 小児医薬品開発推進に向けた取組みについて. 第18回CRCと臨床試験のあり方を考える会議, 富山, 2018.9.16
13. 高藤由紀子, 齊藤順平, 赤羽三貴, 小村誠, 山谷明正, 石川洋一: スルファメトキサゾール・トリメトプリム合剤の服用性に関するアンケート調査. 第 45 回日本小児臨床薬理学会, 東京, 2018.10.6
14. 小野寺祐里香, 余谷暢之, 歌野智之, 牧山稔, 山谷明正: 小児専門施設における医療用麻薬の使用実態と特徴. 第45回 日本小児臨床薬理学会学術集会, 東京, 2018.10.6
15. 千葉杏子, 文靖子, 歌野智之, 大隅朋生, 加藤元博, 富澤大輔, 松本公一, 山谷明正: XIAP 欠損症患者の同種造血幹細胞移植における薬剤師の役割. 第 45 回 日本小児臨床薬理学会学術集会, 東京, 2018.10.6
16. 丹沢彩乃, 大橋知佳, 三津田華耶, 宮澤永尚, 吉野浩, 山谷明正, 篠原高雄: MTX 排泄遅延に対し l-LV 製剤による救援療法を施行した症例. 第45回日本小児臨床薬理学会学術集会, 東京, 2018.10.6
17. 文靖子, 佐々木典子, 伏見清秀, 今中雄一: 小児がん患者を対象とした化学療法誘発性悪心・嘔吐に対する支持療法の調査. 日本病院管理学会, 福島, 2018.10.27
18. 歌野智之, 加藤元博, 大隅朋生, 塩田曜子, 清谷知賀子, 寺島慶太, 富澤大輔, 松本公一, 山谷明正: 小児造血幹細胞移植患者におけるボリコナゾール併用時のタクロリムス投与経路と血中濃度上昇との関連. 第60回 日本小児血液・がん学会学術集会, 京都, 2018.11.17
19. 齊藤順平, 八鍬奈穂, 高井千夏, 中島研, 金子佳代子, 後藤美賀子, 山谷明正, 石川洋一, 村島温子: 抗体製剤 Tocilizumab の母乳中移行性および哺乳児への安全性評価に関する症例報告. 第28回日本医療薬学会年会, 神戸, 2018.11.23
20. 長谷川彩薫, 歌野智之, 文靖子, 大隅朋生, 加藤元博, 富澤大輔, 松本公一, 山谷明正: 小児におけるアムホテリシン B 投与時の低カリウム血症発現時期の検討. 第 28 回 日本医療薬学会年会, 神戸, 2018.11.24
21. 三浦寄子, 大穂祐介, 三大寺紀子, 宇野千晶, 赤羽三貴, 壷井 伯彦, 持丸 奈央子, 吉田 和恵, 山谷明正: 小児集中治療室におけるニカルジピン注射液による血管障害の実態調査および危険因子の検討. 第28回日本医療薬学会年会, 神戸, 2018.11.24
22. 高藤由紀子, 齋藤裕里奈, 長井美樹, 赤羽三貴, 真船亮, 小野博, 賀藤均, 山谷明正: 小児の心膜切開後症候群(PPS)の治療におけるコルヒチン投与の有効性. 第28回日本医療薬学会年会, 神戸, 2018.11.24

[講演, その他]

1. 齊藤順平: The Current Status and Issues of Pediatric Formulation in Japan. International Symposium on Pediatric Drug Evaluation and Clinical Pharmacology, 2018.6.30
2. 齊藤順平: The Current State and Clinical Issues of Pediatric Formulation in Japan. 2018 International Meeting on 22nd MDO and 33rd JSSX(Kanazawa), 2018.10.2
3. 長井美樹: 小児専門病院で薬剤師になって. 千葉大学 平成 29 年度講義「薬学への招待Ⅱ」, 2018.1.10
4. 齋藤裕里奈: どうして打たなきゃいけないの？～子どもの予防接種～. 江戸川区薬剤師会 薬剤師会健康講座, 2018.1.14
5. 長井美樹: 新生児病棟における 薬物療法と薬剤師の関わり. 東京都病院薬剤師会 第 5 回妊婦・授乳婦専門薬剤師養成研修会, 2018.1.22
6. 八鍬奈穂: カウンセリング. 第11回妊娠と薬情報センター業務研修会, 2018.2
7. 齊藤順平: 小児用医薬品の開発ニーズについて. 富山県薬業連合会 小児用医薬品の開発に関する欧州コンソーシアム(EuPFi)への参加発表会, 2018.2.14
8. 石井真理子: 小児処方設計の落とし穴. 第 4 回日本医療安全学会学術総会 医薬品安全パネル討論会, 2018.2.17
9. 稲吉美由紀: 改正 GCP への医療機関の対応. 一般社団法人日本臨床薬理学会認定 CRC アドバンスト研修会 2017 Part2, 2018.3.3
10. 齊藤順平: シンポジウム 小児における抗ウイルス薬の TDM. 第34回 日本TDM学会・学術大会,

2018. 5. 26
11. 小村誠: 小児に対する薬物治療. 平成 30 年度千葉大学臨床薬学講義, 2018. 6. 21
12. 栗山猛: 小児での臨床開発推進に向けた取組み. 医療薬学フォーラム 2018, 2018. 6. 23
13. 石井真理子: 子どもと薬. 第 22 回日本医療保育学会総会・学術集会, 2018. 6. 24
14. 齊藤順平, 詫間梨恵, 福田晃也, 笠原群生: シンポジウム 小児移植チームにおける薬剤師の役割. 日本病院薬剤師会関東ブロック 第 38 回学術大会(宇都宮), 2018. 8. 26
15. 齊藤順平: 小児における向精神薬の適正使用. 第 2 回 日本精神薬学会(名古屋市), 2018. 9. 15
16. 齊藤順平: 小児薬物療法の臨床･研究における連携 ー 薬剤師の立場から ー. 第 45 回 日本小児臨床薬理学会学術集会(東京), 2018. 10. 7
17. 八鍬奈穂: 薬理学総論(作用機序・薬物動態等). 東京医療保健大学大学院看護学研究科:助産薬理学特論, 2018. 10. 4
18. 八鍬奈穂: 妊娠中の薬剤曝露による児の発達への影響に関するトピックス～アセトアミノフェンなどの薬剤を中心に～. 妊娠と薬情報センターフォーラム 妊娠と薬ー最新のトピックスを読み解く, 2018. 10. 14
19. 八鍬奈穂: 薬理学 各論Ⅰ 漢方薬 妊婦・授乳婦に頻用される薬剤(1). 東京医療保健大学大学院看護学研究科:助産薬理学特論, 2018. 10. 11
20. 八鍬奈穂: 薬理学 各論Ⅱ 妊婦・授乳婦に頻用される薬剤(2). 東京医療保健大学大学院看護学研究科:助産薬理学特論, 2018. 10. 18
21. 八鍬奈穂: 薬剤情報の収集方法と読み方 薬剤の取り扱い(麻薬・向精神薬など). 東京医療保健大学大学院看護学研究科:助産薬理学特論, 2018. 10. 25
22. 栗山猛: 治験責任医師と分担医師の行うべき業務, 他. 第14回 横浜市立大学医学部附属病院臨床研究セミナー, 2018. 11. 14
23. 八鍬奈穂: 妊娠高血圧症候群の管理. 第 4 回 東京都病院薬剤師会 妊婦・授乳婦専門薬剤師養成研修会, 2018. 11. 28
24. 歌野智之: 小児疾患(小児がん)「薬物療法」における薬剤選択の妥当性, 効果, 副作用判定における「検査値」との関連性などを中心に. 東邦大学薬学部生涯学習講座, 2018. 12. 2

4-3-27 看護部

[原著論文]

1. Hiroki Uchida,Tatsuya Tada,菅原美絵,Yoshie Sugahara,Akira Kato,宮入烈,Isao Miyairi,Teruo Kirikae；Emergence of a clinical isolate of Klebsiella pneumonia co-harboring blaKPC-2 and rmtB in JapanJournal of Global Antimicrobial Resistance。J Med Microbiol 2018;67(8):1047-1049；J Med Microbiol
2. 渡邊佐恵美,江崎陽子,中村沙織;トランジション外来における移行支援プログラムを実施した患者・家族の意識や行動の変化.日本看護学会論文集:看護管理(1347－8184)48 号 Page161-164(2018.04)；日本看護学会論文集:看護管理

[総説]

1. 菅原美絵(専門看護室)；医療・福祉・保育・教育実習学生のための予防接種の考え方，小児保健研究 77(3):306-307 2018；小児保健研究
2. 山林美有紀(専門看護室)；新生児の手術部位感染リスク因子に関する文献検討，国立看護大学校研究紀要 2018，第 17 巻第 1 号: 29-35；国立看護大学校研究紀要

[学会発表]

1. 高橋彩（10 西）後藤清香,安部美樹子,加藤元博,松本公一： 患者と医療者に優しい環境を目指した無菌室の新設． 第 40 造血細胞移植学会．2018.2.3
2. 菅原美絵（専門看護室）宮入烈： インフルエンザ流行期におけるインフルエンザ曝露後予防に関する検討． 第 33 回日本環境感染学会総会学術集会．2018.2.23
3. 山林美有紀（専門看護室）網中眞由美,坂木晴世,西岡みどり： 新生児先天性横隔膜ヘルニア手術における手術部位感染防止のための周手術期ケア． 第 33 回日本環境感染学会総会・学術集会．2018.2.23
4. 吉川さやか(救急センター)： 小児救急外来での処置時における鎮静鎮痛の現状と問題．第 121 回日本小児科学会学術集会．福岡，2018.4.22
5. 小宮山明子(救急センター)： 救急外来における子どもの事故予防指導の実践報告．第 65 回日本小児保健協会学術集会．鳥取，2018.6.15
6. 八尾正美(9 西)加藤ゆみえ,平真由美,豊田江利子,前木梨夏愛,菊池亜里沙,山田麻奈,片山絵梨子： 保育活動中に起こりうるインシデントについて病棟内で保育士が関わるインシデントの傾向と対策について．第 22 回日本医療保育学会総会学術集会．東京，2018.6.24
7. 小江寛子(4GCU) 中村伸枝,佐藤奈保： 医療的ケアが必要な子どもの就学にむけた母親の認識と取り組み．日本小児看護学会第 28 回学術集会．愛知，2018.7.21～22
8. 松谷弘子(看護部長室)： 看護師の離職意向の研究の動向．第 22 回日本看護管理学会学術集会．神戸,2018.8.24
9. 西條彩香(専門看護室)： 看護職員への治験に対する意識調査．第 18 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議 2018．富山，2018.9.16～17
10. 森田梓帆里(6 東)： 母乳カルテの分析．第 72 回国立病院総合医学会．兵庫，2018.11.9
11. 古畑凌(7 西) 井上瑛美,太田川梓,山下万寿実： 在宅療養中の重症心身障害児の褥創予防の看護．第 72 回国立病院総合医学会．兵庫，2018.11.10
12. 松原加織(7 東) 平井花奈,野中祐希,平沼慶子： 眼科患児に対する病棟看護師のプレパレーションの実際について．第 72 回国立病院総合医学会．兵庫，2018.11.9
13. 飯塚萌子(7 東) 櫻川恵花,佐藤友美： 小児病棟での退院支援における看護師の困難感と対処方法－初回退院で医療的ケアが必要な児に対して－．第 72 回国立病院総合医学会．兵庫，2018.11.9
14. 田中梨紗子(11 東)： 妊婦の腰痛に対するスタッフの看護・指導の実態．第 72 回国立病院総合医学会．兵庫，2018.11.9
15. 河田菜穂美(8 西)： 子どもが小児がんと診断された IC 直後の家族への必要な関わり．第 72 回国立病院総合医学会．兵庫，2018.11.9
16. 佐藤文敬(9 東) 浅野花林,古谷麻里香,渡辺ひかり： 新人看護師が重症心身障害児の看護

において抱える困難に関する研究．第 72 回国立病院総合医学会．兵庫，2018.11.10
17. 津島智子(11 西)： 小児病棟に入院中の医療的ケアが必要な子どもをもつ母親への看護実践－次子出産後の産褥期に焦点を当ててー．第 72 回国立病院総合医学会．兵庫，2018.11.9
18. 日浅愛美(8 東)高橋里奈： 小児乳幼児病棟における転倒転落の発生要因とオリエンテーション内容の分析． 第 72 回国立病院総合医学会．2018.11.9
19. 御手洗佳奈(8 東)大林かおり： 体外補助人工心臓の新規導入を経験した病棟看護師の思い．第 72 回国立病院総合医学会．2018.11.9
20. 髙橋梢(11 西) 小野寺優帆,山口美砂樹： 産褥 1 週間における夜間帯の初産婦の医療者に対する相談内容．第 72 回国立病院総合医学会．兵庫，2018.11.9
21. 桑原美奈子(9 西)松園梨代： 即時型食物経口負荷試験を受ける子どもの家族に対する小児アレルギーエデュケーターの関わり．第 72 回国立病院総合医学会．兵庫，2018.11.10
22. 安達優香(6 西)川口恵利佳,梶谷由希子： 産科危機的出血の助産師の対応について-インタビューを通して-．第 72 回国立病院総合医学会．兵庫，2018.11.10
23. 森田梓帆里(6 東)萩原菜穂:母乳カルテの記載内容の分析．第 72 回国立病院総合医学会．兵庫，2018.11.9～10
24. 小松千紗都,坂口愛由： 胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術(FLP)を受けた妊婦への看護介入．第 72 回国立病院総合医学会．兵庫，2018.11.9～10
25. 島村明梨(6 西)前田凛,三島佐和子： 高齢初産婦への母乳育児支援-助産師へのインタビューを通して-．第 72 回国立病院総合医学会．兵庫，2018.11.10
26. 柴田映子（8 西）後藤清香,高橋彩,清谷知賀子： 長期フォローアップ受診後の小児がん経験者の現状と看護支援． 第 16 回小児がん看護学会．2018.11.15
27. 柴田映子（8 西）後藤清香,釵持瞳,清谷知賀子： 長期フォローアップ外来を 2 回以上受診した小児がん経験者の現状と看護支援． 第 16 回日本小児がん看護学会．2018.11.15
28. 後藤清香(10 西)松本公一，塩飽仁： 小児がん拠点病院における看護部の復学支援に対する役割意識と課題．第 16 回日本小児がん看護学会．京都，2018.11.16
29. 綱川早紀(NICU) 富井ひかり,増子みどり： NICU 看護師が気管内挿管している患者の計画外抜管を予防するために行っている工夫． 第 72 回国立病院総合医学会． 兵庫，2018.11.9～10
30. 岩渕滉子(7 西) 鈴木杏紗,菅原南,井原修二： 肘関節固定具「未来式安全ちゃん」の使用の実態． 第 71 回国立病院総合医学会．2018.11.11
31. 三浦加奈(6 西) 佐藤正規,久保浩太,平井晶子,平本康子： 当センターにおける無痛分娩クラスの分析と今後の課題．第 122 回日本産科麻酔科学会学術集会．静岡，2018.11.23
32. 平井晶子(6 東) 佐藤正規,久保浩太,三浦加奈,平本康子： 「飛び込み無痛分娩」症例の検討．第 122 回日本産科麻酔学会学術集会．静岡，2018.11.23
33. 中里弥生(専門看護室)小沼徳恵： 医療的ケア児の退院前合同カンファレンスの現状．第 18 回世田谷区医師会医学会．東京，2018.12.1
34. 小江寛子(4GCU) 中村伸枝,佐藤奈保： 医療的ケアが必要な子どもの就学にむけた母親の認識と取り組みの特徴．第 42 回小児外科教室例会．千葉，2018.12.1
35. 五十嵐麻希(手術室)： 小児患者を対象とした手術室看護師の術後訪問の現状．第 16 回国立病院看護研究学会学術集会．広島，2018.12.8
36. 中村萌実（10 西）： 終末期の思春期がん患者に対する予後告知に関して看護師が抱える葛藤． 第 16 回国立病院看護研究学会学術集会．2018.12.8
37. 増田翔太(8 西)： 小児がんの再発を告げるインフォームド・コンセントに同席する看護師の家族に対する関わりについて．第 16 回国立病院看護研究学会学術集会．広島，2018.12.8
38. 高井絵美理(11 東)： 小児と母性混合病棟において中期中絶を受ける患者と関わる看護者の体験．第 16 回国立病院看護研究学会．広島，2018.12.8
39. 今別府薫伽(9 西) 髙山絵莉子,松田尚香： 学童期の肝移植術後患者の離床を促進する看護師の関わり．第 16 回国立病院看護研究学会．広島，2018.12.8
40. 草薙茉希子(4GCU) 草薙芙希子,福田真純,山本幸代： 低出生体重児のポジショニング技術獲得に向けたアプローチ．第 16 回国立病院看護研究学会．広島，2018.12.8

[執筆]

1. 山内愛(6西)： 飲んで大丈夫？やめて大丈夫？妊娠・授乳と薬の知識 第2版. 医学書院, 2018.6
2. 平塚未来(7 東)： 体位とリハビリテーション.重症小児患者ケアガイドブック.2018;第一版. 重症小児患者ケアガイドブック. 2018
3. 中村志帆,中山奈々子,本橋華恵,清水麻美,齋彩乃,本橋華恵,長谷川麻美(7 東)： 網膜芽細胞腫で眼球摘出をする児の家族への看護師の関わりと思い 入院から手術までに焦点を当てて. 国立病院看護研究学会誌, 2018
4. 伊藤悠子(6 東)： 早産予防の助産ケア. 助産雑誌. 医学書院, 2018.9
5. 三田浩子(4NICU)： ナースの為の小児・新生児の外科疾患完全マスターガイド 顔面・口の手術 術前術後の看護. メディカ出版, 2018

[講演、その他]

1. 後藤清香(10 西);小児看護概論;小児がん看護セミナー;小児がん拠点病院医療者育成事業;2018.1
2. 木須彩(専門看護室);終末期の症状アセスメントとケアについて;小児がんセミナー;小児がん中央機関医療者育成事業;2018.1.20
3. 坂本琢美(4ICU);小児救急シミュレーションに関するセミナー;石川県小児医療ネットワーク事業協議会;2018.1.6～7
4. 林幸子(救急);救急外来においてトリアージができるナース育成を目指す研修会;第34回トリアージナース育成研修会;2018.2.3～4
5. 林幸子(救急);誤飲・誤嚥に関する講義;第 3 回子どもの傷害予防リーダー養成講座;2018.1.27
6. 山田未歩子(外来);SAP 療法において看護師ができること;第 2 回小児科 SAP 講演会;日本メドトロニック株式会社;2018.3.8
7. 小宮山明子(救急);高度先駆的医療看護 IV(成育看護);国立看護大学校;2018.4.18
8. 萩原美幸(11 東);高度先駆的医療看護 IV(成育看護);国立看護大学校;2018.4.18
9. 宇田川恵理子(専門看護室);入院中の児童・生徒に関わる上での感染予防についての研修会;第 1 回感染予防研修会;2018.4.18
10. 上遠野雅美(専門看護室);小児の移植;日本麻酔科学会第 65 回学術集会ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ;公益社団法人日本麻酔科学会;2018.5.18
11. 三田浩子(4NICU);高度先駆的医療看護 VI;国立看護大学校;2018.5.18
12. 木須彩(専門看護室);最後の時を在宅で～看取りを見据えた在宅医療の実践から考えること;成育在宅医療懇話会;国立成育医療研究センター医療連携室;2018.5.19
13. 三浦祥子(専門看護室);耐性菌保菌児童・生徒への対応と、学校生活における感染防止の方法;第 2 回感染予防研修会;2018.5.30
14. 奥田裕美(専門看護室);褥瘡対策が強化される！スキン-テア、医療関連機器圧迫創傷(MDRPU)に注目～皮膚・排泄ケア認定看護師がケアの工夫を伝授します;第 12 回創クラブ西勉強会;創クラブ;2018.5.26
15. 江崎陽子(外来);小児看護実践論;東京医療保健大学;2018.6.13.7.4
16. 佐藤摂(8西);統合講義2創傷;第22回日本小児ストーマ・排泄・創傷管理セミナー;日本小児ストーマ・排泄・創傷管理研究会;2018.6.15
17. 佐藤摂(8 西);ストーマ・皮膚管理;第 1 回障害児施設看護師講習会;小児障害児総合医療療育センター;2018.6.12
18. 奥田裕美(専門看護室);胃瘻、気管切開孔の治療とケア;第 23 回日本小児ストーマ・排泄・創傷管理セミナー;日本小児ストーマ・排泄・創傷管理学会;2018.6.15
19. 森口ふさ江(救急);東海大学健康科学部及び東海大学大学院;2018.6.7
20. 山田未歩子(10 東);1 型糖尿病、インスリンポンプ使用時の保育生活について;世田谷区立

給田保育園;2018.6.13
21. 山野織江・福島加奈子(外来);独立行政法人環境再生保全機構;2018.10.13
22. 古尾谷侑奈(専門看護室);国際医療福祉大学;2018.6.28
23. 福島加奈子(外来);スキンケアの正しい方法;第 1 回アレルギー予防教室;千代田区千代田保健所;2018.7.23
24. 湯澤有希子(9 西);松沢幼稚園;2018.
25. 平井晶子・伊藤悠子(6 東);分娩介助法技術試験;東京医療保健大学;2018.
26. 早川加奈子(6 西);帝王切開産婦の助産ケア・深部静脈血栓症の予防;国立看護大学校;2018.7.6
27. 松本敦子(11 西);乳房の発達と母乳哺育・母乳栄養確立に向けた援助;国立看護大学校;2018.7.3
28. 朝倉花(6MFICU);ハイリスク妊婦の助産ケア;助産診断・技術学Ⅰ;国立看護大学校;2018.7.6
29. 宍戸恵理(6 西);硬膜外麻酔下の分娩ケア、誘発分娩時のケア、分娩促進のケア;国立看護大学校;2018.7.6
30. 萩原美幸(11 東);不妊・不育と助産ケア;国立看護大学校;2018.7.5
31. 渡部梓(臨床教員);胎盤計測・臍帯血採取;国立看護大学校;2018.7.4
32. 山田未歩子(10 東);成長ホルモン治療における患者サポートについて;小児外来セミナー;ファイザー株式会社;2018.7.7
33. 江崎陽子(外来);小児 IBD 患者のトランジション;IBD メディカルスタッフ教育セミナーin 福岡;2018.7.8
34. 山田未歩子(10 東);小児・周産期における CSII/SAP 療法を継続するためのコツ;CSII/SAP キャラバン;日本メドトロニック株式会社;2018.7.4
35. 林幸子(救急);子ども専門家アカデミー;2018.7.19
36. 山田未歩子(10 東);1 型糖尿病、インスリンポンプ使用時の保育生活について;世田谷区立赤堤保育園;2018.7.24
37. 杉澤由香里(手術室);総合母子保健センター愛育病院;2018.8.2
38. 吉川さやか(救急);AHA BLS ヘルスケアプロバイダーコース;日本 ACLS 協会湘南救急医療協会;2018.7.29/8.26/9.30
39. 菅沼瞳(6 西);分娩介助技術試験の指導;国立看護大学校:2018.8.22
40. 江崎陽子(外来);トランジション看護の視点から;ファイザー株式会社;2018.9.2
41. 並川千春(10 東);中外製薬株式会社;2018.8.14
42. 田子彩(10 東);小児がん看護における症状マネジメント;小児がん看護セミナー;小児がん中央機関医療者育成事業;2018.9.8
43. 林幸子(救急);看護師救急医療業務実地修練;一般社団法人日本救急医療財団;2018.9.14
44. 山田未歩子(10 東);子どもの糖尿病と多職種連携;第 52 回日本小児内分泌学会学術集会ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ;2018.10.4
45. 上遠野雅美(専門看護室);小児移植後長期経過例の諸問題;第 54 回日本移植学会総会臓器別ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ;2018.10.5
46. 福島加奈子(外来);施設における緊急時対応の実践;アレルギー対応体制強化研修;公益社団法人東京都福祉保健財団;2018.11.16
47. 江崎陽子(外来);トランジション外来での取り組み;第 9 回成人移行期支フォローアップ講座;思春期看護研究会;2018.10.14
48. 佐藤摂(8 西);ストーマ・皮膚管理;障害児施設看護師講習会;心身障害児総合医療療育センター;2018.10.10
49. 山野織江(外来);施設における緊急時対応の実践;アレルギー対応体制強化研修;公益社団法人東京都福祉保健財団;2018.10.5
50. 佐々木祐子;ハイリスク妊婦の看護;成育医療研究会;国立成育医療研究センター看護部;2018.11
51. 山野織江(外来);ぜん息に関するミニ体験教室;ぜん息児水泳記録会講演;独立行政法人

環境再生保全機構;2018.11.12
52. 萩原美幸(11 東);不妊症看護マネジメント;認定看護師教育課程(不妊症看護コース);聖路加国際大学教育センター;2018.11.9
53. 木須彩(専門看護室);こどもサポートチームの取り組み;成育医療研究会;国立成育医療研究センター看護部;2018.11.13
54. 柴田映子(8 西);日本小児がん看護学会教育委員会セミナー「小児がん治療の曝露対策」座長;第 16 回日本小児がん看護学会;日本小児がん看護学会;2018.11.15
55. 山林美有紀(専門看護師);隔離対策、どんな菌を、どこまで、どうやって、隔離するか;第 12 回新生児感染症管理予防研修会;2018.11.23
56. 三田浩子(4NICU);助産診断・技術学持論;助産コース1年生講義;東京医療保健大学;2018.11.22
57. 柳田亜紀子(6 西);東京医療保健大学;2018.11.22
58. 奥田裕美(専門看護室);胃瘻・気管切開の皮膚ケア;小児在宅医療技術講習会;国立成育医療研究センター地域連携・患者支援センター;2018.11.24
59. 奥田裕美(専門看護室);少子高齢化社会における医療・看護の役割を再考する～小児看護、高齢者看護への取り組みの実際より～;茨城県協働推進研修事業;筑波大学病院;2018.12.8
60. 阿部知佳子(4NICU);NICU における MRSA アウトブレイク調査・改善支援;埼玉県立小児医療センター講師;日本小児総合医療施設協議会小児感染管理ネットワーク;2018.12.14
61. 小江寛子(4NICU);医療的ケアが必要な子どもの就学にむけた母親の認識と取り組みの特徴;千葉大学附属病院第 42 回小児外科教室例会;2018.12.1
62. 後藤清香(10 西);思春期看護の倫理;成育医療研修会;国立成育医療センター看護部;2018.12.27

4-8　各種事業
妊娠と薬情報センター事業

[原著論文:査読付](Reviewed Paper)

1. Saito J, Yakuwa N, Takai C, Nakajima K, Kaneko K, Goto M, Ishikawa Y, Murashima A : Tocilizumab concentrations in maternal serum and breast milk during breastfeeding and a safety assessment in infants: a case study. Rheumatology (Oxford). 2018;57:1499-1501
2. Yakuwa N, Nakajima K, Koinuma S, Goto M, Suzuki T, Ito N, Watanabe O, Murashima A : Perception of pregnant Japanese women regarding the teratogenic risk of medication exposure during pregnancy and the effect of counseling through the Japan drug information institute in pregnancy. Reproductive Toxicology. 2018;79:66–71
3. Kaneko K, Mishima S, Goto M, Mitsui M, Tanigaki S, Oku K, Ozawa N, Inoue E, Atsumi T, Sago H, Murashima A: Clinical feature and anti-phospholipid antibody profiles of pregnancy failure in young women with antiphospholipid antibody syndrome treated with conventional therapy.　Mod Rheumatol. 2018;28:670-675
4. Aoki H, Ito N, Kaniwa N, Saito Y, Wada Y, Nakajima K, Sago H, Murashima A, Okamoto A, Ito S: Low Levels of Amlodipine in Breast Milk and Plasma. Breastfeed Med. 2018;13:622-626

[総説]

1. 三島就子, 村島温子 :　合併症妊娠の薬物療法　膠原病.　周産期医学　2018 ; 48 : 83-85
2. 三島就子, 村島温子: 腎疾患患者の妊娠中薬物療法. リウマチ科　2018 ; 59 : 172-177
3. 和田友香, 村島温子 :　授乳・離乳支援　母乳育児が行えない場合の支援. 小児内科　2018 ; 50 : 77-81
4. 村島温子 :　妊娠と薬剤(膠原病合併妊娠も含めて).　Visual Dermatology　2018 ; 17 : 928-931
5. 村島温子 :　MTX と妊娠.　Visual Dermatology　2018 ; 18 : 58
6. 肥沼　幸, 村島温子: 赤ちゃんとお母さんのためのアレルギー読本　妊娠中および授乳期のアレルギー疾患に対する薬物療法. 周産期医学　2018;48 増刊号:1579-1585
7. 肥沼　幸, 村島温子: 特集　今さら聞けない産婦人科診療のコツとトラブル対処法　妊娠中・授乳中の投薬－投薬の原則と実際－. 産婦人科の実際　2018;67:1579-1585
8. 藤岡　泉, 村島温子: 周産期を知るためのミニマム知識　妊娠・授乳と薬剤. Modern Physician 2018;38:1125-1128
9. 髙井千夏, 村島温子 :　内科疾患における生物学的製剤の使い分け　周産期, 周術期などにおける使用.　Modern Physician　2018 ; 38 : 990-991
10. 八鍬奈穂, 中島　研:　専門薬剤師からみた勘所　プロフェッショナル EYE 妊娠中の解熱鎮痛薬といえば・・・.　薬局　2018 ; (69) : 139-143
11. 八鍬奈穂, 中島　研:　妊婦とくすりの基礎知識　てんかんと妊娠.　日経ドラッグインフォメーション　プレミアム版　2018;(5):19-20
12. 八鍬奈穂,中島　研:　妊婦とくすりの基礎知識　バルプロ酸.　日経ドラッグインフォメーション　プレミアム版　2018;(6): 19-20
13. 八鍬奈穂,中島　研:　妊婦とくすりの基礎知識　カルバマゼピン、ラモトリギン.　日経ドラッグインフォメーション　プレミアム版　2018;(7):19-20
14. 八鍬奈穂, 中島　研:　妊婦とくすりの基礎知識　インスリン製剤.　日経ドラッグインフォメーションプレミアム版　2018;(10):19-20
15. 中島　研, 八鍬奈穂: 妊婦とくすりの基礎知識　スルホニル尿素薬.　日経ドラッグインフォメーション　プレミアム版　2018;(11):19-21
16. 中島　研, 八鍬奈穂: 妊婦とくすりの基礎知識　経口糖尿病治療薬.　日経ドラッグインフォメーション　プレミアム版　2018;(12):19-21

[著書]

1. 村島温子:　妊娠中の薬物投与の基本.　北野敦子，塩田恭子，村島温子，山内英子，山内照夫，米盛　勧（編集），　妊娠期がん診療ガイドブック，　南山堂，　2018；34-40
2. 後藤美賀子:　妊娠中のがん治療薬投与による影響.　北野敦子，塩田恭子，村島温子，山内英子，山内照夫，米盛　勧（編集），　妊娠期がん診療ガイドブック，　南山堂，　2018；72-80
3. 後藤美賀子，村島温子:　シェ―グレン症候群患者の妊娠・出産.　日本シェ―グレン症候群学会（編集），　竹内　勤，川上　純，住田孝之（監修），　シェーグレン症候群の診断と治療マニュアル.　診断と治療社，　2018；162-167
4. 後藤美賀子:　妊娠中に精神科治療薬を処方される場合のインフォームド・コンセント取得プロセス.　Megan Galbally, Martien Snellen, Andrew Lewis　（原著），岡野禎治・鈴木利人・渡邉央美（監訳），妊婦の精神疾患と向精神薬，南山堂，2018；5-16
5. 金子佳代子，村島温子：　第1部　ステロイドの基礎知識　9．妊婦・授乳婦への投与.　山本一彦(編集)，　ステロイドの選び方･使い方ハンドブック(改訂第3版)，　羊土社，　2018；64-69
6. 肥沼　幸：　新生児薬物離脱症候群　12 妊娠中における物質乱用の管理：母体と新生児それぞれの観点から.　Megan Galbally, Martien Snellen, Andrew Lewis　（原著），岡野禎治・鈴木利人・渡邉央美（監訳），　妊婦の精神疾患と向精神薬，　南山堂，　2018；181-189
7. 肥沼　幸：　高照度光療法,S-アデノシルメチオニン，頭蓋電気刺激療法　13 妊娠中の精神科領域の補完代替療法.　Megan Galbally, Martien Snellen, Andrew Lewis　（原著），岡野禎治・鈴木利人・渡邉央美（監訳），妊婦の精神疾患と向精神薬，　南山堂，　2018；196-197
8. 八鍬奈穂：　不安・睡眠障害、精神薬理学と妊娠　ベンゾジアゼピン系薬剤と妊娠、プレガバリンと妊娠、不眠症と妊娠、催眠薬と妊娠.　Megan Galbally, Martien Snellen, Andrew Lewis（原著），岡野禎治・鈴木利人・渡邉央美（監訳），妊婦の精神疾患と向精神薬，南山堂，2018；90-95
9. 八鍬奈穂：　妊娠中の精神領域の補完代替療法　必須脂肪酸、葉酸塩・葉酸・L-メチル葉酸塩.　Megan Galbally, Martien Snellen, Andrew Lewis　（原著），岡野禎治・鈴木利人・渡邉央美（監訳），妊婦の精神疾患と向精神薬，南山堂，2018；90-95
10. 中島 研，八鍬奈穂:　妊娠期における葉酸投与の意義と使い方.　精神科治療学，　診断と治療社，　2018；837-844
11. 八鍬奈穂，中島 研:　妊娠と薬情報センターにおける薬剤師の活動状況.　ファルマシア，日本薬学会，　2018；754-761

[ガイドライン、研究報告書、その他]

1. 村島温子：　全身性エリテマトーデス（SLE）、関節リウマチ（RA）若年性特発性関節炎（JIA）や炎症性腸疾患（IBD）罹患女性患者の妊娠、出産を考えた治療指針．平成28－29 年度　厚生労働科学研究費補助金　難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業「関節リウマチ（RA）や炎症性腸疾患（IBD）罹患女性患者の妊娠、出産を考えた治療指針の作成」研究班　（編集），　齋藤　滋（研究代表者）　2018 年 3 月
2. 村島温子，林　昌洋，濱田洋実，中山健夫，高橋邦彦：　平成 29 年度日本医療研究開発機構委託研究費（医薬品等規制調和・評価研究事業）「妊婦及び授乳婦への薬物投与に関するリスク･ベネフィットに関する研究」，　平成 29 年度委託研究開発成果報告書，2018 年 5 月

[学会発表]

1. Mito A, Murashima A, Wada Y, Miyasato-Isoda M, Kamiya CA, Yoshimatsu J, Yakuwa N, Watanabe O, Suzuki T, Arata N, Ito S: SAFETY OF AMLODIPINE IN EARLY PREGNANCY. Congress of the International Society of Hypertension in Pregnancy 2018. Amsterdam Netherlands, 2018.10.9
2. 村島温子，髙井千夏：　【シンポジウム】ACHD の妊娠・出産管理　妊娠・授乳中の薬物治療.　第 20 回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会，　東京，　2018.1.28

3. 後藤美賀子，中島 研，高井千夏，三島就子，金子佳代子，川上美里，渡邉央美，村島温子：妊娠と薬情報センターのデータベースを用いたエタネルセプトに妊娠中に曝露した例の解析． 第 62 回日本リウマチ学会総会・学術集会， 東京， 2018.4.27
4. 河野千慧，三島就子，金子佳代子，髙井千夏，川上美里，後藤美賀子，村島温子： 治療抵抗性の抗リン脂質抗体症候群(APS)合併妊娠に対しプラバスタチンを使用した二例． 第 62 回日本リウマチ学会総会・学術集会， 東京， 2018.4.28
5. 肥沼 幸， 村島温子， 福田晃也， 阪本靖介， 笠原群生： ABO 不適合生体肝移植後に妊娠・授乳中にタクロリムスの内服を継続しながら 3 度の妊娠出産を経験した 1 例． 第 36 回日本肝移植研究会， 東京， 2018.5.26
6. 肥沼 幸，福田晃也，阪本靖介，村島温子，笠原群生: 生体肝移植後にタクロリムスの内服を継続しながら 3 度の妊娠出産を経験した 1 例． 第 3 回日本母性内科学会総会・学術集会， 東京， 2018.7.1
7. 川上美里，八鍬奈穂，後藤美賀子，肥沼 幸，中島 研，村島温子： 妊娠と薬情報センターへの相談事例におけるタクロリムス妊娠時曝露例と児の転帰の解析． 第 3 回日本母性内科学会総会・学術集会， 東京， 2018.7.1
8. 藤岡 泉，渡邊央美，肥沼 幸，村島温子： 妊娠・授乳と薬に関する相談 向精神薬服用症例の特徴． 第 54 回日本周産期・新生児医学会学術集会， 東京， 2018.7.8
9. 八鍬奈穂： 【教育セミナー】 汎用薬の催奇形性を考える JAK 阻害薬． 第 58 回日本先天異常学会学術集会， 東京， 2018.7.29
10. 三戸麻子，村島温子，和田芳直，宮里 舞，神谷千津子，塩野入規，吉松 淳，八鍬奈穂，鈴木 朋，荒田尚子，伊藤真也： 妊娠初期にアムロジピンを使用した 50 例の報告． 第 41 回日本高血圧学会総会， 旭川， 2018.9.14
11. 三戸麻子，村島温子： 妊娠年齢高血圧女性に対する降圧加療の実態調査． 第 41 回日本高血圧学会総会， 旭川， 2018.9.14
12. 肥沼 幸，福田晃也，阪本靖介，上遠野雅美，久保田智美，村島温子，笠原群生: タクロリムスでの治療中の母乳哺育～生体肝移植後に 3 時の母乳哺育を行った症例の経験より～．第 54 回日本移植学会総会， 東京， 2018.10.5
13. 齊藤順平，八鍬奈穂，髙井千夏，中島 研，金子佳代子，後藤美賀子，山谷明正，石川洋一，村島温子: 抗体製剤 Tocilizumab の母乳中移行性および哺乳児への安全性評価に関する症例報告， 第 28 回日本医療薬学会年会， 神戸， 2018.11.23

[講演]

1. 村島温子： 【教育研修講演】リウマチ性疾患と妊娠 母性内科の立場から． 第 62 回日本リウマチ学会総会・学術集会， 東京， 2018.4.27
2. 村島温子： 妊娠・授乳中の薬の使い方． 第 25 回練馬区医学会， 東京， 2018.6.3
3. 村島温子： リウマチ・膠原病合併妊娠の薬物療法． 熊本県病院薬剤師会 妊婦・授乳婦薬物療法ワーキンググループ研修会， 熊本， 2018.6.23
4. 村島温子： 内科合併症と不妊治療「不妊症・不育症の診断と治療」． 聖路加国際大学教育センター 認定看護師教育課程（不妊症看護コース)， 東京， 2018.7.7
5. 村島温子： 知っておきたい、妊婦さんと薬の上手な付き合い方． 東京保険医協会「日常診療学習会」， 東京， 2018.9.27
6. 村島温子： 妊娠・授乳中の投薬． 札幌市小児科医会研究会， 札幌， 2018.9.22
7. 村島温子： 【教育講演】リウマチ性疾患の妊娠管理． 第 33 回日本臨床リウマチ学会，東京， 2018.11.24
8. 後藤美賀子; リウマチ合併妊娠と薬剤． 妊娠と薬情報センター業務研修会， 東京，2018.3.10
9. 後藤美賀子: SLE 患者における妊娠・薬剤について． 第 2 回ライフサイクルに応じたリウマチ膠原病治療研究会， 神奈川， 2018.10.8
10. 後藤美賀子: 妊娠と薬に関わるガイドラインを読み解く． 妊娠と薬情報センターフォーラム， 東京， 2018.10.14

11. 後藤美賀子： 妊娠と薬・栄養． NPO 法人 女性医療ネットワークシンポジウム， 愛知，2018.11.3
12. 肥沼 幸: 妊娠と薬情報センター 10 年の成果とこれからの課題． Women's Health Forum 2018， 東京， 2018.6.10
13. 肥沼 幸: 授乳中の薬の考え方． 第 1 回地域女性の妊娠とくすりの悩みの支援と情報提供ができるかかりつけ薬剤師になる!! 保険薬局薬剤師向け「妊娠と薬情報センター」研修会， 東京，2018.7.29
14. 肥沼 幸: 授乳中の薬の考え方． 第 2 回地域女性の妊娠とくすりの悩みの支援と情報提供ができるかかりつけ薬剤師になる!! 保険薬局薬剤師向け「妊娠と薬情報センター」研修会， 東京，2018.8.26
15. 肥沼 幸: くすりと葉酸． 第 4 回プレコンセプションケア・オープンセミナー ～葉酸とプレコンセプションケア～， 東京， 2018.11.13
16. 肥沼 幸: 授乳中の薬の考え方． 第 3 回地域女性の妊娠とくすりの悩みの支援と情報提供ができるかかりつけ薬剤師になる!! 保険薬局薬剤師向け「妊娠と薬情報センター」研修会， 大阪，2018.12.16
17. 八鍬奈穂: カウンセリング．第 11 回妊娠と薬情報センター業務研修会，東京， 2018.2.9
18. 八鍬奈穂: 薬理学総論（作用機序・薬物動態等）． 東京医療保健大学大学院看護学研究科：助産薬理学特論， 東京， 2018.10.4
19. 八鍬奈穂: 薬理学 各論Ⅰ 漢方薬 妊婦・授乳婦に頻用される薬剤（1）． 東京医療保健大学大学院看護学研究科：助産薬理学特論，東京， 2018.10.11
20. 八鍬奈穂: 妊娠中の薬剤曝露による児の発達への影響に関するトピックス～アセトアミノフェンなどの薬剤を中心に～． 妊娠と薬情報センターフォーラム 妊娠と薬－最新のトピックスを読み解く，東京， 2018.10.14
21. 八鍬奈穂: 薬理学 各論Ⅱ 妊婦・授乳婦に頻用される薬剤（2）． 東京医療保健大学大学院看護学研究科：助産薬理学特論，東京， 2018.10.18
22. 八鍬奈穂: 薬剤情報の収集方法と読み方 薬剤の取り扱い（麻薬・向精神薬など）． 東京医療保健大学大学院看護学研究科：助産薬理学特論，東京， 2018.10.25
23. 八鍬奈穂: 妊娠高血圧症候群の管理． 第 4 回東京都病院薬剤師会 妊婦・授乳婦専門薬剤師養成研修会，東京， 2018.11.28

小児と薬情報収集ネットワーク整備事業

[原著論文:査読付]

1. 荒牧英治、若宮翔子、岩尾友秀、川上庶子、中江睦美、松本妙子、友廣公子、栗山猛: 小児頻用医薬品に関する医薬品添付文書における記載状況の調査, 医療情報学, Volume 38 (Number 6), 2018

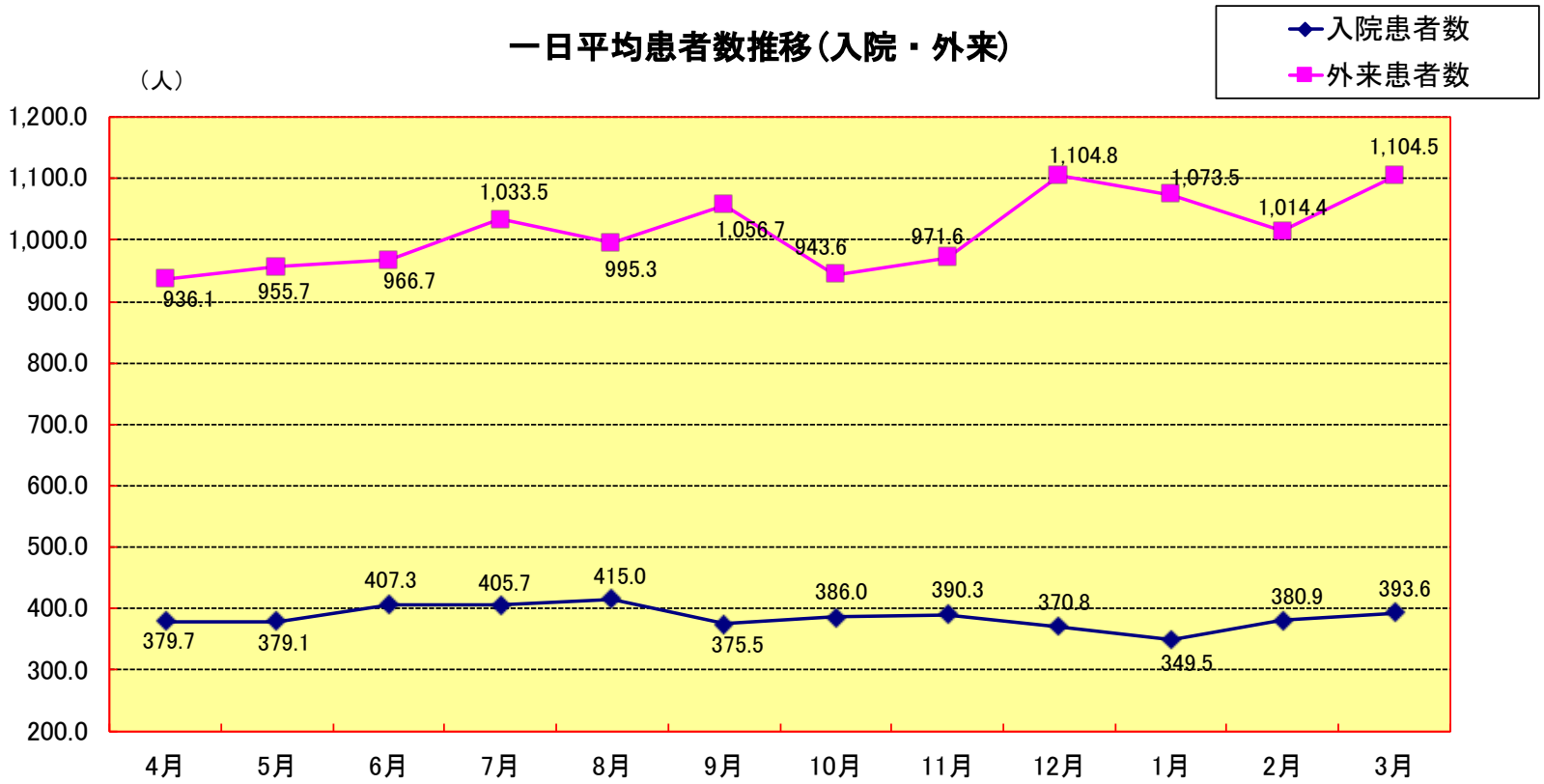
[総説]

1. 加藤省吾、森川和彦、中野孝介、小笠原尚久、三井誠二、栗山猛ら. 小児医療情報収集基盤を用いた臨床研究の可能性－チアマゾール処方患者に対する観察研究－. 日本小児臨床薬理学会雑誌. 2018;31(1):62 - 6.

[ガイドライン、報告書、その他]

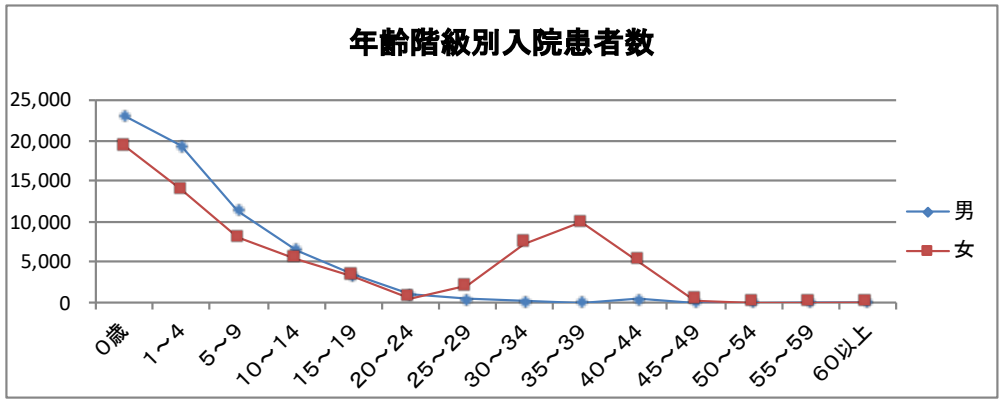
1. 栗山猛:小児領域の医薬品の適正使用推進のための人工知能を用いた医療情報データベースの利活用に関する研究(平成 29 年度厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研研究事業)), 平成 29 年度総括研究報告書, 2018.5
2. 栗山猛:医薬品の安全性評価のためのデータベースの高度化に関する研究(国立研究開発法人日本医療研究開発機構(臨床研究等 ICT 基盤構築研究事業))平成 29 年度分担研究報告書, 2018.5

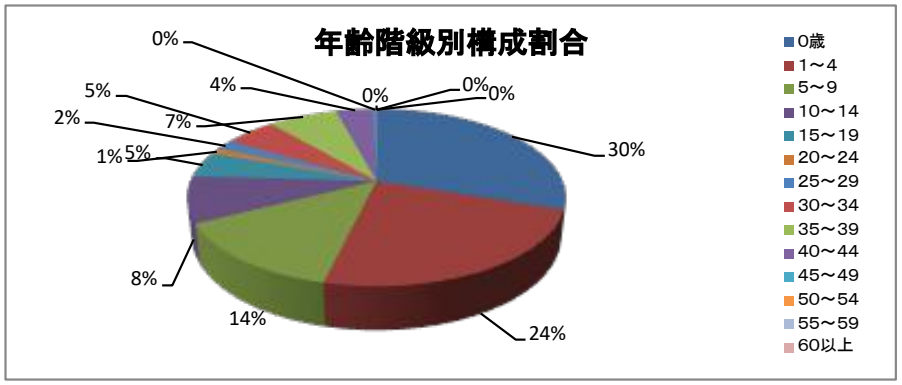
５　医事統計（入院・外来・救急・分娩に関す統計表）



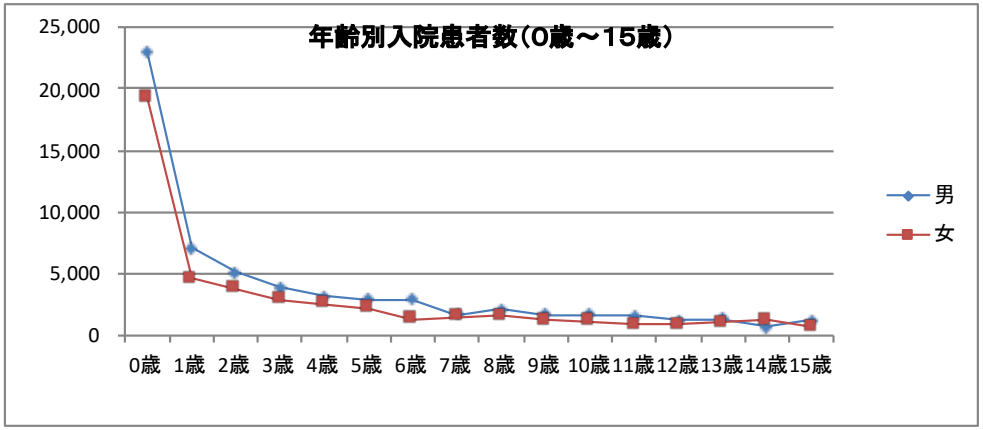
【平成３０年度】

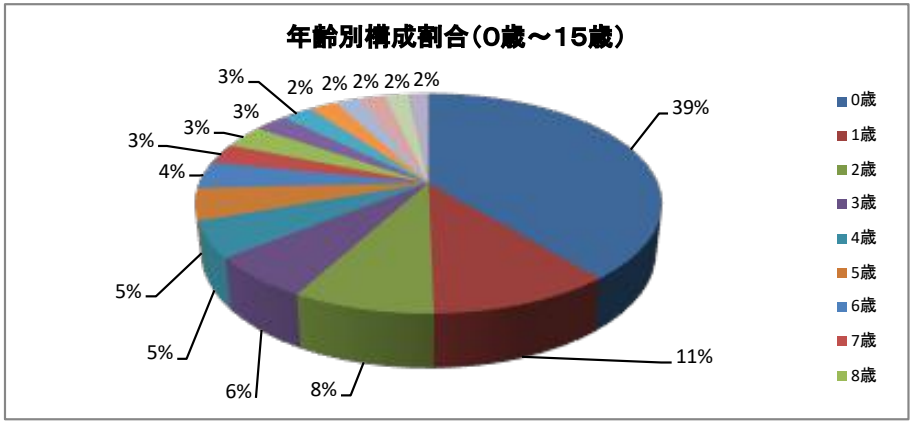
区　分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入院患者数	379.7	379.1	407.3	405.7	415.0	375.5	386.0	390.3	370.8	349.5	380.9	393.6	386.1
外来患者数	936.1	955.7	966.7	1,033.5	995.3	1,056.7	943.6	971.6	1,104.8	1,073.5	1,014.4	1,104.5	1,010.7



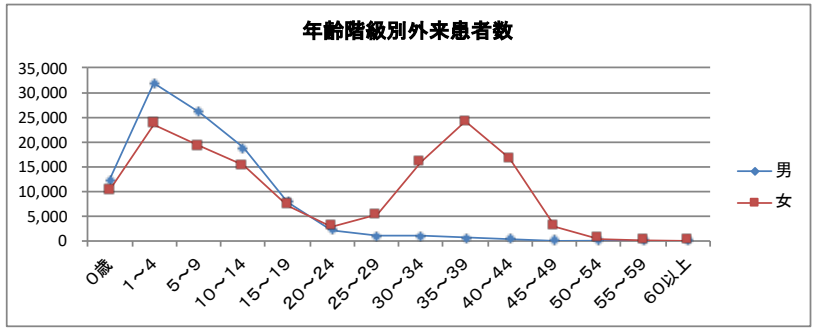


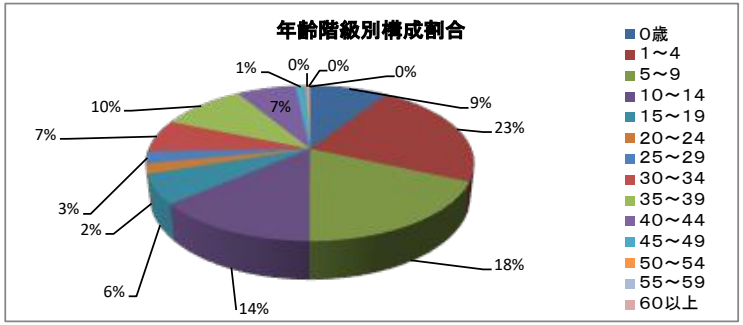
	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60以上	総計
男	23,066	19,378	11,366	6,564	3,417	930	443	185	24	395	15	2	0	0	65,785
女	19,361	13,944	7,934	5,360	3,214	544	2,090	7,345	9,913	5,102	305	29	18	0	75,159
合計	42,427	33,322	19,300	11,924	6,631	1,474	2,533	7,530	9,937	5,497	320	31	18	0	140,944
構成割合	30.1%	23.6%	13.7%	8.5%	4.7%	1.1%	1.8%	5.3%	7.1%	3.9%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%



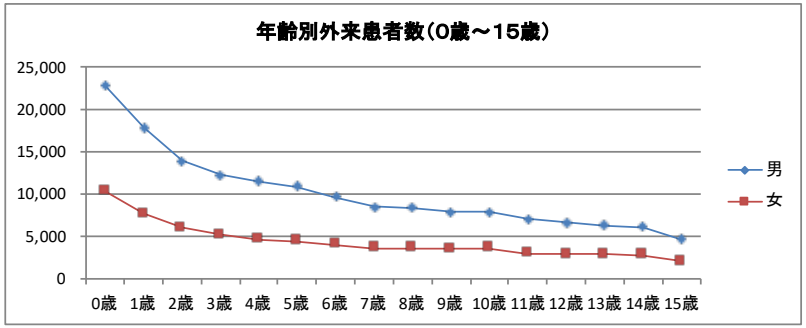


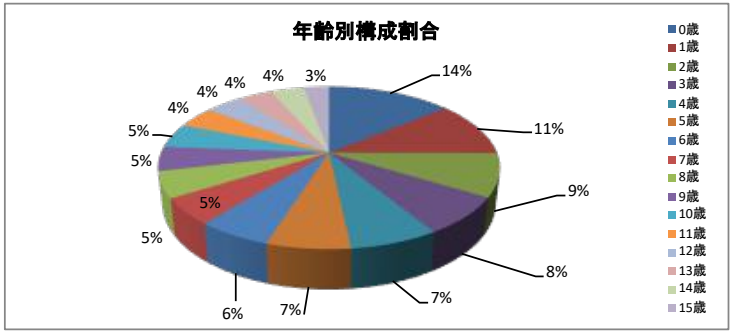
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	総計
男	23,066	7,062	5,182	3,929	3,205	2,914	2,959	1,691	2,141	1,661	1,646	1,561	1,273	1,336	748	1,210	61,584
女	19,361	4,620	3,825	2,951	2,548	2,214	1,369	1,533	1,563	1,255	1,182	907	909	1,101	1,261	710	47,309
合計	42,427	11,682	9,007	6,880	5,753	5,128	4,328	3,224	3,704	2,916	2,828	2,468	2,182	2,437	2,009	1,920	108,893
構成割合	39.0%	10.7%	8.3%	6.3%	5.3%	4.7%	4.0%	3.0%	3.4%	2.7%	2.6%	2.3%	2.0%	2.2%	1.8%	1.8%	100.0%





	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60以上	総計
男	12,445	31,832	26,072	18,680	7,866	2,221	979	926	667	536	195	64	160	160	102,803
女	10,311	23,550	19,173	15,197	7,182	2,893	5,207	15,869	24,134	16,611	2,876	545	134	135	143,817
合計	22,756	55,382	45,245	33,877	15,048	5,114	6,186	16,795	24,801	17,147	3,071	609	294	295	246,620
構成割合	9.2%	22.5%	18.4%	13.7%	6.1%	2.1%	2.5%	6.8%	10.1%	7.0%	1.3%	0.3%	0.1%	0.1%	100.0%





	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	総計
男	12,445	10,148	7,828	6,999	6,857	6,442	5,582	4,841	4,793	4,414	4,296	3,996	3,782	3,328	3,278	2,529	91,558
女	10,311	7,679	6,040	5,209	4,622	4,402	4,059	3,646	3,592	3,474	3,563	3,009	2,854	2,938	2,833	2,098	70,329
合計	22,756	17,827	13,868	12,208	11,479	10,844	9,641	8,487	8,385	7,888	7,859	7,005	6,636	6,266	6,111	4,627	161,887
構成割合	14.1%	11.0%	8.6%	7.5%	7.1%	6.7%	6.0%	5.2%	5.2%	4.9%	4.9%	4.3%	4.1%	3.9%	3.8%	2.9%	100.0%

２ 病棟別統計

２－１表　病棟別・月別入院患者数

（単位：人）

病棟別			病床数	平成３０年４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	平成３１年１月	２月	３月	合　計
一般	４階東	ＰＩＣＵ	20	516	517	529	536	533	510	494	490	501	494	483	507	6,110
	４階西	ＮＩＣＵ	21	596	624	617	636	622	623	638	596	626	577	425	533	7,113
		病的新生児・未熟児（ＧＣＵ）	18	291	326	384	432	426	349	436	393	362	340	261	333	4,333
	６階東	母性・分娩	22	564	629	605	557	597	501	596	540	537	411	440	568	6,545
		MFICU	6	142	170	148	151	153	132	134	141	140	113	133	167	1,724
	６階西	周産期	36	797	995	906	827	1,024	741	856	809	779	711	654	731	9,830
		病的新生児・未熟児（ＧＣＵ）	12	202	190	175	224	291	249	300	270	260	255	207	295	2,918
	７階東	小児（一般外科）	37	865	919	1,007	1,029	1,047	930	1,007	987	972	933	908	1,032	11,636
	７階西	小児（特殊外科）	37	937	986	1,012	1,027	1,040	940	1,025	973	890	914	901	946	11,591
	８階東	小児（内科系）（学童）	32	699	853	885	878	876	785	847	842	848	824	779	865	9,981
	８階西	小児(小児がん)	30	738	660	725	770	751	657	675	629	652	657	710	802	8,426
	９階東	小児（内科系）（乳幼児）	30	778	765	824	871	851	800	829	805	768	747	775	824	9,637
	９階西	小児（内科系）（乳幼児）	30	616	519	607	694	693	584	636	630	608	579	612	668	7,446
	10階東	成人（キャリーオーバー）	40	917	870	950	1,014	989	920	1,006	948	950	877	887	1,025	11,353
	10階西	小児(小児がん)	37	835	856	892	893	966	922	844	868	879	840	841	1,014	10,650
	11階東	成人（内科系）、周産期	36	784	689	783	887	743	481	550	635	609	522	653	842	8,178
	11階西	周産期(病的新生児8床含)	35	898	966	964	920	1,013	932	871	940	892	840	782	828	10,846
	もみじの家	医療型短期入所（福祉）	11	217	217	206	232	251	209	223	213	221	201	214	223	2,627
一　般　計			490	11,392	11,751	12,219	12,578	12,866	11,265	11,967	11,709	11,494	10,835	10,665	12,203	140,944

※H31．3現在医療法病床数

２－２表　　病棟別・月別１日平均入院患者数

（単位：人）

病棟別			病床数	平成３０年4月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	平成３１年1月	２月	３月	合　計
一般	４階東	ＰＩＣＵ	20	17.2	16.7	17.6	17.3	17.2	17.0	15.9	16.3	16.2	15.9	17.3	16.4	16.7
	４階西	ＮＩＣＵ	21	19.9	20.1	20.6	20.5	20.1	20.8	20.6	19.9	20.2	18.6	15.2	17.2	19.5
		病的新生児・未熟児（ＧＣＵ）	18	9.7	10.5	12.8	13.9	13.7	11.6	14.1	13.1	11.7	11.0	9.3	10.7	11.9
	６階東	母性・分娩	22	18.8	20.3	20.2	18.0	19.3	16.7	19.2	18.0	17.3	13.3	15.7	18.3	17.9
		MFICU	6	4.7	5.5	4.9	4.9	4.9	4.4	4.3	4.7	4.5	3.6	4.8	5.4	4.7
	６階西	周産期	36	26.6	32.1	30.2	26.7	33.0	24.7	27.6	27.0	25.1	22.9	23.4	23.6	26.9
		病的新生児・未熟児（ＧＣＵ）	12	6.7	6.1	5.8	7.2	9.4	8.3	9.7	9.0	8.4	8.2	7.4	9.5	8.0
	７階東	小児（一般外科）	37	28.8	29.6	33.6	33.2	33.8	31.0	32.5	32.9	31.4	30.1	32.4	33.3	31.9
	７階西	小児（特殊外科）	37	31.2	31.8	33.7	33.1	33.5	31.3	33.1	32.4	28.7	29.5	32.2	30.5	31.8
	８階東	小児（内科系）（学童）	32	23.3	27.5	29.5	28.3	28.3	26.2	27.3	28.1	27.4	26.6	27.8	27.9	27.3
	８階西	小児(小児がん)	30	24.6	21.3	24.2	24.8	24.2	21.9	21.8	21.0	21.0	21.2	25.4	25.9	23.1
	９階東	小児（内科系）（乳幼児）	30	25.9	24.7	27.5	28.1	27.5	26.7	26.7	26.8	24.8	24.1	27.7	26.6	26.4
	９階西	小児（内科系）（乳幼児）	30	20.5	16.7	20.2	22.4	22.4	19.5	20.5	21.0	19.6	18.7	21.9	21.5	20.4
	10階東	成人（キャリーオーバー）	40	30.6	28.1	31.7	32.7	31.9	30.7	32.5	31.6	30.6	28.3	31.7	33.1	31.1
	10階西	小児(小児がん)	37	27.8	27.6	29.7	28.8	31.2	30.7	27.2	28.9	28.4	27.1	30.0	32.7	29.2
	11階東	成人（内科系）、周産期	36	26.1	22.2	26.1	28.6	24.0	16.0	17.7	21.2	19.6	16.8	23.3	27.2	22.4
	11階西	周産期(病的新生児8床含)	35	29.9	31.2	32.1	29.7	32.7	31.1	28.1	31.3	28.8	27.1	27.9	26.7	29.7
	もみじの家	医療型短期入所（福祉）	11	7.2	7.0	6.9	7.5	8.1	7.0	7.2	7.1	7.1	6.5	7.6	7.2	7.2
一　般　計			490	379.7	379.1	407.3	405.7	415.0	375.5	386.0	390.3	370.8	349.5	380.9	393.6	386.1

※H31．3現在医療法病床数

２－３表　　病棟別・月別病床利用率

（単位：%）

病棟別			病床数	平成３０年４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	平成３１年１月	２月	３月	合　計
一般	４階東	ＰＩＣＵ	20	86.0	83.5	88.0	86.5	86.0	85.0	79.5	81.5	81.0	79.5	86.5	82.0	83.5
	４階西	ＮＩＣＵ	21	94.8	95.7	98.1	97.6	95.7	99.0	98.1	94.8	96.2	88.6	72.4	81.9	92.9
		病的新生児・未熟児（ＧＣＵ）	18	53.9	58.3	71.1	77.2	76.1	64.4	78.3	72.8	65.0	61.1	51.7	59.4	66.1
	６階東	母性・分娩	22	85.5	92.3	91.8	81.8	87.7	75.9	87.3	81.8	78.6	60.5	71.4	83.2	81.4
		MFICU	6	78.3	91.7	81.7	81.7	81.7	73.3	71.7	78.3	75.0	60.0	80.0	90.0	78.3
	６階西	周産期	36	73.9	89.2	83.9	74.2	91.7	68.6	76.7	75.0	69.7	63.6	65.0	65.6	74.7
		病的新生児・未熟児（ＧＣＵ）	12	55.8	50.8	48.3	60.0	78.3	69.2	80.8	75.0	70.0	68.3	61.7	79.2	66.7
	７階東	小児（一般外科）	37	80.0	82.2	93.3	92.2	93.9	86.1	90.3	91.4	87.2	83.6	90.0	92.5	86.2
	７階西	小児（特殊外科）	37	86.7	88.3	93.6	91.9	93.1	86.9	91.9	90.0	79.7	81.9	89.4	84.7	85.9
	８階東	小児（内科系）（学童）	32	72.8	85.9	92.2	88.4	88.4	81.9	85.3	87.8	85.6	83.1	86.9	87.2	85.3
	８階西	小児(小児がん)	30	82.0	71.0	80.7	82.7	80.7	73.0	72.7	70.0	70.0	70.7	84.7	86.3	77.0
	９階東	小児（内科系）（乳幼児）	30	86.3	82.3	91.7	93.7	91.7	89.0	89.0	89.3	82.7	80.3	92.3	88.7	88.0
	９階西	小児（内科系）（乳幼児）	30	68.3	55.7	67.3	74.7	74.7	65.0	68.3	70.0	65.3	62.3	73.0	71.7	68.0
	10階東	成人（キャリーオーバー）	40	78.5	72.1	81.3	83.8	81.8	78.7	83.3	81.0	78.5	72.6	81.3	84.9	77.8
	10階西	小児(小児がん)	37	69.5	69.0	74.3	72.0	78.0	76.8	68.0	72.3	71.0	67.8	75.0	81.8	78.9
	11階東	成人（内科系）、周産期	36	72.5	61.7	72.5	79.4	66.7	44.4	49.2	58.9	54.4	46.7	64.7	75.6	62.2
	11階西	周産期(病的新生児8床含)	35	85.4	89.1	91.7	84.9	93.4	88.9	80.3	89.4	82.3	77.4	79.7	76.3	84.9
	もみじの家	医療型短期入所（福祉）	11	65.5	63.6	62.7	68.2	73.6	63.6	65.5	64.5	64.5	59.1	69.1	65.5	65.5
一　般　計			490	77.5	77.4	83.1	82.8	84.7	76.6	78.8	79.7	75.7	71.3	77.7	80.3	78.8

※H31．3現在医療法病床数にて算出

２－４表　　病棟別・月別新入院患者数

（単位：人）

	病棟別		病床数	平成３０年４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	平成３１年１月	２月	３月	合　計
一般	４階東	ＰＩＣＵ	20	32	28	29	35	35	36	32	19	43	43	29	27	388
	４階西	ＮＩＣＵ	21	21	28	26	35	29	27	36	31	33	6	27	31	330
		病的新生児・未熟児（ＧＣＵ）	18	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	3
	６階東	母性・分娩	22	53	31	29	40	48	43	29	37	40	48	48	50	496
		MFICU	6	17	22	17	27	27	16	21	22	18	12	18	19	236
	６階西	周産期	36	238	254	238	210	281	223	240	226	208	248	199	201	2,766
		病的新生児・未熟児（ＧＣＵ）	12	26	24	16	21	32	32	33	32	31	27	32	45	351
	７階東	小児（一般外科）	37	68	91	79	94	85	83	88	71	71	90	73	91	984
	７階西	小児（特殊外科）	37	62	62	79	85	94	84	99	74	89	86	76	73	963
	８階東	小児（内科系）（学童）	32	70	79	64	72	96	79	83	59	50	67	67	69	855
	８階西	小児(小児がん)	30	38	40	39	42	34	41	54	85	59	57	36	41	566
	９階東	小児（内科系）（乳幼児）	30	32	38	45	44	44	52	49	58	41	42	34	55	534
	９階西	小児（内科系）（乳幼児）	30	116	126	144	167	190	131	196	182	160	179	174	209	1,974
	10階東	成人（キャリーオーバー）	40	171	173	193	190	208	169	170	186	201	197	174	178	2,210
	10階西	小児(小児がん)	37	61	65	66	61	84	52	61	74	56	61	64	68	773
	11階東	成人（内科系）、周産期	36	54	65	94	115	113	62	78	84	75	71	97	96	1,004
	11階西	周産期(病的新生児8床含)	35	6	14	11	19	11	8	9	10	2	6	6	9	111
	もみじの家	医療型短期入所（福祉）	11	59	61	59	64	70	53	58	61	60	56	58	62	721
一　般　計			490	1,124	1,201	1,228	1,321	1,481	1,193	1,337	1,311	1,237	1,296	1,212	1,324	15,265

※H31．3現在医療法病床数

２－５表　　病棟別・月別退院患者数

（単位：人）

病棟別			病床数	平成３０年４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	平成３１年１月	２月	３月	合　計
一般	４階東	ＰＩＣＵ	20	9	6	4	11	8	11	7	3	7	4	3	8	81
	４階西	ＮＩＣＵ	21	3	1	2	0	4	5	3	3	3	1	2	2	29
		病的新生児・未熟児（ＧＣＵ）	18	15	18	9	13	9	15	7	18	11	7	11	22	155
	６階東	母性・分娩	22	43	38	41	45	56	45	44	40	52	51	55	57	567
		MFICU	6	2	1	2	0	2	0	0	2	0	2	0	1	12
	６階西	周産期	36	54	74	54	57	79	79	87	60	63	64	56	64	791
		病的新生児・未熟児（ＧＣＵ）	12	23	18	27	33	33	30	24	30	27	27	22	28	322
	７階東	小児（一般外科）	37	111	111	111	121	118	118	110	86	121	97	92	126	1,322
	７階西	小児（特殊外科）	37	77	79	103	108	122	120	120	100	141	91	90	103	1,254
	８階東	小児（内科系）（学童）	32	86	78	85	76	101	92	90	69	64	65	80	83	969
	８階西	小児(小児がん)	30	47	34	42	39	43	42	49	90	69	46	42	43	586
	９階東	小児（内科系）（乳幼児）	30	81	83	89	101	104	103	97	102	111	90	75	109	1,145
	９階西	小児（内科系）（乳幼児）	30	121	131	146	164	200	145	190	191	177	174	172	221	2,032
	10階東	成人（キャリーオーバー）	40	75	80	84	79	101	81	50	86	113	87	82	78	996
	10階西	小児(小児がん)	37	67	60	73	66	83	65	55	83	81	50	66	77	826
	11階東	成人（内科系）、周産期	36	65	71	94	121	127	79	83	97	91	64	112	108	1,112
	11階西	周産期(病的新生児8床含)	35	194	209	215	205	205	211	182	197	187	194	181	167	2,347
	もみじの家	医療型短期入所（福祉）	11	60	56	62	62	69	60	56	57	64	52	59	64	721
一　般　計			490	1,133	1,148	1,243	1,301	1,464	1,301	1,254	1,314	1,382	1,166	1,200	1,361	15,267

※H31．3現在医療法病床数

２－６表　　病棟別・月別平均在院日数

（単位：日）

病棟別			病床数	平成３０年４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	平成３１年１月	２月	３月	合　計
一般	４階東	ＰＩＣＵ	20	25.2	30.4	32.1	23.3	24.8	21.7	25.3	44.5	20.0	21.0	30.2	29.0	26.1
	４階西	ＮＩＣＵ	21	49.7	43.0	44.1	36.3	37.7	38.9	32.7	35.1	34.8	164.9	29.3	32.3	39.6
		病的新生児・未熟児（ＧＣＵ）	18	38.8	36.2	85.3	66.5	94.7	41.1	109.0	43.7	65.8	97.1	47.5	30.3	54.8
	６階東	母性・分娩	22	11.8	18.2	17.3	13.1	11.5	11.4	16.3	14.0	11.7	8.3	8.5	10.6	12.3
		MFICU	6	14.9	14.8	15.6	11.2	10.6	16.5	12.8	11.8	15.6	16.1	14.8	16.7	13.9
	６階西	周産期	36	5.5	6.1	6.2	6.2	5.7	4.9	5.2	5.7	5.7	4.6	5.1	5.5	5.5
		病的新生児・未熟児（ＧＣＵ）	12	8.2	9.0	8.1	8.3	9.0	8.0	10.5	8.7	9.0	9.4	7.7	8.1	8.7
	７階東	小児（一般外科）	37	9.7	9.1	10.6	9.6	10.3	9.3	10.2	12.6	10.1	10.0	11.0	9.5	10.1
	７階西	小児（特殊外科）	37	13.5	14.0	11.1	10.6	9.6	9.2	9.4	11.2	7.7	10.3	10.9	10.8	10.5
	８階東	小児（内科系）（学童）	32	9.0	10.9	11.9	11.9	8.9	9.2	9.8	13.2	14.9	12.5	10.6	11.4	10.9
	８階西	小児(小児がん)	30	17.4	17.8	17.9	19.0	19.5	15.8	13.1	7.2	10.2	12.8	18.2	19.1	14.6
	９階東	小児（内科系）（乳幼児）	30	13.8	12.6	12.3	12.0	11.5	10.3	11.4	10.1	10.1	11.3	14.2	10.0	11.5
	９階西	小児（内科系）（乳幼児）	30	5.2	4.0	4.2	4.2	3.6	4.2	3.3	3.4	3.6	3.3	3.5	3.1	3.7
	10階東	成人（キャリーオーバー）	40	7.5	6.9	6.9	7.5	6.4	7.4	9.1	7.0	6.1	6.2	6.9	8.0	7.1
	10階西	小児(小児がん)	37	13.0	13.7	12.8	14.1	11.6	15.8	14.6	11.1	12.8	15.1	12.9	14.0	13.3
	11階東	成人（内科系）、周産期	36	13.2	10.1	8.3	7.5	6.2	6.8	6.8	7.0	7.3	7.7	6.2	8.3	7.7
	11階西	周産期(病的新生児8床含)	35	9.0	8.7	8.5	8.2	9.4	8.5	9.1	9.1	9.4	8.4	8.4	9.4	8.8
	もみじの家	医療型短期入所（福祉）	11	3.6	3.7	3.4	3.7	3.6	3.7	3.9	3.6	3.6	3.7	3.7	3.5	3.6
一　般　計			490	10.1	10.0	9.9	9.6	8.7	9.0	9.2	8.9	8.8	8.8	8.8	9.1	9.2

※H31．3現在医療法病床数

３　診療科別にみた月別患者数【入院】

３－１表　診療科別・月別入院患者数、構成割合

診療科名	院内標榜科名	平成３０年４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	平成３１年１月	２月	３月	合計	４月～３月一日平均	４月～３月割合
内　科	母性内科	121	155	126	137	120	129	134	53	49	120	126	89	1,359	3.7	1.0
精神科	児童・思春期リエゾン科	0	0	0	8	2	0	20	0	0	0	0	0	30	0.1	0.0
	児童・思春期メンタルヘルス科	0	47	16	26	7	0	0	0	0	0	0	0	96	0.3	0.1
	乳幼児メンタルヘルス科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
	小計	0	47	16	34	9	0	20	0	0	0	0	0	126	0.3	0.1
神経科	神経内科	192	258	282	261	275	302	238	275	271	214	264	252	3,084	8.4	2.2
	在宅診療科	217	217	206	228	251	197	223	213	221	201	214	223	2,611	7.2	1.9
	小計	409	475	488	489	526	499	461	488	492	415	478	475	5,695	15.6	4.0
呼吸器科	呼吸器科	31	42	57	60	64	66	88	55	68	97	80	50	758	2.1	0.5
消化器科	消化器科	281	205	229	385	217	214	183	184	185	216	288	355	2,942	8.1	2.1
	肝臓内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
	小計	312	247	286	445	281	280	271	239	253	313	368	405	3,700	10.1	2.6
循環器科	循環器科	307	294	335	308	357	381	305	280	357	311	276	344	3,855	10.6	2.7
アレルギー科	アレルギー科	305	342	379	340	265	232	310	286	227	223	180	265	3,354	9.2	2.4
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病	229	158	247	311	330	149	144	248	248	234	206	252	2,756	7.6	2.0
	総合診（成人診療科含む）	1,704	1,637	1,860	1,960	1793	1,815	2,042	1,801	1,865	1,676	1,601	1,808	21,562	59.1	15.3
	救急診療科	0	1	0	1	2	5	6	6	9	12	9	14	65	0.2	0.0
	血液腫瘍科	1,467	1,388	1,395	1,391	1,415	1,386	1,415	1,261	1,291	1,373	1,425	1,736	16,943	46.4	12.0
	血液内科	5	0	14	11	11	0	1	0	3	13	0	7	65	0.2	0.0
	ライソゾーム病センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
	内分泌・代謝科	167	107	158	91	200	128	148	273	194	97	130	217	1,910	5.2	1.4
	遺伝診療科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
	免疫科	154	159	117	112	88	167	104	113	112	95	59	58	1,338	3.7	0.9
	新生児科	1,629	1,707	1,800	1,814	2,037	1,817	1,996	1,840	1,797	1,771	1,407	1,615	21,230	58.2	15.1
	移植外科	277	281	287	524	416	261	434	372	392	354	407	341	4,346	11.9	3.1
	緩和ケア科	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	12	0.0	0.0
	小計	5,632	5,438	5,878	6,215	6,292	5,740	6,290	5,914	5,911	5,625	5,244	6,048	70,227	192.4	49.8
外　科	外科	332	360	393	498	603	493	465	423	404	480	488	442	5,381	14.7	3.8
整形外科	整形外科	236	339	288	277	348	252	372	355	283	319	298	394	3,761	10.3	2.7
形成外科	形成外科	87	82	117	95	80	73	68	102	86	90	81	106	1,067	2.9	0.8
脳神経外科	脳神経外科	583	607	555	740	642	471	501	644	479	480	573	703	6,978	19.1	5.0
心臓血管外科	心臓血管外科	4	3	2	15	11	15	15	5	14	9	7	12	112	0.3	0.1
皮膚科	皮膚科	9	3	8	9	9	6	11	8	8	7	9	13	100	0.3	0.1
泌尿器科	泌尿器科	137	135	154	145	155	108	120	96	107	76	121	134	1,488	4.1	1.1
産婦人科	不妊診療科	15	1	1	6	6	6	25	3	12	6	25	21	127	0.3	0.1
	不育診療科	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0.0	0.0
	胎児診療科	232	246	266	192	273	218	226	171	258	196	160	256	2,694	7.4	1.9
	産科	1,804	2,089	1,893	1,702	1,797	1,496	1,551	1,697	1,613	1,265	1,291	1,599	19,797	54.2	14.0
	婦人科	12	9	10	10	19	10	9	3	0	9	7	6	104	0.3	0.1
	小計	2,063	2,345	2,170	1,910	2,097	1,730	1,811	1,874	1,883	1,476	1,483	1,882	22,724	62.3	16.1
眼　科	眼　科	236	256	401	255	279	228	170	314	274	205	272	246	3,136	8.6	2.2
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	101	102	94	122	258	117	149	134	158	191	175	137	1,738	4.8	1.2
リハビリテーション科	リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
放射線科	放射線診断科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
	放射線治療科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
歯　科	歯科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
麻酔科	集中治療科	518	521	529	544	534	511	494	494	509	495	486	508	6,143	16.8	4.4
	麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
	小計	518	521	529	544	534	511	494	494	509	495	486	508	6,143	16.8	4.4
合　計		11,392	11,751	12,219	12,578	12,866	11,265	11,967	11,709	11,494	10,835	10,665	12,203	140,944	386.1	100.0

３－２表　診療科別・月別１日平均入院患者数

診療科名	院内標榜科名	平成３０年４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	平成３１年１月	２月	３月	合計
内　科	母性内科	4.0	5.0	4.2	4.4	3.9	4.3	4.3	1.8	1.6	3.9	4.5	2.9	3.7
精神科	児童・思春期リエゾン科	0.0	0.0	0.0	0.3	0.1	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
	児童・思春期メンタルヘルス科	0.0	1.5	0.5	0.8	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
	乳幼児メンタルヘルス科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	小計	0.0	1.5	0.5	1.1	0.3	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
神経科	神経内科	6.4	8.3	9.4	8.4	8.9	10.1	7.7	9.2	8.7	6.9	9.4	8.1	8.4
	在宅診療科	7.2	7.0	6.9	7.4	8.1	6.6	7.2	7.1	7.1	6.5	7.6	7.2	7.2
	小計	13.6	15.3	16.3	15.8	17.0	16.6	14.9	16.3	15.9	13.4	17.1	15.3	15.6
呼吸器科	呼吸器科	1.0	1.4	1.9	1.9	2.1	2.2	2.8	1.8	2.2	3.1	2.9	1.6	2.1
消化器科	消化器科	9.4	6.6	7.6	12.4	7.0	7.1	5.9	6.1	6.0	7.0	10.3	11.5	8.1
	肝臓内科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	小計	10.4	8.0	9.5	14.4	9.1	9.3	8.7	8.0	8.2	10.1	13.1	13.1	10.1
循環器科	循環器科	10.2	9.5	11.2	9.9	11.5	12.7	9.8	9.3	11.5	10.0	9.9	11.1	10.6
アレルギー科	アレルギー科	10.2	11.0	12.6	11.0	8.5	7.7	10.0	9.5	7.3	7.2	6.4	8.5	9.2
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病	7.6	5.1	8.2	10.0	10.6	5.0	4.6	8.3	8.0	7.5	7.4	8.1	7.6
	総合診　（成人診療科含む）	56.8	52.8	62.0	63.2	57.8	60.5	65.9	60.0	60.2	54.1	57.2	58.3	59.1
	救急診療科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.2	0.2	0.3	0.4	0.3	0.5	0.2
	血液腫瘍科	48.9	44.8	46.5	44.9	45.6	46.2	45.6	42.0	41.6	44.3	50.9	56.0	46.4
	血液内科	0.2	0.0	0.5	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.1	0.4	0.0	0.2	0.2
	ライソゾーム病センター	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	内分泌・代謝科	5.6	3.5	5.3	2.9	6.5	4.3	4.8	9.1	6.3	3.1	4.6	7.0	5.2
	遺伝診療科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	免疫科	5.1	5.1	3.9	3.6	2.8	5.6	3.4	3.8	3.6	3.1	2.1	1.9	3.7
	新生児科	54.3	55.1	60.0	58.5	65.7	60.6	64.4	61.3	58.0	57.1	50.3	52.1	58.2
	移植外科	9.2	9.1	9.6	16.9	13.4	8.7	14.0	12.4	12.6	11.4	14.5	11.0	11.9
	緩和ケア科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	小計	187.7	175.4	195.9	200.5	203.0	191.3	202.9	197.1	190.7	181.5	187.3	195.1	192.4
外　科	外科	11.1	11.6	13.1	16.1	19.5	16.4	15.0	14.1	13.0	15.5	17.4	14.3	14.7
整形外科	整形外科	7.9	10.9	9.6	8.9	11.2	8.4	12.0	11.8	9.1	10.3	10.6	12.7	10.3
形成外科	形成外科	2.9	2.6	3.9	3.1	2.6	2.4	2.2	3.4	2.8	2.9	2.9	3.4	2.9
脳神経外科	脳神経外科	19.4	19.6	18.5	23.9	20.7	15.7	16.2	21.5	15.5	15.5	20.5	22.7	19.1
心臓血管外科	心臓血管外科	0.1	0.1	0.1	0.5	0.4	0.5	0.5	0.2	0.5	0.3	0.3	0.4	0.3
皮膚科	皮膚科	0.3	0.1	0.3	0.3	0.3	0.2	0.4	0.3	0.3	0.2	0.3	0.4	0.3
泌尿器科	泌尿器科	4.6	4.4	5.1	4.7	5.0	3.6	3.9	3.2	3.5	2.5	4.3	4.3	4.1
産婦人科	不妊診療科	0.5	0.0	0.0	0.2	0.2	0.2	0.8	0.1	0.4	0.2	0.9	0.7	0.3
	不育診療科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	胎児診療科	7.7	7.9	8.9	6.2	8.8	7.3	7.3	5.7	8.3	6.3	5.7	8.3	7.4
	産科	60.1	67.4	63.1	54.9	58.0	49.9	50.0	56.6	52.0	40.8	46.1	51.6	54.2
	婦人科	0.4	0.3	0.3	0.3	0.6	0.3	0.3	0.1	0.0	0.3	0.3	0.2	0.3
	小計	68.8	75.6	72.3	61.6	67.6	57.7	58.4	62.5	60.7	47.6	53.0	60.7	62.3
眼　科	眼　科	7.9	8.3	13.4	8.2	9.0	7.6	5.5	10.5	8.8	6.6	9.7	7.9	8.6
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	3.4	3.3	3.1	3.9	8.3	3.9	4.8	4.5	5.1	6.2	6.3	4.4	4.8
リハビリテーション科	リハビリテーション科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
放射線科	放射線診断科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	放射線治療科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	小計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
歯　科	歯科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
麻酔科	集中治療科	17.3	16.8	17.6	17.5	17.2	17.0	15.9	16.5	16.4	16.0	17.4	16.4	16.8
	麻酔科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	小計	17.3	16.8	17.6	17.5	17.2	17.0	15.9	16.5	16.4	16.0	17.4	16.4	16.8
合　計		379.7	379.1	407.3	405.7	415.0	375.5	386.0	390.3	370.8	349.5	380.9	393.6	386.1

４　診療科別にみた月別患者数【外来】

４－１表　診療科別・月別外来患者数、構成割合

診療科名	院内標榜科名	平成３０年４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	平成３１年１月	２月	３月	合計	４月～３月一日平均	４月～３月割合
内　科	母性内科	948	1,039	1,009	1,087	997	980	1,098	1,132	1,004	904	905	978	12,081	49.5	4.9
	女性総合外来	1	2	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	6	0.0	0.0
	小計	949	1,041	1,009	1,087	997	981	1,098	1,134	1,004	904	905	978	12,087	49.5	4.9
精神科	児童・思春期リエゾン科	447	548	505	504	519	458	528	487	535	516	515	661	6,223	25.5	2.5
	児童・思春期メンタルヘルス科	88	81	90	95	88	81	91	84	65	72	75	87	997	4.1	0.4
	乳幼児メンタルヘルス科	215	296	278	295	291	253	294	267	281	281	286	300	3,337	13.7	1.4
	小計	750	925	873	894	898	792	913	838	881	869	876	1,048	10,557	43.3	4.3
神経科	神経内科	594	654	660	711	730	624	654	634	665	679	657	679	7,941	32.5	3.2
	在宅診療科	179	245	238	253	247	216	248	245	256	219	247	254	2,847	11.7	1.2
	小計	773	899	898	964	977	840	902	879	921	898	904	933	10,788	44.2	4.4
呼吸器科	呼吸器科	128	109	127	125	174	99	111	114	144	106	98	157	1,492	6.1	0.6
消化器科	消化器科	231	240	244	256	255	260	296	287	291	278	258	276	3,172	13.0	1.3
	肝臓内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
	内視鏡科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
	小計	231	240	244	256	255	260	296	287	291	278	258	276	3,172	13.0	1.3
循環器科	循環器科	499	433	513	545	566	453	513	435	453	424	431	665	5,930	24.3	2.4
アレルギー科	アレルギー科	1,069	1,110	1,154	1,239	1,373	1,042	1,178	1,205	1,276	1,253	1,131	1,453	14,483	59.4	5.9
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病	470	525	528	589	700	456	501	556	535	524	493	597	6,474	26.5	2.6
	総合診　（成人診療科含む）	1,098	1,159	1,166	1,247	1,290	1,046	1,198	1,098	1,204	1,157	1,117	1,270	14,050	57.6	5.7
	救急診療科	1,787	2,117	2,196	2,435	2,142	2,153	2,027	2,056	2,237	2,398	1,714	1,863	25,125	103.0	10.2
	血液腫瘍科	297	289	315	379	461	290	317	332	376	359	329	420	4,164	17.1	1.7
	血液内科	70	87	67	83	99	83	69	61	70	63	71	67	890	3.6	0.4
	ライソゾーム病センター	62	66	69	74	83	67	72	66	71	79	66	72	847	3.5	0.3
	内分泌・代謝科	1,063	1,038	1,086	1,299	1,448	952	1,181	1,034	1,284	1,201	1,129	1,368	14,083	57.7	5.7
	遺伝診療科	91	105	94	105	121	106	105	121	103	105	125	132	1,313	5.4	0.5
	免疫科	70	84	71	78	85	78	95	85	80	87	81	113	1,007	4.1	0.4
	新生児科	154	192	165	179	204	240	275	255	290	311	290	309	2,864	11.7	1.2
	移植外科	217	214	284	246	275	197	235	206	281	212	228	286	2,881	11.8	1.2
	感染症科	21	55	38	43	57	46	59	47	65	47	42	47	567	2.3	0.2
	病理診断科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
	小計	5,400	5,931	6,079	6,757	6,965	5,714	6,134	5,917	6,596	6,543	5,685	6,544	74,265	304.4	30.1
外　科	外科	437	402	482	521	644	432	456	428	530	448	438	533	5,751	23.6	2.3
整形外科	整形外科	613	592	706	746	898	623	681	758	710	729	701	893	8,650	35.5	3.5
形成外科	形成外科	249	260	266	291	324	263	273	286	314	278	271	343	3,418	14.0	1.4
脳神経外科	脳神経外科	349	344	338	401	473	339	300	336	388	344	360	340	4,312	17.7	1.7
心臓血管外科	心臓血管外科	20	23	25	27	34	26	32	29	30	28	28	34	336	1.4	0.1
皮膚科	皮膚科	581	623	554	598	608	524	668	606	593	572	571	740	7,238	29.7	2.9
泌尿器科	泌尿器科	447	450	366	507	444	420	460	417	435	425	402	426	5,199	21.3	2.1
産婦人科	不妊診療科	857	946	994	941	952	921	1,113	1,100	800	850	875	907	11,256	46.1	4.6
	不育診療科	158	185	169	172	178	170	180	202	194	180	207	176	2,171	8.9	0.9
	胎児診療科	317	376	355	359	366	314	371	347	355	324	286	309	4,079	16.7	1.7
	産科	2,420	2,538	2,457	2,589	2,737	2,320	2,544	2,471	2,488	2,408	2,331	2,418	29,721	121.8	12.1
	婦人科	16	27	20	12	19	9	11	9	17	13	11	15	179	0.7	0.1
	小計	3,768	4,072	3,995	4,073	4,252	3,734	4,219	4,129	3,854	3,775	3,710	3,825	47,406	194.3	19.2
眼　科	眼　科	854	912	937	845	1,005	876	829	945	880	868	914	974	10,839	44.4	4.4
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	687	792	810	740	898	714	770	768	732	744	674	912	9,241	37.9	3.7
リハビリテーション科	リハビリテーション科	87	84	89	112	146	90	101	110	111	109	115	132	1,286	5.3	0.5
放射線科	放射線診断科	19	22	22	19	14	14	16	21	27	23	16	27	240	1.0	0.1
	放射線治療科	3	0	2	12	47	25	24	14	1	26	39	18	211	0.9	0.1
	小計	22	22	24	31	61	39	40	35	28	49	55	45	451	1.8	0.2
歯　科	歯科	569	506	539	642	638	460	499	459	536	473	484	544	6,349	26.0	2.6
麻酔科	集中治療科	2	3	0	1	4	7	0	1	0	10	1	2	31	0.1	0.0
	麻酔科	238	296	272	302	259	292	286	287	284	269	261	293	3,339	13.7	1.4
	小計	240	299	272	303	263	299	286	288	284	279	262	295	3,370	13.8	1.4

合　　計	計	18,722	20,069	20,300	21,704	22,893	19,020	20,759	20,403	20,991	20,396	19,273	22,090	246,620	1,010.7
	救急除く	16,935	17,952	18,104	19,269	20,751	16,867	18,732	18,347	18,754	17,998	17,559	20,227	221,495	907.8
	救急・歯科除く	16,366	17,446	17,565	18,627	20,113	16,407	18,233	17,888	18,218	17,525	17,075	19,683	215,146	881.7

４－２表　診療科別・月別外来患者数(初診)

診療科名	院内標榜科名	平成３０年４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	平成３１年１月	２月	３月	合計	４月～３月一日平均	４月～３月割合
内　科	母性内科	45	30	44	35	40	24	34	49	31	34	31	33	430	1.8	1.6
	女性総合外来	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	4	0.0	0.0
	小計	46	31	44	35	40	24	34	51	31	34	31	33	434	1.8	1.6
精神科	児童・思春期リエゾン科	7	12	12	16	12	12	11	9	12	9	15	9	136	0.6	0.5
	児童・思春期メンタル　ヘルス科	1	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	5	0.0	0.0
	乳幼児メンタルヘルス科	10	4	3	6	6	5	2	5	7	6	6	8	68	0.3	0.3
	小計	18	16	16	23	18	17	14	14	19	16	21	17	209	0.9	0.8
神経科	神経内科	21	16	20	21	19	13	13	13	12	8	12	20	188	0.8	0.7
	在宅診療科	0	1	1	0	0	0	2	1	1	2	1	1	10	0.0	0.0
	小計	21	17	21	21	19	13	15	14	13	10	13	21	198	0.8	0.7
呼吸器科	呼吸器科	1	0	0	1	2	2	1	0	1	2	0	0	10	0.0	0.0
消化器科	消化器科	7	12	9	19	11	13	14	17	13	12	11	7	145	0.6	0.5
	肝臓内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
	内視鏡科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
	小計	7	12	9	19	11	13	14	17	13	12	11	7	145	0.6	0.5
循環器科	循環器科	20	25	29	21	19	16	17	18	15	12	17	18	227	0.9	0.9
アレルギー科	アレルギー科	49	43	57	38	51	49	56	54	37	46	36	40	556	2.3	2.1
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病	3	3	28	24	22	6	3	6	12	12	5	13	137	0.6	0.5
	総合診　(成人診療科含む)	46	47	41	48	47	42	44	38	46	26	29	40	494	2.0	1.9
	救急診療科	955	1,063	1,154	1,308	1,106	1,107	998	1,025	1,203	1,355	916	934	13,124	53.8	49.7
	血液腫瘍科	7	5	5	10	6	7	8	8	7	6	6	9	84	0.3	0.3
	血液内科	2	9	4	4	5	2	0	3	1	1	1	1	33	0.1	0.1
	ライソゾーム病センター	2	1	0	3	0	0	0	1	1	1	0	2	11	0.0	0.0
	内分泌・代謝科	26	30	32	29	37	23	30	24	40	38	25	31	365	1.5	1.4
	遺伝診療科	12	12	9	11	9	9	11	11	7	11	8	5	115	0.5	0.4
	免疫科	1	1	3	6	1	5	6	1	3	4	3	3	37	0.2	0.1
	新生児科	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	2	12	0.0	0.0
	移植外科	7	8	8	4	4	4	8	5	8	6	6	5	73	0.3	0.3
	感染症科	0	0	2	1	0	1	1	3	1	2	0	4	15	0.1	0.1
	病理診断科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
	小計	1,062	1,180	1,287	1,449	1,238	1,207	1,110	1,126	1,329	1,463	1,000	1,049	14,500	59.4	54.9
外　科	外科	27	27	30	20	25	22	29	33	22	26	26	21	308	1.3	1.2
整形外科	整形外科	27	53	51	47	39	33	59	68	51	59	59	61	607	2.5	2.3
形成外科	形成外科	21	26	29	20	26	25	31	31	23	20	34	25	311	1.3	1.2
脳神経外科	脳神経外科	9	11	13	13	7	17	10	17	19	10	13	11	150	0.6	0.6
心臓血管外科	心臓血管外科	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	3	0.0	0.0
皮膚科	皮膚科	44	61	53	50	40	40	50	50	44	39	36	54	561	2.3	2.1
泌尿器科	泌尿器科	16	25	29	36	24	25	34	27	32	35	33	25	341	1.4	1.3
産婦人科	不妊診療科	16	17	22	26	29	19	26	20	15	13	13	12	228	0.9	0.9
	不育診療科	13	20	13	24	11	17	14	20	14	17	19	16	198	0.8	0.7
	胎児診療科	126	127	137	130	113	115	136	110	120	121	82	104	1,421	5.8	5.4
	産科	141	155	149	144	159	137	159	150	150	160	146	145	1,795	7.4	6.8
	婦人科	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	0.0	0.0
	小計	298	319	323	324	312	288	335	300	299	311	260	278	3,647	14.9	13.8
眼　科	眼　科	52	65	64	54	59	54	54	51	50	53	49	71	676	2.8	2.6
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	58	81	77	67	70	54	88	70	61	61	54	80	821	3.4	3.1
リハビリテーション科	リハビリテーション科	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	3	0.0	0.0
放射線科	放射線診断科	7	9	9	3	4	5	5	9	12	7	6	11	87	0.4	0.3
	放射線治療科	0	0	0	2	0	1	0	0	1	0	1	0	5	0.0	0.0
	小計	7	9	9	5	4	6	5	9	13	7	7	11	92	0.4	0.3
歯　科	歯科	196	180	203	272	243	192	212	185	252	214	200	250	2,599	10.7	9.8
麻酔科	集中治療科	2	0	0	0	2	0	0	1	0	3	0	0	8	0.0	0.0
	麻酔科	1	4	0	1	0	0	1	0	1	2	2	1	13	0.1	0.0
	小計	3	4	0	1	2	0	1	1	1	5	2	1	21	0.1	0.1

合　　計	計	1,983	2,185	2,344	2,516	2,251	2,097	2,171	2,136	2,325	2,435	1,902	2,074	26,419	108.3	
	救急除く	1,028	1,122	1,190	1,208	1,145	990	1,173	1,111	1,122	1,080	986	1,140	13,295	54.5	
	救急・歯科除く	832	942	987	936	902	798	961	926	870	866	786	890	10,696	43.8	

４－３表　診療科別・月別外来患者数(再診)

診療科名	院内標榜科名	平成３０年４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	平成３１年１月	２月	３月	合計	４月～３月一日平均	４月～３月割合
内　科	母性内科	903	1,009	965	1,052	957	956	1,064	1,083	973	870	874	945	11,651	47.8	5.3
	女性総合外来	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0.0	0.0
	小計	903	1,010	965	1,052	957	957	1,064	1,083	973	870	874	945	11,653	47.8	5.3
精神科	児童・思春期リエゾン科	440	536	493	488	507	446	517	478	523	507	500	652	6,087	24.9	2.8
	児童・思春期メンタル　ヘルス科	87	81	89	94	88	81	90	84	65	71	75	87	992	4.1	0.5
	乳幼児メンタルヘルス科	205	292	275	289	285	248	292	262	274	275	280	292	3,269	13.4	1.5
	小計	732	909	857	871	880	775	899	824	862	853	855	1,031	10,348	42.4	4.7
神経科	神経内科	573	638	640	690	711	611	641	621	653	671	645	659	7,753	31.8	3.5
	在宅診療科	179	244	237	253	247	216	246	244	255	217	246	253	2,837		
	小計	752	882	877	943	958	827	887	865	908	888	891	912	10,590		
呼吸器科	呼吸器科	127	109	127	124	172	97	110	114	143	104	98	157	1,482	6.1	0.7
消化器科	消化器科	224	228	235	237	244	247	282	270	278	266	247	269	3,027	12.4	1.4
	肝臓内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
	内視鏡科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
	小計	224	228	235	237	244	247	282	270	278	266	247	269	3,027	12.4	1.4
循環器科	循環器科	479	408	484	524	547	437	496	417	438	412	414	647	5,703	23.4	2.6
アレルギー科	アレルギー科	1,020	1,067	1,097	1,201	1,322	993	1,122	1,151	1,239	1,207	1,095	1,413	13,927	57.1	6.3
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病	467	522	500	565	678	450	498	550	523	512	488	584	6,337	26.0	2.9
	総合診　(成人診療科含む)	1,052	1,112	1,125	1,199	1,243	1,004	1,154	1,060	1,158	1,131	1,088	1,230	13,556	55.6	6.2
	救急診療科	832	1,054	1,042	1,127	1,036	1,046	1,029	1,031	1,034	1,043	798	929	12,001	49.2	5.5
	血液腫瘍科	290	284	310	369	455	283	309	324	369	353	323	411	4,080	16.7	1.9
	血液内科	68	78	63	79	94	81	69	58	69	62	70	66	857	3.5	0.4
	ライソゾーム病センター	60	65	69	71	83	67	72	65	70	78	66	70	836	3.4	0.4
	内分泌・代謝科	1,037	1,008	1,054	1,270	1,411	929	1,151	1,010	1,244	1,163	1,104	1,337	13,718	56.2	6.2
	遺伝診療科	79	93	85	94	112	97	94	110	96	94	117	127	1,198	4.9	0.5
	免疫科	69	83	68	72	84	73	89	84	77	83	78	110	970	4.0	0.4
	新生児科	153	191	164	178	203	239	274	254	290	310	289	307	2,852	11.7	1.3
	移植外科	210	206	276	242	271	193	227	201	273	206	222	281	2,808	11.5	1.3
	感染症科	21	55	36	42	57	45	58	44	64	45	42	43	552	2.3	0.3
	病理診断科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
	小計	4,338	4,751	4,792	5,308	5,727	4,507	5,024	4,791	5,267	5,080	4,685	5,495	59,765	244.9	27.1
外　科	外科	410	375	452	501	619	410	427	395	508	422	412	512	5,443	22.3	2.5
整形外科	整形外科	586	539	655	699	859	590	622	690	659	670	642	832	8,043	33.0	3.7
形成外科	形成外科	228	234	237	271	298	238	242	255	291	258	237	318	3,107	12.7	1.4
脳神経外科	脳神経外科	340	333	325	388	466	322	290	319	369	334	347	329	4,162	17.1	1.9
心臓血管外科	心臓血管外科	20	23	25	27	33	26	30	29	30	28	28	34	333	1.4	0.2
皮膚科	皮膚科	537	562	501	548	568	484	618	556	549	533	535	686	6,677	27.4	3.0
泌尿器科	泌尿器科	431	425	337	471	420	395	426	390	403	390	369	401	4,858	19.9	2.2
産婦人科	不妊診療科	841	929	972	915	923	902	1,087	1,080	785	837	862	895	11,028	45.2	5.0
	不育診療科	145	165	156	148	167	153	166	182	180	163	188	160	1,973	8.1	0.9
	胎児診療科	191	249	218	229	253	199	235	237	235	203	204	205	2,658	10.9	1.2
	産科	2,279	2,383	2,308	2,445	2,578	2,183	2,385	2,321	2,338	2,248	2,185	2,273	27,926	114.5	12.7
	婦人科	14	27	18	12	19	9	11	9	17	13	11	14	174	0.7	0.1
	小計	3,470	3,753	3,672	3,749	3,940	3,446	3,884	3,829	3,555	3,464	3,450	3,547	43,759	179.3	19.9
眼　科	眼　科	802	847	873	791	946	822	775	894	830	815	865	903	10,163	41.7	4.6
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	629	711	733	673	828	660	682	698	671	683	620	832	8,420	34.5	3.8
リハビリテーション科	リハビリテーション科	86	84	89	112	145	90	101	110	111	109	115	131	1,283	5.3	0.6
放射線科	放射線診断科	12	13	13	16	10	9	11	12	15	16	10	16	153	0.6	0.1
	放射線治療科	3	0	2	10	47	24	24	14	0	26	38	18	206	0.8	0.1
	小計	15	13	15	26	57	33	35	26	15	42	48	34	359	1.5	0.2
歯　科	歯科	373	326	336	370	395	268	287	274	284	259	284	294	3,750	15.4	1.7
麻酔科	集中治療科	0	3	0	1	2	7	0	0	0	7	1	2	23	0.1	0.0
	麻酔科	237	292	272	301	259	292	285	287	283	267	259	292	3,326	13.6	1.5
	小計	237	295	272	302	261	299	285	287	283	274	260	294	3,349	13.7	1.5

合　　計	計	16,739	17,884	17,956	19,188	20,642	16,923	18,588	18,267	18,666	17,961	17,371	20,016	220,201	902.5
	救急除く	15,907	16,830	16,914	18,061	19,606	15,877	17,559	17,236	17,632	16,918	16,573	19,087	208,200	853.3
	救急・歯科除く	15,534	16,504	16,578	17,691	19,211	15,609	17,272	16,962	17,348	16,659	16,289	18,793	204,450	837.9

４－４表　診療科別・月別１日平均外来患者数

診療科名	院内標榜科名	平成３０年４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	平成３１年１月	２月	３月	４月～３月一日平均	４月～３月割合
内　科	母性内科	47.4	49.5	48.0	51.8	43.3	54.4	49.9	53.9	52.8	47.6	47.6	48.9	49.5	4.9
	女性総合外来	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	小計	47.5	49.6	48.0	51.8	43.3	54.5	49.9	54.0	52.8	47.6	47.6	48.9	49.5	4.9
精神科	児童・思春期リエゾン科	22.4	26.1	24.0	24.0	22.6	25.4	24.0	23.2	28.2	27.2	27.1	33.1	25.5	2.5
	児童・思春期メンタル　ヘルス科	4.4	3.9	4.3	4.5	3.8	4.5	4.1	4.0	3.4	3.8	3.9	4.4	4.1	0.4
	乳幼児メンタルヘルス科	10.8	14.1	13.2	14.0	12.7	14.1	13.4	12.7	14.8	14.8	15.1	15.0	13.7	1.4
	小計	37.5	44.0	41.6	42.6	39.0	44.0	41.5	39.9	46.4	45.7	46.1	52.4	43.3	4.3
神経科	神経内科	29.7	31.1	31.4	33.9	31.7	34.7	29.7	30.2	35.0	35.7	34.6	34.0	32.5	3.2
	在宅診療科	9.0	11.7	11.3	12.0	10.7	12.0	11.3	11.7	13.5	11.5	13.0	12.7	11.7	1.2
	小計	38.7	42.8	42.8	45.9	42.5	46.7	41.0	41.9	48.5	47.3	47.6	46.7	44.2	4.4
呼吸器科	呼吸器科	6.4	5.2	6.0	6.0	7.6	5.5	5.0	5.4	7.6	5.6	5.2	7.9	6.1	0.6
消化器科	消化器科	11.6	11.4	11.6	12.2	11.1	14.4	13.5	13.7	15.3	14.6	13.6	13.8	13.0	1.3
	肝臓内科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	内視鏡科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	小計	11.6	11.4	11.6	12.2	11.1	14.4	13.5	13.7	15.3	14.6	13.6	13.8	13.0	1.3
循環器科	循環器科	25.0	20.6	24.4	26.0	24.6	25.2	23.3	20.7	23.8	22.3	22.7	33.3	24.3	2.4
アレルギー科	アレルギー科	53.5	52.9	55.0	59.0	59.7	57.9	53.5	57.4	67.2	65.9	59.5	72.7	59.4	5.9
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病	23.5	25.0	25.1	28.0	30.4	25.3	22.8	26.5	28.2	27.6	25.9	29.9	26.5	2.6
	総合診（成人診療科含む）	54.9	55.2	55.5	59.4	56.1	58.1	54.5	52.3	63.4	60.9	58.8	63.5	57.6	5.7
	救急診療科	89.4	100.8	104.6	116.0	93.1	119.6	92.1	97.9	117.7	126.2	90.2	93.2	103.0	10.2
	血液腫瘍科	14.9	13.8	15.0	18.0	20.0	16.1	14.4	15.8	19.8	18.9	17.3	21.0	17.1	1.7
	血液内科	3.5	4.1	3.2	4.0	4.3	4.6	3.1	2.9	3.7	3.3	3.7	3.4	3.6	0.4
	ライソゾーム病センター	3.1	3.1	3.3	3.5	3.6	3.7	3.3	3.1	3.7	4.2	3.5	3.6	3.5	0.3
	内分泌・代謝科	53.2	49.4	51.7	61.9	63.0	52.9	53.7	49.2	67.6	63.2	59.4	68.4	57.7	5.7
	遺伝診療科	4.6	5.0	4.5	5.0	5.3	5.9	4.8	5.8	5.4	5.5	6.6	6.6	5.4	0.5
	免疫科	3.5	4.0	3.4	3.7	3.7	4.3	4.3	4.0	4.2	4.6	4.3	5.7	4.1	0.4
	新生児科	7.7	9.1	7.9	8.5	8.9	13.3	12.5	12.1	15.3	16.4	15.3	15.5	11.7	1.2
	移植外科	10.9	10.2	13.5	11.7	12.0	10.9	10.7	9.8	14.8	11.2	12.0	14.3	11.8	1.2
	感染症科	1.1	2.6	1.8	2.0	2.5	2.6	2.7	2.2	3.4	2.5	2.2	2.4	2.3	0.2
	病理診断科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	小計	270.0	282.4	289.5	321.8	302.8	317.4	278.8	281.8	347.2	344.4	299.2	327.2	304.4	30.1
外　科	外科	21.9	19.1	23.0	24.8	28.0	24.0	20.7	20.4	27.9	23.6	23.1	26.7	23.6	2.3
整形外科	整形外科	30.7	28.2	33.6	35.5	39.0	34.6	31.0	36.1	37.4	38.4	36.9	44.7	35.5	3.5
形成外科	形成外科	12.5	12.4	12.7	13.9	14.1	14.6	12.4	13.6	16.5	14.6	14.3	17.2	14.0	1.4
脳神経外科	脳神経外科	17.5	16.4	16.1	19.1	20.6	18.8	13.6	16.0	20.4	18.1	18.9	17.0	17.7	1.8
心臓血管外科	心臓血管外科	1.0	1.1	1.2	1.3	1.5	1.4	1.5	1.4	1.6	1.5	1.5	1.7	1.4	0.1
皮膚科	皮膚科	29.1	29.7	26.4	28.5	26.4	29.1	30.4	28.9	31.2	30.1	30.1	37.0	29.7	2.9
泌尿器科	泌尿器科	22.4	21.4	17.4	24.1	19.3	23.3	20.9	19.9	22.9	22.4	21.2	21.3	21.3	2.1
産婦人科	不妊診療科	42.9	45.0	47.3	44.8	41.4	51.2	50.6	52.4	42.1	44.7	46.1	45.4	46.1	4.6
	不育診療科	7.9	8.8	8.0	8.2	7.7	9.4	8.2	9.6	10.2	9.5	10.9	8.8	8.9	0.9
	胎児診療科	15.9	17.9	16.9	17.1	15.9	17.4	16.9	16.5	18.7	17.1	15.1	15.5	16.7	1.7
	産科	121.0	120.9	117.0	123.3	119.0	128.9	115.6	117.7	130.9	126.7	122.7	120.9	121.8	12.1
	婦人科	0.8	1.3	1.0	0.6	0.8	0.5	0.5	0.4	0.9	0.7	0.6	0.8	0.7	0.1
	小計	188.4	193.9	190.2	194.0	184.9	207.4	191.8	196.6	202.8	198.7	195.3	191.3	194.3	19.2
眼　科	眼　科	42.7	43.4	44.6	40.2	43.7	48.7	37.7	45.0	46.3	45.7	48.1	48.7	44.4	4.4
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	34.4	37.7	38.6	35.2	39.0	39.7	35.0	36.6	38.5	39.2	35.5	45.6	37.9	3.7
リハビリテーション科	リハビリテーション科	4.4	4.0	4.2	5.3	6.3	5.0	4.6	5.2	5.8	5.7	6.1	6.6	5.3	0.5
放射線科	放射線診断科	1.0	1.0	1.0	0.9	0.6	0.8	0.7	1.0	1.4	1.2	0.8	1.4	1.0	0.1
	放射線治療科	0.2	0.0	0.1	0.6	2.0	1.4	1.1	0.7	0.1	1.4	2.1	0.9	0.9	0.1
	小計	1.1	1.0	1.1	1.5	2.7	2.2	1.8	1.7	1.5	2.6	2.9	2.3	1.8	0.2
歯　科	歯科	28.5	24.1	25.7	30.6	27.7	25.6	22.7	21.9	28.2	24.9	25.5	27.2	26.0	2.6
麻酔科	集中治療科	0.1	0.1	0.0	0.0	0.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.5	0.1	0.1	0.1	0.0
	麻酔科	11.9	14.1	13.0	14.4	11.3	16.2	13.0	13.7	14.9	14.2	13.7	14.7	13.7	1.4
	小計	12.0	14.2	13.0	14.4	11.4	16.6	13.0	13.7	14.9	14.7	13.8	14.8	13.8	1.4

合　　計	計	936.1	955.7	966.7	1,033.5	995.3	1,056.7	943.6	971.6	1,104.8	1,073.5	1,014.4	1,104.5	1,010.7	100.0
	救急除く	846.8	854.9	862.1	917.6	902.2	937.1	851.5	873.7	987.1	947.3	924.2	1,011.4	907.8	
	救急・歯科除く	818.3	830.8	836.4	887.0	874.5	911.5	828.8	851.8	958.8	922.4	898.7	984.2	881.7	

４－５表　診療科別・月別１日平均外来患者数(初診)

診療科名	院内標榜科名	平成３０年４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	平成３１年１月	２月	３月	４月～３月一日平均	４月～３月割合
内　科	母性内科	2.3	1.4	2.1	1.7	1.7	1.3	1.5	2.3	1.6	1.8	1.6	1.7	1.8	1.7
	女性総合外来	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	小計	2.3	1.5	2.1	1.7	1.7	1.3	1.5	2.4	1.6	1.8	1.6	1.7	1.8	1.7
精神科	児童・思春期リエゾン科	0.4	0.6	0.6	0.8	0.5	0.7	0.5	0.4	0.6	0.5	0.8	0.5	0.6	0.6
	児童・思春期メンタル　ヘルス科	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	乳幼児メンタルヘルス科	0.5	0.2	0.1	0.3	0.3	0.3	0.1	0.2	0.4	0.3	0.3	0.4	0.3	0.3
	小計	0.9	0.8	0.8	1.1	0.8	0.9	0.6	0.7	1.0	0.8	1.1	0.9	0.9	0.8
神経科	神経内科	1.1	0.8	1.0	1.0	0.8	0.7	0.6	0.6	0.6	0.4	0.6	1.0	0.8	0.7
	在宅診療科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0
	小計	1.1	0.8	1.0	1.0	0.8	0.7	0.7	0.7	0.7	0.5	0.7	1.1	0.8	0.7
呼吸器科	呼吸器科	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
消化器科	消化器科	0.4	0.6	0.4	0.9	0.5	0.7	0.6	0.8	0.7	0.6	0.6	0.4	0.6	0.6
	肝臓内科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	内視鏡科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	小計	0.4	0.6	0.4	0.9	0.5	0.7	0.6	0.8	0.7	0.6	0.6	0.4	0.6	0.6
循環器科	循環器科	1.0	1.2	1.4	1.0	0.8	0.9	0.8	0.9	0.8	0.6	0.9	0.9	0.9	0.8
アレルギー科	アレルギー科	2.5	2.0	2.7	1.8	2.2	2.7	2.5	2.6	1.9	2.4	1.9	2.0	2.3	2.1
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病	0.2	0.1	1.3	1.1	1.0	0.3	0.1	0.3	0.6	0.6	0.3	0.7	0.6	0.6
	総合診　(成人診療科含む)	2.3	2.2	2.0	2.3	2.0	2.3	2.0	1.8	2.4	1.4	1.5	2.0	2.0	1.8
	救急診療科	47.8	50.6	55.0	62.3	48.1	61.5	45.4	48.8	63.3	71.3	48.2	46.7	53.8	49.7
	血液腫瘍科	0.4	0.2	0.2	0.5	0.3	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.3	0.5	0.3	0.3
	血液内科	0.1	0.4	0.2	0.2	0.2	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
	ライソゾーム病センター	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0
	内分泌・代謝科	1.3	1.4	1.5	1.4	1.6	1.3	1.4	1.1	2.1	2.0	1.3	1.6	1.5	1.4
	遺伝診療科	0.6	0.6	0.4	0.5	0.4	0.5	0.5	0.5	0.4	0.6	0.4	0.3	0.5	0.5
	免疫科	0.1	0.0	0.1	0.3	0.0	0.3	0.3	0.0	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
	新生児科	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0
	移植外科	0.4	0.4	0.4	0.2	0.2	0.2	0.4	0.2	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
	感染症科	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.2	0.1	0.1
	病理診断科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	小計	53.1	56.2	61.3	69.0	53.8	67.1	50.5	53.6	69.9	77.0	52.6	52.5	59.4	54.8
外　科	外科	1.4	1.3	1.4	1.0	1.1	1.2	1.3	1.6	1.2	1.4	1.4	1.1	1.3	1.2
整形外科	整形外科	1.4	2.5	2.4	2.2	1.7	1.8	2.7	3.2	2.7	3.1	3.1	3.1	2.5	2.3
形成外科	形成外科	1.1	1.2	1.4	1.0	1.1	1.4	1.4	1.5	1.2	1.1	1.8	1.3	1.3	1.2
脳神経外科	脳神経外科	0.5	0.5	0.6	0.6	0.3	0.9	0.5	0.8	1.0	0.5	0.7	0.6	0.6	0.6
心臓血管外科	心臓血管外科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
皮膚科	皮膚科	2.2	2.9	2.5	2.4	1.7	2.2	2.3	2.4	2.3	2.1	1.9	2.7	2.3	2.1
泌尿器科	泌尿器科	0.8	1.2	1.4	1.7	1.0	1.4	1.5	1.3	1.7	1.8	1.7	1.3	1.4	1.3
産婦人科	不妊診療科	0.8	0.8	1.0	1.2	1.3	1.1	1.2	1.0	0.8	0.7	0.7	0.6	0.9	0.8
	不育診療科	0.7	1.0	0.6	1.1	0.5	0.9	0.6	1.0	0.7	0.9	1.0	0.8	0.8	0.7
	胎児診療科	6.3	6.0	6.5	6.2	4.9	6.4	6.2	5.2	6.3	6.4	4.3	5.2	5.8	5.4
	産科	7.1	7.4	7.1	6.9	6.9	7.6	7.2	7.1	7.9	8.4	7.7	7.3	7.4	6.8
	婦人科	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0
	小計	14.9	15.2	15.4	15.4	13.6	16.0	15.2	14.3	15.7	16.4	13.7	13.9	14.9	13.8
眼　科	眼　科	2.6	3.1	3.0	2.6	2.6	3.0	2.5	2.4	2.6	2.8	2.6	3.6	2.8	2.6
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	2.9	3.9	3.7	3.2	3.0	3.0	4.0	3.3	3.2	3.2	2.8	4.0	3.4	3.1
リハビリテーション科	リハビリテーション科	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0
放射線科	放射線診断科	0.4	0.4	0.4	0.1	0.2	0.3	0.2	0.4	0.6	0.4	0.3	0.6	0.4	0.4
	放射線治療科	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
	小計	0.4	0.4	0.4	0.2	0.2	0.3	0.2	0.4	0.7	0.4	0.4	0.6	0.4	0.4
歯　科	歯科	9.8	8.6	9.7	13.0	10.6	10.7	9.6	8.8	13.3	11.3	10.5	12.5	10.7	9.9
麻酔科	集中治療科	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	麻酔科	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
	小計	0.2	0.2	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1

合　　計	計	99.2	104.0	111.6	119.8	97.9	116.5	98.7	101.7	122.4	128.2	100.1	103.7	108.3	100.1
	救急除く	51.4	53.4	56.7	57.5	49.8	55.0	53.3	52.9	59.1	56.8	51.9	57.0	54.5	
	救急・歯科除く	41.6	44.9	47.0	44.6	39.2	44.3	43.7	44.1	45.8	45.6	41.4	44.5	43.8	

４－６表　診療科別・月別１日平均外来患者数(再診)

診療科名	院内標榜科名	平成３０年４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	平成３１年１月	２月	３月	４月～３月一日平均	４月～３月割合
内　科	母性内科	45.2	48.0	46.0	50.1	41.6	53.1	48.4	51.6	51.2	45.8	46.0	47.3	47.8	5.3
	女性総合外来	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	小計	45.2	48.1	46.0	50.1	41.6	53.2	48.4	51.6	51.2	45.8	46.0	47.3	47.8	5.3
精神科	児童・思春期リエゾン科	22.0	25.5	23.5	23.2	22.0	24.8	23.5	22.8	27.5	26.7	26.3	32.6	24.9	2.8
	児童・思春期メンタル　ヘルス科	4.4	3.9	4.2	4.5	3.8	4.5	4.1	4.0	3.4	3.7	3.9	4.4	4.1	0.5
	乳幼児メンタルヘルス科	10.3	13.9	13.1	13.8	12.4	13.8	13.3	12.5	14.4	14.5	14.7	14.6	13.4	1.5
	小計	36.6	43.3	40.8	41.5	38.3	43.1	40.9	39.2	45.4	44.9	45.0	51.6	42.4	4.7
神経科	神経内科	28.7	30.4	30.5	32.9	30.9	33.9	29.1	29.6	34.4	35.3	33.9	33.0	31.8	3.5
	在宅診療科	9.0	11.6	11.3	12.0	10.7	12.0	11.2	11.6	13.4	11.4	12.9	12.7	11.6	1.3
	小計	37.6	42.0	41.8	44.9	41.7	45.9	40.3	41.2	47.8	46.7	46.9	45.6	43.4	4.8
呼吸器科	呼吸器科	6.4	5.2	6.0	5.9	7.5	5.4	5.0	5.4	7.5	5.5	5.2	7.9	6.1	0.7
消化器科	消化器科	11.2	10.9	11.2	11.3	10.6	13.7	12.8	12.9	14.6	14.0	13.0	13.5	12.4	1.4
	肝臓内科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	内視鏡科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	小計	11.2	10.9	11.2	11.3	10.6	13.7	12.8	12.9	14.6	14.0	13.0	13.5	12.4	1.4
循環器科	循環器科	24.0	19.4	23.0	25.0	23.8	24.3	22.5	19.9	23.1	21.7	21.8	32.4	23.4	2.6
アレルギー科	アレルギー科	51.0	50.8	52.2	57.2	57.5	55.2	51.0	54.8	65.2	63.5	57.6	70.7	57.1	6.3
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病	23.4	24.9	23.8	26.9	29.5	25.0	22.6	26.2	27.5	26.9	25.7	29.2	26.0	2.9
	総合診　(成人診療科含む)	52.6	53.0	53.6	57.1	54.0	55.8	52.5	50.5	60.9	59.5	57.3	61.5	55.6	6.2
	救急診療科	41.6	50.2	49.6	53.7	45.0	58.1	46.8	49.1	54.4	54.9	42.0	46.5	49.2	5.5
	血液腫瘍科	14.5	13.5	14.8	17.6	19.8	15.7	14.0	15.4	19.4	18.6	17.0	20.6	16.7	1.9
	血液内科	3.4	3.7	3.0	3.8	4.1	4.5	3.1	2.8	3.6	3.3	3.7	3.3	3.5	0.4
	ライソゾーム病センター	3.0	3.1	3.3	3.4	3.6	3.7	3.3	3.1	3.7	4.1	3.5	3.5	3.4	0.4
	内分泌・代謝科	51.9	48.0	50.2	60.5	61.3	51.6	52.3	48.1	65.5	61.2	58.1	66.9	56.2	6.2
	遺伝診療科	4.0	4.4	4.0	4.5	4.9	5.4	4.3	5.2	5.1	4.9	6.2	6.4	4.9	0.5
	免疫科	3.5	4.0	3.2	3.4	3.7	4.1	4.0	4.0	4.1	4.4	4.1	5.5	4.0	0.4
	新生児科	7.7	9.1	7.8	8.5	8.8	13.3	12.5	12.1	15.3	16.3	15.2	15.4	11.7	1.3
	移植外科	10.5	9.8	13.1	11.5	11.8	10.7	10.3	9.6	14.4	10.8	11.7	14.1	11.5	1.3
	感染症科	1.1	2.6	1.7	2.0	2.5	2.5	2.6	2.1	3.4	2.4	2.2	2.2	2.3	0.3
	病理診断科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	小計	216.9	226.2	228.2	252.8	249.0	250.4	228.4	228.1	277.2	267.4	246.6	274.8	244.9	27.1
外　科	外科	20.5	17.9	21.5	23.9	26.9	22.8	19.4	18.8	26.7	22.2	21.7	25.6	22.3	2.5
整形外科	整形外科	29.3	25.7	31.2	33.3	37.3	32.8	28.3	32.9	34.7	35.3	33.8	41.6	33.0	3.7
形成外科	形成外科	11.4	11.1	11.3	12.9	13.0	13.2	11.0	12.1	15.3	13.6	12.5	15.9	12.7	1.4
脳神経外科	脳神経外科	17.0	15.9	15.5	18.5	20.3	17.9	13.2	15.2	19.4	17.6	18.3	16.5	17.1	1.9
心臓血管外科	心臓血管外科	1.0	1.1	1.2	1.3	1.4	1.4	1.4	1.4	1.6	1.5	1.5	1.7	1.4	0.2
皮膚科	皮膚科	26.9	26.8	23.9	26.1	24.7	26.9	28.1	26.5	28.9	28.1	28.2	34.3	27.4	3.0
泌尿器科	泌尿器科	21.6	20.2	16.0	22.4	18.3	21.9	19.4	18.6	21.2	20.5	19.4	20.1	19.9	2.2
産婦人科	不妊診療科	42.1	44.2	46.3	43.6	40.1	50.1	49.4	51.4	41.3	44.1	45.4	44.8	45.2	5.0
	不育診療科	7.3	7.9	7.4	7.0	7.3	8.5	7.5	8.7	9.5	8.6	9.9	8.0	8.1	0.9
	胎児診療科	9.6	11.9	10.4	10.9	11.0	11.1	10.7	11.3	12.4	10.7	10.7	10.3	10.9	1.2
	産科	114.0	113.5	109.9	116.4	112.1	121.3	108.4	110.5	123.1	118.3	115.0	113.7	114.5	12.7
	婦人科	0.7	1.3	0.9	0.6	0.8	0.5	0.5	0.4	0.9	0.7	0.6	0.7	0.7	0.1
	小計	173.5	178.7	174.9	178.5	171.3	191.4	176.5	182.3	187.1	182.3	181.6	177.4	179.3	19.9
眼　科	眼　科	40.1	40.3	41.6	37.7	41.1	45.7	35.2	42.6	43.7	42.9	45.5	45.2	41.7	4.6
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	31.5	33.9	34.9	32.0	36.0	36.7	31.0	33.2	35.3	35.9	32.6	41.6	34.5	3.8
リハビリテーション科	リハビリテーション科	4.3	4.0	4.2	5.3	6.3	5.0	4.6	5.2	5.8	5.7	6.1	6.6	5.3	0.6
放射線科	放射線診断科	0.6	0.6	0.6	0.8	0.4	0.5	0.5	0.6	0.8	0.8	0.5	0.8	0.6	0.1
	放射線治療科	0.2	0.0	0.1	0.5	2.0	1.3	1.1	0.7	0.0	1.4	2.0	0.9	0.8	0.1
	小計	0.8	0.6	0.7	1.2	2.5	1.8	1.6	1.2	0.8	2.2	2.5	1.7	1.5	0.2
歯　科	歯科	18.7	15.5	16.0	17.6	17.2	14.9	13.0	13.0	14.9	13.6	14.9	14.7	15.4	1.7
麻酔科	集中治療科	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.4	0.0	0.0	0.0	0.4	0.1	0.1	0.1	0.0
	麻酔科	11.9	13.9	13.0	14.3	11.3	16.2	13.0	13.7	14.9	14.1	13.6	14.6	13.6	1.5
	小計	11.9	14.0	13.0	14.4	11.3	16.6	13.0	13.7	14.9	14.4	13.7	14.7	13.7	1.5

合　　計	計	837.0	851.6	855.0	913.7	897.5	940.2	844.9	869.9	982.4	945.3	914.3	1,000.8	902.5	100.0
	救急除く	795.4	801.4	805.4	860.0	852.4	882.1	798.1	820.8	928.0	890.4	872.3	954.4	853.3	
	救急・歯科除く	776.7	785.9	789.4	842.4	835.3	867.2	785.1	807.7	913.1	876.8	857.3	939.7	837.9	

４－７表　診療科別・月別新患率

診療科名	院内標榜科名	平成３０年４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	平成３１年１月	２月	３月	合計
内　科	母性内科	4.7	2.9	4.4	3.2	4.0	2.4	3.1	4.3	3.1	3.8	3.4	3.4	3.6
	女性総合外来	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7
	小計	4.8	3.0	4.4	3.2	4.0	2.4	3.1	4.5	3.1	3.8	3.4	3.4	3.6
精神科	児童・思春期リエゾン科	1.6	2.2	2.4	3.2	2.3	2.6	2.1	1.8	2.2	1.7	2.9	1.4	2.2
	児童・思春期メンタル　ヘルス科	1.1	0.0	1.1	1.1	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0	0.5
	乳幼児メンタルヘルス科	4.7	1.4	1.1	2.0	2.1	2.0	0.7	1.9	2.5	2.1	2.1	2.7	2.0
	小計	2.4	1.7	1.8	2.6	2.0	2.1	1.5	1.7	2.2	1.8	2.4	1.6	2.0
神経科	神経内科	3.5	2.4	3.0	3.0	2.6	2.1	2.0	2.1	1.8	1.2	1.8	2.9	2.4
	在宅診療科	0.0	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.8	0.4	0.4	0.9	0.4	0.4	0.4
	小計	2.7	1.9	2.3	2.2	1.9	1.5	1.7	1.6	1.4	1.1	1.4	2.3	1.8
呼吸器科	呼吸器科	0.8	0.0	0.0	0.8	1.1	2.0	0.9	0.0	0.7	1.9	0.0	0.0	0.7
消化器科	消化器科	3.0	5.0	3.7	7.4	4.3	5.0	4.7	5.9	4.5	4.3	4.3	2.5	4.6
	肝臓内科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	内視鏡科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	小計	3.0	5.0	3.7	7.4	4.3	5.0	4.7	5.9	4.5	4.3	4.3	2.5	4.6
循環器科	循環器科	4.0	5.8	5.7	3.9	3.4	3.5	3.3	4.1	3.3	2.8	3.9	2.7	3.8
アレルギー科	アレルギー科	4.6	3.9	4.9	3.1	3.7	4.7	4.8	4.5	2.9	3.7	3.2	2.8	3.8
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病	0.6	0.6	5.3	4.1	3.1	1.3	0.6	1.1	2.2	2.3	1.0	2.2	2.1
	総合診（成人診療科含む）	4.2	4.1	3.5	3.8	3.6	4.0	3.7	3.5	3.8	2.2	2.6	3.1	3.5
	救急診療科	53.4	50.2	52.6	53.7	51.6	51.4	49.2	49.9	53.8	56.5	53.4	50.1	52.2
	血液腫瘍科	2.4	1.7	1.6	2.6	1.3	2.4	2.5	2.4	1.9	1.7	1.8	2.1	2.0
	血液内科	2.9	10.3	6.0	4.8	5.1	2.4	0.0	4.9	1.4	1.6	1.4	1.5	3.7
	ライソゾーム病センター	3.2	1.5	0.0	4.1	0.0	0.0	0.0	1.5	1.4	1.3	0.0	2.8	1.3
	内分泌・代謝科	2.4	2.9	2.9	2.2	2.6	2.4	2.5	2.3	3.1	3.2	2.2	2.3	2.6
	遺伝診療科	13.2	11.4	9.6	10.5	7.4	8.5	10.5	9.1	6.8	10.5	6.4	3.8	8.8
	免疫科	1.4	1.2	4.2	7.7	1.2	6.4	6.3	1.2	3.8	4.6	3.7	2.7	3.7
	新生児科	0.6	0.5	0.6	0.6	0.5	0.4	0.4	0.4	0.0	0.3	0.3	0.6	0.4
	移植外科	3.2	3.7	2.8	1.6	1.5	2.0	3.4	2.4	2.8	2.8	2.6	1.7	2.5
	感染症科	0.0	0.0	5.3	2.3	0.0	2.2	1.7	6.4	1.5	4.3	0.0	8.5	2.6
	病理診断科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	小計	19.7	19.9	21.2	21.4	17.8	21.1	18.1	19.0	20.1	22.4	17.6	16.0	19.5
外　科	外科	6.2	6.7	6.2	3.8	3.9	5.1	6.4	7.7	4.2	5.8	5.9	3.9	5.4
整形外科	整形外科	4.4	9.0	7.2	6.3	4.3	5.3	8.7	9.0	7.2	8.1	8.4	6.8	7.0
形成外科	形成外科	8.4	10.0	10.9	6.9	8.0	9.5	11.4	10.8	7.3	7.2	12.5	7.3	9.1
脳神経外科	脳神経外科	2.6	3.2	3.8	3.2	1.5	5.0	3.3	5.1	4.9	2.9	3.6	3.2	3.5
心臓血管外科	心臓血管外科	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9
皮膚科	皮膚科	7.6	9.8	9.6	8.4	6.6	7.6	7.5	8.3	7.4	6.8	6.3	7.3	7.8
泌尿器科	泌尿器科	3.6	5.6	7.9	7.1	5.4	6.0	7.4	6.5	7.4	8.2	8.2	5.9	6.6
産婦人科	不妊診療科	1.9	1.8	2.2	2.8	3.0	2.1	2.3	1.8	1.9	1.5	1.5	1.3	2.0
	不育診療科	8.2	10.8	7.7	14.0	6.2	10.0	7.8	9.9	7.2	9.4	9.2	9.1	9.1
	胎児診療科	39.7	33.8	38.6	36.2	30.9	36.6	36.7	31.7	33.8	37.3	28.7	33.7	34.8
	産科	5.8	6.1	6.1	5.6	5.8	5.9	6.3	6.1	6.0	6.6	6.3	6.0	6.0
	婦人科	12.5	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	2.8
	小計	7.9	7.8	8.1	8.0	7.3	7.7	7.9	7.3	7.8	8.2	7.0	7.3	7.7
眼　科	眼　科	6.1	7.1	6.8	6.4	5.9	6.2	6.5	5.4	5.7	6.1	5.4	7.3	6.2
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	8.4	10.2	9.5	9.1	7.8	7.6	11.4	9.1	8.3	8.2	8.0	8.8	8.9
リハビリテーション科	リハビリテーション科	1.1	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.2
放射線科	放射線診断科	36.8	40.9	40.9	15.8	28.6	35.7	31.3	42.9	44.4	30.4	37.5	40.7	36.3
	放射線治療科	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	4.0	0.0	0.0	100.0	0.0	2.6	0.0	2.4
	小計	31.8	40.9	37.5	16.1	6.6	15.4	12.5	25.7	46.4	14.3	12.7	24.4	20.4
歯　科	歯科	34.4	35.6	37.7	42.4	38.1	41.7	42.5	40.3	47.0	45.2	41.3	46.0	40.9
麻酔科	集中治療科	100.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	100.0	0.0	30.0	0.0	0.0	25.8
	麻酔科	0.4	1.4	0.0	0.3	0.0	0.0	0.3	0.0	0.4	0.7	0.8	0.3	0.4
	小計	1.3	1.3	0.0	0.3	0.8	0.0	0.3	0.3	0.4	1.8	0.8	0.3	0.6

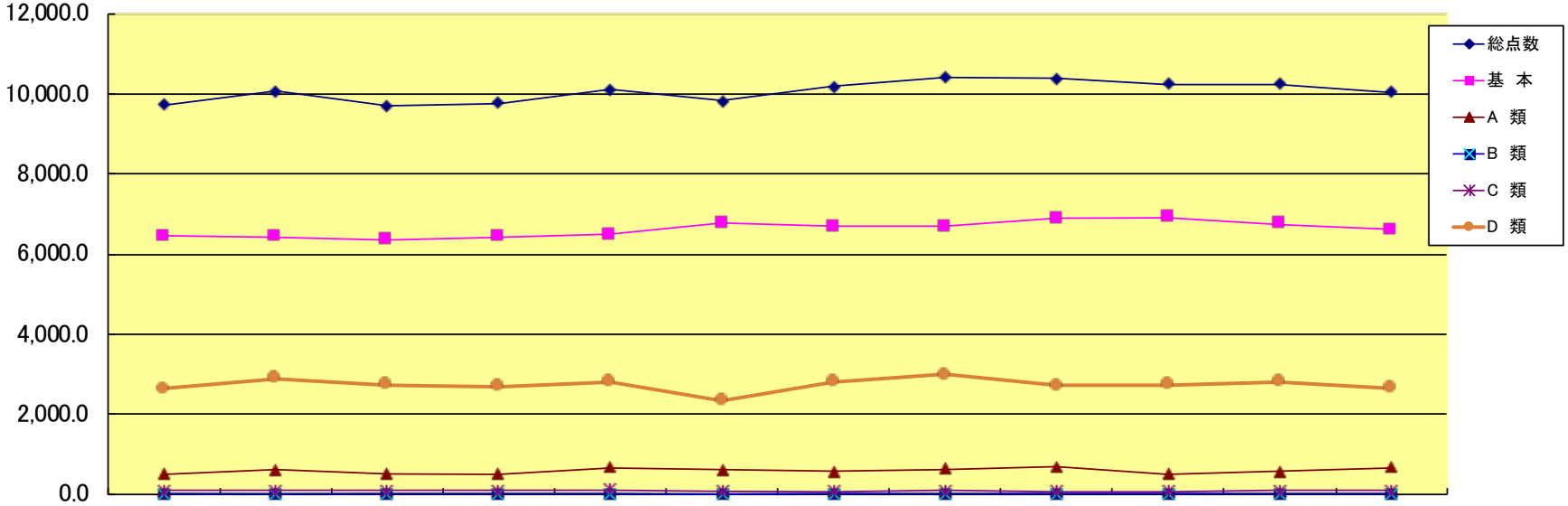
合　　計	計	10.6	10.9	11.5	11.6	9.8	11.0	10.5	10.5	11.1	11.9	9.9	9.4	10.7
	救急除く	6.1	6.3	6.6	6.3	5.5	5.9	6.3	6.1	6.0	6.0	5.6	5.6	6.0
	救急・歯科除く	5.1	5.4	5.6	5.0	4.5	4.9	5.3	5.2	4.8	4.9	4.6	4.5	5.0

５－１表　月別入院患者延点数

	平成30年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成31年 1月	2月	3月	計
総点数	110,775,800	118,267,576	118,635,731	122,904,887	129,965,326	110,694,251	121,915,304	121,978,950	119,506,886	111,131,003	109,287,798	122,614,448	1,417,677,960
基　本	73,475,779	75,668,920	77,660,929	81,007,579	83,666,484	76,369,587	80,145,739	78,281,879	79,216,254	74,883,112	72,019,162	80,623,362	933,018,786
特掲計	37,300,021	42,598,656	40,974,802	41,897,308	46,298,842	34,324,664	41,769,565	43,697,071	40,290,632	36,247,891	37,268,636	41,991,086	484,659,174
A　類	5,946,212	7,132,745	6,260,544	6,487,322	8,572,191	6,964,697	6,914,033	7,312,079	7,985,745	5,595,047	6,115,712	8,190,208	83,476,535
B　類	203,298	250,499	201,141	250,000	240,339	137,124	220,185	192,334	185,064	199,607	153,391	181,322	2,414,304
C　類	1,012,414	1,125,357	1,171,016	1,227,314	1,357,491	863,327	990,324	1,015,987	890,655	858,655	918,774	1,223,257	12,654,571
D　類	30,138,097	34,090,055	33,342,101	33,932,672	36,128,821	26,359,516	33,645,023	35,176,671	31,229,168	29,594,582	30,080,759	32,396,299	386,113,764

	平成30年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成31年 1月	2月	3月	計
在院患者延数	11,392	11,751	12,219	12,578	12,866	11,265	11,967	11,709	11,494	10,835	10,665	12,203	140,944
1日平均患者数	379.7	379.1	407.3	405.7	415.0	375.5	386.0	390.3	370.8	349.5	380.9	393.6	386.1

５－２表　月別入院患者１人１日当たり平均診療点数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
総点数	9,724.0	10,064.5	9,709.1	9,771.4	10,101.5	9,826.4	10,187.6	10,417.5	10,397.3	10,256.7	10,247.3	10,047.9	10,058.4
基　本	6,449.8	6,439.4	6,355.8	6,440.4	6,502.9	6,779.4	6,697.2	6,685.6	6,892.0	6,911.2	6,752.9	6,606.8	6,619.8
A　類	522.0	607.0	512.4	515.8	666.3	618.3	577.8	624.5	694.8	516.4	573.4	671.2	592.3
B　類	17.8	21.3	16.5	19.9	18.7	12.2	18.4	16.4	16.1	18.4	14.4	14.9	17.1
C　類	88.9	95.8	95.8	97.6	105.5	76.6	82.8	86.8	77.5	79.2	86.1	100.2	89.8
D　類	2,645.5	2,901.0	2,728.7	2,697.8	2,808.1	2,339.9	2,811.5	3,004.2	2,717.0	2,731.4	2,820.5	2,654.8	2,739.5

５－３表　診療科別入院患者1人一日当たり平均診療点数

標榜診療科名	院内標榜科名	総点数	基本	特掲診療計	特掲診療内訳			
					A類	B類	C類	D類
内科	母性内科、女性総合外来	3,974.0	3,111.0	863.0	348.9	2.8	175.7	335.5
心療内科								
精神科	児童・思春期リエゾン科、 児童・思春期メンタルヘルス科、 乳幼児メンタルヘルス科	5,239.4	3,807.5	1,431.8	72.1	25.3	19.7	1,314.8
神経科	神経内科、在宅診療科	7,516.3	5,686.3	1,830.1	1,741.4	12.1	6.4	70.2
呼吸器科		5,546.5	5,298.1	248.3	63.0	10.0	79.2	96.1
消化器科	消化器科、肝臓内科、内視鏡科	7,010.6	5,657.3	1,353.3	815.7	4.9	301.4	231.3
循環器科		8,739.8	5,845.1	2,894.6	442.3	9.6	219.0	2,223.7
アレルギー科		8,496.1	8,351.5	144.6	93.5	1.6	20.2	29.2
リウマチ科	膠原病							
小児科	総合診療部、救急診療科、内分泌科、 腎臓科、血液腫瘍科、血液内科、遺伝診療科、 新生児科、移植外科、免疫科、感染症科、ライソゾーム病センター、緩和ケア科	7,978.7	6,562.1	1,416.7	729.1	14.6	49.8	623.1
外科		8,767.7	6,494.8	2,272.9	119.7	6.8	37.6	2,108.8
整形外科		11,844.9	6,314.7	5,530.1	11.1	7.6	6.5	5,504.9
形成外科		11,574.5	6,796.5	4,777.9	8.0	4.6	40.1	4,725.2
脳神経外科		8,986.6	6,663.5	2,323.0	98.1	34.6	18.0	2,172.4
心臓血管外科		31,791.5	27,966.5	3,825.0	32.1	33.4		3,759.5
小児外科								
皮膚科		22,713.9	11,118.7	11,595.2	112.1	2.8	177.1	11,303.2
泌尿器科		15,132.1	6,572.9	8,559.2	109.8	12.0	54.9	8,382.5
産婦人科	産科、婦人科、不妊診療科 不育診療科、胎児診療科	11,237.6	5,280.0	5,957.6	154.6	2.0	164.3	5,636.8
眼科		10,695.5	6,174.5	4,521.0	14.0	3.8	17.3	4,485.9
耳鼻咽喉科		12,769.5	7,584.9	5,184.6	29.3	3.3	93.2	5,058.7
リハビリテーション科								
放射線科	放射線診断科、放射線治療科							
歯　科								
麻酔科	麻酔科、集中治療科	35,038.5	13,819.0	21,219.5	1,992.8	138.2	419.6	18,668.9
結 核（再 掲）								
合　　計		10,058.4	6,619.8	3,438.7	592.3	17.1	89.8	2,739.5

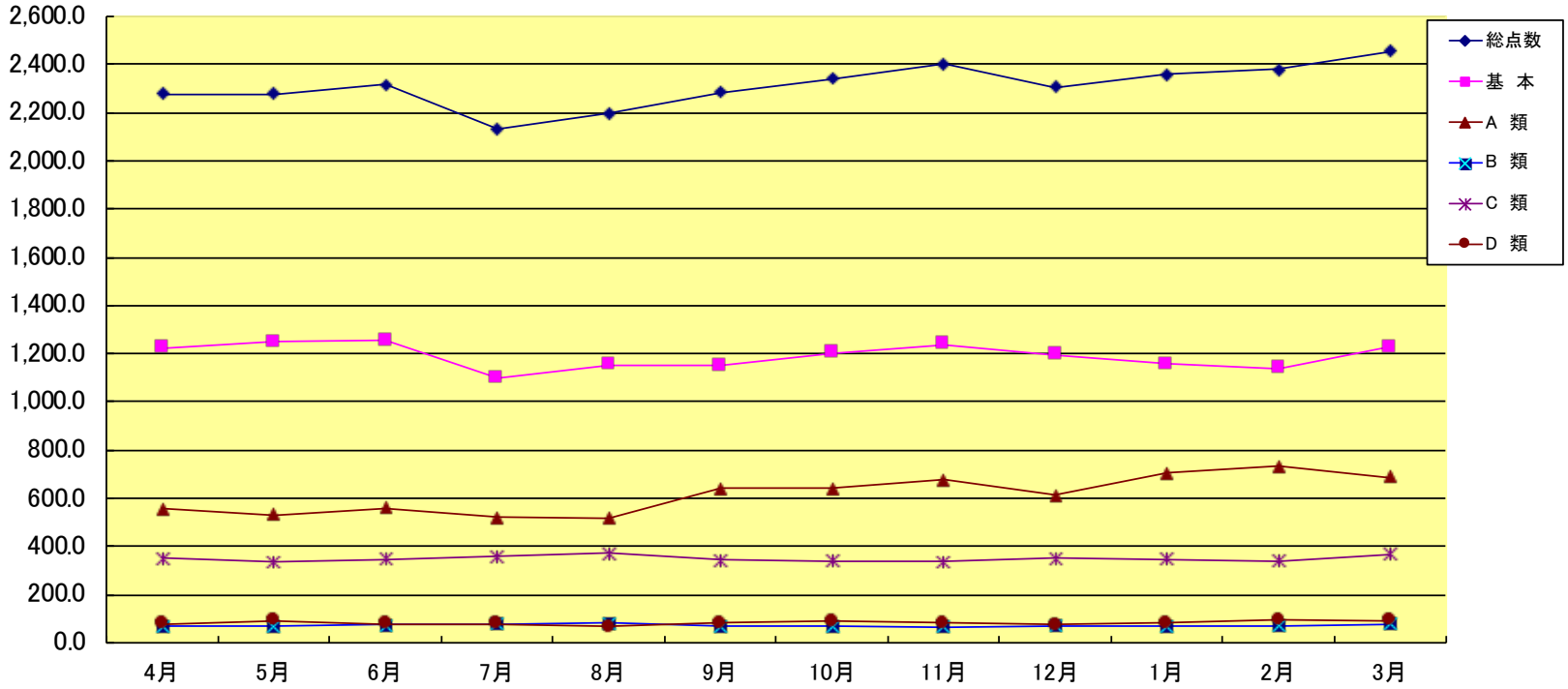
６　診療点数【外来】

６－１表 月別外来患者延点数

	平成30年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成31年 1月	2月	3月	計
総点数	42,632,509	45,687,418	47,015,661	46,287,242	50,284,089	43,464,682	48,577,005	48,987,557	48,371,512	48,083,593	45,889,122	54,203,997	569,484,387
基　本	22,929,931	25,084,279	25,492,899	23,845,194	26,432,844	21,844,872	24,934,612	25,293,464	25,065,359	23,618,468	21,974,530	27,143,708	293,660,160
特掲計	19,702,578	20,603,139	21,522,762	22,442,048	23,851,245	21,619,810	23,642,393	23,694,093	23,306,153	24,465,125	23,914,592	27,060,289	275,824,227
A　類	10,400,776	10,622,433	11,364,372	11,268,784	11,829,919	12,194,791	13,267,167	13,813,702	12,832,309	14,331,409	14,144,390	15,132,446	151,202,498
B　類	1,282,118	1,373,277	1,498,897	1,693,484	1,910,208	1,291,974	1,423,344	1,311,676	1,498,318	1,381,244	1,377,907	1,710,428	17,752,875
C　類	6,553,925	6,747,748	7,059,174	7,777,736	8,541,570	6,550,118	7,076,298	6,893,320	7,370,862	7,056,438	6,550,438	8,164,311	86,341,938
D　類	1,465,759	1,859,681	1,600,319	1,702,044	1,569,548	1,582,927	1,875,584	1,675,395	1,604,664	1,696,034	1,841,857	2,053,104	20,526,916

	平成30年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成31年 1月	2月	3月	計
患者延数	18,722	20,069	20,300	21,704	22,893	19,020	20,759	20,403	20,991	20,396	19,273	22,090	246,620
1日平均患者数	936.1	955.7	966.7	1,033.5	995.3	1,056.7	943.6	971.6	1,104.8	1,073.5	1,014.4	1,104.5	1,010.7

６－２表　月別外来患者１人１日当たり平均診療点数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
総点数	2,277.1	2,276.5	2,316.0	2,132.7	2,196.5	2,285.2	2,340.0	2,401.0	2,304.4	2,357.5	2,381.0	2,453.8	2,309.2
基　本	1,224.8	1,249.9	1,255.8	1,098.7	1,154.6	1,148.5	1,201.1	1,239.7	1,194.1	1,158.0	1,140.2	1,228.8	1,190.7
A　類	555.5	529.3	559.8	519.2	516.7	641.2	639.1	677.0	611.3	702.7	733.9	685.0	613.1
B　類	68.5	68.4	73.8	78.0	83.4	67.9	68.6	64.3	71.4	67.7	71.5	77.4	72.0
C　類	350.1	336.2	347.7	358.4	373.1	344.4	340.9	337.9	351.1	346.0	339.9	369.6	350.1
D　類	78.3	92.7	78.8	78.4	68.6	83.2	90.4	82.1	76.4	83.2	95.6	92.9	83.2

６－３表　診療科別外来患者1人1日当たり平均診療点数

標榜診療科名	院内標榜科名	総点数	基本	特掲診療計	特掲診療内訳			
					A類	B類	C類	D類
内　科	母性内科、女性総合外来	1,135.1	420.1	715.0	154.0	12.5	548.4	0.1
心療内科								
精神科	児童・思春期リエゾン科、 児童・思春期メンタルヘルス科、 乳幼児メンタルヘルス科	680.0	147.2	532.8	0.6	1.5	24.6	506.1
神経科	神経内科、在宅診療科	1,001.9	573.7	428.2	103.1	29.8	122.8	172.5
呼吸器科		1,151.0	881.6	269.5	70.4	56.2	139.9	2.9
消化器科	消化器科、肝臓内科、内視鏡科	5,550.1	1,439.3	4,110.7	3,451.1	47.4	583.3	28.8
循環器科		3,017.6	729.4	2,288.2	1,173.0	67.2	1,047.9	
アレルギー科		741.9	284.6	457.3	77.0	2.0	378.2	
リウマチ科	膠原病							
小児科	総合診療部、救急診療科、内分泌科、 腎臓科、血液腫瘍科、血液内科、遺伝診療科、 新生児科、移植外科、免疫科、感染症科、ライソゾーム病センター	4,921.6	2,579.3	2,342.2	1,730.8	86.5	480.4	44.5
外　科		578.8	239.9	338.9	1.7	84.8	204.3	48.1
整形外科		627.8	139.6	488.2	0.9	351.6	46.4	89.3
形成外科		1,169.3	972.3	197.0		61.2	51.8	84.0
脳神経外科		877.0	125.1	751.9		709.6	39.9	2.4
心臓血管外科		611.4	232.1	379.3		145.0	215.3	19.0
小児外科								
皮膚科		729.7	166.1	563.5	1.0	4.4	72.7	485.5
泌尿器科		1,107.4	540.9	566.5	1.1	165.1	393.0	7.3
産婦人科	産科、婦人科、不妊診療科 不育診療科、胎児診療科	1,581.3	1,206.5	374.9	10.6	8.2	349.9	6.1
眼　科		433.5	152.5	281.0	2.0	30.8	244.0	4.2
耳鼻咽喉科		857.0	198.0	659.0		83.1	465.8	110.2
リハビリテーション科		564.7	105.4	459.3			173.6	285.7
放射線科	放射線診断科、放射線治療科	5,177.1	163.6	5,013.6		1,567.0	2.7	3,443.9
歯　科		773.6	404.1	369.6	0.4	37.5	57.4	274.3
麻酔科	麻酔科、集中治療科	292.3	286.1	6.2	0.4	1.6	2.6	1.6
結 核（再 掲）								
合　　計		2,309.2	1,190.7	1,118.4	613.1	72.0	350.1	83.2

7 都道府県別にみた患者数【入院】

7－1表 診療科別・都道府県別延入院患者数

診療科名	院内標榜科名	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
内　科	母性内科				102				203			5	203	224	498							123			
精神科	児童・思春期リエゾン科													70	26										
	児童・思春期メンタルヘルス科													10	20										
	乳幼児メンタルヘルス科																								
神経科	神経内科									2		71	26	2593	345					32	5				
	在宅診療科					2						80	72	2232	214								4	2	
呼吸器科	呼吸器科						6	1				389	96	211	59										
消化器科	消化器科	28							27	111	2	124	344	1326	713	39				61		59	5	1	
	肝臓内科																								
循環器科	循環器科	66						5	17			34	459	2543	740					9					
アレルギー科	アレルギー科	3				12			17	1		183	107	1751	644	41				3	6		186	97	
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病			8				1	135	42	253	201	91	1039	933				3		41				
	総合診（成人診療科含む）	5								15	5	120	129	18557	2496	48			2	32			71	49	3
	救急診療科													65	2										
	血液腫瘍科	188						11	214	344	140	1252	851	10906	2107	24	1	99					233	260	
	血液内科												14	48											
	ライソゾーム病センター																								
	内分泌・代謝科						3	10	3	2	12	68	298	986	368		3	38		4	9		15	6	
	遺伝診療科																								
	免疫科									130		277	154	343	439								3		
	新生児科	7				10	6	4	188	21	18	197	171	17071	3380			107		12	25	7	31	35	
	移植外科	198		2			19	15	37		116	783	582	584	755	42	2	46		2	113		41	53	
	緩和ケア科													11											
外　科	外科	4								1	2	223	170	3955	980	29	2					10	46		
整形外科	整形外科	16		22	14			31	46	18	50	152	138	2290	801			17		22	12		25	5	15
形成外科	形成外科					19		46	8	8	16	63	111	696	136					7					
脳神経外科	脳神経外科	1		99		17		4	15	49	8	333	209	4694	1496			20		62		5	18	2	
心臓血管外科	心臓血管外科								4			6	5	124	25										
皮膚科	皮膚科										2	3	10	55	26								2		
泌尿器科	泌尿器科				2			2	32	5	6	152	28	901	297	11	20		1				26		
産婦人科	不妊診療科											10		116	1										
	不育診療科													1											
	胎児診療科					5		2	32	29	11	127	65	1667	491	72				17	24			121	
	産科	8			10		7	56	22	13	10	326	281	16525	2581			9		10		9	22	12	
	婦人科																								
眼　科	眼　科	25	10		16	38	7	97	35	53	61	214	175	1503	391	85	2	2		28	50		90	37	
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	42	38	46						6	7	25	42	1229	275	24				14	9		4	6	
リハビリテーション科	リハビリテーション科																								
放射線科	放射線診断科																								
	放射線治療科																								
歯　科	歯科																								
麻酔科	集中治療科	52	12	6	2			5	18	20	101	320	318	3345	1006	30		17		17	41		22	15	
	麻酔科													2											
合　計		643	60	183	146	101	50	290	1053	870	820	5738	5149	97673	22245	445	30	355	6	332	335	213	844	701	18

7 都道府県別にみた患者数【入院】

7－1表 診療科別・都道府県別延入院患者

診療科名	院内標榜科名	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	その他	総計
内　科	母性内科																									1,358
精神科	児童・思春期リエゾン科																									96
	児童・思春期メンタルヘルス科																									30
	乳幼児メンタルヘルス科																									
神経科	神経内科														4		3									3,081
	在宅診療科																									2,606
呼吸器科	呼吸器科																									762
消化器科	消化器科				56			9											45							2,950
	肝臓内科																									
循環器科	循環器科			14																		8				3,895
アレルギー科	アレルギー科				4	1					131			18	127										19	3,351
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病				6													9						1		2,763
	総合診（成人診療科含む）						113	4														20		7	4	21,680
	救急診療科																									67
	血液腫瘍科				166										164		2									16,962
	血液内科																									62
	ライソゾーム病センター																									
	内分泌・代謝科	11	4	57	5									5		5	3							4		1,919
	遺伝診療科																									
	免疫科																									1,346
	新生児科																									21,290
	移植外科	40		23	4		1								39	2			199				274	206	61	4,239
	緩和ケア科																									11
外　科	外科				6																	1				5,429
整形外科	整形外科			5			10		7					8			24		14		9		11	3		3,765
形成外科	形成外科			8																			2			1,120
脳神経外科	脳神経外科				31		21			2							1		2							7,089
心臓血管外科	心臓血管外科			2																						166
皮膚科	皮膚科																							2		100
泌尿器科	泌尿器科																2								4	1,489
産婦人科	不妊診療科																									127
	不育診療科																									1
	胎児診療科																							7		2,670
	産科																		2							19,903
	婦人科																									
眼　科	眼　科	10		10	7			14				40		10		31						10	27	74		3,152
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科			2													21		2						10	1,802
リハビリテーション科	リハビリテーション科																									
放射線科	放射線診断科																									
	放射線治療科																									
歯　科	歯科																									
麻酔科	集中治療科	46		38	3										1		2		60				100	56	8	5,661
	麻酔科																									2
合　計		107	4	159	288	1	145	27	7	2	131	40		41	335	38	58	9	324		9	31	422	360	106	140,944

７－２表 診療科別・都道府県別一日平均入院患者数

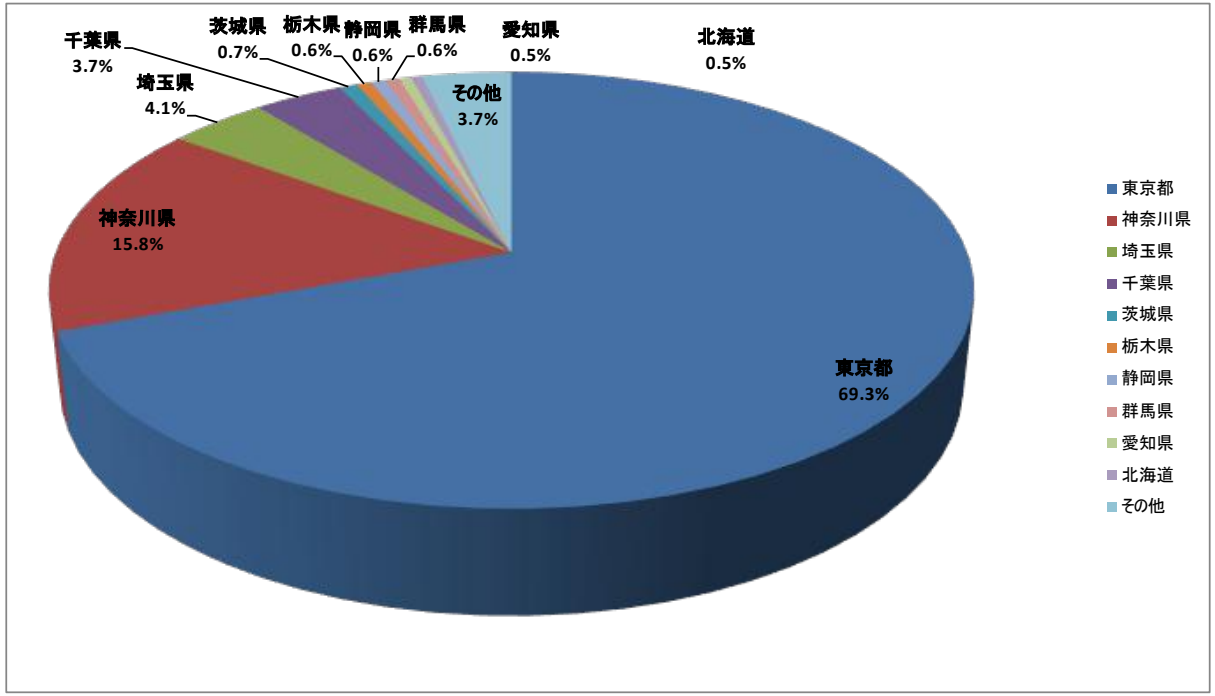
診療科名	院内標榜科名	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
内　　科	母性内科				0.3				0.6				0.6	0.6	1.4							0.3			
精神科	児童・思春期リエゾン科													0.2	0.1										
	児童・思春期メンタルヘルス科														0.1										
	乳幼児メンタルヘルス科																								
神経科	神経内科											0.2	0.1	7.1	0.9					0.1					
	在宅診療科											0.2	0.2	6.1	0.6										
呼吸器科	呼吸器科											1.1	0.3	0.6	0.2										
消化器科	消化器科	0.1							0.1	0.3		0.3	0.9	3.6	2.0	0.1				0.2		0.2			
	肝臓内科																								
循環器科	循環器科	0.2										0.1	1.3	7.0	2.0										
アレルギー科	アレルギー科											0.5	0.3	4.8	1.8	0.1							0.5	0.3	
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病								0.4	0.1	0.7	0.6	0.2	2.8	2.6						0.1				
	総合診（成人診療科含む）											0.3	0.4	50.8	6.8	0.1				0.1			0.2	0.1	
	救急診療科													0.2											
	血液腫瘍科	0.5							0.6	0.9	0.4	3.4	2.3	29.9	5.8	0.1		0.3					0.6	0.7	
	血液内科													0.1											
	ライソゾーム病センター																								
	内分泌・代謝科											0.2	0.8	2.7	1.0			0.1							
	遺伝診療科																								
	免疫科									0.4		0.8	0.4	0.9	1.2										
	新生児科								0.5	0.1		0.5	0.5	46.8	9.3			0.3			0.1		0.1	0.1	
	移植外科	0.5					0.1		0.1		0.3	2.1	1.6	1.6	2.1	0.1		0.1			0.3		0.1	0.1	
外　　科	外科											0.6	0.5	10.8	2.7	0.1							0.1		
整形外科	整形外科			0.1				0.1	0.1		0.1	0.4	0.4	6.3	2.2					0.1			0.1		
形成外科	形成外科					0.1		0.1				0.2	0.3	1.9	0.4										
脳神経外科	脳神経外科			0.3						0.1		0.9	0.6	12.9	4.1			0.1		0.2					
心臓血管外科	心臓血管外科													0.3	0.1										
皮膚科	皮膚科													0.2	0.1										
泌尿器科	泌尿器科								0.1			0.4	0.1	2.5	0.8		0.1						0.1		
産婦人科	不妊診療科													0.3											
	不育診療科																								
	胎児診療科								0.1	0.1		0.3	0.2	4.6	1.3	0.2					0.1			0.3	
	産科							0.2	0.1			0.9	0.8	45.3	7.1								0.1		
	婦人科																								
眼　　科	眼　　科	0.1				0.1		0.3	0.1	0.1	0.2	0.6	0.5	4.1	1.1	0.2				0.1	0.1		0.2	0.1	
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	0.1	0.1	0.1								0.1	0.1	3.4	0.8	0.1									
リハビリテーション科	リハビリテーション科																								
放射線科	放射線診断科																								
	放射線治療科																								
歯　　科	歯科																								
麻酔科	集中治療科	0.1								0.1	0.3	0.9	0.9	9.2	2.8	0.1					0.1		0.1		
	麻酔科																								
合　　計		1.8	0.2	0.5	0.4	0.3	0.1	0.8	2.9	2.4	2.2	15.7	14.1	267.6	60.9	1.2	0.1	1.0		0.9	0.9	0.6	2.3	1.9	

７－２表　診療科別・都道府県別一日平均入院

診療科名	院内標榜科名	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	その他	総計
内　科	母性内科																									3.7
精神科	児童・思春期リエゾン科																									0.3
	児童・思春期メンタルヘルス科																									0.1
	乳幼児メンタルヘルス科																									
神経科	神経内科																									8.4
	在宅診療科																									7.1
呼吸器科	呼吸器科																									2.1
消化器科	消化器科				0.2														0.1							8.1
	肝臓内科																									
循環器科	循環器科																									10.7
アレルギー科	アレルギー科										0.4				0.3										0.1	9.2
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病																									7.6
	総合診（成人診療科含む）						0.3															0.1				59.4
	救急診療科																									0.2
	血液腫瘍科				0.5										0.4											46.5
	血液内科																									0.2
	ライソゾーム病センター																									
	内分泌・代謝科			0.2																						5.3
	遺伝診療科																									
	免疫科																									3.7
	新生児科																									58.3
	移植外科	0.1		0.1											0.1				0.5				0.8	0.6	0.2	11.6
外　科	外科																									14.9
整形外科	整形外科																0.1									10.3
形成外科	形成外科																									3.1
脳神経外科	脳神経外科				0.1		0.1																			19.4
心臓血管外科	心臓血管外科																									0.5
皮膚科	皮膚科																									0.3
泌尿器科	泌尿器科																									4.1
産婦人科	不妊診療科																									0.3
	不育診療科																									
	胎児診療科																									7.3
	産科																									54.5
	婦人科																									
眼　科	眼　科											0.1				0.1							0.1	0.2		8.6
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科																0.1									4.9
リハビリテーション科	リハビリテーション科																									
放射線科	放射線診断科																									
	放射線治療科																									
歯　科	歯科																									
麻酔科	集中治療科	0.1		0.1															0.2				0.3	0.2		15.5
	麻酔科																									
合　計		0.3		0.4	0.8		0.4	0.1			0.4	0.1		0.1	0.9	0.1	0.2		0.9			0.1	1.2	1.0	0.3	386.1

７－３表　入院患者数の都道府県別構成割合（主な都道府県）

東京都	神奈川県	埼玉県	千葉県	茨城県	栃木県	静岡県	群馬県	愛知県	北海道	その他
97,673	22,245	5,738	5,149	1,053	870	844	820	701	643	5,208
69.3%	15.8%	4.1%	3.7%	0.7%	0.6%	0.6%	0.6%	0.5%	0.5%	3.8%



8 都道府県別にみた患者数【新入院】

8－1表 診療科別・都道府県別延べ新入院患者数

診療科名	院内標榜科名	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取県	島根県
内　科	母性内科				1				1			1	1	33	6							1											
精神科	児童・思春期リエゾン科													4	1																		
	児童・思春期メンタルヘルス科																																
	乳幼児メンタルヘルス科													1	2																		
神経科	神経内科									1		8	8	210	43					1	2												
	在宅診療科						1					24	15	604	67								2	1									
呼吸器科	呼吸器科						1	1				3	2	19	8																		
消化器科	消化器科								9	2	2	6	13	123	54	6				4		3	2	1				1			3	
	肝臓内科																																
循環器科	循環器科							1	3			7	7	128	35																		
アレルギー科	アレルギー科	3				1			5	1		38	36	1102	224	10				6	3		5	5	1				4	1			
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病			3				1	10		10	14	4	154	87				2		3							1				
	総合診（成人診療科含む）	1								14	1	19	13	2025	176				1	3			7	2	1					2	1		
	救急診療科													90	2																		
	血液腫瘍科	3						2	12	2		54	34	605	155	7	1	1					7	12					3				
	血液内科												1	7																			
	ライソゾーム病センター																																
	内分泌・代謝科						1	3	1	1	1	7	16	128	40		1	2		1	2		4	2		2	1	2	1				
	遺伝診療科																																
	免疫科									2		10	7	11	6								1										
	新生児科	1				1	1	1	6	2	2	20	19	1438	231			1		1	1	1	2	3									
	移植外科	10		1			2	3	3		12	37	45	78	57	5	1	2		1	4		4	4		2		2	1		1		
	緩和ケア科																																
外　科	外科	1								1	1	19	16	449	100	1	1					1	2										
整形外科	整形外科	2		1	1			5	9	2	8	21	19	264	83			2		4	1		3	1	2			1			1		1
形成外科	形成外科					3		3	2	1	2	9	18	133	27					2								1					
脳神経外科	脳神経外科	1		3		1		3	3	4	4	37	16	437	124			1		7		1	4	1					1		2		
心臓血管外科	心臓血管外科								1			5	2	47	12													1					
皮膚科	皮膚科										1	3	9	41	19								2										
泌尿器科	泌尿器科				1			1	5	1	2	11	4	200	45	1	2		1				4										
産婦人科	不妊診療科				1				3			7	1	148	20																		
	不育診療科																																
	胎児診療科	2				1		1	2	4	1	15	6	245	59	5				3	2			1		1							
	産科	1			3		1	2	3	1	1	30	20	1966	288			1		2	1	1	3	3									
	婦人科																																
眼　科	眼　科	4	1		2	3	2	17	6	4	14	39	26	266	55	8	1	1		4	11		8	2		1		2	1			1	
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	3	1	3						1	2	7	12	313	73	4				6	1		2	1				1					
リハビリテーション科	リハビリテーション科																																
放射線科	放射線診断科																																
	放射線治療科																																
歯　科	歯科																																
麻酔科	集中治療科	1							1	1	2	8	8	290	62	3		1		1	2			1		1							
	麻酔科													2																			
合　計		33	2	11	9	10	9	44	85	45	66	459	378	#####	2,161	50	7	12	4	46	33	8	62	40	4	7	1	10	13	1	6	5	1

８ 都道府県別にみた患者数【新入院】

８－１表 診療科別・都道府県別延べ新入院患者数

診療科名	院内標榜科名	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀県	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	その他	合計
内　　科	母性内科																	44
精神科	児童・思春期リエゾン科																	5
	児童・思春期メンタルヘルス科																	
	乳幼児メンタルヘルス科																	3
神経科	神経内科						2		1									276
	在宅診療科														1			714
呼吸器科	呼吸器科																	34
消化器科	消化器科																	229
	肝臓内科																	
循環器科	循環器科																	182
アレルギー科	アレルギー科		1			1	1											1,448
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病									1						1		291
	総合診（成人診療科含む）													1		1	1	2,269
	救急診療科																	92
	血液腫瘍科						2		2									902
	血液内科																	8
	ライソゾーム病センター																	
	内分泌・代謝科					1		1	1							1		220
	遺伝診療科																	
	免疫科																	37
	新生児科																	1,731
	移植外科						1	1			1				4	7	2	
	緩和ケア科																	
外　　科	外科													1				593
整形外科	整形外科					1			4		2		2		1	1		442
形成外科	形成外科																	201
脳神経外科	脳神経外科	2							1		1							654
心臓血管外科	心臓血管外科																	68
皮膚科	皮膚科															2		77
泌尿器科	泌尿器科								1								2	281
産婦人科	不妊診療科																	180
	不育診療科																	
	胎児診療科															1		349
	産科										1							2,328
	婦人科																	
眼　　科	眼　　科			4		1		2						1	3	5		495
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科								3		1						2	436
リハビリテーション科	リハビリテーション科																	
放射線科	放射線診断科																	
	放射線治療科																	
歯　　科	歯科																	
麻酔科	集中治療科														1			383
	麻酔科																	2
合　　計		2	1	4		4	6	4	13	1	6		2	3	10	19	7	15,265

８－２表　診療科別・都道府県別１日平均新入院患者数

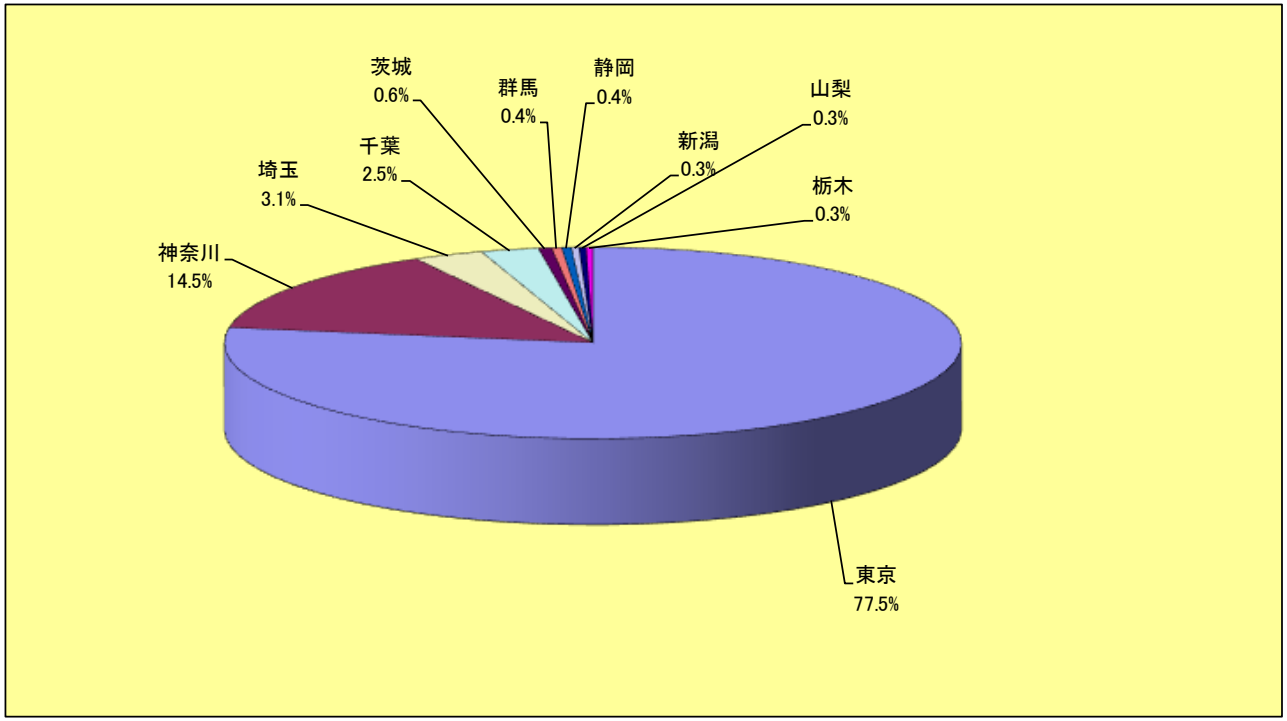
診療科名	院内標榜科名	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良
内　　科	母性内科				0.0				0.0			0.0	0.0	0.1	0.0							0.0								
精神科	児童・思春期リエゾン科													0.0	0.0															
	児童・思春期メンタルヘルス科																													
	乳幼児メンタルヘルス科													0.0	0.0															
神経科	神経内科									0.0		0.0	0.0	0.6	0.1					0.0	0.0									
	在宅診療科						0.0					0.1	0.0	1.7	0.2								0.0	0.0						
呼吸器科	呼吸器科						0.0	0.0				0.0	0.0	0.1	0.0															
消化器科	消化器科								0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.1	0.0				0.0		0.0	0.0	0.0					0.0	
	肝臓内科																													
循環器科	循環器科							0.0	0.0			0.0	0.0	0.4	0.1															
アレルギー科	アレルギー科	0.0				0.0			0.0	0.0		0.1	0.1	3.0	0.6	0.0				0.0	0.0		0.0	0.0	0.0				0.0	0.0
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病			0.0				0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.4	0.2				0.0		0.0								0.0	
	総合診（成人診療科含む）	0.0								0.0	0.0	0.1	0.0	5.5	0.5				0.0	0.0			0.0	0.0	0.0					
	救急診療科													0.2	0.0															
	血液腫瘍科	0.0						0.0	0.0	0.0		0.1	0.1	1.7	0.4	0.0	0.0	0.0					0.0	0.0					0.0	
	血液内科												0.0	0.0																
	ライソゾーム病センター																													
	内分泌・代謝科						0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.1		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	
	遺伝診療科																													
	免疫科									0.0		0.0	0.0	0.0	0.0								0.0							
	新生児科	0.0				0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	3.9	0.6			0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						
	移植外科																													
外　　科	外科	0.0								0.0	0.0	0.1	0.0	1.2	0.3	0.0	0.0					0.0	0.0							
整形外科	整形外科	0.0		0.0	0.0			0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.7	0.2			0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	0.0			0.0		
形成外科	形成外科					0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.1					0.0								0.0		
脳神経外科	脳神経外科	0.0		0.0		0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	1.2	0.3			0.0		0.0		0.0	0.0	0.0					0.0	
心臓血管外科	心臓血管外科								0.0			0.0	0.0	0.1	0.0													0.0		
皮膚科	皮膚科										0.0	0.0	0.0	0.1	0.1								0.0							
泌尿器科	泌尿器科				0.0			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.1	0.0	0.0		0.0				0.0							
産婦人科	不妊診療科				0.0				0.0			0.0	0.0	0.4	0.1															
	不育診療科																													
	胎児診療科	0.0				0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.2	0.0				0.0	0.0			0.0		0.0				
	産科	0.0			0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	5.4	0.8			0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						
	婦人科																													
眼　　科	眼　　科	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.7	0.2	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0		0.0	0.0	
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	0.0	0.0	0.0						0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.2	0.0				0.0	0.0		0.0	0.0				0.0		
リハビリテーション科	リハビリテーション科																													
放射線科	放射線診断科																													
	放射線治療科																													
歯　　科	歯科																													
麻酔科	集中治療科	0.0							0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.2	0.0		0.0		0.0	0.0			0.0		0.0				
	麻酔科													0.0																
合　　計		0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.1	0.2	1.3	1.0	31.7	5.9	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

８－２表　診療科別・都道府県別１日平均新入

診療科名	院内標榜科名	和歌山	鳥取県	島根県	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀県	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	その他	合計
内　　科	母性内科																				0.1
精神科	児童・思春期リエゾン科																				0.0
	児童・思春期メンタルヘルス科																				
	乳幼児メンタルヘルス科																				0.0
神経科	神経内科									0.0		0.0									0.8
	在宅診療科																				2.0
呼吸器科	呼吸器科																				0.1
消化器科	消化器科		0.0																		0.6
	肝臓内科																				
循環器科	循環器科																	0.0			0.5
アレルギー科	アレルギー科					0.0			0.0	0.0											4.0
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病												0.0						0.0		0.8
	総合診（成人診療科含む）	0.0	0.0														0.0		0.0	0.0	6.2
	救急診療科																				0.3
	血液腫瘍科									0.0		0.0									2.5
	血液内科																				0.0
	ライソゾーム病センター																				
	内分泌・代謝科								0.0		0.0	0.0							0.0		0.6
	遺伝診療科																				
	免疫科																				0.1
	新生児科																				4.7
	移植外科																				
外　　科	外科																0.0				1.6
整形外科	整形外科	0.0		0.0					0.0			0.0		0.0		0.0		0.0	0.0		1.2
形成外科	形成外科																				0.6
脳神経外科	脳神経外科	0.0			0.0							0.0		0.0							1.8
心臓血管外科	心臓血管外科																				0.2
皮膚科	皮膚科																		0.0		0.2
泌尿器科	泌尿器科											0.0								0.0	0.8
産婦人科	不妊診療科																				0.5
	不育診療科																				
	胎児診療科																		0.0		1.0
	産科													0.0							6.4
	婦人科																				
眼　　科	眼　　科		0.0				0.0		0.0		0.0						0.0	0.0	0.0		1.4
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科											0.0		0.0						0.0	1.2
リハビリテーション科	リハビリテーション科																				
放射線科	放射線診断科																				
	放射線治療科																				
歯　　科	歯科																				
麻酔科	集中治療科																	0.0			1.0
	麻酔科																				0.0
合　　計		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	41.8

８－３表　新入院患者数の都道府県別構成割合（主な都道府県）

東京	神奈川	埼玉	千葉	茨城	群馬	静岡	新潟	山梨	栃木	その他
11,561	2,161	459	378	85	66	62	50	46	45	352
75.7%	14.2%	3.0%	2.5%	0.6%	0.4%	0.4%	0.3%	0.3%	0.3%	2.3%



9 都道府県別にみた患者数【外来新患】

9－1表

診療科別・都道府県別延外来患者数【新患】

診療科名	院内標榜科名	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良
内科	母性内科	1					1	2	3	1	2	21	15	215	41					2	1			2						
	女性総合外来											8	6	92	18															
精神科	児童・思春期リエゾン科												1	3	1															
	児童・思春期メンタルヘルス科								1			7	4	106	17												1			
	乳幼児メンタルヘルス科							1	1				2	58	6															
神経科	神経内科						1		2		1	2	1	149	28						1			2						
	在宅診療科													6	4															
呼吸器科	呼吸器科													6	4															
消化器科	消化器科								3	1	1	1	2	113	21	1														1
	肝臓内科																													
	内視鏡科																													
循環器科	循環器科							2	3			4	6	184	25								1							
アレルギー科	アレルギー科								2	1		22	12	410	96	2			1	2	1		2						1	
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病		1						4		1	3	2	101	21					1	1		1						1	
	総合診（成人診療科含む）								2	3	1	9	8	423	45					1			2							
	救急診療科	5	1		3			2	8	3	3	29	14	12655	327	2		1			2		11	7		1	1	7	5	
	血液腫瘍科							1				9	4	46	14	1		1		1		1		1				1		
	血液内科											4		24	5															
	ライソゾーム病センター													6	3											1			1	
	内分泌・代謝科								2		3	4	4	297	51		1			1							1			
	遺伝診療科			1				1			1	6	5	71	20	2		1			2		1			1			1	
	免疫科								2			4	2	21	7								1							
	新生児科													10	1								1							
	移植外科	1					3	2	1		2	9	13	15	7	2		2			2		1	3		1		1		
	感染症科											1		7	4															
	病理診断科																													
外科	外科		1						1		1	2	3	270	30															
整形外科	整形外科	4		1	3	1	1	2	9	10	6	15	21	386	124	5	2	2		2		2	2	1	1			1		1
形成外科	形成外科		1						3	2		6	18	219	58						3									
脳神経外科	脳神経外科					1			2	2	4	5	3	89	36			1		2			2	1		1				
心臓血管外科	心臓血管外科								1				1	1																
皮膚科	皮膚科						1		2	1		8	7	444	94					2										
泌尿器科	泌尿器科	1			1			1	7		1	4	3	280	35					1	1		3							
産婦人科	不妊診療科							1	4	1		6	2	184	30															
	不育診療科	1			1		1		2			14	10	140	25					1			1	1						
	胎児診療科	3					1	1	6	6	1	34	21	1120	209	1		1		3	1		6	1		2				
	産科	1					1	2	3		1	18	10	1526	228	1		1		1				1					1	
	婦人科													5																
眼科	眼科	4	2	1	3		3	13	9	7	17	39	40	387	108	6	1	1		5	7	1	3	2	1			3	2	2
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	1					1		7	2		12	13	665	113						2		3	1				1		
リハビリテーション科	リハビリテーション科													3																
放射線科	放射線診断科													85	2															
	放射線治療科													3	2															
歯科	歯科	1					1	2	7	6	7	114	61	1910	457		1	2	2	3	2	1	4	6					2	
麻酔科	集中治療科													8																
	麻酔科							1				1		10	1															
合計		23	6	3	11	2	15	34	97	46	53	421	314	22,753	2,318	23	5	13	3	28	26	5	45	29	2	7	1	16	13	5

９ 都道府県別にみた患者数【外来新患】

９－１表

診療科別・都道府県別延外来患者数【新患】

診療科名	院内標榜科名	和歌山	鳥取県	島根県	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀県	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	その他	合計
内　科	母性内科					1														2	310
	女性総合外来																				124
精神科	児童・思春期リエゾン科																				5
	児童・思春期メンタルヘルス科																				136
	乳幼児メンタルヘルス科																				68
神経科	神経内科																		1		188
	在宅診療科																				
呼吸器科	呼吸器科																				10
消化器科	消化器科																			1	145
	肝臓内科																				
	内視鏡科																				
循環器科	循環器科																	1		1	227
アレルギー科	アレルギー科					1				1							1			1	556
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病																				137
	総合診（成人診療科含む）																				494
	救急診療科	1			2	2	1	1	1	2		3		3		1	1	1	2	16	13,124
	血液腫瘍科								1			1							1	1	84
	血液内科																				33
	ライソゾーム病センター																				11
	内分泌・代謝科																			1	365
	遺伝診療科											2									115
	免疫科																				37
	新生児科																				12
	移植外科												1					2	3	2	73
	感染症科																			3	15
	病理診断科																				
外　科	外科																				308
整形外科	整形外科			1	1				1						1				1		607
形成外科	形成外科																		1		311
脳神経外科	脳神経外科	1																			150
心臓血管外科	心臓血管外科																				3
皮膚科	皮膚科		1												1						561
泌尿器科	泌尿器科																			3	341
産婦人科	不妊診療科																				228
	不育診療科													1							198
	胎児診療科																	1	1	2	1,421
	産科																				1,795
	婦人科																				5
眼　科	眼　科								2				1					3	1	2	676
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科																				821
リハビリテーション科	リハビリテーション科																				3
放射線科	放射線診断科																				87
	放射線治療科																				5
歯　科	歯科	1	1							1				2			2	2	1		2,599
麻酔科	集中治療科																				8
	麻酔科																				13
合　計		3	2	1	3	4	1	1	5	4		6	2	6	2	1	4	10	12	35	26,419

９－２表

診療科別・都道府県別一日平均外来患者数【

診療科名	院内標榜科名	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良
内科	母性内科	0.0					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.9	0.2					0.0	0.0			0.0						
	女性総合外来											0.0	0.0	0.4	0.1															
精神科	児童・思春期リエゾン科												0.0	0.0	0.0															
	児童・思春期メンタルヘルス科								0.0			0.0	0.0	0.4	0.1												0.0		
	乳幼児メンタルヘルス科							0.0	0.0				0.0	0.2	0.0															
神経科	神経内科						0.0		0.0		0.0	0.0	0.0	0.6	0.1						0.0			0.0						
	在宅診療科													0.0	0.0															
呼吸器科	呼吸器科													0.0	0.0															
消化器科	消化器科								0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.1	0.0														0.0
	肝臓内科																													
	内視鏡科																													
循環器科	循環器科							0.0	0.0			0.0	0.0	0.8	0.1								0.0							
アレルギー科	アレルギー科								0.0	0.0		0.1	0.0	1.7	0.4	0.0			0.0	0.0	0.0		0.0						0.0	
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病		0.0						0.0		0.0	0.0	0.0	0.4	0.1					0.0	0.0		0.0						0.0	
	総合診（成人診療科含む）								0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.2					0.0			0.0							
	救急診療科	0.0	0.0		0.0			0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	51.9	1.3	0.0		0.0			0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	
	血液腫瘍科							0.0				0.0	0.0	0.2	0.1	0.0		0.0		0.0		0.0		0.0			0.0			
	血液内科											0.0		0.1	0.0															
	ライソゾーム病センター													0.0	0.0						0.0					0.0			0.0	
	内分泌・代謝科								0.0		0.0	0.0	0.0	1.2	0.2		0.0			0.0							0.0			
	遺伝診療科			0.0				0.0			0.0	0.0	0.0	0.3	0.1	0.0		0.0			0.0		0.0			0.0			0.0	
	免疫科								0.0			0.0	0.0	0.1	0.0								0.0							
	新生児科													0.0	0.0								0.0							
	移植外科	0.0					0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0		0.0			0.0		0.0	0.0		0.0		0.0		
	感染症科											0.0		0.0	0.0															
	病理診断科																													
外科	外科		0.0						0.0		0.0	0.0	0.0	1.1	0.1															
整形外科	整形外科	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	1.6	0.5	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.0	0.0	0.0			0.0		0.0
形成外科	形成外科		0.0						0.0	0.0		0.0	0.1	0.9	0.2						0.0									
脳神経外科	脳神経外科					0.0			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.1			0.0		0.0			0.0	0.0		0.0				
心臓血管外科	心臓血管外科								0.0				0.0	0.0																
皮膚科	皮膚科						0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	1.8	0.4					0.0										
泌尿器科	泌尿器科	0.0			0.0			0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	1.1	0.1					0.0	0.0		0.0							
産婦人科	不妊診療科							0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.8	0.1															
	不育診療科	0.0			0.0		0.0		0.0			0.1	0.0	0.6	0.1					0.0			0.0	0.0						
	胎児診療科	0.0					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	4.6	0.9	0.0		0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0				
	産科	0.0					0.0	0.0	0.0		0.0	0.1	0.0	6.3	0.9	0.0		0.0		0.0				0.0					0.0	
	婦人科													0.0																
眼科	眼科	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.2	0.2	1.6	0.4	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			0.0	0.0	0.0
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	0.0					0.0		0.0	0.0		0.0	0.1	2.7	0.5						0.0		0.0	0.0				0.0		
リハビリテーション科	リハビリテーション科													0.0																
放射線科	放射線診断科													0.3	0.0															
	放射線治療科													0.0	0.0															
歯科	歯科	0.0					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.3	7.8	1.9		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					0.0	
麻酔科	集中治療科													0.0																
	麻酔科							0.0				0.0		0.0	0.0															
合計		0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.4	0.2	0.2	1.7	1.3	93.3	9.5	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0

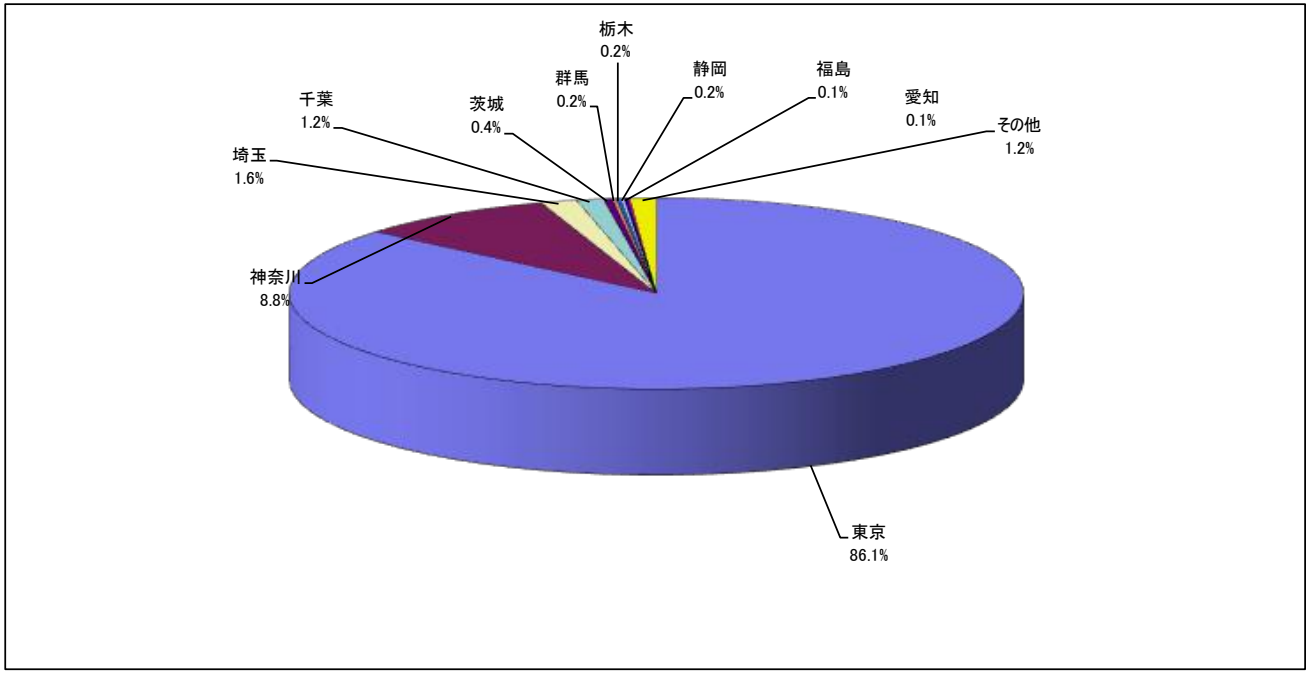
９－２表

診療科別・都道府県別一日平均外来患者数【

診療科名	院内標榜科名	和歌山	鳥取県	島根県	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀県	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	その他	合計
内　科	母性内科					0.0														0.0	1.3
	女性総合外来																				0.5
精神科	児童・思春期リエゾン科																				0.0
	児童・思春期メンタルヘルス科																				0.6
	乳幼児メンタルヘルス科																				0.3
神経科	神経内科																		0.0		0.8
	在宅診療科																				
呼吸器科	呼吸器科																				0.0
消化器科	消化器科																			0.0	0.6
	肝臓内科																				
	内視鏡科																				
循環器科	循環器科																	0.0		0.0	0.9
アレルギー科	アレルギー科					0.0				0.0							0.0			0.0	2.3
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病																				0.6
	総合診（成人診療科含む）																				2.0
	救急診療科	0.0			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	53.8
	血液腫瘍科								0.0			0.0							0.0	0.0	0.3
	血液内科																				0.1
	ライソゾーム病センター																				0.0
	内分泌・代謝科																			0.0	1.5
	遺伝診療科											0.0									0.5
	免疫科																				0.2
	新生児科																				0.0
	移植外科												0.0					0.0	0.0	0.0	0.3
	感染症科																			0.0	0.1
	病理診断科																				
外　科	外科																				1.3
整形外科	整形外科			0.0	0.0				0.0						0.0				0.0		2.5
形成外科	形成外科																		0.0		1.3
脳神経外科	脳神経外科	0.0																			0.6
心臓血管外科	心臓血管外科																				0.0
皮膚科	皮膚科		0.0												0.0						2.3
泌尿器科	泌尿器科																			0.0	1.4
産婦人科	不妊診療科																				0.9
	不育診療科													0.0							0.8
	胎児診療科																	0.0	0.0	0.0	5.8
	産科																				7.4
	婦人科																				0.0
眼　科	眼　科								0.0				0.0					0.0	0.0	0.0	2.8
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科																				3.4
リハビリテーション科	リハビリテーション科																				0.0
放射線科	放射線診断科																				0.4
	放射線治療科																				0.0
歯　科	歯科	0.0	0.0							0.0				0.0			0.0	0.0	0.0		10.7
麻酔科	集中治療科																				0.0
	麻酔科																				0.1
合　計		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	108.3

９－３表　外来患者数（新患）の都道府県別構成割合（主な都道府県）

東京	神奈川	埼玉	千葉	茨城	群馬	栃木	静岡	福島	愛知	その他
22,753	2,318	421	314	97	53	46	45	34	29	309
86.1%	8.8%	1.6%	1.2%	0.4%	0.2%	0.2%	0.2%	0.1%	0.1%	1.2%



10 都道府県別にみた患者数【外来再診】

10－1表

診療科別・都道府県別延外来患者数【再診】

診療科名	院内標榜科名	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良
内科	母性内科	9	1		2	10	7	10	45	14	15	322	188	9,167	1,774			11		3	3	1	16	14					1	
	女性総合外来											1	1	20	4								1							
精神科	児童・思春期リエゾン科											71	51	577	281			3		2		2	4	1						
	児童・思春期メンタルヘルス科	1				1			16	3	13	113	80	4,837	993		4				1		17					2		
	乳幼児メンタルヘルス科		2		1			2	3	20	1	108	25	2,595	486			3			11		5	4						
神経科	神経内科					1		5	47	7	34	213	161	5,851	1,368	5	3	1		26	7		14	3				1	1	
	在宅診療科						2					102	83	2,435	208								6	2						
呼吸器科	呼吸器科	1		7		1	1	10	7	2	2	84	67	972	298	1				4	8		5	4	2			1		
消化器科	消化器科	6						4	24	1	22	68	75	2,207	578	2				12	1	2	11						8	
	肝臓内科													5																
	内視鏡科																													
循環器科	循環器科	7	2	2	4			11	55	7	11	216	223	4,155	943	7		1		12	9		11	6	4			3	1	
アレルギー科	アレルギー科	8	3	3	2	6		31	70	10	11	526	322	10,469	2,307	36		12	2	19	20		18	22	6			4	10	4
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病		1					14	94	17	43	263	178	4,205	1,438				4	24	9	3	16	7						
	総合診（成人診療科含む）	1					3	11	53	37	11	331	237	11,132	1,665	5				29		1	16	8	2			3	2	
	救急診療科	1	1		2		1		2	1	1	104	47	11,052	743					1	2		12	4	3			3	2	
	血液腫瘍科	12	1	1	1			2	16	27	5	333	169	2,618	769	4	7	5	2	13	19	3	19	30	1			5	3	2
	血液内科								4			25	19	649	156					3										
	ライソゾーム病センター								1			47	1	435	225	1					74		1	1		1				
	内分泌・代謝科	3	4	5	8	6	4	27	82	30	46	456	490	9,962	2,432	5	2	2	4	51	7		50	5	4		1	1	4	
	遺伝診療科				1			3	7	4	6	34	40	858	217	7	1			3		3	5	2	2	1				
	免疫科	1						3	7	8		103	57	582	194								10	3		1		1		
	新生児科				1					2		36	17	2,380	396					2			3	6				2		
	移植外科	21	8	2	1	1	9	9	36	6	90	410	358	1,002	555	13	3	13		19	36		67	22		3	1	17	4	
	感染症科	2					2	2	3	2	11	22	54	318	89	2		1		1	8		6	2		2			7	
	病理診断科																													
外科	外科	3				2	2	5	13	21	8	209	171	4,140	796	11	6			12	6	3	18	5				2		
整形外科	整形外科	7	1	9	11	2		43	102	57	74	361	283	5,379	1,497	6	4	10	1	58	12	4	39	13	12	1	1	6	3	
形成外科	形成外科			1		14	4	15	23	22	18	123	143	2,146	537	1	3	6		7	6		8	7	1			6		
脳神経外科	脳神経外科	3	1	1	4	1		16	35	14	26	166	119	2,732	905	6	2	1	3	46	5	4	22	3	10			6	7	2
心臓血管外科	心臓血管外科								7			13	10	240	60					1			2							
皮膚科	皮膚科						1	6	13	7	16	145	174	5,125	1,142		2	1		7			14	11				2	1	
泌尿器科	泌尿器科	1	2		2		3	12	51	6	15	185	120	3,467	886	9	4		3	28	12		31		1			3	3	1
産婦人科	不妊診療科				8				114	1		234	114	9,169	1,374					10										
	不育診療科	1			6		1	4	5		5	106	48	1,497	272					6			4	14						
	胎児診療科	1					2		5	3	2	61	30	2,104	428	1				9	2	2	5	2						
	産科	8			3		17	9	46	18	9	272	193	23,731	3,561	12		12		2	1	5	5	14					5	
	婦人科										1	5		135	28						3		2							
眼科	眼科	17	7	12	20	19	21	43	150	125	133	777	628	5,602	1,986	52	17	18	4	46	158	12	86	42	10	9	10	20	20	3
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科		3	1	1	3	2	3	16	15	28	176	177	6,549	1,357	5	1	9		18	12	3	17	9	2			1	1	
リハビリテーション科	リハビリテーション科	1		1		2		2	3	1	2	36	30	992	203					6			1	1					1	
放射線科	放射線診断科						1					5	4	110	31															
	放射線治療科							1						161	43									1						
歯科	歯科	16				2	4	17	16	8	19	200	108	2,770	547			2		6			2	8	3				3	
麻酔科	集中治療科													16																
	麻酔科	1			2	1	1	10	9	6	9	90	66	2582	502	1	2	1	1	7	6		17	2				2	1	
合計		132	37	45	80	72	88	330	1,180	502	687	7,152	5,361	167,130	#####	192	61	112	24	493	438	48	586	278	63	18	13	91	88	12

10 都道府県別にみた患者数【外来再診

10－1表

診療科別・都道府県別延外来患者数【再

診療科名	院内標榜科名	和歌山	鳥取県	島根県	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀県	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	その他	合計
内科	母性内科										1								9	3	11,626
	女性総合外来																				27
精神科	児童・思春期リエゾン科																				992
	児童・思春期メンタルヘルス科													1	1				3		6,086
	乳幼児メンタルヘルス科																		4		3,270
神経科	神経内科					2				1									2		7,753
	在宅診療科																				2,838
呼吸器科	呼吸器科					1			1							2		1			1,482
消化器科	消化器科														1						3,022
	肝臓内科																				5
	内視鏡科																				
循環器科	循環器科					1		2	1			2					2	3	2		5,703
アレルギー科	アレルギー科						2			1		1	1							1	13,927
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病						12					1			6				2		6,337
	総合診（成人診療科含む）	1			1							2					3		2		13,556
	救急診療科		1				4			2		3		1					2	5	12,000
	血液腫瘍科	1			2	1			2	3	1	1		1			1				4,080
	血液内科											1									857
	ライソゾーム病センター									45		1								3	836
	内分泌・代謝科		1		1	3		4	3		1	2			3			4	1	5	13,719
	遺伝診療科								1			1								2	1,198
	免疫科																				970
	新生児科											3							2	2	2,852
	移植外科	2			1	3	2		3	9	2	3		2		2	3	9	43	18	2,808
	感染症科	2				1	1		1	2		1							8	2	552
	病理診断科																				
外科	外科					4				1							3	1		1	5,443
整形外科	整形外科	2		6	3	3	1	1	6	1		9		3		3	1	4	4		8,043
形成外科	形成外科	2			1		1		1			3	2		3			3			3,107
脳神経外科	脳神経外科	3	1			3			1	6		3					1		3		4,161
心臓血管外科	心臓血管外科																				333
皮膚科	皮膚科		2	1											1				6		6,677
泌尿器科	泌尿器科	2	1			1				2		2						1	1	3	4,858
産婦人科	不妊診療科											4									11,028
	不育診療科													1						2	1,972
	胎児診療科																			1	2,658
	産科																			3	27,926
	婦人科																				174
眼科	眼科	5	5	2	4		9	2	9	3	7	3	2	5	4	1	2	23	30		10,163
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科				3	2		2	1			3									8,420
リハビリテーション科	リハビリテーション科									1											1,283
放射線科	放射線診断科																		1		152
	放射線治療科																				206
歯科	歯科								1	1				5	1		1	5	6		3,751
麻酔科	集中治療科																			7	23
	麻酔科	1		1								2						1	3		3,327
合計		21	11	10	16	25	32	11	31	78	12	51	5	19	20	8	17	55	134	58	220,201

10－2表

診療科別・都道府県別一日平均外来患者数

診療科名	院内標榜科名	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山
内科	母性内科	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1	0.1	1.3	0.8	37.6	7.3			0.0		0.0	0.0	0.0	0.1	0.1					0.0		
	女性総合外来											0.0	0.0	0.1	0.0								0.0								
精神科	児童・思春期リエゾン科											0.3	0.2	2.4	1.2			0.0		0.0		0.0	0.0	0.0							
	児童・思春期メンタルヘルス科	0.0				0.0			0.1	0.0	0.1	0.5	0.3	19.8	4.1		0.0				0.0		0.1					0.0			
	乳幼児メンタルヘルス科		0.0		0.0			0.0	0.0	0.1	0.0	0.4	0.1	10.6	2.0			0.0			0.0		0.0	0.0							
神経科	神経内科					0.0		0.0	0.2	0.0	0.1	0.9	0.7	24.0	5.6	0.0	0.0	0.0		0.1	0.0		0.1	0.0				0.0	0.0		
	在宅診療科						0.0					0.4	0.3	10.0	0.9								0.0	0.0							
呼吸器科	呼吸器科	0.0		0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3	4.0	1.2	0.0				0.0	0.0		0.0	0.0	0.0			0.0			
消化器科	消化器科	0.0						0.0	0.1	0.0	0.1	0.3	0.3	9.0	2.4	0.0				0.0	0.0	0.0	0.0						0.0		
	肝臓内科													0.0																	
	内視鏡科																														
循環器科	循環器科	0.0	0.0	0.0	0.0			0.0	0.2	0.0	0.0	0.9	0.9	17.0	3.9	0.0		0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	0.0			0.0	0.0		
アレルギー科	アレルギー科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.1	0.3	0.0	0.0	2.2	1.3	42.9	9.5	0.1		0.0	0.0	0.1	0.1		0.1	0.1	0.0			0.0	0.0	0.0	
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病		0.0					0.1	0.4	0.1	0.2	1.1	0.7	17.2	5.9				0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0							
	総合診（成人診療科含む	0.0					0.0	0.0	0.2	0.2	0.0	1.4	1.0	45.6	6.8	0.0				0.1		0.0	0.1	0.0	0.0			0.0	0.0		0.0
	救急診療科	0.0	0.0		0.0		0.0		0.0	0.0	0.0	0.4	0.2	45.3	3.0					0.0	0.0		0.0	0.0	0.0			0.0	0.0		
	血液腫瘍科	0.0	0.0	0.0	0.0			0.0	0.1	0.1	0.0	1.4	0.7	10.7	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0			0.0	0.0	0.0	0.0
	血液内科								0.0			0.1	0.1	2.7	0.6					0.0											
	ライソゾーム病センター								0.0			0.2	0.0	1.8	0.9	0.0					0.3		0.0	0.0		0.0					
	内分泌・代謝科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	0.1	0.2	1.9	2.0	40.8	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0		0.2	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0		
	遺伝診療科				0.0			0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	3.5	0.9	0.0	0.0			0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
	免疫科	0.0						0.0	0.0	0.0		0.4	0.2	2.4	0.8								0.0	0.0		0.0		0.0			
	新生児科				0.0					0.0		0.1	0.1	9.8	1.6					0.0			0.0	0.0				0.0			
	移植外科	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.4	1.7	1.5	4.1	2.3	0.1	0.0	0.1		0.1	0.1		0.3	0.1		0.0	0.0	0.1	0.0		0.0
	感染症科	0.0					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	1.3	0.4	0.0		0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0			0.0		0.0
	病理診断科																														
外科	外科	0.0				0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.9	0.7	17.0	3.3	0.0	0.0			0.0	0.0	0.0	0.1	0.0				0.0			
整形外科	整形外科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.2	0.4	0.2	0.3	1.5	1.2	22.0	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0
形成外科	形成外科			0.0		0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.5	0.6	8.8	2.2	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0	0.0			0.0			0.0
脳神経外科	脳神経外科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.1	0.1	0.1	0.1	0.7	0.5	11.2	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0			0.0	0.0	0.0	0.0
心臓血管外科	心臓血管外科								0.0			0.1	0.0	1.0	0.2					0.0			0.0								
皮膚科	皮膚科						0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.6	0.7	21.0	4.7		0.0	0.0		0.0			0.1	0.0				0.0	0.0		
泌尿器科	泌尿器科	0.0	0.0		0.0		0.0	0.0	0.2	0.0	0.1	0.8	0.5	14.2	3.6	0.0	0.0		0.0	0.1	0.0		0.1		0.0			0.0	0.0	0.0	0.0
産婦人科	不妊診療科				0.0				0.5	0.0		1.0	0.5	37.6	5.6					0.0											
	不育診療科	0.0			0.0		0.0	0.0	0.0		0.0	0.4	0.2	6.1	1.1					0.0			0.0	0.1							
	胎児診療科	0.0					0.0		0.0	0.0	0.0	0.3	0.1	8.6	1.8	0.0				0.0	0.0	0.0	0.0	0.0							
	産科	0.0			0.0		0.1	0.0	0.2	0.1	0.0	1.1	0.8	97.3	14.6	0.0				0.0	0.0	0.0	0.0	0.1					0.0		
	婦人科										0.0	0.0		0.6	0.1						0.0		0.0								
眼科	眼科	0.1	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.2	0.6	0.5	0.5	3.2	2.6	23.0	8.1	0.2	0.1	0.1	0.0	0.2	0.6	0.0	0.4	0.2	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.7	0.7	26.8	5.6	0.0	0.0	0.0		0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0			0.0	0.0		
リハビリテーション科	リハビリテーション科	0.0		0.0		0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	4.1	0.8					0.0			0.0	0.0					0.0		
放射線科	放射線診断科						0.0					0.0	0.0	0.5	0.1																
	放射線治療科							0.0						0.7	0.2									0.0							
歯科	歯科	0.1				0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.1	0.8	0.4	11.4	2.2			0.0		0.0			0.0	0.0	0.0				0.0		
麻酔科	集中治療科													0.1																	
	麻酔科	0.0			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.3	10.6	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.1	0.0				0.0	0.0		0.0
合計		0.5	0.2	0.2	0.3	0.3	0.4	1.4	4.8	2.1	2.8	29.3	22.0	685.0	140.5	0.8	0.3	0.5	0.1	2.0	1.8	0.2	2.4	1.1	0.3	0.1	0.1	0.4	0.4	0.0	0.1

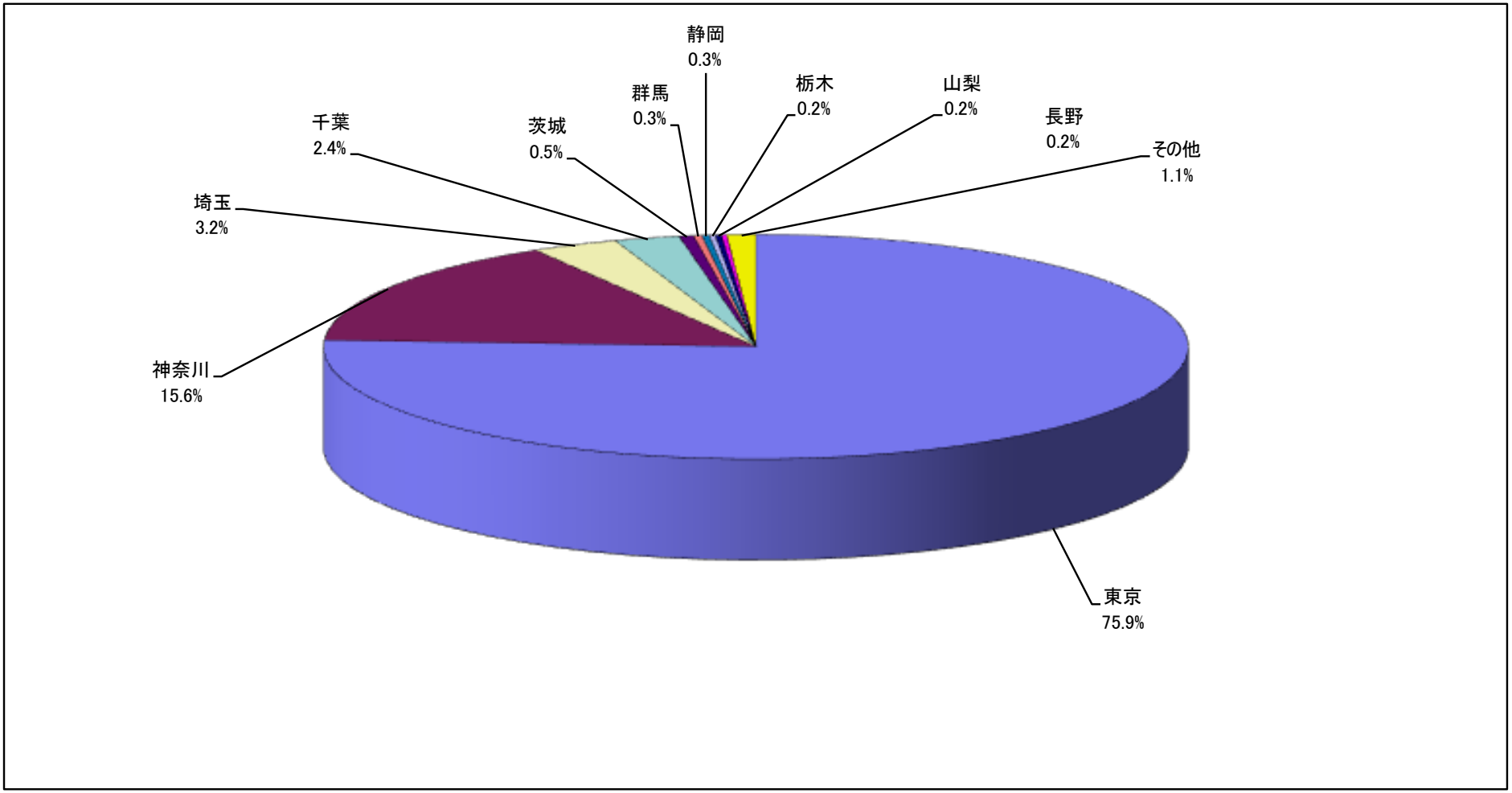
１０－２表

診療科別・都道府県別一日平均外来患者数

診療科名	院内標榜科名	鳥取県	島根県	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀県	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	その他	合計
内　科	母性内科									0.0								0.0	0.0	47.6
	女性総合外来																			0.1
精神科	児童・思春期リエゾン科																			4.1
	児童・思春期メンタルヘルス科												0.0	0.0				0.0		24.9
	乳幼児メンタルヘルス科																	0.0		13.4
神経科	神経内科				0.0				0.0									0.0		31.8
	在宅診療科																			11.6
呼吸器科	呼吸器科				0.0			0.0							0.0		0.0			6.1
消化器科	消化器科													0.0						12.4
	肝臓内科																			0.0
	内視鏡科																			
循環器科	循環器科				0.0		0.0	0.0			0.0					0.0	0.0	0.0		23.4
アレルギー科	アレルギー科					0.0			0.0		0.0	0.0							0.0	57.1
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病					0.0					0.0			0.0				0.0		26.0
	総合診（成人診療科含む			0.0							0.0					0.0		0.0		55.6
	救急診療科	0.0				0.0			0.0		0.0		0.0					0.0	0.0	49.2
	血液腫瘍科			0.0	0.0			0.0	0.0	0.0	0.0		0.0			0.0				16.7
	血液内科										0.0									3.5
	ライソゾーム病センター								0.2		0.0								0.0	3.4
	内分泌・代謝科	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0		0.0	0.0			0.0			0.0	0.0	0.0	56.2
	遺伝診療科							0.0			0.0								0.0	4.9
	免疫科																			4.0
	新生児科										0.0							0.0	0.0	11.7
	移植外科			0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0	0.0	0.0	0.2	0.1	11.5
	感染症科				0.0	0.0		0.0	0.0		0.0							0.0	0.0	2.3
	病理診断科																			
外　科	外科				0.0				0.0							0.0	0.0		0.0	22.3
整形外科	整形外科		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		0.0		0.0	0.0	0.0	0.0		33.0
形成外科	形成外科			0.0		0.0		0.0			0.0	0.0		0.0			0.0			12.7
脳神経外科	脳神経外科	0.0			0.0			0.0	0.0		0.0					0.0		0.0		17.1
心臓血管外科	心臓血管外科																			1.4
皮膚科	皮膚科	0.0	0.0											0.0				0.0		27.4
泌尿器科	泌尿器科	0.0			0.0				0.0		0.0						0.0	0.0	0.0	19.9
産婦人科	不妊診療科										0.0									45.2
	不育診療科												0.0						0.0	8.1
	胎児診療科																		0.0	10.9
	産科																		0.0	114.5
	婦人科																			0.7
眼　科	眼　科	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1		41.7
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科			0.0	0.0		0.0	0.0			0.0									34.5
リハビリテーション科	リハビリテーション科								0.0											5.3
放射線科	放射線診断科																	0.0		0.6
	放射線治療科																			0.8
歯　科	歯科							0.0	0.0				0.0	0.0		0.0	0.0	0.0		15.4
麻酔科	集中治療科																		0.0	0.1
	麻酔科		0.0								0.0						0.0	0.0		13.6
合　計		0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.3	0.0	0.2	0.0	0.1	0.1	0.0	0.1	0.2	0.5	0.2	902.5

１０－３表　外来患者数（再診）の都道府県別構成割合（主な都道府県）

東京	神奈川	埼玉	千葉	茨城	群馬	静岡	栃木	山梨	長野	その他
167,130	34,274	7,152	5,361	1,180	687	586	502	493	438	2,398
75.9%	15.6%	3.2%	2.4%	0.5%	0.3%	0.3%	0.2%	0.2%	0.2%	1.1%



11 地域別患者数(東京都)

11－1表

東京都の診療科別･市区町村別入院患者数

診療科名	院内標榜科名	千代田区	中央区	港区	新宿区	文京区	台東区	墨田区	江東区	品川区	目黒区	大田区	世田谷区	渋谷区	中野区	杉並区	豊島区	北区	荒川区	板橋区	練馬区	足立区	葛飾区
内　科	母性内科								3		5	13	111		36	27					10		
精神科	児童・思春期リエゾン科											14	34		22								
	児童・思春期メンタルヘルス科																						
	乳幼児メンタルヘルス科																						
神経科	神経内科	15	14	61	1	15		6	8	15	145	33	1616	7		130	30	1		8	110	27	
	在宅診療科	24	5	57	40	5	2	19	19	8	45	153	882	77	144	141	7	4	3	28	49	13	17
呼吸器科	呼吸器科			54		4				3		2	88			2						19	
消化器科	消化器科	6	2	55	3		2		112	72	18	96	253	11	10	43				6	7	394	2
	肝臓内科																						
循環器科	循環器科	28	25	2	37			56	292	16	23	24	745	51	48	38	26	24	4	173	145	20	
アレルギー科	アレルギー科		6	2	8	68	1		4	32	165	22	679	6	45	289	6	12	7	5	27	1	33
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病		8	25					30	31	40	51	362	43	8	85	151	15	20	3	9		16
	総合診(成人診療科含む)	22	167	51	116	16	16	58	173	83	644	263	11516	163	169	769	21	17	42	134	622	48	25
	救急診療科												54			3			1	2			
	血液腫瘍科	202	129	118	263	52	51	20	195	1027	237	1240	2903	364	70	475	35	182	474	373	474	164	178
	血液内科												29	18									
	ライソゾーム病センター																						
	内分泌・代謝科			38	80			14	50	34	117	41	283	5	25	28		12		25	61	1	
	遺伝診療科																						
	免疫科		5			3							28	15						194			
	新生児科	69	33	176	186	7		157	102	193	603	536	9636	370	135	860	61	22	78	138	379	39	12
	移植外科	2		5	8				104	9	2	80	67	4		4		19	6	21	52	9	15
	緩和ケア科																						
外　科	外科	162	4	46	231			22	54	129	183	180	1746	47	319	93	6	8		32	76	3	
整形外科	整形外科			43	29	9		79	103	33	40	65	733	25	21	90	12	36	24	121	60	29	59
形成外科	形成外科		7		15		7		8	7	2	8	310	9	32	50	1		9	10	17	34	
脳神経外科	脳神経外科		4	48	82	50			205	332	117	201	1623	118	121	166		139	16	199	138	33	160
心臓血管外科	心臓血管外科		7					10	2	2	3		27	2	7	6	2			2	5		
皮膚科	皮膚科											3	28		2	5				2	2		
泌尿器科	泌尿器科		9	26		4	10	3		62	35	40	391	51	2	40		6	10	9	8	2	1
産婦人科	不妊診療科	6								14	6		58			2						7	
	不育診療科			1																			
	胎児診療科	7	11	104	17	18		11	48	110	42	51	421	51	5	97	7	22		8	69	76	30
	産科	32	16	95	147	42		31	107	228	426	344	10344	282	88	861	67	22	8	51	191	86	27
	婦人科																						
眼　科	眼　科	13		3	28	9		18	48	70	29	54	213	21	22	98	47	51	58	67	81	61	87
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科		18	30	11	11		7	22	41	79	33	539	28	29	62	20	14	25	18	38	20	22
リハビリテーション科	リハビリテーション科																						
放射線科	放射線診断科																						
	放射線治療科																						
歯　科	歯科																						
麻酔科	集中治療科	54	18	46	33	12	12	75	82	84	125	164	1215	43	61	226	64	30	21	112	183	39	34
	麻酔科												1		1								
合　計		642	488	1086	1335	325	101	586	1771	2635	3131	3711	46935	1811	1422	4690	563	636	806	1741	2813	1125	718

11 地域別患者数(東京都)

11－1表

東京都の診療科別・市区町村別入院患者数

診療科名	院内標榜科名	江戸川区	八王子市	立川市	武蔵野市	三鷹市	青梅市	府中市	昭島市	調布市	町田市	小金井市	小平市	日野市	東村山市	国分寺市	国立市	福生市	狛江市	東大和市	清瀬市	東久留米市	武蔵村山市
内科	母性内科							6		5									3				
精神科	児童・思春期リエゾン科																						
	児童・思春期メンタルヘルス科										10												
	乳幼児メンタルヘルス科																						
神経科	神経内科	24	3	12	1			1		17	67	1			9				203				
	在宅診療科	15	12		27	34		43		194	81	11	6	2	30	4			3				
呼吸器科	呼吸器科	19		6								13							1				
消化器科	消化器科	8				1		1		74	98		6			6					4		
	肝臓内科																						
循環器科	循環器科	6	4	3	22	10	81	9		89	68	365							77				4
アレルギー科	アレルギー科	5	29	1	7	38	1	3		53	5	3	2			38			76		1		
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病	46								73	12					1			4				
	総合診(成人診療科含む)	114	332		66	162	83	186	1	956	407	5	19	5	9		50		911		6		
	救急診療科									1									4				
	血液腫瘍科	95	175	48		306			137	34	486	81	1				2	124	101	29			
	血液内科										1												
	ライソゾーム病センター																						
	内分泌・代謝科	45	10	5		11				27	17		7		7	4			19				
	遺伝診療科																						
	免疫科															98							
	新生児科	90	128	11	28	208	33	291	88	601	300	74	94	19			20		764		14	10	
	移植外科	15					11	15		2	25			23	4								11
	緩和ケア科															11							
外科	外科	59			3	38		6		95	181	10		3	2		3		185				1
整形外科	整形外科	70	31	5	4	48	5	3		159	182	5		6		8	12		41				
形成外科	形成外科	10	10	10		12		15		25	21	7		2					12				
脳神経外科	脳神経外科	79	136	19	29	239		117	19	81	25	6				22			78		53	17	
心臓血管外科	心臓血管外科				2	2	2	2		14	7								18				
皮膚科	皮膚科	2							1		5								5				
泌尿器科	泌尿器科	3	8			3		2		55	54	2		11				1	22			17	
産婦人科	不妊診療科		1							14		2				1			1				
	不育診療科																						
	胎児診療科	16			2	110	9	25		136	22		7			10			38	17	15		
	産科	120	136	23	32	157		235	8	715	318	122	16	23			22	21	905	1	9	85	
	婦人科																						
眼科	眼科	10	64	27	15	7		35		22	43	2		21	1				58	77	5	9	
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	39	12	6	6	5		2		31	6	8							31				
リハビリテーション科	リハビリテーション科																						
放射線科	放射線診断科																						
	放射線治療科																						
歯科	歯科																						
麻酔科	集中治療科	88	12	8	44	32	58	23	2	78	76	1	8	4	2	7		4	86				9
	麻酔科																						
合計		978	1103	184	288	1423	283	1020	256	3551	2517	718	166	119	64	210	109	150	3646	124	107	138	25

11 地域別患者数(東京都)

11－1表

東京都の診療科別･市区町村別入院患者数

診療科名	院内標榜科名	多摩市	稲城市	羽村市	あきる野市	西東京市	西多摩郡	西多摩郡瑞穂町	西多摩郡日の出町	西多摩郡檜原村	西多摩郡奥多摩町	大島支庁	大島町	利島村	新島村	神津島村	三宅支庁	三宅島三宅村	御蔵島村	八丈支庁	八丈島八丈町	青ヶ島村	小笠原支庁
内　科	母性内科					5																	
精神科	児童・思春期リエゾン科																						
	児童・思春期メンタルヘルス科																						
	乳幼児メンタルヘルス科																						
神経科	神経内科	9	4																				
	在宅診療科	19				9																	
呼吸器科	呼吸器科																						
消化器科	消化器科	36																					
	肝臓内科																						
循環器科	循環器科	17		11																			
アレルギー科	アレルギー科	2	12		1	2			54														
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病	4	2																				
	総合診(成人診療科含む)	54	43			12									1								
	救急診療科																						
	血液腫瘍科		56			3			2														
	血液内科																						
	ライソゾーム病センター																						
	内分泌・代謝科		3	17																			
	遺伝診療科																						
	免疫科																						
	新生児科	34	37			319		116															
	移植外科			69																	2		
	緩和ケア科																						
外　科	外科	10	4			6									5			3					
整形外科	整形外科	70	7	10		4			9														
形成外科	形成外科	30	8			8																	
脳神経外科	脳神経外科	1	7		1										13								
心臓血管外科	心臓血管外科			2																			
皮膚科	皮膚科																						
泌尿器科	泌尿器科	1				3			10														
産婦人科	不妊診療科	4																					
	不育診療科																						
	胎児診療科	16	21			13		5															
	産科	33	18			30		1															
	婦人科																						
眼　科	眼　科	16	13																				
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	1	7			8																	
リハビリテーション科	リハビリテーション科																						
放射線科	放射線診断科																						
	放射線治療科																						
歯　科	歯科																						
麻酔科	集中治療科	58		8											4								
	麻酔科																						
合　計		415	242	117	2	422		122	75						23			3			2		

11 地域別患者数(東京都)

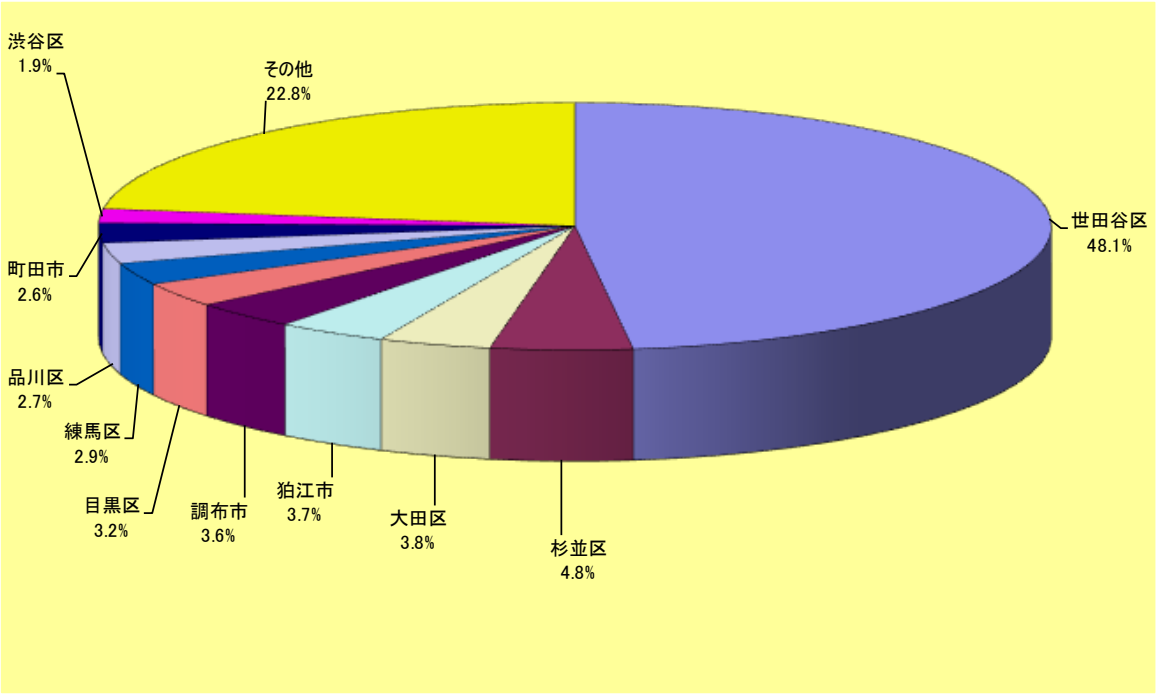
11－1表

東京都の診療科別･市区町村別入院患者数

診療科名	院内標榜科名	小笠原村	総計
内　　科	母性内科		224
精神科	児童・思春期リエゾン科		70
	児童・思春期メンタルヘルス科		10
	乳幼児メンタルヘルス科		
神経科	神経内科		2,593
	在宅診療科		2,232
呼吸器科	呼吸器科		211
消化器科	消化器科		1,326
	肝臓内科		
循環器科	循環器科		2,543
アレルギー科	アレルギー科		1,751
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病		1,039
	総合診(成人診療科含む)		18,557
	救急診療科		65
	血液腫瘍科		10,906
	血液内科		48
	ライソゾーム病センター		
	内分泌・代謝科		986
	遺伝診療科		
	免疫科		343
	新生児科		17,071
	移植外科		584
	緩和ケア科		11
外　　科	外科		3,955
整形外科	整形外科		2,290
形成外科	形成外科		696
脳神経外科	脳神経外科		4,694
心臓血管外科	心臓血管外科		124
皮膚科	皮膚科		55
泌尿器科	泌尿器科		901
産婦人科	不妊診療科		116
	不育診療科		1
	胎児診療科		1,667
	産科		16,525
	婦人科		
眼　　科	眼　　科		1,503
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科		1,229
リハビリテーション科	リハビリテーション科		
放射線科	放射線診断科		
	放射線治療科		
歯　　科	歯科		
麻酔科	集中治療科		3,345
	麻酔科		2
合　　計			97,673

１１－２表　東京都の入院患者数の主な市区町村割合

世田谷区	杉並区	大田区	狛江市	調布市	目黒区	練馬区	品川区	町田市	渋谷区	その他
48.1%	4.8%	3.8%	3.7%	3.6%	3.2%	2.9%	2.7%	2.6%	1.9%	22.8%



12 地域別（東京都）の外来患者数【新患】

12－1表

東京都の診療科別・市区町村別外来患者数【新患】

診療科名	院内標榜科名	千代田区	中央区	港区	新宿区	文京区	台東区	墨田区	江東区	品川区	目黒区	大田区	世田谷区	渋谷区	中野区	杉並区	豊島区	北区	荒川区	板橋区	練馬区	足立区	葛飾区
内科	母性内科		6	4	1		2	1	4	4	13	7	101	4	3	15		5	2	2	2	2	3
	女性総合外来		2	2	2	4	1	2	2	4	3	5	12	3	5	3	4	3		2	5	1	3
精神科	児童・思春期リエゾン科										1										1		
	児童・思春期メンタルヘルス科	1		2	2	5	1	1	2	4	3	7	36	3	1	3	2	1	1	1	3	2	
	乳幼児メンタルヘルス科		1	2	1	2	1	1	2	1	3		22		1	6				2	1		
神経科	神経内科	1		6	1	1		2	2	5	9	9	63	5	2	7		1	1	1	3	1	
	在宅診療科														1						1		1
呼吸器科	呼吸器科				1							2	2										
消化器科	消化器科	2		5	3	1				3	6	5	51	3	2	5		1			2		
	肝臓内科																						
	内視鏡科																						
循環器科	循環器科	1	1	1	1	2				2	8	4	118	3	2	7	1			1	2	2	1
アレルギー科	アレルギー科		1	11	6	8	2		7	10	19	9	197	11	7	35	2	1	6	5	21	2	1
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病		2	3	1	1	2	1		5	1	4	46	2	1	6			1		1		1
	総合診（成人診療科含む）		2	6	2	4	1	1	4	6	20	15	244	6	5	20		2	1	1	8	1	2
	救急診療科	11	7	27	16	6	3	4	7	38	307	90	10,154	72	14	448	3	5	1	17	27	7	2
	血液腫瘍科					3		1	2	1	3	3	16		1	2		2		2		1	2
	血液内科	1		2		1				1	2		9										1
	ライソゾーム病センター																1						
	内分泌・代謝科			9	1	1			1	4	3	10	158	6	4	27		3		3	8	2	3
	遺伝診療科	3	1	1	2	1		1	4	4	5	2	12	2	1	1		1	1	3	10	1	2
	免疫科			1						2	3	1	12								1		
	新生児科				1								5	1		1							
	移植外科			1	1			1				3						3	1				1
	感染症科											1	3			1							
	病理診断科																						
外科	外科	1		4	1				1	2	17	4	179	4	1	16			1		3		
整形外科	整形外科	2	4	12	12	3		2	5	13	21	33	118	9	9	18	5	2	1	8	13	6	7
形成外科	形成外科	3	2	18	1	1		3	2	9	10	13	71	4	4	13	2	1	1	3	7	1	1
脳神経外科	脳神経外科		1	2	1	3		2	4	3	4	5	27	3	1	1	1	1	1	6	3		2
心臓血管外科	心臓血管外科												1										
皮膚科	皮膚科			5	3	1			2	11	28	16	237	6	11	27		1		3	9		2
泌尿器科	泌尿器科	1		3	2	1	1		1	9	16	9	141	8	11	13		3	2	1		2	1
産婦人科	不妊診療科		1	2	1	1	1		3	5	3	6	107		1	9	1	2			5	2	
	不育診療科	1	1	2	3				3	8	9	3	48	4	3	10	2	2			3	3	
	胎児診療科	7	6	19	27	10	1	8	26	20	37	20	483	42	14	62	22	9	9	5	29	4	7
	産科	2	1	11	10	8	3	4	5	23	65	27	1,005	38	13	74	8	3	1	5	14	2	
	婦人科			1									3										
眼科	眼科	3	6	6	7	2		3	16	17	27	18	84	10	8	17	13	6	4	9	17	12	13
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	1	4	13	16	4	1	4	13	27	27	19	308	11	12	50	7	3		8	18	3	6
リハビリテーション科	リハビリテーション科										1		1										
放射線科	放射線診断科												84										
	放射線治療科												2										
歯科	歯科	2	5	30	21	8	5	16	18	35	77	49	845	39	20	131	11	9	7	18	27	21	17
麻酔科	集中治療科												8										
	麻酔科										1		8										
合計		43	54	211	147	82	25	58	136	276	752	399	15,021	299	158	1,028	85	70	42	106	244	78	79

12 地域別（東京都）の外来患者数【新患

12－1表

東京都の診療科別・市区町村別外来患者数【

診療科名	院内標榜科名	江戸川区	八王子市	立川市	武蔵野市	三鷹市	青梅市	府中市	昭島市	調布市	町田市	小金井市	小平市	日野市	東村山市	国分寺市	国立市	福生市	狛江市	東大和市	清瀬市	東久留米市	武蔵村山市
内科	母性内科	4	2			3		1		7	2	1	3	1			1		6	1			
	女性総合外来	3	3	1	1	1		2	1		4		2				1	1	1				
精神科	児童・思春期リエゾン科										1												
	児童・思春期メンタルヘルス科	2		1	3	3		3		6	2					1			3				
	乳幼児メンタルヘルス科					1		1		1			1	1					5			1	
神経科	神経内科	3	5				1	2		5	3	1							6				
	在宅診療科		1								1					1							
呼吸器科	呼吸器科	1																					
消化器科	消化器科	2	2			1		2		8	1						2		3				
	肝臓内科																						
	内視鏡科																						
循環器科	循環器科	1								10	5		1					2	5				
アレルギー科	アレルギー科	6	1	1		6		2		13	1	1			1	1		1	8			2	
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病	2				2				10	1		1					1	5				
	総合診（成人診療科含む）	5	3		3	6		2	1	13	10		2	4	1				16		1		1
	救急診療科	17	5	1	11	45		13	3	528	21	3		3		1		1	717	1	1	1	
	血液腫瘍科	2	1	1	1													1	1				
	血液内科	1	2							4													
	ライソゾーム病センター		4																				
	内分泌・代謝科	2				5		2	1	21	7	1	3			1			5	2		1	
	遺伝診療科	2				2	2			1	2			1				1					
	免疫科									1													
	新生児科									1									1				
	移植外科														1								
	感染症科																		2				
	病理診断科																						
外科	外科	4				1				14								1	14			1	1
整形外科	整形外科	14	3	3	3	3	1	3		20	8	2		1		2	1		12		1	1	
形成外科	形成外科	6			1	4				8	5		1	1		1	2		12				
脳神経外科	脳神経外科	5	1		2					6	2								1			1	
心臓血管外科	心臓血管外科																						
皮膚科	皮膚科	1	2		7	5		2		30	8	3	1	2	1				12				
泌尿器科	泌尿器科	3	1		2	1		1		19	10	1	1			1		1	9				
産婦人科	不妊診療科		1		2	3		2		14	1	1	1		1	2	1		4			1	
	不育診療科			1	4		1	5	1	7	6	2		1	1		1		3				
	胎児診療科	11	4	5	4	16	2	10	1	69	33	5	6	4	1	4	2	1	39		3	4	
	産科	4	3	4	12	8		6	1	41	13	4	2	2	1	3			92		1		
	婦人科												1										
眼科	眼科	10	11	3	3	8		5		12	10	1	2	5	1	2	3		7		1	1	
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	11	8	2	6	21		1		21	5	1		2					17				1
リハビリテーション科	リハビリテーション科											1											
放射線科	放射線診断科																		1				
	放射線治療科																		1				
歯科	歯科	19	23	5	15	37	9	24	6	109	58	10	4	1	3	2	3	1	117	2	4		2
麻酔科	集中治療科																						
	麻酔科																		1				
合計		141	86	28	80	182	16	89	15	999	220	38	32	29	12	22	17	12	1,126	6	12	14	5

12 地域別（東京都）の外来患者数【新患

12－1表

東京都の診療科別・市区町村別外来患者数【

診療科名	院内標榜科名	多摩市	稲城市	羽村市	あきる野市	西東京市	西多摩郡	西多摩郡瑞穂町	西多摩郡日の出町	西多摩郡檜原村	西多摩郡奥多摩町	大島支庁	大島町	利島村	新島村	神津島村	三宅支庁	三宅島三宅村	御蔵島村	八丈支庁	八丈島八丈町	青ヶ島村	小笠原支庁
内　科	母性内科	1	1																				
	女性総合外来		1			2																	
精神科	児童・思春期リエゾン科																						
	児童・思春期メンタルヘルス科	1																					
	乳幼児メンタルヘルス科	1																					
神経科	神経内科	1	2																				
	在宅診療科																						
呼吸器科	呼吸器科																						
消化器科	消化器科		1			2																	
	肝臓内科																						
	内視鏡科																						
循環器科	循環器科		1		1	1																	
アレルギー科	アレルギー科		3		1	1																	
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病	1																					
	総合診（成人診療科含む）		2						1						1								
	救急診療科	5	7		1	3																	
	血液腫瘍科																						
	血液内科																						
	ライソゾーム病センター			1																			
	内分泌・代謝科	2	1																				
	遺伝診療科	1				1																	
	免疫科																						
	新生児科																						
	移植外科			3																			
	感染症科																						
	病理診断科																						
外　科	外科																						
整形外科	整形外科	1	1			2			1														
形成外科	形成外科	4	1			2			1														
脳神経外科	脳神経外科																						
心臓血管外科	心臓血管外科																						
皮膚科	皮膚科	4	3			1																	
泌尿器科	泌尿器科	1	3						1														
産婦人科	不妊診療科																						
	不育診療科	1	1																				
	胎児診療科	14	8	3		4																	
	産科	3	3			1																	
	婦人科																						
眼　科	眼　科	3	1																				
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	4	4	2	1	2			1														
リハビリテーション科	リハビリテーション科																						
放射線科	放射線診断科																						
	放射線治療科																						
歯　科	歯科	9	24	2	6	2									1						1		
麻酔科	集中治療科																						
	麻酔科																						
合　計		57	68	11	10	24			5						2						1		

12 地域別（東京都）の外来患者数【新患

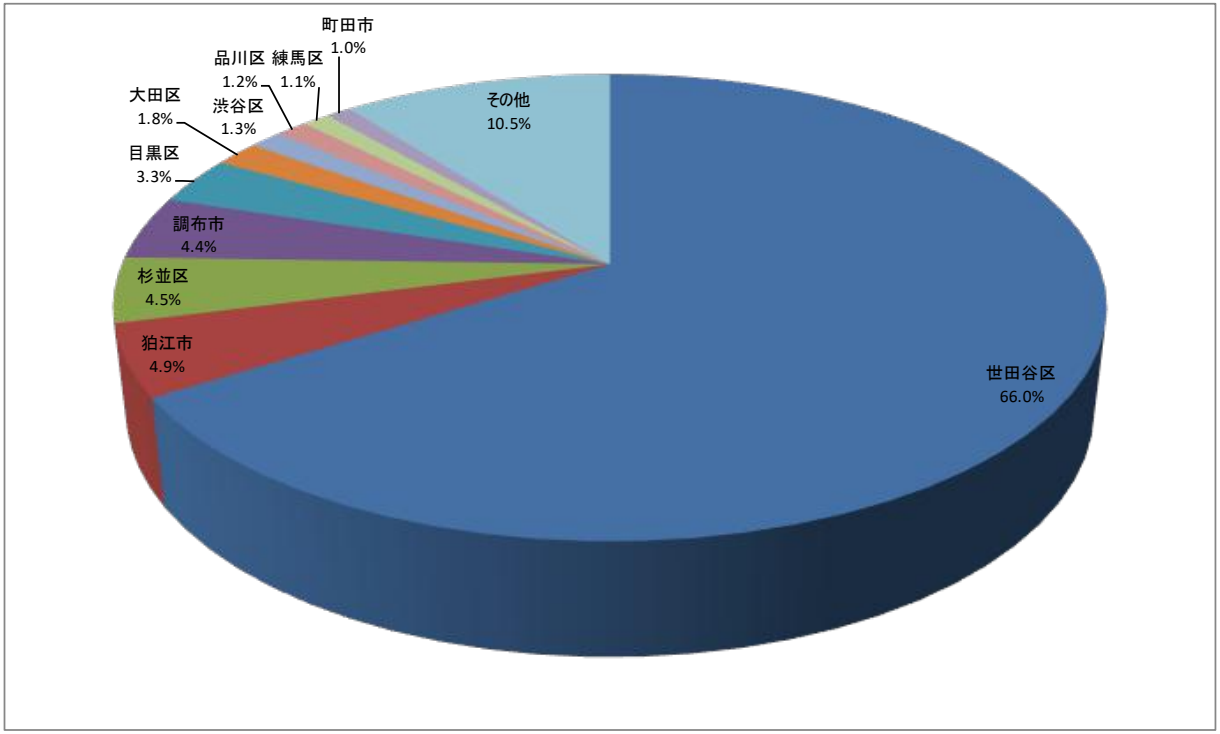
12－1表

東京都の診療科別・市区町村別外来患者数【

診療科名	院内標榜科名	小笠原村	総計
内　科	母性内科		215
	女性総合外来		92
精神科	児童・思春期リエゾン科		3
	児童・思春期メンタルヘルス科		106
	乳幼児メンタルヘルス科		58
神経科	神経内科		149
	在宅診療科		6
呼吸器科	呼吸器科		6
消化器科	消化器科		113
	肝臓内科		
	内視鏡科		
循環器科	循環器科		184
アレルギー科	アレルギー科		410
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病		101
	総合診（成人診療科含む）		423
	救急診療科	1	12,655
	血液腫瘍科		46
	血液内科		24
	ライソゾーム病センター		6
	内分泌・代謝科		297
	遺伝診療科		71
	免疫科		21
	新生児科		10
	移植外科		15
	感染症科		7
	病理診断科		
外　科	外科		270
整形外科	整形外科		386
形成外科	形成外科		219
脳神経外科	脳神経外科		89
心臓血管外科	心臓血管外科		1
皮膚科	皮膚科		444
泌尿器科	泌尿器科		280
産婦人科	不妊診療科		184
	不育診療科		140
	胎児診療科		1,120
	産科		1,526
	婦人科		5
眼　科	眼　科		387
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科		665
リハビリテーション科	リハビリテーション科		3
放射線科	放射線診断科		85
	放射線治療科		3
歯　科	歯科		1,910
麻酔科	集中治療科		8
	麻酔科		10
合　計		1	22,753

１２－２表　東京都の外来患者数（新患）の市区町村別割合（主な市区町村）

世田谷区	狛江市	杉並区	調布市	目黒区	大田区	渋谷区	品川区	練馬区	町田市	その他
15,021	1,126	1,028	999	752	399	299	276	244	220	2,389
66.0%	4.9%	4.5%	4.4%	3.3%	1.8%	1.3%	1.2%	1.1%	1.0%	10.5%



13 性別(総数)、年齢階級別にみた患者数【入院】
13－1表 性別(総数)、診療科別、年齢階級別入院患者数

診療科名	院内標榜科名	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60以上	総計
内　科	母性内科							59	400	609	212	78				1,358
精神科	児童・思春期リエゾン科		1	14	26	55										96
	児童・思春期メンタルヘルス科				30											30
	乳幼児メンタルヘルス科															
神経科	神経内科	716	993	651	456	148	57	13	15	32						3,081
	在宅診療科		859	763	615	369										2,606
呼吸器科	呼吸器科	84	397	111	36	104	30									762
消化器科	消化器科	276	397	1,182	739	326	30									2,950
	肝臓内科															
循環器科	循環器科	1,900	1,346	126	77	401	32			13						3,895
アレルギー科	アレルギー科	351	680	926	1,127	238	29									3,351
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病	456	939	695	328	205	31	24	42	6	32	3	2			2,763
	総合診(成人診療科含む)	5,902	8,555	3,374	1,428	1,054	476	367	159		365					21,680
	救急診療科	12	34	17	4											67
	血液腫瘍科	1,254	6,338	4,565	2,577	1,986	198	3	6	13	15	7				16,962
	血液内科		18	23	3	18										62
	ライソゾーム病センター															
	内分泌・代謝科	532	427	328	355	129	31	68	49							1,919
	遺伝診療科															
	免疫科	183	826	100	57	145	25	10								1,346
	新生児科	20,917	373													21,290
	移植外科	1,462	1,263	417	295	195	65	112	268	96	28	9	11	18		4,239
	緩和ケア科		11													11
外　科	外科	2,015	1,662	746	728	185	37	18	10	28						5,429
整形外科	整形外科	193	1,033	1,173	992	367	7									3,765
形成外科	形成外科	96	364	368	210	63	12		7							1,120
脳神経外科	脳神経外科	2,075	2,462	1,477	827	184	64									7,089
心臓血管外科	心臓血管外科	52	73	13	12	6			3	5	2					166
皮膚科	皮膚科		63	32	5											100
泌尿器科	泌尿器科	267	794	149	125	54	1		99							1,489
産婦人科	不妊診療科							2	23	76	26					127
	不育診療科									1						1
	胎児診療科	11				2	49	443	875	1,067	218	5				2,670
	産科	14					167	1,376	5,550	7,972	4,588	218	18			19,903
	婦人科															
眼　科	眼　科	727	1,002	699	454	158	61	21	12	7	11					3,152
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	115	825	596	184	10	65	7								1,802
リハビリテーション科	リハビリテーション科															
放射線科	放射線診断科															
	放射線治療科															
歯　科	歯科															
麻酔科	集中治療科	2,817	1,587	755	234	229	7	10	11	11						5,661
	麻酔科								1	1						2
合　計		42,427	33,322	19,300	11,924	6,631	1,474	2,533	7,530	9,937	5,497	320	31	18		140,944

１３－１表 性別（総数）、診療科別、年齢階級別入院患者数【0歳～15歳再掲】

診療科名	院内標榜科名	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	総計
内　　科	母性内科																	
精神科	児童・思春期リエゾン科			1							14					26	22	63
	児童・思春期メンタルヘルス科											30						30
	乳幼児メンタルヘルス科																	
神経科	神経内科	716	440	160	196	197	146	112	107	76	210	36	57	100	179	84	27	2,843
	在宅診療科		46	365	294	154	216	107	77	171	192	181	123	70	94	147	134	2,371
呼吸器科	呼吸器科	84	31	288	60	18			21	7	83	8	2			26		628
消化器科	消化器科	276	65	111	14	207	78	526	245	279	54	109	49	161	221	199	174	2,768
	肝臓内科																	
循環器科	循環器科	1,900	598	358	344	46	74	22	15	11	4	14	26	12	21	4	177	3,626
アレルギー科	アレルギー科	351	181	165	270	64	128	348	69	156	225	558	247	104	87	131	30	3,114
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病	456	108	165	315	351	309	127	200	8	51	39	51	64	119	55	35	2,453
	総合診（成人診療科含む）	5,902	3,622	2,037	1,651	1,245	889	739	572	812	362	336	252	261	312	267	311	19,570
	救急診療科	12	16	7	8	3	4	1	5	5	2	1	1	2				67
	血液腫瘍科	1,254	1,039	2,023	1,796	1,480	1,454	774	753	871	713	345	795	408	648	381	525	15,259
	血液内科		8		9	1	14		9			3						44
	ライソゾーム病センター																	
	内分泌・代謝科	532	173	59	136	59	142	20	19	67	80	142	76	91	37	9	19	1,661
	遺伝診療科																	
	免疫科	183	257	289	151	129	67	30		3		29		3		25	12	1,178
	新生児科	20,917	8		247	118												21,290
	移植外科	1,462	690	496	34	43	51	62	112	130	62	163	29	26	72	5	66	3,503
外　　科	外科					11												11
整形外科	整形外科	2,015	608	557	146	351	86	152	145	199	164	112	92	184	146	194	51	5,202
形成外科	形成外科	193	394	260	158	221	221	278	270	190	214	224	249	194	167	158	85	3,476
脳神経外科	脳神経外科	96	207	91	24	42	177	99	33	20	39	49	69	44	28	20		1,038
心臓血管外科	心臓血管外科	2,075	1,329	543	354	236	440	321	220	275	221	223	162	228	126	88	135	6,976
皮膚科	皮膚科	52	65	8			8	2	3				2			10	4	154
泌尿器科	泌尿器科		15	27	10	11	12	8	4	4	4		2	3				100
産婦人科	不妊診療科	267	479	194	54	67	56	42	14	28	9	16	12	64	16	17	3	1,338
	不育診療科																	
	胎児診療科																	
	産科	11																11
	婦人科	14																14
眼　　科	眼　　科																	
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	727	266	228	249	259	198	150	142	96	113	91	93	69	96	105	44	2,926
リハビリテーション科	リハビリテーション科	115	154	214	196	261	209	193	65	91	38	62	52	22	18	30	5	1,725
放射線科	放射線診断科																	
	放射線治療科																	
歯　　科	歯科																	
麻酔科	集中治療科																	
	麻酔科	2,817	883	361	164	179	149	215	124	205	62	57	27	72	50	28	61	5,454
合　　計		42,427	11,682	9,007	6,880	5,753	5,128	4,328	3,224	3,704	2,916	2,828	2,468	2,182	2,437	2,009	1,920	108,893

１３－２表　性別（男）、診療科別、年齢階級別入院患者数

診療科名	院内標榜科名	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60以上	総計
内　　科	母性内科															
精神科	児童・思春期リエゾン科		1		26	33										60
	児童・思春期メンタルヘルス科															
	乳幼児メンタルヘルス科															
神経科	神経内科	311	665	182	121	43	47	3								1,372
	在宅診療科		583	423	240	164										1,410
呼吸器科	呼吸器科	67	35		15	7	30									154
消化器科	消化器科	173	368	930	247	229										1,947
	肝臓内科															
循環器科	循環器科	703	1111	32	60	389	32									2,327
アレルギー科	アレルギー科	290	412	726	679	24	29									2,160
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病	414	654	457	156	81	18	15			7	3	2			1,807
	総合診（成人診療科含む）	3693	4444	1946	673	189	443	366	68		365					12,187
	救急診療科	4	23	11	1											39
	血液腫瘍科	925	2902	2877	1871	1356	198			10	3	3				10,145
	血液内科		18	9	3											30
	ライソゾーム病センター															
	内分泌・代謝科	251	244	129	123	28	21									796
	遺伝診療科															
	免疫科	78	705	100	57	41	25	10								1,016
	新生児科	10739	365													11,104
	移植外科	746	1028	124	175	84	18	31	102	9	18	9				2,344
	緩和ケア科	980	652	453	379	69		18								2,551
外　　科	外科	75	617	687	501	336	7									2,223
整形外科	整形外科	65	150	185	114	39										553
形成外科	形成外科	1341	1621	877	577	62	13									4,491
脳神経外科	脳神経外科	28	30	7	2	6			3	3	2					81
心臓血管外科	心臓血管外科		23	21	1											45
皮膚科	皮膚科	178	710	69	31	10										998
泌尿器科	泌尿器科															
産婦人科	不妊診療科															
	不育診療科	6														6
	胎児診療科	11														11
	産科															
	婦人科	392	568	351	317	133	25		12							1,798
眼　　科	眼　　科	54	585	357	88	6	23									1,113
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科															
リハビリテーション科	リハビリテーション科															
放射線科	放射線診断科															
	放射線治療科															
歯　　科	歯科	1542	864	413	107	88	1			2						3,017
麻酔科	集中治療科															
	麻酔科															

合　　計	23066	19378	11366	6564	3417	930	443	185	24	395	15	2			65,785

１３－２表　性別（男）、診療科別、年齢別入院患者数【0歳～15歳再掲】

診療科名	院内標榜科名	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	総計
内　　科	母性内科																	
精神科	児童・思春期リエゾン科			1												26		27
	児童・思春期メンタルヘルス科																	
	乳幼児メンタルヘルス科																	
神経科	神経内科	311	372	104	133	56	28	67	58	17	12	7	55	21	10	28	17	1,296
	在宅診療科		26	274	187	96	125	65	45	103	85	62	58	26	43	51	76	1,322
呼吸器科	呼吸器科	67	23			12							2			13		117
消化器科	消化器科	173	58	108	14	188	15	383	216	273	43	25	43	102	33	44	111	1,829
	肝臓内科																	
循環器科	循環器科	703	442	314	317	38	13	7	10	2		14	18	8	16	4	177	2,083
アレルギー科	アレルギー科	290	132	153	93	34	67	339	51	64	205	256	226	94	29	74	8	2,115
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病	414	26	149	243	236	204	76	140	8	29	21	21	17	84	13	8	1,689
	総合診（成人診療科含む）	3,693	1,943	1,168	713	620	635	570	242	365	134	145	127	68	183	150	77	10,833
	救急診療科	4	12	6	3	2	2	1	5	3				1				39
	血液腫瘍科	925	544	714	950	694	888	555	368	487	579	333	578	407	528	25	498	9,073
	血液内科		8		9	1			9			3						30
	ライソゾーム病センター																	
	内分泌・代謝科	251	113	29	63	39	76	14	8	18	13	49	41	27	6		2	749
	遺伝診療科																	
	免疫科	78	257	289	129	30	67	30		3		29		3		25	12	952
	新生児科	10,739			247	118												11,104
	移植外科	746	518	481	4	25	35	39	10	36	4	119	5	4	47		31	2,104
外　　科	外科	980	215	231	47	159	47	71	68	179	88	80	51	147	57	44	28	2,492
整形外科	整形外科	75	185	155	101	176	124	176	70	158	159	101	61	126	94	119	74	1,954
形成外科	形成外科	65	83	33	5	29	70	49	25	11	30	42	28	20	14	10		514
脳神経外科	脳神経外科	1,341	871	308	260	182	191	201	144	194	147	193	124	150	73	37	24	4,440
心臓血管外科	心臓血管外科	28	28	2			4		3				2				4	71
皮膚科	皮膚科		6	11	4	2	6	6	3	2	4			1				45
泌尿器科	泌尿器科	178	427	194	35	54	25	23	5	7	9	8	6	5	5	7	3	991
産婦人科	不妊診療科																	
	不育診療科																	
	胎児診療科	6																6
	産科	11																11
	婦人科																	
眼　　科	眼　　科	392	170	135	152	111	83	72	84	36	76	77	75	27	70	68	40	1,668
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	54	129	152	119	185	138	96	45	61	17	54	18	6	6	4	3	1,087
リハビリテーション科	リハビリテーション科																	
放射線科	放射線診断科																	
	放射線治療科																	
歯　　科	歯科																	
麻酔科	集中治療科	1,542	474	171	101	118	71	119	82	114	27	28	22	13	38	6	17	2,943
	麻酔科																	
合　　計		23,066	7,062	5,182	3,929	3,205	2,914	2,959	1,691	2,141	1,661	1,646	1,561	1,273	1,336	748	1,210	61,584

１３－３表　性別（女）、診療科別、年齢階級別入院患者数

診療科名	院内標榜科名	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60以上	総計
内　　科	母性内科							59	400	609	212	78				1,358
精神科	児童・思春期リエゾン科			14		22										36
	児童・思春期メンタルヘルス科				30											30
	乳幼児メンタルヘルス科															
神経科	神経内科	405	328	469	335	105	10	10	15	32						1,709
	在宅診療科		276	340	375	205										1,196
呼吸器科	呼吸器科	17	362	111	21	97										608
消化器科	消化器科	103	29	252	492	97	30									1,003
	肝臓内科															
循環器科	循環器科	1,197	235	94	17	12				13						1,568
アレルギー科	アレルギー科	61	268	200	448	214										1,191
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病	42	285	238	172	124	13	9	42	6	25					956
	総合診（成人診療科含む）	2,209	4,111	1,428	755	865	33	1	91							9,493
	救急診療科	8	11	6	3											28
	血液腫瘍科	329	3,436	1,688	706	630		3	6	3	12	4				6,817
	血液内科			14		18										32
	ライソゾーム病センター															
	内分泌・代謝科	281	183	199	232	101	10	68	49							1,123
	遺伝診療科															
	免疫科	105	121			104										330
	新生児科	10,178	8													10,186
	移植外科	716	235	293	120	111	47	81	166	87	10		11	18		1,895
	緩和ケア科		11													11
外　　科	外科	1,035	1,010	293	349	116	37		10	28						2,878
整形外科	整形外科	118	416	486	491	31										1,542
形成外科	形成外科	31	214	183	96	24	12		7							567
脳神経外科	脳神経外科	734	841	600	250	122	51									2,598
心臓血管外科	心臓血管外科	24	43	6	10					2						85
皮膚科	皮膚科		40	11	4											55
泌尿器科	泌尿器科	89	84	80	94	44	1		99							491
産婦人科	不妊診療科							2	23	76	26					127
	不育診療科									1						1
	胎児診療科	5				2	49	443	875	1,067	218	5				2,664
	産科	3					167	1,376	5,550	7,972	4,588	218	18			19,892
	婦人科															
眼　　科	眼　　科	335	434	348	137	25	36	21		7	11					1,354
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	61	240	239	96	4	42	7								689
リハビリテーション科	リハビリテーション科															
放射線科	放射線診断科															
	放射線治療科															
歯　　科	歯科															
麻酔科	集中治療科	1,275	723	342	127	141	6	10	11	9						2,644
	麻酔科								1	1						2

合　　計	19,361	13,944	7,934	5,360	3,214	544	2,090	7,345	9,913	5,102	305	29	18		75,159

１３－３表　性別（女）、診療科別、年齢別入院患者数【0歳～15歳再掲】

診療科名	院内標榜科名	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	総計
内　　科	母性内科																	
精神科	児童・思春期リエゾン科											30						30
	児童・思春期メンタルヘルス科										14						22	36
	乳幼児メンタルヘルス科																	
神経科	神経内科	405	68	56	63	141	118	45	49	59	198	29	2	79	169	56	10	1,547
	在宅診療科		20	91	107	58	91	42	32	68	107	119	65	44	51	96	58	1,049
呼吸器科	呼吸器科	17	8	288	60	6			21	7	83	8				13		511
消化器科	消化器科	103	7	3		19	63	143	29	6	11	84	6	59	188	155	63	939
	肝臓内科																	
循環器科	循環器科	1,197	156	44	27	8	61	15	5	9	4		8	4	5			1,543
アレルギー科	アレルギー科	61	49	12	177	30	61	9	18	92	20	302	21	10	58	57	22	999
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病	42	82	16	72	115	105	51	60		22	18	30	47	35	42	27	764
	総合診（成人診療科含む）	2,209	1,679	869	938	625	254	169	330	447	228	191	125	193	129	117	234	8,737
	救急診療科	8	4	1	5	1	2			2	2	1	1	1				28
	血液腫瘍科	329	495	1,309	846	786	566	219	385	384	134	12	217	1	120	356	27	6,186
	血液内科						14											14
	ライソゾーム病センター																	
	内分泌・代謝科	281	60	30	73	20	66	6	11	49	67	93	35	64	31	9	17	912
	遺伝診療科																	
	免疫科	105			22	99												226
	新生児科	10,178	8															10,186
	移植外科	716	172	15	30	18	16	23	102	94	58	44	24	22	25	5	35	1,399
	緩和ケア科					11												11
外　　科	外科	1,035	393	326	99	192	39	81	77	20	76	32	41	37	89	150	23	2,710
整形外科	整形外科	118	209	105	57	45	97	102	200	32	55	123	188	68	73	39	11	1,522
形成外科	形成外科	31	124	58	19	13	107	50	8	9	9	7	41	24	14	10		524
脳神経外科	脳神経外科	734	458	235	94	54	249	120	76	81	74	30	38	78	53	51	111	2,536
心臓血管外科	心臓血管外科	24	37	6			4	2								10		83
皮膚科	皮膚科		9	16	6	9	6	2	1	2			2	2				55
泌尿器科	泌尿器科	89	52		19	13	31	19	9	21		8	6	59	11	10		347
産婦人科	不妊診療科																	
	不育診療科																	
	胎児診療科	5																5
	産科	3																3
	婦人科																	
眼　　科	眼　　科	335	96	93	97	148	115	78	58	60	37	14	18	42	26	37	4	1,258
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	61	25	62	77	76	71	97	20	30	21	8	34	16	12	26	2	638
リハビリテーション科	リハビリテーション科																	
放射線科	放射線診断科																	
	放射線治療科																	
歯　　科	歯科																	
麻酔科	集中治療科	1,275	409	190	63	61	78	96	42	91	35	29	5	59	12	22	44	2,511
	麻酔科																	
合　　計		19,361	4,620	3,825	2,951	2,548	2,214	1,369	1,533	1,563	1,255	1,182	907	909	1,101	1,261	710	47,309

１４ 性別（総数）、年齢階級別にみた患者数【外来】

１４－１表 性別（総数）、診療科別、年齢階級別外来患者数

診療科名	院内標榜科名	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60以上	総計
内　科	母性内科	6	1	1	8	1	85	657	2,487	3,994	3,208	1,034	276	91	87	11,936
	女性総合外来				1		2	22	65	47	11	1	1		1	151
精神科	児童・思春期リエゾン科		12	69	282	528	55	21	12	8	9		1			997
	児童・思春期メンタルヘルス科		180	1,793	2,634	964	253	73	65	129	83	15	22	11		6,222
	乳幼児メンタルヘルス科		394	952	302	132	47	80	268	513	461	126	47	10	6	3,338
神経科	神経内科	165	1,392	1,855	1,935	1,445	508	296	193	100	41	10	1			7,941
	在宅診療科	1	995	811	654	384			1	2						2,848
呼吸器科	呼吸器科	64	359	402	327	181	87	30	9	26	6	1				1,492
消化器科	消化器科	120	464	684	1,075	641	129	25	20	6	2	1				3,167
	肝臓内科		1			4										5
	内視鏡科															
循環器科	循環器科	1,159	1,654	1,144	855	485	194	113	127	103	74	21	1			5,930
アレルギー科	アレルギー科	2,331	4,519	4,087	2,456	820	132	56	14	27	32	2	4	3		14,483
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病	176	913	1,562	1,564	1,039	495	321	194	66	82	42	9		11	6,474
	総合診（成人診療科含む）	3,520	4,023	2,823	2,305	838	212	73	170	22	49	3		1	10	14,049
	救急診療科	3,708	12,152	5,847	2,564	591	66	50	71	40	22	7	5	1	1	25,125
	血液腫瘍科	159	1,067	1,401	762	500	166	19	16	30	31	10	1	2		4,164
	血液内科	80	300	241	142	87	15	5	3	7	2	2		6		890
	ライソゾーム病センター	2	185	113	155	98	68	3	73	5	45	2		94	4	847
	内分泌・代謝科	376	2,248	3,206	4,528	1,795	744	358	258	226	230	103	11	1		14,084
	遺伝診療科	101	509	277	189	69	19	13	48	46	29	4	5	1	3	1,313
	免疫科	50	244	171	178	150	72	48	15	50	18	8	3			1,007
	新生児科	1,852	981	14	3				4	10						2,864
	移植外科	98	664	640	455	229	132	102	172	151	112	52	23	17	34	2,881
	感染症科	100	235	139	52	16	6	6	4	4	4	1				567
	病理診断科															
外　科	外科	919	1,866	1,313	851	364	126	128	102	23	38	11	10			5,751
整形外科	整形外科	859	2,916	2,515	1,831	439	52	14	9	2	6			6	1	8,650
形成外科	形成外科	1,113	957	764	382	125	40	1	26	6	1	3				3,418
脳神経外科	脳神経外科	464	1,441	1,119	786	353	117	16	4	3	8					4,311
心臓血管外科	心臓血管外科	73	91	44	36	17	10	4	10	17	15	11	8			336
皮膚科	皮膚科	2,210	2,415	1,327	759	313	82	37	47	19	25	1	1		2	7,238
泌尿器科	泌尿器科	654	2,075	1,141	856	307	65	30	41	18	7	5				5,199
産婦人科	不妊診療科							341	2,005	3,841	3,916	1,011	132	7	3	11,256
	不育診療科	1		1		6	12	123	433	807	705	74	6	1	1	2,170
	胎児診療科	1				1	33	345	877	1,802	986	32	2			4,079
	産科	5	9	11	9	5	278	2,291	8,308	11,929	6,441	413	22			29,721
	婦人科		6	6	18	29	7	31	22	24	33	3				179
眼　科	眼　科	970	3,496	3,070	1,762	803	346	168	117	51	21	5	7	5	18	10,839
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	803	3,454	2,874	1,381	443	167	49	28	22	19		1			9,241
リハビリテーション科	リハビリテーション科	73	444	449	253	55	5	6						1		1,286
放射線科	放射線診断科	2	95	20	7	4	1	2	2	2	4	5	5	10	80	239
	放射線治療科			87	21	8	1	2		1	32		1	26	32	211
歯　科	歯科	287	1,522	1,864	1,342	732	260	106	120	47	39	31				6,350
麻酔科	集中治療科	1	7	3	4				3	5	7	1				31
	麻酔科	253	1,096	405	153	47	25	121	352	570	293	20	4		1	3,340
合　計		22,756	55,382	45,245	33,877	15,048	5,114	6,186	16,795	24,801	17,147	3,071	609	294	295	246,620

１４－１表　性別（総数）、診療科別、年齢別外来患者数【0歳～15歳再掲】

診療科名	院内標榜科名	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	総計
内　科	母性内科	6	1				1							3	1	4		16
	女性総合外来												1					1
精神科	児童・思春期リエゾン科			3	2	7	10	3	3	29	24	44	36	21	85	96	158	521
	児童・思春期メンタルヘルス科		2	33	77	68	145	179	355	558	556	520	489	580	507	538	358	4,965
	乳幼児メンタルヘルス科		18	48	99	229	240	222	214	158	118	102	56	47	48	49	44	1,692
神経科	神経内科	165	308	354	361	369	333	318	391	390	423	357	392	419	383	384	394	5,741
	在宅診療科	1	59	419	337	180	252	121	69	186	183	193	133	63	104	161	137	2,598
呼吸器科	呼吸器科	64	93	51	92	123	69	44	74	98	117	68	58	74	54	73	31	1,183
消化器科	消化器科	120	120	123	105	116	133	140	120	127	164	176	153	228	242	276	171	2,514
	肝臓内科				1													1
	内視鏡科																	
循環器科	循環器科	1,159	663	390	341	260	225	269	269	196	185	139	153	183	176	204	163	4,975
アレルギー科	アレルギー科	2,331	1,520	992	995	1,012	985	899	794	735	674	564	580	466	452	394	277	13,670
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病	176	224	187	257	245	471	256	281	256	298	334	288	333	308	301	277	4,492
	総合診（成人診療科含む）	3,520	1,431	1,079	814	699	683	574	514	519	533	557	469	398	427	454	327	12,998
	救急診療科	3,708	4,327	3,114	2,604	2,107	1,563	1,388	1,152	948	796	729	561	469	441	364	215	24,486
	血液腫瘍科	159	218	239	250	360	329	287	252	294	239	189	135	157	165	116	96	3,485
	血液内科	80	99	103	53	45	30	27	77	70	37	42	21	25	39	15	19	782
	ライソゾーム病センター	2	1	29	48	107	30	31	21	16	15	2	4	15	80	54	78	533
	内分泌・代謝科	376	413	494	665	676	633	541	553	707	772	1,028	985	884	809	822	532	10,890
	遺伝診療科	101	179	120	98	112	82	62	50	45	38	34	49	36	35	35	31	1,107
	免疫科	50	90	60	38	56	53	29	45	18	26	34	41	44	29	30	17	660
	新生児科	1,852	631	195	141	14	6	7		1		2		1				2,850
	移植外科	98	194	161	170	139	124	159	123	119	115	174	81	87	51	62	70	1,927
	感染症科	100	70	48	80	37	32	35	20	35	17	16	4	12	13	7	6	532
	病理診断科																	
外　科	外科	919	595	493	365	413	341	293	257	196	226	253	172	155	132	139	95	5,044
整形外科	整形外科	859	855	774	635	652	603	608	512	413	379	460	378	372	371	250	177	8,298
形成外科	形成外科	1,113	393	250	189	125	217	212	117	105	113	86	96	102	45	53	28	3,244
脳神経外科	脳神経外科	464	535	417	248	241	309	214	203	206	187	191	186	167	133	109	95	3,905
心臓血管外科	心臓血管外科	73	65	17	4	5	13	7	9	5	10	6	8	4	9	9	6	250
皮膚科	皮膚科	2,210	1,057	654	370	334	315	309	255	249	199	174	150	161	142	132	124	6,835
泌尿器科	泌尿器科	654	799	506	429	341	303	289	207	190	152	211	172	182	157	134	105	4,831
産婦人科	不妊診療科																	
	不育診療科	1									1							2
	胎児診療科	1																1
	産科	5	3	1	3	2	5	4			2	5	2	2			1	35
	婦人科				4	2	3		2		1	1	2	8	6	1	1	31
眼　科	眼　科	970	967	750	878	901	845	751	549	527	398	403	427	330	293	309	221	9,519
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	803	934	872	821	827	757	716	521	497	383	375	353	224	213	216	163	8,675
リハビリテーション科	リハビリテーション科	73	155	93	121	75	98	123	61	75	92	67	80	46	25	35	19	1,238
放射線科	放射線診断科	2	42	33	11	9	5	5	3	2	5	4		2	1			124
	放射線治療科						12	33	2		40			20	1			108
歯　科	歯科	287	346	447	315	414	457	389	338	355	325	280	259	279	263	261	182	5,197

麻酔科	集中治療科	1	1	1	4	1	1			2		1		3				15
	麻酔科	253	419	318	183	176	131	97	74	58	45	38	31	34	26	24	9	1,916
合　　計		22,756	17,827	13,868	12,208	11,479	10,844	9,641	8,487	8,385	7,888	7,859	7,005	6,636	6,266	6,111	4,627	161,887

１４－２表　性別（男）、診療科別、年齢階級別外来患者数

診療科名	院内標榜科名	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60以上	総計
内　科	母性内科	3	1	1	1			2	11	4	18	5	9	27	54	136
	女性総合外来															
精神科	児童・思春期リエゾン科		7	50	66	217	6						1			347
	児童・思春期メンタルヘルス科		128	1,282	1,847	611	179	22			8			6		4,083
	乳幼児メンタルヘルス科		310	647	194	65	12		7		13	16				1,264
神経科	神経内科	81	787	1,056	1,059	732	283	169	101	27	5	8	1			4,309
	在宅診療科	1	682	458	273	155										1,569
呼吸器科	呼吸器科	42	221	189	146	80	36	18	4	13		1				750
消化器科	消化器科	49	251	472	632	374	29	15	15	6	1					1,844
	肝臓内科															
	内視鏡科															
循環器科	循環器科	603	891	596	472	281	114	61	64	41	19	9				3,151
アレルギー科	アレルギー科	1,329	2,843	2,577	1,583	491	65	24	10	8	1			2		8,933
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病	105	483	910	789	499	203	92	38	44	39	16	6		6	3,230
	総合診（成人診療科含む）	1,850	2,374	1,687	1,121	436	109	54	102	14	19			1	10	7,777
	救急診療科	2,050	6,852	3,440	1,483	310	34	16	43	13	6	5	2	1		14,255
	血液腫瘍科	81	598	817	494	217	84	8	11	16	16	4	1			2,347
	血液内科	60	235	137	92	46	5	3		3	1	1		4		587
	ライソゾーム病センター		157	66	130	80	67	2	71	2	45			89	4	713
	内分泌・代謝科	220	1,206	1,392	2,277	941	241	130	72	91	81	28	7			6,686
	遺伝診療科	53	270	152	111	42	8	8	12	11	10	1	4		1	683
	免疫科	22	185	110	120	67	40	32	4	33	11					624
	新生児科	1,036	598	4					3	6						1,647
	移植外科	57	340	266	196	97	65	42	69	31	48	24	12	10	32	1,289
	感染症科	65	129	63	34	12	3	6	4	2	3	1				322
	病理診断科															
外　科	外科	518	1,046	754	413	166	60	56	36	9	24	2	1			3,085
整形外科	整形外科	438	1,575	1,440	1,005	266	24	4		2				6		4,760
形成外科	形成外科	730	481	444	185	63	13		14	2		1				1,933
脳神経外科	脳神経外科	299	815	636	437	174	52	6	3		3					2,425
心臓血管外科	心臓血管外科	31	49	15	20	12	3	2	6	13	6	4				161
皮膚科	皮膚科	893	1,048	650	341	152	45	12	8	2	1					3,152
泌尿器科	泌尿器科	524	1,503	757	512	176	27	10	2	12	5					3,528
産婦人科	不妊診療科							17	49	130	91	52	14	7	3	363
	不育診療科	1		1				4	19	47	36	8	2	1		119
	胎児診療科								1	8						9
	産科	1	2	5	3			1	5	9	1					27
	婦人科															
眼　科	眼　科	511	1,920	1,607	897	435	185	70	59	22	5		2	1	3	5,717
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	453	2,153	1,688	738	222	75	13	12	9	10					5,373
リハビリテーション科	リハビリテーション科	34	249	252	156	34	3	6								734
放射線科	放射線診断科	2	63	15	5	2	1		2	1	3	4	2	5	47	152
	放射線治療科			82	7	3	1			1						94
歯　科	歯科	136	749	1,102	751	383	141	58	64	16	2	4				3,406

麻酔科	集中治療科		2	2					1		3					8
	麻酔科	167	629	250	90	25	8	16	4	19	2	1				1,211
合　　計		12,405	31,726	26,035	18,659	7,864	2,220	979	926	667	536	195	64	160	160	102,803

１４－２表 性別（男）、診療科別、年齢別外来患者数【0歳～15歳再掲】

診療科名	院内標榜科名	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	総計
内　科	母性内科	3	1				1							1				6
	女性総合外来																	
精神科	児童・思春期リエゾン科			1	1	5	6	2	2	23	17	12	11	5	16	22	64	187
	児童・思春期メンタルヘルス科		2	26	59	41	76	94	273	430	409	339	376	473	312	347	212	3,469
	乳幼児メンタルヘルス科		13	31	81	185	156	159	148	114	70	67	52	29	29	17	4	1,155
神経科	神経内科	81	149	191	222	225	185	198	238	221	214	212	262	205	196	184	172	3,155
	在宅診療科	1	35	315	211	121	145	77	41	101	94	65	64	32	52	60	75	1,489
呼吸器科	呼吸器科	42	49	30	62	80	34	22	33	45	55	26	28	32	20	40	17	615
消化器科	消化器科	49	68	65	55	63	84	102	82	88	116	106	90	126	157	153	103	1,507
	肝臓内科																	
	内視鏡科																	
循環器科	循環器科	603	379	209	180	123	124	132	141	99	100	68	88	96	91	129	105	2,667
アレルギー科	アレルギー科	1,329	957	650	582	654	639	552	487	439	460	368	389	314	260	252	170	8,502
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病	105	106	90	143	144	366	132	141	122	149	163	131	174	163	158	110	2,397
	総合診（成人診療科含む）	1,850	883	629	465	397	449	353	301	299	285	275	256	190	168	232	203	7,235
	救急診療科	2,050	2,430	1,735	1,473	1,214	916	843	644	559	478	445	322	286	255	175	117	13,942
	血液腫瘍科	81	127	123	145	203	210	162	97	180	168	140	73	107	100	74	49	2,039
	血液内科	60	88	77	41	29	9	13	49	47	19	33	12	14	23	10	7	531
	ライソゾーム病センター			29	48	80	20	15		16	15	1	2	13	80	34	63	416
	内分泌・代謝科	220	215	266	332	393	338	268	283	267	236	406	458	494	428	491	319	5,414
	遺伝診療科	53	98	62	49	61	38	39	24	26	25	20	23	24	19	25	17	603
	免疫科	22	67	53	33	32	40	16	21	13	20	31	25	21	13	30	7	444
	新生児科	1,036	393	117	78	10		3		1								1,638
	移植外科	57	93	92	82	73	55	75	43	47	46	85	35	29	15	32	39	898
	感染症科	65	38	26	42	23	9	16	13	19	6	12	4	8	8	2	3	294
	病理診断科																	
外　科	外科	518	330	237	207	272	220	155	130	132	117	121	88	72	69	63	45	2,776
整形外科	整形外科	438	438	419	341	377	338	368	287	242	205	230	218	201	214	142	121	4,579
形成外科	形成外科	730	192	125	96	68	144	109	69	54	68	55	39	52	22	17	11	1,851
脳神経外科	脳神経外科	299	298	220	142	155	183	120	120	118	95	108	104	89	78	58	48	2,235
心臓血管外科	心臓血管外科	31	34	10	3	2	2	4	5	1	3	3	3	4	6	4	5	120
皮膚科	皮膚科	893	466	272	163	147	148	113	122	145	122	83	74	91	48	45	49	2,981
泌尿器科	泌尿器科	524	613	350	283	257	197	192	131	137	100	137	111	95	91	78	69	3,365
産婦人科	不妊診療科																	
	不育診療科	1									1							2
	胎児診療科																	
	産科	1			2		3				2	3						11
	婦人科																	
眼　科	眼　科	511	510	412	497	501	445	400	287	265	210	222	234	169	129	143	122	5,057
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	453	566	538	488	561	453	434	322	273	206	213	213	109	99	104	87	5,119
リハビリテーション科	リハビリテーション科	34	81	55	78	35	55	72	42	39	44	43	52	26	13	22	11	702
放射線科	放射線診断科	2	26	23	8	6	4	4	3	2	2	3		2				85
	放射線治療科						11	30	2		39			7				89
歯　科	歯科	136	162	172	197	218	268	247	212	187	188	176	144	173	140	118	97	2,835
麻酔科	集中治療科			1	1					2								4
	麻酔科	167	241	177	109	102	71	61	48	40	30	25	15	19	14	17	8	1,144
合　計		12,445	10,148	7,828	6,999	6,857	6,442	5,582	4,841	4,793	4,414	4,296	3,996	3,782	3,328	3,278	2,529	91,558

１４－３表　性別（女）、診療科別、年齢階級別外来患者数

診療科名	院内標榜科名	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60以上	総計
内　科	母性内科	3			7	1	85	655	2,476	3,990	3,190	1,029	267	64	33	11,800
	女性総合外来				1		2	22	65	47	11	1	1		1	151
精神科	児童・思春期リエゾン科		5	19	216	311	49	21	12	8	9					650
	児童・思春期メンタルヘルス科		52	511	787	353	74	51	65	129	75	15	22	5		2,139
	乳幼児メンタルヘルス科		84	305	108	67	35	80	261	513	448	110	47	10	6	2,074
神経科	神経内科	84	605	799	876	713	225	127	92	73	36	2				3,632
	在宅診療科		313	353	381	229			1	2						1,279
呼吸器科	呼吸器科	22	138	213	181	101	51	12	5	13	6					742
消化器科	消化器科	71	213	212	443	267	100	10	5		1	1				1,323
	肝臓内科		1			4										5
	内視鏡科															
循環器科	循環器科	556	763	548	383	204	80	52	63	62	55	12	1			2,779
アレルギー科	アレルギー科	1,002	1,676	1,510	873	329	67	32	4	19	31	2	4	1		5,550
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病	71	430	652	775	540	292	229	156	22	43	26	3		5	3,244
	総合診（成人診療科含む）	1,670	1,649	1,136	1,184	402	103	19	68	8	30	3				6,272
	救急診療科	1,658	5,300	2,407	1,081	281	32	34	28	27	16	2	3		1	10,870
	血液腫瘍科	78	469	584	268	283	82	11	5	14	15	6		2		1,817
	血液内科	20	65	104	50	41	10	2	3	4	1	1		2		303
	ライソゾーム病センター	2	28	47	25	18	1	1	2	3		2		5		134
	内分泌・代謝科	156	1,042	1,814	2,251	854	503	228	186	135	149	75	4	1		7,398
	遺伝診療科	48	239	125	78	27	11	5	36	35	19	3	1	1	2	630
	免疫科	28	59	61	58	83	32	16	11	17	7	8	3			383
	新生児科	816	383	10	3				1	4						1,217
	移植外科	41	324	374	259	132	67	60	103	120	64	28	11	7	2	1,592
	感染症科	35	106	76	18	4	3			2	1					245
	病理診断科															
外　科	外科	401	820	559	438	198	66	72	66	14	14	9	9			2,666
整形外科	整形外科	421	1,341	1,075	826	173	28	10	9		6				1	3,890
形成外科	形成外科	383	476	320	197	62	27	1	12	4	1	2				1,485
脳神経外科	脳神経外科	165	626	483	349	179	65	10	1	3	5					1,886
心臓血管外科	心臓血管外科	42	42	29	16	5	7	2	4	4	9	7	8			175
皮膚科	皮膚科	1,317	1,367	677	418	161	37	25	39	17	24	1	1		2	4,086
泌尿器科	泌尿器科	130	572	384	344	131	38	20	39	6	2	5				1,671
産婦人科	不妊診療科							324	1,956	3,711	3,825	959	118			10,893
	不育診療科					6	12	119	414	760	669	66	4		1	2,051
	胎児診療科	1				1	33	345	876	1,794	986	32	2			4,070
	産科	4	7	6	6	5	278	2,290	8,303	11,920	6,440	413	22			29,694
	婦人科		6	6	18	29	7	31	22	24	33	3				179
眼　科	眼　科	459	1,576	1,463	865	368	161	98	58	29	16	5	5	4	15	5,122
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	350	1,301	1,186	643	221	92	36	16	13	9		1			3,868
リハビリテーション科	リハビリテーション科	39	195	197	97	21	2							1		552
放射線科	放射線診断科		32	5	2	2		2		1	1	1	3	5	33	87
	放射線治療科			5	14	5		2			32		1	26	32	117
歯　科	歯科	151	773	762	591	349	119	48	56	31	37	27				2,944
麻酔科	集中治療科	1	5	1	4				2	5	4	1				23
	麻酔科	86	467	155	63	22	17	105	348	551	291	19	4		1	2,129
合　計		10,311	23,550	19,173	15,197	7,182	2,893	5,207	15,869	24,134	16,611	2,876	545	134	135	143,817

１４－３表　性別（女）、診療科別、年齢別外来患者数【0歳～15歳再掲】

診療科名	院内標榜科名	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	総計
内　科	母性内科	3												2	1	4		10
	女性総合外来												1					1
精神科	児童・思春期リエゾン科			2	1	2	4	1	1	6	7	32	25	16	69	74	94	334
	児童・思春期メンタルヘルス科			7	18	27	69	85	82	128	147	181	113	107	195	191	146	1,496
	乳幼児メンタルヘルス科		5	17	18	44	84	63	66	44	48	35	4	18	19	32	40	537
神経科	神経内科	84	159	163	139	144	148	120	153	169	209	145	130	214	187	200	222	2,586
	在宅診療科		24	104	126	59	107	44	28	85	89	128	69	31	52	101	62	1,109
呼吸器科	呼吸器科	22	44	21	30	43	35	22	41	53	62	42	30	42	34	33	14	568
消化器科	消化器科	71	52	58	50	53	49	38	38	39	48	70	63	102	85	123	68	1,007
	肝臓内科				1													1
	内視鏡科																	
循環器科	循環器科	556	284	181	161	137	101	137	128	97	85	71	65	87	85	75	58	2,308
アレルギー科	アレルギー科	1,002	563	342	413	358	346	347	307	296	214	196	191	152	192	142	107	5,168
小児科	腎臓・リウマチ・膠原病	71	118	97	114	101	105	124	140	134	149	171	157	159	145	143	167	2,095
	総合診（成人診療科含む）	1,670	548	450	349	302	234	221	213	220	248	282	213	208	259	222	124	5,763
	救急診療科	1,658	1,897	1,379	1,131	893	647	545	508	389	318	284	239	183	186	189	98	10,544
	血液腫瘍科	78	91	116	105	157	119	125	155	114	71	49	62	50	65	42	47	1,446
	血液内科	20	11	26	12	16	21	14	28	23	18	9	9	11	16	5	12	251
	ライソゾーム病センター	2	1			27	10	16	21			1	2	2		20	15	117
	内分泌・代謝科	156	198	228	333	283	295	273	270	440	536	622	527	390	381	331	213	5,476
	遺伝診療科	48	81	58	49	51	44	23	26	19	13	14	26	12	16	10	14	504
	免疫科	28	23	7	5	24	13	13	24	5	6	3	16	23	16		10	216
	新生児科	816	238	78	63	4	6	4				2		1				1,212
	移植外科	41	101	69	88	66	69	84	80	72	69	89	46	58	36	30	31	1,029
	感染症科	35	32	22	38	14	23	19	7	16	11	4		4	5	5	3	238
	病理診断科																	
外　科	外科	401	265	256	158	141	121	138	127	64	109	132	84	83	63	76	50	2,268
整形外科	整形外科	421	417	355	294	275	265	240	225	171	174	230	160	171	157	108	56	3,719
形成外科	形成外科	383	201	125	93	57	73	103	48	51	45	31	57	50	23	36	17	1,393
脳神経外科	脳神経外科	165	237	197	106	86	126	94	83	88	92	83	82	78	55	51	47	1,670
心臓血管外科	心臓血管外科	42	31	7	1	3	11	3	4	4	7	3	5		3	5	1	130
皮膚科	皮膚科	1,317	591	382	207	187	167	196	133	104	77	91	76	70	94	87	75	3,854
泌尿器科	泌尿器科	130	186	156	146	84	106	97	76	53	52	74	61	87	66	56	36	1,466
産婦人科	不妊診療科																	
	不育診療科																	
	胎児診療科	1																1
	産科	4	3	1	1	2	2	4				2	2	2			1	24
	婦人科				4	2	3		2		1	1	2	8	6	1	1	31
眼　科	眼　科	459	457	338	381	400	400	351	262	262	188	181	193	161	164	166	99	4,462
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	350	368	334	333	266	304	282	199	224	177	162	140	115	114	112	76	3,556
リハビリテーション科	リハビリテーション科	39	74	38	43	40	43	51	19	36	48	24	28	20	12	13	8	536
放射線科	放射線診断科		16	10	3	3	1	1			3	1			1			39
	放射線治療科						1	3			1			13	1			19
歯　科	歯科	151	184	275	118	196	189	142	126	168	137	104	115	106	123	143	85	2,362
麻酔科	集中治療科	1	1		3	1	1					1		3				11
	麻酔科	86	178	141	74	74	60	36	26	18	15	13	16	15	12	7	1	772
合　計		10,311	7,679	6,040	5,209	4,622	4,402	4,059	3,646	3,592	3,474	3,563	3,009	2,854	2,938	2,833	2,098	70,329

15 月別にみた救急患者数

１５－１表 月別、年齢別救急患者数

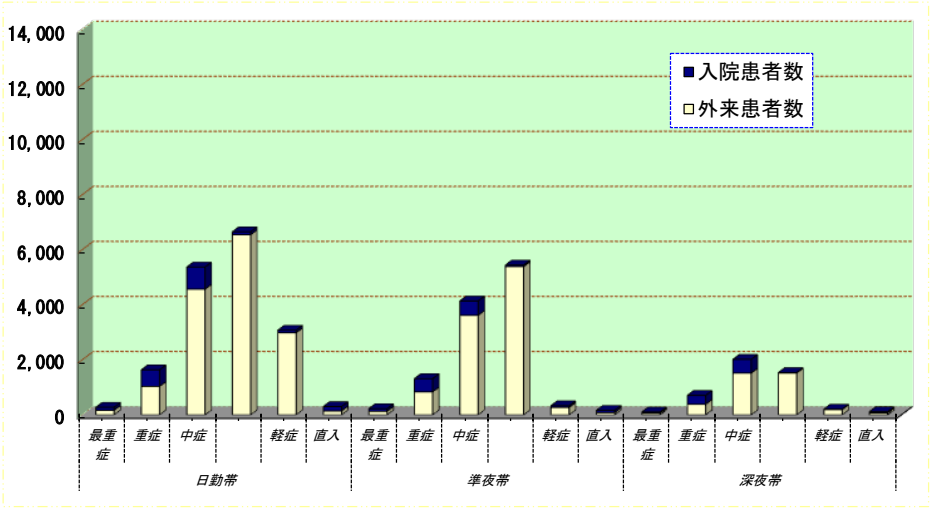
年齢	平成３０年４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	平成３１年１月	２月	３月	計
0	328	366	416	439	400	435	382	373	373	352	274	344	4,482
1	357	410	501	494	520	391	386	361	385	449	316	328	4,898
2	239	283	290	379	324	299	266	242	304	309	233	278	3,446
3	214	278	261	284	252	237	221	216	258	274	192	173	2,860
4	161	175	189	218	154	190	193	225	221	215	184	182	2,307
5	108	161	150	182	135	155	122	143	164	161	124	150	1,755
6	104	128	95	120	123	134	135	148	153	148	104	112	1,504
7	105	89	76	103	92	104	97	108	125	164	91	103	1,257
8	74	82	86	96	58	89	118	88	94	102	76	90	1,053
9	65	70	64	106	67	63	69	62	91	99	75	63	894
10	56	59	70	55	57	77	77	75	77	74	67	70	814
11	56	54	35	57	35	61	50	56	61	64	47	49	625
12	46	57	36	49	39	60	47	32	39	45	35	41	526
13	32	46	38	47	38	45	45	40	25	51	46	41	494
14	24	37	38	37	47	31	23	37	39	52	26	29	420
15	13	16	22	18	13	30	16	34	28	30	17	19	256
16	15	12	27	11	31	9	14	25	10	26	14	15	209
17	7	12	18	18	11	8	6	9	13	18	7	12	139
18	9	13	3	5	5	5	2	7	7	6	5	3	70
19	2	2	2	6	7	3	6	11	4	3	3	1	50
20	3	6	2	1	1	2	2	2	2	5	1	2	29
21	2	4	4	3	6	2	2	2		8		1	34
22		1	2	1	3		2	1	3	2		4	19
23	2			2	2	1	2		3		1		13
24	2				1	1	2		1				7
25	3		1		1			2	1			1	9
26		3		4	2	1	2	3	4	5	7	3	34
27	1	1	1	2	3		2		2	2	1	4	19
28	2	1	4	4	1	3	1	2	1	1	3	1	24
29	1	6	6	7	4	5	2	1	1	2	1	4	40
30	11	6	7	7	3	9	4	5	4	7	2	4	69
31	4	8	6	10	5	7	2	7	4	2	6	7	68
32	6	6	12	8	6	9	9	5	3	13	3	4	84
33	6	14	10	6	7	4	6	8	7	8	7	3	86
34	2	7	7	8	13	7	8	9	12	3	3	11	90
35	5	8	7	9	12	12	8	7	2	4	3	8	85
36	10	6	9	12	8	5	8	12	7	6	11	11	105
37	11	9	9	7	9	8	9	9	7	6	6	1	91
38	9	10	7	13	16	4	9	5	7	4	5	9	98
39	8	9	14	7	15	6	12	11	8	9	13	7	119
40	6	3	8	10	8	9	8	9	3	8	4	4	80

41	6	6	10	4	8	8	5	9	10	5	8	10	89
42	9	6	8	10	4	4	8	5	2	2	5	7	70
43	3	5	4	6	2		1	1	2	5	1	3	33
44	1	1	2	7	2	1	1	3	4	1	1	1	25
45	1		1	1	1	1		2	1	1	2	1	12
46			2			1							3
47		2		1	1		2	1	1				8
48			1										1
49									1		1		2
50										1		1	2
51							1						1
52													
53													
54													
55											1		1
56													
57													
58													
59													
60以上							1						1
総計	2, 129	2, 478	2, 561	2, 874	2, 552	2, 536	2, 394	2, 413	2, 574	2, 752	2, 032	2, 215	29, 510

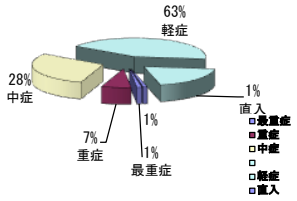
１５－２表　月別、トリアージ別、時間帯別救急患者数

時間帯	分類別	平成30年4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		平成31年1月		2月		3月		計	
		外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院
日勤帯	蘇生（最重症）	10	10	17	15	19	14	15	11	21	20	13	10	10	9	9	6	16	13	13	10	9	9	14	13	166	140
	緊　急（重症）	72	36	70	35	88	45	108	54	108	53	110	62	104	62	87	49	70	42	75	32	57	37	85	44	1,034	551
	準緊急（中症）	347	62	389	62	428	70	449	83	396	68	415	75	351	61	343	52	385	81	429	75	275	60	360	74	4,567	823
	低緊急（　）	454	14	566	11	480	7	579	10	630	23	541	12	500	14	518	13	645	19	721	22	473	11	435	14	6,542	170
	非緊急（軽症）	196	0	298	2	234	0	238	0	217	0	263	0	312	1	241	0	255	0	224	2	235	0	269	1	2,982	6
	直　　入	7	7	12	10	19	19	20	17	6	6	17	16	9	9	16	16	5	5	6	6	15	14	13	13	145	138
小計		1,086	129	1,352	135	1,268	155	1,409	175	1,378	170	1,359	175	1,286	156	1,214	136	1,376	160	1,468	147	1,064	131	1,176	159	15,436	1,828
準夜帯	蘇生（最重症）	9	7	7	6	16	13	14	8	6	5	13	11	11	10	10	9	6	6	20	16	12	10	8	6	132	107
	緊　急（重症）	61	30	61	24	83	29	86	39	69	28	81	37	68	36	72	32	66	28	57	28	54	34	77	30	835	375
	準緊急（中症）	277	43	315	37	352	38	422	36	313	40	280	24	266	34	262	25	294	44	310	46	253	40	272	39	3,616	446
	低緊急（　）	418	7	415	12	452	9	500	2	457	6	458	8	440	3	480	9	450	5	528	8	380	5	410	7	5,388	81
	非緊急（軽症）	11	0	24	0	28	1	24	1	16	1	17	3	29	0	40	0	23	1	14	0	22	1	24	0	272	8
	直　　入	8	7	11	11	13	13	6	5	7	7	3	3	7	7	6	6	6	6	2	2	6	6	7	7	82	80
小計		784	94	833	90	944	103	1,052	91	868	87	852	86	821	90	870	81	845	90	931	100	727	96	798	89	10,325	1,097
深夜帯	蘇生（最重症）	5	5	3	3	8	4	8	3	3	3	5	3	4	3	4	4	6	5	5	4	4	3	5	5	60	45
	緊　急（重症）	27	12	27	7	43	19	42	14	37	20	37	19	42	17	36	18	23	7	26	11	25	10	21	10	386	164
	準緊急（中症）	117	9	131	7	135	10	179	15	130	14	122	8	108	13	125	11	136	15	147	15	97	10	91	15	1,518	142
	低緊急（　）	98	3	123	4	0	2	168	2	122	4	150	3	129	2	155	2	180	6	169	2	111	3	115	3	1,520	36
	非緊急（軽症）	5	0	6	0	151	0	5	0	5	0	6	0	2	0	3	0	4	0	1	0	1	0	5	0	194	0
	直　　入	7	7	3	2	12	12	11	11	9	9	5	5	2	2	6	6	4	4	5	5	3	0	4	4	71	67
小計		259	36	293	23	349	47	413	45	306	50	325	38	287	37	329	41	353	37	353	37	241	26	241	37	3,749	454
合計		2,129	259	2,478	248	2,561	305	2,874	311	2,552	307	2,536	299	2,394	283	2,413	258	2,574	287	2,752	284	2,032	253	2,215	285	29,510	3,379

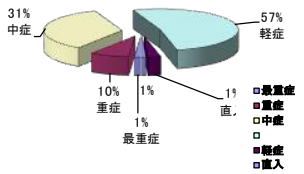
注）　入院数は外来数の再掲である。
　蘇生（最重症）：生命または四肢・臓器の危急的状態で、ただちに診療・加療を要する（診察までの時間３分）
　緊　急（重症）：生命または四肢・臓器の危急的状態に陥る可能性が高く、早急に診察・加療を要する（診察までの時間２０分以内）
　準緊急（中症）：生命または四肢・臓器の危急的状態に陥る可能性があり、比較的早くに診察・加療を要する（診察までの時間４０分以内）
　非緊急（軽症）：生命または四肢・臓器の危急的状態に陥る可能性がその時点で強く見出せず、診察を急ぐ必要性がない（診察までの時間６０分）



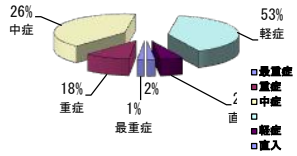
日勤帯外来患者構成割合



準夜帯外来患者構成割合



深夜帯外来患者構成割合



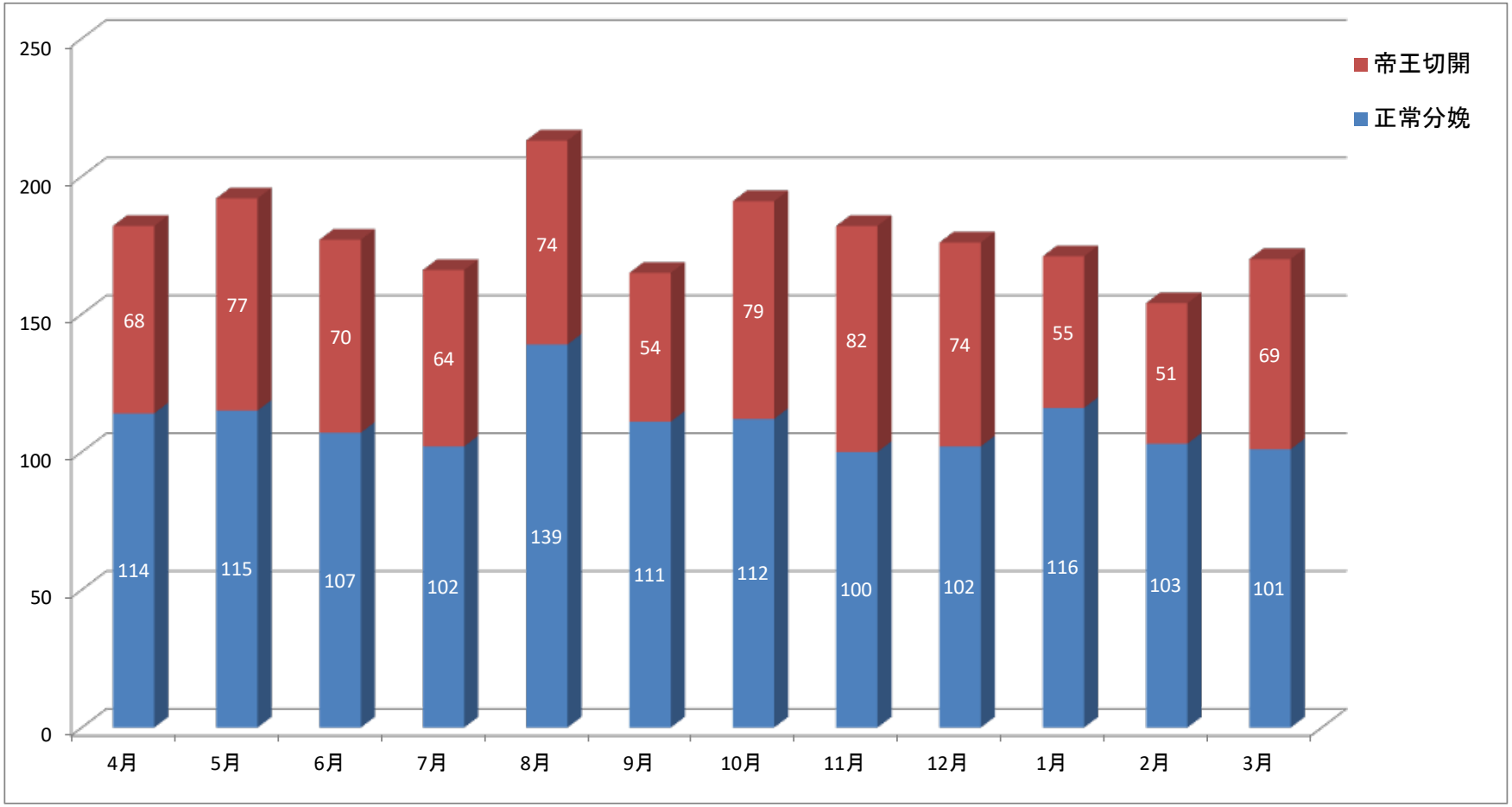
16 診療科別手術件数(その診療科に属する患児数)

標榜診療科名	院内標榜科名	平成30年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成31年 1月	2月	3月	計
外科		36	39	45	64	68	38	46	40	39	42	34	47	538
(小児科)	移植外科	14	12	13	22	12	3	12	14	9	15	11	13	150
消化器科		1	1	4	3	1		1	2	2	2	2	1	20
呼吸器科		1	1	2	1		1		3		2	1		12
循環器科		5	6	1	1	3	3	4	5	4	3	4	5	44
脳神経外科		28	27	26	37	32	27	24	32	31	24	27	32	347
心臓血管外科		11	20	20	20	21	12	17	19	20	15	23	20	218
整形外科		33	37	33	34	46	30	46	38	31	33	32	41	434
形成外科		12	18	17	23	14	18	20	24	19	26	25	21	237
泌尿器科		19	22	28	28	28	23	31	24	24	21	29	34	311
皮膚科		3		2	4	5	2	4	3	5	4	5	6	43
産婦人科	不妊診療科	2	1	1	2	2		3	3	1	3	4	3	25
	胎児診療科	10	12	11	9	13	5	11	6	16	7	8	14	122
	産科	69	79	69	65	76	51	74	80	63	51	54	65	796
眼科		29	39	41	32	52	31	34	48	33	36	39	39	453
耳鼻咽喉科		32	35	24	39	49	36	41	43	40	45	40	29	453
歯　科		7	4	6	10	7	3	3	4	7	7	8	8	74
麻酔科	集中治療科				1									1
放射線科		1	3	1	3	6	2	8	2	2	4	4	3	39
その他診療科	腎臓・リウマチ・膠原病													0
	血液腫瘍科	1	2	2	3	3	1	1	2	2	2	1		20
	神経内科							1						1
合計		314	358	346	401	438	286	381	392	348	342	351	381	4,338

１７ 診療科別日帰り手術件数(その診療科に属する患児数)

標榜診療科名	院内標榜科名	平成30年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成31年 1月	2月	3月	計
外科														0
(小児科)	移植外科													0
消化器科														0
呼吸器科														0
循環器科														0
脳神経外科														0
心臓血管外科														0
整形外科														0
形成外科					1									1
泌尿器科														0
皮膚科														0
産婦人科	不妊診療科													0
	胎児診療科													0
	産科												1	1
眼科														0
耳鼻咽喉科		1	4	2	5		7	9	8	5	7	7	3	58
歯　科														0
麻酔科	集中治療科													0
放射線科														0
その他診療科	腎臓・リウマチ・膠原病													0
	血液腫瘍科													0
	神経内科													0
合計		1	4	2	6	0	7	9	8	5	7	7	4	60

18　月別分娩数、正常分娩及び帝王切開の割合



	平成30年									平成31年			計	1ヶ月平均
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
正常分娩	114	115	107	102	139	111	112	100	102	116	103	101	1, 322	110.2
帝王切開	68	77	70	64	74	54	79	82	74	55	51	69	817	68.1
計	182	192	177	166	213	165	191	182	176	171	154	170	2, 139	178.3

19 ヘリコプター搬送受入件数

（単位:件）

		平成30年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成31年 1月	2月	3月	計
地域別搬送元	東京都											1		1
	茨城県			1										1
	栃木県							1						1
	群馬県											1		1
	埼玉県													0
	千葉県												1	1
	新潟県	1	1					1	1					4
	福島県													0
	山梨県	1	1											2
	石川県													0
	長野県				1									1
	愛知県									1				1
	静岡県													0
	滋賀県	1												1
														0
計		3	2	1	1	0	0	2	1	1	0	2	1	14

平成３０年度　ヘリ搬送状況（疾患別）

	疾　患　名	件　数
1	急性呼吸不全	2
2	劇症肝炎	2
3	ネフローゼ症候群	1
4	肝新生児血管皮腫、肝不全	1
5	急性循環不全、劇症肝炎	1
6	急性心筋炎（パルボウイルス）	1
7	急性脳症、インフルエンザ脳症	1
8	子宮内胎児発育不全のための母体管理、胎児大動脈狭窄症の疑い	1
9	先天性ミオパチー、慢性呼吸不全、咽頭狭窄症、呼吸不全	1
10	胆道閉鎖症、生体肝移植後、発達遅滞	1
11	胆道閉鎖症術後、血球貪食症候群、肝硬変症	1
12	妊娠高血圧症候群、胎児奇形	1
計		14